

日本医科大学研究業績年報

第 59 卷

Nippon Medical School Research Annual

Vol. 59



平成 24 (2012) 年度

April 2012—March 2013

日本医科大学研究業績年報

第 59 卷

Nippon Medical School Research Annual

Vol. 59

平成 24 (2012) 年度

April 2012 — March 2013

まえがき

学長 田 尻 孝

今年も研究業績年報が出来上がりました。これは言うまでもなく本学の研究者の activity を反映するものであります。われわれがどのような研究成果をあげ、さらにはどのような評価を受けているかがこの年報によって明らかになります。2012年度は論文、著書、学会発表数いずれも前年度に比較して増加しております。論文数は1,920篇と前年度の1,634篇から大幅に増加、これは2006年度以降では最も多く、さらに欧文が940篇と前年度の701篇から200篇以上も増えております。また学会発表も4,925件と前年度の4,499件から大幅に増加、こちらも2006年度以降では最多であります。欧文誌の accept が増え、学会発表も増えた申し分のない成果であり、厳しい環境の中でも着実に結果を出している本学の研究者の努力に頭の下がる思いであります。今後のさらなる充実を期待いたします。

アクションプラン21もようやく今年の8月に新病院がオープンというところまでこぎつけました。その中で医療あるいは本学を取り巻く環境は刻々と変化し、とくに経営面からは病院の収益を上げることがこれまで以上に求められております。しかしそのために研究の activity を落としては研究機関としての評価を損ねてしまいます。そうならないためには、臨床の研究者はより多くの患者さんを診てあるいは手術を行いながら、研究においてもペースを落とさない、基礎医学ではさらに研究費を取得して質の高いオリジナリティーのある研究を行いその成果を国内外に発信する、ということが求められます。これらは容易ではないかもしれませんが本学の教職員なら可能であると考えます。ここは本学の正念場だという認識のもとに一致団結してこの難局を乗り切る必要があります。

最後にこの業績年報の編集にご尽力下さいました研究部委員会高橋浩研究部長ならびに関係各位に謝意を表します。

目 次

〔1〕基礎科学

1. 人文科学・社会科学	1
[心理学]	1
[文化人類学]	2
2. 自然科学	3
[数 学]	3
[物理学]	3
[化 学]	5
[生物学]	7
3. 外国語	11
[英語・ドイツ語]	11

〔2〕基礎医学

1. 解剖学（分子解剖学）	15
2. 解剖学（生体構造学）	22
3. 生理学（システム生理学）	25
4. 生理学（生体統御学）	26
5. 生化学・分子生物学（代謝・栄養学）	28
6. 生化学・分子生物学（分子遺伝学）	33
7. 薬理学	39
8. 病理学（解析人体病理学）	44
9. 病理学（統御機構・腫瘍学）	52
10. 微生物学・免疫学	59
11. 衛生学・公衆衛生学	63
12. 法医学	70
13. 医療管理学	74
14. 基礎医学共同研究利用施設	76
[実験動物管理室]	76
[形態解析共同研究施設]	76
[情報科学センター]	78
[基礎医学放射性同位元素研究室]	79

〔3〕臨床医学

1. 内科学（循環器内科学）	83
[付属病院一般内科，循環器内科，肝臓内科，再生医療科]	83
[付属病院老年内科]	106
[多摩永山病院内科，循環器内科]	114
[千葉北総病院循環器内科]	124
2. 内科学（神経内科学）	131
[付属病院神経内科]	131

	[千葉北総病院神経内科].....	144
3.	内科学（腎臓内科学）.....	146
	[付属病院腎臓内科].....	146
	[千葉北総病院腎臓内科].....	150
4.	内科学（血液内科学）.....	152
	[付属病院血液内科].....	152
	[千葉北総病院血液内科].....	158
5.	内科学（消化器内科学）.....	162
	[付属病院消化器内科，肝臓内科].....	162
	[千葉北総病院消化器内科].....	175
6.	内科学（内分泌代謝内科学）.....	181
	[付属病院内分泌代謝内科].....	181
	[千葉北総病院内分泌内科].....	185
7.	内科学（呼吸器内科学）.....	188
	[付属病院呼吸器内科，化学療法科].....	188
	[武蔵小杉病院腫瘍内科].....	203
	[千葉北総病院呼吸器内科].....	209
8.	精神医学.....	211
	[付属病院精神神経科・武蔵小杉病院精神科・千葉北総病院メンタルヘルス科].....	211
9.	小児科学.....	219
	[付属病院小児科・武蔵小杉病院周産期・小児医療センター（小児科，小児外科，新生児内科）・多摩永山病院小児科・千葉北総病院小児科].....	219
10.	放射線医学.....	235
	[付属病院放射線科，放射線治療科].....	235
	[武蔵小杉病院放射線科].....	246
	[武蔵小杉病院血管内・低侵襲治療センター].....	248
	[多摩永山病院放射線科].....	252
	[多摩永山病院放射線治療科].....	255
	[千葉北総病院放射線科].....	256
11.	皮膚科学.....	259
	[付属病院皮膚科].....	259
	[武蔵小杉病院皮膚科].....	267
	[多摩永山病院皮膚科].....	270
12.	外科学（消化器外科学）.....	272
	[付属病院消化器外科・一般外科・移植外科].....	272
	[多摩永山病院消化器外科・乳腺外科・一般外科].....	316
	[千葉北総病院外科].....	328
13.	外科学（乳腺外科学）.....	340
	[付属病院乳腺科].....	340
14.	外科学（内分泌外科学）.....	342
	[付属病院内分泌外科].....	342

15.	外科学（心臓血管外科学）	344
	〔付属病院心臓血管外科・千葉北総病院胸部・心臓血管〕	344
16.	外科学（呼吸器外科学）	350
	〔付属病院呼吸器外科・千葉北総病院呼吸器外科〕	350
17.	脳神経外科学	352
	〔付属病院脳神経外科〕	352
	〔武蔵小杉病院脳神経外科〕	362
	〔多摩永山病院脳神経外科〕	367
	〔千葉北総病院脳神経外科〕	369
18.	整形外科	380
	〔付属病院整形外科・武蔵小杉病院整形外科・多摩永山病院整形外科・千葉北総病院整形外科〕	380
	〔付属病院リウマチ科〕	389
19.	産婦人科学	392
	〔付属病院女性診療科・産科〕	392
	〔武蔵小杉病院女性診療科・産科〕	399
	〔多摩永山病院女性診療科・産科〕	402
	〔千葉北総病院女性診療科・産科〕	410
20.	耳鼻咽喉科学	414
	〔付属病院耳鼻咽喉科・頭頸部外科・武蔵小杉病院耳鼻咽喉科・多摩永山病院耳鼻咽喉科・千葉北総病院耳鼻咽喉科〕	414
21.	泌尿器科学	424
	〔付属病院泌尿器科〕	424
	〔武蔵小杉病院泌尿器科〕	429
	〔多摩永山病院泌尿器科〕	430
	〔千葉北総病院泌尿器科〕	431
22.	眼科学	432
	〔付属病院眼科・武蔵小杉病院眼科・多摩永山病院眼科〕	432
	〔千葉北総病院眼科〕	437
23.	麻酔科学	439
	〔付属病院麻酔科〕	439
	〔武蔵小杉病院麻酔科〕	446
	〔多摩永山病院麻酔科〕	446
	〔千葉北総病院麻酔科〕	447
24.	救急医学	449
	〔付属病院高度救命救急センター・武蔵小杉病院救命救急センター・多摩永山病院救命救急センター〕	449
	〔武蔵小杉病院救命救急センター〕	469
	〔多摩永山病院救命救急センター〕	471
	〔千葉北総病院救命救急センター〕	475

25.	形成外科学	485
	[付属病院形成外科・美容外科]	485
	[武蔵小杉病院形成外科]	500
	[千葉北総病院形成外科]	504
26.	付属病院付置施設等	506
	[付属病院遺伝診療科]	506
	[付属病院集中治療室]	508
	[付属病院病理部]	521
	[付属病院中央検査部]	524
	[付属病院薬剤部]	526
	[付属病院生理機能センター]	528
	[付属病院看護部]	530
	[付属病院放射線科技師室]	533
	[付属病院ME部]	534
	[ワクチン療法研究施設]	536
	[付属病院東洋医学科]	537
	[ゲノム先端医療部]	542
27.	武蔵小杉病院付置施設等	544
	[武蔵小杉病院消化器病センター]	544
	[武蔵小杉病院循環器内科，呼吸器内科，腎臓内科，神経内科，動脈硬化・ 糖尿病・内分泌内科，消化器内科，腫瘍内科]	553
	[武蔵小杉病院心臓血管外科，呼吸器外科，乳腺外科，内分泌外科]	559
	[武蔵小杉病院病理部]	561
	[武蔵小杉病院中央検査室]	562
	[武蔵小杉病院薬剤部]	562
	[武蔵小杉病院看護部]	564
28.	多摩永山病院付置施設等	566
	[多摩永山病院病理部]	566
	[多摩永山病院中央検査室]	569
	[多摩永山病院薬剤部]	571
	[多摩永山病院看護部]	572
	[多摩永山病院消化器科]	574
	[多摩永山病院放射線科技師室]	574
29.	千葉北総病院付置施設等	575
	[千葉北総病院集中治療室]	575
	[千葉北総病院リハビリテーション科]	579
	[千葉北総病院病理部]	580
	[千葉北総病院中央検査室]	582
	[千葉北総病院薬剤部]	583
	[千葉北総病院放射線センター]	585
	[千葉北総病院歯科]	587

[千葉北総病院看護部].....	588
[4] 付置研究施設	
1. 老人病研究所.....	592
[病理部門].....	592
[生化学部門].....	593
[疫学部門].....	596
2. 呼吸ケアクリニック.....	597
3. 健診医療センター.....	601
4. 成田国際空港クリニック.....	602
[5] その他	
1. 教育推進室.....	605
2. 学生部.....	607
[学生相談室].....	607
付表：1. 各種研究費補助金・研究助成金交付状況.....	611
1) 平成 24 年度科学研究費補助金交付決定一覧.....	611
2) 平成 24 年度科学研究費補助金研究分担の採択・交付状況.....	614
3) 平成 24 年度学術研究助成基金助成金交付決定一覧.....	615
4) 平成 24 年度学術研究助成基金助成金研究分担の採択・交付状況.....	621
5) 平成 24 年度補助・委託一覧.....	622
6) 平成 24 年度学術賞受賞一覧.....	642
7) 平成 24 年度知的財産一覧（特許権）.....	645
2. 動物実験実施状況.....	647
1) 平成 24 年度教室別動物実験実施予定者数および実験計画書（課題）数 （平成 24 年 4 月～平成 25 年 3 月）.....	647
2) 平成 24 年度千駄木地区実験動物飼育施設動物種別飼育室別稼働率 （ケージ数を基に算出（％））.....	648
3) 平成 24 年度千駄木地区実験動物飼育施設動物種別飼育室別搬入数.....	649
4) 平成 24 年度千駄木地区実験動物飼育施設動物種別飼育室別搬出数.....	650
5) 平成 24 年度千駄木地区実験動物飼育施設動物種別飼育室別延べ飼育数.....	651

〔1〕 基 礎 科 学

1. 人文科学・社会科学

[心理学]

研究概要

社会精神医学および医療心理学が専門領域である。社会精神医学領域では、司法精神医学その中でも矯正施設における精神医療の現状と課題を主たるテーマとしている。今年度は、矯正医学会の研究助成を受けて高齢受刑者の認知機能に関する調査研究を行った。これは次年度以降も継続される予定である。また、武蔵小杉病院街ぐるみ認知症相談センターでの活動を通して、認知症の早期発見と認知症になっても安心して暮らせる街づくりをテーマとして相談活動や研究活動を行っている。医療心理学領域では、国立精神神経医療研究センター、お茶の水女子大学、東京大学などの心理学研究者と共同研究を行っており、一部を著作や論文として発表した。

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) Nomura T, Matsumoto S¹⁾, Kitamura S²⁾, Ishiwata A³⁾, Ishii C⁴⁾, Nemoto R⁴⁾, Kawanami O⁵⁾ (1) National Institute of Mental Health, National Center of Neurology and Psychiatry, 2) Nippon Medical School Musashikosugi Hospital, 3) Department of Neurology and Internal Medicine, Nippon Medical School, 4) The Community Consultation Center for Citizens with Mild Cognitive Impairment and Dementia, Nippon Medical School, 5) HMN Akasaka Clinic, Hokkai Medical Network) : Roles of Consultation Organization in the Early Detection of Dementia : From the Practice of the Community Consultation Center for Citizens with Mild Cognitive Impairment and Dementia, Nippon Medical School. J Nippon Med Sch 2012 ; 79 (6) : 438-443.
- 2) 石渡明子¹⁾, 北村 伸²⁾, 野村俊明, 根本留美³⁾, 石井知香³⁾, 若松直樹³⁾, 片山泰郎¹⁾, 川並汪一³⁾ (1) 日本医科大学大学院医学研究科神経内科学, 2) 日本医科大学武蔵小杉病院内科, 3) 日本医科大学街ぐるみ認知症相談センター) : 街ぐるみ認知症相談センターの4年間の活動状況. 日医大医学会誌 2013 ; 9 (1) : 14-19.

(2) 総説：

- 1) 野村俊明 : 診断と治療のプロセス. 臨床心理学 2013 ; 13 (1) : 18-21.

(3) 症例報告：

- 1) 野村俊明, 石井知香¹⁾, 松本聡子²⁾, 根本留美¹⁾, 若松直樹¹⁾, 石渡明子²⁾, 北村 伸³⁾, 川並汪一⁴⁾ (1) 日本医科大学武蔵小杉病院街ぐるみ認知症相談センター, 2) 国立精神神経センター精神保健研究所, 3) 日本医科大学付属病院, 4) 日本医科大学武蔵小杉病院, 5) 北海メディカルネットワーク赤坂クリニック) : 認知症の早期発見システムを考える. 認知症ケア学会誌 2012 ; 11 (2) : 544-550.

著書

- 1) 堀越 勝¹⁾, 野村俊明 (1) 国立精神神経医療研究センター精神保健研究所) : [共著] 精神療法の基本, 2012 ; pp1-269, 医学書院.

学会発表

(1) 一般講演：

- 1) 伊藤滋朗¹⁾, 野村俊明, 大久保善朗²⁾ (1) 武蔵小杉病院精神科, 2) 日本医科大学精神医学教室) : 医学科1年生を対象とした精神障害に関するチュートリアル教育の試み. 日本精神神経学会 (第108回) (札幌), 2012. 5.

- 2) 石村郁夫¹⁾, 野村俊明, 竹下 遥²⁾, 大江悠樹²⁾, 西松能子²⁾ (¹⁾ 東京聖徳大学, ²⁾ あいクリニック神田): 大学生の精神科外来受診動向に関する縦断研究. 児童思春期精神医学会 (第 53 回) (東京), 2012. 11.
- 3) 北村 伸¹⁾, 野村俊明, 根本留美²⁾, 並木香奈子²⁾ (¹⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院内科, ²⁾ 日本医科大学街ぐるみ認知症相談センター): 認知症を支える社会連携構築と認知症早期発見の試み. 日本老年医学会 (第 54 回) (東京), 2012. 6.
- 4) Nomura T, Ishimura I²⁾, Koganei K³⁾ (¹⁾ Tokyo Syotoku University, ²⁾ Tsukuba University): Reseach on self-compassion and self-disgust in attachment styles.. 12th International Forum of Mood and Anxiety Disorders (Barcelone), 2012. 11.
- 5) Koganei K¹⁾, Ishimura I²⁾, Hatiro K³⁾, Nomura T (¹⁾ Tsukuba University, ²⁾ Tokyo Syotoku University, ³⁾ Nippon University): Psych-educational intervention on self-compassion attitude and uts effects on depressive sympyoms.. 12th International Forum of Mood and Anxiety Disorders.(Barcelona), 2012. 11.
- 6) 並木香奈子¹⁾, 根本留美¹⁾, 川西智也¹⁾, 稲垣千草¹⁾, 井上志津子¹⁾, 長江美江子¹⁾, 野村俊明, 北村 伸²⁾ (¹⁾ 日本医科大学街ぐるみ認知症相談センター, ²⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院): 来所経緯からみる街ぐるみ認知症相談センターの取り組み. 認知症予防学会 (第 2 回) (北九州市), 2012. 9.
- 7) 根本留美¹⁾, 稲垣千草¹⁾, 川西智也¹⁾, 野村俊明, 北村 伸²⁾ (¹⁾ 日本医科大学街ぐるみ認知症相談センター, ²⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院): 認知症早期発見の試み. 認知症予防学会 (第 2 回) (北九州市), 2012. 9.
- 8) 大田雪子¹⁾, 笠原絵里¹⁾, 野村俊明 (¹⁾ 大田医院): 母子健康手帳の形態調査. 日本小児保健学会 (第 59 回) (岡山市), 2012. 9.
- 9) 大塚 齊¹⁾, 矢口俊夫¹⁾, 小池磨里¹⁾, 南山今日子²⁾, 野村俊明 (¹⁾ 武蔵野児童学園, ²⁾ 子どもの虹情報研修センター): 児童養護施設における性教育の取り組み. 日本子ども虐待防止学会 (第 18 回) (高知), 2012. 12.
- 10) 南山今日子¹⁾, 矢口俊夫²⁾, 新谷祐希²⁾, 田附あえか³⁾, 野村俊明 (¹⁾ 子どもの虹情報研修センター, ²⁾ 武蔵野児童学園, ³⁾ 筑波大学保健センター): 児童養護施設における性教育の取り組み (2). 日本子ども虐待防止学会 (第 18 回) (高知), 2012. 12.
- 11) 石村郁夫¹⁾, 羽鳥健司²⁾, 山口正寛¹⁾, 野村俊明, 鋤柄のぞみ³⁾ (¹⁾ 東京成徳大学, ²⁾ 日本大学, ³⁾ 日本医科大学学生相談室): 愛着スタイルのタイプによる自己への思いやりおよび自己嫌悪感の検討. 日本心理学会 (第 76 回) (東京), 2012. 6.
- 12) 石村郁夫¹⁾, 羽鳥健司²⁾, 山口正寛¹⁾, 野村俊明, 鋤柄のぞみ³⁾ (¹⁾ 東京成徳大学, ²⁾ 日本大学, ³⁾ 日本医科大学学生相談室): 自己への思いやりの態度養成がうつ症状を改善させるか?. 日本ヒューマンケア心理学会 (第 14 回) (東京), 2012. 6.
- 13) 倉光洋平¹⁾, 平林恵美¹⁾, 伊藤滋朗²⁾, 岸 泰宏²⁾, 野村俊明 (¹⁾ 東京大学大学院, ²⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院): 救命救急センターに搬送された自殺企図患者のフォローアップ研究. 日本総合病院精神医学会 (東京), 2012. 11.

[文化人類学]

研究概要

日本文化の本質, 日本の近代化における日本文化の変質等について究明している. 今年度は最後の年に当たり, 『若き日本人への遺言』を簡潔にまとめた (未発表). 今までの己の人生から湧き出てきた, 若き日本人への遺言である.

研究業績

2. 自然科学

[数学]

研究概要

波動方程式やシュレディンガー方程式の解の挙動、散乱理論に興味がある。最近は特に対応する定常問題の空間2次元での一様リゾルベント評価、並びに、その応用として、摩擦項を伴う波動方程式に対する極限振幅の原理、シュレディンガー方程式に対する平滑化評価を考察している(中澤)。作用素不等式の問題を作用素単調性、作用素凸性との関係からスペクトル分解などを利用して考察している。また確率統計の本を執筆している(儀我)。

研究業績

学会発表

(1) 招待講演:

- 1) 中澤秀夫: Uniform resolvent estimates for stationary Schrödinger equations in a two dimensional exterior domain and their applications. The 5th Nagoya Workshop on Differential Equations (名古屋大学), 2013. 3.

(2) 一般講演:

- 1) 中澤秀夫: Uniform resolvent estimates for Helmholtz equation in an exterior domain and their application to scattering problems. The 9th AIMS Conference on Dynamical Systems, Differential Equations and applications (Orlando, Florida, USA), 2012. 7.
- 2) 中澤秀夫: On the wave equation with dissipations. Japan-Taiwan Joint Conference (台湾国立大学), 2012. 12.
- 3) 中澤秀夫: 2次元外部領域におけるヘルムホルツ方程式のリゾルベント評価とその応用. 広島大学数理科学セミナー(広島大学), 2012. 6.

[物理学]

研究概要

物理学教室では、菊地浩人(准教授)と藤崎弘士(准教授)の二人が、化学物理学分野および生物物理学分野において、理論あるいは計算機実験(シミュレーション)を用いて研究を行っている。具体的な今年度の研究概要は次の通りである。1. 昨年度に引き続き、キサランチン酸化還元酵素において、レセプター・リガンド相互作用に関して、より詳細に分子動力学的計算を行いながら検討している。具体的には、リガンドが結合するレセプターのキャビティー入り口付近のアミノ酸残基に着目し、計算機上でポイントミュートーションを行い、それらのモデルに対する動力学の結果の違いに関してデータを集めている。2. 昨年度に引き続き、分子の量子ダイナミクスに関する理論研究を行っており、分子の階層モデルに関する基礎理論を構築している。具体的には、Rubtsovらによって実験的に調べられている分子のモード間エネルギー移動を調べており、非線形結合の適正な計算、階層モデルの更なる改良によって、実験結果をよく説明するような結果を得ることができた。3. マルチスケールな考えに基づくパスサンプリングの新手法を開発し、モデルポリマーの構造変化(アンルーピングダイナミクス)に応用した。現在はより現実的なペプチドの構造変化の計算を行っている。4. ガンのダイナミクスを反応拡散方程式で記述し、計算するための準備を進めた。なお、1, 2に関しては科研費基盤Cの助成を受けている。

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) Matsunaga Y²⁾, Fujisaki H^{1, 2)}, Terada T²⁾, Furuta T²⁾, Moritsugu K²⁾, Kidera A^{2, 3)} (1) Department of Physics, Nippon Medical School, 2) Molecular Scale Team, Integrated Simulation of Living Matter Group, RIKEN, 3) Department of Supramolecular Biology, Graduate School of Nanobioscience, Yokohama City University) : Minimum Free Energy Path of Ligand-Induced Transition in Adenylate Kinase. PLoS Comput Biol 2012 ; 8 : e1002555-1-e1002555-12.
- 2) Shiga M¹⁾, Fujisaki H^{2, 3)} (1) Center for Computational Science and E-Systems, Japan Atomic Energy Agency (JAEA), 2) Department of Physics, Nippon Medical School, 3) Molecular Scale Team, Integrated Simulation of Living Matter Group, RIKEN) : A quantum generalization of intrinsic reaction coordinate using path integral centroid coordinates. J Chem Phys 2012 ; 136 : 184103-1-184103-11.

(2) 研究報告書：

- 1) 高見利也¹⁾, 藤崎弘士²⁾ (1) 九州大学・情報基盤研究開発センター, 2) 日本医科大学・物理学教室) : 複雑量子系の最適制御理論. 日本医科大学基礎科学紀要 2012 ; 41 : 27-56.
- 2) 藤崎弘士^{1, 2)}, 古田忠臣³⁾, 岡本 研⁴⁾, 菊地浩人¹⁾ (1) 日本医科大学・物理学教室, 2) 理化学研究所次世代計算科学研究開発プログラム分子スケール研究開発チーム, 3) 東京工業大学大学院生命理工学研究科生体分子機能工学専攻, 4) 日本医科大学・分子生物学) : 理論生物物理と生化学を組み合わせた薬効研究：キサントシン酸化還元酵素と阻害剤フェブキソスタットの結合機序. 日医大医学会誌 2012 ; 8 (3) : 222-227.

学会発表

(1) 一般講演：

- 1) Fujisaki H^{1, 2)}, Shiga M³⁾, Kidera A^{2, 4)} (1) Department of Physics, Nippon Medical School, 2) Molecular Scale Team, Integrated Simulation of Living Matter Group, RIKEN, 3) Center for Computational Science and E-Systems, Japan Atomic Energy Agency (JAEA), 4) Department of Supramolecular Biology, Graduate School of Nanobioscience, Yokohama City University) : Path Search and Path Sampling Algorithms for Complex Molecular Systems. JST International Symposium on Multi-scale Simulation of Condensed-phase Reacting Systems (Nagoya University ES hall, Nagoya, Japan), 2012. 5.
- 2) Fujisaki H¹⁾ (1) Department of Physics, Nippon Medical School) : Theoretical investigation of vibrational energy transfer using the tier model with ab initio potential energy surfaces. Gordon Research Conference on vibrational spectroscopy (Biddeford, Maine (USA)), 2012. 8.
- 3) Kikuchi H¹⁾, Fujisaki H^{1, 2)}, Furuta T³⁾, Okamoto K¹⁾, Nishino T⁴⁾ (1) 日本医科大学, 2) 理化学研究所, 3) 東京工業大学, 4) 東京大学) : Molecular dynamics and free energy analysis of xanthine oxidoreductase-ligand interactions. TACC 2012 Theory and Applications of Computational Chemistry (University of Pavia, Italy), 2012. 9.
- 4) 高見利也¹⁾, 下川倫子²⁾, 藤崎弘士³⁾, 小林泰三¹⁾ (1) 九州大学, 2) 千葉大学, 3) 日本医科大学) : ミルク上のコーヒーパーターン形成の粒子シミュレーション. 日本物理学会秋季大会 (横浜国立大学), 2012. 9.
- 5) 高見利也¹⁾, 藤崎弘士²⁾ (1) 九州大学, 2) 日本医科大学) : カオス力学系の最適制御軌道. 日本物理学会秋季大会 (横浜国立大学), 2012. 9.
- 6) 藤崎弘士¹⁾, 菊地浩人¹⁾, 戸田幹人²⁾, 高見利也³⁾ (1) 日本医科大学, 2) 九州大学, 3) 奈良女子大学) : 分子階層モデルを使った量子ダイナミクス 3. 日本物理学会秋季大会 (横浜国立大学), 2012. 9.
- 7) 岸田直子¹⁾, 藤崎弘士²⁾, 戸田幹人¹⁾ (1) 奈良女子大学, 2) 日本医科大学) : シナプス結合に関与する PDZ ドメ

- インの分子動力学データに対する時系列解析. 日本物理学会秋季大会 (横浜国立大学), 2012. 9.
- 8) 富士香奈¹⁾, 関嶋政和²⁾, 藤崎弘士³⁾, 戸田幹人¹⁾ (1) 奈良女子大学, 2) 東京工業大学, 3) 日本医科大学): 生体分子の分子動力学に対する時系列解析: 集団運動の揺らぎと構造変化の関係を探る II. 日本物理学会秋季大会 (横浜国立大学), 2012. 9.
 - 9) 戸田幹人¹⁾, 高見利也²⁾, 福水健次³⁾, 菊地浩人⁴⁾, 藤崎弘士⁴⁾ (1) 奈良女子大学, 2) 九州大学, 3) 統計数理研究所, 4) 日本医科大学): 生体分子の分子動力学時系列データに対する統計解析 3. 日本物理学会秋季大会 (横浜国立大学), 2012. 9.
 - 10) 岸田直子¹⁾, 藤崎弘士²⁾, 戸田幹人¹⁾ (1) 奈良女子大学, 2) 日本医科大学): The time series analysis of molecular dynamics data about PDZ domain in synapse. 日本生物物理学会年会 (名古屋大学), 2012. 9.
 - 11) 富士香奈¹⁾, 関嶋政和²⁾, 藤崎弘士³⁾, 戸田幹人¹⁾ (1) 奈良女子大学, 2) 東京工業大学, 3) 日本医科大学): Time-series analysis of molecular dynamics: Conformational change and dynamics of collective behavior. 日本生物物理学会年会 (名古屋大学), 2012. 9.
 - 12) 戸田幹人¹⁾, 高見利也²⁾, 福水健次³⁾, 菊地浩人⁴⁾, 藤崎弘士⁴⁾ (1) 奈良女子大学, 2) 九州大学, 3) 統計数理研究所, 4) 日本医科大学): 生体分子の分子動力学時系列データに対する統計解析 4. 日本物理学会年会 (広島大学), 2013. 3.
 - 13) 岸田直子¹⁾, 藤崎弘士²⁾, 戸田幹人¹⁾ (1) 奈良女子大学, 2) 日本医科大学): シグナル伝達に関与する PDZ ドメインの分子動力学データに対する時系列解析 2. 日本物理学会年会 (広島大学), 2013. 3.
 - 14) 高見利也¹⁾, 下川倫子²⁾, 藤崎弘士³⁾, 小林泰三¹⁾ (1) 九州大学, 2) 千葉大学, 3) 日本医科大学): コーヒーフラクタルの DLA 的モデルによる再現と解析. 日本物理学会年会 (広島大学), 2013. 3.
 - 15) 富士香奈¹⁾, 関嶋政和²⁾, 藤崎弘士³⁾, 戸田幹人¹⁾ (1) 奈良女子大学, 2) 東京工業大学, 3) 日本医科大学): 生体分子の分子動力学に対する時系列解析: 集団運動の揺らぎと構造変化の関係を探る III. 日本物理学会年会 (広島大学), 2013. 3.
 - 16) 藤崎弘士^{1, 2)}, 松永康佑²⁾, 木寺詔紀^{2, 3)} (1) 日本医科大学, 2) 理化学研究所, 3) 横浜市立大学): Onsager-Machlup 作用を用いたペプチドのパスサンプリング. 日本物理学会年会 (広島大学), 2013. 3.

[化学]

研究概要

中村: (1) フラーレン誘導体の合成及び, その HIV 逆転写酵素阻害, アポトーシス誘導などの生物活性に関する研究. (2) 薬物代謝酵素シトクロム P450 によるフェノール類の代謝反応機構の解明及び, 新規代謝物の探索. (3) 天然物を規範とした抗酸化物質のデザイン・合成及び, 抗酸化作用との構造活性相関.

菅原: アルカリ金属-ナフタレン錯体を用いたテルペン系化合物の合成及び, 不飽和酸とジクロロカルベンとの反応によるジクロロシクロプロパンカルボン酸の合成. (1) 生理活性を有するラクトン類の合成. (2) カンファーなどの天然物ケトンを用いた不斉合成配位子の合成.

永井: 2, 2'-ビピリジンまたは 1, 10-フェナントロリンを持つルテニウム (II) 混合配位子錯体の溶液化学. (1) 錯体の合成. (2) 高速液体クロマトグラフィーによる錯体異性体の分離およびその機構. (3) 錯体イオンの溶媒和に関する研究. (4) 錯体イオンの溶液内反応および平衡に関する研究.

武田: イオン交換体を用いる無機イオンのクロマトグラフィーに関する研究. (1) 弱酸性陽イオン交換体に対するアルカリ土類金属元素および希土類元素の吸着挙動. (2) 弱酸性陽イオン交換体を用いるジルコニウム (IV), ハフニウム (IV), および他の金属の三成分分離 (3) イオン交換樹脂を用いる貴金属元素の回収と定量.

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) Funakoshi-Tago M¹⁾, Nagata T¹⁾, Tago K²⁾, Tsukada M¹⁾, Tanaka K¹⁾, Nakamura S, Mashino T¹⁾, Kasahara T¹⁾ (1) Dept Pharm Sci, Keio Univ, 2) Dept Biochemistry, Jichi Med Univ) : ullerene derivative prevents cellular transformation induced by JAK2 V617F mutant through inhibiting c-Jun N-terminal kinase pathway. *Cell Signal* 2012 ; 24 (11) : 2024-2034.
- 2) 中村成夫：薬物代謝の化学反応：シトクロム P450 反応を中心として. *日医大医会誌* 2013 ; 9 (1) : 25-30.

(2) 総説：

- 1) Nakamura S, Mashino T¹⁾ (1) Dept Pharm Sci, Keio Univ) : Water-soluble Fullerene Derivatives for Drug Discovery. *J Nippon Med Sch* 2012 ; 79 (4) : 248-254.

学会発表

(1) 一般講演：

- 1) 安田大輔¹⁾, 高橋恭子¹⁾, 中村成夫, 増野匡彦¹⁾ (1) 慶應大・薬) : 脂溶性を向上した 5-Hydroxy-2-oxindole 誘導体の抗酸化活性. 第 65 回日本酸化ストレス学会学術集会 (徳島), 2012. 6.
- 2) 片岡裕樹¹⁾, 田丸友裕¹⁾, 下遠野久美子¹⁾, 高橋恭子¹⁾, 大江知之¹⁾, 中村成夫, 増野匡彦¹⁾ (1) 慶應大・薬) : 抗 HCV 活性を有するフラレン誘導体における抗酸化活性. 第 65 回日本酸化ストレス学会学術集会 (徳島), 2012. 6.
- 3) Takahashi K¹⁾, Maeda W¹⁾, Yasuda D¹⁾, Ohe T¹⁾, Nakamura S, Mashino T¹⁾ (1) Dept Pharm Sci, Keio Univ) : Methoxycarbonyl-2-indanone and its derivatives as bifunctional radicals and singlet oxygen-scavengers. The 16th biennial meeting for the Society for Free Radical Research International (SFRRRI) (London), 2012. 9.
- 4) Yasuda D¹⁾, Ito M¹⁾, Takahashi K¹⁾, Ohe T¹⁾, Nakamura S, Mashino T¹⁾ (1) Dept Pharm Sci, Keio Univ) : Antioxidant activity of synthetic uric acid analogs. The 16th biennial meeting for the Society for Free Radical Research International (SFRRRI) (London), 2012. 9.
- 5) 飯田真紀¹⁾, 高橋恭子¹⁾, 大江知之¹⁾, 中村成夫, 増野匡彦¹⁾ (1) 慶應大・薬) : アニリニウム型フラレン誘導体の合成及びがん細胞増殖抑制効果. 第 56 回日本薬学会関東支部大会 (東京), 2012. 10.
- 6) 田中彩夏¹⁾, 沼館慧剛¹⁾, 藤田亮輔¹⁾, 高橋恭子¹⁾, 大江知之¹⁾, 中村成夫, 増野匡彦¹⁾ (1) 慶應大・薬) : インドールを有する環状ジペプチドの ONOO-消去活性. 第 56 回日本薬学会関東支部大会 (東京), 2012. 10.
- 7) 渡邊俊朗¹⁾, 塚田昌樹¹⁾, 中村成夫, 増野匡彦¹⁾, 多胡めぐみ¹⁾, 笠原 忠¹⁾ (1) 慶應大・薬) : フラレン誘導体による JAK2 変異体発現細胞のアポトーシス誘導効果. 第 56 回日本薬学会関東支部大会 (東京), 2012. 10.
- 8) 安田大輔¹⁾, 高橋恭子¹⁾, 大江知之¹⁾, 中村成夫, 増野匡彦¹⁾ (1) 慶應大・薬) : 新規創薬テンプレートとしての抗酸化物質 5-Hydroxy-2-oxindole. 第 30 回メディシナルケミストリーシンポジウム (東京), 2012. 11.
- 9) 北川原弓奈¹⁾, 橘久美子¹⁾, 高橋恭子¹⁾, 大江知之¹⁾, 中村成夫, 増野匡彦¹⁾ (1) 慶應大・薬) : ベンズプロマロンの新規代謝物の探索とその肝毒性との関連. 日本薬学会第 133 年会 (横浜), 2013. 3.
- 10) 古田恭寛¹⁾, 元井玲子¹⁾, 高橋恭子¹⁾, 大江知之¹⁾, 中村成夫, 増野匡彦¹⁾ (1) 慶應大・薬) : フラレン誘導体による Cu²⁺/アスコルビン酸誘発 DNA 切断の抑制. 日本薬学会第 133 年会 (横浜), 2013. 3.
- 11) 松藤 舞¹⁾, 高橋恭子¹⁾, 大江知之¹⁾, 中村成夫, 増野匡彦¹⁾ (1) 慶應大・薬) : α -Pyridoin 誘導体の 1 重項酸素消去活性. 日本薬学会第 133 年会 (横浜), 2013. 3.
- 12) 丸山和輝¹⁾, 高橋恭子¹⁾, 大江知之¹⁾, 中村成夫, 増野匡彦¹⁾ (1) 慶應大・薬) : 1,2-Di-(2-pyridyl) ethanone 誘導体のラジカル消去活性. 日本薬学会第 133 年会 (横浜), 2013. 3.

- 13) 庄司正樹¹⁾, 畠山 大¹⁾, 高橋悦久²⁾, 森田悠香¹⁾, 奥谷武史¹⁾, 岩井佑磨¹⁾, 越後典子¹⁾, 木戸 博²⁾, 中村成夫, 増野匡彦³⁾, 葛原 隆¹⁾ (1) 徳島文理大・薬, 2) 徳島大・酵素研, 3) 慶應大・薬) : Fullerene derivatives によるインフルエンザPA サブユニットのエンドヌクレアーゼ活性及びウイルス感染阻害効果の検討. 日本薬学会第 133 年会 (横浜), 2013. 3.
- 14) 渡部匡史¹⁾, 中村成夫, 増野匡彦²⁾, 小野智哉³⁾, 宇井定春¹⁾, 賀川裕貴¹⁾, 藤室雅弘¹⁾ (1) 京都薬大, 2) 慶應大・薬, 3) 山梨大・生命) : カボジ肉腫関連ヘルペスウイルス誘導性リンパ腫を標的とした化学療法の探索. 日本薬学会第 133 年会 (横浜), 2013. 3.

[生物学]

研究概要

本教室では、遺伝子操作が容易なアフリカツメガエルをモデル動物として用い、幹細胞を制御するニッチに焦点を当てながら、脊椎動物共通の器官再生の分子メカニズムの解明に取り組んでいる。この他に、植物生理学の分野でも継続した研究を行っている。今年度の研究内容は以下の通りである。

1) ツメガエル幼生の小腸では、甲状腺ホルモンを引き金として幹細胞ニッチが形成され、小腸吸収上皮の一部が幹細胞へと脱分化することをこれまで明らかにした。そこで幹細胞への脱分化機構の解明を目指し、近年 cDNA マイクロアレイにより数多く同定された甲状腺ホルモン応答遺伝子の解析を現在進めている。今年度は、ヒトの癌関連遺伝子の 1 つである MDS/EVI が、幹細胞の出現時期に上皮組織特異的に発現が高まることを明らかにした (PLoS One, 2013)。さらに、同時期に Hes 関連遺伝子である hairy-1 と hairy-2b も発現が高まることを見出した。hairy-1 は幹細胞特異的に、hairy-2b はその周囲の結合組織特異的に発現することから、Notch シグナル経路が幹細胞の出現やニッチ形成に関わることが示唆された。(長谷部, 岡)

2) 甲状腺ホルモンによって全身の器官が再構築される本実験動物をモデルとして、血管形成や再生の研究にも取り組んでいる。器官特異的に血管の大きさや構造を制御するメカニズムについて解析中である (老人病研・藤原助教らとの共同研究)

3) 光合成生物を中心に、系統分類とカロテノイドの種類・分布との関係を研究している。シアノバクテリアが葉緑体として共生した紅藻は、 β -カロテン類のみとさらに α -カロテン類も持つ二系統に分けられ、また網毎に存在カロテノイドに多様性が見られた。これらの差異は生合成経路の上で 2 から 3 個の酵素 (遺伝子) の獲得で説明できそうであるが、これらの遺伝子はシアノバクテリア由来ではなく、起源が不明である。他にも国内外の数グループとシアノバクテリア、古細菌、植物などのカロテノイドの性質や機能に関する共同研究を進めている。(高市)

研究業績

論文

(1) 原著 :

- 1) Wakahama T¹⁾, Okuyama H¹⁾, Maoka T²⁾, Takaichi S (1) Grad School Environ Sci, Hokkaido Univ, 2) Res Inst Production Develop) : Unique carotenoid lactoside, P457, in *Symbiodinium* sp. of dinoflagellate. Acta Biochimi Polon 2012 ; 59 (1) : 155-157.
- 2) Takaichi S, Murakami A¹⁾, Mochimaru M²⁾, Yokoyama A³⁾ (1) Kobe Univ, Res Cent Inland Seas, 2) Dept Natl Sci, Komazawa Univ, 3) Life Environ Sci, Univ Tsukuba) : α -Carotene and its derivatives have a sole chirality in phototrophic organisms?. Acta Biochimi Polon 2012 ; 59 (1) : 159-161.
- 3) Takaichi S, Sasikala CH¹⁾, Ramana CH²⁾, Okamura K³⁾, Hiraishi A³⁾ (1) J. N. T. Univ, 2) Univ Hyderabad, 3) Toyohashi Univ Technol) : Carotenoids in *Rhodospirillum rubrum* species : variation of compositions and substrate specificity of predicted carotenogenesis enzymes. Curr Microbiol 2012 ; 65 (2) : 150-155.

- 4) Asao M¹, Takaichi S, Madigan M¹ (¹ Southern Illinois Univ) : Amino acid-assimilating phototrophic heliobacteria from soda lake environments : *Heliorestis acidaminivorans*, sp. nov. and '*Candidatus* Heliomonas lunata'. *Extremophiles* 2012 ; 16 (4) : 585-595.
- 5) Takaichi S, Mochimaru M¹, Uchida H², Murakami A², Hirose E³, Maoka T⁴, Tsuchiya T⁵, Mimuro M⁵ (¹ Dept Natl Sci, Komazawa Univ, ² Kobe Univ, Res Cent Inland Seas, ³ Univ Ryukyus, ⁴ Res Inst Production Develop, ⁵ Grad Schl Human Environ, Kyoto Univ) : Opposite chirality of *a*-carotene in unusual cyanobacteria with unique chlorophylls, *Acaryochloris* and *Prochlorococcus*. *Plant Cell Physiol* 2012 ; 53 (11) : 1881-1888.
- 6) Wakahama T¹, Lazxa-Martinez A², Taha A¹, Okuyama H¹, Yoshida K³, Kogame K¹, Awai K¹, Kawachi M⁴, Moka T⁵, Takaichi S (¹ Hokkaido University, ² Univ Basque Country, ³ Shizuoka Univ, ⁴ Nat Inst Environ Stud, ⁵ Res Inst Production Develop) : Structural confirmation of a unique carotenoid lactoside, P457, in *Symbiodinium* sp. strain NBRC 104787 isolated from sea anemone and its distribution in dinoflagellates and various marine organisms. *J Phycol* 2012 ; 48 (6) : 1392-1402.
- 7) Miller TC¹, Sun G¹, Hasebe T, Fu L¹, Heimeier RA¹, Das B¹, Ishizuya-Oka A, Shi YB¹ (¹ LGRD/NICHD/NIH) : Tissue-specific upregulation of MDS/EVI gene transcripts in the intestine by thyroid hormone during *Xenopus* metamorphosis. *PLoS One* 2013 ; 8 (1) : e55585.

(2) 総説 :

- 1) Masukawa H^{1, 2}, Mochimaru M³, Takaichi S (¹ Michigan State Univ, ² Kanagawa Univ, ³ Komazawa Univ) : Characterization of carotenogenesis genes in the cyanobacterium *Anabaena* sp. PCC 7120. *Methods Mol Biol* 2012 ; 892 : 297-306.
- 2) Takaichi S : Distributions, biosyntheses and functions of carotenoids in algae. *AgroFOOD Industry Hi-Tech* 2013 ; 24 (1) : 55-58.
- 3) 高市真一 : カロテノイドとヒト. *日医大医会誌* 2012 ; 8 (4) : 264-267.
- 4) Ishizuya-Oka A, Hasebe T : Establishment of intestinal stem cell niche during amphibian metamorphosis. *Curr Top Dev Biol* 2013 ; 103 : 305-327.

著 書

- 1) 高市真一 : [分担] カロテノイド. *藻類ハンドブック* (渡辺信), 2012 ; pp231-237, (株) エヌ・ティー・エス.

学会発表

(1) シンポジウム :

- 1) 長谷部孝, 岡 敦子 : トランスジェニックカエルは2度輝く : 変態期の消化管上皮幹細胞の起源と発生のメカニズム (両生類はワンダーランド-3-). *日本動物学会大会* (第 83 回) (大阪), 2012. 9.

(2) 一般講演 :

- 1) 高市真一 : シアノバクテリアにおける特殊なクロロフィルとカロテノイド. *日本光合成学会* (第 3 回) (横浜), 2012. 6.
- 2) 高市真一, 奥山英登志¹ (¹ 北海道大学院・環境科学) : カロテノイドから見た藻類の分類 : 渦鞭毛藻を中心に. *光合成の色素系と反応中心に関するセミナー* (第 20 回) (豊中), 2012. 6.
- 3) 丸太 聡¹, 小澄太輔², 須貝祐子², 藤井律子², 杉崎 満¹, 高市真一, 橋本秀樹² (¹ 大阪市大・理, ² 大阪市大・複合先端研) : 紅色光合成細菌由来周辺アンテナにおける新たなエネルギー散逸機構. *光合成の色素系と反応中心に関するセミナー* (第 20 回) (豊中), 2012. 6.
- 4) Wakahama T¹, Taha A¹, Yoshida K¹, Okuyama H¹, Kogame K¹, Takaichi S, Kawachi M² (¹ Hok-

- kaido Univ, ²⁾ Natl Inst Environ Studies) : Lipid and fatty acid compositions of coral and dinoflagellate. 12th International Coral Reef Symposium (ICRS 2012) (Cairns), 2012. 7.
- 5) 八波利恵¹⁾, 安藤 藍¹⁾, 高市真一, 福居俊昭¹⁾, 仲宗根薫²⁾, 藤田信之³⁾, 関根光雄³⁾, 高品知典⁴⁾, 中村 聡¹⁾
(¹⁾ 東工大大院生命理工, ²⁾ 近畿大工, ³⁾ 製品評価技術基盤機構, ⁴⁾ 東洋大生命科) : 高度好塩性古細菌 *Haloarcula japonica* のカロテノイド分析および *brp* および *crtI* 遺伝子ホモログの解析. 日本 Archaea 研究会講演会 (第 25 回) (西宮), 2012. 7.
 - 6) Takaichi S, Uchida H¹⁾, Murakami A¹⁾, Hirose E²⁾, Mochimaru M³⁾, Tsuchiya T⁴⁾, Mimuro M⁴⁾ (¹⁾ Kobe Univ, Res Cent Inland Seas, ²⁾ Univ Ryukyus, ³⁾ Komazawa Univ, ⁴⁾ Kyoto Univ) : α -Carotene found only in unusual chlorophyll-containing cyanobacteria, *Acaryochloris* and *Prochlorococcus*, among Prokaryotes. 14th International Symposium on Phototrophic Prokaryotes (ISPP 2012) (Porto), 2012. 8.
 - 7) 高市真一, 内田博子¹⁾, 村上明男¹⁾, 広瀬裕一²⁾, 土屋 徹³⁾, 持丸真里⁴⁾ (¹⁾ 神戸大内海域セ, ²⁾ 琉球大理, ³⁾ 京大院人環, ⁴⁾ 駒澤大自然) : 特異なクロロフィルをもつシアノバクテリアにおけるカロテノイド. カロテノイド研究談話会 (第 26 回) (函館), 2012. 9.
 - 8) 若浜貴宏¹⁾, 奥山英登志¹⁾, 眞岡孝至²⁾, 高市真一 (¹⁾ 北海道大院・環境, ²⁾ 生産開発科研) : 渦鞭毛藻におけるカロテノイド配糖体 : P457 の再同定と分布. カロテノイド研究談話会 (第 26 回) (函館), 2012. 9.
 - 9) 高市真一, 内田博子¹⁾, 村上明男¹⁾, 広瀬裕一²⁾, 土屋 徹³⁾, 持丸真里⁴⁾, 横山亜紀子⁵⁾ (¹⁾ 神戸大内海域セ, ²⁾ 琉球大理, ³⁾ 京大院人環, ⁴⁾ 駒澤大自然, ⁵⁾ 筑波大生物科学系) : 特殊なクロロフィルを持つシアノバクテリアのカロテノイド. 日本植物学会大会 (第 76 回) (姫路), 2012. 9.
 - 10) 若浜貴宏¹⁾, 奥山英登志¹⁾, 吉田磨仁¹⁾, 竹ノ内明²⁾, 小亀一弘²⁾, 中村明毅³⁾, 高嶺翔太³⁾, 粟井光一郎⁴⁾, 河地正伸⁵⁾, 眞岡孝至⁶⁾, 高市真一 (¹⁾ 北大・地球環境, ²⁾ 北大・理, ³⁾ 沖電開発, ⁴⁾ 静岡大, ⁵⁾ 国立環境研, ⁶⁾ 生産開発科研) : 糖を含むカロテノイド P457 の分子構造, 褐虫藻及びサンゴにおける分布と予想される生理機能. 日本サンゴ礁学会 (第 15 回) (文京), 2012. 11.
 - 11) 吉田磨仁¹⁾, 竹ノ内明¹⁾, 若浜貴宏¹⁾, 奥山英登志¹⁾, 小亀一弘²⁾, 中村明毅³⁾, 高嶺翔太³⁾, 粟井光一郎⁴⁾, 河地正伸⁵⁾, 高市真一 (¹⁾ 北大・地球環境, ²⁾ 北大・理, ³⁾ 沖電開発, ⁴⁾ 静岡大, ⁵⁾ 国立環境研) : 高温処理により黄緑色化したユビエダハマサンゴの黒帯病的症状とシアノバクテリア. 日本サンゴ礁学会 (第 15 回) (文京), 2012. 11.
 - 12) Ichinomiya M¹⁾, Yoshikawa S²⁾, Kamiya M²⁾, Ohki K²⁾, Takaichi S, Kuwata A³⁾ (¹⁾ Pref Univ Kumamoto, ²⁾ Fukui Pref Univ, ³⁾ Tohoku Natl Fisheries Res Inst) : Isolation and characterization of Parmales from the Oyashio region, Western North Pacific. First Asian Marine Biology Symposium (Phuket), 2012. 12.
 - 13) 西谷里美¹⁾, 石田 厚²⁾, 高市真一, 中村敏枝¹⁾, 可知直毅¹⁾ (¹⁾ 首都大・生命科学, ²⁾ 京大生態研センター) : 栄養塩の吸収時期が冬緑性草本ヒガンバナの光合成特性に与える効果. 日本生態学会 (第 60 回) (静岡), 2013. 3.
 - 14) 高市真一, 横山亜紀子¹⁾, 持丸真里²⁾, 内田博子³⁾, 村上明男³⁾ (¹⁾ 筑波大, ²⁾ 駒澤大・自然, ³⁾ 神戸大・内海域セ) : フィコビルンをもつ真核藻類のカロテノイド組成と生合成. 日本植物生理学会年会 (第 54 回) (岡山), 2013. 3.
 - 15) 草間友里¹⁾, 井上修平¹⁾, 高市真一, 西山佳孝¹⁾ (¹⁾ 埼玉大院・理工) : 光化学系 II の光阻害におけるカロテノイドの保護作用. 日本植物生理学会年会 (第 54 回) (岡山), 2013. 3.
 - 16) 佐藤諒一¹⁾, 高市真一, 太田啓之²⁾, 増田真二²⁾ (¹⁾ 東工大大院・生命理工, ²⁾ 東工大・バイオセンター) : 非光化学消光 (NOQ) に関与する遺伝子 LAP1 の機能解析. 日本植物生理学会年会 (第 54 回) (岡山), 2013. 3.
 - 17) 八波利恵¹⁾, 安藤 藍¹⁾, 楊 影¹⁾, 高市真一, 河野雅弘¹⁾, 福居俊昭¹⁾, 仲宗根薫²⁾, 高品知典³⁾, 中村 聡¹⁾
(¹⁾ 東工大大院生命理工, ²⁾ 近畿大工, ³⁾ 東洋大生命科) : *Haloarcula japonica* 由来フィトエンデサテュラーゼ遺伝子ホモログの役割とカロテノイド種の抗酸化活性. 日本農芸化学会 2013 年度大会 (仙台), 2013. 3.

- 18) 齋藤 忍¹⁾, 佐藤 光²⁾, 津端翔二郎²⁾, 能木裕一³⁾, 高市真一, 浜本牧子^{1, 2)} (1) 明治大院農, 2) 明治大農, 3) JAMSTEC) : 赤色海洋酵母生産カロテノイドの化学構造および生理活性. 日本農芸化学会 2013 年度大会 (仙台), 2013. 3.
- 19) 長谷部孝, 梶田満子¹⁾, 岡 敦子 (1) 日本医大老研分子生物) : アフリカツメガエル変態期の消化管再構築における Hairy-1 および Hairy-2b の発現解析. 日本動物学会大会 (第 83 回) (大阪), 2012. 9.
- 20) Fujiwara M¹⁾, Hasebe T, Ishizuya-Oka A, Ghazizadeh M¹⁾ (1) 日本医大老研病理) : Involvement of cell death in the formation of spiral twisting vasculature in metamorphic *Xenopus laevis* tail. 第 20 回日本血管生物医学学会 学術集会 (第 20 回) (徳島), 2012. 12.
- 21) 藤井 淳¹⁾, 児玉万穂²⁾, 長谷部孝, 岡 敦子, 中村正久²⁾ (1) 早大院・先進理工・生命理工, 2) 早大・教育) : AR 遺伝子を導入したトランスジェニックツチガエルの作成. 日本動物学会大会 (第 83 回) (大阪), 2012. 9.
- 22) 安藤 藍¹⁾, 八波利恵¹⁾, 高市真一, 河野雅弘¹⁾, 有里子有里子¹⁾, 福居俊昭¹⁾, 仲宗根薫²⁾, 藤田信之³⁾, 関根光雄³⁾, 高品知典⁴⁾, 中村 聡¹⁾ (1) 東工大院生命理工, 2) 近畿大工, 3) 製品評価技術基盤機構, 4) 東洋大生命科) : 高度好塩性古細菌 *Haloarcula japonica* 由来 *crtI* 遺伝子ホモログの解析とカロテノイド種の抗酸化活性. 極限環境生物学会 2012 年度年会 (第 13 回) (東京), 2012. 12.
- 23) Ando A¹⁾, Yatsunami R¹⁾, Takaichi S, Fukui T¹⁾, Nakasone K²⁾, Fujita N³⁾, Sekine M³⁾, Takashina T⁴⁾, Nakamura S¹⁾ (1) Tokyo Institute Technology, 2) Kinki Univ, 3) National Institute Technology Evaluation (NITE), 4) Toyo Univ) : Analysis of carotenoids in *Haloarcula japonica* and characterization of *Ha. japonica crtI* homologs. The First International Symposium on Biofunctional Chemistry (ISBC2012) (Tokyo), 2012. 11.
- 24) Sato R¹⁾, Takaichi S, Ohta H²⁾, Masuda S²⁾ (1) Grad School Biosci Biotechnol, Tokyo Inst Technol, 2) Center Biol Resour Informatics, Tokyo Inst Technol) : Characterization of LAP1 involved in non-photochemical quenching. Okayama University International Symposium : Structure and Dynamics of Photosynthetic Systems (Okayama), 2012. 10.
- 25) Furubayashi M¹⁾, Li L¹⁾, Takaichi S, Saito K¹⁾, Umeno D¹⁾ (1) Dept Appl Chem Biotechnol, Chiba Univ) : Evolutionary engineering of biosynthetic pathways for non-natural C50 carotenoids. Evolutionary engineering of biosynthetic pathways for non-natural C50 carotenoids (Awaji), 2012. 6.
- 26) 方度見彰仁¹⁾, 高市真一, 斎藤恭一¹⁾, 梅野太輔¹⁾ (1) 千葉大院・工) : 非天然骨格スクアレンおよびそれらを基にした非天然化合物の生合成. ドリコールおよびイソプレノイド研究会 (第 22 回) (新潟), 2012. 9.

3. 外国語

[英語・ドイツ語]

研究概要

外国語教室では、3名の専任教員が言語・言語教育、ならびに文化・文学に関わる研究を展開している。平成24年度の軸となる研究活動は次のとおりである。

＜英語教育研究＞ 大学1,2年生を対象としたボキャブラリー・ビルディング活動で習得した語彙をライティングに活かす方策について、本学の英語授業における学生教育を基盤として、教育実践研究を展開した。本研究課題に取り組んで2年目にあたり、昨年度の反省を生かし、学生の学習状況とその成果をより客観的に判定するために諸条件を整え、信頼できるデータ収集に努めた。また本年度は、UpToDateを活用して医学・医療関連語彙の習得を図り、専門用語学習において学生がいかなる問題に直面するかについても方向性を確認した。なお、過去4年弱にわたって携わってきた高等学校検定済英語教科書が刊行の運びとなった。

＜英語文学・文化研究＞ 科学研究費基盤研究(C)のアイランド小説および旅行記研究の2年目にあたり、国際学会で2回の研究発表を行い、一方の発表に基づいた研究論文を発表した。本年度は、旅行記とそれに付随する挿絵との相互関係性、また、旅行記、神話や伝説、そして短編小説誕生をめぐるジャンル横断的な文化のインターアクションに目を向けることとなった。結果的に、西アイランドにおけるアイランド性を探る地域研究の様相を呈し、歴史的現実とフィクションのはざまを探るアプローチが、アイランド的なものを解き明かす鍵となることが総体的に明らかになってきた。なお、国際アイランド文学協会日本支部および日本アイランド協会にて理事も務め、研究推進活動や啓蒙的活動も展開した。

＜ドイツ語教育研究＞ 第二外国語として学生がドイツ語を「聞く」「話す」「読む」「書く」という学習活動を総合的に行う過程で、いかなる諸問題に対処する必要があるかを検討・考察した。

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) Nakamura T: Daniel Maclise's Representations of Irishness: His Drawings in John Barrow's *Tour round Ireland* (1836). *Odysseus* 2013; (17): 41-57.

(2) 学会報告：

- 1) 中村哲子：アイランド文学研究の行方：IASIL モントリオール大会に参加して。日本アイランド協会会報 2013; (86): 44.

(3) 教育報告：

- 1) 中村哲子, 渡辺 浩¹⁾ (1) 明治大学)：「生」と「死」を考える医学教養教育科目の軌跡：5年にわたる「特別プログラム」の意義。日本医科大学基礎科学紀要 2012; (41): 83-103.

著書

- 1) ミントン TD¹⁾, 芦田ルリ²⁾, 西川純恵, 堀口貫治³⁾, 岡野一也⁴⁾ (1) 慶應義塾大学, 2) 東京大学, 3) 芝中学・高等学校, 4) 開智中学・高等学校)：[共著] *Polestar English Expression I*, 2013; pp1-127, 数研出版.

学会発表

(1) 一般講演：

- 1) Nakamura T : Promoting Irishness : Interactions between Travel Narratives and Short Fiction in the 1820s and 1830s. Conference “The Irish Short Story” (1) (Leuven, Belgium.), 2012. 11.
- 2) Nakamura T : “No Picture Drawn by the Pencil – None by the Pen -- Can Possibly Convey an Idea of the Sad Reality” : Travel Books and Illustrated Drawings in the Early 19th Century. 2012 Conference, International Association for the Study of Irish Literatures,(Montreal, Canada), 2012. 8.

〔2〕 基 礎 医 学

1. 解剖学 (分子解剖学)

研究概要

(1) MicroRNA の分子解剖学的研究 : a) 臓器・疾患における microRNA プロファイリングと機能解析 (吉武講師, 菊池講師, 瀧澤敬美講師, 岩城助教, アリ助教, 院生・軸園, 院生・倉品, 院生・篠塚, 院生・神戸, 院生・竹内真, 院生・竹内純, 国内留学生 (自治医大)・高橋, 国内留学生 (自治医大)・石田, 技術員・小管, 技術員・日野原), b) exosome についての分子解剖学的解析 (アリ, 竹内真, 菊池, 吉武), c) 卵巣における microRNA の機能解析 (岩城, 瀧澤敬, 小管) を行った. (当大学院 消化器外科学, 内分泌外科学, 女性生殖発達病態学, 疼痛制御麻酔科学, および東京大学・程久美子准教授, 富山大学・齋藤滋教授との共同研究) (2) 胎盤の分子解剖学 : a) ヒト胎盤胎児血管内皮細胞内の IIb 型 Fc 受容体-小胞の解析 (岩城), b) 栄養膜細胞の解析を進めた (高橋, 菊池, 吉武). (当大学院女性生殖発達病態学, 米国オハイオ州立大学・John M Robinson 教授, 自治医科大学・松原茂樹教授, 屋代隆教授との共同研究) (3) バイオイメージング・組織細胞化学法の開発と応用 : GFP 融合分子発現ベクター作製と培養細胞での解析を行った (岩城). (4) 生殖細胞特異的分子 TEX101 の解析 : 生化学的解析を進めた (吉武). (順天堂大学・荒木慶彦准教授との共同研究)

研究業績

論文

(1) 原著 :

- 1) Mase Y^{1,2)}, Ishibashi O²⁾, Ishikawa T²⁾, Takizawa T²⁾, Kiguchi K³⁾, Ohba T⁴⁾, Katabuchi H⁴⁾, Takeshita T¹⁾, Takizawa T²⁾ (1) Department of Obstetrics and Gynecology, Nippon Medical School, Tokyo, Japan, (2) Department of Molecular Medicine and Anatomy, Nippon Medical School, Tokyo, Japan, (3) Department of Obstetrics and Gynecology, St Marianna University School of Medicine, Kanagawa, Japan, (4) Department of Gynecology, Faculty of Medical and Pharmaceutical Sciences, Kumamoto University, Kumamoto, Japan) : Mir-21 Is Enriched in the RNA-Induced Silencing Complex and Targets col4a1 in Human Granulosa Cell Lines. *Reproductive Sciences* 2012 ; 19 (10) : 1030-1040.
- 2) 瀧澤俊広, 石橋 宰, アリモハメド (1) 日本医科大学大学院 分子解剖学) : 二本鎖 RNA センサーによるリガンド認識とシグナル伝達機構の複雑性. *実験医学* 2012 ; 30 (8) : 1303-1306.
- 3) Mizuguchi Y^{1,2)}, Specht S^{1,2)}, Lunz GJ^{1,2)}, Lunz GJ³⁾, Isse K^{1,2)}, Corbitt N^{1,2)}, Takizawa T⁴⁾, Demetris JA^{1,2)} (1) Thomas E. Starzl Transplantation Institute, University of Pittsburgh Medical Center, Pittsburgh, USA, (2) The Department of Pathology, University of Pittsburgh Medical Center, Pittsburgh, USA, (3) Surgery, Divisions of Transplantation, University of Pittsburgh Medical Center, Pittsburgh, USA, (4) Department of Molecular Anatomy and Medicine, Nippon Medical School, Tokyo, Japan) : SPRR2A enhances p53 deacetylation through HDAC1 and down regulates p21 promoter activity. *BMC Molecular Biology* 2012 ; 13 : 20.
- 4) Ohkuchi A¹⁾, Ishibashi O²⁾, Hirashima C¹⁾, Takahashi K¹⁾, Matsubara S¹⁾, Takizawa T²⁾, Suzuki M¹⁾ (1) Department of Obstetrics and Gynecology, Jichi Medical University, Tochigi, Japan, (2) Department of Molecular Medicine and Anatomy, Nippon Medical School, Tokyo, Japan) : Plasma level of hydroxysteroid (17- β) dehydrogenase 1 in the second trimester is an independent risk factor for predicting preeclampsia after adjusting for the effects of mean blood pressure, bilateral notching and plasma level of soluble fms-like tyrosine kinase 1/placental growth factor ratio. *Hypertension Research* 2012 ; 35 (12) : 1152-1158.
- 5) 瀧澤俊広¹⁾, 大口昭英⁴⁾, 右田 真²⁾, 松原茂樹⁴⁾, 竹下俊行³⁾ (1) 日本医科大学大学院 分子解剖学, (2) 日本医科

大学大学院 小児・思春期医学, ³⁾ 日本医科大学大学院 女性生殖発達病態学, ⁴⁾ 自治医科大学 産婦人科学講座) : 臨床・創薬利用が見えてきた microRNA 第 1 章 microRNA 診断 16. 妊娠における miRNA 診断 : 胎盤特異的 miRNA と妊娠高血圧症候群の発症予知. 遺伝子医学 MOOK 2012 ; 23 : 110-115.

- 6) Walton RJ¹⁾, Frey AH²⁾, Vandre DD³⁾, Kwiek JJ⁴⁾, Ishikawa T⁵⁾, Takizawa T⁵⁾, Robinson MJ^{3, 4)}, Ackerman-Iv EW⁶⁾ (¹⁾ Division of Maternal-Fetal Medicine, Department of Obstetrics and Gynecology, Feinberg School of Medicine, Northwestern University, Chicago, IL, USA, ²⁾ Division of Maternal-Fetal Medicine and Ultrasound, Department of Obstetrics and Gynecology, Washington University, St. Louis, MO, USA, ³⁾ Department of Physiology and Cell Biology, The Ohio State University Wexner Medical Center, Columbus, OH, USA, ⁴⁾ Division of Infectious Diseases and Department of Microbiology, Center for Microbial Interface Biology, The Ohio State University Wexner Medical Center, ⁵⁾ Department of Molecular Medicine and Anatomy, Nippon Medical School, Tokyo, Japan, ⁶⁾ Department of Obstetrics and Gynecology, Laboratory of Perinatal Research, The Ohio State University Wexner Medical Center, Columbus, OH, USA) : Expression of flotillins in the human placenta : potential implications for placental transcytosis. *Histochemistry and Cell Biology* 2013 ; 139 (3) : 487-500.
- 7) Shinozuka E¹⁾, Miyashita M¹⁾, Mizuguchi Y¹⁾, Akagi I¹⁾, Kikuchi K²⁾, Makino H¹⁾, Matsutani T¹⁾, Hagiwara N¹⁾, Nomura T¹⁾, Uchida E¹⁾, Takizawa T (¹⁾ Department of Surgery for Organ Function and Biological Regulation, Nippon Medical School, Tokyo, Japan, ²⁾ Department of Molecular Anatomy and Medicine, Nippon Medical School, Tokyo, Japan) : SnoN/SKIL modulates proliferation through control of hsa-miR-720 transcription in esophageal cancer cells. *Biochem Biophys Res Commun* 2013 ; 430 (1) : 101-106.
- 8) Fujikura T^{1, 2)}, Takeshita T³⁾, Homma H⁴⁾, Adachi K⁵⁾, Miyake K⁶⁾, Kudo M⁷⁾, Takizawa T⁸⁾, Nagayama H⁹⁾, Hirakawa K¹⁰⁾ (¹⁾ Academic Quality and Development Office, Nippon Medical School, ²⁾ Department of Head & Neck and Sensory Organ Science, Graduate School of Medicine, Nippon Medical School, ³⁾ Division of Reproductive Medicine, Perinatology and Gynecologic Oncology, Graduate School of Medicine, Nippon Medical School, ⁴⁾ Division of Cardiology, Hepatology, Geriatrics, and Integrated Medicine, Department of Internal Medicine, Graduate School of Medicine, Nippon Medical School, ⁵⁾ Department of Neurosurgery, Graduate School of Medicine, Nippon Medical School, ⁶⁾ Department of Biochemistry and Molecular Biology, and Division of Gene Therapy Research Center for Advanced Medical Technology, Nippon Medical School, ⁷⁾ Department of Pathology and Integrative Oncological Pathology, Nippon Medical School, ⁸⁾ Department of Molecular Medicine and Anatomy, Nippon Medical School, ⁹⁾ Department of Neurological, Nephrological and Rheumatological Sciences, Graduate School of Medicine, Nippon Medical School, ¹⁰⁾ Department of Legal Medicine, Nippon Medical School) : Team-based Learning Using an Audience Response System : A Possible New Strategy for Interactive Medical Education. *J Nippon Med Sch* 2013 ; 80 (1) : 63-69.

(2) 総説 :

- 1) 瀧澤俊広¹⁾, 鈴木光明²⁾ (¹⁾ 日本医科大学大学院 分子解剖学, ²⁾ 自治医科大学医学部 産科婦人科学講座) : マイクロ RNA の周産期領域への展開. *今日の移植* 2012 ; 25 (3) : 214-222.
- 2) Ackerman Iv EW¹⁾, Carter MA²⁾, De Mestre MA³⁾, Golos GT⁴⁾, Jeschke U⁵⁾, Kusakabe K⁶⁾, Laurent CL⁷⁾, Parast MM⁸⁾, Roberts MR⁹⁾, Robinson MJ, Rutherford J, Soma H, Takizawa T¹⁰⁾, Ui-Tei K, Lash EG, et al. (¹⁾ Laboratory of Perinatal Research, Department of Obstetrics and Gynaecology, The Ohio State University, Columbus, OH, USA, ²⁾ Institute of Molecular Medicine, University of Southern Denmark, Odense, Denmark, ³⁾ Department of Veterinary Basic Sciences, Royal Veterinary College, London, UK, ⁴⁾ Department of Comparative Biosciences, University of Wisconsin-Madison, Madison, WI, USA, ⁵⁾ Department of Obstetrics and Gynaecology, Ludwig Maximilians University of Munich, Munich, Germany, ⁶⁾ Laboratory of Veterinary

Anatomy, Faculty of Agriculture, Yamaguchi University, Yamaguchi, Japan, ⁷⁾ Department of Reproductive Medicine, University of California San Diego, La Jolla, CA, USA, ⁸⁾ Department of Pathology, University of California San Diego, La Jolla, CA, USA, ⁹⁾ Division of Animal Sciences, University of Missouri, Columbia, MO, USA, ¹⁰⁾ and others) : IFPA meeting 2012 workshop report I : Comparative placentation and animal models, advanced techniques in placental histopathology, human pluripotent stem cells as a model for trophoblast differentiation. *Placenta* 2013 ; 34 (Supplement) : S3-S5.

- 3) Al-Khan A¹⁾, Bulmer NJ²⁾, Chantraine F³⁾, Chen PC⁴⁾, Chen Q⁵⁾, Collins S⁶⁾, Cotechini T⁷⁾, Fitzgerald SJ⁸⁾, He M⁹⁾, Takizawa T¹⁰⁾, Holland O, Hung HT, Illsley PN, Ino K, Iwaki T, et al. (¹⁾ Division of Maternal-Fetal Medicine and Surgery, Department of Obstetrics and Gynaecology, Hackensack University Medical Centre, Hackensack, NJ, USA, ²⁾ Institute of Cellular Medicine, Newcastle University, Newcastle upon Tyne, UK, ³⁾ Obstetrics and Gynaecology, CHR Citadell, University of Liege, Liege, Belgium, ⁴⁾ Division of High Risk Pregnancy, Mackay Memorial Hospital, Taipei, Taiwan, ⁵⁾ Department of Obstetrics and Gynaecology, Wuxi Maternity and Child Health Hospital, Nanjing Medical University, China, ⁶⁾ The Nuffield Department of Obstetrics and Gynaecology, University of Oxford, Oxford, UK, ⁷⁾ Department of Biomedical and Molecular Sciences, Queens University, Kingston, Ontario, Canada, ⁸⁾ Placenta-Labor, Obstetrics Department, University Hospital Jena, Jena, Germany, ⁹⁾ Department of Pathology and Laboratory Medicine, Women & Infants Hospital/Warren Alpert Medical School of Brown University, Providence, RI, USA, ¹⁰⁾ and others) : IFPA Meeting 2012 Workshop Report III : Trophoblast deportation, gestational trophoblastic disease, placental insufficiency and fetal growth restriction, trophoblast over-invasion and accreta-related pathologies, placental thrombosis and fibrinolysis. *Placenta* 2013 ; 34 (Supplement) : S11-S16.

著 書

- 1) Takizawa T¹⁾, Robinson MJ²⁾ (¹⁾ Department of Molecular Medicine and Anatomy, Nippon Medical School, Tokyo, Japan, ²⁾ Department of Physiology and Cell Biology, Ohio State University, Columbus, OH, USA) : [共著] Chapter3 Correlative fluorescence and transmission electron microscopy in tissues. Volume 111. Correlative Light and Electron Microscopy (Edited by : Müller-Reichert T and Verkade P) : *Methods in Cell Biology*, 2012 ; pp37-57, Academic Press.

学会発表

(1) 特別講演 :

- 1) 瀧澤俊広¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学大学院 分子解剖学) : microRNA (マイクロ RNA) の病態における役割解明と臨床応用.(特別講義/発表日 2012年5月12日(日)). 第27回日本 Shock 学会総会(2012年(平成24年)5月11日(金)~12日(日))(東京(シェーンバッハ・サボー/東京)), 2012. 5.
- 2) 瀧澤俊広¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学大学院 分子解剖学) : マイクロ RNA の分子病態における役割解明をめざして.(発表日 2012年6月6日(水)). 日本医科大学大学院(公開)特別講義(2012年(平成24年)6月6日(水))(東京(日本医科大学/東京)), 2012. 6.

(2) 教育講演 :

- 1) 瀧澤俊広¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学大学院 分子解剖学) : ヒト胎盤における IgG トランスサイトーシス : 母体 IgG の胎児への輸送.(発表日 2013年2月10日(日)). 第7回妊娠と薬情報センター業務研修会(2013年(平成25年)2月9日(土)~11日(月))(世田谷(国立成育医療研究センター/東京)), 2013. 2.

(3) シンポジウム :

- 1) 瀧澤俊広¹⁾, 大口昭英²⁾, 松原茂樹²⁾, 竹下俊行³⁾ (¹⁾ 日本医科大学大学院 分子解剖学, ²⁾ 自治医科大学 産婦人

- 科学, ³⁾ 日本医科大学大学院 女性生殖発達病態学) : マイクロ RNA 解析から見出された妊娠高血圧腎症の新規予知因子. (シンポジウム I / 発表日 2012 年 6 月 29 日 (金)). 第 22 回日本産婦人科・新生児血液学会 (2012 年 (平成 24 年) 6 月 29 日 (金)~30 日 (日)) (津 (アスト津/三重)), 2012. 6.
- 2) 菊池邦生¹⁾, アリモハメド¹⁾, 岩城 隼¹⁾, 吉武 洋¹⁾, 瀧澤敬美¹⁾, 石川 源²⁾, 松原茂樹³⁾, 竹下俊行²⁾, 瀧澤俊広¹⁾ (1) 日本医科大学大学院 分子解剖学, ²⁾ 日本医科大学大学院 女性生殖発達病態学, ³⁾ 自治医科大学 産婦人科学講座) : microRNA の網羅的解析手法と生殖免疫学分野での応用.(シンポジウム 3 生殖医学研究に役立つニュー・コンセプト, ニュー・テクノロジー S3-02 / 発表日 2012 年 12 月 9 日 (日)). 第 27 回日本生殖免疫学会総会・学術集会 2012 年 (平成 24 年) 12 月 8 日 (土)~9 日 (日) (大阪 (大阪医科大学/大阪府)), 2012. 12.
- 3) 瀧澤俊広¹⁾, 右田 真²⁾, 竹下俊行³⁾ (1) 日本医科大学大学院 分子解剖学, ²⁾ 日本医科大学大学院 小児・思春期医学, ³⁾ 日本医科大学大学院 女性生殖発達病態学) : 胎盤特異的 microRNA と妊娠高血圧腎症の予知.(セッション 2 6 / 発表日 2013 年 1 月 19 日 (土)). 私立大学戦略的研究基盤形成支援事業公開シンポジウム診断・治療に新たな展開をもたらす低分子 RNA-分子病態における役割解明と新治療戦略への展開-(2013 年 (平成 25 年) 1 月 19 日 (土)) (東京 (日本医科大学 橘桜ホール/東京)), 2013. 1.
- 4) 吉武 洋¹⁾, 荒木慶彦²⁾, 瀧澤俊広¹⁾ (1) 日本医科大学大学院 分子解剖学, ²⁾ 順天堂大学大学院 環境医学研究所) : 抗精子自己抗体 Ts4 の受精における免疫学的作用及び対応抗原の分子性状解析.(S7 性と免疫との関連を探る S7-4 / 発表日 2013 年 3 月 28 日 (木)). 第 118 回日本解剖学会総会・全国学術集会 (2013 年 (平成 25 年) 3 月 28 日 (木)~30 日 (土)) (高松 (サンポートホール高松・かがわ国際会議場/香川)), 2013. 3.
- (4) ワークショップ :
- 1) Takizawa T¹⁾, Ohkuchi A²⁾, Ali M¹⁾, Luo S³⁾, Takizawa T¹⁾, Migita M⁴⁾, Ishikawa G⁵⁾, Matsubara S²⁾, Takeshita T⁵⁾ (1) Department of Molecular Medicine and Anatomy, Nippon Medical School, Tokyo, Japan, ²⁾ Department of Obstetrics and Gynecology, Jichi Medical University, Tochigi, Japan, ³⁾ Department of Cardiology, First Clinical College of Harbin Medical University, Harbin, China, ⁴⁾ Department of Pediatrics, Nippon Medical School, Tokyo, Japan, ⁵⁾ Department of Obstetrics and Gynecology, Nippon Medical School, Tokyo, Japan) : Hydroxysteroid (17-Beta) Dehydrogenase 1 (HSD17B1) is dysregulated by miR-210 and miR-518c in the human placenta complicated with preeclampsia : plasma levels of HSD17B1 as a novel marker for predicting late-onset preeclampsia.(WORKSHOP3 Trophoblast deportation/Placental-maternal exchange (pre-natal genetic diagnosis, pre-eclampsia or pregnancy - related diseases) / 発表日 2012 年 9 月 19 日 (水)). IFPA 2012 Hiroshima Meeting / 第 18 回国際胎盤学会 (2012 年 (平成 24 年) 9 月 18 日 (火)~21 日 (金)) (広島 (広島国際会議場/広島)), 2012. 9.
- 2) Kikuchi K¹⁾, Qu G^{1, 2)}, Takahashi H^{1, 3)}, Kuwata T³⁾, Usui R³⁾, Ohkuchi A³⁾, Luo S³⁾, Matsubara S³⁾, Suzuki M³⁾, Takizawa T¹⁾ (1) Department of Molecular Anatomy and Medicine, Nippon Medical School, Tokyo, Japan, ²⁾ Department of Cardiology, First Clinical College of Harbin Medical University, Harbin, China, ³⁾ Department of Obstetrics and Gynecology, Jichi Medical University, Tochigi, Japan) : Methylation profile of C19MC-miRNA CpG island in trophoblast cell lines.(WORKSHOP 7 Epigenetics and imprinting in the placenta Presentation 3 / 発表日 2012 年 9 月 20 日 (木)). IFPA 2012 Hiroshima Meeting / 第 18 回国際胎盤学会 (2012 年 (平成 24 年) 9 月 18 日 (火)~21 日 (金)) (広島 (広島国際会議場/広島)), 2012. 9.
- (5) 一般講演 :
- 1) 神戸沙織^{1, 3)}, 石田洋一^{2, 3)}, 菊池邦生³⁾, 大口昭英²⁾, 松原茂樹²⁾, 鈴木光明²⁾, 竹下俊行¹⁾, 瀧澤俊広³⁾ (1) 日本医科大学大学院 女性生殖発達病態学, ²⁾ 自治医科大学 産婦人科学講座, ³⁾ 日本医科大学大学院 分子解剖学) : 胎盤由来のマイクロ RNA は妊娠期間中エクソソームを介して母体血球細胞に取り込まれている.(高得点演題 3 周産期医学 1 K1-3-7 / 発表日 2012 年 4 月 13 日 (金)). 第 64 回日本産科婦人科学会学術講演会 (2012 年 (平成

- 24年) 4月13日(金)~15日(日))(神戸(神戸ポートピアホテル・神戸国際展示場/兵庫)), 2012. 4.
- 2) 大口昭英^{1,2)}, 平嶋周子²⁾, 高橋佳代²⁾, 大丸貴子²⁾, 有賀治子²⁾, 鈴木寛正²⁾, 竹下俊行³⁾, 松原茂樹²⁾, 瀧澤俊広⁴⁾, 鈴木光明²⁾ (1) 芳賀赤十字病院 産婦人科, (2) 自治医科大学 産婦人科学講座, (3) 日本医科大学大学院 女性生殖発達病態学, (4) 日本医科大学大学院 分子解剖学): microRNA (miR 210 及び miR 518) の標的遺伝子産物 HSD17B1 蛋白質の血漿レベル及び母体因子を用いた妊娠高血圧腎症の発症予知.(Group40 PIH1 P1-40-2 / 発表日 2012年4月13日(金)). 第64回日本産科婦人科学会学術講演会(2012年(平成24年)4月13日(金)~15日(日))(神戸(神戸ポートピアホテル・神戸国際展示場/兵庫)), 2012. 4.
- 3) 高橋宏典^{1,2)}, 菊池邦生²⁾, 竹下俊行³⁾, 松原茂樹¹⁾, 鈴木光明¹⁾, 瀧澤俊広²⁾ (1) 自治医科大学 産婦人科学講座, (2) 日本医科大学大学院 分子解剖学, (3) 日本医科大学大学院 女性生殖発達病態学): 胎盤栄養膜における接着因子 CD44 の浸潤能と発現制御機構の解析.(Group153 胎盤2 P3-41-2 / 発表日 2012年4月15日(日)). 第64回日本産科婦人科学会学術講演会(2012年(平成24年)4月13日(金)~15日(日))(神戸(神戸ポートピアホテル・神戸国際展示場/兵庫)), 2012. 4.
- 4) 篠塚恵理子^{1,2)}, 宮下正夫¹⁾, 水口義昭¹⁾, 赤城一郎¹⁾, 菊池邦生²⁾, 萩原信敏¹⁾, 松谷毅¹⁾, 牧野浩司¹⁾, 野村務¹⁾, 瀧澤俊広²⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学大学院 消化器外科学, (2) 日本医科大学大学院 分子解剖学): 食道扁平上皮癌における miRNA 発現と臨床病理学的意義の検討.(食道基礎1 PS-065-2 / 発表日 2012年4月13日(金)). 第112回日本外科学会定期学術集会(2012年(平成24年)4月12日(木)~14日(土))(幕張(幕張メッセ/千葉)), 2012. 4.
- 5) 軸菌智雄^{1,2)}, 川本雅司³⁾, 赤須東樹⁴⁾, 廣川満良⁵⁾, 菊池邦生¹⁾, 宮内昭⁵⁾, 土屋眞一⁶⁾, 瀧澤俊広¹⁾, 清水一雄¹⁾ (1) 日本医科大学大学院 分子解剖学, (2) 日本医科大学大学院 内分泌外科学, (3) 帝京大学医学部付属溝口病院 臨床病理科, (4) 日本医科大学付属武蔵小杉病院 内分泌外科, (5) 神甲会 隈病院, (6) 日本医科大学付属病院 病理部): 甲状腺微小浸潤型濾胞癌の術後遠隔転移を予測するためのバイオマーカーの開発: miR-221/222 は有用な予測因子である.(甲状腺診断&微小癌 O-40 / 発表日 2012年6月9日(土)). 第24回日本内分泌外科学会総会(2012年(平成24年)6月8日(金)~9日(土))(名古屋(名古屋国際会議場/愛知)), 2012. 6.
- 6) Takizawa T¹⁾, Ishikawa T¹⁾, Takizawa T¹⁾, Mishima T¹⁾, Ui-Tei K³⁾, Takeshita T²⁾, Matsubara S¹⁾ (1) Department of Molecular Medicine and Anatomy, Nippon Medical School, Tokyo, Japan, (2) Department of Obstetrics and Gynecology, Nippon Medical School, Tokyo, Japan, (3) Department of Biophysics and Biochemistry, Graduate School of Science, University of Tokyo, Tokyo, Japan, (4) Department of Obstetrics and Gynecology, Jichi Medical University, Tochigi, Japan): Fc Gamma Receptor IIb (FCGR2B) Plays An Important Role In IgG Trafficking Of Human Placental Endothelial Cells.(Fluorescence microscopy P2-3 / 発表日 2012年8月28日(火)). 第14回国際組織細胞化学会議 (ICHC2012)/第53回日本組織細胞化学会総会(2012年(平成24年)8月26日(日)~29日(水))(京都(国立京都国際会館/京都)), 2012. 8.
- 7) Takizawa T¹⁾, Ohkuchi A²⁾, Ali M¹⁾, Luo S³⁾, Takizawa T¹⁾, Migita M⁴⁾, Ishikawa G⁵⁾, Matsubara S²⁾, Takeshita T⁵⁾ (1) Department of Molecular Medicine and Anatomy, Nippon Medical School, Tokyo, Japan, (2) Department of Obstetrics and Gynecology, Jichi Medical University, Tochigi, Japan, (3) Department of Cardiology, First Clinical College of Harbin Medical University, Harbin, China, (4) Department of Pediatrics, Nippon Medical School, Tokyo, Japan, (5) Department of Obstetrics and Gynecology, Nippon Medical School, Tokyo, Japan): Hydroxysteroid (17-Beta) Dehydrogenase 1 (HSD17B1) is dysregulated by miR-210 and miR-518c in the human placenta complicated with preeclampsia: plasma levels of HSD17B1 as a novel marker for predicting late-onset preeclampsia.(Poster Session 2 Preeclampsia P2-006 / 発表日 2012年9月19日(水)). IFPA 2012 Hiroshima Meeting / 第18回国際胎盤学会(2012年(平成24年)9月18日(火)~21日(金))(広島(広島国際会議場/広島)), 2012. 9.
- 8) Kikuchi K¹⁾, Qu G^{1,2)}, Takahashi H^{1,3)}, Kuwata T³⁾, Usui R³⁾, Ohkuchi A³⁾, Luo S³⁾, Matsubara S³⁾,

- Suzuki M³, Takizawa T¹ (1) Department of Molecular Anatomy and Medicine, Nippon Medical School, Tokyo, Japan, (2) Department of Cardiology, First Clinical College of Harbin Medical University, Harbin, China, (3) Department of Obstetrics and Gynecology, Jichi Medical University, Tochigi, Japan) : Methylation profile of C19MC-miRNA CpG island in trophoblast cell lines. (Poster Session 1 Epigenetics P1-123 / 発表日 2012 年 9 月 20 日 (木)). IFPA 2012 Hiroshima Meeting / 第 18 回国際胎盤学会 (2012 年 (平成 24 年) 9 月 18 日 (火) ~ 21 日 (金)) (広島 (広島国際会議場/広島)), 2012. 9.
- 9) Ali M¹, Takizawa T¹, Kikuchi K¹, Saito S², Takizawa T¹ (1) Department of Molecular Medicine & Anatomy, Nippon Medical School, Tokyo, Japan, (2) Department of Obstetrics and Gynecology, Faculty of Medicine, University of Toyama, Toyama, Japan) : BeWo-cell-derived miR-517a modulates the expression of PRKG1 in Jurkat cells via Exosomes. (Poster Session 1 Gene expression/regulation P1-114 / 発表日 2012 年 9 月 18 日 (火)). IFPA 2012 Hiroshima Meeting / 第 18 回国際胎盤学会 (2012 年 (平成 24 年) 9 月 18 日 (火) ~ 21 日 (金)) (広島 (広島国際会議場/広島)), 2012. 9.
- 10) Takahashi H^{1,2}, Kikuchi K², Kuwata T¹, Usui R¹, Ohkuchi A¹, Matsumoto H³, Sato Y³, Fujiwara H³, Ui-Tei K⁴, Matsubara S¹, Suzuki M¹, Takazawa T² (1) Department of Obstetrics and Gynecology, Jichi Medical University, Tochigi, Japan, (2) Department of Molecular Anatomy and Medicine, Nippon Medical School, Tokyo, Japan, (3) Department of Gynecology and Obstetrics, Kyoto University Graduate School of Medicine, Kyoto, Japan, (4) Biophysics and Biochemistry, Graduate School of Science, University of Tokyo, Tokyo, Japan) : CD44 accelerates trophoblastic invasion : in vitro invasion analysis using HTR8/SVneo cells. (Poster Session 1 Invasion P1-071 / 発表日 2012 年 9 月 18 日 (火)). IFPA 2012 Hiroshima Meeting / 第 18 回国際胎盤学会 (2012 年 (平成 24 年) 9 月 18 日 (火) ~ 21 日 (金)) (広島 (広島国際会議場/広島)), 2012. 9.
- 11) Kambe S^{1,3}, Ishida Y², Kikuchi K³, Yoshitake H³, Okuchi A², Matsubara S², Suzuki M², Saito S⁴, Takeshita T¹, Takizawa T³ (1) Department of Obstetrics and Gynecology, Nippon Medical School, Tokyo, Japan, (2) Department of Obstetrics and Gynecology, Jichi Medical University, Tochigi, Japan, (3) Department of Molecular Medicine and Anatomy, Nippon Medical School, Tokyo, Japan, (4) Department of Obstetrics and Gynecology, Faculty of Medicine, University of Toyama, Toyama, Japan) : Circulating placenta-specific miRNAs are delivered to maternal immune cells during pregnancy. (Poster Session 1 Gene expression/regulation P1-116 / 発表日 2012 年 9 月 18 日 (火)). IFPA 2012 Hiroshima Meeting / 第 18 回国際胎盤学会 (2012 年 (平成 24 年) 9 月 18 日 (火) ~ 21 日 (金)) (広島 (広島国際会議場/広島)), 2012. 9.
- 12) 吉武 洋¹, 荒木慶彦², 瀧澤俊広¹ (1) 日本医科大学大学院 分子解剖学, (2) 順天堂大学大学院 環境医学研究所) : 生殖細胞特異マーカー分子 TEX101 の発現と細胞生物学的解析. (Session1 01 / 発表日 2012 年 10 月 13 日 (土)). 日本解剖学会関東支部 第 100 回学術集会 (2012 年 (平成 24 年) 10 月 13 日 (土)) (東京 (東邦大学医学部第 3 講義室/東京)), 2012. 10.
- 13) 高橋宏典^{1,2}, 菊池邦生², 大口昭英¹, 薄井里英¹, 桑田知之¹, 松本久宣³, 佐藤幸保³, 藤原 浩³, 松原茂樹¹, 鈴木光明¹, 瀧澤俊広² (1) 自治医科大学 産婦人科学講座, (2) 日本医科大学大学院 分子解剖学, (3) 京都大学 婦人科産科) : 絨毛外栄養膜における接着分子 CD44 : 浸潤能の検討. (セッション 03 着床・脱落膜・子宮内膜 15 / 発表日 2012 年 12 月 8 日 (土)). 第 27 回日本生殖免疫学会総会・学術集会 2012 年 (平成 24 年) 12 月 8 日 (土) ~ 9 日 (日) (大阪 (大阪医科大学/大阪府)), 2012. 12.
- 14) 瀧澤俊広¹, 岩城 隼¹, 吉武 洋¹, 石川朋子², 瀧澤敬美¹, 三嶋拓也¹, 程久美子³, 竹下俊行⁴, 松原茂樹⁵ (1) 日本医科大学大学院 分子解剖学, (2) お茶の水女子大学 生活環境教育研究センター, (3) 東京大学大学院 理学系研究科 生物化学専攻 生物情報科学, (4) 日本医科大学大学院 女性生殖発達病態学, (5) 自治医科大学 産婦人科学講座) : 胎盤血管内皮細胞において RAB3 は IgG 輸送体である Iib 型 Fc 受容体を含む小胞の輸送能を調節し

- ている。(セッション 04 妊娠・分娩・流産 18 / 発表日 2012 年 12 月 9 日 (日)). 第 27 回日本生殖免疫学会総会・学術集会 2012 年 (平成 24 年) 12 月 8 日 (土)~9 日 (日) (大阪 (大阪医科大学/大阪府)), 2012. 12.
- 15) 菊池邦生¹⁾, 岩城 隼¹⁾, 水口義昭²⁾, 川東 豊²⁾, 吉田 寛²⁾, 内田英二²⁾, 瀧澤俊広¹⁾ (1) 日本医科大学大学院 分子解剖学, 2) 日本医科大学大学院 消化器外科学): MicroRNA による GRB2 の発現制御を介した肝内胆管癌の移動能制御機構の解析.(細胞・組織学 1P-G068 / 発表日 2013 年 3 月 28 日 (木)). 第 118 回日本解剖学会総会・全国学術集会 (2013 年 (平成 25 年) 3 月 28 日 (木)~30 日 (土)) (高松 (サンポートホール高松・かがわ国際会議場/香川)), 2013. 3.
- 16) 瀧澤俊広¹⁾, 吉武 洋¹⁾, 菊池邦生¹⁾, 瀧澤敬美¹⁾, 岩城 隼¹⁾, 軸園智雄¹⁾, 倉品隆平²⁾, 竹下俊行²⁾ (1) 日本医科大学大学院 分子解剖学, 2) 日本医科大学大学院 女性生殖発達病態学): Laser microdissection 法を用いたホルマリン固定パラフィン包埋標本の microRNA 定量的局在解析.(研究技術 3P-H148 / 発表日 2013 年 3 月 30 日 (土)). 第 118 回日本解剖学会総会・全国学術集会 (2013 年 (平成 25 年) 3 月 28 日 (木)~30 日 (土)) (高松 (サンポートホール高松・かがわ国際会議場/香川)), 2013. 3.
- 17) 瀧澤敬美¹⁾, 吉武 洋¹⁾, 菊池邦生¹⁾, 岩城 隼¹⁾, 竹下俊行²⁾, 瀧澤俊広¹⁾ (1) 日本医科大学大学院 分子解剖学, 2) 日本医科大学 SGL 委員会): 新しい医学教育技法・TBL の解剖学教育への応用: ダブル教育支援システムとバーチャルスライドを用いて.(医学教育 3P-H141 / 発表日 2013 年 3 月 30 日 (土)). 第 118 回日本解剖学会総会・全国学術集会 (2013 年 (平成 25 年) 3 月 28 日 (木)~30 日 (土)) (高松 (サンポートホール高松・かがわ国際会議場/香川)), 2013. 3.

2. 解剖学（生体構造学）

研究概要

思春期「puberty」は子供から大人へのゲートであり、これを通り抜けることによって、身体的にも、精神的にも成熟し、大人としての社会活動、行動に適応する身体の仕組みが構築されると定義される。この思春期が誘発される詳細な神経機能メカニズムであるが、視床下部-下垂体-性腺系への強い抑制はネガティブフィードバック機構だけでは説明がつかず、中枢性の強い抑制性制御が関わっていると考えられていた。近年、オーファン受容体 GPR54 のリガンドとして、新規生理活性物質 kisspeptin が同定され、kisspeptin による GnRH ニューロンの活性誘導に注目が集まりつつある。「脳内の神経ネットワーク」による思春期発動機序の解明については、未だ多くの課題を残している。我々はこれまでに「脳とホルモン」、「脳における神経回路形成とホルモン」といった課題を中心に、ステロイドホルモンとその受容体によって調節される神経細胞の機能と形態の変動を多角的に調べてきた。特に性ステロイドホルモンは、脳における性機能調節系の制御に深く関わっており、性機能発動の大きなターニングポイントである思春期が生じるメカニズムにはステロイドホルモンの役割が大きな意味を持つ。我々はこれまでの研究アプローチをより具体的な生理作用解明に適用させ、思春期発動と関わる「性」、「摂食」、「ストレス」といった神経制御機構の3次元神経ネットワークを明らかにし、ネットワークの相互作用、ネットワークの乱れと思春期前後の精神的、身体的な不安定の発生の関連を探求することを目指す研究を行っている。また GFP などの蛍光遺伝子の発現を利用して無麻酔下の living animal の神経活動を可視化する試みを進めており、行動と神経活動を一本化して観察するシステムの構築に関する研究を進行している。

研究業績

論文

〔追加分〕

追加分原著：

- 1) Yamazaki C, Nagano M, Sujino M, Kubo A, Terashima T, Ozawa H : Application of layer-specific markers in the evaluation of abnormal cytoarchitecture in the olfactory bulb of prokineticin receptor 2 deficient mice. *Acta Med Kinki Univ. Acta Med Kinki Univ* 2012 ; 37 (1) : 35-43.

(1) 原著：

- 1) Sawai N, Iijima N, Takumi K, Matsuzaki T, Ozawa H : Immunofluorescent histochemical and ultrastructural studies on the innervation of kisspeptin/ neurokinin B neurons to tuberoinfundibular dopaminergic neurons in the arcuate nucleus. *Neurosci Res* 2012 ; 74 (1) : 10-16.
- 2) Ozawa H, Sawai N, Iwata K, Takumi K, Iijima N : Regulation of tubero-infundibular dopamine (TIDA) neurons by kisspeptin neurons. *J Nippon Med Sch* 2012 ; 79 (3) : 168-169.
- 3) Takumi K, Iijima N, Iwata K, Higo S, Ozawa H : The effects of gonadal steroid manipulation on the expression of Kiss1 mRNA in rat arcuate nucleus during postnatal development. *J Physiol Sci* 2012 ; 62 (6) : 453-460.
- 4) Kadota K, Iijima N, Ohe-Hayashi Y, Takui K, Higo S, Sakamoto A, Ozawa H : Time-dependent repression of mPer2 expression in the suprachiasmatic nucleus by inhalation anesthesia with sevoflurane. *Neurosci Lett* 2012 ; 528 (2) : 153-158.
- 5) Takumi K, Iijima N, Higo S, Ozawa H : Immunohistochemical analysis of the colocalization of corticotropin-

releasing hormone receptor and glucocorticoid receptor in kisspeptin neurons in the hypothalamus of female rats. *Neurosci Lett* 2012 ; 531 (1) : 40-45.

学会発表

(1) シンポジウム :

- 1) Ozawa H : Feedback effects of gonadal steroids on kisspeptin signaling system in the rat brain. *International Congress of Histochemistry and Cytochemistry (14th) (Kyoto)*, 2012. 8.
- 2) 小澤一史 : 超高压電子顕微鏡による神経細胞, 神経膠細胞観察への応用. *日本顕微鏡学会学術講演会 (第 68 回) (つくば)*, 2012. 5.

(2) 一般講演 :

- 1) Iwata K : Immunohistochemical analysis of kisspeptin inputs to hypothalamic tuberoinfundibular dopaminergic neurons from neonate to puberty in female rats. *International Congress of Histochemistry and Cytochemistry (14th) (Kyoto)*, 2012. 8.
- 2) Iijima N : Kisspeptin regulates tuberoinfundibular dopamine neurons in the hypothalamus : 14th *International Congress of Histochemistry and Cytochemistry 2012.8(Kyoto)*. *International Congress of Histochemistry and Cytochemistry (14th) (Kyoto)*, 2012. 8.
- 3) Takumi K : Immunohistochemical study of corticotropin-releasing factor receptor and glucocorticoid receptor in kisspeptin neurons in rat hypothalamus. *International Congress of Histochemistry and Cytochemistry (14th) (Kyoto)*, 2012. 8.
- 4) Mori K : The general anesthetic sevoflurane represses the expression of clock gene mPer2 through histone deacetylation in the suprachiasmatic nucleus of mice. *International Congress of Histochemistry and Cytochemistry (14th) (Kyoto)*, 2012. 8.
- 5) 小澤一史, 託見 健, 岩田衣世, 飯島典生 : 新規生理活性物質キスペプチンによる生殖機能制御神経系の制御システムについて. *日本顕微鏡学会学術講演会 (第 68 回) (つくば)*, 2012. 5.
- 6) 石井寛高 : ラット GnRH ニューロン及び GT1-7 細胞株に発現する GABA 受容体の発現解析. *日本神経内分泌学会学術集会 (第 39 回) (北九州)*, 2012. 9.
- 7) 小澤一史 : モーニングテクニカルセミナー「免疫染色 (免疫組織学) の基本原理と基礎的技術」. *日本神経内分泌学会学術集会 (第 39 回) (北九州)*, 2012. 9.
- 8) 飯島典生, 松本恵介, 小澤一史 : 光ファイバーを用いた脳深部での遺伝子発現のリアルタイムモニタリング : AVP-eGFP ラットを用いた試み. *日本神経内分泌学会学術集会 (第 39 回) (北九州)*, 2012. 9.
- 9) 森 啓介, 松尾いづみ, 安齊めぐみ, 肥後心平, 飯島典生, 坂本篤裕, 小澤一史 : 吸入全身麻酔薬セボフルランは, マウスの視交叉上核においてヒストン脱アセチル化反応を介して時計遺伝子 mPer2 の発現を抑制する. *日本神経内分泌学会学術集会 (第 39 回) (北九州)*, 2012. 9.
- 10) 飯島典生, 松本恵介, 上田陽一, 小澤一史 : GFP 蛍光を用いた脳深部での遺伝子発現モニタリングシステムの開発 : 非拘束・無麻酔の AVP-eGFP TG ラットを用いた試み. *日本解剖学会総会・全国学術集会 (第 118 回) (高松)*, 2013. 3.
- 11) 國村有弓, 岩田衣世, 飯島典生, 小林牧人, 小澤一史 : ステロイドホルモン動態の変動による成熟ラット背側縫線核セロトニン作動性ニューロンの発現変化に関する組織化学的研究. *日本解剖学会総会・全国学術集会 (第 118 回) (高松)*, 2013. 3.
- 12) 岩田衣世, 池原大烈, 岩立拓子, 須賀実祐里, 小林杏奈, 白井清香, 相川優子, 松本恵介, 飯島典生, 松崎利行, 小澤一史 : 視床下部背側弓状核ドーパミン作動性ニューロンへのキスペプチン線維の入力の生後発達に関する研究. *日本解剖学会総会・全国学術集会 (第 118 回) (高松)*, 2013. 3.

- 13) 託見 健, 飯島典生, 肥後心平, 小澤一史: 視床下部 kisspeptin ニューロンにおけるコルチコトロピン放出ホルモン受容体とグルココルチコイド受容体の発現. 日本解剖学会総会・全国学術集会 (第 118 回) (高松), 2013. 3.
- 14) 楊 春英, 託見 健, 小澤一史: ラット正中隆起におけるアストロサイトの生後発達変化. 日本解剖学会総会・全国学術集会 (第 118 回) (高松), 2013. 3.
- 15) 肥後心平, 相川優子, 小澤一史: ラット泌乳期における kisspeptin 遺伝子の発現動態制御に関する分子組織化学的解析. 日本解剖学会総会・全国学術集会 (第 118 回) (高松), 2013. 3.
- 16) 澤井信彦, 飯島典生, 小澤一史, 松崎利行: ラット視床下部における kisspeptin/neurokinin B によるプロラクチン分泌制御系の探索. 日本解剖学会総会・全国学術集会 (第 118 回) (高松), 2013. 3.
- 17) 森 啓介, 相川優子, 肥後心平, 松尾いづみ, 飯島典生, 坂本篤裕, 小澤一史: 全身麻酔薬セボフルランによるマウス視交叉上核の時計遺伝子 mPer2 発現抑制に関するエピジェネティック解析. 日本解剖学会総会・全国学術集会 (第 118 回) (高松), 2013. 3.
- 18) 池原大烈, 岩田衣世, 飯島典生, 小澤一史: 老齢ラットにおける視床下部背側弓状核ドーパミン作動性ニューロンへのキスバプチンニューロン投射に関する組織細胞化学的観察. 日本解剖学会総会・全国学術集会 (第 118 回) (高松), 2013. 3.
- 19) Iijima N, Sawai N, Iwata K, Matsumoto K, Ozawa H: Regulation of the Tuberoinfundibular Dopamine Neuron by Kisspeptin in the Rat Hypothalamus. World Conference of Kisspeptin Signaling in the Brain (2nd) (Tokyo), 2012. 11.
- 20) Sawai N, Iijima N, Ozawa H, Matsuzaki T: Direct Projection and Effect of Kisspeptin Neuron to the Tuberoinfundibular Dopaminergic Neuron in the Arcuate Nucleus of Rat Brain. World Conference of Kisspeptin Signaling in the Brain (2nd) (Tokyo), 2012. 11.
- 21) Takumi K, Iijima N, Ozawa H: Corticotropin-Releasing Factor Receptor and Glucocorticoid Receptor Immunoreactivities in Kisspeptin Neurons in Female Rat Hypothalamus. World Conference of Kisspeptin Signaling in the Brain (2nd) (Tokyo), 2012. 11.
- 22) Iwata K, Ikehara M, Iwatate H, Suga M, Kobayashi A, Shirai S, Aikawa S, Matsumoto K, Iijima N, Ozawa H: Kisspeptin Inputs to Hypothalamic Tuberoinfundibular Dopaminergic Neurons from Neonate to Puberty in Female Rats by Immunohistochemical Analysis. World Conference of Kisspeptin Signaling in the Brain (2nd) (Tokyo), 2012. 11.
- 23) Ozawa H, Takumi K, Higo S, Iwata K, Iijima N: The Interaction of the Reproductive Regulation, Energy Metabolic Regulation, and Stress Response through Kisspeptin Signaling System. World Conference of Kisspeptin Signaling in the Brain (2nd) (Tokyo), 2012. 11.
- 24) Ikehara M, Iwata K, Iijima N, Ozawa H: IMMUNOHISTOCHEMICAL ANALYSIS OF INTERACTIONS BETWEEN KISSPEPTIN NEURONS AND HYPOTHALAMIC TUBEROINFUNDIBULAR DOPAMINERGIC NEURONS IN OLD FEMALE RATS. International Meeting STEROIDS AND NERVOUS SYSTEM (7th) (TORINO), 2013. 2.
- 25) Iwata K, Kunimura Y, Matsumoto K, Ozawa H: EFFECT OF CHRONIC EXPOSURE TO ANDROGEN ON KISSPEPTIN EXPRESSION AND LUTEINIZING HORMONE RELEASE IN FEMALE RATS. International Meeting STEROIDS AND NERVOUS SYSTEM (7th) (TORINO), 2013. 2.

3. 生理学（システム生理学）

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) Seko Y^{1, 2)}, Azuma N³⁾, Kaneda M⁴⁾, Nakatani K⁵⁾, Miyagawa Y²⁾, Noshiro Y²⁾, Kurokawa R¹⁾, Okano H⁴⁾, Umezawa A¹⁾ (1) Department of Reproductive Biology, Center for Regenerative Medicine, National Institute for Child Health and Development, Okura, Setagaya, Japan, 2) Sensory Functions Section, Research Institute, National Rehabilitation Center for Persons with Disabilities, Tokorozawa, Japan, 3) Department of Ophthalmology, National Center for Child Health and Department, Setagaya, Japan, 4) Department of Physiology, Keio University School of Medicine, Shinanomachi, Japan, 5) Institute of Biological Science, Tsukuba University, Ten-noudai, Japan) : Derivation of Human Differential Photoreceptor-like Cells from the Iris by Defined Combinations of CRX, RX and NEUROD. PLOS ONE 2012 ; 7 (4) : e35611.
- 1) Kaneda M : Signal Processing in the Mammalian Retina. Department of Physiology, Nippon Medical School 2013 ; 80 (1) : 16-24.

学会発表

(1) 一般講演：

- 1) 世古裕子^{1, 2)}, 東 範行²⁾, 金田 誠, 中谷 敬³⁾, 梅澤明弘²⁾ (1) 国立障害者リハビリテーションセンター研究所, 2) 国立成育医療研究センター, 3) 筑波大学生命環境系) : ヒト培養誘導網膜視細胞の光応答について. 第16回視覚科学フォーラム研究会 (埼玉医科大学毛呂山キャンパス), 2012. 8.
- 2) 大熊真人¹⁾, 金田 誠, 吉田祥子²⁾, 福田敦夫³⁾, 宮地栄一¹⁾ (1) 藤田保健大医生理 II, 2) 豊橋技術大院工環境・生命工学, 3) 浜松医大医生理一) : マウス網膜スライス標本を用いたグルタミン酸放出レベルの可視化. 第35回日本神経科学学会 (名古屋), 2012. 9.
- 3) 濱田知宏, 安藤 亮¹⁾, 藤掛雅博¹⁾, 小桧山哲平¹⁾, 佐久間康夫²⁾ (1) 東京医療福祉専門学校, 2) 東京医療学院大学) : 視索前野性の二型核および分界条床核における性分化機構の可視化. 第35回日本神経科学学会 (名古屋), 2012. 9.
- 4) Siono T¹⁾, Hamada T, Ando R¹⁾, Kaneda M, Sakuma Y²⁾ (1) Tokyo Med. Treat. Welf. Vacat. Sch., Tkyo, Japan, 2) Univ. of Tokyo Health Sci., Tokyo, Japan) : Developmental expression of estrogen receptor conducted sexual dimorphism in the BNST and SDN-POA. 第90回日本生理学会大会 (東京都), 2013. 3.
- 5) Ishii T, Kaneda M : Asymmetric glycinergic inputs between ON and OFF pathway in the mouse retina. 第90回日本生理学会大会 (東京都), 2013. 3.

4. 生理学（生体統御学）

研究概要

生理学講座（生体統御学）ではストレス反応機構、摂食調節機構、神経情報伝達機構の解析、中枢性摂食異常症、てんかん、神経変性疾患の病態や発症機序の解明を中心に研究を進めている。妊娠中のカロリー摂取制限により生じる出生時低体重ラット仔に離乳後も追いつき成長を示さない短体長低体重仔が生じ、このラットを親とするとその仔に短体長低体重仔が生じること、さらにこの機序に肝でのmicroRNAの発現亢進やエピジェネティックな変異が関与することを明らかにしつつある。さらに追いつき成長を示した出生児低体重仔ラットは成長後のストレス負荷に対して血中コルチコステロン値の上昇持続がみられ、この機序に下垂体でのmicroRNA発現調節異常が関与していることを明らかにした。我々が作成した抗CRF1抗体を用いた免疫組織化学染色によりCRF1陽性細胞はストレスや摂食調節に関連した神経核に存在し、その多くはストレスによりFosが発現することを明らかにした。難治てんかんの治療法として迷走神経刺激（VNS）療法が広く用いられているが、その作用機序は不明である。海馬電気活動に対するVNSの効果を電気生理学的に検討した結果、VNSは興奮性シナプス伝達を持続的に増強すると共に海馬神経細胞の興奮性を抑制することが明らかとなった。幼若ラットの脊髄では、細胞外二価イオンの除去により脊髄全体の神経細胞が同期して周期性興奮を生じることが知られているが、この発現機構に内在性アデノシンとアデノシンA1受容体が強く関与していることを明らかにした。神経変性疾患に関する研究では、副腎由来のグルココルチコイドがストレスによって惹起されるミクログリア活性化において抑制作用を有することを明らかにした。

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) Nemoto T, Mano A, Shibasaki T : Increased expression of miR-325-3p by urocortin 2 and its involvement in stress-induced suppression of LH secretion in rat pituitary. *Am J Physiol Endocrinol Metab* 2012 ; 302 (7) : E781-E787.
- 2) Morrison B¹⁾, Marcondes M¹⁾, Nomura D¹⁾, Sanches-Alaves M¹⁾, Saar I¹⁾, Kim K¹⁾, Bartfai T¹⁾, Maher P¹⁾, Sugama S, Conti B¹⁾ (¹⁾ Molecular and Integrative Neurosciences Department, The Scripps Research Institute) : IL-13Ra1 expression in dopaminergic neurons contributes to their oxidative stress-mediated loss following chronic peripheral treatment with lipopolysaccharide. *J Immunol* 2012 ; 189 (12) : 5498-5502.
- 3) Takenouchi T¹⁾, Iwamaru Y¹⁾, Imamura M¹⁾, Fukuhara S¹⁾, Sugama S, Sato M¹⁾, Mochizuki N¹⁾, Hashimoto M²⁾, Yokoyama Y¹⁾, Mohri S¹⁾, Kitani H¹⁾ (¹⁾ Division of Animal Sciences, National Institute of Agrobiological Sciences, ²⁾ Division of Sensory and Motor Systems, Tokyo Metropolitan Institute of Medical Science) : Cytochalasin D enhances the accumulation of a protease-resistant form of prion protein in ScN2a cells : involvement of PI3 kinase/Akt signalling pathway. *Cell Biol Int* 2012 ; 36 (12) : 1223-1231.
- 4) Sekiyama K¹⁾, Fujita M¹⁾, Sekigawa A¹⁾, Takamatsu Y¹⁾, Waragai M¹⁾, Takenouchi T²⁾, Sugama S, Hashimoto M¹⁾ (¹⁾ Division of Sensory and Motor Systems, Tokyo Metropolitan Institute of Medical Science, ²⁾ Division of Animal Sciences, National Institute of Agrobiological Sciences) : Ibuprofen ameliorates protein aggregation and astrocytic gliosis, but not cognitive dysfunction in a transgenic mouse expressing dementia with Lewy bodies-linked P123H b-synuclein. *Neurosci Lett* 2012 ; 515 (1) : 97-101.
- 5) Sugama S, Takenouchi T¹⁾, Fujita M²⁾, Kitani H¹⁾, Conti B³⁾, Hashimoto M¹⁾ (¹⁾ Division of Animal Sciences, National Institute of Agrobiological Sciences, ²⁾ Division of Sensory and Motor Systems, Tokyo Metro-

politan Institute of Medical Science, ³⁾ Molecular and Integrative Neurosciences Department, The Scripps Research Institute) : Corticosteroids limit microglial activation occurring during acute stress. *Neuroscience* 2013 ; 232 : 13-20.

- 6) Ura H¹⁾, Sugaya Y²⁾, Ohata H, Takumi I³⁾, Sadamoto K¹⁾, Shibasaki T, Maru E (¹⁾ Department of Clinical Sciences, Faculty of Pharmaceutical Sciences, Toho University, ²⁾ Department of Psychiatry, University of Tokyo, ³⁾ Department of Neurosurgery, Nippon Medical School Musashi Kosugi Hospital) : Vagus nerve stimulation induced long-lasting enhancement of synaptic transmission and decreased granule cell discharge in the hippocampal dentate gyrus of urethane-anesthetized rats. *Brain Research* 2013 ; 1492 (25) : 63-71.

学会発表

(1) 一般講演 :

- 1) 根本崇宏, 芝崎 保 : 離乳時まで追いつき成長を示さなかった妊娠中のカロリー制限母ラットからの出生仔における成長ホルモン受容体発現低下の機序. 日本内分泌学会学術総会 (第 85 回) (愛知県名古屋市), 2012. 4.
- 2) Nemoto T, Shibasaki T : miR-449a is involved in glucocorticoid-induced downregulation of CRF type 1 receptor expression. ENDO2012 American endocrine society annual meeting (Huston, TX, USA), 2012. 6.
- 3) Nemoto T, Shibasaki T : Pituitary miR-449a is involved in the hypothalamic-pituitary-adrenal axis abnormality in offspring from malnourished dams via CRF type 1 receptor expression modulation. International Symposium on Regulatory Peptides (19th) (Copenhagen, Denmark), 2012. 8.
- 4) 根本崇宏, 芝崎 保 : 妊娠中に摂取カロリー制限した母ラットより生まれた低出生体重仔の食行動とストレス反応の異常の解析. 日本摂食障害学会学術集会 (第 16 回) (東京都港区), 2012. 10.
- 5) 根本崇宏, 芝崎 保 : 拘束ストレス負荷ラットのグルココルチコイド受容体発現低下へのマイクロ RNA の関与. 日本神経内分泌学会学術集会 (第 39 回) (福岡県北九州市), 2012. 9.
- 6) 根本崇宏, 芝崎 保 : 高脂肪食誘導肥満抵抗ラットでのストレス負荷後の HPA 軸の変化. 間脳・下垂体・副腎系研究会 (第 24 回) (東京都港区), 2013. 3.
- 7) 洲鎌秀永 : Corticosteroids provide suppressive signals for microglial activation during acute stress. 日本生理学会大会 (第 90 回) (東京), 2013. 3.
- 8) 眞野あすか, 根本崇宏, 芝崎 保 : 視床下部および扁桃体における CRF1 型受容体の局在について. 日本内分泌学会学術総会 (第 85 回) (名古屋), 2012. 4.

5. 生化学・分子生物学（代謝・栄養学）

研究概要

今年度も多くは学内外、国外との共同研究であるが、個々の表示は省略する。1. 石灰化の分子機構と組織非特異型アルカリホスファターゼ (TNAP) 1) 低フォスファターゼ症 (HPP) をきたす変異 TNAP (p. F327del) の強制発現系を使用した酵素活性、石灰化能、糖鎖修飾の解析と立体構造の検討。2) 父性片親性ダイソミーにより発症した HPP 症例の検討。3) 骨密度と相関する Y246H 多型における血清リンとの相関の検討。4) TNAP の転写活性促進を介したレチノイン酸による骨芽細胞の分化。5) 野生型 TNAP の構造解析に向けた大量発現系の検討。6) 細胞培養を使用した石灰化時の基質小胞の分離とそのプロテオーム解析。2. キサンチン酸化還元酵素 (XOR) 1) XOR スーパーオキシド産生型ノックアウトマウスの解析。特に酸化ストレス応答と虚血再灌流障害の検討。2) 神経変性疾患に対する XOR 阻害薬の効果の検討。3) XOR の活性酸素機構の酵素学的解析。4) JAXA との共同プロジェクトによる微小重力下での酵素結晶化。3. 好熱菌等の鉄硫黄酵素 JSPS-NSF ボトムアップ型国際共同研究事業「国際化学研究協力事業 (ICC プログラム)」による構造機能進化の研究：一連のアミノ酸要求性大腸菌宿主を作成、好熱菌モデル酵素等の金属クラスター電子構造に強く影響する周辺骨格領域の定量的解析・理解を目指す。4. 進行性難聴の原因遺伝子産物 cochlin 内耳に発現する cochlin の isoform の解析と各臓器における発現解析。5. 卵巣周期による発現蛋白質のプロテオーム解析。6. 医科栄養学教育 (日本臨床栄養学会・医科における栄養学推進委員会) 医科栄養学教育の現状に関する全国アンケートの論文化と、新カリキュラム案の作成。

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) Iwasaki T, Fukazawa R, Miyajima-Nakano Y, Baldansuren A¹⁾, Matsushita S, Lin TM¹⁾, Gennis BR¹⁾, Hasegawa K²⁾, Kumasaka T²⁾, Dikanov SA¹⁾ (1) Univ Illinois, (2) JASRI/SPring-8) : Dissection of hydrogen bond interaction network around an iron-sulfur cluster by site-specific isotope labeling of hyperthermophilic archaeal Rieske-type ferredoxin. *J Am Chem Soc* 2012 ; 134 : 19731-19738.
- 2) Hisada K^{1, 2)}, Hata K¹⁾, Ichida F¹⁾, Matsubara T¹⁾, Orimo H, Nakano T²⁾, Yatani H²⁾, Nishimura R¹⁾, Yoneda T¹⁾ (1) Department of Molecular and Cellular Biochemistry, Osaka University Graduate School of Dentistry, (2) Department of Fixed Prosthodontics, Osaka University Graduate School of Dentistry) : Retinoic acid regulates commitment of undifferentiated mesenchymal stem cells into osteoblasts and adipocytes. *Journal of Bone and Mineral Metabolism* 2013 ; 31 (1) : 53-63.
- 3) Orimo H¹⁾, Ueno T^{1, 2)}, Yoshida H^{1, 3)}, Sone H^{1, 4)}, Tanaka A^{1, 5)}, Itakura H^{1, 6)} (1) Committee for promotion of nutrition education in medical schools, The Japanese Society of clinical Nutrition, (2) Division of Nephrology and Metabolism, Department of Internal Medicine, Nippon University school of Medicine, (3) Department of Laboratory Medicine, Jikei University School of Medicine, (4) Department of Internal Medicine, University of Tsukuba School of Medicine, (5) Nutrition Clinic, Kagawa Women's Nutrition College, (6) Ibaraki Christian University) : Nutrition education in Japanese medical schools : a follow-up survey. *Asia Pacific Journal of Clinical Nutrition* 2013 ; 22 (1) : 144-149.
- 4) Sogabe N^{1, 2)}, Tanabe R¹⁾, Haraikawa M¹⁾, Maruoka Y³⁾, Orimo H, Hosoi T⁴⁾, Goseki-Sone M¹⁾ (1) Division of Nutrition, Department of Food and Nutrition, Faculty of Human Sciences and Design, Japan Women's University, (2) Department of Health and Nutrition Sciences, Faculty of Human Health, Komazawa Women's

University, ³) Division of Dentistry/Oral and Maxillofacial Surgery, National Center for Global Health and Medicine, ⁴) Department of Clinical Research and Development, National Center for Geriatrics and Gerontology) : Associations between serum bone-specific alkaline phosphatase activity, and biochemical parameters, and functional polymorphisms of the tissue-nonspecific alkaline phosphatase gene in a Japanese population. *Asia Pacific Journal of Clinical Nutrition* 2013 ; 22 (1) : 160-165.

- 5) Shiiba K¹), Shindo S²), Ikezono T²), Sekine K¹), Matsumura T, Sekiguchi S³), Yagi T⁴), Okubo K¹) (¹) Department of Otorhinolaryngology, Nippon Medical School, ²) Department of Otorhinolaryngology, Saitama Medical University Faculty of Medicine, ³) R&D and Business Development Segment, Mitsubishi Chemical Medience Corporation, ⁴) University of Human Environments, Okazaki, Aichi, Japan) : Cochlin expression in the rat perilymph during postnatal development. *Acta Otolaryngologica* 2012 ; 132 (11) : 1134-1139.
- 6) Okamoto K, Kusano T, Nishino T¹) (¹) Department of Applied Biological Chemistry, Graduate School of Agricultural and Life Sciences, University of Tokyo) : Chemical nature and reaction mechanisms of the molybdenum cofactor of xanthine oxidoreductase. *Current Pharmaceutical Design* 2013 ; 19 (14) : 2606-2614.

(2) 総説 :

- 1) 折茂英生 : 医学部医学科における栄養学の教育. *臨床栄養* 2012 ; 121 (4) : 383-388.
- 2) Ichida K¹), Amaya Y²), Okamoto K, Nishino T³) (¹) Department of Pathophysiology, Tokyo University of Pharmacy and Life Sciences, ²) Division of Biochemistry, Niigata University Graduate School of Medical and Dental Sciences, ³) Department of Applied Biological Chemistry, Graduate School of Agricultural and Life Sciences, University of Tokyo) : Mutations associated with functional disorder of xanthine oxidoreductase and hereditary xanthinuria in humans. *Int J Mol Sci* 2012 ; 13 : 15475-15495.

著 書

- 1) Okamoto K, Kondo S¹), Nishino T²) (¹) Kondo Laboratory, Teijin Ltd, ²) Department of Applied Biological Chemistry, Graduate School of Agricultural and Life Sciences, University of Tokyo) : [共著] A new-generation uric acid production inhibitor : Febuxostat. *Analogue-based Drug Discovery III* (Fischer J, Ganellin CR, Rettella DP), 2012 ; pp356-367, Wiley-VCH.

学会発表

[追加分]

追加分一般講演 :

- 1) 渡邊 淳^{1, 2)}, 鈴木由美²⁾, 菅野華子¹⁾, 峯 克也³⁾, 阿部 崇³⁾, Naing B¹⁾, 竹下俊行³⁾, 折茂英生, 澤井英明⁴⁾, 島田 隆^{1, 2)} (¹) 日本医大・生化・分子生物 (分子遺伝), ²) 日本医大病院・遺伝診療科, ³) 日本医大・女性診療科・産科, ⁴) 兵庫医大・産婦人科) : 周産期型低フォスファターゼ症の遺伝診療 : 周産期からの follow-up の必要性. 日本遺伝カウンセリング学会 (第 35 回) (京都), 2011. 6.
- 2) 松本多絵^{1, 2)}, 三宅弘一¹⁾, 折茂英生, 三宅紀子¹⁾, 福永慶隆²⁾, 島田 隆¹⁾ (¹) 生化学・分子生物学 (分子遺伝学), ²) 小児科) : AAV ベクターによる低ホスファターゼ血症の遺伝子治療. 日本小児科学会学術集会 (第 114 回) (東京), 2011. 8.
- 3) 中山亜紀¹⁾, 香坂亜沙美²⁾, 平賀香奈子¹⁾, 片山 映³⁾, 鈴木秀典⁴⁾, 芝紀代子⁵⁾ (¹) 文京学院大学保健医療技術学部, ²) 文京学院大学大学院保健医療科学研究科, ³) 日本医科大学大学生化学・分子生物学 (代謝・栄養学), ⁴) 日本医科大学大学院医学研究科 薬理学, ⁵) 文京学院大学保健医療技術学部, 文京学院大学大学院保健医療科学研究科) : 健康人尿中エキソソームタンパク質の基礎的解析. 生物試料分析学会年次学術集会 (第 22 回) (福岡市), 2012. 3.

- 4) 中山亜紀¹⁾, 香坂亜沙美²⁾, 平賀香奈子¹⁾, 片山 映³⁾, 鈴木秀典⁴⁾, 芝紀代子⁵⁾ (1) 文京学院大学保健医療技術学部, 2) 文京学院大学大学院保健医療科学研究科, 3) 日本医科大学大学生化学・分子生物学 (代謝・栄養学), 4) 日本医科大学大学院医学研究科 薬理学, 5) 文京学院大学保健医療技術学部, 文京学院大学大学院保健医療科学研究科): 尿中エキソソームタンパク質の基礎的解析. 腎・泌尿器検査研究会学術集会 (第8回) (東京), 2012. 3.

(1) シンポジウム:

- 1) 岩崎俊雄: 代謝系進化と補酵素・補欠分子族の関わり. 電気通信大学シンポジウム「生命システム原材料の起源と進化: 生化学的禁制律」(調布 (電気通信大学)), 2013. 3.
- 2) Orimo H, Kiyama A, Matsumura T: Characterization of a deletion in tissue-nonspecific alkaline phosphatase (p.F327del) as the third frequent mutation in the Japanese patients with hypophosphatasia. 6th International Alkaline Phosphatase Symposium (Huningue, France), 2012. 5.
- 3) Watanabe A¹⁾, Satoh S²⁾, Fujita A³⁾, Naing B¹⁾, Orimo H, Shimada T¹⁾ (1) Division of Molecular Genetics, Department of Biochemistry and Molecular Biology, Nippon Medical School, 2) Aomori Prefectural Central Hospital, 3) Division of Personalized Genetic Medicine, Nippon Medical School Hospital): Perinatal (lethal) type of hypophosphatasia resulting from paternal isodisomy of chromosome 1. 6th International Alkaline Phosphatase Symposium (Huningue, France), 2012. 5.

(2) パネルディスカッション:

- 1) 鴻巣麻子: 古細菌から学ぶ酸素呼吸系獲得への機能進化の研究. 公益財団法人発酵研究所助成研究報告会 (第6回) (大阪), 2012. 6.

(3) セミナー:

- 1) 岩崎俊雄: 生命進化と鉄硫黄クラスター: 蛋白質骨格による機能チューニング. 東京理科大学・基礎工学研究科・生物工学専攻 TB 院公開セミナー (野田 (野田キャンパス)), 2012. 10.

(4) 一般講演:

- 1) Hagiuda E, Miyajima-Nakano Y, Ohmori D¹⁾, Kusano T, Matsushita S, Dikanov AS²⁾, Kumasaka T³⁾, Iwasaki T (1) Juntendo Univ, 2) Univ of Illinois, 3) JASRI/SPring-8): Characterization of the extremophile homologs of mitoNEET. 9th International Congress on Extremophiles (Sevilla, Spain), 2012. 9.
- 2) Iwasaki T, Kumasaka T¹⁾ (1) JASRI/SPring-8): Structural basis for metallosulfur recognition of archaeal Rieske protein scaffold. 9th International Congress on Extremophiles (Sevilla, Spain), 2012. 9.
- 3) Fukazawa R, Lin TM¹⁾, Miyajima-Nakano Y, Baldansuren A¹⁾, Matsushita S, Choi KS¹⁾, Dikanov AS¹⁾, Gennis BR¹⁾, Iwasaki T (1) Univ of Illinois): Selective isotope labelling of extremophile metalloproteins. 9th International Congress on Extremophiles (Sevilla, Spain), 2012. 9.
- 4) Hasegawa K¹⁾, Matsushita S, Konosu A, Baldansuren A²⁾, Fukazawa R, Dikanov AS²⁾, Iwasaki T, Kumasaka T¹⁾ (1) JASRI/SPring-8, 2) Univ of Illinois): Active site structure of hyperthermophilic archaeal Rieske-type ferredoxin (ARF). 9th International Congress on Extremophiles (Sevilla, Spain), 2012. 9.
- 5) 折茂英生¹⁾, 上野高浩^{1,2)}, 曾根博仁^{1,3)}, 田中 明^{1,4)}, 田中芳明^{1,5)}, 西 理宏^{1,6)}, 伴場裕己^{1,7)}, 松浦達也^{1,8)}, 吉田 博^{1,9)}, 板倉弘重¹⁾ (1) 日本臨床栄養学会・医科における栄養学推進委員会, 2) 日大・医・内科, 3) 筑波大・医・内科, 4) 女子栄養大・栄養クリニック, 5) 久留米大・医・小児外科, 6) 和歌山県立医大・内科, 7) 埼玉医大, 8) 鳥取大・医・生化, 9) 慈恵医大・臨床検査): 医科栄養学教育の現状と展望: カリキュラム改革に向けて. 日本医学教育学会大会 (第44回) (横浜), 2012. 7.
- 6) 渡邊 淳^{1,2)}, 鈴木由美²⁾, 山本基子¹⁾, 峯 克也³⁾, Naing B¹⁾, 竹下俊行³⁾, 折茂英生, 島田 隆¹⁾ (1) 日本医大・生化・分子生物 (分子遺伝), 2) 日本医大病院・遺伝診療科, 3) 日本医大・女性診療科・産科): 低フォス

- ファクターゼ症の遺伝診療：周産期型における出生前からの follow up の必要性. 日本人類遺伝学会大会（第 57 回）（東京），2012. 10.
- 7) 川口裕子, 西野朋子, 岡本 研, 西野武士¹⁾ (1) 東大院, 農・生命科学, 応用生命)：キサントニン脱水素酵素／酸化酵素においてリビトール基が FAD 環の反応性におよぼす影響について. 日本生化学会大会（85）（福岡），2012. 12.
- 8) 鴻巣麻子：大腸菌による好熱性古細菌タンパク質複合体の高発現系の構築. 日本生化学会（第 85 回）（福岡），2012. 12.
- 9) 松村智裕, 関根久遠¹⁾, 椎葉恭子¹⁾, 齋藤志ほ, 折茂英生, 池園哲郎²⁾ (1) 日本医科大学 耳鼻咽喉科, 2) 埼玉医科大学 耳鼻咽喉科)：ラット Coch 遺伝子の発現解析. 日本生化学会大会（第 85 回）（博多），2012. 12.
- 10) 齋藤志ほ, 松村智裕, 関根久遠¹⁾, 折茂英生, 池園哲郎²⁾ (1) 日本医科大学 耳鼻咽喉科, 2) 埼玉医科大学 耳鼻咽喉科)：内耳で発現する Cochlin タンパク質の構造機能解析. 日本生化学会大会（第 85 回）（博多），2012. 12.
- 11) Matsumura T, Han M¹⁾, Tsutsumiuchi K¹⁾, Saito S, Tetsuo I¹⁾ (1) Department of Otorhinolaryngology, Saitama Medical University Faculty of Medicine)：Analysis of Cochlin protein in inner ear. The 10th RCGM International Symposium of Academic Frontier (Saitama), 2012. 11.
- 12) Nakayama A¹⁾, Kubota R²⁾, Arai Y¹⁾, Katayama A³⁾, Suzuki H⁴⁾, Shiba K⁵⁾, Iijima S⁵⁾ (1) 文京学院大学保健医療技術学部, 2) 埼玉県立大学保健医療福祉学部, 3) 日本医科大学大学院医学研究科 生化学・分子生物学 (代謝・栄養学), 4) 日本医科大学大学院医学研究科 薬理学, 5) 文京学院大学保健医療科学研究科)：Identification of urinary exosomal proteins by two dimensional gel electrophoresis. Human Proteome Organization 11th Annual World Congress (11th) (Boston), 2012. 9.
- 13) 平 優季¹⁾, 片山 映³⁾, 矢野晃一⁴⁾, 河村富士夫⁴⁾, 石浜 明^{1, 2)}, 山本兼由^{1, 2)} (1) 法政大学 生命科学部, 2) 法政大学 マイクロ・ナノテクノロジー研究センター, 3) 日本医科大学 生化学・分子生物学講座 (代謝・栄養学), 4) 立教大学 理学部 生命学研究センター)：大腸菌 RNA ポリメラーゼ RpoA タグ株のリボソーム形成能の解析. 日本農芸化学会 2013 年度大会（仙台），2013. 3.
- 14) 田中水緒¹⁾, 片山 映²⁾, 永原則之³⁾, 吉田真理子¹⁾, 五味 淳¹⁾, 後藤裕明⁴⁾, 北河徳彦⁵⁾, 新開真人⁵⁾, 気賀沢寿人⁶⁾, 田中祐吉¹⁾ (1) 神奈川県立こども医療センター 病理科, 2) 日本医科大学 生化学・分子生物学 (代謝・栄養学), 3) 日本医科大学 基礎 RI 研究室, 4) 横浜市立大学医学部附属病院 小児科, 5) 神奈川県立こども医療センター 一般外科, 6) 神奈川県立こども医療センター 血液・再生医療科)：Clear cell sarcoma of kidney の新たな診断マーカー開発の試み. 日本小児血液・がん学会学術集会（第 54 回）（横浜），2012. 11.
- 15) Tanaka Y¹⁾, Katayama A²⁾, Inoue T, Iwafuchi H, Kishimoto H, Nakayama M, Hamazaki M, Tanaka M¹⁾, Yoshida M¹⁾, Ijiri R, Kitagawa N⁴⁾, Shinkai M⁴⁾, Kigasawa H⁵⁾, Orimo H²⁾, Nagahara N³⁾ (1) 神奈川県立こども医療センター 病理科, 2) 日本医科大学 生化学・分子生物学 (代謝・栄養学), 3) 日本医科大学 基礎 RI 研究室, 4) 神奈川県立こども医療センター 一般外科, 5) 神奈川県立こども医療センター 血液・再生医療科)：High expression and diagnostic utility of internexin alpha in clear cell sarcoma of the kidney：comparative proteomics analysis and immunohistochemical study. The 102nd USCAP Annual Meeting (102nd) (Maryland/USA), 2013. 3.
- 16) 鈴木 剛¹⁾, 布施 明¹⁾, 横田裕行¹⁾, 松村智裕, 岡本 研, 草野輝男, 内藤善哉²⁾, 石渡俊行²⁾, 松田陽子²⁾, 西野武士³⁾ (1) 日本医科大学付属病院高度救命救急センター, 2) 日本医科大学病理学講座, 3) 東京大学大学院農学生命科学研究科応用生命化学)：3 vessel occlusion model を用いたマウスの脳虚血再還流障害の解析. 日本 Shock 学会総会（第 27 回）（東京），2012. 5.
- 17) 鈴木 剛¹⁾, 布施 明¹⁾, 横田裕行¹⁾, 松村智裕, 岡本 研, 草野輝男, 内藤善哉²⁾, 石渡俊行²⁾, 松田陽子²⁾, 西野武士³⁾ (1) 日本医科大学付属病院高度救命救急センター, 2) 日本医科大学病理学講座 (統御機構・腫瘍学),

- 3) 東京大学大学院農学生命科学研究科応用生命化学)：脳虚血再灌流障害におけるキサンチン酸化還元酵素阻害薬の神経細胞保護効果の検討. 日本脳神経外科学会学術総会 (第 71 回) (大阪), 2012. 10.
- 18) 鈴木 剛¹⁾, 布施 明¹⁾, 横田裕行¹⁾, 松村智裕, 岡本 研, 草野輝男, 内藤善哉²⁾, 石渡俊行²⁾, 松田陽子²⁾, 西野武士³⁾ (1) 日本医科大学付属病院高度救命救急センター, 2) 日本医科大学病理学講座 (統御機構・腫瘍学), 3) 東京大学大学院農学生命科学研究科応用生命化学)：キサンチン酸化還元阻害薬と 3-vessel occlusion model を用いたマウスの脳虚血再灌流障害の解析. 日本救急医学会総会 (第 40 回) (京都), 2012. 11.
- 19) 草野輝男, 加藤信介, 加藤雅子, 宮川拓也, 西野武士 (1) 鳥取大学医学部病理学講座 & #8232; 脳病態医学分野, 2) 鳥取大学医学部病理学講座 分子病理学分野, 3) 東京大学大学院 農学生命化学科・応用生命化学専攻)：G1H-G93A 遺伝子導入マウスの呈する筋萎縮性側索硬化症へのキサンチン酸化還元酵素阻害剤の影響. 日本生化学会 (第 85 回) (福岡), 2012. 12.
- 20) 岡本 研, 菊地浩人¹⁾, 藤崎弘士¹⁾, 古田忠臣²⁾, 西野武士³⁾ (1) 日本医科大学 物理学, 2) 東京工業大学 大学院生命理工学研究科, 3) 東京大学大学院 農学生命科学 応用生命化学)：抗痛風薬フェブキソスタットとキサンチン酸化還元酵素との相互作用の解析. 第 85 回日本生化学会大会 (福岡), 2012. 12.
- 21) 岡本 研, 菊地浩人¹⁾, 藤崎弘士¹⁾, 古田忠臣²⁾, 西野武士³⁾ (1) 日本医科大学 物理学, 2) 東京工業大学 大学院生命理工学研究科, 3) 東大院 農学生命科学)：抗痛風薬フェブキソスタットとキサンチン酸化還元酵素との動的相互作用の解析. 第 46 回日本痛風・核酸代謝学会総会 (東京), 2013. 2.

6. 生化学・分子生物学（分子遺伝学）

研究概要

分子遺伝学教室では遺伝子治療の基盤技術の開発を中心に、幅広くゲノム医学に取り組んでいる。遺伝子治療研究としてはウイルスベクターの開発と平行して、治療のない重篤な遺伝病である、異染性白質ジストロフィー（MLD）と低フォスファターゼ症（HPP）の治療実験を進めている。通常の酵素補充療法では、脳血液関門（BBB）のため神経症状は改善しない。BBBを越えて非侵襲的にMLDを治療する方法として、アデノ随伴ウイルス（AAV）ベクターを使った遺伝子治療の可能性を検討した。新生児マウスの経静脈にAAVベクターを投与することで、広範囲な脳神経組織への遺伝子導入が可能で、MLDモデルマウスの生化学的異常や運動機能が改善されることが明らかになった。成体MLDの髄腔内にAAVベクターを後頭蓋窩から注入することで、小脳や脳幹部を中心に脳組織への遺伝子導入と遺伝子発現が起こり蓄積していたスルファチドが減少し、著明な運動機能の改善が確認された。HPPの新規治療法として、レンチウイルスベクターにより正常アルカリフォスファターゼ遺伝子を導入した造血幹細胞を移植する遺伝子治療を開発した。新生児HPPモデルマウスに対する治療では骨形成の改善と著明な延命効果が確認された。これらの遺伝子治療の臨床研究を日本で開始するため、企業や医薬品医療機器総合機構（PMDA）とも協力して国産の臨床用ウイルスベクターを作製するための準備を開始している。ハイテクリサーチプロジェクトで設置されたゲノム解析室では全学的な遺伝子研究の共同利用施設としての機能に加え、遺伝診療科と協力して、日本全国から依頼された遺伝病の遺伝子解析を行っている。又、ゲノム先端医療部と協力してオーダーメイド医療のための薬剤感受性遺伝子や易罹性遺伝子の検査を行っている。

研究業績

論文

〔追加分〕

追加分原著：

- 1) Uchida A¹⁾, Sasaguri H¹⁾, Kimura N¹⁾, Tajiri M¹⁾, Ohkubo T¹⁾, Ono F¹⁾, Sakaue F¹⁾, Kanai K¹⁾, Hirai T¹⁾, Sano T¹⁾, Shibuya K¹⁾, Kobayashi M¹⁾, Yamamoto M¹⁾, Yokota S¹⁾, Hirai Y, et al. ⁽¹⁾ Department of Neurology and Neurological Science, Graduate School of Medicine, Tokyo Medical and Dental University, Tokyo 113-8519, Japan) : Non-human primate model of amyotrophic lateral sclerosis with cytoplasmic mislocalization of TDP-43. *Brain* 2012 ; 135 (3) : 833-846.

(1) 原著：

- 1) Inagawa K¹⁾, Miyamoto K¹⁾, Yamakawa H¹⁾, Muraoka N¹⁾, Sadahiro T¹⁾, Umei T¹⁾, Wada R¹⁾, Katsumata Y¹⁾, Kaneda R¹⁾, Nakade K¹⁾, Kurihara C¹⁾, Obata Y¹⁾, Miyake K, Fukuda K¹⁾, Ieda M¹⁾ ⁽¹⁾ Department of Clinical and Molecular Cardiovascular Research, Department of Cardiology, Keio University School of Medicine, Tokyo, Japan.) : Induction of cardiomyocyte-like cells in infarct hearts by gene transfer of Gata4, Mef2c, and Tbx5. *Circ Res* 2012 ; 111 (9) : 1147-1156.
- 2) Sugano H¹⁾, Matsumoto T¹⁾, Miyake K, Watanabe A, Iijima O, Migita M¹⁾, Narisawa S²⁾, Millan J²⁾, Fukunaga Y¹⁾, Shimada T ⁽¹⁾ Department of Pediatrics, Nippon Medical School, Tokyo, 113-8603 Japan., ⁽²⁾ Sanford-Burnham Medical Research Institute) : Successful gene therapy in utero for lethal murine hypophosphatasia. *Hum Gene Ther* 2012 ; 23 (4) : 399-406.
- 3) Hirai T¹⁾, Enomoto M¹⁾, Machida A²⁾, Yamamoto M²⁾, Kuwahara H²⁾, Tajiri M²⁾, Hirai Y, Sotome S¹⁾,

Mizusawa H²⁾, Shinomiya K¹⁾, Okawa A¹⁾, Yokota T²⁾ (1) Department of Orthopedic Surgery, Graduate School, Tokyo Medical and Dental University, Tokyo 113-8519, Japan., 2) Department of Neurology and Neurological Science, Graduate School, Tokyo Medical and Dental University, Tokyo 113-8519, Japan.) : Intrathecal shRNA-AAV9 inhibits target protein expression in the spinal cord and dorsal root ganglia of adult mice. Hum Gene Thr Meth 2012 ; 23 (2) : 119-127.

- 4) Takeichi N¹⁾, Midorikawa S²⁾, Watanabe A³⁾, Naing B, Tamura H^{1,4)}, Kano T¹⁾, Ishizaki A¹⁾, Sugihara H¹⁾, Nissato S⁵⁾, Saito Y⁵⁾, Aita Y⁵⁾, Ishii K⁶⁾, Igarashi T⁷⁾, Kawakami Y⁵⁾, Hara H⁸⁾, et al. (1) Division of Endocrinology and Metabolism, Department of Medicine, Nippon Medical School, 2) Department of Radiation Health Management, Diabetology, Endocrinology and Metabolism, Fukushima Medical University School of Medicine., 3) Division of Clinical Genetics, Nippon Medical School, 4) Tamura Medical Clinic, 5) Department of Laboratory Medicine, Graduate School of Comprehensive Human Sciences, University of Tsukuba, 6) Department of Internal Medicine (Endocrinology and Metabolism), Graduate School of Comprehensive Human Sciences, University of Tsukuba, 7) Division of Biological Regulation and Regenerative Surgery, Nippon Medical School, 8) Department of Endocrine Surgery, Graduate School of Comprehensive Human Sciences, University of Tsukuba) : Identical germline mutations in the TMEM127 gene in 2 unrelated Japanese patients with bilateral pheochromocytoma. Clin Endocrinol 2012 ; 77 (5) : 707-714.

(2) 総説 :

- 1) 三宅弘一, 島田 隆 : 3. 遺伝子導入と発現シリーズウイルスベクターによる遺伝子導入と発現 (4). 日医大医学会誌 2012 ; 8 (2) : 150-156.
2) 三宅弘一, 島田 隆 : 3. 遺伝子導入と発現シリーズウイルスベクターによる遺伝子導入と発現 (5). 日医大医学会誌 2012 ; 8 (3) : 216-221.

(3) 総説 :

- 1) Miyake K, Miyake N, Yamazaki Y, Shimada T, Hirai Y : Serotype-independent method of recombinant adeno-associated virus (AAV) vector production and purification. J Nippon Med Sch 2012 ; 79 (6) : 394-402.
2) 渡邊 淳¹⁾, 本間 博²⁾, 島田 隆¹⁾ (1) 付属病院 ゲノム先端医療部, 2) 付属病院 中央検査部) : Home brew. がん分子標的治療 2012 ; 10 (4) : 40-45.
3) 渡邊 淳¹⁾, 佐々木元子¹⁾, 島田 隆¹⁾ (1) 付属病院 ゲノム先端医療部, 2) 付属病院 遺伝診療科) : 薬物代謝酵素の遺伝学的検査. メディカルテクノロジー今日から役立つ遺伝子検査実践マニュアル 2012 ; 40 (13) : 1621-1625.
4) 渡邊 淳¹⁾, 畠山 (三澤) 未来¹⁾, 島田 隆¹⁾ (1) 付属病院 遺伝診療科) : 過剰運動症候群. 日本臨牀新領域別症候群シリーズ No20 先天性代謝異常症候群 (2版) 下 : 病因・病態研究, 診断・治療の進歩 2012 ; 別 (20) : 727-730.

(4) 症例報告 :

- 1) Fujikura T¹⁾, Takeshita T¹⁾, Homma H¹⁾, Adachi K¹⁾, Miyake K¹⁾, Kudo M¹⁾, Takizawa T¹⁾, Nagayama H¹⁾, Hirakawa K¹⁾ (1) Small Group Learning Working Committee, Nippon Medical School) : Team-based Learning Using an Audience Response System : A Possible New Strategy for Interactive Medical Education. J Nippon Med Sch 2013 ; 80 (1) : 63-69.
2) Masuno M^{1,2)}, Watanabe A⁹⁾, Naing B, Shimada T⁹⁾, Fujimoto W³⁾, Ninomiya S⁴⁾, Ueda Y⁵⁾, Kadota K⁶⁾, Kotaka T⁷⁾, Kondo E⁸⁾, Yamanouchi Y²⁾, Inoue M³⁾, Ouchi K¹⁾, Kuroki Y²⁾ (1) Departments of Pediatrics Dermatology, Kawasaki Medical School, Kurashiki, 2) Genetic Counseling Program, Graduate School of Health and Welfare, Kawasaki University of Medical Welfare, Kurashiki, 3) Departments of Dermatology,

Kawasaki Medical School, Kurashiki, ⁴⁾ Departments of Clinical Genetics, Kurashiki Central Hospital, Kurashiki, ⁵⁾ Departments of Hematology, Kurashiki Central Hospital, Kurashiki, ⁶⁾ Departments of Cardiology, Kurashiki Central Hospital, Kurashiki, ⁷⁾ Departments of Psychiatry, Kurashiki Central Hospital, Kurashiki, ⁸⁾ Department of Hematology and Oncology, Okayama University Hospital, Okayama, Japan, ⁹⁾ Division of Clinical Genetics) : Ehlers-Danlos Syndrome, Vascular Type : A Novel Missense Mutation in COL3A1 Gene. *Congenit Anom* 2012 ; 52 (4) : 207-210.

著 書

- 1) Miyake K, Shimada T : [分担] Development of Muscle-Directed Systemic Cancer Gene Therapy. *Novel Gene Therapy Approaches* (Edited by Ming Wei and David Good), 2013 ; pp119-127, InTech.
- 2) Watanabe A¹⁾, Orimo H, Takeshita T²⁾, Shimada T¹⁾ (¹⁾ Division of Clinical Genetics, Nippon Medical School Hospital, ²⁾ Department of Obstetrics and Gynecology, Nippon Medical School) : [分担] Prenatal diagnosis of severe perinatal (lethal) hypophosphatasia. *Prenatal Diagnosis - Morphology Scan and Invasive Methods. Prenatal Diagnosis In Tech* (Dr. Richard Choy), 2012 ; pp27-32.
- 3) 渡邊 淳^{1,2)} (¹⁾ 付属病院 遺伝診療科, ²⁾ 付属病院 ゲノム先端医療部) : [分担] 個人の体質に合ったオーダーメイド医療は可能か. 【新版】医療倫理 (関東医学哲学・倫理学会), 2013 ; pp192-193, 太陽出版.
- 4) 渡邊 淳^{1,2)} (¹⁾ 付属病院 遺伝診療科, ²⁾ 付属病院 ゲノム先端医療部) : [分担] 遺伝子検査のとおり病気が発症するか. 【新版】医療倫理 (関東医学哲学・倫理学会), 2013 ; pp188-191, 太陽出版.
- 5) 渡邊 淳¹⁾, 島田 隆¹⁾ (¹⁾ 付属病院 遺伝診療科) : [分担] Ehlers-Danlos 症候群. 先天代謝異常ハンドブック (遠藤文夫/山口清次/大浦敏博/奥山虎之), 2013 ; pp410-411, 中山書店.
- 6) 渡邊 淳¹⁾ (¹⁾ 付属病院 ゲノム先端医療部) : [分担] 9章 オーダーメイド医療とファーマコゲノミクス. 第11巻 遺伝子と医療 (シリーズ生命倫理学) (玉井真理子・松田純), 2013 ; 丸善.

学会発表

[追加分]

追加分シンポジウム :

- 1) 島田 隆 : 骨形成不全を呈する致死型低フォスファターゼ症の遺伝子治療. 国際協力遺伝病遺伝子治療フォーラム (第2回) (東京), 2012. 1.

追加分特別講演 :

- 1) 渡邊 淳^{1,2)} (¹⁾ 付属病院 遺伝診療科, ²⁾ 付属病院 ゲノム先端医療部) : がん診療・研究における遺伝学の役割 遺伝情報を医療現場で適切に扱うには今, 臨床の現場で起こりつつあること. 国立がん研究センター東病院 (千葉), 2012. 3.

(1) 特別講演 :

- 1) 渡邊 淳^{1,2)} (¹⁾ 付属病院 遺伝診療科, ²⁾ 付属病院 ゲノム先端医療部) : がん個別化治療に向けた臨床遺伝学の役割 : 遺伝情報を医療現場で適切に扱うには今, 臨床の現場で起こりつつあること. 【BREAC 試験】研究会 (東京), 2012. 7.
- 2) 渡邊 淳¹⁾ (¹⁾ 付属病院 遺伝診療科) : Ehlers-Danlos 症候群. 桜山臨床病理症例検討会 (名古屋市立大学) (第1回) (名古屋), 2012. 7.
- 3) Shimada T : Gene therapy in Japan : Problems and Prospects. 日本遺伝子治療学会 (第18回) (熊本), 2012. 6.
- 4) 島田 隆 : 遺伝子治療の最近の動向 : ゲノム医療の世界の動向と本邦における臨床応用の展望. 日本 Cell Death

学会 (第 21 回) (名古屋), 2012. 7.

(2) シンポジウム :

- 1) Iijima O, Sugano H¹⁾, Watanabe A, Miyake K, Shimada T (¹⁾ Department of Pediatrics) : EX VIVO GENE THERAPY OF SEVERE INFANTILE HYPOPHOSPHATASIA MODEL MICE USING LENTIVIRAL TRANSDUCED BONE MARROW CELLS. Alkaline Phosphatase and Hypophosphatasia International Symposium (6th) (Huningue, France), 2012. 5.
- 2) Sugano H¹⁾, Miyake K, Watanabe A, Iijima O, Narisawa S²⁾, Millan J²⁾, Fukunaga Y¹⁾, Shimada T (¹⁾ Department of Pediatrics, ²⁾Sanford-Burnham Medical Research Institute) : SUCCESSFUL GENE THERAPY IN UTERO FOR LETHAL MURINE HYPOPHOSPHATASIA. Alkaline Phosphatase and Hypophosphatasia International Symposium (6th) (Huningue, France), 2012. 5.
- 3) Okawa R¹⁾, Nakano K¹⁾, Sugano Tajima H, Iijima O, Kishino M²⁾, Toyosawa S²⁾, Shimada T, Ooshima T¹⁾ (¹⁾ Department of Pediatric Dentistry, Osaka University, Osaka, Japan, ²⁾ Department of Oral Pathology, Osaka University, Osaka, Japan) : Gene Therapy Improves Cementum Defects in Akp2^{-/-} Hypophosphatasia Mice. International Association for Dental Research General Session (90th) (Seattle, Washington), 2013. 3.
- 4) 渡辺 淳^{1, 2)} (¹⁾ 付属病院 遺伝診療科, ²⁾ 付属病院 ゲノム先端医療部) : 遺伝学的検査の諸問題 (ファーマコジェネティクスを含む). 日本遺伝カウンセリング学会学術集会 (第 36 回) (松本), 2012. 6.
- 5) 渡辺 淳^{1, 2)} (¹⁾ 付属病院 遺伝診療科, ²⁾ 付属病院 ゲノム先端医療部) : 臨床現場における PGx の課題. 日本臨床薬理学会学術総会 (第 33 回) (沖縄), 2012. 11.
- 6) Shimada T : Gene therapy for lethal murine hypophosphatasia. International Alkaline Phosphatase And Hypophosphatasia Symposium (6th) (Huningue, France), 2012. 5.
- 7) Shimada T : AAV Vector Mediated Gene Therapy for Lysosomal Storage Diseases. 国際ライソゾーム病フォーラム (第 4 回) ・日本ライソゾーム病研究会 (第 17 回) (東京), 2012. 10.

(3) 一般講演 :

- 1) 三宅弘一, 藤倉輝道¹⁾, 渡辺 淳, 平井幸彦, 飯島 修, 山崎吉之, 三宅紀子, 山本基子, 竹下俊行²⁾, 島田 隆 (¹⁾ 教育推進室, ²⁾ 付属病院産婦人科学) : PBL チュートリアル型基礎医学学生実習の導入. 日本医学教育学会 (第 44 回) (東京), 2012. 7.
- 2) Miyake N, Miyake K, Sakai A¹⁾, Yamamoto M, Ayumi E, Suzuki H¹⁾, Shimada T (¹⁾ Department of Pharmacology) : Gene therapy of adult MLD model mice by intrathecal administration of type 9 AAV vector. Annual Meeting of the American Society of Gene & Cell Therapy (15Th) (Philadelphia, Pennsylvania), 2012. 5.
- 3) Miyake N, Miyake K, Sakai A¹⁾, Yamamoto M, Endo A, Suzuki H¹⁾, Shimada T (¹⁾ Department of Pharmacology) : Successful treatment of adult MLD model mice by intrathecal administration of AAV9 vector. Annual Meeting of Japan Society of Gene Therapy (18Th) (Kumamoto), 2012. 6.
- 4) Miyake N, Miyake K, Sakai A¹⁾, Yamamoto M, Endo A, Suzuki H¹⁾, Shimada T (¹⁾ Department of Pharmacology) : AAV9 mediated gene therapy of MLD model mice. Annual Meeting of the European Society of Gene & Cell Therapy (20Th) (Versailles, France), 2012. 10.
- 5) 坂井 敦¹⁾, 齋藤文仁¹⁾, 三宅紀子, 三宅弘一, 島田 隆, 鈴木秀典¹⁾ (¹⁾ 薬理学) : DRG 神経における miR-7a 過剰発現は神経障害性疼痛を特異的に抑制する. 日本神経科学大会 (第 35 回) (名古屋国際会議場), 2012. 9.
- 6) Miyake N, Miyake K, Sakai A¹⁾, Yamamoto M, Endo A, Suzuki H¹⁾, Shimada T (¹⁾ Department of Pharmacology) : Gene therapy of adult MLD model mice by intrathecal administration of type 9 AAV vector. 国際ライソゾーム病フォーラム (第 4 回) ・日本ライソゾーム病研究会 (第 17 回) (東京プリンス), 2012. 10.

- 7) 坂井 敦¹⁾, 齋藤文仁¹⁾, 三宅紀子, 三宅弘一, 島田 隆, 鈴木秀典¹⁾ (¹⁾ 薬理学) : miR-7a は電位依存性ナトリウムチャンネル $\beta 2$ サブユニットの発現調節により慢性期神経障害性疼痛を緩和する. 日本薬理学会年会 (第 86 回) (福岡国際会議場), 2013. 3.
- 8) Iijima O, Miyake K, Hanako S²⁾, Igarashi T¹⁾, Kanokoda C, Watanabe A, Shimada T (¹⁾ Department of Ophthalmology, ²⁾ Department of Pediatrics) : Rescue of Lethal Hypophosphatasia Mice by Neonatal Ex Vivo Gene Therapy Using Lentivirally Transduced Bone Marrow Cells. American Society of Hematology Annual Meeting and Exposition (54th) (Atlanta, GA), 2012. 12.
- 9) Iijima O, Sugano H¹⁾, Watanabe A, Miyake K, Shimada T (¹⁾ Department of Pediatrics) : EX VIVO GENE THERAPY OF SEVERE INFANTILE HYPOPHOSPHATASIA MODEL MICE USING LENTIVIRAL TRANSDUCED BONE MARROW CELLS. 日本遺伝子治療学会学術集会 (第 17 回) (熊本市), 2012. 6.
- 10) 飯島 修, 菅野華子¹⁾, 鹿子田千津, 渡邊 淳, 三宅弘一, 島田 隆 (¹⁾ 付属病院小児科) : 骨髄細胞移植による低フォスファターゼ症の ex vivo 遺伝子治療. 日本人類遺伝学会学術集会 (第 57 回) (東京都新宿区), 2012. 10.
- 11) Watanabe A¹⁾, Naing B, Sasaki M¹⁾, Akutsu K²⁾, Kosaiharu S³⁾, Gemma A³⁾, Shimada T¹⁾ (¹⁾ Div Clinical Genetics, ²⁾ Div Intensive and Cardiac Care Unit, ³⁾ Div Pulmonary med, Infectious dis, and Oncology, Dept Internal Med) : An intronic mutation affecting pre-mRNAsplicing in the COL3A1 gene as novel mechanisms causingvascular Ehlers-Danlos syndrome.. American Society of Human Genetics Annual Meeting 2012 (San-francisco), 2012. 11.
- 12) Naing B, Watanabe A¹⁾, Hatamochi A²⁾, Morisaki H³⁾, Shimada T¹⁾ (¹⁾ Division of Clinical Genetics, ²⁾ Department of Dermatology, Dokkyo Medical University, ³⁾ Department of Bioscience, National Cerebral and Cardiovascular Center, Osaka) : Phenotype differences in patients with nonsense mutations of COL3A1 causing nonsense-mediated mRNA decay in vascular Ehlers-Danlos Syndrome. First International Symposium on the Ehlers-Danlos Syndrome (Ghent (Belgium)), 2012. 6.
- 13) Watanabe A¹⁾, Naing B, Shimada T¹⁾ (¹⁾ Division of Clinical Genetics) : A novel gene therapy strategy for vascular Ehlers-Danlos syndrome. First International Symposium on the Ehlers-Danlos Syndrome (Ghent (Belgium)), 2012. 6.
- 14) Watanabe A¹⁾, Hatakeyama M^{1, 2)}, Tsunoda R³⁾, Matsumoto K⁴⁾, Kawame H²⁾, Shimada T¹⁾ (¹⁾ Division of Clinical Genetics, ²⁾ Genetic counseling program, graduate school of humanities and sciences, Ochanomizu University, ³⁾ Department of Orthopedics, ⁴⁾ Department of Biosignaling and Radioisotope Experiment Center for Integrated Research in Science, Shimane University, Yonago) : Hypermobility Syndrome in Japan. First International Symposium on the Ehlers-Danlos Syndrome (Ghent (Belgium)), 2012. 6.
- 15) Watanabe A¹⁾, Fujita A, Hatakeyama M¹⁾, Watanabe H, Shimada T¹⁾, Matsumoto K²⁾ (¹⁾ Division of Clinical Genetics, ²⁾ Shimane University) : The first case of Tenascin-X deficient type Ehlers-Danlos syndrome in Japan. European Human Genetics Conference 2012 (Nürnberg (Germany)), 2012. 6.
- 16) Watanabe A¹⁾, Satoh S²⁾, Fujita A, Naing B, Orimo H, Shimada T¹⁾ (¹⁾ Division of Clinical Genetics, ²⁾ Aomori Prefectural Central Hospital) : PERINATAL (LETHAL) TYPE OF HYPOPHOSPHATASIA RESULTING FROM PATERNAL ISODISOMY OF CHROMOSOME 1. Alkaline Phosphatasie and Hypophosphatasia International Symposium (6th) (Hugine (France)), 2012. 5.
- 17) 渡邊 淳¹⁾, 鈴木由美¹⁾, 山本基子, 峯 克也²⁾, Naing B, 竹下俊行²⁾, 折茂英生³⁾, 島田 隆¹⁾ (¹⁾ 付属病院 遺伝診療科, ²⁾ 付属病院 女性診療科・産科, ³⁾ 生化学・分子生物学) : 低フォスファターゼ症の遺伝診療周産期型における出生前からの follow up の必要性. 日本人類遺伝学会第 57 回大会 (東京), 2012. 10.
- 18) 佐々木元子¹⁾, 小川 令²⁾, 藤田京志¹⁾, Naing B, 赤石論史²⁾, 百東比古²⁾, 島田 隆¹⁾, 渡邊 淳¹⁾ (¹⁾ 付属病

- 院 ゲノム先端医療部, ²⁾ 附属病院 形成外科・美容外科) : 日本人におけるケロイドの重症度と遺伝子多型の相関関係. 日本人類遺伝学会第 57 回大会 (東京), 2012. 10.
- 19) 渡辺 淳, 平井幸彦, 飯島 修, 山崎吉之, 三宅紀子, 山本基子, 佐々木元子, 島田 隆, 三宅弘一 : 学生実習におけるゲノム DNA・遺伝情報の取り扱いに関する一考察. 日本遺伝カウンセリング学会学術集会 (第 36 回) (松本), 2012. 6.
- 20) 谷 杏彌¹⁾, 渡辺 淳²⁾, 島田 隆²⁾, 松本智司¹⁾, 山田岳史¹⁾, 原 敬介¹⁾, 内田英二¹⁾ (¹⁾ 附属病院 消化器外科, ²⁾ 附属病院 ゲノム先端医療部) : マイクロアレイを用いた大腸癌組織における経時的遺伝子発現変化の検討. 日本遺伝子診療学会第 19 回大会 (千葉), 2012. 7.
- 21) 原 敬介¹⁾, 渡辺 淳²⁾, 松本智司²⁾, 山岸杏彌¹⁾, 島田 隆¹⁾, 内田英二¹⁾ (¹⁾ 附属病院 消化器外科, ²⁾ 附属病院 ゲノム先端医療部) : 保存状態の異なる大腸癌検体 (FFPE, 凍結) から抽出した RNA ならびに遺伝子発現の検討. 日本臨床検査自動化学会第 44 回大会 (横浜), 2012. 10.
- 22) 森崎敦夫¹⁾, Naing B, 小川真吾¹⁾, 佐々木元子²⁾, 渡辺 淳²⁾, 島田 隆²⁾ (¹⁾ 第三学年, ²⁾ 附属病院 遺伝診療科) : 新規 COL3A1 遺伝子変異により血管型エーラスダンロス症候群 (vEDS) と診断した 1 症例. 日本医科大学医学会総会 (第 80 回) (東京), 2012. 9.
- 23) Naing B, 渡辺 淳¹⁾, 島田 隆¹⁾ (¹⁾ 附属病院 遺伝診療科) : hrMCA を基盤とした家族性動脈瘤遺伝子変異同定システムの開発. 日本遺伝子診療学会第 19 回大会 (千葉), 2012. 7.
- 24) 一戸 唱¹⁾, 五十嵐勉¹⁾, 飯島 修, 小野眞史¹⁾, 高橋 浩¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学附属病院 眼科) : 自発的開眼維持による涙液浸透圧の変化. 日本角膜学会総会 (第 37 回) (白浜町 (和歌山)), 2013. 2.

7. 薬理学

研究概要

24年度は以下の成果を得た。a：神経障害性疼痛モデルラットの1次感覚神経において、miR-7aの発現低下が侵害受容神経の興奮性亢進や慢性疼痛に寄与し、miR-7a 遺伝子導入により鎮痛作用が得られることを明らかにした。一方、miR-21は1次感覚神経において発現が上昇し、機能阻害により疼痛が減弱することを見出した。b：中脳背側縫線核における神経細胞の多様性を研究するためにGABA作動性ニューロンを蛍光顕微鏡下で視認できる系を導入して、背側縫線核における3種類の神経細胞の膜特性など、生物物理学的特性と5-HT受容体に対する薬理学的特性を明らかにした。また、自閉症モデル動物の中脳背側縫線核におけるセロトニン含有神経細胞のグルタミン酸作動シナプス電流を調べた。自閉症モデル動物では興奮性入力小さく、神経活動の低下が示唆された。c：精神疾患様行動異常を示すSchnurri-2欠損マウス及びSNAP-25変異マウスの海馬歯状回において神経細胞が非成熟状態にあることを明らかにした。ピロカルピン投与でんかんモデルマウスにおいて歯状回が部分的に脱成熟することを明らかにした。PSD-95変異マウスにおいて週齢及び部位依存的に海馬シナプス長期増強が亢進していることを明らかにした。d：妊娠期のデキサメタゾン投与によって、生まれた仔は発達期に5-HT_{1A}受容体mRNAと脳内セロトニン濃度の変化が先行し、不安様行動が成長後に出現した。この仔を生直後SSRIおよび5-HT_{1A}受容体作動薬で処置すると行動異常が回復することを見いだした。e：Brap2ヘテロ欠損マウスにおいて一部の細胞内情報伝達系が活性化していることを見いだした。f：ヒトを対象にした脳機能画像研究において、NK₁受容体拮抗薬アプレピタントは、報酬予測に関わる腹側線条体の脳活動を低下させた。注意機能に対しては、葛藤注意に関わる前部帯状回の脳活動が低下することを明らかにした。

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) Kobayashi K, Haneda E, Higuchi M¹), Suhara T¹), Suzuki H (¹ National Institute of Radiological Sciences) : Chronic fluoxetine selectively upregulates dopamine D1-like receptors in the hippocampus. *Neuropsychopharmacology* 2012 ; 37 (6) : 1500-1508.
- 2) Nagano M²), Liu M, Inagaki H¹), Kawada T¹), Suzuki H²) (¹ Department of Hygiene and Public Health, Nippon Medical School, ²Japan Science and Technology Agency, CREST) : Early intervention with fluoxetine reverses abnormalities in the serotonergic system and behavior of rats exposed prenatally to dexamethasone. *Neuropharmacology* 2012 ; 63 (2) : 292-300.
- 3) Muto Y¹), Sakai A, Sakamoto A¹), Suzuki H (¹ Departments of Anesthesiology, Nippon Medical School) : Activation of NK₁ receptors in the locus coeruleus induces analgesia through noradrenergic-mediated descending inhibition in a rat model of neuropathic pain. *Br J Pharmacol* 2012 ; 166 (3) : 1047-1057.
- 4) Makino A¹), Sakai A, Ito H¹), Suzuki H (¹ Department of Restorative Medicine of Neuro-musculoskeletal System, Orthopaedic Surgery, Graduate School of Medicine, Nippon Medical School) : Involvement of tachykinins and NK₁ receptor in the joint inflammation with collagen type II-specific monoclonal antibody-induced arthritis in mice. *J Nippon Med Sch* 2012 ; 79 (2) : 129-138.
- 5) Nagura H^{1,2)}, Ishikawa Y³⁾, Kobayashi K, Takao K⁴⁾, Tanaka T¹), Nishikawa K^{1,2)}, Tamura H³⁾, Shio-saka S³⁾, Suzuki H, Miyakawa T⁵⁾, Fujiyoshi Y^{1,2)}, Doi T¹) (¹ Department of Biophysics, Graduate School of Science, Kyoto University, ² Cellular and Structural Physiology Institute, Nagoya University, ³ Labora-

tory of Functional Neuroscience, Nara Institute of Science and Technology, ⁴⁾ Section of Behavior Analysis, Center for Genetic Analysis of Behavior, National Institute for Physiological Sciences, ⁵⁾ Division of Systems Medical Science, Institute for Comprehensive Medical Science, Fujita Health University) : Impaired synaptic clustering of postsynaptic density proteins and altered signal transmission in hippocampal neurons, and disrupted learning behavior in PDZ1 and PDZ2 ligand binding-deficient PSD-95 knockin mice. *Mol Brain* 2012 ; 5 : 43.

- 6) Gocho Y¹⁾, Sakai A, Yanagawa Y²⁾, Suzuki H³⁾, Saitow F³⁾ (¹⁾ Department of Pediatrics, Nippon Medical School, ²⁾ Department of Genetic and Behavioral Neuroscience, Gunma University Graduate School of Medicine and Japan Science and Technology Agency, CREST, ³⁾ Japan Science and Technology Agency, CREST) : Electrophysiological and pharmacological properties of GABAergic cells in the dorsal raphe nucleus. *J Physiol Sci* 2013 ; 63 (2) : 147-154.
- 7) Ohira K¹⁾, Kobayashi K, Toyama K¹⁾, Nakamura H¹⁾, Shoji H¹⁾, Takao K²⁾, Yamaguchi S³⁾, Kataoka M⁴⁾, Takahashi M⁵⁾, Miyakawa T^{1, 2)} (¹⁾ Division of Systems Medical Science, Institute for Comprehensive Medical Science, Fujita Health University, ²⁾ Center for Genetic Analysis of Behavior, National Institute for Physiological Sciences, ³⁾ Department of Morphological Neuroscience, Division of Neuroscience, Gifu University Graduate School of Medicine, ⁴⁾ Department of Environmental Science and Technology, Faculty of Engineering, Shinshu University, ⁵⁾ Department of Biochemistry, Kitasato University School of Medicine) : Synaptosomal-associated protein 25 mutation induces immaturity of the dentate granule cells of adult mice. *Mol Brain* 2013 ; 6 : 12.

(2) 総説 :

- 1) Ikeda Y, Koeda M¹⁾, Kim W¹⁾, Tateno A¹⁾, Okubo Y¹⁾, Suzuki H (¹⁾ Department of Neuropsychiatry, Graduate School of Medicine, Nippon Medical School) : Caffeines effects on attentional networks in healthy subjects : a pharmacological functional magnetic resonance imaging study. *J Nippon Med Sch* 2012 ; 79 (5) : 318-319.

著 書

- 1) Saitow F, Hirono M¹⁾, Suzuki H (¹⁾ RIKEN Brain Science Institute) : [分担] Serotonin and Synaptic Transmission in the Cerebellum. *Handbook of the Cerebellum and Cerebellar Disorders* (M. Manto, D.L. Gruol, J.D. Schmahmann, N.Koibuchi, F. Rossi), 2012 ; pp915-926, Springer.

学会発表

(1) シンポジウム :

- 1) 永野昌俊 : 胎児期ストレス誘導性の行動異常とセロトニンシグナリング. 第5回早稲田大学-日本医科大学合同シンポジウム第18回「性と生殖」公開シンポジウム (早稲田大学・国際会議場 (東京)), 2012. 12.
- 2) 小林克典, 井本有基¹⁾, 鈴木秀典, 瀬木-西田恵里²⁾ (¹⁾ 京都大院・薬・生体情報制御, ²⁾ 京都大院・薬・システム創薬) : 抗うつ作用の細胞基盤としての海馬神経脱成熟 (脳可塑性研究の新展開 : 生理機能から疾患まで). 第90回日本生理学会大会 (東京), 2013. 3.

(2) ワークショップ :

- 1) 齋藤文仁, 鈴木秀典 : 小脳核苔状線維におけるモノアミン作動性受容体のクロストーク : Cross-talk of monoaminergic receptors at mossy fiber -deep cerebellar nuclei synapses. 活性アミンに関するワークショップ (北海道札幌市), 2012. 8.

(3) 一般講演：

- 1) Takao K^{1,2)}, Kobayashi K, Hagihara H¹⁾, Ohira K¹⁾, Toyama K¹⁾, Shoji H¹⁾, Nakamura H¹⁾, Esaki K³⁾, Furuya S³⁾, Takagi T^{4,5)}, Walton N⁶⁾, Hayashi N⁷⁾, Suzuki H, Matsumoto M⁶⁾, Miyakawa T^{1,2)}, et al. (1) Division of Systems Medical Science, Institute for Comprehensive Medical Science, Fujita Health University, 2) Section of Behavior Patterns, Center for Genetic Analysis of Behavior National Institute for Physiological Sciences, 3) Department of Bioscience and Biotechnology, Graduate School of Bioresource and Bioenvironmental Sciences, Kyushu University, 4) RIKEN Tsukuba Institute, 5) Institute for Developmental Research, Aichi Prefectural Colony, 6) Astellas Research Institute of America LLC, Skokie, IL, 7) Graduate School of Bioscience and Biotechnology, Tokyo Institute of Technology) : Deficiency of Schnurri-2, an MHC enhancer binding protein, induces mild chronic inflammation in the brain and confers molecular, neuronal, and behavioral phenotypes related to schizophrenia. 14th Annual Genes, Brain and Behavior Meeting of IBANGS (Boulder, Colorado, USA), 2012. 5.
- 2) Miyake N¹⁾, Miyake K¹⁾, Sakai A, Yamamoto M¹⁾, Endo A¹⁾, Suzuki H, Shimada T¹⁾ (1) Department of Biochemistry and Molecular Biology, Division of Gene Therapy Research Center for Advanced Medical Technology, Nippon Medical School) : Gene therapy of adult MLD model mice by intrathecal administration of type 9 AAV vector. ASGCT 15th Annual Meeting and Training Course (Philadelphia, Pennsylvania, USA), 2012. 5.
- 3) Takao K^{1,2)}, Kobayashi K, Esaki K³⁾, Furuya S³⁾, Takagi T^{4,5)}, Walton N⁶⁾, Hayashi N⁷⁾, Suzuki H, Matsumoto M⁶⁾, Ishii S⁴⁾, Miyakawa T^{1,2)} (1) Division of Systems Medical Science, Institute for Comprehensive Medical Science, Fujita Health University, 2) Section of Behavior Patterns, Center for Genetic Analysis of Behavior National Institute for Physiological Sciences, 3) Department of Bioscience and Biotechnology, Graduate School of Bioresource and Bioenvironmental Sciences, Kyushu University, 4) RIKEN Tsukuba Institute, Tsukuba, 5) Institute for Developmental Research, Aichi Prefectural Colony, 6) Astellas Research Institute of America LLC, Skokie, IL, 7) Graduate School of Bioscience and Biotechnology, Tokyo Institute of Technology) : Deficiency of Schnurri-2, an MHC enhancer binding protein, induces mild chronic inflammation in the brain and confers molecular, neuronal, and behavioral phenotypes related to schizophrenia. 28th CINP World Congress of Neuropsychopharmacology (Stockholm, Sweden), 2012. 6.
- 4) Miyake N¹⁾, Miyake K¹⁾, Sakai A, Yamamoto M¹⁾, Endo A¹⁾, Suzuki H, Shimada T¹⁾ (1) Department of Biochemistry and Molecular Biology, Division of Gene Therapy Research Center for Advanced Medical Technology, Nippon Medical School) : Successful treatment of adult MLD model mice by intrathecal administration of AAV9 vector. The 18th Annual Meeting JSGT 2012 (Kumamoto), 2012. 6.
- 5) Nakayama A¹⁾, Kubota R¹⁾, Arai Y¹⁾, Katayama A²⁾, Suzuki H, Shiba K¹⁾, Iijima S¹⁾ (1) Faculty of Health Science Technology, Bunkyo Gakuin University, 2) Department of Medical and Biological Chemistry, Nippon Medical School) : Identification of urinary exosomal proteins by two dimensional gel electrophoresis. Human Proteome Organization 11th Annual World Congress (Boston, USA), 2012. 9.
- 6) Karibe H¹⁾, Aoyagi-Naka K¹⁾, Koeda M²⁾, Tateno A²⁾, Koda A¹⁾, Suzuki H, Okubo Y²⁾ (1) Nippon Dental University, 2) Department of Neuropsychiatry, Graduate School of Medicine, Nippon Medical School) : Cerebral activation associated with sounds of dental treatment in subjects with dental fear : An fMRI study. 21st Congress of International Association for Disability and Oral health (Melbourne, Australia), 2012. 10.
- 7) 鈴木智弓¹⁾, 高須久望子¹⁾, 上東悦子²⁾, 落合陽子¹⁾, 渡部厚^{—3)}, 浅川 伸¹⁾, 赤間高雄¹⁾, 鈴木秀典 (1) 日本アンチドーピング機構, 2) 国立スポーツ科学センター, 3) 筑波大学大学院人間総合科学研究科) : 国内医薬品のドーピング防止に関する情報提供. 第15回日本医薬品情報学会総会 (東大阪市), 2012. 7.

- 8) 小林克典¹⁾, 井本有基²⁾, 瀬木-西田恵里³⁾, 鈴木秀典¹⁾ (1) JST, CREST, 2) 京都大院・薬・生体情報, 3) 京都大院・薬・システム創薬): 電気けいれん刺激は海馬歯状回顆粒細胞の機能的成熟を逆転させる: Electroconvulsive stimulation reverses functional maturation of granule cells in the hippocampal dentate gyrus. 第35回日本神経科学大会(愛知県名古屋市), 2012. 9.
- 9) 永野昌俊¹⁾, 劉 明妍, 鈴木秀典¹⁾ (1) JST, CREST): フルオキセチンによる早期介入が胎生期にグルココルチコイドに暴露されたラットにおけるセロトニン神経系と行動の異常を改善する: Early intervention with fluoxetine reverses abnormalities in the serotonergic system and behavior of prenatally glucocorticoid-exposed rats. 第35回日本神経科学大会(愛知県名古屋市), 2012. 9.
- 10) 坂井 敦, 齋藤文仁, 三宅紀子¹⁾, 三宅弘一¹⁾, 島田 隆¹⁾, 鈴木秀典 (1) 日本医科大・医・生化学分子生物学): DRG 神経における miR-7a 過剰発現は神経障害性疼痛を特異的に抑制する: miR-7a overexpression in the DRG neurons suppresses neuropathic pain without affecting physiological and inflammatory pain. 第35回日本神経科学大会(愛知県名古屋市), 2012. 9.
- 11) 池田裕美子, 佐治可奈子¹⁾, 新貝慈利²⁾, 館野 周²⁾, 高橋英彦³⁾, 大久保善朗²⁾, 深山治久¹⁾, 鈴木秀典 (1) 東京医歯大院・麻酔生体管理理学, 2) 日本医科大院・医・精神行動医学, 3) 京都大院・医・精神医学): 健常者における報酬処理に対する NK₁ 受容体拮抗薬の効果: 薬理学的 fMRI 研究 Effects of an NK₁ receptor antagonist on reward processing in healthy individuals: a pharmacological fMRI study. 第35回日本神経科学大会(愛知県名古屋市), 2012. 9.
- 12) 牛腸義宏, 齋藤文仁, 柳川右千夫¹⁾, 鈴木秀典 (1) 群馬大学大学院医学系研究科遺伝発達行動学): 縫線核における GABA 作動性ニューロンの形態的特徴と電気生理学的特性の解析: Morphological and Electrophysiological Properties of GABAergic Cells in the Dorsal Raphe Nucleus. 第35回日本神経科学大会(愛知県名古屋市), 2012. 9.
- 13) 井本有基¹⁾, 小林克典, 瀬木-西田恵里²⁾ (1) 京都大院・薬・生体情報制御, 2) 京都大院・薬・システム創薬): 電気けいれん刺激による海馬歯状回の神経成熟マーカー発現変化: Electroconvulsive Seizure Reduces Expression of Neuronal Maturation Markers in the Dentate Gyrus of Hippocampus. 第35回日本神経科学大会(愛知県名古屋市), 2012. 9.
- 14) 鈴木智弓¹⁾, 赤間高雄²⁾, 奥脇 透³⁾, 川原 貴³⁾, 河野一郎⁴⁾, 土肥美智子³⁾, 山澤文裕⁵⁾, 渡部厚一⁶⁾, 和田野安良⁷⁾, 鈴木秀典 (1) 筑波大学スポーツ R&D コア, 2) 早稲田大学スポーツ科学学術院, 3) 国立スポーツ科学センター, 4) 筑波大学, 5) 丸紅健康開発センター, 6) 筑波大学体育系, 7) 茨城県立医療大学): ドーピング禁止物質の治療目的使用に関する申請の推移. 第23回臨床スポーツ医学会学術集会(神奈川県横浜市), 2012. 11.
- 15) Nagahara N¹⁾, Nagano M, Ito T²⁾, Suzuki H (1) Isotope Research Center, Nippon Medical School, 2) Dept of Pathol Experiment Med, Grad Sch of Med Sci, Kumamoto Uni): MST knockout mouse production and comprehensive analysis (3). 第85回日本生化学会大会(福岡県福岡市), 2012. 12.
- 16) 中山亜紀¹⁾, 荒井勇輝¹⁾, 久保田亮¹⁾, 片山 映²⁾, 鈴木秀典, 飯島史朗¹⁾, 芝紀代子¹⁾ (1) 文京学院大学保健医療技術学部, 2) 日本医科大学・生化学分子生物学): 健常人尿中エキソソームタンパク質の基礎的解析 2. 第23回生物試料分析科学会年次学術集会(大阪府大阪市), 2013. 2.
- 17) 中山亜紀¹⁾, 香坂亜沙美¹⁾, 平賀香奈子¹⁾, 片山 映²⁾, 鈴木秀典, 芝紀代子¹⁾ (1) 文京学院大学保健医療技術学部, 2) 日本医科大学・生化学分子生物学): 尿中エキソソームタンパク質の基礎的解析. 第9回腎・泌尿器検査研究会学術集会(東京), 2013. 3.
- 18) 坂井 敦, 齋藤文仁, 三宅紀子¹⁾, 三宅弘一¹⁾, 島田 隆¹⁾, 鈴木秀典 (1) 日本医科大・医・生化学分子生物学): miR-7a は電位依存性ナトリウムチャンネル β 2 サブユニットの発現調節により慢性期神経障害性疼痛を緩和する: miR-7a alleviates the maintenance of neuropathic pain by regulating the voltage-gated sodium channel β 2 subunit. 第86回日本薬理学会年会(福岡県福岡市), 2013. 3.

- 19) 船山拓也¹⁾, 池田裕美子, 舘野 周²⁾, 高橋英彦³⁾, 大久保善朗²⁾, 深山治久¹⁾, 鈴木秀典 (¹⁾ 東京医歯大院・麻酔生体管理学, ²⁾ 日本医科大院・医・精神行動医学, ³⁾ 京都大院・医・精神医学) : 健常者における報酬処理に対するモダフィニルの効果 : 薬理的 fMRI 研究. 第 86 回日本薬理学会年会 (福岡県福岡市), 2013. 3.
- 20) 牛腸義宏, 齋藤文仁, 柳川右千夫¹⁾, 坂井 敦, 鈴木秀典 (¹⁾ 群馬大学大学院医学系研究科遺伝発達行動学) : マウス背側縫線核におけるニューロンの電気生理学的特性. 第 90 回日本生理学会大会 (東京), 2013. 3.
- 21) Miyake N¹⁾, Miyake K¹⁾, Sakai A, Yamamoto M¹⁾, Endo A¹⁾, Suzuki H, Shimada T¹⁾ (¹⁾ Department of Biochemistry and Molecular Biology, Division of Gene Therapy Research Center for Advanced Medical Technology, Nippon Medical School) : Gene therapy of adult MLD model mice by intrathecal administration of type 9 AAV vector. 第 4 回国際ライソゾーム病フォーラム・第 17 回日本ライソゾーム病研究会 (東京), 2012. 10.
- 22) Miyake N¹⁾, Miyake K¹⁾, Sakai A, Yamamoto M¹⁾, Endo A¹⁾, Suzuki H, Shimada T¹⁾ (¹⁾ Department of Biochemistry and Molecular Biology, Division of Gene Therapy Research Center for Advanced Medical Technology, Nippon Medical School) : AAV9 mediated gene therapy of MLD model mice. 20th Annual Meeting of the European Society of Gene & Cell Therapy (Versailles, France), 2012. 10.

8. 病理学（解析人体病理学）

研究概要

基礎的な研究としては、肺、腎、移植、眼の病理を中心に行なわれた。肺では、抗酸化力を利用した水素分子治療、肺傷害と survivin、間質性肺炎と肺気腫における改築など、腎ではスタチンの腎障害抑制、腎線維化と MMP-2、リンパ管の発生、腎臓の急性 GVHD、急性肝不全に伴う急性腎障害、糸球体内皮傷害、糸球体疾患の IV 型コラーゲン α 鎖、虚血再灌流時の HMGB-1、ANCA 関連血管炎のサイトカイン環境、糸球体密度、SLE のエンドキサンパルス療法、IgA 腎症の扁桃パルス + ミゾリピン併用療法など、移植では、臓器保存、腎移植後蛋白尿に対するリツキサン、HGF と制御性 T 細胞、CD40 阻害による T 細胞活性化抑制、異種腎移植の病理、ラット肝臓移植など、眼では、角膜アルカリ熱傷と角膜混濁などが報告された。診断病理学に関しては、特発性間質性肺炎、薬剤性肺障害、ARDS、IgG4 関連肺疾患や Multicentric Castleman Disease の肺病変、特発性肺線維症の新ガイドライン、メタボリックシンドローム、巣状糸球体硬化症、急性腎障害、単クローン性 IgG 沈着を伴う糸球体腎炎、日本における高齢者と若年者の腎疾患の特長などが報告された。学内外の臨床各科との共同研究による臨床病理学的研究、症例報告も行われた。原発巣の同定が困難であった neuroendocrine carcinoma、everolimus 治療後の肉芽腫性間質性肺炎、子宮ポリープ状異型腺筋、Immunotactoid glomerulopathy、クリオグロブリン腎症、Dense Deposit Disease、パルボウイルス B19 感染症、多発血管炎性肉芽腫症、抗糸球体基底膜抗体腎炎、Sjögren 症候群、膜性腎症へのイコデキストリンを用いた腹膜透析などの報告が行われた。また、臨床各科との臨床病理検討会が行われ、報告としてまとめられた。

研究業績

論文

〔追加分〕

追加分総説：

- 1) 岩下山連, 清水 章：糖尿病性腎症とメタボリックシンドロームにおける腎障害, 病理診断の問題点. 腎と透析 2012 ; 73 (8) : 152-157.

(1) 原著：

- 1) Yoshida T¹, Shimizu A, Masuta Y, Mii A², Fjita E², Yoshizaki K³, Higo S, Kanzaki G¹, Kajimoto Y, Takano H¹, Fukuda Y (¹ Division of Nephrology, Tokyo Teishin Hospital, ² Department of Internal Medicine Division of Neurology, Nephrology, and Rheumatology, ³ Department of Pediatrics) : Caspase-3-independent internucleosomal DNA fragmentation in ischemic acute kidney injury. Nephron Exp Nephrol 2012 ; 120 (3) : 103-113.
- 2) Shimizu A, Yamada K¹, Robson S¹, Sachs D¹, Colvin R¹ (¹ Transplantation Biology Research Center, Massachusetts General Hospital, Boston, USA) : Pathologic characteristics of transplanted kidney xenografts. J Am Soc Nephrol 2012 ; 23 (2) : 225-235.
- 3) Fujita E¹, Shimizu A, Kaneko T¹, Masuda Y, Ichihara C¹, Mii A¹, Higo S, Kajimoto Y, Kanzaki G, Nagasaka S, Iino S¹, Katayama Y¹, Fukuda Y (¹ Department of Internal Medicine Division of Neurology, Nephrology, and Rheumatology) : Proliferative glomerulonephritis with monoclonal immunoglobulin G3 κ deposits in association with parvovirus B19 infection. Hum Pathol 2012 ; 43 (12) : 2326-2333.
- 4) Tanabe M¹, Shimizu A, Masuda Y, Kataoka M, Ishikawa A, Wakamatsu K, Mii A², Fujita E², Higo S, Kaneko T², Kawachi H³, Fukuda Y (¹ Nippon Medical School, ² Department of Internal Medicine

- Division of Neurology, Nephrology, and Rheumatology, ³Department of Cell Biology, Institute of Nephrology, Niigata University Graduate School of Medical and Dental Sciences, Niigata, Japan) : Development of lymphatic vasculature and morphological characterization in rat kidney. *Clin Exp Nephrol* 2012 ; 16 (6) : 833-842.
- 5) Du X, Shimizu A, Masuda Y, Kuwahara N, Arai T, Kataoka M, Uchiyama M, Kaneko T¹), Akimoto T²), Iino Y¹), Fukuda Y (¹ Department of Internal Medicine Division of Neurology, Nephrology and Rheumatology, ² Division of Laboratory Animal Science) : Involvement of matrix metalloproteinase-2 in the development of renal interstitial fibrosis in mouse obstructive nephropathy. *Lab Invest* 2012 ; 92 (8) : 1149-60.
 - 6) Oku M¹), Okumi M¹), Shimizu A, Sahara H²), Setoyama K²), Nishimura H²), Sada M²), Scalea M²), Ido A¹), Sachs D²), Tsubouchi H²), Yamada K²) (¹ Transplantation Biology Research Center, Massachusetts General Hospital, Boston, USA, ² Division of Organ Replacement and Xenotransplantation Surgery, Center for Advanced Biomedical Science and Swine Research, Kagoshima University) : Hepatocyte growth factor sustains T regulatory cells and prolongs the survival of kidney allografts in major histocompatibility complex-inbred CLAWN-miniature swine. *Transplantation* 2012 ; 93 (2) : 148-155.
 - 7) Oura T¹), Yamashita K, K¹), Suzuki T¹), Fukumori M¹), Watanabe M¹), Hirokata G¹), Wakayama K¹), Miura T²), Okimura K²), Haga H³), Kubota K³), Shimizu A, Sakai F⁴), Furukawa F¹), Toda S¹) (¹ Department of General Surgery, Hokkaido University Graduate School of Medicine, ² Pharmacological Research Laboratories, Kyowa Hakko Kirin Co., Ltd., ³ Department of Surgical Pathology, Hokkaido University Hospital, ⁴ Astellas Pharma Inc.) : Long-Term Hepatic Allograft Acceptance Based on CD40 Blockade by ASKP1240 in Nonhuman Primates. *Am J Transplant* 2012 ; 12 (7) : 1740-1754.
 - 8) Ishii E, Shimizu A, Takahashi M, Terasaki M, Kunugi S, Nagasaka S, Terasaki Y, Ohashi R¹), Masuda Y, Fukuda Y (¹ Division of Diagnostic Pathology, Nippon Medical School Hospital) : Surgical technique of orthotopic liver transplantation in rats : The kamada technique and a new splint technique for hepatic artery reconstruction. *J Nippon Med Sch* 2013 ; 80 (1) : 4-15.
 - 9) Weiner J¹), Scalea J¹), Ishikawa Y¹), Okumi M¹), Griesemer A¹), Hirakata A¹), Etter J¹), Gillon B¹), Moran S¹), Shimizu A, Yamada K¹), Sachs D¹) (¹ Transplantation Biology Research Center Massachusetts General Hospital, Harvard Medical School, Boston, MA, USA) : Tolerogenicity of donor major histocompatibility complex-matched skin grafts in previously tolerant Massachusetts general hospital miniature swine. *Transplantation* 2012 ; 94 (12) : 1192-1199.
 - 10) Igarashi T¹), Igarashi T²), Shimizu A, Itoh Y¹) (¹ Department of Pediatrics, ² Department of Ophthalmology) : Intravenous cyclophosphamide pulse therapy in Japanese children with SLE. *J Nippon Med Sch* 2012 ; 79 (5) : 286-290.
 - 11) Yokoyama H¹), Sugiyama H²), Sato H³), Shimizu A (¹ Division of Nephrology, Kanazawa Medical University School of Medicine, ² Department of Medicine and Clinical Science, Okayama University Graduate School of Medicine Dentistry and Pharmaceutical Sciences, ³ Division of Nephrology, Tohoku University Graduate School of Medicine) : Renal disease in the elderly and the very elderly Japanese : analysis of the Japan Renal Biopsy Registry (J-RBR). *Clin Exp Nephrol* 2012 ; 16 (6) : 903-920.
 - 12) Matsui S¹), Hebizawa A²), Sakai F³), Yamamoto H⁴), Terasaki Y, Kurihara Y⁵), Waseda Y⁶), Kawamura T⁷), Miyashita T⁸), Inoue H⁹), Hata N, Masubuchi H, Sugino K, Kobayashi H, Ogura T¹⁰), et al. (¹ Health Administration Center, University of Toyama, Toyama, ² Division of Clinical Pathology, NHO Tokyo National Hospital, ³ Department of Radiology, Saitama International Medical Center, Saitama Medical Univer-

sity, ⁴⁾ First Department of Internal Medicine, Shinshu University School of Medicine, Nagano, ⁵⁾ Department of Radiology, St. Marianna University School of Medicine, ⁶⁾ Department of Respiratory Medicine, Kanazawa University School of Medicine, Ishikawa, ⁷⁾ Department of Respiratory Medicine, NHO Himeji Medical Center, Hyogo, ⁸⁾ Department of Internal Medicine, Osaka City General Hospital, Osaka, ⁹⁾ Department of Pulmonary Medicine, Graduate School of Medical and Dental Sciences, Kagoshima University, Kagoshima, ¹⁰⁾ and others) : Immunoglobulin G4-related lung disease : clinicroadiological and pathological features. *Respirology* 2012 ; 18 (3) : 480-487.

(2) 総説 :

- 1) 神崎 剛, 清水 章 : ネフローゼ症候群の病理と最近の進歩. *腎と透析* 2012 ; 72 (6) : 815-820.
- 2) 寺崎泰弘, 福田 悠 : 肺・呼吸器領域とIgG4関連疾患. *腎と透析* 2012 ; 73 (5) : 681-685.
- 3) 福田 悠 : 新ガイドラインからみたUIPの病理診断. 特集 : 特発性肺線維症の新ガイドラインをめぐって. *日本胸部臨床* 2013 ; 72 (3) : 257-266.
- 4) 福田 悠 : 間質性肺炎と肺気腫における改築とII型肺胞上皮細胞の関わり. *分子呼吸器病* 2013 ; 17 (1) : 155-158.

(3) 研究報告書 :

- 1) 寺崎泰弘, 鈴木徹也¹⁾, 大澤郁朗¹⁾, 漆山博和, 寺崎美佳, 高橋美紀子, 功刀しのぶ, 石川吾利美, 桑原尚美, 福田 悠 (¹⁾ 東京都健康長寿医療センター研究所環境老化) : 抗酸化力を利用した水素分子治療による肺障害の抑制と応用. *びまん性肺疾患に関する調査研究 平成24年度研究報告書* 2013 ; 25 : 335-344.

(4) 症例報告 :

- 1) Igarashi T¹⁾, Ito Y¹⁾, Shimizu A, Igarashi T²⁾, Yoshizaki K¹⁾, Fukunaga Y¹⁾ (¹⁾ Department of Pediatrics, ²⁾ Department of Ophthalmology) : A case of Juvenile Sjögrens Syndrome with Interstitial Nephritis. *J Nippon Med Sch* 2012 ; 79 (4) : 286-90.
- 2) 三浦由記子^{1, 2)}, 峯岸裕司²⁾, 齋藤好信²⁾, 寺崎美佳, 福田 悠, 弦間昭彦²⁾ (¹⁾ 日本医科大学大学院医学研究科呼吸器感染腫瘍内科学, ²⁾ 日本医科大学内科呼吸器・感染・腫瘍部門) : 頸部リンパ節転移, 縦隔リンパ節転移を初発症状とし, 原発巣の同定が困難であったneuroendocrine carcinomaの1例. *日医大医会誌* 2012 ; 8 (2) : 162-167.
- 3) Takada D¹⁾, Mii A¹⁾, Obara Y¹⁾, Kurabayashi Y¹⁾, Kurosawa N¹⁾, Miura S¹⁾, Kawauchi H¹⁾, Shimizu A (¹⁾ Department of Internal Medicine Division of Neurology, Nephrology and Rheumatology) : Successful treatment of Icodextrin-Single Peritoneal Dialysis for Refractory Nephrotic Syndrome Induced by Idiopathic Membranous Nephropathy. *CEN Case Rep* 2012 ; 1 (1) : 16-23.
- 4) Yamada T¹⁾, Arakawa Y¹⁾, Mii A¹⁾, Kashiwagi T¹⁾, Kaneko T¹⁾, Utsumi K¹⁾, Masuda Y, Shimizu A, Iino Y¹⁾, Katayama Y¹⁾ (¹⁾ Department of Internal Medicine Division of Neurology, Nephrology and Rheumatology) : A case of monoclonal immunoglobulin G1-lambda deposition associated with membranous feature in a patient with hepatitis C viral infection. *Clin Exp Nephrol* 2012 ; 16 (3) : 468-472.
- 5) Saito Y¹⁾, Kunugi S, Suzuki Y²⁾, Narita K¹⁾, Miura Y¹⁾, Minegishi Y¹⁾, Kimura G²⁾, Kondo Y²⁾, Azuma A¹⁾, Fukuda Y, Gemma A¹⁾ (¹⁾ Department of Pulmonary Medicine and Oncology, ²⁾ Department of Urology) : Granuloma-forming interstitial pneumonia occurring one year after the start of everolimus therapy. *Intern Med* 2013 ; 52 (2) : 263-7.
- 6) Kashiwagi T¹⁾, Hayama N¹⁾, Fujita E¹⁾, Hara K¹⁾, Mii A¹⁾, Masuda Y, Iino Y¹⁾, Shimizu A, Katayama Y¹⁾ (¹⁾ Department of Internal Medicine Division of Neurology, Nephrology and Rheumatology) : A case of (double) ANCA negative granulomatosis with polyangiitis (Wegener). *CEN* 2012 ; 1 : 104-111.
- 7) 朱 時世¹⁾, 林 亜美¹⁾, 松本 博¹⁾, 岡田知也¹⁾, 長岡由女¹⁾, 外丸 良¹⁾, 長尾俊孝¹⁾, 中尾俊之¹⁾, 清水 章,

藤田恵美子, 永井洋子²⁾ (1) 東京医科大学病院腎臓内科, ²⁾ 東邦大学医療センター大森病院) : 腎生検から何を学ぶか : 急性腎不全を合併し非典型的な病理組織像を呈した急性糸球体腎炎の1例. 腎と透析 2012 ; 73 (5) : 727-740.

- 8) 越智文美¹⁾, 大坪 茂¹⁾, 武井 卓¹⁾, 内田啓子¹⁾, 湯村和子¹⁾, 河村俊治³⁾, 秋葉 隆²⁾, 新田孝作¹⁾, 清水 章, 藤田恵美子, 中林公正⁴⁾ (1) 東京女子医科大学第四内科, ²⁾ 東京女子医科大学血液浄化療法科, ³⁾ 東京女子医科大学第一病理, ⁴⁾ 杏林大学医学部第一内科) : 腎生検から何を学ぶか : 肉芽腫病変を認めた抗糸球体基底膜抗体腎炎の1例. 腎と透析 2012 ; 73 (4) : 595-606.

著 書

- 1) 三井亜希子¹⁾, 清水 章 : [分担] 腎病理. In AKI (急性腎障害) のすべて - 基礎から臨床までの最近知見 (和田隆志, 古市賢吾), 2012 ; pp38-52, 南江堂.
- 2) 福田 悠 : [分担] 特発性間質性肺炎の病態生理 (病気の成り立ち). 特発性間質性肺炎を究める (瀧澤 始), 2012 ; pp126-130, メディカルビュー社.
- 3) 福田 悠 : [分担] 第3部. 一般的によく見られる組織病理. B. 薬剤障害. 2. 肺. 病理と臨床. 臨時増刊号 (病理解剖マニュアル) (深山正久, 船田信顕, 黒田誠), 2012 ; pp233-239, 文光堂.
- 4) 福田 悠 : [分担] 代表疾患の病理像. DVD で学ぶ実践呼吸器病学 (日本呼吸器学会教育委員会), 2012 ; メディカルフォト.
- 5) 福田 悠 : [分担] 代表疾患の病理像. DVD で学ぶ実践呼吸器病学 (日本呼吸器学会教育委員会), 2012 ; メディカルフォト.

学会発表

[追加分]

追加分一般講演 :

- 1) 成田宏介¹⁾, 野呂林太郎¹⁾, 豊川 優¹⁾, 西島伸彦¹⁾, 菅野哲平¹⁾, 峯岸裕司¹⁾, 清家正博¹⁾, 吉村明修¹⁾, 久保田馨¹⁾, 弦間昭彦¹⁾, 高橋美紀子, 功刀しのぶ, 川本雅司²⁾, 原田 大³⁾, 土屋眞一³⁾, その他1名 (1) 日本医科大学内科学 呼吸器・感染・腫瘍部門, ²⁾ 帝京大学医学部附属溝口病院臨床病理科, ³⁾ 日本医科大学付属病院病理部) : 両側肺多発結節影を契機に診断に至った HIV 感染合併 histiocytic sarcoma の1例. 日本肺癌学会関東支部 (第162回), 2011. 12.

(1) 教育講演 :

- 1) 清水 章 : 微小変化型ネフローゼ症候群 (MCNS) と巣状糸球体硬化症 (FSGS) の亜系と診断. 腎病理夏の学校 in 山形 (第8回), 2012. 8.
- 2) 福井 亮¹⁾, 仲長奈央子¹⁾, 高根鉦希¹⁾, 眞部真弓¹⁾, 坪井伸夫¹⁾, 横尾 隆¹⁾, 宮崎陽一¹⁾, 宇都宮保典¹⁾, 細谷龍男¹⁾, 清水 章 (1) 東京慈恵会医科大学 腎臓・高血圧内科) : IgG3- κ 単クローン性免疫グロブリン糸球体沈着症の1例. 東京腎生検カンファレンス, 2012. 9.
- 3) 清水 章 : 巣状分節性糸球体硬化症の診断と最近の話題. 北海道腎カンファレンス (第7回), 2012. 10.
- 4) 清水 章 : 病理からみたネフローゼ症候群, 巣状分節性糸球体硬化症の診断と最近の話題. 高知腎病理カンファレンス, 2012. 11.
- 5) 寺崎泰弘 : 肺病変を有する MCD (Multicentric Castleman Disease) の病理学的検討 (IgG4 関連肺疾患との比較). 東京びまん性肺疾患研究会 (第13回), 2012. 10.

(2) ワークショップ :

- 1) 福田 悠 : 間質性肺炎の病態と診断-特発性間質性肺炎. 日本病理学会総会 (第101回), 2012. 4.

- 2) 清水 章：糸球体沈着症と Proliferative glomerulonephritis with monoclonal IgG deposits (PGNMID). 日本腎臓学会東部学術大会 (第 42 回), 2012. 10.
- (3) 一般講演：
- 1) 内山昌明, 益田幸成, 清水 章, 永坂真也, 高橋 浩¹⁾, 福田 悠⁽¹⁾ 付属病院眼科)：ラット角膜アルカリ熱傷における脈管新生とコラーゲン. 日本病理学会総会 (第 101 回), 2012. 4.
 - 2) 肥後清一郎¹⁾, 清水 章, 永坂真也, 梶本雄介, 神崎 剛²⁾, 三井亜希子¹⁾, 金子朋広¹⁾, 内海甲一¹⁾, 飯野靖彦¹⁾, 片山泰朗¹⁾, 益田幸成, 福田 悠⁽¹⁾ 付属病院内科 神経・腎臓・膠原病リウマチ部門, ²⁾ 東京慈恵医科大学 腎臓高血圧内科)：ラット骨髄移植モデルにおける腎臓の急性移植片対宿主病 (急性 GVHD) の病理学的特徴. 日本病理学会総会 (第 101 回), 2012. 4.
 - 3) 益田幸成, 清水 章, 片岡光枝, 肥後清一郎, 永坂真也, 佐渡義一¹⁾, 福田 悠⁽¹⁾ 重井医学研究所免疫部門)：糸球体疾患における IV 型コラーゲンの構成 α 鎖 ($\alpha 1\sim 6$ 鎖) の検討. 日本病理学会総会 (第 101 回), 2012. 4.
 - 4) 永坂真也, 清水 章, 益田幸成, 寺崎泰弘, 寺崎美佳, 高橋美紀子, 功刀しのぶ, 福田 悠：スタチン処理マクロファージを用いた糸球体腎炎抑制効果の検討. 日本病理学会総会 (第 101 回), 2012. 4.
 - 5) 清水 章, 杜 玄一, 益田幸成, 桑原尚美, 新井孝司, 片岡光枝, 梶本雄介, 神崎 剛, 肥後清一郎, 福田 悠：MMP-2 は上皮間葉転換機構を介して腎間質線維化の進展に関与している. 日本病理学会総会 (第 101 回), 2012. 4.
 - 6) 寺崎泰弘, 蛇澤 晶¹⁾, 河端美則²⁾, 能登原憲司³⁾, 熊坂利夫⁴⁾, 武村民子⁴⁾, 福田 悠⁽¹⁾ 国立病院機構東京病院臨床研究部, ²⁾ 埼玉県立循環器呼吸器センター臨床診断科, ³⁾ 倉敷中央病院病理検査科, ⁴⁾ 日本赤十字社医療センター病理部)：IgG4 関連肺炎患の病理学的検討. 日本病理学会総会 (第 101 回), 2012. 4.
 - 7) 寺崎美佳, 寺崎泰弘, 若松恭子, 永坂真也, 漆山博和, 高橋美紀子, 功刀しのぶ, 福田 悠：肺傷害における survivin の役割. 日本病理学会総会 (第 101 回), 2012. 4.
 - 8) 清水 章, 杜 玄一, 桑原尚美, 新井孝司, 片岡光枝, 肥後清一郎, 神崎 剛, 梶本雄介, 益田幸成, 福田 悠：マトリックスメタロプロテアーゼ-2 は腎間質線維化に関与している. 日本腎臓学会学術総会 (第 55 回), 2012. 6.
 - 9) 三井亜希子¹⁾, 清水 章, 金子朋広¹⁾, 藤田恵美子¹⁾, 益田幸成, 飯野靖彦¹⁾, 片山泰朗¹⁾, (1) 付属病院内科 神経・腎臓・膠原病リウマチ部門)：管内増殖性病変における糸球体毛細血管傷害の検討. 日本腎臓学会学術総会 (第 55 回), 2012. 6.
 - 10) 安田文彦¹⁾, 清水 章, 三井亜希子¹⁾, 藤田恵美子¹⁾, 金子朋広¹⁾, 益田幸成, 飯野靖彦¹⁾, 福田 悠, 片山泰朗¹⁾ (1) 付属病院内科 神経・腎臓・膠原病リウマチ部門)：RPS により提唱された糖尿病性腎症の組織病理分類. 日本腎臓学会学術総会 (第 55 回), 2012. 6.
 - 11) 鎌野千佐子¹⁾, 清水 章, 益田幸成, 肥後清一郎, 神崎 剛, 梶本雄介, 五十嵐徹³⁾, 柳原 剛⁴⁾, 金子朋広²⁾, 飯野靖彦²⁾, 片山泰朗²⁾, 福田 悠⁽¹⁾ 博慈会腎クリニック, ²⁾ 付属病院内科 神経・腎臓・膠原病リウマチ部門, ³⁾ 付属病院科小児科, ⁴⁾ 付属武蔵小杉病院小児科)：IgA 腎症における糸球体血管極部, 癒着部, ボウマン嚢周囲の小血管新生. 日本腎臓学会学術総会 (第 55 回), 2012. 6.
 - 12) 金子朋広¹⁾, 上田佳恵¹⁾, 三井亜希子¹⁾, 藤田恵美子¹⁾, 清水 章, 飯野靖彦¹⁾, 片山泰朗¹⁾ (1) 付属病院内科 神経・腎臓・膠原病リウマチ部門)：IgA 腎症の重症度リスク群別における扁桃パルス+ミゾリピン併用療法の治療効果. 日本腎臓学会学術総会 (第 55 回), 2012. 6.
 - 13) 永坂真也, 清水 章, 益田幸成, 寺崎泰弘, 寺崎美佳, 高橋美紀子, 功刀しのぶ, 福田 悠：スタチン存在下で分化させたマクロファージは Cox-2 発現が増強する. 日本腎臓学会学術総会 (第 55 回), 2012. 6.
 - 14) 肥後清一郎¹⁾, 清水 章, 永坂真也, 梶本雄介, 三井亜希子¹⁾, 飯野靖彦¹⁾, 片山泰朗¹⁾, 益田幸成, 福田 悠⁽¹⁾ 付属病院内科 神経・腎臓・膠原病リウマチ部門)：ラット同種間骨髄移植後の急性移植片対宿主病 (急性

GVHD) の標的臓器としての腎臓. 日本腎臓学会学術総会 (第 55 回), 2012. 6.

- 15) Shimizu A, Ishii E, Masuda Y, Piao H¹⁾, Kuwahara N, Ishikawa A, Arai T, Morioka T¹⁾, Fukuda Y¹⁾ (Transplantation Biology Research Center, Massachusetts General Hospital, Boston, USA) : Renal peritubular capillary injury with impaired renal microcirculation in hepatic acute kidney injury in rats. ASN Kidney Week 2012 (San Diego), 2012. 11.
- 16) Nagasaka S, Shimizu A, Higo S, Kanzaki G, Iwashita T, Iwahori T, Masuda Y : Statin directly inhibit macrophage differentiation and activation, and provide anti-inflammatory function. ASN Kidney Week 2012 (San Diego), 2012. 11.
- 17) Higo S, Shimizu A, Masuda Y, Nagasaka S, Kajimoto Y, Kanzaki G, Mii A¹⁾, Iino Y¹⁾, Katayama Y¹⁾, Fukuda Y¹⁾ (Department of Internal Medicine Division of Neurology, Nephrology and Rheumatology) : The pathological characteristics of kidney in acute graft-versus-host disease after DA-to-Lewis rat bone marrow transplantation. ASN Kidney Week 2012 (San Diego), 2012. 11.
- 18) Kanzaki G, Shimizu A, Nagasaka S, Higo S, Iwashita T, Masuda Y : Glomerular expression of chemokines and proinflammatory cytokines in an experimental model of anti-neutrophil cytoplasmic autoantibody associated glomerulonephritis. ASN Kidney Week 2012 (San Diego), 2012. 11.
- 19) Mii A¹⁾, Masuda Y, Fukui M¹⁾, Kaneko T¹⁾, Tsuruoka S¹⁾, Iino Y¹⁾, Shimizu A¹⁾ (Department of Internal Medicine Division of Neurology, Nephrology and Rheumatology) : Leukocyte infiltration and glomerular capillary injury in endocapillary proliferative lesions in various glomerulonephritis. ASN Kidney Week 2012 (San Diego), 2012. 11.
- 20) Kamano C¹⁾, Shimizu A, Masuda Y, Higo S, Kanzaki G, Iino Y¹⁾, Fukuda Y, Katayama Y¹⁾ (Department of Internal Medicine Division of Neurology, Nephrology and Rheumatology) : Characteristics of periglomerular angiogenic small vessels in IgA nephropathy. ASN Kidney Week 2012 (San Diego), 2012. 11.
- 21) Takano H¹⁾, Yoshida T¹⁾, Masuda Y, Shimizu A¹⁾ (Tokyo Teishin Hospital) : Impaired glomerular capillary repair with persistent glomerular inflammation in streptozotocin induced diabetic nephropathy. ASN Kidney Week 2012 (San Diego), 2012. 11.
- 22) Yoshida T¹⁾, Takano H¹⁾, Masuda Y, Shimizu A¹⁾ (Tokyo Teishin Hospital) : Endothelial cell injury in acute active and chronic glomerular lesions in IgA nephropathy. ASN Kidney Week 2012 (San Diego), 2012. 11.
- 23) Fujita E¹⁾, Shimizu A, Kaneko T¹⁾, Masuda Y, Mii A¹⁾, Yamada T¹⁾, Nagasaka S, Iino Y¹⁾, Katayama Y¹⁾, Fukuda Y¹⁾ (Department of Internal Medicine Division of Neurology, Nephrology and Rheumatology) : Proliferative glomerulonephritis with monoclonal IgG deposits associated with immune disorder by parvovirus B19 or hepatitis C virus infection. ASN Kidney Week 2012 (San Diego), 2012. 11.
- 24) Kanzaki G¹⁾, Tsuboi E¹⁾, Utsunomiya Y¹⁾, Shimizu A, Kawamura T¹⁾, Hosono T¹⁾ (Distribution of Glomerular Density in Different Cortical Zones of the Human Kidney Jikei University School of Medicine) : Distribution of Glomerular Density in Different Cortical Zones of the Human Kidney. ASN Kidney Week 2012 (San Diego), 2012. 11.
- 25) Terasaki M, Terasaki Y, Urushiyama H, Nagasaka S, Takahashi M, Kunugi S, Wakamatsu K, Ishikawa A, Kuwahara N, Fukuda Y : Role of Survivin on Bleomycin-Induced Lung Injury. ATS (American Thoracic Society) International Conference (San Francisco), 2012. 5.
- 26) Mii A¹⁾, Shimizu A, Kaneko T¹⁾, Yasuda Y¹⁾, Fukui M¹⁾, Masuda Y, Iino Y¹⁾, Katayama Y¹⁾ (Department of Internal Medicine Division of Neurology, Nephrology and Rheumatology) : Glomerular capillary injury in the endocapillary proliferative lesions of various glomerulonephritis. ERA-EDTA Congress (49th)

- (Paris), 2012. 5.
- 27) Fukui M¹, Shimizu A, Mii A¹, Kaneko T¹, Masuda Y, Iino Y¹, Katayama Y¹, Fukuda Y (¹ Department of Internal Medicine Division of Neurology, Nephrology and Rheumatology) : The mechanism of the development of segmental glomerular sclerosis is idiopathic membranous nephropathy. ERA-EDTA Congress (49th) (Paris), 2012. 5.
- 28) Yasuda F¹, Shimizu A, Mii A¹, Fukui M¹, Kaneko T¹, Masuda Y, Iino Y¹, Katayama Y¹, Fukuda Y (¹ Department of Internal Medicine Division of Neurology, Nephrology and Rheumatology) : The pathologic classification of diabetic nephropathy is correlated with the clinical characteristics of diabetes mellitus. ERA-EDTA Congress (49th) (Paris), 2012. 5.
- 29) Shimizu A, Ishii E, Kanzaki G, Higo S, Kajimoto Y, Nagasaka S, Masuda Y, Fukuda Y : Chronic antibody-mediated rejection in rat orthotopic liver transplantation. International congress of the transplantation society (24th) (Berlin), 2012. 6.
- 30) Ishii E, Shimizu A, Kuwahara N, Kanzaki G, Higo S, Kajimoto Y, Nagasaka S, Masuda S, Fukuda Y : Hepatic artery reconstruction prevents ischemic graft injury, inhibits graft rejection, and mediates long-term graft acceptance in rat liver transplantation. International congress of the transplantation society (24th) (Berlin), 2012. 6.
- 31) 黒澤美穂¹, 吉田泰子², 岡田 啓², 水地大輔³, 益田幸成, 佐藤 茂⁴, 南学正臣¹, 清水 章, 高野秀樹² (¹ 東京大学医学部附属病院 腎臓内分泌内科, ² 東京通信病院腎臓内科, ³ 東京通信病院血液内科, ⁴ 形態解析共同研究施設) : ネフローゼ症候群を呈し, ステロイド内服で尿蛋白の改善を認めた Immunotactoid glomerulopathy の 1 例. 日本腎臓学会東部学術大会 (第 42 回), 2012. 10.
- 32) 岡田 啓¹, 高野秀樹¹, 吉田泰子¹, 南学正臣², 清水 章, 宮川 博³ (¹ 東京通信病院腎臓内科, ² 東京大学大学院腎臓内分泌内科, ³ 公立昭和病院腎臓内科) : 糖尿病性腎症の経過中に急性腎障害を契機に発見された クリオグロブリン腎症の 1 例. 日本腎臓学会東部学術大会 (第 42 回), 2012. 10.
- 33) 五十嵐徹¹, 清水 章, 吉崎 薫¹, 柳原 剛¹, 伊藤保彦¹ (¹ 付属病院小児科) : 溶連菌感染症が関与したと考えられる管内増殖性腎炎を合併した Dense Deposit Disease の 1 例. 日本腎臓学会東部学術大会 (第 42 回), 2012. 10.
- 34) 大塚智之¹, 大野 大¹, 酒井行直¹, 村澤恒男¹, 大橋隆治², 清水 章 (¹ 武蔵小杉病院腎臓内科, ² 付属病院病理部) : 基礎疾患が明らかではない proliferative glomerulonephritis with monoclonal IgG deposits の 1 例. 日本腎臓学会東部学術大会 (第 42 回), 2012. 10.
- 35) 大野 大¹, 大塚智之¹, 酒井行直¹, 村澤恒男¹, 大橋隆治², 清水 章 (¹ 武蔵小杉病院腎臓内科, ² 付属病院病理部) : 検診を機に発見された dense deposit disease の 1 例. 日本腎臓学会東部学術大会 (第 42 回), 2012. 10.
- 36) Tasaki M¹, Shimizu A, Kanekamp I¹, Torabi R¹, Villani V¹, Moran S¹, Cormack T¹, Gillon B¹, Yamada R¹, Fishman J¹, Robson S¹, Sachs D¹, Yamada K¹ (¹ Transplantation Biology Research Center, Massachusetts General Hospital, Boston, USA) : Prevention of early development of proteinuria by rituximab in a pig to baboon thymokidney model likely associated with modulating podocyte function in an SMPDL-3b-dependent manner. International congress of the transplantation society (24th) (Berlin), 2012. 6.
- 37) Sekijima M¹, Sahara H¹, Shimizu A, Iwanaga T¹, Oku M¹, Yamada K¹ (¹ Division of Organ Replacement and Xenotransplantation Surgery, Center for Advanced Biomedical Science and Swine Research, Kagoshima University) : Effect of static subnormothermic preservation following warm ischemia on ischemic-reperfusion injury and long term outcome of the renal allograft in CLAWN miniature swine. International congress of the transplantation society (24th) (Berlin), 2012. 6.

- 38) Sahara H¹⁾, Shimizu A, Sekijima M¹⁾, Setoyama K¹⁾, Oku M¹⁾, Nishimura H¹⁾, Yamada K¹⁾ (¹⁾ Division of Organ Replacement and Xenotransplantation Surgery, Center for Advanced Biomedical Science and Swine Research, Kagoshima University) : High-mobility group box-1 as a novel therapeutic target for reducing pulmonary ischemia-reperfusion injury in CLAWN miniature swine. International congress of the transplantation society (24th) (Berlin), 2012. 6.
- 39) 肥後清一郎：ラット同種間骨髄移植後に生じた急性移植片対宿主病（急性GVHD）による腎臓への影響. 日本医科大学医学会総会（第80回），2012. 9.
- 40) 永坂真也, 清水 章, 益田幸成, 寺崎泰弘, 功刀しのぶ, 高橋美紀子, 寺崎美佳, 肥後清一郎, 神崎 剛, 岩下山連, 梶本雄介, 岩堀 徹, 福田 悠：スタチンはマクロファージ分化・活性化を直接抑制し, 抗炎症機能を誘導する. 日本分子生物学会年会（第35回）, 2012. 12.
- 41) 重見大介¹⁾, 田村俊之¹⁾, 佐藤杏月¹⁾, 松橋智彦¹⁾, 山本晃人¹⁾, 川瀬里衣子¹⁾, 黒瀬圭輔¹⁾, 米山剛一¹⁾, 鴨井青龍¹⁾, 竹下俊行¹⁾, 寺崎美佳, 福田 悠 (¹⁾ 日本医科大学附属病院 女性診療科・産科) : 9年後に再発が認められた Atypical polypoid adenomyoma (APAM) の1例. 日本医科大学医学会総会（第80回）, 2012. 9.
- 42) 佐藤杏月^{1, 2)}, 彭 為霞¹⁾, 寺崎美佳, 葉山綾子³⁾, 松原美幸³⁾, 鴨井青龍²⁾, 朝倉啓文²⁾, 竹下俊行²⁾, 土屋眞一³⁾, 内藤善哉¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学 病理学教室 統御機構・腫瘍学, ²⁾ 日本医科大学附属病院 女性診療科・産科, ³⁾ 日本医科大学附属病院 病理部) : 細胞診でポリープ状異型腺筋腫 (Atypical polypoid adenomyoma : APAM) が疑われた1例. 日本臨床細胞学会 (第51回), 2012. 11.
- 43) Yamamoto H¹⁾, Kubo K¹⁾, Waseda Y²⁾, Matsui S³⁾, Ogura T⁴⁾, Hebisawa A⁵⁾, Sakai F⁶⁾, Miyashita T⁷⁾, Hata N⁸⁾, Masubuchi H⁹⁾, Shiraki A¹⁰⁾, Inoue M, Takagi T, Ishimatsu T, Terasaki Y, et al. (¹⁾ Shinshu, ²⁾ Kanazawa, ³⁾ Toyama, ⁴⁾ Yokohama, ⁵⁾ Kiyose, ⁶⁾ Saitama, ⁷⁾ Osaka, ⁸⁾ Kawaguchi, ⁹⁾ Maebashi, ¹⁰⁾ Joetsu) : Clinico-radiologic-pathological features in the lung involvement of IgG4-related disease. ATS (American Thoracic Society) International Conference (San Francisco), 2012. 5.
- 44) 鈴木徹也^{1, 2)}, 寺崎泰弘, 川口英夫²⁾, 大澤郁朗¹⁾ (¹⁾ 東京都健康長寿医療センター研究所 環境老化, ²⁾ 東洋大学生命科学部) : 水素水による抗がん剤ゲフィチニブの副作用抑制. 分子状水素医学シンポジウム (第3回), 2013. 2.
- 45) Fukuda Y, Takahashi M, Kunugi S, Terasaki M, Urushiyama H, Terasaki Y, Azuma A¹⁾ (¹⁾ Department of Pulmonary Medicine and Oncology) : Clinico-pathological analysis of acute respiratory distress syndrome (ARDS). ERS (European Respiratory Society) 2012 (Vienna), 2012. 9.

9. 病理学（統御機構・腫瘍学）

研究概要

病理学（統御機構・腫瘍学）では消化器癌などの腫瘍性疾患につき、腫瘍幹細胞に着目し、有効な診断法と新たな分子標的治療法の開発やプロテオーム解析によるバイオマーカーの探索を目指し研究している。1) 消化器腫瘍の増殖、転移機序の解明と治療応用：膵臓癌と大腸癌について研究を行なっている。中間径フィラメントの nestin が膵臓癌で高発現しており、癌の遊走、浸潤転移に関与することを明らかにした。Nestin は sphere を形成する膵癌細胞で多く発現し、癌幹細胞機能の制御に重要な因子であることを解明した。また、細胞増殖因子受容体 FGFR-2 のアイソフォームの FGFR-2 IIIc 受容体発現が腫瘍の増殖、浸潤に促進的に働いていることを確認した。さらに、IIIc アイソフォームの発現を抑制する ESRP1 が、膵臓癌の遊走と転移を制御することを明らかにした。2) 婦人科腫瘍の増殖機序の解明と治療応用：子宮頸部の異形成組織の進展に伴って、nestin の発現が増加し、全例の子宮頸癌で nestin の高発現がみられた。培養頸癌細胞を用いた検討でも、nestin が癌幹細胞機能に関連しており、新たな分子標的としての可能性を明らかにした。3) 他の腫瘍や非腫瘍疾患における増殖機序や病態進展の検討：皮膚腫瘍の悪性黒色腫において nestin の発現が、転移の制御につながることを明らかにした。また、一部の皮膚腫瘍の鑑別診断に、本教室で作成した抗 lumican 抗体が有用であることを報告した。さらに脳腫瘍や脳虚血再灌流などにおいても nestin が病態の進展に重要であることが明らかとなり、さらに研究を進めている。4) 腫瘍のプロテオーム解析によるバイオマーカーの探索：消化器、卵巣、皮膚腫瘍の病理組織標本パラフィン包埋組織の腫瘍・非腫瘍部位からタンパク質を抽出、プロテオーム解析、タンパク質発現プロファイルを作成し、バイオマーカー候補タンパク質の同定を行っている。候補タンパク質に関し、組織での発現パターンや mRNA 発現量に付いても解析している。今後も各種の腫瘍性疾患の有効な診断、分子標的治療法の臨床応用を目指して、日々の努力を重ねて行きたい。

研究業績

論文

〔追加分〕

追加分研究報告書：

- 1) 彭 為霞, 内藤善哉, 石渡俊行, 松田陽子, 山本哲志：子宮内膜癌及び前癌病変における FGFR2IIIc の役割の解明と新規治療及び予防を標的とした有効性の研究. 大和証券ヘルス財団研究業績集 2012；(35)：48-52.

(1) 原著：

- 1) Yoshida T²⁾, Matsuda Y¹⁾, Naito Z¹⁾, Ishiwata T¹⁾ (1) Departments of Pathology and Integrative Oncological Pathology, (2) Nippon Medical School) : CD44 in human gliomas correlates with histopathological grade and cell migration. *Pathol Int* 2012 ; 62 (7) : 463-470.
- 2) Sato A^{1,2)}, Ishiwata T¹⁾, Matsuda Y¹⁾, Yamamoto T¹⁾, Asakura H²⁾, Takeshita T²⁾, Naito Z¹⁾ (1) Departments of Pathology and Integrative Oncological Pathology, (2) Division of Reproductive Medicine, Perinatology and Gynecologic Oncology) : Expression and role of nestin in human cervical intraepithelial neoplasia and cervical cancer. *Int J Oncol* 2012 ; 41 (2) : 441-448.
- 3) Matsuda Y¹⁾, Hagio M¹⁾, Seya T²⁾, Ishiwata T¹⁾ (1) Departments of Pathology and Integrative Oncological Pathology, (2) Nippon Medical school Chiba Hokusou Hospital) : Fibroblast Growth Factor Receptor 2 IIIc as a Therapeutic Target for Colorectal Cancer Cells. *Molecular Cancer Therapeutics* 2012 ; 11 (9) : 2010-2020.
- 4) Matsuda Y, Hagio M, Ishiwata T : Nestin : a novel angiogenesis marker and possible target for tumor an-

giogenesis. *World J Gastroenterol* 2013 ; 19 (1) : 42-8.

- 5) Matsuda Y, Hagio M, Naito Z, Ishiwata T : Clinicopathological features of 30 autopsy cases of pancreatic carcinoma. *J Nippon Med Sch* 2012 ; 79 (6) : 459-67.
- 6) Yoshimura H, Matsuda Y, Naito Z, Murase M, Kawamoto Y, Ishiwata T : Ultra-high-resolution images of nestin and vimentin in pancreatic carcinoma cells using 2 novel microscopy systems. *J Nippon Med Sch* 2012 ; 79 (6) : 392-3.
- 7) Takeda M, Amano Y, Machida T, Kato S, Naito Z, Kumita S ⁽¹⁾ Department of Radiology, ⁽²⁾ Integrative Oncological Pathology) : CT, MRI, and PET findings of gastric schwannoma. *Jpn J Radiol* 2012 ; 30 (7) : 602-5.
- 8) Ishiwata T¹⁾, Matsuda Y¹⁾, Yamamoto T¹⁾, Uchida E²⁾, Korc M³⁾, Naito Z¹⁾ : Enhanced expression of fibroblast growth factor receptor 2 IIIc promotes human pancreatic cancer cell proliferation. *Am J Pathol* 2012 ; 180 (5) : 1928-41.
- 9) Yamamoto T, Matsuda Y, Kawahara K, Ishiwata T, Naito Z : Secreted 70kDa lumican stimulates growth and inhibits invasion of human pancreatic cancer. *Cancer Lett* 2012 ; 320 (1) : 31-9.
- 10) Yamahatsu K^{1, 2)}, Matsuda Y¹⁾, Ishiwata T¹⁾, Uchida E²⁾, Naito Z¹⁾ ⁽¹⁾ Integrative Oncological Pathology, ⁽²⁾ Surgery for Organ and Biological Regulation) : Nestin as a novel therapeutic target for pancreatic cancer via tumor angiogenesis. *Int J Oncol* 2012 ; 40 (5) : 1345-57.
- 11) Mine T¹⁾, Murata S¹⁾, Ueda T¹⁾, Onozawa S¹⁾, Onda M²⁾, Naito Z²⁾, Kumita S¹⁾ ⁽¹⁾ Department of Radiology, ⁽²⁾ Integrative Oncological Pathology) : Comparative study of cisplatin-iodized oil suspension and emulsion for transcatheter arterial chemoembolization of rabbit VX2 liver tumors. *Hepatol Res* 2012 ; 42 (5) : 473-81.
- 12) Cho K^{1, 2)}, Matsuda Y¹⁾, Ueda J^{1, 2)}, Uchida E²⁾, Naito Z¹⁾, Ishiwata T¹⁾ ⁽¹⁾ Integrative Oncological Pathology, ⁽²⁾ Surgery for Organ and Biological Regulation) : Keratinocyte growth factor induces matrix metalloproteinase-9 expression and correlates with venous invasion in pancreatic cancer. *Int J Oncol* 2012 ; 40 (4) : 1040-8.
- 13) Matsuda Y, Hagio M, Ishiwata T : Nestin : a novel angiogenesis marker and possible target for tumor angiogenesis. *World J Gastroenterol* 2013 ; 19 (1) : 42-8.
- 14) Matsuda Y¹⁾, Hagio M¹⁾, Seya T²⁾, Ishiwata T¹⁾ ⁽¹⁾ Integrative Oncological Pathology, ⁽²⁾ Department of Surgery, Chiba Hokuso Hospital) : Fibroblast growth factor receptor 2 IIIc as a therapeutic target for colorectal cancer cells. *Mol Cancer Ther* 2012 ; 11 (9) : 2010-20.
- 15) Matsuda Y, Kure S, Ishiwata T : Nestin and other putative cancer stem cell markers in pancreatic cancer. *Med Mol Morphol* 2012 ; 45 (2) : 59-65.
- 16) 秋元直彦¹⁾, 山口岳史¹⁾, 内藤善哉²⁾, 坂本長逸³⁾, 藤盛孝博¹⁾, その他8名 ⁽¹⁾ 獨協医科大学 病理学 (人体分子), ⁽²⁾ 統御機構病理学, ⁽³⁾ 外科学 (消化器・一般・乳腺・移植部門) : 【どこまで迫れる Colitic Cancer】《症例から学ぶ-これが colitic cancer だ》 Crohn 病に回腸癌を併発した1例. *消化器内視鏡* 2012 ; 24 (12) : 1954-59.
- 17) Matsuda Y, Kure S, Ishiwata T : Reply to a letter to the Editor : Nestin as a novel therapeutic target for cancer. *Med Mol Morphol* 2013 ; 46 (1) : 58-59.

(2) 総説 :

- 1) Matsuda Y¹⁾, Ueda J^{1, 2)}, Ishiwata T¹⁾ ⁽¹⁾ Departments of Pathology and Integrative Oncological Pathology, ⁽²⁾ Surgery for Organ and Biological Regulation) : Fibroblast growth factor receptor 2 : Expression, roles, and potential as a novel molecular target for colorectal cancer. *Patholog Res Int* 2012 ; 2012 : 54768.

- 2) Sekine T¹⁾, Amano Y¹⁾, Hidaka F¹⁾, Takagi R¹⁾, Machida T¹⁾, Naito Z²⁾, Kumita S¹⁾ (¹⁾ Department of Radiology, ²⁾ Integrative Oncological Pathology) : Hepatosplenic and muscular sarcoidosis : characterization with MR imaging. *Magn Reson Med Sci* 2012 ; 11 (2) : 83-9.
- (3) 症例報告 :
- 1) Takeda K¹⁾, Aimoto T¹⁾, Yoshioka M¹⁾, Nakamura K¹⁾, Yamahatsu K²⁾, Ishiwata T²⁾, Naito Z¹⁾, Miyashita M¹⁾, Uchida E (¹⁾ Department of Surgery, ²⁾ Integrative Oncological Pathology) : Dedifferentiated liposarcoma arising from the mesocolon ascendens : report of a case. *J Nippon Med Sch* 2012 ; 79 (5) : 385-90.

著 書

- 1) 山初和也^{1, 2)}, 松田陽子²⁾, 石渡俊行²⁾, 鈴木妙子²⁾, 川原清子²⁾, 相本隆幸¹⁾, 中村慶春¹⁾, 松下 晃¹⁾, 上田純志^{1, 2)}, 内藤善哉²⁾, 内田英二¹⁾ (¹⁾ 臓器病態制御外科学, ²⁾ 統御機構病理学) : [分担] 特集 1 癌分子標的治療 up to date 新たな分子標的治療としての Nestin による膵癌の腫瘍新生血管増殖抑制. 「癌の臨床」第 58 巻・第 6 号 (根本則道, 大倉康男, 他), 2012 ; pp355-360. 篠原出版株式会社.
- 2) 内藤善哉, 彭 為霞, 高田英志 : [自著] 今月の表紙 : 陶器様胆嚢炎に合併した胆嚢癌. *検査と技術* 40 巻 12 号 (医学書院), 2012 ; p1359, 医学書院.
- 3) 内藤善哉, 彭 為霞, 上田純志 : [自著] 今月の表紙 : 胃 GIST の肝転移. *検査と技術* 40 巻 8 号 (医学書院), 2012 ; p703, 医学書院.
- 4) Ishiwata T : [分担] Nestin [ChapterKey 307107] (Encyclopedia of Cancer). SpringerReference (Web) (Manfred Schwab (Heidelberg, Germany)), 2012 ; Springer.
- 5) Matsuda Y, Yoshimura H, Suzuki T, Ishiwata T : [分担] Nestin : Neural Stem/Progenitor Cell Marker in Brain Tumors. *Brain Tumors/Book2* (Lazinica A), 2013 ; pp623-638, InTech, Croatia.

学会発表

[追加分]

追加分一般講演 :

- 1) 川野陽一¹⁾, 谷谷信彦¹⁾, 中村慶春¹⁾, 松本智司¹⁾, 峯田 章¹⁾, 吉岡正人¹⁾, 上田純志^{1, 2)}, 水瀬 学¹⁾, 真々田裕宏¹⁾, 吉田 寛¹⁾, 内藤善哉²⁾, 内田英二¹⁾ (¹⁾ 外科学 (消化器・一般・乳腺・移植部門), ²⁾ 統御機構腫瘍学) : 術前診断に難渋し腹腔鏡にて切除した肝門部副脾の 1 例. 日本内視鏡外科学会総会 (第 25 回) (横浜), 2012. 2.
- 2) 山本哲志, 工藤光洋, 彭 為霞, 川原清子, 手塚 潔, 藤井雄文, 松田陽子, 石渡俊行, 内藤善哉 : 膵臓癌細胞の増殖・浸潤の制御に関わる lumican の機能解析. 日本薬学会年会 (第 132 回) (札幌), 2012. 3.

(1) 招待講演 :

- 1) Ishiwata T : Molecular therapeutic targets for gastrointestinal cancer : Fibroblast growth factor receptor 2. International Heidelberg Symposium on Cancer Research (18th) (Ulm, Germany), 2012. 6.
- 2) Matsuda Y¹⁾, Hagio M¹⁾, Yoshimura H¹⁾, Suzuki T¹⁾, Kawamoto Y¹⁾, Yanagisawa Y¹⁾, Kawahara K¹⁾, Korc M²⁾, Ishiwata T¹⁾ (¹⁾ Integrative Oncological Pathology, ²⁾ Department of Medicine, Dartmouth Medical School and Dartmouth Hitchcock Medical Center, USA) : EMT and stemness in human pancreatic cancer cells derived from metastatic foci of NOD/Shi-scid, IL-2 γ null (NOG) mice. International Heidelberg Symposium on Cancer Research (18th) (Ulm, Germany), 2012. 6.
- 3) Hagio M, Matsuda Y, Kawamoto Y, Yanagisawa Y, Suzuki T, Ishiwata T : Tumor-forming ability of side population of pancreatic ductal adenocarcinoma. International Heidelberg Symposium on Cancer Research

(18th) (Ulm, Germany), 2012. 6.

(2) 一般講演 :

- 1) Matsuda Y¹⁾, Hagio M¹⁾, Yanagisawa Y¹⁾, Suzuki T¹⁾, Naito Z¹⁾, Ishiwata T¹⁾ (1) Departments of Pathology and Integrative Oncological Pathology) : Nestin regulates stem cell functions of pancreatic cancer cells. American association for cancer research (103rd annual meeting 2012, AACR) (Chicago, IL, USA), 2012. 4.
- 2) Hagio M¹⁾, Matsuda Y¹⁾, Kawamoto Y¹⁾, Ishiwata T¹⁾ (1) Departments of Pathology and Integrative Oncological Pathology) : Comparison of tumor-forming ability in different fractions of pancreatic ductal adenocarcinoma cells. American association for cancer research (103rd annual meeting 2012, AACR) (Chicago, IL, USA), 2012. 4.
- 3) Kure S¹⁾, Matsuda Y¹⁾, Hagio M¹⁾, Suzuki T¹⁾, Ueda J^{1, 2)}, Yamahatsu K^{1, 2)}, Yamamoto T¹⁾, Ishiwata T¹⁾, Naito Z¹⁾ (1) Departments of Pathology and Integrative Oncological Pathology, 2) Surgery for Organ and Biological Regulation) : Expression of Cancer Stem Cell Markers in Pancreatic Ductal Adenocarcinomas and Pancreatic Intraepithelial Neoplasias. American association for cancer research (103rd annual meeting 2012, AACR) (Chicago, IL, USA), 2012. 4.
- 4) Ueda J^{1, 2)}, Matsuda Y¹⁾, Yamahatsu K^{1, 2)}, Uchida E²⁾, Naito Z¹⁾, Ishiwata T¹⁾ (1) Departments of Pathology and Integrative Oncological Pathology, 2) Surgery for Organ and Biological Regulation) : Epithelial Splicing Regulatory Protein 1 Modulates Cell Growth, Migration, and Invasion of Human Pancreatic Ductal Adenocarcinoma. American association for cancer research (103rd annual meeting 2012, AACR) (Chicago, IL, USA), 2012. 4.
- 5) Sato A^{1, 2)}, Ishiwata T¹⁾, Yamamoto T¹⁾, Matsuda Y¹⁾, Asakura H²⁾, Takeshita T²⁾, Naito Z¹⁾ (1) Departments of Pathology and Integrative Oncological Pathology, 2) Division of Reproductive Medicine, Perinatology and Gynecologic Oncology) : Role of stem cell marker, nestin in human uterine intraepithelial neoplasia and cervical cancer. American association for cancer research (103rd annual meeting 2012, AACR) (Chicago, IL, USA), 2012. 4.
- 6) Akiyama M^{1, 2)}, Matsuda Y¹⁾, Hagio M¹⁾, Kawahara K¹⁾, Suzuki T¹⁾, Ishiwata T¹⁾, Kawana S²⁾, Naito Z¹⁾ (1) Departments of Pathology and Integrative Oncological Pathology, 2) Department of Dermatology) : The stem cell marker nestin inhibits growth and invasion of malignant melanoma. American association for cancer research (103rd annual meeting 2012, AACR) (Chicago, IL, USA), 2012. 4.
- 7) Takayama R^{1, 2)}, Ishiwata T¹⁾, Ansai S²⁾, Yamamoto T¹⁾, Matsuda Y¹⁾, Kawana S²⁾, Naito Z¹⁾ (1) Integrative Oncological Pathology, 2) Department of Dermatology) : Lumican as a novel differential diagnostic maker for Bowen's disease and actinic keratosis. American association for cancer research (103rd annual meeting 2012, AACR) (Chicago, IL, USA), 2012. 4.
- 8) 呉 壮香¹⁾, 松田陽子¹⁾, 萩尾真人¹⁾, 鈴木妙子¹⁾, 柳沢祐次¹⁾, 上田純志^{1, 2)}, 山初和也^{1, 2)}, 山本哲志¹⁾, 内藤善哉¹⁾, 石渡俊行¹⁾ (1) 病理学 (統御機構・腫瘍学), 2) 外科学 (消化器・一般・乳腺・移植部門)) : 臍癌・PanIN における癌幹細胞マーカーの発現. 日本病理学会 (第 101 回) (東京), 2012. 4.
- 9) 佐藤杏月^{1, 2)}, 石渡俊行¹⁾, 山本哲志¹⁾, 松田陽子¹⁾, 朝倉啓文²⁾, 竹下俊行²⁾, 内藤善哉¹⁾ (1) 統御機構病理学, 2) 女性生殖発達病態学) : 子宮頸部異形成と子宮頸癌における nestin の発現と cancer stem cell との関連. 日本病理学会 (第 101 回) (東京), 2012. 4.
- 10) 高山良子^{1, 2)}, 石渡俊行¹⁾, 安齋眞一²⁾, 山本哲志¹⁾, 松田陽子¹⁾, 川名誠司²⁾, 内藤善哉¹⁾ (1) 病理学 (統御機構・腫瘍学), 2) 皮膚粘膜病態学) : 皮膚腫瘍の病理組織診断における lumican の有用性の検討. 日本病理学会 (第 101 回) (東京), 2012. 4.

- 11) 佐藤杏月^{1, 4)}, 彭 為霞¹⁾, 寺崎美佳²⁾, 葉山綾子³⁾, 松原美幸³⁾, 鴨井青龍⁴⁾, 朝倉啓文⁴⁾, 竹下俊行⁴⁾, 土屋眞一³⁾, 内藤善哉¹⁾ (1) 統御機構病理学, 2) 解析人体病理学, 3) 付属病院病理部, 4) 女性生殖発達病態学) : 細胞診でポリープ状異型腺筋腫 (Atypical polypoid adenomyoma : APAM) が疑われた1例. 日本臨床細胞学会秋期大会 (第51回) (新潟), 2012. 11.
- 12) 浅川一恵¹⁾, 土屋眞一¹⁾, 原田 大¹⁾, 斎藤良明¹⁾, 渡会泰彦¹⁾, 松原美幸¹⁾, 内藤善哉²⁾ (1) 付属病院病理部, 2) 統御機構病理学) : 神経内分泌細胞への分化を示す乳腺粘液癌の細胞学的検討. 日本臨床細胞学会秋期大会 (第51回) (新潟), 2012. 11.
- 13) 彭 為霞¹⁾, 佐藤杏月¹⁾, 高屋 茜¹⁾, 釜口晴美²⁾, 土屋眞一²⁾, 内藤善哉¹⁾ (1) 統御機構病理学, 2) 付属病院病理部) : 40代に発生した卵巣癌肉腫の1例. 日本臨床細胞学会秋期大会 (第51回) (新潟), 2012. 11.
- 14) 斎藤良明¹⁾, 松原美幸¹⁾, 葉山綾子¹⁾, 浅川一恵¹⁾, 渡会泰彦¹⁾, 内藤善哉²⁾, 土屋眞一¹⁾ (1) 付属病院病理部, 2) 統御機構病理学) : 乳腺疾患から見た筋上皮細胞の検討. 日本臨床細胞学会秋期大会 (第51回) (新潟), 2012. 11.
- 15) 鈴木 剛^{1, 2)}, 布施 明¹⁾, 横田裕行¹⁾, 松村智裕²⁾, 岡本 研²⁾, 草野輝男²⁾, 内藤善哉³⁾, 石渡俊行³⁾, 松田陽子³⁾, 西野武士¹⁾ (1) 付属病院 高度救命救急センター, 2) 代謝・栄養学, 3) 統御機構病理学) : キサンチン酸化還元阻害薬と3 vessel occlusion modelを用いたマウスの脳虚血再還流障害の解析. 日本救急医学会総会・学術集会 (第40回) (京都), 2012. 11.
- 16) 萩尾真人, 松田陽子, 鈴木妙子, 柳澤祐次, 河本陽子, 川原清子, 内藤善哉, 石渡俊行 : 睪癌細胞株における nestin 発現関連遺伝子の網羅的解析. 日本睪臓学会 (第43回) (山形), 2012. 6.
- 17) 上田純志^{1, 2)}, 松田陽子¹⁾, 山初和也^{1, 2)}, 内田英二²⁾, 内藤善哉¹⁾, 石渡俊行¹⁾ (1) 統御機構病理学, 2) 臓器病態制御外科学) : 睪癌における epithelial splicing regulatory protein1 (ESRP1) の発現の検討. 日本睪臓学会 (第43回) (山形), 2012. 6.
- 18) 鈴木英紀¹⁾, 笠原浩二²⁾, 内藤善哉^{1, 3)} (1) 形態解析共同研究施設, 2) 東京都医学総合研究所 細胞膜研究室, 3) 統御機構病理学) : アルブミン固相化カバースリップ上の血小板はトロンビン刺激で何故伸展するのか?. 日本血栓止血学会総会 (第34回) (東京), 2012. 6.
- 19) 佐藤杏月^{1, 2)}, 石渡俊行¹⁾, 鴨井青龍²⁾, 米山剛一²⁾, 土居大祐²⁾, 黒瀬圭輔²⁾, 山本晃人²⁾, 朝倉啓文²⁾, 竹下俊行²⁾, 内藤善哉¹⁾ (1) 統御機構病理学, 2) 女性生殖発達病態学) : 癌幹細胞マーカー nestin の子宮頸部異形成と子宮頸癌における発現と役割. 日本婦人科腫瘍学会総会 (第52回) (東京), 2012. 7.
- 20) Matsuda Y¹⁾, Hagio M¹⁾, Yoshimura H¹⁾, Kawamoto Y¹⁾, Kawahara K¹⁾, Suzuki T¹⁾, Yanagisawa Y¹⁾, Murase M¹⁾, Naito Z¹⁾, Korc M²⁾, Ishiwata T¹⁾ (1) Integrative Oncological Pathology, 2) Department of Medicine, Dartmouth Medical School and Dartmouth Hitchcock Medical Center, USA) : Nestin Regulating Molecule Network in Pancreatic Cancer. Pancreas Cancer 2012 in Kyoto (Kyoto, Japan), 2012. 9.
- 21) Ishiwata T¹⁾, Yoshimura H¹⁾, Naito Z¹⁾, Uchida E²⁾, Korc M³⁾, Matsuda Y¹⁾ (1) Integrative Oncological Pathology, 2) Surgery for Organ and Biological Regulation, 3) Department of Medicine, Dartmouth Medical School and Dartmouth Hitchcock Medical Center, USA) : Inhibitory Effects of Fibroblast Growth Factor Receptor 2 in Pancreatic Cancer. Pancreas Cancer 2012 in Kyoto (Kyoto, Japan), 2012. 9.
- 22) 秋山美知子^{1, 2)}, 松田 陽子¹⁾, 萩尾真人¹⁾, 河本陽子¹⁾, 川原清子¹⁾, 石渡俊行¹⁾, 川名誠司²⁾, 内藤善哉¹⁾ (1) 病理学 (統御機構・腫瘍学), 2) 皮膚粘膜病態学) : 中間径フィラメントタンパク質 nestin の母斑細胞性母斑および悪性黒色腫における発現の検討. 日本病理学会 (第101回) (東京), 2012. 4.
- 23) 山本哲志, 工藤光洋, 川原清子, 彭 為霞, 松田陽子, 石渡俊行, 内藤善哉 : 睪癌細胞における分泌型 lumican の増殖・浸潤への関与. 日本病理学会 (第101回) (東京), 2012. 4.
- 24) 工藤光洋¹⁾, 斉藤あゆむ²⁾, 長崎正朗²⁾, 山本哲志¹⁾, 彭 為霞¹⁾, 川原清子¹⁾, 藤井雄文¹⁾, 手塚 潔¹⁾, 宮野悟²⁾, 内藤善哉¹⁾ (1) 統御機構病理学, 2) 東京大学医科学研究所 ヒトゲノム解析センターゲノム機能解析分野) :

- 血糖制御に関わる分子機構シミュレーションモデルの構築. 日本病理学会 (第 101 回) (東京), 2012. 4.
- 25) 細根 勝¹⁾, 劉 愛民¹⁾, 片山博徳¹⁾, 丹野正隆¹⁾, 内藤善哉²⁾ (1) 多摩永山病院病理部, 2) 統御機構病理学): 乳糜様大量腹水の伴い effusion lymphoma の病態を呈した “signet-ring-cell” lymphoma (SRCL) の 1 例. 日本病理学会 (第 101 回) (東京), 2012. 4.
- 26) 片山博徳¹⁾, 丹野正隆¹⁾, 細根 勝¹⁾, 前田昭太郎¹⁾, 内藤善哉²⁾ (1) 多摩永山病院病理部, 2) 統御機構病理学): 中皮腫細胞と中皮細胞に対する細胞転写法を用いた免疫細胞化学染色による検討. 日本病理学会 (第 101 回) (東京), 2012. 4.
- 27) Peng W¹⁾, Kudo M¹⁾, Yamamoto T¹⁾, Inai K²⁾, Fujii T¹⁾, Teduka K¹⁾, Kawahara K¹⁾, Matsuda Y¹⁾, Ishiwata T¹⁾, Naito Z¹⁾ (1) Integrative Oncological Pathology, 2) Second Department of Pathology, Hiroshima University School of Medicine): A case of nodular fasciitis in parotid gland region. 日本病理学会 (第 101 回) (東京), 2012. 4.
- 28) 山本哲志, 工藤光洋, 高田英志, 彭 為霞, 手塚 潔, 藤井雄文, 内藤善哉: 大腸癌ホルマリン固定パラフィン包埋組織を用いたプロテオーム解析による新規診断マーカーの検索. 日本薬学会年会 (第 133 回) (横浜), 2013. 3.
- 29) Naito Z¹⁾, Peng W¹⁾, Isobe H²⁾, Katayama H²⁾, Hosone M²⁾, Tanno M²⁾, Maeda S¹⁾ (1) Integrative Oncological Pathology, 2) Division of Diagnostic Pathology, NMS Tama-Nagayama HP): Availability of cytological diagnoses in pancreatobiliary tract diseases and cytological slide seminar of pancreatobiliary tract lesions. Thai-Japanese Workshop in Diagnostic Cytopathology (The 20th) (Bangkok,Thailand), 2013. 1.
- 30) Kure S¹⁾, Peng W¹⁾, Matsubara M²⁾, Naito Z¹⁾ (1) Integrative Oncological Pathology, 2) Division of Diagnostic Pathology, NMS Hospital): A rare case of myxoid liposarcoma arose in adult foot. Thai-Japanese Workshop in Diagnostic Cytopathology (The 20th) (Bangkok,Thailand), 2013. 1.
- 31) Peng W¹⁾, Kudo M¹⁾, Yamamoto T¹⁾, Fujii T¹⁾, Teduka K¹⁾, Mitsui K²⁾, Kurose K³⁾, Kamoi S³⁾, Naito Z¹⁾ (1) Integrative Oncological Pathology, 2) Department of Internal Medicine, Division of Gastroenterology, NMS HP, 3) Department of Gynecology and Obstetrics, NMS HP): Hamartomatous endocervical polyp with malignant transformation in Peutz-Jeghers syndrome patient. Thai-Japanese Workshop in Diagnostic Cytopathology (The 20th) (Bangkok,Thailand), 2013. 1.
- 32) Takaya A^{1,2)}, Peng W¹⁾, Sato A^{1,2)}, Matsubara M³⁾, Kamoi S²⁾, Naito Z¹⁾ (1) Integrative Oncological Pathology, 2) Department of Gynecology and Obstetrics, NMS HP, 3) Division of Diagnostic Pathology, NMS Hospital): A case of the atypical polypoid adenomyoma of uterus and its cytology features. Thai-Japanese Workshop in Diagnostic Cytopathology (The 20th) (Bangkok,Thailand), 2013. 1.
- 33) 山初和也¹⁾, 松田陽子²⁾, 石渡俊行²⁾, 山本哲志²⁾, 萩尾真人²⁾, 相本隆幸¹⁾, 中村慶春¹⁾, 松下 晃¹⁾, 上田純志^{1,2)}, 内田英二¹⁾, 内藤善哉²⁾ (1) 臓器病態制御外科学, 2) 統御機構病理学): 癌分子標的治療 up to date Nestin による腺癌腫瘍新生血管増殖制御と新たな分子標的治療の可能性. 日本外科学会定期学術集会 (第 112 回) (千葉), 2012. 4.
- 34) 高山良子^{1,2)}, 安齋真一²⁾, 石渡俊行¹⁾, 山本哲志¹⁾, 松田陽子¹⁾, 内藤善哉¹⁾, 川名誠司²⁾ (1) 統御機構病理学, 2) 皮膚粘膜病態学): Seborrhic keratosis, clonal type と hidroacanthoma simplex における lumican の発現の検討. 日本皮膚科学会総会 (第 28 回) (福岡), 2012. 4.
- 35) 秋山美知子^{1,2)}, 松田陽子¹⁾, 萩尾真人¹⁾, 川原清子¹⁾, 石渡俊行¹⁾, 内藤善哉¹⁾, 川名誠司²⁾ (1) 統御機構病理学, 2) 皮膚粘膜病態学): 悪性黒色腫における nestin 抑制効果の検討. 日本皮膚科学会総会 (第 28 回) (福岡), 2012. 4.
- 36) 成田宏介^{1,2)}, 萩尾真人¹⁾, 松田陽子¹⁾, 清家正博²⁾, 弦間昭彦²⁾, 内藤善哉¹⁾, 石渡俊行¹⁾ (1) 統御機構病理学, 2) 呼吸器内科学): ネスチンは肺腺癌患者の術後予後不良に関連する. 日本癌学会総会 (第 71 回) (札幌), 2012.

9.

- 37) 秋山美知子^{1, 2)}, 松田陽子¹⁾, 萩尾真人¹⁾, 川原清子¹⁾, 鈴木妙子¹⁾, 山本哲志¹⁾, 川名誠司²⁾, 石渡俊行¹⁾, 内藤善哉¹⁾ (1) 統御機構病理学, 2) 皮膚粘膜病態学): 悪性黒色腫の増殖, 浸潤, 転移におけるネスチンの役割の検討. 日本癌学会総会 (第71回) (札幌), 2012. 9.
- 38) 上田純志^{1, 2)}, 松田陽子¹⁾, 内田英二²⁾, 山初和也²⁾, 内藤善哉¹⁾, 石渡俊行¹⁾ (1) 統御機構病理学, 2) 臓器病態制御外科学): 浸潤性膀胱癌における ESRP1 の発現と転移および予後との関連の検討. 日本癌学会総会 (第71回) (札幌), 2012. 9.
- 39) 石渡俊行¹⁾, 川原清子¹⁾, 鈴木妙子¹⁾, 河本陽子¹⁾, 柳澤祐次¹⁾, 内藤善哉¹⁾, コークマレー²⁾, 松田陽子¹⁾ (1) 統御機構病理学, 2) インディアナ大学): ネスチンを標的とした膀胱癌治療の分子病理的研究. 日本癌学会総会 (第71回) (札幌), 2012. 9.
- 40) 松田陽子¹⁾, 萩尾真人¹⁾, 吉村久志¹⁾, 鈴木妙子¹⁾, 河本陽子¹⁾, 柳澤祐次¹⁾, 川原清子¹⁾, コークマレー²⁾, 石渡俊行¹⁾ (1) 統御機構病理学, 2) インディアナ大学): 膀胱癌転移巣における癌幹細胞および上皮間葉転換マーカーの発現. 日本癌学会総会 (第71回) (札幌), 2012. 9.
- 41) 吉村久志, 松田陽子, 萩尾真人, 鈴木妙子, 河本陽子, 柳澤祐次, 川原清子, 石渡俊行: 免疫不全マウスを用いたヒト膀胱癌の同所移植モデルにおける in vivo イメージング. 日本癌学会総会 (第71回) (札幌), 2012. 9.
- 42) 山本哲志, 工藤光洋, 彭 為霞, 内藤善哉: 膀胱癌における lumican により発現調節されるタンパク質の網羅的解析. 日本癌学会総会 (第71回) (札幌), 2012. 9.
- 43) 萩尾真人, 松田陽子, 吉村久志, 河本陽子, 柳澤祐次, 石渡俊行: 膀胱癌細胞のサイドポピュレーションは腫瘍を高頻度に形成する. 日本癌学会総会 (第71回) (札幌), 2012. 9.
- 44) 内田英二¹⁾, 相本隆幸¹⁾, 松下 晃¹⁾, 中村慶春¹⁾, 山初和也¹⁾, 住吉宏樹¹⁾, 内藤善哉²⁾ (1) 臓器病態制御外科学, 2) 統御機構病理学): ハムスター膀胱癌モデルによる腫瘍進展の検討および治療実験. 日本癌学会総会 (第71回) (札幌), 2012. 9.
- 45) 松下 晃¹⁾, 住吉宏樹¹⁾, 川野陽一¹⁾, 水口義昭¹⁾, 吉岡正人¹⁾, 萩原信敏¹⁾, 松谷 毅¹⁾, 中村慶春¹⁾, 松本智司¹⁾, 相本隆幸¹⁾, 石渡俊行²⁾, 内藤善哉²⁾, 内田英二¹⁾ (1) 臓器病態制御外科学, 2) 統御機構病理学): 膀胱癌における Signal Transducer and Activator of Transcription 5 (STAT5) の発現と活性化について. 日本癌学会総会 (第71回) (札幌), 2012. 9.
- 46) 工藤光洋, 山本哲志, 彭 為霞, 手塚 潔, 藤井雄文, 内藤善哉: 大腸癌バイオマーカーのホルマリン固定パラフィン包埋組織切片を用いたプロテオミクス解析. 日本癌学会総会 (第71回) (札幌), 2012. 9.
- 47) Katayama H¹⁾, Tanno M¹⁾, Aimin L¹⁾, Hosone M¹⁾, Iwase H¹⁾, Maeda S¹⁾, Naito Z²⁾ (1) Division of Diagnostic Pathology, NMS Tama-Nagayama HP, 2) Integrative Oncological Pathology): The technical importance for definitive diagnosis of Mesothelioma by body fluid cytology. Thai-Japanese Workshop in Diagnostic Cytopathology (The 20th) (Bangkok, Thailand), 2013. 1.
- 48) Maeda S¹⁾, Katayama H¹⁾, Hosone M¹⁾, Tanno M¹⁾, Naito Z²⁾ (1) Division of Diagnostic Pathology, NMS Tama-Nagayama HP, 2) Integrative Oncological Pathology): How to make a definitive diagnosis of mesothelioma by body fluid cytology. Thai-Japanese Workshop in Diagnostic Cytopathology (The 20th) (Bangkok, Thailand), 2013. 1.

10. 微生物学・免疫学

研究概要

当微生物学免疫学講座では「生体防御システム制御法の開発」を主目的とし、「自然免疫」システム、特にその中枢担う樹状細胞との関わりに着目し研究を展開している。「第25回日本エイズ学会総会」でお招きした Geijtenbeek 教授との共同研究の成果を「Eur. J. Immunology 誌」に掲載することができた。感染症学および感染免疫学：[A] HIV 感染伝播機構の解明とその制御法の開発：(1) 現在流行中の HIV は、マクロファージ/樹状細胞群 (MΦ/DC) に感染する R5 型が主体であり、この R5 型 HIV が自然免疫を担う MΦ/DC ならびにナチュラルキラー T (NKT) 細胞群に潜伏感染し、これらの潜伏細胞が感染拡大に関わることを明らかにした。今後はこれら細胞内に潜伏する HIV 制御法を開発し、新たな HIV 制御法開発に着手する。また HIV-1 特異的キラー T 細胞がウイルス抗原によってアポトーシスに陥ること、そしてそれが Cyclosporin-A や Tacrolimus の前投与で回避できる可能性、並びに Apoptosis を起こしにくい CTL の誘導法について検討を加えそれぞれ国際誌に掲載した。(2) HTLV-I の持続感染細胞株を用いて ATL 発症のメカニズムの一端を明らかにした。(3) 樹状細胞の亜群であるランゲルハンス細胞を、E-cadherin をコートした培養プレート上で末梢血単核球より誘導出来ることを示した。腫瘍免疫学：[B] 粘膜免疫を介した抗腫瘍免疫の誘導：(1) 腫瘍内樹状細胞を検討したところ、腫瘍内内樹状細胞には抗腫瘍作用を有するものと腫瘍増殖を助けるものとが存在することを明らかにした。(2) 樹状細胞亜群 (DEC-205, 33D1) が妊娠維持ホルモンの影響を受けること、そしてそれらのバランスが IL-12 及び IL-13 によって妊娠出産が担われその破綻によって流産が誘発されることを発見した。

研究業績

論文

[追加分]

追加分研究報告書：

- 1) 高橋秀実：粘膜自然免疫を標的とした HIV の感染伝播とその制御。平成 24 年度厚生労働科学研究費補助金（地球規模保健課題推進研究事業）「日米医学協力を基軸とした HIV/AIDS の研究とアジアとの連携」分担研究報告書 2012.
- 2) 高橋秀実：膀胱癌に対する BCG 注入療法作用機序の解明。平成 22-24 年度文部科学省科学研究費補助金研究実績報告書 2012.

(1) 原著：

- 1) Atuskawa M¹⁾, Nakatuska K¹⁾, Kobayashi T¹⁾, Shimizu M, Tamura H¹⁾, Harimoto H¹⁾, Takahashi H, Sakamoto C¹⁾ (1) 3rd Department of Internal Medicine, Nippon Medical School) : Ribavirin down-modulates ICOS on CD4⁺ T-cells and their interleukin-10 secretion to assist clearance of hepatitis C virus. J Gastroenterol Hepatol 2012 ; 27 (4) : 823-831.
- 2) Kobayashi T¹⁾, Nakatsuka K¹⁾, Shimizu M, Tamura H¹⁾, Shinya E, Atsukawa M¹⁾, Harimoto H¹⁾, Takahashi H, Sakamoto C¹⁾ (1) 3rd Department of Internal Medicine, Nippon Medical School) : Ribavirin modulates the conversion of human CD4 (+) CD25 (-) T cell to CD4 (+) CD25 (+) FOXP3 (+) T cell via suppressing interleukin-10-producing regulatory T cell. Immunology 2012 ; 137 (3) : 259-270.
- 3) Inagaki S, Takahashi M, Fukunaga Y¹⁾, Takahashi H (1) Department of Pediatrics, Nippon Medical School) : HTLV-I-infected breast milk macrophages inhibit monocyte differentiation to dendritic cells. Viral Immunol

2012 ; 25 (2) : 106-116.

- 4) Negishi Y, Wakabayashi A, Shimizu M, Ichikawa T, Kumagai Y, Takeshita T¹⁾, Takahashi H (¹⁾ Department of Obstetrics and Gynecology, Nippon Medical School) : Disruption of maternal immune balance maintained by innate DC subsets results in spontaneous pregnancy loss in mice. *Immunobiology* 2012 ; 217(10) : 951-961.
- 5) 金森幸雄¹⁾, 金子勝美¹⁾, 渡理英二, 川名誠司¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学皮膚科) : アレルギー性接触皮膚炎の感作相は少なくとも2つのステップより構成され, その完成は皮膚の抗原に対する反応性の向上に重要である. *日医大医学会誌* 2012 ; 8 (3) : 199-206.
- 6) Nakagawa Y, Shimizu M, Norose Y, Takahashi M, Takahashi H : Induction of rapid apoptosis for class I MHC molecule-restricted CD8⁺ HIV-1 gp160-specific murine activated CTLs by free antigenic peptide in vivo. *Int Immunol* 2013 ; 25 (1) : 11-24.
- 7) Mayumi N, Watanabe E, Norose Y, Watari E, Kawana S¹⁾, Geijtenbeek-B T²⁾, Takahashi H (¹⁾ Department of Dermatology, Nippon Medical School, ²⁾ Department of Experimental Immunology, Academic Medical Center, University of Amsterdam) : E-cadherin interactions are required for Langerhans cell differentiation. *Eur J Immunol* 2013 ; 43 (1) : 270-280.
- 8) Takaku S, Nakagawa Y, Owaki A, Shimizu M, Takahashi M, Takahashi H : Induction of apoptosis-resistant and TGF-*b*-insensitive murine CD8⁺ CTLs specific for HIV-1 gp160. *Cell Immunol* 2013 ; 280 (2) : 138-147.
- 9) Takahashi H, Mayumi N, Watanabe E : Requirement of E-cadherin interactions for Langerhans cell differentiation. *J Nippon Med Sch* 2013 ; 80 (2).
- 10) 新谷英滋, 高橋秀実 : ヒト免疫不全ウイルス HIV-1 の Nef による樹状細胞 CD1 脂質抗原提示機能の低下. *臨床免疫・アレルギー科* 2012 ; 57 (2) : 269-274.
- 11) 金森幸雄¹⁾, 金子勝美¹⁾, 渡理英二, 川名誠司¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学・皮膚科学) : アレルギー性接触皮膚炎の感作相は少なくとも2つのステップより構成され, その完成は皮膚の抗原に対する反応性の向上に重要である. *日医大医学会誌* 2012 ; 8 (3) : 199-206.
- 12) Tamura H¹⁾, Ishibashi M¹⁾, Yamashita T¹⁾, Tanosaki S²⁾, Okuyama N¹⁾, Kondo A¹⁾, Hyodo H¹⁾, Shinya E, Takahashi H, Dong H³⁾, Tamada K^{4,5)}, Chen L⁶⁾, Dan K¹⁾, Ogata K¹⁾ (¹⁾ 3rd Department of Internal Medicine, Division of Hematology, Nippon Medical School, ²⁾ Division of Hematology, Fraternity Memorial Hospital, ³⁾ Department of Immunology and Urology, College of Medicine, Mayo Clinic, Rochester, ⁴⁾ Department of Otorhinolaryngology-Head and Neck Surgery, Marlene and Stewart Greenebaum Cancer Center, University of Maryland, ⁵⁾ Yamaguchi University Graduate School of Medicine, ⁶⁾ Department of Immunobiology, Yale School of Medicine) : Marrow stromal cells induce B7-H1 expression on myeloma cells, generating aggressive characteristics in multiple myeloma. *Leukemia* 2013 ; 27 (2) : 464-472.

(2) 総説 :

- 1) 村上 努¹⁾, 高橋秀実 (¹⁾ 国立感染症研究所, エイズ研究センター) : HIV と闘う宿主防御因子. *日本エイズ学会誌* 2012 ; 14 (2) : 1-3.
- 2) 高橋秀実 : 第 25 回日本エイズ学会シンポジウム記録 : エイズウイルスの侵入・棲息部位である粘膜組織におけるウイルス制御法を探る. *日本エイズ学会誌* 2012 ; 14 (2) : 11-14.
- 3) 高橋秀実 : HIV 感染制御における新たな標的としての自然免疫. *日本エイズ学会誌* 2012 ; 14 (2) : 15-19.
- 4) 高橋秀実 : HIV ワクチン開発のための新たな指標. *セフィーロ* 2012 ; 5 : 1-8.
- 5) 高橋秀実 : ビロリ菌と自己免疫. *臨床免疫・アレルギー科* 2012 ; 58 (3) : 355-360.
- 6) 高橋秀実 : Cross-presentation. *炎症と免疫* 2012 ; 20 (6) : 638-641.
- 7) 高橋秀実 : 丸山ワクチンの新展開. *遙か* 2013 ; 8 (1) : 39-43.

- 8) 高橋秀実：免疫と漢方：黄帝内経に啓示された古代人の智慧. 日本東洋医学会雑誌 2013；64（1）：1-9.

著書

- 1) 高橋秀実：〔分担〕第17章：免疫応答不全. 微生物学, 2012；pp343-364, メディカル・サイエンス・インターナショナル.
- 2) 高橋秀実：〔分担〕後天性免疫不全症候群. 血液症候群（別冊日本臨床）, 2013；pp317-321, 日本臨床社.
- 3) 高橋秀実：〔共著〕その他の2次性免疫不全症候群. 血液症候群（別冊日本臨床）, 2013；pp322-325, 日本臨床社.

学会発表

(1) シンポジウム：

- 1) 高橋秀実：丸山ワクチンによる自然免疫の活性化. 第10回NPO丸山ワクチンとがんを考える会（東京）, 2012. 5.
- 2) 高橋秀実：自然免疫と獲得免疫. 第29回和漢医薬学会学術大会（東京）, 2012. 9.

(2) ワークショップ：

- 1) 若林あや子：栄養と食品を学ぶために. 第7期アレルギー大学（千葉）, 2012. 7.
- 2) 若林あや子：アレルギー食の知識：食物アレルギーについて. アレルギー食事故防止対策研修会（東京）, 2013. 2.
- 3) Takahashi H：In vivo inhibition of HIV-1-specific apoptosis induced by brief exposure to viral epitope. The 26th Joint Scientific Meeting of AIDS Panels（Singapore）, 2013. 3.
- 4) Takahashi H：Suppression of virus replication within HIV-1-infected mucosal innate immuno-competent cells. The 26th Joint Scientific Meeting of AIDS Panels（Singapore）, 2013. 3.
- 5) 小林史子¹⁾, 渡邊恵理, 高橋秀実（¹⁾日本医科大学・小児科学）：ピロリ菌ウレアーゼ刺激によるマウス B-1a 細胞の TLR2 シグナルを介した自己抗体産生. 第18回日本ヘリコバクター学会学術集会（岡山）, 2012. 6.
- 6) 高久千鶴乃, 平馬直樹¹⁾, 高橋秀実（¹⁾日本医科大学・東洋医学科）：多様化する難病治療と漢方の位置付け：完全型ベーチェット病の症例を通じて. 第63回日本東洋医学会学術総会（京都）, 2012. 6.
- 7) 高橋秀実：丸山ワクチン作用機序に関する新たな知見. 第76回日本皮膚科学会東京支部学術大会（東京）, 2013. 2.

(3) 一般講演：

- 1) Negishi Y, Shimizu M, Ichikawa T, Takahashi H, Takeshita T¹⁾（¹⁾Department of Obstetrics and Gynecology, Nippon Medical School）：Increased secretion of IL-12 in murine fetal resorption induced by the depletion of a certain subset of dendritic cells. The Joint International Congress of the ASRI（American Society of Reproductive Immunology）and ESRI（European Society of Reproductive Immunology）（Hamburg）, 2012. 5.
- 2) 高橋めぐみ, 渡理英二, 高橋秀実：麻疹ウイルス持続感染細胞におけるミトコンドリア機能の解析. 日本ウイルス学会（第60回）（大阪）, 2012. 11.
- 3) 根岸靖幸, 清水真澄, 若林あや子, 市川智子, 高橋秀実, 竹下俊行¹⁾（¹⁾日本医科大学産婦人科学）：妊娠マウスにおける樹状細胞亜分画変動と IL-12 産生. 日本生殖免疫学会（第27回）（大阪）, 2012. 12.
- 4) Negishi Y, Wakabayashi A, Shimizu M, Ichikawa T, Takeshita T¹⁾, Takahashi H（¹⁾Department of Obstetrics and Gynecology, Nippon Medical School）：Maternal immune balance maintained by innate DC subsets appears to regulate pregnancy in mice. 日本免疫学会（第41回）（神戸）, 2012. 12.
- 5) Takahashi H, Kobayashi F, Koike E, Yamanishi S¹⁾, Norose Y, Nakagawa Y（¹⁾Department of Pediatrics,

- Nippon Medical School) : Auto-antibody production by murine B-1a cells stimulated with *Helicobacter pylori* urease through TLR2 signaling. 日本免疫学会 (第 41 回) (神戸), 2012. 12.
- 6) Wakabayashi A, Nakagawa Y, Shimizu M, Takahashi H : CD8⁺CD103⁺ dendritic cells in the mesenteric lymph-nodes cross-present exogenous antigens captured through DEC-205 receptor when they are orally administered with cholera toxin. 日本免疫学会 (第 41 回) (神戸), 2012. 12.
 - 7) Kumagai Y, Takahashi H : Epitope-grafted and antigenized antibodies can be used for versatile vaccination strategies to induce epitope-specific immune responses. 日本免疫学会 (第 41 回) (神戸), 2012. 12.
 - 8) Takaku S, Nakagawa Y, Owaki A, Shinya E, Takahashi M, Takahashi H : Induction of apoptosis-resistant and TGF-beta-insensitive murine CD8⁺ CTLs specific for HIV-1 gp160. 日本免疫学会 (第 41 回) (神戸), 2012. 12.
 - 9) Negishi Y, Noguchi Y^{1,3)}, Iwasaki N^{1,3)}, Sakai K²⁾, Kawai N^{1,3)}, Takeshita T³⁾ ⁽¹⁾ Department of Obstetrics and Gynecology, Tokyo Rinkai Hospital, ⁽²⁾ Department of Neurology, Tokyo Rinkai Hospital, ⁽³⁾ Department of Obstetrics and Gynecology, Nippon Medical School) : A case of paraneoplastic cerebellar degeneration caused by ovarian carcinoma. 日本婦人科学会 (第 64 回) (神戸), 2012. 4.
 - 10) 高橋秀実 : 自己免疫性肝炎, SLE に合併した血小板減少性紫斑病に奏功した温病をベースとした東洋医学的治療. 第 29 回和漢医薬学会学術大会 (東京), 2012. 9.
 - 11) 高久 俊, 大藪英一, 栗林秀樹, 高久千鶴乃, 廣田 薫¹⁾, 近江恭子, 小野顕人¹⁾, 平馬直樹¹⁾, 高橋秀実 ⁽¹⁾ 日本医科大学・東洋医学科) : 透析患者における重症高血圧症に対し漢方薬が著効した 2 例. 第 63 回日本東洋医学会学術総会 (京都), 2012. 6.
 - 12) 廣田 薫¹⁾, 近江恭子, 小野顕人¹⁾, 高久千鶴乃, 高久 俊¹⁾, 平馬直樹, 高橋秀実 ⁽¹⁾ 日本医科大学・東洋医学科) : 難治性嘔吐症に対し漢方薬が奏功した 1 例. 第 63 回日本東洋医学会学術総会 (京都), 2012. 6.
 - 13) 近江恭子, 小野顕人¹⁾, 廣田 薫¹⁾, 高久 俊, 高久千鶴乃, 平馬直樹¹⁾, 高橋秀実 ⁽¹⁾ 日本医科大学・東洋医学科) : 胃食道逆流症に対し呉茱萸湯が著効した 1 例. 第 63 回日本東洋医学会学術総会 (京都), 2012. 6.
 - 14) 小野顕人¹⁾, 近江恭子, 廣田 薫¹⁾, 高久千鶴乃, 高久 俊, 平馬直樹¹⁾, 高橋秀実 ⁽¹⁾ 日本医科大学・東洋医学科) : 漢方薬にて老人性皮膚掻痒症が改善した 1 例. 第 63 回日本東洋医学会学術総会 (京都), 2012. 6.
 - 15) 福岡豊永¹⁾, 藤田 勇¹⁾, 高久千鶴乃, 高久 俊, 廣田 薫¹⁾, 平馬直樹¹⁾, 高橋秀実 ⁽¹⁾ 日本医科大学・東洋医学科) : 陰陽太極鍼が著効した小児サルコイドーシスの 1 例. 第 63 回日本東洋医学会学術総会 (京都), 2012. 6.
 - 16) 福岡豊永¹⁾, 高久 俊, 平馬直樹¹⁾, 高橋秀実 ⁽¹⁾ 日本医科大学・東洋医学科) : がんの在宅医療における鍼灸治療の役割. 第 3 回日本中医学会総会 (東京), 2012. 6.
 - 17) Shinya E, Owaki A, Shimizu M, Matsumura J, Takahashi H : HIV-1 Nef interferes with CD1a Ag presentation in immature dendritic cells : possible involvement of hematopoietic cell kinase (HCK). 日本免疫学会 (第 41 回) (神戸), 2012. 12.

11. 衛生学・公衆衛生学

研究概要

衛生学公衆衛生学分野に所属する教職員は、それぞれの専門領域から、社会医学に関連性を持たせたテーマを選択し実験・調査研究を行っている。研究手法は多様であるが、最終的には「人」を対象とした予防医学研究につながるものであることが求められる。各教職員が研究を進めるにあたり、本分野教育研究経費にたよるのではなく、外部研究資金の獲得をお願いしているところであるが、本年度は所属教員およびテクニカルスタッフのうち、半数を超えるものが研究代表者として文科省科研費補助金等の外部資金を獲得している。各研究テーマは、・職場勤務者のメタボリック症候群関連指標とメンタルヘルスに関する総合的研究（基盤（C））（川田智之）・ヒト血漿中グランザイム3は炎症反応のマーカーとなるか（基盤（C））（稲垣弘文）・カーバメイト系農薬による免疫毒性及びその機序（基盤（C））（李卿）・メチルアルギニン誘導体とメタボリック症候群発症リスクに関する職業疫学研究（基盤（C））（大塚俊昭）・ディーゼル排気粒子によるマウス肺線維症病態への増悪作用の分子メカニズムの解明（基盤（C））（李英姫）・受動喫煙のストレス評価を唾液中カテコールアミン代謝物等で行う研究（基盤（C））（勝又聖夫）・女性、特に妊産婦に対する POCT を用いたインパクトのある禁煙支援法の構築（基盤（C））（平田紀美子）・血管炎症指標、インスリン抵抗性、抗動脈硬化指標と喫煙・勤務状況の相互関係（喫煙科学研究財団研究助成）（川田智之）獲得した研究費を基礎にして、学術論文を仕上げることは、各教職員の使命であり、専門性の高い業績を積み重ねることを期待したい。

研究業績

論文

〔追加分〕

追加分原著：

- 1) Kawada T, Otsuka T, Inagaki H, Wakayama Y, Li Q, Li Y, Katsumata M : Serum insulin is significantly related to components of the metabolic syndrome in Japanese working women. *Diabetes Metab Syndr* 2011 ; 5 (4) : 188-190.

(1) 原著：

- 1) Kawada T, Yoshimura M : Results of a 100-point scale for evaluating job satisfaction and the Occupational Depression Scale Questionnaire survey in workers. *J Occup Environ Med* 2012 ; 54 (4) : 420-423.
- 2) Kawada T, Yamada N : 100-point scale evaluating job satisfaction and the results of the 12-item General Health Questionnaire in occupational workers. *Work* 2012 ; 42 (3) : 415-418.
- 3) Kawada T : Relationship between several markers and presence of metabolic syndrome or components of the metabolic syndrome in Japanese workers. *J Occup Environ Med* 2012 ; 54 (8) : 984-988.
- 4) Kawada T, Suzuki H, Shimizu T, Katsumata M : Agreement in regard to total sleep time during a nap obtained via a sleep polygraph and accelerometer : A comparison of different sensitivity thresholds of the accelerometer. *Int J Behav Med* 2012 ; 19 (3) : 398-401.
- 5) Kawada T, Otsuka T : Psychological wellbeing using the 12-item General Health Questionnaire (GHQ12) and age in Japanese working men. *J Psychiatr Ment Health Nurs* 2012 ; 19 (8) : 758-760.
- 6) Kawada T : Feeling refreshed by sleep can predict psychological wellbeing assessed using the General Health Questionnaire in male workers : a 3-year follow-up study. *Psychiatry Invest* 2012 ; 9 (4) : 418-421.
- 7) Li Q, Kobayashi M, Kawada T : Mechanism of ziram-induced apoptosis in human T lymphocytes. *Arch*

Toxicol 2012 ; 86 (4) : 615-623.

- 8) Li Q, Kobayashi M, Kawada T : Mechanism of ziram-induced apoptosis in human natural killer cells. *Int J Immunopathol Pharmacol* 2012 ; 25 (4) : 883-891.
 - 9) 王 瑞生¹⁾, 須田 恵¹⁾, 大谷勝己¹⁾, 翁 祖銓¹⁾, 北條理恵子¹⁾, 柳場由絵¹⁾, 李 卿, 那須民江²⁾ (¹⁾ 労働安全衛生総合研究所, ²⁾ 名古屋大学) : 健康被害が懸念される産業化学物質の毒性評価に関する研究 序論. 労働安全衛生総合研究所 特別研究報告 2012 ; 42 (4) : 147-153.
 - 10) 李 卿, 小林麻衣子, 稲垣弘文, 平田幸代, 平田紀美子, 清水孝子, 王 瑞生¹⁾, 須田 恵¹⁾, 川田智之 (¹⁾ 労働安全衛生総合研究所) : 亜慢性 ETBE 吸入ばく露によるマウス脾臓細胞への影響. 労働安全衛生総合研究所 特別研究報告 2012 ; 42 (2) : 163-170.
 - 11) Reale M^{1, 2)}, Boscolo P³⁾, Bellante V¹⁾, Tarantelli C¹⁾, Di Nicola M³⁾, Forcella L³⁾, Li Q, Morimoto K K⁴⁾, Muraro R^{1, 2)} (¹⁾ Department of Oncology and Experimental Medicine, University G. d Annunzio, Italy, ²⁾ Center of Excellence on Aging, Ce.S.I., G. d Annunzio University Foundation, Italy, ³⁾ Department of Biomedical Sciences, University G. d Annunzio, Chieti, Italy, ⁴⁾ Department of Social and Environmental Medicine, Osaka University Graduate School of Medicine, Japan) : Daily intake of Lactobacillus casei Shirota increases natural killer cell activity in smokers. *Br J Nutr* 2012 ; 108 (2) : 308-314.
 - 12) Kawada T, Otsuka T : Factor structure of indices of the second derivative of the finger photoplethysmogram in combination with metabolic components and other cardiovascular risk indicators. *Diabetes Metab J* 2013 ; 37 (1) : 40-45.
 - 13) Kawada T, Otsuka T, Endo T¹⁾, Kon Y¹⁾ (¹⁾ Ota Memorial Hospital) : Number of components of the metabolic syndrome, smoking and inflammatory markers. *Int J Endocrinol Metab* 2013 ; 11 (1) : 23-26.
 - 14) Nagano M¹⁾, Liu M¹⁾, Inagaki H, Kawada T, Suzuki H¹⁾ (¹⁾ Department of Pharmacology) : Early intervention with fluoxetine reverses abnormalities in the serotonergic system and behavior of rats exposed prenatally to dexamethasone. *Neuropharmacology* 2012 ; 63 (2) : 292-300.
 - 15) 宗像 亮¹⁾, 大塚俊昭, 梅田宗紀²⁾, 加藤活人, 雪吹周生¹⁾, 清野精彦¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学千葉北総病院 循環器センター, ²⁾ エーアンドデイ株式会社) : オシロメトリック法による上腕動脈面積測定の見直しおよび正確性に関する検討. *Ther Res* 2012 ; 30 (11) : 1701-1709.
 - 16) Inami T¹⁾, Seino Y¹⁾, Otsuka T, Tamamoto M¹⁾, Kimata N¹⁾, Murakami D¹⁾, Takano M¹⁾, Ohba T¹⁾, Ibuki C¹⁾, Mizuno K²⁾ (¹⁾ Cardiovascular Center, Nippon Medical School Chiba-Hokusoh Hospital, ²⁾ Department of Cardiology, Nippon Medical School) : Links between sleep disordered breathing, coronary atherosclerotic burden, and cardiac biomarkers in patients with stable coronary artery disease. *J Cardiol* 2012 ; 60 (3) : 180-186.
- (2) 総説 :
- 1) 今井通子¹⁾, 宮崎良文²⁾, 李 卿 (¹⁾ 森林セラピーソサエティ, ²⁾ 千葉大学) : 理想の最期 : 山で死にたくない. *日本臨床生理学会雑誌* 2012 ; 42 (1) : 1-21.
 - 2) 大塚俊昭, 清野精彦¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学千葉北総病院 循環器センター) : ストレスをバイオマーカーで知る 特集 : 災害時における循環器診療 : どう立ち向かうか. *Heart View* 2012 ; 16 (7) : 714-721.
- (3) 研究報告書 :
- 1) 勝又聖夫, 若山葉子, 川田智之, 武藤三千代¹⁾, 森谷豊子²⁾, 渡部鏡二²⁾ (¹⁾ 日本医科大学スポーツ科学, ²⁾ 神奈川県立保健福祉大学) : 脳機能年齢への疲労の影響と working memory 効果. 高齢者における健康維持増進のための総合的追跡研究報告書 2012 ; 32-36.
 - 2) 若山葉子, 武藤三千代¹⁾, 勝又聖夫, 川田智之 (¹⁾ 日本医科大学スポーツ科学) : 高齢者の肥満・血液生化学値の検討 : 運動継続群と一般住民参加者との比較. 高齢者における健康維持増進のための総合的追跡研究報告書

2012 ; 1 (1) : 17-20.

(4) 手紙 :

- 1) Kawada T : Income poverty and cardiovascular disease. *Int J Cardiol* 2012 ; 156 (1) : 97-98.
- 2) Kawada T : Serum C-reactive protein and carotid intima-media thickness. *Int J Cardiol* 2012 ; 156 (2) : 221-222.
- 3) Kawada T : Correlation between psychological distress and C-reactive protein. Comment on Puustinen et al, "Psychological distress and C-reactive protein : do health behaviours and pathophysiological factors modify the association?" (*Eur Arch Psychiatry Clin Neurosci* 2011 ; 261 : 277-84). *Eur Arch Psychiatry Clin Neurosci* 2012 ; 262 (3) : 269-270.
- 4) Kawada T : Trend in the Number of Registrations for Neuroblastoma in Japan. *Jpn J Clin Oncol* 2012 ; 42 (4) : 357-358.
- 5) Kawada T : Oxidative stress markers and cardiovascular disease : advantage of risk assessment in combination with lifestyle factors. *Int J Cardiol* 2012 ; 157 (1) : 119-120.
- 6) Kawada T : Questionnaire survey on depression for patients with heart failure : validation for selecting appropriate cut-off points. *Int J Cardiol* 2012 ; 157 (2) : 275.
- 7) Kawada T : Analyses of cadmium and kidney function in lead workers should be adjusted for lead. *Occup Environ Med* 2012 ; 69 (6) : 452-453.
- 8) Kawada T : Correlation with statistical significance and its explanation rate : comment on Minelli et al, "BDNF serum levels, but not BDNF Val66Met genotype, are correlated with personality traits in healthy subjects." (*Eur Arch Psychiatry Clin Neurosci* doi : 10.1007/s00406-011-0189-3). *Eur Arch Psychiatry Clin Neurosci* 2012 ; 262 (4) : 361-362.
- 9) Kawada T : Relationship between subjective sleep duration and psychological wellbeing is modified by perception of sleep. *Sleep Med* 2012 ; 13 (6) : 772-773.
- 10) Kawada T : Comment on "the changes of blood glucose control and lipid profiles after short-term smoking cessation in healthy males". *Psychiatry Invest* 2012 ; 9 (2) : 195-196.
- 11) Kawada T : Adiponectin and arterial stiffness in hypertensive patients. *Int J Cardiol* 2012 ; 157 (3) : 407-408.
- 12) Kawada T : Quality of sleep, sleep duration and depressive state. *J Clin Hypertens (Greenwich)* 2012 ; 14 (7) : 479.
- 13) Kawada T : Occupational class as the indicator of socioeconomic position. *Occup Environ Med* 2012 ; 69 (8) : 606-607.
- 14) Kawada T : Reynolds Risk Score as a Risk Assessment Tool for Cardiovascular Disease after 10 Years : Its Strong Relationship with the Blood Pressure. *J Clin Hypertens (Greenwich)* 2012 ; 14 (8) : 571-572.
- 15) Kawada T : Relationship between sleep and glucose homeostasis : Type of sleep parameters and causality. *Fam Pract* 2012.
- 16) Kawada T : Occupational grade and effort-reward imbalance contribute to the onset of severe depressive symptom. *Eur J Public Health* 2012.
- 17) Kawada T, Li Q, Inagaki H : Predictive ability of granzyme B for cardiovascular disease and its direction in change. *J Cardiol* 2012 ; 60 (2) : 150.
- 18) Kawada T : Letter : Prevalence and Correlates of Disordered Sleep in Southeast Asian Indians with Type 2 Diabetes (*Diabetes Metab J* 2012 ; 36 : 70-6). *Diabetes & Metabolism J* 2012 ; 36 (4) : 314-315.
- 19) Kawada T : Receiver operating characteristic curve analysis, sensitivity comparison and individual difference.

- Clin Radiol 2012 ; 67 (9) : 940.
- 20) Kawada T : Physical activity, obesity and insulin resistance. Int J Cardiol 2012 ; 159 (3) : 237-238.
 - 21) Kawada T : Type of shift work is a key factor on the association between personality traits and psychological health. Appl Ergon 2012 ; 43 (6) : 1138.
 - 22) Kawada T : Application of Reynolds Risk Score for younger generation with different ethnicities. Lupus 2012 ; 21 (11) : 1257.
 - 23) Kawada T : Needed number of events for logistic regression analysis. Ann Rheum Dis 2012.
 - 24) Kawada T : Risk of cataract for patients with diabetes mellitus. Br J Ophthalmol 2012.
 - 25) Kawada T : Reply to : subclinical renal dysfunction is independently associated with cardiovascular events in rheumatoid arthritis : the CARRE Study. Ann Rheum Dis 2012 ; 71 (12) : e3.
 - 26) Kawada T : Differences in left and right carotid intima-media thickness. Clin Radiol 2012 ; 67 (11) : 1127.
 - 27) Kawada T : Re : Diagnostic performance of PWI/DWI MRI parameters in discriminating hyper-acute versus acute ischaemic stroke : Finding the best thresholds. Clin Radiol 2012 ; 67 (12) : 1218.
 - 28) Kawada T : Predictive ability of sleep duration for the feeling of being refreshed by sleep. J Occup Environ Med 2012 ; 54 (11) : 1321-1322.
 - 29) Kawada T : Ecological and individual association : Difficulty for adjusting ethnic difference of adiponectin in meta-analysis. Int J Obes 2012 ; 36 (11) : 1482.
 - 30) Kawada T : Re : Association between psychological distress and mortality : individual participant pooled analysis of 10 prospective cohort studies. BMJ 2012.
 - 31) Kawada T : Re : Melatonin for sleep problems in children with neurodevelopmental disorders : randomised double masked placebo controlled trial. BMJ 2012.
 - 32) Kawada T : Prevalence of asthma and atopic dermatitis in children with special emphasis on birth order. Pediatr Allergy Immunol 2012 ; 23 (8) : 795.
 - 33) Kawada T : Risk assessment for earthquake-exposed survivors : evaluation of generation difference. Disaster Med Public Health Prep 2012 ; 6 (4) : 325.
 - 34) Kawada T : Objective sleep variables of children with special emphasis on cut-off value of sensitivity for actigraphy. J Paediatr Child Health 2013 ; 49 (1) : 81-82.
 - 35) Kawada T : Are general health checkups ineffective for reducing mortality?. BMJ 2013.
 - 36) Kawada T : Comment on : Pan et al. Bidirectional Association Between Depression and Metabolic Syndrome : A Systematic Review and Meta-analysis of Epidemiological Studies. Diabetes Care 2012 ; 35 : 1171-1180. Diabetes Care 2013 ; 36 (2) : e27-e27.
 - 37) Kawada T : Poor sleep with normal sleep duration : a preventive effect on incident hypertension. Hypertension 2013 ; 61 (2) : e11-e11.
 - 38) Kawada T : Sleep evaluation by actigraphy for drinkers. Alcohol Alcohol 2013 ; 48 (1) : 126-126.
 - 39) Kawada T : Determinants of self-rated health and aging. Eur J Public Health 2013.
 - 40) Kawada T : The effect of low cadmium exposure on renal biomarkers. Occup Environ Med 2013.
 - 41) Kawada T : Environmental tobacco smoke and severe dementia syndromes. Occup Environ Med 2013.
 - 42) Kawada T : Definition of poor self-rated health and its relationship with morbidity. Eur J Public Health 2013.
 - 43) Kawada T : Sleep parameters from actigraphy and sleep diary : Is the agreement is important for sleep study?. Sleep Med 2013 ; 14 (3) : 298-299.
 - 44) Kawada T : Objective sleep parameters of healthy subjects by actigraphy for the evaluation of sleep medication. Sleep Med 2013 ; 14 (3) : 299-300.

- 45) Kawada T : The effect of total and high-molecular-weight adiponectin on incident cardiovascular disease and its mortality in older adults. *J Clin Endocrinol Metab* 2013.
- 46) Kawada T : Effect of serum adiponectin on mortality for patients with coronary artery disease. *Arterioscler Thromb Vasc Biol* 2013.
- 47) Kawada T : Present self-reported physical activity and objective physical activity in the future. *J Epidemiol Community Health* 2013.
- 48) Kawada T : Prognosis factors on cardiovascular events for patients with rheumatoid arthritis : multivariate analysis is indispensable by keeping number of events. *J Rheumatol* 2013 ; 40 (3) : 337-337.

著 書

- 1) 川田智之 : [分担] 産業保健. シンプル衛生公衆衛生学 (鈴木庄亮・久道 茂), 2013 : pp279-289, 南江堂.
- 2) Lee J¹⁾, Li Q, Tyrvaiven L²⁾, Tsunetsugu Y³⁾, Park B⁴⁾, Kagawa T³⁾, Miyazaki Y¹⁾ (1) Center for Environment, Health and Field Sciences, Chiba University, Japan, 2) Finnish Forest Research Institute (MET-LA), Finland, 3) Forestry and Forest Products Research Institute, Japan, 4) Chungnam National University, Korea) : [分担] Nature therapy and preventive medicine. *PUBLIC HEALTH (Jay Maddock)*, 2012 : pp325-350, Intech, Rijeka, Croatia.

学会発表

(1) シンポジウム :

- 1) Li Q : EFFECTS OF FOREST ENVIRONMENTS ON HUMAN HEALTH-FOREST MEDICINE TRENDS IN JAPAN-. International Conference "Ecological Culture in the Global World : Russian Education Modernization in the Context of International Strategies" (M.A.Sholokhow Moscow State Humanitarian University, Moscow, Russia), 2012. 11.
- 2) 李 卿 : 森林セラピーの臨床応用の可能性 (シンポジウム名 : 森林セラピーの臨床応用と個人差). 日本衛生学会学術総会 (第 83 回) (金沢), 2013. 3.

(2) 一般講演 :

- 1) Li Q, Kawada T : Effect of forest environment on the human psycho-neuro-endocrino-immune network. IUFRO First Conference "Forest for People" in Alpbach (Alpbach, Tyrol/Austria), 2012. 5.
- 2) Li Q, Kobayashi M, Kawada T : Ziram induces apoptosis in human natural killer cells. Congress of the European Societies of Toxicology (48th) (Stockholm, Sweden), 2012. 6.
- 3) Li Q, Kobayashi M, Kawada T : Carbamate pesticides induce apoptosis in human NK-92CI cells. Annual meeting of SOT (Society of Toxicology) (52nd) (San Antonio, USA), 2013. 3.
- 4) 李 卿, 小林麻衣子, 川田智之 : カーバメイト系農薬 Ziram による T 細胞, 単球系細胞及び NK 細胞死の違い. 日本産業衛生学会総会 (第 85 回) (名古屋), 2012. 5.
- 5) 李 卿, 小林麻衣子, 稲垣弘文, 若山葉子, 勝又聖夫, 平田幸代, 李 英姫, 平田紀美子, 清水孝子, 川田智之 : ヒト末梢血リンパ球内の perforin, granzymes 及び granzulin レベルが NK 活性を予測できるのか. 日本免疫毒性学会 (第 19 回) (東京), 2012. 9.
- 6) 李 卿, 小林麻衣子, 川田智之 : カーバメイト系農薬によるヒト NK 細胞のアポトーシス. 日本衛生学会学術総会 (第 83 回) (金沢), 2013. 3.
- 7) 小林麻衣子, 李 卿, 川田智之 : 都市公園で行う森林浴の効果. 日本衛生学会学術総会 (第 83 回) (金沢), 2013. 3.
- 8) Lee J¹⁾, Li Q, Park B²⁾, Kagawa T³⁾, Miyazaki Y¹⁾ (1) Chiba University, 2) Chungnam National Univer-

- sity, Korea, ³⁾ Forestry and Forest Products Research Institute) : Nature therapy and preventive medicine. IUFRO First Conference "Forest for People" in Alpbach (Alpbach, Tyrol/Austria), 2012. 5.
- 9) Lee J¹⁾, Tsunetsugu Y²⁾, Takayama N²⁾, Park B³⁾, Li Q, Komatsu M¹⁾, Ikei H¹⁾, TyrvÄinen L⁴⁾, Kagawa T²⁾, Miyazaki Y¹⁾ (¹⁾ Chiba University, ²⁾ Forestry and Forest Products Research Institute, ³⁾ Chungnam National University, Korea, ⁴⁾ Finnish Forest Research Institute (METLA), Finland) : Physiological benefits of walking in the forests -Evidence-based field research in Japan. IUFRO First Conference "Forest for People" in Alpbach (Alpbach, Tyrol/Austria), 2012. 5.
- 10) Tsunetsugu Y¹⁾, Lee J²⁾, Takayama N¹⁾, Park B³⁾, Li Q, Komatsu M²⁾, Ikei H²⁾, TyrvÄinen L⁴⁾, Kagawa T¹⁾, Miyazaki Y²⁾ (¹⁾ Forestry and Forest Products Research Institute, ²⁾ Chiba University, ³⁾ Chungnam National University, Korea, ⁴⁾ Finnish Forest Research Institute (METLA), Finland) : Stress-reducing effects of viewing the landscapes in forests assessed by multiple physiological measurements. IUFRO First Conference "Forest for People" in Alpbach (Alpbach, Tyrol/Austria), 2012. 5.
- 11) 勝又聖夫, 平田紀美子, 川田智之: 両親学級に併せた「喫煙の健康影響教室」の取り組み. 日本公衆衛生学会総会 (第71回) (山口), 2012. 10.
- 12) 平田紀美子, 勝又聖夫, 川田智之: POCT を用いた防煙教育-2. 日本公衆衛生学会総会 (第71回) (山口), 2012. 10.
- 13) 勝又聖夫, 平田紀美子, 小林麻衣子, 平田幸代, 稲垣弘文, 川田智之: 唾液中 Chromogranin A の EIA 測定法における唾液採取器具の検討. 日本衛生学会学術総会 (第83回) (金沢), 2013. 3.
- 14) 平田紀美子, 勝又聖夫, 小林麻衣子, 稲垣弘文, 川田智之: 防煙教育・禁煙支援に用いる簡易タバコ煙中ガス成分測定. 日本薬学会第133年会 (第133回) (横浜), 2013. 3.
- 15) 稲垣弘文, 平田幸代, 清水孝子, 川田智之: 抗ヒト Granzyme 3 モノクローナル抗体による酵素活性の上昇. 日本生化学会大会 (第85回) (福岡), 2012. 12.
- 16) 平田幸代, 稲垣弘文, 清水孝子, 川田智之: FRET 基質を用いたヒト Granzyme 3 の反応速度論的解析. 日本生化学会大会 (第85回) (福岡), 2012. 12.
- 17) 若山葉子, 勝又聖夫, 川田智之, 武藤三千代¹⁾, 渡部鎌二²⁾, 川守田千秋²⁾, 渡部月子²⁾ (¹⁾ 日本医科大学 スポーツ科学, ²⁾ 神奈川県立保健福祉大学 人間総合・基礎) : 中高年を対象とした「運動教室」参加者の健康調査: 2006~2011年参加者の推移. 日本公衆衛生学会総会 (第71回) (山口), 2012. 10.
- 18) 武藤三千代¹⁾, 渡部鎌二²⁾, 若山葉子, 川守田千秋²⁾, 渡部月子²⁾ (¹⁾ 日本医科大学 スポーツ科学, ²⁾ 神奈川県立保健福祉大学人間総合・基礎) : 高齢者における生活活動力と健康関連 QOL について. 日本公衆衛生学会総会 (第71回) (山口), 2012. 10.
- 19) Li Y, Shimizu T, Hirata Y, Inagaki H, Shinkai Y¹⁾, Takeda K¹⁾, Azuma A²⁾, Takizawa H³⁾, Yamamoto M⁴⁾, Kawada T, Kudoh S⁵⁾ (¹⁾ Hygiene Chemistry, Faculty of Pharmaceutical Sciences, Tokyo University of Sciences, Noda city, ²⁾ Pulmonary Medicine/Infection and Oncology, Nippon Medical School, Tokyo, ³⁾ Pulmonary Medicine, Kyorin University, School of Medicine, Mitaka city, ⁴⁾ Department of Biochemistry, Tohoku University Graduate School of Medicine, Sendai city, ⁵⁾ Fukujuji Hospital, Anti-Tuberculosis Association, Kiyose city) : Nrf2 is closely related to enhance bleomycin induced airway inflammatory responses caused by diesel exhaust particles in mice. European Respiratory Society (22nd) (Vienna, Austria), 2012. 9.
- 20) 李 英姫, 清水孝子, 平田幸代, 稲垣弘文, 新海雄介¹⁾, 武田 健¹⁾, 吾妻安良太²⁾, 滝澤 始³⁾, 山本雅之⁴⁾, 川田智之, 工藤翔二⁵⁾ (¹⁾ 東京理科大学 薬学部 衛生化学, ²⁾ 日本医科大学 呼吸器・感染・腫瘍内科, ³⁾ 杏林大学医学部 呼吸器内科, ⁴⁾ 東北大学大学院 医化学分野, ⁵⁾ 結核予防会複十字病院) : Nrf2 欠損マウスにおけるディーゼル排気粒子曝露のプレオマイシン気道炎症病態への影響. 日本衛生学会学術総会 (第83回) (金沢), 2013. 3.

- 21) 加藤活人, 大塚俊昭, 遠藤宗臣¹⁾, 今 陽一¹⁾, 小谷英太郎²⁾, 川田智之 (¹⁾ 富士重工業健康保険組合総合太田病院 総合健診部, ²⁾ 日本医科大学多摩永山病院 内科・循環器内科): 健診受診者における 75gOGTT 結果を用いた 5 年後の耐糖能悪化リスク予測式の作成. 日本糖尿病学会年次学術集会 (第 55 回) (横浜), 2012. 5.
 - 22) 大塚俊昭, 川田智之: 職域男性集団における喫煙および禁煙と空腹時血糖障害 (IFG)/糖尿病 (DM) 発症リスク. 日本公衆衛生学会総会 (第 71 回) (山口), 2012. 10.
 - 23) 大塚俊昭, 加藤活人, 小谷英太郎¹⁾, 雪吹周生²⁾, 清野精彦²⁾ (¹⁾ 日本医科大学多摩永山病院 内科・循環器内科, ²⁾ 日本医科大学千葉北総病院 循環器センター): 中年男性集団における高血圧発症予測因子としての血清シスタチン C と推算糸球体濾過量の比較. 日本高血圧学会総会 (第 35 回) (名古屋), 2012. 10.
 - 24) 大塚俊昭, 小宮智春¹⁾, 川田智之 (¹⁾ キヤノン株式会社綾瀬事業所 健康支援室): 交替勤務者と平常勤務者における動脈硬化指標の比較および動脈硬化進展に関連する生活習慣因子の検討. 日本産業衛生学会 (第 85 回) (名古屋), 2012. 5.
 - 25) Otsuka T, Munakata R¹⁾, Kato K, Kodani E²⁾, Ibuki C¹⁾, Kusama Y²⁾, Seino Y¹⁾ (¹⁾ Cardiovascular Center, Nippon Medical School Chiba-Hokusoh Hospital, ²⁾ Department of Internal Medicine and Cardiology, Nippon Medical School Tama-Nagayama Hospital): Oscillometric Measurement of Brachial Artery Cross-Sectional Area and Its Relationship with Cardiovascular Risk Factors and Arterial Stiffness in Middle-Aged Men. Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society (77th) (横浜), 2013. 3.
- (3) YIA :
- 1) 大塚俊昭, 加藤活人, 遠藤宗臣¹⁾, 今 陽一¹⁾, 小谷英太郎²⁾, 川田智之 (¹⁾ 富士重工業健康保険組合総合太田病院 総合健診部, ²⁾ 日本医科大学多摩永山病院 内科・循環器内科): 健診受診者における 75 グラム糖負荷試験結果を用いた耐糖能悪化リスク予測チャート作成の試み. 日本循環器病予防学会 (第 48 回) (東京), 2012. 6.

12. 法医学

研究概要

1. 法医中毒学・臨床中毒学急性薬毒物中毒の疑われる救急患者や法医鑑定の前検資料に対して、GC/MS, LC/MS, LC/MS/MS等を用いた薬毒物分析システムを運用し多くの成果を挙げている。また毛髪からの覚醒剤・パラコート等の分析、LC/MSを用いたアコニチン系アルカロイド・テトロドトキシン等の微量毒物検出法を開発した。トリカブト毒については、急性中毒・長期投与における生体内での代謝、心機能への影響等について、フグ毒との複合作用について実験的研究を行った。質量分析機器を用いた最新技法（LC-TOF, QTOF）を用いた薬毒物および代謝物の微量分析法の開発にも取り組んでいる。2. アルコールの代謝とその細胞および生体に及ぼす影響 Alc 脱水素酵素（ADH1・ADH3）のAlc代謝における役割を遺伝子、蛋白酵素、細胞、動物個体、ヒトの各レベルで検討し、Alc感受性の性および個体差、Alc関連障害の機序を研究している。またAlcの心臓への影響を、培養心筋細胞および蛍光色素を用いて、細胞内小器官および分子レベルで解析している。3. NMRおよびMRIを用いた研究共同利用のNMR装置を用いて死体の筋肉や脳の代謝物プロファイルと死後硬直などの死体現象の発現との関連を検索し、死後経過時間推定への応用をめざしている。動物用MRI装置を用いて、死亡時および死後画像診断への活用やMRIを用いた死体の温度マッピングに関する基礎的研究を行っている。美容医療後遺症と美容医療材料との関連について形成外科学と、また我々が開発中の臨床応用可能なNMRデータ解析の手法を用いて救急医学・小児医学と共同研究を進めている。4. 法医実務的研究 2003年6月より千葉県警の司法解剖を受託している（日本大学医学部法医解剖室を借用）ので、前検例にかかわる具体的問題を病理組織学的検討を含めて研究している。またそれ以外の刑事・民事事件についても依頼があれば積極的に対応している。

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) Okuda T¹⁾, Hirakawa K, Orbay H¹⁾, Uysal C¹⁾, Ogawa R¹⁾, Ohno Y, Hyakusoku H¹⁾ (1) Dept. of Plastic and Reconstructive Surgery, Nippon Medical School) : The use of NMR spectroscopy for identifying unknown foreign materials after aesthetic procedures. *Journal of Plastic, Reconstructive & Aesthetic Surgery* 2012 ; 65 (5) : 692-694.
- 2) Oshima S¹⁾, Haseba T, Masuda C¹⁾, Kakimi E¹⁾, Sami M¹⁾, Kanda T¹⁾, Ohno Y (1) Reseach laboratories for fundamental technology of food, Asahi Group Holdings, Ltd.) : Individual differences in blood alcohol concentrations after moderate drinking are mainly regulated by gastric emptying rate together with ethanol distribution volume. *Food and Nutrition Sciences* 2012 ; 3 (6) : 732-737.
- 3) Abe Y¹⁾, Haseba T, Oshima S¹⁾, Kanda T¹⁾, Ohno Y (1) Reseach laboratories for fundamental technology of food, Asahi Group Holdings, Ltd.) : Influence of Drinking Conditions on Alcohol Metabolism in Healthy Men with ALDH2 1/1 Genotype : Comparison between different Alcoholic Drinks with or without Meal. *Food and Nutrition Sciences* 2012 ; 2012 (3) : 997-1003.
- 4) Tajima T¹⁾, Hirakawa K, Kawaguchi H¹⁾, Sakamoto A¹⁾ (1) Department of Anesthesiology, Nippon Medical School) : Proton nuclear magnetic resonance and pattern recognition analysis of liver extracts from rats under different anesthetics. *BMC medical imaging* 2012 ; 12 : 28.
- 5) Yamaguchi K, Hikiji W¹⁾, Takino M²⁾, Saka K³⁾, Hayashida M, Fukunaga T¹⁾, Ohno Y (1) Tokyo Medical Examiners Office, Tokyo Metropolitan Government, 2) Agilent Technologies Japan, Ltd., 3) Department of

Forensic Medicine, Graduate School of Medicine, the University of Tokyo) : Analysis of Tolfenpyrad and its Metabolites in Plasma in a Tolfenpyrad Poisoning Case. Journal of Analytical Toxicology 2012 ; 36 (7) : 529-537.

- 6) Okuda T, Shiotani S¹⁾, Hayakawa H²⁾, Kikuchi K³⁾, Kobayashi T⁴⁾, Ohno Y (¹⁾ Department of Radiology, Tsukuba Medical Center, ²⁾ Tsukuba Medical Center, Tsukuba Medical Examiners Office, ³⁾ Department of Pathology, Tsukuba Medical Center, ⁴⁾ Department of Radiological Technology, Tsukuba Medical Center) : Background and current status of postmortem imaging in Japan : Short history of “Autopsy imaging (Ai)”. Forensic Science International 2013 ; 225 (1) : 3-8.
 - 7) Fujikura T^{1,2)}, Takeshita T³⁾, Homma H⁴⁾, Adachi K⁵⁾, Miyake K⁶⁾, Kudo M⁷⁾, Takizawa T⁸⁾, Nagayama H⁹⁾, Hirakawa K (¹⁾ Academic Quality and Development Office, Nippon Medical School, ²⁾ Department of Head & Neck and Sensory Organ Science, Graduate School of Medicine, Nippon Medical School, ³⁾ Division of Reproductive Medicine, Perinatology and Gynecologic Oncology, Graduate School of Medicine, Nippon Medical School, ⁴⁾ Division of Cardiology, Hepatology, Geriatrics, and Integrated Medicine, Department of Internal Medicine, Graduate School of Medicine, Nippon Medical, ⁵⁾ Department of Neurosurgery, Graduate School of Medicine, Nippon Medical School, ⁶⁾ Department of Biochemistry and Molecular Biology, and Division of Gene Therapy Research Center for Advanced Medical Technology, Nippon Medical School, ⁷⁾ Department of pathology and Integrative Oncological Pathology, Nippon Medical School, ⁸⁾ Department of Molecular Medicine and Anatomy, Nippon Medical School, ⁹⁾ Department of Neurological, Nephrological and Rheumatological Sciences, Graduate School of Medicine, Nippon Medical School) : Team-based Learning Using an Audience Response System : A Possible New Strategy for Interactive Medical Education. J Nippon Med Sch 2013 ; 80 (1) : 63-69.
 - 8) Huo S¹⁾, Cui F, Ohno Y (¹⁾ Department of Forensic Science, Zhejiang Police College) : Fatal penetrating head injury by bamboo fragments. Legal Medicine 2013 ; 15 (2) : 99-102.
 - 9) 長谷場健, 八木勇磨, 田邊智英, 大草幹大, 崔 范来, 小野滝幸, 山本伊佐夫¹⁾, 内ヶ崎西作²⁾, 大野曜吉 (¹⁾ 神奈川歯科大学社会歯科学講座法医学分野, ²⁾ 日本大学医学部法医学教室) : 呼気中アルコール濃度2点測定による事故時アルコール濃度推定の有用性. 法医学の実際と研究 2012 ; 55 : 127-132.
 - 10) 大嶋俊二¹⁾, 増田千晶¹⁾, 垣見絵麻¹⁾, 北川 泰¹⁾, 長谷場健, 大野曜吉 (¹⁾ アサヒグループホールディングス株式会社 食の基盤技術研究所) : 食事による消化管ホルモンの変動に及ぼす飲酒の影響. アルコールと医学生物学 2012 ; 31 : 35-39.
 - 11) 大嶋俊二¹⁾, 長谷場健, 増田千晶¹⁾, 垣見絵麻¹⁾, 佐見 学¹⁾, 神田智正¹⁾, 大野曜吉 (¹⁾ アサヒグループホールディングス株式会社 食の基盤技術研究所) : 飲酒後のアルコール代謝動態と生理的変動に関するデータベース (第1報) : ALDH2*1/*2型の男性がビールあるいは焼酎を食事の有無で適量飲酒した場合. 日本臨床栄養学雑誌 2013 ; 34 (4) : 2-7.
- (2) 研究報告書 :
- 1) 平川慶子 : 高磁場環境対応の高性能磁性薬液注入装置の開発. JST 研究成果展開事業 研究成果展開支援プログラム フィージビリティスタディ (FS) ステージ 探索タイプ 2012.
 - 2) 小池 薫¹⁾, 大野曜吉, 平川慶子 (¹⁾ 京都大学大学院医学研究科初期診療・救急医学分野) : 脳脊髄液の核磁気共鳴 (NMR) 計測値を用いた「急性脳症および熱性痙攣の早期鑑別診断法」の開発. JST 研究成果展開事業 研究成果展開支援プログラム フィージビリティスタディ (FS) ステージ 探索タイプ 2012.
 - 3) 長谷場健 : お酒 (ビール) の継続的摂取がアルコール代謝動態, 酔い感および血液生化学検査値に及ぼす影響 - ALDH2 遺伝子多型間での比較. 平成 24 年度アサヒビール HD (株) 共同研究 (第 IV 期) 報告書 2012.
 - 1) 大野曜吉 : 法医学の最近の話題 : 司法解剖の増加と近未来. 日医大医会誌 2012 ; 8 (2) : 181-181.

学会発表

(1) 特別講演：

- 1) 大野曜吉：医療と関連した司法解剖例. 53 病診連携研究会（第 12 回）（宮城県），2013. 3.

(2) 招待講演：

- 1) 大野曜吉：日本賠償医学概論 死亡賠償額算定と損害賠償裁判例. 中国浙江警察学院大学招待講演（中国），2012. 9.
- 2) 山口晃志：科学捜査研究所の業務紹介と睡眠薬が用いられた事件における薬物鑑定について. 中国浙江警察学院大学招待講演（中国），2012. 9.

(3) シンポジウム：

- 1) 長谷場健：人間（ヒト）・未来への選択「3.11 と総合人間学」. 総合人間学会（第 7 回）（東京都），2012. 5.
- 2) 林田真喜子，安部寛子¹⁾，滝埜昌彦²⁾，大野曜吉（¹⁾ 財団法人材料科学技術振興財団，²⁾ アジレント・テクノロジー）：LC/MS/MS の新技法を用いた剖検資料中ベンゾジアゼピン系薬物の分析「法医鑑定における薬毒物検査と質量分析の関わり」. 日本医用マススペクトル学会年会（第 37 回）（愛知県），2012. 10.

(4) 一般講演：

- 1) Yamaguchi K, Hayashida M, Ohno Y : Synthesis and analysis of glucuronides of α -hydroxyalprazolam and α -hydroxytriazolam. Annual Meeting of the International Association of Forensic Toxicologists (The 50th) (TIAFT 2012) (静岡県), 2012. 6.
- 2) 浅野 健¹⁾，平川慶子，小池 薫²⁾，大野曜吉，宮武千晴¹⁾，小泉慎也¹⁾，海津聖彦¹⁾，榎崎秀彦¹⁾，藤野 修¹⁾（¹⁾ 日本医科大学小児科，²⁾ 京都大学初期診療・救命医学分野）：境界型脳症の提唱と髄液の NMR 代謝解析. 日本小児科学会学術集会（第 115 回）（福岡県），2012. 4.
- 3) 亀山孝二¹⁾，長谷場健（¹⁾ 日本医科大学病理学）：人間発達のための人間論と技術論の協働についての試論：自己家畜化のあり方. 総合人間学会（第 7 回）（東京都），2012. 5.
- 4) 林田真喜子，安部寛子¹⁾，吉澤智恵子¹⁾，植草協子，滝埜昌彦²⁾，大野曜吉（¹⁾ 財団法人材料科学技術振興財団，²⁾ アジレント・テクノロジー）：LC/MSMS トリガー MRM 法を用いた急性薬物中毒症例における規制薬物の確認分析. 日本中毒学会総会・学術集会（第 34 回）（東京都），2012. 7.
- 5) 平田清貴¹⁾，奈良弘恵¹⁾，大下順子¹⁾，宮内雅人²⁾，吉田直人²⁾，林田真喜子，片山志郎¹⁾，横山裕行²⁾（¹⁾ 日本医科大学付属病院薬剤部，²⁾ 日本医科大学付属病院高度救命救急センター）：当院高度救命救急センターにおける急性抗うつ薬中毒の動向. 日本中毒学会総会・学術集会（第 34 回）（東京都），2012. 7.
- 6) 中田敬司¹⁾，佐藤格夫²⁾，平川慶子，朝倉隆之¹⁾，朱 然¹⁾，沖原 香³⁾，今田トモコ³⁾，鈴木崇生²⁾，邑田悟²⁾，大野曜吉，横田祐行¹⁾，小池 薫²⁾（¹⁾ 日本医科大学大学院医学研究科侵襲生体管理学分野，²⁾ 京都大学大学院医学研究科 初期診療・救急医学，³⁾ 日本医科大学 NMR 研究施設）：NMR データを用いた代謝解析による腸管上皮細胞の酸化ストレスに関する基礎研究. 日本磁気共鳴医学会大会（第 40 回）（京都府），2012. 9.
- 7) 滝埜昌彦¹⁾，澤田浩和¹⁾，林田真喜子（¹⁾ アジレント・テクノロジー）：LC/Q-TOFMS，精密質量データベース，MSMS スペクトルライブラリ及び分子構造相関手法を用いた生体試料中薬物の包括的分析法. 日本医用マススペクトル学会年会（第 37 回）（愛知県），2012. 10.
- 8) 鈴木彩奈¹⁾，齋藤 研¹⁾，佐藤真央¹⁾，笠松桃子¹⁾，林田真喜子，植草協子，山口晃志，大野曜吉，齋藤伸行²⁾，益子邦洋²⁾（¹⁾ 日医大第 3 学年，²⁾ 日医大北総病院救命救急センター）：ジフェンヒドรามミン大量服用で死亡した救急症例の分析. 日本法医学会学術関東地方集会（第 81 回）（群馬県），2012. 10.
- 9) 大嶋俊二¹⁾，長谷場健，齋藤 猛¹⁾，石切山比呂子¹⁾，根本明弘¹⁾，北川 泰¹⁾，大野曜吉（¹⁾ アサヒグループホールディングス株式会社 食の基盤技術研究所）：尿中エチルグルクロニド，硫酸エチルは適量飲酒の有無の確認に利用可能なマーカーか？. アルコール医学生物学研究会学術集会（第 32 回）（東京都），2013. 1.
- 10) Uekusa K, Hayashida M, Saito N¹⁾, Mashiko K¹⁾, Hara K²⁾, Waters B²⁾, Ohno Y（¹⁾ Nippon Medical School

- Chiba Hokusoh Hospital, ²⁾ Faculty of Medicine, Fukuoka University) : Methamphetamine and amphetamine concentrations in body packer syndrome cases in Japan. Annual Meeting of the International Association of Forensic Toxicologists (The 50th) (TIAFT 2012) (静岡県), 2012. 6.
- 11) Takino M¹⁾, Hayashida M, Uekusa K, Yamaguchi K, Kudo K²⁾, Ohno Y (¹⁾ Agilent Technologies Japan, Ltd., ²⁾ Department of Legal Medicine, Graduate School of Medical Science, Kyusyu University) : Comprehensive screening approach by LC/QTOF-MS using exact mass database, MS/MS library and MS/MS structure correlation (MSC) for forensic toxicological samples. Annual Meeting of the International Association of Forensic Toxicologists (The 50th) (TIAFT 2012) (静岡県), 2012. 6.
 - 12) Haseba T, Akimoto T¹⁾, Duester G²⁾, Ohno Y (¹⁾ Division of Laboratory Animal Science, Nippon Medical School, ²⁾ Developmental Biology, Sanford-Burnham Medical Research Institute) : HOW DOES ADH 1 (CLASS I), A KEY ENZYME IN ALCOHOL METABOLISM, REGULATE PHARMACOKINETICS OF BLOOD ETHANOL, ACUTE ALCOHOL INTOXICATION AND ALCOHOL PREFERENCE. World Congress Biomedical Alcohol Research (16th) (北海道), 2012. 9.
 - 13) Oshima S¹⁾, Haseba T, Masuda C¹⁾, Abe Y¹⁾, Kitagawa Y¹⁾, Ohno Y (¹⁾ Research laboratories for fundamental technology of food, Asahi Group Holdings, Ltd.) : EFFECTS OF VARIOUS DRINKING CONDITIONS ON ALCOHOL METABOLISMS AT MODERATE DRINKING. World Congress Biomedical Alcohol Research (16th) (北海道), 2012. 9.
 - 14) Yamamoto I¹⁾, Haseba T, Cui F, Ono T, Ohno Y, Nakagawa K¹⁾, Ohira H¹⁾, Yamada Y¹⁾ (¹⁾ Division of Forensic Medicine Department of Dental Sociology, Kanagawa Dental College) : Effect of ALDH2 polymorphism on drunkenness evaluated by psychomotor vigilance tasks (PVT). World Congress Biomedical Alcohol Research (16th) (北海道), 2012. 9.
 - 15) 霍 塞虎, 大野曜吉, 崔 范来 : 竹片の穿破による脳損傷例. 日本法医学会学術全国集会 (第96次) (静岡県), 2012. 6.
 - 16) 奥田貴久¹⁾, 早川秀幸¹⁾, 塩谷清司²⁾, 菊地和徳³⁾, 大野曜吉 (¹⁾ 筑波剖検センター, ²⁾ 筑波メディカルセンター病院放射線科, ³⁾ 筑波メディカルセンター病院病理科) : 頸椎椎間板断裂による致死の頸髓損傷の死因特定に死後MRIが有用であった1事例. 日本法医学会学術全国集会 (第96次) (静岡県), 2012. 6.
 - 17) 金涌佳雅^{1,2)}, 平川慶子, 福永龍繁²⁾, 金武 潤¹⁾, 大野曜吉 (¹⁾ 防衛医科大学校医学教育部法医学講座, ²⁾ 東京都監察医務院) : ヒト剖検摘出臓器のMRI技術の基礎的研究 (第1報) : 死後変化とホルマリン固定が緩和時間に与える影響. 日本磁気共鳴医学会大会 (第40回) (京都府), 2012. 9.
 - 18) 浅野 健¹⁾, 田嶋華子¹⁾, 平川慶子, 小池 薫²⁾, 大野曜吉 (¹⁾ 日本医科大学小児科, ²⁾ 京都大学初期診療・救急医学) : 成長ホルモン分泌不全症児における成長ホルモン前後での代謝変化 : 尿を用いたプロトンNMRによる解析. 日本小児内分泌学会学術集会 (第46回) (大阪府), 2012. 9.
 - 19) 山本伊佐夫¹⁾, 長谷場健, 崔 范来, 小野滝幸, 大野曜吉, 中川貴美子¹⁾, 大平 寛¹⁾, 山田良弘¹⁾ (¹⁾ 神奈川歯科大学社会歯科学講座法医学分野) : ALDH2 遺伝子多型の Psychomotor Vigilance Tasks (PVT) 評価による酩酊度に及ぼす影響. 日本アルコール・薬物医学会 (第47回) (北海道), 2012. 9.
 - 20) 安部寛子¹⁾, 林田真喜子, 吉澤智恵子¹⁾, 佐藤由依¹⁾, 植草協子, 滝埜昌彦²⁾, 大野曜吉 (¹⁾ 材料科学技術振興財団, ²⁾ アジレント・テクノロジー) : LC/MS/MSトリガーMRM法スペクトルライブラリを用いた法医剖検資料の分析事例. 日本法医学会学術関東地方集会 (第81回) (群馬県), 2012. 10.
 - 21) 張 幼芳, 奥田貴久, 富田ゆかり, 崔 范来, 大野曜吉 : 巨大後腹膜嚢胞の1例. 日本法医学会学術関東地方集会 (第81回) (群馬県), 2012. 10.
 - 22) 平川慶子 : 核磁気共鳴技術を用いた新しい医学検査と診断技法の開発. BIO tech2012-国際バイオテクノロジー展技術会議 (第11回) (東京都), 2012. 4.

13. 医療管理学

研究概要

医療管理学教室では「医療マネジメント」の各レベル、即ち医療者対患者の「臨床」「病棟」「病院」「地域」「国」の研究を永年に亘って行ってきた。その対象の未来展望におくと「政策」現在手法におくと「経営」となる。2012年度は主任教授の最終年度にあたり、集大成的課題に取り組んできた。

まとめに入った「生存転換」と「進化生体医学」は19世紀に生まれた近代医療を21世紀に対応する新たな学問の体系として極めて有用と考えられる。また人類未踏の高齢社会の医療は「ケアサイクル」論としてまとめ、1年かけて厚労省老健局から支援されたプロジェクトとして多摩地区でフィールドテストを試みた。さらに文科省科学技術政策研究所より依頼された高齢社会における「健康概念」についてまとめ、それに基づく「21世紀の生命科学と医学の研究戦略」を検討しつつある。JAXAからの依頼で「宇宙科学の高齢社会への応用」についてもアドバイスを始めた。

経営についてもアフリカ15か国をフィールド5S/KAIZEN/TQMの全国的推進を試み、国内での調査研究を通して日本の病院への展開を調査研究した。そして「日本の医療安全」に対し「メタマネジメント」「コミュニケーション」「価値共創経営」など新たな提案がまとまった。あわせて新たな時代に適した新経営論「New Management Theory」を研究開発して行く計画である。

本年度は研究、教育、提言について7年間の活動の統括となった。

研究業績

論文

(1) 総説：

- 1) 半田祐二郎¹⁾、鈴木修一、三浦義英¹⁾ (1) 北海道医療大学)：病院が変わる⑧アフリカの今 エリトリアの挑戦。病院 2012；71 (8)：6-7。
- 2) 長谷川敏彦：病院が変わる⑩アフリカの今 アフリカから学ぶ新たな経営。病院 2012；71 (12)：6-7。
- 3) 長谷川敏彦：NURSE TREND ガイドライン作成に向けて 医療に関する広告規制の現状と課題。Nursing BUSINESS 2012；6 (8)：712-713。
- 4) 鈴木修一、小塩篤史、長谷川敏彦：日本の病院の機能分析。日医大医会誌 2012；8 (4)：321-321。
- 5) 小塩篤史：社会シミュレーション手法の医療政策・経営への応用に関する研究：高齢社会における医療需要の変質と供給体制を考える。医療情報学 2012；32 (Suppl)：182-186。

学会発表

(1) 特別講演：

- 1) 長谷川敏彦：市民公開講座 超高齢化社会で大きく転換する人生・社会と老年病専門医の役割。第54回日本老年医学会学術集会、2012. 6。
- 2) 長谷川敏彦：医療安全。第35回日本高血圧学会総会、2012. 9。

(2) 基調講演：

- 1) 長谷川敏彦：日本の医療制度の課題と解決策。第1回 Medical Process Consultation 国際会議、2012. 7。
- 2) 長谷川敏彦：医療安全とは何なのか、その未来は？。日本医療マネジメント学会2012年度医療安全分科会、2012. 11。

(3) シンポジウム：

- 1) 長谷川敏彦, 河北博文¹⁾, 飯田修平²⁾, 永井庸次³⁾ (¹⁾ 日本医療機能評価機構, ²⁾ 全日本病院協会, ³⁾ ひたちなか総合病院) : 医療現場での質の評価と改善 日本の道程と挑戦. 第14回日本医療マネジメント学会学術総会, 2012. 10.
- 2) 長谷川敏彦, 村林紘二¹⁾, 小林美亜²⁾ (¹⁾ 伊勢赤十字病院, ²⁾ 千葉大学大学院) : 「超高齢社会の到来と病院建築・設備」1. まちなか集積医療：超高齢社会の医療システム」. 第41回日本福祉設備学会, 2012. 11.

(4) 一般講演：

- 1) 鈴木修一, 長谷川敏彦, 小塩篤史：日本の病院における5S, カイゼン活動の導入と目的. 第14回日本医療マネジメント学会学術総会, 2012. 10.
- 2) 藤谷克己, 秋山健一, 小塩篤史, 長谷川敏彦：インフォームド・コンセントに関する最近の判例分析. 第14回日本医療マネジメント学会学術総会, 2012. 10.
- 3) 藤谷克己, 秋山健一, 田中啓広, 小塩篤史, 長谷川敏彦：老年医学教育におけるコア・コンピテンシーの日米比較について. 第14回日本医療マネジメント学会学術総会, 2012. 10.
- 4) 小塩篤史, 長谷川敏彦：高齢社会における医療需要の変化に関する研究. 第14回日本医療マネジメント学会学術総会, 2012. 10.
- 5) 加藤尚子¹⁾, 近藤正英²⁾, 大久保一郎²⁾, 長谷川敏彦 (¹⁾ 国際医療福祉大学, ²⁾ 筑波大学) : 病院機能分化施策への私的病院の反応に関する研究. 第14回日本医療マネジメント学会学術総会, 2012. 10.
- 6) 田中啓広, 林 正幸¹⁾, 長谷川敏彦 (¹⁾ 福島県立医科大学) : 高齢者における医療・介護資源利用状況の推移 ケアサイクル論の確立に向け. 第71回日本公衆衛生学会総会, 2012. 10.
- 7) 小塩篤史：政策学から見た製造販売承認. レギュラトリーサイエンス学会学術大会, 2012. 9.
- 8) 小塩篤史：社会シミュレーション手法の医療政策・経営への応用に関する研究. 医療情報学連合大会, 2012. 11.
- 9) 小塩篤史：未踏高齢社会における保健医療提供体制のデザイン：システムダイナミクスによる需要変動の影響分析. システムダイナミクス学会カンファレンス, 2012. 11.

14. 基礎医学共同研究利用施設

[実験動物管理室]

研究概要

遺伝性疾患モデル動物の開発、病態解析および原因遺伝子の同定によって疾患の解明・医学研究への貢献を目指して研究を進めている。非肥満2型糖尿病モデル動物である WBN/Kob ラットに Zucker fatty rat 由来の遺伝子を導入した WBN/Kob-fatty コンジェニックラットを確立し、新たな肥満2型糖尿病モデル動物を作成した。膵臓における炎症関連の遺伝子発現、および長期飼育により糖尿病性合併症モデルとしてヒトの病態の理解に資すると考え研究を行っている。さらに WBN/IIa ラットに貧毛遺伝子 Ht を導入した WBN/IIa-Ht ラットはアトピー性皮膚炎のモデルで、TRPV3 遺伝子に変異がある。このラットは皮膚炎発症および被毛の病態だけでなく、2次性胆汁性肝硬変への抵抗性が明らかとなったことから、遺伝的要因との関連について調べている。

研究業績

論文

[追加分]

追加分原著：

- 1) Akimoto T¹, Terada M¹, Shimizu A² (1) Division of Laboratory Animal Science, Nippon Medical School, Tokyo, Japan., (2) Department of Pathology-Analytic Human Pathology, Nippon Medical School, Tokyo, Japan.) : Progression of pancreatitis prior to diabetes onset in WBN/Kob-Lepr (fa) rats. J Vet Med Sci 2012 ; 74 (1) : 65-70.
- 2) Kato Y¹, Katusta Y¹, Zhang X¹, Ohsuga M¹, Akimoto T², Miyamoto A¹, Komeichi H¹, Shimizu S¹, Mizuno K¹ (1) Divisions of Cardiology, Hepatology, Geriatrics, and Integrated Medicine, Department of Internal Medicine, Graduate School of Medicine, (2) Division of Laboratory Animal Science) : Inhibition of nitric oxide synthase in hyperdynamic circulation of rats with early or late cirrhosis secondary to common bile duct ligation. J Nippon Med Sch 2011 ; 78 (3) : 146-155.

学会発表

追加分一般講演：

- 1) 秋元敏雄, 寺田 節 : WBN/Kob - Leprfa コンジェニック系ラットにおける糖尿病発症後の腎機能の加齢変化について. 第25回日本糖尿病・肥満動物学会年次学術集会 (東京), 2011. 11.

[形態解析共同研究施設]

研究概要

形態解析共同研究施設 (施設長：内藤善哉教授) は形態解析に関する種々の機器の管理と運営に加え、電子顕微鏡 (以下、電顕) 診断業務、電顕試料技術の開発と研究、共同研究、研究支援ならびに教育を業務としている。1. 共同機器の管理と運営：本施設に設置された種々の機器は、関連部署から選出された委員で構成される形態解析共同研究施設管理運営委員会の管轄の下に、現場各関連部署スタッフが管理、運営の実務を行っている。管理運営委員会は定期的に開催され、議案を検討し、その結果は委員長より教授会に報告されている。共同機器の稼働率は高く、保守や修理の経費の割合は大きくなっている。2. 電顕診断：平成24年度 (平成24年4月～平成25年2月末日) は、附属

4 病院から 211 症例の検体を受託された。その対象は腎臓 147 例、心臓 44 例、その他 20 例であり、主に循環器内科学、腎臓内科学、頭頸部・感覚器科学、小児・思春期医学、脳神経外科学、外部関連病院からの依頼であった。最近、特に多くなった心臓生検例では、ある病態の予後が電顕像から推察されつつある。3. 独自の研究：臨床に役立つ電顕診断の発展を目指し、生検材料を用いて診断のための新しい電顕指標を見いだす研究を継続して行っている。4. 共同研究と技術支援：本年度は学内、付属病院および関連病院から 54 症例（105 検体）を依頼された。これらの検体は電顕写真とし、所見を付けて各研究者に返却した。これらのうち、循環器内科学、皮膚粘膜病態学、解析人体病理学などと共同論文として報告している。また、学外の研究施設 2 カ所から依頼され、共同または受託研究契約を結び、異常血小板の形態解析を行った。5. 教育：付属病院病理部から 10 名、よろづ相談所病院（天理市）と東京医大から各 1 名の実習生を受け入れ、電顕実習を実施した。6. その他：准教授の鈴木は厚労省科研費の研究分担者となり、活性化したヒト血小板と人工血小板の相互関係を電顕的に検討した。

研究業績

論文

〔追加分〕

追加分原著：

- 1) Omi T¹⁾, Kawana S²⁾, Sato S, Bonan P³⁾, Naito Z (1) Department of Dermatology, Queens Square Medical Center, 2) Department of Dermatology, Nippon Medical School, 3) Department of Dermatology, University of Florence, Italy) : Fractional CO₂ laser for the treatment of acne scars. J Cosmet Dermatol. 2011 ; 10 (4) : 294-300.
- 2) 青木弘之¹⁾, 藤岡紀昭¹⁾, 阿部正典¹⁾, 松岡由美子¹⁾, 大森容子¹⁾, 葉山修陽²⁾, 佐藤 茂, 大藪英一³⁾ (1) 恵章会御徒町腎クリニック, 2) さいたまつきの森クリニック, 3) 日本医科大学微生物免疫) : 透析回路内に形成された淡黄色顆粒物の検討. 日本透析医学会雑誌 2012 ; 45 (2) : 135-141.
- 3) Saito T¹⁾, Asai K¹⁾, Sato S, Takagi G¹⁾, Takano H¹⁾, Takahashi H¹⁾, Yasutake M¹⁾, Mizuno K¹⁾ (1) Dept. of Cardiovascular Medicine, Nippon Medical School Hospital) : Myocardial alterations and clinical implications associated with recovery of cardiac function in dilated cardiomyopathy with obesity. International Journal of Cardiology 2013 ; 168 (1) : 144-150.

(1) 原著：

- 1) Nishikawa K¹⁾, Hagsawa K¹⁾, Kinoshita M¹⁾, Shono S¹⁾, Katsuno S²⁾, Doi M²⁾, Yanagawa R¹⁾, Suzuki H³⁾, Iwaya K¹⁾, Saitoh D¹⁾, Sakamoto T¹⁾, Seki S¹⁾, Takeoka S²⁾, Handa M⁴⁾ (1) 防衛医科大学校, 2) 早稲田大学, 3) 日本医科大学 形態解析共同研究施設, 4) 慶應義塾大学) : Fibrinogen γ -chain peptide-coated, ADP-encapsulated liposomes rescue thrombocytopenic rabbits from noncompressible liver hemorrhage. J. Thromb. Haemost. 2012 ; 10 (10) : 2137-2148.
- 2) Ono Y¹⁾, Wang Y²⁾, Suzuki H³⁾, Okamoto S¹⁾, Ikeda Y⁴⁾, Murata M¹⁾, Poncz M⁵⁾, Matsubara Y¹⁾ (1) Keio University School of Medicine, 2) The Children's Hospital of Philadelphia, 3) Nippon Medical School, 4) Waseda University, 5) University of Pennsylvania School of Medicine) : Induction of functional platelets from mouse and human fibroblasts by p45NF-E2/Maf. Blood 2012 ; 120 (18) : 3812-3821.
- 3) Matsubara Y¹⁾, Ono Y¹⁾, Suzuki H²⁾, Arai F¹⁾, Suda T¹⁾, Murata M¹⁾, Ikeda Y³⁾ (1) 慶應大学, 2) 日本医科大学 形態解析共同研究施設, 3) 早稲田大学) : OP9 bone marrow stroma cells differentiate into megakaryocytes and platelets. PLoS One 2013 ; 8 (3) : e58123.

著書

〔追加分〕

追加分：

- 1) 佐藤 茂, 尾見徳弥¹⁾ (1) 付属病院皮膚科・クイーンズスクエアメディカルセンター)：〔共著〕第1章 総論 11. セルライトとは？. 女性の皮膚トラブルFAQ (宮地良樹編集), 2012：pp64-70, 診断と治療社.

学会発表

(1) ワークショップ：

- 1) 佐藤 茂, 佐佐木喜広, 安達彰子, 内藤善哉：リンパ節の組織構築を理解する目的で洞内皮細胞のカラー化を試みた. 日本臨床分子形態学会総会・学術集会 (第44回), 2012. 9.

(2) 一般講演：

- 1) 鈴木英紀, 諸根信弘¹⁾ (1) 国立精神・神経センター神経研究所, 京都大学物質-細胞統合システム拠点)：ヒト血小板と人工血小板粒子の相互作用の解析-急速凍結切断レプリカ法による検討-. 日本顕微鏡学会学術講演会 (第68回), 2012. 5.
- 2) 鈴木英紀, 笠原浩二¹⁾, 内藤善哉 (1) 東京都医学総合研究所細胞膜研究室)：アルブミン固相化カバースリップ上の血小板はトロンビン刺激で何故伸展するのか?. 日本血栓止血学会学術集会 (第34回), 2012. 6.
- 3) 安達彰子, 佐藤 茂, 佐佐木喜広, 宮内靖史¹⁾, 斉藤恒徳¹⁾, 内藤善哉 (1) 付属病院循環器内科)：心筋細胞のT管内で微細線維増生している1症例. 日本臨床分子形態学会総会・学術集会 (第44回), 2012. 9.
- 4) 佐佐木喜広, 斉藤恒徳¹⁾, 佐藤 茂, 安達彰子, 内藤善哉 (1) 付属病院循環器内科)：心筋生検で見られた筋原線維の変性・消失. 日本臨床分子形態学会総会・学術集会 (第44回), 2012. 9.

〔情報科学センター〕

研究業績

学会発表

(1) 一般講演：

- 1) Aki F¹⁾, Kemmoku T¹⁾, Kimura T²⁾, Hayasaka Y, Itoh T, Kanai N³⁾, Ohshima H⁴⁾, Okamoto K³⁾, Tado-koro H³⁾, Yamazaki K⁴⁾ (1) 東海大学大学院開発工学研究科医用生体工学専攻, 2) 東海大学開発工学部情報通信工学科, 3) 東海大学開発工学部医用生体工学科, 4) 東海大学工学部医用生体工学科)：A CONCEPTUAL DESIGN TOWARD THE COMPUTER CONTROLLED ADOPTIVE LEG PROSTHESIS FOR DISABLED PEOPLE. IADIS International Conference Interfaces and Human Computer Interaction 2012 (Lisbon, Portugal), 2012. 7.
- 2) Kimura T¹⁾, Kumagai Y²⁾, Hayasaka Y, Ohshima H⁴⁾, Kanai N³⁾, Itoh T, Tadokoro H³⁾, Okamoto K³⁾, Yamazaki K⁴⁾ (1) 東海大学開発工学部情報通信工学科, 2) 東海大学大学院開発工学研究科医用生体工学専攻, 3) 東海大学開発工学部医用生体工学科, 4) 東海大学工学部医用生体工学科)：A PROPOSAL OF A NEW VEP BASED BRAIN COMPUTER INTERFACE FOR DISABLED PEOPLE. IADIS International Conference Interfaces and Human Computer Interaction 2012 (Lisbon, Portugal), 2012. 7.
- 3) Hayasaka Y, Yasuko S, Hiroshi K¹⁾, Itoh T (1) 日本医科大学物理学教室)：CALCULATIONS OF MULTI-DIMENSIONAL FRANCK-CONDON FACTORS AND LINE-SHAPE FUNCTIONS FOR 4-(DIMETHYL-AMINO) BENZONITRILE. Theory and Applications of Computational Chemistry 2012 (Pavia, ITALY), 2012. 9.

- 4) 早坂明哲, 藤原 渉¹⁾, 梅本一紀¹⁾, 門馬絵理¹⁾, 滋野恭子, 奥重秀彦, 伊藤高司 (¹⁾ 日本医科大学 医学部) : 全国医学部付属病院 Web ページデザインの高齢者・障がい者対応の現状調査. 医療情報学連合大会 (第 32 回) (新潟県新潟市), 2012. 11.
- 5) 早坂明哲, 滋野恭子, 奥重秀彦, 伊藤高司 : 日本医科大学におけるインターネット通信の解析報告. 大学 ICT 推進協議会 2012 年度年次大会 (兵庫県神戸市), 2012. 12.

[基礎医学放射性同位元素研究室]

研究概要

基礎医学 RI 研究室は 6 月より本事業所の放射線主任者である衛生学公衆衛生学分野・永原准教授が選任教員として任命され, 基礎医学 RI 研究室の法的小および管理業務一般, 従事者に対する教育訓練, 放射線影響に関する教育 (放射線衛生学), 基礎配属における教育, 大学院講義, 研究を行った. 永原は従来からのメルカプトピルビン酸硫黄転移酵素 (MST) のシステインレドックス化学 (酸化還元) に関する研究を中心に継続するとともに, 環境医学, 病態生化学, 酵素学, タンパク質化学, proteomics の分野の研究を展開した. 最近, MST が抗酸化タンパク質であることを証明した. また, SO_x が MST から産生される事を *in vitro* で証明して, 酵素 (タンパク質) 機能の多様性を明らかにした. 今年度の科研費研究の一環として MST ノックアウト (KO) マウスの作成に成功した. ヒトの MST の先天的欠損症 (mercaptolactate cysteine disulfiduria) は精神遅延発達障害を伴うが, 未だに病態が明らかになっていない. MST-KO マウスを用いた研究結果として, MST 欠損による不安障害を認めており, 病態の解明を進めた. 上記の研究を含め, 国内や欧米と複数の共同研究 (国立精神神経医療センター研究所・木村先生, 熊本大学・伊藤教授, 嶋村教授, 東京都健康長寿医療センター研究所・遠藤先生, 神奈川県立こども医療センター・田中先生, ジャギロニアン大 (ポーランド)・Wrobel 教授, ハノーバー大 (ドイツ)・Papenbrock 教授, ローマ大 (イタリア)・Sonia 教授) を行った. 選任教員が一名配置され選任教員が一名配置され選任教員が一名配置され, 新しい体制がスタートした年度となったが, 実験スペース, 分析機器, 試薬, 実験器具など, 早急に整備の必要性が課題として残った.

研究業績

論文

[追加分]

追加分原著 :

- 1) Nagahara N, Nirasawa T¹⁾, Yoshii T²⁾, Niimura Y²⁾ (¹⁾ Bruker Daltonics K.K, ²⁾ Faculty of Bioscience, Department of Bioscience, Tokyo University of Agriculture) : Is novel signal transducer SO_x involved in the redox cycle of persulfide at the catalytic site cysteine in a stable reaction intermediate of mercaptopyruvate sulfurtransferase?. *Antioxid & Redox Signal* 2012 ; 16 : 747-753.

著書

- 1) Nagahara N : [分担] Redox-sensing cysteine dependent-molecular switches, Intramolecular disulfide formation. *Advances in Chemistry Research*, Vol. 12 (Taylor JC), 2012 ; pp 243-255, Nova Science Publishers, Inc..
- 2) Nagahara N : [分担] Updated report on a novel mercaptopyruvate sulfurtransferase thioredoxin-dependent redox-sensing molecular switch : A mechanism for the maintenance of cellular redox equilibrium. *Recent Advances in Medicinal Chemistry*, 2012 ; pp76-92, Bentham Science Publishers.

学会発表

(1) 招待講演：

- 1) 永原則之：東日本大震災と環境問題；福島原発事故後どう考えるか，低線量放射線影響とLNT仮説について．日本温泉気候物理学会 関東・甲信越地区 温泉療法医研修会（東京），2012. 10.

(2) 一般講演：

- 1) 田中水緒¹⁾，片山 映²⁾，永原則之，吉田真理子¹⁾，五味 淳¹⁾，後藤裕明³⁾，北河徳彦⁴⁾，新開真人⁴⁾，気賀沢寿人³⁾，田中祐吉¹⁾（¹⁾ 神奈川県立こども医療センター・病理科，²⁾ 日本医科大学学生化学・分子生物学，³⁾ 神奈川県立こども医療センター・血液再生医療科，⁴⁾ 神奈川県立こども医療センター・外科）：Clear cell sarcoma of kidney の新たな診断マーカー開発の試み．第54回日本小児血液・がん学会学術集会（横浜），2012. 12.
- 2) Nagahara N, Nagano M¹⁾, Ito T²⁾, Suzuki H¹⁾（¹⁾ Dept. of Pharmacol., Nippon Med. Sch., ²⁾ Dept. of Pathol. Experiment. Med., Grad. Sch. of Med. Sci., Kumamoto Uni.）：MST knockout mouse production and comprehensive analysis（3）．第85回日本生化学会大会（福岡），2012. 12.
- 3) Kimura H¹⁾, Mikami Y²⁾, Shibuya N¹⁾, Kimura Y¹⁾, Ogasawara Y³⁾, Nagahara N（¹⁾ Dept. of Mol. Pharmacol., Nat. Inst. Neurosci., ²⁾ Dept. of Pharmacol., Tokyo Univ., ³⁾ Dept. of Hygienic Chem., Meiji Pharmaceutical Univ.）：Regulation of H₂S production by 3-mercaptopyruvate sulfurtransferase．第85回日本生化学会大会（福岡），2012. 12.

〔3〕臨 床 医 学

1. 内科学（循環器内科学）

[付属病院一般内科，循環器内科，肝臓内科，再生医療科]

研究業績

論文

[追加分]

追加分総説：

- 1) 福岡長知, 林 寛子, 菅谷寿理¹⁾, 加藤和代, 加藤祐子, 高橋 啓, 馬淵浩輔, 水野杏一 (¹⁾ 生理機能センター) : 心筋梗塞後の心血管リスクとしての睡眠時無呼吸. 日本心臓病学会誌 2012 ; 7 (1) : 44-49.
- 2) 加藤貴雄 : 循環器学 2011 年の進歩. 心電学研究の進歩. 循環器専門医 2012 ; 20 (1) : 112-115.
- 3) 加藤貴雄, Turpie A, 庭野慎一, 小林義典 : 心原性脳塞栓症発症抑制のための新しいストラテジー : 第 Xa 因子阻害薬の臨床的ベネフィット. 日経メディカル 2012 ; 532 (3) : 70-73.
- 4) Katoh T : Wavelet transform analysis as a promising tool for evaluation of arrhythmogenic substrates. J Arrhythmia 2012 ; 28 (2) : 83-84.
- 5) 高野雅充¹⁾, 水野杏一 (¹⁾ 千葉北総病院) : 血管内視鏡による動脈硬化病変とステント留置部の評価. 冠疾患誌 2010 ; 16 (1) : 80-86.

追加分原著：

- 1) Tajima N¹⁾, Kurata H¹⁾, Ohashi Y²⁾, Mizuno K, Nakamura H³⁾ (¹⁾ Jikei Univ.School of Medicine, ²⁾ Univ. of Tokyo, ³⁾ Mitsukoshi Health and Welfare Foundation) : Management of Elevated Cholesterol in the primary prevention Group of Adult Japanese (MEGA) Study assists the view that a fasting plasma glucose level ≥ 100 mg/dL increases cardiovascular risk. Journal of Diabetes Investigation 2011 ; 2 (5) : 399-405.
- 2) Nakaya N¹⁾, Mizuno K, Ohashi Y²⁾, Teramoto T³⁾, Yokoyama S⁴⁾, Hirahara K⁵⁾, Mizutani M⁶⁾, Nakamura H⁷⁾ (¹⁾ Nakaya Clinic, ²⁾ Univ. of Tokyo, ³⁾ Teikyo Univ. School of Medicine, ⁴⁾ Nagoya City Univ. Graduate School of Medical Science, ⁵⁾ Hirahara Internal Clinic, ⁶⁾ Ashiyama Internal Clinic, ⁷⁾ Mitsukoshi Health and Welfare Foundation) : Low-Dose Pravastatin and Age-Related Differences in Risk Factors for Cardiovascular Disease in Hypercholesterolaemic Japanese. Drugs Aging 2011 ; 28 (9) : 681-692.
- 3) Kushiro T¹⁾, Mizuno K, Nakaya N²⁾, Ohashi Y³⁾, Teramoto T⁴⁾, Yokoyama S⁵⁾, Kakinoki S⁶⁾, Nakamura H⁷⁾ (¹⁾ Nihon Univ. School of Medicine, ²⁾ Nakaya Clinic, ³⁾ Univ. of Tokyo, ⁴⁾ Teikyo Univ. School of Medicine, ⁵⁾ Nagoya City Univ. Graduate School of Medical Science, ⁶⁾ Otaru Kyokai Hospital, ⁷⁾ Mitsukoshi Health and Welfare Foundation) : Blood pressure control status and effects of pravastatin on cardiovascular events occurrence in patients with dyslipidaemia. Journal of Human hypertension 2011 ; 26 : 388-395.
- 4) Inami T¹⁾, Seino Y¹⁾, Otsuka T²⁾, Yamamoto M¹⁾, Kimata N¹⁾, Murakami D¹⁾, Takano M¹⁾, Ohba T¹⁾, Ibuki C¹⁾, Mizuno K (¹⁾ Chiba Hokusoh Hospital) : Links between sleep disordered breathing coronary atherosclerotic burden and cardiac biomarkers in patients with stable coronary artery disease. J of Cardiol 2011 ; 60 (3) : 180-186.
- 5) Sakai Y¹⁾, Sakai S¹⁾, Otsuka T¹⁾, Ohno D¹⁾, Murasawa T¹⁾, Munakata K¹⁾, Mizuno K (¹⁾ Musashikosugi Hospital) : Efficacy of high-throughput leukocytapheresis for rheumatoid arthritis with a reduced response to infliximab. Ther Apher Dial 2009 ; 13 (3) : 179-185.
- 6) Teramoto T¹⁾, Nakaya N¹⁾, Yokoyama S¹⁾, Ohashi Y¹⁾, Mizuno K, Nakamura H¹⁾ (¹⁾ MEGA Study Group) :

Association between lowering low-density lipoprotein cholesterol with pravastatin and primary prevention of cardiovascular disease in mild to moderate hypercholesterolemic Japanese. *J Atheroscler Thromb* 2010 ; 17 (8) : 879-887.

- 7) Nakamura H¹⁾, Mizuno K, Ohashi Y¹⁾, Yoshida T¹⁾, Hirao K¹⁾, Uchida Y¹⁾ (¹⁾ MEGA Study Group) : Pravastatin and cardiovascular risk in moderate chronic kidney disease. *Atherosclerosis* 2009 ; 206 (2) : 512-517.
- 8) Uchiyama S¹⁾, Nakaya N¹⁾, Mizuno K, Ohashi Y¹⁾, Tajima N¹⁾, Kushiro T¹⁾, Teramoto T¹⁾, Nakamura H¹⁾ (¹⁾ MEGA Study Group) : Risk factors for stroke and lipid-lowering effect of pravastatin on the risk of stroke in Japanese patients with hypercholesterolemia : Analysis of data from the MEGA Study, a large randomized controlled trial. *J Neurol Sci* 2009 ; 284 (1-2) : 72-76.
- 9) Satter N¹⁾, Presiss D¹⁾, Murray H¹⁾, Welsh P¹⁾, Buckley B¹⁾, De Craen A¹⁾, Seshasai S¹⁾, McMurray J¹⁾, Freeman D¹⁾, Jukema J¹⁾, Macfarlane P¹⁾, Packard C¹⁾, Stott D¹⁾, Westendorp R¹⁾, Sheperad J¹⁾, et al. (¹⁾ British Heart Foundation Glasgow Cardiovascular Research Center) : Statins and risk of incident diabetes : a collaborative meta-analysis of randomised statin trials. *Lancet* 2010 ; 375 (9716) : 735-742.
- 10) Honma H, Ohno T, Tokita Y, Fujimoto H, Yoshinaga A, Sato S, Yokoshima T, Ito K, Mizuno K : Aortic valve calcification and increased stiffness of the proximal thoracic ascending aorta : Association with left ventricular diastolic dysfunction and early chronic kidney disease. *J Med Ultrasonics* 2011 ; 38 (4) : 179-186.
- 11) 村田広茂¹⁾, 宮内靖史, 田中啓治¹⁾, 野間さつき, 有田淑恵¹⁾, 高橋健太, 植竹俊介, 林 洋史, 坪井一平, 山本哲平, 岡崎怜子, 堀江 格, 林 明聡, 山本 剛¹⁾, 小原俊彦, その他 4 名 (¹⁾ 集中治療室) : VT storm に対するアミオダロン静注薬の有効性. *Progress in Medicine* 2012 ; 32 (suppl1) : 424-429.
- 12) Hosokawa Y¹⁾, Tanaka K¹⁾, Mizuno K (¹⁾ Cardiac Care Unit) : Successful Treatment for Refractory Coronary Thrombus with Scoring Balloon Angioplasty. *Catheterization and Cardiovascular Interventions* 2012 ; 79 (2) : 282-287.
- 13) Hosokawa Y¹⁾, Yamamoto T¹⁾, Yabuno Y¹⁾, Hara K¹⁾, Aokage T¹⁾, Nakazato K¹⁾, Suzuki H¹⁾, Suzuki M¹⁾, Ueno A¹⁾, Munakata R¹⁾, Tokita Y¹⁾, Yamamoto E¹⁾, Akutsu K¹⁾, Takano H, Sato N¹⁾, et al. (¹⁾ Cardiac Care Unit) : Inhaled nitric oxide therapy for secondary pulmonary hypertension with hypertrophic obstructive cardiomyopathy and severe kyphoscoliosis. *Int J of Cardiol* 2012 ; 158 (1) : e20-e21.
- 14) Nakagomi A¹⁾, Saiki Y¹⁾, Kosugi M¹⁾, Kohashi K¹⁾, Yoshikawa K¹⁾, Yamane Y¹⁾, Kodani E¹⁾, Kusama Y¹⁾, Atarashi H¹⁾, Mizuno K (¹⁾ Tama Nagayama Hospital) : Effect of insulin resistance associated with compensatory hyperinsulinemia on the long-term prognosis in patients with vasospastic angina. *Int J of Cardiol* 2013 ; 167 (5) : 2222-2227.
- 15) Aizawa Y¹⁾, Horie M¹⁾, Inoue H¹⁾, Kamakura S¹⁾, Katoh T, Matsuzaki M¹⁾, Misaki T¹⁾, Mitamura H¹⁾, Murakawa Y¹⁾, Nitta T¹⁾, Ogawa S¹⁾, Okumura K¹⁾, Sumitomo N¹⁾, Yoshinaga M¹⁾ (¹⁾ Guidelines for risks and prevention of sudden cardiac death) : Guidelines for risks and prevention of sudden cardiac death (JCS 2010). *Circ J* 2012 ; 76 (2) : 489-507.
- 16) Nakagomi A¹⁾, Kodani E¹⁾, Takano H, Uchida T²⁾, Sato N²⁾, Ibuki C³⁾, Kusama Y¹⁾, Seino Y³⁾, Munakata K²⁾, Mizuno K, Takano T (¹⁾ Tama Nagayama Hospital, ²⁾ Musashi kosugi Hosital, ³⁾ Chiba Hokusoh Hospita) : Secondary preventive effects of a calcium antagonist for ischemic heart attack : randomized parallel comparison with β -blockers. *Circ J* 2011 ; 75 (7) : 1696-1705.
- 17) Yodogawa K, Ono N¹⁾, Seino Y¹⁾ (¹⁾ Chiba Hokusoh Hospital) : Rapid Recovery from Congestive Heart Failure Following Successful Radiofrequency Catheter Ablation in a Patient with Late Onset of Wolff-Parkin-

son-White Syndrome. Internal Medicine 2012 ; 51 (3) : 277-280.

追加分症例報告 :

- 1) Honma H, Ohno T, Matsuzaki T, Mizuno K : Idiopathic internal jugular vein thrombosis in a patient with severe dizziness. J Echocardiogr 2011 ; 9 (3) : 119-120.

(1) 原著 :

- 1) Mizuno K, Nakaya N¹⁾, Teramoto T²⁾, Yokoyama S³⁾, Ohashi Y⁴⁾, Ueki A⁵⁾, Takahashi S⁶⁾, Kubota Y⁷⁾, Nakamura H⁸⁾ (¹⁾ Nakaya Clinic, ²⁾ Teikyo Univ. School of Medicine, ³⁾ Nagoya City Univ. Graduate School of Medical Science, ⁴⁾ Univ. of Tokyo, ⁵⁾ Tokyo Medical Univ. Hachioji Medical Center, ⁶⁾ Mitsuke City Hospital, ⁷⁾ Kureha General Hospital, ⁸⁾ Mitsukoshi Health and Welfare Foundation) : Usefulness of LDL-C-Related Parameters to Predict Cardiovascular Risk and Effect of Pravastatin in Mild-to-Moderate Hypercholesterolemia. J Atheroscler Thromb 2012 ; 19 (2) : 176-185.
- 2) Morishita R¹⁾, Itakura H²⁾, Nakaya N³⁾, Yoshida M⁴⁾, Odawara M⁵⁾, Ichihara A⁶⁾, Mizuno K (¹⁾ Osaka Univ. Graduate School of Medicine, ²⁾ Ibaraki Chirstian Univ., ³⁾ Nakaya Clinic, ⁴⁾ Tokyo Medical and Dental Univ., ⁵⁾ Tokyo Medical Univ., ⁶⁾ Tokyo Womens Medical Univ) : Risk Factors for Cardiovascular Events in Japanese Patients Treated with Fluvastatin from the Long-Term Event Monitoring (LEM) Study. Current Vascular Pharmacology 2012 ; 10 (2) : 178-186.
- 3) Akutsu K¹⁾, Kawamoto M²⁾, Sato N¹⁾, Yamamoto T¹⁾, Tamura K³⁾, Mizuno K, Tanaka K¹⁾ (¹⁾ CCU, ²⁾ Diagnostic Pathology, ³⁾ Tokyo Teishin Hospital) : Acute Aortic Dissection Associated with Cystic Medial Necrosis of Unknown Etiology. J Nippon Med Sch 2012 ; 79 (2) : 159-162.
- 4) Shirakabe A¹⁾, Asai K, Hata N¹⁾, Yokoyama S¹⁾, Shinada T¹⁾, Kobayashi N¹⁾, Tomita K¹⁾, Tsurumi M¹⁾, Matsushita M¹⁾, Mizuno K (¹⁾ Care Unit, Chiba-Hokusoh Hospital) : Immediate administration of atorvastatin decreased the serum MMP-2 level and improved the prognosis for acute heart failure. J of Cardiol 2012 ; 59 (3) : 374-382.
- 5) Kato K¹⁾, Yonetsu T¹⁾, Kim S¹⁾, Xing L¹⁾, Lee H¹⁾, McNulty I¹⁾, Yeh W¹⁾, Sakuhja R¹⁾, Zhang S¹⁾, Uemura S¹⁾, Yu B¹⁾, Mizuno K, Jang I (¹⁾ Massachusetts General Hospital) : Nonculprit Plaques in Patients With Acute Coronary Syndromes Have More Vulnerable Features Compared With Those With Non-Acute Coronary SyndromesA 3-Vessel Optical Coherence Tomography Study. Circ Cardiovasc Imaging 2012 ; 5 : 433-440.
- 6) Narita K¹⁾, Akutsu K¹⁾, Yamamoto T¹⁾, Sato N¹⁾, Murata S²⁾, Mizuno K, Tanaka K¹⁾ (¹⁾ CCU, ²⁾ Radiology) : Simultaneous fenestration with stent implantation for acute limb ischemia due to type b acute aortic dissection complicated with both static and dynamic obstructions. Ann Thorac Cardiovasc Surg 2012 ; 18 (2) : 158-161.
- 7) 八島正明, 加藤貴雄, 吉田朱美¹⁾, 小杉山亜衣¹⁾, 関口清治¹⁾, 水野杏一 (¹⁾ (株) ダイヤメディカルネット心電図解析部) : 新たに開発したコンピュータ補助接線法によるQT 間隔計測システム (キャプテンー QT) の再現性と信頼性. 心電図 2012 ; 32 (2) : 137-144.
- 8) 水野正之¹⁾, 高野雅充²⁾, 河原崎昇¹⁾, 清野精彦²⁾, 水野杏一 (¹⁾ 千葉北総病院放射線センター, ²⁾ 千葉北総病院) : 管腔内含有血液が OCT 画像に与える影響. CVIT Jpn Ed 2012 ; 4 (2) : 129-132.
- 9) Nakagomi A¹⁾, Seino Y²⁾, Kohashi K¹⁾, Kosugi M¹⁾, Endoh Y¹⁾, Kusama Y¹⁾, Atarashi H¹⁾, Mizuno K (¹⁾ Tama-Nagayama Hospital, ²⁾ Chiba-Hokusoh Hospital) : Effects of statin therapy on the production of monocyte pro-inflammatory cytokines, cardiac function, and long-term prognosis in chronic heart failure patients with dyslipidemia. Circ J 2012 ; 76 (9) : 2130-2138.

- 10) Tajika K¹, Okamatsu K¹, Takano M¹, Inami S¹, Yamamoto M¹, Murakami D¹, Kobayashi N¹, Ohba T¹, Hata N¹, Seino Y¹, Mizuno K (¹ Chiba-Hokusoh Hospital) : Malondialdehyde-modified low-density lipoprotein is a useful marker to identify patients with vulnerable plaque. *Circ J* 2012 ; 76 (9) : 2211-2217.
- 11) Amano Y¹, Techii M¹, Tani H¹, Mizuno K, Kobayashi Y¹, Kumita S¹ (¹ Radiology) : T2-weighted cardiac magnetic resonance imaging of edema in myocardial diseases. *The Scientific World Journal* 2012 : e-Pub.
- 12) Mizuno K, Tajima N¹, Ohashi Y², Nakamura H³ (¹ Jikei Univ., ² Preventive Health Science Univ of Tokyo, ³ Mitsukoshi Health & Welfare Foundation) : Is the risk of new-onset diabetes by statins associated with diet adherence?. *Cardiology* 2012 ; in press : e-Pub.
- 13) Kobayashi N¹, Hata N¹, Kume N², Yokoyama S¹, Takano M³, Shinada T¹, Tomita K¹, Shirakabe A¹, Inami T³, Seino Y³, Mizuno K (¹ Intensive Care Unit, Nippon Medical School Chiba Hokusoh Hospital, ² Kobegakuin Univ, ³ Chiba-Hokusoh Hospital) : Detection of acute aortic dissection by extremely high soluble lectin-like oxidized LDL receptor-1 (sLOX-1) and low troponin T levels in blood. *Cardiology* 2012 ; in press : e-Pub.
- 14) Shirakabe A¹, Hata N¹, Kobayashi N¹, Shinada T¹, Tomita K¹, Tsurumi M¹, Matsushita M¹, Okazaki H¹, Yamamoto Y¹, Yokoyama S¹, Asai K, Mizuno K (¹ Intensive Care Unit Chiba Hokusoh Hospital) : Long-term prognostic impact after acute kidney injury in patients with acute heart failure. *Int Heart J* 2012 ; 53 (5) : 313-319.
- 15) Fukuma N, Oikawa K, Kato K, Kato Y, Mizuno K, Kumita S¹ (¹ Radiology) : Denervated sympathetic nerve distributed to motor muscle as a possible cause of enhanced bp response to exercise in patients with heart disease. *J Jpn Coron Assoc* 2012 ; 18 (3) : 189-193.
- 16) Yamamoto T¹, Takeda S¹, Sato N², Akutsu K, Mase H¹, Nakazato K¹, Mizuno K, Tanaka K (¹ Intensive and Cardiac Care Unit, ² Musashi Kosugi Hospital) : Noninvasive ventilation in pulmonary edema complicating acute myocardial infarction. *Circ J* 2012 ; 76 (11) : 2587-2591.
- 17) Saito T, Asai K, Sato S¹, Takagi G, Takano H, Takahashi H, Yasutake M, Mizuno K (¹ Central Electron Microscopic Institute) : Myocardial alterations and clinical implications associated with recovery of cardiac function in dilated cardiomyopathy with obesity. *Int J of Cardiol* 2012 ; in press : e-Pub.
- 18) Munakata R¹, Yamamoto T¹, Hosokawa Y¹, Tokita Y, Akutsu K¹, Sato N², Murata S³, Tajima H⁴, Mizuno K, Tanaka K¹ (¹ Intensive and Cardiac Care Unit, ² Musashi Kosugi Hospital, ³ Radiology, ⁴ Center for Minimally Invasive Treatment, Musashi Kosugi Hospital) : Massive pulmonary embolism requiring extracorporeal life support treated with catheter-based interventions. *Int Heart J* 2012 ; 53 (6) : 1-5.
- 19) Ibuki C¹, Seino Y¹, Otsuka T², Kimata N¹, Inami T¹, Munakata R¹, Mizuno K (¹ Chiba Hokusoh Hospital, ² Hygiene and Public Health) : Switching to pitavastatin in statin-treated low HDL-C patients further improves the lipid profile and attenuates minute myocardial damage. *J Clin Med Res* 2012 ; 4 (6) : 385-392.
- 20) Fukuma N, Hayashi H, Suaya J, Aida T, Kato M, Kato K, Kato Y, Takahashi H, Mizuno K : Sleep-disordered breathing with nighttime hypoxemia relates to daytime enhanced ventilator response to exercise in patients with heart disease. *J Nippon Med Sch* 2012 ; 79 (6) : 409-415.
- 21) Kushiro T¹, Mizuno K, Nakaya N¹, Ohashi Y¹, Teramoto T¹, Yokoyama S¹, Kakinoki S¹, Nakamura H¹ (¹ MEGA Study Group) : Blood pressure control status and effects of pravastatin on cardiovascular events occurrence in patients with dyslipidaemia. *Journal of Human hypertension* 2012 ; 26 (6) : 388-395.
- 22) Matsushima T¹, Nakaya N¹, Mizuno K, Ohashi Y¹, Teramoto T¹, Yokoyama S¹, Ichikawa S¹, Ishikura N¹, Kamiyama K¹, Nakamura H¹ (¹ MEGA Study Group) : The effect of low-dose pravastatin in

- metabolic syndrome for primary prevention of cardiovascular disease in Japan : a post-hoc analysis of the MEGA Study. *J Cardiovasc Pharmacol Ther* 2012 ; 17 (2) : 153-158.
- 23) Nishiwaki M¹⁾, Ikewaki K¹⁾, Mizuno K, Ohashi Y¹⁾, Ohsuzu F¹⁾, Ishikawa T¹⁾, Nakamura H¹⁾ (¹⁾ MEGA Study Group) : Risk reductions for cardiovascular disease with pravastatin treatment by dyslipidemia phenotype : A post hoc analysis of the MEGA Study. *J Cardiol* 2013 ; 61 (3) : 196-200.
- 24) Kubota Y, Takahashi H, Asai K, Yasutake M, Mizuno K : The Influence of a Direct Renin Inhibitor on the Central Blood Pressure. *J Nippon Med Sch* 2013 ; 80 (1) : 25-33.
- 25) Kubota Y, Miyamoto M, Takagi G, Ikeda T, Kirinoki-Ichikawa S, Tanaka K, Mizuno K : The dipeptidyl peptidase-4 inhibitor sitagliptin improves vascular endothelial function in type 2 diabetes. *J Korean Med Sci* 2012 ; 27 (11) : 1364-1370.
- 26) 宮本正章, 高木 元 : 糖尿病患者の重症下肢虚血に対する血管再生治療 : Limb salvage のためのあらたな戦略. *医学のあゆみ* 2012 ; 240 (11) : 909-916.
- 27) 高木 元, 古山景子, 大貫朋子, 桐木市川園子, 高瀬仁志, 宮本正章 : マゴットセラピーの周術期副作用対策と予後改善を目指した適応判断. *創傷* 2013 ; in press : e-Pub.
- 28) Miyachi H¹⁾, Yamamoto A¹⁾, Otuka T¹⁾, Yoshikawa M¹⁾, Kodani E¹⁾, Endoh Y¹⁾, Nakagomi A¹⁾, Kusama Y¹⁾, Atarashi H¹⁾, Mizuno K (¹⁾ Tama Nagayama Hspital) : Relationship between left ventricular dyssynchrony and systolic dysfunction is independent of impaired left ventricular myocardial perfusion in heart failure : Assessment with 99mTc-sestamibi gated myocardial scintigraphy. *Int J of Cardiol* 2012 ; in press : e-Pub.
- 29) 村井綱兄¹⁾, 清野精彦¹⁾, 木股伸恒¹⁾, 稲見 徹¹⁾, 村上大介¹⁾, 阿部純子¹⁾, 淀川顕司¹⁾, 丸山光紀¹⁾, 高野雅充¹⁾, 大場崇芳¹⁾, 雪吹周生¹⁾, 水野杏一 (¹⁾ 千葉北総病院) : Efficacy and Limitations of Oral Inotropic Agents for the Treatment of Chronic Heart Failure : A Single Center Cross-sectional Observational Study. *Int Heart J* 2013 ; 54 (2) : 238-245.
- 30) 川本智章, 山内 篤¹⁾, 金子恵子, 宮元亮子, 清水秀治, 水野杏一 (¹⁾ さいたま寄居病院) : ラジオ波焼灼療法施行中の腫瘍内圧測定. *J Microwave Surg* 2012 ; 30 : 119-123.
- 31) Kobayashi N¹⁾, Hata N¹⁾, Shimura T¹⁾, Yokohama S¹⁾, Shirakabe A¹⁾, Shinada T¹⁾, Tomita K¹⁾, Murakami D¹⁾, Takano M¹⁾, Seino Y¹⁾, Matsumoto H¹⁾, Mashiko K¹⁾, Mizuno K (¹⁾ Chiba Hokusoh Hospital) : Characteristics of patients with cardiac arrest caused by coronary vasospasm. *Circ J* 2013 ; 77 (3) : 673-678.
- 32) Yodogawa K, Seino Y, Ohara T, Hayashi M, Miyauchi Y, Katoh T, Mizuno K : Prediction of atrial fibrillation after ischemic stroke using P-wave signal averaged electrocardiography. *J Cardiol* 2013 ; 61 (1) : 49-52.
- 33) Ogawa S¹⁾, Aizawa Y¹⁾, Aonuma Y¹⁾, Hirai M¹⁾, Iesaka Y¹⁾, Inoue H¹⁾, Ishikawa T¹⁾, Kamakura S¹⁾, Katoh T, Kosakai Y¹⁾, Kumagai K¹⁾, Kurita T¹⁾, Nakazato Y¹⁾, Okumura K¹⁾, Shoda M¹⁾, et al. (¹⁾ Guidelines for clinical cardiac electrophysiologic study) : Guidelines for clinical cardiac electrophysiologic study (JCS 2011)-Digest Version. *Circ J* 2013 ; 77 (2) : 487-518.
- 34) Okumura K¹⁾, Aizawa Y¹⁾, Aonuma Y¹⁾, Hagiwara N¹⁾, Isobe F¹⁾, Katoh T, Matsumoto K¹⁾, Murakawa Y¹⁾, Nitta T¹⁾, Onishi S¹⁾, Shimizu A¹⁾ (¹⁾ Guidelines for non-pharmacotherapy of cardiac arrhythmias) : Guidelines for non-pharmacotherapy of cardiac arrhythmias (JCS 2011)-Digest Version-. *Circ J* 2013 ; 77 (1) : 249-274.
- 35) Kobayashi N¹⁾, Hata N¹⁾, Kume N¹⁾, Mizuno K (¹⁾ Chiba Hokusoh Hospital) : Methodological considerations for utilizing plasma matrix metalloproteinase-9 as a biomarker in acute vascular syndromes. *Circ J* 2012 ;

76 (4) : 1044-1045.

- 36) Inami T¹⁾, Seino Y¹⁾, Abe J¹⁾, Tokita Y²⁾, Shirakabe A²⁾, Kobayashi N²⁾, Shinada T²⁾, Hata N²⁾, Mizuno K (¹⁾ Chiba Hokusoh Hospital, ²⁾ intensive care unit Chiba Hokusoh Hospital) : Untreated obstructive sleep apnea as a differential diagnosis in young woman with aortic dissection. *Int J of Cardiol* 2012 ; e-Pub.
- 37) Inami T¹⁾, Seino Y¹⁾, Mizuno K (¹⁾ Chiba Hokusoh Hospital) : Unique case of giant Kommerell diverticulum with aberrant left subclavian artery arising from the left aortic arch associated with situs inversus. *Int J of Cardiol* 2013 ; 163 (3) : e47-e48.
- 38) Inami T¹⁾, Seino Y¹⁾, Mizuno K (¹⁾ Chiba Hokusoh Hospital) : Images of a vascular ring with a right aortic arch and Kommerell diverticulum obtained by three-dimensional CT. *Heart Asia* 2012 ; 4 (1) : 110-111.
- 39) Inami T¹⁾, Seino Y¹⁾, Mizuno K (¹⁾ Chiba Hokusoh Hospital) : Untreated severe obstructive sleep apnoea and development of acute aortic dissection. *BMJ Case Reports* 2012 ; In press.
- 40) Inami T¹⁾, Seino Y¹⁾, Tomita K²⁾, Shirakabe A²⁾, Kobayashi N²⁾, Hata N²⁾, Mizuno K (¹⁾ Chiba Hokusoh Hospital, ²⁾ Chiba Hokusoh Hospital Intensive Care Unit) : Swimming in obstructive sleep apnea patient could be a risk factor of aortic dissection?. *Int J of Cardiol* 2013 ; 162 (2) : e39-e40.
- 41) Shirakabe A¹⁾, Hata N¹⁾, Kobayashi N¹⁾, Shinada T¹⁾, Tomita K¹⁾, Tsurumi M¹⁾, Matsushita M¹⁾, Okazaki H¹⁾, Yamamoto Y¹⁾, Yokoyama S¹⁾, Asai K, Mizuno K (¹⁾ Intensive Care Unit Chiba Hokusoh Hospital) : Clinical significance of acid-base balance in an emergency setting in patients with acute heart failure. *J Cardiology* 2012 ; 60 (4) : 288-294.
- 42) Shirakabe A¹⁾, Hata N¹⁾, Kobayashi N¹⁾, Shinada T¹⁾, Tomita K¹⁾, Tsurumi M¹⁾, Matsushita M¹⁾, Okazaki H¹⁾, Yamamoto Y¹⁾, Asai K, Mizuno K (¹⁾ Intensive Care Unit Chiba Hokusoh Hospital) : Prognostic impact of acute kidney injury in patients with acute decompensated heart failure. *Circ J* 2013 ; 77 (3) : 687-696.

(2) 総説 :

- 1) Inami S, Takano M, Mizuno K : Acute Coronary Syndrome : Insight Based on Intravascular Imaging. *J Jpn Coron Assoc* 2012 ; 18 (2) : 107-117.
- 2) 水野杏一 : 循環器救急医療の進歩 (蘇生医学と集中医療) ②循環器専門医の責任 : 救急医療を中心に社会に対する責任. *心臓* 2012 ; 44 (5) : 639-640.
- 3) Takano M¹⁾, Inami S, Mizuno K (¹⁾ Chiba-Hokusoh Hospital) : Clear View, Clear Benefit. *Circ J* 2012 ; 76 (1) : 816-817.
- 4) 天野康雄¹⁾, 城 正樹¹⁾, 林 明聡, 北村光信²⁾, 汲田伸一郎¹⁾, 田中啓治²⁾, 水野杏一 (¹⁾ 放射線科, ²⁾ 集中治療室) : 心尖部心室瘤を呈した肥大型心筋症. *ICUとCCU* 2012 ; 36 (7) : 540-542.
- 5) Yamamoto T¹⁾, Yasutake M (¹⁾ Cardiovascular Care Unit) : Measurement of Heart-Type Fatty Acid-Binding Protein Before Discharge. *Circ J* 2013 ; 77 (4) : 904-905.
- 6) 清野精彦¹⁾, 村井綱児 (¹⁾ 千葉北総病院) : 心不全のバイオマーカー : BNP とトロポニン T を中心に. *サーキュレーション・アップデート* 2012 ; 7 (6) : 569-573.

(3) 症例報告 :

- 1) Inami S, Takano M, Kato K, Yoshida A, Nakamura S, Murai K, Tokita Y, Takagi G, Takano H, Asai K, Yasutake M, Mizuno K : Disruption of Atherosclerotic Neointima Seven Years After Bare Metal Stent Deployment. *Int Heart J* 2012 ; 53 (4) : 261-262.
- 2) Kobayashi N¹⁾, Takano M¹⁾, Shirakabe A¹⁾, Hata N¹⁾, Kawamata H¹⁾, Mizuno K (¹⁾ Division of Intensive Care Unit and Radiology, Chiba-Hokusoh Hospital) : Intravascular Ultrasound-guided endovascular stenting for celiac artery complicated with hepatic hypoperfusion following acute type B aortic dissection. *JACC*

2012 ; 59 (17) : 1568-1568.

- 3) Sakai Y¹⁾, Kadomatsu Y²⁾, Sakai S¹⁾, Otsuka T¹⁾, Ohno D¹⁾, Murasawa T¹⁾, Sato N¹⁾, Mizuno K (¹⁾ Musashi Kosugi Hospital, ²⁾ Medical Engineering Musashi Kosgi Hospital) : History and current practice of blood purification therapy in Nippon medical school musashi kosugi hospital : 31 years practice. J Nippon Med Sch 2012 ; 79 (5) : 357-361.
 - 4) Inami T¹⁾, Seino Y¹⁾, Bessyo R²⁾, Mizuno K (¹⁾ Chiba Hokusoh Hospital, ²⁾ Throacic and Cardiovascular Surgery, Chiba Hokusoh Hospital) : Untreated obstructive sleep apnoea as a therapeutic target in acute aortic dissection. BMJ 2012 : 1-2.
 - 5) Sakai Y¹⁾, Otsuka T¹⁾, Ohno D¹⁾, Murasawa T¹⁾, Sato N¹⁾, Mizuno K (¹⁾ Musashikosugi Hospital) : Efficacy of aliskiren in Japanese chronic kidney disease patients with hypertension. informa healthcare 2012 ; 34 (4) : 443-448.
 - 6) Kato K¹⁾, Yonetsu T¹⁾, Kim S¹⁾, Xing L¹⁾, Lee H¹⁾, Mcnulty I¹⁾, Yeh R¹⁾, Sakhuja R²⁾, Zhang S³⁾, Uemura S⁴⁾, Yu B¹⁾, Mizuno K, Jang I¹⁾ (¹⁾ MGH, ²⁾ Kyung Hee Univ., ³⁾ Nara Medical Univ., ⁴⁾ Harbin Medical Univ.) : Comparison of nonculprit coronary plaque characteristics between patients with and without diabetes. JACC 2012 ; 5 (11) : 1150-1158.
 - 7) Tanita A¹⁾, Hosokawa Y¹⁾, Tomiyama T¹⁾, Kato M¹⁾, Matsuda J, Sawai K¹⁾, Arita Y¹⁾, Aokage T¹⁾, Suzuki H¹⁾, Murata H¹⁾, Miyachi H¹⁾, Shibui T¹⁾, Nei T¹⁾, Akutsu K¹⁾, Yamamoto T¹⁾, et al. (¹⁾ Cardiac Care Unit) : Giant left atrium due to mitral stenosis with massive atelectasis : A successful case with perioperative approach. Int J of Cardiol 2013 ; 163 (2) : e23-e25.
 - 8) 澤井啓介¹⁾, 宮地秀樹²⁾, 野間さつき²⁾, 有田淑恵²⁾, 青景聡之²⁾, 鈴木浩臣²⁾, 渋井俊之²⁾, 細川雄亮²⁾, 坪 宏一²⁾, 山本 剛²⁾, 田中啓治²⁾, 高野仁司, 小原俊彦, 水野杏一 (¹⁾ 多摩永山病院, ²⁾ 集中治療室) : 巨大右房内血栓を伴う亜広範型肺塞栓症に対して血栓溶解療法を選択し, 経時的な病態把握により救命できた1例. 心臓 2012 ; 44 (7) : 937-938.
 - 9) Miyachi H¹⁾, Tanaka K¹⁾, Mizuno K (¹⁾ Cardiac care unit) : Catheter-induced Bilateral Coronary Ostium Dissection in a Patient with Long-term Steroid Therapy. J Invasive Cardiol 2012 ; 24 (11) : e305-e307.
- (4) ガイドライン :
- 1) Mizuno K : Guidelines for secondary prevention of myocardial infarction (JCS 2011) JCS joint working group. Circ J 2013 ; 77 (1).

著 書

[追加分]

追加分 :

- 1) 加藤貴雄, 安武正弘, 村松 光 : [翻訳] Essential Cardiac Electrophysiology - With Self Assessment. 心臓電気生理学エッセンス : 自己評価問題付き (翻訳・監修), 2012 ; pp1-299, Wiley-Blackwell.
- 2) 加藤貴雄 : [分担] 心房細動の緊急治療指針. 救急・集中治療ガイドライン 2012-13 (岡元和文), 2012 ; pp222-225, 総合医学社.
- 3) 加藤貴雄 : [共著] 心臓電気生理学エッセンス (加藤貴雄 安武正弘 村松光), 2012 ; Wiley-Blackwell Publishing.
- 1) 桐木-市川園子 : [分担] 糖尿病患者の下肢の感染予防と感染発症時の看護. 化学療法の領域, 2012 ; pp674-680, 医薬ジャーナル.
- 2) 桐木-市川園子, 宮本正章 : [分担] マゴットセラピーについて. きずのきれいな治し方 (百東比古 小川 令), 2012 ; pp123-124, 全日本病院出版会.
- 3) 加藤貴雄 : [分担] ホルター心電図. 今日の循環器疾患治療指針 (井上博 許俊鋭 檜垣実男 代田浩之 筒井

裕之), 2013; pp106-108, 医学書院.

- 4) 加藤貴雄: [分担] 心室内伝導障害. 今日の循環器疾患治療指針 (井上博 許俊鋭 檜垣実男 代田浩之 筒井裕之), 2013; pp237-238, 医学書院.
- 5) 加藤貴雄: [分担] 房室ブロック. 今日の循環器疾患治療指針 (井上博 許俊鋭 檜垣実男 代田浩之 筒井裕之), 2013; pp235-237, 医学書院.
- 6) 加藤貴雄: [分担] 自律神経と心房細動. 不整脈学 (井上博 村川裕二), 2012; pp364-367, 南江堂.
- 7) 北村光信¹⁾, 安武正弘 (¹⁾ 集中治療室): [分担] 心不全患者に使用する利尿薬は何かよいですか. バソプレシン受容体拮抗薬を含めた利尿薬の使い分けを教えてください. 心不全診療 Q&A エキスパート 106 人からの回答 (北風 正史), 2012; pp227-228, 中外出版社.
- 8) 宮本正章, 高木 元: [分担] 我が国におけるマゴットセラピーの有用性と問題点. 最新臨床糖尿病学: 糖尿病学の最新動向, 2012; pp481-492, 日本臨牀社.

学会発表

[追加分]

追加分シンポジウム:

- 1) Takano M¹⁾, Yamamoto M¹⁾, Murakami D¹⁾, Inami S¹⁾, Seino Y¹⁾, Mizuno K (¹⁾ Chiba Hokusoh Hospital): Case Presentation of Late Stent Thrombosis: Insight from Intracoronary Imaging Devices. ACC (CHICAGO), 2012. 3.

追加分一般講演:

- 1) 松崎つや子¹⁾, 本間 博, 大野忠明, 時田祐吉, 藤本啓志, 佐藤承子, 横島友子, 伊藤恵子, 水野杏一 (¹⁾ 生理機能センター): 経胸壁心エコー・ドプラ法による上行大動脈壁硬度のの評価: augmentation index との比較. 日本心エコー図学会学術集会 (第 22 回), 2011. 4.
- 2) 時田祐吉, 大野忠明, 松崎つや子¹⁾, 本間 博, 水野杏一 (¹⁾ 生理機能センター): 非心臓手術周術期リスク評価におけるドプタミン負荷心エコーと multidetector CT 戸の比較. 日本心エコー図学会学術集会 (第 22 回), 2011. 4.
- 3) 大野忠明, 本間 博, 時田祐吉, 松崎つや子¹⁾, 藤本啓志, 佐藤承子, 横島友子, 伊藤恵子, 水野杏一 (¹⁾ 生理機能センター): 経胸壁心エコー・ドプラ法による上行大動脈壁硬度のの評価: 心機能と腎機能との関わり. 日本超音波医学会学術集会 (第 84 回), 2011. 4.
- 4) Takahashi N¹⁾, Ishikawa M¹⁾, Kikuchi A¹⁾, Yamamoto E¹⁾, Amitani K¹⁾, Uchida T¹⁾, Sato N¹⁾, Munakata K¹⁾, Mizuno K (¹⁾ Musashi Kosugi Hospital): Transient Myocardial Ischemia Induced left Ventricular Mechanical Dyssynchrony in Patients with Coronary Artery Diseasefree. ACC (CHICAGO), 2012. 3.
- 5) Takahashi N¹⁾, Ishikawa M¹⁾, Kikuchi A¹⁾, Yamamoto E¹⁾, Amitani K¹⁾, Uchida T¹⁾, Sato N¹⁾, Munakata K¹⁾, Mizuno K (¹⁾ Musashi Kosugi Hospital): Potential Ability of Hemodialysis Therapy for Improvement of left Ventricular Mechanical Dyssynchrony in Patients with End-stage Renal Diseasefree. ACC (CHICAGO), 2012. 3.
- 6) 高橋直人¹⁾, 石川昌弘¹⁾, 花岡大資¹⁾, 菊池有史¹⁾, 山本英世¹⁾, 網谷賢一¹⁾, 内田高浩¹⁾, 佐藤直樹¹⁾, 宗像一雄¹⁾, 汲田伸一郎²⁾, 水野杏一 (¹⁾ 武蔵小杉病院, ²⁾ 放射線科): 安定狭心症における左室同期不全の負荷変化における検討. 肺塞栓症研究会学術集会 (第 19 回), 2013. 11.

(1) 会長講演:

- 1) Mizuno K: Wonderful Voyage through Intravascular Imaging. 日本循環器学会学術集会 (第 77 回), 2013. 3.

(2) 特別講演：

- 1) 石丸 新¹⁾, 加藤雅明¹⁾, 重松 宏¹⁾, 高山守正¹⁾, 前原正明¹⁾, 高本真一¹⁾, 小山信彌¹⁾, 吉川公彦¹⁾, 古森公浩¹⁾, 水野杏一, 古井 滋 (1) 日本ステントグラフト実施基準管理委員会)：大動脈ステントグラフトの日本におけるレジストリーの現況. 日本脈管学会 (第 53 回), 2012. 10.

(3) 教育講演：

- 1) 清野精彦¹⁾, 高野雅充¹⁾, 山本真功¹⁾, 村上大介¹⁾, 雪吹周生¹⁾, 小林宣明¹⁾, 畑 典武¹⁾, 水野杏一 (1) 千葉北総病院)：バイオマーカー診断は画像診断を凌駕するか？. 日本心臓病学会 (第 60 回), 2012. 9.

(4) シンポジウム：

- 1) 吉田明日香, 中村俊一, 加藤浩司, 福間長知, 菅谷寿理¹⁾, 伊藤弘人²⁾, 水野杏一 (1) 生理機能センター, 2) 国立性神経医療研究センター)：アメリカ心臓協会が推奨するガイドラインについて. 日本心臓病学会 (第 60 回), 2012. 9.
- 2) Takagi G, Miyamoto M, Tara S, Kubota Y, Kirinoki S, Tezuka A, Furuse E, Takano H, Takagi I, Yasutake M, Mizuno K：10-year Prognosis of Therapeutic Vascular Angiogenesis for Peripheral Artery Disease -Principle Indication and Limitation-. 日本循環器学会学術集会 (第 77 回), 2013. 3.
- 3) Takahashi N¹⁾, Ishikawa M¹⁾, Hanaoka D¹⁾, Tokuyama H¹⁾, Nakama K¹⁾, Kikuchi A¹⁾, Yamamoto E¹⁾, Amitani K¹⁾, Uchida T¹⁾, Sato N¹⁾, Munakata K¹⁾, Kumita S²⁾, Mizuno K (1) Musashi kosugi Hospital, 2) Radiology)：Gated Single-photon Emission Computed Tomography (GSPECT) Imaging beyond as Conventional Tool. 日本循環器学会学術集会 (第 77 回), 2013. 3.
- 4) Kotani J¹⁾, Takano M²⁾, Awabe M³⁾, Ueno T⁴⁾, Ueda Y⁵⁾, Takayama T⁶⁾, Muramatsu T⁷⁾, Yokoi H⁷⁾, Nakamura M⁷⁾, Ito S⁷⁾, Mizuno K⁷⁾, Nanto S⁷⁾ (1) Cardiovascular division Suita, 2) Chiba Hokusou Hospital, 3) Kansai Rosai Hospital, 4) Kurume University School of Medicine, 5) Osaka Police Hospital, 6) Nihon University School of Medicine, 7) J-DESsERT Cardiology)：Did Different Angioscopic Finding Reflect Clinical Outcomes Between Gen 1st DESs?：Subanalysis from J-DESsERT. 日本循環器学会学術集会 (第 77 回), 2013. 3.
- 5) Kato K¹⁾, Yonetsu T¹⁾, Jia H¹⁾, Vergallo R¹⁾, Abtahian F¹⁾, Inami S, Takano M, Yu B²⁾, Lee S³⁾, Park S⁴⁾, Jang Y⁵⁾, Uemura S⁶⁾, Yasutake M, Mizuno K, Jang I¹⁾ (1) Massachusetts General Hospital Harvard Medical School, 2) The Second Affiliated Hospital, 3) Queen Mary Hospital Hong Kong University, 4) Asan Medican Center, 5) Yonsei University, 6) Nara Medical University)：The Potential and Limitations of Optical Coherence Tomography (OCT)：From MGH OCT Registry. 日本循環器学会学術集会 (第 77 回), 2013. 3.
- 6) Tetsuo-h-Tsukada Y, Mizuno K：Support for Continuous Career of Women Doctors Considering Regional Characteristics. 日本循環器学会学術集会 (第 77 回), 2013. 3.
- 7) 吉田明日香, 中村俊一, 加藤浩司, 福間長知, 菅谷寿理, 伊藤弘人, 水野杏一：心疾患患者のうつの評価と対応：アメリカ心臓協会が推奨するガイドラインより. 日本心臓病学会, 2012. 10.
- 8) 宮本正章, 高木 元, 桐木園子, 久保田芳明, 水野博司, 百束比古, 田畑泰彦：免疫疾患における再生医学 膠原病・アレルギー疾患による難治性創傷に対する再生医療を応用した先進併用療法. 日本臨床免疫学会総会 (第 40 回), 2012. 9.
- 9) 栗田二郎¹⁾, 宮本正章, 石井庸介¹⁾, 青山純也¹⁾, 高木 元, 田端泰彦¹⁾, 落 雅美¹⁾, 清水一雄¹⁾ (1) 臓血管外科)：外科領域における先端技術・治療の開発 徐放化 Platelet-Rich Plasma (PRP) を用いた血管新生療法の開発. 日本外科学会定期学術集会 (第 112 回), 2012. 4.
- 10) 林 明聡：Diagnosis, Risk Factors, and Clinical Outcomes of CPVT. APHRS (台北), 2012. 10.

(5) パネルディスカッション：

- 1) 高野雅充¹⁾, 清野精彦¹⁾, 水野杏一 (1) 千葉北総病院)：冠動脈内イメージングによる vulnerable lesion の診断.

日本冠疾患学会（第26回），2012. 12.

- 2) 高木 元, 古山景子, 大貫朋子, 桐木-市川園子, 高瀬仁志, 宮本正章：周術期副反応対策と 予後改善を目指した適応判断. 日本創傷外科学会（第4回），2012. 7.

(6) ワークショップ：

- 1) 高野雅充¹⁾, 清野精彦¹⁾, 水野杏一⁽¹⁾ 千葉北総病院)：Diagnosis for vulnerable lesions using intracoronary imaging devices. 日本心臓病学会（第60回），2012. 9.
- 2) 桐木-市川園子, 高木 元, 手塚晶人, 羽田朋人, 久保田芳明, 宮本正章, 水野杏一：マゴットセラピーによる難治性慢性足潰瘍・壊疽の治療および多職種協働の重要性. マゴットセラピー研究会, 2013. 2.

(7) プレナリーセッション：

- 1) Sato N¹⁾, Kajimoto K²⁾, Mizuno K, Takano T⁽¹⁾ Musashi Kosugi Hospital, ²⁾ Sensoji Hospital)：Lessons from the Japanese Hospitalized Heart Failure (ATTEND) Registry. 日本循環器学会学術集会（第77回），2013. 3.
- 2) Nakamura H¹⁾, Mizuno K⁽¹⁾ Mitsukoshi Health and Welfare Foundation)：The Hyper HDL-Cholesterolemic Patients and the Incidence of Cardiovascular and Cancer Events：The Post-Hoc Analysis of MEGA Study. 日本循環器学会学術集会（第77回），2013. 3.

(8) ポスター：

- 1) 宮地秀樹¹⁾, 塚 宏一¹⁾, 志摩綾香, 澤井啓介¹⁾, 青景聡之¹⁾, 有田淑恵¹⁾, 川中秀和¹⁾, 北村光信¹⁾, 村田広茂¹⁾, 細川雄亮¹⁾, 山本 剛¹⁾, 村井綱見, 林 明聡, 小野澤志郎²⁾, 村田 智²⁾, その他2名⁽¹⁾ 集中治療室, ²⁾ 放射線科)：急性B型大動脈解離における臓器虚血を緊急経カテーテルの開窓術によって解除した1例. 日本脈管学会（第53回），2012. 10.
- 2) 塚 宏一¹⁾, 藤井正大²⁾, 宮地秀樹¹⁾, 川中秀和¹⁾, 青景聡之¹⁾, 北村光信¹⁾, 村田広茂¹⁾, 細川雄亮¹⁾, 山本 剛¹⁾, 落 雅美²⁾, 水野杏一, 田中啓治¹⁾, その他2名⁽¹⁾ 集中治療室, ²⁾ 心臓血管外科)：Non-Marfan 患者に生じた大動脈3腔解離破裂の1例. 日本脈管学会（第53回），2012. 10.
- 3) 久保田芳明, 北村光信, 中村俊一, 吉田明日香, 神谷仁孝, 村井綱見, 時田祐吉, 稲見茂信, 高木 元, 高野仁司, 浅井邦也, 高山守正¹⁾, 水野杏一⁽¹⁾ 榊原記念病院)：非責任領域への灌流血管に対するバルーン閉塞したにPTSMAを行った1例. 日本心臓血管インターベンション治療学会（第41回），2012. 10.
- 4) Igawa O¹⁾, Adachi M²⁾, Okazaki R¹⁾, Kawaguchi N¹⁾, Kodani E¹⁾, Kusama Y¹⁾, Ino T¹⁾, Atarashi H¹⁾, Mizuno K⁽¹⁾ Tama Nagayama Hospital, ²⁾ Sanin Rosai Hospital)：No Myocardium in the Area of Aortomitral Continuity. 日本循環器学会学術集会（第77回），2013. 3.
- 5) Igawa O¹⁾, Adachi M²⁾, Okazaki R¹⁾, Kawaguchi N¹⁾, Kodani E¹⁾, Kusama Y¹⁾, Ino T¹⁾, Atarashi H¹⁾, Mizuno K⁽¹⁾ Tama Nagayama Hospital, ²⁾ Sanin Rosai Hospital)：The Rare Type of Pericardial Reflection on the Right Side：Cardiac Structure Related to Epicardial Catheter Mapping. 日本循環器学会学術集会（第77回），2013. 3.
- 6) Yodogawa K, Morita N¹⁾, Kobayashi Y¹⁾, Takahashi K, Uetake S, Tsuboi I, Hayashi H, Murta H, Horie T, Iwasaki Y, Hayashi M, Miyauchi Y, Ohara T, Seino Y²⁾, Mizuno K⁽¹⁾ Tokai University Hachioji Hospital, ²⁾ Chiba Hokusoh Hospital)：High Frequency Components within QRS Complex Predict Positive Response to Antiarrhythmic Drug Challenge in Patients with Suspected Brugada Syndrome. 日本循環器学会学術集会（第77回），2013. 3.
- 7) Inami T¹⁾, Seino Y¹⁾, Kano S¹⁾, Shimura T¹⁾, Kurihara O¹⁾, Kimata N¹⁾, Yamamoto T¹⁾, Tomita K²⁾, Shirakabe A²⁾, Munakata R¹⁾, Murakami D¹⁾, Abe J¹⁾, Shinada T²⁾, Maruyama M¹⁾, Takano M¹⁾, et al.⁽¹⁾ Chiba Hokusoh Hospital, ²⁾ Intensive Care Unit Chiba Hokusoh Hospital)：Characteristic Features of Sleep Disordered Breathing in the Convalescent Phase of Aortic Dissection：Comparative Analysis with Stable

- Coronary Artery Disease. 日本循環器学会学術集会 (第 77 回), 2013. 3.
- 8) Takahashi H, Fukuma N, Katoh K, Hayashi H, Mizuno K : The Severity of Diabetes Mellitus Affects the Improvement of the Endothelial Dysfunctions by Cardiac Rehabilitations. 日本循環器学会学術集会 (第 77 回), 2013. 3.
 - 9) Konishi M¹⁾, Ebina T¹⁾, Kimura K¹⁾, Kajimoto K²⁾, Sakata Y³⁾, Sato N, Keida T⁴⁾, Minami Y²⁾, Mizuno M²⁾, Aokage T, Takano T, Mizuno K (¹⁾ Yokohama City University Medical Center, ²⁾ Tokyo Women's Medical University, ³⁾ Osaka University, ⁴⁾ Edogawa Hospital) : Paradoxical Hemoglobin Decrease Reflects Acute Heart Failure Profiles and Severity : Finding from the ATTEND Registry. 日本循環器学会学術集会 (第 77 回), 2013. 3.
 - 10) Murata H, Miyauchi Y, Katoh T, Ueno A¹⁾, Yodogawa K, Hirasawa Y²⁾, Iwasaki Y, Hayashi M, Akutsu K, Yamamoto T³⁾, Tanaka K³⁾, Mizuno K (¹⁾ Hachioji Hospital, ²⁾ Hakujuikai Memorial General Hospital, ³⁾ Intensive and Coronary Care Unit) : Clinical and Electrophysiological Characteristics of Intravenous Amiodarone-Refractory Monomorphic Ventricular Tachycardia. 日本循環器学会学術集会 (第 77 回), 2013. 3.
 - 11) Kitamura M, Takayama M¹⁾, Matsuda J, Kubota Y, Yoshida A, Nakamura S, Takano H, Asai K, Mizuno K (¹⁾ Sakakibara Heart Institute) : Clinical Characteristics and Cardiac Magnetic Resonance for the Patients Received Repeating Alcohol Septal Ablation in Refractory Hypertrophic Obstructive Cardiomyopathy. 日本循環器学会学術集会 (第 77 回), 2013. 3.
 - 12) Fukuma N, Sugaya J¹⁾, Hayashi H, Katoh K, Katoh Y, Takahashi H, Mabuchi K, Miyatake Y, Akutsu K, Fukuma Y, Mizuno K (¹⁾ Physiological Examination Center) : Sleep Apnea Leads to Harmful Pathophysiological Conditions through Hypocapnia in Patients with Myocardial Infarction. 日本循環器学会学術集会 (第 77 回), 2013. 3.
 - 13) 水野正之¹⁾, 高野雅充²⁾, 河原崎昇¹⁾, 清野精彦²⁾, 水野杏一 (¹⁾ 千葉北総病院 放射線センター, ²⁾ 千葉北総病院) : 回旋枝起始角度と OCT 画質. 日本循環器学会学術集会 (第 77 回), 2013. 3.
 - 14) Ogano M¹⁾, Tanabe J¹⁾, Tajiri M¹⁾, Takagi H²⁾, Horie T, Yodogawa K, Iwasaki Y, Hayashi M, Miyauchi Y, Mizuno K (¹⁾ Shizuoka Medical Center, ²⁾ Surgery Shizuoka Medical Center) : Cardiac Resynchronization Therapy Restored Ventricular Septal Myocardial Perfusion and Enhanced Ventricular Remodeling in Non-ischemic Patients With Left Bundle Branch Block. 日本循環器学会学術集会 (第 77 回), 2013. 3.
 - 15) Saiki Y¹⁾, Nakagomi A¹⁾, Nozaki A¹⁾, Morisawa T¹⁾, Kohashi K¹⁾, Kosugi M¹⁾, Yoshikawa M¹⁾, Kodani E¹⁾, Kusama Y¹⁾, Atarashi H¹⁾, Mizuno K (¹⁾ Tama Nagayama Hospital) : Impact of Inflammation and Hyperinsulinemia on the Long-term Prognosis of Patients with Vasospastic Angina. 日本循環器学会学術集会 (第 77 回), 2013. 3.
 - 16) Hanaoka D¹⁾, Takahashi N¹⁾, Ishikawa M¹⁾, Nakama K¹⁾, Tokuyama H¹⁾, Omote T¹⁾, Nakamura Y¹⁾, Kikuchi A¹⁾, Yamamoto E¹⁾, Amitani K¹⁾, Uchida T¹⁾, Sato N¹⁾, Munakata K¹⁾, Kumita S²⁾, Mizuno K (¹⁾ Musashi Kosugi Hospital, ²⁾ Radiology) : Left Ventricular Dyssynchrony is Associated Only with Wall Motion, but with Neither Ischemic Severity nor Extent in Ischemic Heart Disease. 日本循環器学会学術集会 (第 77 回), 2013. 3.
 - 17) Inohara T¹⁾, Kohsaka S¹⁾, Sato N³⁾, Kajimoto K²⁾, Aokage T³⁾, Minami Y⁴⁾, Yumino D⁴⁾, Keida T⁵⁾, Asai K, Mizuno M⁴⁾, Munakata R³⁾, Murai K³⁾, Satoh T⁶⁾, Mizuno K, Takano T (¹⁾ Keio University School of Medicine, ²⁾ Sensoji Hospital, ³⁾ Intensive and Cardiac Care Unit, ⁴⁾ Tokyo Women's Medical University, ⁵⁾ Edogawa Hospital, ⁶⁾ Kitasato Clinical Research Center) : Association between Renal Dysfunction and In-hospital Mortality in Patients Hospitalized with Acute Decompensated Heart Failure under Japanese Medical Care. 日本循環器学会学術集会 (第 77 回), 2013. 3.

- 18) Hayashi M, Miyauchi Y, Takahashi K, Tsuboi I, Uetake S, Hayashi H, Horie T, Yodogawa K, Iwasaki Y, Mizuno K : Short-Term Flecainide Therapy after Catheter Ablation of Atrial Fibrillation : A Prospective Randomized Trial. 日本循環器学会学術集会 (第 77 回), 2013. 3.
- 19) Takahashi H, Fukuma N, Katoh K, Hayashi H, Mizuno K : Eicosapentaenoic Acid (EPA) can Improve the Endothelial Functions and Reduce the Cardiac Events of AMI Patients. 日本循環器学会学術集会 (第 77 回), 2013. 3.
- 20) Hayashi K, Takano H, Koen M, Kubota Y, Yoshida A, Nakamura S, Murai K, Kmiya M, Tokita Y, Inami S, Takagi G, Asai K, Yasutake M, Mizuno K : The Clinical Significance of “ Suspected Coronary Spastic Angina ” Defined by Japanese Circulation Society’s Guidelines. 日本循環器学会学術集会 (第 77 回), 2013. 3.
- 21) Kamiya M, Sato N¹⁾, Nozaki A²⁾, Akiya M²⁾, Okazaki H²⁾, Takahashi Y²⁾, Mizuno K (¹⁾ Musashi Kosugi Hospital, ²⁾ The Fraternity Memorial Hospital) : Predictors of Diuretic Response to Natriuretic Peptide Therapy in Acute Heart Failure Patients. 日本循環器学会学術集会 (第 77 回), 2013. 3.
- 22) Hayashi K, Tokita Y, Shibata Y, Ikeda T, Niwa N, Yamamoto T¹⁾, Takano H, Asai K, Yasutake M, Tanaka K¹⁾, Mizuno K (¹⁾ Cardiac and Intensive Care Unit) : Coronary Risk Factors Paradox in First Acute Myocardial Infarction. 日本循環器学会学術集会 (第 77 回), 2013. 3.
- 23) Fukuma N, Kouen M, Hayashi H, Katoh K, Katoh Y, Takahashi H, Mabuchi K, Miyatake Y, Fukuma Y, Mizuno K : Plasma Aldosterone to Renin Ratio as an Index Reflecting Pathophysiological Conditions in Patients with Coronary Artery Disease. 日本循環器学会学術集会 (第 77 回), 2013. 3.
- 24) Matsuda J, Kitamura M, Kubota Y, Nakamura S, Inami S, Takano H, Asai K, Yasutake M, Takayama M¹⁾, Mizuno K (¹⁾ Sakakibara Heart Institute) : Electrocardiographic Alterations after Percutaneous Transluminal Septal Myocardial Ablation (PTSMA) Demonstrated 1-year Lasting the Chronic Effect. 日本循環器学会学術集会 (第 77 回), 2013. 3.
- 25) Kato M¹⁾, Fukuma N, Aida T¹⁾, Sugaya J¹⁾, Saitou K¹⁾, Kouen M, Hayashi H, Katoh K, Takahashi H, Honma H, Mizuno K (¹⁾ Physiological Examination Center) : Alteration of Relationship between Pulmonary Function and VE/VCO₂ Slope through LV Function in Patients with Heart Disease. 日本循環器学会学術集会 (第 77 回), 2013. 3.
- 26) Shirakabe A¹⁾, Hata N¹⁾, Shinada T¹⁾, Tomita K¹⁾, Kobayashi N¹⁾, Tsurumi M¹⁾, Okazaki H¹⁾, Yamamoto Y¹⁾, Yokoyama S¹⁾, Matushita M¹⁾, Asai K, Mizuno K (¹⁾ Intensive Care Unit Chiba Hokuso Hospital) : Efficacy of the Urinary Liver-Fatty Acid-Binding Protein Excretion to Predict the Acute Kidney Injury in Patients with Acute Heart Failure. 日本循環器学会学術集会 (第 77 回), 2013. 3.
- 27) Hayashi H, Miyauchi Y, Takahashi K, Uetake S, Tsuboi I, Murata H, Horie T, Yodogawa K, Iwasaki Y, Hayashi M, Mizuno K : Incidence of Re-conduction of Mitral Isthmus and Prevalence of Mitral Annular Flutter in Patients Following Linear Ablation for Atrial Fibrillation. 日本循環器学会学術集会 (第 77 回), 2013. 3.
- 28) Endoh I¹⁾, Endoh Y¹⁾, Kawaguchi N¹⁾, Kusama Y¹⁾, Atarashi H¹⁾, Mizuno K, Geczy C²⁾ (¹⁾ Tama Nagayama Hospital, ²⁾ University of New South Wales) : S100A8, a Potential Therapeutic Target in Atherosclerosis in Patients with Chronic Kidney Disease. 日本循環器学会学術集会 (第 77 回), 2013. 3.
- 29) Wakatsuki D¹⁾, Suzuki H¹⁾, Kajimoto K²⁾, Sakata Y³⁾, Keida T⁴⁾, Minami Y⁵⁾, Aokage T, Munakata R, Sato N⁶⁾, Mizuno K, Takano T (¹⁾ Showa University Fujigaoka Hospital, ²⁾ Sensoji Hospital, ³⁾ Osaka University, ⁴⁾ Edogawa Hospital, ⁵⁾ Tokyo Women’s Medical, ⁶⁾ Musashikosugi Hospital) : History of AF as Risk Factor for Mortality of Acute Heart Failure Patients in Sinus Rhythm on Admission. 日本循環器学会学術集

会 (第 77 回), 2013. 3.

- 30) Setsuta K¹⁾, Seino Y²⁾, Mizuno K (¹⁾ Tokyo Metropolitan Komagome Hospital, ²⁾ Chiba Hokusoh Hospital) : Comparison of Prognostic Values between High Sensitive Cardiac Troponin T and Heart-Type Fatty Acid-Binding Protein in Chronic Heart Failure. 日本循環器学会学術集会 (第 77 回), 2013. 3.
- 31) Arao M¹⁾, Maruyama J¹⁾, Sekine M¹⁾, Nishizawa A²⁾, Kitahara Y²⁾, Setsuta K³⁾, Mizuno K (¹⁾ Tokyo Metropolitan Matsuzawa Hospital, ²⁾ Tokyo Metropolitan Cancer and Infectious diseases, ³⁾ Tokyo Metropolitan Cancer and Infectious diseases Center Komagome Hospital) : Tei Index is Useful to Predict Left Ventricular Dysfunction in Patients Receiving Trastuzumab. 日本循環器学会学術集会 (第 77 回), 2013. 3.
- 32) Fukuizumi I, Kubota Y, Gouda H, Matsuda J, Niwa N, Yoshida A, Murai K, Kamiya M, Tokita Y, Asai K, Sato N, Yasutake M, Mizuno K : The Influence of Diuretics Therapy on the Rehospitalization in Heart Failure with Preserved Ejection Fraction. 日本循環器学会学術集会 (第 77 回), 2013. 3.
- 33) Hayashi H, Fukuma N, Katoh K, Takahashi H, Mizuno K : Central Sleep-Disordered Breathing and Night-time Infarction Predict the Time Course of Sleep-Disordered Breathing in Patients after Myocardial Infarction. 日本循環器学会学術集会 (第 77 回), 2013. 3.
- 34) Tsuboi I, Miyauchi Y, Hayashi M, Iwasaki Y, Yodogawa K, Horie T, Uetake S, Hayashi H, Takahashi K, Katoh T, Mizuno K : A Difficult Case in Creating Mitral Isthmus Block Caused by Dislodged Ventricular Pacing Lead to the Coronary Sinus in a Patient with Persistent Atrial Fibrillation. APHRS (第 5 回) (Taipei, Taiwan), 2012. 10.
- 35) 吉田明日香, 高野仁司, 中村俊一, 齊藤恒徳, 太良修平, 高木 元, 浅井邦也, 安武正弘, 天野康雄, 汲田伸一郎, 水野杏一 : Clinical significance of detecting abnormal fatty acid metabolism with iodine-123 15-(p-iodophenyl)-3-(R, S) methylpentadecanoic acid imaging in patients with dilated cardiomyopathy. 欧州心臓病学会 (ミュンヘン), 2012. 8.
- 36) Kubota Y, Miyamoto M, Takagi G, Tanaka K, Yasutake M, Mizuno K : Sitagliptin Improves Endothelial Function with Increased Adiponectin and Decreased Asymmetric Dimethylarginine (ADMA) in Type 2 Diabetes. 日本糖尿病学会年次学術集会 (第 55 回), 2012. 5.
- 37) 稲見茂信 : シロリムス溶出性ステント留置 7 年後の晩期再狭窄病変 : 光干渉断層法, 血管内視鏡による観察. 日本心臓血管内視鏡学会 (第 26 回), 2012. 10.
- 38) 林 明聡 : Emergency catheter ablation for sustained ventricular tachyarrhythmias in patients with acute heart failure decompensation. ESC (ミュンヘン), 2012. 8.
- 39) 川本智章, 山内 篤¹⁾, 金子恵子, 宮元亮子, 清水秀治, 水野杏一 (¹⁾ さいたま寄居病院) : 腫瘍内圧を考慮したラジオ波焼灼療法は低侵襲, 低リスク手技となり得るか. 日本肝臓学会総会 (第 48 回), 2012. 6.
- 40) Kawamoto C, Manaka K¹⁾, Ymauchi A²⁾, Kaneko K, Miyamoto A, Shimizu S, Mizuno K (¹⁾ Dokkyo Medical University, ²⁾ Yorii Hospital) : Hepatocytes migration into both portral vein and hepatic vein during radiofrequency ablation in porcine liver. DDW (San Diego, CA, USA), 2012. 5.
- 41) Ogano M¹⁾, Tanabe J¹⁾, Takagi H¹⁾, Umemoto T¹⁾, Iwasaki Y, Hayashi M, Miyauchi Y, Katoh T, Mizuno K (¹⁾ Shizuoka Medical Center) : Reversible septal myocardial cell injury and enhanced ventricular remodeling by cardiac resynchronization therapy in patients with left bundle branch block. Heart Rhythm (Boston, MA, USA), 2012. 5.
- 42) Takagi K¹⁾, Miyachi H¹⁾, Yamamoto T¹⁾, Yamamoto Y¹⁾, Nakamura Y¹⁾, Sawai K¹⁾, Arita Y¹⁾, Aokage T¹⁾, Kitamura M¹⁾, Murata H¹⁾, Shibui T¹⁾, Hosokawa Y¹⁾, Nei T¹⁾, Akutsu K¹⁾, Tanaka K¹⁾, et al. (¹⁾ Cardiac care unit) : Safety and usefulness of adjunctive intracoronary thrombolytic therapy in primary percutaneous coronary intervention for acute myocardial infarction with massive intracoronary thrombus. 日本

心血管インターベンション治療学会（第21回），2012. 7.

- 43) Igawa O¹⁾, Adachi M²⁾, Okazaki R¹⁾, Kawaguchi N¹⁾, Kodani E¹⁾, Kusama Y¹⁾, Atarashi H¹⁾, Mizuno K (¹⁾ Tama Nagayama Hospital, ²⁾ Tottori University) : The rare structure in the left atrium, "Myocardial bridge". Heart Rhythm (Boston, MA, USA), 2012. 5.
 - 44) Inami T¹⁾, Seino Y¹⁾, Yamamoto M¹⁾, Kimata N¹⁾, Murakami D¹⁾, Takano M¹⁾, Ohba T¹⁾, Ibuki C¹⁾, Mizuno K (¹⁾ Chiba Hokusoh Hospital) : Links between sleep disordered breathing and the type of acute aortic dissection in the acute phase : differences in patent versus thrombosed false lumen. CCC (Toronto), 2012. 10.
 - 45) Hayashi H, Miyauchi Y, Hayashi M, Takahashi K, Uetake S, Tsuboi I, Murata H, Horie T, Yodogawa K, Iwasaki Y, Mizuno K : Anatomical Characteristics of Mitral Isthmus Requiring Ablation Inside the Coronary Sinus for Creation of Complete Linear Block in Patients with Atrial Fibrillation. APHRS (第5回) (Taipei, Taiwan), 2012. 10.
 - 46) Hayashi H, Hayashi M, Miyauchi Y, Takahashi K, Uetake S, Tsuboi I, Murata H, Horie T, Yodogawa K, Iwasaki Y, Mizuno K : Left Atrial Myocardial Thickness in Patients with Hypertrophic Cardiomyopathy Undergoing Catheter Ablation for Atrial Fibrillation. APHRS (第5回) (Taipei, Taiwan), 2012. 10.
- (9) 一般講演 :
- 1) 高木宏治¹⁾, 澤井啓介¹⁾, 田中啓治¹⁾, 水野杏一 (¹⁾ 集中治療室) : 集中治療における高齢者への侵襲的治療について. 日本老年医学会 (第54回), 2012. 6.
 - 2) 高橋健太, 水野杏一 : 超高齢者の頻脈性不整脈に対するアブレーション治療. 日本老年医学会 (第54回), 2012. 6.
 - 3) 高野仁司, 高山守正¹⁾, 安武正弘, 水野杏一 (¹⁾ 榊原記念病院) : 超高齢者へのバルーン大動脈弁形成術によるQOL改善に対する対費用効果. 日本老年医学会 (第54回), 2012. 6.
 - 4) 大野忠明, 黄 俊憲, 本間 博, 水野杏一 : 85歳以上の超高齢者の整形外科手術術前評価に対する検討. 日本老年医学会 (第54回), 2012. 6.
 - 5) 羽田朋人, 高野仁司, 宮本正章, 水野杏一 : 末梢動脈疾患に対する血管新生治療 : 低出力体外衝撃波の可能性. 日本老年医学会 (第54回), 2012. 6.
 - 6) 谷田篤史¹⁾, 細川雄亮¹⁾, 藤木 悠¹⁾, 野間さつき¹⁾, 吉永 綾¹⁾, 有田淑恵¹⁾, 青景聡之¹⁾, 村田広茂¹⁾, 北村光信¹⁾, 宮地秀樹¹⁾, 洪井俊之¹⁾, 坪 宏一¹⁾, 山本 剛¹⁾, 田中啓治¹⁾, 落 雅美²⁾, その他3名 (¹⁾ 集中治療室, ²⁾ 心臓血管外科) : 右心腔内巨大血栓を伴う亜広範型肺塞栓症に対し外科的血栓摘除術を施行し軽快した拡張型心筋症の1例. 日本循環器学会関東甲信越地方会 (第225回), 2012. 9.
 - 7) 岡崎大武¹⁾, 大塚陽子¹⁾, 野崎文華¹⁾, 佐藤太亮¹⁾, 高橋保裕¹⁾, 手塚伸一¹⁾, 水野杏一 (¹⁾ 同愛記念病院) : 肺静脈閉塞症 (Pulmonary Venous Occlusive Disease) の1例. 日本循環器学会関東甲信越地方会 (第225回), 2012. 9.
 - 8) 高圓雅博, 時田祐吉, 林 明聡, 宮内靖史, 村井綱児, 藤本啓志, 坪井一平, 加藤貴雄, 水野杏一, 落 雅美¹⁾, 新田 隆¹⁾, 坂本俊一郎¹⁾ (¹⁾ 心臓血管外科) : 原発性副甲状腺機能亢進症症例に発症し多様な塞栓症を合併した感染性心内膜炎の1例. 日本循環器学会関東甲信越地方会 (第225回), 2012. 9.
 - 9) 小橋啓一¹⁾, 小谷英太郎¹⁾, 草間芳樹¹⁾, 新 博次¹⁾, 田邊 潤²⁾, 小鹿野道雄²⁾, 水野杏一 : 画像検査にて心筋傷害の経過を観察し得た外傷性心筋挫傷の1例. 日本循環器学会関東甲信越地方会 (第225回), 2012. 9.
 - 10) 武内紗矢佳¹⁾, 山本哲平¹⁾, 栗原 理¹⁾, 木股伸恒¹⁾, 稲見 徹¹⁾, 宗像 亮¹⁾, 村上大介¹⁾, 阿部純子¹⁾, 丸山光紀¹⁾, 高野雅充¹⁾, 大場崇芳¹⁾, 雪吹周生¹⁾, 清野精彦¹⁾, 水野杏一 (¹⁾ 千葉北総病院) : マラソン後心室細動を発症し Burugada 症候群との鑑別を要した若年冠攣縮性狭心症の1例. 日本循環器学会関東甲信越地方会 (第224回), 2012. 6.

- 11) 遠藤育子¹⁾, 遠藤康実¹⁾, 岡崎怜子¹⁾, 川口直美¹⁾, 松本 真¹⁾, 小谷英太郎¹⁾, 中込明裕¹⁾, 井川 修¹⁾, 草間芳樹¹⁾, 新 博次¹⁾, 阿部正徳²⁾, 久野将宗³⁾, 水野杏一¹⁾ (多摩永山病院, ²⁾ 多摩永山病院小児科, ³⁾ 多摩永山病院救命救急センター): 塩酸 pilsicainide 中毒をきたした WPW 症候群患児の 1 例. 日本循環器学会関東甲信越地方会 (第 224 回), 2012. 6.
- 12) 下田奈央子, 中村俊一, 泉 佑樹, 細川雄亮, 稲見 徹, 高橋 啓, 坪 宏一, 山本 剛, 水野杏一: 血気胸を来たした血管型 Ehles-Danlos 症候群の 1 例. 日本循環器学会関東甲信越地方会 (第 224 回), 2012. 6.
- 13) 有田淑恵¹⁾, 村田広茂¹⁾, 田中啓治¹⁾, 野間さつき¹⁾, 吉永 綾¹⁾, 中村有希¹⁾, 澤井啓介¹⁾, 青景聡之¹⁾, 北村光信¹⁾, 渋井俊之¹⁾, 宮地秀樹¹⁾, 細川雄亮¹⁾, 根井貴仁¹⁾, 坪 宏一¹⁾, 山本 剛¹⁾, その他 8 名¹⁾ (集中治療室): 左室流出路破裂を来したが心嚢液貯留を伴わず診断に苦慮した大動脈弁置換術後の 1 例. 日本循環器学会関東甲信越地方会 (第 224 回), 2012. 6.
- 14) 鶴見昌史¹⁾, 小林宣明¹⁾, 志村徹郎¹⁾, 松下誠人¹⁾, 白壁章宏¹⁾, 富田和憲¹⁾, 品田卓郎¹⁾, 横山真也¹⁾, 畑 典武¹⁾, 村上大介²⁾, 水野杏一¹⁾ (千葉北総病院集中治療室, ²⁾ 千葉北総病院): 血栓閉塞型冠動脈自然解離に対して OCT Chromaflo IVUB で比較観察しえた 1 例. 日本心血管インターベンション治療学会 (第 40 回), 2012. 5.
- 15) 栗原 理¹⁾, 山本真功¹⁾, 加納誠士¹⁾, 志村徹郎¹⁾, 木股仲恒¹⁾, 稲見 徹¹⁾, 宗像 亮¹⁾, 村上大介¹⁾, 高野雅充¹⁾, 大場崇芳¹⁾, 雪吹周生¹⁾, 清野精彦¹⁾, 水野杏一¹⁾ (千葉北総病院): FFR を指標に PCI 治療適応外とした病変部に発症した急性冠症候群の 1 例: OCT からの考察. 日本血管内治療学会 (第 18 回), 2012. 7.
- 16) 志村徹郎¹⁾, 高野雅充¹⁾, 村上大介¹⁾, 山本真功¹⁾, 加納誠士¹⁾, 栗原 理¹⁾, 木股仲恒¹⁾, 稲見 徹¹⁾, 宗像 亮¹⁾, 大場崇芳¹⁾, 清野精彦¹⁾, 水野杏一¹⁾ (千葉北総病院): エベロリムス溶出性ステント留置 6 ヶ月後の OCT を用いた新生内膜被覆の検討: パクリタクセル溶出性ステントとの比較. 日本血管内治療学会 (第 18 回), 2012. 7.
- 17) 山本真功¹⁾, Rande J¹⁾, 目黒健太郎¹⁾, Mouillet G¹⁾, 清野精彦²⁾, 水野杏一, Teiger E¹⁾ (アンリモンドール病院, ²⁾ 千葉北総病院): 90 歳以上の超高齢者に対する経皮の大動脈弁置換術の成績. 日本血管内治療学会 (第 18 回), 2012. 7.
- 18) 桐木園子, 高木 元, 太良修平, 久保田芳明, 安武正弘, 高見佳宏¹⁾, 百束比古¹⁾, 栗田二郎²⁾, 落 雅美²⁾, 水野博司³⁾, 田畑泰彦⁴⁾, 宮本正章, 水野杏一¹⁾ (形成外科美容外科, ²⁾ 心臓血管外科, ³⁾ 順天堂大学付属順天堂医院, ⁴⁾ 京都大学): 血管再生医療におけるこの 10 年. 日本血管内治療学会 (第 18 回), 2012. 7.
- 19) 稲見 徹¹⁾, 清野精彦¹⁾, 山本真功¹⁾, 木股仲恒¹⁾, 村上大介¹⁾, 大場崇芳¹⁾, 高野雅充¹⁾, 雪吹周生¹⁾, 水野杏一¹⁾ (千葉北総病院): 安定冠動脈疾患における睡眠時無呼吸と冠動脈病変の進展および心筋バイオマーカーの関連性. 日本血管内治療学会 (第 18 回), 2012. 7.
- 20) 加納誠士¹⁾, 山本真功¹⁾, 志村徹郎¹⁾, 栗原 理¹⁾, 木股仲恒¹⁾, 稲見 徹¹⁾, 宗像 亮¹⁾, 村上大介¹⁾, 高野雅充¹⁾, 大場崇芳¹⁾, 雪吹周生¹⁾, 清野精彦¹⁾, 水野杏一¹⁾ (千葉北総病院): PCI に伴う心筋傷害と病変の特徴: OCT からの考察. 日本血管内治療学会 (第 18 回), 2012. 7.
- 21) 高木宏治¹⁾, 山本英世¹⁾, 鈴木啓士¹⁾, 曾根教子¹⁾, 表 俊也¹⁾, 徳山英男¹⁾, 中村有希¹⁾, 菊池有史¹⁾, 石川昌弘¹⁾, 網谷賢一¹⁾, 高橋直人¹⁾, 内田高浩¹⁾, 佐藤直樹¹⁾, 竹ノ下尚子²⁾, 金城忠志²⁾, その他 2 名¹⁾ (武蔵小杉病院, ²⁾ 武蔵小杉病院血管内・低侵襲治療センター): 巨大嚢状動脈瘤を伴った冠動脈肺動脈血管奇形に対してコイル塞栓術を行った 1 例. 日本血管内治療学会 (第 18 回), 2012. 7.
- 22) Ko T, Takano H, Izumi Y, Yamamoto Y, Wakakuri H, Kubota Y, Saito T, Yoshida A, Nakamura S, Kamiya M, Tara S, Murai K, Tokita Y, Inami S, Takagi G, et al.: Dose the stenting method affect clinical outcome after PCI for the just proximal lesion of left anterior descending artery?. 日本心血管インターベンション治療学会 (第 21 回), 2012. 7.
- 23) Matsuda J, Kitamura M, Kubota Y, Nakamura S, Yoshida A, Tara S, Murai K, Tokita Y, Takano H, Asai K, Yasutake M, Takayama M¹⁾, Mizuno K¹⁾ (Sakakibara Memorial Hospita): PTSMA reduce LVOT

- obstruction and sokolow-lyon index in patients with HOCM. 日本心血管インターベンション治療学会 (第 21 回), 2012. 7.
- 24) Takano H, Tara S, Takagi G, Nakamura S, Murai K, Tokita Y, Inami S, Yasutake M, Miyamoto M, Mizuno K : Hybrid therapy with catheter revascularization and regenerative therapy for critical limb ischemia. 日本心血管インターベンション治療学会 (第 21 回), 2012. 7.
- 25) Takagi K¹⁾, Miyachi H¹⁾, Yamamoto T¹⁾, Yamamoto Y¹⁾, Nakamura Y¹⁾, Sawai K¹⁾, Arita Y¹⁾, Aokage T¹⁾, Kitamura M¹⁾, Murata H¹⁾, Shibui T¹⁾, Hosokawa Y¹⁾, Nei T¹⁾, Akutsu K¹⁾, Tanaka K¹⁾, et al. (1) CCU) : Safety and usefulness of adjunctive intracoronary thrombolytic therapy in primary PCI for acute myocardial infarction with massive intracoronary thrombus. 日本心血管インターベンション治療学会 (第 21 回), 2012. 7.
- 26) 中込明裕¹⁾, 小橋啓一¹⁾, 小杉宗範¹⁾, 草間芳樹¹⁾, 新 博次¹⁾, 水野杏一 (1) 多摩永山病院) : メタボリックシンドローム患者においてフェノフィブラートは単球上の MCP-1 産生を抑制し頸動脈硬化症の進展を遅らせる. 日本心臓病学会 (第 60 回), 2012. 9.
- 27) 小橋啓一¹⁾, 中込明裕¹⁾, 西城由之¹⁾, 小杉宗範¹⁾, 遠藤育子¹⁾, 草間芳樹¹⁾, 新 博次¹⁾, 水野杏一 (1) 多摩永山病院) : 慢性心不全患者において血清 EPA/AA 比は予後推定に有用である. 日本心臓病学会 (第 60 回), 2012. 9.
- 28) 小杉宗範¹⁾, 中込明裕¹⁾, 野崎文華¹⁾, 秋谷麻衣¹⁾, 森澤太一郎¹⁾, 西城由之¹⁾, 小橋啓一¹⁾, 吉川雅智¹⁾, 小谷英太郎¹⁾, 草間芳樹¹⁾, 新 博次¹⁾, 水野杏一 (1) 多摩永山病院) : 冠攣縮性狭心症における心機能低下の機序に関する検討. 日本心臓病学会 (第 60 回), 2012. 9.
- 29) 森澤太一郎¹⁾, 中込明裕¹⁾, 小谷英太郎¹⁾, 井川 修¹⁾, 草間芳樹¹⁾, 新 博次¹⁾, 水野杏一 (1) 多摩永山病院) : 心血管危険因子を有するが心疾患のない例での微小心筋傷害の検討. 日本心臓病学会 (第 60 回), 2012. 9.
- 30) 高野仁司, 小宮山英徳, 山本良也, 羽田朋人, 安武正弘, 水野杏一, 桐山智成¹⁾, 福島善光¹⁾, 汲田伸一郎¹⁾ (1) 放射線科) : 負荷心筋シンチグラム/冠動脈造影 CT 融合画像と冠血流予備量比との相関. 日本心臓病学会 (第 60 回), 2012. 9.
- 31) 福間長知, 高圓雅博, 林 寛子, 加藤和代, 加藤祐子, 高橋 啓, 馬淵浩輔, 水野杏一 : 腎 Mineralocorticoid 受容体活性化指標としての虚血性心疾患における検討. 日本心臓病学会 (第 60 回), 2012. 9.
- 32) 白壁章宏¹⁾, 野崎文華²⁾, 畑 典武¹⁾, 品田卓郎¹⁾, 小林宣明¹⁾, 富田和憲¹⁾, 鶴見昌史¹⁾, 松下誠人¹⁾, 山本良也¹⁾, 横山真也¹⁾, 水野杏一 (1) 千葉北総病院集中治療室, 2) 多摩永山病院) : 退院時生存を予測する経皮の心肺補助 (PCPS) スコアの検討 : 当院での循環器疾患に対する PCPS 使用の検討から. 日本心臓病学会 (第 60 回), 2012. 9.
- 33) 野間さつき¹⁾, 坏 宏一¹⁾, 塚田弥生, 山本 剛¹⁾, 水野杏一, 田中啓治¹⁾ (1) 集中治療室) : 過去 24 年間における緊急大動脈疾患の年次推移 : 患者絶対数の増加, 女性比率の上昇, 生存率の向上. 日本心臓病学会 (第 60 回), 2012. 9.
- 34) 小野卓哉, 板倉潮人¹⁾, 八名和夫²⁾, 西部俊広²⁾, 佐藤 慶²⁾, 淀川顕司, 本間 博, 新 博次, 加藤貴雄, 水野杏一 (1) 武蔵小杉病院, 2) 法政大学) : QT 及び RR 間隔の日内変動と心疾患の関連. 日本心臓病学会 (第 60 回), 2012. 9.
- 35) 雪吹周生¹⁾, 清野精彦¹⁾, 大塚俊昭²⁾, 稲見 徹¹⁾, 宗像 亮, 水野杏一 (1) 千葉北総病院, 2) 公衆衛生学教室) : 低 HDL-C 患者における Pitavastatin へのスタチン変更はさらなる脂質プロファイル改善と微小心筋傷害軽減をもたらす. 日本心臓病学会 (第 60 回), 2012. 9.
- 36) 坏 宏一¹⁾, 渡辺 淳²⁾, 島田 隆²⁾, 田中啓治¹⁾, 水野杏一 (1) 集中治療室, 2) 遺伝子診療科) : 血管型 Ehlers-Danlos 症候群に対する Celiprole の関連 event 抑制効果の検討. 日本心臓病学会 (第 60 回), 2012. 9.
- 37) 加藤政利¹⁾, 福間長知, 菅谷寿理¹⁾, 会田智弘¹⁾, 高圓雅博, 林 寛子, 加藤和代, 愛須紀子, 高橋 啓, 本間

- 博, 水野杏一⁽¹⁾ 生理機能センター): 心臓リハビリテーションを導入された心疾患患者に対する呼吸機能検査の意義. 日本心臓病学会 (第 60 回), 2012. 9.
- 38) 会田智弘¹⁾, 福岡長知, 菅谷寿理¹⁾, 加藤政利¹⁾, 斎藤公一¹⁾, 高圓雅博, 林 寛子, 加藤和代, 愛須紀子, 高橋啓, 水野杏一⁽¹⁾ 生理機能センター): 心筋梗塞患者に対する尿中アルブミンの連続的評価. 日本心臓病学会 (第 60 回), 2012. 9.
- 39) 高木 元¹⁾, 宮本正章¹⁾, 桐木園子¹⁾, 手塚晶人¹⁾, 久保田芳明¹⁾, 高木郁代¹⁾, 水野杏一⁽¹⁾ 再生医療科): 難病疾患による指尖潰瘍に対する再生医療. 日本脈管学会 (第 53 回), 2012. 10.
- 40) 有田淑恵¹⁾, 坪 宏一¹⁾, 山本 剛¹⁾, 谷田篤史¹⁾, 澤井啓介¹⁾, 青景聡之¹⁾, 川中秀和¹⁾, 北村光信¹⁾, 村田広茂¹⁾, 宮地秀樹¹⁾, 細川雄亮¹⁾, 水野杏一, 田中啓治¹⁾ (1) 集中治療室): 発熱を呈した急性大動脈解離患者におけるプロカルシトニンの動態. 日本脈管学会 (第 53 回), 2012. 10.
- 41) 佐藤太亮¹⁾, 高橋保裕¹⁾, 松下誠人¹⁾, 原千鶴子¹⁾, 水野杏一⁽¹⁾ 同愛記念病院): 右冠動脈慢性完全閉塞の治療にステントでカバーされた中隔枝からの逆行性アプローチと閉塞部通過に末梢用 30g ガイドワイヤーを必要とした 1 例. 日本心血管インターベンション治療学会 (第 41 回), 2012. 10.
- 42) 志村徹郎¹⁾, 村上大介¹⁾, 栗原 理¹⁾, 木股伸恒¹⁾, 稲見 徹¹⁾, 宗像 亮¹⁾, 高野雅充¹⁾, 大場崇芳¹⁾, 雪吹周生¹⁾, 清野精彦¹⁾, 水野杏一⁽¹⁾ 千葉北総病院): CCB3 剤を含めた強化薬物療法でさえも難治性であった冠縮性狭心症の 1 例: 活動性の変化と治療戦略の構築. 日本循環器学会関東甲信越地方会 (第 226 回), 2012. 10.
- 43) 中島壮崇¹⁾, 村田広茂¹⁾, 有田淑恵¹⁾, 澤井啓介¹⁾, 青景聡之¹⁾, 川中秀和¹⁾, 北村光信¹⁾, 宮地秀樹¹⁾, 細川雄亮¹⁾, 根井貴仁¹⁾, 坪 宏一¹⁾, 山本 剛¹⁾, 田中啓治¹⁾, 水野杏一, 上田仁美²⁾, その他 6 名⁽¹⁾ 集中治療室, ²⁾ 心臓血管外科): 心筋梗塞発症後, 遠隔期に重症化した心室中隔穿孔の 1 例. 日本循環器学会関東甲信越地方会 (第 226 回), 2012. 10.
- 44) 森澤太郎¹⁾, 小谷英太郎¹⁾, 吉川雅智¹⁾, 小杉宗範¹⁾, 西城由之¹⁾, 小橋啓一¹⁾, 中込明裕¹⁾, 草間芳樹¹⁾, 新博次¹⁾, 水野杏一⁽¹⁾ 多摩永山病院): 褐色細胞腫に併発したカテコラミン心筋症の 1 例. 日本循環器学会関東甲信越地方会 (第 226 回), 2012. 10.
- 45) 会田智弘¹⁾, 福岡長知, 菅谷寿理¹⁾, 加藤政利¹⁾, 高圓雅博, 林 寛子, 本間 博, 水野杏一⁽¹⁾ 生理機能センター): 心筋梗塞患者の尿中アルブミン異常の頻度と意義. 日本臨床生理学会 (第 49 回), 2012. 10.
- 46) 菅谷寿理¹⁾, 福岡長知, 会田智弘¹⁾, 加藤政利¹⁾, 斎藤公一¹⁾, 加藤和代, 水野杏一⁽¹⁾ 生理機能センター): 心筋梗塞後抑うつとその関連因子. 日本臨床生理学会 (第 49 回), 2012. 10.
- 47) 福岡長知, 林 寛子, 菅谷寿理¹⁾, 高圓雅博, 加藤和代, 高橋 啓, 会田智弘¹⁾, 加藤政利¹⁾, 水野杏一⁽¹⁾ 生理機能センター): 心筋梗塞患者に見られる睡眠呼吸障害 (SDB) の意義. 日本臨床生理学会 (第 49 回), 2012. 10.
- 48) 加藤政利¹⁾, 福岡長知, 菅谷寿理¹⁾, 会田智弘¹⁾, 愛須紀子, 高橋 啓, 水野杏一⁽¹⁾ 生理機能センター): 心疾患患者における呼吸機能と心肺運動負荷試験指標との関連. 日本臨床生理学会 (第 49 回), 2012. 10.
- 49) Shirakabe A¹⁾, Hata N¹⁾, Kobayashi N¹⁾, Shinada T¹⁾, Tomita K¹⁾, Tsurumi M¹⁾, Matsushita M¹⁾, Okazaki H¹⁾, Yamamoto Y¹⁾, Asai K, Mizuno K (1) Intensive Care Unit Chiba Hokusoh Hospital): Association between acute kidney injury in the acute phase of acute heart failure and the outcomes: An evaluation of acute kidney injury on admission and the following five days. AHA (Los Angeles, U.S.A.), 2012. 11.
- 50) Matsuda J, Kitamura M, Takayama M¹⁾, Kubota Y, Nakamura S, Murata H, Takagi G, Takano H, Asai K, Mizuno K (1) Sakakibara Heart Inst.): Electrocardiographic alterations after alcohol septal ablation demonstrate 1-year lasting reverse remodeling effect. AHA (Los Angeles, U.S.A.), 2012. 11.
- 51) Shirakabe A¹⁾, Hata N¹⁾, Kobayashi N¹⁾, Tomita K¹⁾, Tsurumi M¹⁾, Matsushita M¹⁾, Okazaki H¹⁾, Asai K, Mizuno K (1) Chiba Hokusoh Hospital): Efficacy of the urinary liver-fatty acid-binding protein (LFABP) excretion to predict the acute kidney injury in patients with acute heart failure an evaluation of acute kidney

- injury on admission and the following five days. AHA (Los Angeles, U.S.A.), 2012. 11.
- 52) Kitamura M, Takayama M¹⁾, Matsuda J, Nakamura S, Takagi G, Takano H, Asai K, Mizuno K (1) Sakakibara Heart Inst.) : Clinical characteristic and cardiac magnetic resonance for the patients received re-peating alcohol septal ablation in refractory hypertrophic obstructive cardiomyopathy. AHA (Los Angeles, U.S.A.), 2012. 11.
- 53) Kurihara O¹⁾, Takano M¹⁾, Yamamoto M¹⁾, Kanou S¹⁾, Shimura T¹⁾, Kimata N¹⁾, Inami T¹⁾, Kobayashi N¹⁾, Munakata R¹⁾, Murakami D¹⁾, Ohba T¹⁾, Ibuki C¹⁾, Seino Y¹⁾, Mizuno K (1) Chhiba Hokusoh Hospital) : Impact of prediabetic status on coronary atherosclerosis a multi-vessel angioscopic study. AHA (Los Angeles, U.S.A.), 2012. 11.
- 54) 高圓雅博, 時田祐吉, 稲見茂信, 久保田芳明, 中村俊一, 吉田明日香, 神谷仁孝, 村井綱児, 高木 元, 高野仁司, 浅井邦也, 安武正弘, 水野杏一 : 血管内視鏡所見にて冠攣縮部位に erosion を認めた薬剤抵抗性冠攣縮性狭心症の1例. 日本冠疾患学会 (第26回), 2012. 12.
- 55) 高野仁司, 秋谷麻衣, 山本 剛¹⁾, 安武正弘, 田中啓治¹⁾, 水野杏一 (1) 集中治療室) : 心房細動由来の冠動脈塞栓による急性心筋梗塞の臨床的特徴. 日本冠疾患学会 (第26回), 2012. 12.
- 56) 三軒豪仁, 高野仁司, 時田祐吉, 加藤浩司, 山本 剛¹⁾, 青木 聡, 浅井邦也, 佐藤直樹²⁾, 安武正弘, 田中啓治¹⁾, 水野杏一 (1) 集中治療室, 2) 武蔵小杉病院) : 冠攣縮に起因する急性心筋梗塞の予後と2次予防に関する検討. 日本冠疾患学会 (第26回), 2012. 12.
- 57) 中摩健二, 稲見茂信, 久保田芳明, 吉田明日香, 中村俊一, 神谷仁孝, 村井綱児, 時田祐吉, 高木 元, 高野仁司, 浅井邦也, 安武正弘, 水野杏一 : 嚴重な脂質管理にも関わらず Nobori® 留置部位に黄色内膜を認めた症例. 日本冠疾患学会 (第26回), 2012. 12.
- 58) 栗原 理¹⁾, 高野雅充¹⁾, 山本真功¹⁾, 木股伸恒¹⁾, 稲見 徹¹⁾, 宗像 亮¹⁾, 村上大介¹⁾, 大場崇芳¹⁾, 雪吹周生¹⁾, 清野精彦¹⁾, 水野杏一 (1) 千葉北総病院) : 前糖尿病と冠動脈硬化 : 血管内視鏡からの検討. 日本冠疾患学会 (第26回), 2012. 12.
- 59) 小野寺健太¹⁾, 細川雄亮¹⁾, 羽田朋人¹⁾, 澤井啓介¹⁾, 有田淑恵¹⁾, 青景聡之¹⁾, 川中秀和¹⁾, 村田広茂¹⁾, 北村光信¹⁾, 宮地秀樹¹⁾, 塚 宏一¹⁾, 山本 剛¹⁾, 田中啓治¹⁾, 新田 隆²⁾, 堀江 格, その他1名 (1) 集中治療室, 2) 心臓血管外科) : 胸部大動脈瘤に大動脈四尖弁を合併した1例. 日本循環器学会関東甲信越地方会 (第227回) (東京), 2013. 2.
- 60) 額額 敦¹⁾, 大場崇芳¹⁾, 加納誠士¹⁾, 志村徹郎¹⁾, 栗原 理¹⁾, 木股伸恒¹⁾, 山本哲平¹⁾, 山本真功¹⁾, 稲見 徹¹⁾, 村上大介¹⁾, 宗像 亮¹⁾, 阿部純子¹⁾, 丸山光紀¹⁾, 高野雅充¹⁾, 雪吹周生¹⁾, その他4名 (1) 千葉北総病院) : 川崎病再燃により巨大冠動脈瘤が形成され切迫破裂による大量心嚢液貯留が疑われた1例. 日本循環器学会関東甲信越地方会 (第227回) (東京), 2013. 2.
- 61) 野崎文華¹⁾, 小谷英太郎¹⁾, 森澤太一郎¹⁾, 西城由之¹⁾, 小橋啓一¹⁾, 小杉宗範¹⁾, 吉川雅智¹⁾, 中込明裕¹⁾, 草間芳樹¹⁾, 新 博次¹⁾, 丸山雄二²⁾, 白川 真²⁾, 田上素子²⁾, 井村 肇²⁾, 水野杏一 (1) 多摩永山病院, 2) 武蔵小杉病院心臓血管外科) : 高度石灰化を伴う冠動脈瘤と冠動脈瘻 冠動脈狭窄を合併した1例. 日本循環器学会関東甲信越地方会 (第227回) (東京), 2013. 2.
- 62) Kosugi M¹⁾, Nakagomi A¹⁾, Nozaki A¹⁾, Morisama T¹⁾, Saiki Y¹⁾, Kohashi K¹⁾, Yoshikawa M¹⁾, Kodani E¹⁾, Kusama Y¹⁾, Atarashi H¹⁾, Mizuno K (1) Tama Nagayama Hospital) : Impact of Inflammation and Multivessel Spasms on a Refractory Response to Calcium Channel Blockers in Patients with Vasospastic Angina. 日本循環器学会学術集会 (第77回), 2013. 3.
- 63) Nakagomi A¹⁾, Saiki Y¹⁾, Kohashi K¹⁾, Kosugi M¹⁾, Endoh I¹⁾, Kawaguchi N¹⁾, Endoh Y¹⁾, Kusama Y¹⁾, Atarashi H¹⁾, Mizuno K (1) Tama Nagayama Hospital) : Differential Pleiotropic Effects of Atorvastatin and Pitavastatin on Inflammatory and Oxidative Stress Markers, and Carotid Atherosclerosis in Hypercholester-

- olaemic Patients. 日本循環器学会学術集会 (第 77 回), 2013. 3.
- 64) Murakami D¹⁾, Takano M¹⁾, Yamamoto M¹⁾, Kano S¹⁾, Shimura T¹⁾, Kurihara O¹⁾, Kimata N¹⁾, Inami T¹⁾, Munakata R¹⁾, Seino Y¹⁾, Mizuno K (1) Chiba Hokusoh Hospital) : The Coronary Characteristics of Rapid Progression under Optimal Medical Treatment in Nonculprit Lesions Assessed by Optical Coherence Tomography. 日本循環器学会学術集会 (第 77 回), 2013. 3.
- 65) Kohashi K¹⁾, Nakagomi A¹⁾, Saiki Y¹⁾, Kosugi M¹⁾, Endoh I¹⁾, Endoh Y¹⁾, Kusama Y¹⁾, Atarashi H¹⁾, Mizuno K (1) Tama Nagayama Hospital) : Effects of Eicosapentaenoic Acid on Inflammatory Markers, Cardiac Function, and the Longterm Prognosis in Chronic Heart Failure Patients. 日本循環器学会学術集会 (第 77 回), 2013. 3.
- 66) Noma S¹⁾, Akutsu K¹⁾, Tetsuo-Tsukada Y, Yamamoto T¹⁾, Mizuno K, Tanaka K¹⁾ (1) Intensive and Cardiac Care Unit) : Epidemiologic Data and Trend of Emergency Aortic Disease over a 24-year Period. 日本循環器学会学術集会 (第 77 回), 2013. 3.
- 67) Nakagomi A¹⁾, Saiki Y¹⁾, Kohashi K¹⁾, Kosugi M¹⁾, Endoh I¹⁾, Kawaguchi N¹⁾, Endoh Y¹⁾, Kusama Y¹⁾, Atarashi H¹⁾, Mizuno K (1) Tama Nagayama Hospital) : Effects of Fenofibrate on Monocyte Chemoattractant Protein-1 Production by Monocytes and Progression of Carotid Atherosclerosis in Patients with Metabolic Syndrome. 日本循環器学会学術集会 (第 77 回), 2013. 3.
- 68) Hayashi H, Miyauchi Y, Takahashi K, Uetake S, Tsuboi I, Murata H, Horie T, Yodogawa K, Iwasaki Y, Hayashi M, Mizuno K : Anatomical Characteristics of Mitral Isthmus Requiring Ablation inside the Coronary Sinus for Achieving Complete Linear Block. 日本循環器学会学術集会 (第 77 回), 2013. 3.
- 69) Takahashi K, Miyauchi Y, Hayashi M, Iwasaki Y, Yodogawa K, Horie T, Uetake S, Hayashi H, Tsuboi I, Nitta T¹⁾, Mizuno K (1) Cardiovascular Surgery) : Long-term Outcome of Catheter Ablation of Atrial Tachycardia Following Full-Maze Surgery. 日本循環器学会学術集会 (第 77 回), 2013. 3.
- 70) Uetake S, Miyauchi Y, Ohsaka M¹⁾, Hayashi M, Iwasaki Y, Yodogawa K, Horie T, Yamamoto T, Tsuboi I, Hayashi H, Takahashi K, Mizuno K (1) Nippon Veterinary and Life Science University) : Dominant Frequency of Surface ECG f-wave with QRS-T Subtraction Algorithm Predicts Termination of Persistent Atrial Fibrillation during Radiofrequency Catheter Ablation. 日本循環器学会学術集会 (第 77 回), 2013. 3.
- 71) Hada T, Takagi G, Kirinoki S, Kubota Y, Tara S, Miyamoto M, Mizuno K : Therapeutic Vascular Angiogenesis for Intractable Microangiopathy Related Digital Ulcer in Patients with Systemic Sclerosis. 日本循環器学会学術集会 (第 77 回), 2013. 3.
- 72) Tsuboi I, Miyauchi Y, Hayashi M, Iwasaki Y, Yodogawa K, Horie T, Uetake S, Hayashi H, Takahashi K, Mizuno K : Acalculous Cholecystitis : an Unexpected Complication of Catheter Ablation of Atrial Fibrillation Resulting from Vagus Nerve Injury. 日本循環器学会学術集会 (第 77 回), 2013. 3.
- 73) Tanabe A¹⁾, Suzuki H¹⁾, Kajimoto K²⁾, Sakata Y³⁾, Keida T⁴⁾, Minami Y⁵⁾, Mizuno M⁵⁾, Aokage T, Munakata R, Sato N⁶⁾, Mizuno K, Takano T (1) Showa University Fujigaoka Hospital, 2) Sensoji Hospital, 3) Osaka University Graduate School, 4) Edogawa Hospital, 5) Tokyo Women's Medical University, 6) Musashikosugi Hospital) : Impact of Diastolic Blood Pressure on Clinical Outcome of Acute Heart Failure : From ATTEND Registry. 日本循環器学会学術集会 (第 77 回), 2013. 3.
- 74) Nakamura S, Katoh K, Yoshida A, Fukuma N, Okumura Y¹⁾, Ito H¹⁾, Mizuno K (1) National Institute of Mental Health) : Prognostic Value of Depression, Anxiety, and Anger in Hospitalized Cardiovascular Disease Patients for Predicting Adverse Cardiac Outcomes. 日本循環器学会学術集会 (第 77 回), 2013. 3.
- 75) Kirinoki-Ichikawa S, Teduka A, Kubota Y, Takagi G, Miyamoto M, Mizuno K : Toward a multidisciplinary approach to diabetic gangrene, including maggots, for limb salvage. International Diabetes Federation West-

- ern Pacific Region Congress (第9回) Scientific Meeting of the Asian Association for the Study of Diabetes (第4回), 2012. 11.
- 76) 桐木-市川園子, 手塚晶人, 久保田芳明, 高木 元, 宮本正章, 水野杏一: マゴットセラピー 159 例から考える下肢救済実績. 創傷治癒学会, 2012. 12.
- 77) 松田範子¹⁾, 豊富達智¹⁾, 中山拓也¹⁾, 志村亜由香¹⁾, 佐々木拓也¹⁾, 鈴木健一¹⁾, 木山輝郎¹⁾, 内田英二¹⁾, 桐木園子, 高木 元, 宮本正章, 竹田晋浩¹⁾, 徳永 昭¹⁾ (¹⁾ ME 部): 高気圧酸素療法と血管再生医療・局所陰圧閉鎖療法併用による難治性下腿潰瘍・足壊疽症例の創傷治癒促進効果. 日本高気圧環境・潜水医学会学術集会 (第47回), 2012. 11.
- 78) 村井綱見, 高木 元, 手塚晶人, 桐木園子, 古瀬領人, 久保田芳明, 宮本正章, 水野杏一: 糖尿病性虚血潰瘍での切断回避に関する検討. 日本糖尿病学会関東甲信越地方会 (第50回), 2013. 1.
- 79) 柴田祐作, 村井綱見, 手塚晶人, 久保田芳明, 高木 元, 田中古登子, 宮本正章, 水野杏一: 重症 ASO 合併糖尿病患者におけるインスリン自己注射で巨大皮下血腫を生じた1例. 日本内科学会関東地方会 (第588回), 2012. 6.
- 80) 手塚晶人, 高木 元, 桐木園子, 古瀬領人, 久保田芳明, 宮本正章, 水野杏一: 糖尿病性虚血潰瘍の切断回避因子分析. 日本創傷治癒学会 (第42回), 2012. 12.
- 81) 羽田朋人, 高木 元, 桐木園子, 久保田芳明, 太良修平, 宮本正章, 水野杏一: 強皮症による虚血性指尖潰瘍に対する血管再生医療効果. 日本創傷治癒学会 (第42回), 2012. 12.
- 82) 高木 元, 宮本正章, 太良修平, 桐木園子, 水野杏一: 全身性硬化症による難治性潰瘍に対する再生医療の試み. 日本再生医療学会総会 (第11回), 2012. 6.
- 83) 久保田芳明, 高木 元, 桐木園子, 手塚晶人, 古瀬領人, 宮本正章, 水野杏一: 糖尿病性虚血潰瘍への血行再建術とその切断回避分析. 日本再生医療学会総会 (第12回), 2013. 3.
- 84) 根井貴仁¹⁾, 藤澤洋輔¹⁾, 泉 佑樹, 手塚晶人, 有田淑恵¹⁾, 村田広茂¹⁾, 細川雄亮¹⁾, 宮地秀樹¹⁾, 北村光信¹⁾, 坪 宏一¹⁾, 山本 剛¹⁾, 竹田晋浩¹⁾, 田中啓治¹⁾ (¹⁾ 集中治療室): 不明熱で精査中に多臓器不全となり, 血液培養陽性化から粟粒結核と診断された1例. 日本結核病学会 関東支部学会 (第162回), 2012. 9.
- 85) 福泉 偉, 村田広茂¹⁾, 林 洋史, 淀川顕司, 水野杏一, 谷田篤史¹⁾, 有田淑恵¹⁾, 坪 宏一¹⁾, 山本 剛¹⁾, 田中啓治¹⁾ (¹⁾ 集中治療室): ステロイド補充療法により心機能が正常化した副腎機能不全による代謝性心筋症の1例. 日本内科学会関東地方会 (第593回), 2012. 12.
- 86) 川本智章, 山内 篤¹⁾, 金子恵子, 宮元亮子, 清水秀治, 水野杏一 (¹⁾ さいたま寄居病院): ラジオ波焼灼療法施行中の腫瘍内圧測定. 日本消化器病学会総会 (第98回), 2012. 4.
- 87) 小鹿野道雄¹⁾, 田邊 潤¹⁾, 高木寿人¹⁾, 梅本琢也¹⁾, 堀江 格, 淀川顕司, 岩崎雄樹, 林 明聡, 宮内靖史, 水野杏一 (¹⁾ 静岡医療センター): 侵襲的血行動態評価によるテイラーメイド心臓再同期療法の有用性. 日本不整脈学会学術集会 (第27回), 2012. 7.
- 88) Kawamoto C, Manaka K¹⁾, Yamauchi A²⁾, Kaneko K, Miyamoto A, Mizuno K (¹⁾ Dokkyo Medical University, ²⁾ Yorii Hospita): Hepatocytes Migration Into The Hepatic Vein During Radiofrequency Ablation In Porcine Liver. *Interventional Hepatology* (Ravello-Amalfi Coast, Italy), 2012. 5.
- 89) 川本智章, 金子恵子, 宮元亮子, 水野杏一, 間中研一¹⁾, 山内 篤²⁾ (¹⁾ 獨協医科大学医学総合研究所, ²⁾ さいたま寄居病院): ラジオ波焼灼療法中における肝静脈内剥離肝細胞. *Microwave Surgery* 研究会 (第31回), 2012. 9.
- 90) 小鹿野道雄¹⁾, 田邊 潤¹⁾, 高木寿人¹⁾, 梅本琢也¹⁾, 堀江 格, 淀川顕司, 岩崎雄樹, 林 明聡, 宮内靖史, 水野杏一 (¹⁾ 静岡医療センター): 120msec<QRS幅<150msec の心臓再同期療法候補者に対するペーシング様式決定の重要性. 植込みデバイス関連冬季大会 (第5回), 2013. 2.
- 91) Igawa O¹⁾, Adachi M²⁾, Okazaki R¹⁾, Kawaguchi N¹⁾, Kodani E¹⁾, Kusama Y¹⁾, Atarashi H¹⁾, Mizuno K

- (¹ Tama Nagayama Hospital, ² Tottori University) : The rare structure in the left atrium, “Myocardial bridge”. Heart Rhythm (Boston, MA, USA), 2012. 5.
- 92) 岡崎 怜子¹, 井川 修¹, 川口直美¹, 小谷英太郎¹, 遠藤康実¹, 井野 威¹, 草間芳樹¹, 新 博次¹, 堀江 格, 淀川顕司, 林 明聡, 宮内靖史, 加藤貴雄, 水野杏一, 鈴木文男², その他1名 (¹ 多摩永山病院, ² 結核予防会複十字病院循環器科) : Kent 束の正伝導において縦解離現象が観察された A 型 WPW 症候群の 1 例. 日本不整脈学会学術集会 (第 27 回), 2012. 7.
- 93) 吉川雅智¹, 中込明裕¹, 金子純也², 草間芳樹¹, 新 博次¹, 水野杏一 (¹ 多摩永山病院, ² 多摩永山病院救命救急センター) : 肺血栓塞栓症, 卵円孔開存により奇異性脳梗塞を発症した若年女性の 1 例. 日本内科学会関東地方会 (第 590 回), 2012. 9.
- 94) 鶴見昌史¹, 尾崎健介¹, 志村徹郎¹, 松下誠人¹, 白壁章宏¹, 富田和憲¹, 小林宣明¹, 品田卓郎¹, 横山真也¹, 畑 典武¹, 阿部純子², 雪吹周生², 清野精彦², 水野杏一 (¹ 千葉北総病院集中治療室, ² 千葉北総病院) : APRV (Airway Pressure Release Ventilation mode) により救命して重度肥満低喚気症候群 (obesity hypoventilation syndrome : OHS) の 1 例. 日本集中治療学会関東甲信越地方会 (第 21 回), 2012. 8.
- 95) Shimura T¹, Murakami D¹, Takano M¹, Yamamoto M¹, Kurihara O¹, Kimata N¹, Inami T¹, Munakata R¹, Ohba T¹, Seino Y¹, Mizuno K (¹ Chiba Hokusoh Hospital) : Long-Term Follow-Up Evaluation of Endothelial dysfunction after Sirolimus-Eluting Stent Implantation in Comparison with Bare-Metal Stent. 日本心血管インターベンション治療学会 (第 21 回), 2012. 7.
- 96) Shirakabe A¹, Hata N¹, Shinada T¹, Kobayashi N¹, Tomita K¹, Tsurumi M¹, Matsushita M¹, Shimura T¹, Asai K, Mizuno K (¹ Intensive Care Unit Chiba Hokuso Hospital) : Clinical significance of Acid-Base balance at emergency setting in patients with acute heart failure. ESC Heart Failure 2012 (Belgrade), 2012. 5.
- 97) Matsushita M¹, Shirakabe A¹, Shimura T¹, Tsurumi M¹, Tomita K¹, Kobayashi N¹, Shinada T¹, Hata N¹, Mizuno K (¹ Intensive Care Unit Chiba Hokuso Hospital) : Relationship between clinical findings on admission and visiting time in patients with acute heart failure. ESC Heart Failure 2012 (Belgrade), 2012. 5.
- 98) Shirakabe A¹, Hata N¹, Shinada T¹, Kobayashi N¹, Tomita K¹, Tsurumi M¹, Matsushita M¹, Shimura T¹, Asai K, Mizuno K (¹ Intensive Care Unit Chiba Hokuso Hospital) : Prognostic impact of the timing/degree of Acute Kidney Injury for Acute Heart Failure : an evaluation of the RIFLE Criteria. ESC (Munich), 2012. 8.
- 99) 白壁章宏¹, 畑 典武¹, 品田卓郎¹, 小林宣明¹, 富田和憲¹, 鶴見昌史¹, 松下誠人¹, 岡崎大武¹, 山本良也¹, 水野杏一 (¹ 千葉北総病院 集中治療室) : 急性心不全急性期における Tolvaptan の有用性. 日本心不全学会 (第 16 回), 2012. 11.
- 100) 松下誠人¹, 白壁章宏¹, 畑 典武¹, 山本良也¹, 鶴見昌史¹, 富田和憲¹, 小林宣明¹, 品田卓郎¹, 横山真也¹, 水野杏一 (¹ 千葉北総病院 集中治療室) : 肥満の有無別に見た急性心不全の特徴. 日本心不全学会 (第 16 回), 2012. 11.
- 101) 富田和憲¹, 小林宣明¹, 品田卓郎¹, 白壁章宏¹, 鶴見昌史¹, 岡崎大武¹, 山本良也¹, 畑 典武¹, 水野杏一 (¹ 千葉北総病院 集中治療室) : B 型急性大動脈解離に合併する呼吸不全の予測因子についての検討. 日本集中治療医学会学術集会 (第 40 回), 2013. 3.
- 102) 林 洋史, 宮内靖史, 林 明聡, 高橋健太, 植竹俊介, 坪井一平, 村田広茂, 堀江 格, 淀川顕司, 加藤貴雄, 水野杏一 : 完全ブロックをエンドポイントとした左房線状焼灼を付加した拡大肺静脈隔離の持続性心房細動に対する有効性. 日本不整脈学会学術集会 (第 27 回), 2012. 7.
- 103) 山本 剛¹, 時田祐吉, 野間さつき¹, 中澤 賢², 村田 智², 高野仁司, 水野杏一, 吾妻安良太³, 田中啓治¹

- (¹ 集中治療室, ² 放射線科, ³ 呼吸器内科) : 発症 3 ヶ月後に肺空洞病変を形成した肺塞栓症の 1 例. 肺塞栓症研究会学術集会 (第 19 回), 2012. 11.
- 104) 石川昌弘¹, 花岡大輔¹, 菊池有史¹, 山本英世¹, 網谷賢一¹, 高橋直人¹, 内田高浩¹, 佐藤直樹¹, 汲田伸一郎², 水野杏一 (¹ 武蔵小杉病院, ² 放射線科) : 慢性腎臓病における左室同期不全の検討. 日本心臓核医学会総会 学術集会 (第 22 回), 2012. 6.
- 105) Ishikawa M¹, Takahashi N¹, Hanaoka D¹, Kikuchi A¹, Yamamoto E¹, Amitani K¹, Uchida T¹, Sato N¹, Munakata K¹, Mizuno K (¹ Musashi Kosugi Hospital) : Assessment of left ventricular mechanical dyssynchrony in patients with endstage renal disease. ACC (MAIMI), 2012. 6.
- 106) Ishikawa M¹, Takahashi N¹, Kikuchi A¹, Yamamoto E¹, Amitani K¹, Uchida T¹, Sato N¹, Munakata K¹, Mizuno K (¹ Musashi Kosugi Hospital) : Assessment of left Ventricular Mechanical Dyssynchrony in Patients with Chronic Kidney Disease. ESC (Munich), 2012. 8.
- (10) 症例報告 :
- 1) Nozaki A¹, Takahashi Y¹, Sato T¹, Okazaki H¹, Mizuno K (¹ The Fraternity Memorial Hospital) : Improved left ventricular systolic function after coil embolization of pulmonary arteriovenous malformation in patients with dilated cardiomyopathy. 日本心血管インターベンション治療学会 (第 21 回), 2012. 7.
- 2) Takahashi Y¹, Nozaki A¹, Sato T¹, Okazaki H¹, Mizuno K (¹ The Fraternity Memorial Hospital) : Successful treatment of chronic total occlusion by transvenous intravascular ultrasound-guided percutaneous coronary intervention. 日本心血管インターベンション治療学会 (第 21 回), 2012. 7.
- (11) Late Breaking Cohort Studies :
- 1) Sato N¹, Kajimoto K², Keida T³, Asai K, Mizuno M⁴, Minami Y⁴, Munakata R, Murai K, Aokage T, Sakata Y⁵, Yumino D⁴, Mizuno K, Takano T (¹ Musashi Kosugi Hospital, ² Sensoji Hospital, ³ Edogawa Hospital, ⁴ Tokyo Women's Medical University, ⁵ Osaka University Graduate School of Medicine) : Real World Patient Characteristics and Outcome of Acute Heart Failure in Japan : From ATTEND Registry. 日本循環器学会学術集会 (第 77 回), 2013. 3.
- (12) poster :
- 1) Ogano M¹, Iwasaki Y, Tanabe J¹, Takagi H¹, Umemoto T¹, Hayashi M, Miyauchi Y, Mizuno K (¹ Shizuoka Medical Ctr.) : Antiarrhythmic effect of cardiac resynchronization therapy with triple-site biventricular stimulation. AHA (Los Angeles, U.S.A.), 2012. 11.
- 2) Shirakabe A¹, Hata N¹, Kobayashi N¹, Shinada T¹, Tomita K¹, Tsurumi M¹, Matsushita M¹, Okazaki H¹, Yamamoto Y¹, Asai K¹, Mizuno K (¹ Chhiba Hokusoh Hospital) : Associations between acute kidney injury in the acute phase of acute heart failure and the outcomes an evaluation of acute kidney injury on admission and the following five days. AHA (Los Angeles, U.S.A.), 2012. 11.
- 3) Kato K¹, Yonetsu T¹, Kim S¹, Abtahian L¹, Lee S², Jang Y³, Uemura S⁴, Yu B⁵, Mizuno K, Jang I¹ (¹ MGH, ² Hong Kong Univ., ³ Univ, Seoul Korea Republic, ⁴ Nara Univ, ⁵ Harbin Medical Univ) : Optical coherence tomography findings immediately after single stent implantation in denovo lesions and their clinical significance. AHA (Los Angeles, U.S.A.), 2012. 11.
- 4) Setsuta K¹, Nishizawa A¹, Kitahara Y¹, Seino Y², Mizuno K (¹ Metropolitan Komagome Hospital, ² Chiba Hokusoh Hospital) : Clinical value of increased high-sensitivity cardiac troponin t in patients with essential hypertension. AHA (Los Angeles, U.S.A.), 2012. 11.
- 5) Kato K¹, Yonetsu T¹, Kim S¹, Abtahian L¹, Lee S², Jang Y³, Uemura S⁴, Yu B⁵, Mizuno K, Jang I¹ (¹ MGH, ² Hong Kong Univ., ³ Univ, Seoul Korea Republic, ⁴ Nara Univ, ⁵ Harbin Medical Univ) : Coronary plaque characteristics in diabetic patients diabetic status and insulin therapy. AHA (Los Angeles,

- U.S.A.), 2012. 11.
- 6) Hayashi H, Miyauchi Y, Hayashi M, Yodogawa K, Horie T, Murata H, Uetake S, Tsuboi I, Takahashi K, Kato T, Mizuno K (1) Shizuoka Medical Ctr.): Anatomical characteristics of mitral isthmus requiring ablation inside the coronary sinus for creation of complete linear block in patients with atrial fibrillation. AHA (Los Angeles, U.S.A.), 2012. 11.
- (13) エキスパート:
- 1) 林 明聡: カテコラミン誘発性多形性心室頻拍の臨床. 日本不整脈学会学術集会 (第 27 回), 2012. 7.
- 2) 林 明聡: カテコラミン誘発性多形性心室頻拍の臨床. 日本不整脈学会学術集会, 2012. 7.
- (14) コメディカルシンポジウム:
- 1) 桐木-市川園子, 高木 元, 手塚晶人, 久保田芳明, 松田範子¹⁾, 飯村剛史²⁾, 高見佳宏²⁾, 栗田二郎³⁾, 落 雅美³⁾, 宮本正章, 水野杏一 (1) 消化器外科, 2) ME 部, 3) 形成外科, 4) 心臓血管外科): 治療抵抗性末梢動脈疾患 (PAD) に対する自己骨髄幹細胞による血管再生療法の方法, 適応と有効性. 日本循環器学会学術集会 (第 77 回), 2013. 3.
- (15) コメディカルセッション:
- 1) 菅谷寿理¹⁾, 福岡長知, 加藤和代, 林 寛子, 高橋 啓, 会田智弘¹⁾, 加藤政利¹⁾, 大嶺桂子²⁾, 佐野眞己³⁾, 水野杏一 (1) 生理機能センター, 2) 看護部, 3) 栄養科): 心筋梗塞患者に対する多職種による食塩制限. 日本心臓病学会 (第 60 回), 2012. 9.
- (16) コメディカル一般演題:
- 1) 菅谷寿理¹⁾, 福岡長知, 会田智弘¹⁾, 加藤政利¹⁾, 齊藤公一¹⁾, 林 寛子, 加藤和代, 高橋 啓, 水野杏一 (1) 生理機能センター): 包括的心臓リハビリテーションとしての心筋梗塞後患者に対する減塩指導. 日本循環器学会学術集会 (第 77 回), 2013. 3.
- 2) 加藤政利¹⁾, 福岡長知, 会田智弘¹⁾, 菅谷寿理¹⁾, 齊藤公一¹⁾, 林 寛子, 加藤和代, 愛須紀子, 高橋 啓, 水野杏一 (1) 生理機能センター): 心疾患における呼吸機能検査指標と VE/VCO₂slope との関連. 日本循環器学会学術集会 (第 77 回), 2013. 3.
- (17) コメディカル一般演題 (ポスター):
- 1) 西川律子¹⁾, 加藤和代, 安居葉子¹⁾, 榊澤美穂¹⁾, 福岡長知, 水野杏一 (1) 看護部): 心臓リハビリテーション参加患者へのストレスマネジメントに関する集団教育と個別相談を通してみえた実態と課題. 日本循環器学会学術集会 (第 77 回), 2013. 3.
- 2) 会田智弘¹⁾, 福岡長知, 加藤政利¹⁾, 菅谷寿理¹⁾, 本間 博, 高圓雅博, 林 寛子, 加藤和代, 高橋 啓, 水野杏一 (1) 生理機能センター): 心筋梗塞後患者に対する尿中アルブミン測定の意義. 日本循環器学会学術集会 (第 77 回), 2013. 3.
- (18) トピック:
- 1) Kumita S¹⁾, Kobayashi Y¹⁾, Hayashi H¹⁾, Takano H, Mizuno K (1) Radiology): Imaging of Inflamed Coronary Artery and Myocardium with F-18-FDG PET/CT. 日本循環器学会学術集会 (第 77 回), 2013. 3.
- (19) ミート・ザ・エキスパート:
- 1) Saito T, Asai K, Sato S¹⁾, Takano H, Takagi G, Yasutake M, Mizuno K (1) Central Electron Microscopic Institute): Ultrastructural Findings of Cardiomyocytes in Early Phase of Dilated Cardiomyopathy. 日本循環器学会学術集会 (第 77 回), 2013. 3.
- 2) Miyauchi Y: Non-pharmacologic Antiarrhythmic Therapy in Patients with Hypertrophic Cardiomyopathy. 日本循環器学会学術集会 (第 77 回), 2013. 3.
- (20) ラウンドテーブルディスカッション:
- 1) Fukuma N, Koen M, Hayashi H, Kato K, Kato Y, Takahashi H, Mizuno K: Importance of Management

of Salt Intake and Hypertension as a Comprehensive Cardiac Rehabilitation in Patients with Myocardial Infarction. 日本循環器学会学術集会 (第 77 回), 2013. 3.

- 2) Inami T¹⁾, Seino Y¹⁾, Mizuno K (¹⁾ Chiba Hokusoh Hospital) : Untreated Obstructive Sleep Apnoea as a Therapeutic Target in Acute Aortic Dissection. 日本循環器学会学術集会 (第 77 回), 2013. 3.
- 3) Murakami D¹⁾, Takano M¹⁾, Shimura T¹⁾, Kano S¹⁾, Kurihara O¹⁾, Yamamoto M¹⁾, Kimata N¹⁾, Inami T¹⁾, Kobayashi N¹⁾, Munakata R¹⁾, Ohba T¹⁾, Ibuki C¹⁾, Seino Y¹⁾, Mizuno K (¹⁾ Chiba Hokusoh Hospital) : Drug-on Acetylcholine Provocation Test for Assessment of Therapeutic Efficacy in Patients with Refractory Vasospastic Angina : Importance of CCB Combination Therapy. 日本循環器学会学術集会 (第 77 回), 2013. 3.
- 4) 林 明聡 : His-Purkinje system related ventricular tachyarrhythmias in patients with structural heart disease. 日本循環器学会学術集会 (第 77 回), 2013. 3.

[付属病院老年内科]

研究概要

高齢者の糖尿病, 動脈硬化, 高血圧症, 脂質異常症, 栄養, 肥満, 腎機能および認知症に関する臨床的研究を行った。糖尿病に関しては, 1) 腎症の存在の動脈硬化進展に及ぼす影響を検討した。2) 血中 1. 5-AG 値の耐糖能異常スクリーニングの指標としての臨床的意義を年代別, 性別に検討した。3) 食後高血糖による血管内皮機能障害の機序の解明を行った。4) 血糖コントロールおよび合併症の進展と酸化ストレスの関連を検討した。5) 食後高血糖と尿細管機能異常の関連を検討した。6) 血糖降下薬療法による低血糖発症リスクに及ぼす要因の解析とその予防対策を検討した。7) 高齢者糖尿病に対する前向き大規模臨床介入試験から, 血糖・血圧・脂質レベルや生活様式も含む包括的な管理の重要を明らかにした。8) Sitagliptin の血管内皮機能改善効果を明らかにした。9) 心拍変動の臨床的有用性を検討した。動脈硬化に関しては, 1) 健常人の食後高血糖と血中インスリンレベルの血管内皮機能低下の関連を検討した。2) 半自動 FMD 測定装置の多施設共同研究を行った。高血圧症に関しては, 1) 臨床コホート研究 (J-CHEARS) を継続した。2) 高血圧合併 2 型糖尿病におけるテルミサルタンの内臓脂肪減少効果を明らかにした。脂質異常症に関しては, 1) レジンの血糖および内臓脂肪量低下を明らかにした。2) LDL/HDL-コレステロール比の臨床的意義を検討した。4) IMT の経年観察により, 高齢者の動脈硬化促進に及ぼす影響を検討した。腎機能に関しては, 1) 糖尿病における CKD の臨床的意義を検討した。2) 尿中アルブミン指数の動脈硬化の進展指標としての意義を検討した。3) 無症候性白血球尿の臨床的意義を検討した。栄養および肥満に関しては, 1) 高齢者の食事摂取量の変動性の問題点を検討した。2) DUAL-SCAN による内臓脂肪測定の臨床的意義を検討した。3) 認知症の死因と肥満度の関係を検討した。

研究業績

論文

[追加分]

追加分総説 :

- 1) 大庭建三, 中野博司 : 食事と栄養と健康長寿社会. 日老医誌 2012 ; 49 (2) : 175-178.

追加分原著 :

- 1) Suzuki T, Oba K, Igari Y, Watanabe K, Matsumura N, Futami-Suda S, Ouchi M, Suzuki K, Sekimizu K, Kigawa Y¹⁾, Nakano H (¹⁾ Hanno Geriatric Hospital) : Effects of bile acid-binding resin (Colestimide) on blood glucose and visceral fat in Japanese patients with type 2 diabetes mellitus and hypercholesterolemia. An open-label, randomized, case control, crossover study. J Diabetes Complications 2012 ; 26 (1) : 34-39.

- 2) Tomiyama H¹⁾, Kohro T²⁾, Higashi Y³⁾, Takase B⁴⁾, Suzuki T⁵⁾, Ishizu T⁶⁾, Ueda S⁷⁾, Yamazaki T⁸⁾, Furumoto T⁹⁾, Kario K¹⁰⁾, Inoue T, Koba S, Watanabe K, Takemoto Y, Hano T, et al. (1) Second Department of Internal Medicine, Tokyo Medical University, (2) Department of Translational Research for Healthcare and Clinical Science, Graduate School of Medicine, The University of Tokyo, (3) Department of Cardiovascular Physiology and Medicine, Hiroshima University Graduate School of Biomedical Science, (4) Division of Biomedical Engineering, National Defense Medical College Research Institute, (5) Department of Cardiovascular Medicine, Graduate School of Medicine, The University of Tokyo, (6) Cardiovascular Division, Institute of Clinical Medicine, University of Tsukuba, (7) Department of Clinical Pharmacology and Therapeutics, University of the Ryukyus School of Medicine, (8) Department of Clinical Epidemiology and Systems, Faculty of Medicine, The University of Tokyo, (9) Department of Cardiovascular Medicine, Hokkaido University Graduate School of Medicine, (10) and others) : A Multicenter Study Design to Assess the Clinical Usefulness of Semi-Automatic Measurement of Flow-Mediated Vasodilatation of the Brachial Artery. *Int Heart J* 2012 ; 53 (3) : 170-175.

追加研究報告書 :

- 1) 門倉光隆¹⁾, 大島祥男²⁾, 五十嵐隆³⁾, 矢作直樹³⁾, 里宇明元⁴⁾, 東條克能⁵⁾, 折目由紀彦⁶⁾, 大庭建三, 大久保ゆかり⁷⁾, 上塚芳郎⁸⁾, 水澤英洋⁹⁾, 南光進一郎¹⁰⁾, 磯沼 弘, 盛田俊介, 呉屋朝幸, その他1名 (1) 昭和大学, (2) 河北総合病院, (3) 東京大学, (4) 慶應義塾大学, (5) 東京慈恵会医科大学, (6) 日本大学, (7) 東京医科大学, (8) 東京女子医科大学, (9) 東京医科歯科大学, (10) 帝京大学) : 患者対応の問題点と対応策について. *東京都医師会雑誌* 2011 ; 64 (8) : 962-1025.

(1) 原著 :

- 1) Araki A¹⁾, Iimiro S²⁾, Sakurai T^{3,7)}, Umegaki H⁴⁾, Iijima K⁶⁾, Nakano H, Oba K, Yokono K³⁾, Sone H⁵⁾, Yamada N⁵⁾, Ako J⁶⁾, Kozaki K⁶⁾, Miura H⁷⁾, Kashiwagi A⁸⁾, Kikkawa R⁸⁾, et al. (1) Department of Diabetes Mellitus, Metabolism and Endocrinology, Tokyo Metropolitan Geriatric Hospital, (2) Department of Biostatistics, School of Public Health, Graduate School of Medicine, University of Tokyo, (3) Department of Geriatric Medicine, Graduate School of Medicine, University of Kobe, (4) Department of Geriatrics, Graduate School of Medicine, University of Nagoya, (5) Department of Metabolism and Endocrinology, Graduate School of Medicine, University of Tsukuba, (6) Department of Geriatric Medicine, Graduate School of Medicine, University of Tokyo, (7) Center for Comprehensive Care and Research on Demented Disorders, National Center for Geriatrics and Gerontology, (8) Department of Medicine, Shiga University of Medical Science) : Long-term multiple risk factor interventions in Japanese elderly diabetic patients : The Japanese Elderly Diabetes Intervention Trial - study design, baseline characteristics and effects of intervention. *Geriatr Gerontol Int* 2012 ; 12 (Suppl.1) : 7-17.
- 2) Araki A¹⁾, Iimiro S²⁾, Sakurai T^{3,7)}, Umegaki H⁴⁾, Iijima K⁶⁾, Sone H⁵⁾, Yamada N⁵⁾, Ako J⁶⁾, Kozaki K⁶⁾, Miura H⁷⁾, Kashiwagi A⁸⁾, Kikkawa R⁸⁾, Yoshimura Y⁹⁾, Nakano H, Oba K, et al. (1) Department of Diabetes Mellitus, Metabolism and Endocrinology, Tokyo Metropolitan Geriatric Hospital, (2) Department of Biostatistics, School of Public Health, Graduate School of Medicine, University of Tokyo, (3) Department of Geriatric Medicine, Graduate School of Medicine, University of Kobe, (4) Department of Geriatrics, Graduate School of Medicine, University of Nagoya, (5) Department of Metabolism and Endocrinology, Graduate School of Medicine, University of Tsukuba, (6) Department of Geriatric Medicine, Graduate School of Medicine, University of Tokyo, (7) Center for Comprehensive Care and Research on Demented Disorders, National Center for Geriatrics and Gerontology, (8) Department of Medicine, Shiga University of Medical Science, (9) Training

Department of Administrative Dietician, Faculty of Human Life Science, University of Shikoku) : Non-high-density lipoprotein cholesterol : An important predictor of stroke and diabetes-related mortality in Japanese elderly diabetic patients. *Geriatr Gerontol Int* 2012 ; 12 (Suppl.1) : 18-28.

- 3) Yoshimura Y¹⁾, Kamada C¹⁾, Takahashi K¹⁾, Kaimoto T¹⁾, Iimuro S²⁾, Ohashi Y²⁾, Araki A³⁾, Umegaki H⁴⁾, Sakurai T^{5,6)}, Ito H³⁾, JEDIT group (1) Training Department of Administrative Dietician, Faculty of Human Life Science, Shikoku University, (2) Department of Biostatistics, School of Public Health, Graduate School of Medicine, the University of Tokyo, (3) Department of Diabetes Mellitus, Metabolism and Endocrinology, Tokyo Metropolitan Geriatric Hospital, (4) Department of Community Healthcare and Geriatric Medicine, University of Nagoya, (5) Center for Comprehensive Care and Research on Demented Disorders, National Center for Geriatrics and Gerontology, (6) Department of Geriatric Medicine, Graduate School of Medicine, University of Kobe) : Relations of nutritional intake to age, sex and body mass index in Japanese elderly patients with type 2 diabetes : The Japanese Elderly Diabetes Intervention Trial. *Geriatr Gerontol Int* 2012 ; 12 (Suppl.1) : 29-40.
- 4) Kamada C¹⁾, Yoshimura H²⁾, Okumura R¹⁾, Takahashi K¹⁾, Iimuro S³⁾, Ohashi Y³⁾, Araki A⁴⁾, Umegaki H⁵⁾, Sakurai T^{6,7)}, Yoshimura Y¹⁾, Ito H⁴⁾, JEDIT group (1) Training Department of Administrative Dietician, Shikoku University, (2) Department of Nutrition, Faculty of Health Care, Kiryu University, (3) Department of Biostatistics, School of Public Health, Graduate School of Medicine, the University of Tokyo, (4) Department of Diabetes Mellitus, Metabolism and Endocrinology, Tokyo Metropolitan Geriatric Hospital, (5) Department of Community Healthcare and Geriatric Medicine, University of Nagoya, (6) Center for Comprehensive Care and Research on Demented Disorders, National Center for Geriatrics and Gerontology, (7) Department of Geriatric Medicine, Graduate School of Medicine, University of Kobe) : Optimal energy distribution of carbohydrate intake for Japanese elderly patients with type 2 diabetes : The Japanese Elderly Diabetes Intervention Trial. *Geriatr Gerontol Int* 2012 ; 12 (Suppl.1) : 41-49.
- 5) Takahashi K¹⁾, Kamada C¹⁾, Yoshimura H²⁾, Okumura R¹⁾, Iimuro S³⁾, Ohashi Y³⁾, Araki A⁴⁾, Umegaki H⁵⁾, Sakurai T^{6,7)}, Yoshimura Y¹⁾, Ito H⁴⁾, JEDIT group (1) Training Department of Administrative Dietician, Faculty of Human Life Science, Shikoku University, (2) Department of Nutrition, Faculty of Health Care, Kiryu University, (3) Department of Biostatistics, School of Public Health, Graduate School of Medicine, the University of Tokyo, (4) Department of Diabetes Mellitus, Metabolism and Endocrinology, Tokyo Metropolitan Geriatric Hospital, (5) Department of Community Healthcare and Geriatric Medicine, University of Nagoya, (6) Center for Comprehensive Care and Research on Demented Disorders, National Center for Geriatrics and Gerontology, (7) Department of Geriatric Medicine, Graduate School of Medicine, University of Kobe) : Effects of total and green vegetable intakes on glycated hemoglobin A1c and triglycerides in Japanese elderly patients with type 2 diabetes : The Japanese Elderly Diabetes Intervention Trial. *Geriatr Gerontol Int* 2012 ; 12 (suppl.1) : 50-58.
- 6) Iimuro S¹⁾, Yoshimura Y²⁾, Umegaki H³⁾, Sakurai T^{4,5)}, Araki A⁶⁾, Ohashi Y¹⁾, Iijima K⁷⁾, Ito H⁶⁾, JEDIT group (1) Department of Biostatistics, School of Public Health, Graduate School of Medicine, the University of Tokyo, (2) Training Department of Administrative Dietician, Faculty of Human Life Science, Shikoku University, (3) Department of Community Healthcare and Geriatric Medicine, University of Nagoya, (4) Center for Comprehensive Care and Research on Demented Disorders, National Center for Geriatrics and Gerontology, (5) Department of Geriatric Medicine, Graduate School of Medicine, University of Kobe, (6) Department of Diabetes Mellitus, Metabolism and Endocrinology, Tokyo Metropolitan Geriatric Hospital, (7) Department of Geriatric Medicine, Graduate School of Medicine, University of Tokyo) : Dietary pattern and mortality in

Japanese elderly patients with type 2 diabetes mellitus : Does a vegetable- and fish-rich diet improve mortality? An explanatory study. *Geriatr Gerontol Int* 2012 ; 12 (Suppl.1) : 59-67.

- 7) Iijima K^{1,2)}, Imuro S³⁾, Ohashi Y³⁾, Sakurai T^{4,5)}, Umegaki H⁶⁾, Araki A⁷⁾, Yoshimura Y⁸⁾, Ouchi Y¹⁾, Ito H⁷⁾, JEDIT study group ^{(1) Department of Geriatric Medicine, Graduate School of Medicine, University of Tokyo, ^{(2) Institute of Gerontology, University of Tokyo, ^{(3) Department of Biostatistics, School of Public Health, Graduate School of Medicine, the University of Tokyo, ^{(4) Center for Comprehensive Care and Research on Demented Disorders, National Center for Geriatrics and Gerontology, ^{(5) Department of Geriatric Medicine, Graduate School of Medicine, University of Kobe, ^{(6) Department of Community Healthcare and Geriatric Medicine, University of Nagoya, ^{(7) Department of Diabetes Mellitus, Metabolism and Endocrinology, Tokyo Metropolitan Geriatric Hospital, ^(8) Training Department of Administrative Dietician, Faculty of Human Life Science, Shikoku University) : Lower physical activity, but not excessive calorie intake, is associated with metabolic syndrome in elderly with type 2 diabetes mellitus : The Japanese Elderly Diabetes Intervention Trial. *Geriatr Gerontol Int* 2012 ; 12 (Suppl.1) : 68-76.}}}}}}}
- 8) Iijima K^{1,2)}, Imuro S³⁾, Shinozaki T³⁾, Ohashi Y³⁾, Sakurai T^{4,5)}, Umegaki H⁶⁾, Araki A⁷⁾, Ouchi Y¹⁾, Ito H⁷⁾, JEDIT study group ^{(1) Department of Geriatric Medicine, Graduate School of Medicine, University of Tokyo, ^{(2) Institute of Gerontology, University of Tokyo, ^{(3) Department of Biostatistics, School of Public Health, Graduate School of Medicine, the University of Tokyo, ^{(4) Center for Comprehensive Care and Research on Demented Disorders, National Center for Geriatrics and Gerontology, ^{(5) Department of Geriatric Medicine, Graduate School of Medicine, University of Kobe, ^{(6) Department of Community Healthcare and Geriatric Medicine, University of Nagoya, ^(7) Department of Diabetes Mellitus, Metabolism and Endocrinology, Tokyo Metropolitan Geriatric Hospital) : Lower physical activity is a strong predictor of cardiovascular events in elderly with type 2 diabetes mellitus beyond traditional risk factors : The Japanese Elderly Diabetes Intervention Trial. *Geriatr Gerontol Int* 2012 ; 12 (Suppl.1) : 77-87.}}}}}}
- 9) Shinozaki T¹⁾, Matsuyama Y¹⁾, Imuro S¹⁾, Umegaki H²⁾, Sakurai T^{3,4)}, Araki A⁵⁾, Ohashi Y¹⁾, Ito H⁵⁾, JEDIT study group ^{(1) Department of Biostatistics, School of Public Health, the University of Tokyo, ^{(2) Department of Community Healthcare and Geriatric Medicine, University of Nagoya, ^{(3) Center for Comprehensive Care and Research on Demented Disorders, National Center for Geriatrics and Gerontology, ^{(4) Department of Geriatric Medicine, Graduate School of Medicine, University of Kobe, ^(5) Department of Diabetes Mellitus, Metabolism and Endocrinology, Tokyo Metropolitan Geriatric Hospital) : Effective prevention of cardiovascular disease and diabetes-related events with atorvastatin in Japanese elderly patients with type 2 diabetes mellitus : Adjusting for treatment changes using a marginal structural proportional hazards model and a rank-preserving structural failure time model. *Geriatr Gerontol Int* 2012 ; 12 (Suppl.1) : 88-102.}}}}
- 10) Umegaki H¹⁾, Imuro S²⁾, Shinozaki T²⁾, Araki A³⁾, Sakurai T^{4,5)}, Iijima K^{6,7)}, Ohashi Y²⁾, Ito H³⁾, JEDIT study group ^{(1) Department of Community Healthcare and Geriatric Medicine, University of Nagoya, ^{(2) Department of Biostatistics, School of Public Health, the University of Tokyo, ^{(3) Department of Diabetes Mellitus, Metabolism and Endocrinology, Tokyo Metropolitan Geriatric Hospital, ^{(4) Center for Comprehensive Care and Research on Demented Disorders, National Center for Geriatrics and Gerontology, ^{(5) Department of Geriatric Medicine, Graduate School of Medicine, University of Kobe, ^{(6) Department of Geriatric Medicine, Graduate School of Medicine, University of Tokyo, ^(7) Institute of Gerontology, University of Tokyo) : Risk factors associated with cognitive decline in the elderly with type 2 diabetes : Baseline data analysis of the Japanese elderly diabetes intervention trial. *Geriatr Gerontol Int* 2012 ; 12 (Suppl.1) : 103-109.}}}}}}
- 11) Umegaki H¹⁾, Imuro S²⁾, Shinozaki T²⁾, Araki A³⁾, Sakurai T^{4,5)}, Iijima K^{6,7)}, Ohashi Y²⁾, Ito H³⁾, JEDIT

- study group ⁽¹⁾ Department of Community Healthcare and Geriatric Medicine, University of Nagoya, ⁽²⁾ Department of Biostatistics, School of Public Health, the University of Tokyo, ⁽³⁾ Department of Diabetes Mellitus, Metabolism and Endocrinology, Tokyo Metropolitan Geriatric Hospital, ⁽⁴⁾ Center for Comprehensive Care and Research on Demented Disorders, National Center for Geriatrics and Gerontology, ⁽⁵⁾ Department of Geriatric Medicine, Graduate School of Medicine, University of Kobe, ⁽⁶⁾ Department of Geriatric Medicine, Graduate School of Medicine, University of Tokyo, ⁽⁷⁾ Institute of Gerontology, University of Tokyo) : Risk factors associated with cognitive decline in the elderly with type 2 diabetes : Pooled logistic analysis of a 6-year observation in the Japanese elderly diabetes intervention trial. *Geriatr Gerontol Int* 2012 ; 12 (Suppl.1) : 110-116.
- 12) Sakurai T^{1,2)}, Iimuro S³⁾, Sakamaki K³⁾, Umegaki H⁴⁾, Araki A⁵⁾, Ohashi Y³⁾, Ito H⁵⁾, JEDIT study group ⁽¹⁾ Center for Comprehensive Care and Research on Demented Disorders, National Center for Geriatrics and Gerontology, ⁽²⁾ Department of Geriatric Medicine, Graduate School of Medicine, University of Kobe, ⁽³⁾ Department of Biostatistics, School of Public Health, the University of Tokyo, ⁽⁴⁾ Department of Community Healthcare and Geriatric Medicine, University of Nagoya, ⁽⁵⁾ Department of Diabetes Mellitus, Metabolism and Endocrinology, Tokyo Metropolitan Geriatric Hospital) : Risk factors for a 6-year decline in physical disability and functional limitations among elderly people with type 2 diabetes in the Japanese elderly diabetes intervention trial. *Geriatr Gerontol Int* 2012 ; 12 (Suppl.1) : 117-126.
- 13) Araki S¹⁾, Nishio Y¹⁾, Araki A²⁾, Umegaki H³⁾, Sakurai T^{4,5)}, Iimuro S⁶⁾, Ohashi Y⁷⁾, Uzu T¹⁾, Maegawa H¹⁾, Kashiwagi A¹⁾, Ito H²⁾, JEDIT study group ⁽¹⁾ Department of Internal Medicine, Shiga University of Medicine, ⁽²⁾ Department of Diabetes Mellitus, Metabolism and Endocrinology, Tokyo Metropolitan Geriatric Hospital, ⁽³⁾ Department of Community Healthcare and Geriatric Medicine, University of Nagoya, ⁽⁴⁾ Center for Comprehensive Care and Research on Demented Disorders, National Center for Geriatrics and Gerontology, ⁽⁵⁾ Department of Geriatric Medicine, Graduate School of Medicine, University of Kobe, ⁽⁶⁾ Department of Biostatistics, School of Public Health, the University of Tokyo, ⁽⁷⁾ Department of Biostatistics, School of Public Health, the University of Tokyo) : Factors associated with progression of diabetic retinopathy in Japanese elderly patients with type 2 diabetes : Sub-analysis of the Japanese Elderly Diabetes Intervention Trial. *Geriatr Gerontol Int* 2012 ; 12 (Suppl.1) : 127-133.
- 14) Yamamoto T^{1,4)}, Iimuro S²⁾, Ohashi Y²⁾, Sone H³⁾, Yamashita H⁴⁾, Ito H⁵⁾, JEDIT study group ⁽¹⁾ Kanamecho-Yamamoto Clinic, ⁽²⁾ Department of Biostatistics, School of Public Health, Graduate School of Medicine, the University of Tokyo, ⁽³⁾ Department of Internal Medicine, University of Tsukuba Institute of Clinical Medicine, ⁽⁴⁾ Department of Ophthalmology and Visual Science, University of Yamagata, ⁽⁵⁾ Department of Diabetes Mellitus, Metabolism and Endocrinology, Tokyo Metropolitan Geriatric Hospital) : Prevalence and risk factors for diabetic maculopathy, and its relationship to diabetic retinopathy in elderly Japanese patients with type 2 diabetes mellitus. *Geriatr Gerontol Int* 2012 ; 12 (Suppl.1) : 134-140.
- 15) Yamamoto T^{1,2)}, Iimuro S³⁾, Ohashi Y³⁾, Sone H⁴⁾, Ito H⁵⁾, Yamashita H²⁾, JEDIT study group ⁽¹⁾ Kanamecho-Yamamoto Clinic, ⁽²⁾ Department of Ophthalmology and Visual Science, Faculty of Medicine, University of Yamagata, ⁽³⁾ Department of Biostatistics, School of Public Health, Graduate School of Medicine, the University of Tokyo, ⁽⁴⁾ Department of Internal Medicine, University of Tsukuba Institute of Clinical Medicine, ⁽⁵⁾ Department of Diabetes Mellitus, Metabolism and Endocrinology, Tokyo Metropolitan Geriatric Hospital) : Long-term risk factors for diabetic retinopathy and diabetic maculopathy in elderly Japanese patients with type 2 diabetes mellitus. *Geriatr Gerontol Int* 2012 ; 12 (Suppl.1) : 141-144.
- 16) Ouchi M, Oba K, Yamashita H, Okazaki M, Tsunoda M, Ohara M, Sekimizu K, Watanabe K, Suzuki

- T, Nakano H : Effects of sex and age on serum 1,5-anhydroglucitol in nondiabetic subject. *Exp Clin Endocrinol Diabetes* 2012 ; 120 (5) : 288-295.
- 17) Ouchi M, Suzuki T, Hashimoto M, Motoyama M, Ohara M, Suzuki K, Igari Y, Watanabe K, Nakano H, Oba K : Urinary N-acetyl- β -D-glucosaminidase levels are positively correlated with 2-hr plasma glucose levels during oral glucose tolerance testing in prediabetes. *J Clin Lab Anal* 2012 ; 26 (6) : 473-480.
- 18) Suzuki T, Okazaki M, Tsunoda M, Futami-Suda S, Suzuki K, Igari Y, Watanabe K, Kigawa Y¹⁾, Nakano H, Oba K (¹⁾ Hanno Geriatric Hospital) : Even low-dose Telmisartan decreases visceral fat in hypertensive patients with type 2 diabetes. 2012 ; 19 (4) : 408-415.
- 19) Suzuki K, Watanabe K, Suzuki T, Ouchi M, Futami-Suda S, Igari Y, Nakano H, Oba K : Sitagliptin improves vascular endothelial function in Japanese type 2 diabetes patients without cardiovascular disease. *J Diabetes Mellitus* 2012 ; 2 (3) : 338-345.
- 20) Suzuki K, Watanabe K, Futami-Suda S, Yano H, Motoyama M, Matsumura N, Igari Y, Suzuki T, Nakano H, Oba K : The effects of postprandial glucose and insulin levels on postprandial endothelial function in subjects with normal glucose tolerance. *Cardiovascular Diabetology* 2012 ; 11 : 98.
- 21) Sekimizu K, Suzuki T, Igari Y, Okazaki M, Hashimoto M, Suzuki K, Ouchi M, Watanabe K, Nakano H, Oba K : Correlation between asymptomatic leukocyturia and urinary N-acetyl- β -D-glucosaminidase in women. *Renal Failure* 2012 ; 34 (9) : 1079-1083.
- 22) Watanabe M^{1,5)}, Morimoto K¹⁾, Houten S²⁾, Kaneko-Iwasaki N¹⁾, Sugizaki T¹⁾, Horai Y¹⁾, Mataka C³⁾, Sato H⁴⁾, Murahashi ¹⁾, Arita E¹⁾, Schoonjans K³⁾, Suzuki T, Itoh H¹⁾, Auwerx J³⁾ (¹⁾ Department of Internal Medicine, School of Medicine, Keio University, ²⁾ Laboratory Genetic Metabolic Disease, academic Medical Center, ³⁾ Ecole Polytechnique Federale de Lausanne, ⁴⁾ Department of Bioscience, Ehime University Graduate school of Medicine, ⁵⁾ Graduate School of Media and Governance, Keio University) : Bile acid binding resin improves metabolic control through the induction of energy expenditure. *PLOS One* 2012 ; 7 (6) : e38286.
- 23) Suzuki T, Hashimoto M, Futami-Suda S, Igari Y, Watanabe K, Nakano H, Watanabe M¹⁾, Auwerx J²⁾, Oba K (¹⁾ Department of Internal Medicine, School of Medicine, Keio University, ²⁾ Ecole Polytechnique Fédérale de Lausanne, Lausanne) : The effect of colestimide on visceral fat mass and cytokine levels in patients with metabolic syndrome. *J Hypo Hyperglycemia* 2012 ; 1 : 1.
- 24) Yoshimura A^{1,2)}, Kosaihiira S^{2,3)}, Morimoto T²⁾, Kim C^{3,4)}, Tsueshita T^{3,4)}, Adachi K^{1,5)}, Aso R^{1,3)}, Shimura T^{1,3)}, Nakano H^{6,7)}, Gemma A²⁾ (¹⁾ Academic Quality and Development Office, ²⁾ Division of Pulmonary Medicine, Infectious Diseases and Oncology, Department of Internal Medicine, ³⁾ Working Committee of Clinical Simulation Laboratory, ⁴⁾ Department of Anesthesiology, ⁵⁾ Department of Neurosurgery, ⁶⁾ Training Center for Medical Interns, ⁷⁾ Division of Geriatrics, Department of Internal Medicine) : An effective training program for chest tube drainage for medical interns in a clinical simulation laboratory. *J Nippon Med Sch* 2012 ; 79 (6) : 403-408.
- 25) Watanabe K, Suzuki T, Ouchi M, Suzuki K, Ohara M, Hashimoto M, Yamashita H, Okazaki M, Ishii K, Oba K : Relationship between postprandial glucose level and carotid artery stiffness in patients without diabetes and cardiovascular disease. *BMC Cardiovascular Disorders* 2013 ; 13 : 11.

(2) 総説 :

- 1) 鈴木達也, 橋本雅夫, 大庭建三 : 高齢者の臨床栄養のポイントとコツーいかにQOLを保つか. *Medical Practice* 2012 ; 29 (9) : 1523-1528.
- 2) 渡邊健太郎, 鈴木達也, 石井一史, 大庭建三 : 高齢者糖尿病の経口薬療法. *内分泌・糖尿病・代謝内科* 2012 ;

35 (1) : 38-45.

- 3) 河盛隆造¹⁾, 大庭建三, 小川佳宏²⁾, 小田原雅人³⁾, 田中亮太⁴⁾, 綿田裕孝⁵⁾ (1) 順天堂大学スポーツロジセンター, 2) 東京医科歯科大学糖尿病・内分泌・代謝内科, 3) 東京医科大学内科学第三講座, 4) 順天堂大学脳神経内科, 5) 順天堂大学代謝内分泌学講座) : 高齢者糖尿病の治療戦略 : Diabetes and cognitive dysfunction. Therapeutic Research 2012 ; 33 (4) : 451-455.
 - 4) 松村典昭 : 臨床に役立つ Q & A : RS3PE 症候群について教えてください. Geriatr Med 2012 ; 50 (6) : 751-752.
 - 5) 大庭建三, 大内基司, 中野博司 : 高齢社会を迎えての糖尿病診療のあり方. Mebio 2012 ; 29 (12) : 8-16.
 - 6) 大庭建三 : 第 54 回日本老年医学会学術集会. 血圧 2012 ; 19 (10) : 958-959.
 - 7) 大庭建三 : 認知症診断へのアプローチ (疫学的側面も含む). 日医大医学会誌 2012 ; 8 (4) : 270-273.
 - 8) 大庭建三 : 老年内科標榜をめざして : 高齢者における糖尿病・メタボリックシンドローム管理の問題点. 日本医事新報 2012 ; (4609) : 42-46.
 - 9) 大庭建三 : 高齢者糖尿病管理のあり方. 日老医誌 2012 ; 49 (5) : 561-568.
- (3) 研究報告書 :
- 1) 大内尉義¹⁾, 小島太郎¹⁾, 大橋靖雄²⁾, J-CHEARS study グループ (1) 東京大学加齢医学講座, 2) 東京大学疫学予防保健学) : 高齢者高血圧コホート研究 (J-CHEARS Study). 公益信託日本動脈硬化予防研究基金平成 23 年度研究報告集 2012 ; 74-75.
 - 1) 大庭建三 : 健康長寿のための食事・栄養と生活習慣. Maturity 2013 ; (96) : 4-9.

学会発表

[追加分]

追加分一般講演 :

- 1) 小島太郎¹⁾, 大内尉義¹⁾, 大橋靖雄²⁾, 桑島 巖³⁾, 島田和幸⁴⁾, 宗像正徳⁵⁾, 山科 章⁶⁾, J-CHEARS 研究グループ (1) 東京大学大学院 医学系研究科 加齢医学講座, 2) 東京大学大学院 医学系研究科 疫学生物統計学, 3) 東京都健康長寿医療センター, 4) 自治医科大学 循環器内科, 5) 東北労災病院 予防医療センター, 6) 東京医科大学 第二内科) : 脈波伝搬速度の経時的変化は外来血圧・家庭血圧の経時的な管理状況と関連する. 第 34 回日本高血圧学会学術集会 (宇都宮), 2011. 10.
- 2) 青山純也, 渡邊健太郎, 大内基司, 鈴木一成, 橋本雅夫, 山下英俊, 澤井啓介, 石井一史, 鈴木達也, 大庭建三 : 2 型糖尿病における糖尿病性腎症の心血管病発症危険度に対する加齢の影響の検討. 第 47 回日本成人病 (生活習慣病) 学会 (東京), 2012. 1.
- 3) 三枝太郎 : 左大腿骨転子部骨折術後のリハビリテーション期間中に突然意識障害を来した 78 歳男性. 第 19 回未病・エニグマ症例検討会 (東京), 2012. 9.

(1) 特別講演 :

- 1) 大庭建三 : 高齢者糖尿病管理のあり方. 第 54 回日本老年医学会学術集会 (東京), 2012. 6.

(2) シンポジウム :

- 1) 大庭建三 : 認知症診断へのアプローチ (疫学的側面を含む) (認知症の診断治療の Update). 日本医科大学医学会第 22 回公開シンポジウム (東京), 2012. 6.
- 2) 木川好章 : 重度認知症患者の身体合併症における現状 (認知症の地域連携). 第 54 回日本老年医学会学術集会 (東京), 2012. 6.
- 3) 橋本雅夫 : DUAL SCAN を用いた内臓脂肪の検討. 第 15 回 Geriatric Medical Frontier Forum (東京), 2012. 10.
- 4) 中野博司 : 高齢者の栄養の考え方 (高齢者の栄養管理). 第 16 回日本病態栄養学会年次学術集会 (京都), 2013.

1.

(3) 一般講演：

- 1) 渡邊健太郎, 小原 信, 大内基司, 関水憲一, 橋本雅夫, 石井一史, 澤井啓介, 鈴木達也, 中野博司, 大庭建三：2型糖尿病患者における動脈石灰化と酸化ストレスの関連. 第109回日本内科学会講演会(京都), 2012. 4.
- 2) 小原 信, 渡邊健太郎, 橋本雅夫, 関水憲一, 鈴木一成, 大内基司, 松村典昭, 猪狩吉雅, 鈴木達也, 中野博司, 大庭建三：糖尿病患者での血糖コントロール改善と酸化ストレス改善効果の関連：血糖日内変動およびd-ROMsを用いた検討. 第55回日本糖尿病学会年次学術集会(横浜), 2012. 4.
- 3) 澤井啓介, 鈴木一成, 松村典昭, 中野博司, 大庭建三：高齢者の尿蛋白指標の臨床的意義：心血管障害合併の面からの検討. 第54回日本老年医学会学術集会(東京), 2012. 6.
- 4) 吉松寛臣, 猪狩吉雅, 関水憲一, 中野博司, 大庭建三：高齢者の尿蛋白指標の臨床的意義：年代別の相互関連の面からの検討. 第54回日本老年医学会学術集会(東京), 2012. 6.
- 5) 山下英俊, 渡邊健太郎, 鈴木達也, 中野博司, 大庭建三：年齢群別の血糖コントロールおよび糖尿病治療薬と低血糖出現の関連：血糖日内変動を用いた検討. 第54回日本老年医学会学術集会, 2012. 6.
- 6) 石井一史, 松村典昭, 猪狩吉雅, 中野博司, 大庭建三：高齢者糖尿病の心拍変動の臨床的有用性に関する検討. 第54回日本老年医学会学術集会(東京), 2012. 6.
- 7) 岡崎 優, 大内基司, 鈴木一成, 中野博司, 大庭建三：高齢者ではPWVと尿蛋白の関連性は低下する. 第54回日本老年医学会学術集会, 2012. 6.
- 8) 矢野宏行, 松村典昭, 大内基司, 中野博司, 大庭建三：高齢者における末梢血NO_xの臨床的意義. 第54回日本老年医学会学術集会, 2012. 6.
- 9) 本山正幸, 松村典昭, 猪狩吉雅, 中野博司, 大庭建三：高齢者の食事内容：栄養摂取量の変動性の面からの検討. 第54回日本老年医学会学術集会(東京), 2012. 6.
- 10) 本山正幸, 渡邊健太郎, 二見章子, 澤井啓介, 鈴木達也, 中野博司, 大庭建三：高齢者でのLDLコレステロール/HDLコレステロール比と動脈硬化の関連性：総頸動脈IMTを用いた検討. 第54回日本老年医学会学術集会(東京), 2012. 6.
- 11) 大西哲郎, 渡邊健太郎, 大内基司, 小原 信, 鈴木達也, 中野博司, 大庭建三：ハイリスク高齢者における動脈硬化進展と背景因子の関連：総頸動脈内中膜複合体厚の経年変化を用いた検討. 第54回日本老年医学会学術集会(東京), 2012. 6.
- 12) 岡崎 優, 鈴木達也, 矢野宏行, 二見章子, 猪狩吉雅, 中野博司, 大庭建三, 水野重芳¹⁾, 鯉淵 仁¹⁾, 木川好章¹⁾ (1) 飯能老年病センター)：重度高齢認知症患者におけるBMI (Body Mass Index) 別のその他の背景および死因についての検討. 第54回日本老年医学会学術集会(東京), 2012. 6.
- 13) 矢野宏行, 渡邊健太郎, 関水憲一, 岡崎 優, 鈴木達也, 中野博司, 大庭建三：LDL-コレステロール/HDLコレステロール比と動脈硬化および背景因子の関連：年齢群別の検討. 第54回日本老年医学会学術集会(東京), 2012. 6.
- 14) 三枝太郎, 石井一史, 矢野宏之, 鈴木一成, 大内基司, 松村典昭, 鈴木達也, 中野博司, 大庭建三：PMR様症状を呈したANCA関連血管炎と考えられた1例. 第80回日本医科大学医学部学術集会(東京), 2012. 9.
- 15) 青山純也, 渡邊健太郎, 大内基司, 鈴木一成, 橋本雅夫, 山下英俊, 澤井啓介, 石井一史, 鈴木達也, 大庭建三：2型糖尿病における糖尿病性腎症の心血管病発症危険度に対する加齢の影響の検討. 第80回日本医科大学医学部学術集会(東京), 2012. 9.
- 16) 角田 隆¹⁾, 竹内恵美子¹⁾, 大庭建三, 山口文雄¹⁾, 久保田智樹¹⁾, 腹子あきこ¹⁾, 長谷川幸子¹⁾, 古池和子¹⁾, 広村 健¹⁾, 上嶋 学¹⁾, 坂本篤裕¹⁾ (1) 付属病院医療安全管理部転倒転落防止対策ワーキンググループ)：付属病院における転倒, 転落事例の分析. 第80回日本医科大学医学部学術集会(東京), 2012. 9.

- 17) 関水憲一, 鈴木達也, 猪狩吉雅, 岡崎 優, 橋本雅夫, 鈴木一成, 大内基司, 渡邊健太郎, 中野博司, 大庭建三: 女性における無症候性白血球尿と尿中 NAG の関連. 第 80 回日本医科大学医学会総会 (東京), 2012. 9.
- 18) 三枝太郎, 本山正幸, 小原 信, 鈴木一成, 関水憲一, 渡邊健太郎, 猪狩吉雅, 鈴木達也, 中野博司, 大庭建三: 高齢者原発性副甲状腺機能亢進症の 1 例. 第 56 回日本老年医学会関東甲信越地方会 (東京), 2012. 9.
- 19) 橋本雅夫, 小高健治郎¹⁾, 鈴木一成, 関水憲一, 渡邊健太郎, 猪狩吉雅, 鈴木達也, 中野博司, 大庭建三 (¹⁾ 研修医): 食欲不振, 不明熱で入院し副腎癌と診断した高齢者の 1 例. 第 56 回日本老年医学会関東甲信越地方会, 2012. 9.
- 20) 青山純也, 石井一史, 岡崎 優, 関水憲一, 猪狩吉雅, 鈴木達也, 中野博司, 大庭建三: 六君子湯の投与後に食事摂取量が増加した超高齢者の 1 例. 第 56 回日本老年医学会関東甲信越地方会 (東京), 2012. 9.
- 21) 三枝太郎, 石井一史, 矢野宏行, 鈴木一成, 大内基司, 松村典昭, 鈴木達也, 中野博司, 大庭建三: PMR 様症状を呈した ANCA 関連血管炎と考えられた 1 例. 第 56 回日本老年医学会関東甲信越地方会 (東京), 2012. 9.
- 22) 橋本雅夫, 渡邊健太郎, 鈴木達也, 中野博司, 大庭建三: 2 型糖尿病患者の α -グルコシダーゼ阻害薬と低血糖出現の関連: 血糖日内変動を用いた年齢群別の検討. 第 34 回日本臨床栄養学会総会 (東京), 2012. 10.
- 23) 渡邊健太郎, 小原 信, 鈴木達也, 中野博司, 大庭建三: 壮年・高齢糖尿病患者での血糖コントロール改善効果と酸化ストレス改善効果の関連: 血清 d-ROMs を用いた検討. 第 34 回日本臨床栄養学会総会 (東京), 2012. 10.
- 24) Suzuki K, Watanabe K, Hashimoto M, Ohara M, Suzuki T, Nakano H, Oba K: Relationship between carbohydrate content of diet and attenuation of postprandial vascular endothelial function. 9th IDF-WPR Congress & 4th AASD Scientific Meeting (Kyoto), 2012. 12.
- 25) Ohara M, Watanabe K, Suzuki K, Ouchi M, Suzuki T, Nakano H, Oba K: Improvement in the fasting, but not the postprandial, glucose level is strongly associated with oxidative stress reduction in type 2 diabetes patients. 9th IDF-WPR Congress & 4th AASD Scientific Meeting (Kyoto), 2012. 12.
- 26) Watanabe K, Suzuki T, Nakano H, Oba K: Alfa glucosidase inhibitor reduces the risk of hypoglycemia in elderly Japanese type 2 diabetes patients. 9th IDF-WPR Congress & 4th AASD Scientific Meeting (Kyoto), 2012. 12.
- 27) 矢野宏行, 小原 信, 三枝太郎, 関水憲一, 大内基司, 松村典昭, 猪狩吉雅, 渡邊健太郎, 鈴木達也, 中野博司, 大庭建三: C 型肝炎に対する IFN 後発症の 1 型糖尿病に CSII を施行した 1 例. 第 50 回日本糖尿病学会関東甲信越地方会 (横浜), 2013. 1.
- 28) 石井一史, 小原 信, 青山純也, 橋本雅夫, 鈴木一成, 猪狩吉雅, 渡邊健太郎, 鈴木達也, 中野博司, 大庭建三: DPPIV 阻害薬・インスリン併用療法で無自覚性低血糖を認めた HCV 陽性 2 型糖尿病の 1 例. 第 50 回日本糖尿病学会関東甲信越地方会 (横浜), 2013. 1.
- 29) 橋本雅夫, 青山純也, 鈴木一成, 関水憲一, 松村典昭, 猪狩吉雅, 鈴木達也, 中野博司, 大庭建三: 肺炎で入院し, 腹直筋腫を合併した高齢者の 1 例. 第 57 回日本老年医学会関東甲信越地方会 (東京), 2013. 3.

[多摩永山病院内科, 循環器内科]

研究概要

当科は循環器専攻の内科医により構成され, 虚血性心疾患, 不整脈などの循環器疾患を中心に診療を行っているが, 多摩地区の中隔病院としての機能を維持するため内科全般を診療対象とし, 専門領域の他, 高血圧, 糖尿病, 脂質異常症, メタボリックシンドローム, 慢性腎臓病 (CKD) などを対象に実地臨床に即した研究を行っている. 1) 急性冠症候群の急性期治療および予後規定因子に関する研究 2) 冠攣縮性狭心症の病態と予後既定因子に関する研究 3) 心室細動を伴う冠攣縮性狭心症例に対する植え込み型徐細動器の適応に関する研究 4) 慢性心不全患者におけるサイト

カインと予後に関する研究 5) 日本心電学会主催の心房細動症例の登録研究 (J-RHYTHM Registry) 6) 不整脈診断のための臨床電気生理とカテーテル治療 7) 不整脈治療に必要な臨床心臓解剖学の研究 8) 心房細動、動脈硬化の発症に関わる炎症に関する研究 9) 食塩感受性高血圧に対する薬物治療、食塩摂取量に関する研究 10) インクレチン製剤の血糖非依存性効果に関する研究 11) 日本循環器学会認定の多施設共同研究への参加 12) 多摩地区、南多摩多摩地区における多施設共同研究への参加 13) 高齢者医療に関する共同研究以上を中心に研究を行い、日本循環器学会、日本心臓病学会、日本心電学会、日本成人病(生活習慣病)学会、日本高血圧学会、日本糖尿病学会、日本老年医学会、及びその他の関連学会へ研究成果を報告するとともに、内科総合診療部門としての稀な内科系疾患の症例報告も積極的に行っている。

研究業績

論文

[追加分]

追加分原著：

- 1) Miyachi H, Yamamoto A¹⁾, Otsuka T, Yoshikawa M, Kodani E, Endoh Y, Nakagomi A, Kusama Y, Atarashi H, Mizuno K²⁾ (1) Department of Radiology, Nippon Medical School Musashikosugi Hosupital, (2) Department of Internal Medicine, Nippon Medical School) : Relationship between Left Ventricular Dyssynchrony and Systolic Dysfunction is Independent of Impaired Left Ventricular Myocardial Perfusion in Heart Failure : Assessment with 99mTc-Sestamibi Gated Myocardial Scintigraphy. *Int J Cardiol* 2012 ; 167 (3) : 930-935.
- 2) 吉田悠鳥¹⁾, 香川正幸²⁾, 後藤真二³⁾, 鈴木 哲¹⁾, 栗田 明⁴⁾, 小谷英太郎, 新 博次, 高瀬凡平⁵⁾, 松井岳巳¹⁾ (1) 首都大学東京大学院 システムデザイン研究科, (2) 富士通 (株), (3) (株) タウ技研, (4) 福音会, (5) 防衛医科大学) : マイクロ波レーダーを用いた非接触見守り支援システムの開発および後期高齢者への臨床応用 体動を考慮した呼吸・心拍信号のリアルタイム処理. *心臓* 2011 ; 43 (suppl 1) : 4-10.

(1) 原著：

- 1) 小谷英太郎, 栗屋 透¹⁾, 大塚俊昭²⁾, 草間芳樹, 新 博次 (1) たま循環器・内科, (2) 日本医科大学衛生学・公衆衛生学講座) : 半定量ソルトペーパー法を用いた随時尿中食塩濃度測定による一日食塩摂取量の推定 : TAMA SALT study からの検討. *日循予防誌* 2012 ; 47 (2) : 148-157.
- 2) 栗田 明¹⁾, 品川直介²⁾, 小谷英太郎, 岩原信一郎³⁾, 高瀬凡平⁴⁾, 草間芳樹, 新 博次 (1) 社会福祉法人特別養護老人ホーム福音会医務室, (2) 品川クリニック, (3) 南町田クリニック, (4) 防衛医科大学校) : 特別養護老人ホームにおける看取りケアの経緯と医師の役割. *日老医誌* 2012 ; 49 (3) : 336-343.
- 3) Nakagomi A, Seino Y¹⁾, Kohashi K, Kosugi M, Endoh Y, Kusama Y, Atarashi H, Mizuno K²⁾ (1) Department of Cardiology, Chiba-Hokusoh Hospital, (2) Department of Internal Medicine (Division of Cardiology, Hepatology, Geriatrics, and Integrated Medicine)) : Effects of statin therapy on the production of monocyte pro-inflammatory cytokines, cardiac function, and long-term prognosis in chronic heart failure patients with dyslipidemia. *Circ J* 2012 ; 76 (9) : 2130-2138.
- 4) Ozaki S¹⁾, Atarashi K¹⁾, Minami M¹⁾, Kato K¹⁾, Kato R¹⁾, Ariake M¹⁾, Noguchi A¹⁾, Sudo M¹⁾, Tohma M¹⁾, Shibosawa T¹⁾, Atarashi H (1) Tohma Health Evaluation and Promotion Center) : Association between serum uric acid and change in estimated glomerular filtration rate after 10 years. *Ningen Dock* 2012 ; 27 (3) : 554-560.
- 5) Nakagomi A, Saiki Y, Kosugi M, Kohashi K, Yoshikawa M, Yamane Y, Kodani E, Kusama Y, Atarashi H, Mizuno K¹⁾ (1) Department of internal Medicine (Division of Cardiology, Hepatology, Geriatrics, and Inte-

grated Medicine)) : Effect of insulin resistance associated with compensatory hyperinsulinemia on the long-term prognosis in patients with vasospastic angina. *Int J Cardiol* 2012 ; 167 (5) : 2222-2227.

- 6) 宮崎 聡¹⁾, 井川 修, 大田原顕²⁾, 水田栄之助²⁾, 浜田紀宏³⁾, 山本康孝⁴⁾, 野坂美仁⁵⁾, 尾崎忠弘⁶⁾, 岸田専蔵⁶⁾, 荻野和秀⁷⁾, 加藤雅彦⁸⁾, 山本一博⁸⁾, 久留一郎⁹⁾ (1) 十字会野島病院 内科, 2) 山陰労災病院 循環器科, 3) 鳥取大学 地域医療学, 4) 聖隷富士病院 内科, 5) 野坂医院, 6) 信生病院, 7) 鳥取大学 卒後臨床研修センター, 8) 鳥取大学 病態情報内科学, 9) 鳥取大学 再生医療学分野) : アゼルニジピンが高血圧患者の尿酸代謝に及ぼす効果. *血圧* 2012 ; 19 (10) : 930-934.
- 7) 新 博次 : 高齢者における心房細動の管理. *日老医誌* 2012 ; 49 (5) : 573-575.
- 8) 栗田 明¹⁾, 高瀬凡平²⁾, 小谷英太郎, 岡田 薫, 草間芳樹, 新 博次, 岩原信一郎³⁾, 品川直介³⁾ (1) 社会福祉法人福音会医務室, 2) 防衛医科大学校集中治療部 医療工学部門, 3) 南町田病院, 4) 品川クリニック) : 後期高齢者の自律神経や免疫能に及ぼす精神的説法の有用性. *Ther Res* 2012 ; 33 (11) : 1643-1646.
- 9) 小谷英太郎, 草間芳樹, 新 博次 : 脂質異常症, 特に慢性腎臓病合併例に対するロスバスタチンによる non HDL-C 低下効果と脂質管理目標値達成率 : 動脈硬化性疾患予防ガイドライン 2012 年版の管理区分に基づく検討 Achievement Rates of Serum Lipid Management Goals by Treatment with Rosuvastatin in Patients with Dyslipidemia and Chronic Kidney Disease. *Ther Res* 2013 ; 34 (1) : 105-114.
- 10) 井川 修 : 心電図マイルストーン : QT 短縮症候群患者の長期的な経過観察結果について. *心電図* 2012 ; 32 (2) : 160.

(2) 総説 :

- 1) 新 博次 : わが国の心原性脳梗塞予防の現状 : J-RHYTHM Registry からの報告. *成人病と生活習慣病* 2012 ; 42 (5) : 508-512.
- 2) 小谷英太郎, 新 博次 : 周術期合併症発症のリスク評価と適切な対策 : 不整脈. *ICU と CCU* 2012 ; 36 (7) : 477-486.
- 3) 草間芳樹 : 心電図からみた非虚血性 ST 変化と無症候性心筋虚血. *月刊循環器* 2012 ; 12 (6) : 25-32.
- 4) Kodani E, Atarashi H : Prevalence of atrial fibrillation in Asia and the world. *J Arrhythmia in press* 2012 ; 28 (6) : 330-337.
- 5) 小谷英太郎, 新 博次 : 高齢者における心房細動の管理 : 心房細動管理におけるワルファリン療法の現状 : J-RHYTHM Registry から. *Geriat Med* 2012 ; 50 (10) : 1153-1158.
- 6) 新 博次 : 高齢者における心房細動の管理 : 序文. *Geriat Med* 2012 ; 50 (10) : 1121-1122.
- 7) 新 博次 : 心房細動治療薬の選び方と使い方. *内科* 2012 ; 110 (6) : 988.
- 8) 新 博次 : そうだったのか! 臨床に役立つ不整脈の基礎. *週刊 医学界新聞* 2012 ; 3006 : 5.
- 9) 新 博次 : 第 Xa 因子阻害薬 (リバーロキサパン, 開発段階の薬剤). *日本臨床* 2013 ; 71 (1) : 119-125.
- 10) 新 博次 : 話題のくすり リバーロキサパン. *日病薬誌* 2013 ; 43 (3) : 307-310.
- 11) 井川 修 : 不整脈の病理. *循環器内科* 2012 ; 72 (6) : 661-670.

(3) 症例報告 :

- 1) 西城由之, 小谷英太郎, 小橋啓一, 小杉宗範, 加藤活人, 進藤朝子, 渋井俊之, 吉川雅智, 中込明裕, 草間芳樹, 新 博次 : 発作時の緊急冠動脈造影にて一過性の側副血行路を認めた冠攣縮性狭心症の 1 例. *心臓* 2012 ; 44 (10) : 1296-1300.
- 2) 岡崎怜子, 井川 修, 小谷英太郎, 川口直美, 遠藤康実, 中込明裕, 草間芳樹, 新 博次, 中島正之¹⁾, 渋谷純²⁾ (1) 公立八鹿病院検査科, 2) 公立八鹿病院循環器内科) : 構造的変化に先行して電気生理学的変化を認めた房室中隔腫瘍形成転移性心臓腫瘍の 1 例. *心臓* 2012 ; 44 (10) : 1290-1295.
- 3) 森澤太郎, 小谷英太郎, 神谷仁孝, 宮地秀樹, 渋井俊之¹⁾, 吉川雅智, 中込明裕, 草間芳樹, 新 博次, 梅澤まり子¹⁾, 津久井拓¹⁾ (1) 日本医科大学多摩永山病院 消化器科) : 潰瘍性大腸炎に合併した静脈血栓症に対し,

抗凝固療法, 血栓溶解療法にて合併症なく治療しえた2例. 心臓 2013; 45 (1): 79-86.

- 4) 遠藤康実, 遠藤育子, 川口直美, 草間芳樹, 新 博次, 畝本恭子¹⁾, 二宮宣文¹⁾ (多摩永山病院 救命救急センター): 失神発作を反復したダントロレン服用中の高齢者の1例. 心電図 2013; 33 (sup 1): 27.

著書

[追加分]

追加分:

- 1) 井川 修: [分担] 3D-mapping と解剖. 3-D mapping: アブレーションにどう活用するか (山根 禎一編集), 2012; pp32-48, メジカルビュー.
- 2) 井川 修: [分担] 心房細動治療に関わる心房・肺静脈の解剖. 心房細動治療の真髄 (小室一成監修・奥山裕司編), 2012; pp13-14, 中外医学社.
- 1) 新 博次: [分担] 心房細動症例の外来での薬物治療はどうする? : I群抗不整脈薬. あなたも名医! 新しい経口抗凝固薬, どう使う? 心房細動を診るジェネラリストのために (後藤信哉編), 2012; pp65-69, 日本医事新報社.
- 2) 草間芳樹: [分担] 運動負荷心電図. 今日の循環器疾患治療指針 (井上 博・許 俊鋭・檜垣 實男・代田浩之・筒井 裕之編集), 2013; pp120-124, 医学書院.
- 3) 草間芳樹: [分担] 不安定狭心症. CCU テキスト (田中 啓治・山本 剛 編集), 2012; pp122-125, (株) 文光堂.
- 4) 井川 修: [分担] 心室の解剖. カテーテルアブレーション実践テクニック (山根禎一, 冨田 浩 編集), 2012; pp22-34, メジカルビュー社.

学会発表

(1) 教育講演:

- 1) 新 博次: 高齢者の心房細動の管理. 日本老年医学会学術集会 (第54回) (東京), 2012. 6.
- 2) Igawa O: Useful Anatomical Information for Cardiologists. Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society (77th) (yokohama), 2013. 3.
- 3) 宮崎 聡¹⁾, 井川 修 (1) 十字会野島病院内科: 発作時所見より心室頻拍の持続様式が規定された1例. 日本不整脈学会学術集会 (第27回) (横浜), 2012. 7.
- 4) 井川 修: 心解剖からみた3D Mapping のピットフォール. 日本不整脈学会・学術委員会研修会・EP Summer Seminar (27回) (横浜), 2012. 7.
- 5) 井川 修: アブレーションに必要な心臓解剖. 日本不整脈学会・カテーテルアブレーション関連秋季大会2012 (山口県下関市), 2012. 11.
- 6) 井川 修: 3次元で理解する心臓構造. 日本心エコー図学会学術集会 (第23回) (大阪市), 2012. 4.
- 7) 井川 修, 岡崎怜子, 丹野和孝¹⁾, 新 博次 (1) 多摩永山病院病理部: 循環器診療に役立つ心臓解剖. 日本不整脈学会学術集会 (第27回) (横浜市), 2012. 7.
- 8) 井川 修: 心臓解剖. 日本小児循環器学会・第4回小児心電図教育セミナー (東京都), 2012. 11.

(2) シンポジウム:

- 1) 井川 修: 不整脈を理解するために役立つ臨床心臓構造学. 日本心臓病学会学術集会 (第60回) (金沢), 2012. 9.
- 2) Igawa O, Atarasi H: Useful anatomical information for atrial flutter L. Asia Pacific Heart Rhythm Society Scientific Session (APHRs 2012 5th) (Taipei, Taiwan), 2012. 10.
- 3) 小谷英太郎, 新 博次¹⁾, 井上 博¹⁾, 奥村 謙¹⁾, 山下武志¹⁾ (1) J-RHYTHM Registry Investigators: 心房細

動に対するワルファリン療法における日本人の至適 INR : J-RHYTHM Registry からの報告. 日本心電学会学術集会 (第 29 回) (幕張), 2012. 10.

- 4) Igawa O, Atarashi H : Substrate of persistent atrial fibrillation : “anything new ?”. 日本不整脈学会学術集会・JHRS-EHRA Joint Sessions (第 27 回) dai (横浜), 2012. 7.

(3) パネルディスカッション :

- 1) 井川 修 : 心室性不整脈の起源を解剖する. 日本不整脈学会学術大会 (第 27 回) (横浜), 2012. 7.

(4) セミナー :

- 1) Igawa O : Marshall 静脈とその周辺構造の特殊性について. Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society (77th) (yokohama), 2013. 3.
- 2) 井川 修, 新 博次 : CRT 植込みに役立つ臨床心臓構造学. 日本不整脈学会・第 5 回植込み型デバイス関連冬季大会 (東京都), 2013. 2.

(5) 一般講演 :

- 1) 大野 敦¹⁾, 植木彬夫¹⁾, 小谷英太郎¹⁾, 住友秀孝¹⁾, 関口芳弘¹⁾, 原 義人¹⁾, 宮川高一¹⁾ (¹⁾ 糖尿病治療多摩懇話会) : 糖尿病患者の食後高血糖管理に関するアンケート調査 (第 1 報) : 血糖測定時間とその評価基準. 日本内科学会講演会 (第 109 回) (京都), 2012. 4.
- 2) 大野 敦¹⁾, 植木彬夫¹⁾, 小谷英太郎¹⁾, 住友秀孝¹⁾, 関口芳弘¹⁾, 原 義人¹⁾, 宮川高一¹⁾ (¹⁾ 糖尿病治療多摩懇話会) : 糖尿病患者の食後高血糖管理に関するアンケート調査 (第 2 報) : 血糖値・IRI 値別の経口糖尿病薬の選択. 日本内科学会講演会 (第 109 回) (京都), 2012. 4.
- 3) 栗田 明¹⁾, 品川直介²⁾, 小谷英太郎, 岩原信一郎³⁾, 高瀬凡平⁴⁾, 草間芳樹, 新 博次 (¹⁾ 社会福祉法人福音会 医務室, ²⁾ 品川クリニック, ³⁾ 南町田病院, ⁴⁾ 防衛医科大学校) : 特別養護老人ホームにおける看取りケアなどの現況 (第 2 報). 日本内科学会講演会 (第 109 回) (京都), 2012. 4.
- 4) Igawa O, Adachi M¹⁾, Okazaki R, Kawaguchi N, Kodani E, Kusama Y, Atarashi H, Mizuno K (¹⁾ Tottori University) : The rare structure in the left atrium, “Myocardial bridge”. Heart Rhythm 2012, the Heart Rhythm Society 's 33rd Annual Scientific Sessions (Boston, USA), 2012. 5.
- 5) 西城由之, 秋谷麻衣, 原千鶴子, 小橋啓一, 森澤太一郎, 小杉宗範, 吉川雅智, 小谷英太郎, 中込明裕, 草間芳樹 : 多量の血栓を有する右冠動脈の完全閉塞に対し Lacross NSE による拡張が奏功した急性心筋梗塞例. 日本心血管インターベンション治療学会関東甲信越地方会 (第 40 回) (東京), 2012. 5.
- 6) 加藤活人¹⁾, 大塚俊昭¹⁾, 遠藤宗臣²⁾, 今 陽一²⁾, 小谷英太郎, 川田智之¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学大学院医学研究科 環境医学分野, ²⁾ 富士重工業健康保険組合総合太田病院総合健診部) : 健診受診者における 75gOGTT 結果を用いた 5 年後の耐糖能悪化リスク予測式の作成. 日本糖尿病学会年次学術集会 (第 55 回) (横浜), 2012. 5.
- 7) 西城由之, 秋谷麻衣, 原千鶴子, 小橋啓一, 森澤太一郎, 小杉宗範, 吉川雅智, 小谷英太郎, 中込明裕, 草間芳樹 : 多量の血栓を有する右冠動脈の完全閉塞に対し Lacross NSE による拡張が奏功した急性心筋梗塞例. 多摩地区虚血性心疾患研究会 (第 36 回) (東京), 2012. 5.
- 8) 栗田 明¹⁾, 高瀬凡平²⁾, 小谷英太郎, 岩原信一郎³⁾, 草間芳樹, 新 博次 (¹⁾ 社会福祉法人福音会, ²⁾ 防衛医科大学校救急部, ³⁾ 南町田病院) : 超高齢者の健康診断データと心拍変動指標. 埼玉不整脈ペーシング研究会 (第 40 回) (埼玉), 2012. 6.
- 9) 大塚俊昭¹⁾, 加藤活人¹⁾, 遠藤宗臣²⁾, 今 陽一²⁾, 小谷英太郎, 川田智之¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学衛生学・公衆衛生学講座, ²⁾ 富士重工業健康保険組合総合太田病院総合健診部) : 健診受診者における 75 グラム糖負荷試験を用いた耐糖能悪化リスク予測チャート作成の試み. 日本循環器病予防学会・日本循環器管理研究協議会総会 (第 48 回) (東京), 2012. 6.
- 10) 高仲雅子^{1,2)}, 小林徳行^{1,3)}, 高山喜光^{1,4)}, 稲本絵里¹⁾, 小谷英太郎 (¹⁾ 日本医科大学多摩永山病院緩和ケアチーム, ²⁾ 看護部, ³⁾ 麻酔科, ⁴⁾ 薬剤部) : 臨床心理士参入による新体制チームの現状. 日本緩和医療学会学術集会

(第17回)(神戸), 2012. 6.

- 11) 栗田 明¹⁾, 小谷英太郎, 岩原信一郎²⁾, 高瀬凡平³⁾, 品川直介⁴⁾, 草間芳樹, 新 博次 (¹⁾ 社会福祉法人福音会医務室, ²⁾ 南町田病院, ³⁾ 防衛医科大学校, ⁴⁾ 品川クリニック): 精神的説法は認知症を有する後期高齢者の免疫能や心臓の自律神経能に有効か?. 日本老年医学会学術集会 (第54回)(東京), 2012. 6.
- 12) 小谷英太郎, 草間芳樹, 新 博次: 心房細動患者における後期高齢者の特徴. 日本老年医学会学術集会 (第54回)(東京), 2012. 6.
- 13) 遠藤育子, 遠藤康実, 岡崎怜子, 川口直美, 松本 真, 小谷英太郎, 中込明裕, 井川 修, 草間芳樹, 新 博次, 阿部正徳¹⁾, 久野将宗²⁾, 水野杏一³⁾ (¹⁾ 多摩永山病院小児科, ²⁾ 多摩永山病院救命救急センター, ³⁾ 内科学講座): 塩酸 pilscainide 中毒をきたした WPW 症候群患児の1例. 日本循環器学会関東甲信越地方会 (第224回)(東京), 2012. 6.
- 14) 岡崎怜子, 井川 修, 川口直美, 小谷英太郎, 遠藤康実, 井野 威, 草間芳樹, 新 博次, 堀江 格¹⁾, 淀川顕司¹⁾, 林 明聡¹⁾, 宮内靖史¹⁾, 加藤貴雄¹⁾, 水野杏一¹⁾, 鈴木文男²⁾, その他1名 (¹⁾ 日本医科大学付属病院内科学講座 (循環器・肝臓・老年・総合病態部門), ²⁾ 結核予防会複十字病院循環器科, ³⁾ 社会保険中央総合病院心臓病センター循環器科): Kent 東の正伝導において縦解離現象が観察された A 型 WPW 症候群の1例. 日本不整脈学会学術集会 (第27回)(横浜), 2012. 7.
- 15) 遠藤康実, 遠藤育子, 川口直美, 草間芳樹, 新 博次, 畝本恭子¹⁾, 二宮宣文¹⁾ (¹⁾ 多摩永山病院救命救急センター): 失神発作を繰り返した dantrolene 服用中の高齢者の1例. 失神研究会 (第3回)(東京), 2012. 7.
- 16) Kodani E¹⁾, Inoue H¹⁾, Atarashi H¹⁾, Okumura K¹⁾, Yamashita T¹⁾, Origasa H¹⁾ (¹⁾ J-RHYTHM Registry Investigators): Effectiveness of low intensity warfarin therapy in patients with atrial fibrillation : A multi-center nationwide registry in Japan, J-RHYTHM Registry. Tawara-Aschoff Symposium (8th)(Munche, Germany), 2012. 8.
- 17) 吉川雅智, 中込明裕, 金子純也¹⁾, 草間芳樹, 新 博次, 水野杏一²⁾ (¹⁾ 多摩永山病院救命救急センター, ²⁾ 付属病院循環器内科): 肺血栓塞栓症, 卵円孔開存により奇異性脳梗塞を発症した若年女性の1例. 日本内科学会関東地方会 (第590回)(東京), 2012. 9.
- 18) 中込明裕, 小橋啓一, 小杉宗範, 草間芳樹, 新 博次, 水野杏一¹⁾ (¹⁾ 第一内科): メタボリックシンドローム患者においてフェノフィブラートは単球上の MCP-1 産生を抑制し頸動脈硬化症の進展を遅らせる. 日本心臓病学会学術集会 (第60回)(金沢), 2012. 9.
- 19) 小橋啓一, 中込明裕, 西城由之, 小杉宗範, 遠藤育子, 草間芳樹, 新 博次, 水野杏一¹⁾ (¹⁾ 付属病院内科学第一講座): 慢性心不全患者において血清 EPA/AA 比は予後推定に有用である. 日本心臓病学会学術集会 (第60回)(金沢), 2012. 9.
- 20) 小杉宗範, 中込明裕, 野崎文華, 秋谷麻衣, 森澤太一郎, 西城由之, 小橋啓一, 吉川雅智, 小谷英太郎, 草間芳樹, 新 博次, 水野杏一¹⁾ (¹⁾ 付属病院内科学第一講座): 冠攣縮性狭心症における心機能低下の機序に関する検討. 日本心臓病学会学術集会 (第60回)(金沢), 2012. 9.
- 21) 森澤太一郎, 中込明裕, 小谷英太郎, 井川 修, 草間芳樹, 新 博次, 水野杏一¹⁾ (¹⁾ 内科学講座 (循環器・肝臓・老年・総合病態部門)): 心血管危険因子を有するが心疾患のない例での微小心筋傷害の検討. 日本心臓病学会学術集会 (第60回)(金沢), 2012. 9.
- 22) 小谷英太郎, 松本 真, 井川 修, 草間芳樹, 新 博次: 心房細動例に対するカルベジロールの心拍数調節効果の検討. 日本心臓病学会学術集会 (第60回)(金沢), 2012. 9.
- 23) 小野卓哉¹⁾, 板倉潮人²⁾, 八名和夫³⁾, 西部俊広³⁾, 佐藤 慶³⁾, 淀川顕司¹⁾, 本間 博¹⁾, 新 博次, 加藤貴雄¹⁾, 水野杏一¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学内科学講座 (循環器・肝臓・老年・総合病態部門), ²⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院内科, ³⁾ 法政大学理工学部応用情報工学科): QT 及び RR 間隔の日内変動と心疾患の関連. 日本心臓病学会学術集会 (第60回)(金沢), 2012. 9.

- 24) 小谷英太郎, 栗屋 透¹⁾, 大塚俊昭²⁾, 緒方憲一, 草間芳樹 (¹⁾ たま循環器科・内科, ²⁾ 日本医科大学衛生学・公衆衛生学) : 随時尿中食塩濃度測定によるアンギオテンシン II 受容体拮抗薬に対する利尿薬追加効果の推定 - TAMA SALT study からの報告 - . 日本高血圧学会総会 (第 35 回) (名古屋), 2012. 9.
- 25) 大塚俊昭¹⁾, 加藤活人¹⁾, 小谷英太郎, 雪吹周生²⁾, 清野精彦²⁾ (¹⁾ 衛生学・公衆衛生学, ²⁾ 千葉北総病院循環器センター) : 中年男性集団における高血圧発症予測因子としての血清シスタチン C と推算糸球体濾過量の比較. 日本高血圧学会総会 (第 35 回) (名古屋), 2012. 9.
- 26) 小橋啓一, 小谷英太郎, 草間芳樹, 新 博次, 田邊 潤¹⁾, 小鹿野道雄¹⁾, 水野杏一²⁾ (¹⁾ 静岡医療センター循環器内科, ²⁾ 日本医科大学内科学講座 (循環器・肝臓・老年・総合病態部門)) : 画像検査にて心筋障害の経過を観察し得た外傷性心筋挫傷の 1 例. 日本循環器学会関東甲信越地方会 (第 225 回) (東京), 2012. 9.
- 27) Atarashi H : Effectiveness of low intensity anticoagulation in Asia people. Asia Pacific Heart Rhythm Society Scientific Session (APHRs 2012 5th) (Taipei, Taiwan), 2012. 10.
- 28) 小谷英太郎, 新 博次¹⁾, 井上 博¹⁾, 奥村 謙¹⁾, 山下武志¹⁾ (¹⁾ J-RHYTHM Registry Investigators) : 心房細動例の抗凝固療法におけるプロコロームの併用率とワルファリン投与量 : J-RHYTHM Registry からの検討. 日本心電学会学術集会 (第 29 回) (幕張), 2012. 10.
- 29) Miura M¹⁾, Yamasaki M¹⁾, Takagi A²⁾, Miyauchi K³⁾, Tanaka H⁴⁾, Yoshikawa M, Miyachi H⁵⁾, Yamamoto T⁵⁾, Nagao K⁶⁾, Takayama M⁷⁾ (¹⁾ Tokyo CCU Network Scientific Committee Department of Cardiology, NTT Medical Center, ²⁾ Tokyo CCU Network Scientific Committee Tokyo Women's Medical University, ³⁾ Tokyo CCU Network Scientific Committee Juntendo University, ⁴⁾ Tokyo CCU Network Scientific Committee Tokyo Metropolitan Tama Medical Center, ⁵⁾ Tokyo CCU Network Scientific Committee, ⁶⁾ Tokyo CCU Network Scientific Committee Surugadai Nihon University Hospital, ⁷⁾ Tokyo CCU Network Scientific Committee Sakakibara Heart Institute) : Impact of Statin Pretreatment on Mortality in Patients with Acute Myocardial Infarction. Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society (77th) (yokohama), 2013. 3.
- 30) Kosugi M, Nakagomi A, Nozaki A, Morisawa T, Saiki Y, Kohashi K, Yoshikawa M, Kodani E, Kusama Y, Atarashi H, Mizuno K¹⁾ (¹⁾ Division of Cardiology, Nippon Medical School) : Impact of Inflammation and Multivessel Spasms on a Refractory Response to Calcium Channel Blockers in Patients with Vasospastic Angina. Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society (77th) (yokohama), 2013. 3.
- 31) Nakagomi A, Saiki Y, Kohashi K, Kosugi M, Endoh I, Kawaguchi N, Endoh Y, Kusama Y, Atarashi H, Mizuno K¹⁾ (¹⁾ Division of Cardiology, Nippon Medical School) : Differential Pleiotropic Effects of Atorvastatin and Pitavastatin on Inflammatory and Oxidative Stress Markers, and Carotid Atherosclerosis in Hypercholesterolaemic Patients. Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society (77th) (yokohama), 2013. 3.
- 32) Endoh S¹⁾, Kasahara T¹⁾, Ohtahara A¹⁾, Osaki S¹⁾, Adachi M¹⁾, Mizuta E¹⁾, Kuroda H¹⁾, Ono K¹⁾, Igawa O²⁾ (¹⁾ ISanin Rosai Hospital, ²⁾ Department of Internal Medicine and Cardiology, Tama-Nagayama Hospital, Nippon Medical School) : Paced QRS width is a Predictor of Heart Failure Hospitalization in the Patients with Bradycardic Atrial Fibrillation. Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society (77th) (yokohama), 2013. 3.
- 33) Watanabe E¹⁾, Atarashi H²⁾, Inoue H³⁾, Okumura K⁴⁾, Yamashita T⁵⁾, Kumagai N⁶⁾, Origasa H⁷⁾, Ozaki Y¹⁾ (¹⁾ Department of Cardiology, Fujita Health University School of Medicine, ²⁾ Department of Internal Medicine, Nippon Medical School Tama-Nagayama Hospital, ³⁾ The Second Department of Internal Medicine, University of Toyama, Graduate School of Medicine, ⁴⁾ Cardiology, Respiratory Medicine and Ne-

- phrology, Hirosaki University Graduate School of Medicine, ⁵ The Cardiovascular Institute, ⁶ Kochi Medical School Clinical Research Center, Kochi University, ⁷ Division of Biostatistics and Clinical Epidemiology, University of Toyama, Graduate School of Medicine) : Risk of Cardiovascular Events with Combinations of Aspirin and Warfarin in Patients with AtrialFibrillation : A Substudy of J-RHYTHM Registry. Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society (77th) (yokohama), 2013. 3.
- 34) Igawa O, Adachi M¹, Okazaki R, Kawaguchi N, Kodani E, Kusama Y, Ino T, Atarashi H, Mizuno K² (¹ Sanin Rosai Hospital, ² Division of Cardiology, Nippon Medical School) : No Myocardium in the Area of Aortomitral Continuity. Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society (77th) (yokohama), 2013. 3.
- 35) Igawa O, Adachi M¹, Okazaki R, Kawaguchi N, Kodani E, Kusama Y, Ino T, Atarashi H, Mizuno K² (¹ Sanin Rosai Hospital, ² Division of Cardiology, Nippon Medical School) : The Rare Type of Pericardial Reflection on the Right Side : Cardiac Structure Related to EpicardialCatheter Mapping. Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society (77th) (yokohama), 2013. 3.
- 36) Yoshikawa M, Takayama M¹, Takagi A², Miyauchi K³, Yamasaki M⁴, Tanaka H⁵, Miyachi H⁶, Saji M¹, Suzuki M⁷, Yamamoto T⁶, Nagao K⁸ (¹Tokyo CCU network Scientific Committee,Department of Cardiology, Sakakibara Heart Institute, ² Tokyo CCU network Scientific Committee,Tokyo Womenn's Medical University, ³Tokyo CCU network Scientific Committee,Juntendo University, ⁴ Tokyo CCU network Scientific Committee,Department of Cardiology, NTT Medical Cnter, ⁵ Tokyo CCU network Scientific Committee,Tokyo Metropolitan Tama Medical Center, ⁶ Tokyo CCU network Scientific Committee, Nippon Medical School, ⁷ Tokyo CCU network Scientific Committee, ⁸ Tokyo CCU network Scientific Committee,Surugadai Nihon University Hospital) : In-Hospital Mortality in Patients with Acute Myocardial Infarction with Killip I. Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society (77th) (yokohama), 2013. 3.
- 37) Kohashi K, Nakagomi A, Saiki Y, Kosugi M, Endoh I, Endoh Y, Kusama Y, Atarashi H, Mizuno K¹ (¹ Division of Cardiology, Nippon Medical School) : Effects of Eicosapentaenoic Acid on Inflammatory Markers, Cardiac Function, and the LongtermPrognosis in Chronic Heart Failure Patients. Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society (77th) (yokohama), 2013. 3.
- 38) Nakagomi A, Saiki Y, Kohashi K, Kosugi M, Endoh I, Kawagu N, Endo Y, Kusama Y, Atarashi H, Mizuno K¹ (¹ Division of Cardiology, Nippon Medical School) : Effects of Eicosapentaenoic Acid on Inflammatory Markers, Cardiac Function, and the LongtermPrognosis in Chronic Heart Failure Patients. Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society (77th) (yokohama), 2013. 3.
- 39) Saiki Y, Nakagomi A, Nozaki A, Morisawa T, Kohashi K, Kosugi M, Kodani E, Kusama Y, Atarashi H, Mizuno K¹ (¹ Division of Cardiology, Nippon Medical School) : Impact of Inflammation and Hyperinsulinemia on the Long-term Prognosis of Patients with Vasospastic Angina. Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society (77th) (yokohama), 2013. 3.
- 40) Nagai R¹, Kinugawa K², Inoue H³, Atarashi H, Seino Y Y⁴, Yamashita T⁵, Shimizu W W⁶, Aiba T T⁷, Kitakaze M M⁷, Sakamoto A A⁸, Ikeda T T⁹, Imai Y Y², Daimon Y Y¹⁰, Fujino K K^{1, 1}, Nagano T T^{1, 2}, et al. (¹ Jichi Medical University, ² Department of Cardiovascular Medicine, The University of Tokyo, ³ Second Department of Internal Medicine, The University of Toyama, ⁴ Cardiovascular Center, Nippon Medical School Chiba-Hokusoh Hospital, ⁵ Department of Cardiology, The Cardiovascular Institute, ⁶ Department of Cardiovascular Medicine, National Cerebral and Cardiovascular Center, ⁷ Department of Clinical Research and Development, National Cerebral and Cardiovascular Center, ⁸ Department of Anesthe-

siology, Nippon Medical School, ⁹⁾ Department of Cardiovascular Medicine, Toho University, ¹⁰⁾ Department of Biostatistics, Hyogo College Of Medecine) : Emergency Management of Atrial Fibrillation and Atrial Flutter in Left Ventricular Dysfunction : Japan Landiolol Versus Digoxin Study (J-Land Study). ThAnnual Scientific Meeting of theapan Jese Circulation Society (77th) (yokohama), 2013. 3.

- 41) Kurita A¹⁾, Takase B²⁾, Kodani E, Iwahara S³⁾, Kusama Y, Atarashi H (¹⁾ Fukuinkai Clinic, ²⁾ National Defense Medical College, ³⁾ Minami-Machida Hospital) : Prognostic Significance of Heart Rate Variability in Elderly Cardiac Patients. Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society (77th) (yokohama), 2013. 3.
- 42) Endoh I, Endoh Y, Kawaguchi N, Kusama Y, Atarashi H, Mizuno K¹⁾, Geczy C²⁾ (¹⁾ Department of Cardiology, Nippon Medical School,, ²⁾ Inflammation and Infection Research Centre, School of Medical Sciences, University of New South Wales) : S100A8, a Potential Therapeutic Target in Atherosclerosis in Patients with Chronic Kidney Disease. Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society (77th) (yokohama), 2013. 3.
- 43) Otsuka T¹⁾, Kato K¹⁾, Kodani E, Ibuki C²⁾, Kussama Y, Seino Y²⁾ (¹⁾ Department of Hygiene and Public Health, Nippon Medical School, ²⁾ Cardiovascular Center, Nippon Medical School Chiba-Hokusoh Hospital) : Oscillometric Measurement of Brachial Artery Cross-Sectional Area and Its Relationship with Cardiovascular Risk Factors and Arterial Stiffness in Middle-Aged Men. Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society (77th) (yokohama), 2013. 3.
- 44) Yamasaki M¹⁾, Takagi A²⁾, Miyauchi K³⁾, Tanaka H⁴⁾, Yoshikawa M, Miyachi H⁵⁾, Yamamoto T⁵⁾, Nagao K⁶⁾, Takayama M⁷⁾ (¹⁾ Tokyo CCU Network Scientific Committee, NTT Medical Center Tokyo, ²⁾ Tokyo CCU Network Scientific Committee, Tokyo Womenn's Medical University, ³⁾ Tokyo CCU Network Scientific Committee,Juntendo University, ⁴⁾ Tokyo CCU Network Scientific Committee,Tokyo Metropolitan Tama Medical Center, ⁵⁾ Tokyo CCU Network Scientific Committee,Nippon Medical School, ⁶⁾ Tokyo CCU Network Scientific Committee, Surugadai Nihon University Hospital, ⁷⁾ Tokyo CCU Network Scientific Committee,Department of Cardiology, Sakakibara Heart Institute) : Onset to Emergency Medical Service Call in Patients with Acute Myocardial Infarction in Tokyo Metropolitan Area. Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society (77th) (yokohama), 2013. 3.
- 45) Miyachi H¹⁾, Takagi A²⁾, Miyauchi K³⁾, Yamasaki M⁴⁾, Tanaka H⁵⁾, Yoshikawa M, Saji M⁶⁾, Suzuki M⁷⁾, Yamamoto T¹⁾, Nagao K⁸⁾, Takay M⁶⁾ (¹⁾ Tokyo CCU Network Scientific Committee, Nippon Medical Shool Hospital, ²⁾ Tokyo CCU Network Scientific Committee,Tokyo Womenn's Medical University, ³⁾ Tokyo CCU Network Scientific Committee,Juntendo University, ⁴⁾ Tokyo CCU Network Scientific Committee,Department of Cardiology, NTT Medical Cnter, ⁵⁾ Tokyo CCU Network Scientific Committee, Tokyo Metropolitan Tama Medical Center, ⁶⁾ Tokyo CCU Network Scientific Committee, Department of Cardiology, Sakakibara Heart Institute, ⁷⁾ Tokyo CCU Network Scientific Committee, ⁸⁾ Tokyo CCU Network Scientific Committee,Surugadai Nihon University Hospital) : A Comparison of ST Elevation Versus Non-ST Elevation Myocardial Infarction in Tokyo CCU Network Database. Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society (77th) (yokohama), 2013. 3.
- 46) Ogita M¹⁾, Miyauchi K¹⁾, Daida H¹⁾, Takagi A²⁾, Yamasaki M³⁾, Tanaka H⁴⁾, Yoshikawa M, Miyachi H⁵⁾, Nagao K⁶⁾, Yamamoto T⁵⁾, Takayama M⁷⁾ (¹⁾ Tokyo CCU Network Scientific Committee, Juntendo University, Tokyo, ²⁾ Tokyo CCU Network Scientific Committee,Tokyo Womenn's Medical University, ³⁾ Tokyo CCU Network Scientific Committee,Department of Cardiology, NTT Medical Cnter, ⁴⁾ Tokyo CCU Network Scientific Committee,Tokyo Metropolitan Tama Medical Center, ⁵⁾ Tokyo CCU Network Scientific

Committee, Nippon Medical School, ⁶⁾ Tokyo CCU Network Scientific Committee, Surugadai Nihon University Hospital, ⁷⁾ Tokyo CCU Network Scientific Committee, Department of Cardiology, Sakakibara Heart Institute) : Contemporary Predictors of In-hospital Mortality in Patients with Acute Myocardial Infarction : Multicenter Registry from Tokyo CCU Network. Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society (77th) (yokohama), 2013. 3.

- 47) 大野 敦¹⁾, 植木彬夫¹⁾, 小谷英太郎, 住吉秀孝²⁾, 関口芳弘³⁾, 宮川高一⁴⁾ (1) 東京医科大学八王子医療センター 糖尿病・内分泌・代謝内科, 糖尿病治療多摩懇話会, ²⁾ 立川相互病院内分泌代謝科, 糖尿病治療多摩懇話会, ³⁾ 青梅市立総合病院内分泌糖尿病内科, 糖尿病治療多摩懇話会, ⁴⁾ クリニックみらい国立, 糖尿病治療多摩懇話会) : 糖尿病患者における食後高血糖と大血管障害に関するアンケート調査結果の推移. 日本肥満学会 (第33回) (京都市), 2012. 10.
- 48) 大野 敦¹⁾, 植木彬夫¹⁾, 小谷英太郎, 住友秀孝²⁾, 関口芳弘³⁾, 宮川高一³⁾ (1) 東京医科大学八王子医療センター 糖尿病・内分泌・代謝内科 糖尿病治療多摩懇話会, ²⁾ 立川相互病院内分泌代謝科 糖尿病治療多摩懇話会, ³⁾ 青梅市立総合病院内分泌糖尿病内科 糖尿病治療多摩懇話会, ⁴⁾ クリニックみらい国立 糖尿病治療多摩懇話会) : 糖尿病神経障害の診断と治療に関するアンケート調査. 日本糖尿病合併症学会 (第27回) (福岡市), 2012. 11.
- 49) 小橋啓一, 小谷英太郎, 野崎文華, 西城由之, 森澤太一郎, 小杉宗範, 吉川雅智, 中込明裕, 草間芳樹, 新 博次 : 医原性仮性動脈瘤に対しバルーン閉塞下経皮的トロンビン注入を施行し成功した症例. 多摩地区虚血性心疾患研究会 (第37回) (東京都), 2012. 11.
- 50) 森澤太一郎, 小谷英太郎, 吉川雅智, 小杉宗範, 西城由之, 小橋啓一, 中込明裕, 草間芳樹, 新 博次, 水野杏一¹⁾ (1) 日本医科大学内科学 (循環器内科学) : 褐色細胞腫に併発したカテコラミン心筋症の1例. 日本循環器学会関東甲信越地方会 (第226回) (東京都), 2012. 12.
- 51) 小谷英太郎, 草間芳樹, 新 博次, 長澤紘一 : ロスバスタチンによる non HDL-C 低下効果と脂質管理目標値達成率 : 新管理区分別の検討. 日本成人病 (生活習慣病) 学会学術集会 (第47回) (東京都), 2013. 1.
- 52) 大野 敦¹⁾, 植木彬夫¹⁾, 小谷英太郎, 住吉秀孝²⁾, 関口芳弘³⁾, 宮川高一⁴⁾ (1) 東京医科大学八王子医療センター 糖尿病・内分泌・代謝内科, ²⁾ 立川相互病院内分泌代謝科, ³⁾ 青梅市立総合病院内分泌糖尿病内科, ⁴⁾ クリニックみらい国立) : 糖尿病神経障害の管理に関するアンケート調査 : 2001, 2007, 2012 年度の比較. 日本糖尿病学会関東甲信越地方会 (第50回) (横浜市), 2013. 1.
- 53) 野崎文華, 小谷英太郎, 森澤太一郎, 西城由之, 小橋啓一, 小杉宗範, 吉川雅智, 中込明裕, 草間芳樹, 新 博次, 丸山雄二¹⁾, 白川 真¹⁾, 田上素子¹⁾, 井村 肇¹⁾, 水野杏一²⁾ (1) 日本医科大学武蔵小杉病院 心臓血管・呼吸器・乳腺内分泌外科, ²⁾ 本医日科大学内科学 (循環器内科学) : 高度石灰化を伴う冠動脈瘤と冠動脈瘤, 冠動脈狭窄を合併した1例. 日本循環器学会関東甲信越地方会 (第227回) (東京都), 2013. 2.
- 54) 岡崎怜子, 井川 修, 井野 威, 川口直美, 遠藤育子, 遠藤康実, 小谷英太郎, 草間芳樹, 新 博次 : 心室期外刺激法で, 特定の連結期にのみ CS musculature-LA 間伝導を認めた潜在性 WPW 症候群の1例. 多摩不整脈研究会 (第29回) (東京都), 2013. 1.
- 55) 大野 敦¹⁾, 植木彬夫¹⁾, 小谷英太郎, 住吉秀孝²⁾, 関口芳弘³⁾, 宮川高一⁴⁾ (1) 東京医科大学八王子医療センター 糖尿病・内分泌・代謝内科 糖尿病治療多摩懇話会, ²⁾ 立川相互病院内分泌代謝科 糖尿病治療多摩懇話会, ³⁾ 青梅市立総合病院内分泌糖尿病内科 糖尿病治療多摩懇話会, ⁴⁾ クリニックみらい国立 糖尿病治療多摩懇話会) : 血糖値・IRI 値別の経口血糖降下薬の選択に関するアンケート調査 (2009 年度と 2011 年度の比較). 日本肥満学会 (第33回) (京都市), 2012. 11.

(6) 公開講座 :

- 1) 小谷英太郎 : 心原性脳塞栓症のリスク評価と抗凝固療法の現状. 日本心電学会学術集会 (第29回) (幕張), 2012. 10.

(7) ディベートセッション：

- 1) 井川 修, 新 博次：中隔ペーシング：心室中隔ペーシング，是か非か？. 日本不整脈学会・第5回植込み型デバイス関連冬季大会（東京都），2013. 2.

[千葉北総病院循環器内科]

研究概要

循環器内科は，(1) 冠動脈疾患の最先端診療（①外来対応の冠動脈マルチスライス CT 検査，②2泊3日冠動脈造影検査，冠動脈カテーテル治療パス，③血管内超音波，血管内視鏡，光干渉断層法などの冠動脈先端画像診断，④血液生化学バイオマーカーの臨床開発）や，(2) 不整脈の最先端治療（カテーテル焼灼術，重症心不全心室再同期（CRT）治療，植え込み型除細動器治療），(3) 心不全の先駆的研究と診療などを主軸に臨床，研究，教育を構築しております。診療実績は年々増加しており冠動脈カテーテル治療は年間400例以上を不整脈カテーテル治療は年間100例以上を实地しております。さらに(4) 循環器疾患と睡眠時無呼吸，(4) 高血圧・動脈硬化症の診断と治療についても，地域医療との連携の中で効率的診療の提供と臨床研究に努めております。平成20年度からは，全国に先駆けて「回復期心筋梗塞地域連携パス」「地域連携型高血圧治療研究（INBA Study）」などを展開しております。また，大学医学部教育（文部科学省特色GP選定），研修医教育，循環器専門医教育，学位研究指導に精力的に取り組んでおり，特色ある研究成果をAHA，ESCなどの国際学会や，日本循環器学会などで発表しており，トップジャーナルに多くの論文を発表しております。学会公務として部長は日本循環器学会各種ガイドライン（急性心不全GL，性差医療GL，睡眠時無呼吸GLなど）作成委員を務めております。

研究業績

論文

[追加分]

追加分総説：

- 1) 清野精彦：高齢者心不全患者の診断と入院のポイント. 医事出版社「診療と新薬」2012；49（2）：135-145.
- 2) 大野雅充，水野杏一¹⁾（¹⁾内科学講座循環器内科学）：血管内視鏡による動脈硬化病変とステント留置部の評価. 冠疾患誌 2010；16（1）：80-86.
- 3) 宗像 亮，清野精彦：心不全における利尿薬の使い方と水利尿薬の可能性. 成人病と生活習慣病 2012；42（3）：305-310.
- 4) 大場崇芳，栗原 理，清野精彦：急性冠症候群の血液マーカー. Medicina 2010；47（9）：1542-1545.
- 5) 大場崇芳，清野精彦：CURRENT-OASIS 試験での冠動脈インターベンションが施行された急性冠症候群症例への2倍量と通常量クロピドグレルと高用量と低用量アスピリン投与の比較検討. 血栓と循環 2011；19（3）：393-395.

追加分原著：

- 1) Yodogawa K¹⁾，Ono N，Seino Y（¹⁾Department of Cardiovascular Medicine, Nippon Medical School）：Rapid Recovery from Congestive Heart Failure Following Successful Radiofrequency Catheter Ablation in a Patient with Late Onset of Wolff-Parkinson-White Syndrome. Internal Medicine 2012；51（3）：277-280.
- 2) Matsuzaki M¹⁾，Hori M²⁾，Izumi T³⁾，Asanoi H⁴⁾，Tsutamoto M⁵⁾，Seino-Tolvaptan Investigators Y（¹⁾Division of Cardiology, Department of Medicine and Clinical Science, Yamaguchi Univ. Graduate School of Medicine, ²⁾Osaka Medical Center for Cancer and Cardiovascular Diseases, ³⁾Department of Cardio-Angiology Kitasato University School of Medicine, ⁴⁾Imizu City Hospital, ⁵⁾Department of Cardiovascular and Respiratory Medicine, Shiga University of Medical Science）：Effects of Tolvaptan on Volume Overload in

Japanese Patients with Heart Failure : Results of a Phase II, Multicenter, Randomized, Double-blind, Placebo-controlled, Parallel-group Study. *Cardiovasc Drugs Ther* 2011 ; 25 (Suppl 1) : S19-S31.

- 3) Nakagomi A¹⁾, Kodani E¹⁾, Uchida T¹⁾, Ibuki C, Kusama Y¹⁾, Seino Y, Munakata K²⁾, Takano T²⁾ (¹⁾ Department of Internal Medicine and Cardiology, Tama-Nagayama Hospital, Nippon Medical School, ²⁾ Division of Cardiology, Nippon Medical School) : Secondary preventive effects of a calcium antagonist for ischemic heart attack : randomized parallel comparison with β -blockers. *Circ J* 2011 ; 75 (7) : 1696-1705.
- 4) Alan-Maisel S¹⁾, Nakao K²⁾, Ponikowski P³⁾, Seino Y (¹⁾ Division of Cardiology, California University, ²⁾ 京都大学大学院医学研究科内分秘代謝内科, ³⁾ Department of Heart Disease Medical University, Clinical Military Hospital) : バイオマーカーに関する日本・欧米間のコンセンサスマーケティング エグゼクティブサマリー. *BIOMARKER CONSENSUS* 2011 ; 52 (75) : 235-265.

(1) 原著 :

- 1) Inami T, Seino Y, Otsuka T¹⁾, Yamamoto M, Kimata N, Murakami D, Takano M, Ohba T, Ibuki C, Mizuno K²⁾ (¹⁾ Department of Hygiene and Public Health, Nippon Medical School, ²⁾ Division of Cardiology, Nippon Medical School) : Links between sleep disordered breathing, coronary atherosclerotic burden, and cardiac biomarkers in patients with stable coronary artery disease. *Journal of Cardiology* 2012 ; 60 (3) : 180-186.
- 2) Inami T, Seino Y, Tomita K¹⁾, Shirakabe A¹⁾, Kobayashi N¹⁾, Shinada T¹⁾, Hata N¹⁾, Mizuno K²⁾ (¹⁾ Intensive Care Unit, ²⁾ Department of Internal Medicine (Division of Cardiology, Hepatology, Geriatrics, and Integrated Medicine), Nippon Medical School) : Swimming in obstructive sleep apnea patient could be a risk factor of aortic dissection?. *International Journal of Cardiology* 2012 ; 162 (2) : e39-e40.
- 3) Inami T, Seino Y, Mizuno K¹⁾ (¹⁾ Department of Internal Medicine (Division of Cardiology, Hepatology, Geriatrics, and Integrated Medicine), Nippon Medical School) : Untreated severe obstructive sleep apnoea and development of acute aortic dissection. *BMJ Case Reports* 2012 ; 1-2.
- 4) Tajika K¹⁾, Okamatsu K¹⁾, Takano M²⁾, Inami S¹⁾, Yamamoto M²⁾, Murakami D²⁾, Kobayashi N²⁾, Ohba T²⁾, Hata N²⁾, Seino Y²⁾, Mizuno K¹⁾ (¹⁾ Division of Cardiology Nippon Medical School, ²⁾ Cardiovascular Center, Nippon Medical School, Chiba-Hokusoh Hospital) : Malondialdehyde-modified low-density Lipoprotein is a Useful Marker to Identify Patients With Vulnerable Plaque. *Circulation Journal* 2012 ; 76 (9) : 2211-2217.
- 5) Inami T, Seino Y, Mizuno K¹⁾ (¹⁾ Department of Internal Medicine (Division of Cardiology, Hepatology, Geriatrics, and Integrated Medicine), Nippon Medical School) : Images of a vascular ring with a right aortic arch and Kommerell diverticulum obtained by three-dimensional CT. *Heart Asia* 2012 ; 4 (1) : 110-111.
- 6) 宗像 亮, 大塚俊昭¹⁾, 梅田宗紀²⁾, 加藤活人¹⁾, 雪吹周生, 清野精彦 (¹⁾ 日本医科大学衛生学公衆衛生学, ²⁾ 株式会社エー・アンド・デイ ME 事業本部) : オシロメトリック法による上腕動脈面積測定 of 再現性および正確性に関する検討. *THERAPEUTIC RESEARCH* 2012 ; 33 (11) : 1701-1709.
- 7) Ibuki C, Seino Y, Otsuka T¹⁾, Kimata N, Inami T, Munakata R, Mizuno K²⁾ (¹⁾ Department of Hygiene and Public Health, Nippon Medical School, ²⁾ Division of Cardiology, Nippon Medical School) : Switching to Pitavastatin in Statin-Treated Low HDL-C Patients Further Improves the Lipid Profile and Attenuates Minute Myocardial Damage. *Journal of Clinical Medicine Research* 2012 ; 4 (6) : 385-392.
- 8) 水野正之¹⁾, 高野雅充, 河原崎昇¹⁾, 清野精彦, 水野杏一²⁾ (¹⁾ 千葉北総病院放射線センター, ²⁾ 付属病院循環器内科) : 管腔内含有血液が OCT 画像に与える影響. *日本心血管インターベンション治療学会誌* 2012 ; 4 (2) : 129-132.

- 9) Iwami T^{1,9)}, Kitamura T^{1,9)}, Kawamura T^{1,9)}, Mitamaru H^{2,9)}, Nagao K^{3,9)}, Takayama M^{4,9)}, Seino Y^{5,9)}, Takano H^{6,9)}, Nonogi H^{7,9)}, Yonemoto N^{8,9)}, Kimura T⁹⁾ (1) Kyoto University Health Service, (2) Clinical Research Center, Department of Cardiology, Saiseikai Central Hospital, Tokyo, (3) Department of Cardiology, Cardiopulmonary Resuscitation and Emergency Cardiovascular Care, Nihon University Surugadai Hospital, Tokyo, (4) Cardiology, Sakakibara Heart Institute, Tokyo, (5) Division of Cardiology, Department of Internal Medicine, Nippon Medical School, Chiba Hokusoh Hospital, (6) Graduate School of Sport System, Kokushikan University, Tokyo, (7) Division of Cardiovascular Care Unit, Department of Cardiovascular Medicine, National Cerebral and Cardiovascular Center, Osaka, (8) Department of Epidemiology and Biostatistics, National Center of Neurology and Psychiatry, Tokyo, (9) Japanese Circulation Society Resuscitation Science Study (JCS-ReSS) Group) : Chest Compression-Only Cardiopulmonary Resuscitation for Out-of-Hospital Cardiac Arrest With Public-Access Defibrillation : A Nationwide Cohort Study. *Circulation Journal of the American Heart Association* 2012 ; 126 (24) : 2844-2851.
- 10) Inami T¹⁾, Seino Y¹⁾, Bessho R²⁾, Mizuno K³⁾ (1) Department of Cardiology, Nippon Medical School Chiba Hokusoh Hospital, (2) Department of Thoracic and Cardiovascular Surgery, Nippon Medical School Chiba Hokusoh Hospital, (3) Department of Cardiovascular Medicine, Nippon Medical School, Tokyo) : Untreated obstructive sleep apnoea as a therapeutic target in acute aortic dissection. *BMJ Case Reports* 2012 ; 1-2.
- 11) Hori M¹⁾, Matsumoto M²⁾, Tanahashi N³⁾, Momomura S⁴⁾, Uchiyama S⁵⁾, Goto S⁶⁾, Izumi T⁷⁾, Koretsune Y⁸⁾, Bayer Yakuhin Ltd, J-ROCKET AF study investigators⁹⁾, Seino Y⁹⁾ (1) Osaka Medical Center for Cancer and Cardiovascular Diseases, (2) Department of Clinical Neuroscience and Therapeutics, Hiroshima University, (3) Department of Neurology, Saitama Medical University International Medical Center, (4) Division of Cardiovascular Medicine, Saitama Medical Center, Jichi Medical University, (5) Department of Neurology, Tokyo Women's Medical University, (6) Department of Medicine (Cardiology), Tokai University School of Medicine, (7) Department of Cardio-angiology, Kitasato University School of Medicine, (8) Institute for Clinical Research, Osaka National Hospital, (9) J-ROCKET AF study investigators) : Rivaroxaban vs. Warfarin in Japanese Patients With Atrial Fibrillation : The J-ROCKET AF Study. *Circulation Journal* 2012 ; 76 (9) : 2104-2111.
- 12) Nakagomi A¹⁾, Seino Y, Kohashi K¹⁾, Kosugi M¹⁾, Endoh Y¹⁾, Kusama Y¹⁾, Atarashi H¹⁾, Mizuno K²⁾ (1) Department of Internal Medicine and Cardiology, Tama-Nagayama Hospital, Nippon Medical School, (2) Division of Cardiology, Nippon Medical School) : Effects of statin therapy on the production of monocyte pro-inflammatory cytokines, cardiac function, and long-term prognosis in chronic heart failure patients with dyslipidemia. *Circ J* 2012 ; 76 (9) : 2130-2138.
- (2) 総説 :
- 1) 清野精彦 : 虚血性心疾患の性差 検査・診断の性差 : なにを診るか? . *Heart View* 2012 ; 16 (4) : 338-342.
 - 2) 清野精彦 : 心不全のバイオマーカー. *セフィーロ* 2012 ; 15 (4) : 36-40.
 - 3) 丸山光紀 : 器質的心疾患を伴わない心室頻拍へのアプローチ 特発性心室頻拍(流出路起源, 左室ベラパミル感受性)の診断と治療. *Medical Practice* 2012 ; 29 (10) : 1700-1706.
 - 4) 大塚俊昭¹⁾, 清野精彦 (1) 日本医科大学大学院医学研究科衛生学公衆衛生学分野) : ストレスをバイオマーカーで知る. *Heart View* 2012 ; 16 (7) : 714-721.
 - 5) 清野精彦 : マルチバイオマーカー・ストラテジー. *Heart View* 2012 ; 16 (12) : 8-15.
 - 6) 清野精彦, 加納誠士 : 急性心不全の治療指標. *救急医学* 2012 ; 36 (10) : 1176-1178.
 - 7) 清野精彦 : 急性冠症候群の血液生化学診断. *日本医師会雑誌* 2013 ; 141 (12) : 2639-2643.
 - 8) 清野精彦, 村井綱見¹⁾ (1) 内科学講座内科学循環器) : 心不全のバイオマーカー : BNP とトロポニン T を中心

に. サーキュレーション・アップ・トゥ・デート 2012;7 (6):569-573.

- 9) 清野精彦: Biomarker-guided Diagnosis and Treatments: バイオマーカー update-診断から治療評価へ. ICUとCCU 2013;37 (1):1.

著書

[追加分]

追加分:

- 1) 雪吹周生, 清野精彦: [分担] 再灌流傷害. 循環器疾患最新の治療 2012-2013 (堀正二・永井良三), 2012; pp130-135, 株式会社南江堂.
- 2) 清野精彦: [分担] NT-proBNP/BNP 値に基づく個別化した臨床管理は有用か? 診断・予後予測・心不全. 2012-2013 EBM 循環器疾患の治療 (小室一成・横井宏佳・山下武志・楽木宏実), 2012; pp184-187, 株式会社中外医学社.
- 1) 清野精彦: [分担] 急性心不全: 心血管救急の実践: その他の心血管救急. 心肺蘇生・心血管救急ガイドブック: ガイドラインに基づく実践診療 (笠貫宏・野々木宏・高木厚), 2012; pp150-157, 南江堂.
- 2) 清野精彦: [分担] 心血管バイオマーカー: 検査総論. 今日の循環器疾患治療指針 (井上博・許俊鋭・檜垣實男・代田浩之・筒井裕之), 2013; pp130-135, 医学書院.
- 3) 清野精彦: [分担] C17: 心臓・脈管疾患: 急性心不全: 慢性心不全. year note TOPICS 2012-2013 第2版 内科・外科疾患: 研修医・非専門医でも知っておくべき近年と今後の主な動向 (医療情報科学研究所), 2012; pp58-60, メディックメディア.
- 4) 清野精彦: [分担] 難治性心不全・慢性心不全急性増悪. CCU テキスト: 循環器救急から集中治療管理まで (田中啓・山本剛), 2013; pp143-148, 株式会社文光堂.
- 5) 清野精彦: [分担] トロポニン T, H-FABP どう使い分けるか・生化学マーカーの読み方と使い方. 循環器専門医に必要な検査必須知識: 正しい診断を導くために (福田信夫), 2013; pp53-60, 株式会社メジカルビュー社.
- 6) 清野精彦: [分担] 急性冠症候群・病態と治療. ICU・CCU 看護 (福田信夫), 2013; pp85-101, 医学書院.
- 7) 清野精彦: [分担] 慢性心不全・心臓・脈管疾患. Year note Topics 2012-2013 第2版 内科・外科疾患・研修医・非専門医でも知っておくべき近年と今後の主な動向 (医療情報科学研究所), 2012; pp59-60, メディックメディア.
- 8) 清野精彦: [分担] 新しい不安定プラークの評価法. Heart View (平山篤志), 2013; pp54-60, メジカルビュー社.
- 9) 清野精彦: [分担] インターベンションに役立つ新たなイメージングモダリティ. Coronary Intervention (コ罗纳リーインターベンション) (平山篤志), 2012; pp59-60, メディックメディア.

学会発表

[追加分]

追加分シンポジウム:

- 1) Takano M, Yamamoto M, Murakami D, Inami S, Seino Y, Mizuno K¹⁾ (¹⁾ Division of Cardiology, Nippon Medical School): Case Presentation of Late Stent Thrombosis: Insight from Intracoronary Imaging Devices. The American College of Cardiology (61st) (CHICAGO), 2012. 3.

(1) 特別講演:

- 1) Takano M: Angioscopic Observation for the Evaluation of Vascular Healing after Stent Implantation. 日本循環器学会学術集会 (第77回) (横浜), 2013. 3.

- 2) 高野雅充 : Beyond angiography : invasive coronary imaging. 近畿心血管ジョイントライブデモンストレーション (第 10 回) (横浜), 2012. 7.
- (2) 教育講演 :
- 1) 高野雅充 : Device delivery techniques for difficult-to-cross lesion. TOPIC 2012 (東京), 2012. 7.
 - 2) 高野雅充 : 血栓性病変 : 血管内視鏡で診断する. 豊橋ライブデモンストレーション (豊橋), 2012. 5.
 - 3) 高野雅充 : FD-OCT の今後の可能性. 日本心血管インターベンション学会関東甲信越地方会 (第 40 回) (東京), 2012. 5.
 - 4) 高野雅充 : 侵襲的イメージングによる薬剤溶出性ステントの評価. 近畿心血管ジョイントライブデモンストレーション (第 10 回) (横浜), 2012. 7.
- (3) シンポジウム :
- 1) 高野雅充 : 侵襲的冠動脈イメージングによるプラーク観察. 日本血管内治療学会 (第 18 回) (東京), 2012. 7.
- (4) パネルディスカッション :
- 1) 丸山光紀, チェンペンシェン¹⁾ (1) インディアナ大学医学部クラナート心臓研究所) : 細胞内カルシウム・膜電位同時光学的マッピングを用いた電気的ストームの病態生理に関する基礎的検討. 日本不整脈学会 (第 27 回) (横浜), 2012. 7.
 - 2) 高野雅充, 清野精彦, 水野杏一¹⁾ (1) 付属病院循環器内科) : 冠動脈内イメージングによる vulnerable lesion の診断. 日本冠疾患学会 (第 26 回) (東京), 2012. 12.
- (5) セミナー :
- 1) 大場崇芳 : 血管内視鏡の手技「基礎と手技」. 心臓血管内視鏡講習会 (第 10 回) (愛媛県松山市), 2012. 10.
 - 2) 高野雅充 : 他のイメージングとの比較「OCT と血管内視鏡との比較」. 心臓血管内視鏡講習会 (第 10 回) (愛媛県松山市), 2012. 10.
- (6) ワークショップ :
- 1) 高野雅充, 清野精彦, 水野杏一¹⁾ (1) 付属病院循環器内科) : Diagnosis for Vulnerable Lesions Using Intracoronary Imaging Devices. 日本心臓病学会 (第 60 回) (金沢), 2012. 9.
- (7) ポスター :
- 1) Momomura S¹⁾, Seino Y, Kihara Y²⁾, Adachi H³⁾, Yasumura Y⁴⁾, Yokoyama H⁵⁾ (1) Jichi Medical Saitama Medical Center, 2) Hiroshima University, Department of Cardiovascular Medicine, 3) Gunma Prefectural Cardiovascular Center, Division of Cardiology, 4) Osaka National Cardiovascular Division, 5) National Cerebral and Cardiovascular Center Hospital) : Adaptive-servo ventilation may be a new additional therapy to improve symptoms and cardiac patients with chronic heart failure regardless of accompanying sleep disordered breathing. European Society of Cardiology Congress 2012 (Munich), 2012. 8.
 - 2) 雪吹周生, 清野精彦, 大塚俊昭¹⁾, 稲見 徹, 宗像 亮, 水野杏一²⁾ (1) 付属病院衛生学公衆衛生学教室, 2) 付属病院内科学第一講座) : 低 HDL-C 患者における Pitavastatin へのスタチン変更はさらなる脂質プロファイル改善と微小心筋傷害軽減をもたらす. 日本心臓病学会 (第 60 回) (金沢), 2012. 9.
 - 3) 木富奈穂子¹⁾, 石橋里子¹⁾, 千葉ゆうき¹⁾, 野口由紀¹⁾, 吉岡友子¹⁾, 松本望里¹⁾, 岩瀬和真¹⁾, 永井佑一¹⁾, 亀山雅弥¹⁾, 野本剛史¹⁾, 稲見 徹, 雪吹周生, 清野精彦 (1) 千葉北総病院臨床検査センター) : タイプ 2 終夜睡眠ポリソムノグラフィ導入による睡眠時無呼吸症候群診断・解析の動向 : 当院連続 79 例についての分析. 日本医科大学医学会 (第 80 回) (東京), 2012. 9.
 - 4) 大塚俊昭¹⁾, 加藤活人¹⁾, 小谷英太郎²⁾, 雪吹周生, 清野精彦 (1) 付属病院 衛生学公衆衛生学, 2) 多摩永山病院 内科・循環器内科) : 中年男性集団における高血圧発症予測因子としての血清シスタチン C と推算糸球体濾過量の比較. 日本高血圧学会 (第 35 回) (名古屋), 2012. 9.
 - 5) Inami T, Seino Y, Yamamoto M, Kimata N, Murakami D, Takano M, Ohba T, Ibuki C, Mizuno K¹⁾ (1)

Dep. of Internal Medicine, Division of Cardiology, Nippon Medical School) : Links between sleep disordered breathing and the type of acute aortic dissection in the acute phase : differences in patent versus thrombosed false lumen. Canadian Cardiovascular Congress 2012 (Toronto), 2012. 10.

- 6) 山本哲平, 丸山光紀, 阿部純子, 清野精彦 : 頸拍回路の同定が困難だったが, double potential 部位でのペーシングによる局所電位評価での頸拍回路が明らかとなったマクロリエンリー性心房頸拍の1例. カテーテル・アブレーション委員会公開研究会 (第24回) (山口県下関市), 2012. 9.
- 7) Seino Y, Kano S, Shimura T, Kurihara O, Kimata N, Yamamoto T, Tomita K¹⁾, Shirakabe A¹⁾, Munakata R, Shinada T¹⁾, Maruyama M, Takano M, Ohba T, Ibuki C, Seino Y, et al. ⁽¹⁾ Dep. of Intensive Care Unit, Nippon Medical School, ⁽²⁾ Dep. of Cardiovascular Medicine, Nippon Medical School) : Characteristic Features of Disordered Breathing in the Convalescent Phase Dissection-Comparative Analysis with Stable Coronary Artery Disease. 日本循環器学会学術集会 (第77回) (横浜), 2013. 3.

(8) 一般講演 :

- 1) 下田奈央子¹⁾, 中村俊一¹⁾, 泉 佑樹¹⁾, 細川雄亮¹⁾, 稲見 徹, 高橋 啓¹⁾, 坪 宏一¹⁾, 山本 剛¹⁾, 水野杏一¹⁾ ⁽¹⁾ 内科学講座 (循環器・肝臓・老年・総合病態部門) : 血気胸を来した血管型 Ehlers-Danlos 症候群の1例. 日本循環器学会関東甲信越地方会 (第224回) (東京), 2012. 6.
- 2) Shimura T, Murakami D, Takano M, Yamamoto M, Kurihara O, Kimata N, Inami T, Munakata R, Ohba T, Seino Y, Mizuno K¹⁾ ⁽¹⁾ Division of Cardiology, Nippon Medical School) : Long-Term Follow-Up Evaluation of Endothelial dysfunction after Sirolimus-Eluting Stent Implantation in Comparison with Bare-Metal Stent. 日本心血管インターベンション治療学会 (第21回) (新潟), 2012. 7.
- 3) 村上大介, 志村徹郎, 加納誠士, 栗原 理, 木股伸恒, 稲見 徹, 宗像 亮, 高野雅充, 大場崇芳, 雪吹周生, 清野精彦 : CCB3 剤を含めた強化薬物療法でも難治性であった冠攣縮性狭心症の1例 : 活動性の変化と治療戦略の構築. 冠攣縮研究会 (第7回) (東京), 2012. 7.
- 4) 栗原 理, 山本真功, 加納誠士, 志村徹郎, 木股伸恒, 稲見 徹, 宗像 亮, 村上大介, 高野雅充, 大場崇芳, 雪吹周生, 清野精彦, 水野杏一¹⁾ ⁽¹⁾ 付属病院循環器内科) : FFR を指標に PCI 治療適応外とした病変部に発症した急性冠症候群の1例 : OCT からの考察. 日本血管内治療学会 (第18回) (東京), 2012. 7.
- 5) 志村徹郎, 高野雅充, 村上大介, 山本真功, 加納誠士, 栗原 理, 木股伸恒, 稲見 徹, 宗像 亮, 大場崇芳, 清野精彦, 水野杏一¹⁾ ⁽¹⁾ 付属病院循環器内科) : エベロリムス溶出性ステント留置6ヶ月後の OCT を用いた新生内膜被覆の検討 : パクリタクセル溶出性ステントとの比較. 日本血管内治療学会 (第18回) (東京), 2012. 7.
- 6) 稲見 徹, 清野精彦, 山本真功, 木股伸恒, 村上大介, 大場崇芳, 高野雅充, 雪吹周生, 水野杏一¹⁾ ⁽¹⁾ 付属病院循環器内科) : 安定冠動脈疾患における睡眠時無呼吸と冠動脈病変の進展および心筋バイオマーカの関連性. 日本血管内治療学会 (第18回) (東京), 2012. 7.
- 7) 加納誠士, 山本真功, 志村徹郎, 栗原 理, 木股伸恒, 稲見 徹, 宗像 亮, 村上大介, 高野雅充, 大場崇芳, 雪吹周生, 清野精彦, 水野杏一¹⁾ ⁽¹⁾ 付属病院循環器内科) : PCI に伴う心筋傷害と病変の特徴 : OCT からの考察. 日本血管内治療学会 (第18回) (東京), 2012. 7.
- 8) 鶴見昌史¹⁾, 尾崎健介¹⁾, 志村徹郎, 松下誠人¹⁾, 白壁章宏¹⁾, 富田和憲¹⁾, 小林宣明¹⁾, 品田卓郎¹⁾, 横山真也¹⁾, 畑 典武¹⁾, 阿部純子, 雪吹周生, 清野精彦, 水野杏一²⁾ ⁽¹⁾ 千葉北総病院集中治療室, ⁽²⁾ 付属病院循環器内科) : APRV (Airway Pressure Release Ventilation mode) により救命して重度肥満低換気症候群 (obesity hypoventilation syndrome ; OHS) の1例. 日本集中治療学会関東甲信越地方会 (第21回) (前橋市), 2012. 8.
- 9) Maruyama M : Importance of FKBP12 in Modulating the Heart Rhythm. Asia Pacific Heart Rhythm Society (5th) (Taipei), 2012. 10.
- 10) Maruyama M : Arrhythmia Mechanism : Novel Insights into the Mechanism of Triggered Activities. Asia

Pacific Heart Rhythm Society (5th) (Taipei), 2012. 10.

- 11) Kurihara O, Takano M, Yamamoto M, Kanou S, Shimura T, Kimata N, Inami T, Kobayashi N, Munakata R, Murakami D, Ohba T, Ibuki C, Seino Y, Mizuno K¹⁾ (Dep. of Internal Medicine, Division of Cardiology, Nippon Medical School) : Impact of Prediabetic Status on Coronary Atherosclerosis : A multivessel angioscopic study. American Heart Association Scientific Sessions 2012 (Los Angeles), 2012. 11.
 - 12) 栗原 理, 高野雅充, 山本真功¹⁾, 加納誠士, 志村徹郎, 木股仲恒, 稲見 徹, 宗像 亮, 村上大介, 大場崇芳, 雪吹周生, 清野精彦, 水野杏一¹⁾ (1) 付属病院循環器内科) : 前糖尿病と冠動脈硬化 : 血管内視鏡からの検討. 日本冠疾患学会 (第 26 回) (東京), 2012. 12.
 - 13) 瀨瀬 敦, 大場崇芳, 加納誠士, 志村徹郎, 栗原 理, 木股仲恒, 山本哲平, 山本真功, 稲見 徹, 村上大介, 宗像 亮, 阿部純子, 丸山光紀, 高野雅充, 雪吹周生, その他 4 名 (1) 付属病院循環器内科, 2) 付属病院小児科学, 3) 新東京病院 心臓血管外科) : 川崎病再燃により巨大冠動脈瘤が形成され切迫破裂による大量心嚢液貯留が疑われた 1 例. 日本循環器学会関東甲信越地方会 (第 227 回) (東京), 2013. 2.
 - 14) 宗像 亮, 山本 剛¹⁾, 青影聡之²⁾, 宮地秀樹²⁾, 細川雄亮²⁾, 坪 宏一²⁾, 佐藤直樹³⁾, 田中啓二²⁾ (1) 付属病院集中治療室, 2) 日本医科大学武蔵小杉病院循環器内科) : 急性心不全で入院した大動脈弁狭窄症の予後規定因子の検討. 日本集中治療医学会学術集会 (第 40 回) (松本市), 2013. 2.
 - 15) Murakami D, Yamamoto M, Kano S, Shimura T, Kurihara O, Kimata N, Inami T, Munakata R, Seino Y, Mizuno K¹⁾ (1) Dep. Internal Medicine, Div. of Cardiology, Nippon Medical School) : The Coronary Characteristics of Rappid Progression under Optimal Medical Treatment in Non-culprit Lesions Assessed by Optical Coherence Tomography. 日本循環器学会学術集会 (第 77 回) (横浜), 2013. 3.
- (9) 症例報告 :
- 1) 武内紗矢佳, 山本哲平, 栗原 理, 木股仲恒, 稲見 徹, 宗像亮, 村上大介, 阿部純子, 丸山光紀, 高野雅充, 大場崇芳, 雪吹周生, 清野精彦, 水野杏一¹⁾ (1) 内科学講座 (循環器・肝臓・老年・総合病態部門)) : マラソン後心室細動を発症し Brugada 症候群との鑑別を要した若年冠攣縮性狭心症の 1 例. 日本循環器学会関東甲信越地方会 (第 224 回) (東京), 2012. 6.
- (10) Round Table Discussion :
- 1) Murakami D, Shimura T, Kano S, Kurihara O, Yamamoto M, Kimata N, Inami T, Kobayashi N, Munakata R, Ohba T, Ibuki C, Seino Y, Mizuno K¹⁾ (1) Dep. of Internal Medicine, Div. of Cardiology, Nippon Medical School) : “Drug-Acetylcholine Provocation Test for Assessment of Therapeutic Efficacy in Patients with Refractory Vasospastic Angina-Importance of CCB Combination Therapy”. 日本循環器学会学術集会 (第 77 回) (横浜), 2013. 3.
 - 2) Seino Y, Mizuno K¹⁾ (1) Dep. of Internal Medicine, Div. of Cardiology, Nippon Medical School) : Untreated Obstructive Sleep Apnoea as a Therapeutic Target in Acute Dissection. 日本循環器学会学術集会 (第 77 回) (横浜), 2013. 3.
- (11) TOPIC :
- 1) Yamamoto M : “Identification of High-Risk Plaques Associated with Peri-procedural Myocardial Injury Following Elective Percutaneous Coronary Intervention”. 日本循環器学会 (第 77 回) (横浜), 2013. 3.
 - 2) Maruyama M : Role of Intracellular Calcium Dynamics in Triggered Activities. 日本循環器学会 (第 77 回) (横浜), 2013. 3.
- (12) 教育委員会企画 教育プログラム :
- 1) 清野精彦, 高野雅充, 山本真功, 村上大介, 雪吹周生, 小林宣明¹⁾, 畑 典武¹⁾, 水野杏一²⁾ (1) 千葉北総病院集中治療室, 2) 付属病院循環器内科) : バイオマーカー診断は画像診断を凌駕するか? Vulnerable Plaque and Vulnerable Blood. 日本心臓病学会 (第 60 回) (金沢), 2012. 9.

2. 内科学（神経内科学）

[付属病院神経内科]

研究概要

神経内科では脳卒中、特に脳梗塞の病態解明および治療を主要課題として取り組んでいる。基礎研究では、脳梗塞に対する骨髄幹細胞移植による脳保護・神経再生を主な研究テーマの一つとして行っているが、骨髄単核球細胞や骨髄間葉系細胞を脳梗塞モデルに投与して脳梗塞の体積や神経徴候に及ぼす影響およびその保護効果のメカニズムについて検討を行っている。骨髄幹細胞移植はヒトにおいて既に試みられており、当教室においても臨床実施を目指して研究を行っている。また、種々の新規脳保護薬を始め、免疫抑制薬、抗酸化薬、スタチン、EPA等の脳保護効果について検討を行っている。さらに、近年、脂質異常症治療薬であるスタチンの脳卒中予防作用に注目が集まっているが、我々の教室では脳卒中易発症高血圧自然発症ラット（SHRSP）を用いてその予防効果やメカニズムについて検討を行っている。臨床研究では、SCU（Stroke Care Unit）が設立され、脳卒中急性期の超早期診断・治療が活発に行われているが、t-PA治療の他、血管内治療等の最先端技術を用いて行っている。また、診断・治療成績の向上に関する研究や脳卒中における頭痛の解析がなされている。その他、脳血管性認知症やアルツハイマー型認知症等の認知症やパーキンソン病に対し、PET・MRI・SPECT等の画像診断機器を利用した研究を活発に行っている。また、千葉北総病院および武蔵小杉病院内科に教室員の派遣を行い、各施設での診療・研究に貢献している。以上、当教室では神経内科学領域において、国内外の関係学会で幅広く活発な活動を行い、多くの優れた研究を発表している。

研究業績

論文

[追加分]

追加分総説：

- 1) 桂研一郎¹⁾ (1) 日本医科大学内科学（神経内科学）：K_{ATP}チャンネル。分子脳血管病 2012；11（1）：75-78.

追加分原著：

- 1) Sakurazawa M¹⁾, Katsura K¹⁾, Saito M¹⁾, Asoh S, Ohta S, Katayama Y¹⁾ (1) Divisions of Neurology, Nephrology, and Rheumatology, Department of Internal Medicine, Nippon Medical School) : Mild hypothermia enhanced the protective effect of protein therapy with transductive anti-death FNK protein using a rat focal transient cerebral ischemia model. Brain Res 2012 ; 1430 : 86-92.
- 2) 永山 寛¹⁾ (1) 日本医科大学 内科神経・腎臓・膠原病リウマチ部門) : パーキンソン病の薬物療法 進行期. Modern Physician 2012 ; 32 (2) : 182-186.
- 3) Takahashi T¹⁾, Aoki M²⁾, Suzuki N²⁾, Tateyama M²⁾, Yaginuma C³⁾, Sato H³⁾, Hayasaka M³⁾, Sugawara H³⁾, Ito M³⁾, Abe-Kondo E³⁾, Shimakura N²⁾, Ibi T⁴⁾, Kuru S⁵⁾, Wakayama T⁵⁾, Yamazaki M⁶⁾, et al. (1) Department of Neurology and Division of Clinical Research, National Hospital Organization Nishitaga National Hospital, Sendai, Japan, 2) Department of Neurology, Tohoku University School of Medicine, Sendai, Japan, 3) Department of Clinical Laboratory and Division of Clinical Research, National Hospital Organization Nishitaga National Hospital, Sendai, Japan, 4) Department of Neurology, Aichi Medical University, Aichi, Japan, 5) Department of Neurology, National Hospital Organization Suzuka National Hospital, Mie, Japan, 6) Division of Neurology, Department of Internal Medicine, Nippon Medical School, Tokyo, Japan) : Clinical features and a mutation with late onset of limb girdle muscular dystrophy 2B. J Neurol Neurosurg Psychiatry 2013 ; 84 (4) : 433-440.

(1) 原著：

- 1) Abe A, Ueda T, Ueda M, Nogoshi S, Nishiyama Y, Katayama Y : Symptomatic Middle Cerebral Artery Stenosis Treated by Percutaneous Transluminal Angioplasty : Improvement of Cerebrovascular Reserves. *Interventional Neuroradiology* 2012 ; 18 (2) : 213-220.
- 2) Nito C, Kamada H, Endo H, Narasimhan P, Lee Y, Chan -H P : Involvement of mitogen-activated protein kinase pathways in expression of the water channel protein aquaporin-4 after ischemia in rat cortical astrocytes. *J Neurotrauma* 2012 ; 29 (14) : 2404-2412.
- 3) 金子朋広, 平間章郎, 有馬留志, 石原 力, 木村和義¹⁾, 飯野靖彦, 片山泰朗 (¹⁾ 町立八丈病院) : 離島における腎代替療法. *臨床透析* 2012 ; 28 (6) : 779-784.
- 4) Mishina M, Kimura Y, Naganawa M, Ishii K, Oda K, Sakata M, Toyohara J, Kobayashi S, Katayama Y : Differential effects of age on human striatal adenosine A1 and A2A receptors. *Synaps* 2012 ; 66 (9) : 832-839.
- 5) 鈴木雅規, 小南修史, 白銀一貴, 額額健太, 岩本直高, 大村朋子, 三品雅洋, 水成隆之, 小林士郎, 寺本 明 : Wake-up ischemic stroke に対する Merci Retriever 応用の可能性. *脳卒中* 2012 ; 34 (4) : 228-234.
- 6) 三品雅洋, 小林士郎¹⁾, 原 行弘²⁾, 片山泰朗 (¹⁾ 千葉北総病院 脳神経外科, ²⁾ 千葉北総病院 リハビリテーション科) : 印旛脳卒中地域連携パスの効果. *日医大医学会誌* 2012 ; 8 (4) : 246-254.
- 7) 野村俊明^{1, 2)}, 石井知香¹⁾, 松本聡子³⁾, 根本留美¹⁾, 若松直樹¹⁾, 石渡明子, 北村 伸, 川並汪一⁴⁾ (¹⁾ 日本医科大学老人病研究所待ぐるみ認知症相談センター, ²⁾ 日本医科大学心理学教室, ³⁾ 国立精神神経精神保健研究所, ⁴⁾ 北海メディカルネットワーク) : 認知症の早期発見システムを考える : 待ぐるみ認知症相談センター利用者アンケートから. *日本認知症ケア学会誌* 2012 ; 11 (2) : 544-549.
- 8) Nomura T^{1, 2)}, Matsumoto S³⁾, Kitamura S^{1, 4)}, Ishiwata A, Ishii C¹⁾, Nemoto R¹⁾, Kawanami O⁵⁾ (¹⁾ The Community Consultation Center for Citizens with Mild Cognitive Impairment and Dementia, Institute of Development and Aging Science, Nippon Medical, ²⁾ Department of Psychology, Nippon Medical School, ³⁾ National Institute of Mental Health, National Center of Neurology and Psychiatry, ⁴⁾ Nippon Medical School Musashi Kosugi Hospital, ⁵⁾ HMN Akasaka Clinic, Hokkai Medical Network) : Roles of Consultation Organization in the Early Detection of Dementia : From the Practice of the Community Consultation Center for Citizens with Mild Cognitive Impairment and Dementia Nippon Medical School. *J Nippon Med Sch* 2102 ; 79 (6) : 438-443.
- 9) Takumi I¹⁾, Mishina M, Hironaka K¹⁾, Oyama K¹⁾, Yamada K¹⁾, Adachi K¹⁾, Hamamoto M²⁾, Kitamura S²⁾, Yoshida D³⁾, Teramoto A⁴⁾ (¹⁾ Department of Neurosurgery, Nippon Medical School Musashi Kosugi Hospital, ²⁾ Department of Neurology, Nippon Medical School Musashi Kosugi Hospital, ³⁾ Department of Neurosurgery, Nippon Medical School, ⁴⁾ Department of Neurosurgery, Tokyo Rosai Hospital) : Simple solution for preventing cerebrospinal fluid loss and brain shift during multitrack deep brain stimulation surgery in the semisupine position : polyethylene glycol hydrogel dural sealant capping. *Neurol Med Chir* 2013 ; 53 (1) : 1-6.
- 10) Nagayama H¹⁾, Kubo S²⁾, Hatano T²⁾, Hamada S³⁾, Maeda T⁴⁾, Hasegawa T⁵⁾, Kadowaki T⁶⁾, Terashi H⁷⁾, Yoshioka M⁸⁾, Nomoto N⁹⁾, Kano O¹⁰⁾, et al. (¹⁾ Department of Internal Medicine, Division of Neurology, Nephrology and Rheumatology, Nippon Medical School, Japan, ²⁾ Department of Neurology, Juntendo University School of Medicine, Japan, ³⁾ Department of Neurology, Hokuyukai Neurological Hospital, Japan, ⁴⁾ Department of Neurology, Research Institute for Brain and Blood Vessels, Japan, ⁵⁾ Division of Neurology, Department of Neuroscience & Sensory Organs, Tohoku University Graduate School of Medicine, Japan, ⁶⁾ Department of Neurology, Ashikaga Red Cross Hospital, Japan, ⁷⁾ The Third Department of Internal Medi-

cine, Tokyo Medical University, Japan, ⁸⁾ Department of Neurology, Aoto Hospital, The Jikei University School of Medicine, Japan, ⁹⁾ Department of Internal Medicine, Division of Neurology, Toho University Ohashi Medical Center, Japan, ¹⁰⁾ and others): Validity and reliability assessment of a Japanese version of the Snaith-Hamilton pleasure scale. Intern Med 2012; 51 (8): 865-869.

- 11) 永山 寛¹⁾ (1) 日本医科大学 神経内科): プラミベキソール少量投与でうつ症状が改善したパーキンソン病の1例 Snaith-Hamilton Pleasure Scale (SHAPS) を用いた検討. Frontiers in Parkinson Disease 2012; 30 (4): 172-174.

(2) 総説:

- 1) 三品雅洋, 小林士郎¹⁾ (1) 千葉北総病院 脳神経外科): II 脳卒中中の救急医療体制 Q10 急性期脳卒中専門医療機関. 救急・集中治療 2012; 24 (7-8): 817-822.
- 2) Katsura ¹⁾, Suda S¹⁾, Abe A¹⁾, Kanamaru T¹⁾, Toda Y¹⁾, Katayama Y¹⁾ (1) Department of Neurological Sciences, Graduate School of Medicine, Nippon Medical School): Brain protection therapy in acute cerebral infarction. J Nippon Med Sch 2012; 79 (2): 104-110.
- 3) Utsumi K¹⁾, Katsura K¹⁾, Ino Y¹⁾, Katayama Y¹⁾ (1) Department of Neurological, Nephrological and Rheumatological Sciences, Graduate School of Medicine, Nippon Medical School): Blood pressure control in patients with chronic kidney disease. J Nippon Med Sch 2012; 79 (2): 111-114.
- 4) 桂研一郎¹⁾, 片山泰朗¹⁾ (1) 日本医科大学内科学 (神経内科学)): 脳血管障害の治療の進歩. 神経治療学 2012; 29 (4): 371-374.
- 5) 桂研一郎¹⁾ (1) 日本医科大学内科学 (神経内科学)): 脳卒中の再発予防. 救急・集中治療 2012; 24 (7-8): 760-768.
- 6) 永山 寛¹⁾, 片山泰朗¹⁾ (1) 日本医科大学 内科神経・腎臓・膠原病リウマチ部門): 内科疾患と脳神経疾患: 診断と治療の進歩: 肝胆睪, 消化管疾患と脳神経疾患. 日本内科学会雑誌 2012; 101 (8): 2212-2218.
- 7) 永山 寛¹⁾ (1) 日本医科大学 内科神経・腎臓・膠原病リウマチ部門): パーキンソン病における気分障害. Pharma Medica 2012; 30 (4): 12-16.
- 8) 野村浩一¹⁾, 片山泰朗 (1) 北村山公立病院 神経内科): 脳血管障害. 腎と透析 2012; 72 (4): 485-490.
- 9) 片山泰朗: 脳卒中のガイドラインの国際比較. 神経治療学 2012; 29 (3): 301-304.
- 10) 野村浩一, 片山泰朗: 若年性脳血管障害の危険因子. 成人病と生活習慣病 2012; 42 (12): 1415-1419.
- 11) 丸木雄一¹⁾, Davis B²⁾, Raskind M³⁾, 河村 満⁴⁾, 木村 透⁵⁾, 鈴木則宏⁶⁾, 平田幸一⁷⁾, 山崎峰雄⁸⁾ (1) 埼玉精神神経センター, 2) Synaptec Inc., 3) Psychiatry and Behavioral Sciences, University of Washington, 4) 昭和大学医学部神経内科, 5) 洛和会みささぎ病院, 6) 慶應義塾大学医学部神経内科, 7) 獨協医科大学神経内科, 8) 日本医科大学神経内科): アセチルコリンエステラーゼ阻害薬に関する最近の臨床的話題. Cognition and Dementia 2013; 12 (1): 76-83.
- 12) 山崎峰雄¹⁾ (1) 日本医科大学内科学 (神経・腎臓・膠原病リウマチ部門)): リバスタッチ (R) パッチ. 診断と治療 2012; 100 (4): 675-679.
- 13) 河村 満¹⁾, Coyle J²⁾, Davis B³⁾, 木村 透⁴⁾, 鈴木則宏⁵⁾, 平田幸一⁶⁾, 丸木雄一⁷⁾, 山崎峰雄⁸⁾ (1) 昭和大学医学部神経内科, 2) Psychiatry and Neuroscience, Harvard Medical School, 3) Synaptech Inc., 4) 洛和会みささぎ病院, 5) 慶應義塾大学医学部神経内科, 6) 獨協医科大学神経内科, 7) 埼玉精神神経センター, 8) 日本医科大学神経内科): アセチルコリンエステラーゼ阻害薬の薬理作用と最新知見. Cognition and Dementia 2012; 11 (4): 364-371.
- 14) 山崎峰雄¹⁾ (1) 日本医科大学内科学 (神経内科学)): 認知症の鑑別診断. 日本医科大学医学会雑誌 8 (4): 274-279, 2012. 2012; 8 (4): 274-279.
- 15) 上田雅之, 神谷文雄, 神谷信雄, 須田 智, 片山泰朗: 骨髄単核球細胞移植の therapeutic time window. 分子

脳血管病 2012 ; 11 (4) : 379-384.

(3) 症例報告 :

- 1) Suda S, Katsura K, Okubo S, Abe A, Kanamaru T, Ueda M, Mishina M, Yamazaki M, Katayama Y : A Case of Dural Arteriovenous Fistulas at the Craniocervical Junction Presenting with Occipital/Neck Pain Associated with Sleep. Intern. Med. 2012 ; 51 (8) : 925-928.
- 2) Suzuki K, Mishina M, Okubo S, Abe A, Suda S, Ueda M, Katayama Y : Anterior Cerebral Artery Dissection Presenting Subarachnoid Hemorrhage and Cerebral Infarction. J Nippon Med Sch 2012 ; 79 (2) : 153-158.
- 3) Suzuki K¹⁾, Ueda M¹⁾, Nishiyama Y¹⁾, Okubo S¹⁾, Katsura K¹⁾, Katayama Y¹⁾ (¹⁾ Division of Neurology, Department of Internal Medicine, Nippon Medical School) : Paradoxical cerebral air embolism occurred with postural change in rehabilitation, in a patient with ipsilateral internal carotid artery occlusion. Intern Med. 2012 ; 51 (9) : 1107-1109.
- 4) Suzuki K, Ueda M, Muraga K, Abe A, Suda S, Okubo S, Katayama Y : Unusual cerebral air embolism within the posterior circulation territory after needle lung biopsy. Intern Med 2013 ; 52 (1) : 115-117.
- 1) 内山真一郎¹⁾, 松本昌泰²⁾, 片山泰朗, 阿部康二³⁾, 塩川芳昭⁴⁾, 鈴木倫保⁵⁾ (¹⁾ 東京女子医科大学医学部神経内科, ²⁾ 広島大学大学院医歯薬保健学研究所 応用生命科学部門 脳神経内科, ³⁾ 岡山大学大学院医歯薬学総合研究科脳神経内科学, ⁴⁾ 杏林大学医学部脳神経外科 脳卒中センター, ⁵⁾ 山口大学大学院医学研究科システム制御医学系学域 脳・神経病態制御講座 脳神経外科) : 脳卒中治療の新たな潮流. 分子脳血管病 2013 ; 12 (1) : 1-9.
- 2) 川上康彦¹⁾, 太組一朗²⁾, 山崎峰雄³⁾, 長谷川大輔⁴⁾ (¹⁾ 日本医科大学多摩永山病院小児科, ²⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院脳神経外科, ³⁾ 日本医科大学付属病院神経内科, ⁴⁾ 日本獣医生命科学大学獣医放射線学教室) : 日本医科大学てんかん診療の歴史・現況・そして未来「日本医科大学包括てんかん診療ミーティング」結成報告. 日本医科大学医学会雑誌 2013 ; 9 (1) : 33-34.

著 書

[追加分]

追加分 :

- 1) 桂研一郎 (¹⁾ 日本医科大学内科学 (神経内科学)) : [分担] 脳血管障害の合併症 (誤嚥性肺炎を中心に). 今日の治療指針 2012 年版, 2012 : pp762-762, 医学書院.
- 1) Mishina M, Kimura Y, Ishiwata A : [分担] Human Brain Imaging of Adenosine Receptors. Imaging of the Human Brain in Health and Disease (John E, Johnson, Jr, Philip, Seeman and Bertha Madras), 2012 ; Neuroscience-Net, LLC, CA.
- 2) 永山 寛¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学 大学院医学研究部門神経内科) : [分担] (第2章) パーキンソン病の症状と診断 症状を知ってしっかり診断に結びつける! パーキンソン病って運動障害だけなの?. 【あなたも名医!ここを押さえる! パーキンソン病診療 34 のギモンに答える】 (服部信孝), 2012 : pp36-39, 日本医事新報社.
- 3) 山崎峰雄¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学大学院医学研究科 神経内科学分野) : [分担] アルツハイマー病の臨床試験デザイン設定 (3節 中枢神経系疾患 (神経系) の試験デザインの設定法). 臨床試験計画とデザインの設定 (技術情報協会編集), 2012 : pp303-310, (株) 技術情報協会.

学会発表

〔追加分〕

追加分一般講演：

- 1) 阿部 新, 西山康裕, 須田 智, 村賀香名子, 原田未那, 金丸拓也, 大久保誠二, 上田雅之, 桂研一郎, 片山泰朗：塞栓源不明の脳梗塞患者における経食道心エコー上の大動脈壁肥厚の検討. 日本脳卒中学会総会（第36回）（京都），2011. 7.
- 2) 櫻澤 誠, 桂研一郎, 斉藤萌子, 麻生定光¹⁾, 太田成男²⁾, 片山泰朗（¹⁾老人病研究所 生化学部門）：PTD-FNK 蛋白・低温併用療法の120分中大脳動脈閉塞モデルへの効果の検討. 日本脳卒中学会総会（第36回）（京都），2011. 7.
- 3) 鈴木健太郎¹⁾, 須田 智, 中嶋信人¹⁾, 塚本和久¹⁾, 大久保誠二, 勝又俊弥, 片山泰朗（¹⁾北村山公立病院 神経内科）：脳梗塞患者におけるEPAと危険因子の検討. 日本脳卒中学会総会（第36回）（京都），2011. 7.
- 4) 西山 穰, 西山康裕, 角南英子, 桂研一郎, 片山泰朗：頭部不快感を主訴とした女性患者の症状経過と大脳白質病変との関連の検討. 日本脳卒中学会総会（第36回）（京都市），2011. 7.
- 5) 原田未那, 大久保誠二, 西山康裕, 阿部 新, 須田 智, 村賀香名子, 上田雅之, 桂研一郎, 片山泰朗：塞栓源不明の脳梗塞患者におけるもやもやエコーの検討. 日本脳卒中学会総会（第36回）（京都市），2011. 7.
- 6) 須田 智, 鈴木健太郎¹⁾, 勝又俊弥, 大久保誠二, 阿部 新, 斎藤智成, 金丸拓也, 上田雅之, 桂研一郎, 片山泰朗（¹⁾山形県北村山公立病院 神経内科）：急性期脳梗塞患者におけるEPA/AA比の検討. 日本脳卒中学会総会（第36回）（京都市），2011. 7.
- 7) Mishina M, Kim K¹⁾, Kobayashi S¹⁾, Katayama Y（¹⁾Neurological Institute, Nippon Medical School Chiba-Hokusoh Hospital）：Relationship between Outcome and Polyunsaturated Fatty Acids level in Acute Ischemic Stroke.. International Stroke Conference (New Orleans, USA), 2012. 2.
- 8) 阿部 新：当院における急性期脳梗塞の血管内治療の現状. 女子医大・日本医大 NEURO=CONFERENCE2013（東京都），2103. 2.

追加分教育講演：

- 1) 三品雅洋：脳卒中における核医学画像の役割. 東京脳卒中診断治療研究会（第8回）（東京），2012. 2.

追加分特別講演：

- 1) 片山泰朗：脳卒中の危険因子とその対策：最近の話題を含めて. 美原記念病院講演会（群馬），2011. 5.
- 2) 石渡明子：アルツハイマー病の診断と治療. 武田薬品学術講演会（東京），2012. 3.
- 3) 山崎峰雄¹⁾（¹⁾日本医科大学 大学院研究科 神経内科学分野）：当院におけるアルツハイマー病診療：新規抗認知症薬の使用経験を中心に. Memory Alzheimers Disease Conference（第2回）（東京都中央区），2012. 2.
- 4) 山崎峰雄¹⁾（¹⁾日本医科大学内科学（神経内科学））：アルツハイマー型認知症治療薬の使い方を考える：Disease-modifying drugs の展望も含めて. 江戸川区医師会総合臨床研究会（東京都江戸川区），2012. 2.

(1) 会長講演：

- 1) 片山泰朗：私たちの脳卒中治療研究：基礎と臨床の crosstalk. 日本脳卒中学会総会（第38回）（東京），2013. 3.

(2) 特別講演：

- 1) 片山泰朗：ガイドラインを踏まえた脳梗塞の予防：最近の話題を含めて. ATIS Summit 2012 in TOHOKU（仙台），2012. 7.
- 2) 片山 泰朗：ガイドラインを踏まえた脳梗塞予防と最近の話題. 脳卒中地域医療連携プロジェクト2012（岡山），2012. 8.
- 3) 片山泰朗：虚血性脳傷害のメカニズムとその対策. 兵庫医科大学大学院講義（兵庫），2012. 7.

- 4) 三品雅洋：急性期病院での脳卒中治療。医療連携講演会（第8回）（三郷），2012. 5.
- 5) 三品雅洋：20分でわかる（？）アデノシン受容体。PD Review Conference（第3回）（東京），2012. 6.
- 6) 三品雅洋：認知症診断治療の最前線。流山地区認知症を考える会（流山），2012. 8.
- 7) 三品雅洋：認知症の診断・治療で今できること。健康長寿のための早期発見・早期治療：糖尿病と認知症を考える（川口），2012. 9.
- 8) 石渡明子：アルツハイマー病の診断と治療。小野薬品社内学術講演会（東京），2012. 4.
- 9) 石渡明子：認知症の診断と周辺症状への対応。Lecture Meeting 文京区医師会学術講演会（東京），2012. 6.
- 10) 石渡明子：物忘れが気になり出したら…：認知症の早期診断のために。中原区文化協会 文化講演会 シニアの健康セミナー（第2回）（川崎），2012. 12.
- 11) 片山泰朗：ガイドラインを踏まえた脳梗塞予防と最近の話題。脳卒中地域医療連携プロジェクト2012（岡山市），2012. 8.
- 12) 片山泰朗：大学からの新規脳保護の開発戦略。Brain Protection Forum（第9回）（東京都），2012. 10.
- 13) 片山泰朗：虚血性脳傷害のメカニズムとその対策。なにわ脳神経内科懇話会（なにわ会）（第21回）（大阪市），2012. 10.
- 14) 片山泰朗：ガイドラインを踏まえた脳卒中予防：最近の話題を含めて。札幌神経疾患研究会2012（札幌市），2012. 10.
- 15) 片山泰朗：ガイドラインを踏まえた脳梗塞予防と最近の話題。高知県脳卒中研究会学術講演会（第13回）（高知市），2012. 11.
- 16) 山崎峰雄¹⁾（¹日本医科大学 大学院研究科 神経内科学分野）：臨床実地医家のためのアルツハイマー型認知症診療。Alzheimer's Disease Conference in 2013（岩手県北上市），2013. 3.
- 17) 山崎峰雄¹⁾（¹日本医科大学 大学院研究科 神経内科学分野）：AD診断のpitfallと薬物療法のコツ。川口認知症カンファランス（埼玉県川口市），2013. 2.
- 18) 山崎峰雄¹⁾（¹日本医科大学 大学院研究科 神経内科学分野）：アルツハイマー型認知症の診断・治療のトピックス：AAIC2012の話題を含めて。Update on Dementia Treatment in Saitama（第1回）（埼玉県さいたま市），2012. 12.
- 19) 山崎峰雄¹⁾（¹日本医科大学 大学院研究科 神経内科学分野）：実地医家のための認知症診療。日本医科大学同窓会荒川支部総会（東京都文京区），2012. 11.
- 20) 山崎峰雄¹⁾（¹日本医科大学 大学院研究科 神経内科学分野）：アルツハイマー型認知症の治療戦略：新薬の使い分け。山梨脳血管障害研究会2012（山梨県甲府市），2012. 11.
- 21) 山崎峰雄¹⁾（¹日本医科大学附属病院神経内科）：認知症についてもっと知ろう！家族が認知症になったとき：医師の立場から。駒込地域包括支援センター 認知症介護者教室講演会（東京都文京区），2012. 9.
- 22) 山崎峰雄¹⁾（¹日本医科大学内科学（神経内科学））：アルツハイマー型認知症治療の実際：抗認知症薬をどう使うか？。沼津医師会学術講演会（静岡県沼津市），2012. 9.
- 23) 山崎峰雄¹⁾（¹日本医科大学内科学（神経内科学））：認知症治療における最近の話題：レミニールへの期待を含めて。Reminyl JWINC-TOKYO（東京都千代田区），2012. 4.
- 24) 山崎峰雄¹⁾（¹日本医科大学内科学（神経内科学））：アルツハイマー型認知症の治療戦略：新薬の使い分けを考える。静岡県中部リバスタッチパッチ発売1周年記念講演会（静岡県静岡市），2012. 8.
- 25) 山崎峰雄¹⁾（¹日本医科大学内科学（神経内科学））：認知症への実践的アプローチ：臨床診断のコツから治療薬の選択まで。小倉内科医会 実地医家シリーズ講演会（福岡県小倉市），2012. 8.
- 26) 山崎峰雄¹⁾（¹日本医科大学内科学（神経内科学））：アルツハイマー型認知症の治療戦略：新薬の使い分け。認知症最新治療研究会（神奈川県厚木市），2012. 7.
- 27) 山崎峰雄¹⁾（¹日本医科大学内科学（神経内科学））：アルツハイマー型認知症の治療戦略：新薬の使い分け。リ

バスチグミン発売1周年記念講演会 in 郡山 (福島県郡山市), 2012. 8.

- 28) 山崎峰雄¹⁾ (1) 日本医科大学内科学 (神経内科学): 日常診療でよくみかける神経症候へのアプローチ. I-I フォーラム -市川市医師会内科医会-東京歯科大学市川総合病院合同フォーラム-(第22回) (千葉県市川市), 2012. 7.
- 29) 山崎峰雄¹⁾ (1) 日本医科大学内科学 (神経内科学): 認知症をどう診断し, 治療するか: 新薬登場で対応はどう変わったか. 認知症フォーラム in 山形 (山形県山形市), 2012. 6.
- 30) 山崎峰雄¹⁾ (1) 日本医科大学内科学 (神経内科学): アルツハイマー型認知症の新たな治療戦略: 生活習慣病との関わりも含めて. 日本橋医師会学術講演会 (東京都中央区), 2012. 5.
- 31) 山崎峰雄¹⁾ (1) 日本医科大学内科学 (神経内科学): 当院もの忘れ外来概要とアルツハイマー型認知症の治療戦略: 連携による早期診断・治療をめざして. 浅草医師会講演会 (東京都台東区), 2012. 5.
- 32) 山崎峰雄¹⁾ (1) 日本医科大学内科学 (神経内科学): 国内外ガイドラインからみたアルツハイマー型認知症治療薬の位置付けについて. Rivastach Opinion leaders Meeting (第2回) (東京都千代田区), 2012. 4.
- 33) 山崎峰雄¹⁾ (1) 日本医科大学内科学 (神経内科学): 認知症が疑われた時の初期対応はどうしたらいい?: スクリーニングのコツから認知症の大まかな鑑別診断まで. 酒田地区医師会学術講演会 デメンシアコンgres in 酒田 (山形市酒田市), 2012. 4.

(3) 教育講演:

- 1) 桂研一郎: 意識障害の鑑別診断. 日本意識障害学会 (第21回) (山梨県富士吉田), 2012. 7.
- 2) 大久保誠二: 日本医科大学附属病院のストローク・ケア・ユニット (SCU) における脳梗塞治療. 日本脳卒中学会総会 (第38回) 市民公開講座 (ストップ脳卒中!!) (東京), 2013. 3.
- 3) 駒場祐一¹⁾ (1) 千葉北総病院 内科: 脳卒中中で注意すべき MR 画像. 東京脳卒中診断治療研究会 (第9回) (東京都), 2013. 1.

(4) シンポジウム:

- 1) 片山泰朗: 脳卒中治療ガイドライン: 高血圧と脳卒中. 臨床高血圧フォーラム (第1回) (大阪), 2012. 5.
- 2) 白田和弘: 脳血管障害 (内科). 日本頭痛学会総会 (第40回) (東京都), 2012. 11.
- 3) 大久保誠二, 片山泰朗: 急性期心原性脳塞栓の治療のポイントと今後の展望「新しい時代を迎えた心原性脳塞栓の予防と治療 (心と脳からなる新たな展開)」。日本循環器学会学術集会 (第77回) (横浜), 2013. 3.
- 4) 山崎峰雄¹⁾ (1) 日本医科大学内科学 (神経内科学): 「認知症の診断治療の Update」認知症の鑑別診断. 日本医科大学医学会公開「シンポジウム」(第22回) (東京都文京区), 2012. 6.
- 5) 上田雅之, 稲葉俊東, 仁藤智香子, 神谷信雄, 神谷文雄, 齋藤智成, 村賀香名子, 片山泰朗: 脳保護療法の進化: 現状と展望-新規脳保護療法: EPA. 日本脳卒中学会総会 (第38回) (東京), 2013. 3.
- 6) 勝又俊弥: 慢性腎臓病 (CKD) と脳卒中. 日本脳卒中学会総会 (第38回) (東京), 2013. 3.
- 7) 桂研一郎, 須田 智, 戸田論補, 金丸拓也, 太田成男, 片山泰朗: 脳保護療法の新しい試み. 日本脳卒中学会総会 (第38回) (東京), 2013. 3.

(5) セミナー:

- 1) 酒巻雅典: 若年性脳梗塞を発症した Fabry 病についての検討. 日本神経学会学術大会 (第53回) (東京), 2012. 5.
- 2) 山崎峰雄¹⁾ (1) 日本医科大学 大学院研究科 神経内科学分野: 実地医家のための認知症治療-抗認知症薬をどう使うか?-. 日本脳卒中学会総会 (第38回) (東京), 2013. 3.
- 3) 上田雅之: EPA の虚血性脳損傷に対する保護効果. 日本脳卒中学会総会 (第38回) (東京), 2013. 3.
- 4) 上田雅之: 脳卒中における血圧管理. 日本医科大学医療連携推進会 (第17回) (東京), 2012. 7.
- 5) 上田雅之: 脳梗塞の診断と治療について. 脳卒中病診連携セミナー (東京), 2012. 7.
- 6) 石渡明子: 認知機能障害の画像診断のピットフォール. 日本脳卒中学会総会 (第38回) (東京), 2013. 3.
- 7) 齋藤智成: 【基礎の立場から】ラット局所脳虚血モデルにおけるスタチンの脳保護効果. 日本脳卒中学会総会 (第

38回) (東京), 2013. 3.

8) 仁藤智香子: エタラボンの脳虚血に対する脳保護効果. 日本脳卒中学会総会 (第38回) (東京), 2013. 3.

(6) 一般講演:

- 1) Toda Y, Katsura K, Sakurazawa M, Kanamaru T, Inaba T, Saito M, Katayama Y: Protective Effects of Aspirin Plus Cilostazol Combination Therapy. Asia Pacific Stroke Conference 2012 (Tokyo, Japan), 2012. 9.
- 2) Saito T, Nito C, Ueda M, Inaba T, Kamiya F, Katayama Y: Post-Treatment with Atorvastatin Reduces Inflammatory Responses and Protects Rat Brain after Transient Focal Ischemia. Asia Pacific Stroke Conference 2012 (Tokyo, Japan), 2012. 9.
- 3) Ueda M, Inaba T, Nito C, Kamiya F, Kamiya N, Katayama Y: Pretreatment with Ethyl Eicosapentaenoic Acid Prevents Endothelial Rho-Kinase Activation and Infarct Expansion Following Transient Focal Ischemia in Rat Brain. Asia Pacific Stroke Conference 2012 (Tokyo, Japan), 2012. 9.
- 4) Abe A, Matsumoto G¹⁾, Kanamaru T, Kamiya N, Suda S, Okubo S, Mishina M, Katsura K, Yokota H¹⁾, Katayama Y (¹⁾ Department of Emergency Medicine): Use of the Merci Retrieval System in Our Medical Center: An Initial Progress. Asia Pacific Stroke Conference 2012 (Tokyo), 2012. 9.
- 5) 平間章郎, 内海甲一, 三井亜希子, 酒巻雅典, 金子朋広, 飯野靖彦, 片山泰朗: Fabry病患者スクリーニングのための尿沈査卵円形脂肪体 (maltese cross) の有用性. 日本内科学会講演会 (第109回) (京都), 2012. 4.
- 6) 須田 智, 大久保誠二, 勝又俊弥, 阿部 新, 金丸拓也, 鈴木健太郎, 三品雅洋, 上田雅之, 桂研一郎, 片山泰朗: 急性期脳梗塞患者におけるEPA/AA比の臨床的意義. 日本内科学会講演会 (第109回) (京都), 2012. 4.
- 7) 永山 寛, 片山泰朗: 下垂体腺腫患者でのカベルゴリン使用と心臓弁逆流の検討. 日本内科学会講演会 (第109回) (京都), 2012. 4.
- 8) 阿部 新, 須田 智, 大久保誠二, 西山康裕, 村賀香名子, 原田未那, 三品雅洋, 上田雅之, 桂研一郎, 片山泰朗: 塞栓源不明の脳梗塞患者における経食道心エコー上の大動脈壁肥厚の検討. 日本内科学会講演会 (第109回) (京都), 2012. 4.
- 9) 酒巻雅典, 内海甲一, 平間章郎, 神谷信雄, 須田 智, 阿部 新, 大久保誠二, 福地孝明¹⁾, 片山泰朗 (¹⁾ 府中恵仁会 神経内科): 脳梗塞を発症したFabry病についての検討. 日本内科学会講演会 (第109回) (京都), 2012. 4.
- 10) 福井めぐみ, 三井亜希子, 藤田恵美子, 金子朋広, 飯野靖彦, 片山泰朗, 益田幸成¹⁾, 清水 章¹⁾ (¹⁾ 解析人体病理学): 分節性硬化病変を伴う特発性膜性腎症の臨床病理学的検討. 日本内科学会講演会 (第109回) (京都), 2012. 4.
- 11) 酒巻雅典, 水越元気¹⁾, 内海甲一, 阿部 新, 須田 智, 神谷信雄, 大久保誠二, 三品雅洋, 福地孝明¹⁾, 片山泰朗 (¹⁾ 府中恵仁会病院 脳神経内科): Fabry病における脳梗塞の特徴. 日本脳卒中学会総会 (第37回) (福岡), 2012. 4.
- 12) 松本 学¹⁾, 鈴木 剛¹⁾, 関厚二郎¹⁾, 恩田秀賢¹⁾, 布施 明¹⁾, 横田裕行¹⁾, 阿部 新, 桂研一郎, 片山泰朗 (¹⁾ 高度救命救急センター): 救命救急センターにおける急性期重症脳梗塞に対する脳血管内治療. 日本脳卒中学会総会 (第37回) (福岡), 2012. 4.
- 13) 齊藤智成, 仁藤智香子, 上田雅之, 稲葉俊東, 須田 智, 神谷信雄, 神谷文雄, 片山泰朗: ラット一過性局所脳虚血モデルにおける atorvastatin の虚血後経口投与による脳保護効果の検討. 日本脳卒中学会総会 (第37回) (福岡), 2012. 4.
- 14) 阿部 新, 松本 学¹⁾, 金丸拓也, 神谷信雄, 須田 智, 大久保誠二, 三品雅洋, 上田雅之, 桂研一郎, 片山泰朗 (¹⁾ 高度救命救急センター): 当施設における Merci retrieval system の初期経験. 日本脳卒中学会総会 (第

- 37回) (福岡), 2012. 4.
- 15) 小林友紀, 酒巻雅典, 阿部 新, 須田 智, 神谷文雄, 大久保誠二, 三品雅洋, 上田雅之, 桂研一郎, 片山泰朗: 分節性の感覚障害と排尿障害を示した延髄外側梗塞の1例. 日本脳卒中学会総会 (第37回) (福岡), 2012. 4.
 - 16) 金丸拓也, 須田 智, 渡辺容子, 勝又俊弥, 大久保誠二, 三品雅洋, 上田雅之, 桂研一郎, 片山泰朗: 急性期脳梗塞の予後予測因子としての蛋白尿. 日本脳卒中学会総会 (第37回) (福岡), 2012. 4.
 - 17) 大久保誠二, 阿部 新, 須田 智, 神谷信雄, 酒巻雅典, 三品雅洋, 片山泰朗: SCUに入院した急性期脳梗塞患者の頭痛と右左シャントの検討. 日本脳卒中学会総会 (第37回) (福岡), 2012. 4.
 - 18) 福地孝明¹⁾, 水越元気¹⁾, 陶山大輔¹⁾, 片山泰朗 (1) 府中恵仁会病院 脳卒中内科): 市中病院での脳梗塞急性期rt-PA療法での閉塞血管別再開通率, 治療成績などの検討. 日本脳卒中学会総会 (第37回) (福岡), 2012. 4.
 - 19) 神谷文雄, 上田雅之, 仁藤智香子, 稲葉俊東, 須田 智, 斉藤智成, 神谷信雄, 片山泰朗: ラット一過性局所脳虚血モデルに対する他家骨髄単核球細胞移植・複数回投与の検討. 日本脳卒中学会総会 (第37回) (福岡), 2012. 4.
 - 20) 有井一正¹⁾, 長尾毅彦^{1,2)}, 高山洋平¹⁾, 小林美紀¹⁾, 岡村正哉¹⁾, 片山泰朗, 田久保秀樹¹⁾ (1) 東京都保健医療公社 荏原病院 総合脳卒中センター神経内科, 2) 東京女子医科大学 神経内科): 非心原性脳梗塞患者における脂質および脂肪酸値と頸動脈max IMTの対応に関する検討 (第2報). 日本脳卒中学会総会 (第37回) (福岡), 2012. 4.
 - 21) 鈴木健太郎^{1,2)}, 大久保誠二, 中嶋信人²⁾, 野村浩一²⁾, 須田 智, 赤路和則¹⁾, 美原 盤¹⁾, 片山泰朗 (1) 財団法人 脳血管研究所 美原記念病院 脳神経内科, 2) 北村山公立病院): 急性期脳梗塞患者における頸動脈プラークと血清脂肪酸の検討. 日本脳卒中学会総会 (第37回) (福岡), 2012. 4.
 - 22) 須田 智, 大久保誠二, 勝又俊弥, 金丸拓也, 阿部 新, 鈴木健太郎, 渡辺容子, 上田雅之, 桂研一郎, 片山泰朗: 脳梗塞急性期におけるEPA/AA比の意義. 日本脳卒中学会総会 (第37回) (福岡), 2012. 4.
 - 23) 戸田論輔, 桂研一郎, 桜澤 誠, 金丸拓也, 稲葉俊東, 斉藤萌子, 片山泰朗: AspirinとCilostazol併用前投与による脳保護効果の検討. 日本脳卒中学会総会 (第37回) (福岡), 2012. 4.
 - 24) 三品雅洋, 神谷信雄, 阿部 新, 須田 智, 酒巻雅典, 大久保誠二, 小南修史¹⁾, 水成隆之¹⁾, 小林士郎¹⁾, 片山泰朗 (1) 千葉北総病院 脳神経外科): 中枢性肺胞低換気症候群を呈した延髄梗塞例における気管切開術の効果. 日本脳卒中学会総会 (第37回) (福岡), 2012. 4.
 - 25) 石渡明子, 水村 直¹⁾, 山崎峰雄, 片山泰朗 (1) 東邦大学医療センター大森病院 放射線科): 塩酸ドネペジルのVSRAD advanceを用いた海馬萎縮に対する保護効果の評価. 日本神経学会学術大会 (第53回) (東京), 2012. 5.
 - 26) 神谷信雄, 濱本 真, 三品雅洋, 原田未那, 片山泰朗: Paroxysmal kinesigenic choreoathetosisにおけるSPECT所見と病態についての検討. 日本神経学会学術大会 (第53回) (東京), 2012. 5.
 - 27) 酒巻雅典, 金丸拓也, 高山洋平, 小林美香, 野上 茜, 熊谷 智, 阿部 新, 須田 智, 大久保誠二, 永山 寛, 上田雅之, 山崎峰雄, 福地孝明, 片山泰朗: 呼吸器疾患を合併したNMO関連疾患の3例. 日本神経学会学術大会 (第53回) (東京), 2012. 5.
 - 28) 三品雅洋, 石渡喜一¹⁾, 石井賢二, 北村 伸, 長縄美香, 木村裕一, 鈴木正彦, 橋本昌也, 石橋賢士, 坂田宗之, 織田圭一, 豊原 潤, 濱本 真, 小林士郎, 片山泰朗 (1) 地方独立行政法人 東京都健康長寿医療センター研究所 神経画像研究チーム): ジスキネジアを呈するパーキンソン病では被殻アデノシンA_{2A}受容体は増加する. 日本神経学会学術大会 (第53回) (東京), 2012. 5.
 - 29) 神谷信雄, 上田雅之, 仁藤智香子, 稲葉俊東, 須田 智, 斉藤智成, 神谷信雄, 片山泰朗: ラット一過性局所脳虚血モデルにおける他家骨髄単核球細胞移植治療・2回投与の検討. 日本神経学会学術大会 (第53回) (東京), 2012. 5.
 - 30) 戸田論輔, 桂研一郎, 桜澤 誠, 金丸拓也, 稲葉俊東, 斉藤萌子, 片山泰朗: AspirinとCilostazol併用前投与

- による脳保護効果の免疫染色学的検討. 日本神経学会学術大会 (第 53 回) (東京), 2012. 5.
- 31) 齊藤智成, 仁藤智香子, 上田雅之, 稲葉俊東, 須田 智, 神谷信雄, 神谷文雄, 片山泰朗: ラット一過性局所脳虚血モデルにおける atorvastatin 投与時期による脳保護効果の検討. 日本神経学会学術大会 (第 53 回) (東京), 2012. 5.
 - 32) 清水まり子, 三井亜希子, 金子朋広, 飯野靖彦, 片山泰朗: 短腸症候群から透析導入し, その後の管理に苦慮した 1 例. 社団法人 日本透析医学会学術集会・総会 (第 57 回) (札幌), 2012. 6.
 - 33) 樋上信幸¹⁾, 仲田将義¹⁾, 新谷 剛¹⁾, 楠 正昭¹⁾, 西邨俊吾²⁾, 齋藤サビーネ京子²⁾, 鎌野千佐子²⁾, 大沢弘和²⁾, 柏木哲也, 橋本和政, 飯野靖彦, 片山泰朗 (¹⁾ (財) 博慈会腎クリニック ME 機器管理課, ²⁾ (財) 博慈会腎クリニック腎臓内科): HDF 専用の MFX15eco の性能比較. 社団法人 日本透析医学会学術集会・総会 (第 57 回) (札幌), 2012. 6.
 - 34) 谷 崇, 石原 力, 清水まり子, 福田久美子, 渡辺容子, 有馬留志, 平間章郎, 三井亜希子, 上田佳恵, 藤田恵美子, 酒巻雅典, 金子朋広, 内海甲一, 飯野靖彦, 片山泰朗, その他 1 名: 可逆的な大脳深部白室病変に伴う, 急激に進行する認知症を主訴に入院し, 特発性後腹膜線維症による腎後性腎不全と診断された 1 例. 社団法人 日本透析医学会学術集会・総会 (第 57 回) (札幌), 2012. 6.
 - 35) 高山洋平, 阿部 新, 戸田論補, 原田未那, 片野雄大, 三品雅洋, 上田雅之, 桂研一郎: 抗リン脂質抗体症候群合併妊娠にアスピリン, ヘパリン治療中に一過性脳虚血発作を起こした 1 例. The Mt. Fuji Workshop on CVD (第 31 回) (大阪), 2012. 8.
 - 36) 吉田知史, 滝沢まどか, 太田智大, 熊谷智昭, 神谷信雄, 酒巻雅典, 永山 寛, 山崎峰雄, 片山泰朗: 軽微な臨床症状と CK 高値にて発症し, サルコイドーシスミオパチーと診断された 40 歳女性例. 日本医科大学医学会総会 (第 80 回) (東京), 2012. 9.
 - 37) 片野雄大, 金丸拓也, 阿部 新, 大久保誠二, 高山洋平, 原田未那, 片山泰朗: 椎骨脳底動脈解離による脳梗塞発症機序の検討. 日本医科大学医学会総会 (第 80 回) (東京), 2012. 9.
 - 38) Nito C, Inaba T, Ueda M, Saito T, Katayama Y: Neuroprotective effects of nicergoline against brain damage in a rat model of permanent focal cerebral ischemia. Neuroscience2012 (New Orleans, U.S.A), 2012. 10.
 - 39) 金丸拓也, 須田 智, 斎藤萌子, 桂研一郎, 片山泰朗: ラット一過性局所脳虚血モデルにおけるバルプロ酸の神経保護効果の検討. 日本脳循環代謝学会総会 (第 24 回) (広島), 2012. 11.
 - 40) Okubo S, Katayama Y: Predicting the Progressing Stroke of Deep White Matter Infarction with Diffusion and Perfusion Magnetic Resonance Imaging. Asia Pacific Stroke Conference 2012 (Tokyo, Japan), 2012. 9.
 - 41) Kamiya F, Ueda M, Nito C, Kamiya N, Inaba T, Suda S, Saito T, Katayama Y: Dual Transplantation of Allogeneic Bone Marrow Mononuclear Cells Show Further Neuroprotection in Rat Transient Focal ischemia Model. Asia Pacific Stroke Conference 2012 (Tokyo, Japan), 2012. 9.
 - 42) 三品雅洋, 鈴木正彦¹⁾, 石井賢二²⁾, 北村 伸, 長縄美香²⁾, 木村裕一²⁾, 橋本昌也¹⁾, 坂田宗之²⁾, 織田圭一²⁾, 豊原 潤²⁾, 小林士郎³⁾, 片山泰朗, 石井喜一²⁾ (¹⁾ 東京慈恵会医科大学附属青戸病院 神経内科, ²⁾ 東京都健康長寿医療センター 研究所 神経画像研究チーム, ³⁾ 日本医大千葉北総病院 脳神経外科): ジスキネジアを呈するパーキンソン病における被殻アデノシン A_{2A} 受容体密度: ¹¹C TMSX PET を用いた検討. 日本脳循環代謝学会総会 (第 24 回) (広島), 2012. 11.
 - 43) Saito T, Nito C, Inaba T, Kamiya F, Katayama Y: Neuroprotective effects of post-treatment with atorvastatin against brain injury after transient focal ischemia in rats. Neuroscience 2012 (New Orleans, U.S.A), 2012. 10.
 - 44) 齊藤智成, 仁藤智香子, 上田雅之, 稲葉俊東, 神谷文雄, 片山泰朗: ラット局所脳虚血モデルにおける atorvastatin 後投与の脳保護作用の検討. 日本脳循環代謝学会総会 (第 24 回) (広島), 2012. 11.

- 45) 齋藤智成, 仁藤智香子, 上田雅之, 稲葉俊東, 神谷文雄, 片山泰朗: ラット一過性脳虚血モデルにおける atorvastatin の虚血後経口投与の有効性の検討. 日本神経治療学会総会 (第 30 回) (北九州), 2012. 11.
- 46) 永山 寛: 血中レボドーパ動態に与えるペプシノーゲンの濃度の影響. パーキンソン病・運動障害疾患コンgres (第 6 回) (京都市), 2012. 10.
- 47) 阿部 新, 大久保誠二, 高山洋平, 原田未那, 片野雄大, 吉田知史, 三品雅洋, 上田雅之, 桂研一郎, 片山泰朗: 自衛隊訓練中に頭蓋外椎骨動脈を解離を来した壮年女性の 1 例. 日本頭痛学会総会 (第 40 回) (東京都), 2012. 11.
- 48) 仁藤智香子, 齋藤智成, 稲葉俊東, 神谷文雄, 上田雅之, 片山泰朗: ラット中大脳動脈閉塞モデルにおける nicergoline の脳保護効果の検討. 日本脳循環代謝学会総会 (第 24 回) (広島市), 2012. 11.
- 49) 神谷文雄, 上田雅之, 仁藤智香子, 稲葉俊東, 須田 智, 齋藤智成, 神谷信雄, 片山泰朗: ラット一過性局所脳虚血モデルにおける急性期他家骨髄単核球細胞移植の therapeutic time window の検討. 日本脳循環代謝学会総会 (第 24 回) (広島市), 2012. 11.
- 50) 太田智大, 熊谷智昭, 永山 寛, 山崎峰雄, 片山泰朗: ステロイド剤, 免疫抑制薬に治療抵抗性も, 2 回の γ グロブリン大量療法が奏効した多発筋炎の 61 歳男性例. 日本神経治療学会総会 (第 30 回) (北九州市), 2012. 11.
- 51) 熊谷智昭, 太田智大, 永山 寛, 山崎峰雄, 片山泰朗: V-P シヤント術が奏効した髄膜癌腫症の 72 歳男性例. 日本神経治療学会総会 (第 30 回) (北九州市), 2012. 11.
- 52) 白田和弘, 石渡明子, 桂研一郎, 片山泰朗: 薬物乱用頭痛患者におけるうつ状態の検討. 日本頭痛学会総会 (第 40 回) (東京都), 2012. 11.
- 53) 喜多村孝雄¹⁾, 高山洋平, 大久保誠二, 片野雄大, 吉田知史, 原田未那, 阿部 新, 上田雅之, 片山泰朗 (¹⁾ 日本医科大学付属病院脳神経外科): 橋本病を合併し脳静脈洞血栓症と診断した 1 例. 日本頭痛学会総会 (第 40 回) (東京都), 2012. 11.
- 54) 阿部 新, 西山康裕, 大久保誠二, 須田 智, 村賀香名子, 齋藤智成, 金丸拓也, 原田未那, 上田雅之, 桂研一郎, 片山泰朗: 塞栓源不明の脳梗塞患者における経食道心エコー上の大動脈壁肥厚の検討. 日本神経学会学術大会 (第 53 回) (東京), 2012. 5.
- 55) 阿部 新, 西山康裕¹⁾, 大久保誠二, 須田 智, 村賀香名子, 齋藤智成, 金丸拓也, 原田未那, 上田雅之, 桂研一郎, 片山泰朗 (¹⁾ 高度救命救急センター): 当施設における MERCI retrieval system の初期経験. 日本頸部脳血管内治療学会 (第 11 回) (名古屋), 2012. 6.
- 56) 阿部 新, 大久保誠二, 原田未那, 高山洋平, 戸田諭補, 片野雄大, 神谷信雄, 須田 智, 西山康裕, 三品雅洋, 上田雅之, 桂研一郎, 足立眞理, 倉 禎二, 片山泰朗: 実臨床におけるアクロレインによる無症候性脳梗塞, 脳室周囲白質病変の検出率の検討について. 日本脳ドック学会総会 (第 21 回) (広島), 2012. 6.
- 57) 阿部 新, 大久保誠二, 片野雄大, 原田未那, 高山洋平, 戸田諭補, 三品雅洋, 上田雅之, 桂研一郎, 片山泰朗: 妊娠中に奇異性脳塞栓にて一過性脳虚血発作を発症し, 分娩後に潰瘍性大腸炎と診断された 1 例. The Mt. Fuji workshop on CVD (第 31 回) (大阪), 2012. 8.
- 58) 阿部 新, 松本 学¹⁾, 高山洋平, 原田未那, 片野雄大, 大久保誠二, 三品雅洋, 上田雅之, 桂研一郎, 横田裕之¹⁾, 片山泰朗 (¹⁾ 高度救命救急センター): 急性期血行再建術における Penumbra システムの初期経験. NPO 法人日本脳神経血管内治療学会学術総会 (第 28 回) (仙台), 2012. 11.
- 59) 仁藤智香子, 齋藤智成, 稲葉俊東, 神谷文雄, 上田雅之, 片山泰朗: ラット中大脳動脈閉塞モデルにおける nicergoline の脳保護効果の検討. 脳循環代謝学会総会 (第 24 回) (広島), 2012. 11.
- 60) 仁藤智香子, 齋藤智成, 稲葉俊東, 上田雅之, 片山泰朗: ラット中大脳動脈永久閉塞モデルにおける nicergoline の脳保護作用の検討. 日本神経治療学会総会 (第 30 回) (北九州), 2012. 11.
- 61) 金子朋広, 平間章郎, 有馬留志, 石原 力, 藤野鉄平, 渡辺容子, 安田文彦, 福井めぐみ, 福田久美子, 谷

- 崇, 池田まり子, 上田佳恵, 柏木哲也, 飯野靖彦, 片山泰朗, その他 1 名: 離島における腹膜透析 苦勞した 3 症例を通して. 社団法人 日本透析医学会学術集会 (第 57 回) (札幌), 2012. 6.
- 62) 金子朋広, 上田佳恵, 三井亜希子, 藤田恵美子, 清水 章, 飯野靖彦, 片山泰朗 (1) 解析人体病理学): IgA 腎症の重症度リスク群別における扁桃パルス + ミゾリビン併用療法の治療効果. 日本腎臓学会学術総会 (第 55 回) (横浜), 2012. 6.
- 63) 永山 寛, 濱本 真, 大久保誠二, 三品雅洋, 熊谷智昭, 片山泰朗: パーキンソン病の進行に関する pramipexole の影響・予備的検討. 日本神経学会学術大会 (第 53 回) (東京), 2012. 5.
- 64) Mishina M, Kimura Y, Sakata M, Ishii K, Oda K, Toyohara J, Katayama Y: Age-related Decrease in Human Extra-striatal Adenosine A1 Receptors Measured with ¹¹C MPDX PET. Purine 2012 (Fukuoka), 2012. 6.
- 65) Mishina M, Kim K¹), Kobayashi S¹), Katayama Y (1) Neurological Institute, Nippon Medical School Chiba-Hokusoh Hospital): Relationship between Polyunsaturated Fatty Acids Level and Acute Ischemic Stroke in a Japanese Farming Area.. Asia Pacific Stroke Conference 2012 (Tokyo), 2012. 9.
- 66) 三品雅洋, 石井賢二, 鈴木正彦, 北村 伸, 橋本昌也, 木村裕一, 坂田宗之, 織田圭一, 豊原 潤, 片山泰朗, 石渡喜一: ¹¹C MPDX PET を用いた未治療パーキンソン病における被殻アデノシン A1 受容体結合脳. 日本核医学会学術総会 (第 52 回) (札幌), 2012. 10.
- 67) 酒巻雅典, 内海甲一, 永山 寛, 三品雅洋, 片山泰朗: 脳卒中発症後, 尿中卵円形脂肪体が診断の契機となった Fabry 病の女性例. 日本神経学会関東・甲信越地方会 (第 203 回) (東京), 2012. 12.
- 68) Mishina M, Ishii K¹), Suzuki M^{1,2)}, Kitamura S³⁾, Hashimoto M^{1,2)}, Kimura Y^{1,4)}, Sakata M¹⁾, Oda K¹⁾, Toyohara J¹⁾, Kobayashi S⁵⁾, Katayama Y, Ishiwata K¹⁾ (1) Positron Medical Center, Tokyo Metropolitan Institute of Gerontology, 2) Department of Neurology, The Jikei University School Of Medicine, 3) Department of Internal Medicine, Nippon Medical School Musashi Kosugi Hospital, 4) Molecular Imaging Center, National Institute of Radiological Sciences, 5) Department of Neurosurgery, Nippon Medical School Chiba Hokusoh Hospital): Evaluation of putaminal adenosine A₁ receptors in drug naive Parkinsons disease measured with ¹¹C MPDX PET.. International Congress of Parkinsons Disease and Movement Disorders (The 16th) (Dubline, Ireland), 2012. 6.
- 69) Toda Y, Katsura K, Sakurazawa M, Kanamaru T, Inaba T, Saito M, Katayama Y: Protective effects of pre-medicated anti-platelet combination therapy in focal cerebral ischemia rat model.. Asia Pacific Stroke Conference (Shinjyuku, Japan), 2012. 9.
- 70) 永山 寛¹⁾, 濱本 真¹⁾, 片山泰朗¹⁾ (1) 日本医科大学 神経内科): 多系統萎縮症患者の MIBG 心筋シンチグラフィの経時的変化. 日本自律神経瓦解総会 (東京), 2012. 10.
- 71) 大久保誠二, 片山泰朗: 高血圧を伴う慢性期脳梗塞患者におけるロサルタン 50mg/ヒドロクロロチアジド 12.5mg 配合錠の 24 時間血圧に与える影響. 日本高血圧学会総会 (第 35 回) (名古屋), 2012. 9.
- 72) 大久保誠二, 阿部 新, 片野雄大, 吉田知史, 高山洋平, 原田未那, 上田雅之, 三品雅洋, 片山泰朗: 急性期脳梗塞に対するスタチンの効果. 日本脳卒中学会総会 (第 38 回) (東京), 2013. 3.
- 73) 吉田知史, 原田未那, 高山洋平, 阿部 新, 大久保誠二, 片山泰朗: 後頭葉梗塞による認知機能障害の検討. 日本脳卒中学会総会 (第 38 回) (東京), 2013. 3.
- 74) 須崎 真^{1, 2)}, 大久保誠二, 阿部 新, 神谷信雄, 須田 智, 上田雅之, 三品雅洋, 小原俊彦¹⁾, 桂研一郎, 安武正弘¹⁾, 川井 真^{1, 2)}, 横田裕行²⁾, 片山泰朗 (1) 日本医科大学付属病院 総合診療センター, 2) 日本医科大学大学院医学研究科 救急医学): 脳卒中患者における血清 K 値に関する検討. 日本脳卒中学会総会 (第 38 回) (東京), 2013. 3.
- 75) 片野雄大, 大久保誠二, 金丸拓也, 吉田知史, 原田未那, 高山洋平, 阿部 新, 上田雅之, 三品雅洋, 片山泰

- 朗：脳動脈解離による脳梗塞の発症機序の検討。日本脳卒中学会総会（第38回）（東京），2013。3。
- 76) 野村浩一¹⁾ (1) 塩田病院 神経内科)：椎骨動脈解離による Wallenberg 症候群を呈した若年男性の1症例。東京脳卒中診断治療研究会（第9回）（東京都），2013。1。
- 77) 原田未那：当科で経験した CADASIL の症例。東京脳卒中診断治療研究会（第9回）（東京都），2013。1。
- 78) 阿部 新：頸動脈狭窄証に対する CAS を用いた治療経験。東京脳卒中診断治療研究会（第9回）（東京都），2013。1。
- 79) 上田雅之，稲葉俊東，仁藤智香子，神谷信雄，齋藤智成，神谷文雄，村賀香名子，片山泰朗：ラット一過性局所脳虚血モデルにおける ω 3 多価不飽和脂肪酸 EPA の脳保護効果。女子医大・日本医大 NEURO-CONFERENCE2013（東京都），2013。2。
- 80) 長尾毅彦¹⁾，有井一正²⁾，田久保秀樹²⁾，片山泰朗，内山真一郎¹⁾ (1) 東京女子医科大学 神経内科，2) 東京都保健医療公社荏原病院 総合脳卒中センター)：非弁膜症性心房細動による心原性脳塞栓症の発症前治療状況の変化。日本神経治療学会総会（第30回）（北九州），2012。11。
- 81) 戸田諭補，桂研一郎，桜澤 誠，金丸拓也，稲葉俊東，齋藤萌子，片山泰朗：抗血小板薬併用による脳保護効果の検討。日本神経治療学会総会（第30回）（北九州），2012。11。
- 82) 神谷信雄，上田雅之，稲葉俊東，片山泰朗：ラット一過性脳虚血モデルにおける ibudilast 前投与による脳保護効果の検討。日本神経治療学会総会（第30回）（北九州市），2012。11。
- 83) 上田雅之，仁藤智香子，神谷文雄，齋藤智成，神谷信雄，片山泰朗：ラット局所脳虚血モデルにおける EPA-E 前投与の血管内皮・Rho-キナーゼ活性化に対する効果の検討。日本神経治療学会総会（第30回）（北九州市），2012。11。
- 84) 小柳清光¹⁾，望月葉子²⁾，中山優季³⁾，林健太郎⁴⁾，清水俊夫⁴⁾，長尾雅裕⁴⁾，橋本智代¹⁾，山崎峰雄⁵⁾，松原四郎⁴⁾，小森隆司⁶⁾ (1) 信州大学神経難病学講座，2) 都立北療育医療センター神経内科，3) 医学総合研究所難病ケア看護，4) 都立神経病院脳神経内科，5) 日本医大神経内科，6) 都立神経病院検査科病理)：ALS とブレインマシンインターフェース：完全閉じこめ状態でも保たれる神経経路。日本神経学会学術集会（第53回）（東京都千代田区），2012。5。
- 85) 野上 茜¹⁾，山崎峰雄²⁾，齊藤祐子³⁾，伊藤慎治¹⁾，舟辺さやか¹⁾，初田裕幸¹⁾，高尾昌樹¹⁾，片山泰朗²⁾，村山繁雄¹⁾ (1) 東京都老人総合研究所高齢者ブレインバンク，2) 日本医科大学内科学（神経内科学），3) 国立精神神経医療研究センター病院臨床検査部)：進行性核上性麻痺の早期病変-進行性核上性麻痺の prodromal stage は病理学的に捉えられるか。日本神経学会学術集会（第53回）（東京都千代田区），2012。5。
- 86) 野上 茜¹⁾，齊藤祐子²⁾，崎山快夫³⁾，伊藤慎治¹⁾，舟辺さやか¹⁾，初田裕幸¹⁾，高尾昌樹¹⁾，山崎峰雄⁴⁾，村山繁雄¹⁾ (1) 東京都健康長寿医療センター 高齢者ブレインバンク，2) 国立精神・神経医療研究センター病院臨床検査部，3) 自治医科大学付属さいたま医療センター神経内科，4) 日本医科大学内科学（神経内科学)：進行性非流暢性失語を呈した進行性核上性麻痺（PSP）の2剖検例。日本神経病理学会総会学術研究会（第53回）（新潟県新潟市），2012。6。
- 87) 上田雅之，稲葉俊東，仁藤智香子，神谷文雄，齋藤智成，神谷信雄，村賀香名子，片山泰朗：ラット一過性局所脳虚血後の血管内皮 Rho-キナーゼ活性化に対する EPA-E の効果。日本脳卒中学会総会（第38回）（東京），2013。3。
- 88) 阿部 新，西山 稜¹⁾，角南英子²⁾，桜澤 誠²⁾，大久保誠二，原田未那，三品雅洋，上田雅之，桂研一郎，片山泰朗 (1) 千葉北総病院 神経内科，2) 医療法人 SHIODA 塩田病院 神経内科)：動脈硬化と歯周病菌感染の関連についてのパイロット研究。日本脳卒中学会総会（第38回）（東京），2013。3。
- 89) 金丸拓也，須田 智，渡辺容子，勝又俊弥，大久保誠二，三品雅洋，上田雅之，桂研一郎，片山泰朗：急性期脳梗塞における蛋白尿の臨床的意義。日本脳卒中学会総会（第38回）（東京），2013。3。
- 90) 有井一正¹⁾，小林美紀¹⁾，岡村正哉¹⁾，長尾毅彦²⁾，片山泰朗，田久保秀樹¹⁾ (1) 東京都保健医療公社 荏原病院

総合脳卒中センター神経内科, 2) 東京女子医科大学 神経内科): 頸動脈プラークのサロゲートマーカーとしての Lp (a) および Lp (a) + LDL-C の有用性についての検討. 日本脳卒中学会総会 (第 38 回) (東京), 2013. 3.

- 91) 原田未那, 大久保誠二, 阿部 新, 高山洋平, 片野雄大, 吉田知史, 上田雅之, 三品雅洋, 桂研一郎, 片山泰朗: 脳梗塞症例における大動脈壁肥厚および潰瘍の予測因子検討. 日本脳卒中学会総会 (第 38 回) (東京), 2013. 3.
- 92) 神谷信雄, 上田雅之, 稲葉俊東, 片山泰朗: Ibudilast 前投与によるラット脳梗塞モデルにおける脳保護効果の検討. 日本脳卒中学会総会 (第 38 回) (東京), 2013. 3.
- 93) 神谷文雄: 八丈島における脳卒中医療. 日本脳卒中学会総会 (第 38 回) (東京), 2013. 3.
- 94) 鈴木健太郎¹⁾, 神澤孝夫¹⁾, 木村浩晃²⁾, 狩野忠滋³⁾, 赤路和則³⁾, 谷崎義生³⁾, 片山泰朗, 美原 盤¹⁾ (1) 脳血管研究所 美原記念病院 脳卒中部門, 2) 脳血管研究所 美原記念病院 神経内科, 3) 脳血管研究所 美原記念病院 脳神経外科): rt-PA 静注療法の長期予後: 当施設の 3 年予後の検討. 日本脳卒中学会総会 (第 38 回) (東京), 2013. 3.
- 95) 高山洋平, 大久保誠二, 阿部 新, 吉田知史, 片野雄大, 原田未那, 戸田論補, 上田雅之, 桂研一郎, 片山泰朗: 当院における経静脈的血栓溶解療法に対するリスク評価指標の検討. 日本脳卒中学会総会 (第 38 回) (東京), 2013. 3.
- 96) 村賀香名子¹⁾, 野村浩一¹⁾, 枝川聖子¹⁾, 藤原正和¹⁾, Mohammad G¹⁾, 片山泰朗 (1) 老人病研究所 分子細胞構造学): SHRSF ラットにおけるスタチンおよびカルシウム拮抗薬併用による脳卒中の予防効果の検討. 日本脳卒中学会総会 (第 38 回) (東京), 2013. 3.
- 97) 稲葉俊東, 上田雅之, 神谷信雄, 仁藤智香子, 大久保誠二, 神谷文雄, 齊藤智成, 村賀香名子, 片山泰朗: ラット中大脳動脈永久閉塞モデルにおける ibudilast の脳保護効果の検討. 日本脳卒中学会総会 (第 38 回) (東京), 2013. 3.

(7) 特別企画:

- 1) 白田和弘: 脳血管障害 (内科) (2 次性頭痛の現状と展望). 日本頭痛学会総会 (第 40 回) (東京), 2012. 11.

[千葉北総病院神経内科]

研究概要

北総病院神経内科においては、倫理委員会、IRB の承認の基、以下の臨床研究を行っている。(1) 認知機能障害における脳画像統計解析の多施設共同研究 2006-(2) 脳血管疾患の再発に対する高脂血症治療薬 HMG-CoA 還元酵素阻害薬の予防効果に関する研究 (J-STARS) 2006-(3) 高脂血症治療薬 HMG-CoA 還元酵素阻害薬の高感度 CRP 濃度へ及ぼす効果に関する研究 (高感度 CRP サブスタディ) 2006-(4) ピリドスチグミンによる起立性低血圧の治療 2008-また、東京都健康長寿医療センター研究所 (旧東京都老人総合研究所)、放射線医学総合研究所、東京慈恵会医科大学と共同で、PET を用いて脳内アデノシン A1 および A2A 受容体を指標とした加齢変化およびパーキンソン病の病態解明の研究を行っている

研究業績

論文

[追加分]

追加分原著:

- 1) Shinohara Y¹⁾, Katayama Y²⁾, Uchiyama S³⁾, Yamaguchi T⁴⁾, Handa S⁵⁾, Matsuoka K⁶⁾, Ohashi Y⁷⁾, Tanahashi N⁸⁾, Yamamoto H⁹⁾, Genka C, Kitagawa Y, Kusuoka H, Nishimaru K, Tsushima M, Komaba

Y¹⁰), et al. ⁽¹⁾ Federation of National Public Service Personnel Mutual Aid Associations Tachikawa Hospital, ⁽²⁾ Nippon Medical School Hospital, ⁽³⁾ Tokyo Women's Medical University, ⁽⁴⁾ National Cardiovascular Centre, ⁽⁵⁾ Tokai University Tokyo Hospital, ⁽⁶⁾ Tokyo Saiseikai Central Hospital, ⁽⁷⁾ University of Tokyo, ⁽⁸⁾ Saitama Medical University International Medical Centre, ⁽⁹⁾ Namiki Hospital, ⁽¹⁰⁾ and others) : Cilostazol for prevention of secondary stroke (CSPS 2) : an aspirin-controlled, double-blind, randomised non-inferiority trial. *Lancet Neurol* 2010 ; 9 (10) : 959-968.

(1) 原著 :

- 1) Murai Y¹), Mizunari T²), Takagi R¹), Amano Y¹), Mizumura S¹), Komaba Y, Okubo S¹), Kobayashi S²), Teramoto A¹) ⁽¹⁾ Department of Neurosurgery, Nippon Medical School, ⁽²⁾ Department of Neurosurgery, Chiba-Hokuso Hospital, Nippon Medical School) : Analysis of ischemic cerebral lesions using 3.0-T diffusion-weighted imaging and magnetic resonance angiography after revascularization surgery for ischemic disease. *Clin Neurol Neurosurg* 2012 ; 21 : 8467.
- 2) Terao T¹), Mishina M⁴), Takumi I³), Komaba Y, Mizunari T¹), Kobayashi S¹), Yoshida D²), Teramoto A³) ⁽¹⁾ Department of Neurosurgery, Nippon Medical School Chiba-Hokuso Hospital, ⁽²⁾ Department of Neurosurgery, Nippon Medical School Musashi-Kosugi Hospital, ⁽³⁾ Department of Neurosurgery, Nippon Medical School, ⁽⁴⁾ Department of Neurology, Nippon Medical School) : Early computed tomography signs as early predictors of hemorrhagic transformation under heparinization in patients with cardiogenic embolism. *Geriatr Gerontol* 2012 ; 12 (3) : 418-424.

学会発表

(1) ポスター :

- 1) 戸田諭補 : 抗血小板薬併用による脳保護効果の検討. 日本神経治療学会総会 (第30回) (北九州市), 2012. 11.
- 2) 西山 穰, 角南英子¹), 片山泰朗¹) ⁽¹⁾ 日本医科大学大学院医学研究科 神経内科学分野) : 脳梗塞患者における24時間血圧変動と頸動脈血流速変動との関連の検討. 日本脳卒中学会総会 (第38回) (東京都), 2013. 3.

3. 内科学（腎臓内科学）

[付属病院腎臓内科]

研究概要

付属病院腎臓内科における臨床研究としては、糖尿病性腎症患者における酸化ストレスを軽減薬の探索、および維持透析患者における心不全マーカー、貧血マーカーの探索などを精力的に行った。また大規模臨床研究や国際共同治験にも積極的に参加し、論文発表に貢献した。基礎研究としては、病理学教室との共同で各種実験腎炎の機序解明に関わる研究を行った。また腎における薬剤排泄機序についての研究も行った。一方、症例報告も積極的に多数学会に発表し、そのうち3例が論文としても受理された。研究助成としても、文部科学省科学研究費の合計3件を継続した。

研究業績

論文

[追加分]

追加分総説：

- 1) 鶴岡秀一：Klothoとカルシウム輸送。腎と透析 2012；72（3）：330-334.
- 2) Utsumi K, Katsura K, Iino Y, Katayama Y：Blood pressure control in patients with chronic kidney disease. J Nippon Med Sch 2012；79（2）：111-114.

追加分原著：

- 1) Kamano C, Osawa H, Hashimoto K, Nishimura S, Saito S, Kashiwagi T, Iino Y, Katayama Y：N-Terminal pro-brain natriuretic peptide as a predictor of heart failure with preserved ejection fraction in hemodialysis patients without fluid overload. Blood Purif 2012；33（1-3）：37-43.
- 2) Utsumi K, Yasuda F, Watanabe Y, Higo S, Hiramata A, Fujita E, Ueda K, Mii A, Kaneko T, Mishina M, Iino Y, Katayama Y：Effects of olmesartan and imidapril on the plasma adiponectin, P-selectin, and MDA-LDL levels of diabetic nephropathy patients. Clin Chim Acta 2012；413（1-2）：348-349.

追加分症例報告：

- 1) Tajima-Okubo R R, Tsuruoka S, Moriyama N, Kaneda T, Yamagata K：Interaction of miconazole oral gel with warfarin and cyclosporine in a patient with nephrotic syndrome. CEN case report 2012；1（1）：55-57.

(1) 原著：

- 1) Araki N, Tsuruoka S, Hasegawa G, Yanagihara H, Omasa T, Enosawa S, Yamazoe Y, Fujimura A：Inhibition of CYP3A4 by 6,7-dihydroxybergamottin in human CYP3A4 over-expressed hepG2 cells. J Pharm Pharmacol 2012；64（12）：1715-1721.
- 2) Torres V, Chapman H, Devuyst O, Gansevoort R, Grantham J, Higashihara E, Perrone R, Krasa H, Ouyang J, Czerwiec F, TEMPO 3：4 Trial Investigators.：Tolvaptan in patients with autosomal dominant polycystic kidney disease. N Engl J Med 2012；367（25）：2407-2418.
- 3) 金子朋広, 平間章郎, 有馬留志, 石原 力, 木村和義, 飯野靖彦, 片山泰朗, (1) 付属病院神経内科, (2) 町立八丈病院)：離島における腎代替療法。臨床透析 2012；28（6）：779-784.
- 4) 金子朋広, 平間章郎, 有馬留志, 石原 力, 上田佳恵, 木村和義, 飯野靖彦 (1) 町立八丈病院)：離島における血液浄化療法。腹膜透析 2012；73（2）：425-426.
- 5) 青木路子¹⁾, 栗原 怜²⁾, 葉山修陽²⁾, 谷 崇¹⁾, 飯野靖彦¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院 腎臓内科, (2) さいた

まつきの森クリニック 腎臓内科) : Double-antibody Radioimmunoassay (RIA2 抗体法) 測定で求めた EPO 濃度からの Epoetin Beta Pegol (MIRCERA®) 濃度の推定. 薬理と治療 2012 ; 40 (11) : 999-1004.

- 6) Tsubakihara Y, Gejyo F, Nishi S, Iino Y, Watanabe Y, Suzuki M, Saito A, Akiba T, Hirakata H, Akizawa T : High target hemoglobin with erythropoiesis-stimulating agents has advantages in the renal function of non-dialysis chronic kidney disease patients. Ther Apher Dial 2012 ; 16 (6) : 529-540.
- 7) Yokoyama H, Sugiyama H, Sato H, Taguchi T, Nagata M, Matsuo S, Makino H, Watanabe T, Saito T, Kiyohara Y, Nishi S, Iida H, Morozumi K, Fukatsu A, Sasaki T, et al. : Renal disease in the elderly and the very elderly Japanese : analysis of the Japan Renal Biopsy Registry (J-RBR). Clin Exp Nephrol 2012 ; 16 (6) : 903-920.
- 8) Du X, Shiumizu A, Masuda Y, Kuwahara N, Arai T, Kataoka M, Uchiyama M, Kaneko T, Akimoto T, Iino Y, Fukuda Y : Involvement of matrix metalloproteinase-2 in the development of renal interstitial fibrosis in mouse obstructive nephropathy. Lab Invest 2012 ; 92 (8) : 1149-1160.
- 9) Tanabe M, Shimizu A, Masuda Y, Kataoka M, Ishiwata A, Wakamatsu K, Mii A, Fujita E, Higo S, Kaneko T, Kawachi H, Fukuda Y : Development of lymphatic vasculature and morphological characterization in rat kidney. Clin Exp Nephrol 2012 ; 16 (6) : 833-842.

(2) 総説 :

- 1) 鶴岡秀一 : 水分管理の基本と考え方. 呼吸器ケア 2012 ; 10 (11) : 20-25.
- 2) Tsuruoka S, Hiwatashi A, Usui J, Yamagata K : The mitochondrial SIRT1-PGC-1 α axis in podocyte injury. Kidney Int 2012 ; 82 (7) : 20-25.
- 3) 三井亜希子¹⁾ (1) 日本医科大学 腎臓内科) : 診療の秘訣 進行性の腎機能低下をみたら : コレステロール塞栓症. Modern Physician 2012 ; 32 (9) : 1175-1176.

(3) 症例報告 :

- 1) Fujita E¹⁾, Shimizu A²⁾, Kaneko T¹⁾, Masuda Y²⁾, Ishihara C¹⁾, Mii A¹⁾, Higo S²⁾, Kajimoto Y²⁾, Kanzaki G²⁾, Nagasaka S²⁾, Iino Y¹⁾, Katayama Y¹⁾, Fukuda Y²⁾ (1) Department of Internal Medicine (Division of Neurology, Nephrology, and Rheumatology), Nippon Medical School, 2) Department of Pathology (Analytic Human Pathology), Nippon Medical School) : Proliferative glomerulonephritis with monoclonal immunoglobulin G3 κ deposits in association with parvovirus B19 infection. Human Pathology 2012 ; 43 (12) : 2326-2333.
- 2) Yamada T, Arakawa Y, Mii A, Kashiwagi T, Kaneko T, Utsumi K, Masuda Y, Shimizu A, Iino Y, Katayama Y : A case of monoclonal immunoglobulin G1-lambda deposition associated with membranous feature in a patient with hepatitis C viral infection. Clin Exp Nephrol 2012 ; 16 (3) : 468-472.
- 3) Takada D¹⁾, Mii A²⁾, Higo S²⁾, Obara Y³⁾, Kurabayashi Y³⁾, Kurosawa N³⁾, Miura S⁴⁾, Kawachi H⁵⁾, Shimizu A⁶⁾ (1) Department of Nephrology, Kita-Asaka Station Clinic, Saitama, Japan, 2) Department of Nephrology, Nippon Medical School, Tokyo, Japan, 3) Department of Internal Medicine, Sakura Memorial Hospital, Saitama, Japan, 4) Department of Internal Medicine, Miura Clinic, Saitama, Japan, 5) Cell Biology Institute of Nephrology, Niigata University Graduate School, Niigata, Japan, 6) Department of Analytic Human Pathology, Nippon Medical School, Tokyo, Japan) : Successful treatment of icodextrin-single peritoneal dialysis for refractory nephrotic syndrome induced by idiopathic membranous nephropathy. CEN Case Reports 2012 ; 1 (1) : 16-23.

著書

〔追加分〕

追加分：

- 1) 鶴岡秀一：〔分担〕酸塩基平衡についての最近の知見：特に集合管における酸分泌調節機構について。Annual review 腎臓 2012, 2012；pp187-193, 中外医学社。
- 1) 鶴岡秀一：〔分担〕腎不全（CKD：慢性腎臓病）。疾患からみた臨床薬理学（大橋京一，藤村昭夫，渡邊祐司編），2012；pp440-454, 薬業時報社。
- 2) 三井亜希子¹⁾，清水 章²⁾（¹⁾日本医科大学 腎臓内科，²⁾日本医科大学 解析人体病理）：〔分担〕腎病理をみるときに特にどんな点に注意して観察しますか？。急性腎不全・AKI診療 Q&A（野入 英世），2012；pp44-47, 中外医学社。
- 3) 三井亜希子¹⁾，清水 章²⁾（¹⁾日本医科大学 腎臓内科，²⁾日本医科大学 解析人体病理）：〔分担〕腎病理。AKI（急性腎障害）のすべて-基礎から臨床までの最新知見（和田隆志・古市賢吾），2012；pp38-53, 南江堂。

学会発表

〔追加分〕

追加分シンポジウム：

- 1) Hiwatashi A, Hagiwara M, Sakai K, Tajima R, Kai H, Usui J, Morito A, Saito C, Yoh K, Tsuruoka S, Yamagata K：Intravenous high-dose immunoglobulins (IVIg) for Relapse or Refractory Cases of MPO-ANCA related Vasculitis. The Asia Pacific Meeting of Vasculitis and ANCA Workshop (Tokyo), 2012. 3.
- 2) Usui T, Usui J, Moriyama T, Kawamura T, Sato C, Kai H, Morito N, Saito C, Yoh K, Tsuruoka S, Yamagata K：A refractory case of granulomatosis polyangiitis (Wegner's granulomatosis). The Asia Pacific Meeting of Vasculitis and ANCA Workshop (Tokyo), 2012. 3.

(1) シンポジウム：

- 1) Tsuruoka S：Training and education of clinical pharmacology in Japan. 8th Korean Society of Clinical Pharmacology and Therapeutics -Japanese Society of Clinical Pharmacology and Therapeutics Joint Symposium, (Jeju, Korea), 2012. 11.

(2) セミナー：

- 1) 鶴岡秀一：水電解質はこう診る！。第4回茨城臨床研修医のための腎セミナー（つくば），2012. 9.

(3) ワークショップ：

- 1) 鶴岡秀一：各種血液透析療法による薬物除去能の相違。ワークショップ「各種血液浄化療法の効率を考える」。第57回日本透析医学会学術集会・総会（札幌），2012. 6.

(4) 一般講演：

- 1) 鶴岡秀一，Schwartz G，山縣邦弘：代謝性アシドーシス（MA）は集合管主細胞のSDF-1発現を高めることで間在細胞の酸分泌を亢進させる。第55回日本腎臓学会学術総会（横浜），2012. 6.
- 2) 鶴岡秀一，早坂常江，横田徳継，斎藤鉄男，山縣邦弘：維持透析患者におけるレボフロキサシン（L）の透析性および薬物動態。第57回日本透析医学会学術集会・総会（札幌），2012. 6.
- 3) 森山憲明，楊 景堯，河村哲也，佐藤ちひろ，甲斐平康，白井丈一，森戸直記，齋藤知栄，鶴岡秀一，山縣邦弘：透析患者の冠動脈バイパス術後透析管理の検討。第57回日本透析医学会学術集会・総会（札幌），2012. 6.
- 4) 佐藤ちひろ，齋藤知栄，富樫 周，加瀬田幸司，白井俊明，河村哲也，甲斐平康，白井丈一，森戸直記，鶴岡秀一，山縣邦弘：透析導入期の腎機能と臨床症候の関連。第57回日本透析医学会学術集会・総会（札幌），2012. 6.

- 5) 吉澤裕世, 横山典子, 菅 洋子, 田辺 解, 大久保麗子, 鶴岡秀一, 山縣邦弘, 久野譜也: 仮設住宅居住者に対する遠隔 ICT による運動プログラムの介入効果: Smart Wellness City プロジェクト (7). 日本体力医学会第 67 回大会 (岐阜), 2012. 9.
- 6) 鶴岡秀一, 山縣邦弘: 慢性糸球体腎炎患者における蛋白尿および血漿中炎症性サイトカイン濃度へのイルベサルタンの効果. 第 35 回日本高血圧学会総会 (名古屋), 2012. 9.
- 7) 河村哲也, 甲斐平康, 白井丈一, 森戸直記, 齋藤知栄, 楊 景堯, 鶴岡秀一, 上杉憲子, 長田道夫, 山縣邦弘: 肉眼的血尿後 AKI を呈し組織学的に赤血球円柱腎障害を確認した IgA 腎症の 1 例. 第 42 回日本腎臓学会東部学術大会 (新潟), 2012. 10.
- 8) 加瀬田幸司, 白井丈一, 甲斐平康, 森戸直記, 齋藤知栄, 楊 景堯, 鶴岡秀一, 上杉憲子, 長田道夫, 山縣邦弘: 治療反応性良好な pauci-immune 型 severe ループス腎炎の 1 例. 第 42 回日本腎臓学会東部学術大会 (新潟), 2012. 10.
- 9) 富樫 周, 白井丈一, 横山千恵, 佐藤ちひろ, 河村哲也, 甲斐平康, 森戸直記, 齋藤知栄, 楊 景堯, 鶴岡秀一, 原 正則, 山縣邦弘: 寛解療法導入中の尿中落下ポドサイトをモニタリングした活動性ループス腎炎の 1 例. 第 42 回日本腎臓学会東部学術大会 (新潟), 2012. 10.
- 10) 白井俊明, 白井丈一, 佐藤ちひろ, 河村哲也, 甲斐平康, 森戸直記, 齋藤知栄, 楊 景堯, 鶴岡秀一, 山縣邦弘: 血栓性血小板減少性紫斑病の寛解維持療法におけるミゾリビンの有効例. 第 42 回日本腎臓学会西部学術大会 (宜野湾), 2012. 10.
- 11) 岩瀬菜未子, 甲斐平康, 白井丈一, 森戸直記, 齋藤知栄, 楊 景堯, 鶴岡秀一, 上杉憲子, 長田道夫, 山縣邦弘: 高リスク群 IgA 腎症に少量ステロイドとミゾリビン併用療法が有効であった 1 症例. 第 42 回日本腎臓学会西部学術大会 (宜野湾), 2012. 10.
- 12) Tsuruoka S, Yokota N, Hayasaka T, Saito T, Yamagata K: Dialyzability and pharmacokinetics of sitafloxacin following multiple oral dosing in infected hemodialysis patients.. 2012 Renal week, American Society of Nephrology 45h Annual meeting (San Diego CA, USA), 2012. 11.
- 13) Tsuruoka S, Kai H, Usui J, Morito N, Saito C, Yoh K, Yamagata K: Effects of irbesartan on inflammatory cytokine concentrations in patients with chronic glomerulonephritis. 2012 Renal week, American Society of Nephrology 45h Annual meeting (San Diego CA, USA), 2012. 11.
- 14) 金子朋広, 平間章郎, 有馬留志, 石原 力, 藤野鉄平, 渡辺容子, 安田文彦, 福井めぐみ, 福田久美子, 谷 崇, 池田まり子, 上田佳恵, 柏木哲也, 飯野靖彦, 片山泰朗, その他 1 名 (1) 付属病院神経内科: 離島における腹膜透析 苦労した 3 症例を通して. 社団法人 日本透析医学会学術集会 (第 57 回) (札幌), 2012. 6.
- 15) 金子朋広, 上田佳恵, 三井亜希子, 藤田恵美子, 清水 章, 飯野靖彦, 片山泰朗 (1) 付属病院神経内科, 2) 解析人体病理学: IgA 腎症の重症度リスク群別における扁桃摘パルス + ミゾリビン併用療法の治療効果. 日本腎臓学会学術総会 (第 55 回) (横浜), 2012. 6.
- 16) Fujita E, Shimizu A, Kaneko T, Masuda Y, Mii A, Yamada T, Nagasaka S, Iino Y, Katayama Y, Fukuda Y (1) Department of Internal Medicine (Division of Neurology, Nephrology, and Rheumatology), Nippon Medical School, 2) Department of Analytic Human Pathology, Nippon Medical School): Proliferative glomerulonephritis with monoclonal IgG deposits associated with immune disorder by parvovirus B19 or hepatitis C virus infection. 2012 Renal week, American Society of DiegoNephrology 45h Annual meeting (San Diego CA, USA), 2012. 11.
- 17) Mii A¹⁾, Shimizu A²⁾, Masuda Y²⁾, Fukui M¹⁾, Yasuda F¹⁾, Kaneko T¹⁾, Iino Y¹⁾, Katayama Y³⁾, Fukuda Y²⁾ (1) 日本医科大学 腎臓内科, 2) 日本医科大学 解析人体病理, 3) 日本医科大学 神経内科): Glomerular capillary injury in the endocapillary proliferative lesions of various glomerulonephritis. ERA-EDTA (European Renal Association - European Dialysis and Transplant Association) (49th) (Paris, France), 2012.

5.

- 18) Tsuruoka S, Yokota N, Hayasaka T, Saito T, Yamagata K : Dialyzability and pharmacokinetics of sitafloxacin following multiple oral dosing in infected hemodialysis patients. 2012 Renal week, American Society of Nephrology 45h Annual meeting.(San Diego CA, USA), 2012. 11.
- 19) 三井亜希子¹⁾, 清水 章²⁾, 金子朋広¹⁾, 藤田恵美子¹⁾, 益田幸成²⁾, 飯野靖彦¹⁾, 片山泰朗³⁾ (¹⁾ 日本医科大学 腎臓内科, ²⁾ 日本医科大学 解析人体病理, ³⁾ 日本医科大学 神経内科) : 管内増殖性病変における糸球体毛細血管傷害の検討. 日本腎臓学会学術総会 (第 55 回) (横浜), 2012. 6.
- 20) Mii A¹⁾, Masuda Y²⁾, Fukui M¹⁾, Kaneko T¹⁾, Tsuruoka S¹⁾, Iino Y¹⁾, Shimizu A²⁾ (¹⁾ 日本医科大学 腎臓内科, ²⁾ 日本医科大学 解析人体病理) : Leukocyte Infiltration and Glomerular Capillary Injury in Endocapillary Proliferative Lesions in Various Glomerulonephritis. 2012 Renal week, American Society of DiegoNephrology 45h Annual meeting (San Diego CA, USA), 2012. 11.

[千葉北総病院腎臓内科]

研究概要

腎臓内科は持続性蛋白尿, 血尿に対し腎生検を施行し積極的に診断, 治療を行い外来での長期観察を行っている. 腎生検症例は千駄木腎カンファレンス, 東葛腎カンファレンスに提示し治療方針や識別診断, 予後推測に役立てている. CKD, 慢性腎不全の保存期は外来にて経過観察し時期を判断し計画性を持って血液浄化への導入を施行している. 慢性腎不全の合併症にも各科の協力を得て急性発症の合併症は救急センター, ICU, SCU にて積極的に対処している. 成田, 印旛地区の慢性腎不全の合併症セミナーを年に 2 回行い各施設間の意見交換, 患者さんの QOL の向上に努めている. 対外循環治療 (血漿交換・IDL アフェレーシス) も各科よりの依頼があれば積極的に対応している.

研究業績

論文

[追加分]

追加分症例報告 :

- 1) Yamada T, Arakawa, Y, Mii A, Kashiwagi T, Kaneko T, Utumi K, Masuda, Y, Shimizu, A, Katayama Y : A case of monoclonal immunoglobulin G1-lambda deposition associated with hepatitis C viral infection. Clin Exp Nephrol 16 2012 ; 16 (3) : 468-472.

(1) 総説 :

- 1) 山田剛久, 柏木哲也¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学付属病院内科学 (腎臓内科学)) : ステップバイステップの血液ガス分析. レジデントノート 2012 ; 14 (6) : 1116-1122.

学会発表

(1) 一般講演 :

- 1) 渡辺容子, 金丸拓也²⁾, 上田佳恵¹⁾, 須田 智²⁾, 金子朋広¹⁾, 内海甲一¹⁾, 勝又俊弥²⁾, 飯野靖彦¹⁾, 片山泰朗²⁾ (¹⁾ 内科学 (腎臓内科学), ²⁾ 内科学 (神経内科学)) : 尿蛋白の有無による脳梗塞の病態の違い. 日本腎臓学会学術総会 (第 55 回) (横浜市), 2012. 6.
- 2) 三井亜希子¹⁾, 清水 章³⁾, 金子朋広¹⁾, 藤田恵美子¹⁾, 益田幸成³⁾, 飯野靖彦¹⁾, 片山泰朗²⁾ (¹⁾ 内科学 (腎臓内科学), ²⁾ 内科学 (神経内科学), ³⁾ 病理学 (解析人体病理学)) : 管内増殖性病変における糸球体毛細血管傷害の検討. 日本腎臓学会学術総会 (第 55 回) (横浜市), 2012. 6.

- 3) 清水まり子¹⁾, 三井亜希子, 金子朋広¹⁾, 飯野靖彦¹⁾, 片山泰朗²⁾ (1) 内科学 (腎臓内科学), 2) 内科学 (神経内科学): 短腸症候群から透析導入し, その後の管理に苦慮した1例. (社) 日本透析医学会学術集会・総会 (第57回) (札幌市), 2012. 6.
- 4) 谷 崇¹⁾, 石原 力¹⁾, 清水まり子¹⁾, 福田久美子¹⁾, 渡辺容子, 有馬留志¹⁾, 平間章郎¹⁾, 三井亜希子, 上田佳恵¹⁾, 藤田恵美子¹⁾, 酒巻雅典²⁾, 金子朋広¹⁾, 内海甲一¹⁾, 飯野靖彦¹⁾, 片山泰朗²⁾ (1) 内科学 (腎臓内科学), 2) 内科学 (神経内科学): 可逆的な大脳深部白室病変に伴う, 急激に進行する認知症を主訴に入院し, 突発性後腹膜腺維症による腎後性. (社) 日本透析医学会学術集会・総会 (第57回) (札幌市), 2012. 6.
- 5) 金子朋広¹⁾, 平間章郎¹⁾, 有馬留志¹⁾, 石原 力¹⁾, 藤野鉄平¹⁾, 渡辺容子, 安田文彦¹⁾, 福井めぐみ¹⁾, 福田久美子¹⁾, 谷 崇¹⁾, 池田まり子¹⁾, 上田佳恵¹⁾, 柏木哲也¹⁾, 内海甲一¹⁾, 片山泰朗²⁾, その他1名 (1) 内科学 (腎臓内科学), 2) 内科学 (神経内科学): 離島における腹膜透析: 苦勞した3症例を通して. (社) 日本透析医学会学術集会・総会 (第57回) (札幌市), 2012. 6.
- 6) Mii A, Shimizu A, Kaneko T, Yasuda F, Fukui M, Masuda Y, Iino Y, Katayama Y (1) Nippon Medical School: GLOMERULAR CAPILLARY INJURY IN THE ENDOCAPILLARY PROLIFERATIVE LESIONS OF VARIOUS GLOMERULONEPHRITIS. 49th ERA-EDTA CONGRESS (PARIS France), 2012. 5.
- 7) 安田文彦, 清水 章¹⁾, 三井亜希子¹⁾, 藤田恵美子¹⁾, 金子朋広¹⁾, 益田幸成¹⁾, 飯野靖彦¹⁾, 福田 悠¹⁾, 片山泰朗¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院内科学 (腎臓内科学): RPSにより提唱された糖尿病性腎症の組織病理分類. 日本腎臓学会学術総会 (第55回) (横浜), 2012. 6.

4. 内科学（血液内科学）

[付属病院血液内科]

研究概要

血液病学の基礎的研究では、急性白血球、骨髄異形成症候群の遺伝子異常、次世代シーケンサーを用いた骨髄不全症候群の原因遺伝子の解明などを重点的に行った。さらに本年度も骨髄異形成症候群、多発性骨髄腫などの腫瘍免疫学などの方法論を駆使した病態の解明を行った。また真性多血症、本態性血小板血症などの骨髄増殖性疾患の発癌機構、病態についても解析をすすめた。臨床的研究では、急性白血球の臨床病態解析および遺伝子異常による予後解析、悪性リンパ腫の病態および治療成績に関する解析などを行い、造血幹細胞移植では臍帯血移植、骨髄非破壊的移植の治療成績改善や移植合併症に関する検討を行った。

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) Inokuchi K¹, Yamaguchi H¹, Tamai H¹, Dan K¹ (1) Division of Hematology, Department of Internal Medicine, Nippon Medical School) : Disappearance of both the BCR/ABL1 fusion gene and the JAK2V617F mutation with dasatinib therapy in a patient with imatinib-resistant chronic myelogenous leukemia. *J Clin Exp Hematol* 2012 ; 52 (2) : 145-147.
- 2) Wakita S¹, Yamaguchi H¹, Omori I¹, Terada K¹, Ueda T¹, Manabe E¹, Kurosawa S¹, Iida S¹, Ibaraki T¹, Sato Y¹, Todoroki T¹, Hirakawa T¹, Ryotokuji T¹, Arai K¹, Kitano T¹, et al. (1) Division of Hematology, Department of Internal Medicine, Nippon Medical School) : Mutations of the Epigenetics Modifying Gene (DNMT3a, TET2, IDH1/2) at Diagnosis may Induce FLT3-ITD at Relapse in de novo Acute Myeloid Leukemia. *Leukemia* 2013.
- 3) Atsukawa M¹, Nakatsuka K¹, Kobayashi T¹, Shimizu M², Tamura H³, Harimoto H¹, Takahashi H², Sakamoto C¹ (1) Division of Gastroenterology, Department of Internal Medicine, (2) Division of Microbiology and Immunology, (3) Division of Hematology, Department of Internal Medicine) : Ribavirin down-modulates ICOS on CD4+T-cells and their interleukin-10 secretion to assist clearance of hepatitis C virus. *J Gastroenterol Hepatol* 2012 ; 27 (4) : 823-831.
- 4) Della Porta M¹, Picone C¹, Pascutto C¹, Malcovati L¹, Tamura H², Handa H³, Czader M⁴, Freeman S⁵, Vyas P⁶, Porwit A⁷, Saft L⁷, Westers T⁸, Alhan C⁸, Cali C⁸, Van De Loosdrecht A⁸ (1) Department of Hematology Oncology, University of Pavia & Fondazione IRCCS Policlinico San Matteo, (2) Division of Hematology, Department of Medicine, Nippon Medical School, (3) School of Health Sciences, Gunma University School of Medicine, (4) Department of Pathology and Laboratory Medicine, Indiana University School of Medicine, (5) Department of Haematology, University of Birmingham and University Hospital of Birmingham, (6) MRC Molecular Haematology Unit and Department of Haematology, Weatherall Institute of Molecular Medicine, (7) Department of Pathology, Karolinska University Hospital and Institute, (8) Department of Hematology, VU University Medical Center) : Multicentre validation of a reproducible flow cytometric score for the diagnosis of low-risk myelodysplastic syndromes : results of a European LeukemiaNET study. *Haematologica* 2012 ; 97 (8) : 1209-1217.
- 5) Ogata K¹, Kakumoto K², Matsuda A³, Tohyama K⁴, Tamura H¹, Ueda Y⁵, Kurokawa M⁶, Takeuchi

J⁷⁾, Shibayama H⁸⁾, Emi N⁹⁾, Motoji T¹⁰⁾, Miyazaki Y, Tamaki H, Mitani K, Naoe T (1) Division of Hematology, Department of Internal Medicine, Nippon Medical School, 2) Otsuka Pharmaceutical Co., Ltd., 3) Department of Hemato-Oncology, Saitama International Medical Center, Saitama Medical University, 4) Department of Laboratory Medicine, Kawasaki Medical School, 5) Department of Haematology/Oncology, Transfusion and Haemapheresis Center, Kurashiki Central Hospital, 6) Department of Hematology and Oncology, University of Tokyo Graduate School of Medicine, 7) Department of Hematology and Rheumatology, Nihon University School of Medicine, 8) Department of Hematology and Oncology, Osaka University Graduate School of Medicine, 9) Department of Hematology, Fujita Health University School of Medicine, 10) Department of Hematology, Tokyo Women's Medical University) : Blast immunophenotypes associated with disease stage in myelodysplastic syndromes : a multicenter validation study. *Leuk Res* 2012 ; 36 (10) : 1229-1236.

6) Tamura H¹⁾, Ishibashi M¹⁾, Yamashita T¹⁾, Tanosaki S²⁾, Okuyama N¹⁾, Kondo A¹⁾, Hyodo H¹⁾, Shinya E³⁾, Takahashi H³⁾, Dong H⁴⁾, Tamada K⁵⁾, Chen L⁴⁾, Dan K¹⁾, Ogata K¹⁾ (1) Division of Hematology, Department of Internal Medicine, Nippon Medical School, 2) Division of Hematology, Fraternity Memorial Hospital, 3) Division of Microbiology and Immunology, 4) Department of Immunology and Urology, College of Medicine, Mayo Clinic, 5) Yamaguchi University Graduate School of Medicine) : Marrow stromal cells induce B7-H1 expression on myeloma cells, generating aggressive characteristics in multiple myeloma. *Leukemia* 2013 ; 27 (2) : 464-472.

7) Kobayashi T¹⁾, Nakatsuka K¹⁾, Shimizu M²⁾, Tamura H³⁾, Shinya E²⁾, Atsukawa M¹⁾, Harimoto H¹⁾, Takahashi H²⁾, Sakamoto C¹⁾ (1) Division of Gastroenterology, Department of Internal Medicine, 2) Division of Microbiology and Immunology, 3) Division of Hematology, Department of Internal Medicine) : Rivabirin modulates the conversion of human CD4+CD25- T-cell to CD4+CD25+FOXP3+ T-cell via suppressing interleukin-10 producing T-regulatory cell. *Immunology* 2012 ; 137 (3) : 259-270.

8) Ueda Y¹⁾, Mizutani C²⁾, Nannya Y³⁾, Kurokawa M³⁾, Kobayashi S⁴⁾, Takeuchi J⁴⁾, Tamura H⁵⁾, Ogata K⁵⁾, Dan K⁵⁾, Shibayama H⁶⁾, Kanakura Y⁶⁾, Niimi K⁷⁾, Sasaki K⁸⁾, Watanabe M⁹⁾, Emi N⁹⁾ (1) Department of Hematology/Oncology, Transfusion and Hemapheresis Center, Kurashiki Central Hospital, 2) Department of Hematology/Oncology, Transfusion and Hemapheresis Center, Kurashiki Central Hospital, 3) Department of Hematology and Oncology, University of Tokyo Graduate School of Medicine, 4) Department of Hematology and Rheumatology, Nihon University School of Medicine, 5) Division of Hematology, Department of Internal Medicine, Nippon Medical School, 6) Department of Hematology and Oncology, Osaka University Graduate School of Medicine, 7) Department of Hematology and Oncology, Nagoya University Graduate School of Medicine, 8) Department of Hematology and Oncology, Dokkyo Medical University Hospital, 9) Department of Hematology, Fujita Health University School of Medicine) : Clinical evaluation of WT1 mRNA expression levels in peripheral blood and bone marrow in patients with myelodysplastic syndromes. *Leuk Lymphoma* 2013.

(2) 総説 :

- 1) 猪口孝一¹⁾ (1) 日本医科大学 血液内科) : Prognostic factors of acute myeloid leukemia. *日本臨床* 2012 ; 70 (2) : 389-393.
- 2) 猪口孝一¹⁾ (1) 日本医科大学 血液内) : 急性骨髄性白血病オーバービュー. *臨床血液* 2013 ; 54 (1) : 37-38.
- 3) 山口博樹¹⁾ (1) 日本医科大学 血液内科) : 急性骨髄性白血病の今後の展望 2013. *臨床血液* 2013 ; 54 (1) : 39-48.
- 4) 山口博樹¹⁾, 檀 和夫¹⁾ (1) 日本医科大学 血液内科) : 骨髄不全症候群におけるテロメア制御異常. *血液フロンティア* 2012 ; 22 (6) : 941-952.

(3) 症例報告：

- 1) 高山良子¹⁾, 二神綾子¹⁾, 安齋眞一¹⁾, 高田香織¹⁾, 義澤雄介¹⁾, 福永景子²⁾, 中村恭子²⁾, 田村秀人²⁾, 檀 和夫²⁾, 川名誠司¹⁾ (1) 日本医科大学皮膚科, 2) 日本医科大学 血液内科) : トシリズマブ投与中に Hodgkin リンパ腫を発症した全身型 Castleman 病 (multicentric Castleman's disease) の 1 例. 日本皮膚科学会誌 2012 ; 122 (6) : 1571-1579.

著 書

- 1) 檀 和夫¹⁾ (1) 日本医科大学 血液内科) : [共著] 貧血. 病期・病態・重症度からみた疾患別看護過程 + 病態関連図 第 2 版, 2012 ; pp704-710, 医学書院.
- 2) 檀 和夫¹⁾ (1) 日本医科大学 血液内科) : [共著] 本態性血小板血症の病因・病態と治療. 造血器腫瘍学, 2012 ; pp326-329, 日本臨床.

学会発表

[追加分]

追加分一般講演：

- 1) 玉井勇人¹⁾, 山口博樹¹⁾, 檀 和夫¹⁾, 猪口孝一¹⁾ (1) 日本医科大学 血液内科) : S100A6 阻害はヒト-PBMC-SCID マウスモデルにおいて MLL/AF4 陽性 ALL に GVL 効果をもたらす. 第 35 回日本造血細胞移植学会総会 (金沢), 2012. 3.

(1) シンポジウム：

- 1) 山口博樹¹⁾, 檀 和夫¹⁾ (1) 日本医科大学 血液内科) : 先天性造血障害の病態解明の進歩. 第 54 回日本小児血液がん学会学術集会 (横浜), 2012. 12.

(2) 一般講演：

- 1) 玉井勇人¹⁾, 山口博樹¹⁾, 檀 和夫¹⁾, 猪口孝一¹⁾ (1) 日本医科大学 血液内科) : Inhibition of S100A6 induces GVL effects inn MLL/AF4-positive ALL in Human-PBMC-SCID-MICE model. 第 74 回日本血液学会学術集会 (京都), 2012. 10.
- 2) 岡部雅弘¹⁾, 山口博樹¹⁾, 白杵憲祐²⁾, 小林 裕³⁾, 黒田純也⁴⁾, 木村晋也⁵⁾, 田近賢二⁶⁾, 五味聖二⁶⁾, 大森郁子¹⁾, 佐藤裕子¹⁾, 轟 崇弘¹⁾, 荒井邦仁¹⁾, 北野智章¹⁾, 三田村佳勇¹⁾, 小坂文子¹⁾, その他 2 名 (1) 日本医科大学 血液内科, 2) NTT 東日本関東病院 血液内科, 3) 京都第二赤十字病院 血液内科, 4) 京都府立医科大学 血液内科, 5) 佐賀大学医学部 血液・呼吸器・腫瘍内科, 6) 横浜南共済病院 血液内科) : Analysis of JAK2/MPL mutations and clinical features among Myeloproliferative Neoplasms in Japan. 第 74 回日本血液学会学術集会 (京都), 2012. 10.
- 3) 了徳寺剛¹⁾, 山口博樹¹⁾, 白杵憲祐²⁾, 田近賢二³⁾, 五味聖二³⁾, 大森郁子¹⁾, 佐藤裕子¹⁾, 轟 崇弘¹⁾, 荒井邦仁¹⁾, 北野智章¹⁾, 三田村佳勇¹⁾, 小坂文子¹⁾, 平川経晃¹⁾, 脇田知志¹⁾, 猪口孝一¹⁾, その他 1 名 (1) 日本医科大学 血液内科, 2) NTT 東日本関東病院 血液内科, 3) 横浜南共済病院 血液内科) : The Clinical features of DNMT3A gene mutation in Japanese patients with de novo AML. 第 74 回日本血液学会学術集会 (京都), 2012. 10.
- 4) Inokuchi K¹⁾, Tokuhira M²⁾, Okamoto S³⁾, Higashihara M⁴⁾, Ohyashiki K⁵⁾, Chiba S⁶⁾, Kurokawa M⁷⁾, Tamura H¹⁾, Nakamura K¹⁾, Yamaguchi H¹⁾, Nakayama K¹⁾, Watanabe R²⁾, Nemoto T²⁾, Matsuki E²⁾, Yokoyama K³⁾ (1) Department of Hematology, Nippon Medical School, 2) Department of Hematology, Saitama Medical Center, Saitama Medical, 3) Division of Hematology, Keio University Hospital, 4) Department of Hematology, Kitazato University School of Medicine, 5) Division of Hematology, Tokyo Medical University, 6)

- Department of Hematology, Tsukuba University Hospital, ⁷⁾ Department of Hematology and Oncology, The Tokyo University Hospital): Clinical study of nilotinib in CML-CP patients with imatinib resistance or intolerance: TSSG study. 第74回日本血液学会学術集会(京都), 2012. 10.
- 5) 轟 崇弘¹⁾, 山口博樹¹⁾, 白杵憲祐²⁾, 田近賢二³⁾, 五味聖二³⁾, 大森郁子¹⁾, 佐藤裕子¹⁾, 荒井邦仁¹⁾, 北野智章¹⁾, 三田村佳勇¹⁾, 小坂文子¹⁾, 了徳寺剛¹⁾, 平川経晃¹⁾, 脇田知志¹⁾, 猪口孝一¹⁾, その他1名⁽¹⁾ 日本医科大学 血液内科, ²⁾ NTT 東日本関東病院 血液内科, ³⁾ 横浜南共済病院 血液内科): The clinical features and prognostic impact of de novo acute myeloid leukemia with MLL-PTD. 第74回日本血液学会学術集会(京都), 2012. 10.
- 6) 佐藤裕子¹⁾, 山口博樹¹⁾, 白杵憲祐²⁾, 田近賢二³⁾, 五味聖二³⁾, 大森郁子¹⁾, 轟 崇弘¹⁾, 荒井邦仁¹⁾, 北野智章¹⁾, 三田村佳勇¹⁾, 小坂文子¹⁾, 了徳寺剛¹⁾, 平川経晃¹⁾, 脇田知志¹⁾, 猪口孝一¹⁾, その他1名⁽¹⁾ 日本医科大学 血液内科, ²⁾ NTT 東日本関東病院 血液内科, ³⁾ 横浜南共済病院 血液内科): The clinical features and prognostic impact of de novo acute myeloid leukemia with RAS mutation. 第74回日本血液学会学術集会(京都), 2012. 10.
- 7) 平川経晃¹⁾, 山口博樹¹⁾, 脇田知志¹⁾, 了徳寺剛¹⁾, 小坂文子¹⁾, 北野智章¹⁾, 荒井邦仁¹⁾, 大森郁子¹⁾, 佐藤裕子¹⁾, 轟 崇弘¹⁾, 檀 和夫¹⁾, 猪口孝一¹⁾⁽¹⁾ 日本医科大学 血液内科): The prognostic impact of FLT3 mutations in acute promyelocytic leukemia. 第74回日本血液学会学術集会(京都), 2012. 10.
- 8) 福永景子¹⁾, 山口博樹¹⁾, 了徳寺剛¹⁾, 平川経晃¹⁾, 脇田知志¹⁾, 玉井勇人¹⁾, 中山一隆¹⁾, 中村恭子¹⁾, 猪口孝一¹⁾, 檀 和夫¹⁾⁽¹⁾ 日本医科大学 血液内科): Comparative analysis of BHAC regimen and 3+7 regimen as induction for de novo acute myeloid leukemia. 第74回日本血液学会学術集会(京都), 2012. 10.
- 9) 岡本宗雄¹⁾, 山口博樹¹⁾, 竹内純子¹⁾, 檀 和夫¹⁾, 猪口孝一¹⁾⁽¹⁾ 日本医科大学 血液内科): A CML Patient with a 35 nucleotides insertion/truncation mutation in the bcr-abl kinase domain. 第74回日本血液学会学術集会(京都), 2012. 10.
- 10) 竹内純子¹⁾, 山口博樹¹⁾, 岡本宗雄¹⁾, 檀 和夫¹⁾, 猪口孝一¹⁾⁽¹⁾ 日本医科大学 血液内科): A chronic myelogenous leukemia case with e19a2 bcr-abl transcript. 第74回日本血液学会学術集会(京都), 2012. 10.
- 11) 脇田知志¹⁾, 守屋慶一¹⁾, 了徳寺剛¹⁾, 奥山奈美子¹⁾, 中村弘之¹⁾, 山口博樹¹⁾, 猪口孝一¹⁾, 檀 和夫¹⁾⁽¹⁾ 日本医科大学 血液内科): A case report of NK/T cell type intravascular lymphoma. 第74回日本血液学会学術集会(京都), 2012. 10.
- 12) Yokose N¹⁾, Okabe M¹⁾, Dan K¹⁾, Inokuchi K¹⁾⁽¹⁾ 日本医科大学 血液内科): Clinical study of cyclin D1-negative mantle cell lymphoma in our institution. 第74回日本血液学会学術集会(京都), 2012. 10.
- 13) Hamada Y¹⁾, Tamura H¹⁾, Yokose N¹⁾, Tanosaki S¹⁾, Gomi S¹⁾, Okuyama N¹⁾, Kondo A¹⁾, Dan K¹⁾, Ogata K¹⁾⁽¹⁾ 日本医科大学 血液内科): Azacitidine for the treatment of patients with acute myeloid leukemia transformed from MDS. 第74回日本血液学会学術集会(京都), 2012. 10.
- 14) Nakaseko C^{1, 3)}, Tsukamoto S^{1, 3)}, Takeuchi M^{1, 3)}, Kumagai K³⁾, Komatsu T³⁾, Tanaka H³⁾, Hara S³⁾, Koizumi M³⁾, Imai H³⁾, Yokota A³⁾, Takeuchi M³⁾, Inokuchi K^{2, 3)}, Matsuura Y³⁾, Aotsuka N³⁾, Wakita H³⁾⁽¹⁾ Department of Hematology, Chiba University Hospital, ²⁾ 日本医科大学 血液内科, ³⁾ Shimousa Hematology Study Group): Safety and efficacy of romiplostim for refractory chronic idiopathic thrombocytopenic purpura. 第74回日本血液学会学術集会(京都), 2012. 10.
- 15) Matsuki E¹⁾, Kumagai T²⁾, Inokuchi K³⁾, Ohashi K⁴⁾, Shinagawa A⁵⁾, Takeuchi J⁶⁾, Yoshida C⁷⁾, Okamoto S¹⁾, Wakita H⁸⁾, Kozai Y⁹⁾, Shirasugi Y¹⁰⁾, Sakamaki H⁴⁾⁽¹⁾ Division of Hematology, Keio University School of Medicine, ²⁾ Department of Hematology, Ohme Municipal General Hospital, ³⁾ Division of Hematology, Department of Internal Medicine, Nippon Medical School, ⁴⁾ Hematology Division, Tokyo Metropolitan Cancer and Infectious Diseases Center, Komagome Hospital, ⁵⁾ Division of Hematology, Hitachi General Hos-

- pital, ⁶) Department of Hematology and Rheumatology, Nihon University School of Medicine, ⁷) Department of Hematology, National Hospital Organization Mito Medical Center, ⁸) Division of Hematology and Oncology, Japanese Red Cross Society, Narita Red Cross Hospital, ⁹) Department of Hematology, Tokyo Metropolitan Tama Medical Center, ¹⁰) Division of Hematology, Department of Internal Medicine, Tokai University School of Medicine) : Increase in Lymphocyte at 3 months can predict improved response to dasatinib in chronic phase CML. 第74回日本血液学会学術集会 (京都), 2012. 10.
- 16) Hatta Y¹⁾, Inokuchi K²⁾, Kumagai T³⁾, Ohashi K⁴⁾, Shinagawa A⁵⁾, Takeuchi J¹⁾, Okamoto S⁶⁾, Wakita H⁷⁾, Kozai Y⁸⁾, Shirasugi Y⁹⁾, Yoshida C¹⁰⁾, Oba K, Sakamoto J, Sakamaki H (¹) Nihon University, ²) 日本医科大学 血液内科, ³) Ohme Municipal General Hospital, ⁴) Tokyo Metropolitan Cancer and Infectious Diseases Center Komagome Hospital, ⁵) Hitachi General Hospital, ⁶) Keio University, ⁷) Japanese Red Cross Narita Hospital, ⁸) Tokyo Metropolitan Tama Medical Center, ⁹) Tokai University, ¹⁰) National Hospital Organization Mito Medical Center) : High molecular response with dasatinib in CML patients after imatinib failure (Kanto CML Study). 第74回日本血液学会学術集会 (京都), 2012. 10.
- 17) Wakita S¹⁾, Yamaguchi H¹⁾, Omori I¹⁾, Hirakawa T¹⁾, Kitano T¹⁾, Arai K¹⁾, Mitamura Y¹⁾, Kosaka F¹⁾, Inokuchi K¹⁾, Dan K¹⁾ (¹) Division of Hematology, Department of Internal Medicine, Nippon Medical School) : Stability of gene mutation in relapse acute myeloid leukemia. The 3rd JSH International Symposium 2012 (川越), 2012. 5.
- 18) Ryotokuji T¹⁾, Yamaguchi H¹⁾, Omori I¹⁾, Hirakawa T¹⁾, Wakita S¹⁾, Arai K¹⁾, Kitano T¹⁾, Mitamura Y¹⁾, Kosaka F¹⁾, Shimada T²⁾, Inokuchi K¹⁾, Dan K¹⁾ (¹) Division of Hematology, Department of Internal Medicine, Nippon Medical School, ²) Department of Biochemistry and Molecular Biology, Division of Gene Therapy Research Center for Advanced Medical Technology, Nippon Medical School) : The Clinical Features and Prognostic Impact of DNMT3A Gene Mutation in Japanese Patients with De novo AML. The 3rd JSH International Symposium 2012 (川越), 2012. 5.
- 19) Wakita S¹⁾, Yamaguchi H¹⁾, Ryotokuji T¹⁾, Takeuchi J¹⁾, Omori I¹⁾, Hirakawa T¹⁾, Kitano T¹⁾, Mitamura Y¹⁾, Kosaka F¹⁾, Inokuchi K¹⁾, Dan K¹⁾ (¹) Division of Hematology, Department of Internal Medicine, Nippon Medical School) : The clinical features and prognostic impact of DNMT3A gene mutation in Japanese patients with de novo AML. 17th congress European Hematology Association (Amsterdam, The Netherlands), 2012. 6.
- 20) Tamura H¹⁾, Ishibashi M¹⁾, Yamashita T¹⁾, Kondo A¹⁾, Tanosaki S¹⁾, Yokose N¹⁾, Dan K, Ogata K (¹) Division of Hematology, Department of Internal Medicine, Nippon Medical School) : Marrow Stromal Cells Induce the Expression of B7 Family Molecules on Myeloma Cells, Generating Aggressive Characteristics in Multiple Myeloma.. The 3rd JSH International Symposium (Kawagoe, Saitama), 2012. 5.
- 21) Ogata K¹⁾, Tamura H¹⁾, Kakumoto K²⁾, Matsuda A³⁾, Tohyama K⁴⁾, Ueda Y⁵⁾, Kurokawa M⁶⁾, Takeuchi J⁷⁾, Shibayama H⁸⁾, Emi N⁹⁾, Motoji T¹⁰⁾, Miyazaki Y, Tamaki H, Mitani K, Naoe T (¹) Division of Hematology, Department of Internal Medicine, Nippon Medical School, ²) Otsuka Pharmaceutical Co., Ltd., ³) Department of Hemato-Oncology, Saitama International Medical Center, Saitama Medical University, ⁴) Department of Laboratory Medicine, Kawasaki Medical School, ⁵) Department of Haematology/Oncology, Transfusion and Haemapheresis Center, Kurashiki Central Hospital, ⁶) Department of Hematology and Oncology, University of Tokyo Graduate School of Medicine, ⁷) Department of Hematology and Rheumatology, Nihon University School of Medicine, ⁸) Department of Hematology and Oncology, Osaka University Graduate School of Medicine, ⁹) Department of Hematology, Fujita Health University School of Medicine, ¹⁰) Department of Hematology, Tokyo Women's Medical University) : The expression of CD7 and B7-H1 on myeloblasts is inde-

- pendently associated with disease stage in AL-MDS patients : Multicenter validation study. 17th Congress of European Hematology Association (Amsterdam, The Netherlands), 2012. 6.
- 22) Okuyama N¹, Kadar K², Bakker S³, Szombath G², Handa H⁴, Tamura H¹, Kondo A¹, Kazuo D¹, VÁRkonyi J², Van De Loosdrecht A³, Ogata K¹ (1) Division of Hematology, Department of Internal Medicine, Nippon Medical School, 2) Third Department of Internal Medicine, Semmelweis University, 3) Department of Haematology, VU Institute of Cancer and Immunology, VU University Medical Center, 4) School of Health Sciences, Gunma University School of Medicine) : Prognostic analysis of patients with acute myeloid leukemia transformed from myelodysplastic syndromes : who can benefit from which therapy?. 17th Congress of European Hematology Association (Amsterdam, The Netherlands), 2012. 6.
- 23) 石橋真理子¹, 田村秀人¹, 檀 和夫¹, 緒方清行¹ (1) 日本医科大学 血液内科) : 骨髄異形成症候群 (MDS) におけるインターロイキン 2 受容体 α 鎖の発現とその臨床意義. 第 74 回日本血液学会学術集会 (京都), 2012. 10.
- 24) 近藤麻加¹, 田村秀人¹, 奥山奈美子¹, 濱田泰子¹, 守屋慶一¹, 兵働英也¹, 檀 和夫¹, 緒方清行¹ (1) 日本医科大学 血液内科) : 骨髄異形成症候群における幼若血小板比率の検討. 第 74 回日本血液学会学術集会 (京都), 2012. 10.
- 25) 浜田泰子¹, 田村秀人¹, 横瀬紀夫¹, 田野崎栄², 五味聖二³, 奥山奈美子¹, 近藤麻加¹, 檀 和夫¹, 緒方清行¹ (1) 日本医科大学 血液内科, 2) 同愛記念病院 血液内科, 3) 横浜南共済病院 血液内科) : 白血病化した骨髄異形成症候群に対するアザシチジン使用経験. 第 74 回日本血液学会学術集会 (京都), 2012. 10.
- 26) 中山一隆¹, 常木美智子², 間宮一夫², 由井俊輔¹, 福永景子¹, 平川経見¹, 岡本宗雄¹, 脇田知志¹, 岡部雅弘¹, 了徳寺剛¹, 玉井勇人¹, 竹内純子¹, 山口博樹¹, 猪口孝一¹, 檀 和夫¹ (1) 日本医科大学 血液内科, 2) 日本医科大学 中央検査部) : 多項目自動血球分析装置 XE-5000 による機械的破砕赤血球カウントを用いた移植後 TMA の診断の試み. 第 35 回日本造血細胞移植学会総会 (金沢), 2013. 3.
- 27) 平川経見¹, 山口博樹¹, 由井俊輔¹, 浜田泰子¹, 福永景子¹, 了徳寺剛¹, 奥山奈美子¹, 岡部雅弘¹, 脇田知志¹, 玉井勇人¹, 中村純子¹, 近藤麻加¹, 守屋慶一¹, 岡本宗雄¹, 中村弘之¹ (1) 日本医科大学 血液内科) : 自施設における悪性リンパ腫に対する造血幹細胞移植の治療成績. 第 35 回日本造血細胞移植学会総会 (金沢), 2013. 3.
- 28) 福永景子¹, 脇田知志¹, 中山一隆¹, 了徳寺剛¹, 守屋慶一¹, 中村恭子¹, 猪口孝一¹, 山口博樹¹, 檀 和夫¹ (1) 日本医科大学 血液内科) : 非血縁者間同種骨髄移植後に発症した免疫した免疫介在性脳脊髄炎. 第 35 回日本造血細胞移植学会総会 (金沢), 2013. 3.
- 29) 脇田知志¹, 山口博樹¹, 守屋慶一¹, 了徳寺剛¹, 岡部雅弘¹, 平川経見¹, 福永景子¹, 近藤麻加¹, 玉井勇人¹, 中村恭子¹, 田村秀人¹, 中山一隆¹, 檀 和夫¹, 長島千恵¹, 穂山真理¹ (1) 日本医科大学 血液内科, 2) 日本医科大学附属病院 看護部) : 造血幹細胞移植患者におけるノロウイルス感染と血液内科病棟におけるノロウイルス感染管理の重要性. 第 35 回日本造血細胞移植学会総会 (金沢), 2013. 3.
- 30) 小林有紀¹, 平川経見¹, 浜田泰子¹, 近藤麻加¹, 中村恭子¹, 檀 和夫¹ (1) 日本医科大学 血液内科) : 1 型糖尿病, 脳梗塞, 血栓性血小板減少性紫斑病を同時発症した特発性血小板減少性紫斑病. 第 168 回日本血液学会例会 (東京), 2012. 7.
- 31) 岡部雅弘¹, 横瀬紀夫¹, 猪口孝一¹ (1) 日本医科大学千葉北総病院 血液内科) : マクログロブリン血症を伴う CCND1 陰性マンツル細胞リンパ腫 (MCL) の 1 例. 第 168 回 日本血液学会例会 (東京), 2012. 7.
- 32) 中村恭子¹, 中山一隆¹, 田村秀人¹, 山口博樹¹, 緒方清行¹, 檀 和夫¹ (1) 日本医科大学 血液内科) : 再発・難治性 B 細胞性低悪性度リンパ腫に対する 2nd line としてのベンダムスチンの有用性と安全性. 第 109 回日本内科学会講演会 (京都), 2012. 4.
- 33) 中山一隆¹, 山口博樹¹, 脇田知志¹, 水木太郎¹, 竹内純子¹, 岡部雅弘¹, 了徳寺剛¹, 岡本宗雄¹, 福永景

子¹⁾, 檀 和夫¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学 血液内科) : 当科における造血器疾患に対する同種臍帯血移植の現状. 第109回日本内科学会講演会(京都), 2012. 4.

[千葉北総病院血液内科]

研究概要

血液内科白血病, 悪性リンパ腫, 再生不良性貧血, 多発性骨髄腫など血液疾患全般の診療に当たっています. 個々の患者さんにとってのベストの治療法を, 御本人・御家族とともに考え, 治癒のみならず, 患者満足度の高い医療を目指しています. 本年度に3例の自家末梢血幹細胞移植を実施しました. 今後症例数の蓄積を予定しています. 慢性骨髄性白血病(CML)の分子標的薬の多施設共同研究と悪性リンパ腫の「再発, 難治性の低悪性度B細胞性非ホジキンリンパ腫およびマントル細胞リンパ腫に対するベンダムスチン単独投与における投与スケジュールの検討を目的としたランダム化第II相試験」の多施設共同研究に参加しています. 骨髄増殖性疾患のJAK2遺伝子変異解析や急性骨髄性白血病(AML)(FAB-M2)におけるc-kit遺伝子変異解析を行っています. AMLに関して多数の遺伝子変異解析を実施しLeukemiaに発表しました. 骨髄増殖性疾患のJAK2遺伝子変異解析をCMLに行いJ Clin Exp Hematologyに発表し, 作成に成功したMLL/AF4遺伝子導入マウスでの悪性化機構とメカニズム解析をBloodおよびBlood Cancer Jに発表しました. RCSD1-ABL1融合遺伝子を新規に発見しそのクローニングを行い, RCSD1-ABL1融合遺伝子のin vitroでの白血病化能を研究中です.

研究業績

論文

[追加分]

追加分総説:

- 1) Tamai H¹⁾, Miyake K¹⁾, Yamaguchi H¹⁾, Taketori M¹⁾, Dan K¹⁾, Inokuchi K, Shimada T¹⁾ (¹⁾ Department of Internal Medicine, Division of Hematology, Nippon Medical School) : Resistance of MLL-AFF1-positive acute lymphoblastic leukemia to tumor necrosis factor-alpha is mediated by S100A6 upregulation. Blood Cancer J 2011 ; 1 (11) : e38.
- 2) Inokuchi K, Wakita S¹⁾, Hirakawa T¹⁾, Tamai H¹⁾, Yokose N¹⁾, Yamaguchi H¹⁾, Dan K¹⁾ (¹⁾ Div of Hematology, Dept of Int Med, Nippon Medical School) : RCSD1-ABL1-positive B lymphoblastic leukemia is sensitive to dexamethasone and tyrosine kinase inhibitors and rapidly evolves clonally by chromosomal translocations. Int J Hematol 2011 ; 94 (3) : 255-260.
- 3) Tamai H¹⁾, Miyake K¹⁾, Yamaguchi H¹⁾, Takatori M¹⁾, Dan K¹⁾, Inokuchi K, Shimada T¹⁾ (¹⁾ Department of Biochemistry and Molecular Biology, Division of Gene Therapy) : AAV8 vector expressing IL24 efficiently suppresses tumor growth mediated by specific mechanisms in MLL/AF4-positive ALL model mice. Blood 2012 ; 5 (119) : 64-71.
- 4) Inokuchi K, Wakita S¹⁾, Hirakawa T¹⁾, Tamai H¹⁾, Yokose N, Yamaguchi H¹⁾, Dan K¹⁾ : RCSD1-ABL1-positive B lymphoblastic leukemia is sensitive to dexamethasone and tyrosine kinase inhibitors and rapidly evolves clonally by chromosomal translocations. Int J Hematol 2011 ; 94 (3) : 255-260.
- 5) Inokuchi K, Wakita S¹⁾, Hirakawa T¹⁾, Tamai H¹⁾, Yokose N, Yamaguchi H¹⁾, Dan K¹⁾ (¹⁾ Div of Hematology, Department of Internal Medicine, Nippon Medical School) : RCSD1-ABL1-positive B lymphoblastic leukemia is sensitive to dexamethasone and tyrosine kinase inhibitors and rapidly evolves clonally by chromosomal translocations. Int J Hematol 2011 ; 94 (3) : 255-260.

(1) 総説：

- 1) 猪口孝一：急性骨髄性白血病の予後因子. 日本臨牀 2012；70 (2)：389-393.
- 2) 猪口孝一：オーバービュー. 臨床血液学 2013；54 (1)：37-38.
- 3) Wakita S¹⁾, Yamaguchi H¹⁾, Omori I¹⁾, Terada K¹⁾, Ueda T¹⁾, Manabe E¹⁾, Kurosawa S¹⁾, Iida S¹⁾, Mitamura Y¹⁾, Kosaka F¹⁾, Dan K¹⁾, Inokuchi K (¹⁾ Department of Internal Medicine, Division of Hematology, Nippon Medical School)：Mutations of the epigenetics-modifying gene (DNMT3a, TET2, IDH1/2) at diagnosis may induce FLT3-ITD at relapse in de novo acute myeloid leukemia. Leukemia 2012；8 (10)：1038.

(2) 症例報告：

- 1) Inokuchi K, Yamaguchi H¹⁾, Tamai H¹⁾, Dan K¹⁾ (¹⁾ Department of Internal Medicine, Division of Hematology, Nippon Medical School)：Disappearance of both the BCR/ABL1 fusion gene and the JAK2V617F mutation with dasatinib therapy in a patient with imatinib-resistant chronic myelogenous leukemia. J Clin Exp Hematop 2012；52 (2)：145-147.

学会発表

(1) ポスター：

- 1) Todoroki T¹⁾, Yamaguchi H¹⁾, Usuki K²⁾, Tajika K³⁾, Gomi S³⁾, Omori I¹⁾, Sato Y¹⁾, Arai K¹⁾, Kitano T¹⁾, Mitamura Y¹⁾, Kosaka F¹⁾, Wakita S¹⁾, Hirakawa T¹⁾, Inokuchi K, Dan K¹⁾, et al. (¹⁾ Div of Hematology, Dept of Int Med, Nippon Medical School, ²⁾ Div of Hematology, NTT Kanto Medical Center, ³⁾ Div of Hematology, Yokohama Minami Kyousai Hospital)：The clinical features and prognostic impact of de novo acute myeloid leukemia with MLL-PTD. 日本血液学会学術集会 (第74回) (京都市), 2012. 10.
- 2) Sato Y¹⁾, Yamaguchi H¹⁾, Usuki K²⁾, Tajika K³⁾, Gomi S³⁾, Omori I¹⁾, Todoroki T¹⁾, Arai K¹⁾, Kitano T¹⁾, Mitamura Y¹⁾, Kosaka F¹⁾, Hirakawa T¹⁾, Wakita S¹⁾, Inokuchi K, Dan K¹⁾, et al. (¹⁾ Div of Hematology, Dept of Int Med, Nippon Medical School, ²⁾ Div of Hematology, NTT Kanto Medical Center, ³⁾ Div of Hematology, Yokohama Minami Kyousai Hospital)：The clinical features and prognostic impact of de novo acute myeloid leukemia with RAS mutation. 日本血液学会学術集会 (第74回) (京都市), 2012. 10.
- 3) Hirakawa T¹⁾, Yamaguchi H¹⁾, Ryotokuji T¹⁾, Kosaka F¹⁾, Kitano T¹⁾, Arai K¹⁾, Omori I¹⁾, Sato Y¹⁾, Todoroki T¹⁾, Dan K¹⁾, Inokuchi K (¹⁾ Div of Hematology, Department of Internal Medicine, Nippon Medical School)：The prognostic impact of FLT3 mutations in acute promyelocytic leukemia. 日本血液学会学術集会 (第74回) (京都市), 2012. 10.
- 4) Yokose N, Okabe M, Dan K¹⁾, Inokuchi K (¹⁾ Div of Hematology, Dept of Int Med, Nippon Medical School)：Clinical study of cyclin D1-negative mantle cell lymphoma in our institution. 日本血液学会学術集会 (第74回) (京都市), 2012. 10.
- 5) Fukunaga K¹⁾, Yamaguchi H¹⁾, Ryotokuji T²⁾, Hirakawa T¹⁾, Wakita S¹⁾, Tamai H¹⁾, Nagayama K¹⁾, Nakamura K¹⁾, Inokuchi K, Dan K¹⁾ (¹⁾ Div of Hematology, Dept of Int Med, Nippon Medical School, ²⁾ Div of Hematology, Yokohama Minami Kyousai Hospital)：Comparative analysis of BHAC regimen and 3+7 regimen as induction for de novo acute myeloid leukemia. 日本血液学会学術集会 (第74回) (京都市), 2012. 10.
- 6) Hamada Y¹⁾, Tamura H¹⁾, Yokose N²⁾, Tanosaki S³⁾, Gomi S⁴⁾, Okuyama N¹⁾, Kondo A¹⁾, Dan K¹⁾, Ogata K¹⁾ (¹⁾ Division of Hematology, Nippon Medical School, ²⁾ Division of Hematology, Department of Internal Medicine, Chiba Hokusoh Hospital, Nippon Medical School, ³⁾ Division of Hematology, Fraternity Memorial Hospital, ⁴⁾ Division of Hematology, Yokohama Minami Kyousai Hospital)：Azacitidine for the treatment of patients with acute myeloid leukemia transformed from MDS. 日本血液学会学術集会 (第74回) (京都市), 2012. 10.

- 7) Okamoto M¹⁾, Yamaguchi H¹⁾, Takeuchi J¹⁾, Dan K¹⁾, Inokuchi K (¹⁾ Div.Hematol.Dept.Int.Med.Nippon Medical School) : A CML Patient with a 35 nucleotides insertion/truncation mutation in the bcr-abl kinase domain. 日本血液学会学術総会 (第 74 回) (京都市), 2012. 10.
- 8) Takeuchi J¹⁾, Yamaguchi H¹⁾, Okamoto M¹⁾, Dan K¹⁾, Inokuchi K (¹⁾ Division of Hematology,Nippon Medical School) : A chronic myelogenous leukemia case with e19a2 bcr-abl transcript. 日本血液学会学術総会 (第 74 回) (京都市), 2012. 10.
- 9) Wakita S, Moriya K, Ryotokuji T, Okuyama N, Nakamura H, Yamaguchi H, Inokuchi K, Dan K (¹⁾ Hematology, Department of Internal Medicine ,Nippon Medical School) : A case report of NK/T cell type intravascular lymphoma. 日本血液学会学術集會 (第 74 回 9) (京都市), 2012. 10.
- (2) 一般講演 :
- 1) Tamai H¹⁾, Yamaguchi H¹⁾, Dan K¹⁾, Inokuchi K (¹⁾ Department of Hematology,Nippon Medical School) : Inhibition of S100A6 induces GVL effects in MLL/AF4-positive ALL in Human-PBMC-SCID-Mice model. 日本血液学会学術総会 (第 74 回) (京都市), 2012. 10.
- 2) Nakaseko C¹⁾, Tsukamoto S^{1, 2)}, Takeuchi M^{1, 2)}, Kumagai K²⁾, Komatsu T²⁾, Tanaka H²⁾, Hara S²⁾, Koizumi M²⁾, Imai H²⁾, Yokota A²⁾, Takeuchi M²⁾, Inokuchi K, Matsuura Y²⁾, Aotsuka N²⁾, Wakita H²⁾ (¹⁾ Department of Hematology, Chiba University Hospital, ²⁾ Shimousa Hematology Study Group) : Safety and efficacy of romiplostim for refractory chronic idiopathic thrombocytopenic purpura. 日本血液学会学術総会 (第 74 回) (京都市), 2012. 10.
- 3) Matsuki E¹⁾, Kumagai T²⁾, Inokuchi K³⁾, Ohashi K⁴⁾, Shinagawa A⁵⁾, Takeuchi J⁶⁾, Yoshida C⁷⁾, Okamoto S¹⁾, Wakita H⁸⁾, Kozai Y⁹⁾, Shirasugi Y¹⁰⁾, Sakamaki H⁴⁾ (¹⁾ Division of Hematology, Keio University School of Medicine, ²⁾ Department of Hematology, Ohme Municipal General Hospital, ³⁾ Division of Hematology, Department of Internal Medicine, Nippon Medical School, ⁴⁾ Hematology Division, Tokyo Metropolitan Cancer and Infectious Diseases Center, Komagome Hospital, ⁵⁾ Division of Hematology, Hitachi General Hospital, ⁶⁾ Department of Hematology and Rheumatology, Nihon University School of Medicine, ⁷⁾ Department of Hematology, National Hospital Organization Mito Medical Center, ⁸⁾ Division of Hematology and Oncology, Japanese Red Cross Society, Narita Red Cross Hospital, ⁹⁾ Department of Hematology, Tokyo Metropolitan Tama Medical Center, ¹⁰⁾ Division of Hematology, Department of Internal Medicine, Tokai University School of Medicine) : Increase in Iymphocyte at 3 months can predict improved response to dasatinib in chronic phase CML. 日本血液学会学術集會 (第 74 回) (京都市), 2012. 10.
- 4) Okabe M, Yamaguchi H¹⁾, Usuki K²⁾, Kobayashi Y³⁾, Kuroda J³⁾, Kimura S⁴⁾, Tajika K⁵⁾, Gomi S⁵⁾, Omori I¹⁾, Sato Y¹⁾, Todoroki T¹⁾, Arai K¹⁾, Kitano T¹⁾, Mitamura Y¹⁾, Inokuchi K, et al. (¹⁾ Division of Hematology, Nippon Medical School, ²⁾ Division of Hematology, NTT Kanto Medical Center, ³⁾ Dept. Hematology, Kyoto Second Red Cross Hospital, ⁴⁾ Division of Hematology and Oncology, Kyoto Prefectural University of Medicine, ⁵⁾ Division of Hematology and Oncology, Saga University, ⁶⁾ Department of Hematology, Yokohama Minami Kyouusai Hospital) : Analysis of JAK2/MPL mutations and clinical features among Myeloproliferative Neoplasms in Japan. 日本血液学会学術集會 (第 74 回) (京都市), 2012. 10.
- 5) Inokuchi K, Tokuhira M²⁾, Okamoto S³⁾, Higashihara M⁴⁾, Ohyashiki K⁵⁾, Chiba S¹⁾, Kurokawa M⁷⁾, Tamura H¹⁾, Nakamura K¹⁾, Yamaguchi H¹⁾, Nakayama K¹⁾, Watanabe R²⁾, Nemoto T²⁾, Matsuki E²⁾, Yokoyama K³⁾, et al. (¹⁾ Department of Hematology, Nippon Medical School, ²⁾ Department of Hematology, Saitama Medical Center, Saitama Medical University, ³⁾ Division of Hematology, Keio University Hospital, ⁴⁾ Department of Hematology, Kitazato University School of Medicine, ⁵⁾ Division of Hematology, Tokyo Medical University, ⁶⁾ Department of Hematology, Tsukuba University Hospital, ⁷⁾ Department of Hematology and

- Oncology, The Tokyo University Hospital) : Clinical study of nilotinib in CML-CP patients with imatinib resistance or intolerance : TSSG study. 日本血液学会学術集会 (第 74 回) (京都市), 2012. 10.
- 6) Ryotokuji T¹⁾, Yamaguchi H¹⁾, Usuki K²⁾, Tajika K³⁾, Gomi S³⁾, Omori I¹⁾, Sato Y¹⁾, Todoroki T¹⁾, Arai K¹⁾, Kitano T¹⁾, Mitamura Y¹⁾, Kosaka F¹⁾, Hirakawa T¹⁾, Wakita S¹⁾, Inokuchi K, et al. (1) Division of Hematology, Department of Internal Medicine, Nippon Medical School, (2) Division of Hematology, NTT Kant Medical Center, (3) Department of Hematology, Yokohama Minami Kyousai Hospital) : The clinical features of DNMT3A gene mutation in Japanese patients with de novo AML. 日本血液学会学術集会 (第 74 回) (京都市), 2012. 10.
- 7) Hatta Y¹⁾, Inokuchi K²⁾, Kumagai T³⁾, Ohashi K⁴⁾, Shinagawa A⁵⁾, Takeuchi J¹⁾, Okamoto S⁶⁾, Wakita H⁷⁾, Kozai Y⁸⁾, Shirasugi Y⁹⁾, Yoshida C¹⁰⁾, Oba K, Sakamoto J, Sakamaki H⁴⁾ (1) Nihon University, (2) Nippon Medical School, (3) Ohme Municipal General Hospital, (4) Tokyo Metropolitan Cancer and Infectious Diseases Center Komagome Hospital, (5) Hitachi General Hospital, (6) Keio University, (7) Japanese Red Cross Narita Hospital, (8) Tokyo Metropolitan Tama Medical Center, (9) Tokai University, (10) National Hospital Organization Mito Medical Center) : High molecular response with dasatinib in CML patients after imatinib failure (Kanto CML Study). 日本血液学会学術集会 (第 74 回) (京都市), 2012. 10.
- 8) Wakita S¹⁾, Moriya K¹⁾, Ryotokuji T¹⁾, Okuyama N¹⁾, Nakamura H¹⁾, Ymaguchi H¹⁾, Inokuchi K, Dan K¹⁾ (1) Hematology Department of Internal Medicine Nippon Medical School) : A case report of NK/T cell type intravascular lymphoma. 日本血液学会学術集会 (第 74 回) (京都市), 2012. 10.

5. 内科学（消化器内科学）

[付属病院消化器内科，肝臓内科]

研究概要

消化器内科，肝臓内科では，(1) 食道運動機能異常症の病態生理学的検討，(2) *Helicobacter pylori* 感染の意義，(3) ディスペプシア（機能性胃症）の臨床的，病態生理学的研究，(4) 炎症性腸疾患の病態生理に関する検討，(5) 大腸腺腫，癌の病態に関する検討，(6) カプセル内視鏡，小腸内視鏡を用いた小腸潰瘍性疾患，出血性疾患の臨床的解析，(7) COX-2の消化管癌に対する役割など基礎的研究の実施，(8) 門脈圧亢進症に対する経頸静脈的肝内門脈大循環短絡術に関する臨床的検討，(9) 慢性活動性C型肝炎の治療と免疫能，など臨床的課題を中心に昨年度に引き続き研究，(10) 腫瘍内圧を考慮した安全なラジオ波焼灼療法の開発研究，(11) 磁気センサー搭載超音波装置による肝画像診断法の研究，(12) C型慢性肝炎における宿主遺伝子情報に基づいた治療の解析，(13) EOB 造影MRI，造影エコー，CTを用いた各種画像診断法による肝細胞癌検出能の比較研究，(14) 肝癌分子標的治療の薬剤用量設定および他治療法との併用についての臨床的研究，を実施している。

研究業績

論文

[追加分]

追加分総説：

- 1) 坂本長逸：NSAID 起因性消化管傷害の現状と対策. 日本内科学会雑誌 2012；101（3）：656-661.
- 2) 植原義之，金沢秀典，糸川典夫，近藤千紗，福田 健，松下洋子，城所秀子，厚川正則，中塚雄久，坂本長逸：1型肝腎症候群の実態と terlipressin による治療. 消化器内科 2012；54（3）：386-392.

(1) 原著：

- 1) 三宅一昌，楠 正典，小高康裕，名児耶浩幸，新福摩弓，進藤智隆，植木信江，河越哲郎，二神生爾，津久井拓，坂本長逸：高齢が長期 NSAID 服用に関連する消化性潰瘍のリスクに与える影響. 日本高齢消化器病学会誌 2012；14（2）：82-87.
- 2) Kondo C¹， Atsukawa M¹， Tsubota A²， Itokawa N¹， Fukuda T， Matsushita Y， Kidokoro H， Kobayashi T， Narahara Y， Nakatsuka K， Kanazawa H， Sakamoto C（¹ Department of Internal Medicine, Nippon Medical School, Chiba Hokusoh Hospital, ² Institute of Clinical Medicine and Research (ICMR), Jikei University School of Medicine)：An open-label randomized controlled study of pegylated interferon/ribavirin combination therapy for chronic hepatitis C with versus without fluvastatin. Journal of Viral Hepatitis 2012；19（9）：615-622.
- 3) Kinoshita Y¹， Furuta K¹， Ishimaura N¹， Ishihara S¹， Sato S¹， Maruyama R²， Ohara S³， Matsumoto T⁴， Sakamoto C， Matsui T⁵， Ishikawa S⁵， Chiba T⁶（¹ Department of Gastroenterology and Hepatology, Shimane University School of Medicine, ² Department of Pathology, Shimane University School of Medicine, ³ Department of Gastroenterology, Tohoku Rosai Hospital, ⁴ Department of Medicine and Clinical Science, Graduate School of Medical Sciences, Kyusyu University, ⁵ Department of Gastroenterology, Fukuoka University Chikushi Hospital, ⁶ Department of Gastroenterology and Hepatology, Graduate School of Medicine, Kyoto University)：Clinical characteristics of Japanese patients with eosinophilic esophagitis and eosinophilic gastroenteritis. Journal of Gastroenterology 2013；48（3）：333-339.

- 4) Futagami S, Shimpuku M, Song-M J, Kodaka Y, Yamawaki H, Nagoya H, Shindo T, Kawagoe T, Horie A, Gudis K, Iwakiri K, Sakamoto C : Nizatidine Improves Clinical Symptoms and Gastric Emptying in Patients with Functional Dyspepsia Accompanied by Impaired Gastric Emptying. *Digestion* 2012 ; 86 (2) : 114-121.
- 5) Takahashi Y, Fujimori S, Narahara Y, Gudis K, Ensaka Y, Kosugi Y, Maki K, Suzuki M, Matsushita Y, Fukuda T, Kanazawa H, Sakamoto C : Small Intestinal Edema Had the Strongest Correlation with Portal Venous Pressure amongst Capsule Endoscopy Findings. *Digestion* 2012 ; 86 (1) : 48-54.
- 6) Atsukawa M, Nakatsuka K, Kobayashi T, Shimizu M¹⁾, Tamura H, Harimoto H, Takahashi H¹⁾, Sakamoto C (¹⁾ Department of Microbiology and Immunology, Nippon Medical School) : Ribavirin downmodulates inducible costimulator on CD4 + T cells and their interleukin-10 secretion to assist in hepatitis C virus clearance. *Journal of Gastroenterology and Hepatology* 2012 ; 27 (4) : 823-831.
- 7) Kobayashi T, Nakatsuka K, Shimizu M¹⁾, Tamura H²⁾, Shinya E¹⁾, Atsukawa M, Harimoto H, Takahashi H¹⁾, Sakamoto C (¹⁾ Division of Microbiology and Immunology, Nippon Medical School, Tokyo, Japan, ²⁾ Division of Haematology, Department of Internal Medicine, Nippon Medical School, Tokyo, Japan) : Ribavirin modulates the conversion of human CD4⁺CD25⁻ T cell to CD4⁺ CD25⁺FOXP3⁺ T cell via suppressing interleukin-10-producing regulatory T cell. *Immunology* 2012 ; 137 (3) : 259-270.
- 8) Miyake K, Kusunoki M, Ueki N, Nagoya H, Kodaka Y, Shindo T, Kawagoe T, Gudis K, Futagami S, Tsukui T, Nakamura H, Sakamoto C : Implication of antithrombotic agents on potential bleeding from endoscopically determined peptic ulcers, incidentally detected as surrogate markers for nsajds-associated ulcers complication. *Digestive Endoscopy* 2013 ; 25 (1) : 25-31.
- 9) Atsukawa M¹⁾, Tsubota A²⁾, Kondo C, Itokawa N, Narahara Y, Nakatsuka K, Hashimoto S, Fukuda T, Matsushita Y, Kidokoro H, Kobayashi T, Kanawaza H, Sakamoto C (¹⁾ Division of Gastroenterology, Department of Internal Medicine, Nippon Medical School Chiba Hokusoh Hospital, Chiba, Japan, ²⁾ Institute of Clinical Medicine and Research (ICMR), Jikei University School of Medicine, Chiba, Japan) : Combination of fluvastatin with pegylated interferon/ribavirin therapy reduces viral relapse in chronic hepatitis C infected with HCV genotype 1b. *Journal of Gastroenterology and Hepatology* 2013 ; 28 (1) : 51-56.
- 10) 藤森俊二, 武藤麻紀¹⁾, 山崎 浩¹⁾, 坂本長逸 (¹⁾ 国立感染症研究所寄生動物部) : カプセル内視鏡で遭遇した小腸寄生虫の2例. *日本臨床寄生虫学会誌* 2012 ; 23 (1) : 20-22.
- 11) Sakamoto C, Kawai T¹⁾, Nakamura S²⁾, Sugioka T³⁾, Tabira J⁴⁾ (¹⁾ Endoscopy Center, Tokyo Medical University Hospital, Tokyo, Japan, ²⁾ Department of Gastroenterology, Tokyo Womens Medical University, Tokyo, Japan, ³⁾ Astellas Pharma Inc, Tokyo, Japan, ⁴⁾ Pfizer Japan Inc, Tokyo, Japan) : Comparison of gastroduodenal ulcer incidence in healthy Japanese subjects taking celecoxib or loxoprofen evaluated by endoscopy : A placebo-controlled, double-blind 2-week study. *Alimentary Pharmacology and Therapeutics* 2013 ; 37 (3) : 346-354.
- 12) 川本智章, 山内 篤¹⁾, 金子恵子, 宮元亮子, 清水秀治, 水野杏一 (¹⁾ さいたま寄居病院) : ラジオ波焼灼療法施行中の腫瘍内圧測定. *J Microwave Surg* 2012 ; 30 : 119-123.
- 13) 亦野蓉子¹⁾, 二神綾子¹⁾, 藤森俊二, 川名誠司¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学付属病院 皮膚科) : Henoch-Schoenlein 紫斑の小腸病変におけるカプセル内視鏡検査の有用性. *皮膚科の臨床* 2012 ; 54 (5) : 707-711.
- 14) 坂本 壮¹⁾, 藤森俊二, 坂本文夫²⁾ (¹⁾ 順天堂大学医学部附属順天堂練馬病院 救急・集中治療科, ²⁾ 坂本病院) : *H.pylori* 陽性潰瘍に対する PPI/AM 療法と PPI/AC 療法の1次, 2次除菌率の比較検討. *Progress of Digestive Endoscopy* 2012 ; 80 (2) : 52-54.
- 15) Itokawa N¹⁾, Atsukawa M¹⁾, Tsubota A²⁾, Kondo C¹⁾, Hashimoto S, Fukuda T, Matsushita Y, Kidokoro H, Kobayashi T, Narahara Y, Nakatsuka K, Kanazawa H, Iwakiri K¹⁾, Sakamoto C (¹⁾ Division of Gas-

troenterology, Department of Internal Medicine, Nippon Medical School Chiba Hokusoh Hospital, Inzai, Japan, ² Institute of Clinical Medicine and Research (ICMR), Jikei University School of Medicine, Kashiwa, Chiba, Japan) : Lead-in treatment with interferon- β /ribavirin may modify the early hepatitis C virus dynamics in pegylated interferon alpha-2b/ribavirin combination for chronic hepatitis C patients with the IL28B minor genotype. *Journal of Gastroenterology and Hepatology* 2013 ; 28 (3) : 443-449.

- 16) Adachi K¹, Furuta K², Miwa H³, Oshima T³, Miki M⁴, Komazawa Y⁵, Iwakiri K, Furuta T⁶, Koike T⁷, Shimatani T⁸, Kinoshita Y² (¹Department of Clinical Nursing, Shimane University, Faculty of Medicine, Izumo, Japan, ² Department of Gastroenterology and Hepatology, Shimane University, Faculty of Medicine, Izumo, Japan, ³ Division of Upper Gastroenterology, Department of Internal Medicine, Hyogo College of Medicine, Nishinomiya, Japan, ⁴ Department of Gastroenterology, Hyogo Prefectural Awaji Hospital, Sumoto, Japan, ⁵ Division of Internal Medicine, Izumo City General Medical Center, Izumo, Japan, ⁶ Center for Clinical Research, Hamamatsu University School of Medicine, Hamamatsu, Japan, ⁷ Division of Gastroenterology, Tohoku University, Graduate School of Medicine, Sendai, Japan, ⁸ Department of General Medicine, Hiroshima University Hospital, Hiroshima, Japan) : A study on the efficacy of rebamipide for patients with proton pump inhibitor-refractory non-erosive reflux disease. *Digestive Diseases and Sciences* 2012 ; 57 (6) : 1609-1617.
- 17) Kumagai Y¹, Yagi M¹, Aida J³, Ishida H², Suzuki S², Hashimoto T², Amanuma Y², Kusano M², Mukai S², Yamazaki S¹, Iida M¹, Ochiai T¹, Matsuura M⁴, Iwakiri K, Kawano T⁵, et al. (¹ Departments of Surgery, Ohta Nishinouchi Hospital, Fukushima, Japan, ² Departments of Internal Medicine, Ohta Nishinouchi Hospital, Fukushima, Japan, ³ Research Team for Geriatric Pathology, Tokyo Metropolitan Institute of Gerontology, Tokyo, Japan, ⁴ Bioinformatics Group, Genome Center of JFCR, Japanese Foundation for Cancer Research, Tokyo, Japan, ⁵ Department of Surgery, Tokyo Medical and Dental University, Tokyo, Japan) : Detailed features of palisade vessels as a marker of the esophageal mucosa revealed by magnifying endoscopy with narrow band imaging. *Diseases of the Esophagus* 2012 ; 25 (6) : 484-490.
- 18) Song J¹, Futagami S, Nagoya H, Kawagoe T, Yamawaki H, Kodaka Y, Tatsuguchi A, Gudis K, Wakabayashi T, Yonezawa M, Shimpuku M, Watarai Y², Iwakiri K, Hoshihara Y³, Sakamoto C, et al. (¹ Department of Gastroenterology, Shengjing Hospital, China Medical University, ² Division of Diagnostic Pathology, Nippon Medical School Hospital, ³ Clinic of the Ministry of Economy, Trade and Industry) : Apurinic/apyrimidinic endonuclease-1 (APE-1) is overexpressed via the activation of NF- κ B-p65 in MCP-1-positive esophageal squamous cell carcinoma tissue. *J Clin Biochem Nutr* 2013 ; 52 (2) : 112-119.

(2) 総説 :

- 1) 藤森俊二, 坂本長逸 : アスピリンによる小腸潰瘍に対する薬物治療の現状. *消化器の臨床* 2012 ; 15 (2) : 175-180.
- 2) 三宅一昌, 小高康裕, 名児耶浩幸, 新福摩弓, 植木信江, 進藤智隆, 楠 正典, 河越哲郎, 二神生爾, 津久井拓, 坂本長逸 : 低用量アスピリン長期服用における出血性消化性潰瘍の発生状況. *消化器の臨床* 2012 ; 15 (2) : 141-146.
- 3) 野村 務¹, 松谷 毅¹, 萩原信敏¹, 牧野浩司², 丸山 弘², 藤田逸郎¹, 中村慶春¹, 岩切勝彦, 宮下正夫¹, 内田英二¹ (¹ 日本医科大学大学院医学研究科臓器病態制御外科, ² 日本医科大学多摩永山病院外科) : 食道裂孔ヘルニアに対するメッシュを用いた腹腔鏡下手術. *日医大医会誌* 2012 ; 8 (3) : 207-210.
- 4) 三井啓吾, 小林 剛, 遠坂由紀子, 小杉友紀, 鈴木将大, 馬來康太郎, 春日裕介, 玉木祐希江, 高橋陽子, 江原彰仁, 瀬尾継彦, 米澤真興, 田中 周, 辰口篤志, 坂本長逸, その他1名 : 小腸疾患へのアプローチ—小腸出血. *消化器内視鏡* 2012 ; 24 (6) : 1003-1010.

- 5) 植木信江, 三宅一昌, 佐野弘仁, 進藤智隆, 濱本達彦, 鈴木健司, 楠 正典, 進士陽子, 篠木 啓, 河越哲郎, 西垣 均, 二神生爾, 和田 謙, 津久井拓, 坂本長逸:ヘリコバクターピロリ除菌成功後の非 NSAIDs 消化性潰瘍再発の検討. *Annals of Endoscopic Forum* (文京内視鏡研究会編) 2012; 10: 13-18.
- 6) 藤森俊二, 坂本長逸:原因不明消化管出血 (obscure gastrointestinal bleeding; OGIB). *胃と腸* 2012; 47 (5): 867.
- 7) 田中 周, 江原彰仁, 小林 剛, 三井啓吾, 坂本長逸:小腸疾患に対するダブルバルーン内視鏡の治療的アプローチ. *Medical Photonics* 2012; 10 (夏): 59-64.
- 8) 榎原義之, 金沢秀典, 坂本長逸:門脈圧亢進症の薬物療法. *medicina* 2012; 49 (7): 1204-1207.
- 9) 三井啓吾, 田中 周, 藤森俊二, 坂本長逸:内視鏡を用いた小腸腫瘍の診断—overview. *Modern Physician* 2012; 32 (7): 873-877.
- 10) 高橋陽子, 藤森俊二, 坂本長逸:門脈圧亢進症性腸症の内視鏡所見. *Modern Physician* 2012; 32 (7): 841-843.
- 11) 坂本長逸: NSAID 小腸潰瘍. *臨床栄養* 2012; 120 (6): 765-770.
- 12) 川見典之, 岩切勝彦, 梅澤まり子, 佐野弘仁, 田中由理子, 星原芳雄¹⁾, 坂本長逸 (¹⁾ 経済産業省診療所):わが国の GERD における診断法のスタンダードは?. *the GI FOREFRONT* 2012; 8 (1): 20-22.
- 13) 藤森俊二, 坂本長逸:カプセル内視鏡:インフォームド・コンセントに必要な知識. *消化器内視鏡* 2012; 24 (4): 568-571.
- 14) 三宅一昌, 小高康裕, 名見耶浩幸, 新福摩弓, 植木信江, 進藤智隆, 楠 正典, 河越哲郎, 二神生爾, 藤森俊二, 津久井拓, 坂本長逸:長期低用量アスピリン服用者における出血性消化管病変の検討. *潰瘍* 2012; 39 (1): 31-37.
- 15) 岩切勝彦, 川見典之, 田中由理子, 佐野弘仁, 星原芳雄¹⁾, 野村 務, 松谷 毅, 萩原信敏, 宮下正夫²⁾, 坂本長逸 (¹⁾ 経済産業省診療所, ²⁾ 日本医科大学 消化器外科学):アカラシアの診断とバルーン拡張術. *日本消化器病学会雑誌* 2012; 109 (5): 710-721.
- 16) 藤森俊二, 坂本長逸:カプセル内視鏡を主体に. *臨床雑誌 内科* 2012; 109 (4): 710-714.
- 17) 三宅一昌, 坂本長逸: Lanza Score. *図説 胃と腸用語集* 2012 2012; 47 (5): 866.
- 18) 坂本長逸: NSAID 起因性消化管傷害の現状と対策. *日本内科学会誌* 2012; 28 (1): 75-78.
- 19) 藤森俊二, 坂本長逸:小腸検査 (カプセル内視鏡, バルーン内視鏡). *消化器疾患診療のすべて* 2012; 141 (特別号 (2)): 88-89.
- 20) 三宅一昌, 坂本長逸:薬剤性胃粘膜傷害 (特にステロイドと NSAIDs, 抗リウマチ薬など). *診断と治療* 2012; 100 (10): 1713-1719.
- 21) 坂本長逸: NSAIDs 潰瘍の予防① COX-2 選択的阻害剤の役割. *Orthopaedics* 2012; 25 (12): 41-48.
- 22) 三宅一昌, 高橋保裕¹⁾, 高野仁司¹⁾, 植木信江, 楠 正典, 河越哲郎, 二神生爾, 藤森俊二, 坂本長逸 (¹⁾ 日本医科大学 循環器内科学):長期低用量アスピリン服用者における出血性消化管病変. *消化器内科* 2012; 55 (3): 299-304.
- 23) 島田紀朋¹⁾, 厚川正則²⁾, 坪田昭人³⁾, 吉澤 海⁴⁾, 安部 宏⁴⁾, 加藤慶三¹⁾, 井家麻紀子¹⁾, 安達哲史¹⁾, 立花浩幸¹⁾, 佐藤祥之¹⁾, 戸田剛太郎¹⁾, 近藤千紗²⁾, 福田 健, 坂本長逸, 相澤良夫⁴⁾ (¹⁾ 新松戸中央総合病院消化器・肝臓科, ²⁾ 日本医科大学千葉北総病院消化器内科, ³⁾ 東京慈恵会医科大学総合医科学研究センター臨床医学研究所, ⁴⁾ 東京慈恵会医科大学葛飾医療センター消化器・肝臓内科): Genotype1b・C 型慢性肝炎に対する Peginterferon α -2b/Ribavirin/Telaprevir3 剤併用療法の Rapid virological response に寄与する因子の検討:多施設共同試験. *肝臓* 2012; 53 (10): 627-632.
- 24) 藤森俊二, 坂本長逸: NSAIDs 起因性小腸傷害と腸内細菌. *医学のあゆみ* 2012; 243 (11): 952-956.
- 25) 二神生爾, 山脇博士, 若林大雅, 新福摩弓, 中川 愛, 小高康裕, 名見耶浩幸, 進藤智隆, 河越哲郎, 岩切勝

彦, 坂本長逸: 患者さんの病態から考える上腹部不定愁訴への薬物治療. 東京内科医会誌 2012; 28 (2): 119-123.

- 26) 大石典子, 二神生爾, 泉 日輝, 山脇博士, 新福摩弓, 坂本長逸: 機能的消化管傷害と睡眠障害. 日本臨床生理学会雑誌 2012; 42 (3): 129-134.
- 27) 坂本長逸: カプセル内視鏡. 先進医療 NAVIGATOR 2013: 113-116.
- 28) 三宅一昌, 坂本長逸: 消化性潰瘍 (薬物治療指針). 消化器疾患最新の治療 2013-2014 2013; 135-138.
- 29) 秋元直彦, 山口岳史¹⁾, 尾形英生²⁾, 志田陽介, 小林俊介³⁾, 岡本陽祐, 大竹陽介⁴⁾, 富田茂樹¹⁾, 市川一仁, 内藤善哉⁵⁾, 加藤広行²⁾, 坂本長逸, 藤盛孝博¹⁾ (1) 獨協医科大学病理学 (人体分子), (2) 獨協医科大学 第1外科, (3) 東邦大学医療センター大森病院消化器内科, (4) 国立がん研究センター中央病院内視鏡科, (5) 日本医科大学病理学 (統御機構・腫瘍学)): Crohn 病に回腸癌を併発した1例. 消化器内視鏡 2012; 24 (12): 1954-1959.
- 30) 二神生爾, 山脇博士, 若林大雅, 坂本長逸: 慢性偽性腸閉塞症. 診断と治療 2013; 101 (2): 291-295.
- 31) 三宅一昌, 坂本長逸: 薬物療法・選択基準. 最新医学・別冊 新しい診断と治療の ABC 2012; 128-134.
- 32) 渡邊 淳¹⁾, 岩崎由美²⁾, 島田 隆¹⁾, 川本智章³⁾, 宮元亮子³⁾, 佐久間郁行³⁾, 榎原義之, 中塚雄久, 福田 健, 飯野幸永⁴⁾, 本間 博⁴⁾, 星野有哉 (1) 日本医科大学附属病院 ゲノム先端医療部, (2) 日本医科大学付属病院 東洋医学科, (3) 日本医科大学 肝臓内科, (4) 日本医科大学付属病院 中央検査部): 医療機関内における投薬前遺伝子検査への実施への課題 IL28B 解析を通して. 日本医科大学医学会雑誌 2012; 8 (4): 322-323.
- 33) 渡邊 淳¹⁾, 川本智章²⁾, 榎原義之, 中塚雄久, 飯野幸永³⁾, 本間 博³⁾, 島田 隆¹⁾ (1) 日本医科大学附属病院 ゲノム先端医療部, (2) 日本医科大学 肝臓内科, (3) 日本医科大学付属病院 中央検査部): i-densy を用いた IL28B 遺伝子多型解析-医療機関内における投薬前遺伝子検査への実施への課題. 臨床病理 2012; 60 (補冊): 311.
- 34) 藤森俊二, 坂本長逸: 小腸に多発潰瘍. 消化器内視鏡 2012; 24 (5): 837-838.
- 35) 三宅一昌, 坂本長逸: 消化管出血 (吐血, 下血・血便). 今日の治療と看護 (改訂第3版) 2013; 114-117.
- 36) 岩切勝彦, 星原芳雄, 坂本長逸: 【[必携] 内視鏡リファレンスブック 2012】 食道 逆流性食道炎. 消化器内視鏡 2012; 24 (4): 462-465.

(3) 症例報告:

- 1) 進士誠一¹⁾, 菅 隼人¹⁾, 松本智司¹⁾, 山田岳史¹⁾, 小泉岐博¹⁾, 山岸杏彌¹⁾, 原 啓介¹⁾, 高 和英¹⁾, 藤森俊二, 辰口篤志, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学 消化器外科): 腹腔鏡補助下結腸切除した特発性腸間膜静脈硬化症の1例. 日本大腸肛門病学会雑誌 2012; 65 (9): 746.

(4) ガイドライン:

- 1) 藤本一眞¹⁾, 藤城光弘²⁾, 加藤元嗣³⁾, 樋口和秀⁴⁾, 岩切龍一⁵⁾, 坂本長逸, 内山真一郎⁶⁾, 柏木厚典⁷⁾, 小川久雄⁸⁾, 村上和成⁹⁾, 峯 徹哉¹⁰⁾, 芳野純治¹⁰⁾, 木下芳一¹⁰⁾, 一瀬雅夫¹⁰⁾, 松井敏幸¹⁰⁾ (1) 佐賀大学医学部 内科学, (2) 東京大学 光学医療診療部, (3) 北海道大学病院 光学医療診療部, (4) 大阪医科大学 第二内科, (5) 佐賀大学 医学部 光学医療診療部, (6) 東京女子医科大学大学院 医学研究科 神経内科学分野, (7) 滋賀医科大学 副学長, (8) 熊本大学大学院 循環器内科学, (9) 大分大学 総合診療科学講座 消化器内科, (10) その他): 抗血栓薬服用者に対する消化器内視鏡診療ガイドライン. 日本内視鏡学会雑誌 2012; 54 (7): 2073-2102.

(5) 特集:

- 1) 三浦総一郎¹⁾, 鳥居 明²⁾, 二神生爾, 水上 健³⁾ (1) 防衛医科大学校内科, (2) 鳥居内科クリニック (東京), (3) 国立病院機構久里浜医療センター内視鏡部): 機能的消化管障害: 診断・治療の進歩と今後の展開. 日本内科学会雑誌 2013; 102 (1): 110-130.

著 書

- 1) Sakamoto C, Filaretova-P L¹⁾, Takeuchi K²⁾ (1) Laboratory of Experimental Endocrinology, Pavlov Institute of Physiology, Russian Academy of Sciences, (2) Division of Pathological Sciences, Department of Pharmacol-

ogy and Experimental Therapeutics, Kyoto Pharmaceutical University Misasagi Yamashina) : [編集] Cell/Tissue Injury and Cytoprotection/Organoprotection in the Gastrointestinal Tract (Choitsu Sakamoto), 2012 : Karger.

- 2) 坂本長逸 : [編集] Midgut 診療の新展開. Modern Physician (坂本長逸), 2012 : 株式会社新興出版社.
- 3) 金沢秀典 : [分担] 食道静脈瘤の薬物療法. 食道・胃静脈瘤 (小原勝敏, 鈴木博昭), 2012 : pp286-291, 株式会社日本メディカルセンター.
- 4) 岩切勝彦, 千野 修, 柏木秀幸 : [分担] 3) アカラシア, I. アカラシアの内視鏡診断. 消化器内視鏡ハンドブック (日本消化器内視鏡学会・日本消化器内視鏡学会卒後教育委員会), 2012 : pp163-166, 日本メディカルセンター.
- 5) 岩切勝彦 : [分担] 6章, 内科的疾患, 5. 食道運動障害 (アカラシア, その他の食道運動障害). 疾患別に診る嚥下障害 (藤島一郎), 2012 : pp389-396, 医師薬出版株式会社.
- 6) 岩切勝彦, 川見典之, 佐野弘仁, 田中由理子, 梅澤まり子, 坂本長逸 : [分担] びまん性食道痙攣症, 病態生理. 最新医学別冊, 新しい診断と治療の ABC 77, 消化器 11, 機能的食道疾患 - GERD と機能的食道障害 - (木下芳一), 2013 : pp175-180, 株式会社最新医学社.
- 7) 岩切勝彦 : [分担] III 章, A. 食道疾患 1. アカラシア, a. 内科的治療. 消化器疾患最新治療 2013-2014 (菅野健太郎・上西紀夫・井廻道夫), 2013 : pp95-104, 南江堂.

学会発表

(1) 特別講演 :

- 1) 岩切勝彦 : 重症 GERD の病態と治療. 福井県内科医会学術講演会 (福井), 2012. 7.
- 2) 岩切勝彦 : 重症 GERD の病態と治療. 上越医師会学術講演会 (上越), 2012. 8.
- 3) 岩切勝彦 : GERD の病態と治療. 印旛市郡医師会学術講演会 (佐倉), 2012. 9.
- 4) 岩切勝彦 : GERD の病態と治療. 市川市医師会学術講演会 (市川), 2012. 9.
- 5) 岩切勝彦 : GERD の病態と治療. 印旛市郡医師会学術講演会 (成田), 2012. 10.
- 6) 岩切勝彦 : GERD の病態と治療. 群馬郡医師会学術講演会 (高崎), 2012. 10.
- 7) 岩切勝彦 : 難治性 NERD の病態. 倉敷 GERD 研究会 17 回学術集会 (倉敷), 2012. 11.
- 8) 岩切勝彦 : 日本の環境下に適した PPI とは?. 佐倉・四街道地区消化器病症例検討会 (佐倉), 2012. 11.
- 9) 岩切勝彦 : High-resolution manometry による食道運動異常症の診断と治療. 群馬逆流性食道炎研究会 (第 17 回) (前橋), 2012. 11.
- 10) 岩切勝彦 : GERD の診断と治療. 北摂胃腸研究会 (第 20 回) (大阪), 2013. 3.
- 11) 岩切勝彦 : 重症 GERD の病態と治療. 木曜会学術講演会 (都城), 2013. 2.

(2) シンポジウム :

- 1) 飯泉 匡¹⁾, 星原芳雄²⁾, 岩切勝彦¹⁾ 日本医科大学 第三内科, 飯泉医院, ²⁾ 経済産業省 診療所) : GERD の内視鏡診断の問題点とその対応 下部食道柵状縦走血管の白色混濁の程度と頻度の検討. 日本消化器内視鏡学会総会 (第 83 回) (東京), 2012. 5.
- 2) 厚川正則¹⁾, 坪田昭人²⁾, 近藤千紗¹⁾, 糸川典夫¹⁾, 橋本知美, 福田 健, 松下洋子, 城所秀子, 小林玲樹, 橋原義之, 中塚雄久, 金沢秀典, 坂本長逸¹⁾ 日本医科大学千葉北総病院 消化器内科, ²⁾ 東京慈恵会医科大学総合医科学研究センター臨床医学研究所) : 高齢 C 型慢性肝炎患者に対する VitaminD 併用 PEG-IFN/Ribavirin 療法における治療早期のウィルス減衰についての検討. 日本高齢消化器病学会 (第 15 回) (弘前市), 2012. 6.
- 3) 山脇博士, 二神生爾, 河越哲郎, 小高康裕, 名見耶浩幸, 新福摩弓, 堀江 茜, 楠 正典, 植木信江, 三宅一昌, 坂本長逸 : CD44 陽性胃癌肝細胞の COX-2 発現の解析. 日本ヘリコバクター学会学術集会 (第 18 回) (岡山市), 2012. 6.

- 4) 二神生爾, 泉 日輝, 新福摩弓, 山脇博士, 小高康裕, 名児耶浩幸, 中川 愛, 進藤智隆, 河越哲郎, 岩切勝彦, 坂本長逸: *H.pylori* 陰性 FD 患者における空腹感スコアと ghrelin, preproghrelin の遺伝子多型との相関関係の検討. 日本ヘリコバクター学会学術集会 (第 18 回) (岡山市), 2012. 6.
 - 5) 二神生爾, 新福摩弓, 坂本長逸: FD 患者における睡眠障害と臨床症状および胃排出能ろの相関関係の解析: nizatidine による cross-over 試験の試み. 日本消化器病学会大会 (第 54 回) (神戸), 2012. 10.
 - 6) 三井啓吾, 鈴木将大, 小杉友紀, 馬來康太郎, 遠坂由紀子, 春日裕介, 玉木祐希江, 高橋陽子, 江原彰仁, 小林剛, 瀬尾継彦, 米澤真興, 田中 周, 辰口篤志, 坂本長逸, その他 1 名: ダブルバルーン内視鏡とカプセル内視鏡を併用した症例の検討. 小腸研究会 (第 50 回) (京都市), 2012. 11.
 - 7) 馬來康太郎, 藤森俊二, 小杉友紀, 玉木祐希江, 高橋陽子, 江原彰仁, 小林 剛, 瀬尾継彦, 三井啓吾, 米澤真興, 田中 周, 辰口篤志, 坂本長逸: 顕性出血と滯在性出血におけるカプセル内視鏡検査所見の比較検討. 日本消化器内視鏡学会関東地方会 (第 95 回) (東京), 2012. 12.
 - 8) 川見典之, 岩切勝彦¹⁾, 梅澤まり子, 佐野弘仁, 田中由理子, 坂本長逸 (¹⁾ 日本医科大学千葉北総病院 消化器内科): 逆流性食道炎患者の食道運動機能低下は原因か結果か: High resolution manometry による検討. 日本消化管学会総会学術集会 (第 9 回) (東京), 2013. 1.
- (3) パネルディスカッション:
- 1) 三井啓吾, 小林 剛, 小杉友紀, 鈴木将大, 馬來康太郎, 遠坂由紀子, 春日祐介, 玉木祐希江, 高橋陽子, 江原彰仁, 米澤真興, 田中 周, 辰口篤志, 藤森俊二, 坂本長逸: カプセル内視鏡・ダブルバルーン内視鏡の併施と, ダブルバルーン内視鏡単独の診断能比較. 日本消化器内視鏡学会関東地方会 (第 94 回) (東京), 2012. 6.
 - 2) 三宅一昌, 藤森俊二, 坂本長逸: 長期低用量アスピリン服用者における出血性消化管病変の検討. 日本消化器病学会総会 (第 98 回) (東京), 2012. 4.
 - 3) 名児耶浩幸, 二神生爾, 坂本長逸: 食道癌組織において ROS 刺激下に誘導される Apurinic/aprimidinic endonuclease-1 (APE-1) および COX-2 発現意義の解析. 日本消化器病学会大会 (第 54 回) (神戸), 2012. 10.
 - 4) 三井啓吾, 小林 剛, 坂本長逸: 出血症状別によるダブルバルーン内視鏡による原因不明消化管出血の診断. 日本消化器病学会大会 (第 54 回) (神戸), 2012. 10.
 - 5) 藤森俊二, 高橋陽子, 坂本長逸: プロトンポンプ阻害剤の健常人小腸粘膜に対する影響を調べる pilot 試験. 日本消化器病学会大会 (第 54 回) (神戸), 2012. 10.
 - 6) 藤森俊二, 蓮田泰誠¹⁾, 坂本長逸 (¹⁾ 理化学研究所ゲノム医科学研究センター): NSAIDs 起因性小腸傷害関連遺伝子多型の模索. 日本消化器病学会総会 (第 99 回) (鹿児島), 2013. 3.
 - 7) 岩切勝彦¹⁾, 川見典之, 野村 務²⁾ (¹⁾ 日本医科大学千葉北総病院 消化器内科, ²⁾ 日本医科大学 消化器外科学): PPI 抵抗性 NERD 患者の病態に基づく治療戦略. 日本消化器病学会総会 (第 99 回) (鹿児島), 2013. 3.
 - 8) 川見典之, 岩切勝彦, 佐野弘仁, 田中由理子, 河越哲郎, 野村 務¹⁾, 萩原信敏¹⁾, 松谷 毅¹⁾, 宮下正夫¹⁾, 坂本長逸 (¹⁾ 日本医科大学 外科): 食道運動機能障害の現状と今後の展開 High resolution manometry によるアカラシア新分類からみたバルーン拡張術の成績. 日本食道学会学術集会 (第 66 回) (長野県軽井沢), 2012. 6.
 - 9) 野村 務¹⁾, 松谷 毅¹⁾, 萩原信敏¹⁾, 牧野浩司¹⁾, 丸山 弘¹⁾, 藤田逸郎¹⁾, 岩切勝彦, 川見典之, 宮下正夫¹⁾, 内田英二¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学医学部 外科): 食道運動機能障害に対する当施設での治療の現状と今後の方向性外科の立場から. 日本食道学会学術集会 (第 66 回) (長野県軽井沢), 2012. 6.
- (4) セミナー:
- 1) 植原義之: 門脈圧は下げられるか? インターフェロン治療が C 型肝硬変の門脈圧に及ぼす影響. 日本門脈圧亢進症学会総会 (第 19 回) (東京), 2012. 9.
 - 2) 岩切勝彦: 重症 GERD の病態と治療. 日本消化器内視鏡学会関東地方会 (第 94 回) (東京), 2012. 6.
 - 3) 岩切勝彦: 消化管運動からみた GERD の病態. 日本消化器病学会東北支部例会 (第 194 回) (仙台), 2013. 2.
 - 4) 岩切勝彦: GERD 治療. 日本実地医家消化器内視鏡研究会 (第 194 回) (横浜), 2012. 7.

- 5) 岩切勝彦：日本の環境下に適したPPIとは？. 日本消化器病学会大会（第54回）（神戸），2012. 10.
- 6) 岩切勝彦：睡眠障害，夜間逆流の観点から. 日本消化器内視鏡学会総会（第84回）（神戸），2012. 10.
- 7) 岩切勝彦：GERD診療における最近の話題. 日本消化器内視鏡学会関東地方会（第95回）（東京），2012. 12.
- (5) ポスターセッション：
- 1) Tatsuguchi A, Mitsui K, Yonezawa M, Shinji S, Tanaka S, Fujimori S, Gudis K, Sakamoto C : Nuclear phosphorylated *erbB2* and *erbB3* are poor prognosis predictors of colorectal cancer patients. Digestive Disease Week 2012 (San Diego, USA), 2012. 5.
 - 2) Kawami N, Iwakiri K, Sano H, Tanaka Y, Umezawa M, Hoshihara Y, Sakamoto C : The effect of aging on esophageal motility. Digestive Disease Week 2012 (San Diego, USA), 2012. 5.
 - 3) Sato W, Miyake K, Nagoya H, Kodaka Y, Shindo T, Ueki N, Kusunoki M, Kawagoe T, Futagami S, Gudis K, Sakamoto C : Some water-soluble vitamins are likely to be deficient at the time of peptic ulcer development : time-course changes in blood concentrations of water-soluble vitamins. Digestive Disease Week 2012 (San Diego, USA), 2012. 5.
 - 4) Miyake K, Ueki N, Sato W, Nagoya H, Kodaka Y, Shindo T, Kusunoki M, Kawagoe T, Futagami S, Gudis K, Sakamoto C : Classification of patients by using factors predictive of intolerance to transoral esophagogastroduodenoscopy (EGD) and identification of patients for whom transnasal EGD may be of particular value. Digestive Disease Week 2012 (San Diego, USA), 2012. 5.
 - 5) Takahashi Y, Fujimori S, Gudis K, Ehara A, Mitsui K, Tanaka S, Tatsuguchi A, Sakamoto C : Small intestinal edema had the strongest correlation with portal venous pressure amongst capsule endoscopy findings. Digestive Disease Week 2012 (San Diego, USA), 2012. 5.
 - 6) 河越哲郎, 小林 剛, 川見典之, 小高康裕, 小杉友紀, 名見耶浩幸, 新福摩弓, 植木信江, 楠 正典, 二神生爾, 三宅一昌, 岩切勝彦, 坂本長逸：切除不能胃がん症例における予後スケール作成の試み. 日本消化器病学会大会（第54回）（神戸），2012. 10.
 - 7) 遠坂由紀子, 藤森俊二, 小杉友紀, 鈴木将大, 馬來康太郎, 春日裕介, 高橋陽子, 玉木祐希江, 江原彰仁, 小林 剛, 瀬尾継彦, 三井啓吾, 米澤真興, 田中 周, 坂本長逸, その他1名：アミノサリチル酸製剤服用中の炎症性腸疾患患者における血清葉酸濃度の検討. 日本消化器病学会大会（第54回）（神戸），2012. 10.
 - 8) 辰口篤志, 三井啓吾, 米澤真興, 進士誠一¹⁾, 瀬尾継彦, 小林 剛, 江原彰仁, 高橋陽子, 田中 周, 藤森俊二, 坂本長逸 ¹⁾日本医科大学大学院 臓器病態制御外科学)：大腸癌における Heregulin とその受容体 ErbB3 および ErbB4 の発現と臨床病理学的意義. 日本消化器病学会大会（第54回）（神戸），2012. 10.
 - 9) 植木信江, 山脇博士, 小高康裕, 名見耶浩幸, 進藤智隆, 楠 正典, 河越哲郎, 二神生爾, 三宅一昌, 坂本長逸：胃腫瘍に対するESD後の後出血症例の検討. 日本消化器内視鏡学会総会（第84回）（神戸），2012. 10.
 - 10) 中川 愛, 二神生爾, 辰口篤志, 山脇博士, 小高康裕, 名見耶浩幸, 新福摩弓, 進藤智隆, 楠 正典, 植木信江, 河越哲郎, 三宅一昌, 坂本長逸：骨髓浸潤を認めた *H.pylori* 陰性 CD5 陽性胃 Maltoma の1例. 日本消化器内視鏡学会総会（第84回）（神戸），2012. 10.
 - 11) 高橋陽子, 山門 進¹⁾, 藤森俊二, 遠坂由紀子, 小杉友紀, 鈴木将大, 馬來康太郎, 江原彰仁, 小林 剛, 三井啓吾, 米澤真興, 田中 周, 辰口篤志, 坂本長逸 ¹⁾大倉山記念病院)：様々な治療法で軽快した腸管気腫性嚢胞症の3症例. 日本消化器内視鏡学会総会（第84回）（神戸），2012. 10.
 - 12) 馬來康太郎, 藤森俊二, 小杉友紀, 鈴木将大, 遠坂由紀子, 春日裕介, 玉木祐希江, 高橋陽子, 江原彰仁, 小林 剛, 瀬尾継彦, 三井啓吾, 米澤真興, 田中 周, 坂本長逸, その他1名：原因不明消化管出血における顕性出血と潜在性出血の所見の比較検討. 日本消化器内視鏡学会総会（第84回）（神戸），2012. 10.
 - 13) 松谷 毅¹⁾, 野村 務¹⁾, 藤田逸郎¹⁾, 金沢義一¹⁾, 萩原信敏¹⁾, 丸山 弘²⁾, 牧野浩司²⁾, 早川朋宏²⁾, 岩切勝彦, 河越哲郎, 川見典之, 内田英二¹⁾ ¹⁾日本医科大学 外科, ²⁾日本医科大学多摩永山病院)：食道癌術後に

輪状甲状膜切開で挿入した気管カニューレによる気管膜様部損傷に対し気管ステントを留置した1例. 日本消化器内視鏡学会総会 (第84回) (神戸), 2012. 10.

- 14) 野村 務¹⁾, 松谷 毅¹⁾, 萩原信敏¹⁾, 藤田逸郎¹⁾, 金沢義一¹⁾, 小野寺浩之¹⁾, 中村慶春¹⁾, 牧野浩司²⁾, 丸山弘²⁾, 川見典之, 岩切勝彦, 宮下正夫¹⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学大学院 臓器病態制御外科学, (2) 日本医科大学多摩永山病院 外科):びまん性食道痙攣に対する外科治療:腹臥位胸腔鏡下 Long myotomy の経験. 日本消化器内視鏡学会総会 (第84回) (神戸), 2012. 10.
- 15) 丸木雄太, 河越哲郎, 小杉友紀, 遠坂由紀子, 名児耶浩幸, 江原彰仁, 小林 剛, 植木信江, 辰口篤志, 馬來康太郎, 藤森俊二, 坂本長逸:大腸がんの治療中に5-FU系薬剤で特殊な副作用を生じた2例. 日本消化管学会総会学術集会 (第9回) (東京), 2013. 1.
- 16) 秋元直彦, 山口岳史¹⁾, 岡本陽祐¹⁾, 田形倫子¹⁾, 大竹陽介¹⁾, 市川一仁¹⁾, 富田茂樹¹⁾, 藤盛孝博¹⁾, 内藤善哉²⁾, 坂本長逸 (1) 獨協医科大学病理学 (人体分子), (2) 日本医科大学病理学 (統御機構・腫瘍学): Invasive micro-papillary carcinoma は難治性大腸癌の予測因子となりうる (第1報). 日本消化管学会総会学術集会 (第9回) (東京), 2013. 1.

(6) ワークショップ:

- 1) 藤森俊二, 坂本長逸:カプセル内視鏡で遭遇した小腸寄生虫の2例. 日本臨床寄生虫学会大会 (第23回) (東京), 2012. 6.
- 2) 高橋陽子, 藤森俊二, 坂本長逸:カプセル内視鏡を用いた小腸病変と門脈圧との相関に関する検討. 日本消化器内視鏡学会総会 (第83回) (東京), 2012. 5.
- 3) 鈴木将大, 三井啓吾, 小林 剛, 小杉友紀, 馬來康太郎, 遠坂由紀子, 春日裕介, 玉木祐希江, 高橋陽子, 江原彰仁, 米澤真興, 田中 周¹⁾, 辰口篤志, 藤森俊二, 坂本長逸 (1) 日本医科大学千葉北総病院 内科):ダブルバルーン内視鏡による小腸癌の診断. 日本消化管学会総会学術集会 (第9回) (東京), 2013. 1.

(7) ポスター:

- 1) 河越哲郎, 川見典之, 梅澤まり子, 小杉友紀, 名児耶浩幸, 江原彰仁, 植木信江, 小林 剛, 楠 正典, 二神生爾, 三宅一昌, 岩切勝彦, 坂本長逸:当科における stageIVB 食道がん治療の検討. 日本消化器病学会総会 (第98回) (東京), 2012. 4.
- 2) Kawamoto C, Manaka K¹⁾, Yamauchi A²⁾, Kaneko K, Miyamoto A, Shimizu S, Mizuno K (1) Dokkyo Medical University, (2) Yorii Hospital): Hepatocytes migration into both portral vein and hepatic vein during radiofrequency ablation in porcine liver. Digestive Disease Week 2012 (San Diego, CA, USA), 2012. 5.
- 3) 川本智章, 山内 篤¹⁾, 金子恵子, 宮元亮子, 清水秀治, 水野杏一 (1) さいたま寄居病院):腫瘍内圧を考慮したラジオ波焼灼療法は低侵襲, 低リスク手技となり得るか. 日本肝臓学会総会 (第48回) (金沢), 2012. 6.
- 4) 小高康裕, 二神生爾, 山脇博士, 河越哲郎, 名児耶浩幸, 泉 日輝, 大石典子, 堀江 茜, 進藤智隆, 新福摩弓, 楠 正典, 植木信江, 三宅一昌, 坂本長逸:COX-2のSNPを用いたH.pylori胃炎患者のハイリスク群の絞り込みの検討. 日本消化器病学会大会 (第54回) (神戸), 2012. 10.
- 5) 山脇博士, 二神生爾, 河越哲郎, 小高康裕, 名児耶浩幸, 新福摩弓, 堀江 茜, 進藤智隆, 楠 正典, 植木信江, 三宅一昌, 坂本長逸:CD44陽性胃癌幹細胞のCOX-2発現の解析. 日本消化器病学会大会 (第54回) (神戸), 2012. 10.
- 6) 萩原信敏¹⁾, 宮下正夫¹⁾, 野村 務¹⁾, 松谷 毅¹⁾, 中溝宗永²⁾, 横島一彦²⁾, 酒主敦子²⁾, 河越哲郎, 牧野浩司¹⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学 外科, (2) 日本医科大学付属病院 耳鼻咽喉科・頭頸部外科):チーム医療の取り組みで喉頭温存食道切除が可能であった頸胸部進行食道癌の1例. 日本食道学会学術集会 (第66回) (長野県軽井沢), 2012. 6.
- 7) 松野邦彦¹⁾, 松谷 毅¹⁾, 野村 務¹⁾, 萩原信敏¹⁾, 岩切勝彦, 河越哲郎, 川見典之, 藤田逸郎¹⁾, 宮下正夫¹⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学 医学部 外科):悪性リンパ腫合併食道扁平上皮癌の1例. 日本食道学会学術集会

(第 66 回) (長野県軽井沢), 2012. 6.

- 8) 河越哲郎, 川見典之, 梅澤まり子, 二神生爾, 岩切勝彦, 松谷 毅¹⁾, 野村 務¹⁾, 宮下正夫¹⁾, 宮下次廣¹⁾, 坂本長逸 (1) 日本医科大学 医学部外科: Stage IV B 食道がんにおける集学的治療の検討. 日本食道学会学術集会 (第 66 回) (長野県軽井沢), 2012. 6.
- 9) 岩切勝彦, 野村 務¹⁾, 川見典之, 佐野弘仁, 田中由理子, 河越哲郎, 萩原信敏¹⁾, 松谷 毅¹⁾, 宮下正夫¹⁾, 坂本長逸 (1) 日本医科大学 医学部 外科: GERD 診療の最先端 PPI 抵抗性 NERD の治療戦略. 日本食道学会学術集会 (第 66 回) (長野県軽井沢), 2012. 6.

(8) 一般講演:

- 1) 花田優理子, 高橋陽子, 藤森俊二, 小杉友紀, 鈴木将大, 馬來康太郎, 遠坂由紀子, 春日裕介, 江原彰仁, 小林剛, 三井啓吾, 米澤真興, 田中 周, 辰口篤志, 坂本長逸, その他 2 名: APC 焼灼術施行部位に pyogenic granuloma が認められた 1 例. 日本消化器病学会関東支部 支部例会 (第 320 回) (東京), 2012. 7.
- 2) 高橋陽子, 藤森俊二, 松下洋子, 鈴木将大, 馬來康太郎, 遠坂由紀子, 春日裕介, 山田祐希江, 瀬尾継彦, 江原彰仁, 小林 剛, 三井啓吾, 米澤真興, 田中 周, 坂本長逸, その他 3 名: 門脈圧亢進症を伴う肝硬変患者に対して施行した TIPS による小腸粘膜変化についての検討. 日本カプセル内視鏡学会学術集会 (第 5 回) (東京), 2012. 7.
- 3) 竹之内菜菜, 楠 正典, 三宅一昌, 小高康裕, 名児耶浩幸, 新福摩弓, 進藤智隆, 植木信江, 河越哲郎, 辰口篤志, 二神生爾, 津久井拓, 坂本長逸: 生検で診断がつかず, 難治性胃潰瘍として長期経過観察した胃悪性リンパ腫の 1 例. 日本消化器内視鏡学会関東地方会 (第 94 回) (東京), 2012. 6.
- 4) 安良岡高志, 佐藤 航, 榎原義之, 橋本知美, 糸川典夫, 近藤千紗, 福田 健, 松下洋子, 城所秀子, 厚川正則, 中塚雄久, 坂本長逸, 滝 保彦¹⁾, 長田祐二¹⁾ (1) 博慈会記念総合病院 消化器内科: 脾動脈瘤破裂により hemosuccus pancreaticus をきたした 1 例. 日本消化器病学会関東支部例会 (第 319 回) (東京), 2012. 5.
- 5) 厚川正則¹⁾, 坪田昭人²⁾, 近藤千紗¹⁾, 橋本知美¹⁾, 糸川典夫¹⁾, 松下洋子¹⁾, 福田 健, 城所秀子¹⁾, 小林玲樹, 榎原義之, 中塚雄久, 金沢秀典, 坂本長逸 (1) 日本医科大学千葉北総病院消化器内科, (2) 東京慈恵会医科大学総合医科学研究センター: 高齢 C 型慢性肝炎に対する Vitamin D 併用 PEG-IFN, Ribavirin 併用療法についての検討. 日本肝臓学会総会 (第 48 回) (金沢), 2012. 6.
- 6) 松下洋子, 榎原義之, 金沢秀典, 藤森俊二, 糸川典夫, 近藤千紗, 福田 健, 城所秀子, 厚川正則, 中塚雄久, 坂本長逸: 門脈圧亢進症例における小腸粘膜所見と門脈圧および背景因子との関係. 日本肝臓学会総会 (第 48 回) (金沢), 2012. 6.
- 7) 厚川正則¹⁾, 坪田昭人²⁾, 近藤千紗¹⁾, 橋本知美¹⁾, 糸川典夫, 松下洋子, 福田 健, 城所秀子, 小林玲樹, 榎原義之, 中塚雄久, 金沢秀典, 坂本長逸 (1) 日本医科大学千葉北総病院消化器内科, (2) 東京慈恵会医科大学総合医科学研究センター: 1 型高ウイルス量の C 型慢性肝炎に対する PEG-IFN/ribavirin 療法における fluvastatin 併用がウイルス再燃を抑制する. 日本肝臓学会総会 (第 48 回) (金沢), 2012. 6.
- 8) 川見典之, 岩切勝彦, 梅澤まり子, 佐野弘仁, 田中由理子, 星原芳雄¹⁾, 坂本長逸 (1) 経済産業省診療所: High resolution manometry を用いた高齢者食道運動機能の検討. 日本消化器病学会総会 (第 98 回) (東京), 2012. 4.
- 9) 佐藤 航, 三宅一昌, 小高康裕, 新福摩弓, 名児耶浩幸, 進藤智隆, 植木信江, 河越哲郎, 二神生爾, 坂本長逸: 活動性消化性潰瘍における血中水溶性ビタミン濃度の経時的変化. 日本消化器病学会総会 (第 98 回) (東京), 2012. 4.
- 10) 若林大雅, 二神生爾, 米澤真興, 山脇博士, 中川 愛, 名児耶浩幸, 新福摩弓, 楠 正典, 植木信江, 河越哲郎, 藤森俊二, 三宅一昌, 坂本長逸: 消化管出血と腸管感染症を繰り返した慢性偽性腸閉塞症の 1 例. 日本消化器病学会関東支部例会 (第 321 回) (東京), 2012. 9.
- 11) Sakamoto C: Heregulin, an agonist of erb3 or erb4, expression linked to a COX-2-PEG2 pathway in fibroblasts

possibly plays a role in ulcer repair process in humans. International Symposium on Cell/Tissue Injury and Cytoprotection/ Organoprotection (7th) (Hawaii, USA), 2012. 9.

- 12) 岩切勝彦¹⁾, 川見典之, 佐野弘仁, 田中由理子, 坂本長逸 (1) 日本医科大学 千葉北総病院 消化器内科) : PPI 抵抗性 NERD の病態. 日本臨床生理学会総会 (第 49 回) (長崎), 2012. 10.
- 13) 二神生爾, 山脇博士, 新福摩弓, 小高康裕, 名見耶浩幸, 河越哲郎, 三宅一昌, 岩切勝彦, 坂本長逸 : 機能性ディスペプシア患者における空腹感スコアと GHRL 遺伝子多型との相関関係の解析. 日本臨床生理学会総会 (第 49 回) (長崎), 2012. 10.
- 14) 福田 健, 榎原義之, 金沢秀典, 橋本知美, 糸川典夫, 近藤千紗, 松下洋子, 張本滉智, 城所秀子, 厚川正則, 中塚雄久, 坂本長逸 : 難治性腹水の全身血行動態の特徴. 日本肝臓学会大会 (第 16 回) (神戸), 2012. 10.
- 15) 厚川正則¹⁾, 坪田昭人²⁾, 近藤千紗¹⁾, 糸川典夫¹⁾, 橋本知美, 福田 健, 松下洋子, 城所秀子, 小林玲樹, 榎原義之, 中塚雄久, 金澤秀典¹⁾, 坂本長逸 (1) 日本医科大学千葉北総病院 消化器内科, 2) 東京慈恵会医科大学柏病院 消化器・肝臓内科) : 高齢 C 型慢性肝炎患者に対する Vitamin D 併用 PEG-IFN/Ribavirin 併用療法における早期 HCV-RNA 減衰についての検討. 日本肝臓学会大会 (第 16 回) (神戸), 2012. 10.
- 16) 藤森俊二, 蒔田泰誠¹⁾, 古田隆久²⁾, 遠坂由紀子, 小杉友紀, 鈴木将大, 馬來康太郎, 春日裕介, 高橋陽子, 江原彰仁, 三井啓吾, 米澤真興, 田中 周, 辰口篤志, 坂本長逸 (1) 理化学研究所ゲノム医科学研究センター, 2) 浜松医科大学臨床研究管理センター) : NSAIDs 関連の小腸傷害関連遺伝子多型の検討. 小腸研究会 (第 50 回) (京都市), 2012. 11.
- 17) 山脇博士, 二神生爾, 坂本長逸 : LPS 前投与 urocortin 1 脳槽内投与ラットにおける胃排出能および小腸通過時間の比較検討. 機能性ディスペプシア研究会 (第 6 回) (大阪), 2012. 11.
- 18) 厚川正則¹⁾, 坪田昭人²⁾, 近藤千紗¹⁾, 糸川典夫¹⁾, 福田 健, 松下洋子, 榎原義之, 長田祐二³⁾, 中塚雄久, 坂本長逸 (1) 日本医科大学千葉北総病院 消化器内科, 2) 東京慈恵会医科大学総合医科学研究センター, 3) 博慈会記念総合病院消化器内科) : C 型慢性肝炎に対する PEG-IFN/Ribavirin/Telaprevir 療法における IL28B genotype 別の HCV-RNA 消失時期の検討. 日本肝臓学会東部会 (第 39 回) (東京), 2012. 12.
- 19) 近藤千紗¹⁾, 厚川正則¹⁾, 坪田昭人²⁾, 糸川典夫¹⁾, 橋本知美, 福田 健, 松下洋子, 城所秀子, 榎原義之, 中塚雄久, 金沢秀典, 坂本長逸 (1) 日本医科大学千葉北総病院 消化器内科, 2) 東京慈恵会医科大学総合医科学研究センター) : 血小板低値の C 型慢性肝炎に対する PSE 先行 PEG-IFN/Ribavirin/Telaprevir 併用療法の成績. 日本肝臓学会東部会 (第 39 回) (東京), 2012. 12.
- 20) 安良岡高志, 厚川正則¹⁾, 坪田昭人²⁾, 近藤千紗¹⁾, 橋本知美, 福田 健, 松下洋子, 城所秀子, 榎原義之, 中塚雄久, 金沢秀典, 坂本長逸 (1) 日本医科大学千葉北総病院 消化器内科, 2) 東京慈恵会医科大学総合医科学研究センター) : 1 型高ウイルス量の C 型肝硬変に対する VitaminD 併用 PEG-IFN/Ribavirin 療法の検討. 日本肝臓学会東部会 (第 39 回) (東京), 2012. 12.
- 21) 厚川正則¹⁾, 坪田昭人²⁾, 坂本長逸 (1) 日本医科大学千葉北総病院 消化器内科, 2) 東京慈恵会医科大学総合医科学研究センター) : 高齢 C 型慢性肝炎患者に対する VitaminD 併用 PEG-IFN/Ribavirin 療法の成績. 日本肝臓学会東部会 (第 39 回) (東京), 2012. 12.
- 22) 糸川典夫¹⁾, 厚川正則¹⁾, 坪田昭人²⁾, 近藤千紗¹⁾, 橋本知美, 松下洋子, 福田 健, 城所秀子, 榎原義之, 中塚雄久, 金沢秀典, 坂本長逸 (1) 日本医科大学千葉北総病院 消化器内科, 2) 東京慈恵会医科大学総合医科学研究センター) : 1 型高ウイルス量, IL28B minor genotype の C 型慢性肝炎に対する IFN β 2 分割/Ribavirin 併用先行投与の成績. 日本肝臓学会東部会 (第 39 回) (東京), 2012. 12.
- 23) 大森 順, 福田 健, 橋本知美, 糸川典夫, 枡 卓史, 近藤千紗, 張本滉智, 松下洋子, 城所秀子, 厚川正則, 榎原義之, 中塚雄久, 金沢秀典, 坂本長逸 : JKA2 遺伝子異変による真性多血症が原因と考えられた Budd-Chiari 症候群の 1 例. 日本肝臓学会東部会 (第 39 回) (東京), 2012. 12.
- 24) 糸川典夫¹⁾, 厚川正則¹⁾, 近藤千紗¹⁾, 橋本知美, 松下洋子, 福田 健, 城所秀子, 榎原義之, 中塚雄久, 金沢

- 秀典, 岩切勝彦¹⁾, 坂本長逸⁽¹⁾ 日本医科大学千葉北総病院 消化器内科): C型肝硬変合併進行肝細胞癌に対する Sorafenib, IFN 少量投与併用療法を施行した1例. 日本肝臓学会東部会(第39回)(東京), 2012. 12.
- 25) 新井泰央, 福田 健, 榎原義之, 金沢秀典, 糸川典夫, 近藤千紗, 松下洋子, 城所秀子, 小林玲樹, 小林 剛, 厚川正則, 中塚雄久, 藤森俊二, 坂本長逸: Portal hypertensive enteropathy からの出血に対して TIPS が有効であった1例. 日本消化器病学会関東支部例会(第322回)(東京), 2012. 12.
- 26) 吉岡将史¹⁾, 山根由唯¹⁾, 進士誠一¹⁾, 原田潤一郎¹⁾, 菅 隼人¹⁾, 山田岳史¹⁾, 小泉岐博¹⁾, 上田純志¹⁾, 高田英志¹⁾, 内田英二¹⁾, 藤森俊二, 河越哲郎, 三井啓吾, 川見典之, 坂本長逸, その他1名⁽¹⁾ 日本医科大学消化器外科): 原発性多発小腸癌の1例. 日本消化器病学会関東支部例会(第322回)(東京), 2012. 12.
- 27) 渡邊 淳¹⁾, 岩崎由美, 川本智章²⁾, 榎原義之, 中塚雄久, 飯野幸永³⁾, 本間 博³⁾, 島田 隆¹⁾ ⁽¹⁾ 日本医科大学附属病院 ゲノム先端医療部, ²⁾ 日本医科大学 肝臓内科, ³⁾ 日本医科大学付属病院 中央検査部): i-densy を用いた IL28B 遺伝子多型解析の経験から 医療機関内における投薬前遺伝子検査への活用に向けて. 日本臨床検査自動化学会大会(第44回)(横浜), 2012. 10.
- 28) 安良岡高志, 榎原義之, 金沢秀典, 佐藤 航, 橋本知実, 枙 卓史, 近藤千紗, 福田 健, 松下洋子, 城所秀子, 厚川正則, 中塚雄久, 坂本長逸: 肝動脈門脈短絡を合併した肝硬変の2症例. 日本消化器病学会大会(第54回)(神戸), 2012. 10.
- 29) 橋本知実, 榎原義之, 金沢秀典, 糸川典夫, 近藤千紗, 福田 健, 松下洋子, 城所秀子, 厚川正則, 中塚雄久, 坂本長逸: 1型肝腎症候群に対するノルアドレナリンの治療経験. 日本消化器病学会大会(第54回)(神戸), 2012. 10.
- 30) 松下洋子, 榎原義之, 金沢秀典, 橋本知実, 糸川典夫, 近藤千紗, 福田 健, 城所秀子, 厚川正則, 中塚雄久, 藤森俊二, 坂本長逸: 門脈圧亢進症例における小腸粘膜所見の TIPS による変化. 日本門脈圧亢進症学会総会(第19回)(東京), 2012. 9.
- 31) 安良岡高志, 榎原義之, 金沢秀典, 橋本知実, 糸川典夫, 近藤千紗, 福田 健, 松下洋子, 城所秀子, 厚川正則, 中塚雄久, 坂本長逸: 肝動脈門脈短絡に対して塞栓術と TIPS の併用療法を行った肝硬変の2例. 日本門脈圧亢進症学会総会(第19回)(東京), 2012. 9.
- 32) 福田 健, 榎原義之, 金沢秀典, 橋本知実, 糸川典夫, 近藤千紗, 松下洋子, 張本滉智, 城所秀子, 厚川正則, 中塚雄久, 坂本長逸: 適応を厳格化した難治性腹水に対する TIPS の治療成績. 日本門脈圧亢進症学会総会(第19回)(東京), 2012. 9.
- 33) 厚川正則, 坪田昭人¹⁾, 近藤千紗, 糸川典夫, 橋本知実, 松下洋子, 福田 健, 城所秀子, 榎原義之, 中塚雄久, 金沢秀典, 坂本長逸 ⁽¹⁾ 東京慈恵会医科大学総合医科学研究センター): 肝線維化進行例に対する IFN 治療における当科の工夫. 日本門脈圧亢進症学会総会(第19回)(東京), 2012. 9.
- 34) 橋本知実, 榎原義之, 金沢秀典, 福田 健, 松下洋子, 城所秀子, 糸川典夫, 近藤千紗, 厚川正則, 中塚雄久, 坂本長逸 ⁽¹⁾ 東京慈恵会医科大学総合医科学研究センター): ノルアドレナリンが有腹水肝硬変の全身および肝, 腎血行動態へ及ぼす影響. 日本門脈圧亢進症学会総会(第19回)(東京), 2012. 9.
- 35) 上田達夫¹⁾, 村田 智¹⁾, 安井大祐¹⁾, 中澤 賢¹⁾, 小野澤志郎¹⁾, 嶺 貴彦¹⁾, 山口英宣¹⁾, 秋葉絢子¹⁾, 榎原義之, 汲田伸一郎¹⁾ ⁽¹⁾ 日本医科大学 放射線医学): 肝動脈化学塞栓術におけるミリプラチンとシスプラチンの抗腫瘍効果に関する比較検討. 日本医学放射線学会学術集会(第71回)(横浜), 2012. 4.
- 36) 二神生爾, 山脇博士, 新福摩弓, 名児耶浩幸, 小高康裕, 進藤智隆, 楠 正典, 植木信江, 河越哲郎, 坂本長逸: 機能性ディスペプシア患者における空腹感スコアと GHRL 遺伝子多型との相関関係の検討. 日本消化器病学会総会(第99回)(鹿児島), 2013. 3.
- 37) 中川 愛¹⁾, 厚川正則¹⁾, 島田紀朋²⁾, 坪田昭人³⁾, 近藤千紗¹⁾, 糸川典夫¹⁾, 福田 健, 松下洋子, 榎原義之, 長田祐二⁴⁾, 中塚雄久, 岩切勝彦, 坂本長逸 ⁽¹⁾ 日本医科大学千葉北総病院 消化器内科, ²⁾ 新松戸中央総合病院 消化器肝臓科, ³⁾ 東京慈恵会医科大学総合医科学研究センター, ⁴⁾ 博慈会記念総合病院 消化器内科): C型

- 慢性肝炎に対する 3 剤併用療法における fluvastatin 併用の初期ウイルス変動に与える影響についての検討. 日本消化器病学会総会 (第 99 回) (鹿児島), 2013. 3.
- 38) 名見耶浩幸, 二神生爾, 河越哲郎, 山脇博士, 小高康裕, 新福摩弓, 堀江 茜, 川見典之, 岩切勝彦, 飯泉 匡, 星原芳雄¹⁾, 牧野浩司²⁾, 宮下正夫²⁾, 土屋真一³⁾, 坂本長逸 (¹⁾ 経済産業省診療所, ²⁾ 日本医科大学付属病院 消化器外科, ³⁾ 日本医科大学付属病院病理部): ROS 刺激下流の新規分子マーカー, apurinicapyrimidinic endonuclease1 (APE1) を用いた食道癌進展および化学療法感受性の解析. 日本消化器病学会総会 (第 99 回) (鹿児島), 2013. 3.
- 39) 糸川典夫¹⁾, 厚川正則¹⁾, 坪田昭人²⁾, 近藤千紗¹⁾, 中川 愛¹⁾, 橋本知実, 福田 健, 松下洋子, 城所秀子, 楢原義之, 中塚雄久, 金沢秀典, 岩切勝彦¹⁾, 坂本長逸 (¹⁾ 日本医科大学千葉北総病院 消化器内科, ²⁾ 東京慈恵会医科大学総合医科学研究センター臨床医学研究所): IL28B minor genotype の C 型慢性肝炎に対する IFN β 2 分割 ribavirin 併用先行投与の成績. 日本消化器病学会総会 (第 99 回) (鹿児島), 2013. 3.
- 40) 川見典之, 岩切勝彦¹⁾, 梅澤まり子, 佐野弘仁, 田中由理子, 星野慎太郎¹⁾, 坂本長逸 (¹⁾ 日本医科大学千葉北総病院 消化器内科): 高齢逆流性食道炎患者の食道運動機能の解析: 逆流と食道運動機能低下の因果関係. 日本消化器病学会総会 (第 99 回) (鹿児島), 2013. 3.
- 41) 佐野弘仁, 岩切勝彦¹⁾, 川見典之, 田中由理子, 星野慎太郎¹⁾, 梅澤まり子, 坂本長逸 (¹⁾ 日本医科大学千葉北総病院 消化器内科): NERD 患者の胃酸逆流のメカニズムと逆流後の胃酸上昇パターン. 日本消化器病学会総会 (第 99 回) (鹿児島), 2013. 3.
- 42) 星野慎太郎¹⁾, 岩切勝彦¹⁾, 川見典之, 佐野弘仁, 田中由理子¹⁾, 坂本長逸 (¹⁾ 日本医科大学千葉北総病院 消化器内科): NERD, 逆流性食道炎患者の 2 次蠕動波. 日本消化器病学会総会 (第 99 回) (鹿児島), 2013. 3.
- 43) 厚川正則¹⁾, 坪田昭人²⁾, 近藤千紗¹⁾, 糸川典夫¹⁾, 中川 愛¹⁾, 橋本知実, 福田 健, 松下洋子, 城所秀子, 楢原義之, 中塚雄久, 金沢秀典, 岩切勝彦¹⁾, 坂本長逸 (¹⁾ 日本医科大学千葉北総病院 消化器内科, ²⁾ 東京慈恵会医科大学総合医科学研究センター): 高齢 C 型慢性肝炎に対する VitaminD 併用 PEG-IFN/ribavirin 併用療法についての検討. 日本消化器病学会総会 (第 99 回) (鹿児島), 2013. 3.
- 44) 山脇博士, 二神生爾, 坂本長逸: LPS 前投与 urocortin 1 脳槽内投与ラットにおける胃排出能および小腸通過時間の比較検討. 日本消化器病学会総会 (第 99 回) (鹿児島), 2013. 3.
- 45) 楢原義之, 金沢秀典, 坂本長逸: 経頸静脈的肝内門脈大循環短絡術 (TIPS) の治療成績. 先進医療フォーラム (第 4 回) (東京), 2013. 1.
- 46) Kawamoto C, Manaka K¹⁾, Yamauchi A²⁾, Kaneko K, Mizuno K (¹⁾ Dokkyo Medical University, ²⁾ Yorii Hospital): Hepatocytes Migration Into The Hepatic Vein During Radiofrequency Ablation In Porcine Liver. *Interventional Hepatology* (Ravello-Amalfi Coast, Italy), 2012. 5.
- 47) 川本智章, 山内 篤¹⁾, 金子恵子, 宮元亮子, 清水秀治, 水野杏一 (¹⁾ さいたま寄居病院): ラジオ波焼灼療法施行中の腫瘍内圧測定. 日本消化器病学会総会 (第 98 回) (東京), 2012. 4.
- 48) 川本智章, 金子恵子, 宮元亮子, 水野杏一, 間中研一¹⁾, 山内 篤²⁾ (¹⁾ 獨協医科大学医学総合研究所, ²⁾ さいたま寄居病院): ラジオ波焼灼療法中における肝静脈内剥離肝細胞. *Microwave Surgery* 研究会 (第 31 回) (大阪), 2012. 9.
- 49) 坂本 壮¹⁾, 藤森俊二, 坂本文夫²⁾ (¹⁾ 順天堂大学医学部附属順天堂練馬病院 救急・集中治療科, ²⁾ 坂本医院): PPI/AC 療法と PPI/AM 療法の *H.pylori* 次除菌率の比較検討. 日本消化器病学会総会 (第 54 回) (神戸), 2012. 10.
- 50) 宮元亮子, 金子恵子, 清水秀治, 川本智章, 水野杏一¹⁾, 安井大祐²⁾, 秋葉絢子²⁾, 中澤 賢²⁾, 村田 智²⁾, 清水哲也³⁾, 川野陽一³⁾, 谷合信彦³⁾, 真々田裕宏³⁾ (¹⁾ 日本医科大学付属病院 循環器内科, ²⁾ 日本医科大学付属病院 放射線科, ³⁾ 日本医科大学付属病院 第 1 外科): 当院における Sorafenib の臨床使用経験. 日本消化器病学会大会 (第 54 回) (神戸), 2012. 10.

- 51) 古木裕康¹⁾, 松谷 毅¹⁾, 野村 務¹⁾, 萩原信敏¹⁾, 藤田逸郎¹⁾, 岩切勝彦, 河越哲郎, 川見典之, 宮下正夫¹⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学 医学部 外科: 食道神経内分泌腫瘍の1例. 日本食道学会学術集会 (第66回) (長野県軽井沢), 2012. 6.
- 52) 篠塚恵理子¹⁾, 松谷 毅¹⁾, 野村 務¹⁾, 萩原信敏¹⁾, 岩切勝彦, 河越哲郎, 川見典之, 藤田逸郎¹⁾, 宮下正夫¹⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学 医学部 外科: 多発性筋炎合併食道腺癌の1例. 日本食道学会学術集会 (第66回) (長野県軽井沢), 2012. 6.
- 53) 岩切勝彦, 川見典之, 佐野弘仁, 田中由理子, 梅澤まり子, 坂本長逸: 一過性 LES 弛緩終了後に出現する蠕動波, LES は強収縮を有する. 日本平滑筋学会総会 (第54回) (東京), 2012. 8.
- 54) 大森 順, 岩切勝彦, 川見典之, 竹之内菜葉, 梅澤まり子, 佐野弘仁, 田中由理子, 野村 務¹⁾, 宮下正夫¹⁾, 内田英二¹⁾, 坂本長逸 (1) 日本医科大学附属病院 消化器外科: 食道筋層切開術 (long myotomy) を必要とした Jackhammer esophagus の1例. 日本消化器病学会関東支部例会 (第323回) (東京), 2013. 2.
- (9) オーラルセッション:
- 1) 市川一仁¹⁾, 有田宗史²⁾, 丸岡 喬¹⁾, 富田茂樹¹⁾, 上田博文³⁾, 山口岳史⁴⁾, 志田陽介⁴⁾, 加藤宏行⁴⁾, 永田 仁⁵⁾, 窪田敬一⁵⁾, 秋元直彦, 坂本長逸, 井村穰二⁶⁾, 田形倫子⁷⁾, 光永 篤⁸⁾, その他3名 (1) 獨協医科大学病理学 (人体分子), 2) 黒須病院外科, 3) 大阪医科大学一般・消化器外科, 4) 獨協医科大学第一外科, 5) 獨協医科大学第二外科, 6) 富山大学大学院医学薬学研究部病理診断学, 7) 東京女子医科大学八千代医療センター内視鏡科, 8) 東邦大学医療センター大森病院消化器内科: 切除不能進行大腸癌の臨床病理学的解析と大腸癌の動向. 日本消化管学会総会学術集会 (第9回) (東京), 2013. 1.
- 2) 山脇博士, 二神生爾, 坂本長逸: LPS 前投与 urocortin 1 脳槽内投与ラットにおける胃排出能および小腸通過時間の比較検討. 日本消化管学会総会学術集会 (第9回) (東京), 2013. 1.
- 3) 河越哲郎, 丸木雄太, 山脇博士, 小杉友紀, 小高康裕, 名児耶浩幸, 新福摩弓, 川見典之, 植木信江, 楠 正典, 二神生爾, 三宅一昌, 岩切勝彦, 坂本長逸: 切除不能胃がんにおける予後スケール作成の試み. 日本消化管学会総会学術集会 (第9回) (東京), 2013. 1.
- (10) ポスター発表:
- 1) 中川 愛, 二神生爾, 辰口篤志, 山脇博士, 小高康裕, 名児耶浩幸, 植木信江, 河越哲郎, 三宅一昌, 坂本長逸: 骨髄浸潤を認めた *H.pylori* 陰性 CD5 陽性胃 Maltoma の1例. 日本ヘリコバクター学会学術集会 (第18回) (岡山市), 2012. 6.
- (11) 専修医セッション:
- 1) 飽本哲兵, 辰口篤志, 遠坂由紀子, 小杉友紀, 鈴木将大, 馬來康太郎, 春日裕介, 高橋陽子, 江原彰仁, 三井啓吾, 米澤真興, 田中 周, 藤森俊二, 坂本長逸: 急速に発育した上行結腸癌の1例. 日本消化器内視鏡学会関東地方会 (第95回) (東京), 2012. 12.

[千葉北総病院消化器内科]

研究概要

上部消化管領域では, 食道癌・胃癌の化学療法, 早期胃癌・胃腺腫の内視鏡的治療, 難治性の胃食道逆流症患者に対する病態検査および病態に基づいた治療を行っている. また新規導入した食道内圧検査により, 原因不明な嚥下困難症例の診断・治療も開始している. 消化管領域では, 早期大腸癌・大腸腺腫の内視鏡的治療を行っており, 原因不明の消化管出血患者に対するカプセル内視鏡検査も施行している. 肝・胆・膵領域では, 肝臓癌に対するラジオ波焼灼療法, C型慢性肝炎に対するインターフェロン療法, 総胆管結石に対する内視鏡的治療などを積極的に行っている.

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) Atsukawa M¹⁾, Tsubota T²⁾, Kondo C¹⁾, Itokawa N¹⁾, Narahara Y³⁾, Nakatsuka K³⁾, Hashimoto S³⁾, Fukuda T³⁾, Matsushita Y³⁾, Kidokoro H³⁾, Kobayashi T³⁾, Kanazawa H³⁾, Sakamoto C³⁾ (1) Division of Gastroenterology, Department of Internal Medicine, Nippon Medical School Chiba Hokusoh Hospital, 2) Institute of Clinical Medicine and Research (ICMR), Jikei University School of Medicine, Chiba, 3) Division of Gastroenterology, Department of Internal Medicine, Nippon Medical School, Tokyo) : Combination of fluvastatin with pegylated interferon/ribavirin therapy reduces viral relapse in chronic hepatitis C infected with HCV genotype 1b. *Journal of Gastroenterology and Hepatology* 2013 ; 28 (1) : 51-56.
- 2) Itokawa N¹⁾, Atsukawa M¹⁾, Tsubota A²⁾, Kondo C¹⁾, Hashimoto S³⁾, Fukuda T³⁾, Matsushita Y³⁾, Kidokoro H³⁾, Kobayashi T³⁾, Narahara Y³⁾, Nakatsuka K³⁾, Kanazawa H³⁾, Iwakiri K¹⁾, Sakamoto C³⁾ (1) Division of Gastroenterology, Department of Internal Medicine, Nippon Medical School Chiba Hokusoh Hospital, 2) Institute of Clinical Medicine and Research (ICMR), Jikei University School of Medicine, Kashiwa, Chiba, 3) Division of Gastroenterology, Department of Internal Medicine, Nippon Medical School, Tokyo) : Lead-in treatment with interferon- β /ribavirin may modify the early hepatitis C virus dynamics in pegylated interferon alpha-2b/ribavirin combination for chronic hepatitis C patients with the IL28B minor genotype. *Journal of Gastroenterology and Hepatology* 2013 ; 28 (3) : 443-449.
- 3) Adachi K¹⁾, Furuta K²⁾, Miwa H³⁾, Oshima T³⁾, Miki M⁴⁾, Komazawa Y⁵⁾, Iwakiri K⁶⁾, Furuta T⁷⁾, Koike T⁸⁾, Shimatani T⁹⁾, Kinoshita Y²⁾ (1) Department of Clinical Nursing, Shimane University Faculty of Medicine, Izumo City, Shimane, 2) Department of Gastroenterology and Hepatology, Shimane University Faculty of Medicine, 3) Division of Upper Gastroenterology, Department of Internal Medicine, Hyogo College of Medicine, Nishinomiya, 4) Department of Gastroenterology, Hyogo Prefectural Awaji Hospital, 5) Division of Internal Medicine, Izumo City General Medical Center, 6) Division of Gastroenterology, Department of Internal Medicine, Nippon Medical School, Chiba Hokusoh Hospital, 7) Center for Clinical Research, Hamamatsu University School of Medicine, Hamamatsu) : A Study on the Efficacy of Rebamipide for Patients with Proton Pump Inhibitor-Refractory Non-Erosive Reflux Disease. *Digestive Diseases and Sciences* 2012 ; 57 (6) : 1609-1617.
- 4) Kumagai Y¹⁾, Yagi M¹⁾, Aida J³⁾, Ishida H²⁾, Suzuki S²⁾, Hashimoto T²⁾, Amanuma Y²⁾, Kusano M²⁾, Mukai S²⁾, Yamazaki S¹⁾, Iida M¹⁾, Ochiai T¹⁾, Matsuura M⁴⁾, Iwakiri K⁵⁾, Kawano T⁶⁾, et al. (1) Departments of Surgery, Ohta Nishinouchi Hospital, Fukushima, 2) Internal Medicine, Ohta Nishinouchi Hospital, Fukushima, 3) Research Team for Geriatric Pathology, Tokyo Metropolitan Institute of Gerontology, 4) Bioinformatics Group, Genome Center of JFCR, Japanese Foundation for Cancer Research, 5) Department of Internal Medicine, Nippon Medical School, 6) Department of Surgery, Tokyo Medical and Dental University, 7) Clinic of the Ministry of Economy, Trade and Industry, Tokyo) : Detailed features of palisade vessels as a marker of the esophageal mucosa revealed by magnifying endoscopy with narrow band imaging. *Diseases of the Esophagus* 2012 ; 25 (6) : 484-490.
- 5) Kondo C¹⁾, Atsukawa M¹⁾, Tsubota A²⁾, Itokawa N¹⁾, Fukuda T³⁾, Matsushita Y³⁾, Kidokoro H³⁾, Kobayashi T³⁾, Narahara Y³⁾, Nakatsuka K³⁾, Kanazawa H³⁾, Sakamoto C³⁾ (1) Division of Gastroenterology, Department of Internal Medicine, Nippon Medical School Chiba Hokusoh Hospital, 2) Institute of Clinical Medicine and Research (ICMR), Jikei University School of Medicine, Chiba, 3) Division of Gastroenterology, Department of Internal Medicine, Nippon Medical School, Tokyo) : An open-label randomized controlled study of pegylated interferon/ribavirin combination therapy for chronic hepatitis C with versus without fluv-

astatin. Journal of Viral Hepatitis 2012; 19 (9) : 615-622.

- 6) Atsukawa M¹⁾, Nakatsuka K¹⁾, Kobayashi T¹⁾, Shimizu M²⁾, Tamura H¹⁾, Harimoto H^{1,2)}, Takahashi H²⁾, Sakamoto C¹⁾ (1) Department of Internal Medicine, Nippon Medical School, Tokyo, 2) Microbiology and Immunology, Nippon Medical School, Tokyo) : Ribavirin downmodulates inducible costimulator on CD4+ T cells and their interleukin-10 secretion to assist in hepatitis C virus clearance. Journal of Gastroenterology and Hepatology 2012; 27 (4) : 823-831.

(2) 総説 :

- 1) 岩切勝彦, 星原芳雄^{1,2)}, 坂本長逸¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院内科学 (消化器内科学), 2) 経済産業省診療所) : 食道 逆流性食道炎. 消化器内視鏡 [必携] 内視鏡リファレンスブック 2012 2012; 24 (4) : 462-465.
- 2) 岩切勝彦, 川見典之¹⁾, 田中由理子¹⁾, 佐野弘仁¹⁾, 星原芳雄^{1,2)}, 野村 務¹⁾, 松谷 毅¹⁾, 萩原信敏¹⁾, 宮下正夫³⁾, 坂本長逸¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院内科学 (消化器内科学), 2) 経済産業省診療所, 3) 日本医科大学付属病院外科学 (消化器外科学)) : アカラシアの診断とバルーン拡張術. 日本消化器病学会雑誌 2012; 109 (5) : 710-721.
- 3) 川見典之¹⁾, 岩切勝彦, 梅澤まり子¹⁾, 佐野弘仁¹⁾, 田中由理子¹⁾, 星原芳雄^{1,2)}, 坂本長逸¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院内科学 (消化器内科学), 2) 経済産業省診療所) : わが国の GERD における診断法のスタンダードは?. The GI Forefront 2012; 8 (1) : 20-22.
- 4) 野村 務¹⁾, 松谷 毅¹⁾, 萩原信敏¹⁾, 牧野浩司²⁾, 丸山 弘²⁾, 藤田逸郎¹⁾, 中村慶春¹⁾, 岩切勝彦^{3,4)}, 宮下正夫¹⁾, 内田英二¹⁾ (1) 大学院医学研究科臓器病態制御外科, 2) 多摩永山病院外科, 3) 大学院医学研究科病態制御腫瘍内科学, 4) 千葉北総病院消化器内科) : 臨床医のために: 食道裂孔ヘルニアに対するメッシュを用いた腹腔鏡下手術. 日医大医会誌 2012; 8 (3) : 207-210.

(3) 短報 :

- 1) 島田紀朋¹⁾, 厚川正則, 坪田昭人²⁾, 吉澤 海³⁾, 安部 宏³⁾, 加藤慶三¹⁾, 井家麻紀子¹⁾, 安達哲史¹⁾, 立花浩幸¹⁾, 佐藤祥之¹⁾, 戸田剛太郎¹⁾, 近藤千紗, 福田 健⁴⁾, 坂本長逸⁴⁾, 相澤良夫³⁾ (1) 新松戸中央総合病院消化器・肝臓科, 2) 東京慈恵会医科大学総合医科学研究センター臨床医学研究所, 3) 東京慈恵会医科大学葛飾医療センター消化器・肝臓 内科, 4) 日本医科大学付属病院内科学 (消化器内科学)) : Genotype1b・C 型慢性肝炎に対する Peginterferon a-2b/Ribavirin Telaprevir3 剤併用療法の Rapid virological response に寄与する因子の検討: 多施設共同試験. 肝臓 2012; 53 (10) : 627-632.

著 書

- 1) 岩切勝彦, 千野 修¹⁾, 柏木秀幸²⁾ (1) 東海大学消化器外科, 2) 富士市立中央病院外科) : [分担] 咽頭・食道, 3) アカラシア. 消化器内視鏡ハンドブック (監修: 日本消化器内視鏡学会・編集: 日本消化器内視鏡学会卒業教育委員会), 2012; pp163-166, 株式会社 日本メディカルセンター.
- 2) 岩切勝彦 : [分担] 6-5 食道運動障害 (アカラシア, その他の食道運動障害). 疾患別に診る嚥下障害 (監修: 藤島一郎・編集: 片桐伯真, 北住映二, 藤本保志, 丸茂一義, 谷口洋, 山脇正永), 2012; pp389-396, 医歯薬出版株式会社.
- 3) 岩切勝彦, 川見典之¹⁾, 佐野弘仁¹⁾, 田中由理子¹⁾, 梅澤まり子¹⁾, 坂本長逸¹⁾ (1) 付属病院内科学 (消化器内科学)) : [分担] 第6章びまん性食道痙攣症: 病態生理. 最新医学別冊, 新しい診断と治療の ABC 77, 消化器 11, 機能性食道疾患: GERD と機能性食道障害 (編集: 木下芳一), 2013; pp175-180, 株式会社 最新医学社.
- 4) 岩切勝彦 : [分担] III 章. 消化管疾患, A. 食道, 1. アカラシア, a. 内科的治療. 消化器疾患最新治療 2013-2014 (編集: 菅野健太郎, 上西紀夫, 井廻道夫), 2013; pp95-98, 株式会社 南江堂.
- 5) 岩切勝彦 : [分担] 胸やけ. 疾患・症状別 今日の治療と看護 (改訂第3版) (総編集: 永井良三, 大田健), 2013; pp106-108, 株式会社 南江堂.

学会発表

(1) シンポジウム：

- 1) 厚川正則, 坪田昭人¹⁾, 近藤千紗, 糸川典夫, 橋本知美²⁾, 福田 健²⁾, 松下洋子²⁾, 城所秀子²⁾, 小林玲樹²⁾, 植原義之²⁾, 中塚雄久²⁾, 金沢秀典²⁾, 坂本長逸²⁾ (1) 東京慈恵会医科大学総合医科学研究センター臨床医学研究所, 2) 日本医科大学付属病院内科学 (消化器内科学)：高齢 C 型慢性肝炎患者に対する VitaminD 併用 PEG-IFN/Ribavirin 療法における治療早期のウイルス減衰についての検討. 日本高齢消化器病学会 (第 15 回) (弘前), 2012. 6.
- 2) 飯泉 匡^{1, 2)}, 星原芳雄³⁾, 岩切勝彦 (1) 日本医科大学付属病院内科学 (消化器内科学), 2) 飯泉医院, 3) 経済産業省診療所)：下部食道柵状縦走血管の白色混濁の程度と頻度の検討 (GERD の内視鏡診断の問題点とその対応). 日本消化器内視鏡学会総会 (第 83 回) (東京), 2012. 5.
- 3) 川見典之¹⁾, 岩切勝彦, 梅澤まり子¹⁾, 佐野弘仁¹⁾, 田中由理子¹⁾, 坂本長逸¹⁾ (1) 付属病院内科学 (消化器内科学)：逆流性食道炎患者の食道運動機能の低下は原因か結果か：High resolution manometry による検討. 日本消化管学会総会 (第 9 回) (東京), 2013. 1.

(2) パネルディスカッション：

- 1) 野村 務¹⁾, 松谷 毅¹⁾, 萩原信敏¹⁾, 牧野浩司²⁾, 丸山 弘²⁾, 藤田逸郎¹⁾, 岩切勝彦, 川見典之³⁾, 宮下正夫¹⁾, 内田英二¹⁾ (1) 付属病院外科学 (消化器外科学), 2) 付属多摩永山病院外科, 3) 付属病院内科学 (消化器内科学)：食道運動機能障害に対する当施設での治療の現状と今後の方向性：外科の立場から. 日本食道学会 (第 66 回) (軽井沢), 2012. 6.
- 2) 岩切勝彦, 川見典之¹⁾, 野村 務²⁾ (1) 付属病院内科学 (消化器内科学), 2) 付属病院外科学 (消化器外科学)：PPI 抵抗性 NERD 患者の病態に基づく治療戦略. 日本消化器病学会総会 (第 99 回) (鹿児島), 2013. 3.
- 3) 川見典之¹⁾, 岩切勝彦, 佐野弘仁¹⁾, 田中由理子¹⁾, 河越哲郎¹⁾, 野村 務²⁾, 萩原信敏²⁾, 松谷 毅²⁾, 宮下正夫²⁾, 坂本長逸¹⁾ (1) 付属病院内科学 (消化器内科学), 2) 付属病院外科学)：High resolution manometry によるアカラシア新分類からみたバルーン拡張術の成績. 日本食道学会 (第 66 回) (軽井沢), 2012. 6.

(3) ポスターセッション：

- 1) 厚川正則：高齢 C 型慢性肝炎患者に対する Vitamin D 併用 PEG-IFN/Ribavirin 併用療法における早期 HCV-RNA 衰退についての検討. 日本消化器関連学会週間 (第 20 回) (神戸), 2012. 10.

(4) ワークショップ：

- 1) 厚川正則：高齢 C 型慢性肝炎に対する VitaminD 併用 PEG-IFN/Ribavirin 併用療法についての検討. 日本肝臓学会 (第 48 回) (金沢), 2012. 6.
- 2) 厚川正則：1 型高ウイルス量の C 型慢性肝炎に対する PEG-IFN/ribavirin 療法における fluvastatin 併用がウイルス再燃を抑制する. 日本肝臓学会 (第 48 回) (金沢), 2012. 6.
- 3) 近藤千紗, 厚川正則, 島田紀朋¹⁾ (1) 新松戸中央総合病院消化器肝臓科)：血小板数低値の C 型慢性肝炎に対する PSE 先行 3 剤併用療法の検討. 日本消化器病学会総会 (第 99 回) (鹿児島), 2013. 3.
- 4) 岩切勝彦, 野村 務²⁾, 川見典之¹⁾, 佐野弘仁¹⁾, 田中由理子¹⁾, 河越哲郎¹⁾, 萩原信敏²⁾, 松谷 毅²⁾, 宮下正夫²⁾, 坂本長逸¹⁾ (1) 付属病院内科学 (消化器内科学), 2) 付属病院外科学)：PPI 抵抗性 NERD の治療戦略. 日本食道学会 (第 66 回) (軽井沢), 2012. 6.

(5) ポスター：

- 1) Atsukawa M¹⁾, Tsubota A²⁾, Kondo C¹⁾, Itokawa N³⁾, Hashimoto S³⁾, Fukuda T³⁾, Matsushita Y³⁾, Kidokoro H³⁾, Kobayashi T³⁾, Narahara Y³⁾, Nakatsuka K³⁾, Kanazawa H³⁾, Sakamoto C³⁾ (1) Division of Gastroenterology, Department of Internal Medicine, Nippon Medical School Chiba Hokusoh Hospital, 2) Jikei University School of Medicine, Chiba, 3) Division of Gastroenterology, Department of Internal Medicine, Nippon Medical School, Tokyo)：Combination of fluvastatin with pegylated interferon/ribavirin therapy reduces the

viral relapse rate in chronic hepatitis C infected with HCV genotype 1b. Annual meeting of the European Association for the Study of the Liver (47th) (Barcelona), 2012. 4.

- 2) 河越哲郎¹⁾, 川見典之¹⁾, 梅澤まり子¹⁾, 二神生爾¹⁾, 岩切勝彦, 松谷 毅²⁾, 野村 務²⁾, 宮下正夫²⁾, 宮下次廣³⁾, 坂本長逸¹⁾ (1) 附属病院内科学 (消化器内科学), 2) 附属病院外科学 (消化器外科学), 3) 附属病院放射線医学) : Stage IVB 食道がんにおける集学的治療の検討. 日本食道学会 (第 66 回) (軽井沢), 2012. 6.

(6) 一般講演 :

- 1) 岩切勝彦, 川見典之¹⁾, 佐野弘仁¹⁾, 田中由理子¹⁾, 坂本長逸¹⁾ (1) 附属病院内科学 (消化器内科学)) : PPI 抵抗性 NERD の病態. 日本臨床生理学会総会 (第 49 回) (長崎), 2012. 10.
- 2) 二神生爾¹⁾, 山脇博士¹⁾, 新福摩弓¹⁾, 小高康裕¹⁾, 名児耶浩幸¹⁾, 河越哲郎¹⁾, 三宅一昌¹⁾, 岩切勝彦, 坂本長逸¹⁾ (1) 附属病院内科学 (消化器内科学)) : 機能性ディスペプシア患者における空腹感スコアと GHRL 遺伝子多型との相関関係の解析. 日本臨床生理学会 (第 49 回) (長崎), 2012. 10.
- 3) 厚川正則, 坪田昭人¹⁾, 近藤千紗, 糸川典夫, 福田 健²⁾, 松下洋子²⁾, 榎原義之²⁾, 長田祐二³⁾, 中塚雄久²⁾, 坂本長逸²⁾ (1) 東京慈恵会医科大学総合医科学研究センター, 2) 日本医科大学附属病院内科学 (消化器内科学), 3) 博慈会記念総合病院消化器内科) : C 型慢性肝炎に対する PEGIFN Ribavirin Telaprevir 療法における IL28B genotype 別の HCVRNA 消失時期の検討. 日本肝臓学会東部会 (第 39 回) (東京), 2012. 12.
- 4) 近藤千紗, 厚川正則, 坪田昭人¹⁾, 糸川典夫, 橋本知美²⁾, 福田 健²⁾, 松下洋子²⁾, 城所秀子²⁾, 榎原義之²⁾, 中塚雄久²⁾, 金沢秀典²⁾, 坂本長逸²⁾ (1) 東京慈恵会医科大学総合医科学研究センター, 2) 日本医科大学附属病院内科学 (消化器内科学)) : 血小板低値の C 型慢性肝炎に対する PSE 先行 PEGIFN Ribavirin Telaprevir 併用療法の成績. 日本肝臓学会東部会 (第 39 回) (東京), 2012. 12.
- 5) 安良岡高志¹⁾, 厚川正則, 坪田昭人²⁾, 近藤千紗, 橋本知美¹⁾, 福田 健¹⁾, 松下洋子¹⁾, 城所秀子¹⁾, 榎原義之¹⁾, 中塚雄久¹⁾, 金沢秀典¹⁾, 坂本長逸¹⁾ (1) 日本医科大学附属病院内科学 (消化器内科学), 2) 東京慈恵会医科大学総合医科学研究センター) : 1 型高ウイルス量の C 型肝硬変に対する VitaminD 併用 PEGIFN Ribavirin 療法の検討. 日本肝臓学会東部会 (第 39 回) (東京), 2012. 12.
- 6) 厚川正則, 坪田昭人¹⁾, 坂本長逸²⁾ (1) 東京慈恵会医科大学総合医科学研究センター, 2) 日本医科大学附属病院内科学 (消化器内科学)) : 高齢 C 型慢性肝炎患者に対する VitaminD 併用 PEGIFN Ribavirin 療法の成績. 日本肝臓学会東部会 (第 39 回) (東京), 2012. 12.
- 7) 糸川典夫, 厚川正則, 坪田昭人¹⁾, 近藤千紗, 橋本知美²⁾, 松下洋子²⁾, 福田 健²⁾, 城所秀子²⁾, 榎原義之²⁾, 中塚雄久²⁾, 金沢秀典²⁾, 坂本長逸²⁾ (1) 東京慈恵会医科大学総合医科学研究センター臨床医学研究センター, 2) 日本医科大学附属病院内科学 (消化器内科学)) : 1 型高ウイルス量 IL28B minor genotype の C 型慢性肝炎に対する IFN β 2 分割 Ribavirin 併用先行投与の成績. 日本肝臓学会東部会 (第 39 回) (東京), 2012. 12.
- 8) 星野慎太郎, 岩切勝彦, 川見典之¹⁾, 佐野弘仁¹⁾, 田中由理子¹⁾, 坂本長逸¹⁾ (1) 附属病院内科学 (消化器内科学)) : NERD, 逆流性食道炎患者の 2 次蠕動波. 日本消化器病学会総会 (第 99 回) (鹿児島), 2013. 3.
- 9) 山脇博士, 二神生爾¹⁾ (1) 附属病院内科学 (消化器内科学)) : LPS 前投与 urocortin 1 脳槽内投与ラットにおける胃排出能および小腸通過時間の比較検討. 日本消化器病学会総会 (第 99 回) (鹿児島), 2013. 3.
- 10) 厚川正則, 坪田昭人¹⁾, 近藤千紗, 糸川典夫, 中川 愛, 橋本知美²⁾, 福田 健²⁾, 松下洋子²⁾, 城所秀子²⁾, 榎原義之²⁾, 中塚雄久²⁾, 金沢秀典²⁾, 岩切勝彦, 坂本長逸²⁾ (1) 東京慈恵会医科大学総合医科学研究センター, 2) 日本医科大学附属病院内科学 (消化器内科学)) : 高齢 C 型慢性肝炎に対する VitaminD 併用 PEG-IFN/ribavirin 併用療法についての検討. 日本消化器病学会総会 (第 99 回) (鹿児島), 2013. 3.
- 11) 糸川典夫, 厚川正則, 坪田昭人¹⁾, 近藤千紗, 中川 愛, 橋本知美²⁾, 福田 健²⁾, 松下洋子²⁾, 城所秀子²⁾, 榎原義之²⁾, 中塚雄久²⁾, 金沢秀典²⁾, 岩切勝彦, 坂本長逸²⁾ (1) 東京慈恵会医科大学総合医科学研究センター, 2) 日本医科大学附属病院内科学 (消化器内科学)) : IL28B minor genotype の C 型慢性肝炎に対する IFN β 2 分割 ribavirin 併用先行投与の成績. 日本消化器病学会総会 (第 99 回) (鹿児島), 2013. 3.

- 12) 岩切勝彦, 川見典之¹⁾, 佐野弘仁¹⁾, 田中由里子¹⁾, 梅澤まり子¹⁾, 坂本長逸¹⁾ (1) 付属病院内科学 (消化器内科学): 一過性 LES 弛緩終了後に出現する蠕動波, LES は強収縮を有する. 日本平滑筋学会総会 (第 54 回) (東京), 2012. 8.
 - 13) 佐野弘仁¹⁾, 岩切勝彦, 川見典之¹⁾, 田中由理子¹⁾, 星野慎太郎, 梅澤まり子¹⁾, 坂本長逸¹⁾ (1) 付属病院内科学 (消化器内科学): NERD 患者の胃酸逆流のメカニズムと逆流後の胃酸上昇パターン. 日本消化器病学会総会 (第 99 回) (鹿児島), 2013. 3.
 - 14) 川見典之¹⁾, 岩切勝彦, 梅澤まり子¹⁾, 佐野弘仁¹⁾, 田中由理子¹⁾, 星野慎太郎, 坂本長逸¹⁾ (1) 付属病院内科学 (消化器内科学): 高齢逆流性食道炎患者の食道運動機能の解析: 逆流と食道運動機能低下の因果関係. 日本消化器病学会総会 (第 99 回) (鹿児島), 2013. 3.
 - 15) 松野邦彦¹⁾, 松谷 毅¹⁾, 野村 務¹⁾, 萩原信敏¹⁾, 岩切勝彦, 河越哲郎²⁾, 川見典之²⁾, 藤田逸郎¹⁾, 宮下正夫¹⁾, 内田英二¹⁾ (1) 付属病院外科学, 2) 付属病院内科学 (消化器内科学): 悪性リンパ腫合併食道扁平上皮癌の 1 例. 日本食道学会 (第 66 回) (軽井沢), 2012. 6.
 - 16) 篠塚恵理子¹⁾, 松谷 毅¹⁾, 野村 務¹⁾, 萩原信敏¹⁾, 岩切勝彦, 河越哲郎²⁾, 川見典之²⁾, 藤田逸郎¹⁾, 宮下正夫¹⁾, 内田英二¹⁾ (1) 付属病院外科学, 2) 付属病院内科学 (消化器内科学): 多発性筋炎合併食道腺癌の 1 例. 日本食道学会 (第 66 回) (軽井沢), 2012. 6.
 - 17) 山脇博士, 二神生爾¹⁾, 坂本長逸¹⁾ (1) 付属病院内科学 (消化器内科学): LPS 前投与 urocortin 1 脳槽内投与ラットにおける胃排出能および小腸通過時間の比較検討. 日本消化管学会総会 (第 9 回) (東京), 2013. 1.
 - 18) 河越哲郎¹⁾, 丸木雄太¹⁾, 山脇博士, 小杉友紀¹⁾, 小高康裕¹⁾, 名児耶浩幸¹⁾, 新福摩弓¹⁾, 川見典之¹⁾, 植木信江¹⁾, 楠 正典¹⁾, 二神生爾¹⁾, 三宅一昌¹⁾, 岩切勝彦, 坂本長逸¹⁾ (1) 付属病院内科学 (消化器内科学): 切除不能胃癌における予後スケール作成の試み. 日本消化管学会総会 (第 9 回) (東京), 2013. 1.
 - 19) 川見典之¹⁾, 岩切勝彦, 梅澤まり子¹⁾, 佐野弘仁¹⁾, 田中由理子¹⁾, 星原芳雄^{1,2)}, 坂本長逸¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院内科学 (消化器内科学), 2) 経済産業省診療所: High resolution manometry を用いた高齢者食道運動機能の検討. 日本消化器病学会総会 (第 98 回) (東京), 2012. 4.
 - 20) 大森 順¹⁾, 岩切勝彦, 川見典之¹⁾, 佐野弘仁¹⁾, 田中由理子¹⁾, 梅澤まり子¹⁾, 野村 務²⁾, 宮下正夫³⁾, 内田英二²⁾, 坂本長逸¹⁾ (1) 付属病院内科学 (消化器内科学), 2) 付属病院外科学 (消化器外科学), 3) 千葉北総病院消化器外科: 食道筋層切開術 (long myotomy) を必要とした Jackhammer esophagus の 1 例. 日本消化器病学会関東支部例会 (第 323 回) (東京), 2013. 2.
 - 21) Kawami N¹⁾, Iwakiri K, Sano H¹⁾, Tanaka Y¹⁾, Umezawa M¹⁾, Hoshihara Y¹⁾, Sakamoto C¹⁾ (1) Division of Gastroenterology, Department of Internal Medicine, Nippon Medical School, Tokyo): The effect of Aging on Esophageal Motility. Digestive Disease Week 2012 (San Diego), 2012. 5.
 - 22) 中川 愛, 厚川正則, 島田紀朋¹⁾, 坪田昭人²⁾, 近藤千紗, 糸川典夫, 福田 健³⁾, 松下洋子³⁾, 榎原義之³⁾, 長田祐二⁴⁾, 中塚雄久³⁾, 岩切勝彦, 坂本長逸³⁾ (1) 新松戸中央総合病院消化器肝臓科, 2) 東京慈恵会医科大学総合医科学研究センター, 3) 日本医科大学付属病院内科学 (消化器内科学), 4) 博慈会記念総合病院消化器内科: C型慢性肝炎に対する 3 剤併用療法における fluvastatin 併用の初期ウイルス変動に与える影響についての検討. 日本消化器病学会総会 (第 99 回) (鹿児島), 2013. 3.
- (7) 要望演題:
- 1) 厚川正則, 坪田昭人¹⁾, 近藤千紗, 糸川典夫, 橋本知美²⁾, 松下洋子²⁾, 福田 健²⁾, 城所秀子²⁾, 榎原義之²⁾, 中塚雄久²⁾, 金沢秀典²⁾, 坂本長逸²⁾ (1) 東京慈恵会医科大学総合医科学研究センター, 2) 日本医科大学付属病院内科学 (消化器内科学): 肝線維化進行例に対する IFN 治療における当科の工夫. 日本門脈圧亢進症学会 (第 19 回) (東京), 2012. 9.

6. 内科学（内分泌代謝内科学）

[付属病院内分泌代謝内科]

研究業績

論文

[追加分]

追加分総説：

- 1) Gotoda T¹⁾, Shirai K¹⁾, Ohta T¹⁾, Kobayashi J¹⁾, Yokoyama S¹⁾, Oikawa S¹⁾, Bujo H¹⁾, Ishibashi S¹⁾, Arai H¹⁾, Yamashita S¹⁾, Harada-S M¹⁾, Eto M¹⁾, Hayashi T¹⁾, Sone H¹⁾, Suzuki H¹⁾, et al. (1) Research Committee for Primary Hyperlipidemia, Research on measures against intractable diseases by the ministry of Health, Labour and welfare in Japan) : Diagnosis and management of type I and V hyperlipoproteinemia. J Atheroscler Thromb 2012 ; 19 (1) : 1-12.
- 2) Arai H¹⁾, Ishibashi S¹⁾, Bujo H¹⁾, Hayashi T¹⁾, Yokoyama S¹⁾, Oikawa S¹⁾, Kobayashi J¹⁾, Shirai K¹⁾, Ota T¹⁾, Yamashita S¹⁾, Gotoda T¹⁾, Harada-Shiba M¹⁾, Sone H¹⁾, Eto M¹⁾, Suzuki H¹⁾, et al. (1) Committee for Primary Hyperlipidemia, Research on Measures against Intractable Diseases by the Ministry of Health, Labour and Welfare in Japan) : Management of type IIb dyslipidemia. J Atheroscler Thromb 2012 ; 19 (2) : 105-114.
- 3) Nagao M, Asai A, Oikawa S : FoxO1 breaks diabetic heart. J Diabetes Investig 2012 ; 4 (1) : 37-38.
- 4) Yokoyama S, Yamashita S, Ishibashi S, Sone H, Oikawa S, Shirai K, Ohta T, Bujo H, Kobayashi J, Arai H, Harada-Shiba M, Eto M, Hayashi T, Gotoda T, Suzuki H, et al. : Background to discuss guidelines for control of plasma HDL-cholesterol in Japan. J Atheroscler Thromb 2012 ; 19 (3) : 207-212.
- 5) 及川真一：健康食品，私はこう指導する 患者の思いとスタッフの思い，糖尿病診療マスター 2012 ; 10 (1) : 52-53.
- 6) 及川真一：糖代謝異常合併脂質異常症例の治療に及ぼす JELIS 結果の意義について，循環 plus 2012 ; 12 (4) : 10-12.
- 7) 小林俊介，原田太郎，及川真一：脂質異常症治療薬の使い方，カレントセラピー 2012 ; 30 (3) : 258-261.
- 8) 及川真一：素朴な疑問 脂質異常症って何ですか？，東京内科医会誌 2012 ; 27 (3) : 184-191.
- 9) 及川真一：DM と脂質異常症 最新情報，糖尿病と代謝 2012 ; 40 (2) : 62-69.
- 10) 高野綾子，及川真一：動脈硬化性疾患予防ガイドライン 2012 年版 ガイドラインの改定点と治療法：生活習慣改善の重要性，New Diet Therapy 2012 ; 28 (3) : 59.
- 11) 杉原 仁：甲状腺とヨード，New Diet Therapy 2012 ; 28 (4) : 53-58.

追加分原著：

- 1) 武市奈緒美，杉原 仁，若栗稔子，石崎 晃，中島 泰，田村秀樹，熊谷智昭¹⁾，坪 宏一²⁾，田中啓治²⁾，及川真一 (1) 日本医科大学 内科学 (神経内科)，2) 日本医科大学 集中治療室)：甲状腺クリーゼの治療中に甲状腺中毒性ミオパチーと思われる筋力低下が顕在化した 1 例，日医大医会誌 2012 ; 8 (1) : 38-43.
- 2) Sone H¹⁾, Tanaka S¹⁾, Tanaka S¹⁾, Iimura S¹⁾, Oida K¹⁾, Yamasaki Y¹⁾, Oikawa S¹⁾, Ishibashi S¹⁾, Katayama S¹⁾, Ohashi Y¹⁾, Akanuma Y¹⁾, Yamada N¹⁾ (1) Japan Diabetes Complications Study Group) : Serum levels of triglycerides is a potent risk factor comparable to LDL cholesterol for coronary heart disease in Japanese patients with type 2 diabetes : subanalysis of the Japan Diabetes Complications Study (JDACS). J

Clin Endocrinol Metab 2011 ; 96 (11) : 3448-3456.

- 3) Hotta K, Kitamoto A, Kitamoto T, Mizusawa S, Teranishi H, Matsuo T, Nakata Y, Hyogo H, Ochi H, Nakamura T, Kamohara S, Miyatake N, Kotani K, Komatsu S, Oikawa S, et al. : Genetic variations in the CYP17A1 and NT5C2 genes are association with a reduction in visceral and subcutaneous fat areas in Japanese women. J Hum Genet 2012 ; 57 (1) : 46-51.
- 4) Sasaki J¹⁾, Yokoyama M¹⁾, Matsuzaki M¹⁾, Saito Y¹⁾, Origasa H¹⁾, Ishikawa Y¹⁾, Oikawa S¹⁾, Itakura H¹⁾, Hishida H¹⁾, Kita T¹⁾, Kitabatake A¹⁾, Nakaya N¹⁾, Sakata T¹⁾, Shimada K¹⁾, Shirato K¹⁾, et al. (¹⁾ JELIS Investigators) : Relationship between coronary artery disease and non-HDL-C, and effect of highly purified EPA on the risk of coronary artery disease in hypercholesterolemic patients treated with statins : sub-analysis of the Japan EPA Liid Intervention Study (JELIS). J Atheroscler Thromb 2012 ; 19 (2) : 194-204.
- 5) Nagao M, Asai A, Kawahara M, Nakajima Y, Sato Y, Tanimura K, Okajima F, Takaya M, Sudo M, Takemitsu S, Harada T, Sugihara H, Oikawa S : Selective breeding of mice for different susceptibilities to high fat diet-induced glucose intolerance : Development of two novel mouse lines, Selectivity bred Diet-induced Glucose intolerance-Prone and -Resistant. J Diabetes Investig 2012 ; 245-251.

(1) 原著 :

- 1) 長尾元嗣, 中島 泰, 佐藤友紀, 高谷磨紀代, 武市奈緒美, 竹光秀司, 首藤真理子, 若栗稔子, 石崎 晃, 原田太郎, 谷村恭子, 岡島史宜, 杉原 仁, 及川眞一 : 持続血糖モニター (CGM) による血糖変動の把握が有用であったインスリン抗体陽性糖尿病の1例. 糖尿病 2012 ; 55 (11) : 874-879.
- 2) Sone H¹⁾, Tanaka S¹⁾, Tanaka S¹⁾, Iimuro S¹⁾, Ishibashi S¹⁾, Oikawa S¹⁾, Shimano H¹⁾, Katayama S¹⁾, Ohashi Y¹⁾, Akanuma Y¹⁾, Yamada N¹⁾ (¹⁾ Japan Diabetes Complications Study Group) : Comparison of various lipid variables as predictors of coronary heart disease in Japanese men and women with type 2 diabetes : subanalysis of the Japanese Diabetes Complication Study. Diabetes Care 2012 ; 35 (5) : 1150-1157.
- 3) Takeichi N, Midorikawa S, Watanabe A, Naing B, Tamura H, Wakakuri-Kano T, Ishizaki A, Sugihara H, Nissato S, Saito Y, Aita Y, Ishii K, Igarashi T, Kawakami Y, Oikawa S, et al. : Identical germline mutations in the TMEM127 gene in two unrelated Japanese patients with bilateral pheochromocytoma. Clin Endocrinol 2012 ; 77 (5) : 707-714.
- 4) Itakura H¹⁾, Yokoyama M¹⁾, Matsuzaki M¹⁾, Saito Y¹⁾, Origasa H¹⁾, Ishikawa Y¹⁾, Oikawa S¹⁾, Sasaki J¹⁾, Hishida H¹⁾, Kita T¹⁾, Kitabatake A¹⁾, Nakaya N¹⁾, Sakata T¹⁾, Shimada K¹⁾, Shirato K, et al. (¹⁾ JELIS) : The change in low-density lipoprotein cholesterol concentrations is positively related to plasma docosahexaenoic acid but not eicosapentaenoic acid. J Atheroscler Thromb 2012 ; 19 (7) : 673-679.
- 5) Harada-Shiba M, Arai H, Okamura T, Yokote K, Oikawa S, Nohara A, Okada T, Ohta T, Bujo H, Watanabe M, Wakatuski A, Yamashita S : Multicenter study to determine the diagnosis criteria of heterozygous familial hypercholesterolemia in Japan. J Atheroscler Thromb 2012 ; 19 (11) : 1019-1025.

(2) 総説 :

- 1) 及川眞一 : 糖尿病以外の大血管障害リスクファクター 日本人は心血管疾患発症が少ないがLDL-C低下による影響は糖尿病でも同じですか. 糖尿病レクチャー 2012 ; 2 (4) : 710-718.
- 2) 及川眞一 : 糖尿病合併症発症・進展阻止のための包括的管理 脂質管理. 日本臨床 2012 ; 70 (増刊5) : 281-300.
- 3) 周東佑樹, 及川眞一 : 外因性リポタンパク代謝と心臓病 なにを診るべきか?. Heart View 2012 ; 16 (11) : 1092-1097.
- 4) 長峯朋子, 及川眞一 : メタボリックシンドロームと糖尿病 日本人の健康増進のために : 海外のエビデンス 観

察研究より, 月刊糖尿病 2012; 4 (12): 13-18.

- 5) 及川眞一: 代謝・栄養障害薬 イコサペント酸エチル. *Medicina* 2012; 49 (11): 296-301.
- 6) 竹光秀司, 及川眞一: 脂質異常症とは 日本における動脈硬化性疾患. *診断と治療* 2012; 100 (12): 1954-1958.
- 7) 稲垣恭子, 長尾元嗣, 及川眞一: 糖尿病と脳神経疾患 脳梗塞, 昏睡, 低血糖. *日本内科学会雑誌* 2012; 101 (8): 2180-2187.

著 書

- 1) 杉原 仁: [分担] 下垂体前葉疾患各論 プロラクチノーマ. 下垂体疾患診療マニュアル (平田結喜緒, 山田正三, 成瀬光栄), 2012; pp137-140, 診断と治療社.

学会発表

[追加分]

追加分一般講演:

- 1) 高谷磨紀代, 中島 泰, 武市奈緒美, 佐藤友紀, 竹光秀司, 長尾元嗣, 原田太郎, 石崎 晃, 岡島史宜, 杉原 仁, 及川眞一: ステロイド治療が奏功した好酸球増多症合併の抗インスリン抗体陽性2型糖尿病患者の1例. 日本糖尿病学会関東甲信越地方会 (第49回) (東京), 2012. 1.
- 2) 武市奈緒美, 田村秀樹, 若栗稔子, 石崎 晃, 杉原 仁, 渡辺 淳, 五十嵐健人, 赤須東樹, 島田 隆, 清水一雄, 磯部和正, 新里寿美子, 竹越一博, 及川眞一: TMM127 遺伝子に生殖細胞変異を認め LOH を確認した両側褐色細胞腫. 臨床内分泌代謝 Update (第21回) (浜松), 2012. 1.
- 3) 長峯朋子, 岡島史宜, 武市奈緒美, 高谷磨紀代, 佐藤友紀, 首藤真理子, 長尾元嗣, 若栗稔子, 石崎 晃, 原田太郎, 中島 泰, 五十嵐健人, 清水一雄¹⁾, 杉原 仁¹⁾, 及川眞一⁽¹⁾ 日本医科大学 第二外科): CVD 療法が無効であった下大静脈内浸潤を伴う褐色細胞腫の1例. 臨床内分泌代謝 Update (第21回) (浜松), 2012. 1.
- 4) 高野綾子, 中島 泰, 岡本宗雄, 武市奈緒美, 若栗稔子, 石崎 晃, 田村秀人, 杉原 仁⁽¹⁾ 日本医科大学 (血液内科)): 急性副腎不全を景気に診断された両側副腎原発悪性リンパ腫の1例. 臨床内分泌代謝 Update (第21回) (浜松), 2012. 1.

(1) 特別講演:

- 1) 及川眞一: 食生活の変化と疾病. 日本臨床栄養学会 (第34回) (東京), 2012. 10.

(2) 教育講演:

- 1) 杉原 仁: 甲状腺とヨード 第34回日本臨床栄養学会総会. 日本臨床栄養学会総会 (第34回) (東京), 2012. 10.

(3) 一般講演:

- 1) 石崎 晃, 杉原 仁, 高谷磨紀代, 武市奈緒美, 佐藤友紀, 竹光秀司, 首藤真理子, 長尾元嗣, 若栗稔子, 原田太郎: 原発性アルドステロン症が疑われた症例における機能検査と選択的副腎静脈サンプリングの解析. 日本内分泌学会学術総会 (第85回) (名古屋), 2012. 4.
- 2) 武市奈緒美, 杉原 仁, 若栗稔子, 石崎 晃, 高谷磨紀代, 佐藤友紀, 竹光秀司, 首藤真理子, 長尾元嗣, 原田太郎, 中島 泰, 岡島史宜, 田村秀樹, 及川眞一: インスリン産生腫における GHRP2 試験の有用性について. 日本内分泌学会学術集会 (第85回) (名古屋), 2012. 4.
- 3) 杉原 仁, 武市奈緒美, 若栗稔子, 長尾元嗣, 佐藤友紀, 石崎 晃, 中島 泰, 原田太郎, 岡島史宜, 田村秀樹, 芝崎 保, 及川眞一⁽¹⁾ 日本医科大学大学院生体統御科分野): インスリン産生腫における GHS 受容体の発現, GHS の効果について. 日本内分泌学会学術集会 (第85回) (名古屋), 2012. 4.
- 4) Harada T, Takemitsu S, Ishizaki A, Takeichi N, Wakakuri T, Sato Y, Sanoyama D, Nagao M, Takaya

- M, Nakajima Y, Okajima F, Sugihara H, Oikawa S : Eplerenone improves endothelial function and arterial stiffness in primary aldosteronism. 日本動脈硬化学会学術集会 (第44回) (福岡), 2012. 7.
- 5) Nakajima Y, Kobayashi S, Shuto Y, Takano A, Nagamine T, Takemitsu S, Sato Y, Sanoyama D, Sudo M, Nagao M, Harada T, Suhihara H, Oikawa S : Improvement of lipid metabolism and remnant expressions in type 2 diabetes patients during short-term hospitalization. 日本動脈硬化学会学術集会 (第44回) (福岡), 2012. 7.
 - 6) Shuto Y, Harada T, Sato Y, Kobayasi S, Nagamine T, Takano A, Sanoyama D, Takemitsu S, Nagao M, Sudo M, Nakajima Y, Suhihara H, Oikawa S : Comparison of the determination of achilles tendon thickness among examiners for diagnosis of familial hypercholesterolemia in ACS patients.. 日本動脈硬化学会学術集会 (第44回) (福岡), 2012. 7.
 - 7) Asai A, Oikawa S : Phoshatidylserine facilitates THP-1 cell adhesion ot ICAM-1. 日本動脈硬化学会学術集会 (第44回) (福岡), 2012. 7.
 - 8) Nagao M, Asai A, Kuwahara M, Sato Y, Nakajima Y, Kobayashi S, Shuto Y, Sanoyama D, Sugihara H, Oikawa S : Atherosclerosis in selectively bred high fat diet-induced glucose intolerance-prone (SDG-P) and -resistant (SDS-R) mice. 日本動脈硬化学会学術集会 (第44回) (福岡), 2012. 7.
 - 9) 武市奈緒美, 杉原 仁, 若栗稔子, 長尾元嗣, 竹光秀司, 佐藤友紀, 石崎 晃, 中島 泰, 原田太郎, 田村秀樹, 芝崎 保, 及川眞一⁽¹⁾ 日本医科大学大学院生体統御科分野) : インスリン産生腫における GHRP 試験の有用性について. 日本神経内分泌学会学術集会 (北九州), 2012. 9.
 - 10) 真山大輔, 長尾元嗣, 浅井 晃, 小林俊介, 周東佑樹, 中島 泰, 杉原 仁, 及川眞一 : 高脂肪食負荷後の耐糖能を指標としたマウスの選抜交配 : メタボリックシンドローム解析モデルとしての有用性. 日本臨床栄養学会総会 (第34回) (東京), 2012. 10.
 - 11) 長尾元嗣, 小林俊介, 及川眞一 : 多世代にわたる高脂肪食負荷がマウスの形質に与える影響 : 長期選抜交配からの考察. 日本肥満学会 (第33回) (京都), 2012. 10.
 - 12) 小林俊介, 長尾元嗣, 及川眞一 : 高脂肪食負荷に対する感受性が異なる選抜交配マウスの脂肪細胞に関する検討. 日本肥満学会 (第33回) (京都), 2012. 10.
 - 13) 原田太郎, 中島 泰, 佐藤友紀, 竹光秀司, 長尾元嗣, 高谷磨紀代, 首藤真理子, 武市奈緒美, 若栗稔子, 石崎 晃, 岡島史宜, 杉原 仁, 及川眞一 : 糖尿病教育入院におけるインスリン投与開始量の設定法に関する検討. 日本糖尿病学会年次学術集会 (第55回) (横浜), 2012. 5.
 - 14) 中島 泰, 原田太郎, 高谷磨紀代, 武市奈緒美, 竹光秀司, 佐藤友紀, 首藤真理子, 長尾元嗣, 若栗稔子, 石崎 晃, 岡島史宜, 杉原 仁, 及川眞一 : インスリン療法を要した GDM 患者の耐糖能異常の評価. 日本糖尿病学会年次学術集会 (第55回) (横浜), 2012. 5.
 - 15) 佐藤友紀, 中島 泰, 高谷磨紀代, 武市奈緒美, 竹光秀司, 首藤真理子, 長尾元嗣, 若栗稔子, 石崎 晃, 原田太郎, 谷村恭子, 岡島史宜, 杉原 仁, 及川眞一 : GA 高値は頸動脈分岐部プラークの独立した危険因子となりえる. 日本糖尿病学会年次学術集会 (第55回) (横浜), 2012. 5.
 - 16) 竹光秀司, 原田太郎, 佐藤友紀, 長尾元嗣, 首藤真理子, 中島 泰, 高谷磨紀代, 武市奈緒美, 若栗稔子, 石崎 晃, 岡島史宜, 杉原 仁, 及川眞一 : 頸動脈エコーにおけるプラークの存在部位と CAVI の関連について. 日本糖尿病学会年次学術集会 (第55回) (横浜), 2012. 5.
 - 17) 長尾元嗣, 浅井 明, 川原百代, 小林俊介, 周東佑樹, 眞山大輔, 佐藤友紀, 原田太郎, 中島 泰, 杉原 仁, 及川眞一 : 選抜交配により作成した高脂肪食誘導性耐糖能異常マウスと同抵抗性マウスの単離腺島に関する検討. 日本糖尿病学会年次学術集会 (第55回) (横浜), 2012. 5.
 - 18) 長尾元嗣, 中島 泰, 及川眞一 : 高脂肪食誘導性耐糖能異常マウスと同抵抗マウスの 50 週齢時における耐糖能の検討. 日本老年医学会学術集会・総会 (第54回) (東京), 2012. 6.

- 19) 佐藤友紀, 中島 泰, 長尾元嗣, 及川眞一: 高齢者における頸動脈プラークの危険因子について: 部位別検討. 日本老年医学会学術集会・総会 (第 54 回) (東京), 2012. 6.
- 20) 竹光秀司, 原田太郎, 武市奈緒美, 高谷磨紀代, 佐藤友紀, 長尾元嗣, 石崎 明, 中島 泰, 稲垣恭子, 杉原仁, 及川眞一: 糖尿病網膜症と頸動脈エコーにおけるプラークの関連性について. 日本糖尿病合併症学会 (第 27 回) (福岡), 2012. 11.
- 21) 高野綾子, 石崎 晃, 長峯朋子, 仲村優子, 小林俊介, 周東佑樹, 武市奈緒美, 佐藤友紀, 竹光秀司, 長尾元嗣, 原田太郎, 中島 泰, 杉原 仁, 及川眞一: 2 度の副腎静脈サンプリングで結果が異なった原発性アルドステロン症の 1 例. 日本内分泌学会関東甲信越支部学術集会 (第 13 回) (宇都宮), 2012. 12.
- 22) 長峯朋子, 武市奈緒美, 高野綾子, 小林俊介, 周東佑樹, 仲村優子, 高谷磨紀代, 佐藤友紀, 長尾元嗣, 眞山大輔, 石崎 晃, 小野澤志郎, 中村慶春, 杉原 仁, 及川眞一: ジアゾキシドによる低血糖改善効果を CGM で確認し得たインスリンノーマの 1 例. 日本内分泌学会関東甲信越支部学術集会 (第 13 回) (宇都宮), 2012. 12.
- 23) 高野綾子, 武市奈緒美, 長峯朋子, 仲村優子, 周東佑樹, 小林俊介, 高谷磨紀代, 竹光秀司, 佐藤友紀, 長尾元嗣, 石崎 晃, 原田太郎, 中島 泰, 杉原 仁, 及川眞一: 4 回の流産歴のあるプランマー病の 1 例. 臨床内分泌代謝 Update (第 22 回) (埼玉), 2013. 1.
- 24) 長峯朋子, 武市奈緒美, 高野綾子, 仲村優子, 周東佑樹, 小林俊介, 高谷磨紀代, 竹光秀司, 佐藤友紀, 長尾元嗣, 石崎 晃, 原田太郎, 中島 泰, 杉原 仁, 及川眞一: 低 K 性ミオパチーを呈した原発性アルドステロン症の 1 例. 臨床内分泌代謝 Update (第 22 回) (埼玉), 2013. 1.
- 25) 石崎 晃, 杉原 仁, 小林俊介, 周東佑樹, 高野綾子, 仲村優子, 長峯朋子, 眞山大輔, 武市奈緒美, 竹光秀司, 若栗稔子, 及川眞一: 副腎骨髄脂肪腫を伴う原発性アルドステロン症の 1 例. 臨床内分泌代謝 Update (第 22 回) (埼玉), 2013. 1.
- 26) 仲村優子, 武市奈緒美, 高野綾子, 長峯朋子, 周東佑樹, 小林俊介, 高谷磨紀代, 竹光秀司, 佐藤友紀, 長尾元嗣, 石崎 晃, 原田太郎, 中島 泰, 杉原 仁, 及川眞一: 2 次性甲状腺機能低下症の治療中に下垂体機能低下と診断した 3 例. 臨床内分泌代謝 Update (第 22 回) (埼玉), 2013. 1.
- 27) 山口祐司, 眞山大輔, 小林俊介, 長峯朋子, 佐藤友紀, 高谷磨紀代, 長尾元嗣, 中島 泰, 杉原 仁, 及川眞一: MIDD に結核性胸膜炎を併発した 1 例. 日本糖尿病学会関東甲信越地方会 (第 50 回) (横浜), 2013. 1.
- 28) Nagao M, Asai A, Kawahara M, Sato Y, Nakajima Y, Sugihara H, Oikawa S: Characterization of pancreatic islets from two lines of selectively bred mice with different susceptibilities to high fat diet-induced glucose intolerance.. EASD Annual Meeting (48th) (ベルリン), 2012. 10.
- 29) Asai A, Nagao M, Kawahara M, Sato Y, Nakajima Y, Sugihara H, Oikawa S: Differences in the development of atherosclerosis between two lines of selectively bred mice with different susceptibilities to diet-induced glucose. EASD Annual Meeting (48th) (ベルリン), 2012. 10.
- 30) Nagao M, Sugihara H, Kawakami M¹⁾, Oikawa S⁽¹⁾ 練馬光が丘病院): Evaluation of α -glucosidase inhibitors for body weight reduction and blood glucose control in Japanese Obese type 2 diabetes. International Diabetes Federation Western Pacific Region Congress(9th), Scientific Meeting of the Asian Association for the Study of Diabetes (4th) (京都), 2012. 11.

[千葉北総病院内分泌内科]

研究概要

[千葉北総病院内分泌内科] 研究概要 (内分泌内科) 平成 23 年度から 25 年度の科学研究費助成金による研究「神経経済学的観点に基づく糖尿病患者の行動経済学的分析」に取り組んでいる・この研究は、将来の健康を害することがわかっているにもかかわらず、食事療法や運動療法あるいは薬物療法を遵守できない糖尿病患者の心理メカニズムを、

単なる精神的な弱さや逃避的性格に帰するのではなく、ヒトの脳を持つ経済合理性に基づいた行動であることを証明することにより、画期的な行動介入療法を考案しようとするものである・患者アンケートに基づいた研究成果を第55回日本糖尿病学会年次学術集会（2012年5月横浜）、医療経済学会第7回研究大会（2012年7月慶応大学）、行動経済学会第6回大会（2012年12月青山学院大学）で報告した・その他現在、医療経済学的研究では糖尿病外来の人的医療資源配分の定量的分析、また糖尿病の治療や合併症に関して、強化インスリン療法患者へのDPP-4阻害薬併用の有効性に関する検討、糖尿病教育入院における強化インスリン療法患者へのDPP-4阻害薬併用の有効性に関する検討、 α グルコシダーゼ阻害薬-DPP-4阻害薬併用療法の有効性に関する検討、食事中単純糖質（間食）の食後高血糖と食事満足度への影響、食後代謝異常の冠動脈プラーク安定性及び留置ステント被覆に与える影響に関する検討を行っている・

研究業績

論文

〔追加分〕

追加分総説：

- 1) 岡島史宜：脂質異常症と糖尿病 UPDATE：膵 β 細胞における脂質代謝. 月刊糖尿病 2011；33：45-53.
- 2) 岡島史宜¹⁾ (1) 内科学講座（血液・消化器・内分泌代謝部門）：脂質異常症 明日からの実地診療に役立つ最新の知識：実地診療で遭遇する問題点の対応 脂質異常症がもたらす動脈硬化以外の合併症. Medical Practice (0910-1551) 2010；27（3）：483-486.
- 3) 岡島史宜¹⁾ (1) 内科学講座血液・消化器・内分泌代謝部門）：METEOR 試験の示すもの：低リスク患者に呈するスタチン治療の意義. Bio Clinica (0919-8237) 2009；24（8）：739-744.
- 4) 岡島史宜¹⁾、及川真一¹⁾ (1) 内分泌代謝内科）：新時代の糖尿病学 病因・診断・治療研究の進歩. 日本臨床 (0047-1852) 2008；66（7）：132-136.
- 5) 岡島史宜¹⁾、及川真一¹⁾ (1) 内科学講座内分泌代謝内科）：高脂血症・脂質異常症 メタボリックリスクとしての高脂血症・脂質異常症の実地診療. Medical Practice 2007；24（7）：1217-1220.
- 6) 岡島史宜¹⁾、及川真一¹⁾：新展開を迎えた動脈硬化危険因子の治療：メタボリックシンドロームの治療と効果耐糖能異常・糖尿病. The Lipid 2006；17（5）：435-443.

追加分症例報告：

- 1) 岡島史宜¹⁾、佐藤友紀¹⁾、竹光秀司¹⁾、長尾元嗣¹⁾、加納稔子¹⁾、原田太郎¹⁾、中島 泰¹⁾、谷村恭子¹⁾、杉原 仁¹⁾、及川真一¹⁾ (1) 日本医科大学内分泌代謝内科）：抗GAD抗体の推移を観察しえた劇症1型糖尿病の1例. 糖尿病 2010；53（8）：646.
- 2) 岡島史宜、石川まゆみ¹⁾、佐藤友紀¹⁾、竹光秀司¹⁾、首藤真理子¹⁾、長尾元嗣¹⁾、原田太郎¹⁾、中島 泰¹⁾、谷村恭子¹⁾、栗原美樹子¹⁾、浅井 明¹⁾、杉原 仁¹⁾、島野 仁¹⁾、及川真一¹⁾ (1) 日本医科大学内分泌代謝内科）：スタチン系薬剤のインスリン分泌能に対する影響. 糖尿病 (0021-437X) 2010；53（SUPPL.1）：S-203.

(1) 原著：

- 1) Kim K¹⁾、Emoto N、Mishina M³⁾、Okada S²⁾、Isu T⁵⁾、Yoshida D⁴⁾、Kobayashi S¹⁾、Teramoto A⁴⁾ (1) Department of Neurosurgery Chiba Hokuso Hospital Nippon Medical School, 2) Department of Radiology Chiba Hokuso Hospital Nippon Medical School, 3) Department of Internal Medicine Nippon Medical School, 4) Department of Neurosurgery Nippon Medical School, 5) Department of Neurosurgery Kushiro Rosai Hospital）：Incidental Detection of Thyroid Nodules at Magnetic Resonance Imaging of the Cervical Spine. Neurologia medico-chirurgica 2013；53（2）：53-77.

(2) 総説：

- 1) 岡島史宜：高トリグリセライド血症の実践的治療法. Medical Practice 2012；29（12）：2125-2130.

学会発表

(1) 一般講演：

- 1) 原田太郎¹⁾，中島 泰¹⁾，佐藤友紀¹⁾，竹光秀司¹⁾，長尾元嗣¹⁾，高谷磨紀代¹⁾，首藤真理子¹⁾，武市奈緒美¹⁾，若栗稔子¹⁾，石崎 晃¹⁾，岡島史宜，杉原 仁¹⁾，及川眞一¹⁾ (1) 内科学（内分泌代謝内科学）：糖尿病教育入院におけるインスリン投与開始量の設定法関する検討. 日本糖尿病学会年次学術集会（第55回）（横浜市），2012. 5.
- 2) 江本直也，鈴木千賀子¹⁾，伊達智子¹⁾，林あづさ¹⁾，岩崎美奈子¹⁾ (1) 千葉北総病院看護部）：糖尿病患者の行動経済学的分析. 日本糖尿病学会年次学術集会（第55回）（横浜市），2012. 5.
- 3) 佐藤友紀¹⁾，中島 泰¹⁾，高谷磨紀代¹⁾，武市奈緒美¹⁾，竹光秀司¹⁾，首藤真理子¹⁾，長尾元嗣¹⁾，若栗稔子¹⁾，石崎 晃¹⁾，原田太郎¹⁾，谷村恭子¹⁾，岡島史宜，杉原 仁¹⁾，及川眞一¹⁾ (1) 内科学（内分泌代謝内科学）：GA 高値は頸動脈岐部プラークの独立した危険因子となりえる. 日本糖尿病学会年次学術集会（第55回）（横浜市），2012. 5.
- 4) 竹光秀司¹⁾，原田太郎¹⁾，佐藤友紀¹⁾，長尾元嗣¹⁾，首藤真理子¹⁾，中島 泰¹⁾，高谷磨紀代¹⁾，武市奈緒美¹⁾，若栗稔子¹⁾，石崎 晃¹⁾，岡島史宜，杉原 仁¹⁾，及川眞一¹⁾ (1) 内科学（内分泌代謝内科学）：頸動脈エコーにおけるプラークの存在部位と CAVI との関連について. 日本糖尿病学会年次学術会（第55回）（横浜市），2012. 5.
- 5) 中島 泰¹⁾，原田太郎¹⁾，高谷磨紀代¹⁾，武市奈緒美¹⁾，竹光秀司¹⁾，佐藤友紀¹⁾，首藤真理子¹⁾，長尾元嗣¹⁾，若栗稔子¹⁾，石崎 晃¹⁾，岡島史宜，杉原 仁¹⁾，及川眞一¹⁾ (1) 内科学（内分泌代謝内科学）：インスリン療法を要した GDM 患者の耐糖能異常の評価. 日本糖尿病学会年次学術集会（第55回）（横浜市），2012. 5.
- 6) 大久保知美，岡島史宜，江本直也：パセドウ病診断時に亜急性甲状腺炎を合併していた1例. 日本甲状腺学会（第55回）（福岡市），2012. 11.
- 7) 江本直也：糖尿病患者の行動経済学的分析. 医療経済学会（第7回）研究大会（東京都），2012. 12.
- 8) 江本直也：糖尿病患者に対する行動経済学的アンケートの有用性の検証. 行動経済学会（第6回）（東京都），2012. 12.

7. 内科学（呼吸器内科学）

〔付属病院呼吸器内科，化学療法科〕

研究概要

癌：肺癌個別化治療に向け，抗癌剤感受性と遺伝子発現に基づくレジメン開発，遺伝子多型解析による CPT-11 の副作用予測，新薬開発を含む臨床試験等を行っている。EGFR 遺伝子変異に基づいた gefitinib の多施設臨床試験は国際的に評価され，研究を継続している。S-1+CDDP の第3相試験で中心的役割を果たし，多くの学会賞を取得。IP 合併肺癌や薬剤性肺障害の研究では我国の中心的施設となっている。基礎研究は感受性，副作用予測研究を展開し，肺癌の発癌，増殖に関わる研究を遺伝子や蛋白レベルで行ない，発癌母地として IIPs に注目し，特殊な発癌機構の理解と予防法の開発を目指す。炎症：炎症性疾患，感染症を中心に研究を展開し，厚労省研究班を軸に IIPs についてビルフェニドン，NAC，CSA，治験薬の評価，疾患活動性と予後，びまん性肺疾患，サルコイドーシス，難治性気道病変の病態・治療研究，急性肺障害や薬剤性肺障害の国際比較，PMX 吸着療法の研究を推進（先進医療承認取得）。基礎研究では肺障害，線維化病態を中心に，骨髄由来線維細胞，EMT，HSP，サーファクタント，メカニカルストレス，マクロライドの作用機序と新規化合物 EM900 の評価，IP の呼吸凝集液を用いた分子病態の検討を行っている。呼吸ケア：COPD の基礎研究は医薬基盤研究所の助成を受け，阪大，理化研との共同で創薬を進めている。フコウスを付加する酵素 Fut8 について，ヒト血清中の活性が COPD の病態に与える影響と遺伝子との関係について研究を進めた。COPD 増悪のバイオマーカーの開発で2つの特許を取得。COPD のフェノタイプに関する SNPs の研究を進めている。プリマス大との共同研究として multidimensional assessments の開発を行い，DOSE index につき論文化し，患者教育ツールとして LINQ の活用を進めている。

研究業績

論文

〔追加分〕

追加分総説：

- 1) 齋藤好信，弦間昭彦：抗がん剤・分子標的薬による薬剤性肺障害と対策。血液内科 2012；64（3）：353-358.
- 2) 齋藤好信，弦間昭彦：分子標的治療薬の副作用とその対策 間質性肺疾患（gefitinib，bortezomib など）。腫瘍内科 2012；9（3）：243-250.
- 3) Miyamaga A，Gemma A：Pleuritis carcinomatosa. Gan To Kagaku Ryoho 2011；38（4）：524-527.
- 4) Azuma A：Invited Review.Pirfenidone Treatment of Idiopathic Pulmonary Fibrosis. Therapeutic Advance in Respiratory Diseases 2012；6（2）：107-114.

追加分原著：

- 1) Ohashi K¹⁾，Sato A²⁾，Takada T³⁾，Arai T⁴⁾，Nei T^{1,5)}，Kasahara Y⁶⁾，Motoi N¹⁾，Hojo M⁷⁾，Urano S¹⁾，Isihi H⁸⁾，Yokoba M⁹⁾，Eda R¹⁰⁾，Nakayama H³⁾，Nasuhara Y，Tsuchihashi Y，et al. ¹⁾ Bioscience Medical Research Center, Niigata University Medical and Dental Hospital, 1-754 Asahimachi-dori, Niigata 951-8520, Japan, ²⁾ Department of Pulmonary Biology, Cincinnati Children's Hospital Medical Center, Cincinnati, OH, USA, ³⁾ Division of Respiratory Medicine, Niigata University Graduate School of Medical and Dental Sciences, Niigata, Japan, ⁴⁾ National Hospital Organization (NHO) Kinki-Chuo Chest Medical Center, Osaka, Japan, ⁵⁾ Division of Pulmonary Medicine, Nippon Medical School, Tokyo, Japan, ⁶⁾ Department of Respiriology, Graduate School of Medicine, Chiba University, Chiba, Japan, ⁷⁾ Division of Respiratory Medicine, National Center for Global Health and Medicine, Tokyo, Japan, ⁸⁾ Department of Respiratory Medicine, Kyorin University

- School of Medicine, Kanagawa, Japan, ⁹⁾ Department of Clinical Physiology, Kitasato University School of Allied Health Sciences, Tokyo, ¹⁰⁾ NHO Yamaguchi-Ube Medical Center, Ube, Japan) : Direct evidence that GM-CSF inhalation improves lung clearance in pulmonary alveolar proteinosis. *Respiratory Medicine* 2012 ; 106 (2) : 284-93.
- 2) Ohashi K¹⁾, Sato A²⁾, Takada T³⁾, Arai T⁴⁾, Kasahara Y⁵⁾, Hojo M⁶⁾, Nei T^{1,7)}, Nakayama H³⁾, Motoi N¹⁾, Urano S¹⁾, Eda R^{8,9)}, Yokoba M¹⁰⁾, et al. ¹⁾ Bioscience Medical Research Center, Niigata University Medical and Dental Hospital, 1-754 Asahimachi-dori, Niigata 951-8520, Japan, ²⁾ Department of Pulmonary Biology, Cincinnati Children's Hospital Medical Center, Cincinnati, OH, USA, ³⁾ Division of Respiratory Medicine, Niigata University Graduate School of Medical and Dental Sciences, Niigata, Japan, ⁴⁾ National Hospital Organization (NHO) Kinki-Chuo Chest Medical Center, Osaka, Japan, ⁵⁾ Department of Respiriology, Graduate School of Medicine, Chiba University, Chiba, Japan, ⁶⁾ Division of Respiratory Medicine, National Center for Global Health and Medicine, Tokyo, Japan, ⁷⁾ Division of Pulmonary Medicine, Nippon Medical School, Tokyo, Japan, ⁸⁾ NHO Yamaguchi-Ube Medical Center, Ube, Japan, ⁹⁾ Kurashiki Municipal Hospital, Kurashiki, Japan, ¹⁰⁾ Department of Clinical Physiology, Kitasato University School of Allied Health Sciences, Tokyo) : Reduced GM-CSF autoantibody in improved lung of autoimmune pulmonary alveolar proteinosis. *European Respiratory Journal* 2012 ; 39 (3) : 777-780.
 - 3) 都築早美, 楠 裕司, 坂本 徹, 小齊平聖治, 齊藤好信, 清家正博, 久保田馨, 吾妻安良太, 弦間昭彦 : EWS による気管支充填術で治療し得た血管型 Ehlers-Danlos 症候群による難治性気胸の 1 例. *気管支学* 2012 ; 34 (2) : 198.
 - 4) Shimokawa T, Seike M, Soeno C, Gemma A, Uesaka H, Miyanaga A, Mizutani H, Kitamura K, Minegishi Y, Noro R, Okano T, Yoshimura A, Gemma A : Enzastaurin has anti-tumour effects in lung cancers with overexpressed JAK pathway molecules. *Br J Cancer* 2012 ; 106 (5) : 867-875.
 - 5) Mukai H, Ohyashiki K, Katoh T, Kusumoto M, Gemma A, Sakai H, Sugiyama Y, Hatake K, Fukuda Y, Kudoh S : Lung injury associated with bortezomib therapy in Japan. *Rinsho Ketsueki* 2011 ; 52 (12) : 1859-1869.
 - 6) Satoh H, Inoue A, Kobayashi K, Maemondo M, Oizumi S, Isobe H, Gemma A, Saijo Y, Yoshizawa H, Hagiwara K, Nukiwa T : Low-dose gefitinib treatment for patients with advanced non-small cell lung cancer harboring sensitive epidermal growth factor receptor mutations. *J Thorac Oncol* 2011 ; 8 (6) : 1413-1417.
 - 7) Yoshii N, Suzuki T, Nagashima M, Kon A, Kakihata K, Gemma A : Clarification of clinical features of interstitial lung disease induced by irinotecan based on postmarketing surveillance data and spontaneous reports. *Anticancer Drugs* 2011 ; 22 (6) : 563-568.
 - 8) Minegishi Y, Kuribayashi H, Kitamura K, Mizutani H, Kosaihiira S, Okano T, Seike M, Azuma A, Yoshimura A, Kudoh S, Gemma A : The feasibility study of Carboplatin plus Etoposide for advanced small cell lung cancer with idiopathic interstitial pneumonias. *J Thorac Oncol* 2011 ; 6 (4) : 801-807.
 - 9) Nei T, Urano S, Motoi N, Takizawa J, Kaneko C, Kanazawa H, Tazawa R, Nakagaki K, Akagawa K, Akasaka K, Ichiwata T, Azuma A, Nakata K : IgM-type GM-CSF Autoantibody is Etiologically a Bystander but Associated with IgG-type Autoantibody Production in Autoimmune Pulmonary Alveolar Proteinosis. [Epub ahead of print]. *Am J Physiol - Lung Cellular Mol Physiol* 2012.
 - 10) Chen Y, Kang J, Wu M, Azuma A, Zhao L : Differential Association between HLA and Diffuse Panbronchiolitis in Northern and Southern Chinese. *Intern Med* 2012 ; 51 (3) : 271-276.
 - 11) Homma S, Azuma A, Taniguchi H, Ogura T, Mochiduki Y, Sugiyama Y, Nakata K, Yoshimura K, Takeuchi M, Kudoh S ¹⁾ the Japan NAC .Clinical Study Group) : Efficacy of inhaled N-acetylcysteine mono-

therapy in patients with early stage idiopathic pulmonary fibrosis. *Respirology* 2012; 17 (3): 467-477.

追加分症例報告:

- 1) 根井貴仁, 松田久仁子, 三浦由記子, 齋藤好信, 吾妻安良太, 弦間昭彦: 抗 IFN- γ 抗体が検出された非 HIV 患者の *M.kansasii* による播種性マイコバクテリウム感染症の 1 例. *日本呼吸器学会誌* 2012; 1 (増刊): 371.

追加分 Q&A:

- 1) 國保成暁, 吾妻安良太: 間質性肺炎の原因・抗リウマチ薬との関連・線維化要因. *日本医事新報* 2012; (4588): 58-59.

追加分会議録:

- 1) 成田宏介, 藤田和恵, 林 宏紀, 齋藤好信, 山口朋禎, 吾妻安良太, 弦間昭彦: 非 HIV 症例における肺クリプトコックス症の臨床的検討. *感染症学雑誌* 2012; 86 (臨増): 339.
- 2) 三浦由記子, 豊川 優, 小齊平聖治, 野呂林太郎, 峯岸裕司, 齋藤好信, 功刀しのぶ, 福田 悠, 吾妻安良太, 弦間 昭彦: 当施設におけるアムルピシンによる薬剤性肺障害の検討. *日本呼吸器学会誌* 2012; 1 (増刊): 357.
- 3) 都築早美, 藤田和恵, 國保成暁, 林 宏紀, 神尾孝一郎, 齋藤好信, 吾妻安良太, 弦間昭彦: 関節リウマチの治療中に合併した呼吸器感染症に関する検討. *日本呼吸器学会誌* 2012; 1 (増刊): 287.
- 4) 神尾孝一郎, 石井健男, 茂木 孝, 吾妻安良太, 弦間昭彦, 木田厚瑞: COPD 患者における血清 TGF- β 1 濃度と呼吸機能・胸部 CT パラメーターとの関係に関する検討. *日本呼吸器学会誌* 2012; 1 (増刊): 272.
- 5) 坂井浩佑, 藤田和恵, 國保成暁, 林 宏紀, 神尾孝一郎, 齋藤好信, 吾妻安良太, 弦間昭彦: 大学病院における肺結核・肺外結核に関する検討. *日本呼吸器学会誌* 2012; 1 (増刊): 210.
- 6) 蛸井浩行, 角田義弥, 須磨崎有希, 田中 徹, 谷田貝洋平, 林士 元, 関根朗雅, 林原賢治, 齋藤武文, 梅津泰洋, 吾妻安良太, 弦間昭彦: 慢性型間質性肺炎に対する pirfenidone の効果. *日本呼吸器学会誌* 2012; 1 (増刊): 195.
- 7) 吾妻安良太, 谷口博之, 井上義一, 小倉高志, 唯保祐介, 岡崎浩太郎, 藤本 剛, Klueglich M, 杉山幸比古, 貫和敏博: IPF とその周辺 治療 日本人 IPF における BIBF 1120 (B) と Pirfenidone (P) 併用投与の安全性, 忍容性, 薬物動態を検討する臨床試験. *日本呼吸器学会誌* 2012; 1 (増刊): 125.
- 8) 吾妻安良太: IPF 治療における薬理学的戦略 肺線維症治療にコルチコステロイド/免疫抑制剤を使うべきではないか?. *日本呼吸器学会誌* 2012; 1 (増刊): 101.
- 9) 吾妻安良太: 特発性間質性肺炎の新ガイドライン・手引きをめぐって 日米の比較 特発性肺線維症 (IPF) 最新の治療戦略. *日本呼吸器学会誌* 2012; 1 (増刊): 38.
- 10) 久金 翔, 柏田 建, 阿部信二, 齋藤好信, 小林研一, 林 宏紀, 神尾孝一郎, 白杵二郎, 吾妻安良太, 弦間昭彦: 間質性肺炎に続発した気胸症例の検討. *日本内科学会雑誌* 2012; 101 (Suppl): 306.

追加分会議録:

- 1) 李 英姫, 清水孝子, 平田幸代, 稲垣弘文, 新海雄介, 吾妻安良太, 滝澤 始, 武田 健, 川田智之, 工藤翔二: ディーゼル排気粒子の気道上皮細胞の遊走, および上皮間葉移行 (EMT) に及ぼす影響. *日本衛生学雑誌* 2012; 67 (2): 284.

(1) 原著:

- 1) Nei T^{1, 2)}, Urano S¹⁾, Motoi N¹⁾, Takizawa J¹⁾, Kaneko C¹⁾, Kanazawa H¹⁾, Tazawa R¹⁾, Nakagaki K³⁾, Akagawa-S K⁴⁾, Akasaka K⁵⁾, Ichiwata T⁶⁾, Azuma A²⁾, Nakata K¹⁾ ⁽¹⁾ Bioscience Medical Research Center, Niigata University Medical and Dental Hospital, Niigata, Japan, ⁽²⁾ Department of Internal Medicine, Nippon Medical School, Tokyo, Japan, ⁽³⁾ Collaborate Laboratories for Wildlife Health, Gentle, Nippon Veterinary and Life Science University, Tokyo, Japan, ⁽⁴⁾ Kitazato University, Kitasato Institute for Life Sciences, Kitasato University, Kanagawa, Japan, ⁽⁵⁾ Department of Respiratory Medicine, Dokkyo Medical University,

- Koshigaya Hospital, Saitama, Japan, ⁶⁾ Department of Respiratory Medicine, Tokyo Medical University Hachioji Medical Center, Tokyo, Japan) : IgM-type GM-CSF autoantibody is etiologically a bystander but associated with IgG-type autoantibody production in autoimmune pulmonary alveolar proteinosis. *American Journal of Physiology Lung Cellular and Molecular Physiology* 2012 ; 302 (9) : 959-964.
- 2) Tanita A¹⁾, Hosokawa Y¹⁾, Tomiyama T¹⁾, Kato M¹⁾, Matsuda J²⁾, Sawai K¹⁾, Arita Y¹⁾, Aokage T¹⁾, Suzuki H¹⁾, Murata H¹⁾, Miyachi H¹⁾, Shibui T¹⁾, Nei T¹⁾, Akutsu K¹⁾, Yamamoto T¹⁾, et al. ¹⁾ Intensive and Cardiac Care Unit, Nippon Medical School, Tokyo, Japan, ²⁾ Division of Cardiovascular Surgery, Nippon Medical School, Tokyo, Japan) : Giant left atrium due to mitral stenosis with massive atelectasis : A successful case with perioperative approach. *International Journal of Cardiology* 2012.
 - 3) Cao M, Seike M, Soeno C, Mizutani H, Kitamura K, Minegishi Y, Noro R, Yoshimura A, Cai L, Gemma A : MiR-23a Regulates TGF- β -induced Epithelial-Mesenchymal Transition by targeting E-cadherin in Lung Cancer Cells. *Int J Oncol* 2012 ; 41 (3) : 869-875.
 - 4) 阿曾亮子, 井上千鹿子, 吉村明修, 志村俊郎, 高柳和江, 日高廣人, 吾妻安良太 : 模擬患者参加の医療面接におけるメイクアップの活用. *Journal of Japanese Association of Simulation for Medical Education* 2012 ; 5 : 36-39.
 - 5) 北村和広¹⁾, 久保田馨¹⁾, 安藤真弘²⁾, 高橋 聡²⁾, 西島伸彦¹⁾, 菅野哲平¹⁾, 松本 優¹⁾, 三輪晃士²⁾, 小齊平聖治¹⁾, 野呂林太郎¹⁾, 峯岸裕司¹⁾, 清家正博¹⁾, 吉村明修¹⁾, 弦間昭彦¹⁾ ¹⁾ 日本医科大学 内科学 (呼吸器内科学), ²⁾ 慈山会医学研究所付属坪井病院 内科) : Bevacizumab plus chemotherapy for advanced non-squamous non-small-cell lung cancer with malignant pleural effusion. *Cancer Chemotherapy and Pharmacology* 2013 ; 71 (2) : 457-461.
 - 6) Ishii T, Hagiwara K¹⁾, Ikeda S²⁾, Arai T³⁾, Mieno-N M⁴⁾, Kumasaka T⁵⁾, Muramatsu M²⁾, Sawabe M³⁾, Gemma A, Kida K ¹⁾ Department of Respiratory Medicine, Saitama Medical University, ²⁾ Department of Molecular Epidemiology, Medical Research Institute, Tokyo Medical and Dental University, ³⁾ Department of Pathology, Tokyo Metropolitan Geriatric Medical Center, ⁴⁾ Department of Medical Informatics/Center for Information, Jichi Medical University, ⁵⁾ Department of Pathology, Japanese Red Cross Medical Center) : Association between genetic variations in surfactant protein d and emphysema, interstitial pneumonia, and lung cancer in a Japanese population. *COPD* 2012 ; 9 (4) : 409-416.
 - 7) Motegi T, Yamada K, Ishii T, Gemma A, Kida K : Long-term management of chronic obstructive pulmonary disease : a survey of collaboration among physicians involved in pulmonary rehabilitation in Japan. *Respir Investig* 2012 ; 50 (3) : 98-103.
 - 8) Kamio K, Yoshida T¹⁾, Gao C²⁾, Ishii T, Ota F²⁾, Motegi T, Kobayashi S²⁾, Fujinawa R²⁾, Ohtsubo K²⁾, Kitazume S²⁾, Angata T²⁾, Azuma A, Gemma A, Nishimura M¹⁾, Betsuyaku T³⁾, et al. ¹⁾ First Department of Meedicine, Hokkaido University School of Medicine, ²⁾ Systems Glycobiology Group, RIKEN Advanced Science Institute, ³⁾ Division of Pulmonary Medicine, Department of Medicine, Keio University School of Medicine) : α 1,6-Fucosyltransferase (Fut8) is implicated in vulnerability to elastase-induced emphysema in mice and a possible non-invasive predictive marker for disease progression and exacerbations in chronic obstructive pulmonary disease (COPD). *Biochem Biophys Res Commun* 2012 ; 424 (1) : 112-117.
 - 9) Ishii T, Motegi T, Hattori K, Yamada K, Kusunoki Y, Gemma A, Kida K : The Association between Serum Concentration of Surfactant Protein D and Progression of Chronic Obstructive Pulmonary Disease. *J Nippon Med Sch* 2012 ; 79 (6) : 498-500.
 - 10) Abe S, Hayashi H, Seo Y, Matsuda K, Kamio K, Saito Y, Usuki J, Azuma A, Kudo S, Gemma A : Reduction in serum high mobility group box-1 level by polymyxin B-immobilized fiber column in patients

- with idiopathic pulmonary fibrosis with acute exacerbation. *Blood Purif.* 2011 ; 32 (4) : 310-316.
- 11) Yoshimura A, Noro R, Miyanaga A, Mizutani H, Kosaihiira S, Minegishi Y, Seike M, Hino M, Ando M, Nomura K, Okano T, Kobayashi K, Gemma A : Combination chemotherapy of alternating etoposide and carboplatin with weekly administration of irinotecan and cisplatin in extensive-stage small-cell lung cancer. *Anticancer Res* 2012 ; 32 (10) : 4473-4478.
 - 12) 茂木 孝 : 【総合的に考える高齢者の呼吸器疾患】 高齢者の呼吸器疾患 医療・介護制度と費用の問題. *THE LUNG-perspectives* 2012 ; 20 (2) : 135-139.
 - 13) Azuma A, Yamaya M, Kadota J, Mikasa K, Kudoh S : The use of macrolides in the 2009 H1N1 virus infection outbreak : A survey of general practice in Japan. *Respir Invest* 2013.
 - 14) Li YJ, Shimizu T, Hirata Y, Inagaki H, Takizawa H, Azuma A, Kawada T, Sugawara I, Kudoh S, Sunazuka T, Omura S : EM, EM703 inhibit NF- κ B activation induced by oxidative stress from diesel exhaust particle in human bronchial epithelial cells : Importance in IL-8 transcription. pii : S1094-5539 (12) 00181-2. *Pulm Pharmacol Ther* 2013.
 - 15) Inomata M, Ikushima S, Awano N, Kondoh K, Satake K, Masuo M, Moriya A, Kamiya H, Ando T, Azuma A, Takemura T : Upper gastrointestinal sarcoidosis : report of three cases. *Intern Med* 2012 ; 51 (13) : 1689-1694.
 - 16) Abe S, Azuma A, Mukae H, Ogura T, Taniguchi H, Bando M, Sugiyama Y : Polymyxin B-immobilized Fiber Column (PMX) Treatment for Idiopathic Pulmonary Fibrosis with Acute Exacerbation : A Multicenter Retrospective Analysis. *Intern Med* 2012 ; 51 (12) : 1487-1491.
 - 17) Tanaka K, Sato K, Aoshiba K, Azuma A, Mizushima T : Superiority of PC-SOD to other anti-COPD drugs for elastase-induced emphysema and alteration in lung mechanics and respiratory function in mice.(L-00019-2012R1) *Am J Physiol* - [Epub ahead of print] (IF : 3.147). *Lung Cellular Mol Physiol* 2012 ; 302 : 1250-1261.
 - 18) Tanaka K, Azuma A, Miyazaki Y, Sato K, Mizushima T : Effects of lecithinized superoxide dismutase and/or pirfenidone against bleomycin-induced pulmonary fibrosis. *Chest* 2012 ; 142 (4).
 - 19) Kono C, Yamaguchi T, Yamada Y, Uchiyama H, Kono M, Takeuchi M, Sugiyama Y, Azuma A, Kudoh S, Sakurai T, Tatsumi K : Historical Change of Epidemiology in Diffuse Panbronchiolitis. *Sarcoidosis Vasculitis and Diffuse Lung Diseases* 29 2012 ; 19-25.
 - 20) Miyanaga A^{1,2)}, Honda K²⁾, Tsuta K³⁾, Masuda M²⁾, Yamaguchi U²⁾, Fujii G⁴⁾, Miyamoto A⁵⁾, Shinagawa S⁵⁾, Miura N²⁾, Tsuda H³⁾, Sakuma T⁶⁾, Asamura H⁷⁾, Gemma A¹⁾, Yamada T²⁾ (1) Department of Internal Medicine, Division of Pulmonary Medicine, Infection and Oncology, Nippon Medical School, Tokyo, 2) Division of Chemotherapy and Clinical Research, National Cancer Center Research Institute, Tokyo, 3) Division of Pathology and Clinical Laboratories, National Cancer Center Hospital, Tokyo, 4) Division of Cancer Prevention Research, National Cancer Center Research Institute, Tokyo, 5) Kobe Research Center, TransGenic Inc., Kumamoto, 6) BioBusiness Group, Mitsui Knowledge Industry, Tokyo, 7) Division of Thoracic Surgery, National Cancer Center Hospital, Tokyo, Japan) : Diagnostic and prognostic significance of the alternatively spliced ACTN4 variant in high-grade neuroendocrine pulmonary tumours. *Annals of Oncology* 2013 ; 24 (1) : 84-90.
 - 21) Inoue A, Kobayashi K, Maemondo M, Sugawara S, Oizumi S, Isobe H, Gemma A, Harada M, Yoshizawa H, Kinoshita I, Fujita Y, Okinaga S, Hirano H, Yoshimori K, Harada T, et al. : Updated overall survival results from a randomized phase III trial comparing gefitinib with carboplatin-paclitaxel for chemonaïve non-small cell lung cancer with sensitive EGFR gene mutations. *Ann Oncol* 2013 ; 24 (1) : 54-59.

- 22) Soda M, Isobe A, Maemondo M, Oizumi S, Fujita Y, Gemma A, Yamashita Y, Ueno T, Takeuchi K, Choi Y, Miyazawa H, Tanaka T, Hagiwara K, Mano H : A prospective PCR-based screening for the EML4-ALK oncogene in non-small cell lung cancer. *Clin Cancer Res* 2012 ; 20 (18) : 5682-5689.
- 23) Maemondo M, Minegishi Y, Inoue A, Kobayashi K, Harada M, Okinaga S, Morikawa N, Oizumi S, Tanaka T, Isobe H, Kudoh S, Hagiwara K, Nukiwa T, Gemma A : First-line gefitinib in patients aged 75 or older with advanced non-small cell lung cancer harboring epidermal growth factor receptor mutations : NEJ 003 study. *J Thorac Oncol* 2012 ; 9 (7) : 1417-1422.
- 24) Horiuchi Y, Gamma A, Taniguchi H, Inoue Y, Sakai F, Johkoh T, Fujimoto K, Kudoh S : Drug-induced lung injury associated with sorafenib : analysis of all-patient post-marketing surveillance in Japan. *Int J Clin Oncol* 2012.
- 25) Oizumi S, Kobayashi K, Inoue A, Maemondo M, Sugawara S, Yoshizawa H, Isobe H, Harada M, Kinoshita I, Okinaga S, Kato T, Harada T, Gemma A, Saijyo Y, Yokomizo Y, et al. : Quality of life with gefitinib in patients with EGFR-mutated non-small cell lung cancer : quality of life analysis of North East Japan Study Group 002 Trial. *Oncologist* 2012 ; 17 (6) : 863-870.
- 26) Ishii T, Hagiwara K, Ikeda S, Arai T, Mieno M, Kumasaka T, Muramatsu M, Sawabe M, Gemma A, Kida K : Association between genetic variations in surfactant protein d and emphysema, interstitial pneumonia, and lung cancer in a Japanese population. *COPD* 2012 ; 9 (4) : 409-416.
- 27) Hayashi H¹⁾, Saito Y¹⁾, Kokuho N¹⁾, Morimoto T²⁾, Kobayashi K¹⁾, Tanaka T¹⁾, Abe S¹⁾, Fujita K¹⁾, Azuma A, A¹⁾, Gemma A¹⁾ ¹⁾ Division of Pulmonary Medicine, Infectious Diseases, and Oncology, Department of Internal Medicine, Nippon Medical School,, ²⁾ Department of Internal Medicine, Heisei Tateisi Hospital) : Fatal pneumonia associated with temozolomide therapy in patients with malignant glioma. *Jpn J Clin Oncol* 2012 ; 42 (7) : 632-636.
- 28) Kubota K, Sekine I, Horinouchi H, Nokihara H, Yamamoto N, Tamura T, Asahina H : Retrospective Analysis of Third-Line and Fourth-Line Chemotherapy for Advanced Non-Small-Cell Lung Cancer. *Clinical Lung Cancer* 2012 ; 13 : 39-43.
- 29) Kubota K, Asahina H, Sekine I, Hironouchi H, Nokihara H, Yamamoto N, Tamura T : Risk factors for treatment-related death associated with chemotherapy and thoracic radiotherapy for lung cancer. *J Thorac Oncol* 2012 ; 7 : 177-182.
- 30) Kubota K, Sumi M, Ito Y, Horinouchi H, Nokihara H, Yamamoto N, Kunitoh H, Ohe Y, Sekine I, Tamura T : Phase I Study of Concurrent High-Dose Three-Dimensional Conformal Radiotherapy With Chemotherapy Using Cisplatin and Vinorelbine for Unresectable Stage III Non-Small-Cell Lung Cancer. *Int J Radiat Oncol Biol Phys.* 2012 ; 82 : 953-959.
- 31) Kubota K, Niho S, Nihei K, Sekine I, Sekiguchi R, Funai J, Enatsu S : Dose-Escalation Study of Thoracic Radiotherapy in Combination With Pemetrexed Plus Cisplatin Followed by Pemetrexed Consolidation Therapy in Japanese Patients With Locally Advanced Nonsquamous Non-Small-Cell Lung Cancer. *Clin Lung Cancer* 2012 ; 24.
- 32) Kubota K : International, Randomized, Placebo-Controlled, Double-Blind Phase III Study of Motesanib Plus Carboplatin/Paclitaxel in Patients With Advanced Nonsquamous Non-Small-Cell Lung Cancer. *MONET1. J Clin Oncol* 2012 ; 10 (30) : 2829-2836.
- 33) 久保田馨, 菅野哲平 : 慢性肺疾患患者の診療における多面的評価-肺癌患者の多面的評価. *日本胸部臨床* 2012 ; 71 (6) : 538-547.
- 34) 久保田馨, 中道真二 : 肺癌治療にまつわるトータルサポート治療とケア. *臨床雑誌「内科」* 2012 ; 110 (5).

- 35) 清家正博, 久保田馨: 腫瘍内科. 医療ジャーナル社 2012; 10: 558-562.
- 36) Kubota K: Retrospective Analysis of Third-Line and Fourth-Line Chemotherapy for Advanced Non-Small-Cell Lung Cancer. *Clinical Lung Cancer* 2012; 13: 39-43.
- 37) Kubota K, Scagliotti Gv G, Vynnychenko I, Park K, Ichinose Y: International, Randomized, Placebo-Controlled, Double-Blind Phase III Study of Motesanib Plus Carboplatin/Paclitaxel in Patients With Advanced Nonsquamous Non-Small-Cell Lung Cancer. *J Clin Oncol* 2012; 10 (30): 2829-2839.
- 38) Kitamura K, Kubota K, Nishijima N, Sugano T, Toyokawa M, Miwa K, Noro R, Seike, Genma A: Bevacizumab plus chemotherapy for advanced non-squamous non-small-cell lung cancer with malignant pleural effusion. *Cancer Chemother Pharmacol* 2012.
- 39) Nakamichi S, Kubota K, Kaneda S, Fujiwara Y, Nokihara H, Tamura T: JISCO (Japanese Journal of Clinical Oncology Advance Access: Successful EGFR-TKI Rechallenge of Leptomeningeal Carinomatosis after Gefitinib-induced Interstitial Lung Disease. *JISCO* 2013.
- 40) Noro R, Yoshimura A, Yamamoto K, Miyanaga A, Mizutani H, Minegishi Y, Seike M, Kubota K, Kosai-hira S, Gemma A: Alternating Chemotherapy with Amrubicin Plus Cisplatin and Weekly Administration of Irinotecan Plus Cisplatin for Extensive-stage Small Cell Lung Cancer. *Alternating Chemotherapy with Amrubicin Plus Cisplatin and Weekly* 2013: 1117-1124.
- 41) Noro R, Yoshimura A, Yamamoto K, Miyanaga A, Mizutani H, Minegishi Y, Seike A, Kubota K, Hino M, Ando A, Nomura K, Okano T, Gemma A: 1. Alternating Chemotherapy with Amrubicin Plus Cisplatin and Weekly Administration of Irinotecan Plus Cisplatin for Extensive-stage Small Cell Lung Cancer. *Anticancer Res* 2013: ; 33: 1117-1123.
- (2) 座談会:
- 1) 石井健男, 長瀬隆英¹⁾, 山口正雄²⁾, 福永興彦³⁾ (1) 東京大学医学部呼吸器内科, 2) 帝京大学医学部呼吸器内科, 3) 慶應義塾大学医学部呼吸器内科): 呼吸器学における研究展望. *呼吸* 2012; 31 (6): 508-516.
- (3) 総説:
- 1) Saito Y, Gemma A: Current status of DILD in molecular targeted therapies. *Int J Clin Oncol* 2012; 17 (6): 534-541.
- 2) 齋藤好信, 弦間昭彦: 乳癌薬物療法における支持療法 間質性肺炎. *乳癌の臨床* 2012; 27 (6): 703-707.
- 3) 齋藤好信, 弦間昭彦: 分子標的治療薬の副作用マネジメントのコツ 呼吸器系副作用. *泌尿器外科* 2012; 25 (11): 2099-2014.
- 4) 齋藤好信, 弦間昭彦: 呼吸器内科に聞く! 見逃せない病態と対処法 間質性肺炎 (乳癌治療との関係から). *Cancer Board 乳癌* 2012; 5 (2): 166-169.
- 5) 齋藤好信, 弦間昭彦: 間質性肺炎と臨床検査】抗癌剤による間質性肺炎. *臨床検査* 2012; 56 (9): 997-1000.
- 6) 齋藤好信: 分子標的薬の有害事象とその対策 分子標的薬による肺毒性とその対策. *臨床外科* 2012; 67 (7): 897-901.
- 7) 原野謙一: 転移性副腎がんの1例. *腫瘍内科* 2012; 9 (4): 455-458.
- 8) 原野謙一: がん薬物療法専門医講座: がん薬物療法専門医のための模擬テスト 26. *腫瘍内科* 2012; 9 (5): 586-587.
- 9) 原野謙一: 新しい支持療法の実地臨床における意義・中等度催吐性リスクに対する制吐剤. *腫瘍内科* 2012; 14 (18): 14-18.
- 10) 原野謙一, 勝俣範之: 各臓器別の最新治療と新薬の動向・卵巣がん. *最新医学* 2012; 67 (9): 175-190.
- 11) 原野謙一: がん患者支援とがんサバイバーのQOL 10. 再発がんに対する抗がん剤の使い方. *産科と婦人科* 2013; 80 (2): 223-227.

- 12) 清家正博, 久保田馨: ALK 阻害剤に対する耐性メカニズム. 腫瘍内科 2012; 10 (6): 558-562.
 - 13) 清家正博, 弦間昭彦: 各臓器別の最新治療と新薬の動向「小細胞肺癌」. 最新医学 2012; 67 (9): 2096-2103.
 - 14) 清家正博, 弦間昭彦: 肺癌化学療法「テーラーメイド治療確立への展望」. 呼吸器内科 2012; 21 (6): 532-537.
 - 15) 清家正博, 弦間昭彦: 薬効を予測するバイオマーカー分子標的薬「EGFR-TKI について」. 癌と化学療法 2012; 39 (11): 1613-1617.
 - 16) 北村和広: 【外来化学療法の実際 最新のベストプラクティス】外来化学療法の動向.
 - 17) 北村和広¹⁾, 岸田悦子^{2,3)}, 久保田馨^{1,2)} (1) 日本医科大学 内科学(呼吸器内科学), 2) 日本医科大学 化学療法科, 3) 日本医科大学付属病院 薬剤部): 【外来化学療法の実際 最新のベストプラクティス】外来化学療法の動向. コンセンサス癌治療 2012; 11 (4): 178-181.
 - 18) 北村和広¹⁾, 久保田馨^{1,2)} (1) 日本医科大学 内科学(呼吸器内科学), 2) 日本医科大学 化学療法科): 【進行非小細胞肺癌の薬物治療における「維持療法」をどう考えるのか】維持療法をプラクティスに取り入れる際に, 私が注意するポイント I 臨床試験の解釈から実地臨床への導入まで. 日本胸部臨床 2012; 71 (10): 972-983.
 - 19) 北村和広¹⁾, 岸田悦子^{2,3)}, 久保田馨^{1,2)} (1) 日本医科大学 内科学(呼吸器内科学), 2) 日本医科大学 化学療法科, 3) 日本医科大学付属病院 薬剤部): 外来化学療法の実際 最新のベストプラクティス 外来化学療法の動向. コンセンサス癌治療 2012; 11 (4): 178-181.
 - 20) 北村和広¹⁾, 弦間昭彦¹⁾ (1) 日本医科大学 内科学(呼吸器内科学)): 【知っておきたい内科症候群】呼吸器《肺癌の占拠に伴う特殊な病態》パンコスト腫瘍. 内科 2012; 109 (6): 1180-1182.
 - 21) 木田厚瑞: COPD/実地診療における医療連携の進め方. 東京都医師会雑誌 2013; 66 (3): 27-35.
 - 22) 沢辺元司¹⁾, 櫻井うらら²⁾, 新井富生²⁾, 石井健男 (1) 東京医科歯科大学医学部保健衛生学分子病態検査学, 2) 東京都健康長寿医療センター病理診断科): 病理からみた呼吸器系の加齢性変化. The Lung perspectives 2012; 20 (2): 125-129.
 - 23) 石井健男: COPD における在宅管理と医療連携. Monthly Book Medical Rehabilitation 2012; (147): 7-14.
 - 24) 石井健男: 各論 II-4 再診・通院患者の病態別の診かた. 喘息. レジデント 2013; 6 (1): 78-87.
 - 25) Gemma A: Drug-induced interstitial lung disease (DILD) in molecular targeted therapy. Int J Clin Oncol 2012; 17 (6): 533.
 - 26) 茂木 孝: 【禁煙指導の Up-To-Date-どのように達成させるか】 全医療従事者による禁煙支援の推進. THE LUNG-perspectives 2013; 21 (1): 73-76.
 - 27) 茂木 孝: 特集『医療質安全保証に向けた臨床医たちの視座』慢性閉塞性肺疾患 COPD - 疾病管理と急性増悪の質マネジメント. 品質 2013; 43 (1): 30-33.
 - 28) Yamaya M, Azuma A, Takizawa H, Kadota J, Tamaoki J, Kudoh S: Review. Effects of macrolides to prevent chronic obstructive pulmonary disease exacerbation: Possible mechanisms. Eur Respir J 2012; 40: 485-494.
 - 29) 白杵二郎¹⁾, 吾妻安良太 (1) 日本医科大学武蔵小杉病院): 【副鼻腔気管支症候群と喘息の違いは?】副鼻腔気管支症候群と気管支喘息の下気道病変の違い. ENTONI 2012; (143): 5-11.
- (4) 解説:
- 1) 國保成暁, 吾妻安良太: 【特発性間質性肺炎を見直す-特発性間質性肺炎臨床の最新知見】IPF の臨床治療. 呼吸と循環 2013; 61 (2): 112-117.
 - 2) 藤田和恵, 吾妻安良太: インフルエンザに続発する細菌感染症. 呼吸器内科 2012; 22 (6): 561-566.
 - 3) 猪俣 稔, 吾妻安良太: 【呼吸器疾患バイオマーカーの新展開】間質性肺炎. 呼吸 2012; 31 (11): 1028-1033.
 - 4) 三浦由記子, 斎藤武文, 吾妻安良太: 特発性肺線維症のピルフェニドン投与の臨床効果. 呼吸 2012; 31 (9): 808-813.
 - 5) 吾妻安良太: 外来診療における呼吸器疾患 COPD を中心に. 練馬区医師会だより 2012; (530): 4-9.

6) 林 宏紀, 吾妻安良太 : Current Opinion 間質性肺炎急性増悪. 呼吸と循環 2012 ; 60 (6) : 633-637.

(5) 症例報告 :

- 1) Nei T¹⁾, Akutsu K¹⁾, Shima A¹⁾, Tsuboi I¹⁾, Suzuki H¹⁾, Yamamoto T¹⁾, Tanaka K¹⁾, Shinoyama A²⁾, Kojima Y²⁾, Washio Y²⁾, Okawa S²⁾, Sonobe K²⁾, Norose Y³⁾, Saito R⁴⁾ (1) Division of Intensive Care Unit and Cardiac Care Unit, Nippon Medical School, Tokyo, Japan, (2) Department of Clinical Laboratory, Nippon Medical School, Tokyo, Japan, (3) Department of Microbiology and Immunology, Nippon Medical School, Tokyo, Japan, (4) Department of Moleculo-genetic Sciences, Microbiology and Immunology, Tokyo Medical and Dental University, Tokyo, Japan) : A case of streptococcal toxic shock syndrome due to Group G streptococci identified as *Streptococcus dysgalactiae* subsp. *equisimilis*. Journal of Infection and Chemotherapy 2012 ; 18 (6) : 919-924.
- 2) Nei T¹⁾, Hideya H²⁾, Sonobe K³⁾, Dan K²⁾, Saito R⁴⁾ (1) Department of Internal Medicine, Divisions of Respiratory Medicine, Infection and Oncology, Nippon Medical School, Tokyo, Japan, (2) Department of Internal Medicine, Divisions of Hematology, Gastroenterology and Endocrinology and Metabolism, Nippon Medical School, Tokyo, Japan, (3) Department of Clinical Laboratory, Nippon Medical School, Tokyo, Japan, (4) Department of Moleculo-genetic Sciences, Microbiology and Immunology, Tokyo Medical and Dental University, Tokyo, Japan) : First report of infectious pericarditis due to *Bordetella holmesii* in an adult patient with malignant lymphoma. Journal of Clinical Microbiology 2012 ; 50 (5) : 1815-1817.
- 3) Nei T^{1, 2)}, Okabe M³⁾, Mikami I⁴⁾, Koizumi Y¹⁾, Mase H¹⁾, Matsuda K²⁾, Yamamoto T¹⁾, Takeda S¹⁾, Tanaka K¹⁾, Dan K³⁾ (1) Division of Intensive Care and Cardiac Care, Nippon Medical School, Tokyo, JAPAN, (2) Department of Internal Medicine (Division of Respiratory Medicine, Infection and Oncology), Tokyo, JAPAN, (3) Department of Internal Medicine (Division of Hematology, Gastroenterology and Endocrinology and Metabolism), Tokyo, JAPAN, (4) Department of Surgery (Division of Thoracic Surgery), Tokyo, JAPAN) : A Non-HIV Case with Disseminated *Mycobacterium kansasii* Disease Associated with Strong Neutralizing Autoantibody to Interferon- γ . Respiratory Medicine Case Reports 2013 ; 8 : 10-13.
- 4) Saito Y, Kunugi S¹⁾, Suzuki Y²⁾, Narita K, Miura Y, Minegishi Y, Kimura G²⁾, Kondo Y²⁾, Azuma A, Fukuda Y¹⁾, Gemma A (1) 日本医科大学大学院解析人体病理学, (2) 日本医科大学付属病院泌尿器科) : Granuloma-forming interstitial pneumonia occurring one year after the start of everolimus therapy. Intern Med 2013 ; 52 (2) : 263-267.
- 5) Saito Y, Nagayama M, Miura Y, Ogushi S¹⁾, Suzuki Y¹⁾, Noro R, Minegishi Y, Kimura G¹⁾, Kondo Y¹⁾, Gemma A (1) 日本医科大学付属病院泌尿器科) : A Case of Pneumocystis Pneumonia Associated with Everolimus Therapy for Renal Cell Carcinoma. Jpn J Clin Oncol 2013 ; 43 (5) : 559-562.
- 6) Kashiwada T¹⁾, Kikuchi K²⁾, Abe S¹⁾, Kato H³⁾, Hayashi H¹⁾, Morimoto T¹⁾, Kamio K¹⁾, Usuki J¹⁾, Takeda S⁴⁾, Tanaka K⁴⁾, Imanishi K³⁾, Yagi J³⁾, Hiramatsu K²⁾, Azuma A²⁾, Gemma A (1) Internal Medicine, Department of Pulmonary Medicine/Infection and Oncology, Nippon Medical School, (2) Department of Infection Control Science, Faculty of Medicine, Juntendo University, (3) Department of Microbiology and Immunology, Tokyo Women's Medical University School of Medicine, (4) Division of Intensive Care Unit and Coronary Care Unit, Nippon Medical School) : Staphylococcal enterotoxin B toxic shock syndrome induced by community-acquired methicillin-resistant Staphylococcus aureus (CA-MRSA). Intern Med 2012 ; 51 (21) : 085-088.
- 7) Kashiwada T, Shimizu H¹⁾, Tamura K²⁾, Seyama K³⁾, Horie Y¹⁾, Mizoo A¹⁾ (1) Department of Respiratory Medicine, Tokyo Kosei Nenkin Hospital, Tokyo, Japan, (2) Department of Life Science, Faculty of Science & Technology, Kinki University, Osaka, Japan, (3) Department of Respiratory Medicine, Juntendo University

School of Medicine, Tokyo, Japan) : Birt-Hogg-Dubésyndrome and familial adenomatous polyposis : an association or a coincidence?. Intern Med 2012 ; 51 (13) : 1789-1792.

- 8) Narita K¹⁾, Akutsu K¹⁾, Yamamoto T¹⁾, Sato N¹⁾, Murata S²⁾, Mizuno K³⁾, Tanaka K¹⁾ (1) Division of Intensive and Cardiac Care Unit, Nippon Medical School Hospital, 2) Department of Radiology, Graduate School of Medicine, Nippon Medical School, 3) Department of Cardiology, Hepatology, Geriatrics, and Integrated Medicine, Nippon Medical School) : Simultaneous fenestration with stent implantation for acute limb ischemia due to type B acute aortic dissection complicated with both static and dynamic obstructions. Annals of Thoracic and Cardiovascular Surgery 2012 ; 18 (2) : 158-161.
- 9) 長山美貴恵, 國保成暁, 三浦由記子, 林 宏紀, 藤田和恵, 神尾孝一郎, 齋藤好信, 吾妻安良太, 弦間昭彦 : IPF 経過中に発症した下葉結核の 2 例. 結核 2012 ; 87 (7) : 515.
- 10) 長山美貴恵, 三浦由記子, 國保成暁, 林 宏紀, 峯岸裕司, 藤田和恵, 神尾孝一郎, 清家正博, 齋藤好信, 吾妻安良太, 弦間昭彦 : EBUS-TBNA により N0 と判断し, 手術を施行したサルコイドーシス合併肺癌の 1 例. 気管支学 2012 ; 34 : 189.
- 11) Inomata M, Ikushima S, Awano N, Kondoh K, Satake K, Masuo M, Moriya A, Kamiya H, Ando T, Azuma A, Takemura T : Upper Gastrointestinal Sarcoidosis : Report of Three Cases. Intern Med 2012 ; 51 : 1689-1694.
- 12) Shigemitsu H, Azuma A : IPF and Sarcoidosis.. APSR Respiriology UPDATES 2012 ; 4 (11).
- 13) Enomoto T, Sugisaki M, Kamio K, Azuma A : Letter ; Reply to Correspondence by Dr Ruan regarding Prognosis Non-HIV PCP. Respiriology 2013 ; 18 : 193-194.
- 14) Kubo H, Yanai M, Azuma A : Letter : A Placebo-Controlled Randomized Trial of Warfarin in Idiopathic Pulmonary Fibrosis : A Hidden Subgroup?. Am J Respir Crit Care Med 2012.

(6) 会議録 :

- 1) 長山美貴恵, 三浦由記子, 峯岸裕司, 野呂林太郎, 齋藤好信, 藤田和恵, 清家正博, 吾妻安良太, 久保田馨, 弦間昭彦 : Pemetrexed+Bevacizumab 併用療法による特発性間質性肺炎急性増悪を集学的治療により救命できた 1 例. 肺癌 2012 ; 52 (6) : 981.
- 2) 峯岸裕司, 國保成暁, 北村和広, 野呂林太郎, 清家正博, 久保田馨, 吾妻安良太, 弦間昭彦 : 間質性肺炎, COPD を合併している肺癌の治療 Combined pulmonary fibrosis and emphysema (CPFE) を合併した肺癌の臨床像. 肺癌 2012 ; 52 (5) : 518.
- 3) 柏田 建, 阿部信二, 小林研一, 齋藤好信, 林 宏紀, 神尾孝一郎, 白杵二郎, 吾妻安良太, 弦間昭彦 : 間質性肺炎に続発した気胸症例の検討. 日本気胸・嚢胞性肺疾患学会雑誌 2012 ; 11 (2) : 115.
- 4) 國保成暁¹⁾, 石井健男¹⁾, 林 宏紀¹⁾, 蔵原美鈴¹⁾, 茂木 孝¹⁾, 服部久弥子¹⁾, 神尾孝一郎¹⁾, 弦間昭彦¹⁾, 木田厚瑞¹⁾ (1) 日本医科大学 内科学講座呼吸器・感染・腫瘍部門) : 線維化病変を伴う肺気腫の臨床的研究 高齢者の特徴. 日本老年医学会雑誌 2012 ; 49 (6) : 813.

(7) 解説/特集 :

- 1) 林 宏紀, 吾妻安良太 : 【最近 10 年間で最も進歩した研究分野を検証する】 間質性肺炎. 呼吸 2012 ; 31 (10) : 942-945.
- 2) 白杵二郎, 吾妻安良太 : 【副鼻腔気管支症候群と喘息の違いは?】 副鼻腔気管支症候群と気管支喘息の下気道病変の違い. ENTONI 2012 ; (143) : 5-11.
- 3) 猪俣 稔, 吾妻安良太 : 【呼吸器疾患におけるトランスレーショナルリサーチ】 IPF のピルフェニドン開発から学ぶ トランスレーショナルリサーチ. 呼吸器内科 2012 ; 21 (6) : 506-511.

著 書

- 1) 原野謙一, 勝俣範之:〔共著〕Dose-dense weekly TC療法. がん化学療法と制吐薬使用マニュアル「婦人科癌・泌尿器科癌編」, 2013; pp34-35, メディカルレビュー社.
- 2) 原野謙一, 勝俣範之:〔共著〕BEP療法. がん化学療法と制吐薬使用マニュアル「婦人科癌・泌尿器科癌編」, 2013; pp48-49, メディカルレビュー社.
- 3) 清家正博:〔共著〕非小細胞肺癌 CBDCA based regimens. 肺癌化学療法レジメン実践と工夫(弦間昭彦), 2013; pp42-57, 中外医学者.
- 4) 清家正博, 弦間昭彦:〔共著〕主な呼吸器用薬剤の作用機序と適応 抗癌剤. 呼吸器疾患最新の治療 2013-2015(貫和敏博), 2013; pp102-107, 南江堂.
- 5) 木田厚瑞:〔自著〕「COPD(慢性閉塞性肺疾患)」と言われたら..., 2012; pp1-126, 保健同人社.
- 6) 石井健男:〔分担〕III. 診断の進歩 7. 呼吸器疾患における次世代シークエンサーの有用性. Annual review 呼吸器 2013, 2013; pp192-199, 中外医学社.
- 7) 國保成暁¹⁾, 吾妻安良太¹⁾ (1) 日本医科大学内科学講座呼吸器・感染・腫瘍部門):〔共著〕気腫合併肺線維症. 呼吸器疾患 最新の治療(貫和敏博), 2013; pp54-57, 南江堂.
- 8) 林 宏紀¹⁾, 吾妻安良太¹⁾ (1) 日本医科大学呼吸器内科):〔自著〕【最近10年間で最も進歩した研究分野を検証する】間質性肺炎. 呼吸, 2012; pp942-945.
- 9) 林 宏紀¹⁾, 吾妻安良太¹⁾ (1) 日本医科大学呼吸器内科):〔自著〕Current Opinion 間質性肺炎急性増悪. 呼吸と循環, 2012; pp633-637.
- 10) 藤田和恵, 吾妻安良太:〔自著〕インフルエンザに続発する細菌感染症. 呼吸器内科, 2012; pp561-566, 科学評論社.
- 11) 藤田和恵:〔自著〕【重症呼吸器感染症に対する集学的治療の方向性】診断法における新しい展開. 呼吸器内科, 2012; pp317-321, 化学評論社.
- 12) 白杵二郎¹⁾ (1) 日本医科大学武蔵小杉病院):〔分担〕間質性肺炎を究める. 胸部単純X線の読み方(滝澤 始編), 2012; pp25-30, メジカルビュー社.
- 13) 久保田馨, et al.:〔共著〕小細胞肺癌は治らないのか?. EMB呼吸器疾患の治療(2011-2012), 2012; pp448-452, 中外医学社.
- 14) 久保田馨, 高橋直樹, その他201名:〔共著〕術前化学療法をどう考えますか?. 肺癌診療Q & A(一つ上を行く診療の実践), 2012; pp247-249, 中外医学社.
- 15) 久保田馨, その他82名:〔共著〕肺癌. Whats new in Oncology 2nd edition がん治療エッセンシャル, 2012; pp271-313, 南山堂.

学会発表

〔追加分〕

追加分一般講演:

- 1) 原野謙一, 酒井 瞳, 勝俣範之: DPCデータを用いた, 卵巣がん化学療法におけるG-CSF適正使用の現状分析. 日本癌治療学会学術集会(第50回)(横浜), 2013. 10.
- 2) 都築早美, 楠 裕司, 坂本 徹, 小斎平聖治, 根井貴仁, 齋藤好信, 清家正博, 吾妻安良太, 弦間昭彦, 小林研一, 阿部信二, 中澤 賢, 村田 智, 村田広茂, 山本 剛, その他3名: 緊急IVRにて救命かつ診断しえた胚細胞腫瘍による腫瘍性肺塞栓症の1例. 日本呼吸器学会関東支部会(第196回)(千葉), 2011. 9.
- 3) 都築早美, 楠 裕司, 坂本 徹, 小斎平聖治, 齋藤好信, 清家正博, 久保田馨, 吾妻安良太, 弦間昭彦: EWSによる気管支充填術で治療し得た血管型Ehlers-Danlos症候群による難治性気胸の1例. 日本呼吸器内視鏡学会関東支部会(第139回)(京王プラザホテル(新宿)), 2011. 12.

- 4) 長山美貴恵, 國保成暁, 三浦由記子, 林 宏紀, 藤田和恵, 神尾孝一郎, 齋藤好信, 吾妻安良太, 弦間昭彦: IPF 経過中に発症した下葉結核の2例. 第161回日本結核病学会関東支部学会, 第198回日本呼吸器学会関東地方会 合同学会 (東京都), 2012. 2.

(1) 教育講演:

- 1) Azuma A: Invited Lecture "Impact of Clinical Studies on Treatment: Treatment of IPF with pirfenidone in Japan". Advancing in IPF Research (AIR), in Rome (Rome), 2012. 11.

(2) シンポジウム:

- 1) 齋藤好信: 免疫抑制と抗癌作用の接点 mTOR阻害薬の臨床と今後の課題 mTOR阻害薬の副作用としての間質性肺炎. 日本腎臓学会 (新潟), 2012. 9.
- 2) 清家正博, 弦間昭彦: 肺癌における miRNA を用いた新規治療法の探索. 私立大学戦略的研究基盤形成支援事業シンポジウム (東京), 2013. 1.
- 3) 服部久弥子, 石井健男, 茂木 孝, 楠 裕司, 山田浩一, 弦間昭彦, 木田厚瑞: 【ミニシンポジウム: COPD 臨床】 COPD における肺高血圧症の合併に関する臨床的検討. 日本呼吸器学会学術講演会 (第52回) (神戸市), 2012. 4.

(3) セミナー:

- 1) 原野謙一: PAL 学術セミナー 臨床試験・治験を学ぼう. 日本癌治療学会学術集会 (第50回) (横浜), 2012. 10.
- 2) 服部久弥子: 高齢者の肺炎予防: 肺炎球菌ワクチンの重要性と有効性. 日本旅行医学会 イブニングセミナー (東京), 2012. 9.

(4) 一般講演:

- 1) 都筑早美, 藤田和恵, 三浦由記子, 國保成暁, 林 宏紀, 神尾孝一郎, 齋藤好信, 吾妻安良太, 弦間昭彦: 胸部画像でスリガラス影を認めなかったニューモシスチス肺炎の1例. 日本呼吸器内視鏡学会関東支部会 (第143回) (東京), 2012. 12.
- 2) Seike M, Shimokawa T, Soeno C, Noro R, Minegishi Y, Kubota K, Gemma A: Enzastaurin has anti-tumor effects in lung cancers with overexpressed JAK pathway molecules. 3rd Asia Pacific Lung Cancer Conference (Fukuoka), 2012. 11.
- 3) Seike M, Cao M, Soeno C, Noro R, Minegishi Y, Gemma A: MiR-23a Regulates TGF- β -induced Epithelial-Mesenchymal Transition by Targeting E-cadherin in Pulmonary Epithelium Cells. AACR Annual Meeting 2012 (Chicago), 2012. 4.
- 4) 清家正博: 肺癌の PKC β 阻害剤感受性因子の探索. 肺癌分子病態研究会 (第7回) (東京), 2012. 9.
- 5) 西島伸彦, 清家正博, 添野千絵, 松田久仁子, 菅野哲平, 豊川 優, 北村和広, 峯岸裕司, 野呂林太郎, 吉村明修, 久保田馨, 弦間昭彦: 肺癌における BIBF1120 の治療効果予測. 日本癌学会学術総会 (第71回) (札幌), 2012. 9.
- 6) 菅野哲平, 野呂林太郎, 添野千絵, 西島伸彦, 峯岸裕司, 清家正博, 弦間昭彦: 肺癌における MET 阻害剤の治療標的因子の探索. 日本癌学会学術総会 (第71回) (札幌), 2012. 9.
- 7) 武内 進, 清家正博, 峯岸裕司, 久保田馨, 弦間昭彦: 悪性胸膜中皮腫の発生とペメトレキセド感受性に関する遺伝子および microRNA の網羅的発現プロファイル. 日本癌学会学術総会 (第71回) (札幌), 2012. 9.
- 8) 成田宏介, 清水久実, 西島伸彦, 豊川 優, 北村和広, 小斉平聖治, 野呂林太郎, 峯岸裕司, 清家正博, 吉村明修, 久保田馨, 弦間昭彦: FDG-PET による進行非小細胞肺癌の初回化学療法の効果予測についての検討. 日本呼吸器学会学術講演会 (第52回) (神戸コンベンションセンター), 2012. 4.
- 9) 成田宏介, 藤田和恵, 林 宏紀, 齋藤好信, 吾妻安良太, 弦間昭彦: 非 HIV 感染者における肺クリプトコック

- ス症の臨床的検討. 日本感染症学会総会・学術講演会 (第 86 回) (長崎ブリックホール), 2012. 4.
- 10) 成田宏介, 藤田和恵, 西島伸彦, 神尾孝一郎, 齋藤好信, 吾妻安良太, 弦間昭彦: 肺炎球菌性肺炎を契機に診断されたびまん性汎細気管支炎 (DPB) の 1 例. 日本呼吸器学会関東地方会 (第 199 回) (エーザイ株式会社 本社本館 5 階ホール), 2012. 5.
 - 11) 成田宏介¹⁾, 萩尾真人¹⁾, 松田陽子¹⁾, 清家正博, 弦間昭彦, 内藤善哉¹⁾, 石渡俊行¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学 病理学 (統御機構・腫瘍学): ネスチンは肺腺癌患者の術後予後不良に関連する. 日本癌学会学術総会 (第 71 回) (ホテルロイトン札幌), 2012. 9.
 - 12) 成田宏介, 藤田和恵, 林 宏紀, 齋藤好信, 山口朋禎¹⁾, 吾妻安良太, 弦間昭彦 (¹⁾ 日本医科大学付属武蔵小杉病院 呼吸器内科): ¹⁸F-FDG PET/CT 検査を施行した呼吸器感染症症例の検討. 日本感染症学会東日本地方学術集会 (第 61 回) (ホテル日航東京), 2012. 10.
 - 13) Kashiwada T, Terai K¹⁾, Fukuhara S²⁾, Gemma A, Mochizuki N²⁾ (¹⁾ Laboratory of Function and Morphology, Institute of Molecular and Cellular Biosciences, The University of Tokyo, Tokyo, Japan, ²⁾ Department of Cell Biology, National Cerebral and Cardiovascular Center Research Institute, Osaka, Japan): Visualization of β -catenin-dependent transcription in endothelial cells during vascular network formation in vivo. The17th International Vascular Biology Meeting (Germany), 2012. 12.
 - 14) 根井貴仁¹⁾, 有田淑恵¹⁾, 齋藤良一²⁾ (¹⁾ 日本医科大学付属病院集中治療室, ²⁾ 東京医科歯科大学保健衛生学研究科生体検査科学専攻生体防御検査学分野): G 群 β 溶血性レンサ球菌による劇症型溶血性レンサ球菌感染症の 1 例. 日本感染症学会総会学術講演会 (第 86 回) (長崎県長崎市), 2012. 4.
 - 15) 根井貴仁¹⁾, 藤田和恵²⁾, 齋藤好信²⁾ (¹⁾ 日本医科大学付属病院集中治療室, ²⁾ 日本医科大学付属病院呼吸器内科): 抗 IFN- γ 抗体が検出された非 HIV 患者の M.kansasii による播種性マイコバクテリウム感染症の 1 例. 日本感染症学会総会学術集会 (第 86 回) (長崎県長崎市), 2012. 4.
 - 16) 都築早美, 藤田和恵, 國保成暁, 三浦由記子, 林 宏紀, 神尾孝一郎, 齋藤好信, 吾妻安良太, 弦間昭彦: 関節リウマチの治療中に合併した呼吸器感染症の検討. 日本呼吸器学会学術講演会 (第 52 回) (神戸コンベンションセンター/神戸国際会議場), 2012. 4.
 - 17) 都築早美, 藤田和恵, 國保成暁, 三浦由記子, 林 宏紀, 神尾孝一郎, 齋藤好信, 吾妻安良太, 弦間昭彦: 胸部画像ですりガラス影を認めなかったニューモシスチス肺炎の 1 例. 日本呼吸器内視鏡学会関東支部会 (京王プラザホテル (東京 新宿)), 2012. 12.
 - 18) 北村和広¹⁾, 植松和嗣²⁾, 安藤真弘³⁾, 西島伸彦¹⁾, 松本 優¹⁾, 森山 岳²⁾, 小齊平聖治¹⁾, 野呂林太郎¹⁾, 峯岸裕司¹⁾, 清家正博¹⁾, 日野光紀¹⁾, 宮 敏路¹⁾, 久保田馨¹⁾, 弦間昭彦¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学 内科学 (呼吸器内科学), ²⁾ 埼玉医科大学総合医療センター 呼吸器内科, ³⁾ 慈山会医学研究所附属坪井病院 内科): 非扁平上皮/非小細胞肺癌に対する Carboplatin+Pemetrexed+Bevacizumab の第 II 相試験. 日本肺癌学会総会 (第 53 回) (岡山), 2012. 11.
 - 19) 北村和広¹⁾, 植松和嗣²⁾, 安藤真弘³⁾, 西島伸彦¹⁾, 松本 優¹⁾, 森山 岳²⁾, 小齊平聖治¹⁾, 野呂林太郎¹⁾, 峯岸裕司¹⁾, 清家正博¹⁾, 日野光紀¹⁾, 宮 敏路¹⁾, 久保田馨¹⁾, 弦間昭彦¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学 内科学 (呼吸器内科学), ²⁾ 埼玉医科大学総合医療センター 呼吸器内科, ³⁾ 慈山会医学研究所附属坪井病院 内科): 非扁平上皮/非小細胞肺癌に対する Carboplatin+Pemetrexed+Bevacizumab の第 II 相試験. 日本癌治療学会総会 (第 50 回) (横浜), 2012. 10.
 - 20) Furutate R¹⁾, Ishii T, Motegi T, Yamada K, Hattori K, Kusunoki Y, Gemma A, Kida K (¹⁾ Respiratory Care Clinic, Nippon Medical School): Association of the percentage of peripheral lymphocytes with disease severity and nutritional status in patients with COPD. ERS Annual Congress 2012 (Vienna, Austria), 2012. 9.
 - 21) Furutate R¹⁾, Ishii T, Motegi T, Yamada K, Hattori K, Kusunoki Y, Gemma A, Kida K (¹⁾ Respiratory

- Care Clinic, Nippon Medical School) : Association between the mini nutritional assessment and the COPD assessment test. ERS Annual Congress 2012 (Vienna, Austria), 2012. 9.
- 22) Kusunoki Y, Furutate R¹⁾, Hattori K, Ishii T, Motegi T, Yamada K, Gemma A, Kida K (¹⁾ Respiratory Care Clinic, Nippon Medical School) : Clinical phenotypes in patients with concomitant obstructive sleep apnea and chronic obstructive pulmonary disease. ERS Annual Congress 2012 (Vienna, Austria), 2012. 9.
- 23) Kusunoki Y, Wakabayashi R¹⁾, Hattori K, Ishii T, Furutate R¹⁾, Motegi T, Yamada K, Gemma A, Kida K (¹⁾ Respiratory Care Clinic, Nippon Medical School) : Continuance and effects of self-training at home using a bicycle ergometer with long-term oxygen therapy. ERS Annual Congress 2012 (Vienna, Austria), 2012. 9.
- 24) Motegi T, Ishii T, Hattori K, Kusunoki Y, Furutate R¹⁾, Yamada K, Gemma A, Kida K (¹⁾ Respiratory Care Clinic, Nippon Medical School) : Usefulness of COPD assessment test (CAT) for the management of COPD according to GOLD 2011. ERS Annual Congress 2012 (Vienna, Austria), 2012. 9.
- 25) Furutate R¹⁾, Ishii T, Motegi T, Yamada K, Hattori K, Kusunoki Y, Gemma A, Kida K (¹⁾ Respiratory Care Clinic, Nippon Medical School) : Loss of appetite in patients with chronic obstructive pulmonary disease. ATS 2012 International Conference (San Francisco), 2012. 5.
- 26) Ishii T, Motegi T, Kamio K, Gemma A, Kida K : Genetic variations In vitamin D-binding protein are associated with exacerbations and emphysema in chronic obstructive pulmonary disease. ATS 2012 International Conference (San Francisco), 2012. 5.
- 27) Kamio K, Ishii T, Motegi T, Azuma A, Gemma A, Kida K : Decreased serum transforming growth factor- β 1 concentration in chronic obstructive pulmonary disease patients with severe emphysema. ATS 2012 International Conference (San Francisco), 2012. 5.
- 28) Ishii T, Hagiwara K¹⁾, Ikeda S²⁾, Arai T³⁾, Mieno-N M⁴⁾, Kumasaka T⁵⁾, Muramatsu M²⁾, Sawabe M³⁾, Gemma A, Kida K (¹⁾ Saitama Medical University, ²⁾ Medical Research Institute, Tokyo Medical and Dental University, ³⁾ Tokyo Metropolitan Geriatric Hospital, ⁴⁾ Jichi Medical University, ⁵⁾ Japanese Red Cross Medical Center) : Association between genetic variations in surfactant protein D and emphysema, interstitial pneumonia, and lung cancer. ATS 2012 International Conference (San Francisco), 2012. 5.
- 29) 石井健男, 萩原弘一¹⁾, 池田仁子²⁾, 新井富生³⁾, 三重野牧子⁴⁾, 熊坂利夫⁵⁾, 村松正明²⁾, 沢辺元司³⁾, 弦間昭彦, 木田厚瑞 (¹⁾ 埼玉医科大学呼吸器内科, ²⁾ 東京医科歯科大学難治疾患研究所分子疫学講座, ³⁾ 東京都健康長寿医療センター病理部, ⁴⁾ 自治医科大学情報センター・医学情報学, ⁵⁾ 日本赤十字医療センター病理部) : SFTPD の遺伝子多型と肺気腫, 間質性肺炎, 及び肺がんとの関連. 日本呼吸器学会学術講演会 (第 52 回) (神戸市), 2012. 4.
- 30) 茂木 孝, 楠 裕司, 服部久弥子, 石井健男, 山田浩一, 弦間昭彦, 木田厚瑞 : COPD assessment test (CAT) による患者管理の妥当性. 日本呼吸器学会学術講演会 (第 52 回) (神戸市), 2012.
- 31) 神尾孝一郎, 石井健男, 茂木 孝, 吾妻安良太, 弦間昭彦, 木田厚瑞 : COPD 患者における血清 TGF- β 1 濃度と呼吸機能・胸部 CT パラメーターとの関係に関する検討. 日本呼吸器学会学術講演会 (第 52 回) (神戸市), 2012. 4.
- 32) 堀江健夫¹⁾, 茂木 孝, 土橋邦生²⁾, 木田厚瑞 (¹⁾ 前橋赤十字病院呼吸器内科, ²⁾ 群馬大学大学院保健学研究科) : COPD 急性増悪における PCAPS コンテンツの作成と検証 : 医療連携プロセスの可視化. 日本呼吸ケア・リハビリテーション学会学術集会 (第 22 回) (福井市), 2012. 11.
- 33) 茂木 孝, 楠 裕司, 服部久弥子, 石井健男, 山田浩一, 木田厚瑞 : 閉塞・拘束性換気障害がない受診者による 6 分刊歩行試験の基準値検討. 日本呼吸ケア・リハビリテーション学会学術集会 (第 22 回) (福井市), 2012. 11.

- 34) 田鎖幸江¹⁾, 山口敬子¹⁾, 瀬川佳余¹⁾, 伊藤亜紀¹⁾, 楠 裕司, 服部久弥子, 石井健男, 茂木 孝, 木田厚瑞 (1) 日本医科大学呼吸ケアクリニック): GOLD2011 は看護介入の指標となるかについての検証. 日本呼吸ケア・リハビリテーション学会学術集会 (第 22 回) (福井市), 2012. 11.
- 35) 楠 裕司, 若林律子¹⁾, 服部久弥子, 石井健男, 茂木 孝, 山田浩一, 弦間昭彦, 木田厚瑞 (1) 日本医科大学呼吸ケアクリニック): 在宅 ergometer 訓練の効果に関する研究. 日本呼吸ケア・リハビリテーション学会学術集会 (第 22 回) (福井市), 2012. 11.
- 36) 古館隆子¹⁾, 石井健男, 茂木 孝, 山田浩一, 服部久弥子, 楠 裕司, 弦間昭彦, 木田厚瑞 (1) 日本医科大学呼吸ケアクリニック): COPD 患者における Mini Nutritional Assessment と COPD Assessment Test との関連性について. 日本呼吸ケア・リハビリテーション学会学術集会 (第 22 回) (福井市), 2012. 11.
- 37) 茂木 孝, 堀江健夫¹⁾, 桂 秀樹²⁾, 土橋邦生³⁾, 木田厚瑞 (1) 前橋赤十字病院呼吸器内科, 2) 東京女子医科大学八千代医療センター呼吸器科, 3) 群馬大学大学院保健学研究科): COPD 増悪入院治療における多施設ベンチマーキングの試み: PCAPS を用いて. 日本呼吸ケア・リハビリテーション学会学術集会 (第 22 回) (福井市), 2012. 11.
- 38) 中村利枝¹⁾, 茂木 孝, 楠 裕司, 服部久弥子, 石井健男, 山田浩一, 弦間昭彦, 木田厚瑞 (1) 日本医科大学呼吸ケアクリニック): 安定期 COPD 患者におけるホルター心電図所見に関する研究. 日本呼吸ケア・リハビリテーション学会学術集会 (第 22 回) (福井市), 2012. 11.
- 39) 神尾孝一郎, 石井健男, 茂木 孝, 吾妻安良太, 弦間昭彦, 木田厚瑞: COPD 患者集団における血清 TGF- β 1 濃度の変化と呼吸機能・胸部 CT パラメーターとの関係に関する研究: 高齢化の影響について. 日本老年医学会学術集会 (第 54 回) (東京), 2012. 6.
- 40) 服部久弥子, 佐藤直樹¹⁾, 板倉潮人¹⁾, 石井健男, 茂木 孝, 山田浩一, 弦間昭彦, 木田厚瑞 (1) 日本医科大学循環器内科): COPD における心肺機能評価: 心胸郭比と心電図の意義について. 閉塞性肺疾患研究会 (第 85 回) (東京), 2012. 7.
- 41) 長山美貴恵, 三浦由記子, 國保成暁, 林 宏紀, 峯岸裕司, 藤田和恵, 神尾孝一郎, 清家正博, 齋藤好信, 吾妻安良太, 弦間昭彦: EBUS-TBNA により N0 と診断し, 手術を施行したサルコイドーシス合併肺癌の 1 例. 日本呼吸器内視鏡学会学術集会 (第 35 回) (東京都), 2012. 5.
- 42) 長山美貴恵, 三浦由記子, 峯岸裕司, 野呂林太郎, 齋藤好信, 藤田和恵, 清家正博, 吾妻安良太, 久保田馨, 弦間昭彦: Pemetrexed+Bevacizumab 併用療法による特発性間質性肺炎急性増悪を集学的治療により救命できた 1 例. 日本肺癌学会関東支部会 (第 164 回) (東京都), 2012. 7.
- 43) 蛸井浩行¹⁾, 角田義弥¹⁾, 須磨崎有希¹⁾, 田中 徹¹⁾, 谷田貝洋平¹⁾, 林 士元¹⁾, 関根朗雅¹⁾, 林原賢治¹⁾, 齋藤武文¹⁾, 梅津泰洋¹⁾, 吾妻安良太, 弦間昭彦 (1) 国立茨城東病院呼吸器内科): 慢性間質性肺炎に対する pirfenidone の効果. 第 52 回日本呼吸器学会学術講演会 (神戸市), 2012. 4.
- 44) Takoi H¹⁾, Miura Y, Tsunoda Y¹⁾, Sumazaki Y¹⁾, Tanaka T¹⁾, Lin S¹⁾, Yatagai Y¹⁾, Sekine A¹⁾, Hayashihara K¹⁾, Saito T¹⁾ (1) 国立茨城東病院): Effect of pirfenidone on chronic interstitial pneumonia. EUROPIAN RESPIRATORY SOCIETY (ウイーン), 2012. 4.
- 45) 坂井浩佑, 峯岸裕司, 菅野哲平, 西島伸彦, 三浦由記子, 北村和弘, 小齊平聖治, 野呂林太郎, 齋藤好信, 清家正博, 吉村明修, 久保田馨, 弦間昭彦: EGFR 遺伝子変異陽性既治療進行肺癌症例に発症した癌性髄膜炎に対して V-P シェント術と erlotinib の導入にて良好な予後を得た 1 症例. 第 163 回日本肺癌学会関東支部会 (東京), 2013. 3.
- 46) 坂井浩佑, 藤田和恵, 國保成暁, 林 宏紀, 神尾孝一郎, 齋藤好信, 吾妻安良太, 弦間昭彦: 大学病院における肺結核・肺外結核に関する検討. 第 52 回日本呼吸器学会学術講演会 (神戸), 2012. 4.
- 47) 藤田和恵, 林 宏紀, 成田宏介, 根井貴仁, 齋藤好信, 吾妻安良太, 弦間昭彦: 診断に 3 か月以上を要した結核に関する検討. 日本感染症学会東日本地方会 (第 61 回) (東京), 2012. 10.

- 48) 藤田和恵, 三浦由記子, 林 宏紀, 齋藤好信, 弦間昭彦: 大学病院における肺結核・肺外結核の検討. 日本結核病学会総会 (第 88 回) (千葉), 2013. 3.
- 49) 清家正博, 下川恒生, 添野千絵, 宮永晃彦, 野呂林太郎, 峯岸裕司, 久保田馨, 弦間昭彦: JAK1 が過剰発現した肺癌において Enzastaurin は抗腫瘍効果がある. 日本肺癌学会総会 (第 53 回) (岡山), 2012. 11.
- 50) 豊川 優, 野呂林太郎, 西島伸彦, 北村和広, 小齋平聖治, 峯岸裕司, 清家正博, 添野千絵, 久保田馨, 弦間昭彦: 小細胞癌に対する mTOR 阻害剤感受性因子・耐性化機序の解明. 日本肺癌学会総会 (第 53 回) (岡山), 2012. 11.
- 51) 三浦由記子, 豊川 優, 小齋平聖治, 野呂林太郎, 峯岸裕司, 齋藤好信, 功刀しのぶ, 福田 悠, 吾妻安良太, 弦間昭彦⁽¹⁾ 日本医科大学病理学 解析人体病理学): 当施設におけるアムルピシンによる薬剤性肺障害の検討. 呼吸器学会総会 (第 52 回) (神戸), 2012. 4.
- 52) 久保田馨: Treatment of limited stage small-cell lung cancer. 5th Asia Pasific lung cancer conference (福岡), 2012. 11.
- 53) Kubota K, Ichinose Y, Giorgio S: Phase III study (MONET1) of motesanib plus carboplatin/paclitaxel (C/P) in patients with advanced nonsquamous non-small cell lung cancer (NSCLC): Asian subgroup analysis. ASCO (Cicago), 2012. 6.
- 54) Kaoru K, Hida T, Ishikura S: Randomized phase III study comparing etoposide and cisplatin (EP) with irinotecan and cisplatin (IP) following EP plus concurrent accelerated hyperfractionated thoracic radiotherapy (EP/AHTRT) for the treatment of limited-stage small-cell lung cancer (LD-SCLC): JCOG0202. ASCO (Cicago), 2012. 6.
- 55) Kubota K, Katakami N, Genma A: Randomized phase III trial of S-1 plus cisplatin versus docetaxel plus cisplatin for advanced non-small-cell lung cancer (TCOG0701). ASCO (Cicago), 2012. 6.

[武蔵小杉病院腫瘍内科]

研究概要

2012 年度の研究業績概要としては、卵巣がんに対する dose-dense therapy に関する研究を米国シカゴで開催された第 48 回米国臨床腫瘍学会 (ASCO2012) で発表した (Long-term follow-up of a randomized trial comparing conventional paclitaxel and carboplatin with dose-dense weekly paclitaxel and carboplatin in women with advanced epithelial ovarian, fallopian tube, or primary peritoneal cancer)。この研究は、ステージ II から IV の上皮性卵巣癌に対し、パクリタキセルとの併用でカルボプラチンを毎週投与する dose-dense weekly TC (dd-TC) 療法の初回化学療法としての有効性を検討した JGOG3016 試験では、dd-TC 療法は従来の TC 療法に比べて有効であることが示されていたが、今回、この試験を長期追跡した結果からも、dd-TC 療法はステージ II~IV の上皮性卵巣癌の初回化学療法として有効であることが示された。dd-TC 療法の 5 年生存率 (OS) は 58.7% で、従来療法群の 51.1% よりも有意に高かった。その他、英語原著論文 7 本、日本語総説 15 本の執筆を行った。

研究業績

論文

(1) 原著:

- 1) Kuroda Y¹⁾, Murakami N¹⁾, Morota M¹⁾, Seikii S¹⁾, Takahashi K¹⁾, Inaba K¹⁾, Mayahara H¹⁾, Ito Y¹⁾, Yoshimura R¹⁾, Sumi M¹⁾, Katsumata N⁽¹⁾ National Cancer Center Hospital): Impact of concurrent chemotherapy on definitive radiotherapy for women with FIGO IIIb cervical cancer. J of Radiation Reseach 2012: 53: 588-593.

- 2) Shimozuma K¹, Ohashi Y², Takeuchi A², Aranishi T², Morita S², Kuroi K², Ohsumi S², Makino H², Katsumata N (¹ Ritsumeikan University, ² National Cancer Center Hospital, ³ Nippon Medical School Musashikosugi Hospital) : Taxane-induced peripheral neuropathy and health-related quality of life in postoperative breast cancer patients undergoing adjuvant chemotherapy : N-SAS BC 02, a randomized clinical trial. *Support Care Cancer*. *Support Care Cancer* 2012.
- 3) Kojima Y¹, Hashimoto K¹, Ando M¹, Yonemori K¹, Hirakawa A¹, Kodaira M¹, Yunokawa M¹, Shimizu C¹, Tamura K¹, Katsumata N (¹ National Cancer Center Hospital, ² Nippon Medical School Musashikosugi Hospital) : Clinical outcomes of adult and childhood rhabdomyosarcoma treated with vincristine, d-actinomycin, and cyclophosphamide chemotherapy. *J Cancer Res Clin Oncol* 2012 ; 138 (7) : 1249-1257.
- 4) Kitagawa R¹, Katsumata N (¹ National Cancer Center Hospital, ² Nippon Medical School Musashikosugi Hospital) : A multi-institutional phase II trial of paclitaxel and carboplatin in the treatment of advanced or recurrent cervical cancer. *Gynecol Oncol* 2012 ; 125 (2) : 307-11.
- 5) Shimozuma K¹, Ohashi Y², Takeuchi A², Aranishi T², Morita S², Katsumasa K², Ohsumi S², Makino H², Katsumata N (¹ Ritsumeikan University, ² National Cancer Center Hospital, ³ Nippon Medical School Musashikosugi Hospital) : Hausheer FH Supportive Care in Cancer Taxane-induced peripheral neuropathy and health-related quality of life in postoperative breast cancer patients undergoing adjuvant chemotherapy : N-SAS BC 02,a randomized clinical trial. *Support Care Cancer* 2012 ; 20 (12) : 3355-64.
- 6) Harano K, Ando M¹, Sasajima Y², Yunokawa M², Yonemori K², Shimizu C², Tamura K², Katsumata N, Tsuda H², Fujiwara Y¹ (¹ Nippon Medical School Musashikosugi Hospital, ² National Cancer Center) : Primary yolk sac tumor of the omentum : a case report and literature review. *Case Rep Oncol* 2012 ; 5 (3) : 671-5.
- 7) Ohashi Y¹, Uemura Y², Fujisaka Y², Sugiyama T², Ohmatsu H², Katsumata N, Okamoto R³, Saijo N², Hotta T² (¹ Tokyo University, ² National Cancer Center, ³ Nippon Medical School Musashikosugi Hospital) : Meta-analysis of epoetin beta and darbepoetin alfa treatment for chemotherapy-induced anemia and mortality : Individual patient data from Japanese randomized, placebo-controlled trials. *Cancer Sci* 2013.
- 8) Maejima A¹, Katsumata N (¹ National Cancer Center, ² Nippon Medical School Musashikosugi Hospital) : Chemotherapy for recurrent ovarian cancer. *Nihon Rinsho* 2012 ; 70 (Suppl 4) : 605-609.
- 9) Saito H¹, Yoshizawa H², Yoshimori K², Katakami N², Katsumata N, Kawahara M³, Eguchi K² (¹ Aichi Cancer Center, ² National Cancer Center, ³ Nippon Medical School Musashikosugi Hospital) : Efficacy and safety of single-dose fosaprepitant in the prevention of chemotherapy-induced nausea and vomiting in patients receiving high-dose cisplatin : a multicentre, randomised, double-blind, placebo-controlled phase 3 trial. *Ann Oncol* 2013 ; 24 (4) : 1067-73.
- 10) Kim H¹, Sardi J¹, Katsumata N, Ryu H², Nam J¹, Chung H¹, Park N¹, Song Y¹, Behtash N¹, Kamura T¹, Cai H¹ (¹ National Cancer Center, ² Nippon Medical School Musashikosugi Hospital) : Efficacy of neoadjuvant chemotherapy in patients with FIGO stage IB1 to IIA cervical cancer : an international collaborative meta-analysis. *Eur J Surg Oncol* 2013 ; 39 (2) : 115-24.
- 11) Kitagawa R¹, Katsumata N, Ando M¹, Shimizu C¹, Fujiwara Y¹, Yoshikawa H¹, Satoh T¹, Nakaniishi Y¹, Ushijima K¹, Kamura T¹ (¹ National Cancer Center) : A multi-institutional phase II trial of paclitaxel and carboplatin in the treatment of advanced or recurrent cervical cancer. *Gynecol Oncol* 2012 ; 125 (2) : 307-11.
- 12) Matsumoto K¹, Katsumata N, Saito I¹, Shibata T¹, Konishi I¹, Fukuda H¹, Kamura T¹ (¹ National

Cancer Center) : Phase II study of oral etoposide and intravenous irinotecan for patients with platinum-resistant and taxane-pretreated ovarian cancer : Japan Clinical Oncology Group Study 0503. Jpn J Clin Oncol 2012 ; 42 (3) : 222-5.

- 13) Tanabe Y : Paclitaxel-induced peripheral neuropathy in patients receiving adjuvant chemotherapy for breast cancer. Int J Clin Oncol 2013 ; 18 (1) : 132-8.
- 14) Kojima Y : Clinical outcomes of adult and childhood rhabdomyosarcoma treated with vincristine, d-actinomycin, and cyclophosphamide chemotherapy. J Cancer Res Clin Oncol 2012 ; 138 (7) : 1249-57.
- 15) Ono M : Tumor-infiltrating lymphocytes are correlated with response to neoadjuvant chemotherapy in triple-negative breast cancer. Breast Cancer Res Treat 2012 ; 132 (3) : 793-805.
- 16) Hashimoto K : The incidence and management of metachronous testicular germ cell tumors in patients with extragonadal germ cell tumors. Urol Oncol 2012 ; 30 (3) : 319-24.

(2) 総説 :

- 1) 勝俣範之⁽¹⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院) : がん治療医の考える緩和ケアとは. 日本サイコオンコロジー学会ニュースレター 2012 ; 70.
- 2) 勝俣範之⁽¹⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院) : 8. 婦人科がん診療に関する Q&A : インフォームドコンセントのとりにくい患者への対応は? セカンドオピニオンへの対応は? 予後の見込みを患者にどう告げるか? PS 低下例・高齢者への化学療法の考え方は? 薬物有害反応を見逃さないためには?. 婦人科がん診療と化学療法 2012 ; 183-189.
- 3) 原野謙一, 勝俣範之⁽¹⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院) : 各臓器別の最新治療と新薬の動向: 卵巣がん 抗がん剤治療の最前線: 分子標的薬剤の使用による進歩 (後編). 最新医学 9 月増刊 2012 ; 67 : 2249-2264.
- 4) 内海裕文, 勝俣範之⁽¹⁾ 国立がん研究センター中央病院 乳腺・腫瘍内科, ²⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院) : Part4. 縦隔腫瘍. 肺癌化学療法レジメン 実践と工夫 2013 ; 107-117.
- 5) 勝俣範之⁽¹⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院) : 卵巣がんの化学療法: 婦人科領域の対がん戦略. 遙か 2013 ; 8 : 28-3.
- 6) 原野謙一: 再発がんに対する抗がん剤の使い方: がん患者支援とがんサバイバーの QOL. 産科と婦人科 2012 ; 80 (2) : 223-228.
- 7) 原野謙一, 勝俣範之⁽¹⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院腫瘍内科) : dose-dense weekly TC 療法: 婦人科癌. 癌化学療法と制吐薬使用マニュアル 2012 ; 34-35.
- 8) 原野謙一, 勝俣範之⁽¹⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院腫瘍内科) : BEP 療法: 泌尿器科癌. 癌化学療法と制吐薬使用マニュアル 2012 ; 48-50.
- 9) 酒井 瞳, 勝俣範之⁽¹⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院腫瘍内科) : GEM+CDDP 療法 (外来): 泌尿器科癌. 癌化学療法と制吐薬使用マニュアル 2012 ; 48-50.
- 10) 勝俣範之⁽¹⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院) : 婦人科癌, 泌尿器科癌 化学療法における制吐療法. 癌化学療法と制吐薬使用マニュアル 2012 ; 48-50.
- 11) 勝俣範之⁽¹⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院) : 薬物治療のインフォームドコンセント: 特集 子宮体がん, 子宮頸がんの薬物治療. 臨床腫瘍プラクティス 2013 ; 2 (1) : 12-15.
- 12) Fujiwara IK, Katsumata N, Onda 2T ⁽¹⁾ National Cancer Center, ²⁾ Nippon Medical School Musashikosugi Hospital) : Dose-Dense Chemotherapy and Neoadjuvant Chemotherapy for Ovarian Cancer ASCO. educational book 2012 ; 349-354.

著 書

- 1) 勝俣範之, 金 容壺, 大山万容: [監修] がんサバイバー 医学・心理・社会的アプローチでがん治療を結い

おす, 2012; pp3-4, 株式会社 医学書院.

- 2) 勝俣範之, 中山優子¹⁾, 加藤知子²⁾ (1) 神奈川県立がんセンター放射線腫瘍科部, ²⁾ 財団法人東京都保健医療公社荏原病院栄養科): [監修] 抗がん剤治療・放射線治療を受けている人の食事のポイント. 抗がん剤・放射線治療を乗り切り, 元気いっぱいにする食事 116, 2012; pp4-6, 株式会社主婦の友社.

学会発表

[追加分]

追加分:

- 1) 勝俣範之: 臨床検査値から見たがんの病態とその対応. リリーインターネット講演会 (第一ホテルアネックス 3 階), 2012. 1.

追加分セミナー:

- 1) 勝俣範之: がん化学療法の支持療法のエビデンスと実践. 阿賀北がん診療セミナー (第 3 回) (新潟県新発田市 北辰館), 2012. 2.
- 2) 勝俣範之: がん化学療法の支持療法のエビデンスと実践. 広島がん化学療法セミナー (広島大学 広仁会館), 2012. 3.

追加分一般講演:

- 1) 勝俣範之: がん化学療法の支持療法のエビデンスと実践. 上伊那地区地域連携講演会 (伊那中央病院), 2012. 1.
- 2) 勝俣範之: がん治療の現状と腫瘍内科の役割. 橘桜学術研究会 (第 1 回) (フォーシーズンズホテル椿山荘), 2012. 1.
- 3) 勝俣範之: がん化学療法の支持療法のエビデンスと実践. 県北薬剤師勉強会 (日立総合病院), 2012. 1.
- 4) 勝俣範之: 再発卵巣癌治療の実際. 神奈川婦人科癌化学療法研究会 (横浜ロイヤルパークホテル), 2012. 2.
- 5) 勝俣範之: がん領域における標準治療: あなたは正しく理解していますか?. 日本医療マネジメント学会第岡山支部学術集会 (12 回) (岡山コンベンションセンター), 2012. 2.
- 6) 勝俣範之: 卵巣がん治療の最前線. 札幌冬季がんセミナー (第 27 回) (ロイトン札幌), 2012. 2.
- 7) 勝俣範之: 再発卵巣がんの治療の実際. 県央婦人科癌懇話会 (第 13 回) (小田急ホテルセンチュリー相模大野), 2012. 2.
- 8) 勝俣範之: 抗がん剤とその副作用への誤解を解く. 乳がん市民公開講座 (第 15 回) (アクトシティ 浜松 コンgressセンター), 2012. 2.
- 9) 勝俣範之: 抗がん剤開発 基礎から臨床へ. 文京脳腫瘍研究会 (第 18 回) (東京ガーデンパレス), 2012. 2.
- 10) 勝俣範之: 抗がん剤の副作用対策・Q & A とディスカッション. アピタルがん夜間学校 (秋葉原 UDX オープンカレッジ), 2012. 2.
- 11) 勝俣範之: 転移性乳がんに対する治療戦略. ハラヴェン Meet The Expert (聖マリアンナ医科大学病院), 2012. 2.
- 12) 勝俣範之: がん化学療法の支持療法のエビデンスと実践. がん薬物支持療法講演会 (第 3 回) (伊勢パルピアホテル), 2012. 3.
- 13) 勝俣範之: 卵巣がんの化学療法. 婦人科腫瘍カンファレンス (御徒町 X-FLOOR), 2012. 3.
- 14) 勝俣範之: 外来化学療法のエビデンスと実践. 乳腺疾患における最善治療を考える会 (和歌山ビッグ愛), 2012. 3.

(1) 招待講演:

- 1) 勝俣範之: Progress in Ovarian Cancer Treatment through GCIG Collaborative Trials. 日本臨床腫瘍学会学術

集会（第10回）（大阪国際会議場），2012. 7.

(2) 教育講演：

- 1) 勝俣範之：再発乳がんとのつきあい方. かながわ乳がん市民フォーラム（第11回）（横浜市），2012. 8.

(3) シンポジウム：

- 1) 勝俣範之：安全ながん化学療法に寄与する薬剤業務. 日本病院薬剤師会関東ブロック学術大会（第42回）（横浜），2012. 8.

(4) パネルディスカッション：

- 1) 勝俣範之：それって誤解？（もっと正しく乳がんを知る第一歩）. かながわ乳がん市民フォーラム（第11回）（横浜市），2012. 8.
- 2) 勝俣範之：映画のみどころと臨床試験の説明（映画「希望のちから」で考える臨床試験のこと）. Dr. スレイモン来日記念企画（秋葉原 UDX シアター），2012. 10.

(5) セミナー：

- 1) 勝俣範之：がん化学療法の支持療法のエビデンスと実践. 日本アプライド・セラピューティクス学会学術大会（第3回）（日本大学医学部キャンパス），2012. 4.
- 2) 勝俣範之：制吐療法のエビデンスとその実践（悪心・嘔吐をどのようによぼうするか）. CINV Seminar in NAGOYA 2012（名古屋市），2012. 6.
- 3) 勝俣範之：腫瘍内科医から見た緩和医療. 日本緩和医療学会学術大会（第17回）（神戸市），2012. 6.
- 4) 勝俣範之：腫瘍内科入門. 医学生・研修医のための腫瘍内科セミナー（第8回）（東京都中央区），2012. 8.
- 5) 勝俣範之：がん化学療法の支持療法のエビデンスと実践. 地域がん診療連携セミナー（長岡市），2012. 10.
- 6) 勝俣範之：がん化学療法の支持療法のエビデンスと実践. 佐世保化学療法セミナー（セントラルホテル佐世保），2012. 11.
- 7) 勝俣範之：乳がん術後補助療法の戦略. Breast Cancer 化学療法カンファレンス（ウェスティンホテル大阪），2012. 11.
- 8) 勝俣範之：がんと上手に付き合うには？（医療最前線の現場から）. かわさき市民アカデミー（川崎市生涯学習プラザ），2012. 12.
- 9) 勝俣範之：がん化学療法の支持療法のエビデンスと実践. 幸区がん化学療法セミナー（川崎幸病院），2012. 12.
- 10) 勝俣範之：発熱性好中球減少症のマネジメント. Best of ASCO 2012 in Japan ランチョンセミナー（江東区 TFT ホール 1000），2012. 7.

(6) ワークショップ：

- 1) 勝俣範之：再発卵巣がんについて（再発卵巣がんとの向き合い方）.（飯田橋），2012. 7.

(7) 一般講演：

- 1) 勝俣範之：卵巣がんの化学療法の進歩. 日本医科大学医学会，2012. 12.
- 2) 勝俣範之：がん化学療法時の骨髄抑制対策について. 滋賀輸血療法研究会（第9回）（大津市），2012. 6.
- 3) 勝俣範之：卵巣癌治療 State of the art. 日本婦人科腫瘍学会学術講演会（第52回）（品川区），2012. 7.
- 4) 勝俣範之：原発乳癌に対する TCbH 療法の具体的な使用方法. 乳癌 TCbH 療法フォーラム（博多市），2012. 8.
- 5) 勝俣範之：がん化学療法における副作用対策. 横浜癌化学療法研究会講演（横浜市），2012. 8.
- 6) 勝俣範之：抗がん剤の支持療法のエビデンスと実践. 学術講演会（福岡市），2012. 8.
- 7) 勝俣範之：がん化学療法の支持療法のエビデンスと実践. 伊勢崎地区がん支持療法セミナー（伊勢崎市），2012. 9.
- 8) 勝俣範之：婦人科癌化学療法の変遷について. 埼玉南西部地区がん化学療法研究会（第4回）（所沢市），2012. 10.

- 9) 勝俣範之：制吐剤のエビデンスと実践. CINV フォーラム (神戸市), 2012. 10.
- 10) 勝俣範之：がん化学療法の支持療法のエビデンスと実践. 前橋地区がん支持療法セミナー (前橋市), 2012. 10.
- 11) 勝俣範之：がん化学療法の支持療法のエビデンスと実践. 富山がん化学療法研究会 (第3回) (富山市), 2012. 10.
- 12) 勝俣範之：最近の婦人科がんの薬物療法と患者ケアについて. 帝京大学腫瘍カンファレンス (帝京大学), 2012. 11.
- 13) 勝俣範之：婦人科進行癌の取り扱い－腫瘍内科の観点より. 日本医科大学産婦人科学教室同窓会臨床研究会 (第13回) (日本医科大学付属病院教育棟2階), 2012. 11.
- 14) 勝俣範之：がん化学療法の支持療法のエビデンスと実践. がん化学療法学術講演会 (広島県市立3次中央病院講堂), 2012. 11.
- 15) 勝俣範之：抗がん剤の支持療法のエビデンスと実際. メディカルオンコロジー Up Date 2012 (島根大学医学部), 2012. 12.
- 16) 勝俣範之：がん治療のEBMとがんの告知・再発を伝えるコミュニケーションスキルアップ. CTPワークショップ (第8回) (TKP ガーデンシティ広島), 2013. 1.
- 17) 勝俣範之：がん化学療法の支持療法のエビデンスと実践. 奈良がん治療研究会2013 (近畿大学医学部奈良病院), 2013. 2.
- 18) 勝俣範之：大腸菌の標準療法と疼痛緩和. Current Review For Medical Oncology (第2回) (三菱ビルカンファレンススクエア), 2012. 5.
- 19) Taniyama T¹, Hashimoto K¹, Hirakawa A¹, Katsumata N, Kodaira M², Yonemori K¹, Yunokawa M¹, Shimizu C¹, Tamura K¹, Ando M¹, Fujiwara Y¹ (1) National Cancer Center, (2) Nippon Medical School Musashikosugi Hospital) : The estimation of life-time for the patients who acquired resistance to standard chemotherapies.. 2012 ASCO Annual Meeting (Chicago), 2012. 6.
- 20) Sasaki Y¹, Miwa K², Yamashita K², Fujiwara K², Katsumata N, Fujiwara Y³, Namiki M², Koyanagi N² (1) Saitama Medical Center, (2) National Cancer Center, (3) Nippon Medical School Musashikosugi Hospital) : Phase I and pharmacokinetic study of farletuzumab in solid tumors.(suppl ; abstr 3084). 2012 ASCO Annual Meeting (Chicago), 2012. 6.
- 21) Katsumata N, Yasuda M¹, Isonishi S², Michimae H², Kimura E³, Aoki D⁴, Jobo T⁴, Kodama S⁴, Terauchi F⁴, Tsuda H⁴, Sugiyama T⁴ (1) Nippon Medical School Musashikosugi Hospital, (2) Jikei University, (3) Kitasato University, (4) National Cancer Center) : Long-term follow-up of a randomized trial comparing conventional paclitaxel and carboplatin with dose-dense weekly paclitaxel and carboplatin in women with advanced epithelial ovarian, fallopian tube, or primary peritoneal cancer : JGOG 3016 trial.(suppl ; abstr 5003). ASCO Annual Meeting (Chicago), 2012. 6.
- 22) Miki I¹, Sato K², Nakahama H², Katsumata N, Watanabe T³ (1) Kyoto University, (2) National Cancer Center, (3) Nippon Medical School Musashikosugi Hospital) : Attitudes regarding informing clinical study result to participants in Japan.(suppl ; abstr e19557). ASCO Annual Meeting (Chicago), 2012. 6.
- 23) Kitagawa R¹, Katsumata N, Shibata T², Nakanishi T³, Nishimura S³, Ushijima K³, Takano M³, Satoh T³, Yoshikawa H³, Kamura T³ (1) NTT Kanto Hospital, (2) Nippon Medical School Musashikosugi Hospital, (3) National Cancer Center) : A randomized, phase III trial of paclitaxel plus carboplatin (TC) versus paclitaxel plus cisplatin (TP) in stage IVb, persistent or recurrent cervical cancer : Japan Clinical Oncology Group study (JCOG0505).(suppl ; abstr 5006). ASCO Annual Meeting (Chicago), 2012. 6.
- 24) 勝俣範之：Investigator-initiated clinical trials for new drugs in Japan : Challenges and Perspectives, CSCO/KACO/JSMO Joint Symposium. 日本臨床腫瘍学会学術集会 (第10回) (大阪国際会議場), 2012. 7.

- 25) 勝俣範之：Gynecologic Cancer. 日本臨床腫瘍学会学術集会（第10回）（大阪国際会議場），2012. 7.
- 26) 勝俣範之：New opportunities for Gemcitabine in the management of recurrent ovarian cancer. 日本臨床腫瘍学会学術集会（第10回）（大阪国際会議場），2012. 7.
- 27) 勝俣範之：卵巣がん治療の進歩. 日本医科大学医学会総会（東京），2012. 9.
- 28) 勝俣範之：ポスターディスカッション 25 婦人科2 レビューワー. 日本癌治療学会学術集会（第50回），2012.
- 29) 勝俣範之：発熱性好中球減少症の外来治療とその課題. 日本感染症学会東日本地方会学術集会（第61回）日本化学療法学会東日本支部総会（第59回），2012.
- 30) 足立好司¹⁾，勝俣範之⁽¹⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院 脳神経外科：視力障害で発症した成人蝶形骨横紋筋肉腫の1手術例. Brain Tumor Pathology, 2012. 5.
- 31) 勝俣範之：がん化学療法における支持療法. 埼玉産科婦人科学会，2012. 9.
- 32) 原野謙一，渡辺 優¹⁾，鈴木啓介²⁾，酒井 瞳，中元明裕，渡辺幸子³⁾，勝俣範之：DPC データを用いた，卵巣がん化学療法における G-CSF 適正使用の現状分析. 日本癌治療学会（パシフィコ横浜），2012. 10.
- 33) 酒井 瞳，原野謙一，中元明裕，勝俣範之：HER2 陽性乳癌に対して TCH 療法を施行した1例. 日本癌治療学会（パシフィコ横浜），2012. 10.
- 34) 鈴木英之¹⁾，黒川 顕²⁾，勝俣範之，渡辺昌則¹⁾，坊 英樹¹⁾，吉野雅則¹⁾，水谷 聡¹⁾，小峯 修¹⁾，松信哲朗¹⁾，内田英二³⁾ ⁽¹⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院消化器病センター，⁽²⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院院長，⁽³⁾ 日本医科大学附属病院）：チーム医療としての院内がんボードの役割. 日本臨床外科学会，2012. 10.
- 35) 勝俣範之：卵巣がんの化学療法の進歩. 日本医科大学医学会，2012. 12.
- 36) 勝俣範之：座長 プログラム：A セッション. 第21回日本臨床腫瘍学会教育セミナー（第21回）（東京ビッグサイト），2013. 3.
- 37) 喜多川亮¹⁾，勝俣範之，嘉村敏治²⁾ ⁽¹⁾ NTT 東日本関東病院産婦人科，⁽²⁾ 久留米大学産婦人科）：IVb 期・再発子宮頸癌に対する化学療法の治療効果予測因子の検討（JCOG0505 試験より）. 日本癌治療学会，2012. 10.
 - 1) 勝俣範之：がん化学療法の支持療法. 制吐療法カンファレンス（高槻市），2012. 4.
 - 2) 勝俣範之：婦人科がんの緩和療法の実践. 埼玉婦人科がん支持療法懇話会（第一回）（川崎市），2012. 5.
 - 3) 勝俣範之：オンコロジストになるためのキャリアプラン. 東京腫瘍内科カンファレンス（第21回）（品川区），2012. 7.

[千葉北総病院呼吸器内科]

研究概要

内科学（呼吸器，感染，腫瘍部門）を担当し大学付属病院として教育，臨床研究を担う以外に地域の中核病院として，以上の三分野について多くの臨床研究実績を持つ。（1）呼吸器病学：特発性間質性肺炎の治療法の開発，慢性閉塞性肺疾患にともなう肺高血症治療，睡眠時無呼吸症候群の肺循環の超音波評価，気管支拡張症に対する血清診断分類の開発，気管支喘息重責発作時の非侵襲的陽圧換気法の評価，呼吸困難感の評価，呼吸器疾患に対する大うつ，閾値下うつ病の潜在診断，咳喘息の治療評価慢性閉塞性肺疾患の地域連携の方法論の確立新しい呼吸抵抗の評価（RINT，MOSTGRAPH を用いた）（2）感染症学：市井肺炎の診断と経口抗生剤治療，肺炎入院治療パスの開発，病院感染対策，各種院内感染サーベイランス，院内肺炎の予防，特殊感染症診断制御，結核による院内感染制御，肺非定型抗酸菌症の治療，RST：呼吸サポートチームの運営と人工呼吸器肺炎の，評価医療関係者および看護学生に対する麻疹，インフルエンザ，風疹の抗体価測定と予防接種，病院内耐性菌サーベイランス，マクロライドによる各種慢性肺疾患の急性増悪の制御，マクロライド抗菌薬の新作用開発（3）臨床腫瘍学：肺癌抗癌剤化学療法と副作用対策，肺癌の分子生物学的治療標的に対する至適治療法の確立，肺癌の超音波気管支内視鏡（EBUS）診断，抗癌剤による副作用としての薬剤性肺臓炎の診断と治療以上につき臨床研究を継続中である。

研究業績

論文

(1) 総説：

- 1) Noro R¹⁾, Yoshimura A^{1, 2)}, Yamamoto K¹⁾, Miyanaga A¹⁾, Mizutani H¹⁾, Minegishi Y¹⁾, Seike M¹⁾, Kubota K¹⁾, Kosaihiro S³⁾, Hino M³⁾, Ando M⁴⁾, Nomura K⁵⁾, Okano T⁶⁾, Kobayashi K⁶⁾, Uematsu K⁷⁾
(¹⁾ Division of Pulmonary Medicine, Infectious Diseases and Oncology, Department of Internal Medicine, Nippon Medical School, ²⁾ Department of Clinical Oncology, Tokyo Medical University Hospital, ³⁾ Division of Internal Medicine, Nippon Medical School Chiba Hokusoh Hospital, ⁴⁾ Division of Internal Medicine Tsuboi Cancer Center Hospital, ⁵⁾ Department of Respiratory Medicine, Tokyo Metropolitan Hiroo General Hospital, ⁶⁾ Department of Respiratory Medicine, Saitama International Medical Center, ⁷⁾ Division of Pulmonary Medicine, Saitama Medical Center, Saitama Medical University) : Alternating Chemotherapy with Amrubicin Plus Cisplatin and Weekly Administration of Irinotecan Plus Cisplatin for Extensive-stage Small Cell Lung Cancer. ANTCANCER RESEARCH 2013 ; 33 : 1117-1124.

学会発表

(1) 一般講演：

- 1) Atsumi K, Tanaka Y, Kosaihiro S, Kuribayashi H, Hisakane K, Hino M : Evaluation of Diagnostic Performance in Patients who underwent Bronchoscopy in our Hospital for Diagnosis of Sarcoidosis. 17th Congress of the Asian Pacific Society of Respiriology (Hong Kong), 2012. 12.
- 2) Tanaka Y, Hino M, Kosaihiro S, Kuribayashi H, Atsumi K, Hisakane K : New assessment methods for air way lesions (without spirowetry). 17th Congress of the Asian Pacific Society of Respiriology (Hong Kong), 2012. 12.
- 3) Hino M, Tanaka Y, Kosaohita S, Kuribayashi H, Athumi K, Hisakane K : Can the patients with copd inhale dry-powder effectively? Dry-powder inhalers Diskus® or Turbuhaler®. 17th Congress of the Asian pacitic society of Respiriology (Hong Kong), 2012. 12.

8. 精神医学

[付属病院精神神経科・武蔵小杉病院精神科・千葉北総病院メンタルヘルス科]

研究概要

精神疾患の病態を解明し、より科学的で適切な治療法を開発することを目的に、診療場面で遭遇する症例を対象とする臨床研究を中心に行った。その際に、標準化された精神科診断学、症状評価法とともに各種の画像解析法を駆使し、精神障害の症状や病態を可能な限り科学的に捉えることに心がけた。今年度は以下の研究を行った。1. 分子イメージングを用いた精神疾患の病態研究：ポジトロン CT (PET) による神経伝達機能イメージングを用いて、統合失調症および気分障害など精神疾患の神経伝達機能異常を調べた。アルツハイマー病の早期診断法の確立を目指して、アミロイドイメージングの開発研究を行った。幻覚妄想やパーキンソン症状を呈する疾患の病態研究を行った。またセロトニントランスポーターイメージングを新規に開発導入した。2. 分子イメージングを用いた向精神薬の評価に関する研究：PET を用いて、抗精神病薬・抗うつ薬ならびに電気けいれん療法の作用・副作用と脳内特異的作用点の変化の関連を調べ、治療効果の客観的評価法の開発を目指した。3. 向知性薬によるドーピング効果の検出法の開発研究：PET および fMRI を用いて、ドパミン放出、ドパミントランスポーター阻害作用、セロトニントランスポーター阻害作用、高次脳機能賦活に対する脳血流反応を調べ、向知性薬によるドーピング効果の脳内基盤を調べ、向知性薬によるドーピング効果の検出法の開発研究を行った。4. 血管性うつ病の研究：血管性うつ病に対し脳画像、治療など様々な検討を行った。5. 老年期精神障害および認知症に関する臨床研究を行った。6. 高度救命救急センターに搬送された自殺未遂例に対する介入研究を行った。また厚生労働省による自殺関連戦略研究にもコア施設として参加した。7. 児童思春期の精神障害に関する研究：子どものうつ病に関する研究を行った。さらに、子どもの精神症状および問題行動について質問紙を用い横断的、縦断的な理解を深める研究を行った。8. コンサルテーション・リエゾンや緩和ケアに関する研究や調査を行った。

研究業績

論文

[追加分]

追加分総説：

- 1) 下田健吾, 木村真人：精神科・わたしの診療手順】(第1章) 症状性を含む器質性精神障害 器質性気分障害 (脳卒中後うつ病を中心に)。臨床精神医学 2011；2011 増刊 (2011 増刊)：41-43.
- 2) 木村真人：脳卒中後のうつ病とアパシー。日本神経救急学会雑誌 2012；24 (3)：71-77.

追加分原著：

- 1) 野口正行, 小林孝文, 藤原修一郎, 早川達郎, 青木 勉, 荒井 稔, 恵紙英昭, 桂川修一, 岸 泰宏, 黒木宣夫, 黒澤 尚, 小石川比良来, 高岡 健, 高田知二, 高橋武久, その他 10 名：2010 年総合病院基礎調査からみた総合病院精神科の現状。総合病院精神医学 2012；24 (1)：59-70.

追加分症例報告：

- 1) Shimoda K, Kimura M：Two cases of elderly patients with transient epileptic amnesia：clinical, and neuro-imaging features. Psychogeriatrics 2005；5 (1)：A11-A11.

(1) 原著：

- 1) Omori A, Tateno A, Ideno T¹⁾, Takahashi H²⁾, Kawashima Y, Takemura K¹⁾, Okubo Y ⁽¹⁾ Department

- of Psychology, Waseda University, ²⁾ Department of Psychiatry, Kyoto University Graduate School of Medicine) : Influence of contact with schizophrenia on implicit attitudes towards schizophrenia patients held by clinical residents. *BMC Psychiatr* 2012 ; 12 (205).
- 2) Fukuta H, Tateno A, Nogami T, Taiji Y¹⁾, Arakawa R, Suhara T²⁾, Asai K¹⁾, Okubo Y (¹⁾ Asai Hospital, ²⁾ Clinical Neuroimaging Team, Molecular Neuroimaging Program, Molecular Imaging Center, National Institute of Radiological Sciences) : Effects of menopause on brain structural changes in schizophrenia. *Psychiatry Clin Neurosci* 2013 ; 67 (1) : 3-11.
- 3) Tateno A, Arakawa R, Okumura M, Fukuta H, Honjo K¹⁾, Ishihara K²⁾, Nakamura H³⁾, Kumita S⁴⁾, Okubo Y (¹⁾ Pharmaceutical Service, Nippon Medical School, ²⁾ Clinical Imaging Center for Healthcare, Nippon Medical School, ³⁾ Dainippon SumitomoPharma Co, Ltd, ⁴⁾ Department of Radiology, Nippon Medical School) : Striatal and Extrastriatal Dopamine D2 Receptor Occupancy by a Novel Antipsychotic, Blonanserin : A PET Study With [¹¹C] Raclopride and [¹¹C] FLB 457 in Schizophrenia. *J Clin Psychopharmacology* 2013 ; 33 (2) : 162-169.
- 4) 成重竜一郎, 川島義高¹⁾, 大高靖史, 齊藤卓弥, 大久保善朗 (¹⁾ 独立行政法人国立精神・神経医療研究センター 精神保健研究所精神薬理研究部) : 東日本大震災後における自殺未遂者の特徴. *臨床精神医学* 2012 ; 41 (9) : 1255-1261.
- 5) Kawashima Y, Ito T, Narishige R, Saito T, Okubo Y : The Characteristics of Serious Suicide Attempters in Japanese Adolescents -Comparison Study between Adolescents and Adults-. *BMC Psychiatry* 2012 ; 12 (191).
- 6) Trzepacz P^{1, 2)}, Franco J^{3, 4)}, Meagher D⁵⁾, Lee Y⁶⁾, Kim J⁷⁾, Kishi Y, Furlanetto L⁸⁾, Negreiros D⁸⁾, Huang M⁹⁾, Chen C¹⁰⁾, Kean J²⁾, Leonard⁵⁾ (¹⁾ Lilly Research Laboratories, Indianapolis, IN, USA, ²⁾ Department of Psychiatry, Indiana University School of Medicine, Indianapolis, IN, USA, ³⁾ Faculty of Medicine, Universidad Pontificia Bolivariana, Medellín, Colombia, ⁴⁾ Hospital Psiquiatric Universitari Institut Pere Mata, IISPV, Universitat Rovira i Virgili, Reus (Tarragona), Spain, ⁵⁾ Department of Psychiatry, University of Limerick School of Medicine, Limerick, Ireland, ⁶⁾ Department of Psychiatry, Mungyeong Jeil General Hospital, Mungyeong, South Korea, ⁷⁾ Department of Psychiatry, College of Medicine, Chungnam National University, Daejeon, South Korea, ⁸⁾ Department of Internal Medicine, Federal University of Santa Catarina, Brazil, ⁹⁾ Department of Psychiatry, Taipei City Psychiatric Center, Taipei City Hospital, Taipei, Taiwan, ¹⁰⁾ Department of Psychiatry, Taipei Medical University-Wan Fang Hospital, Taipei, Taiwan) : Phenotype of subsyndromal delirium using pooled multicultural Delirium Rating Scale-Revised-98 data. *J Psychosomatic Res* 2012 ; 73 (1) : 10-17.
- 7) Thurber S¹⁾, Kishi Y (¹⁾ Woodland center, Walmar MN USA) : Coefficient Alpha and Interculture Test Selection. *Assessment* 2012 ; epub ahead of print.
- 8) Kishi Y, Kurosawa H, Horikawa N¹⁾, Hatta K²⁾, Meller W³⁾ (¹⁾ 埼玉医科大学総合医療センター 精神科, ²⁾ 順天堂大学 精神科, ³⁾ Department of Psychiatry, University of Minnesota, MN USA) : Preferences of help regarding behavioral health problems among the Japanese general population. *Psychiatry Clin Neurosci* 2012 ; 66 (5) : 460-461.
- 9) Kishi Y, Kato K¹⁾, Okuyama T²⁾, Thurber S³⁾ (¹⁾ 国立がんセンター中央病院 精神科, ²⁾ 名古屋市立医科大学 精神科, ³⁾ Woodland Center, Walmar MN USA) : Treatment of delirium with risperidone in cancer patients. *Psychiatry Clin Neurosci* 2012 ; 66 (5) : 411-417.
- 10) Franco J^{1, 2)}, Trzepacz P³⁾, Meagher D⁴⁾, Kean J⁵⁾, Lee Y⁶⁾, Kim J⁷⁾, Kishi Y, Furlanetto L⁸⁾, Megreiros D⁸⁾, Huang M⁹⁾, Chen C¹⁰⁾, Leonard M⁵⁾, De Pablo J²⁾ (¹⁾ Hospital Psiquiatric Universitari Institut Pere

Mata, IISPV, Universitat Rovira i Virgili, Reus (Tarragona), Spain, ²⁾ Faculty of Medicine, Universidad Pontificia Bolivariana, Medellín, Colombia, ³⁾ Lilly Research Laboratories, Indianapolis, IN, USA, Department of Psychiatry, Indiana University School of Medicine, Indianapolis, IN, USA, ⁴⁾ Department of Psychiatry, University of Limerick School of Medicine, Limerick, Ireland, ⁵⁾ Department of Physical Medicine and Rehabilitation, Indiana University School of Medicine, Indianapolis, IN, USA, ⁶⁾ Department of Psychiatry, Mungyeong Jeil General Hospital, Mungyeong, South Korea, ⁷⁾ Department of Psychiatry, College of Medicine, Chungnam National University, Daejeon, South Korea, ⁸⁾ Department of Internal Medicine, Federal University of Santa Catarina, Brazil, ⁹⁾ Department of Psychiatry, Taipei City Psychiatric Center, Taipei City Hospital, Taipei, Taiwan, ¹⁰⁾ Department of Psychiatry, Taipei Medical University-Wan Fang Hospital, Taipei, Taiwan) : Three Core Domains of Delirium Validated Using Exploratory and Confirmatory Factor Analyses. *Psychosomatics* 2012 : Epub ahead of print.

- 11) Koeda M, Belin P¹⁾, Hama T²⁾, Masuda T³⁾, Matsuura M²⁾, Okubo Y (¹⁾ University of Glasgow, UK, ²⁾ Tokyo Medical and Dental University, ³⁾ Fukushima University) : Cross-cultural differences in the processing of non-verbal affective vocalizations by Japanese and Canadian listeners. *Frontiers in Psychology* 2013 ; 4 (105) : 1-8.
 - 12) 上田 諭, 丸谷俊之¹⁾, 大久保善朗 (¹⁾ 東京工業大学保健管理センター) : 初老期のセネストパチーと躁的要素 : 気分安定薬の有効性. *精神神経誌* 2013 ; 115 (2) : 127-138.
 - 13) Suzuki M, Takahashi S, Matsushima E, Tsunoida M, Kurachi M, Okada T, Hayashi T, Ishii Y, Morita K, Maeda H, Katayama S, Otsuka T, Hirayasu Y, Sekine M, Okubo Y, et al. : Relationships between exploratory eye movement dysfunction and clinical symptoms in schizophrenia. *Psychiatry Clin Neurosci* 2012 ; 66 (3) : 187-194.
 - 14) Takahashi H, Fujie S, Camerer C, Arakawa R, Takano H, Kodaka F, Matsui H, Ideno T, Okubo S, Takemura K, Ymada M, Eguchi Y, Murai T, Okubo Y, Kato M, et al. : Norepinephrine in the brain is associated with aversion to financial loss. *Molecular Psychiatry* 2013 ; 18 (1) : 3-4.
 - 15) Ikeda Y, Koeda M, Kim W, Tateno A, Okubo Y, Suzuki H : Caffeines effects on attentional networks in healthy subjects : a pharmacological functional magnetic resonance imaging study. *J Nippon Med Sch* 2012 ; 79 (5) : 318-319.
 - 16) 高橋 栄, 鈴木正泰, 松島英介, 太田克也, 倉知正佳, 林 拓二, 森田喜一郎, 前田久雄, 片山征爾, 平安良雄, 大久保善朗, 内山 真, 小島卓也 : 精神医学のフロンティア 統合失調症における探索眼球運動異常と症状の関係. *精神神経学雑誌* 2013 ; 115 (1) : 3-9.
 - 17) 鮫島達夫, 一瀬邦弘, 奥村正紀, 中村 満, 平山貴敏, 村木建郎, 大久保善朗 : 修正型電気けいれん療法 (m-ECT) の麻酔法の現況と今後のあり方. *総合病院精神医学* 2012 ; 24 (2) : 110-117.
- (2) 総説 :
- 1) 下田健吾 : 精神医学のトピックス 認知症と睡眠障害. 認知症の最新医療 2012 ; 2 (4) : 202-203.
 - 2) 下田健吾, 木村真人 : 【高齢発症の気分障害の増加と認知症】 高齢うつ病者のうつ状態に対する対応 非薬物療法を中心に. *臨床精神薬理* 2012 ; 15 (10) : 1643-1650.
 - 3) 下田健吾, 木村真人 : 【徹底ガイド 脳卒中 Q&A-プレホスピタルからリハビリまで-】 脳卒中の回復期, 維持期の注意事項 脳卒中後精神障害. 救急・集中治療 2012 ; 24 (7-8) : 968-976.
 - 4) 岸 泰宏 : 自殺未遂者対策 : これまでの成果と今後の展開 : 日本総合病院精神医学会. *救急医学* 2012 ; 36 (7) : 841-843.
 - 5) 岸 泰宏 : 【外来で遭遇する困ったケース】 自殺未遂者, 自殺をほのめかしている患者への対応はどうしたらよいのでしょうか?. *治療* 2012 ; 94 (4月増刊) : 864-866.

- 6) 岸 泰宏：【観察の視点にプラスしたい 身体疾患治療薬と向精神薬の相互作用】実際の臨床場面ではどう対応したらいいか 妊娠と向精神薬. 精神看護 2012；15 (4)：86-93.
 - 7) 木村真人：【気分障害ガイドライン新訂版】(第6章) 身体疾患と抑うつ 血管性うつ病 (Vascular depression). 精神科治療学 2012；27 (増刊号)：216-222.
 - 8) 上田 諭：電気けいれん療法は必須の精神科治療である—電気ショック批判にこたえる. 精神科臨床はどこへいく (こころの科学増刊) 2012；52-58.
 - 9) 上田 諭：ECTでは「治療閾値」を超える適切な刺激設定が必要：有効な「方法」の要点. 精神神経誌 2012；SS248-SS256.
 - 10) 大久保善朗：妄想と脳画像. 臨床精神医学 2013；42 (1)：89-95.
 - 11) 大久保善朗：分子イメージングによる向精神薬の評価. 臨床薬理 2012；43 (3)：147-150.
 - 12) 大久保善朗：精神科診断分類の改訂にむけて 精神科診断分類の変遷 DSM-III 以前と以. 臨床精神医学 2012；41 (5)：469-472.
- (3) 研究報告書：
- 1) 木村真人, 小林士郎¹⁾, 水成隆之¹⁾, 駒場祐一²⁾, 下田健吾, 大村朋子¹⁾, 秋山友美, 鈴木順一³⁾ (1) 脳神経外科, 2) 神経内科, 3) 医療連携支援センター)：脳卒中患者のための地域連携クリティカルパスの開発. 厚生労働科学研究補助金障害者対策総合研究事業 (精神障害分野) 身体疾患を合併する精神疾患患者の診療の質の向上に資する研究 平成24年度 総括・分担研究報告書 (研究代表者 伊藤弘人) 2013；51-54.
- (4) 症例報告：
- 1) Ueda S, Takeuchi J¹⁾, Okubo Y (1) Department of Hematology, Nippon Medical School)：Successful use of olanzapine for catatonia following delirium. Psychiatry and Clinical Neuroscience 2012；66：465.

著 書

- 1) 下田健吾, 木村真人：[分担] II. 各論 各科領域におけるうつ病診療のコツと処方例 4. 脳血管障害後のうつ病診療のコツと処方例. 日常診療におけるうつ病治療指針：うつ病を見逃さない (樋口輝彦監修 中尾陸宏, 伊藤弘人編), 2012；pp91-103, 医薬ジャーナル.
- 2) 八田耕太郎, 岸 泰宏 (1) 順天堂大学付属練馬病院 メンタルクリニック)：[編集] せん妄の診かた, 2012；中外医学社.
- 3) 岸 泰宏：[分担] 診断・予防. せん妄の診かた (八田耕太郎, 岸泰宏), 2012；pp2-11, 中外医学社.
- 4) 岸 泰宏：[分担] ICUでみられる精神科的問題. ICUハンドブック (三宅康史), 2012；pp534-537, 中外医学社.
- 5) 岸 泰宏：[分担] 合併する統合失調症により不穏・興奮を示す事例 ICUにおいて鎮静抵抗が強く, 追加の抗精神病薬投与などの対策を行う必要がある事例. 救急医療における精神症状と初期診療 PEECガイドブック (自殺企図者のケアに関する委員会), 2012；pp137-144, ヘルス出版.
- 6) 岸 泰宏：[分担] 自傷・他害のある患者への対応. 救急医療における精神症状と初期診療 PEECガイドブック (自殺企図者のケアに関する委員会), 2012；pp43-50, ヘルス出版.
- 7) 岸 泰宏：[分担] 精神科救急. 今日の治療指針 2013 (山口徹, 北原光夫, 福井次矢), 2013；pp859-860, 医学書院.
- 8) 木村真人：[分担] 介護に関わる問題：意欲喪失患者のケア. 今日の治療指針 (山口徹, 北原光夫, 福井次矢), 2013；pp1363-1364, 医学書院.
- 9) 上田 諭, 本橋伸高¹⁾, 竹林 実²⁾, 鈴木一正³⁾ (1) 山梨大学大学院精神神経医学講座, 2) 国立病院機構呉医療センター・中国がんセンター精神科, 3) 松田会エバークグリーン病院)：[翻訳] パルス波 ECT ハンドブック, 2012；医学書院.

10) 上田 諭, 澤山恵波¹⁾ (1) 北里大学精神科): [翻訳] 精神病性うつ病: 病態の見立てと治療, 2013; 星和書店.

学会発表

(1) 特別講演:

- 1) 木村真人: 脳卒中後のうつとアパシーについて. 静岡県総合病院精神医学研究会 (第7回) (静岡), 2012. 4.
- 2) 大久保善朗: 分子イメージングからみた精神疾患の病態と治療. 第17回兵庫県精神神経科診療所協会学術講演会 (兵庫), 2012. 10.

(2) 教育講演:

- 1) 上田 諭: 抗NMDA受容体脳炎・橋本脳症. 日本精神神経学会 (第108回) (札幌), 2012. 5.

(3) シンポジウム:

- 1) 館野 周: アミロイドイメージングによるアルツハイマー病の病態と治療の評価 (分子イメージングによる精神疾患の病態と治療の評価). 日本生物学的精神医学会 (第34回) (神戸), 2012. 9.
- 2) 成重竜一郎: 単科精神科病院における地域医療としての児童精神科医療の試み. 日本児童青年精神医学会総会 (第52回) (東京), 2012. 11.
- 3) 岸 泰宏: 老年期に注意すべき徴候: 最近の進歩 せん妄. 第27回日本老年精神医学会 (大宮), 2012. 6.
- 4) 岸 泰宏: 術後せん妄の診断と対応. 日本心臓血管麻酔学会第17回学術大会 (仙台), 2012. 9.
- 5) Kishi Y: Strategy to increase remission rate for MDD patients. 15th Pacific Rim College of Psychiatrist Scientific Meeting (Seoul, Korea), 2012. 10.
- 6) Kishi Y: Can education change nursing attitudes of Japanese nursing personnel toward patients who have attempted suicide?. 15th Pacific Rim College of Psychiatrists Scientific Meeting (Seoul, Korea), 2012. 10.
- 7) 岸 泰宏: せん妄の診断と対応. 第25回日本総合病院精神医学会 (東京), 2012. 12.
- 8) 大久保善朗: うつ病の診断 カテゴリーモデルからディメンジョンモデルへ. 第34回日本生物学的精神医学会, 2012. 9.

(4) セミナー:

- 1) 木村真人: 見逃すな! 脳卒中後のうつ: その病態と治療. 日本社会精神医学会 (第32回) (熊本), 2013. 3.
- 2) 木村真人: 見逃すな! 脳卒中後のうつ: その病態と治療. 日本意識障害学会 (第21回) (山梨), 2012. 7.
- 3) 木村真人: 身体疾患に伴ううつとエスシタロプラム. 日本摂食障害学会 (第16回) (東京), 2012. 10.
- 4) 大久保善朗: 分子イメージングからみた精神疾患の病態と治療. 第31回日本精神科診断学会 (新宿), 2012. 9.

(5) 一般講演:

- 1) 藤澤大介¹⁾, 佐渡充洋²⁾, 中川敦夫³⁾, 館野 周, 川島義高, 菊地俊暁²⁾, 満田 大²⁾, 野崎昭子²⁾, 新福正機²⁾, 岩下 覚²⁾, 大野 裕³⁾ (1) 国立がんセンター東病院, 2) 慶應大学精神科, 3) 国立精神神経センター): 日本語版自己記入式うつ症状尺度 (Inventory of Depressive Symptomatology - self rated: IDS-SR) の開発. 日本精神神経学会総会 (第108回) (札幌), 2012. 5.
- 2) 坂寄 健, 滝沢勇一, 一宮哲哉, 上田 諭, 館野 周, 大久保善朗: ECTを契機にセロトニン症候群をきたした2症例. 日本精神神経学会総会 (第108回) (札幌), 2012. 5.
- 3) 竹村雅代, 館野 周, 山本正浩, 澤谷 篤, 上田 諭, 大久保善朗: ECT経過中に認知機能障害を呈し, 異なる経過で改善した老年期うつ病の2症例. 日本精神神経学会総会 (第108回) (札幌), 2012. 5.
- 4) 富田理沙子, 山本正浩, 館野 周, 大高靖史, 川島義高, 朝山健太郎, 大久保善朗: 東京ルールに基づいて当院高度救命救急医療センターを経て精神科受診となった症例について. 日本精神神経学会総会 (第108回) (札幌), 2012. 5.
- 5) 朝山健太郎, 山口祐司, 澤谷 篤, 山本正浩, 館野 周, 大久保善朗: 眼窩および下内側面皮質下白質切除術50年経過後の頭部拡散テンソル画像. 日本精神神経学会総会 (第108回) (札幌), 2012. 5.

- 6) 齊藤卓弥, 成重竜一郎, 館野 周, 大久保善朗: 精神科臨床実習の実態と問題点. 日本精神神経学会総会 (第 108 回) (札幌), 2012. 5.
- 7) 富澤大佑¹⁾, 川島正人¹⁾, 嶋田昌彦¹⁾, 館野 周, 大久保善朗 (¹⁾ 東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科口腔機能再構築学系口腔機能再建講座疼痛制御学分野): 精神科コンサルテーション・リエゾン診療でのプロナセリン投与が有効であったセネストパチーの 1 症例. 日本歯科心身医学会 (第 27 回) (さいたま), 2012. 9.
- 8) Karibe H¹⁾, Aoyagi K¹⁾, Koeda M, Tateno A, Suzuki H²⁾, Okubo Y (¹⁾ Department of Pediatric Dentistry, School of Life Dentistry, Nippon Dental University, ²⁾ Department of Pharmacology, Graduate School of Medicine, Nippon Medical School): Cerebral activation associated with sounds of dental treatment in subjects with dental fear: An fMRI stud. International Association for Disability and Oral Health 2012 (Melbourne), 2012. 10.
- 9) 下田健吾, 池森紀夫, 木村真人: 総合病院精神科における初診患者の動向 H18 年と H23 年の比較検討. 日本精神神経医学会総会 (第 108 回) (札幌), 2012. 5.
- 10) 下田健吾, 横田雅美, 木村真人: VSRAD 解析で Z スコアが高値を示した症例の検討: 非 AD 症例に注目して. 日本総合病院精神医学会総会 (第 25 回) (東京), 2012. 12.
- 11) 近藤大三^{1,2)}, 小田原俊成^{1,2)}, 粟田主一²⁾, 池尻義隆²⁾, 下田健吾²⁾, 高橋 晶²⁾, 竹内文一²⁾, 長谷川朝穂²⁾, 藤原修一郎²⁾, 吉田常孝²⁾ (¹⁾ 横浜市立大学附属市民総合医療センター精神医療センター, ²⁾ JSGHP 認知症対策委員会): 日本総合病院精神医学会会員に対する認知症診療に関するアンケート調査. 日本総合病院精神医学会総会 (第 25 回) (東京), 2012. 12.
- 12) 鈴木砂由里¹⁾, 成重竜一郎, 高取祐子¹⁾, 柴崎 哲¹⁾, 大島 希¹⁾ (¹⁾ 社会医療法人公徳会若宮病院): 児童思春期精神医療における学校訪問を利用した地域コミュニティへのアプローチ. 日本児童青年精神医学会総会 (第 52 回) (東京), 2012. 11.
- 13) 柴崎 哲¹⁾, 成重竜一郎, 鈴木砂由里¹⁾, 高取祐子¹⁾, 大島 希¹⁾ (¹⁾ 社会医療法人公徳会若宮病院): 児童思春期精神科入院治療における作業療法の評価手法に関する予備的検討. 日本児童青年精神医学会総会 (第 52 回) (東京), 2012. 11.
- 14) 大高靖史, 成重竜一郎, 川島義高¹⁾, 与儀恵子²⁾, 氏原将奈²⁾, 村山雅子²⁾, 横田由美²⁾, 大久保善朗 (¹⁾ 独立行政法人国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所精神薬理研究部, ²⁾ 荒川区): 救急医療機関退院後の自殺未遂者に対する地域フォローアップ体制の構築: 保健師と救急医療機関との連携による取組事例の報告. 日本自殺予防学会総会 (第 36 回) (東京), 2012. 9.
- 15) Narishige R, Saito T: Characteristics of Suicide Attempts in Japanese Youth after the Great East Japan Earthquake. The International Association for Child and Adolescent Psychiatry and Allied Professions 20th World Congress (Paris), 2012. 7.
- 16) Narishige R, Saito T: Characteristics of Suicide Attempts in Japanese Youth after the Great East Japan Earthquake. The International Association for Child and Adolescent Psychiatry and Allied Professions 20th World Congress (Paris), 2012. 7.
- 17) Karibe H¹⁾, Aoyagi-Naka K¹⁾, Koeda M, Tateno A, Suzuki H²⁾, Okubo Y (¹⁾ Department of Pediatric Dentistry, School of Life Dentistry at Tokyo, Nippon Dental University, ²⁾ Department of Pharmacology, Graduate School of Medicine, Nippon Medical School): Cerebral activation associated with sounds of dental treatment in subjects with dental fear: An fMRI study. International Association for Disability and Oral Health (Melbourne, AUstralia), 2012. 10.
- 18) Karibe H¹⁾, Aoyagi-Naka K¹⁾, Koeda M, Tateno A, Suzuki H²⁾, Okubo Y (¹⁾ Department of Pediatric Dentistry, School of Life Dentistry, Nippon Dental University, ²⁾ Department of Pharmacology, Graduate School of Medicine): Cerebral activation associated with sounds of dental treatment in subjects with dental

- fear : An fMRI study. International Association for Disability and Oral Health 2012 (Melbourne, Australia), 2012. 10.
- 19) 秋山友美, 鎌田悠里, 太田杏奈, 池森紀夫, 下田健吾, 木村真人: 主観的狀態像と前頭部血流量の関連 健常者とうつ病患者の比較. 日本精神神経学会学術総会 (第 108 回) (札幌), 2012. 5.
 - 20) 横田雅実, 下田健吾, 池森紀夫, 木村真人: 高齢者の MCI とうつに対する VSRAD による検討. 日本老年精神医学会 (第 27 回) (埼玉), 2012. 6.
 - 21) 木村真人, 下田健吾, 池森紀夫, 宮吉孝明, 寺西美佳, 皆川 薫, 秋山友美: SSRI や抗不安薬で効果不十分な月経前不快気分障害に対するラモトリギンの有用性の検討. 日本うつ病学会総会 (第 9 回) (東京), 2012. 7.
 - 22) 山田陽代, 秋山友美, 太田杏奈, 皆川 薫, 木村真人: 精油を用いた足浴により睡眠改善の得られたうつ病患者の 1 例. 日本催眠学会学術大会 (第 28 回) (東京), 2012. 10.
 - 23) 太田杏奈, 山田陽代, 秋山友美, 富田理紗子, 木村真人: アロマセラピーと筋弛緩法がうつ病相の緊張・疲労感に対して有効であった双極性感情障害の 1 例. 日本心身医学会関東地方会 (第 121 回) (東京), 2012. 10.
 - 24) 皆川 薫, 山田陽代, 秋山友美, 木村真人: TFFT, リラクゼーション及びパロキセチンが奏功した PTSD の 1 症例. 北総精神科医会 (第 33 回) (千葉), 2012. 10.
 - 25) 竹村雅代, 小泉公平, 木村真人: 不安抑うつ状態が先行し, 入院後 DLB が疑われた 1 症例. 北総精神科医会 (第 33 回) (千葉), 2012. 10.
 - 26) 横田雅実, 下田健吾, 木村真人: 総合病院精神科における外来患者の動向について. 日本総合病院精神医学会総会 (第 25 回) (東京), 2012. 11.
 - 27) Koeda M, Yuichi T, Yamamoto M, Ichimiya T, Tateno A, Belin IP, Okubo Y ⁽¹⁾ University of Glasgow : A case of organic amnesic disorder syndrome diagnosed with fMRI. British Neuropsychiatry Association, 26th Anniversary AGM (Institute of Child Health, London), 2013. 2.
 - 28) 長濱健一郎, 戸田由美子, 肥田道彦, 池田裕美子, 館野 周, 鈴木秀典, 大久保善朗 ⁽¹⁾ 日本医科大学医学部薬理学教室 : Modafinil 使用時の音声情動認知の脳活動に関する functional MRI 研究. 日本精神科診断学会 (第 32 回) (沖縄), 2012. 11.
 - 29) 下地玉恵, 赤羽日出男, 山口朋禎, 岸 泰宏, 若城由美子, 宮内秀典, 栗原香織, 小泉嘉子: 当院における緩和ケア普及活動の状況. 第 17 回日本緩和医療学会 (神戸), 2012. 6.
 - 30) 太組一郎, 饒波正博, 嘉手川淳, 岸 泰宏, 寺本 明: 成人てんかん外来診療における JME : Misdiagnsed JME : a small survey at the adult -epilepsy outpatient. 第 46 回日本てんかん学会 (東京), 2012. 10.
 - 31) 倉光洋平, 平林恵美, 野村俊明, 伊藤滋朗, 岸 泰宏: 救命センターに搬送された自殺企図患者のフォローアップ研究 第 2 報. 第 25 回日本総合病院精神医学会 (東京), 2012. 11.
 - 32) 三宅康史¹⁾, 有賀 徹¹⁾, 大塚耕太郎²⁾, 岸 泰宏, 坂本由美子³⁾, 東岡宏明³⁾, 守村 洋⁴⁾, 柳澤八恵子⁵⁾, 山田朋樹⁶⁾ ⁽¹⁾ 昭和大学救急医学, ⁽²⁾ 岩手医科大学 精神科, ⁽³⁾ 関東労災病院, ⁽⁴⁾ 札幌市立大学, ⁽⁵⁾ 聖路加国際病院, ⁽⁶⁾ 横浜市立大学 : 自殺総合対策大綱改定への提言. 日本臨床救急医学会 (熊本), 2012. 6.
 - 33) 上田 諭, 大森 中, 福田 一, 小林 岐, 大久保善朗: NIDS (Neuroleptic-induced deficit syndrome) がうつ病を統合失調症に見せる : 長年誤診されていた中年男性症例. 日本精神神経学会 (第 108 回) (札幌), 2012. 5.
 - 34) 上田 諭, 大森 中, 塩屋桐子, 大久保善朗: 抗精神病薬が引き起こしたショックとプレショック. 日本老年精神医学会 (第 27 回) (大宮), 2012. 6.
 - 35) 上田 諭, 大森 中, 福田 一, 坂寄 健, 石坂公介, 大久保善朗: NIDS (抗精神病薬による欠陥症候群) が気分障害を見えにくくする : 統合失調症, 慢性化, 認知症との鑑別. 日本うつ病学会 (第 9 回) (東京), 2012. 7.
 - 36) 上田 諭: 抗精神病薬がうつ病を統合失調症に見せる : NIDS (Neuroleptic-induced deficit syndrome) により

長年誤診されていた中年男性症例. 日本精神病理・精神療法学会（第35回）（福岡），2012. 10.

- 37) Ueda S, Omori A, Fukuta H, Kobayashi T, Okubo Y : NIDS (Neuroleptic-induced deficit syndrome) can make depression resemble schizophrenia : a case of prolonged misdiagnosis. World Psychiatric Association Annual Congress 2012 (チェコ・プラハ), 2012. 10.
- 38) 上田 諭, 大久保善朗 : セン妄に対する病因標的 (etiology-targeted) 薬物療法 : cilostazole と memantine の試み. 日本総合病院精神医学会 (第25回) (東京), 2012. 11.

9. 小児科学

[付属病院小児科・武蔵小杉病院周産期・小児医療センター（小児科，小児外科，新生児内科）・多摩永山病院小児科・千葉北総病院小児科]

研究業績

論文

[追加分]

追加分総説：

- 1) 小川俊一：心疾患をもつ学童・生徒の運動管理. 小児科 2012；53（1）：21-31.
- 2) Pawankar R, Mori S, Ozu C, Kimura S：Overview on the pathomechanisms of allergic rhinitis. Asia Pacific Allergy 2011；1（3）：157-167.
- 3) 小川俊一：小児における冠攣縮性狭心症に対する侵襲的検査法の重要性と問題点. 日本小児循環器学会雑誌 2012；28：65-66.

追加分原著：

- 1) Kimura S, Pawankar R, Mori S, Nonaka M¹⁾ (1) Dept. of Otolaryngology, Tokyo Womens Medical University)：Increased expression and role of Thymic Stromal Lymphopoetin in Nasal Polyposis. Allergy Asthma Immunol Research 2011；3（3）：186-93.
- 2) Potter P¹⁾, Pawankar R, Warner J²⁾ (1) University of Capetwon, Sout Africa, 2) Imperial College, London, UK)：Medical Education in Allergy. WAO White Book on Allergy 2011；1：142-146.
- 3) Kimura S, Pawankar R, Mori S, Nonaka M¹⁾ (1) Tokyo Women's Medical University)：Increased expression and role of Thymic Stromal Lymphopoetin in Nasal Polyposis. Allergy Asthma Immunol Res 2011；3（3）：186-193.
- 4) 桑原健太郎：症状・症候から診断を導くコツ 頭痛. 小児科 24；53（11）：1389-1394.
- 5) 小川俊一：冠循環生理の基本と川崎病後遺症の各病型における冠循環動態. 日本小児循環器学会雑誌 2012；28：117-125.
- 6) Kobayashi T¹⁾, Saji T²⁾, Otani T³⁾, Takeuchi K⁴⁾, Nakamura T⁵⁾, Arakawa H¹⁾, Kato T⁶⁾, Hara T⁷⁾, Hamaoka K⁸⁾, Ogawa S, Miura M⁹⁾, Nomura Y¹⁰⁾, Fuse S¹⁰⁾, Ichida F¹⁰⁾, Seki M¹⁰⁾, et al. (1) Department of Pediatrics, Gunma University Graduate School of Medicine, 2) First Department of Pediatrics, Toho University Omori Medical Center, 3) Department of Health Policy, National Center for Child Health and Development, 4) Faculty of Education, Saitama University, 5) Clinical Investigation and Research Unit, Gunma University Hospital, 6) Department of Pediatrics, Nagoya University Graduate School of Medicine, 7) Department of Pediatrics, Kyushu University Graduate School of Medicine, 8) Department of Pediatric Cardiology and Nephrology, Kyoto Prefectural University of Medicine Graduate School of Medical Science, 9) Department of Cardiology, Tokyo Metropolitan Children's Medical Center, 10) and others)：Efficacy of immunoglobulin plus prednisolone for prevention of coronary artery abnormalities in severe Kawasaki disease (RAISE study)9：a randomised, open-label, blinded-endpoints trial. Lancet 2012；379：1613-1620.
- 7) Onouchi Y¹⁾, Ozaki K¹⁾, Burns J²⁾, Shimizu C²⁾, Terai M³⁾, Hamada H³⁾, Honda T³⁾, Suzuki H⁴⁾, Suenaga T⁴⁾, Takeuchi T⁴⁾, Yoshikawa N⁴⁾, Suzuki Y⁵⁾, Yasukawa K³⁾, Ebata R⁶⁾, Ogawa S, et al. (1) Laboratory for Cardiovascular Disease, Center for Genomic Medicine, RIKEN, 2) Department of Pediatrics,

School of Medicine, University of California, San Diego, ³⁾ Department of Pediatrics, Tokyo Women's Medical University, Yachiyo Medical Center, ⁴⁾ Department of Pediatrics, Wakayama Medical University, ⁵⁾ Department of Public Health, Chiba University Graduate School of Medicine, ⁶⁾ Department of Pediatrics, Chiba University Graduate School of Medicine) : A genome-wide association study identifies three new risk loci for Kawasaki disease. *Nature genetics* 2012 ; 44 : 517-521.

- 8) Lotvall J¹⁾, Pawankar R, Wallace D²⁾, Akdis C³⁾ (¹⁾ Krefting Research Centre, University of Gothenburg, Goteborg, Sweden, ²⁾ Allergy Centre, Ft. Lauderdale, USA, ³⁾ Swiss Institute of Allergy, Davos, Switzerland) : We Call for iCAALL : International Collaboration in Asthma, Allergy and Immunology. *World Allergy Organization J* 2012 ; 5 (3) : 39-40.
- 9) Pawankar R : The unmet global health need of severe and complex allergies : meeting the challenge. *World Allergy Organization J* 2012 ; 5 (2) : 20-21.
- 10) Ring J¹⁾, Akdis C²⁾, Behrendt H³⁾, Lauener PR⁴⁾, Akdis M²⁾, Pawankar R, Renz H⁵⁾, Platts-Mills T⁶⁾ (¹⁾ University of Munich, Germany, ²⁾ Swiss Institute of Allergy, Switzerland, ³⁾ University of Munich, Germany, ⁴⁾ Childrens Hospital Davos, Switzerland, ⁵⁾ University of Hamburg, Germany, ⁶⁾ University of Virginia, Charlottesville) : Davos declaration : allergy as a global problem. *Allergy* 2012 ; 67 (2) : 141-143.

追加分 :

- 1) 榑崎秀彦, 伊藤保彦 : クローズアップ 小児リウマチ・膠原病 (小児リウマチ性疾患の診断へのアプローチ) 長引く発熱の鑑別診断. *小児内科* 44/1 44 (1) : 19-23.

(1) 原著 :

- 1) Roongrotwattanasiri K, Pawankar R, Kimura S, Mori S : Decreased Expression of FoxP3 in nasal polyps. *Allergy Asthma Immunol Research* 2012 ; 4 (1) : 24-30.
- 2) Mori S, Pawankar R, Ozu C, Nonaka M (¹⁾ Tokyo Womens Medical University) : Expression and Roles of MMP-2, MMP-9, MMP-13, TIMP-1, and TIMP-2 in Allergic Nasal Mucosa. *Allergy Asthma Immunol Research* 2012 ; 4 (4) : 231-239.
- 3) Nonaka M¹⁾, Tanaka Y¹⁾, Pawankar R, Yoshihara T¹⁾ (¹⁾ Tokyo Womens Medical University) : Orally inhaled fluticasone propionate improved chronic rhinosinusitis with co-morbid asthma : report of a case. *Asian Pac J Allergy Immunol* 2013 ; 31 (1) : 84-87.
- 4) 桑原健太郎 : ガバベンチン追加投与により発作消失を認めた難治性小児てんかん疾患. *医薬ジャーナル* 2012 ; 48 (7) : 181-186.
- 5) 藤田光江¹⁾, 桑原健太郎²⁾, 安藤直樹³⁾ (¹⁾ 筑波学園病院小児科/東京クリニック小児・思春期頭痛外来, ²⁾ 日本医科大学小児科, ³⁾ 名古屋市立大学大学院医学研究科新生児・小児医学分野) : 小児の頭痛. *日本頭痛学会誌* 2012 ; 39 (1) : 54-59.
- 6) Asano T, Kogawa K, Morimoto A A, Ishida Y, Suzuki N, Ohga S, Kudo K, Ohta S, Wakiguchi H, Tabuchi K, Kato S, Ishii E : Hemophagocytic Lymphohistiocytosis After Hematopoietic Stem Cell Transplantation in Children : A Nationwide Survey in Japan. *Pediatr Blood Cancer. A Nationwide Survey in Japan. Pediatr Blood Cancer* 2012 ; 59 (1) : 110-114.
- 7) 小川俊一 : 川崎病の up to date 冠動脈病変治療の進歩. *小児科* 2012 ; 53 : 1795-1801.
- 8) 勝部康弘, 小川俊一 : 循環器疾患診療ツールとしてのバイオマーカー「小児循環器疾患」. *Heart View* 2012 ; 16 : 96-102.
- 9) Quang V, Wada T, Tama T, Tajima H, Maeda M, Tanaka R, Ohishi T, Yachie A : Clinical and immunophenotypic feature of atypical complete DiGeorge syndrome. *Pediatr International* (in press).

- 10) 園部一成, 野呂瀬嘉彦, 三浦義彦, 篠山明宏, 大川咲奈, 鷺尾洋平, 前原茂子, 中川仁美, 藤田昌久, 前田美穂 : 同一 VRE 保菌者における VRE のパスフィールド電気泳動パターンの多様性. 環境感染誌 2013 ; 28 (1) : 13-17.
- 11) Hayakawa J, Kawakami Y, Takeda S, Ozawa H, Fukazawa R, Takase M, Fukunaga Y : A neonate with reduced cytomegalovirus DNA copy number and marked improvement of hearing in the treatment of congenital cytomegalovirus infection. J Nihon Med Sch 2012 ; 79 (6) : 471-477.
- 12) 早川 潤 : 症状症候から診断を導くコツ 33. 出血斑. 小児科 2012 ; 53 (11) : 1609-1615.
- 13) 早川 潤, 伊藤保彦, 福永慶隆 : 血液症候群 2 補体異常症. 日本臨床 2013 年 別冊 新領域別症候群シリーズ 血液症候群 (第 2 版) 2013 ; 310-316.
- 14) Craig T¹), Pursun E²), Bork K³), Bowen T⁴), Farkas H⁵), Pawankar R, Zuraw B⁶), Maurer M⁷) : WAO Guideline for the Management of Hereditary Angioedema. World Allergy Organization J 2012 ; 5 (12) : 182-199.
- 15) Tanaka A¹), Minoguchi K¹), Pawankar R, Adachi M¹) (¹ Showa University School of Medicine) : Asthma in patients with Japanese cedar pollinosis. World Allergy Organization J 2012 ; 5 (3) : 218-222.
- 16) Pawankar R, Bunnag C¹), Khaltsev N²), Bousquet J³) (¹ Mahidol University, ² World Health Organization, ³ University of Montpellier) : Allergic Rhinitis and Its Impact on Asthma in Asia Pacific and the ARIA Update. World Allergy Organization J 2012 ; 5 (3) : 212-217.
- 17) Popov AT¹), Ledford D²), Lockey R²), Pawankar R, Park H³), Pichler W⁴), Holgate S⁵) (¹ University of Sofia, Bulgaria, ² University of Tampa, Florida, USA, ³ Charite, University of Berlin, Germany, ⁴ University of Southampton, UK) : Maintenance of skills, competencies, and performance in allergy and clinical immunology : time to lay the foundation for a universal approach. World Allergy Organization J 2012 ; 5 (4) : 45-51.
- 18) Bonini M¹), Bachert C²), Baena-Cagnani EC³), Canonica WG⁴), Cruz AA⁵), Fokkens JW⁶), Pawankar R (¹ University of Naples, ² University of Cordoba, Argentina, ³ University of Ghent, Belgium, ⁴ University of Genoa, Italy, ⁵ Federal University of Bahia, Brazil, ⁶ University of Amsterdam, Netherlands) : What we should learn from the London Olympics. Curr Opin Allergy Clin Immunol 2013 ; 13 (1) : 1-3.
- 19) Canonica WG¹), Baena-Cagnani EC²), Compalati E¹), Bohle B³), Bonini S⁴), Bousquet J⁵), Cox L⁶), Pawankar R, Vieths S⁷) (¹ University of Genoa, Italy, ² University of Cordoba, Argentina, ³ Medical University of Vienna, ⁴ University of Naples, Italy, ⁵ Montpellier University, France, ⁶ Allergy Centre, Ft. Lauderdale, ⁷ Paul-Erlich Institute Germany) : 100 Years of Immunotherapy : The Monaco Charter. Under the High Patronage of His Serene Highness Prince Albert II of Monaco. Int Arch Allergy Immunol 2012 ; 160 (141) : 346-349.
- 20) Suzaki H¹), Watanabe S¹), Pawankar R (¹ Dept. of ORL, Showa University School of Medicine) : Rhinosinusitis and asthma-microbiome and new perspectives. Curr Opin Allergy Clin Immunol 2013 ; 13 (1) : 45-49.
- 21) Bousquet J¹), Schunemann JH²), Samolinski B³), Demoly P¹), Baena-Cagnani EC⁴), Bachert C⁵), Bonini S⁶), Pawankar R (¹ University of Montpellier, ² McMaster University, ³ University of Warsaw, ⁴ University of Cordoba, ⁵ University of Ghent, ⁶ University of Naples) : Allergic Rhinitis and its Impact on Asthma (ARIA) : achievements in 10 years and future needs. J Allergy Clinical Immunol 2012 ; 130 (5) : 1049-1062.
- 22) Mori S, Pawankar R, Ozu C, Nonaka M¹) (¹ Tokyo Womens Medical University) : Expression and Roles of MMP-2, MMP-9, MMP-13, TIMP-1, and TIMP-2 in Allergic Nasal Mucosa. Allergy Asthma Immunol Res

2012 ; 4 (4) : 231-239.

- 23) Papadopoulos GN¹, Arakawa H², Carlsen HK³, Custovic A⁴, Gern J⁵, Lemanske R⁶, Le Souef P⁷, Makela M⁸, Pawankar R, Rosario N⁹, Rossenwasser JL¹⁰ (¹ University of Athens, Greece) : International consensus on (ICON) pediatric asthma. *Allergy* 2012 ; 67 (8) : 976-997.
- 24) Yorgancolu A¹, Ozdemir C², Kalayci O³, Papadopoulos N⁴, Pawankar R, Bousquet J⁵ : Asthma and Rhinitis ARIA achievements in 10 years and future needs. *Tuberk Toraks* 2012 ; 60 (1) : 92-97.
- 25) Lotvall J¹, Pawankar R, Wallace D², Akdis C³ (¹ Krefting Research Centre, University of Gothenburg, Goteborg, Sweden, ² Allergy Centre, Ft. Lauderdale, USA, ³ Swiss Institute of Allergy, Davos, Switzerland) : We call for iCAALL : International Collaboration for Asthma, Allergy and Immunology. *Annals Allergy Asthma Immunol* 2012 ; 108 (4) : 215-216.
- 26) Bousquet J¹, Anto J², Demoly P³, Schunemann JH⁴, Togias A⁵, Akdis M⁶, Bachert C⁷, Pawankar R, et al. : Severe chronic allergic (and related) diseases : a uniform approach-a MeDALL-GA2LEN-ARIA position paper. *Int Arch Allergy Immunol* 2012 ; 158 (3) : 216-231.
- 27) Lotvall J¹, Pawankar R, Wallace D², Akdis C³, Rosenwasser L⁴ : We call for iCAALL : International Collaboration in Asthma, Allergy and Immunology. *J Allergy Clin Immunol* 2012 ; 129 (4) : 904-905.
- 28) Mahboub HB¹, Al-Hammadi S², Pawankar R (¹ Rashidul Hospital, Dubai, UAE, ² University of UAE, Al-Ain, UAE) : Population prevalence of asthma and its determinants based on European Community Respiratory Health Survey in the United Arab Emirates. *BMC Pulm Med* 2012 ; 16 (12) : 4-15.
- 29) Pawankar R, Canonica WG¹, Holgate TS², Lockey FR³ : Allergic diseases and asthma : a major global health concern. *Curr Opin Allergy Clin Immunol* 2012 ; 12 (1) : 39-41.
- 30) Ebisawa M¹, Nishima S², Akiyama K³, Pawankar R (¹ 国立病院機構相模原病院臨床研究センター アレルギー性疾患研究部, ² 福岡病院, ³ 国立病院機構相模原病院) : Measures for anaphylaxis and role of epipen®. *Alerugi* 2013 ; 62 (2) : 144-154.
- 31) Takase M, Sakata H¹, Shikada M², Tatara K³, Fukushima T⁴, Miyakawa T⁵ (¹ Department of Pediatrics, Asahikawa-Kosei General Hospital, Hokkaido, Japan, ² Department of Pediatrics, Tokai University School of Medicine, Kanagawa, Japan, ³ Department of Pediatrics, National Hospital Organization Tokushima Hospital, Tokushima, Japan, ⁴ Department of Pediatrics, Kitasato University School of Medicine, Kanagawa, Japan, ⁵ Department of Respiriology, Tokyo Metropolitan Children's Medical Center, Tokyo, Japan) : Development of Reference Equations for Spirometry in Japanese Children Aged 6-18 Years. *Pediatric Pulmonology* 2013 ; 48 : 35-44.
- 32) 高瀬真人 : 小児咳嗽診断・治療のストラテジー 学童・思春期のポイント. *日本小児呼吸器疾患学会雑誌* 2012 ; 52 (55) : 52-55.
- 33) Kawakami Y, Saito K¹, Baba A, Koizumi S, Kuwabara K, Fujita T, Fujino O (¹ Laboratory of Environmental Health and Food Science, Nippon Veterinary and Life Science University) : Measures to Counteract Oseltamivir Phosphate-Induced Changes on Electroencephalograms of Epilepsy-Prone El Mice. *Journal of Japan Epilepsy Society* 2012 ; 5 (1) : 20-27.
- 34) 川上康彦, 太組一朗, 山崎峰雄, 長谷川大輔 : 日本医科大学てんかん診療の歴史・現況・そして未来「日本医科大学包括てんかん診療ミーティング. *日本医科大学医学会雑誌* 2013 ; 9 (1) : 33-34.
- 35) 足立陽子¹, 樋口 取¹, 種市尋宙¹, 足立雄一¹, 市丸智浩², 今井丈英, 上田康久³, 王 康雅⁴, 樋口昌孝⁵, 川崎一輝⁵ (¹ 富山大学医学部小児科, ² 佐賀県立病院好生館小児科, ³ うえだこどもクリニック, ⁴ 東海大学医学部附属八王子病院小児科, ⁵ 国立成育医療研究センター呼吸器科) : 乳幼児の気道異物事故予防のための保健師による指導に関する調査. *日本小児呼吸器疾患学会雑誌* 2013 ; 23 (2) : 147-154.

- 36) 深澤隆治：扁桃摘出による fontan 手術適応拡大の可能性。日本小児科循環器学会雑誌 2012；28：311-312.
- 37) Sugano H, Matsumoto T, Miyake K, Watanabe A, Iijima O, Migita M, Narisawa S, Millan J, Fukunaga Y, Shimada T : Successful gene therapy in utero for lethal murine hypophosphatasia. HUMAN GENE THERAPY 2012；123 (4) : 399-408.
- 38) Suzuki M¹⁾, Naritaka N¹⁾, Minowa K¹⁾, Kinoshita T²⁾, Nakamura Y³⁾, Nakanishi N⁴⁾, Miyashita R⁴⁾, Hama T⁵⁾, Watanabe M, Matsumoto T, Yokoyama K⁶⁾, Nabeshima Y⁷⁾, Kanie K⁷⁾, Fujino A⁸⁾, Shimizu T¹⁾ (1) 順天堂大学医学部小児科, 2) 伊那中央病院小児科, 3) JA とりで総合医療センター, 4) 泉大津市立病院小児科, 5) 和歌山県立医科大学小児科, 6) 自治医科大学小児科, 7) 沖縄県立中部病院小児科, 8) 国立成育医療研究センター-外科) : PRSS1 および SPINK1 遺伝子異常による小児期膵炎の臨床的特徴とその管理。日本小児栄養消化器肝臓学会雑誌 2012；26 (1) : 12-20.
- 39) Igarashi T, Itoh Y, Maeda M, Igarashi T, Fukunaga Y : Mean Hemoglobin Levels in Venous Blood Samples and Prevalence of Anemia in Japanese Elementary and Junior High School Students. J Nippon Med Sch 2012；79 : 232-235.
- 40) Igarashi T, Itoh Y, Shimizu A, Igarashi T, Yoshizaki K, Fukunaga Y : A Case of Juvenile Sjogrens Syndrome with Interstitial Nephritis. J Nippon Med Sch 2012；79 : 286-290.
- 41) 重盛朋子, 伊藤保彦, 五十嵐徹, 空藝 薫, 柳原 剛, 清水 章, 福永慶隆 : Tubulointerstitial nephritis and uveitis (TINU) 症候群の1女子例。小児リウマチ 2012；3 : 85-88.
- 42) 山縣邦弘, 八木澤隆, 中井 滋, 中山昌明, 今井圓裕, 服部元史, 五十嵐徹, 石村栄治, 井関邦敏, 井丹儀友, 乳原善文, 笠井健司, 木全直樹, 剣持 敬, 佐古まゆみ, その他17名 : 我が国の end stage kidney disease (ESKD) の現状。日本透析医学会雑誌 2012；45 : 1067-1076.
- 43) Haahtela T¹⁾, Holgate S²⁾, Pawankar R, Akdis C³⁾ (1) University of Helsinki, Finland, 2) University of Southampton UK, 3) Swiss Institute of Allergy and Asthma) : The biodiversity hypothesis and allergic disease : World Allergy Organization Position Statement. World Allergy Organization Journal 2013；6 (3) : 1-18.
- 44) Lotvall J¹⁾, Pawankar R, Wallace D²⁾, Akdis C³⁾ (1) Krefting Research Centre, University of Gothenburg, Goteborg, Sweden, 2) Allergy Centre, Ft. Lauderdale, USA, 3) Swiss Institute of Allergy, Davos, Switzerland) : We call for iCAALL : International Collaboration for Asthma, Allergy and Immunology. Annals Allergy Asthma Immunol 2012；108 (4) : 215-216.
- 45) Fiocchi A¹⁾, Assaad A²⁾, Arshad H³⁾, Brozek J⁴⁾, Canonica WG⁵⁾, Compalati E⁵⁾, Pawankar R, Prescott S⁶⁾ : The management of paediatric allergy : not everybodys cup of tea. Curr Opin Allergy Clin Immunol 2013；1 : 1-50.
- 46) Cho I^{1, 2)}, Yamanishi S¹⁾, Cox L³⁾, Methe B⁴⁾, Zavadil J^{5, 6)}, Li K³⁾, Gao Z³⁾, Mahana D³⁾, Raju K³⁾, Teitler I³⁾, Li H⁷⁾, Alekseyenko A^{1, 6)}, Blaser M^{1, 2)} (1) Department of Medicine, New York University School of Medicine, New York, New York, 10016 USA, 2) Medical Service, VA New York Harbor Healthcare System, New York, New York, 10010 USA, 3) Department of Microbiology, New York University School of Medicine, New York, New York, 10016 USA, 4) J. Craig Venter Institute, Rockville, Maryland, 20850 USA, 5) Department of Pathology, New York University School of Medicine, New York, New York, 10016 USA, 6) Center for Health Informatics and Bioinformatics, New York University School of Medicine, New York, New York, 10016 USA, 7) Department of Population Health, New York University School of Medicine, New York, New York, 10016 USA) : Antibiotics in early life alter the murine colonic microbiome and adiposity. Nature 2012；488 (7413) : 621-626.
- 47) 山西慎吾, 伊藤保彦 : Job 症候群 (高 IgE 症候群-反復感染症候群)。別冊日本臨床 新領域別症候群シリーズ 2012；22 : 304-309.

(2) 総説：

- 1) Pawankar R, Ozu C, Mori S : Mast cells in Airway Inflammation and Remodeling. Airways Disease Update 2013 ; 4 (1) : 22-29.
- 2) 海津聖彦, 浅野 健 : 先天性オロト酸尿症 ; 血液症候群 (第2版) そのほかの血液疾患を含めて : II 赤血球の異常, 貧血, 巨赤芽球性貧血. 日本臨牀別冊 2013 年別冊 2013 ; 83-87.
- 3) 檜崎秀彦, 浅野 健 : ホモシスチン尿症 ; 血液症候群 (第2版) そのほかの血液疾患を含めて : II 赤血球の異常, 貧血, 巨赤芽球性貧血. 日本臨牀別冊 2013 年別冊 2013 ; 102-106.
- 4) Narazaki H, Kaizu K, Miyatake C, Koizumi S, Asano T, Fujino O : Delayed-type hypersensitivity in response to L-asparaginase in a case of acute lymphoblastic leukemia. J Nippon Med Sch 2012 ; 79 (6) : 489-493.
- 5) 前田美穂 : 赤血球に必要な栄養成分が不足して起こる貧血. チャイルドヘルス 2012 ; 15 (6) : 405-409.
- 6) 森川浩子, 前田美穂, 春木伸一, 豊岡重剛 : 思春期貧血をなくす社会の絆. チャイルドヘルス 2012 ; 15 (6) : 435-437.
- 7) 前田美穂¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学小児科) : 最近, 問題となっているミネラル・ビタミンなどの過剰・欠乏古くて新しい鉄欠乏. 小児内科 2012 ; 44 (11) : 1901-1903.
- 8) Pawankar R, Potter P¹⁾ (¹⁾ University of Cape Town, South Africa) : Indications, efficacy, and safety of intranasal corticosteroids in rhinosinusitis.. World Allergy Organization J 2012 ; S1 : 14-17.
- 9) 田嶋華子, 高柳正樹 : 知っておきたい代謝異常症の知識 3 シトリン欠損症. 小児科 2012 ; 53 (10) : 1289-1296.
- 10) 田嶋 (菅野) 華子, 高柳正樹 : 新領域別症候群 先天代謝異常症候群 オルニチントランスカルバミラーゼ欠損症. 別冊 日本臨牀 2012 ; 19 : 211-215.
- 11) 田嶋華子, 高柳正樹 : 新領域別症候群 先天代謝異常症候群 オルニチントランスカルバミラーゼ欠損症. 別冊 日本臨牀 2012 ; 19 : 211-215.
- 12) Lotvall J¹⁾, Pawankar R, Wallace D²⁾, Akdis C³⁾ (¹⁾ Krefting Research Centre, University of Gothenburg, Goteborg, Sweden, ²⁾ Allergy Centre, Ft. Lauderdale, USA, ³⁾ Swiss Institute of Allergy, Davos, Switzerland) : We call for iCAALL : International Collaboration in Asthma, Allergy and Immunology. Allergy 2012 ; 67 (4) : 449-450.
- 13) 高瀬真人 : 小児の呼吸器系の解剖学的・生理的特徴. 小児内科 2013 ; 45 (1) : 7-10.
- 14) Imai T, Takase M, Takeda S, Hosone K, Tomiyama S, Nakanowatari Y : Fatal Tracheo-innominate Artery Fistula after Tracheostomy in a Patient with Pelizaeus-Merzbacher Disease. Journal of Nippon Medical School 2012 ; 79 (4) : 274-279.
- 15) 今井文英 : いびき症. 小児科 2012 ; 53 (11) : 1519-1525.

(3) 研究報告書：

- 1) 石田也寸志, 前田美穂 : 小児がん経験者の長期フォローアップガイドライン. 日本小児血液・がん学会雑誌 2012 ; 49 (3) : 272-273.
- 2) 土屋正巳¹⁾, 柳原 剛²⁾ (¹⁾ つちや小児科, ²⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院小児科) : [腎疾患治療マニュアル 2012-13] 検診 小児 (学校検尿と乳幼児腎臓検診). 腎と透析 2012 ; 72 (増刊) : 159-165.
- 3) 吉野美緒¹⁾, 川尻泰樹²⁾, 早川 潤¹⁾, 植田高弘¹⁾, 前田美穂¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学付属病院小児科, ²⁾ 首都大学東京人文科学研究科) : 小児がん経験者の認知機能晩期合併症のアセスメントと支援に関する研究. 財団法人がんの子供を守る会治療研究助成金研究報告書 2012.

(4) 症例報告：

- 1) 重盛朋子¹⁾, 伊藤保彦¹⁾, 五十嵐徹¹⁾, 安藝 薫²⁾, 柳原 剛²⁾, 清水 章³⁾, 福永慶隆¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学付属病

- 院小児科, ²⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院小児科, ³⁾ 日本医科大学第1病理学教室) : Tubulointerstitial nephritis and uveitis (TINU) 症候群の1女児例. 小児リウマチ 2012; 3 (2) : 85-88.
- 2) 白田岩男¹⁾, 黒澤照喜²⁾, 鈴木知子²⁾, 榊原裕史²⁾, 寺川敏郎²⁾, 竹田幸代, 松岡勇二郎³⁾, 横治征太郎⁴⁾ (¹⁾ 東京都立多摩総合医療センター麻酔科, ²⁾ 東京都立小児総合医療センター総合診療科, ³⁾ 東京都立墨東病院放射線科, ⁴⁾ 元東京都立府中病院小児科) : 大量の咯血を生じた原発性気管支動脈蔓状血管腫の2例. 日本小児呼吸器疾患学会雑誌 2013; 23 (2) : 155-164.
- 1) 植崎秀彦 : 血液症候群 (第2版) I—その他の血液疾患を含めて— 巨赤芽球形貧血 ホモシスチン尿症. 日本臨床 別冊 血液症候群 (第2版) I 2013; 102-106.

著書

〔追加分〕

追加分 :

- 1) Pawankar R, Sanches-Borges M¹⁾, Bonini S²⁾, Kaliner M³⁾ (¹⁾ Allergy Centre Caracas, ²⁾ University of Naples, ³⁾ Asthma Clinic, Washington) : [自著] Burden of Disease : Rhinitis, Conjunctivitis, Rhinosinusitis.. WAO White Book on Allergy, 2011; pp27-33.
- 2) Pawankar R, Canonica WG¹⁾, Holgate TS²⁾, Lockey FR³⁾ (¹⁾ Dept. of Resp Diseases and Allergy University of Genoa, Italy, ²⁾ Immunopharmacology, University of Southampton, UK, ³⁾ University of Tampa, Florida, USA) : [自著] Establishing the need to treat allergic diseases as a global public health issue. WAO White Book on Allergy, 2011; pp11-20.
- 3) Pawankar R, Canonica WG¹⁾, Holgate TS²⁾, Lockey FR³⁾ (¹⁾ Dept. of Resp Diseases and Allergy University of Genoa, Italy, ²⁾ Immunopharmacology, University of Southampton, UK, ³⁾ University of Tampa, Florida, USA) : [共著] How to Address Allergic Diseases as a Public Health Issue. WAO White Book on Allergy, 2011; pp21-23.
- 4) 小川俊一 : [分担] 川崎病性心血管障害. 今日の小児治療指針 第15版 (大関武彦, 古川漸, 横田俊一郎, 水口雅), 2012; pp493-495, 医学書院.
- 5) Pawankar R, Nonaka M, Kimura S (¹⁾ Dept. of Otolaryngology, Tokyo Womens Medical University) : [共著] Current Concepts on Pathomechanisms of Chronic Rhinosinusitis and Nasal Polyps. Nasal Polyposis (Mettin Onerci and Beryl Ferguson), 2011; pp181-193, Springer Verlag.
- 1) Corren J¹⁾, Baroody F²⁾, Pawankar R (¹⁾ San Diego Allergy Centre, ²⁾ Dept. of ORL, Chicago University) : [共著] Allergy and Non-Allergic Rhinitis. In Allergy. Lemanske and Holgate, 2013; Middleton.
- 2) 植田高弘 : [分担] 特定の疾患を目的とした検診. 小児内科, 2013; pp557-561, 東京医学社.
- 3) 前田美穂 : [分担] 悪性腫瘍 : 晩期合併症. 最新ガイドライン準拠. 小児科診療・治療指針 (遠藤文夫), 2012; pp919-922, 中山書店.
- 4) 高木篤史, 右田 真 : [分担] マルチプルスルファターゼ欠損症. 先天代謝異常ハンドブック (遠藤文夫, 山口清次, 大浦敏博, 奥山虎之), 2013; pp232-233, 中山書店.
- 5) 田嶋華子 : [分担] 6章 ライソゾーム病 異染色性白質ジストロフィー. 先天代謝異常ハンドブック (遠藤文夫), 2013; pp220-221, 中山書店.
- 6) Pawankar R : [分担] Immunotherapy and Biologics - Future Perspectives in Allergic Diseases. Update on Allergic Diseases (Shah and Agarwal), 2013; pp28-37, International Medical.

学会発表

〔追加分〕

追加分シンポジウム：

- 1) Pawankar R : Role of IgE in Chronic Rhinosinusitis. 61st Annual meeting of Japanese Society of Allergology (Tokyo), 2011. 11.
- 2) Pawankar R : Asthma, Allergic rhinitis and co-morbidities OME and Rhinosinusitis. First World Allergy Organization and Chinese Society of Allergology Symposium (Chengdu, China), 2011. 10.
- 3) Pawankar R : Immunotherapy and Immunomodulators in allergic airway disease. First World Allergy Organization and Chinese Society of Allergology Symposium (Chengdu, China), 2011. 10.
- 4) Pawankar R : WAO Symposium : Asthma Comorbidities : Rhinitis. Annual meeting of American College of Allergy Asthma and Immunology (Boston, USA), 2011. 11.
- 5) Pawankar R : Allergic Rhinitis : pathomechanisms to evidence-based treatment. 8th Annual Congress of Indian Academy of Allergy (Bengaluru, India), 2011. 8.
- 6) Pawankar R : Rhinosinusitis : Practical aspects and guidelines. 8th Annual Congress of Indian Academy of Allergy (Bengaluru, India), 2011. 8.
- 7) Pawankar R : Comorbidities of allergic rhinitis.. Monterrey International Allergy Symposium, 2011. 7.
- 8) Pawankar R : Allergic Rhinitis and co-morbid asthma - Update on evidence based management. 2nd Middle East Asia Allergy Asthma Immunology Congress (Dubai, UAE), 2011. 4.
- 9) Pawankar R : Rational behind Anti-IgE in allergic airway disease.. 2nd Middle East Asia Allergy Asthma Immunology Congress (Dubai, UAE), 2011. 4.
- 10) Pawankar R : Immune Mechanisms of Anaphylaxis. 2nd Middle East Asia Allergy Asthma Immunology Congress (Dubai, UAE), 2011. 4.
- 11) Pawankar R : Year in Review : Co-morbidities of Allergic rhinitis.. 30th Annual Congress of the European Academy of Allergy Asthma and Clinical Immunology (Istanbul), 2011. 6.
- 12) 桑原健太郎：小児の頭痛の疫学（小児の頭痛）。日本小児神経学会総会（53）（神奈川県），2011. 5.
- 13) 桑原健太郎：小児の頭痛の疫学（小児の頭痛）。日本小児神経学会総会（53）（神奈川県横浜），2011. 5.
- 14) Pawankar R : International Perspectives and Consensus on Sublingual Immunotherapy. 第51回日本鼻科学会総会ならびに学術講演会（千葉，幕張メッセ），2012. 9.

追加分セミナー：

- 1) Pawankar R : Research and Clinical needs in Rhinitis. Davos Allergy Forum (Davos, Switzerland), 2011. 7.

追加分ワークショップ：

- 1) Pawankar R : Nasal endoscopy and nasal challenge test.. 2nd Middle East Asia Allergy Asthma Immunology Congress (Dubai, UAE), 2011. 4.
- 2) Pawankar R : Diagnosis of Allergic rhinitis. 30th Annual Congress of the European Academy of Allergy Asthma and Clinical Immunology (Istanbul), 2011. 6.

追加分一般講演：

- 1) Mori S, Pawankar R, Ozu C : MMP 2, 9 and 13 expression in allergic nasal mucosa. ISAJ symposium 2011 (東京), 2011. 9.
- 2) 岡田 創, 宮武千晴, 小泉慎也, 海津聖彦, 榑崎秀彦, 浅野 健, 藤野 修：治療終了後再燃を認めた細菌性赤痢の1例。日本小児科学会千葉地方会（第191回）（千葉），2012. 2.

追加分特別講演：

- 1) Pawankar R : The WAO White Book on Allergy. 8th Asian Pacific Association of Pediatric Allergy Respiriology and Immunology (福岡), 2011. 10.
- 2) Pawankar R : Anaphylaxis : Etiology and Management. 8th Annual Congress of Indian Academy of Allergy (Bengaluru, India), 2011. 8.
- 3) Pawankar R : Allergy a Public Health Issue : The WAO White Book on Allergy. Monterrey International Allergy Symposium (Monterrey, Mexico), 2011. 7.
- 4) Pawankar R : Role of IgE in allergic airway disease. Severe Asthma and Allergy Update Oman (Oman), 2011. 4.
- 5) Pawankar R : Rational of IgE blockade in the management of severe asthma with co-morbid allergic rhinitis. Severe Asthma and Allergy Update Oman (Muscat,Oman), 2011. 4.
- 6) Pawankar R : Update on the Management of Rhinosinusitis. Symposium of Indian Academy of Allergy (Bengaluru, India), 2011. 4.
- 7) Ogawa S : Rheological Assessment of Coronary Artery Lesions after Kawasaki Disease. The 10th International Kawasaki Disease Symposium (KYPTO, JAPAN), 2012. 2.

(1) 特別講演：

- 1) Pawankar R : Rational behind Anti-IgE treatment in severe allergic airway disease. Asthma and Allergy Update (Hyderabad, India), 2012. 12.
- 2) Pawankar R : Recent Advances in Understanding and Management of Allergic Rhinitis with Update on ARIA Guideline. Indian Academy of Allergy (Bengaluru, India), 2012. 5.
- 3) Pawankar R : A Holistic Approach to Severe and Complex Allergies. 2012 WAO International Scientific Conference (Hyderabad, India), 2012. 12.
- 4) Pawankar R : Currents insights in understanding and managing allergic rhinitis and asthma : from concepts to reality. The 6th National Update in Respiratory Medicine (Mumbai, India), 2012. 12.
- 5) Pawankar R : Inflammation and Remodeling in asthma : What are the key biomarkers?. The 6th National Update in Respiratory Medicine (Mumbai, India), 2012. 12.
- 6) 小川俊一 : 川崎病冠動脈病変の変遷 : その機序と対応. 日本心臓病学会学術集会 (第60回) (金沢), 2012. 9.
- 7) 小川俊一 : レオロジーから見た冠動脈病変の評価. 岡山川崎病研究会 (第8回) (岡山), 2012. 11.
- 8) Pawankar R : Biodiversity, the Human Nasal Microbiota and Upper Airway Disease. 14th Annual Congress of Malaysian Society of Allergy and Immunology and Joint Congress with Allergy and Clinical Immunology Society of Singapore (Kuala Lumpur, Malaysia), 2013. 3.
- 9) Pawankar R : Allergy a Global Health Problem : The WAO White Book on Allergy Addressing the issues. World Congress of Asthma and COPD (New York, USA), 2012. 4.
- 10) Pawankar R : Epithelial cell-immune cell interactions in allergic airways disease. 2012 Congress of Asian Pacific Association of Pediatric Allergy Respiriology and Immunology (Taipei, Taiwan), 2012. 10.
- 11) Pawankar R : Food Allergy : Global Burden and Challenges. First Asia Pacific Summit on Food Allergy and the Thai Allergy Society Meeting (Bangkok, Thailand), 2012. 7.

(2) シンポジウム：

- 1) Pawankar R : Mechanisms of Upper Airway Inflammation- State of the Art. 2012 WAO International Scientific Conference (Hyderabad, India), 2012. 12.
- 2) Pawankar R : The Impact of Allergic Rhinitis on Asthma - The Asian Perspective. 2012 WAO International

- Scientific Conference (Hyderabad, India), 2012. 12.
- 3) Pawankar R : Allergic Rhinitis, rhinosinusitis and Asthma. International Forum on Infectious Diseases (Manila, Philippines), 2012. 9.
 - 4) 桑原健太郎 : 小児科領域のてんかん関連頭痛 (頭痛とてんかんの関連性). 日本頭痛学会総会 (40) (東京都), 2012. 11.
 - 5) Pawankar R : Severe Upper Airways Disease. 2012 WAO International Scientific Conference (Hyderabad, India), 2012. 12.
 - 6) Pawankar R : A Holistic Approach to Severe and Complex Allergies. 2012 WAO International Scientific Conference (Hyderabad, India), 2012. 12.
 - 7) Pawankar R : Burden, QOL, Socio-economics of Asthma and Rhinitis in the Asia Pacific. 2012 WAO International Scientific Conference (Hyderabad, India), 2012. 12.
 - 8) Pawankar R : WAO SLIT PP update 2012 and Molecular Allergy Diagnosis Consensus. Highlights in Allergy and Respiratory Diseases Tentative Programme (Genoa, Italy), 2012. 11.
 - 9) Pawankar R : Eosinophilic otitis media. IXth Rhinocamp Winter (Crans Montana, Switzerland), 2013. 3.
 - 10) Ogawa S : Current advances in Kawasaki disease "Sequelae of Kawasaki disease in young adults". World Congress of Cardiology 2012 (Dubai, UAE), 2012. 4.
 - 11) Pawankar R : World Allergy Forum : Advances in Tolerance Induction to Allergens. 2013 Annual Meeting of the American Academy of Allergy Asthma and Immunology (San Antonio, USA), 2013. 2.
 - 12) Pawankar R : Comprehensive Allergy Programs : Global Disease Burden, Future Predictions and a Systematic Approach to Reduce the Burden. 2013 Annual Meeting of the American Academy of Allergy Asthma and Immunology (San Antonio, USA), 2013. 2.
 - 13) Pawankar R : Role of the World Allergy Organization in Addressing Global Burden of Allergy. 2013 Annual Meeting of the American Academy of Allergy Asthma and Immunology (San Antonio, USA), 2013. 2.
 - 14) Pawankar R : Current Consensus on Molecular-based Allergy Diagnosis. 14th Annual Congress of Malaysian Society of Allergy and Immunology and Joint Congress with Allergy and Clinical Immunology Society of Singapore (Kuala Lumpur, Malaysia), 2013. 3.
 - 15) 深澤隆治 : 後遺症を有する患者の遠隔期診療に対する学会集会からの recommendation. 日本川崎病学会 (第 32 回) (東京), 2012. 10.
 - 16) Pawankar R : Current Concepts on the Versatile role of Mast cells in Airways Disease : From Inflammation to Remodeling. Symposium on Experimental Rhinology of the Nose (SERIN) (Leuven, Belgium), 2013. 3.
 - 17) Pawankar R : Current Concepts on the Versatile role of Mast cells in Airways Disease : From Inflammation to Remodeling. Symposium on Experimental Rhinology of the Nose (SERIN) (Leuven, Belgium), 2013. 3.
 - 18) Pawankar R : Current Concepts on the Versatile Role of Mast cells in Airways Disease : From Inflammation to Remodeling. Symposium on Experimental Rhinology of the Nose (SERIN) (Leuven, Belgium), 2013. 3.
 - 19) Pawankar R : Allergic Rhinitis and Asthma : From Concepts to Reality. World Congress on Asthma and COPD (New York), 2012. 4.
 - 20) Pawankar R : IgE-immune cell interactions in allergic disease : clinical implications and therapeutic directions. World Congress of Asthma and COPD (New York, USA), 2012. 4.
 - 21) Pawankar R : Allergic Rhinitis and Asthma in Asia Pacific. 2012 Congress of Asian Pacific Association of Pediatric Allergy Respiratory and Immunology (Taipei, Taiwan), 2012. 10.
 - 22) Pawankar R : Epithelial cells as immunodulatory cells in allergic inflammation. Biennial Congress of the Latin American Society of Allergy Asthma and Immunology (Cartegena, Columbia), 2012. 10.

- 23) Pawankar R : Current concepts on the pathomechanisms of nasal polyps. Biennial Congress of the Latin American Society of Allergy Astma and Immunology (Cartegena, Columbia), 2012. 10.
- (3) パネルディスカッション :
- 1) 深澤隆治 : 巨大冠動脈瘤全国調査における死亡例の検討. 禁忌川崎病研究会 (大阪), 2013. 3.
- (4) セミナー :
- 1) Pawankar R : Impact of Environment on Health. What are the challenges. United Nations Seminar on Sustainable Development a Pre Event to the Rio+20 (New York, USA), 2012. 4.
- (5) ワークショップ :
- 1) Pawankar R : Nasal Challenge Testing. 2012 WAO International Scientific Conference (Hyderabad,India), 2012. 12.
 - 2) Pawankar R : UPPER AIRWAY ALLERGIES TRACK - Objective Assessment of Upper Airway Diseases : Nasal Challenge Tests. 2012 WAO International Scientific Conference (Hyderabad, India), 2012. 12.
 - 3) Maeda M : A survey of disseminated juvenile xanthogranuloma in Japan.. 日本小児血液・がん学会 (第54回) (横浜), 2012. 11.
 - 4) 渡邊 誠, 深澤隆治, 大久保隆志, 橋本康司, 阿部正徳, 林 美雪, 赤尾見春, 池上 英, 上砂光裕, 勝部康弘, 小川俊一 : Biomechanical factors. 日本小児科循環器学会 (第48回) (京都), 2012. 7.
 - 5) 渡邊 誠, 深澤隆治, 大久保隆志, 橋本康司, 阿部正徳, 林 美雪, 赤尾見春, 池上 英, 上砂光裕, 勝部康弘, 小川俊一 : Biomechanical factors による冠循環動態の評価. 日本小児循環器学会 (第48回) (京都), 2012. 7.
- (6) ポスター :
- 1) 池上 英, 小川俊一, 勝部康弘, 深澤隆治, 上砂光裕, 大久保隆志, 赤尾見春, 阿部正徳, 林 美雪, 渡邊 誠, 鈴木伸子 : 川崎病冠動脈瘤部位での動脈硬化マーカーの検討. 日本小児循環器学会 (第48回) (京都), 2012. 7.
 - 2) 林 美雪, 深澤隆治, 橋本康司, 阿部正徳, 赤尾見春, 池上 英, 大久保隆志, 上砂光裕, 勝部康弘, 小川俊一 : 川崎病後巨大冠動脈瘤症例における心電図変化と病態・臨床像の検討. 日本小児循環器学会 (第48回) (京都), 2012. 7.
 - 3) 阿部正徳, 渡邊 誠, 林 美雪, 鈴木伸子, 池上 英, 大久保隆志, 上砂光裕, 赤尾見春, 勝部康弘, 深澤隆治, 小川俊一 : 左冠動脈瘤直下の心筋障害と穿通枝の関与. 日本小児循環器学会 (第48回) (京都), 2012. 7.
 - 4) 橋本康司, 渡邊 誠, 阿部正徳, 林 美雪, 池上 英, 大久保隆志, 上砂光裕, 深澤隆治, 勝部康弘, 小川俊一, 落 雅美 : CAGB 後10年以上経過した川崎病後冠動脈障害患者の予後の評価. 日本小児循環器学会 (第48回) (京都), 2012. 7.
 - 5) 赤尾見春, 勝部康弘, 上砂光裕, 鈴木伸子, 渡邊 誠, 阿部正徳, 林 美雪, 池上 英, 深澤隆治, 小川俊一 : 川崎病発症から半年後までの心機能とバイオマーカーの推移. 日本小児循環器学会 (第48回) (京都), 2012. 7.
 - 6) 阿部正徳, 深澤隆治, 池上 英, 高瀬正人 : 思春期学童にたいする内科と小児科との連携の難しさ. 日本小児科学会 (第115回) (福岡), 2012. 4.
- (7) 一般講演 :
- 1) 大塚雅美, 竹下 輝, 藤井秀一, 大矢浩子, 山西未穂, 赤尾見春, 柳原 剛, 上砂光裕, 右田 真, 藤田武久, 勝部康弘 ⁽¹⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院周産期・小児医療センター小児科) : 幼児検尿で発見されたアルポート症候群の1例. 川崎市小児科医会症例検討会 (第330回) (川崎), 2012. 4.
 - 2) 右田 真, 竹下 輝, 藤井秀一, 大塚雅美, 大矢浩子, 山西未穂, 赤尾見春, 柳原 剛, 上砂光裕, 藤田武久, 勝部康弘 ⁽¹⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院周産期・小児医療センター小児科) : アデノイド口蓋扁桃摘出術後, 4

- 年の後に耳鼻扁桃肥大による OSAS 再発を認めた 1 例. 川崎市小児科医学会症例検討会 (第 330 回) (川崎), 2012. 4.
- 3) 高橋 翼⁽¹⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院周産期・小児医療センター小児外科): 小児外科 Annual Report 2011. 川崎市小児科医学会症例検討会 (第 330 回) (川崎), 2012. 4.
 - 4) 赤尾見春⁽¹⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院周産期・小児医療センター小児科): 川崎病の急性期と遠隔期における心機能ならびにバイオマーカーの比較. 関東川崎病研究会 (第 29 回) (東京), 2012. 6.
 - 5) Kimura S, Pawankar R, Mori S, Nonaka IM⁽¹⁾ Dept. of Otolaryngology, Tokyo Women Medical University): Increased expression and role of Thymic Stromal Lymphopoietin in Nasal Polyposis. World Allergy Congress 2011 (Cancun, Mexico), 2011.
 - 6) 一本邦彦⁽¹⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院周産期・小児医療センター新生児内科): 武蔵小杉病院 NICU 拡張後の活動報告. 日本医科大学医学会総会 (第 80 回) (東京), 2012. 9.
 - 7) 勝部康弘, 赤尾見春, 上砂光裕, 阿部正徳, 池上 英, 橋本康司, 渡辺 誠, 林 美雪, 深澤隆治, 小川俊一⁽¹⁾ 日本医科大学小児科): 血管炎のバイオマーカー, ペントラキシン 3 の川崎病への応用. 日本川崎病学会・学術集会 (第 32 回) (東京), 2012. 10.
 - 8) 赤尾見春¹⁾, 勝部康弘¹⁾, 上砂光裕¹⁾, 橋本康司²⁾, 渡邊 誠²⁾, 阿部正徳²⁾, 林 美雪²⁾, 池上 英²⁾, 深澤隆治²⁾, 小川俊一²⁾ ⁽¹⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院小児科, ⁽²⁾ 日本医科大学付属病院小児科): 川崎病急性期と回復期における左室収縮機能の 2D speckle tracking 法を用いた評価と病型による相違. 日本川崎病学会・学術集会 (第 32 回) (東京), 2012. 10.
 - 9) 上砂光裕¹⁾, 勝部康弘¹⁾, 赤尾見春¹⁾, 渡邊 誠²⁾, 阿部正徳²⁾, 池上 英²⁾, 大久保隆志²⁾, 深澤隆治²⁾, 小川俊一²⁾, 落 雅美³⁾ ⁽¹⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院小児科, ⁽²⁾ 日本医科大学付属病院小児科, ⁽³⁾ 日本医科大学付属病院心臓血管外科): 冠動脈バイパス術後 10 年以上経過した巨大冠動脈瘤合併川崎病の 2 例. 日本川崎病学会・学術集会 (第 32 回) (東京), 2012. 10.
 - 10) 竹下 輝, 岡田 創, 大塚雅美, 山西未穂, 赤尾見春, 柳原 剛, 上砂光裕, 右田 真, 藤田武久, 勝部康弘⁽¹⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院周産期・小児医療センター小児科): 溶血性尿毒症症候群の 1 例. 川崎市小児科医学会症例検討会 (第 335 回) (川崎), 2012. 10.
 - 11) 大塚雅美¹⁾, 岡田 創¹⁾, 竹下 輝¹⁾, 山西未穂¹⁾, 赤尾見春¹⁾, 柳原 剛¹⁾, 上砂光裕¹⁾, 右田 真¹⁾, 藤田武久¹⁾, 勝部康弘¹⁾, 一本邦彦²⁾, 松村好克²⁾, 矢代健太郎²⁾ ⁽¹⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院周産期・小児医療センター小児科, ⁽²⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院周産期・小児医療センター新生児内科): Late onset の GBS による新生児の髄膜炎. 川崎市小児科医学会症例検討会 (第 335 回) (川崎), 2012. 10.
 - 12) 桑原健太郎: 小児の頭痛. 川崎市小児科医学会症例検討会 (第 335 回) (川崎), 2012. 10.
 - 13) 桑原健太郎¹⁾: 小児の慢性連日性頭痛と薬物乱用頭痛: 東京都多摩市小児頭痛調査. 日本頭痛学会総会 (40) (神奈川県), 2012. 11.
 - 14) 桑原健太郎¹⁾, 飛田正俊²⁾, 前原幸治³⁾, 中村弘之⁴⁾, 佐藤秀紀⁵⁾, 高瀬真人⁶⁾ ⁽¹⁾ 日本医科大学付属病院小児科, ⁽²⁾ 多摩市立松台小学校 学校医・多摩市学校保健会 理事, ⁽³⁾ 多摩市立多摩第一小学校学校医・多摩市学校保健会 理事, ⁽⁴⁾ 多摩市立北諏訪小学校 学校医・多摩市学校保健会会長, ⁽⁵⁾ 多摩市立多摩第三小学校 学校医・多摩市学校保健会 顧問, ⁽⁶⁾ 日本医科大学多摩永山病院 小児科): 東京都多摩市小中学生における頭痛実態調査. 全国学校保健・学校医大会 (43) (熊本), 2012. 11.
 - 15) 竹下 輝¹⁾, 赤尾見春¹⁾, 右田 真¹⁾, 藤田武久¹⁾, 勝部康弘¹⁾, 木下賀央里²⁾, 岡本淳一³⁾ ⁽¹⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院周産期小児医療センター小児科, ⁽²⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院呼吸器内科, ⁽³⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院呼吸器外科): 膿胸のたいし開胸洗浄ドレナージを必要とした重症心身障害者の 1 例. 神奈川小児神経懇話会 (第 51 回) (横浜), 2013. 1.
 - 16) 浅野 健, 宮武千晴, 小泉慎也, 海津聖彦, 檜崎秀彦, 藤野 修: 境界型脳症の提唱と髄液の NMR 代謝解析.

- 日本小児科学会（第115回）（福岡），2012. 4.
- 17) 海津聖彦, 藤井秀一, 竹間友紀, 松川昇平, 榑崎秀彦, 浅野 健, 齊藤信行, 益子邦洋, 藤野 修⁽¹⁾ 救命救急科)：低栄養素が誘因で血栓性血小板減少性紫斑病を呈した症例：ネグレクトの1例. 日本小児科学会（第115回）（福岡），2012. 4.
 - 18) 寺田有佑, 星野レイ, 稲垣真一郎, 海津聖彦, 榑崎秀彦, 浅野 健, 藤野 修：小舞蹈病の発症により診断し得たリウマチ熱の1例. 日本小児神経学会関東地方会（第57回）（東京），2012. 9.
 - 19) 藤野 修, 宮武千晴, 小泉慎也, 岡田 創, 海津聖彦, 榑崎秀彦, 浅野 健, 小坂 仁, 黒沢健司, 高梨潤一：Pelizaeus Merzbacher 病の1例. 日本小児科学会学術集会（第115回）（福岡），2012. 4.
 - 20) 小泉慎也, 宮武千晴, 海津聖彦, 榑崎秀彦, 浅野 健, 藤野 修：細菌性髄膜炎後に高次脳機能障害を発症した1女児例. 日本小児科学会学術集会（第115回）（福岡），2012. 4.
 - 21) 藤野 修, 浅野 健, 榑崎秀彦, 海津聖彦, 稲垣真一郎, 星野レイ, 寺田有佑：10年以上の経過（？）でてんかんと診断・治療に至った男児例. 北総てんかん懇話会（第5回）（千葉），2013. 2.
 - 22) 星野レイ, 熊坂 栄, 中島瑞恵, 峯 牧子, 横山愛子, 寺田有佑, 島 義雄：小眼球症の同胞例. 日本周産期・新生児医学会学術集会（第48回）（埼玉），2012. 7.
 - 23) Asano T, Narazaki H, Yamanishi M, Kaizu K, Inagaki S, Gocho Y, Fujita A, Kobayashi F, Hayakawa J, Ueda T, Maeda M：DNA methylation in etoposide resistance leukemia：p38 MAPK is a novel candidate for resistance. 日本血液学会（第74回）（京都），2012. 10.
 - 24) 浅野 健, 田嶋華子, 平川慶子, 小池 薫, 大野曜吉：成長ホルモン分泌不全症児における成長ホルモン前後での代謝変化：尿を用いたプロトンNMRによる解析. 日本小児内分泌学会（第46回）（大阪），2012. 9.
 - 25) 浅野 健, 山西未穂, 牛腸義宏, 稲垣真一郎, 藤田敦士, 小林史子, 海津聖彦, 早川 潤, 植田高広, 前田美穂：Cell-able システムを用いた新しい白血病細胞培養系の構築. 日本小児血液・がん学会（第54回）（横浜），2012. 11.
 - 26) 石田也寸志, 前田美穂, 青木由貴, 加藤陽子, 清谷知賀子, 後藤晶子, 坂口佐知, 杉田憲一, 徳山美香, 中館尚也：急性リンパ性白血病治療後の2次がん：TCCSG 11 次案以降登録症例の検討. 日本小児科学会学術集会（第115回）（福岡），2012. 4.
 - 27) 早川 潤, 小川俊一, 藤井秀一, 宮地麻衣, 尾崎優介, 植田高弘, 渡邊 誠, 大木由加志, 前田美穂, 福永慶隆：コイル栓塞術を施行した遺伝性出血性末梢血管拡張症の母子例. 日本小児科学会学術集会（第115回）（福岡），2012. 4.
 - 28) 藤井秀一, 重盛朋子, 伊藤保彦, 前田美穂, 福永慶隆：著明な肝機能障害と円盤状ループスを生じたコクサッキー A6 感染症の1例. 日本小児科学会学術集会（第115回）（福岡），2012. 4.
 - 29) 角田 隆, 星川直哉, 野呂瀬嘉彦, 前田美穂, 楠崎克之, 高井信朗：アクリジンオレンジ光線力学療法による新しい感染症治療法の検討. 骨関節感染症学会（鹿児島），2012. 4.
 - 30) Hayakawa J, Ueda T, Fuhiiwara Y, Ozaki Y, Wakita S, Maeda M, Ito Y：Successful coil embolization for severlife-threatening hemorrhage from superior mesenteric artery during induction therapy in childhood acute lymphoblastic leukemia.. 日本血液学会学術集会（第74回）（京都），2012. 10.
 - 31) Asano T, Narazaki H, Yamanishi M, Kaizu K, Inagaki S, Gotyo Y, Fujita A, Kobayashi F, Hayakawa J, Ueda T, Maeda M：DNA methylation in etoposide resistance leukemia：p38MAPK is a novel candidate for resistance.. 日本血液学会学術集会（第74回）（京都），2012. 10.
 - 32) Takahashi H, Koh K, Kato M, Fukushima T, Inukai T, Kiyokawa N, Taki T, Saito M, Kajiwara M, Ogawa C, Maeda M, Manabe A, Kikuchi A, Hayashi Y, Hanada R：Characteristics and prognostic impacts of structural chromosomal abnormalities in childhood ALL.. 日本血液学会学術集会（第74回）（京都），2012. 10.

- 33) 早川 晶, 山口悦子, 瓜生英子, 軟部美紗子, 原田寛己, 根本文佳, 栗山貴久, 辻 尚子, 力石 健, 浅見恵子, 岩井艶子, 大園秀一, 清谷知賀子, 堀 浩樹, 前田尚子: 小児がん経験者のための長期フォローアップ教育指導ツールの開発. 日本小児血液・がん学会 (横浜), 2012. 11.
- 34) 加藤陽子, 前田美穂, 青木由貴, 石井栄三郎, 石田也寸志, 清谷知賀子, 後藤晶子, 坂口佐知, 杉田憲一, 徳山美香, 中館尚也, 菊池 陽, 土田昌宏, 小原 明: 小児がん患児の骨髄検査時の鎮静・鎮痛の現状と問題点: TCCSG 施設調査より. 日本小児血液・がん学会 (横浜), 2012. 11.
- 35) 浅野 健, 山西未穂, 牛腸義宏, 稲垣真一郎, 小林史子, 早川 潤, 植田高弘, 前田美穂: Cell-able システムを用いた新しい白血病細胞培養系の構築. 日本小児血液・がん学会 (第 54 回) (横浜), 2012. 11.
- 36) 板橋寿和, 早川 潤, 竹下 輝, 阿部正徳, 植田高弘, 高瀬真人, 前田美穂: 肺所見の著明な改善を認めた MS 型ランゲルハンス細胞組織球症の 7 歳男児例. 日本小児血液・がん学会 (第 54 回) (横浜), 2012. 11.
- 37) 近藤 統, 前田美穂, 澤田明久, 安井昌博, 清水真里子, 樋口紘平, 佐藤真穂, 井上雅美: 再発進行神経芽腫に対する TCR α β 陽性細胞/CD19 陽性細胞除去同種造血細胞移植 + ドナーリンパ球輸注の有用性. 日本小児血液・がん学会 (第 54 回) (横浜), 2012. 11.
- 38) 前田美穂: 学校保健と貧血. 和歌山市医師会学校医部会講演会 (和歌山市医師会学校医部会), 2012. 5.
- 39) 前田美穂: 中学生・高校生における貧血検診の意義: 貧血検診で見つかる異常. 武蔵野小児血液・腫瘍懇話会 (第 20 回) (立川), 2013. 2.
- 40) 尾崎優介, 早川 潤, 藤井秀一, 渡邊 誠, 峯 牧子, 高木篤史, 鳥 義雄, 右田 真, 小川俊一, 福永慶隆: 当科で経験した Beals 症候群. 日本小児科学会 (第 115 回) (福岡), 2012. 4.
- 41) 早川 潤, 小川俊一, 藤井秀一, 宮地麻衣, 尾崎優介, 植田高弘, 渡邊 誠, 大木由加志, 前田美穂, 福永慶隆: コイル塞栓術を施行した遺伝性出血性末梢血管拡張症 (HHT) の母子例. 日本小児科学会 (第 115 回) (福岡), 2012. 4.
- 42) 板橋寿和, 早川 潤, 阿部正徳, 植田高弘, 高瀬真人, 前田美穂, 伊藤保彦: 肺所見の著明な改善を認めた MS 型ランゲルハンス細胞組織球症の 1 例. 日本医科大学医学会総会 (第 80 回) (東京), 2012. 9.
- 43) Ishida Y, Maeda M, Kiyotani C, Aoki Y, Kato Y, Goto S, Sakaguti S, Sutita K, Tokuyama M, Nakadate N, Ishii E, Tsuchida M, Hosoya R: Secondary cancers among children diagnosed with acute lymphoblastic leukemia from L84-11to L99-15 Tokyo Childrens Cancer Study Group protocols.. Congress lof the International Society of Paediatric Oncology (London), 2012. 10.
- 44) 柳原 剛¹⁾, 吉崎 薫¹⁾, 多田奈緒¹⁾, 五十嵐徹²⁾, 伊藤保彦²⁾ (1) 日本医科大学武蔵小杉病院小児科, 2) 日本医科大学付属病院小児科: 免疫抑制療法を行わなかった IgA 腎症患者における腎生検所見の推移. 日本小児腎臓病学会学術集会 (第 47 回) (東京), 2012. 6.
- 45) 五十嵐徹¹⁾, 清水 章³⁾, 吉崎 薫²⁾, 柳原 剛²⁾, 伊藤保彦¹⁾ (1) 日本医科大学属病院小児科, 2) 日本医科大学武蔵小杉病院小児科, 3) 日本医科大学第 1 病理学教室: 溶連菌感染症が関与したと考えられる管内増殖性腎炎を合併した Dense Deposit Disease の 1 例. 日本小児腎臓病学会学術集会 (第 47 回) (東京), 2012. 6.
- 46) Tajima H, Miyake K, Watanabe A, Iijima O, Narisawa S, Millan-L J, Fukunaga Y, Shimada T: SUCCESSFUL GENE THERAPY IN UTERO FOR LETHAL MURINE HYPOPHOSPHATASIA. 6th international alkaline phosphatase symposium (Huningue-FRANCE), 2012. 5.
- 47) Sugano (Tajima) H, Miyake K, Watanabe A, Iijima O, Narisawa S, Millan-L J, Fukunaga Y, Shimada T: SUCCESSFUL GENE THERAPY IN UTERO FOR LETHAL MURINE HYPOPHOSPHATASIA. 6th International Alkaline phosphatase symposium (Huningue (France)), 2012. 5.
- 48) 吉野美緒¹⁾, 川尻泰樹²⁾, 市村美帆³⁾, 稲本絵里⁴⁾, 重村朋子⁵⁾, 松井 豊⁶⁾, 増野智彦⁵⁾, 横田裕行⁵⁾ (1) 日本医科大学付属病院小児科, 2) 首都大学東京人文科学研究科, 3) 東洋大学, 4) 日本医科大学多摩永山病院, 5) 日本医科大学付属病院高度救命救急センター, 6) 筑波大学: 病院前救急診療活動に従事する看護師の精神的健康度

- に関する研究. 日本臨床救急医学会 (第 15 回) (熊本), 2012. 6.
- 49) 川上康彦, 齊藤賢一, 村島善也, 小泉慎也, 桑原健太郎, 藤田武久, 藤野 修, 福永慶隆: リン酸オセルタミビル投与による EL マウス脳内ドパミンニューロンの発現変化. 日本小児神経学会 (第 54 回) (北海道札幌市), 2012. 5.
- 50) 齊藤賢一, 清水章代, 馬場亜沙美, 川上康彦: Theophylline 投与がおよぼすマウスの vitamin B6 の血中濃度と EEG の変化. 日本先天異常学会 (第 52 回), 2012. 7.
- 51) 池上 英, 小川俊一, 勝部康弘, 深澤隆治, 上砂光裕, 大久保隆志, 赤尾美春, 阿部正徳, 渡邊 誠: 川崎病冠動脈瘤部位での動脈硬化マーカーの検討. 日本小児循環器学会 (第 48 回) (京都府京都市), 2012. 7.
- 52) 阿部正徳, 渡邊 誠, 林 美雪, 鈴木伸子, 池上 英, 大久保隆志, 上砂光裕, 赤尾美春, 勝部康弘, 深澤隆治, 小川俊一: 左冠動脈瘤直下の心筋障害と穿通枝の関与. 日本小児循環器学会 (第 48 回) (京都府京都市), 2012. 7.
- 53) 板橋寿和, 早川 潤, 竹下 輝, 阿部正徳, 植田高弘, 高瀬真人, 前田美穂, 伊藤康彦: 頸椎病変を伴った肺ラングルハンス細胞組織球症の 1 例. 日本小児呼吸器疾患学会 (第 45 回) (北海道旭川市), 2012. 9.
- 54) Fukazawa R, Saji T, Nakamura Y, Ktoh H, Tsuda E, Ayusawa M, Miura M, Kobayashi T, Matsuura H, Ogawa S: National Survey of Kawasaki Disease Patients with Giant Aneurysm in Recent 10 Years. Annual Scientific Meeting of the Japan Circulation Society (The 77th) (横浜), 2013. 3.
- 55) Ohashi R, Fukazawa R, Ohno N, Ogawa S: Comparison of 4 Different Biological Agents for Suppression of Arteritis in a Kawasaki Disease Mouse Model. Annual Scientific Meeting of the Japan Circulation Society (The 77th) (横浜), 2013. 3.
- 56) 深澤隆治, 渡邊 誠, 小川俊一: 川崎病モデルハウスにおける血管炎の発症機序の解明. 日本心臓病学会 (第 60 回) (金沢), 2012. 9.
- 57) 深澤隆治, 濱岡建城, 佐地 勉, 津田悦子, 鮎沢 衛, 鈴木啓之, 松裏裕行, 三浦 大, 小林 徹, 賀藤 均, 屋代真弓, 中村好一, 阿部 淳, 小川俊一: 最近 10 年における川崎病巨大冠動脈瘤の実態全国調査—第 1 報. 関東川崎病研究会 (第 29 回), 2012. 6.
- 58) 深澤隆治, 大野尚仁, 三浦典子, 渡邊 誠, 阿部正徳, 林 美雪, 池上 英, 橋本康司: 川崎病モデルマウス遺伝子解析による川崎病発症機構の解明. 日本小児循環器学会 (第 48 回) (京都), 2012. 7.
- 59) Sugano H, Matsumoto T, Miyake K, Watanabe A, Iijima O, Migita M, Narisawa S, Millan J, Fukunaga Y, Shimada T: Successful gene therapy in utero for lethal murine hypophosphatasia. 6th International Alkaline phosphatase symposium, 2012. 5.
- 60) 入野さつき¹⁾, 久保田亮²⁾, 大平賢太郎¹⁾, 五十嵐徹⁴⁾, 川上保子³⁾, 金森きよ子³⁾, 芝紀代子¹⁾ (¹⁾ 文京学院大学大学院保健医療科学研究科, ²⁾ 埼玉県立大学保健医療福祉学部健康開発学科, ³⁾ 文京学院大学保健医療技術学部臨床検査学科, ⁴⁾ 日本医科大学付属病院小児科): 起立性蛋白尿を判断する前彎負荷試験後に増加する尿中蛋白の解析. 日本臨床検査医学会学術集会 (第 59 回) (京都), 2012. 11.
- 61) 五十嵐徹, 清水 章, 吉崎 薫, 重盛朋子, 伊藤保彦, 福永慶隆: entecavir により尿蛋白が減少した小児期発症 HBV 関連腎炎の一男児例. 日本小児腎臓病学会学術集会 (第 47 回) (東京), 2012. 6.
- 62) 服部元史¹⁾, 松永 明, 佐古まゆみ, 五十嵐徹, 伊丹儀友 (¹⁾ 東京女子医科大学腎臓小児科): 小児末期腎不全. 日本透析医学会学術集会 (第 57 回) (札幌), 2012. 6.
- 1) 植田高弘: 発作性寒冷ヘモグロビン尿症を発症した 1 歳 8 か月女児の 1 例. 日本小児科学会東京都地方会講話会 (第 599 回) (東京), 2013. 3.
- 2) 前田美穂: 小児がん経験者の長期フォローアップ. 香川小児病院講演会 (香川小児病院), 2012. 5.
- 3) 前田美穂: 元気の会. 元気の会 (日本大学),
- 4) 橋本康司, 早川 潤, 植田高弘, 前田美穂, 福永慶隆, 古木裕康, 野村 務: 寛解導入療法中に虫垂炎を発症し

- 内視鏡下虫垂切除で救命した AML (M2) の 1 例. 東京地方会 (東京), 2012.
- 5) 板橋寿和, 早川 潤, 竹下 輝, 阿部正徳, 植田高弘, 高瀬真人, 前田美穂: 頸椎病変を伴った肺ランゲルハンス細胞組織球症の 1 例. 平成 25 年 LCH 研究学術集会 (東京), 2013.
 - 6) 板橋寿和, 早川 潤, 竹下 輝, 阿部正徳, 植田高弘, 高瀬真人, 前田美穂: 頸椎病変を伴った肺ランゲルハンス細胞組織球症の 1 例. 日本小児呼吸器学会 (第 45 回) (旭川), 2012. 9.
 - 7) 板橋寿和, 早川 潤, 竹下 輝, 阿部正徳, 植田高弘, 高瀬真人, 前田美穂: 肺所見の著明な改善を認めた MS 型ランゲルハンス細胞組織球症の 7 歳男児例. 日本小児血液・がん学会学術集会 (横浜), 2012. 11.
 - 8) Maeda M: Project of long-term follow-up model clinics and a long-term risk-based follow-up guideline for childhood cancer survivors in Japan.. Texas Childrens Hospital lecture (Texas), 2012. 6.
 - 9) 富永直樹¹⁾, 山西愼吾¹⁾, 天野康雄²⁾, 藤井秀一¹⁾, 五十嵐徹¹⁾, 伊藤保彦¹⁾ (1) 日本医科大学小児科, 2) 日本医科大学放射線科): Cine MRI で偽性腸閉塞と考えられる Undifferentiated Connective Tissue Disease (UCTD) の 1 女児例. 日本小児科学会東京都地方会講和会 (第 599 回) (東京), 2013. 3.

10. 放射線医学

[付属病院放射線科，放射線治療科]

研究概要

(放射線診断) CT では非侵襲的 3 次元 CT の分野で国内外の指導的立場にある。冠動脈 CT による血管狭窄：血管壁性状評価，3 次元血管造影法，脳灌流画像，腫瘍病変の血行動態解析などの開発：研究を進めている。MRI では 3 テスラ MRI 装置を用いた臨床研究が行われており，特に心疾患や血管病変に対する画像：機能解析，ナビゲーションシステムや高速撮像法に関する研究は高く評価されている。一般撮影ではデジタル撮影による乳房撮影の診断精度及びマンモトームの研究が行われている。造影剤に関する研究や遠隔システムを含めて画像ネットワークの研究も行われている。(核医学) 3 次元動態解析法を用いた虚血性心疾患の病態解析や SPECT；CT 融合画像の研究など循環器核医学領域において高く評価されている。中枢神経領域では認知症の画像統計学的診断や脳虚血性疾患に関する解析プログラムの開発が進んでいる。新たに SPECT；CT 一体機を導入し，甲状腺，副腎，センチネルリンパ節等の小病変の診断，様々な領域における形態；機能融合画像を用いた診断を行っている。最新の PET；CT を用いた腫瘍核医学や脳内受容体イメージングの研究，PET；CT 融合画像や新しい PET 製剤に関する研究も行われている。(血管造影：IVR) 血管性病変や悪性腫瘍に対する治療及び救急疾患に対する IVR 治療では国内外での評価は高く，腹部悪性腫瘍に対する閉鎖循環下超高濃度抗癌剤治療などの基礎的，臨床研究が行われている。肺動脈血栓塞栓症に対する血栓破砕吸引療法や動脈内ステント療法や CT ガイド下生検や肺癌：肝癌に対するラジオ波治療の研究も行われている。(放射線治療) 頭頸部腫瘍：肺癌における化学療法併用療法はその良好な治療成績が注目されている。頭頸部腫瘍における治療計画や治療効果判定についての超音波検査の研究は高く評価されている。さらに，皮膚良性疾患に対する放射線治療や前立腺癌小線源療法の研究も進んでいる。

研究業績

論文

[追加分]

追加分総説：

- 1) 市川和雄：腹部大動脈切迫破裂。すぐ役立つ救急の CT・MRI 2012；202-203.
- 2) 市川和雄：炎症性腹部大動脈瘤。すぐ役立つ救急の CT・MRI 2012；204-205.
- 3) 市川和雄：腎梗塞，腎動脈塞栓症。すぐ役立つ救急の CT・MRI 2012；206-207.
- 4) 市川和雄：肝細胞癌の破裂。すぐ役立つ救急の CT・MRI 2012；208-209.

追加分原著：

- 1) Adachi K^{1,2)}, Yoshimura A²⁾, Aso R²⁾, Miyashita T^{2,3)}, Yoshida D¹⁾, Teramoto A¹⁾, Shimura T²⁾ (1) Department of Neurosurgery, Nippon Medical School, 2) Academic Quality and Development Office, Nippon Medical School, 3) Department of Radiology, Nippon Medical School) : Clinical Clerkship Course for Medical Students on Lumbar Puncture Using Simulators. J Nippon Med Sch 2012；79 (6)：430-437.

追加分症例報告：

- 1) Tani H, Murakami R, Yoshida T, Kumita S, Yanagihara K¹⁾, Iida S¹⁾, Tsuchiya S²⁾ (1) Department Surgery for Organ Function and Biological Regulation, Graduate School of Medicine, Nippon Medical School, Tokyo, Japan, 2) Division of Diagnostic Pathology, Nippon Medical School Hospital, Tokyo, Japan) : Mucinous Carcinoma of the Breast Accompanied by Coarse Calcification. Open Journal of Medical Imaging 2012；125-127.

(1) 原著：

- 1) Takeda M, Amano Y, Machida T, Kato S, Naito Z, Kumita S : CT, MRI, and PET findings of gastric schwannoma. *Jpn J Radiol* 2012 ; 30 (7) : 602-605.
- 2) Sekine T, Takagi R, Amano Y, Matsumura Y, Suzuki Y, Kumita S : 4D Flow MRI Assessment of Hemodynamics in Patients post EC-IC bypass. *J Nippon Med Sch* 2013 ; 80 (1) : 2-3.
- 3) Sekine T, Amano Y, Hidaka F : Hepatosplenic and muscular sarcoidosis : characterization with MR imaging. *Magn Reson Med Sci* 2012 ; 11 : 83-89.
- 4) Amano Y, Kitamura M, Takayama M, Tachi M, Kumita S : MRI classification of asymmetric septal hypertrophic cardiomyopathy and its relation to the presence of risk factors. *Int J Cardiovasc Imag* 2012 ; 28 : 2019-2025.
- 5) Tani H, Amano Y, Tachi M, Machida T, Mizuno K¹⁾, Kumita S ^{(1) Department of the 1st Internal Medicine, Nippon Medical School, Tokyo Japan} : T2-weighted and delayed enhancement MRI of eosinophilic myocarditis : relationship with clinical phases and global cardiac function. *Jpn J Radiol* 2012 ; 30 (10) : 824-31.
- 6) Amano Y, Tachi M, Kumita S : Three-dimensional Look-Locker MRI for evaluation of postcontrast myocardial and blood T1 values : comparison with two-dimensional Look-Locker and late gadolinium enhancement MRI. *Acta Radiol* 2013 ; 54 (1) : 8-13.
- 7) 築山 敦¹⁾, 斉藤英正¹⁾, 川島 峻¹⁾, 山口昌紘¹⁾, 渡邊顕弘¹⁾, 佐藤悦子¹⁾, 鈴木 剛¹⁾, 田上 隆¹⁾, 小原良規¹⁾, 金 史英¹⁾, 横田裕行¹⁾, 町田 幹 ^{(1) 日本医科大学付属病院高度救命救急センター} : 3DCT による診断が有用であった食道穿孔の1例. *日本医科大学医学会雑誌* 2012 ; 8 (4) : 329.
- 8) 町田 幹, 林 宏光 : 患者に優しい機器の, 真価を論証してみる「優しさ」の本質を解く「優しいCT」化において患者側, 医療提供側が得たものを説く 歴史及び低侵襲性を踏まえて. *新医療* 2012 ; 39 (9) : 143-146.
- 9) 岩野茉莉絵, 宮下次廣, 栗林茂彦, 小澤由季子, 汲田伸一郎 : ケロイド術後照射の予後因子 小線源表在照射症例における検討. *臨床放射線* 2012 ; 57 (13) : 1845-1850.
- 10) 栗林茂彦, 宮下次廣, 小澤由季子, 岩野茉莉絵, 小川 令, 赤石論史, 土肥輝之, 百東比古, 汲田伸一郎 : 高線量率小線源治療装置によるケロイドの術後照射. 2012 ; 6 : 52-54.
- 11) Murakami R, Hayashi H, Sugizaki K, Yoshida T, Okazaki E, Kumita S, Owan C : Contrast-induced nephropathy in patients with renal insufficiency undergoing contrast-enhanced MDCT. *Eur Radiol* 2012 ; 22 (10) : 2147-52.
- 12) 福嶋善光, 汲田伸一郎 : ICU・CCU : あんな症例こんな症例. 肺血栓塞栓症における SPECT-CT 診断. ICU と CCU : 集中治療医学 2012 ; 36 : 462-464.
- 13) 福嶋善光, 汲田伸一郎 : ICU・CCU : あんな症例こんな症例. SPECT/CTA Fusion image を用いたたこつぼ型心筋症の診断. ICU と CCU : 集中治療医学 2012 ; 36 : 1124-1126.
- 14) Murata S, Onozawa S, Nakazawa K, Akiba A, Mine T, Ueda T, Yasui D, Sugihara F, Kondoh Y, Kumita S : Endovascular embolization strategy for renal arteriovenous malformations. *Acta Radiol* (in press) 2013.
- 15) Murata S, Onozawa S, Nakazawa K, Mine T, Ueda T, Tajima H, Yoshida H, Kumita S : Glue Embolization for Endoscopically Unmanageable Gastrointestinal Haemorrhage. *Hepatogastroenterology* 2012 ; 59 (116) : 1126-30.
- 16) Munakata R¹⁾, Yamamoto T¹⁾, Hosokawa Y¹⁾, Tokita Y⁴⁾, Akutsu K¹⁾, Sato N²⁾, Murata S, Tajima H³⁾, Mizuno K⁴⁾, Tanaka K¹⁾ ^{(1) Intensive and Cardiac Care Unit, Nippon Medical School Hospital, (2) Division of Cardiology, Department of Medicine, Nippon Medical School Musashi-Kosugi Hospital, (3) Center for Minimally Invasive Treatment, Nippon Medical School Musashi-Kosugi Hospital, (4) Department of Cardiology,}

Nippon Medical School Hospita) : Massive Pulmonary Embolism Requiring Extracorporeal life support treated with catheter-based interventions. *Int Heart Journal* 2012 ; 53 (6) : 370-4.

- 17) Murata S, Onozawa S, Oda T, Mine T, Ueda T, Kumita S, Nomura K : Pharmacologic advantages of negative-balance isolated pelvic perfusion : achievement of intensive exposure of the pelvis to platinum without systemic leakage. *Radiology* 2012 ; 262 : 503-10.
- 18) 小野澤志郎 : IVR 医の留学 : 夢と現実 スウェーデン (マルメ・ウプサラ) 留学について. *RadFan* 2012 ; 10 (9) : 25-26.

(2) 総説 :

- 1) 市川和雄 : 血管筋脂肪腫の破裂. *すぐ役立つ救急の CT・MRI* 210-211.
- 2) Amano Y, Tachi M, Tani H, Mizuno K¹⁾, Kobayashi Y, Kumita S⁽¹⁾ the 1st Internal Medicine) : T2-weighted cardiac magnetic resonance imaging of edema in myocardial diseases. *The Scientific World Journal Article* 2012.
- 3) 天野康雄, 城 正樹, 谷 瞳, 武田美那子, 林 宏光, 水野杏一¹⁾, 汲田伸一郎⁽¹⁾ 第一内科) : 非虚血性心筋症に対する MRI の撮像法と診断法. *臨床放射線* 2013 ; 58 : 69-79.
- 4) 高木 亮 : 画像医学の 20 年前と 20 年後 : CT, MRI の画像診断を取り巻く環境について. *Radfun* 2012 ; 10 (4) : 54-55.
- 5) 町田 幹, 林 宏光 : 【腎疾患治療マニュアル 2012-13】 腎・尿路系の画像診断. *腎と透析 増刊* 2012 ; 72 : 186-193.
- 6) 町田 幹, 林 宏光 : 【Multislice CT 2012 BOOK】 臨床 MDCT による腹部術前 Color mapping. *映像情報 Medical* 2012 ; 44 (8) : 56-61.
- 7) 町田 幹 : 【マルチモダリティによる Abdominal Imaging 2012 臨床編 注目の診断技術は日常診療を変えるか?】 話題の技術・診断法の臨床応用 腹部の術前検査における被ばく低減 3D-CT カラーマッピング 自験例による検討を中心に. *INNERVISION* 2012 ; 27 (5) : 79-81.
- 8) Tamaki N¹⁾, Kumita S, Kusakabe K²⁾, Nishimura T³⁾, Senda S⁴⁾, Shimamoto K⁵⁾, Yamashina A⁶⁾, Yamazaki J⁷⁾ (1) Hokkaido University, 2) Tokyo Women's Medical University, 3) Kyoto Prefectural University of Medicine, 4) Kagawa University School of Medicine, 5) Sapporo Medical University School of Medicine, 6) Tokyo Medical University, 7) Toho University Omori Medical Center) : Guidelines for clinical use of cardiac nuclear medicine. *Circ J* 2012 ; 76 : 761-767.
- 9) 汲田伸一郎, 石原圭一 : 本邦における PET 検査の今後の展望. *新医療* 2013 ; 459 : 24-27.
- 10) 小林靖宏, 林 宏光, 汲田伸一郎 : 知っていますか? 画像診断に不可欠な画像解剖と正常値 【第 13 回】 : 心臓 ①. *臨床画像* 2012 ; 28 (10) : 1256-1268.
- 11) 小林靖宏, 林 宏光, 汲田伸一郎 : 知っていますか? 画像診断に不可欠な画像解剖と正常値 【第 14 回】 : 心臓 (Part2), 大血管. *臨床画像* 2012 ; 28 (12) : 1492-1502.
- 12) Murata S, Mine T, Ueda T, Nakazawa K, Onozawa S, Yasui D, Kumita S : Transcatheter arterial chemoembolization based on hepatic hemodynamics for hepatocellular carcinoma. *ScientificWorldJournal* 2013.
- 13) 桐山智成, 福嶋善光, 林 宏光, 汲田伸一郎 : SPECT による虚血性心疾患の予後予測 : SPECT/CT 融合画像の可能性を含めて. *臨床放射線* 2013 ; 58 : 172-181.

(3) 症例報告 :

- 1) Miyachi H¹⁾, Kumita S, Tanaka K¹⁾ (1) Intensive and Cardiac Care Unit) : PET/CT and SPECT/CT cardiac fusion imaging in a patient with Takotsubo cardiomyopathy. *Eur Heart J* 2013 ; 34 : 397.
- 2) Takeda M, Amano Y, Machida T, Kato S¹⁾, Naito Z²⁾, Kumita S (1) Department of Surgery, Nippon Medical School, 2) Department of Pathology, Nippon Medical School) : CT, MRI, and PET findings of gastric

shwannoma. Jpn J Radiol 2012; 30: 602-605.

- 3) 小林靖宏, 汲田伸一郎: ICU・CCU: あんな症例・こんな症例: 感染性腹部大動脈瘤における 18F-FDG-PET/CT 診断. ICU と CCU 2012; 36 (9).
- 4) 小林靖宏, 汲田伸一郎: ICU・CCU: あんな症例・こんな症例: 生理的心筋集積抑制処置 18F-FDG-PET/CT による心膜サルコイドーシスの評価. ICU と CCU 2013; 37 (3).
- 5) Narita K¹⁾, Akutsu K¹⁾, Yamamoto T¹⁾, Sato N¹⁾, Murata S, Mizuno K²⁾, Tanaka K¹⁾ (1) Intensive and Cardiac Care Unit, Nippon Medical School Hospital, 2) Department of Internal Medicine, Nippon Medical School, Tokyo, Japan): Simultaneous Fenestration with Stent Implantation for Acute Limb Ischemia due to Type B Acute Aortic Dissection Complicated with Both Static and Dynamic Obstructions. Ann Thorac Cardiovasc Surg 2012; 18 (2): 158-61.
- 6) Tomiyama T, Hosokawa Y, Imura H, Tanaka K: Haemolytic anaemia due to stenosed double-reinforced grafts after surgical repaired aortic dissection. Interact Cardiovasc Thorac Surg 2012; 15 (3): 525-7.
- 7) Tanita A, Hosokawa Y, Tomiyama T, Kato M, Matsuda J, Sawai K, Arita Y, Aokage T, Suzuki H, Murata H, Miyachi H, Shibui T, Nei T, Akutsu K, Yamamoto T, et al.: Giant left atrium due to mitral stenosis with massive atelectasis: A successful case with perioperative approach. Int J Cardiol 2013; 163 (2): 23-5.
- 1) 小野澤志郎, 山口英宣, 嶺 貴彦, 村田 智, 田島廣之: 副腎静脈サンプリング サンプリングの実際と CT. 第 12 回技術教育セミナー シラバス 2012; 46-51.

著 書

〔追加分〕

追加分:

- 1) 日高史貴:〔分担〕すぐ役立つ救急の CT・MRI. 画像診断 別冊 KEY BOOK シリーズ (井田正博, 高木 亮, 藤田安彦), 1012; pp140-145, 秀潤社.
- 1) 市川和雄:〔自著〕医師国家試験のためのレビューブック・マイナー 第 5 版 (医療情報科学研究所), 2012; メディックメディア.
- 2) 市川和雄:〔自著〕イヤートート内科・外科編 (医療情報科学研究所), 2012; メディックメディア.
- 3) 市川和雄:〔自著〕第 106 回医師国家試験問題解説 (国試対策問題編集委員会), 2012; メディックメディア.
- 4) 天野康雄:〔分担〕急性心筋炎. すぐ役立つ救急の CT・MRI (井田正博, 高木亮, 藤田安彦編), 2012; pp152-153, 秀潤社.
- 5) 天野康雄:〔分担〕心臓腫瘍による心タンポナーデ. すぐ役立つ救急の CT・MRI (井田正博, 高木亮, 藤田安彦編), 2012; pp154-155, 秀潤社.
- 6) 天野康雄, 城 正樹, 林 明聡¹⁾, 北村光信²⁾, 汲田伸一郎, 田中啓治²⁾, 水野杏一¹⁾ (1) 第一内科, 2) 集中治療室):〔連載〕心尖部心室瘤を呈した肥大型心筋症. ICU と CCU 36, 2012; pp540-542.
- 7) 高木 亮:〔共著〕すぐ役立つ救急の CT・MRI. 秀潤社 (井田正博, 高木 亮, 藤田安彦), 2012.
- 8) 西村恒彦¹⁾, 汲田伸一郎, 玉木長良²⁾, 中嶋憲一³⁾, 西村重敬⁴⁾ (1) 京都府立医大, 2) 北海道大学, 3) 金沢大学, 4) 埼玉医大):〔編集〕Brand New 心臓核医学:機能画像が病態を捉える, 2012; 金原出版.
- 9) 汲田伸一郎, 桐山智成:〔分担〕心・大血管核医学 (SPECT, PET/CT). 放射線医学:核医学・PET・SPECT (榎林勇, 杉村和朗 監修), 2012; pp22-30, 金芳堂.
- 10) 栗林茂彦:〔分担〕37 良性疾患 B. その他. 臨床放射線腫瘍学 (日本放射線腫瘍学会, 日本放射線腫瘍学研究機構), 2012; pp486-490, 南江堂.
- 11) 栗林茂彦:〔分担〕良性疾患. 放射線治療計画ガイドライン 2012 年版 (公益社団法人 日本放射線腫瘍学会),

2012；pp289-299，金原出版株式会社。

- 12) 杉原康朗：〔自著〕診断治療例 GIST. PET journal No.19 2012 autumn, 2012；p46, 先端医療技術研究所。
- 13) 福嶋善光：〔共著〕BRAND NEW 心臓核医学－機能画像が病態を捉える（編集：西村恒彦，編集協力：汲田伸一郎，玉木長良他），2012；金原出版。
- 14) 福嶋善光：〔編集〕循環器救急から集中治療管理まで. CCU テキスト（編集：田中啓治，山本剛），2013；文光堂。
- 15) 桐山智成，汲田伸一郎：〔分担〕BRAND NEW 心臓核医学 機能画像が病態を捉える，2012；金原出版。
- 16) 城 正樹，天野康雄，汲田伸一郎，田中啓治¹⁾，水野杏一²⁾（¹⁾ 集中治療室，²⁾ 第一内科）：〔自著〕あんな症例，こんな症例：（第 10 回）急性心筋炎における心臓 MRI での経時的な変化. ICU と CCU，2013；医学図書出版。

学会発表

〔追加分〕

追加分一般講演：

- 1) Sekine T, Amano Y, Takagi R, Matsumura Y, Suzuki Y, Kumita S：4D-Flow assessment of cerebral hemodynamic in patients with post EC-IC bypass. SCMR/ISMRM Jointly Sponsored Workshop in 15th meeting of SCMR (Orlando), 2012. 2.

追加分特別講演：

- 1) 林 宏光：造影剤腎症とガイドライン. ストップ・ザ・腎不全～CKD の普及啓発活動の実践と展望～（東京），2012. 3.

(1) 特別講演：

- 1) 林 宏光，田村正三¹⁾，山下康行²⁾，桑鶴良平³⁾，粟井和夫⁴⁾（¹⁾ 宮崎大学医学部放射線科，²⁾ 熊本大学大学院医学研究院放射線科，³⁾ 順天堂大学医学部放射線医学，⁴⁾ 広島大学大学院医歯薬総合研究科放射線科）：腎障害患者におけるヨード造影剤使用に関するガイドライン委員会報告. 第 71 回日本医学放射線学会総会（横浜），2012. 4.
- 2) 林 宏光：切らずに診る人体 2012：マルチスライス CT による循環器領域の画像診断を中心に. 長野県飯田市医師会学術講演会（長野県），2012. 6.
- 3) 林 宏光：糖尿病性大血管症の CT 診断：メトホルミンは造影検査のリスクとなりうるか. 第 2 回メトホルミン適正使用に関する講演会（筑波），2012. 9.
- 4) 林 宏光：腎障害患者におけるヨード造影剤使用に関するガイドラインとその実践的活用. 第 15 回聖路加国際病院 Cardio-Renal Conference（東京），2012. 10.
- 5) 高木 亮：平成 24 年度診療報酬改定 診断編. 第 6 回ラジオロジーアセスメントセミナー in 栃木（栃木），2012. 6.
- 6) 汲田伸一郎：心臓 SPECT/PET の臨床応用. STR メディカルカンファレンス（福島），2012. 11.
- 7) 汲田伸一郎：心臓 PET の可能性：CT フュージョンから炎症評価まで. 第 1 回 城南心臓画像診断カンファレンス，2012. 12.
- 8) 福嶋善光：心疾患診断における SPECT/CTA Fusion image の有用性. クリニカルランドマーク茨城（茨城），2012.
- 9) 福嶋善光：FDG-PET/CT を用いた悪性腫瘍および認知症の診断. 相模原市医師会・中央区連絡会学術講演会（相模原），2012.
- 10) 村田 智：Interventional Radiology の現状と将来の展望：肝灌流療法も含めて. IVR 技術交流会（東京），2012. 11.

- 11) 村田 智：ミリプラ集積向上のための工夫. 第 37 回リザーバー研究会 (横浜), 2012. 11.
 - 12) 村田 智：肝がん治療の現状と今後の展望. 第 2 回ミリプラフォーラム in 長野東北信 (長野), 2012. 9.
 - 13) 村田 智：肝がん治療の現状と今後の展望. ミリプラフォーラム in 新潟 (新潟), 2012. 9.
- (2) 招待講演：
- 1) 小林靖宏：放射線科の施設紹介・核医学部門を中心として. 第 873 回放射線診療研究会 (東京), 2013. 2.
- (3) 教育講演：
- 1) 天野康雄：疲労骨折と病的骨折. 第 8 回豊島健康診査センター症例検討会. 骨折の MRI (東京), 2012. 6.
 - 2) 天野康雄：心筋病変の造影 MRI：瘢痕から線維化まで. 第 13 回循環器 CT MRI 研究会 (東京), 2012. 10.
 - 3) 天野康雄：女性骨盤部病変の MRI. 第 9 回豊島健康診査センター症例検討会 (東京), 2012. 11.
 - 4) 天野康雄：MRI でみる肥大型心筋症の心筋障害. 第 28 回せとうち CT MRI 勉強会 (愛媛), 2013. 3.
 - 5) 天野康雄：3D & 4D MRI 技術を用いた心血管病変へのアプローチ. 第 77 回循環器病学会 (横浜), 2013. 3.
 - 6) 林 宏光：大動脈解離の画像診断：大動脈瘤・大動脈解離診療ガイドライン 2010 年改訂版を踏まえて. 第 71 回日本医学放射線学会総会 (横浜), 2012. 4.
 - 7) 林 宏光：腎障害患者におけるヨード造影剤使用に関するガイドラインについて. 第 2 回茨城 CT 研究会 (水戸), 2012. 6.
 - 8) 林 宏光：SCCT Japan IRC ガイドライン委員会からの報告. 第 6 回 SCCT 研究会 (東京), 2012. 9.
 - 9) 林 宏光：腎機能障害と造影検査. 第 48 回日本医学放射線学会秋季臨床大会 (長崎), 2012. 9.
 - 10) 村田 智：肝細胞癌の最新治療. 第 71 回日本医学放射線学会総会 (横浜), 2012. 4.
 - 11) 小野澤志郎, 山口英宣, 嶺 貴彦, 村田 智, 田島廣之：副腎静脈サンプリング サンプリングの実際と CT. 第 41 回日本 IVR 学会総会 (神戸), 2012. 5.
 - 12) 桐山智成：画像：RI, CT による冠動脈疾患の画像診断. 第 32 回日本画像医学会 (東京), 2013. 2.
- (4) シンポジウム：
- 1) 天野康雄：心臓サルコイドーシスの MRI 撮像法と異常所見の意味付け. 第 32 回日本サルコイドーシス/肉芽腫性疾患学会総会 (福岡), 2012. 10.
 - 2) 林 宏光：腎障害患者におけるヨード造影剤使用に関するガイドライン：リスクと患者評価. 第 4 回 Japanese College of Angiology Clinical Symposium (東京), 2012. 10.
 - 3) Takagi R, Sekine T, Amano Y, Murai Y, Matsumura Y, Kumita S：Clinical evaluation of EC/IC bypass surgery using a radial artery graft with 4D-flow MRI. Akira Teramoto 9th symposium of the Scandinavian Japanese Radiological Society Tokyo (Japan), 2012. 9.
 - 4) 栗林茂彦, 宮下次廣, 小澤由季子, 岩野茉莉絵, 秋本裕義, 汲田伸一郎, 小川 令¹⁾, 土肥輝之¹⁾, 百東比古¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学 形成外科・美容外科)：高線量率小線源治療装置によるケロイドの術後照射. 第 4 回日本創傷外科学会総会・学術集会 (福岡), 2012. 7.
 - 5) Murata S：Retrograde outflow percutaneous isolated hepatic perfusion for advanced liver malignancies. APC-CVIR 2012 (Kobe), 2012. 5.
 - 6) Murata S：Retrograde outflow percutaneous isolated hepatic perfusion for HCC：Clinical application from fundamental researches. APCCVIR 2012 (Kobe), 2012. 5.
 - 7) 村田 智：経皮的肝灌流療法 (R-IHP). 第 71 回日本医学放射線学会総会 (横浜), 2012. 4.
- (5) パネルディスカッション：
- 1) 林 宏光：大動脈瘤・大動脈解離診療ガイドライン改訂のポイント：大動脈解離の画像診断を中心に. 第 53 回日本脈管学会総会 (東京), 2012. 10.
 - 2) 小林靖宏：核種ごとのエビデンス 18F-FDG. 第 42 回心臓核医学談話会 (東京), 2013. 1.

(6) セミナー：

- 1) 林 宏光：糖尿病性大血管症のCT診断：合同ガイドラインでの取り扱いも含めて。第71回日本医学放射線学会総会（横浜），2012. 4.
- 2) 林 宏光：SCENARIA：心臓CTと低被曝への挑戦。第2回Advanced CT・MRI研究会（軽井沢），2012. 6.
- 3) 林 宏光：腎障害患者におけるヨード造影剤使用に関するガイドラインとその実践的活用。第48回日本医学放射線学会秋季臨床大会（長崎），2012. 9.
- 4) 林 宏光：マルチスライスCTによる循環器疾患の画像診断：さらなる高画質と低侵襲をめざして。第53回日本脈管学会総会（東京），2012. 10.
- 5) Hayashi H：JSN/JRC/JCS guidelines for the use of iodinated contrast media in patients with chronic kidney disease. APCCVIR 2012 JSIR & ISIR (Kobe)，2012. 5.
- 6) 汲田伸一郎，小林靖宏，林 宏光：Coronary CTAとSPECT/PETを用いた画像の融合。第23回日本心血管画像動態学会，2013. 1.
- 7) 桐山智成：SPECT/CT融合画像を用いた慢性冠動脈疾患の診断：リスク層別化を中心に。第20回日本核医学会春季大会（東京），2012. 6.

(7) ワークショップ：

- 1) 桐山智成：画像診断による予後予測 Radiologic-pathologic correlation. から Radiologic-prognostic correlationへ SPECTによる虚血性心疾患の予後予測：SPET/CT融合画像の可能性を含めて。第71回日本医学放射線学会総会（横浜），2012. 4.

(8) 指名講演：

- 1) 汲田伸一郎：人との出会いを大切に，自分の感性を信じて。第3回 国立循環器病研究センター レジデント・デー，2012. 7.
- 2) 汲田伸一郎：放射線科専門医研修（指導者講習会）。第442回日本医学放射線学会関東地方会，2012. 12.

(9) 一般講演：

- 1) 杉原康朗，福嶋善光，鳥羽正浩，岡崎恵美，小林靖宏，岩野茉莉絵，富山 毅，林 宏光，汲田伸一郎：たこつぼ型心筋症における心臓SPECT/CTA Fusion imageの有用性。第52回日本核医学会総会（札幌），2012. 10.
- 2) 福嶋善光，鳥羽正浩，小林靖宏，杉原康朗，山口英宣，岡崎恵美，岩野茉莉絵，汲田伸一郎：肺血栓塞栓症に対する深吸気息止め肺血流SPECT-CTの有用性。第52回日本核医学会総会（札幌），2012. 10.
- 3) 小林靖宏，石原圭一，須田匡也¹⁾，櫻井 実¹⁾，汲田伸一郎（¹⁾日本医科大学検診医療センター）：長期間炭水化物制限18F-FDG-PETによる心サルコイドーシス評価：生理的心筋集積抑制に影響する背景因子の検討。第52回日本核医学会総会（札幌），2012. 10.
- 4) 桑子智之，水村 直¹⁾，佐藤英尊，福嶋善光，汲田伸一郎（¹⁾東邦大学放射線科）：TLCL脳腫瘍SPECTにおけるVoxel-Based解析：ROI解析との比較。第52回日本核医学会総会（札幌），2012. 10.
- 5) 関根鉄朗，高木 亮，天野康雄，松村善雄，村井保夫¹⁾，寺本 明¹⁾，鈴木由里子²⁾，汲田伸一郎（¹⁾日本医科大学脳神経外科，²⁾フィリップス エレクトロニクスジャパン）：4D-Flow MRIを用いた脳血流動態解析：EC-IC bypass術後の逆行性血流の発現頻度。第71回日本医学放射線学会総会（横浜），2012. 4.
- 6) 桑子智之，水村 直¹⁾，福嶋善光，汲田伸一郎（¹⁾東邦大学放射線科）：TLCL脳腫瘍SPECTにおけるVoxel-Based解析。第71回日本医学放射線学会総会（横浜），2012. 4.
- 7) 小林靖宏，福嶋善光，杉原康朗，汲田伸一郎：心不全を呈したDCMにおける憎帽弁機能障害の意義：MIBI/BMIPP dual SPECTによる検討。第71回日本医学放射線学会総会（横浜），2012. 4.
- 8) 岩野茉莉絵，村上隆介，福嶋善光，三樹いずみ，佐藤 愛，杉原康朗，谷 瞳，武田美那子，汲田伸一郎：乳癌センチネルリンパ節診断におけるSPECT-CTの有用性。第71回日本医学放射線学会総会（横浜），2012. 4.

- 9) 城 正樹, 天野康雄, 小林靖宏, 汲田伸一郎, 鈴木由里子¹⁾, 小森芳秋¹⁾ (1) フィリップスエレクトロニクスジャパン) : 心臓造影 Look-Locker MRI を用いた拡張型心筋症におけるびまん性心筋障害の評価 : 1.5T と 3T の比較. 第 71 回日本医学放射線学会総会 (横浜), 2012. 4.
- 10) Sekine T, Amano Y, Takagi R, Matsumura Y, Suzuki Y, Kumita S : Feasibility of 4D Flow MRI of the Brain with y-z Radial Sampling and k-t SENSE : Comparison with 4D Flow MRI using SENSE. 20th annual meeting of ISMRM (Australia), 2012. 5.
- 11) 谷 瞳, 武田美那子, 三樹いずみ, 吉田民子, 村上隆介, 汲田伸一郎, 柳原恵子¹⁾, 飯田信也¹⁾, 松原美幸²⁾, 土屋真一²⁾ (1) 日本医科大学付属病院 乳腺科, 2) 日本医科大学付属病院 病理部) : マンモグラフィで病変を指摘出来なかった乳癌症例の検討. 第 22 回日本乳癌検診学会学術総会 (沖縄), 2012. 11.
- 12) 三樹いずみ, 村上隆介, 谷 瞳, 武田美那子, 柳原恵子¹⁾, 飯田信也¹⁾, 芳賀駿介¹⁾, 松原美幸³⁾, 土屋真一³⁾, 汲田伸一郎 (1) 日本医科大学 付属病院 乳腺科, 2) 日本医科大学 付属病院 病理部) : 当院で経験した 10mm 以下の乳癌の特徴についての検討. 第 22 回日本乳癌検診学会学術総会 (沖縄), 2012. 11.
- 13) 武田美那子, 村上隆介, 谷 瞳, 三樹いずみ, 汲田伸一郎, 飯田信也¹⁾, 岩本美樹¹⁾, 芳賀俊介¹⁾, 柳原恵子¹⁾, 土屋真一²⁾ (1) 日本医科大学 付属病院 乳腺科, 2) 日本医科大学 付属病院 病理部) : 若年性乳癌における画像所見の検討. 第 22 回日本乳癌検診学会学術総会 (沖縄), 2012. 11.
- 14) Sekine T, Takagi R, Amano Y, Matsumura Y, Suzuki Y, Kumita S : 4D Flow assessment of cerebral hemodynamics -The proportion of retrograde flow in patients with post EC-IC bypass. 71th annual meeting of JRS (JAPAN), 2012. 4.
- 15) 関根鉄朗, 高木 亮, 天野康雄, 松村善雄, 鈴木由里子, 汲田伸一郎 : 4D Flow MRI を用いた眼動脈逆行性血流の臨床的評価 : 内頸動脈閉塞例における脳血流 SPECT との比較. 第 40 回 日本磁気共鳴医学会大会 (京都), 2012. 9.
- 16) 三樹いずみ, 村田 智, 中澤 賢, 小野澤志郎, 嶺 貴彦, 上田達夫, 山口英宜, 秋葉絢子, 関根鉄朗, 村上隆介, 汲田伸一郎 : 頭部回転に伴う右内頸動脈-総頸静脈の重複率と静脈扁平率の変化. 第 71 回日本医学放射線学会総会 (横浜), 2012. 4.
- 17) Miki I, Murata S, Mine T, Tajima H, Nakazawa K, Onozawa S, Ueda T, Yamaguchi H, Sugihara F, Akiba A, Sekine T, Yasui D, Takeda M, Kumita S : Effect of head rotation on the position and the form of right internal jugular vein. Progress in Radiology 2012 (広尾), 2012. 9.
- 18) 小澤由季子, 宮下次廣, 栗林茂彦, 岩野茉莉絵, 汲田伸一郎, 百束比古¹⁾, 小川 令¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院 形成外科) : 耳介ケロイドに対する術後照射の照射期間短縮に関する検討. 日本放射線腫瘍学会第 25 回学術大会, 2012. 11.
- 19) Amano Y, Komori Y¹⁾, Matsumura Y, Tachi M, Tani H, Sekine T, Causeren M¹⁾ (1) Philips Healthcare Asia-Pacific) : Myocardial T2-Mapping and T2-value measurement using breath-hold gradient- and spin-echo (GRASE) imaging : comparison with navigator-gated spin-echo imaging. 20th annual meeting of ISMRM (Melbourne), 2012. 5.
- 20) Amano Y, Tachi M, Komori Y¹⁾, Suzuki Y¹⁾, Sekine T, Kumita S (1) Philips Healthcare Asia-Pacific) : Evaluation of postcontrast T1-values of the myocardium and blood by 3D Look-Locker MRI : comparison with 2D Look-Locker MRI. 20th annual meeting of ISMRM (Melbourne), 2012. 5.
- 21) 平田善昭¹⁾, 林崎規託¹⁾, 宮下次廣, 栗林茂彦 (1) 東工大理工学研究科原子核工学専攻) : PHITS を用いたイリジウム 192 小線源治療の線量評価. 日本アイソトープ協会主催第 49 回アイソトープ・放射線研究発表会 (東京), 2012. 7.
- 22) 林 宏光 : CIN ガイドラインと NSF ガイドラインからみた腎機能障害と造影検査. 第 2 回 CKD-CVD Conference (大阪), 2012. 9.

- 23) 谷 瞳, 岩野茉莉絵, 吉田民子, 桑子智之, 椎葉真人, 高濱克也, 天野康雄, 村上隆介, 汲田伸一郎: 乳癌の Intrinsic subtype と MRI 所見の関連性の検討. 第 71 回日本医学放射線学会総会 (横浜), 2012. 4.
- 24) 谷 瞳, 岩野茉莉絵, 高濱克也, 天野康雄, 村上隆介, 汲田伸一郎, 柳原恵子¹⁾, 飯田信也¹⁾, 芳賀駿介¹⁾, 土屋眞一²⁾ (¹⁾ 日本医科大学付属病院 乳腺科, ²⁾ 日本医科大学付属病院 病理部): MRI において non-mass-like enhancement を示した乳癌の検討. 第 20 回日本乳癌学会学術総会 (熊本), 2012. 6.
- 25) Sugihara F, Murata S, Nakazawa K, Onozawa S, Yamaguchi H, Akiba A, Yasui D, Miki I, Takeda M, Uchiyama F¹⁾, Watari J¹⁾, Kumita S (¹⁾ Dept. of Radiology, Ebina General Hospital): Combination of transcatheter arterial chemoembolization and transcatheter portal chemoembolization during portal vein occlusion for unresectable hepatocellular carcinoma with large arterioportal shunts: a case report. Progress in Radiology 2012 (Tokyo), 2012. 9.
- 26) Takagi R, Sekine T, Amano Y, Tani H, Matsumura Y, Kumita S, Teramot A: High resolution dynamic MRI for pituitary microadenoma using 3D VSITA at 3-Tesla. 98th annual meeting of Radiological society of North America (chicago), 2012. 11.
- 27) Sugihara F, Murata S, Nakazawa K, Onozawa S, Yamaguchi H, Akiba A, Yasui D, Miki I, Takeda M, Uchiyama F²⁾, Watari J²⁾, Kumita S (¹⁾ Dept. of Radiology, Ebina General Hospital): Combination of transcatheter arterial chemoembolization and transcatheter portal chemoembolization during portal vein occlusion for unresectable hepatocellular carcinoma with large arterioportal shunts: a case report. Progress in Radiology 2012 (Tokyo), 2012. 9.
- 28) 杉原史恵, 小野澤志郎, 村田 智, 中澤 賢, 嶺 貴彦, 上田達夫, 山口英宣, 秋葉絢子, 安井大祐, 三樹いずみ, 武田美那子, 汲田伸一郎: 小腸出血に対する IVR の有用性. 第 49 回日本腹部救急医学会総会 (福岡), 2013. 3.
- 29) 日高史貴, 天野康雄, 林 宏光, 高木 亮, 町田 幹, 城 正樹, 関根鉄朗, 内海甲一¹⁾, 汲田伸一郎 (¹⁾ 日本医科大学付属病院腎臓内科): 慢性透析患者における腹部血管壁石灰化の CT 評価. 第 71 回日本医学放射線学会総会 (横浜), 2012. 4.
- 30) 岩野茉莉絵, 谷 瞳, 村上隆介, 汲田伸一郎, 柳原恵子, 飯田信也, 芳賀駿介, 土屋眞一: 乳癌センチネルリンパ節診断における SPECT-CT の有用性. 第 20 回日本乳癌学会総会 (熊本), 2012. 6.
- 31) 岩野茉莉絵, 栗林茂彦, 小澤由季子, 宮下次廣, 汲田伸一郎, 土肥輝之, 小川 令, 百束比古: RALS を用いた表在モールド法によるケロイド術後放射線治療の再発予測因子の検討. 小線源部会第 14 回学術大会 (軽井沢), 2012. 5.
- 32) 岩野茉莉絵, 栗林茂彦, 小澤由季子, 宮下次廣, 汲田伸一郎, 小川 令, 百束比古: 難治性ケロイドの放射線単独治療. 第 25 回日本放射線腫瘍学会学術大会 (東京), 2012. 11.
- 33) 杉原康朗, 福嶋善光, 鳥羽正浩, 岡崎恵美, 小林靖宏, 岩野茉莉絵, 佐藤 愛, 汲田伸一郎: 副腎腫瘍診断における ¹²³I-MIBG SPECT-CT の有用性. 第 71 回日本医学放射線学会総会 (横浜), 2012. 4.
- 34) 杉原康朗, 福嶋善光, 林 宏光, 鳥羽正浩, 岡崎恵美, 小林靖宏, 富山 毅, 汲田伸一郎: たこつぼ型心筋症における心臓 SPECT/CTA Fusion image の有用性. 第 22 回日本心臓核医学会総会・学術大会 (金沢), 2012. 6.
- 35) 杉原康朗, 福嶋善光, 林 宏光, 鳥羽正浩, 岡崎恵美, 小林靖宏, 富山 毅, 汲田伸一郎: たこつぼ型心筋症における心臓 SPECT/CTA Fusion image の有用性. 第 442 回関東地方会定期大会 (秋葉原), 2012. 12.
- 36) 栗林茂彦, 宮下次廣, 小澤由季子, 岩野茉莉絵, 汲田伸一郎, 中溝宗永¹⁾, 横島一彦¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学 耳鼻咽喉科・頭頸部外科): 早期声門癌に対する頸動脈保護を意図した放射線治療の治療成績. 第 71 回日本医学放射線学会総会 (横浜), 2012. 4.
- 37) 青島雅人, 箱崎謙太, 會田久美子, 織田絵里香, 町田 幹, 村上隆介, 汲田伸一郎: 骨盤内に発生した腸管外 GIST の 1 例. 第 442 回日本医学放射線学会関東地方会定期大会 (秋葉原), 2012. 12.

- 38) 村上隆介, 谷 瞳, 武田美那子, 三樹いずみ, 吉田民子, 汲田伸一郎, 柳原恵子¹⁾, 飯田信也¹⁾, 芳賀駿介¹⁾, 松原美幸²⁾, 土屋真一²⁾, 内山菜智子³⁾ (1) 日本医大 病院 乳腺科, 2) 日本医大 病院 病理部, 3) 国立がん研究センターがん予防・検診研究センター): マンモグラフィにおけるコンピュータ診断支援システム (CAD) の performance の評価. 第 22 回日本乳癌検診学会 (沖縄), 2012. 11.
- 39) 清水忠夫¹⁾, 小倉 薫¹⁾, 村上隆介, 高浜克也, 山下浩二²⁾, 飯田信也²⁾, 小竹桃子³⁾, 氏原英幸³⁾, 松本亜紀³⁾ (1) 東京女子医科大学東医療センター 乳腺科, 2) 日本医科大学付属病院乳腺科, 3) 荒川区がん予防・健康づくりセンター): 荒川区における CAD を用いたソフトコピー診断による乳癌検診の成績. 第 22 回日本乳癌検診学会 (沖縄), 2012. 11.
- 40) 村上隆介, 林 宏光, 杉崎健一, 桑子智之, 箱崎謙太, 岡崎恵美, 吉田民子, 岩野茉莉絵, 谷 瞳, 汲田伸一郎: 造影 CT 後の腎機能低下患者における造影剤腎症の検討. 第 71 回日本医学放射線学会学術集会 (横浜), 2012. 4.
- 41) 岩本美樹¹⁾, 芳賀駿介¹⁾, 飯田信也¹⁾, 山下浩二¹⁾, 柳原恵子¹⁾, 栗田智子¹⁾, 村上隆介, 土屋真一²⁾, 内田英二³⁾ (1) 日本医大 病院 乳腺科, 2) 日本医大 病院 病理部, 3) 日本医大 病院 外科): 若年性乳癌の診断 画像診断の有用性についての検討. 第 20 回日本乳癌学会総会, 2012. 7.
- 42) 武田美那子, 村田 智, 中澤 賢, 小野澤志郎, 嶺 貴彦, 上田達夫, 山口英宜, 秋葉絢子, 汲田伸一郎: 固有肝動脈塞栓術後の側副路発育と肝機能推移. 第 71 回日本医学放射線学会総会 (横浜), 2012. 4.
- 43) Takeda M, Murata S, Nakazawa K, Onozawa S, Mine T, Ueda T, Yamaguchi H, Sugihara F, Akiba A, Yasui D, Miki I, Kumita S: Extrahepatic collateral development and time course of liver function after coil embolization of proper hepatic artery. Progress in Radiology 2012 9th Symposium of the Scandinavian Japanese Radiological Society & 12th Nordic Japan PACS Symposium (Tokyo), 2012. 9.
- 44) 中澤 賢, 田島廣之, 村田 智, 小野澤志郎, 嶺 貴彦, 上田達夫, 秋葉絢子, 安井大祐, 山本 剛, 田中啓治, 汲田伸一郎: 繰り返す血管内治療に抵抗したプロテイン S 欠乏症を伴う深部静脈血栓症. 第 32 回日本静脈学会総会 (大宮), 2012. 6.
- 45) 小林靖宏, 林 宏光, 汲田伸一郎, 高野仁司, 松田淳也, 水野杏一 (1) 日本医科大学 循環器内科): 冠動脈周囲炎, 心膜炎および多発する血管外病変を合併した IgG4 関連疾患の 1 例. 第 12 回 MDCT 研究会 (東京), 2012. 11.
- 46) 小林靖宏: 症例提示: 褐色脂肪組織の活性化を伴う多発副腎外性褐色細胞腫 (傍神経節腫): multiple extra-adrenal pheochromocytoma/paraganglioma (not R/O malignant pheochromocytoma/paraganglioma) with activated brown adipose tissue. 第 340 回東京レントゲンカンファレンス (東京), 2012. 11.
- 47) 小林靖宏, 福嶋善光, 石原圭一, 汲田伸一郎: 褐色脂肪組織の活性化を伴う多発副腎外性褐色細胞腫の 1 例. 第 78 回日本核医学会関東甲信越地方会 (東京), 2013. 1.
- 48) Fukushima Y, Toba M, Kiriyama T, Kobayashi Y, Tokita Y, Sato N, Tanaka K, Kumita S: Intravenous bolus administration of nicorandil improves myocardial perfusion in patients with acute ischemic heart failure. Society of Nuclear Medicine Annual Meeting (USA), 2012. 6.
- 49) 福嶋善光, 鳥羽正浩, 小林靖宏, 杉原康朗, 時田祐吉, 佐藤直樹, 田中啓治, 汲田伸一郎: 急性虚血性心不全例におけるニコランジル単回静注による心筋血流改善効果の検討. 第 22 回日本心臓核医学会総会 (金沢), 2012. 6.
- 50) 福嶋善光, 鳥羽正浩, 桐山智成, 小林靖宏, 時田祐吉, 佐藤直樹, 田中啓司, 汲田伸一郎: 急性虚血性心不全例におけるニコランジル負荷心筋血流 SPECT の有用性. 第 71 回日本医学放射線学会総会 (横浜), 2012. 4.
- 51) Murata S, Onozawa S, Mine T, Ueda T, Hidenori Y, Sugihara F, Akiba A, Yasui D, Kumita S, Lunderquist A¹⁾, Ivanchev K²⁾ (1) Dept. of Radiology, Lund Malmoe Hospital, Malmoe, Sweden, 2) Dept. of Radiology, London University, London, England): Retrograde outflow percutaneous isolated hepatic perfusion for

- advanced liver malignancies. *Progress in Radiology 2012 (Tokyo)*, 2012. 9.
- 52) 小野澤志郎, 田島廣之, 村田 智, 嶺 貴彦, 中澤 賢, 上田達夫, 山口英宜, 秋葉絢子, 杉原 仁, 汲田伸一郎: Angio CT 併用下副腎静脈サンプリングに関する検討. 第71回日本医学放射線学会総会 (横浜), 2012. 4.
- 53) Onozawa S, Tajima H, Yamaguchi H, Murata S, Nakazawa K, Ueda T, Akiba A, Yasui D, Ishizaki A¹⁾, Sugihara H¹⁾, Kumita S (¹⁾ Division of Endocrinology and Metabolism, Department of Internal Medicine, Nippon Medical School): Adrenal venous sampling with CT angiography. *APCCVIR2012 (kobe)*, 2012. 5.
- 54) Yamaguchi H, Onozawa S, Tajima H, Mine T, Murata S, Nakazawa K, Yasui D, Sugihara H, Hayashi H, Kumita S (¹⁾ Division of Endocrinology and Metabolism, Department of Internal Medicine, Nippon Medical School): Clinical usefulness of right adrenal venous detection with thin slice CT for adrenal venous sampling. *APCCVIR2012 (kobe)*, 2012. 5.
- 55) 小野澤志郎, 田島廣之, オーケソンミカエル¹⁾, 村田 智, 中澤 賢, 保坂純郎 (¹⁾ マルメ大学病院血管センター): 血管内治療後3年で血栓閉塞を来した下大静脈欠損症と思われる1例. 第32回日本静脈学会総会 (大宮), 2012. 6.
- 56) Onozawa S: Memories in Scandinavia. 9th Symposium of the Scandinavian Japanese Radiological Society & 12th Nordic Japan PACS Symposium (Tokyo), 2012. 9.
- 57) Yamaguchi H, Onozawa S, Tajima H, Mine T, Murata S, Nakazawa K, Yasui D, Sugihar H, Hayashi H, Kumita S: Clinical usefulness of right adrenal venous detection with thin slice CT for adrenal venous sampling. 9th Symposium of the Scandinavian Japanese Radiological Society & 12th Nordic Japan PACS Symposium (Tokyo), 2012. 9.
- 58) 織田絵里香, 高木 亮, 天野康雄, 関根鉄朗, 日高史貴, 石原圭一, 汲田伸一郎: 下垂体微小腺腫の診断における High Resolution Dynamic MRI: 3T 装置を用いた検討. 第442回日本医学放射線学会関東地方会定期大会 (東京), 2012. 12.
- 59) 安井大祐, 村田 智, 中澤 賢, 小野澤志郎, 山口英宜, 杉原史恵, 秋葉絢子, 三樹いずみ, 武田美邦子, 林宏光, 汲田伸一郎: Endovascular treatment strategy for severe portal vein thrombosis. 日本スカンジナビア放射線医学協会 (ノルウェー王国大使館), 2012. 9.
- 60) 會田久美子, 町田 幹, 箱崎謙太, 日高史貴, 杉崎健一, 高木 亮, 林 宏光, 汲田伸一郎: 術前腹部3D-CT撮影における逐次近似処理を用いた被曝低減の試み. 第442回日本医学放射線学会関東地方会定期大会 (東京), 2012. 12.
- 61) Tachi M, Amano Y, Tani H, Mizuno K, Kobayashi Y, Kumita S: T2-weighted cardiac magnetic resonance imaging of edema in myocardial diseases. *RSNA (Chicago)*, 2012. 11.
- 62) 山野 勇, 土橋俊男, 秀永慎一, 村木巖太郎, 豊福将弘: 当院でのCAGに対するCTAの視覚的狭窄率評価の検証. 日本冠疾患学術集会 (26回) (東京), 2012. 12.
- 63) 吉田民子, 谷 瞳, 岩野茉莉絵, 箱崎謙太, 桑子智之, 高浜克也, 村上隆介, 汲田伸一郎, 内山菜智子¹⁾ (¹⁾ 国立がん研セ 予検セ): MMG所見と乳癌サブタイプ分類との関連性の検討. 第71回日本医学放射線学会総会 (横浜), 2012. 4.
- 64) 佐藤 愛, 福島善光, 石原圭一, 鳥羽正浩, 佐藤英尊, 山口英宜, 小林靖宏, 岩野茉莉絵, 杉原康朗, 汲田伸一郎: 副甲状腺機能亢進症における Tc-99m-MIBI SPECT-CT の有用性. 第71回日本医学放射線学会総会 (横浜), 2012. 4.
- 65) 秋葉絢子, 村田 智, 中澤 賢, 小野澤志郎, 嶺 貴彦, 上田達夫, 山口英宜, 安井大祐, 汲田伸一郎, 松沢一郎¹⁾ (¹⁾ 日医大 泌): 腎 AVM に対する血管内治療. 第71回日本医学放射線学会総会 (横浜), 2012. 4.
- (10) 共同演者:
- 1) 富永直樹^{1,2)}, 山西慎吾¹⁾, 天野康雄, 藤井秀一¹⁾, 五十嵐徹¹⁾, 伊藤保彦¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学付属病院 小児科,

2) 日本医科大学付属病院 研修医) : Cine MRI で偽性腸閉塞と考えられる UCTD の1 女児例. 小児科学会関東地方会懇話会 (東京), 2013. 3.

(11) 指定講演 :

- 1) 天野康雄 : 肥大型心筋症の診断における遅延造影 MRI の有用性と定量化の課題. 東京 HOCM フォーラム 2012 (東京), 2012. 10.

[武蔵小杉病院放射線科]

研究概要

放射線診断学 : 1) 呼吸器疾患に対して呼吸器内科・外科と協同し画像と診療の質向上を図っている. 2) 消化器疾患に対して, 新しいMRI を導入し有用性を検討しており, また多検出器型CT との対比の上で肝腫瘍の質的診断能向上に取り組んでいる. 3) 地域の肺がん・胃がん検診に協力している. 4) 乳がん検診に取り組んでおり, マンモトームを使って最終診断をつける様努めている.

Interventional Radiology : 血管内・低侵襲治療センターと協力し, 肝細胞癌をはじめ各種腫瘍性病変に治療, 大動脈瘤など血管性病変の治療, 外傷性疾患への緊急対応などを行っている.

放射線治療 : 1) 悪性疾患に対して集学的治療の一翼を担っている. 2) 緩和治療の一環として臨床各科に協力を行っている. 3) 形成外科とともに良性疾患であるケロイド治療に取り組んでいる.

核医学 : 1) 各種放射線医薬品を用いて虚血性心疾患の評価に取り組んでいる. 2) 脳腫瘍 SPECT を用いて腫瘍の局在などの検出率の評価に取り組んでいる.

研究業績

論文

(1) 原著 :

- 1) 橘和聡文, 一色彩子, 清水康弘, 安藤 順, 市川太郎, 竹ノ下尚子¹⁾, 金城忠志¹⁾, 田島廣之¹⁾, 春原沙織²⁾, 村澤恒男²⁾, 畝本恭子³⁾ (1) 武蔵小杉病院血管内・低侵襲治療センター, 2) 武蔵小杉病院内科, 3) 武蔵小杉病院救命救急センター) : 腎血管筋脂肪腫の腎動脈瘤破裂に対する緊急動脈塞栓術. 映像情報メディカル 2013 ; 45 (2) : 156-158.

(2) 総説 :

- 1) 一色彩子, 市川太郎, 田島廣之¹⁾, 佐藤秀一²⁾ (1) 武蔵小杉病院血管内・低侵襲治療センター, 2) 横浜旭中央総合病院放射線科) : 腸回転異常のCT 診断. 画像診断 2012 ; 32 (8) : 844-861.
- 2) 金城忠志¹⁾, 田島廣之¹⁾, 竹ノ下尚子¹⁾, 市川太郎, 安藤 順, 清水康弘, 山口香織, 一色彩子, 橘和聡文 (1) 武蔵小杉病院血管内・低侵襲治療センター) : 「NBCA を用いた緊急動脈塞栓術」. 臨床放射線 2013 ; 58 (2) : 287-297.
- 3) 田島廣之¹⁾, 金城忠志¹⁾, 竹ノ下尚子¹⁾, 市川太郎, 山本英世²⁾, 菊池有史²⁾, 佐藤直樹²⁾, 村田 智³⁾, 中澤賢³⁾, 小野澤志郎³⁾, 山本 剛⁴⁾, 田中啓治⁴⁾ (1) 武蔵小杉病院血管内・低侵襲治療センター, 2) 武蔵小杉病院循環器内科, 3) 付属病院放射線科, 4) 付属病院集中治療室) : 急性肺血栓塞栓症のカテーテル治療. 静脈学 2013 ; 24 (1) : 79-86.

学会発表

(1) シンポジウム :

- 1) Tajima H¹⁾, Kaneshiro T¹⁾, Takenoshita N¹⁾, Ichikawa T, Mine T²⁾, Ueda T²⁾, Onozawa S²⁾, Nakazawa K²⁾, Murata S²⁾, Takagi R²⁾, Kawamata H²⁾, Tajima N²⁾, Hoshina T³⁾, Maruyama Y³⁾, Imura H³⁾, et al.

(¹) Center for Minimally Invasive Treatment, Nippon Medical school Musashikosugi Hospital, (²) Radiology, Nippon Medical school Hospital, (³) Cardiovascular Surgery, Nippon Medical school Musashikosugi Hospital) : Mid-term Results of the Zenith Aortic Stent-Graft for abdominal Aortic Aneurysm. Progress in Radiology 2012 : Joint meeting of the 9TH Symposium of Japanese Scandinavian Radiological Society and 12th Nordic Japan PACS Symposium (Tokyo), 2012. 9.

- 2) Isshiki S, Kitsuwawa A, Shimizu Y, Ando J, Ichikawa T, Takenoshita N¹, Kaneshiro T¹, Tajima H¹ (¹) Center for Minimally Invasive Treatment, nippon Medical school Musashikosugi Hospital) : Spontaneous urinary bladder rupture : CT findings. Progress in Radiology 2012 : Joint meeting of the 9TH Symposium of Japanese Scandinavian Radiological Society and 12th Nordic Japan PACS Symposium (Tokyo), 2012. 9.
- 3) Takenoshita N¹, Tajima H¹, Kaneshiro T¹, Ichikawa T, Ando J, Shimizu Y, Isshiki S, Yamaguchi K, Kitsuwawa A, et al. (¹) Center for Minimally Invasive Treatment, Nippon Medical School Musashikosugi Hospital) : Pancreaticoduodenal artery aneurysm rupture : diversity of clinical background and transcatheter arterial embolization. Progress in Radiology 2012 : Joint meeting of the 9TH Symposium of Japanese Scandinavian Radiological Society and 12TH Nordic Japan PACS Symposium (Tokyo), 2012. 9.
- 4) 田島廣之¹、金城忠志¹、竹ノ下尚子¹、市川太郎、山本英世² (¹) 武蔵小杉病院血管内・低侵襲治療センター、² 武蔵小杉病院循環器内科) : 重症急性静脈血栓症のIVR. 日本心血管インターベンション治療学会 (第21回) CVIT2012 (新潟), 2012. 7.

(2) 一般講演 :

- 1) Tajima H¹, Kaneshiro T¹, Takenoshita N¹, Ichikawa T, Hoshina T², Maruyama Y², Imura H², Mine T³, Onozawa S⁴, Nakazawa K⁴, Murata S⁴, Ochi M⁵, Kawamata H³, Bessho R⁶ (¹) Center for Minimally Invasive Treatment, Nippon Medical school Musashikosugi hospital, (²) Surgery, Nippon Medical school Musashikosugi hospital, (³) Radiology, Nippon Medical school Chiba Hokuso Hospital, (⁴) Radiology, Nippon Medical school Hospital, (⁵) Cardiovascular Surgery, Nippon Medical school Hospital, (⁶) Cardiovascular Surgery, Nippon Medical school Chiba Hokuso Hospital) : Mid-term results of endovascular management with TAG for thoracic aneurysm. APCCVIR 2012 (Kobe), 2012. 5.
- 2) Takenoshita N¹, Tajima H¹, Kaneshiro T¹, Ichikawa T, Sunohara S², Kinoshita K², Itakura S², Hongo K², Yamaguchi T², Usuki J² (¹) Center for Minimally invasive Treatment, Nippon Medical school Musashikosugi Hospital, (²) Pulmonary Medicine, Nippon Medical school Musashikosugi Hospital) : Bronchial artery embolization with NBCA for urgent control of life-threatening recurrent massive hemoptysis. APC-CVIR 2012 (Kobe), 2012. 5.
- 3) Isshiki S, Ichikawa T, Tajima H¹, Sato S², Obuchi M², Minami M³ (¹) Center For Minimally Invasive Treatment, Nippon Medical school Musashikosugi Hospital, (²) Asahi Central General Hospital, (³) Tsukuba University) : Radiological reconsideration of Grey Turner's sign. ESGAR 2012 (Edinburgh), 2012. 6.
- 4) 金城忠志¹、田島廣之¹、竹ノ下尚子¹、市川太郎、安藤 順、清水康弘、一色彩子、橘和聡文 (¹) 武蔵小杉病院血管内・低侵襲治療センター) : NBCA・リピオドールを用いた緊急止血術. 日本医学放射線学会総会 (第71回) (横浜), 2012. 4.
- 5) 田島廣之¹、金城忠志¹、竹ノ下尚子¹、市川太郎、保科淑子²、井村 肇²、村田 智³、中澤 賢³、嶺 貴彦³、川俣博志⁴ (¹) 武蔵小杉病院血管内・低侵襲治療センター、² 武蔵小杉病院心臓血管外科、³ 付属病院放射線科、⁴ 千葉北総病院放射線科) : 腹部大動脈瘤に対する Zenith AAA エンドバスキュラーグラフトの中期成績. 日本医学放射線学会総会 (第71回) (横浜), 2012. 4.
- 6) 竹ノ下尚子¹、田島廣之¹、金城忠志¹、市川太郎、一色彩子、安藤 順、清水康弘、山口香織、橘和聡文、星野有哉²、鈴木英之²、畝本恭子³ (¹) 武蔵小杉病院血管内・低侵襲治療センター、² 武蔵小杉病院消化器病セ

ンター, ³⁾ 武蔵小杉病院救命救急センター) : 静脈管開存に対し経カテーテル的塞栓術が成功した1例. 日本静脈学会総会 (第32回) (大宮), 2012. 6.

- 7) 橋和聡文, 一色彩子, 清水康弘, 安藤 順, 山口香織, 市川太郎, 八鍬 彰, 高橋 徹, 藺牟田治, 竹ノ下尚子¹⁾, 金城忠志¹⁾, 田島廣之¹⁾, 水谷 聡²⁾, 鈴木英之²⁾, 許田典男³⁾, その他1名 (¹⁾ 武蔵小杉病院血管内・低侵襲治療センター, ²⁾ 武蔵小杉病院消化器病センター, ³⁾ 武蔵小杉病院病理) : 術前CTにて膵管内乳頭粘液性腫瘍の破裂が疑われた急性膵炎の1例. Advanced CT・MR研究会 (第2回) (軽井沢), 2012. 6.
- 8) 金城忠志¹⁾, 竹ノ下尚子¹⁾, 田島廣之¹⁾, 市川太郎, 白川 真²⁾, 丸山雄二²⁾, 井村 肇²⁾ (¹⁾ 武蔵小杉病院血管内・低侵襲治療センター, ²⁾ 武蔵小杉病院心臓血管外科) : 95歳総腸骨動脈瘤に対するレッグ逆挿法によるステントグラフト治療. 日本IVR学会関東地方会 (第7回) (品川), 2012. 7.
- 9) 竹ノ下尚子¹⁾, 田島廣之¹⁾, 金城忠志¹⁾, 市川太郎, 一色彩子, 安藤 順, 清水康弘, 山口香織, 橋和聡文, 山本英世²⁾, 佐藤直樹²⁾ (¹⁾ 武蔵小杉病院血管内・低侵襲治療センター, ²⁾ 武蔵小杉病院循環器内科) : 胸骨圧迫に伴う内胸動脈損傷と血管塞栓術. 日本医学放射線学会秋季臨床大会 (第48回) 日本救急放射線研究会 (第22回) (長崎), 2012. 9.

[武蔵小杉病院血管内・低侵襲治療センター]

研究概要

臨床・基礎各科との協調・連携の下, 血管内・低侵襲治療に関する広範な領域の臨床研究を展開しており, 「急性疾患の血管内治療」と「全身血管性病変の血管内治療」をメインテーマとしている。

前者に関しては, 「静脈血栓塞栓症」と「外傷」を2本の研究の柱としており, 文部科学省の科学研究費を獲得し, 国際学会のシンポジウムに採択されるなど, 国内外で高い評価を得ている。咯血・消化管出血・後腹膜出血などの「出血」に関する研究も進んでいる。

後者に関しては, 胸部・腹部大動脈瘤/解離のステントグラフト, 閉塞性動脈硬化症のステント, 膝下動脈狭窄・閉塞のバルンPTA, 腎動脈狭窄のステントなどの低侵襲血行再建や動静脈奇形の血管塞栓術などに関する研究を行っているが, その良好な治療成績が目ざされている。

一方, 非血管低侵襲治療については, 肺癌のCTガイド下生検・ラジオ波焼灼治療, 術後トラブルに対するCTガイド下ドレナージ, 乳癌のステレオタクティク・マンモトーム生検などを中心とした臨床研究を行っている。

血管内・低侵襲治療をより安全に効果的に施行する目的で, 先端画像診断に関する解析や新規デバイスの開発も行っており, 「東京アンギオ・IVR会」の事務局を担当している。

なお, これらと平行して, 以前より肺癌・乳癌・胃癌などの癌検診や造影剤に関する研究も継続している。

研究業績

論文

(1) 原著 :

- 1) Mizutani S¹⁾, Suzuki H¹⁾, Aimoto T²⁾, Nomura S¹⁾, Hoshino A¹⁾, Chihara N¹⁾, Komine O¹⁾, Yoshino M¹⁾, Ogata M¹⁾, Watanabe M¹⁾, Tajima H, Uchida E²⁾ (¹⁾ Institute of Gastroenterology, ²⁾ Surgery) : Time-dependent changes in endoscopic findings of intestine in patient with acute superior mesenteric arterial thrombosis after pancreaticoduodenectomy. Digestive Endoscopy 2012 ; 24 (4) : 289.
- 2) 橋和聡文¹⁾, 一色彩子¹⁾, 清水康弘¹⁾, 安藤 順¹⁾, 市川太郎¹⁾, 竹ノ下尚子, 金城忠志, 田島廣之, 春原沙織²⁾, 村澤恒男²⁾, 畝本恭子³⁾ (¹⁾ 武蔵小杉病院放射線科, ²⁾ 武蔵小杉病院内科, ³⁾ 武蔵小杉病院救命救急センター) : 腎血管筋脂肪腫の腎動脈瘤破裂に対する緊急動脈塞栓術. 映像情報メディカル 2013 ; 45 (2) : 156-158.
- 3) Munakata R¹⁾, Yamamoto T¹⁾, Hosokawa Y¹⁾, Takita Y¹⁾, Akutsu K¹⁾, Sato N¹⁾, Murata S²⁾, Tajima H,

Mizuno K³⁾, Tanaka K¹⁾ (1) CCU, Nippon Medical School Hospital, 2) Radiology, Nippon Medical School Hospital, 3) Int Med, Nippon Medical School Hospital) : Massive pulmonary embolism requiring extracorporeal life support treated with catheter-based interventions. International Heart Journal 2012 ; 53 (6) : 370-374.

(2) 総説 :

- 1) 竹ノ下尚子, 金城忠志, 田島廣之, 山本英世¹⁾, 徳山榮男¹⁾, 佐藤直樹¹⁾ (1) 武蔵小杉病院循環器内科) : 胸骨圧迫に伴う内胸動脈損傷とその血管内治療. ICUとCCU 2012 ; 36 (4) : 308-309.
- 2) 一色彩子¹⁾, 市川太郎¹⁾, 田島廣之, 佐藤秀一²⁾ (1) 武蔵小杉病院放射線科, 2) 横浜旭中央総合病院放射線科) : 腸回転異常のCT診断. 画像診断 2012 ; 32 (8) : 844-861.
- 3) 田島廣之 : 外傷の画像診断とIVR : 2012. 序説. 臨床画像増刊号 2012 ; 28 (10) : 5.
- 4) 川俣博志¹⁾, 嶺 貴彦¹⁾, 田島廣之, 三木隆久²⁾, 八木貴典²⁾, 吉富有哉²⁾, 益子邦洋²⁾ (1) 千葉北総病院放射線科, 2) 千葉北総病院救命救急センター) : 心大血管・末梢血管外傷のIVR. 臨床画像増刊号 2012 ; 28 (10) : 163-172.
- 5) 嶺 貴彦¹⁾, 川俣博志¹⁾, 岡田 進¹⁾, 竹ノ下尚子, 田島廣之, 益子邦洋²⁾ (1) 千葉北総病院放射線科, 2) 千葉北総病院救命救急センター) : 胸部外傷のIVR. 臨床画像増刊号 2012 ; 28 (10) : 76-87.
- 6) 太組一朗¹⁾, 廣中浩平¹⁾, 山田 明¹⁾, 足立好司¹⁾, 酒井行直²⁾, 春原沙織²⁾, 田島廣之, 饒波正博³⁾, 吉田大蔵⁴⁾, 寺本 明⁴⁾ (1) 武蔵小杉病院脳外科, 2) 武蔵小杉病院内科, 3) 沖縄日赤病院脳外科, 4) 付属病院脳外科) : 結節性硬化症の成人症例. 難治性てんかんと腎機能障害. 日本医科大学雑誌 2012 ; 8 (4) : 234-235.
- 7) 田島廣之 : 「NBCAを用いたIVRの実際 : 私はこうしている」序説. 臨床画像 2013 ; 29 (2) : 243.
- 8) 小野澤志郎¹⁾, 田島廣之, 村田 智¹⁾, 中澤 賢¹⁾, 山口英宣¹⁾, 杉原史恵¹⁾, 安井大祐¹⁾, 金城忠志, 竹ノ下尚子, 上田達夫²⁾, 嶺 貴彦³⁾ (1) 付属病院放射線科, 2) 多摩永山病院放射線科, 3) 千葉北総病院放射線科) : 「NBCAを用いたIVRの実際」. 臨床画像 2013 ; 29 (2) : 256-264.
- 9) 金城忠志, 田島廣之, 竹ノ下尚子, 市川太郎¹⁾, 安藤 順¹⁾, 清水康弘¹⁾, 山口香織¹⁾, 一色彩子¹⁾, 橘和聡文¹⁾ (1) 武蔵小杉病院放射線科) : 「NBCAを用いた緊急動脈塞栓術」. 臨床放射線 2013 ; 58 (2) : 287-297.
- 10) 田島廣之, 金城忠志, 竹ノ下尚子, 市川太郎¹⁾, 山本英世²⁾, 菊池有史²⁾, 佐藤直樹²⁾, 村田 智³⁾, 中澤 賢³⁾, 小野澤志郎³⁾, 山本 剛⁴⁾, 田中啓治⁴⁾ (1) 武蔵小杉病院放射線科, 2) 武蔵小杉病院循環器内科, 3) 付属病院放射線科, 4) 付属病院集中治療室) : 急性肺血栓塞栓症のカテーテル治療. 静脈学 2013 ; 24 (1) : 79-86.

著 書

- 1) 田島廣之, 山本 剛¹⁾ (1) 付属病院集中治療室) : [分担] 急性大動脈解離. インターベンション治療 (血管内治療). 「CCU テキスト 循環器救急から集中治療管理まで」(田中啓治, 山本剛 編集), 2013 ; pp232-236, 文光堂.

学会発表

(1) 教育講演 :

- 1) 田島廣之 : 救急IVR. 代表的手技の適応を整理する .. 救急放射線 (ER) セミナープレミアム (第2回) (京都), 2012. 5.
- 2) 田島廣之, 金城忠志, 竹ノ下尚子 : 静脈血栓塞栓症に対する抗凝固療法とIVR. 日本IVR学会夏期学術セミナー (第12回) (秦野), 2012. 7.
- 3) 田島廣之 : 血管系IVRの基本. インターベンション・エキスパート・ナース講習会 (第二回) (東京), 2012. 10.
- 4) 田島廣之 : 救急蘇生法とAED (1). 興和不動産ファシリテーズ. 衛生講和 (赤坂), 2012. 11.
- 5) 田島廣之 : 医療最前線の現場から. からだに優しい治療が血管内・低侵襲治療です. かまわさき市民アカデミー

(川崎), 2012. 11.

6) 田島廣之:救急蘇生法とAED(2). 興和不動産ファシリテーズ.衛生講和(赤坂), 2013. 3.

(2) シンポジウム:

- 1) 保科淑子¹⁾, 田島廣之, 金城忠志, 丸山雄二¹⁾, 井村 肇¹⁾ (¹⁾ 武蔵小杉病院心臓血管外科): 右第5指先天性動静脈奇形に対する1%ポリドカノール硬化療法. 日本血管外科学会学術集会(第40回)(長野), 2012. 5.
- 2) Ueda T¹⁾, Murata S¹⁾, Tajima H, Nakazawa K¹⁾, Onozawa S¹⁾, Mine T¹⁾, Yamaguchi H¹⁾, Sugihara F¹⁾, Akiba A¹⁾, Yasui D¹⁾, Takeda M¹⁾, Miki I¹⁾, Kumita S¹⁾ (¹⁾ Radiology, Nippon Medical School Hospital): A Comparative Study on the Antitumor Efficacy of Miriplatin-Lipiodol Suspension and Cisplatin-Lipiodol Suspension for Hepatocellular Carcinoma in Transcatheter Arterial Chemoembolization.. Progress in Radiology 2012: Joint meeting of the 9th symposium of Japanese Scandinavian Radiological Society and 12th Nordic Japan PACS Symposium (Tokyo), 2012. 9.
- 3) Tajima H, Kaneshiro T, Takenoshita N, Ichikawa T¹⁾, Mine T²⁾, Ueda T²⁾, Onozawa S²⁾, Nakazawa K²⁾, Murata S²⁾, Takagi R²⁾, Kawamata H²⁾, Tajima N²⁾, Hoshina T³⁾, Maruyama Y³⁾, Imura H³⁾, et al. (¹⁾ Radiology, Nippon Medical School Musashikosugi Hospital, ²⁾ Radiology, Nippon Medical School, ³⁾ Cardiovascular Surgery, Nippon Medical School): Mid-term Results of the Zenith Aortic Stent-Graft for Abdominal Aortic Aneurysm. Progress in Radiology 2012: Joint Meeting of the 9th Symposium of Japanese Scandinavian Radiological Society and 12th Nordic Japan PACS Symposium (Tokyo), 2012. 9.
- 4) Mine T¹⁾, Murata S²⁾, Tajima H, Kawamata H¹⁾, Nakazawa K²⁾, Onozawa S²⁾, Ueda T²⁾, Yamaguchi H²⁾, Sugihara F²⁾, Akiba A²⁾, Takeda M²⁾, Miki I²⁾, Okada S¹⁾, Kumita S²⁾ (¹⁾ Radiology, Nippon Medical School Chiba Hokusoh Hospital, ²⁾ Radiology, Nippon Medical School Hospital): The role of NBCA-TAE for gastroduodenal ulcer bleeding: Contribution for hemodynamics and healing process of ulcer. Progress in Radiology 2012: Joint meeting of the 9th Symposium of Japanese Scandinavian Radiological Society and 12th Nordic Japan PACS Symposium (Tokyo), 2012. 9.
- 5) Miki I¹⁾, Murata S¹⁾, Mine T¹⁾, Tajima H, Nakazawa K¹⁾, Onozawa S¹⁾, Ueda T¹⁾, Yamaguchi H¹⁾, Sugihara F¹⁾, Akiba A¹⁾, Sekine T¹⁾, Yasui D¹⁾, Takeda M¹⁾, Kumita S¹⁾ (¹⁾ Radiology, Nippon Medical school Hospital): Effect of head rotation on the position and the form of right internal jugular vein. Progress in Radiology 2012: Joint meeting of the 9th Symposium of Japanese Scandinavian Radiological Society and 12th Nordic Japan PACS Symposium (Tokyo), 2012. 9.
- 6) Yamaguchi H¹⁾, Onozawa S¹⁾, Tajima H, Mine T¹⁾, Murata S¹⁾, Nakazawa K¹⁾, Sugihara F¹⁾, Miki I¹⁾, Sugihara H¹⁾, Hayashi H¹⁾, Kumita S¹⁾ (¹⁾ Radiology, Nippon Medical School Hospital): Clinical usefulness of right adrenal venous detection with thin slice CT for adrenal venous sampling. Progress in Radiology 2012: Joint Meeting of the 9th Symposium of Japanese Scandinavian Radiological Society and 12th Nordic Japan PACS Symposium (Tokyo), 2012. 9.
- 7) Isshiki S¹⁾, Kitsuya A¹⁾, Shimizu Y¹⁾, Ando J¹⁾, Ichikawa T¹⁾, Takenoshita N, Kaneshiro T, Tajima H (¹⁾ Radiology, Nippon Medical school Musashikosugi Hospital): Spontaneous urinary bladder rupture: CT findings. Progress in Radiology 2012: Joint Meeting of the 9th Symposium of Japanese Scandinavian Radiological Society and 12th Nordic Japan PACS Symposium (Tokyo), 2012. 9.
- 8) Takenoshita N, Tajima H, Kaneshiro T, Ichikawa T¹⁾, Ando J¹⁾, Shimizu Y¹⁾, Isshiki S¹⁾, Yamaguchi K¹⁾, Kitsuya A¹⁾ (¹⁾ Radiology Nippon Medical School Musashikosugi Hospital): Pancreaticoduodenal artery aneurysm rupture: diversity of clinical background and transcatheter arterial embolization. Progress in Radiology 2012: Joint meeting of the 9th Symposium of Japanese Scandinavian Radiological Society and 12th Nordic Japan PACS Symposium (Tokyo), 2012. 9.

- 9) 田島廣之, 金城忠志, 竹ノ下尚子, 市川太郎¹⁾, 山本英世²⁾ (1) 武蔵小杉病院放射線科, 2) 武蔵小杉病院循環器内科): 重症急性静脈血栓塞栓症のIVR. 日本心血管インターベンション治療学会CVIT2012 (第21回) (新潟), 2012. 7.
- 10) 山本 剛¹⁾, 村田 智²⁾, 田島廣之, 田中啓治¹⁾ (1) 付属病院集中治療室, 2) 付属病院放射線科): 急性肺塞栓症に対するカテーテル治療の現況. 肺塞栓症研究会学術集会 (第19回) (東京), 2012. 11.
- 11) 嶺 貴彦¹⁾, 村田 智²⁾, 川俣博志¹⁾, 小野澤志郎²⁾, 上田達夫³⁾, 杉原史恵²⁾, 横田裕行⁴⁾, 岡田 進¹⁾, 田島廣之 (1) 千葉北総病院放射線科, 2) 付属病院放射線科, 3) 永山病院放射線科, 4) 付属病院救命救急センター): 出血性上部消化管潰瘍に対するNBCA塞栓術: 循環への寄与と粘膜治療経過. 日本腹部救急医学会総会 (第49回) (博多), 2013. 3.
- (3) 一般講演:
- 1) Tajima H, Kaneshiro T, Takenoshita N, Ichikawa T¹⁾, Hoshina T²⁾, Maruyama Y²⁾, Imura H²⁾, Mine T³⁾, Onozawa S⁴⁾, Nakazawa K⁴⁾, Murata S⁴⁾, Ochi M⁵⁾, Kawamata H³⁾, Bessho R⁶⁾ (1) Radiology, Nippon Medical School Musashikosugi Hospital, 2) Surgery, Nippon Medical School Musashikosugi Hospital, 3) Radiology, Nippon Medical School Chiba-hokusou Hospital, 4) Radiology, Nippon Medical School Hospital, 5) Cardiovascular Surgery, Nippon Medical School Hospital, 6) Cardiovascular Surgery, Nippon Medical School Chiba-hokusou Hospital): Mid-term results of endovascular management With TAG for thoracic aneurysm. APCCVIR 2012 (Kobe), 2012. 5.
- 2) Takenoshita N, Tajima H, Kaneshiro T, Ichikawa T¹⁾, Sunohara S²⁾, Kinoshita K²⁾, Itakura S²⁾, Hongo K²⁾, Yamaguchi T²⁾, Usuki J²⁾ (1) Radiology, Nippon Medical School Musashikosugi Hospital, 2) Pulmonary Medicine, Nippon Medical School Musashikosugi Hospital): Bronchial artery embolization with NBCA for urgent control of life-threatening recurrent massive hemoptysis. APCCVIR 2012 (Kobe), 2012. 5.
- 3) Yamaguchi H¹⁾, Onozawa S¹⁾, Tajima H, Mine T¹⁾, Murata S¹⁾, Nakazawa K¹⁾, Yasui D¹⁾, Sugihara H¹⁾, Hayashi H¹⁾, Kumita S¹⁾ (1) Radiology, Nippon Medical school Hospital): Clinical usefulness of right adrenal venous detection with thin slice CT for adrenal venous sampling. APCCVIR 2012 (Kobe), 2012. 5.
- 4) Onozawa S¹⁾, Tajima H, Mine T¹⁾, Murata S¹⁾, Nakazawa K¹⁾, Ueda T¹⁾, Akiba A¹⁾, Yasui D¹⁾, Ishizaki A²⁾, Sugihara H²⁾, Kumita S¹⁾ (1) Radiology, Nippon Medical School Hospital, 2) Endocrine Medicine, Nippon Medical School Hospital): Adrenal venous sampling with CT angiography. APCCVIR 2012 (Kobe), 2012. 5.
- 5) Isshiki S¹⁾, Ichikawa T¹⁾, Tajima H, Sato S²⁾, Obuchi M²⁾, Minami M³⁾ (1) Radiology, Nippon Medical school Musashikosugi hospital, 2) Asahi Central Hospital, 3) Tsukuba University): Radiological reconsideration of Grey Turner's sign. ESGAR 2012 (Edinburgh), 2012. 6.
- 6) 金城忠志, 田島廣之, 竹ノ下尚子, 市川太郎¹⁾, 安藤 順¹⁾, 清水康弘¹⁾, 一色彩子¹⁾, 橘和聡文¹⁾ (1) 武蔵小杉病院放射線科): NBCA・リビオドールを用いた緊急止血術. 日本医学放射線学会総会 (第71回) (横浜), 2012. 4.
- 7) 田島廣之, 金城忠志, 竹ノ下尚子, 市川太郎¹⁾, 保科淑子²⁾, 井村 肇²⁾, 村田 智³⁾, 中澤 賢³⁾, 嶺 貴彦³⁾, 川俣博志⁴⁾ (1) 武蔵小杉病院放射線科, 2) 武蔵小杉病院心臓血管外科, 3) 付属病院放射線科, 4) 千葉北総病院放射線科): 腹部大動脈瘤に対するZenith AAAエンドバスキュラーグラフトの中期成績. 日本医学放射線学会総会 (第71回) (横浜), 2012. 4.
- 8) 小野澤志郎¹⁾, 田島廣之, 村田 智¹⁾, 中澤 賢¹⁾, 嶺 貴彦¹⁾, 上田達夫¹⁾, 山口英宣¹⁾, 秋葉絢子¹⁾, 汲田伸一郎¹⁾, 杉原 仁²⁾ (1) 付属病院放射線科, 2) 付属病院内分泌内科): AngioCT併用下副腎静脈サンプリングに関する検討. 日本医学放射線学会総会 (第71回) (横浜), 2012. 4.
- 9) 小野澤志郎¹⁾, 山口英宣¹⁾, 嶺 貴彦¹⁾, 村田 智¹⁾, 田島廣之 (1) 付属病院放射線科): 副腎静脈サンプリング

グ・サンプリングの実際とCT. APCCVIR 2012 技術教育セミナー (第12回) (神戸), 2012. 5.

- 10) 竹ノ下尚子, 田島廣之, 金城忠志, 市川太郎¹⁾, 一色彩子¹⁾, 安藤 順¹⁾, 清水康弘¹⁾, 山口香織¹⁾, 橘和聡文¹⁾, 星野有哉²⁾, 鈴木英之²⁾, 畝本恭子³⁾ (1) 武蔵小杉病院放射線科, 2) 武蔵小杉病院消化器病センター, 3) 武蔵小杉病院救命救急センター): 静脈管開存に対し経カテーテル的塞栓術が成功した1例. 日本静脈学会総会 (第32回) (大宮), 2012. 6.
- 11) 小野澤志郎¹⁾, 田島廣之, オークソンミカエル²⁾, 村田 智¹⁾, 中澤 賢¹⁾, 保坂純郎¹⁾ (1) 付属病院放射線科, 2) スコーネ大学病院): 血管内治療後3年で血栓閉塞を来した下大静脈欠損症と思われる1例. 日本静脈学会総会 (第32回) (大宮), 2012. 6.
- 12) 中澤 賢¹⁾, 田島廣之, 村田 智¹⁾, 小野澤志郎¹⁾, 嶺 貴彦¹⁾, 上田達夫¹⁾, 秋葉絢子¹⁾, 安井大祐¹⁾, 汲田伸一郎¹⁾, 山本 剛²⁾, 田中啓治²⁾ (1) 付属病院放射線科, 2) 付属病院集中治療室): 繰り返す血管内治療に抵抗したプロテインS欠乏症を伴う深部静脈血栓症. 日本静脈学会総会 (第32回) (大宮), 2012. 6.
- 13) 橘和聡文¹⁾, 一色彩子¹⁾, 清水康弘¹⁾, 安藤 順¹⁾, 山口香織¹⁾, 市川太郎¹⁾, 八鍬 彰¹⁾, 高橋 徹¹⁾, 蘭牟田治¹⁾, 竹ノ下尚子, 金城忠志, 田島廣之, 水谷 聡²⁾, 鈴木英之²⁾, 許田典男³⁾, その他1名 (1) 武蔵小杉病院放射線科, 2) 武蔵小杉病院消化器病センター, 3) 武蔵小杉病院病理部): 術前CTにて脛管内乳頭粘液性腫瘍の破裂が疑われた急性膀胱炎の1例. Advanced CT・MR研究会 (第2回) (軽井沢), 2012. 6.
- 14) 金城忠志, 竹ノ下尚子, 田島廣之, 市川太郎¹⁾, 白川 真²⁾, 丸山雄二²⁾, 井村 肇²⁾ (1) 武蔵小杉病院放射線科, 2) 武蔵小杉病院心臓血管外科): 95歳総腸骨動脈瘤に対するレッグ逆挿法によるステントグラフト治療. 日本IVR学会関東地方会 (第7回) (品川), 2012. 7.
- 15) 竹ノ下尚子, 田島廣之, 金城忠志, 市川太郎¹⁾, 一色彩子¹⁾, 安藤 順¹⁾, 清水康弘¹⁾, 山口香織¹⁾, 橘和聡文¹⁾, 山本英世²⁾, 佐藤直樹²⁾ (1) 武蔵小杉病院放射線科, 2) 武蔵小杉病院循環器内科): 胸骨圧迫に伴う内胸動脈損傷と血管塞栓術. 日本医学放射線学会秋季臨床大会 (第48回) 日本救急放射線研究会 (第22回) (長崎), 2012. 9.
- 16) 竹ノ下尚子, 田島廣之, 金城忠志, 井村 肇¹⁾, 丸山雄二¹⁾, 白川 真¹⁾, 田上素子¹⁾, 山本英世²⁾, 徳山榮男²⁾, 望月 徹³⁾ (1) 武蔵小杉病院心臓血管外科, 2) 武蔵小杉病院循環器内科, 3) 武蔵小杉病院感染制御部): 感染性総腸骨動脈瘤に対してステントグラフト内挿術を施行した1例. 川崎大動脈ステントグラフト研究会 (第1回) (川崎), 2013. 1.
- 17) 山際 亮¹⁾, 水谷 聡¹⁾, 鈴木英之¹⁾, 豊田哲鎬¹⁾, 山岸征嗣¹⁾, 村木 輝¹⁾, 渡辺昌則¹⁾, 田島廣之, 内田英二²⁾ (1) 武蔵小杉病院消化器病センター, 2) 付属病院外科): IVRにより救命しえた膀胱部癌十二指腸出血の1例. 日本腹部救急医学会総会 (博多), 2013. 3.
- 18) 高木宏治¹⁾, 山本英世¹⁾, 鈴木啓士¹⁾, 曾根教子¹⁾, 表 俊也¹⁾, 徳山榮男¹⁾, 中村有希¹⁾, 菊池有史¹⁾, 石川昌弘¹⁾, 網谷賢一¹⁾, 高橋直人¹⁾, 内田高浩¹⁾, 佐藤直樹¹⁾, 竹ノ下尚子, 金城忠志, その他2名 (1) 武蔵小杉病院循環器内科): 巨大嚢状動脈瘤を伴った冠状動脈肺動脈血管奇形に対してコイル塞栓術を行った1例. 日本血管内治療学会総会 (第18回) (市ヶ谷), 2012. 7.
- 19) 金城忠志, 田島廣之, 竹ノ下尚子, 大野 大¹⁾ (1) 武蔵小杉病院腎臓内科): 多発性嚢胞腎に対するB-glueを用いた腎動脈塞栓術. B-glue研究会 (東京), 2013. 2.

[多摩永山病院放射線科]

研究概要

CTでは、ワークステーションを活用した医用画像処理の研究・マルチスライスCTを用いた心疾患の診断・造影剤の腎機能に及ぼす影響について検討を続けている。また高濃度ヨード造影剤を用いた肝腫瘍の抽出能についての検討も行っている。MRIではEOBによる肝腫瘍の抽出能に関する検討を行っている。また、局所の新機能解析の検討

を行っている。今後は核医学的検査との比較を予定している。核医学では、これまで外部企業と共同で心電図同期 SPECT の解析プログラムを開発し、現在は新たなプログラムを開発中である。また、これらを用いて種々の心疾患における心筋の血流・代謝と壁運動・同期性の関係や心筋虚血と壁運動の同期性の関係について検討を重ねている。また、左室壁運動の同期性を用いた予後予測についてもデータを蓄積中である。さらにサーバー型画像解析装置を用いて、CT、MRI、RI 画像の統合を行い、診断精度の向上を目的とした研究を準備中である。

研究業績

論文

〔追加分〕

追加分原著：

- 1) Miyachi H¹⁾, Yamamoto A, Otsuka T²⁾, Yoshikawa M¹⁾, Kodani E¹⁾, Endoh Y¹⁾, Nakagomi A¹⁾, Kusama Y¹⁾, Atarashi H¹⁾, Mizuno K³⁾ (1) Division of Cardiology, Department of Internal Medicine, Nippon Medical School Tama-Nagayama Hospital, 2) Department of Hygiene and Public Health, Nippon Medical School, 3) Division of Cardiology, Hepatology, Geriatric, and Integrated Medicine, Department of Internal Medicine, Nippon Medical School) : Relationship between left ventricular dyssynchrony and systolic dysfunction is independent of impaired left ventricular myocardial perfusion in heart failure : Assessment with 99mTc-sestamibi gated myocardial scintigraphy. International Journal of Cardiology, Available online 2012.
- 2) Murata S¹⁾, Onozawa S¹⁾, Oda T²⁾, Mine T¹⁾, Ueda T, Kumita S¹⁾, Nomura K³⁾ (1) Department of Radiology / Center for Advanced Medical Technology, Nippon Medical School, 2) Department of Surgery, Graduate School of Comprehensive Human Science, University of Tsukuba, 3) Tokyo Labor-Welfare Hospital) : Pharmacologic advantages of negative-balance isolated pelvic perfusion : achievement of intensive exposure of the pelvis to platinum without systemic leakage.. Radiology 2012 ; 262 (2) : 503-510.

(1) 原著：

- 1) 山本 彰, 小杉宗範¹⁾, 上田達夫, 小林由子, 玉井 仁, 草間芳樹¹⁾, 新 博次¹⁾, 汲田伸一郎²⁾ (1) 日本医大多摩永山病院 内科・循環器内科, 2) 日本医大付属病院 放射線科) : 運動負荷の心筋血流・収縮能・壁運動協調性とその相関への影響 : 心筋梗塞症例を除く. 臨床放射線 2013 ; 58 (1) : 196-205.
- 2) 山本 彰, 小杉宗範¹⁾, 上田達夫, 小林由子, 玉井 仁, 草間芳樹¹⁾, 新 博次¹⁾, 汲田伸一郎²⁾ (1) 日本医大多摩永山病院 内科・循環器内科, 2) 日本医大付属病院 放射線科) : アデノシン負荷の心筋血流・収縮能・壁運動協調性とその相関への影響 : 心筋梗塞症例を除く. 臨床放射線 2013 ; 58 (1) : 206-214.
- 3) Mine T¹⁾, Murata S¹⁾, Ueda T, Onozawa S¹⁾, Onda M²⁾, Naito Z²⁾, Kumita S¹⁾ (1) Department of Radiology, Nippon Medical School, 2) Department of Integrative Oncological Pathology, Nippon Medical School) : Comparative study of cisplatin-iodized oil suspension and emulsion for transcatheter arterial chemoembolization of rabbit VX2 liver tumors.. Hepatology Research 2012 ; 42 (5) : 473-481.
- 4) Murata S¹⁾, Onozawa S¹⁾, Nakazawa K¹⁾, Mine T¹⁾, Ueda T, Tajima H¹⁾, Yoshida H¹⁾, Kumita S¹⁾ (1) Department of Radiology, Center for Advanced Medical Technology) : Glue embolization for endoscopically unmanageable gastrointestinal haemorrhage.. Hepatogastroenterology 2012 ; 59 (116) : 1126-1130.

(2) 総説：

- 1) 上田達夫, 村田 智¹⁾, 汲田伸一郎¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院放射線科) : 急性下肢動脈閉塞症に対する IVR 治療. ICU と CCU 2012 ; 36 (8) : 616-618.
- 2) 上田達夫, 林 宏光¹⁾, 汲田伸一郎¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院放射線科) : 大動脈疾患における CT 検査の役割. Angiology frontier 2012 ; 11 (2) : 28-37.

- 3) 小野澤志郎¹⁾, 田島廣之²⁾, 村田 智¹⁾, 中澤 賢¹⁾, 山口英宣¹⁾, 杉原史恵¹⁾, 安井大祐¹⁾, 金城忠志²⁾, 竹之下尚子²⁾, 上田達夫, 嶺 貴彦³⁾ (1) 日本医科大学付属病院放射線科, 2) 日本医科大学武蔵小杉病院血管内・低侵襲治療センター, 3) 日本医科大学千葉北総病院放射線科): NBCA を用いた IVR の実際. 臨床画像 2013; 29 (2): 256-264.

著 書

〔追加分〕

追加分:

- 1) 上田達夫, 中澤 賢¹⁾, 田島廣之¹⁾: [自著] 鎖骨下動脈損傷. 「できる救急. 手技のコツとポイント」(中島康雄, 田島廣之, 西巻博, 大友康裕編集), 2012; pp56-57, メジカルビュー社.
- 2) 上田達夫, 武田美那子¹⁾, 村田 智¹⁾: [自著] 内臓動脈瘤破裂 胃動脈. 『できる救急. 手技のコツとポイント』(中島康雄, 田島廣之, 西巻博, 大友康裕編集), 2012; pp138-139, メジカルビュー社.
- 3) 上田達夫, 中澤 賢, 田島廣之: [自著] 急性四肢動脈閉塞症. 「できる救急. 手技のコツとポイント」(中島康雄, 田島廣之, 西巻博, 大友康裕編集), 2012; pp162-164, メジカルビュー社.
- 1) 上田達夫: [自著] 大動脈解離. [すぐ役立つ救急の CT・MRI] (井田正博, 高木亮, 藤田安彦編著), 2012; pp132-135, 秀潤社.
- 2) 上田達夫: [自著] 胸部大動脈瘤. 「すぐ役立つ救急の CT・MRI」(井田正博, 高木亮, 藤田安彦編著), 2012; pp136-137, 秀潤社.
- 3) 上田達夫: [自著] 急性肺血栓塞栓症. 「すぐ役立つ救急の CT・MRI」(井田正博, 高木亮, 藤田安彦編著), 2012; pp138-139, 秀潤社.

学会発表

(1) 特別講演:

- 1) 上田達夫: 消化器疾患に対する IVR. 多摩市消化器疾患懇話会 (第 15 回) (日本医科大学多摩永山病院), 2013. 2.

(2) 一般講演:

- 1) 山本 彰, 阿部和也, 小林由子, 玉井 仁, 汲田伸一郎¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院放射線科): アデノシン負荷の心筋血流・収縮能・壁運動同期性とその相関への影響. 日本医学放射線学会総会 (第 71 回) (パシフィコ横浜), 2012. 4.
- 2) 山本 彰, 阿部和也, 小林由子, 玉井 仁, 汲田伸一郎¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院放射線科): 運動負荷の心筋血流・収縮能・壁運動同期性とその相関への影響の検討. 日本医学放射線学会総会 (パシフィコ横浜), 2012. 4.
- 3) 上田達夫, 村田 智¹⁾, 安井大祐¹⁾, 中澤 賢¹⁾, 小野澤志郎¹⁾, 嶺 貴彦¹⁾, 山口英宣¹⁾, 秋葉絢子¹⁾, 楯原義之²⁾, 汲田伸一郎¹⁾ (1) 日本医科大学放射線医学, 2) 日本医大消化内): 肝動脈化学塞栓術におけるミリプラチンとシスプラチンの抗腫瘍効果に関する比較検討. 日本医学放射線学会総会 (第 71 回) (パシフィコ横浜), 2012. 4.
- 4) Ueda T, Murata S¹⁾, Tajima H¹⁾, Nakazawa K¹⁾, Onozawa S¹⁾, Mine T¹⁾, Yamaguchi H¹⁾, Sugihara F¹⁾, Akiba A¹⁾, Kumita S¹⁾, Yasui D¹⁾ (1) Department of Radiology, Nippon Medical School): A comparative Study on the Antitumor Efficacy of Miriplatin-Lipiodol Suspension and Cisplatin-Lipiodol Suspension for Hepatocellular Carcinoma in Transcatheter Arterial Chemoembolization. Progress in Radiology 2012 (Tokyo Japan), 2012. 9.
- 5) 上田達夫, 村田 智¹⁾, 林 宏光¹⁾, 小林由子, 玉井 仁, 山本 彰, 落 雅美²⁾, 横田裕行³⁾, 汲田伸一郎¹⁾ (1)

日本医科大学付属病院放射線科, ²⁾ 日本医科大学付属病院心臓血管外科, ³⁾ 日本医科大学付属病院高度救命救急センター) : 急性腸間膜動脈血栓症に対する血管内治療の成績及び戦略に関する検討. 日本脈管学会総会 (第53回) (東京ステーションコンファレンス), 2012. 10.

- 6) 上田達夫, 村田 智¹⁾, 小林由子, 玉井 仁, 山本 彰, 汲田伸一郎¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学付属病院放射線科) : 急性腸間膜動脈閉塞症に対する IVR 治療. 日本腹部救急医学会総会 (第49回) (福岡国際会議場), 2013. 3.
- 7) Ueda T, Murta S¹⁾, Nakazawa K¹⁾, Onozawa S¹⁾, Mine T¹⁾, Yamaguchi H¹⁾, Sugihara F¹⁾, Akiba A¹⁾, Yasui D¹⁾, Kumita S¹⁾ (¹⁾ Department of Radiology, Nippon Medical School) : Comparison of the Antitumor Effect of Cisplatin-Iodized Oil Suspension and Miriplatin-Iodized Oil Suspension for Hepatocellular Carcinoma in Transcatheter Arterial Chemoembolization. 4th Asian Congress of Abdominal Radiology (ACAR2013) (Kaohsiung Taiwan), 2013. 3.

[多摩永山病院放射線治療科]

研究概要

3次元治療計画を全症例に適用している. 研究, 業績の両者に利用できるよう受付, 医師, 技師間のイントラネットデータベースを構築し運用している. 体幹部定位照射を施行し, 最適な照射方向の組み合わせを解析している. 前立腺癌の照射時に超音波装置を使い, 尿量を確認し, 有害事象との関連を解析している.

研究業績

学会発表

(1) 特別講演 :

- 1) 能勢隆之 : 「組織内照射, とくに ABPI (加速乳房部分照射法) 臨床試験について」. 北部九州放射線治療研究会 (第4回) (ホテルセントラーザ博多), 2012. 9.
- 2) 能勢隆之 : 当院でできる放射線治療 : 肺癌・乳癌・前立腺癌・直腸癌を中心に. 鹿浜臨床懇話会 (第1回) (東京), 2012. 10.

(2) 一般講演 :

- 1) 能勢隆之, 土器屋卓志¹⁾, 大谷侑輝¹⁾, 小口正彦¹⁾, 築山 巖¹⁾, 吉田 謙¹⁾, 余田栄作¹⁾, 松村泰成¹⁾, 立入誠司¹⁾, 伊丹 純¹⁾ (¹⁾ APBIグループ) : 加速乳房部分照射 (APBI) の多施設共同臨床試験の Secondary endpoints (臨床結果). 日本放射線腫瘍学会 (第25回) (東京国際フォーラム), 2012. 11.
- 2) 能勢隆之 : 優しくなった, 強くなった放射線治療 : 乳がん, 肺がん, 前立腺がん. 多摩健康セミナー (第32回) (多摩市), 2012. 6.
- 3) 大谷侑輝¹⁾, 土器屋卓志¹⁾, 能勢隆之, 小口正彦¹⁾, 築山 巖¹⁾, 吉田 謙¹⁾, 余田栄作¹⁾, 松村泰成¹⁾, 立入誠司¹⁾, 伊丹 純¹⁾ (¹⁾ APBIグループ) : APBI の多施設共同試験の Primary endpoint 解析結果. 日本放射線腫瘍学会 (第25回) (東京国際フォーラム), 2012. 11.
- 4) 大谷侑輝¹⁾, 土器屋卓志¹⁾, 佐伯俊昭¹⁾, 熊崎 祐¹⁾, 能勢隆之, 小口正彦²⁾, 築山 巖³⁾, 旭 修司³⁾, 吉田謙⁴⁾, 増田慎三⁴⁾, 余田栄作⁵⁾, 中島一毅⁵⁾, 松村泰成⁶⁾, 藤井輝彦⁶⁾, 上原 智⁷⁾, その他5名 (¹⁾ 埼玉国際医療センター, ²⁾ がん研有明, ³⁾ 会津中央病院, ⁴⁾ 大阪医療センター, ⁵⁾ 川崎医大, ⁶⁾ 九州医療センター, ⁷⁾ 九州がんセンター) : 加速乳房部分照射 (APBI) の多施設共同臨床試験の Primary endpoint 解析結果. 日本放射線腫瘍学会小線源治療部会研究会 (第14回) (軽井沢), 2012. 5.
- 5) 旭 修司¹⁾, 土器屋卓志²⁾, 佐伯俊昭²⁾, 大谷侑輝²⁾, 熊崎 祐²⁾, 能勢隆之, 小口正彦³⁾, 築山 巖¹⁾, 吉田謙⁴⁾, 増田慎三⁴⁾, 余田栄作⁵⁾, 中島一毅⁵⁾, 松村泰成⁶⁾, 藤井輝彦⁶⁾, 上原 智⁷⁾, その他5名 (¹⁾ 会津中央病院, ²⁾ 埼玉医大国際医療センター, ³⁾ がん研有明, ⁴⁾ 大阪医療センター, ⁵⁾ 川崎医大, ⁶⁾ 九州医療センター,

7) 九州がんセンター) : 加速乳房部分照射 (APBI) の多施設共同臨床試験の臨床結果. 日本放射線腫瘍学会小線源治療部会研究会 (第 14 回) (軽井沢), 2012. 5.

[千葉北総病院放射線科]

研究概要

MRI 領域では, 脳血流解析に用いられる ASL を下肢に用いて, 動脈硬化性動脈閉塞性疾患の血流評価を行う研究を行っている. ボランティアおよび臨床例について検討を行い, 発表の予定である. CT 領域では, 64 列マルチスライス CT を用いた CTA について症例を重ねて検討している. とくに, 冠動脈の血流支配領域をカラーで 3 次元表示する方法を開発した. 今後, 臨床症例を積み重ねて, その臨床的有用性について発表の予定である. 婦人科系の腫瘍について, 女性診療科および病理部とのカンファランスを通じて, 画像と臨床所見や病理像との比較検討を行っており, 子宮や卵巣の稀な腫瘍や炎症性疾患などについて, 症例を重ねて検討している. 救命救急分野において, 救命救急部とのカンファランスを毎週行い, 臨床像と画像との対比検討を行っている. 緊急 IVR の症例などについて, 臨床像とあわせて検討している. 消化器疾患については, 外科・内科・病理部と合同で, 術前症例および術後症例についてのカンファランスを行っている. 画像と癌の深達度, 転移・浸潤所見などについて, 手術所見・病理所見と画像所見との比較検討を行っている. IVR 領域においては, 外傷症例, 悪性腫瘍, ASO, 深部静脈血栓症, 大動脈ステント, 透析シャントトラブルなどの多くの症例に対して治療を行い, 良好な成績を得ている. 大動脈ステントについては, 症例が増加し, いずれも良好な成績をえている. 消化管出血, 内腸骨動脈瘤などの IVR について, 詳細な検討を行って発表している. 情報処理・PACS 分野では, システムの改善の努力を続けている. また, 今後はさらに学術的な部分での強化をはかる予定である.

研究業績

論文

[追加分]

追加分原著:

- 1) Ueda T¹⁾, Murata S¹⁾, Mine T, Onozawa S¹⁾, Onda M¹⁾, Naito Z¹⁾, Amano Y¹⁾, Kumita S¹⁾ (1) Nippon Medical School) : Comparison of epirubicin-iodized oil suspension and emulsion for transcatheter arterial chemoembolization in VX2 tumor. ScientificWorldJournal 2012 ; 2012 (961986) : Epub.

(1) 原著:

- 1) Mine T, Murata S¹⁾, Ueda T¹⁾, Onozawa S¹⁾, Onda M²⁾, Naito Z²⁾, Kumita S¹⁾ (1) Nippon Medical School, 2) Dept of Integrative Pathology, Nippon Medical School) : Comparative study of cisplatin-iodized oil suspension and emulsion for transcatheter arterial chemoembolization of rabbit VX2 liver tumors. Hepatology Research 2012 ; 42 (5) : 473-481.
- 2) Kim K¹⁾, Emoto N²⁾, Mishina M³⁾, Okada S, Isu T⁴⁾, Yoshida D⁵⁾, Kobayashi S¹⁾, Teramoto A⁵⁾ (1) Dept of Neurosurgery, 2) Dept of Internal Medicine, 3) Dept of Internal Medicine, Nippon Medical School, 4) Dept of Neurosurgery, Kushiro Rosai Hospital, 5) Dept of Neurosurgery, Nippon Medical School) : Incidental Detection of Thyroid Nodules at Magnetic Resonance Imaging of the Cervical Spine. Neurologia Medico-Chirurgica 2013 ; 53 (2) : 77-81.
- 3) Murata S¹⁾, Onozawa S¹⁾, Nakazawa K¹⁾, Mine T, Ueda T¹⁾, Tajima H²⁾, Yoshida H³⁾, Kumita S¹⁾ (1) Nippon Medical School, 2) Musashikosugi Hospital, 3) Tamanagayama Hospital) : Glue embolization for endoscopically unmanageable gastrointestinal haemorrhage. Hepatogastroenterology 2012 ; 59 (116) : 1126-

1130.

(2) 総説：

- 1) 嶺 貴彦, 川俣博志, 岡田 進, 竹ノ下尚子¹⁾, 田島廣之¹⁾, 益子邦洋²⁾ (¹⁾ 武蔵小杉病院血管内・低侵襲治療センター, ²⁾ 救命救急センター) : 胸部外傷のIVR. 臨床画像 2012; 28 (10) : 76-87.
- 2) 川俣博志, 嶺 貴彦, 田島廣之¹⁾, 三木隆久²⁾, 八木貴典²⁾, 吉富有哉²⁾, 益子邦洋²⁾ (¹⁾ 武蔵小杉病院血管内・低侵襲治療センター, ²⁾ 救命救急センター) : 心大血管・末梢血管外傷のIVR. 臨床画像 2012; 28 (10) : 163-172.

(3) 症例報告：

- 1) 嶺 貴彦, 川俣博志, 岡田 進, 松本 尚¹⁾, 吉富有哉¹⁾, 益子邦洋¹⁾, 村田 智²⁾, 汲田伸一郎²⁾ (¹⁾ 救命救急センター, ²⁾ 付属病院) : Damage Control Surgery の一環としての外傷IVR. ICUとCCU 2013; 37 (2) : 162-163.

学会発表

(1) シンポジウム：

- 1) 嶺 貴彦, 村田 智¹⁾, 川俣博志, 小野澤志郎¹⁾, 上田達夫²⁾, 杉原史恵¹⁾, 横田裕行³⁾, 岡田 進, 汲田伸一郎¹⁾ (¹⁾ 付属病院, ²⁾ 多摩永山病院, ³⁾ 付属病院高度救命救急センター) : 出血性上部消化管潰瘍に対するNBCA塞栓術：循環動態への寄与と内視鏡観察における粘膜治癒の経過. 日本腹部救急医学会総会 (第49回) (福岡), 2013. 3.

(2) ポスター：

- 1) Shindo E, Kawamata H, Mine T, Furukawa K, Morita F, Okada S, Bessho R : Endovascular management of iliac artery aneurysms with stent-grafts and embolization coils. Asia-Pacific Congress of Cardiovascular & Interventional Radiology 2012 (The 10th) (Kobe), 2012. 5.
- 2) 古川一博 : 脊椎硬膜外血腫の画像診断. 日本医学放射線学会秋季臨床大会 (第48回) (長崎), 2012. 9.
- 3) 川俣博志 : NBCAを用いた塞栓術により良好な治療結果が得られた気管支動脈蔓状血管腫の1例. 日本脈管学会総会 (第53回) (東京), 2012. 10.
- 4) Mine T, Murata S¹⁾, Ueda T¹⁾, Yasui D¹⁾, Kawamata H, Okada S, Kumita S¹⁾ (¹⁾ Nippon Medical School) : Glue embolization for gastroduodenal ulcer bleeding : Contribution to haemodynamics and healing process. Asian Congress of Abdominal Radiology (ACAR2013) (The 4th) (Kaohsiung, Taiwan), 2013. 3.

(3) 一般講演：

- 1) Tajima H¹⁾, Kaneshiro T¹⁾, Takenoshita N¹⁾, Ichikawa T²⁾, Hoshina T²⁾, Maruyama Y²⁾, Imura H²⁾, Mine T, Onozawa S³⁾, Nakazawa K³⁾, Murata S³⁾, Ochi M³⁾, Kawamata H, Bessho R (¹⁾ Center for Minimally Invasive Treatment, Musashikosugi Hospital, ²⁾ Musashikosugi Hospital, ³⁾ Nippon Medical School Hospital) : Mid-term results of endovascular management with TAG for thoracic aneurysm. Asia-Pacific Congress of Cardiovascular & Interventional Radiology 2012 (The 10th) (Kobe), 2012. 5.
- 2) 森田布季子, 川俣博志, 嶺 貴彦, 進藤恵美, 古川一博, 岡田 進, 小南修史¹⁾, 中嶋隆夫²⁾ (¹⁾ 脳神経外科, ²⁾ 整形外科) : 前脊髄動脈が分岐する肋間動脈に対して安全に術前塞栓術を施行し得た solitary fibrous tumor の1例. 日本IVR学会関東地方会 (第7回) (東京), 2012. 7.
- 3) 嶺 貴彦, 川俣博志, 村田 智¹⁾, 秋葉絢子¹⁾, 森田布季子, 進藤恵美, 古川一博, 岡田 進, 新井正徳²⁾, 横田裕行²⁾ (¹⁾ 付属病院, ²⁾ 付属病院高度救命救急センター) : 外傷性肝動静脈瘻に対して, 2方向からのflow control下にNBCA塞栓術を行った1例. 日本IVR学会関東地方会 (第7回) (東京), 2012. 7.
- 4) 川俣博志, 嶺 貴彦, 古川一博, 進藤恵美, 岡田 進, 別所竜蔵¹⁾, 石井庸介¹⁾, 仁科 大¹⁾, 廣本敦之¹⁾, 川瀬庸裕¹⁾ (¹⁾ 胸部心臓血管呼吸器外科) : 血管内治療により孤立化が得られた下腸間膜動脈瘤の1例. 日本血管内

治療学会総会（第18回）（東京），2012. 7.

- 5) 嶺 貴彦, 川俣博志, 三木隆久¹⁾, 古川一博, 進藤恵美, 岡田 進, 八木貴典¹⁾, 吉富有哉¹⁾, 原 義明¹⁾, 松本尚¹⁾, 益子邦洋¹⁾ (¹⁾ 救命救急センター) : 外傷性大腿静脈断裂に伴う深部静脈血栓症に対して, 経皮的血栓除去術と外科的血管修復術のハイブリッド治療が奏功した1例. 日本血管内治療学会総会 (第18回) (東京), 2012. 7.
- 6) Mine T, Murata S¹⁾, Tajima H²⁾, Kawamata H, Nakazawa K¹⁾, Onozawa S¹⁾, Ueda T¹⁾, Yamaguchi H¹⁾, Sugihara F¹⁾, Akiba A¹⁾, Takeda M¹⁾, Miki I¹⁾, Okada S, Kumita S¹⁾ (¹⁾ Nippon Medical School, ²⁾ Center for Minimally Invasive Treatment, Musashikosugi Hospital) : The role of NBCA-TAE for gastroduodenal ulcer bleeding ; Contribution for hemodynamics and healing process of ulcer. Progress in Radiology 2012 (Tokyo), 2012. 9.
- 7) 進藤恵美, 古川一博, 川俣博志, 岡田 進 : 経時的にCTで観察し得た急性大動脈解離破裂の1例. 日本救急放射線研究会 (第22回) (長崎), 2012. 9.
- 8) 加藤丈司¹⁾, 富田尚樹¹⁾, 池亀 敏¹⁾, 永井淳司¹⁾, 阿部雅志¹⁾, 河原崎昇¹⁾, 岡田 進, 小林士郎²⁾ (¹⁾ 放射線センター, ²⁾ 脳神経外科) : 3T MRIにおけるT1強調型FLAIRの造影効果: 脳腫瘍の信号変化とコントラストについて. 日本放射線技術学会秋期学術大会 (第40回) (東京), 2012. 10.
- 9) 加藤丈司¹⁾, 池亀 敏¹⁾, 永井淳司¹⁾, 阿部雅志¹⁾, 河原崎昇¹⁾, 岡田 進, 小林士郎²⁾ (¹⁾ 放射線センター, ²⁾ 脳神経外科) : 転移性脳腫瘍における緩和時間と造影効果. 日本脳神経外科学会学術総会 (第71回) (大阪), 2012. 10.
- 10) Nakajo H : Clinical Application of 64-slice MDCT in the Diagnosis. MRS Meeting (10th) (Yangon, Myanmar), 2012. 11.
- 11) 進藤恵美, 岡田 進, 中條秀信, 古川一博, 櫻村剛司, 森田布季子, 米山剛一¹⁾, 羽鳥 努²⁾, 汲田伸一郎³⁾ (¹⁾ 女性診療科産科, ²⁾ 病理部, ³⁾ 付属病院) : 皮様嚢腫の悪性転化を来した興味深い所見を呈する3例. 日本画像医学会 (第32回) (東京), 2013. 2.
- 12) 加藤丈司¹⁾, 富田尚樹¹⁾, 池亀 敏¹⁾, 阿部雅志¹⁾, 河原崎昇¹⁾, 岡田 進, 小林士郎²⁾ (¹⁾ 放射線センター, ²⁾ 脳神経外科) : 多発性硬化症の3T MRI: 脱髄斑の信号変化について. 千葉MRIセミナー (第28回) (千葉), 2013. 2.
- 13) Nakajo H : Next Generation of CT Imaging. Ct and MRI Seminar 2013 (Bangkok, Thailand), 2013. 3.
- 14) 嶺 貴彦 : 回盲部腸管穿破を来した破裂性総腸骨動脈瘤に対してNBCAを用いた瘤内塞栓術により救命し得た1例. 日本脈管学会総会 (第53回) (東京), 2012. 10.

11. 皮膚科学

[付属病院皮膚科]

研究概要

1. 皮膚の神経内分泌免疫
 - ・免疫担当細胞におよぼす CRH の作用メカニズム.
 - ・CRH がおよぼす毛周期への影響.
 - ・サブスタンス P, NGF, GDNF の皮膚における作用.
2. 自己免疫性水疱症の発症機序
 - ・免疫担当細胞の動態, 細胞外基質分解酵素 (matrix metalloproteinase) の表現解析.
3. 皮質抗原の認識機構の解析
4. センチネルリンパ節生検法の応用と開発
5. 薬疹, 接触性皮膚炎の原因抗原の解析
6. メラニン産生の制御機構
 - ・尋常性白斑の治療法の開発.
7. ウイルス性疣贅におけるテロメース活性の解析
8. 酸化ストレスが炎症病態成立に果たす役割の解析, 新たな治療法の開発
9. 美容皮膚科学
 - ・ケミカルピーリング, 活性型ビタミン C, レチノイン酸, レーザー療法, photodynamictherapy の基礎的研究.
10. レーザー光を応用した治療・診断の開発
 - ・skin optics, selective photothermolysis の理論に基づき, 生体に対する光の反応の臨床応用を目的とする.
11. アトピー性皮膚炎の病態のメカニズム解明と新たな治療法の開発
12. 難治性皮膚疾患 (脱毛症, 痒疹など) に対する治療戦略
 - ・脱毛症に対する免疫療法, 痒疹などに対する紫外線療法.
13. 皮膚疾患における遺伝子治療の基礎的研究
 - ・幹細胞研究・再生工学を駆使した皮膚再生治療, 表遺伝子治療の開発.
14. 心療皮膚科
 - ・患者医師関係において, 皮膚疾患患者に生じる転移 transference や投影同一視, および医師側に生じる逆転移 conufertransference などを利用して行う心身医学的治療戦略.

研究業績

論文

[追加分]

追加分症例報告:

- 1) 川原崎麻以, 上野 孝, 安齋真一, 川名誠司: 左肩甲部に生じた脂肪芽腫の 1 例. 日本小児皮膚科学会雑誌 2012; 31 (1): 45-48.
- 2) Yajima J: Allergic contact dermatitis due to hydrophilized ceramide. Contact Dermatitis 2002; 47 (4): 245-245.

(1) 原著：

- 1) 高山良子, 二神綾子, 安齋眞一, 高田香織, 義澤雄介, 福永景子¹⁾, 中村恭子¹⁾, 田村秀人¹⁾, 壇 和夫¹⁾, 川名誠司 (¹⁾ 血液内科学) : トシリズマブ投与中に Hodgkin リンパ腫を発症した全身型 Castleman 病 (multicentric Castleman's disease) の 1 例. 日皮会誌 2012 ; 122 (6) : 1571-1579.
- 2) 亦野蓉子, 二神綾子, 藤森俊二¹⁾, 川名誠司 (¹⁾ 消化器内科学) : Henoch-Schoenlein 紫斑の小腸病変におけるカプセル内視鏡検査の有用性. 皮膚臨床 2012 ; 54 (5) : 707-711.
- 3) 川原崎麻以, 上野 孝, 安齋眞一, 川名誠司 : Spindle cell lipoma の 1 例. 皮膚臨床 2012 ; 54 (5) : 766-769.
- 4) Omi T : Photopneumatic technology in acne treatment and skin rejuvenation : Histological assessment. Laser Therapy 2012 ; 21 (2) : 113-123.
- 5) Omi T, Yamashita R, Kawana S, Sato S¹⁾, Naito Z²⁾ (¹⁾ Central Institute for Electron Microscopic Research, Nippon Medical School, Tokyo, ²⁾ Departments of Pathology and Integrative Oncological Pathology, Nippon Medical School, Tokyo) : Low fluence Q-switched Nd : YAG laser toning and Q-switched Ruby laser in the treatment of melasma : a comparative split-face ultrastructural study. Laser Therapy 2012 ; 21 (1) : 15-21.
- 6) 高松 章¹⁾, 尾見徳弥 (¹⁾ アラガン・ジャパン) : 人間関係構築のための行動変革. JADS 2012 ; 5 (1) : 22-28.
- 7) 川名誠司 : 皮膚血管炎の診方 疾患概念の再認識 皮膚白血球破碎性血管炎の概念. 日皮会誌 2012 ; 122 (12) : 3233-3255.
- 8) 岡崎 静, 安齋眞一, 長田真一, 川名誠司 : 尋常性乾癬に合併した水疱性類天疱瘡の 1 例. 皮膚臨床 2012 ; 54 (12) : 1683-1687.
- 9) 篠原理恵, 船坂陽子, 安齋眞一, 川名誠司 : 弾性線維の変性像を伴った Interstitial Type Granuloma Annulare の 1 例. 皮膚臨床 2012 ; 54 (9) : 1247-1250.
- 10) 紺野亜希子, 高山良子, 安齋眞一, 川名誠司 : アポクリン腺嚢腫. 皮膚病診療 2012 ; 34 (10) : 997-998.
- 11) 金森幸男, 金子勝美, 渡理英二¹⁾, 川名誠司 (¹⁾ 微生物学・免疫学) : アレルギー性接触皮膚炎の感作相は少なくとも 2 つのステップより構成され, その完成は皮膚の抗原に対する反応性の向上に重要である. 日医大誌 2012 ; 8 (3) : 199-206.
- 12) 古川福実¹⁾, 板見 智²⁾, 伊藤雅章³⁾, 伊藤正俊⁴⁾, 上田説子⁵⁾, 漆畑 修⁶⁾, 大井綱郎⁷⁾, 川島 眞⁸⁾, 川名誠司, 田代博嗣, 坪井良治⁹⁾, 船坂陽子, 松永佳世子¹⁰⁾, 武藤正彦 (¹⁾ 和歌山県立医大皮膚科, ²⁾ 大阪大大学院医学系研究科皮膚・毛髪再生医学寄附講座, ³⁾ 新潟大大学院医歯学総合研究科皮膚科学分野, ⁴⁾ 東邦大医療センター大森病院皮膚科, ⁵⁾ 福岡市, ⁶⁾ 東邦大医学部, ⁷⁾ 東京医科大学茨城医療センター皮膚科学, ⁸⁾ 東女医大医学部皮膚科, ⁹⁾ 東京医大皮膚科学, ¹⁰⁾ 藤田保健衛生大皮膚科学他山口大大学院医学系研究科皮膚科学分野) : 美容皮膚科診療に関する実態調査 日本美容皮膚科学会および日本臨床皮膚科医会の会員 1132 例におけるアンケート調査. Aesthetic Dermatology 2012 ; 22 (2) : 124-143.
- 13) Ishizaki S¹⁾, Sawada M¹⁾, Suzaki R¹⁾, Kobayashi K¹⁾, Ninomiya J¹⁾, Tanaka M¹⁾, Harada T¹⁾, Kawana S, Uchida H²⁾ (¹⁾ Department of Dermatology, Tokyo Womens Medical University Medical Center East, Tokyo, ²⁾ Katsushika-ku, Tokyo) : Tinea faciei by Microsporum gypseum mimicking allergic reaction following cosmetic tattooing of the eyebrows. Med Mycol J 2012 ; 53 (4) : 263-266.
- 14) Akiyama M, Matsuda Y¹⁾, Ishiwata T¹⁾, Naito Z¹⁾, Kawana S (¹⁾ Departments of Pathology and Integrative Oncological Pathology, Nippon Medical School, Tokyo) : Inhibition of the Stem Cell Marker Nestin Reduces Tumor Growth and Invasion of Malignant Melanoma. J Invest Dermatol 2013 ; 133 (5) : 1384-1387.
- 15) Higashi M¹⁾, Ohsawa I²⁾, Oda F, Yamada Y, Kawana S, Iida K³⁾, Mitsuishi T¹⁾ (¹⁾ Department of Dermatology, Tokyo Women's Medical University, Yachiyo Medical Center, Chiba, ²⁾ Department of Environmental Gerontology, Tokyo metropolitan Institute of Gerontology, Tokyo, ³⁾ The Research Institute of Vasccine Therapy for Tumors and Infectious Diseases, Nippon Medical School, Tokyo) : Histamine H1-Receptor An-

- tagonistic Drug Olopatadine Suppresses TSLP in Atopic Dermatitis Model Mice. *Allergol Int* 2013; 62 (1) : 137-138.
- 16) Mayumi N, Watanabe E¹⁾, Norose Y¹⁾, Watari E¹⁾, Kawana S, Geijtenbeek T²⁾ (1) Department of Microbiology and Immunology, Nippon Medical School, Tokyo, 2) Department of Experimental Immunology, Academic Medical Center, University of Amsterdam, Amsterdam, The Netherlands) : E-cadherin interactions are required for Langerhans cell differentiation. *Eur J Immunol* 2013; 43 (1) : 270-280.
- 17) 川名誠司 : 低補体血症性蕁麻疹様血管炎 : 血管炎 : 基礎と臨床のクロストーク. *日本臨牀* 2013; 71 (増刊号1) : 427-432.
- 18) Yamamoto Y¹⁾, Funasaka Y, Matsunaga K²⁾, Akita H²⁾, Ueda S³⁾, Usuki A⁴⁾, Kikuchi K⁵⁾, Kono T, Tanaka T⁶⁾, Hayashi N⁷⁾, Moroi Y⁸⁾, Yonei Y⁹⁾, Furukawa F¹⁰⁾ (1) Department of Dermatology, Wakayama Medical University, Wakayama, 2) Department of Dermatology, Fujita Health University School of Medicine, Aichi, 3) Fukuoka, 4) Department of Dermatology, Konan Hosipital, Kobe, 5) Department of Dermatology, Tohoku University, Graduate School of Medicine and School of Medicine, Sendai, 6) Department of Dermatology, Shiga University of Medicine Science, Otu, 7) Department of Dermatology, Toranomom Hosipital, Tokyo, 8) Department of Dermatology, Kyusyu University, faculty of Medical Science, Graduate School of Medical Science, School of Medicine, Fukuoka, 9) Department of Dermatology, Naga Hospital, Wakayama, 10) Department of Dermatology, Wakayama Medical University, Wakayama) : Guidelines for chemical peeling in Japan (3rd edition). *J Dermatol* 2012; 39 (4) : 321-325.
- 19) Kawaguchi M¹⁾, Hayashi M¹⁾, Murata I¹⁾, Hozumi Y¹⁾, Suzuki N²⁾, Ishii Y³⁾, Wataya-Kaneda M⁴⁾, Funasaka Y, Kawakami T⁵⁾, Fukai K⁶⁾, Ochiai T⁷⁾, Nishigori C⁸⁾, Mitsuhashi Y⁹⁾, Suzuki T¹⁾ (1) Department of Dermatology, Yamagata University, Graduate School of Medical Science and Faculty of Medicine, Yamagata, 2) Department of Dermatology, Toyohashi Municipal Hospital, Toyohashi, 3) Department of Dermatology, University of Tsukuba, Graduate School of Comprehensive Human Science, Tsukuba, 4) Department of Dermatology, Osaka University, Graduate School of Medicine, Faculty of Medicine, Osaka, 5) Department of Dermatology, St. Marianna University School of Medicine, Tokyo, 6) Department of Dermatology, Osaka City University Graduate School of Medicine, Medical School, Osaka, 7) Department of Dermatology, Nihon University, School of Medicine, Tokyo, 8) Department of Dermatology, Kobe University, Graduate School of Medicine, School of Medicine, Kobe, 9) Department of Dermatology, Tokyo Medical University, Tokyo) : Eleven novel mutations of the ADAR1 gene in dyschromatosis symmetrica hereditaria. *J Dermatol Sci* 2012; 66 (3) : 244-245.
- 20) Nakajima A¹⁾, Funasaka Y, Kawana S (1) Kobe Innovation Center, P&G, Kobe) : Investigation by in vivo reflectance confocal microscopy : melanocytes at the edges of solar lentigines. *Exp Dermatol* 2012; 21 (Suppl 1) : 18-21.
- 21) Funasaka Y, Abdel-Daim M¹⁾, Kawana S, Nishigori C¹⁾ (1) Department of dermatology, Kobe University, Graduate School of Medicine. School of Medicine) : Effect of chemical peeling on the skin in relation to UV irradiation. *Exp Dermatol* 2012; 21 (Suppl 1) : 31-35.
- 22) Yajima I¹⁾, Kumasaka M¹⁾, Naito Y²⁾, Yoshikawa T²⁾, Takahashi H¹⁾, Funasaka Y, Suzuki T³⁾, Kato M¹⁾ (1) College of Bioscience and Biotechnology, Chubu University, Aichi, 2) Molcular Gastroentology and Hepatology, Kyoto Prefectural University of medicine Graduate School of Medical Science, Kyoto, 3) Department of Dermatology, Yamagata University, Yamagata) : Reduced GNG2 expression levels in mouse and human malignant melanomas. *Am J Cancer Res* 2012; 2 (3) : 322-329.
- 23) 船坂陽子 : メラノサイトの増殖および紫外線反応性に対する加齢の影響. *未病と抗老化* 2012; 21 : 112-113.

- 24) Fujisawa Y¹⁾, Otsuka F¹⁾, Furukawa H²⁾, Yamashita T²⁾, Hashimoto A²⁾, Tsuchida T²⁾, Yamamoto A²⁾, Ishikawa M²⁾, Kadono T²⁾, Kawana S²⁾, Yamazaki N, Ohara K²⁾, Ashida A²⁾, Takenouchi T²⁾, Hatta N²⁾, et al. (¹)Department Of Dermatology, University of Tsukuba, Tsukuba, ²)Japanese Melanoma Study Group): The benefit of a sentinel lymph node biopsy and adjuvant therapy in thick (>4 mm) melanoma: multicenter, retrospective study of 291 Japanese patients. *Melanoma Res* 2012; 22 (5): 362-367.
- 25) 新見やよい: 感染性肉芽腫. *日皮会誌* 2012; 122 (13): 3486-3488.
- 26) Omi T, Kawana S: Recalcitrant molluscum contagiosum successfully treated with the pulsed dye laser. *Laser Therapy* 2013; 22 (1): 51-54.
- 27) Sato S¹⁾, Takaki T²⁾, Nishiyama H²⁾, Omi T (¹) Division of Morphological and Biomolecular Research, Graduate School of Medicine, Nippon Medical School, Tokyo, Japan, ²) R&D business Support Department Group 1 DATUM Solution business Operations, JEOL Ltd., Tokyo, Japan): TiO₂ Nanoparticles Induced Genotoxicity in Cultured Cells Using Atmospheric Scanning Electron Microscopy (ASEM). *Journal of Cosmetics, Dermatological Science and Applications* 2013; 3: 121-123.
- (2) 総説:
- 1) 菊地伊豆実, 田沼弘之, 川名誠司: 角質増殖型足白癬の治療と治療上の問題点. *日本医科大学医学会誌* 2013; 9 (1): 6-13.
 - 2) 尾見徳弥: ニキビの原因と治療. *皮膚と美容* 2012; 44 (4): 13-17.
 - 3) 船坂陽子: 最近の美容皮膚科治療: 特にケミカルピーリングの evidence について. *癬痕・ケロイド治療ジャーナル* 2012; 6: 1-1.
 - 4) 船坂陽子: 近赤外線照射の皮膚に対する効果: 長所・短所を知る. *日皮会誌* 2012; 122 (13): 3555-3557.
- (3) レター:
- 1) 高山良子: 『「トシリズマブ投与中にHodgkinリンパ腫を発症した全身型Castleman病 (multicentric Castleman disease) の1例」を読んで』の回答. *日皮会誌* 2012; 122 (6): 1571-1579.
- (4) 症例報告:
- 1) 篠原理恵, 朝山祥子, 二神綾子, 川名誠司: 黄色爪症候群の2例. *皮膚臨床* 2012; 54 (5): 743-746.
 - 2) 亦野蓉子, 船坂陽子, 国重智之¹⁾, 堀純子¹⁾, 川名誠司 (¹) 眼科学): HLA-A26 陽性であった Behcet 病の1例. *皮膚臨床* 2012; 54 (5): 707-711.
 - 3) Fujimoto K, Kawasaki Y, Inaba M, Morimoto K, Kikuchi I, Kawana S: A case of suspected tranilast-induced drug eruption. *J Environ Dermatol Cutan Allergo* 2012; 6 (5): 439-444.
 - 4) 秋山美知子, 加藤篤衛, 藤本和久, 二神綾子, 小山良¹⁾, 川名誠司 (¹) 順天堂大呼吸器内科): エタンブトールによる紅皮症型薬疹に対して減感作療法が成功した1例. *臨床皮膚* 2012; 54 (12): 1723-1727.
 - 5) 高山良子, 紺野亜希子, 安齋眞一, 川名誠司: 汗孔腫の典型例. *皮膚病診療* 2012; 34 (10): 999-1000.
 - 6) 山下裕子, 安齋眞一, 上野孝, 川名誠司, 岩切加奈¹⁾ (¹) 横浜市): poroid cell neoplasm. *皮膚病診療* 2012; 34 (10): 941-944.
 - 7) 本木智輝, 東直行, 安齋眞一, 川名誠司: 踵部に生じた血管平滑筋腫. *皮膚病診療* 2012; 34 (6): 559-562.
 - 8) 李民, 朝山祥子, 二神綾子, 川名誠司: L-カルボシステインによる播種状紅斑丘疹型薬疹の1例. *皮膚臨床* 2012; 54 (12): 1719-1722.
 - 9) Ueno T, Ansai S, Matsuoka Y, Omi T, Kawana S: Lipoma Arising on the Sole of the Foot. *The Internet Journal of Plastic Surgery* 2012; 8 (1).
 - 10) 岡崎静, 安齋眞一, 渡邊宏美, 川名誠司: 下腿に紫斑性病変を呈したヒトパルボウイルス B19 感染症の1例. *皮膚臨床* 2012; 54 (8): 1067-1069.
 - 11) 吉田流音, 安齋眞一, 野呂佐知子, 上野孝, 川名誠司: 両側肩甲下部に生じた弾性線維腫の1例. *皮膚臨床*

2012 ; 54 (6) : 928-929.

- 12) 大塚洋平, 高山良子, 安齋眞一, 上野 孝, 二神綾子, 川名誠司 : 左外顆に生じた汗孔腫内汗孔腫瘍 Porocarcinoma in Poroma の 1 例. 皮膚臨床 2012 ; 54 (6) : 901-904.
- 13) 稲葉基之, 三石 剛, 川名誠司 : 麻疹ウイルス IgM 抗体が上昇した成人ヒトパルボウイルス B19 感染症の 3 例. 皮膚臨床 2012 ; 54 (4) : 601-604.
- 14) Tamura N, Asayama S, Ansai S, Funasaka Y, Kawana S : Case of palisaded encapsulated neuroma involving the palm. J Dermatol 2013 ; 40 (2) : 147-148.
- 15) 上野 孝, 横田裕行¹⁾, 川名誠司 (¹⁾ 救急医学科) : 日本医科大学付属病院における中毒性表皮壊死症の検討. 熱傷 2013 ; 39 (1) : 52-60.

著 書

- 1) 藤本和久 : [分担] 第 11 章 皮膚疾患の医療ニーズ, 第 5 節 粘膜症状を伴う重症型薬疹 (ステイブンス・ジョンソン症候群, 中毒性表皮壊死症). 希少疾患/難病 の診断・治療と製品開発 (安保公介他), 2012 ; pp1176-1181, 技術情報協会 (東京).
- 2) 川名誠司 : [分担] 思春期のアナフィラクトイド紫斑をどう診療するか?. 思春期の皮膚トラブル FAQ (宮地良樹), 2012 ; pp107-112, 診断と治療社.
- 3) 川名誠司 : [分担] 皮膚の脈管と神経 : 第 2 章皮膚の構造と機能. 標準皮膚科学第 10 版 (富田 靖監修, 橋本隆・岩月啓氏・照井 正編), 2013 ; pp20-22, 医学書院.
- 4) 川名誠司 : [分担] 第 13 章血管・リンパ管の疾患および紫斑. 標準皮膚科学第 10 版 (富田 靖監修, 橋本 隆・岩月啓氏・照井 正編), 2013 ; pp186-212, 医学書院.
- 5) 川名誠司 : [分担] Henoch-Schönlein 紫斑. 診る・わかる・治す皮膚科臨床アセット 16 蕁麻疹・血管性浮腫パターフェクトマスター (瀧川雅浩・渡辺晋一), 2013 ; pp67-68, 南江堂.
- 6) 船坂陽子 : [分担] 肝斑の病態・診断・鑑別診断. 皮膚科臨床アセット 11 シミと白斑 (市橋正光), 2012 ; pp76-80, 中山書店.
- 7) 船坂陽子 : [分担] 紫外線によるメラニン合成 : UVB と UVA の作用機序. 皮膚科臨床アセット 11 シミと白斑 (市橋正光), 2012 ; pp148-151, 中山書店.
- 8) Omi T, Sato S¹⁾ (, ²⁾ Genral Institute for ElectronMicroscopic Research, Nippon Medical School, Tokyo, Japan) : [分担] Skin Rejuvenation - Ultrastructural Study. Skin Aging : New Research (Ekiguchi A, Imada M), 2013 ; pp109-115, Nova Science Publishers.
- 9) 川名誠司 : [共著] 皮膚血管炎 (川名誠司, 陳 科榮), 2013 ; pp1-348, 医学書院.

学会発表

(1) 会長講演 :

- 1) 川名誠司 : 皮膚科による血管炎へのアプローチ. 日皮会東京支部学術大会 (第 76 回) (東京), 2013. 2.

(2) 特別講演 :

- 1) 船坂陽子 : 日光角化症の治療ガイドラインについて. AK フォーラム (神戸), 2012. 5.
- 2) 船坂陽子 : 美容皮膚科学 update. 皮膚科臨床セミナー (神戸), 2013. 2.

(3) 招待講演 :

- 1) 船坂陽子 : メラノーマ治療に関する最新の医学的知見. 協和発酵キリン株式会社社員教育講演 (東京), 2012. 11.

(4) 教育講演 :

- 1) 川名誠司 : 皮膚白血球破砕性血管炎 (CLA) の概念. 日皮会総会 (第 111 回) (京都), 2012. 6.

- 2) 船坂陽子：近赤外線 of 皮膚に対する効果：長所・短所を知る。日皮会総会（第 111 回）（京都），2012. 6.
 - 3) 尾見徳弥：レーザー・光線治療の機序と安全性。日本美容皮膚科学会総会学術大会（第 30 回）（名古屋），2012. 8.
 - 4) 尾見徳弥：超微形態学的に見た Rejuvenation 治療の比較検討。日皮会東京支部学術大会（第 76 回）（東京），2013. 2.
 - 5) 新見やよい：感染性肉芽腫：抗酸菌。日皮会総会（第 111 回）（京都），2012. 6.
- (5) シンポジウム：
- 1) 高山良子：皮膚病理への誘い：上皮系腫瘍。日皮会東京支部学術大会（第 76 回）（東京），2013. 2.
 - 2) Goh C¹⁾, Manuskhatti W¹⁾, Omi T (¹⁾ National Skin Center, Singapore) : HOW SHOULD I TREAT? PIGMENTATION. IMCAS2012 (Hong Kong), 2012. 10.
 - 3) Omi T : Laser and IPL therapy for pigmented lesion. IMCAS 2012 (Hong Kong), 2012. 10.
 - 4) Omi T : Laser therapy for melasma-ultrastructural study. World Congress of Minimal Invasive Plastic Surgery & Dermatology (4th) (Seoul), 2012. 9.
 - 5) 尾見徳弥：eMatrix (Fractional RF) の使用経験。日本レーザー医学会総会（第 33 回）（大阪），2012. 11.
 - 6) 船坂陽子：光老化の解明。日皮会中部支部学術大会（第 63 回）（大阪），2012. 10.
 - 7) 川名誠司：章血管の血管炎：血管炎の盲点および落とし穴。日皮会東京支部学術大会（第 76 回）（東京），2013. 2.
 - 8) 船坂陽子：紫外線発癌としての黒色腫：DNA 損傷と免疫反応。日皮会東京支部学術大会（第 76 回）（東京），2013. 2.
 - 9) 田沼弘之，菊地伊豆実：角質増殖型足白癬の治療：薬物動態的検討を加えて。日皮会東京支部学術大会（第 76 回）（東京），2013. 2.
 - 10) 船坂陽子：シミの理論と治療。日本美容皮膚科学会総会（第 30 回）（名古屋），2012. 8.
- (6) セミナー：
- 1) Omi T : Understanding Hyperpigmentary Disorders in Japan. Hyperpigmentation Advisory Board Meeting (Singapore), 2012. 10.
 - 2) 尾見徳弥：色素性皮膚疾患のレーザー治療。日皮会中部支部学術大会（第 63 回）（大阪），2012. 10.
 - 3) 久米 光：内臓真菌症の病理：疫学と診断・治療のピットフォール。日皮会東京支部学術大会（第 76 回）（東京），2013. 2.
 - 4) 尾見徳弥：EXILIS® (エクシリス) を用いた Rejuvenation, Body tightening : その原理と機序。日皮会東京支部学術大会（第 76 回）（東京），2013. 2.
- (7) 一般講演：
- 1) 篠原理恵，上野 孝，福本 瞳，船坂陽子，川名誠司：Verruciform xanthoma の 1 例。日皮会東京地方会（第 842 回）（東京），2012. 6.
 - 2) 金子 綾，上野 孝，伊藤路子，大塚洋平，田村奈渚，川名誠司：掌蹠膿疱症過料後に生じた両側内足部に棘細胞癌の 1 例。日皮会東京地方会（第 842 回）（東京），2012. 6.
 - 3) 大塚洋平，加藤篤衛，伊藤路子，金子 綾，船坂陽子，川名誠司：抗てんかん薬の選択に苦慮した非典型薬剤性過敏症候群の 1 例。日皮会東京地方会（第 842 回）（東京），2012. 6.
 - 4) 橋爪志保，安齋真一，尾見徳弥，川名誠司：多発 apocrine poroma の 1 例。日皮会東京地方会（第 842 回）（東京），2012. 6.
 - 5) 紺野亜希子，船坂陽子，中溝宗永¹⁾，志摩綾香²⁾，了徳寺剛²⁾，壇 和夫²⁾，寺崎美佳³⁾，福田 悠³⁾，川名誠司（¹⁾耳鼻咽喉科学，²⁾血液内科学，³⁾第一病理）：Merkerson Rosenthal 症候群様皮疹を呈した NK/T cell lymphoma の 1 例。日本悪性腫瘍学会学術大会（第 28 回）（札幌），2012. 6.

- 6) 長田真一, 東 直行, 脇田知志¹⁾, 中村弘之²⁾, 細根 勝³⁾, 壇 和夫¹⁾, 川名誠司 (¹⁾ 血液内科学, ²⁾ 多摩市, ³⁾ 多摩永山病院病理) : 深部静脈血栓症様の症状を呈した血管内NK/T細胞リンパ腫の1例. 日本悪性腫瘍学会学術大会 (第28回) (札幌), 2012. 6.
- 7) 稲葉基之, 高山良子, 長田真一, 二神綾子, 安齋眞一, 川名誠司 : 脂腺分化を伴った porocarcinoma の1例. 日本悪性腫瘍学会学術大会 (第28回) (札幌), 2012. 6.
- 8) 高山良子, 安齋眞一, 石渡俊行¹⁾, 山本哲志¹⁾, 松田陽子¹⁾, 内藤善弥¹⁾, 川名誠司 (¹⁾ 病理学 (統御機構・腫瘍学)) : Bowen 病と日光角化症における病理組織学的鑑別診断マーカーとしての lumican の発現の検討. 日本悪性腫瘍学会学術大会 (第28回) (札幌), 2012. 6.
- 9) 伊藤路子, 船坂陽子, 金子 綾, 大塚洋平, 守谷慶一¹⁾, 壇 和夫¹⁾, 川名誠司 (¹⁾ 血液内科学) : 特異な皮膚症状を呈した後に診断に至った Peripheral T-cell lymphoma, unspecified の1例. 日本悪性腫瘍学会学術大会 (第28回) (札幌), 2012. 6.
- 10) 亦野蓉子, 船坂陽子, 川名誠司 : 尋常性白斑に対するエキシマライトの治療効果. 日皮会東京合同臨床地方会 (第843回) (東京), 2012. 7.
- 11) 吉田流音, 加藤篤衛, 船坂陽子, 桑原健太郎¹⁾, 鈴木民夫²⁾ (¹⁾ 小児科学, ²⁾ 山形大皮膚科) : アトピー性皮膚炎を合併した遺伝性対側性色素異常症の親子例. 日本小児皮膚科学会 (第36回) (前橋), 2012. 7.
- 12) 白川典子, 伊藤路子, 船坂陽子, 川名誠司 : Phacomatosis pigmentokeratotic の1例. 日本小児皮膚科学会 (第36回) (前橋), 2012. 7.
- 13) 鶴田恭子, 藤本和久, 金子 綾, 伊澤有香, 伊藤路子, 船坂陽子, 川名誠司, 酒巻雅典¹⁾ (¹⁾ 神経内科学) : Churg-Strauss 症候群の1例. 日皮会東京地方会 (第847回) (東京), 2013. 1.
- 14) 高山良子, 石渡俊行¹⁾, 安齋眞一, 山本哲志¹⁾, 松田陽子¹⁾, 川名誠司, 内藤善弥¹⁾ (¹⁾ 病理学 (統御機構・腫瘍学)) : 皮膚腫瘍の病理組織診断における lumican の有用性の検討. 日本病理学会総会 (第101回) (東京), 2012. 4.
- 15) Takayama R, Ishiwata T¹⁾, Ansai S, Yamamoto T¹⁾, Matsuda Y¹⁾, Kawana S, Naito Z¹⁾ (¹⁾ Departments of Pathology and Integrative Oncological Pathology, Nippon Medical School, Tokyo) : Lumican as a novel differential diagnostic marker for Bowens disease and actinic keratosis. American Association Cancer Research Meeting 2012 (Chicago, USA), 2012. 4.
- 16) 安齋眞一, 福本隆也¹⁾, 阿南 隆²⁾, 木村鉄宣²⁾, 川名誠司 (¹⁾ 奈良県立医大皮膚科学, ²⁾ 札幌皮膚病理診断科) : 乳頭状汗管嚢胞腺腫 : Syringocystadenoma papilliferum の臨床 病理学的検討. 日皮会東部支部学術大会 (第76回) (札幌), 2012. 9.
- 17) 安齋眞一, 福本隆也¹⁾, 阿南 隆²⁾, 木村鉄宣²⁾, 川名誠司 (¹⁾ 奈良県立医大皮膚科学, ²⁾ 札幌皮膚病理診断科) : 澄明細胞棘細胞腫の臨床病理学的検討. 日皮会中部支部学術大会 (第63回) (大阪), 2012. 10.
- 18) 安齋眞一, 福本隆也¹⁾, 阿南 隆²⁾, 木村鉄宣²⁾, 川名誠司 (¹⁾ 奈良県立医大皮膚科学, ²⁾ 札幌皮膚病理診断科) : らせん腺腫 : Spiradenoma の臨床病理学的検討. 日皮会西部支部学術大会 (第64回) (広島), 2012. 10.
- 19) 安齋眞一, 松岡保子, 山下裕子, 川名誠司 : 鎖骨部に生じた乳頭状管状腺腫を伴う乳頭状汗管嚢胞腺腫の1例. 日皮会茨城地方会 (第81回) (つくば), 2013. 3.
- 20) 東 直行, 二宮里紗, 川名誠司 : ヒアレイン点眼液による接触皮膚炎の1例. 日本皮膚アレルギー・接触皮膚炎学会総会学術大会 (第42回) (軽井沢), 2012. 7.
- 21) 本木智輝, 東 直行, 松永佳代子¹⁾, 川名誠司 (¹⁾ 多摩永山病院看護部) : 当院における医療器具による医原性皮膚障害の統計的観察. 日本褥瘡学会 (第29回) (横浜), 2012. 9.
- 22) 李 民, 亦野蓉子, 渡邊宏美, 岡崎 静, 藤森俊二¹⁾, 川名誠司 (¹⁾ 消化器内科学) : カプセル内視鏡で小腸病変が確認できた Henoch-shonlein 紫斑病の1例. 日皮会東京地方会 (第846回) (東京), 2012. 12.
- 23) 森本健介, 東 直行, 細根 勝¹⁾, 川名誠司 (¹⁾ 多摩永山病院病理部) : 陰茎基部に発生した硬化性脂肪肉芽腫

- の1例. 日皮会東京支部学術大会(第76回)(東京), 2013. 2.
- 24) 船坂陽子: 遺伝子改変 mGluR マウスを用いた紫外線による黒色腫形成機序の解析. 光老化研究会(第13回)(東京), 2012. 8.
 - 25) 二宮里紗, 加藤篤衛, 真弓暢子, 川原崎麻以, 川名誠司, 山田善章¹⁾, 三井啓吾¹⁾, 福井めぐみ²⁾, 金子朋広²⁾ (¹⁾ 消化器内科学, ²⁾ 腎臓内科学): 小腸潰瘍・腎障害を合併し, 経過中にサイトメガロウイルス腸炎を併発した Henoch-Schönlein 紫斑病の1例. 日皮会東部支部学術大会(第76回)(札幌), 2012. 9.
 - 26) 真弓暢子, 船坂陽子, 朝山祥子, 久保田智樹, 伊藤保彦¹⁾, 川名誠司 (¹⁾ 小児科学): 特発性血小板性紫斑病を合併した後天性皮膚弛緩症の1例. 日皮会東部支部学術大会(第76回)(札幌), 2012. 9.
 - 27) 加藤篤衛, 船坂陽子, 高山良子, 川名誠司: 主として c-type nevus cell より先天性巨大色素母斑の1例. 日皮会中部支部学術大会(第63回)(大阪), 2012. 10.
 - 28) 稲葉基之, 加藤篤衛, 川名誠司: 心障害を伴った MPO-ANCA 陰性 Churg-Strauss 症候群の1例. 日皮会西部支部学術大会(第64回)(広島), 2012. 10.
 - 29) 茂木千紗都, 金子 綾, 大塚洋平, 伊藤路子, 高橋陽子¹⁾, 上野 孝, 船坂陽子, 川名誠司 (¹⁾ 内科学): ベーチェット病が疑われたクローン病の1例. 日皮会東京地方会(第845回)(東京), 2012. 11.
 - 30) 尾崎紗恵子, 山下裕子, 上野 孝, 川名誠司: 妊婦毒素の1例. 日皮会東京地方会(第845回)(東京), 2012. 11.
 - 31) 木下侑里, 真弓暢子, 稲葉基之, 二宮里紗, 船坂陽子, 川名誠司: シクロスポリンに抵抗性でエトレチナート投与にて改善した汎発性膿疱性乾癬の1例. 日皮会東京地方会(第845回)(東京), 2012. 11.
 - 32) 土屋 麗, 紺野亜希子, 白川典子, 幸野 健, 安齋眞一, 川名誠司: リュープロレリン投与中, 注射部位以外に肉芽腫性病変が出現した1例. 日皮会東京地方会(第845回)(東京), 2012. 11.
 - 33) 福田朝子, 上野 孝, 高山良子, 安齋眞一, 紺野亜希子, 二神綾子, 伊藤路子, 伊澤有香, 金子 綾, 川名誠司: 肩甲部に生じた tenosynovial giant cell tumor の1例. 日皮会東京地方会(第846回)(東京), 2012. 12.
 - 34) 篠原梨恵, 稲葉基之, 茂木千紗都, 李 民, 岡崎 静, 渡邊宏美, 荻田あづさ, 二神綾子, 川名誠司: 両足趾切断に至った皮膚型結節性多発動脈炎の1例. 日皮会東京地方会(第846回)(東京), 2012. 12.
 - 35) 大塚洋平, 久保田智樹, 伊藤路子, 加藤篤衛, 船坂陽子, 川名誠司: 下肢の紫斑を初発症状とし漿膜炎を伴った高齢発症 SLE の1例. 日皮会東京地方会(第847回)(東京), 2013. 1.
 - 36) 上野 孝, 茂木千紗都, 金子 綾, 大塚洋平, 篠原梨恵, 稲葉基之, 伊藤路子, 荻田あづさ, 福井めぐみ¹⁾, 川名誠司 (¹⁾ 内科学): 慢性維持透析患者に発症した calciphylaxis の2例. 日皮会東京地方会(第847回)(東京), 2013. 1.
 - 37) 金子 綾, 上野 孝, 船坂陽子, 朝山祥子, 川名誠司: イミキモド外用により皮疹が軽快した汗孔角化症の1例. 日皮会東京支部学術大会(第76回)(東京), 2013. 2.
 - 38) 大山聡美, 上野 孝, 船坂陽子, 川名誠司: 日光角化症に対する5%イミキモドクリーム使用経験: 免疫組織学とダーモスコピーを用いた検討. 日皮会東京支部学術大会(第76回)(東京), 2013. 2.
 - 39) 真弓暢子, 船坂陽子, 朝山祥子, 高山良子, 加藤篤衛, 川名誠司: 肝斑における低出力 Q スイッチ Nd: YAG レーザーの有用性の検討. 日皮会東京支部学術大会(第76回)(東京), 2013. 2.
 - 40) 上野 孝, 高山良子, 秋山美知子, 田村奈渚, 安齋眞一, 二神綾子, 船坂陽子, 川名誠司: Superficial acral fibromyxoma の1例. 日皮会東京支部学術大会(第76回)(東京), 2013. 2.
 - 41) 橋爪志保, 安齋眞一, 山本三幸, 松岡保子, 武市幸子, 小坂素子, 川名誠司, 立石千晴¹⁾, 古賀浩嗣²⁾, 橋本隆²⁾ (¹⁾ 大阪市大皮膚科, ²⁾ 久留米大皮膚科学): 尋常性乾癬に合併した BP180C 末端抗体を有する抗ラミニンγ1 類天疱瘡の1例. 日皮会東京支部学術大会(第76回)(東京), 2013. 2.
 - 42) 金子 綾, 加藤篤衛, 川名誠司: Wegener 肉芽腫症の1例. 日皮会茨城地方会(第81回)(つくば), 2013. 3.
 - 43) 金子 綾, 上野 孝, 伊藤路子, 大塚洋平, 田村奈渚, 船坂陽子, 川名誠司: 角化症および湿疹病変を伴った両

- 側内側部に棘細胞癌の1例. 日皮会東京地方会(第842回)(東京), 2012. 6.
- 44) 田村奈渚, 上野 孝, 船坂陽子, 川名誠司: 肺腺癌の疼痛を伴う皮膚転移の1例. 日皮会東京支部(第844回)(千葉), 2012. 9.
- 45) 大塚洋平, 上野 孝, 金子 綾, 伊藤路子, 長田真一, 船坂陽子, 川名誠司: 多種の自己抗体が検出された腫瘍随伴性天疱瘡の1例. 日皮会東京支部(第844回)(千葉), 2012. 9.
- 46) 秋山美知子, 松田陽子¹⁾, 萩尾真人¹⁾, 川本陽子¹⁾, 川原清子¹⁾, 石渡俊行¹⁾, 川名誠司, 内藤善弥¹⁾ (¹⁾ 病理学(統御機構・腫瘍学): 中間径フィラメントタンパク質 nestin の母斑細胞性母斑および悪性黒色腫における発現の検討. 日本病理学会総会(第101回)(東京), 2012. 4.
- 47) 秋山美知子, 松田陽子¹⁾, 萩尾真人¹⁾, 川原清子¹⁾, 鈴木妙子¹⁾, 山本哲志¹⁾, 川名誠司, 石渡俊行¹⁾, 内藤善弥¹⁾ (¹⁾ 病理学(統御機構・腫瘍学): 悪性黒色腫の増殖, 浸潤, 転移におけるネスチンの役割の検討. 日本癌学会学術総会(第70回)(名古屋), 2012. 9.
- (8) 第5回ロート賞受賞記念講演:
- 1) 船坂陽子: 代謝型グルタミン酸受容体1型(mGluR1)に注目した悪性黒色腫形成および増殖に関わるシグナル伝達の同定. 加齢皮膚医学研究会(第8回)(高知), 2012. 7.
- (9) 展示:
- 1) 加藤篤衛, 船坂陽子, 川名誠司: 癬痕に対するフラクショナルレーザーの効果の検討. 日皮会総会(第111回)(京都), 2012. 6.
- 2) 高山良子, 安齋眞一, 石渡俊行¹⁾, 山本哲志¹⁾, 松田陽子¹⁾, 内藤善弥¹⁾, 川名誠司 (¹⁾ 統御機構・腫瘍学): Seborrheic keratosis, clonal type と hidroacanthoma simplex における lumican の発現の検討. 日皮会総会(第111回)(京都), 2012. 6.
- 3) 秋山美知子, 松田陽子¹⁾, 萩尾真人¹⁾, 川原清子¹⁾, 石渡俊行¹⁾, 内藤善弥¹⁾, 川名誠司 (¹⁾ 統御機構・腫瘍学): 悪性黒色腫における nestin 抑制効果の検討. 日皮会総会(第111回)(京都), 2012. 6.
- 4) 安齋眞一, 福本隆也¹⁾, 阿南 隆²⁾, 木村鉄宣²⁾, 川名誠司 (¹⁾ 奈良県立医大皮膚科学, ²⁾ 札幌皮膚病理診断科): ケラトアカントーマ: Keratoacanthoma とは何か?. 日皮会総会(第111回)(京都), 2012. 6.
- 5) 野呂佐知子, 船坂陽子, 上野 孝, 幸野 健, 川名誠司: 頭部血管肉腫の1例. 日皮会総会(第111回)(京都), 2012. 6.
- 6) Akiyama M, Matsuda Y¹⁾, Hagio M¹⁾, Kawahara K¹⁾, Suzuki T¹⁾, Ishiwata T¹⁾, Kawana S, Naito Z¹⁾ (¹⁾ Department of Pathology, Nippon Medical School): The stem cell marker nestin inhibits growth and invasion of malignant melanoma. American association for cancer research, 103th annual meeting 2012, AACR (Chicago, USA), 2012. 4.
- (10) 老人病研究所優秀論文発表:
- 1) 船坂陽子: メラノサイトの増殖および紫外線反応性に対する加齢の影響. 財団法人博慈会合同医学集談会(東京), 2012. 11.

[武蔵小杉病院皮膚科]

研究概要

1 皮膚悪性腫瘍の病理学的診断・研究 2 センチネルリンパ節生検法の確立と応用 3 薬疹・接触皮膚炎・食物アレルギー: 皮膚テストによる原因物質の確認と交叉感作抗原の検索 4 皮膚創傷治癒機転における神経ペプチドの関与: gastrin releasing peptide receptor ノックアウトマウスにおける創傷治癒

研究業績

論文

[追加分]

追加分症例報告：

- 1) 川原崎麻以¹⁾, 上野 孝¹⁾, 安齋眞一, 川名誠司¹⁾ (1) 付属病院皮膚科) : 左肩甲部に生じた脂肪芽腫の1例. 日本小児皮膚科学会雑誌 2012 ; 31 (2) : 45-48.
- (1) 症例報告：
 - 1) 川原崎麻以¹⁾, 上野 孝¹⁾, 安齋眞一, 川名誠司¹⁾ (1) 付属病院皮膚科) : Spindle cell lipoma の1例. 皮膚科の臨床 2012 ; 54 (5) : 766-769.
 - 2) 山下裕子, 安齋眞一, 上野 孝¹⁾, 川名誠司¹⁾, 岩切加奈²⁾ (1) 付属病院皮膚科, 2) 矢代皮膚科医院) : poroid cell neoplasm. 皮膚病診療 2012 ; 34 (10) : 941-944.
 - 3) 篠原理恵, 朝山祥子¹⁾, 二神綾子¹⁾, 川名誠司¹⁾ (1) 付属病院皮膚科) : 黄色爪症候群の2例. 皮膚科の臨床 2012 ; 54 (5) : 743-746.
 - 4) 篠原理恵, 船坂陽子¹⁾, 安齋眞一¹⁾, 川名誠司¹⁾ (1) 付属病院皮膚科) : 弾性線維の変性像を伴った Interstitial Type Granuloma Annulore の1例. 皮膚科の臨床 2012 ; 54 (9) : 124712-125047.

著書

[追加分]

追加分：

- 1) 安齋眞一：〔分担〕脂腺母斑. 今日の皮膚疾患治療指針第4版 (塩原哲夫, 宮地良樹, 渡辺晋一, 佐藤伸一), 2012 ; pp626-629, 医学書院.
- 2) 安齋眞一：〔分担〕表皮母斑. 今日の皮膚疾患治療指針第4版 (塩原哲夫, 宮地良樹, 渡辺晋一, 佐藤伸一), 2012 ; pp625-626, 医学書院.
- 3) 安齋眞一：〔分担〕面皰母斑. 今日の皮膚疾患治療指針第4版 (塩原哲夫, 宮地良樹, 渡辺晋一, 佐藤伸一), 2012 ; p629, 医学書院.
- 4) 安齋眞一：〔分担〕副乳. 今日の皮膚疾患治療指針第4版 (塩原哲夫, 宮地良樹, 渡辺晋一, 佐藤伸一), 2012 ; pp630-631, 医学書院.
- 5) 安齋眞一：〔分担〕結合織母斑. 今日の皮膚疾患治療指針第4版 (塩原哲夫, 宮地良樹, 渡辺晋一, 佐藤伸一), 2012 ; pp643-644, 医学書院.
- 6) 安齋眞一：〔分担〕脂漏性角化症. 今日の皮膚疾患治療指針第4版 (塩原哲夫, 宮地良樹, 渡辺晋一, 佐藤伸一), 2012 ; pp661-663, 医学書院.
- 7) 安齋眞一：〔分担〕澄明細胞棘細胞腫. 今日の皮膚疾患治療指針第4版 (塩原哲夫, 宮地良樹, 渡辺晋一, 佐藤伸一), 2012 ; pp663-664, 医学書院.
- 8) 安齋眞一：〔分担〕毛孔腫 (反転性毛包角化症). 今日の皮膚疾患治療指針第4版 (塩原哲夫, 宮地良樹, 渡辺晋一, 佐藤伸一), 2012 ; p664, 医学書院.
- 1) 安齋眞一：〔分担〕汗疱. 内科で出会う見ためて探す皮膚疾患アトラス (出光俊郎), 2012 ; pp98-100, 羊土社.
- 2) 安齋眞一：〔分担〕掌蹼膿胞症. 内科で出会う見ためて探す皮膚疾患アトラス (出光俊郎), 2012 ; pp101-104, 羊土社.
- 3) 安齋眞一：〔分担〕足白癬. 内科で出会う見ためて探す皮膚疾患アトラス (出光俊郎), 2012 ; pp105-108, 羊土社.
- 4) 安齋眞一：〔分担〕汗疱 (異汗性湿疹). 内科で出会う見ためて探す皮膚疾患アトラス (出光俊郎), 2012 ; pp98-

100, 羊土社.

- 5) 安齋眞一：〔分担〕手白癬と皮膚カンジダ症. 内科で出会う見ためて探す皮膚疾患アトラス（出光俊郎），2012：pp109-110, 羊土社.
- 6) 安齋眞一：〔分担〕抗癌剤による手足症候群. 内科で出会う見ためて探す皮膚疾患アトラス（出光俊郎），2012：pp111-112, 羊土社.
- 7) 安齋眞一：〔分担〕有棘細胞癌の病理組織分類. 皮膚科臨床アセット 9 エキスパートに学ぶ皮膚病理診断学（増隆，山元修），2012；pp343-347, 中山書店.
- 8) 安齋眞一：〔分担〕ケラトアカントーマと有棘細胞癌の病理組織学的鑑別点. 皮膚科臨床アセット 9 エキスパートに学ぶ皮膚病理診断学（増隆，山元修），2012；pp352-355, 中山書店.
- 9) 安齋眞一：〔分担〕病理組織からみた基底細胞癌と毛芽腫の鑑別点, 毛芽腫と毛包上皮腫の関係. 皮膚科臨床アセット 9 エキスパートに学ぶ皮膚病理診断学（増隆，山元修），2012；pp365-368, 中山書店.
- 10) 安齋眞一：〔分担〕Folliculosebaceous apocrine unit の最新の考え方と関連する皮膚腫瘍. 皮膚科臨床アセット 9 エキスパートに学ぶ皮膚病理診断学（増隆，山元修），2012；pp401-405, 中山書店.
- 11) 安齋眞一：〔分担〕汗孔癌の病理組織学的診断の落とし穴. 皮膚科臨床アセット 9 エキスパートに学ぶ皮膚病理診断学（増隆，山元修），2012；pp416-419, 中山書店.
- 12) 安齋眞一：〔分担〕比較的稀な汗腺系悪性腫瘍の病理組織学的特徴. 皮膚科臨床アセット 9 エキスパートに学ぶ皮膚病理診断学（増隆，山元修），2012；pp420-426, 中山書店.
- 13) 安齋眞一：〔分担〕母斑細胞母斑. 皮膚疾患 最新の治療 2013-2014（瀧川雅浩，渡辺晋一），2013；pp239-240, 南江堂.

学会発表

(1) 一般講演：

- 1) 安齋眞一，福本隆也¹⁾，阿南 隆²⁾，木村鉄宜²⁾，川名誠司³⁾ ¹⁾ 奈良県立医大，²⁾ 札幌皮膚病理診断科，³⁾ 付属病院）：ケラトアカントーマ：Keratoacanthoma とは何か？. 日本皮膚科学会総会学術大会（第111回），2012. 6.
- 2) 安齋眞一，福本隆也¹⁾，阿南 隆²⁾，木村鉄宜²⁾，川名誠司³⁾ ¹⁾ 奈良県立医大，²⁾ 札幌皮膚病理診断科，³⁾ 付属病院）：乳頭状汗管嚢胞線腫：Syringocystadenoma papilliferum の臨床病理学的検討. 日本皮膚科学会東部支部学術大会（第76回），2012. 9.
- 3) 安齋眞一，福本隆也¹⁾，阿南 隆²⁾，木村鉄宜²⁾，川名誠司³⁾ ¹⁾ 奈良県立医大，²⁾ 札幌皮膚病理診断科，³⁾ 付属病院）：澄明細胞棘細胞腫の臨床病理学的検討. 日本皮膚科学会中部支部学術大会（第63回），2012. 10.
- 4) 安齋眞一，福本隆也¹⁾，阿南 隆²⁾，木村鉄宜²⁾，川名誠司³⁾ ¹⁾ 奈良県立医大，²⁾ 札幌皮膚病理診断科，³⁾ 付属病院）：らせん腺腫：Spiradenoma の臨床病理学的検討. 日本皮膚科学会西部支部学術大会（第64回），2012. 10.
- 5) 安齋眞一，松岡保子，山下裕子，川名誠司¹⁾ ¹⁾ 付属病院）：鎖骨部に生じた乳頭状管状腺腫を伴う乳頭状汗管嚢胞腺腫の1例. 日本皮膚科学会茨城地方会（第81回），2013. 3.
- 6) 松岡保子，安齋眞一，川名誠司¹⁾ ¹⁾ 付属病院皮膚科）：移動性神経鞘腫の1例. 日本皮膚科学会東京地方会（第847回），2013. 1.
- 7) 篠原理恵，上野 孝¹⁾，船曳陽子¹⁾，川名誠司¹⁾ ¹⁾ 付属病院皮膚科）：Venuciform xanthoma の1例. 日本皮膚科学会，2012. 6.
- 8) 山下裕子，上野 孝¹⁾，安齋眞一，川名誠司¹⁾，古賀浩嗣²⁾，橋本 隆²⁾ ¹⁾ 付属病院皮膚科，²⁾ 久留米大学）：抗BP180C末端抗体陽性の類天疱瘡と抗デスモコリン3抗体陽性の天疱瘡を合併した1例. 日本皮膚科学会東京地方会（第847回），2013. 1.

- 9) 橋爪志保, 安齋眞一, 尾見徳弥, 川名誠司¹⁾ (1) 付属病院皮膚科): 多発 apocrine poroma の 1 例. 日本皮膚科学会東京地方会 (第 842 回), 2012. 6.
- 10) 尾崎紗恵子, 安齋眞一, 川名誠司¹⁾ (1) 付属病院皮膚科): 妊婦梅毒の 1 例. 日本皮膚科学会東京地方会 (第 845 回), 2012. 11.

[多摩永山病院皮膚科]

研究概要

1. アトピー性皮膚炎の病態におけるケモカイン, サイトカインの発現解析と治療戦略 2. アトピー性皮膚炎の病態における抗核抗体, 抗 DFS70 抗体の発現解析 3. 乳児期湿疹の統計的観察 4. アナフィラクトイド紫斑, 掌蹠膿疱症, 自己免疫水疱症の病態におけるケモカイン, サイトカインの発現解析 5. 薬疹, 接触皮膚炎, 食物アレルギー, 全身性金属アレルギー: 皮膚テストによる原因物質の確認, 血清中抗原の解析, DLST 検査 6. 皮膚腫瘍, 皮膚悪性腫瘍の病理学的診断と研究 7. アミノ酸の経皮吸収, HLB 数

研究業績

論文

(1) 症例報告:

- 1) 本木智輝, 東 直行, 安齋眞一¹⁾, 川名誠司²⁾ (1) 武蔵小杉皮膚科, 2) 付属皮膚科): 踵部に生じた血管平滑筋腫. 皮膚病診療 2012; 34 (6): 559-562.
- 2) 東 直行: 掻破性脱毛を伴ったアトピー性皮膚炎の 1 例: トリコチロマニアから掻破性脱毛への移行. 皮膚の科学 2012; 11 (supple.18): 61-64.
- 3) 李 民, 朝山祥子¹⁾, 二神綾子¹⁾, 川名誠司¹⁾ (1) 付属皮膚科): L-カルボシステインによる播種状紅斑丘疹型薬疹の 1 例. 皮膚科の臨床 2012; 54 (12): 1719-1722.
- 1) 東 直行, 林 綾子¹⁾, 佐藤寛之¹⁾ (1) 多摩永山中央検査室): 皮下腫瘍の臨床診断における超音波の有用性. 日医大医会誌 2012; 8 (3): 186-187.

学会発表

(1) 一般講演:

- 1) 長田真一, 東 直行, 脇田知志¹⁾, 中村弘之²⁾, 細根 勝³⁾, 壇 和夫¹⁾, 川名誠司⁴⁾ (1) 付属血液内科, 2) 多摩永山内科, 3) 多摩永山病理部, 4) 付属皮膚科): 深部静脈血栓症様の症状を呈した血管内 NK/T 細胞リンパ腫の 1 例. 日本皮膚悪性腫瘍学会学術大会 (第 28 回) (札幌), 2012. 6.
- 2) 東 直行, 二宮里紗, 川名誠司¹⁾ (1) 付属皮膚科): ヒアレイン点眼液による接触皮膚炎の 1 例. 日本皮膚アレルギー・接触皮膚炎学会総会・学術大会 (第 42 回) (軽井沢), 2012. 7.
- 3) 本木智輝, 東 直行, 松永佳世子¹⁾, 川名誠司²⁾ (1) 多摩永山看護部, 2) 付属皮膚科): 当院における医療器具による医原性皮膚障害の統計的観察. 日本褥瘡学会 (第 29 回) (横浜), 2012. 9.
- 4) 堺 則康^{1, 2)}, 中林 巖²⁾, 佐々木まり子²⁾, 東 直行, 山田道之²⁾, 坪井良治¹⁾, 吉田雅治²⁾ (1) 東京医大皮膚科, 2) 東京医大八王子腎臓内科): MPO-ANCA 関連血管炎患者 41 例にみられた皮膚症状の検討. 日本皮膚科学会中部支部学術大会 (第 63 回) (大阪), 2012. 10.
- 5) 吉田憲司¹⁾, 小原芙美子¹⁾, 石河 晃¹⁾, 石井真由美²⁾, 渋谷和俊²⁾, 東 直行 (1) 東邦大大森皮膚科, 2) 東邦大大森病理): 優性栄養障害型表皮水疱症の 1 例. 日皮会東京地方会 (第 845 回) (東京), 2012. 11.
- 6) 李 民, 渡邊宏美¹⁾, 岡崎 静¹⁾, 長田真一, 藤森俊二²⁾, 川名誠司¹⁾ (1) 付属皮膚科, 2) 付属消化器内科): カプセル内視鏡で小腸病変が確認できた Henoch-shonlein 紫斑病の 1 例. 日皮会東京地方会 (第 846 回) (東京),

2012. 12.

- 7) 渡邊幸夫¹⁾, 小澤朋未¹⁾, 東 直行, 塩谷和音¹⁾, 松本 恵¹⁾, 鈴木康子¹⁾, 鈴木晴恵²⁾, 上田豊甫¹⁾ (¹⁾ 明星大理工生命科学, ²⁾ 京都市) : L-アルギニン, L-リシンによる経皮吸収と Hydrophile Lipophile Balance 数依存性に関する研究. 日本化学会春季年会 (第 93 回) (滋賀), 2013. 3.
- 8) 森本健介, 東 直行, 細根 勝¹⁾, 川名誠司²⁾ (¹⁾ 多摩永山病理部, ²⁾ 付属皮膚科) : 陰茎基部に発生した硬化性脂肪肉芽腫の 1 例. 日皮会東京支部学術大会 (第 76 回) (東京), 2013. 2.

12. 外科学（消化器外科学）

[付属病院消化器外科・一般外科・移植外科]

研究業績

- 2) 内田英二, 中村慶春⁽¹⁾ 日本医科大学 消化器・一般・乳腺・移植外科) : 【達人が教える肝胆膵高度技能専門医手術-コツとピットフォール-】 膵体尾部切除術：腹腔鏡下手術手技習得のためのコツとピットフォール. 手術 2012 ; 66 (3) : 315-320.
- 3) 野村 務, 宮下正夫, 松谷 毅, 萩原信敏, 牧野浩司, 丸山 弘, 岩切勝彦, 川見典之, 坂本長逸, 内田英二⁽¹⁾ 日本医科大学 消化器外科) : 逆流性食道炎と Barrett 食道】 食道癌術後胃管再建症例からみた Barrett 様上皮の観察. 消化器内科 2012 ; 54 (2) : 192-196.
- 4) Saeki N, Saito A, Choi I, Matsuo K, Totsuka H, Chiku S, Kuchiba A, Lee Y, Yoon K, Kook M, Park S, Kim Y, Tanaka H, Tajima K, Kato S⁽¹⁾ Genestic Division, National Cancer Center Research Institute) : A functional single nucleotide polymorphism in mucin 1, at chromosome 1q22, determines susceptibility to diffuse-type gastric cancer.. Gastroenterology 2011 ; 140 (3) : 892-902.
- 5) 内田英二, 中村慶春⁽¹⁾ 日本医科大学 消化器外科) : 膵体尾部切除術：腹腔鏡下手術手技習得のためのコツとピットフォール. 手術 2012 ; 66 (3) : 315-320.
- 6) 内田英二¹⁾, 中村慶春²⁾ ⁽¹⁾ 日本医科大学消化器・一般・乳腺・移植外科 主任教授, ²⁾ 日本医科大学消化器・一般・乳腺・移植外科 講師) : 膵体尾部切除術：腹腔鏡下手術手技習得のためのコツとピットフォール. 手術 2012 ; 66 (3) : 315-320.
- 7) Hiroshi Y^{1, 2)}, Yasuhiro M¹⁾, Nobuhiko T¹⁾, Masato Y¹⁾, Atsushi H^{1, 2)}, Youichi K¹⁾, Yoshiaki M¹⁾, Tetsuya S¹⁾, Junji U¹⁾, Eiji U¹⁾ ⁽¹⁾ Surgery for Organ Function and Biological Regulation, Graduate School of Medicine, Nippon Medical School, ²⁾ Department of Surgery, Nippon Medical School Tama Ngayama Hospital) : Treatment Modalities for Bleeding Esophagogastric Varices. J Nippon Med Sch 2012 ; 79 (1) : 19-30.

追加分原著 :

- 1) 川野陽一¹⁾, 相本隆幸¹⁾, 谷合信彦¹⁾, 真々田裕宏¹⁾, 吉田 寛¹⁾, 中村慶春¹⁾, 廣井 信¹⁾, 峯田 章¹⁾, 吉岡正人¹⁾, 上田純志¹⁾, 村田 智²⁾, 汲田伸一郎²⁾, 内田英二¹⁾ ⁽¹⁾ 日本医科大学 外科, ²⁾ 日本医科大学 放射線科) : 膵切除後動脈性出血に対する Interventional Radiology の意義. 日本腹部救急医学会雑誌 2012 ; 32 (3) : 575-581.

追加分症例報告 :

- 1) 水口義昭, 有馬保生, 真々田裕宏, 相本隆幸, 中村慶春, 峯田 章, 横室茂樹, 清水哲也, 神田知洋, 内田英二⁽¹⁾ 日本医科大学 消化器外科) : 18FDG-PET 陽性, CA19-9 高値を示した胆嚢腺筋腫症の1例. 胆道 2012 ; 26 (1) : 122-127.
- 2) 山本一仁, 福原宗久, 二見良平, 柏原 元, 柿沼大輔, 寺西宣央, 張 一光, 中村慶春, 内田英二⁽¹⁾ 北村山公立病院 外科) : 完全嚢胞型を呈した膵内分泌腫瘍に対して腹腔鏡下膵体尾部切除を施行した2例. 日医大医学会誌 2012 ; 8 (1) : 44-49.
- 3) Matsuda A, Jacob A, Wu R, Aziz M, Yang W, Matsutani T, Suzuki H, Furukawa K, Uchida E, Wang P⁽¹⁾ Department of Surgery, Nippon Medical School) : Novel Therapeutic Targets for Sepsis : Regulation of Exaggerated Inflammatory Responses. J Nippon Med Sch 2012 ; 79 (1) : 4-18.
- 4) 松谷 毅^{1, 2)}, 吉田 寛¹⁾, 松下 晃¹⁾, 丸山 弘¹⁾, 笹島耕二¹⁾, 内田英二²⁾ ⁽¹⁾ 日本医科大学多摩永山病院外

科, ²⁾ 日本医科大学外科): 食道空腸吻合狭窄に対する内視鏡的バルーン拡張術後に生じた緊張性気胸を伴った食道破裂の1例. 日本腹部救急医学会 2012; 32 (1): 109-113.

- 5) 水口義昭¹⁾, 有馬保生¹⁾, 真々田裕宏¹⁾, 相本隆幸¹⁾, 中村慶春¹⁾, 峯田 章¹⁾, 横室茂樹¹⁾, 清水哲也¹⁾, 神田知洋¹⁾, 内田英二¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学消化器外科): ¹⁸F-FDG-PET 陽性, CA19-9 高値を示した胆嚢腺筋腫症の1例. 日本胆道学会機関誌 2012; 26 (1): 122-127.

追加分特集:

- 1) 谷合信彦¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学 外科 (日本手術医学会誌編集委員)): よりよい論文作成を目指して: 誰にでもできる医学雑誌への論文投稿 (Vol 2). 日本手術医学会誌 2012; 33 (1): 9-11.

(1) 原著:

- 1) 山田岳史¹⁾, 菅 隼人¹⁾, 松本智司¹⁾, 小泉岐博¹⁾, 佐々木順平¹⁾, 谷 杏彌¹⁾, 横井公良²⁾, 内田英二¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学 外科, ²⁾ 日本医科大学千葉北総病院 外科): Oxaliplatin による末梢神経障害に対する桂枝加朮附湯と附子の効果. 癌と化学療法 2012; 39 (11): 1687-1691.
- 2) Junpei S, Satoshi M, Hayato K, Takeshi Y, Michihiro K, Yoshiaki M, Eiji U (¹ Surgery for Organ Function and Biological Regulation, Graduated Medicine, Nippon Medical School): Objective Assessment of Post-operative Gastrointestinal Motility in Elective Colonic Resection Using a Radiopaque Marker Provides an Evidence for the Abandonment of Preoperative Mechanical Bowel Preparation. J Nippon Med Sch 2012; 79 (4): 259-266.
- 3) Akagi I¹⁾, Miyashita M¹⁾, Takahashi K¹⁾, Matsutani T¹⁾, Matsuda A¹⁾, Nomura T¹⁾, Makino H¹⁾, Hagiwara N¹⁾, Uchida E¹⁾ (¹ Division of Surgery for Organ Function and Biological Regulation, Nippon Medical School): Determination of urinary trypsin inhibitor provides insight into postoperative complications in patients following esophagectomy. EXPERIMENTAL AND THERAPEUTIC MEDICINE 2012; 4 (1): 84-88.
- 4) Akagi I¹⁾, Furukawa K¹⁾, Miyasita M¹⁾, Kiyama T¹⁾, Matsuda A¹⁾, Nomura T¹⁾, Makino H¹⁾, Hagiwara N¹⁾, Takahashi K¹⁾, Utida E¹⁾ (¹ Division of Surgery for Organ Function and Biological Regulation, Nippon Medical School): Surgical wound management made easier and more cost-effective. ONCOLOGY LETTERS 2012; 4 (1): 97-100.

(2) 総説:

- 1) 松谷 毅, 野村 務, 松下 晃, 平方敦史, 内田英二 (¹⁾ 日本医科大学 外科): 【ヘルニア手術を究める】大腿ヘルニア修復術. 手術 2012; 66 (5): 557-560.
- 2) 牧野浩司, 内田英二 (¹⁾ 日本医科大学多摩永山病院 外科): 【術前・術後管理必携】術式別術前・術後管理 小腸・大腸 腹膜炎手術. 消化器外科 2012; 35 (5): 688-692.
- 3) 菅 隼人, 内田英二, 松本智司, 山田岳史, 小泉岐博, 進士誠一, 佐々木順平, 谷 杏彌, 原 敬介, 古川清憲 (¹⁾ 日本医科大学外科 (消化器, 一般, 乳腺, 移植部門)): 大建中湯の腸管運動に対する効果. 日本外科系連合学会誌 2012; 37 (4): 719-723.
- 4) 中村慶春, 松本智司, 吉岡正人, 松下 晃, 清水哲也, 内田英二 (¹⁾ 日本医科大学消化器外科): 特集エキスパートの膵切除術 腹腔鏡下膵頭十二指腸切除術 (Lap-PD): Laparoscopic pancreaticoduodenectomy. 手術 2012; 66 (9): 1219-1225.
- 5) 中村慶春 (¹⁾ 日本医科大学 消化器外科): 低侵襲手術としての腹腔鏡下膵切除術. 東京都医師会雑誌 2012; 65 (8): 20-31.
- 6) 上田純志, 谷合信彦, 内田英二 (¹⁾ 日本医科大学 消化器・一般・乳腺・移植外科): 食道胃静脈瘤 (esophago-gastric varices). 消化器外科 NURSING 2012; 17 (10): 988-992.
- 7) Tsuboko Y¹⁾, Takeda S^{1,2)}, Mii S¹⁾, Nakazato K¹⁾, Tanaka K²⁾, Uchida E³⁾, Sakamoto A¹⁾ (¹⁾ Department

of Anesthesiology, Nippon Medical School, ²⁾ Intensive Care Unit and Cardiac Care Unit, Nippon Medical School, ³⁾ Department of Surgery, Nippon Medical School) : Clinical evaluation of sivelestat for acute lung injury/acute respiratory distress syndrome following surgery for abdominal sepsis. *Durg Desibn, Development and Therapy* 2012 ; 273-278.

- 8) 中村慶春, 松本智司, 吉岡正人, 松下 晃, 清水哲也, 山初和也, 内田英二 (¹⁾ 日本医科大学 消化器外科) : 腹腔鏡下臍頭十二指腸切除術. *消化器外科* 2012 ; 35 (10) : 1459-1470.
- 9) 中村慶春, 吉岡正人, 松下 晃, 清水哲也, 山初和也, 内田英二 (¹⁾ 日本医科大学 消化器・一般・移植外科) : 【内視鏡外科医のための微細局所解剖アトラス】 肝胆脾 脾温存脾体尾部切除 脾動静脈剥離のコツ. *手術* 2012 ; 66 (6) : 809-813.
- 10) 牧野浩司, 内田英二 (¹⁾ 日本医科大学多摩永山病院 外科) : 【術前・術後管理必携】 術式別術前・術後管理 小腸・大腸 腹膜炎手術. *消化器外科* 2012 ; 35 (5) : 688-692.
- 11) 谷合信彦, 内田英二 (¹⁾ 日本医科大学消化器外科) : 肝切除中の出血 : 外科医の視点から 早急な赤血球輸血は避けつつも, 大量出血対応への切り替えは迅速に. *LiSA (リサ)* 2012 ; 19 (11) : 1204-1207.
- 12) 野村 務, 松谷 毅, 萩原信敏, 牧野浩司, 宮下正夫, 内田英二 (¹⁾ 日本医科大学消化器外科) : III型食道裂孔ヘルニアに対する腹腔鏡下逆流防止術 (LARS) : 当施設における経験. *手術* 2012 ; 66 (11) : 1627-1631.
- 13) 吉田 寛, 横山 正, 平方敦史, 丸山 弘, 牧野浩司, 真々田裕宏, 谷合信彦, 内田英二 (¹⁾ 日本医科大学多摩永山病院外科) : 特集・集中治療医に必要な最新のステント治療法の知識 肝・胆・脾のステント. *ICUとCCU* 2012 ; 36 (10) : 747-753.
- 14) 倉藤晶子, 佐野紀代, 中村慶春, 内田英二 (¹⁾ 日本医科大学付属病院手術室, ²⁾ 日本医科大学付属病院手術室, ³⁾ 日本医科大学消化器外科, ⁴⁾ 日本医科大学消化器外科) : 腹腔鏡手術看護徹底理解 第2回腹腔鏡手術における器械出し : 準備やセット化, ハードウェアの理解. *実践安全手術看護* 2013 ; 6 (5) : 80-87.
- 15) 山初和也, 松田陽子, 石渡俊行, 鈴木妙子, 川原清子, 相本隆幸, 中村慶春, 松下 晃, 上田純志, 内藤善哉, 内田英二 (¹⁾ 日本医科大学 臓器病態制御外科学) : 新たな分子標的治療としての Nestin による腫瘍新生血管増殖抑制. *癌の臨床* 2012 ; 58 (6) : 355-360.
- 16) 谷合信彦, 吉田 寛, 吉岡正人, 川野陽一, 内田英二 (¹⁾ 日本医科大学消化器外科) : 特集I 高齢者における消化器疾患の診断と治療高齢者における肝細胞癌切除術の意義. *消化器内科* 2013 ; 56 (1) : 65-69.
- 17) 吉田 寛¹⁾, 真々田裕宏²⁾, 谷合信彦²⁾, 平方敦史¹⁾, 上田達夫³⁾, 村田 智⁴⁾, 汲田伸一郎⁴⁾, 内田英二²⁾ (¹⁾ 日本医科大学多摩永山病院外科, ²⁾ 日本医科大学消化器外科, ³⁾ 日本医科大学多摩永山病院放射線科, ⁴⁾ 日本医科大学放射線科) : 部分的脾動脈塞栓術 (PSE). *日本門脈亢進症学会* 2012 ; 18 (4) : 215-216.
- 18) 野村 務¹⁾, 松谷 毅¹⁾, 萩原信敏¹⁾, 牧野浩二²⁾, 丸山 弘²⁾, 藤田逸郎¹⁾, 中村慶春¹⁾, 岩切勝彦³⁾, 宮下正夫¹⁾, 内田英二¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学大学院医学研究科臓器病態制御外科, ²⁾ 日本医科大学多摩永山病院外科, ³⁾ 日本医科大学大学院医学研究科臓器病態制御腫瘍内科) : 食道裂孔ヘルニアに対するメッシュを用いた腹腔鏡下手術. *日医大医会誌* 2012 ; 8 (3) : 207-210.
- 19) Yoshida H¹⁾, Mamada Y²⁾, Taniai N²⁾, Tajiri T²⁾, Uchida E²⁾ (¹⁾ Department of Surgery, Nippon Medical School Tama Nagayama Hospital, Japan, ²⁾ Department of Surgery, Nippon Medical School, Japan) : Surgical Management in Portal Hypertension. *HEPATIC SURGERY (Edited by Hesham Abdeldayem)* 2013 ; VII (21) : 517-529.

(3) 症例報告 :

- 1) 中田亮輔, 鈴木英之, 吉野雅則, 松信哲朗, 渡辺昌則, 千原直人, 三浦克洋, 村木 輝, 黒田誠司, 三島圭介, 八木亜記, 和田由大, 越智友洋, 内田英二 (¹⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院 消化器病センター) : 経肛門イレウス管挿入後, 早期に穿孔をきたした横行結腸癌の1例. *Progress of Digestive Endoscopy* 2012 ; 80 (2) : 140-141.

- 2) 松信哲朗, 鈴木英之, 吉野雅則, 三浦克洋, 渡辺昌則, 千原直人, 前島顕太郎, 豊田哲鎬, 村木 輝, 中田亮輔, 黒田誠司, 三島圭介, 八木重記, 和田由大, 内田英二, その他1名⁽¹⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院 消化器病センター) : 直腸異物肉芽腫の1例. *Progress of Digestive Endoscopy* 2012 ; 80 (2) : 122-123.
- 3) 保田智彦, 櫻澤信行, 小野寺浩之, 金沢義一, 藤田逸郎, 加藤俊二, 内田英二⁽¹⁾ 日本医科大学附属病院 消化器一般外科) : 幽門側胃切除後の再建空腸に経皮内視鏡的空腸瘻造設術を施行した1例. *Progress of Digestive Endoscopy* 2012 ; 80 (2) : 98-99.
- 4) 廣井 信, 古川清憲, 相本隆幸, 中村慶春, 山初和也, 武田幸樹, 内田英二⁽¹⁾ 日本医科大学附属病院 消化器・一般・乳腺・移植外科) : 腹壁膿瘍を伴った Richter 型再発腹壁瘢痕ヘルニア陥頓の1例 メッシュの完全除去を施行せずに2次治癒をなし得た症例. *日本外科感染症学会雑誌* 2012 ; 9 (2) : 193-196.
- 5) 上田純志, 吉田 寛, 真々田裕宏, 谷合信彦, 吉岡正人, 川野陽一, 水口義昭, 清水哲也, 武田幸樹, 内田英二⁽¹⁾ 日本医科大学附属病院 外科) : 術後12年目に切除しえた胃 GIST 肝転移の1例 (原著論文/症例報告). *肝臓* (0451-4203) 2012 ; 53 (4) : 225-230.
- 6) Matsutani T, Matsuda A, Arai H, Takao Y, Yoshida H, Sasajima K, Uchida E : Successful endoscopic dilatation of a severe stricture of the cervical esophagus after definitive combined chemotherapy plus radiotherapy for esophageal cancer. *Esophagus* 2012 ; 9 : 252-256.
- 7) 馬越通信, 内田英二, 松谷 毅, 鈴木成治, 吉田 寛, 笹島耕二⁽¹⁾ 日本医科大学多摩永山病院 外科) : 胃癌術後再発による再建挙上空腸狭窄に対し十二指腸用ステント留置で quality of life が改善した1例. *外科* 2012 ; 74 (4) : 437-440.
- 8) 松下 晃, 笹島耕二, 吉田 寛, 鈴木成治, 松谷 毅, 内田英二⁽¹⁾ 日本医科大学多摩永山病院 外科) : 外科的治療と術後化学療法で長期生存を得た横行結腸間膜原発 extragastrointestinal stromal tumor (EGIST) の1例. *臨床外科* 2012 ; 67 (5) : 711-714.
- 9) 松谷 毅, 吉田 寛, 野村 務, 萩原信敏, 内田英二⁽¹⁾ 日本医科大学外科) : 巨大気腫性肺嚢胞と十二指腸潰瘍穿孔による汎発性腹膜炎を同時に手術した1例. *日本腹部救急医学会雑誌* 2012 ; 32 (5) : 935-938.
- 10) 松谷 毅, 吉田 寛, 笹島耕二, 丸山 弘, 横山 正, 鈴木成治, 片山博徳, 細根 勝, 内田英二⁽¹⁾ 日本医科大学多摩永山病院 外科) : S-1/Cisplatin 併用術前化学療法が奏効し根治切除し得た CA19-9 産生進行胃癌の1例. *癌と化学療法* 2012 ; 39 (4) : 653-656.
- 11) 松谷 毅, 吉田 寛, 笹島耕二, 丸山 弘, 横山 正, 松下 晃, 平方敦史, 高尾嘉宗, 馬越通信, 早川朋宏, 片山博徳, 細根 勝, 内田英二⁽¹⁾ 日本医科大学多摩永山病院 外科) : 同時性食道胃重複癌に対し術前 Docetaxel/CDDP/5-Fluorouracil 併用化学療法が奏効し手術を施行した1例. *癌と化学療法* 2012 ; 39 (4) : 645-648.
- 12) Matsuda A, Jacob A, Wu R, Aziz M, Yang W, Matsutani T, Suzuki H, Furukawa K, Uchida E, Wang P : Novel therapeutic targets for sepsis : regulation of exaggerated inflammatory responses. *J Nippon Med Sch* 2012 ; 79 : 4-18.
- 13) 野村 聡, 塩谷 猛, 渋谷哲男, 渡邊善正, 南部弘太郎, 内間久隆, 鈴木英之, 内田英二⁽¹⁾ 日本医科大学 武蔵小杉病院 消化器病センター) : イレウスを来した小腸原発非特異型末梢性 T 細胞性リンパ腫の1例. *日本消化器外科学会雑誌* 2012 ; 45 (7) : 758-763.
- 14) Ueda J, Yoshida H, Makino H, Yokoyama T, Maruyama H, Hirakata A, Ueda H, Watanabe M, Uchida E, Uchida E⁽¹⁾ Department of Surgery, Nippon Medical School) : Transmesocolic Hernia of the Ascending Colon with Intestinal Obstruction. *Gastroenterology* 2012 ; 6 : 344-349.
- 15) 上田純志, 吉田 寛, 真々田裕宏, 谷合信彦, 吉岡正人, 川野陽一, 水口義昭, 清水哲也, 武田幸樹, 内田英二⁽¹⁾ 日本医科大学附属病院 外科) : 術後12年目に切除しえた胃 GIST 肝転移の1例. *肝臓* 2012 ; 53 (4) : 225-230.
- 16) 住吉宏樹, 横井公良, 牧野浩司, 金沢義一, 山田岳史, 内田英二⁽¹⁾ 日本医科大学 外科) : 手術と化学療法で一

- 時的に症状緩和が得られた G-CSF 産生大腸癌の 1 例. 日本臨床外科学会雑誌 2012 ; 73 (7) : 1753-1758.
- 17) 松谷 毅, 吉田 寛, 野村 務, 萩原信敏, 内田英二 (1) 日本医科大学 外科) : 巨大気腫性肺嚢胞と十二指腸潰瘍穿孔による汎発性腹膜炎を同時に手術した 1 例. 日本腹部救急医学会雑誌 2012 ; 32 (5) : 935-938.
- 18) Nakamura Y, Matsumoto S, Yoshioka M, Shimizu T, Yamahatsu K, Uchida E (1) Surgery for Organ Function and Biological Regulation, Graduate School of Medicine, Nippon Medical School) : Successful Laparoscopic Pancreaticoduodenectomy for Intraductal Papillary Mucinous Neoplasm : A Case Report and a Reliable Technique for Pancreaticojejunostomy. J Nippon Med Sch 2012 ; 79 (3) : 218-222.
- 19) Yamada T, Kan H, Matsumoto S, Kanazawa Y, Koizumi M, Sasaki J, Tani A, Yokoi K, Uchida E (1) Surgery for Organ Function and Biological Regulation, Graduate School of Medicine, Nippon Medical School) : Success Rate of Collagen Gel Droplet-embedded Culture Drug Sensitivity Test in Colorectal Cancer : Are Antibiotics a Prerequisite for Specimen Irrigation?. Journal of Nippon Medical School 2012 ; 79 (2) : 163-165.
- 20) Ueda J, Nomura T, Sasaki J, Shigehara K, Yamahatsu K, Tani A, Shioda Y, Furukawa K, Uchida E (1) Department of Surgery, Nippon Medical School) : Prosthetic repair of an incarcerated groin hernia with small intestinal resection. Surgery Today 2012 ; 42 (4) : 359-362.
- 21) 山田岳史, 金沢義一, 内田英二, 横井公良 (1) 日本医科大学 外科) : 消化器癌の癌性疼痛薬物治療における悪心・嘔吐の予防 : クリニカルパスの使用経験. 癌と化学療法 2012 ; 39 (10) : 1517-1521.
- 22) 松谷 毅, 野村 務, 萩原信敏, 丸山 弘, 高尾嘉宗, 内田英二 (1) 日本医科大学消化器外科学) : 化学放射線療法後の遺残食道癌に腹腔鏡補助下食道バイパス手術を施行した 1 例. 日医大医学会誌 2012 ; 8 (4) : 260-263.
- 23) 埴 秀暁, 渡辺昌則, 黒田誠司, 野村 聡, 前島顕太郎, 水谷 聡, 小峯 修, 吉野雅則, 坊 英樹, 鈴木英之, 内田英二 (1) 日本医科大学 武蔵小杉病院消化器病センター) : たこ焼きによる食道熱傷の 1 例. Progress of Digestive Endoscopy 2012 ; 81 (2) : 76-77.
- 24) 早川朋宏, 松谷 毅, 平方敦史, 吉田 寛, 笹島耕二, 内田英二 (1) 日本医科大学 多摩永山病院 外科) : 腹腔鏡下手術を施行した胃神経鞘腫の 1 例. 臨床外科 2013 ; 68 (1) : 100-104.
- 25) 松谷 毅, 野村 務, 萩原信敏, 丸山 弘, 馬越通信, 内田英二 (1) 日本医科大学 消化器外科) : 根治的化学放射線療法後に局所再発した高齢者食道癌性狭窄に対し腹腔鏡補助下食道バイパス手術を施行した 1 例. 手術 2012 ; 66 (8) : 1155-1159.
- 26) 高田英志, 松田明久, 松本智司, 上田純志, 横井公良, 内田英二 (1) 日本医科大学 消化器外科) : 十二指腸まで虚血が及んだ広範囲非閉塞性腸管虚血症の 1 例. 日本臨床外科学会雑誌 2012 ; 73 (12) : 125-129.
- 27) Matsutani T, Sasajima K, Yoshida H, Hosone M, Katayama H, Uchida E (1) Department of Surgery, Nippon Medical School) : A case of intramural gastric tube metastasis from esophageal squamous cell carcinoma. Esophagus 2012 ; 9 : 239-242.
- 28) 保田智彦, 櫻澤信行, 小野寺浩之, 金沢義一, 藤田逸郎, 加藤俊二, 内田英二 (1) 日本医科大学附属病院 消化器一般外科) : 幽門胃切除後の再建空腸に経皮内視鏡的空腸瘻造設術を施行した 1 例. Progress of Digestive Endoscopy 2012 ; 80 (2) : 98-99.
- 29) 松信哲朗, 鈴木英之, 吉野雅則, 三浦克洋, 渡辺昌則, 千原直人, 前島顕太郎, 豊田哲鎬, 村木 輝, 中田亮輔, 黒田誠司, 三島圭介, 八木亜記, 和田由大, 内田英二, その他 1 名 (1) 日本医科大学武蔵小杉病院 消化器病センター) : 直腸異物肉芽腫の 1 例. Progress of Digestive Endoscopy 2012 ; 80 (2) : 122-123.
- 30) 中田亮輔, 鈴木英之, 吉野雅則, 松信哲朗, 渡辺昌則, 千原直人, 三浦克洋, 村木 輝, 黒田誠司, 三島圭介, 八木亜記, 和田由大, 越智友洋, 内田英二 (1) 日本医科大学武蔵小杉病院 消化器病センター) : 経肛門イレウス管挿入後, 早期に穿孔をきたした横行結腸癌の 1 例. Progress of Digestive Endoscopy 2012 ; 80 (2) : 140-141.

- 31) 廣井 信¹⁾, 古川清憲¹⁾, 相本隆幸¹⁾, 中村慶春¹⁾, 山初和也¹⁾, 武田幸樹¹⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院消化器・一般・乳腺・移植外科) : 腹壁膿瘍を伴った Richter 型再発腹壁膿瘍ヘルニア陥頓の 1 例 : メッシュの完全除去を施行せずに 2 次治癒をなし得た症例. 日本外科感染症学会雑誌 2012 ; 9 (2) : 193-196.
- 32) 松谷 毅¹⁾, 野村 務¹⁾, 萩原信敏¹⁾, 吉田 寛^{1,2)}, 宮下正夫¹⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学大学院医学研究科臓器病態制御外科, 2) 日本医科大学多摩永山病院外科) : 80 歳以上の高齢者進行食道癌に対する Docetaxel/Nedaplatin/5-FU 併用化学放射線療法. 日医大医会誌 2012 ; 8 (2) : 143-146.
- 33) Hiroshi M^{1,2)}, Hiroshi Y^{1,2)}, Atsushi H^{1,2)}, Takeshi M^{1,2)}, Tadashi Y^{1,2)}, Seiji S^{1,2)}, Akira M^{1,2)}, Koji S^{1,2)}, Yuta K¹⁾, Eiji U¹⁾ (1) Surgery for Organ Function and Biological Regulation, Graduate School of Medicine, Nippon Medical School, 2) Department of Surgery, Nippon Medical School Tama Nagayama Hospital) : Surgical Treatment of a Patient with Diaphragmatic Invasion by a Ruptured Hepatocellular Carcinoma with Biliary and Portal Venous Tumor Thrombi. Journal of Nippon Medical School 2012 ; 79 (2) : 147-152.
- 34) 高田英志^{1,2)}, 松田明久¹⁾, 松本智司¹⁾, 上田純志²⁾, 横井公良¹⁾, 内田英二²⁾ (1) 日本医科大学千葉北総病院 外科, 2) 日本医科大学 消化器外科) : 十二指腸まで虚血が及んだ広範囲非閉塞性腸管虚血症の 1 例. 日本臨床外科学会誌 2012 ; 73 (12) : 3145-3149.
- 35) 住吉宏樹^{1,2)}, 横井公良²⁾, 牧野浩司¹⁾, 金沢義一¹⁾, 山田岳史¹⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学 消化器外科, 2) 日本医科大学千葉北総病院 外科) : 手術と化学療法で一時的に症状緩和が得られた G-CSF 産生大腸癌の 1 例. 日本臨床外科学会誌 2012 ; 73 (7) : 1753-1758.
- 36) Shinji S^{1,2)}, Akimaru K¹⁾, Tsuchiya Y¹⁾, Shimizu T¹⁾, Kawamoto M¹⁾, Iwamoto M¹⁾, Yamaguchi N¹⁾, Suzuki H¹⁾, Yamada T¹⁾, Nikaido T¹⁾, Uchida E²⁾ (1) Department of Surgery, Kosei General Hospital, 2) Department of Surgery for Organ Function and Biological Regulation, Graduate School of Medicine, Nippon Medical School) : Enterovesical fistula caused by non-Hodgkins lymphoma of the ileum : report of a case (Hodgkin と s の間にアポストロフィーが入る). Surgery Today 2012 ; 42 : 1005-1009.
- 37) Watanabe M¹⁾, Suzuki H¹⁾, Maejima K¹⁾, Komine O¹⁾, Mizutani S¹⁾, Yoshino M¹⁾, Bo H¹⁾, Kitayama Y²⁾, Uchida E³⁾ (1) Institute of Gastroenterology, Nippon Medical School Musashikosugi Hospital, 2) Department of Pathology, Nippon Medical School Musashikosugi Hospital, 3) Department of Surgery, Nippon Medical School) : Surgical resection of late solitary locoregional gastric cancer recurrence in stomach bed. Med Sci Monit 2012 ; 18 : 53-56.
- 38) Ueda J¹⁾, Yoshida H¹⁾, Mamada Y¹⁾, Taniai N¹⁾, Mineta S¹⁾, Yoshioka M¹⁾, Kawano Y¹⁾, Simizu T¹⁾, Hara E¹⁾, Kawamoto C¹⁾, Kaneko K¹⁾, Uchida E¹⁾ (1) Department of Surgery, Nippon Medical School) : Surgical resection of a solitary para-aortic lymph node metastasis from hepatocellular carcinoma. World Journal of Gastroenterology 2012 ; 18 (23) : 3027-3031.
- 39) Maruyama H, Yoshida H, Hirakata A, Matsutani T, Yokoyama T, Suzuki S, Matsushita A, Sasajima K, Kikuchi Y, Uchida E : Surgical treatment of a patient with diaphragmatic invasion by a ruptured hepatocellular carcinoma with biliary and portal venous tumor thrombi. J Nippon Med Sch 2012 ; 79 : 147-152.
- 40) Yokoyama T, Yoshida H, Makino H, Maruyama H, Suzuki S, Matsutani T, Matsushita A, Hirakata A, Sasajima K, Uchida E : Efficacy and safety of gemcitabine monotherapy for patients with advanced biliary tract cancer. J Nippon Med Sch 2012 ; 79 : 204-212.
- 41) Yokoyama T, Yoshida H, Hirakata A, Makino H, Maruyama H, Suzuki S, Matsutani T, Hayakawa T, Hosone M, Uchida E : Spontaneous complete necrosis of advanced hepatocellular carcinoma. J Nippon Med Sch 2012 ; 79 : 213-217.
- 42) Murayama H, Yoshida H, Makino H, Yokohama T, Matsutani T, Matsuda A, Hirakawa A, Furukawa K, Uchida E : Late-onset deep infection after prosthetic inguinal hernia repair. J Jpn Soc Surg Infec 2012 ;

9 : 187-192.

- 43) Matsutani T, Sasajima K, Maruyama H, Yoshida H, Katayama H, Hosone M, Matsuda A, Uchida E : Endoscopic removal of alarge hyperplastic (inflammatory) polyp in esophagogastric anastomosis after esophagectomy. 2012 ; 9 : 114-117.

(4) 記念講演会要旨 :

- 1) 古川清憲¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学外科 (消化器・一般・乳腺・移植部門) : 私の研究と臨床医としての歩み. 日医大医学会誌 2012 ; 8 (2) : 97-99.

著 書

- 1) 中村慶春, 倉藤晶子, 佐野紀代, 内田英二 (¹⁾ 日本医科大学付属病院 消化器外科) : [分担] 内視鏡手術 : 腹腔鏡下膵体尾部切除術 Laparoscopic distal pancreatectomy (LAP-DP). OPE NURSING (今本 治彦), 2012 : pp236-249, メディカ出版.
- 2) 中村慶春, 吉岡正人, 松下 晃, 清水哲也, 山初和也, 内田英二 (¹⁾ 日本医科大学 消化器・一般・移植外科) : [分担] 肝胆膵 脾温存膵体尾部切除 脾動静脈剥離のコツ. 手術 【内視鏡外科医のための微細局所解剖アトラス】, 2012 ; pp809-813, 金原出版株式会社.
- 3) 柳 健¹⁾ (¹⁾ 東京血管外科クリニック) : [自著] 足のむくみと下肢静脈瘤と医療用弾性ストッキング, 2012 ; pp1-141, 現代書林.
- 4) 中村慶春¹⁾, 松本智司¹⁾, 吉岡正人¹⁾, 松下 晃¹⁾, 清水哲也¹⁾, 山初和也¹⁾, 内田英二¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学 消化器外科) : [共著] 腹腔鏡下膵頭十二指腸切除術. 消化器外科, 2012 ; pp1459-1470, へるす出版.
- 5) 中村慶春¹⁾, 松本智司¹⁾, 松下 晃¹⁾, 吉岡正人¹⁾, 清水哲也¹⁾, 山初和也¹⁾, 住吉宏樹¹⁾, 内田英二¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学 消化器外科) : [共著] 腹腔鏡下膵頭十二指腸切除術 (Lap-PD) における再建の工夫とコツ特集 肝胆膵腹腔鏡下手術の秘策 ; 合併症・偶発症回避のコツ. 消化器外科, 2013 ; pp209-216, へるす出版.
- 6) 松谷 毅¹⁾, 野村 務¹⁾, 藤田逸郎¹⁾, 金沢義一¹⁾, 萩原信敏¹⁾, 内田英二¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学 消化器外科) : [共著] 手術手技腹腔鏡補助下胃全摘術における開腹用サーキュラステイプラー型自動吻合器を用いた食道空腸吻合術 : 直針を用いた巾着吻合の工夫. 手術, 2012 ; pp1725-1729, 金原出版.
- 7) 山田岳史¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学 消化器外科) : [共著] Oxaliplation 誘発末梢神経障害に対する桂皮加朮附湯とブジ末の効果 : 赤外線サーモグラフィで測定した末梢皮膚温と末梢神経障害. PROGRESS IN MEDICINE, 2013 ; pp466-467, ライフ・サイエンス.
- 8) 川野陽一¹⁾, 吉田 寛¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学 外科) : [分担] 第 X 章 胆道疾患 5. 膵・胆管合流異常. 肝臓専門医テキスト (日本肝臓学会), 2013 ; pp348-350, 南江堂.
- 9) 川野陽一¹⁾, 吉田 寛¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学 外科) : [分担] 第 VII 章 胆道疾患 4. 膵・胆管合流異常. 肝臓専門医テキスト (日本肝臓学会), 2013 ; pp162-164, 南江堂.

学会発表

[追加分]

追加分一般講演 :

- 1) 辰口篤志, 三井啓吾, 進士誠一, 米澤真興, 瀬尾継彦, 小林 剛, 江原彰仁, 高橋陽子, 田中 周, 藤森俊二, 坂本長逸 (¹⁾ 日本医科大学 消化器内科) : 大腸癌における Heregulin の発現と臨床病理学的意義. 日本消化器病学会総会 (第 97 回), 2011. 5.
- 2) 辰口篤志, 三井啓吾, 進士誠一, 米澤真興, 瀬尾継彦, 小林 剛, 江原彰仁, 高橋陽子, 田中 周, 藤森俊二, 坂本長逸 (¹⁾ 日本医科大学 消化器内科) : 大腸癌における Heregulin とその受容体 ErbB3 の発現と臨床病理学的意義. 日本消化器病学会大会 (第 53 回), 2011. 10.

- 3) 塩谷 猛, 渋谷哲男, 山岸征嗣, 渡邊善正, 南部弘太郎, 野村 聡, 鈴木英之, 内田英二⁽¹⁾ さいたま市民医療センター 外科) : 腹部緊急手術における SSI 対策 腹部緊急手術における真皮埋没縫合の SSI 発生リスク因子の検討. 日本腹部救急医学会 (石川県), 2012. 2.
- 4) 水谷 聡, 鈴木英之, 相本隆幸, 星野有哉, 尾形昌男, 渡辺昌則, 内田英二⁽¹⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院 消化器病センター) : 臍頭十二指腸切除後に発症した上腸間膜動脈血栓症の小腸内視鏡像. 日本小腸研究会 (東京), 2011. 11.
- 5) 平方敦史, 吉田 寛, 丸山 弘, 横山 正, 鈴木成治, 松谷 毅, 松下 晃, 高尾嘉宗, 馬越通信, 早川朋宏, 内田英二⁽¹⁾ 日本医科大学多摩永山病院 外科) : 肝特異性造影 MRI による転移性肝腫瘍の評価. 日本肝臓学会大会 (第 15 回) (福岡), 2011. 10.
- 6) 原田潤一郎, 松谷 毅, 野村 務, 萩原信敏, 藤田逸郎, 金沢義一, 岩切勝彦, 河越哲郎, 川見典之, 宮下正夫, 内田英二⁽¹⁾ 日本医科大学 外科) : 診断に難渋した食道未分化癌の 1 例. 日本消化器病関東支部例会 (第 318 回) (東京), 2012. 2.
- 7) 中村慶春 : 膵臓外科は内視鏡下手術へ ; 日本の rival (ライバル) とは ? . 肝胆膵内視鏡下手術勉強会 (東京), 2012. 3.
- 8) 上田純志¹⁾, 谷合信彦¹⁾, 吉田 寛²⁾, 真々田裕宏¹⁾, 吉岡正人¹⁾, 川野陽一¹⁾, 清水哲也¹⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学外科, 2) 日本医科大学多摩永山病院外科) : 肝細胞癌に対する術前, 術中ソナゾイド造影超音波検査の有用性の検討. 日本外科学会定期学術集会 (112) (千葉県), 2013. 4.
- 9) 上田仁美¹⁾ (1) 日本医科大学 消化器外科) : 初めての外科症例 術前化学療法の完遂と外科手術の狭間で悩んだ 4 型胃癌の 1 例. 日本消化器外科学会総会 (66) (名古屋市), 2011. 7.
- 10) 上田仁美¹⁾, 真々田裕宏¹⁾, 谷合信彦¹⁾, 峯田 章¹⁾, 吉岡正人¹⁾, 川野陽一¹⁾, 上田純志¹⁾, 若林俊輝¹⁾, 有馬保生¹⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学 消化器外科) : 胆管癌と鑑別が困難であった黄色肉芽腫性胆嚢炎の 1 例. 日本臨床外科学会総会 (73) (東京), 2011. 12.
- 11) 上田仁美¹⁾, 吉田 寛²⁾, 上田純志¹⁾, 牧野浩司²⁾, 横山 正²⁾, 丸山 弘²⁾, 平方敦史²⁾, 渡辺 学³⁾, 内田英一³⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学 消化器外科, 2) 日本医科大学付属多摩永山病院 外科, 3) 内田病院 外科) : 術前に診断しえた上行結腸間膜裂孔ヘルニアの 1 例. 日本腹部救急医学会総会 (48) (金沢市), 2012. 3.
- 12) Kure S¹⁾, Matsuda Y¹⁾, Hagio M¹⁾, Suzuki T¹⁾, Ueda J²⁾, Yamahatsu K²⁾, Yamamoto T¹⁾, Naito Z¹⁾, Ishiwata T (1) Departments of Pathology and Integrative Oncological Pathology, Nippon Medical School, 2) Surgery for Organ and Biological Regulation, Graduate School of Medicine, Nippon Medical School) : Expression of cancer stem cell markers in pancreatic ductal adenocarcinomas and pancreatic intraepithelial neoplasias. American Association for Cancer Research Annual Meeting (USA, Chicago), 2012. 3.
- 13) Ueda J¹⁾, Matsuda Y¹⁾, Yamahatsu K¹⁾, Uchida E¹⁾, Naito Z¹⁾, Ishiwata T¹⁾ (1) Nippon Medical School) : Epithelial splicing regulatory protein 1 modulates cell growth, migration, and invasion of human pancreatic ductal adenocarcinoma. American Association for Cancer Research Annual Meeting (USA, Chicago), 2012. 3.
- 14) Hagiwara N¹⁾, Miyashita M¹⁾, Nomura T¹⁾, Makino H¹⁾, Matsutani T¹⁾, Yamashita N²⁾, Akagi I¹⁾, Shinozuka E¹⁾, Kato S¹⁾, Fujita I¹⁾, Kanazawa Y¹⁾, Sakurazawa N¹⁾, Onosera H¹⁾, Uchida E¹⁾ (1) Nippon Medical School, 2) Tsuboi Hospital) : Clinical significance serum tumor markers in patients with esophageal cancer. American Association for Cancer Research Annual Meeting (USA, Chicago), 2012. 3.
- 15) 川野陽一¹⁾, 谷合信彦¹⁾, 峯田 章¹⁾, 吉岡正人¹⁾, 上田純志¹⁾, 真々田裕宏¹⁾, 吉田 寛²⁾, 村田 智³⁾, 汲田伸一郎³⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学 消化器外科, 2) 日本医科大学多摩永山病院 外科, 3) 日本医科大学 放射線科) : 門脈塞栓術を施行した閉塞性黄疸肝に対する術前減黄処置の検討. 日本臨床外科学会総会 (73) (東京都), 2011. 11.

- 16) 川野陽一¹⁾, 谷合信彦¹⁾, 峯田 章¹⁾, 吉岡正人¹⁾, 上田純志¹⁾, 真々田裕宏¹⁾, 吉田 寛²⁾, 村田 智³⁾, 汲田伸一郎³⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学 消化器外科, 2) 日本医科大学多摩永山病院 外科, 3) 日本医科大学 放射線科) : 門脈塞栓術を施行した閉塞性黄疸肝に対する術前減黄処置の検討. 日本臨床外科学会総会 (73) (東京都), 2011. 11.
- 17) Kawano Y¹⁾, Tani ai N¹⁾, Yosioka M¹⁾, Matsushita A¹⁾, Mizuguchi Y¹⁾, Shimizu T¹⁾, Ueda J¹⁾, Yoshida H¹⁾, Uchida E¹⁾ (1) Nippon Medical School) : Our experience of portal vein embolization before major hepatectomy for the liver with obstructive jaundice. Conference of the Asian Pacific Association for the Study of the Liver (APASL 2012) (22) (Taipei Taiwan), 2012. 2.
- 18) Kawano Y¹⁾, Tani ai N¹⁾, Yosioka M¹⁾, Matsushita A¹⁾, Mizuguchi Y¹⁾, Shimizu T¹⁾, Ueda J¹⁾, Yoshida H¹⁾, Uchida E¹⁾ (1) Nippon Medical School) : Our experience of portal vein embolization before major hepatectomy for hepatocellular carcinoma. Conference of the Asian Pacific Association for the Study of the Liver (APASL 2012) (22) (Taipei Taiwan), 2012. 2.
- 19) Kawano Y¹⁾, Tani ai N¹⁾, Yosioka M¹⁾, Matsushita A¹⁾, Mizuguchi Y¹⁾, Shimizu T¹⁾, Ueda J¹⁾, Yoshida H¹⁾, Uchida E¹⁾ (1) Nippon Medical School) : A case of resected by laparoscopic procedure with accessory spleen at the liver hilum which was difficult to distinguish to the hepatocellular carcinoma. Conference of the Asian Pacific Association for the Study of the Liver (APASL 2012) (22) (Taipei Taiwan), 2012. 2.
- 20) Kawano Y¹⁾, Tani ai N¹⁾, Yosioka M¹⁾, Matsushita A¹⁾, Mizuguchi Y¹⁾, Shimizu T¹⁾, Ueda J¹⁾, Yoshida H¹⁾, Uchida E¹⁾ (1) Nippon Medical School) : Our ingenious techniques for laparoscopic hepatectomy. Conference of the Asian Pacific Association for the Study of the Liver (APASL 2012) (22) (Taipei Taiwan), 2012. 2.
- 21) Ueda J¹⁾, Yoshida H²⁾, Tani ai N¹⁾, Mamada Y¹⁾, Yoshioka M¹⁾, Kawano Y¹⁾, Mizuguchi Y¹⁾, Shimizu T¹⁾, Uchida E¹⁾ (1) Nippon Medical School, 2) Nippon Medical School Tamanagayama Hospital) : Surgical resection of a solitary para-aortic lymph node metastasis from hepatocellular carcinoma : a case report. Conference of the Asian Pacific Association for the Study of the Liver (APASL 2012) (22) (Taipei Taiwan), 2012. 2.
- 22) Tani ai N¹⁾, Yoshida H¹⁾, Mamada Y¹⁾, Yosioka M¹⁾, Kawano Y¹⁾, Mizuguchi Y¹⁾, Shimizu T¹⁾, Ueda J¹⁾, Takata H¹⁾, Uchida E (1) Nippon Medical School) : What is re-treatment for recurrent patients with hepatocellular carcinoma undergoing hepatectomy ?. Conference of the Asian Pacific Association for the Study of the Liver (APASL 2012) (22) (Taipei Taiwan), 2012. 2.

追加分招待講演 :

- 1) 中村慶春¹⁾ (1) 日本医科大学 消化器外科) : 膵臓外科は内視鏡下手術へ : 日本の rival (ライバル) とは?. 肝胆膵内視鏡下手術勉強会 (静岡県), 2012. 2.

追加分特別講演 :

- 1) 中村慶春 (1) 日本医科大学 消化器外科) : 腹腔鏡下膵切除術. 滋賀消化器外科カンファレンス (第6回) (滋賀), 2012. 2.
- 2) 中村慶春¹⁾ (1) 日本医科大学 消化器外科) : 腹腔鏡下膵切除術. 滋賀消化器外科カンファレンス (6) (滋賀県), 2012. 2.
- 3) 川野陽一¹⁾, 谷合信彦¹⁾, 中村慶春¹⁾, 吉岡正人¹⁾, 松下 晃¹⁾, 水口義昭¹⁾, 清水哲也¹⁾, 上田純志¹⁾, 吉田 寛²⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学 消化器外科, 2) 日本医科大学多摩永山病院 外科) : ENDO MINI-RETRACT™ を用いた肝門部操作に有用な脈管処理法. 日本臨床外科学会総会 (73) (東京都), 2011. 11.
- 4) 吉岡正人, 中村慶春, 松本智司, 松下 晃, 清水哲也, 内田英二 (1) 日本医科大学附属病院 消化器外科) : 腹腔鏡下膵中央切除術における膵消化管吻合操作の工夫. 日本臨床外科学会総会 (第74回) (東京都 (会議録), 2012. 11.

- 5) 相本隆幸, 内田英二, 松下 晃, 清水哲也, 川野陽一, 水谷 聡, 鈴木英之⁽¹⁾ 日本医科大学 消化器外科): 左方アプローチによる膵頭十二指腸切除術. 日本臨床外科学会総会 (第 74 回) (東京都 (会議録), 2012. 11.
- 6) 内田英二⁽¹⁾ 日本医科大学 消化器外科): 膵癌の診断と治療の進歩. 春日部市医師会外科医会学術講演会 (埼玉県), 2012. 3.
- 7) 内田英二⁽¹⁾ 日本医科大学 消化器外科): SVV?ScvO₂? EVLW? 救急患者管理に役立つパラメータを使い分ける. 日本腹部救急医学会総会 (第 48 回) (富山県), 2012. 3.

(1) 特別講演:

- 1) 中村慶春⁽¹⁾ 日本医科大学付属病院 外科): 膵臓領域における腹腔鏡下手術の可能性; 腹腔鏡下膵体尾部切除術の保険収載を受けて. 山梨腹腔鏡下手術勉強会 (山梨), 2012. 9.
- 2) 中村慶春⁽¹⁾ 日本医科大学 外科・消化器外科): 腹腔鏡下膵切除術の標準化に向けた取り組み. 姫路内視鏡手術研究会 (第 12 回) (兵庫), 2012. 9.
- 3) 中村慶春⁽¹⁾ 日本医科大学付属病院消化器外科): 腹腔鏡下膵切除術の標準化に向けた取り組み: 組織接着剤の取り扱いに関する知見を交えて. 北陸肝胆膵外科研究会 (第 17 回) (石川県金沢市), 2013. 2.
- 4) 中村慶春¹⁾ (1) 日本医科大学 消化器外科): 腹腔鏡下膵切除術: 標準化を目指した feasible な手術手技について. 鹿児島外科手術フォーラム 2012 (鹿児島県), 2012. 11.
- 5) 中村慶春¹⁾ (1) 日本医科大学 消化器外科): 安全で確実な腹腔鏡下膵切除の手術手技のポイント. 日本肝胆膵外科学会学術集会 (24) (大阪府), 2012. 6.
- 6) 中村慶春¹⁾ (1) 日本医科大学 消化器外科): 膵臓領域における腹腔鏡下手術の可能性: 腹腔鏡下膵体尾部切除術の保険収載を受けて. 日本膵臓学会大会 (43) (山形県), 2012. 6.
- 7) 中村慶春¹⁾ (1) 日本医科大学 消化器外科): 福善境下膵切除術の標準化について. 九州内視鏡下外科手術研究会 (22) (長崎県), 2012. 9.
- 8) 中村慶春¹⁾ (1) 日本医科大学 消化器外科): 膵臓領域における腹腔鏡下手術の可能性: 腹腔鏡下膵体尾部切除術の保険収載を受けて. 山梨県腹腔鏡下手術勉強会 (山梨県), 2012. 9.
- 9) 中村慶春¹⁾ (1) 日本医科大学 消化器外科): 腹腔鏡下膵切除術の標準化に向けた取り組み. 姫路内視鏡手術研究会 (12) (兵庫県), 2012. 9.
- 10) 中村慶春¹⁾ (1) 日本医科大学 消化器外科): 腹腔鏡下膵体尾部切除術の手術手技のポイント. 日本消化器外科学会総会 (67) (富山県), 2012. 7.
- 11) 中村慶春¹⁾ (1) 日本医科大学 消化器外科): 腹腔鏡下膵切除術の現状と今後の展望. 埼玉県外科医会学術講演 (埼玉県), 2013. 3.
- 12) 中村慶春, 松本智司, 田尻 孝, 内田英二⁽¹⁾ 日本医科大学 消化器外科学): 腹腔鏡下膵切除術 標準化を目指した腹腔鏡下膵切除術の手術手技. 日本臨床外科学会総会 (第 74 回) (東京都), 2012. 11.
- 13) 柳 健, 簡野晃次, 石丸さやか, 高尾嘉宗, 吉田 寛, 内田英二, 岡田昌義⁽¹⁾ 東京血管外科クリニック): 日帰り手術とその問題点 日帰り下肢静脈瘤手術の安全性と患者からみた利点・問題点. 日本臨床外科学会総会 (第 74 回) (東京都), 2012. 11.
- 14) 坂田義則, 吉田 寛, 牧野浩司, 横山 正, 丸山 弘, 平方敦史, 寺西宣央, 菅野仁士, 高尾嘉宗, 堀田正啓, 関 奈紀, 宮下哲平, 内田英二⁽¹⁾ 日本医科大学多摩永山病院 外科): 長期成績からみた胆管結石の治療 高齢者における総胆管結石の治療 総胆管十二指腸 側側吻合. 日本臨床外科学会総会 (第 74 回) (東京都), 2012. 11.
- 15) 山下浩二, 五十嵐健人, 岡村律子, 竹間由佳, 岩本美樹, 栗田智子, 柳原恵子, 飯田信也, 清水一雄, 芳賀駿介⁽¹⁾ 日本医科大学 大学院外科乳腺外科): 整容性を高める乳房手術とその長期成績 低侵襲と整容性を追求した腋窩単孔式乳腺内視鏡手術の工夫. 日本臨床外科学会総会 (第 74 回) (東京都), 2012. 11.

- 16) 内田英二⁽¹⁾ 日本医科大学 消化器外科)：膵癌の診断・治療の進歩. がん治療懇話会 (第19回) (福島県), 2012. 5.
 - 17) 内田英二⁽¹⁾ 日本医科大学 消化器外科)：膵癌研究と診察の歩み. 宮崎胆膵疾患研究会 (第14回) (宮崎県), 2012. 7.
 - 18) 清水哲也⁽¹⁾ 日本医科大学 消化器外科)：胆道癌の早期診断と治療について. がん診療連携拠点病院研修会 (第10回) (東京都), 2012. 10.
 - 19) 松下 晃⁽¹⁾ 日本医科大学 消化器外科)：膵癌の早期診断と治療について. がん診療連携拠点病院研修会 (第10回) (東京都), 2012. 10.
 - 20) 菅 隼人⁽¹⁾ 日本医科大学 消化器外科)：大腸がんと地域連携と当院における症例. 足立区大腸がん連携フォーラム (東京都), 2012. 7.
- (2) 招待講演：
- 1) 中村慶春¹⁾ (1) 日本医科大学 消化器外科)：わたしはこのやり方を推奨する. 肝胆膵内視鏡下手術勉強会 (7) (静岡県), 2013. 2.
 - 2) 青木悠人¹⁾, 山田岳史¹⁾, 菅 隼人¹⁾, 松本智司¹⁾, 小泉岐博¹⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学外科・消化器外科)：消化器外科医による標準的緩和医療と栄養指導としての大腰筋最大面積比の有用性. 日本消化器外科学会総会 (67) (富山市), 2012. 7.
- (3) 教育講演：
- 1) 谷合信彦⁽¹⁾ 日本医科大学 消化器外科)：よりよい論文作成を目指して；論文の投稿から査読そして掲載まで実例をあげて. 日本手術医学会総会 (第34回) (東京), 2012. 10.
- (4) シンポジウム：
- 1) 中村慶春, 松下 晃, 吉岡正人, 清水哲也, 山初和也, 相本隆幸, 田尻 孝, 内田英二⁽¹⁾ 日本医科大学 外科)：腹腔鏡下膵手術の現況 当科における腹腔鏡下膵切除術の現況. 日本膵臓学会大会 (第43回) (山形), 2012. 6.
 - 2) 山田岳史, 菅 隼人, 松本智司, 小泉岐博, 進士誠一, 横井公良, 内田英二⁽¹⁾ 日本医科大学 外科)：外科医療の問題点 急性期病院における外科系病棟運営のコツ. 日本外科系連合学会学術集会 (第37回) (福岡), 2012. 6.
 - 3) 小泉岐博, 内田英二, 菅 隼人, 山田岳史, 進士誠一, 山岸杏彌, 原 敬介, 松本智司⁽¹⁾ 日本医科大学 消化器外科)：鏡視下手術における工夫 リンパ節郭清 腹腔鏡下右側結腸癌手術におけるリンパ節郭清の工夫. 日本外科系連合学会学術集会 (第37回) (福岡), 2012. 6.
 - 4) 木山輝郎, 藤田逸郎, 小野寺浩之, 櫻澤信行, 白川 毅, 加藤俊二, 内田英二⁽¹⁾ 日本医科大学 医学部外科)：鏡視下手術における工夫 吻合法 腹腔鏡下胃切除後の overlap 法による再建の導入. 日本外科系連合学会学術集会 (第37回) (福岡), 2012. 6.
 - 5) 中村慶春, 松本智司, 相本隆幸, 吉岡正人, 松下 晃, 清水哲也, 山初和也, 田尻 孝, 内田英二⁽¹⁾ 日本医科大学 臓器病態制御外科)：膵の縮小手術 その適応と問題点 腹腔鏡下膵切除術の手術手技と中長期手術成績の検討. 日本外科学会 (第112回) (千葉), 2012. 4.
 - 6) 川野陽一, 谷合信彦, 真々田裕宏, 吉岡正人, 松下 晃, 水口義昭, 清水哲也, 上田純志, 吉田 寛, 内田英二⁽¹⁾ 日本医科大学附属病院 外科)：当科における大量肝切除に対する術前門脈塞栓術の適応と限界. 日本肝胆膵外科学会学術集会 (第24回) (大阪府), 2012. 5.
 - 7) 谷合信彦, 吉田 寛, 吉岡正人, 川野陽一, 清水哲也, 上田純志, 内田英二⁽¹⁾ 日本医科大学 外科)：肝切除術中のIVC損傷による想定外大量出血に対するタココンプの有用性. 日本肝胆膵外科学会学術集会 (第24回) (大阪府), 2012. 5.
 - 8) 谷合信彦, 内田英二⁽¹⁾ 日本医科大学 消化器外科)：外科医の立場からの手術室におけるチーム医療. 日本手

術医学会総会（第 34 回）（東京），2012. 10.

- 9) 中村慶春, 松本智司, 松下 晃, 吉岡正人, 川野陽一, 清水哲也, 住吉宏樹, 谷合信彦, 田尻 孝, 内田英二
(¹ 日本医科大学 消化器外科)：腹腔鏡下臍体尾部切除術 (Lap-DP). 先進医療フォーラム (第 4 回) (東京都), 2013. 1.
- 10) 丸山 弘¹, 吉田 弘¹, 牧野浩司¹, 横山 正¹, 平方敦史¹, 堀田正啓¹, 寺西宜央¹, 菅野仁士¹, 内田英二²
(¹ 日本医科大学多摩永山病院 外科, ² 日本医科大学付属病院 外科)：当院消化器外科領域における耐性菌対策. 日本外科感染症学会総会 (25 回) (千葉市), 2012. 11.
- 11) 川野陽一¹, 谷合信彦¹, 吉岡正人¹, 松下 晃¹, 水口義昭¹, 清水哲也¹, 上田純志¹, 高田英志¹, 真々田裕宏¹, 吉田 寛², 内田英二¹ (¹ 日本医科大学消化器外科, ² 日本医科大学多摩永山病院)：当科における開腹肝切除後創部合併症が医療費に及ぼす影響とその対策. 日本外科感染症学会総会 (25 回) (千葉市), 2012. 11.
- 12) 谷合信彦¹, 吉田 寛², 内田英二¹ (¹ 日本医科大学 消化器外科, ² 日本医科大学付属多摩永山病院 外科)：Child C 症例に対する部分脾動脈塞栓術 (PSE) の意義. 日本門脈圧亢進症学会総会 (第 19 回) (東京), 2012. 9.
- 13) 鈴木英之¹, 吉野雅則¹, 松信哲朗¹, 三浦克洋¹, 豊田哲鎬¹, 中田亮輔¹, 大山莉奈¹, 菅 隼人², 松本智司², 小泉岐博², 渡辺昌則¹, 内田英二² (¹ 日本医科大学武蔵小杉病院消化器病センター, ² 日本医科大学消化器外科)：コストとコンプライアンスからみた進行再発大腸癌化学療法の問題点. 日本大腸肛門病学会学術集会 (67 回) (福岡市), 2012. 11.
- 14) 千原直人¹, 鈴木英之¹, 渡辺昌則¹, 吉野雅則¹, 松信哲朗¹, 三浦克洋¹, 豊田哲鎬¹, 中田亮輔², 内田英二¹
(¹ 日本医科大学武蔵小杉病院消化器病センター, ² 日本医科大学外科)：当科における安全性を意識した大腸 ESD 導入の現状：直腸 ESD を中心に. 日本大腸肛門病学会学術集会 (67 回) (福岡市), 2012. 11.
- 15) 中村慶春¹, 松本智司¹, 相本隆幸¹, 吉岡正人¹, 松下 晃¹, 清水哲也¹, 山初和也¹, 田尻 孝¹, 内田英二¹
(¹ 日本医科大学臓器病態制御外科)：腹腔鏡下臍切除術の手術手技と中長期手術成績の検討. 日本外科学会定期学術集会 (112) (千葉県), 2012. 4.
- 16) 中村慶春¹, 松本智司¹, 内田英二¹ (¹ 日本医科大学 消化器外科)：腹腔鏡下臍切除術の標準化を目指した手術手技の工夫. 日本消化器外科学会大会 (10) (神戸市), 2012. 10.
- 17) Matsumoto S¹, Yokoi K¹, Kan H¹, Yamada T¹, Koizumi M¹, Matsuda A¹, Sasaki J¹, Tani A¹, Uchida E¹ (¹ Department of Surgery, Nippon Medical School)：The role of single-incision laparoscopic surgery for right colonic cancer. KOREA-JAPAN-CHINA (KJC) COLORECTAL CANCER (CRC) SYMPOSIUM (Seoul, Korea), 2012. 9.
- 18) 谷合信彦¹, 吉田 寛², 真々田裕宏¹, 吉岡正人¹, 川野陽一¹, 水口義昭¹, 清水哲也¹, 上田純志¹, 内田英二¹ (¹ 日本医科大学外科・消化器外科)：門脈圧亢進症, 臍機能亢進症における部分脾動脈塞栓術 (PSE) の意義 (PRE vs 脾摘). 日本消化器外科学会総会 (67) (富山市), 2012. 7.
- 19) 川野陽一¹, 谷合信彦¹, 真々田裕宏¹, 中村慶春¹, 吉岡正人¹, 松下 晃¹, 水口義昭¹, 清水哲也¹, 上田純志¹, 高田英志¹, 住吉宏樹¹, 吉田 寛¹, 内田英二¹ (¹ 日本医科大学 消化器外科)：安全な鏡視下肝切除を基本とした当科での工夫と経験. 東京肝臓内視鏡外科フォーラム (3) (東京都), 2013. 2.
- 20) 山下浩二¹ (¹ 日本医科大学 乳腺科)：乳腺内視鏡手術 Video-assisted breast surgery (VABS) と乳癌の標準治療. 日本内視鏡外科学会総会 (25) (横浜市), 2012. 12.
- 21) 牧野浩司¹, 丸山 弘¹, 吉田 寛¹, 横山 正¹, 平方敦史¹, 寺西宜央¹, 菅野仁士¹, 高尾嘉宗¹, 坂田義則¹, 堀田正啓¹, 関 奈紀¹, 宮下哲平², 野村 務², 松谷 毅², 萩原信敏², その他 1 名 (¹ 日本医科大学多摩永山病院 外科, ² 日本医科大学 消化器外科)：腹臥位での stripping 後の簡単な左側上縦隔展開, 安全に周囲リンパ節廓清を行う食道切除, 内翻胃管作成の工夫. 日本内視鏡外科学会総会 (25) (横浜市), 2012. 12.

(5) パネルディスカッション：

- 1) 松谷 毅, 松田明久, 野村 務, 藤田逸郎, 金沢義一, 萩原信敏, 丸山 弘, 牧野浩司, 加藤俊二, 宮下正夫, 内田英二⁽¹⁾ 日本医科大学 外科)：侵襲に対する生体反応とその制御 消化器癌手術侵襲における内臓脂肪細胞機能と術前 PPAR- γ リガンド投与による抗炎症作用. 日本外科学会 (第 112 回) (千葉), 2012. 4.
- 2) 山田岳史, 菅 隼人, 松本智司, 小泉岐博, 進士誠一, 佐々木順平, 内田英二⁽¹⁾ 日本医科大学 外科)：大腸癌治療の最前線と患者ケア 消化管機械的前処置は術後小腸運動麻痺を遷延させる. 日本外科系連合学会学術集会 (第 37 回) (福岡), 2012. 6.
- 3) 山初和也, 松田陽子, 石渡俊行, 山本哲志, 萩尾真人, 相本隆幸, 中村慶春, 松下 晃, 上田純志, 内田英二, 内藤善哉⁽¹⁾ 日本医科大学 臓器病態制御外科)：癌分子標的治療 up to date Nestin による膀胱腫瘍新生血管増殖制御と新たな分子標的治療の可能性. 日本外科学会 (第 112 回) (千葉), 2012. 4.
- 4) 中村慶春, 松本智司, 松下 晃, 吉岡正人, 清水哲也, 山初和也, 田尻 孝, 内田英二⁽¹⁾ 日本医科大学 外科)：この症例をどうするか「内視鏡外科」巨大膀胱粘液性嚢胞性腫瘍に対する腹腔鏡下膀胱尾部切除術. 日本肝臓外科学会学術集会 (第 24 回) (大阪府), 2012. 5.
- 5) Nakamura Y⁽¹⁾ Department of Surgery, Nippon Medical School)：Laparoscopic pancreatic resections with lymph node dissection. Pancreas Cancer 2012 (京都), 2012. 10.
- 6) 野村 務, 松谷 毅, 萩原信敏, 牧野浩司, 丸山 弘, 藤田逸郎, 岩切勝彦, 川見典之, 宮下正夫, 内田英二⁽¹⁾ 日本医科大学 消化器外科)：食道運動機能障害の現状と今後の展開 食道運動機能障害に対する当施設での治療の現状と今後の方向性 外科の立場から. 日本食道学会学術集会 (第 66 回) (長野県), 2012. 6.
- 7) 川見典之, 岩切勝彦, 佐野弘仁, 田中由理子, 河越哲朗, 野村 務, 萩原信敏, 松谷 毅, 宮下正夫, 坂本長逸⁽¹⁾ 日本医科大学 消化器内科)：High resolution manometry によるアカラシア新分類からみたバルーン拡張術の成績. 日本食道学会学術集会 (第 66 回) (長野県), 2012. 6.
- 8) 水口義昭, 有馬保生, 内田英二⁽¹⁾ 日本医科大学 外科)：75 歳以上の後期高齢者に対する胆石症の治療戦略 後期高齢者に対する積極的腹腔鏡下胆嚢摘出術 (LAP-C), 特に早期・緊急 LAP-C の安全性に関する検討. 日本消化器病学会 (第 54 回) (兵庫県), 2012. 10.
- 9) 岩切勝彦¹⁾, 川見典之²⁾, 野村 務³⁾ (1) 日本医科大学千葉北総病院消化器内科, 2) 日本医科大学消化器内科学, 3) 日本医科大学消化器外科学)：PPI 抵抗性 NERD 患者の病態に基づく治療戦略. 日本消化器病学会総会 (第 99 回) (鹿児島市), 2013. 3.
- 10) 野村 務¹⁾, 松谷 毅¹⁾, 萩原信敏¹⁾, 山初和也¹⁾, 佐々木順平²⁾, 上田純志¹⁾, 山岸杏彌¹⁾, 松野邦彦¹⁾, 古川清憲¹⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学 消化器外科, 2) 日本医科大学付属千葉北総病院 外科)：当院における鼠径部ヘルニア手術教育の現状. 日本ヘルニア学会学術集会 (第 10 回) (名古屋市), 2012. 4.
- 11) 千原直人¹⁾, 鈴木英之¹⁾, 渡辺昌則¹⁾, 星野有哉¹⁾, 小峯 修¹⁾, 吉野雅則¹⁾, 水谷 聡¹⁾, 三浦克洋¹⁾, 村木 輝¹⁾, 中田亮輔¹⁾, 内田英二²⁾ (1) 日本医科大学武蔵小杉病院 消化器病センター, 2) 日本医科大学 外科)：完全単孔式 TAPP から細径鉗子を用いた単孔式 TAPP (plus one puncture) へ. 日本ヘルニア学会学術集会 (第 10 回) (名古屋市), 2012. 4.
- 12) 山初和也¹⁾, 松田陽子²⁾, 石渡俊行²⁾, 山本哲志²⁾, 萩尾真人²⁾, 相本隆幸¹⁾, 中村慶春¹⁾, 松下 晃¹⁾, 上田純志¹⁾, 内田英二¹⁾, 内藤善哉²⁾ (1) 日本医科大学臓器病態制御外科, 2) 日本医科大学第二病理)：Nestin による膀胱腫瘍新生血管増殖制御と新たな分子標的治療の可能性. 日本外科学会定期学術集会 (112) (千葉県), 2012. 4.
- 13) 松谷 毅¹⁾, 松田明久¹⁾, 野村 務¹⁾, 藤田逸郎¹⁾, 金沢義一¹⁾, 萩原信敏¹⁾, 丸山 弘²⁾, 牧野浩司²⁾, 加藤俊二¹⁾, 宮下雅彦¹⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学外科, 2) 日本医科大学多摩永山病院外科)：消化器癌手術侵襲における内臓脂肪細胞機能と術前 PPAR- γ リガンド投与による抗炎症作用. 日本外科学会定期学術集会 (112) (千葉県), 2012. 4.

- 14) 谷合信彦¹⁾, 吉田 寛²⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学 消化器外科, 2) 日本医科大学多摩永山病院 外科): 門脈圧亢進症治療における部分脾動脈塞栓症 (PSE) の意義. 日本肝臓学会大会 (16) (神戸市), 2012. 10.
- 15) 水口義昭¹⁾, 有馬保生¹⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学 消化器外科): 後期高齢者に対する積極的腹腔鏡下胆嚢摘出術 (LAP-C), 特に早期・緊急 LAP-C の安全性に関する検討. 日本消化器関連学会週間 (20) (神戸市), 2012. 10.
- 16) 金沢義一¹⁾, 藤田逸郎¹⁾, 小野寺浩之¹⁾, 櫻澤信行²⁾, 横井公良²⁾, 加藤俊二¹⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学 消化器外科, 2) 日本医科大学千葉北総病院 外科): 高齢者 (80 歳以上) 胃癌手術症例の検討. 日本胃癌学会総会 (85) (大阪市), 2013. 2.
- (6) ポスターセッション:
- 1) 萩原信敏, 宮下正夫, 野村 務, 牧野浩司, 松谷 毅, 山下直行, 赤城一郎, 加藤俊二, 藤田逸郎, 金沢義一, 桜澤信行, 小野寺浩之, 篠塚恵里子, 内田英二 (1) 日本医科大学 外科): 食道癌における腫瘍マーカーの有用性の検討. 日本外科学会 (第 112 回) (千葉), 2012. 4.
 - 2) 篠塚恵理子, 宮下正夫, 水口義昭, 赤城一郎, 菊池邦生, 萩原信敏, 松谷 毅, 牧野浩司, 野村 務, 瀧澤俊広, 内田英二 (1) 日本医科大学 外科): 食道扁平上皮癌における miRNA 発現と臨床病理学的意義の検討. 日本外科学会 (第 112 回) (千葉), 2012. 4.
 - 3) 鈴木英之, 黒川 顕, 渡辺昌則, 坊 英樹, 吉野雅則, 水谷 聡, 小峯 修, 松信哲朗, 内田英二 (1) 日本医科大学武蔵小杉病院消化器病センター): 癌治療におけるカンサーボードの役割と問題点. 日本外科学会 (第 112 回) (千葉), 2012. 4.
 - 4) 横山 正, 吉田 寛, 牧野浩司, 丸山 弘, 松下 晃, 平方敦史, 高尾嘉宗, 馬越通信, 堀田正啓, 早川朋宏, 内田英二 (1) 日本医科大学多摩永山病院 外科): 肺癌集学的治療としての術前・術後補助化学療法への積極的取り組み. 日本外科学会 (第 112 回) (千葉), 2012. 4.
 - 5) 相本隆幸, 内田英二, 中村慶春, 松下 晃, 勝野 暁, 張 一光, 川本聖郎, 山初和也 (1) 日本医科大学 外科): 膣頭十二指腸切除術に対する行程別教育プログラムの実績と成果. 日本外科学会 (第 112 回) (千葉), 2012. 4.
 - 6) 上田純志, 谷合信彦, 吉田 寛, 真々田裕宏, 吉岡正人, 川野陽一, 清水哲也, 内田英二 (1) 日本医科大学 外科): 肝細胞癌に対する術前, 術中ソナゾイド造影超音波検査の有用性の検討. 日本外科学会 (第 112 回) (千葉), 2012. 4.
 - 7) 松下 晃, 吉田 寛, 横山 正, 牧野浩司, 丸山 弘, 松谷 毅, 平方敦史, 山初和也, 川本聖郎, 中村慶春, 相本隆幸, 内田英二 (1) 日本医科大学多摩永山病院 外科): Neuropilin-1 を標的とした新たな膀胱癌治療. 日本外科学会 (千葉), 2012. 4.
 - 8) 坊 英樹, 渡辺昌則, 尾形昌男, 鈴木英之, 徳永 昭, 内田英二 (1) 日本医科大学武蔵小杉病院 消化器病センター): 消化器癌手術における手術部位感染防止に対する真皮縫合. 日本外科学会 (千葉), 2012. 4.
 - 9) 星野有哉, 鈴木英之, 中村慶春, 水谷 聡, 五十嵐健人, 南 史朗, 清水一雄, 内田英二 (1) 日本医科大学武蔵小杉病院 消化器病センター): 医療用スポンジスペイサーを使用した腹腔鏡下副腎摘除術. 日本外科学会 (千葉), 2012. 4.
 - 10) 谷合信彦, 吉岡正人, 川野陽一, 清水哲也, 上田純志, 吉田 寛, 内田英二 (1) 日本医科大学 外科): 肝細胞癌に対する肝切除周術期管理における血液製剤の意義. 日本外科学会 (千葉), 2012. 4.
 - 11) 菅 隼人, 内田英二, 松本智司, 山田岳史, 小泉岐博, 進士誠一, 佐々木順平, 谷 杏彌, 原 敬介, 古川清憲 (1) 日本医科大学 外科): S 状結腸癌術後症例における X 線不透過マーカーを用いた腸管運動の評価 大建中湯の効果の検討を中心に. 日本外科学会 (千葉), 2012. 4.
 - 12) 菅野仁士, 山下直行, 岩井拓磨, 湖山信篤, 小野寺浩之, 櫻澤信行, 金沢義一, 藤田逸郎, 木山輝郎, 加藤俊二, 萩原信敏, 野村 務, 宮下正夫, 内田英二 (1) 坪井病院 外科): 迷走神経温存幽門側胃切除術後における残

- 胃環境 内視鏡および栄養学的評価. 日本外科学会 (千葉), 2012. 4.
- 13) 櫻澤信行, 加藤俊二, 藤田逸郎, 金沢義一, 小野寺浩之, 野村 務, 牧野浩司, 松谷 毅, 萩原信敏, 内田英二 (1) 日本医科大学 消化器外科): 胃癌取扱い新規約14版と新ガイドラインにおける術前診断と病理結果からみた当科における手術治療の妥当性の検討. 日本外科学会 (千葉), 2012. 4.
 - 14) 川野陽一, 谷合信彦, 吉岡正人, 清水哲也, 上田純志, 水口義昭, 真々田裕宏, 吉田 寛, 村田 智, 汲田伸一郎, 内田英二 (1) 日本医科大学 外科): 大量肝切除を要する肝細胞癌, 胆道癌症例での術前門脈塞栓術の効果と問題点の相違点. 日本外科学会 (千葉), 2012. 4.
 - 15) 松本智司, 菅 隼人, 中村慶春, 山田岳史, 小泉岐博, 佐々木順平, 内田英二 (1) 日本医科大学 外科): 教育機関における鏡視下虫垂切除術の位置づけと術式の工夫. 日本外科学会 (千葉), 2012. 4.
 - 16) 藤田逸郎, 木山輝郎, 菅野仁士, 小野寺浩之, 櫻澤信行, 金沢義一, 萩原信敏, 松谷 毅, 牧野浩司, 野村 務, 加藤俊二, 内田英二 (1) 日本医科大学 外科): 腹腔鏡下幽門側胃切除 (LADG) における D2 郭清. 日本外科学会 (千葉), 2012. 4.
 - 17) 前島顕太郎, 坊 英樹, 鈴木英之, 渡辺昌則, 尾形昌男, 吉野雅則, 小峯 修, 水谷 聡, 千原直人, 松信哲朗, 内田英二 (1) 日本医科大学武蔵小杉病院 消化器病センター): 腹腔鏡補助下幽門側胃切除術における肥満が及ぼす術中・術後の合併症. 日本外科学会 (千葉), 2012. 4.
 - 18) 堀場光二, 横井公良, 田中宣威, 横室茂樹, 瀬谷知子, 勝田美和子, 白川 毅, 牧野浩司, 野村 務, 宮下正夫, 内田英二 (1) 日本医科大学千葉北総病院 外科): 食道扁平上皮癌における EMMPRIN/CD147, MCT-1 の共存発現. 日本外科学会 (千葉), 2012. 4.
 - 19) Uchida E, Matsushita A, Nakamura Y, Sumiyoshi H, Aimoto T, Naito Z (1) Department of Surgery; Department of Pathology, Nippon Medical School): Experimental Pancreatic Cancer Model for Research on Tumor Development and its Therapeutic Application. American Pancreatic Association International Association of Pancreatology 2012 Joint Meeting (Miami), 2012. 11.
 - 20) 上田純志, 吉田 寛, 真々田裕宏, 谷合信彦, 吉岡正人, 川野陽一, 水口義昭, 清水哲也, 高田英志, 内田英二 (1) 日本医科大学 大学院・臓器病態制御外科学): 肝細胞癌におけるソナゾイド造影超音波検査所見と血管マーカーの検討. 日本消化器病学会 (第54回) (兵庫県), 2012. 10.
 - 21) 山下直行, 湖山信篤, 菅野仁士, 岩井拓磨, 萩原信敏, 藤田逸郎, 金沢義一, 小野寺浩之, 加藤俊二, 宮下正夫, 内田英二 (1) 坪井病院 外科): 長期予後を見据えた上部限局胃癌に対する迷走神経温存胃漿膜筋層縦切開噴門形成術 (NP-EGP). 日本消化器病学会大会 (第54回) (兵庫県), 2012. 10.
 - 22) 永嶋裕司¹⁾, 安田正俊¹⁾, 三浦富宏¹⁾, 岩崎 将¹⁾, 佐藤 康¹⁾, 川村 徹¹⁾, 中嶋 昭¹⁾, 三浦妙太¹⁾, 吉田 寛²⁾, 内田英二³⁾ (1) 玉川病院 消化器内科, 2) 日本医科大学多摩永山病院 外科, 3) 日本医科大学大学院・臓器病態制御外科学): 当院で経験した腸管気腫症の検討. 日本消化器病学会大会 (54回) (兵庫県), 2012. 10.
 - 23) 松谷 毅, 松田明久, 野村 務, 藤田逸郎, 金沢義一, 萩原信敏, 小野寺浩之, 丸山 弘, 牧野浩司, 宮下正夫, 内田英二 (1) 日本医科大学 外科): 消化器癌手術による生体反応と性差 脂肪細胞機能としてのアディポサイトカインを中心に. 日本消化器病学会 (第54回) (兵庫県), 2012. 10.
 - 24) Matsushita A, Sumiyoshi H, Kaawano Y, Mizuguchi Y, Yoshioka M, Hagiwara N, Matsutani T, Nakamura Y, Matsumoto S, Aimoto T, Ishiwata T, Naito Z, Uchida E (1) Department of Surgery and Department of Pathology, Nippon Medical School): Signal Transducer and Activator of Transcription 5 (STAT5) Expression and Activation in Pancreatic Cancer.. American Pancreatic Association (2012) (USA), 2012. 11.
 - 25) 宮元亮子, 金子恵子, 久保田芳明, 清水秀治, 川本智章, 水野杏一, 中澤 賢, 安井大祐, 秋葉絢子, 村田 智, 清水哲也, 川野陽一, 谷合信彦, 真々田裕宏 (1) 日本医科大学付属病院 肝臓内科): 一時的に自然退縮を来した胃癌合併肝細胞癌の1例. 日本肝癌研究会 (第48回) (石川県), 2012. 7.

- 26) 横山 正, 吉田 寛, 平方敦史, 内田英二⁽¹⁾ 日本医科大学 多摩永山病院 外科): 我々の膵頭十二指腸切除術後のドレーン管理と工夫. 日本膵切研究会 (第 39 回) (東京都), 2012. 8.
- (7) ランチョンセミナー:
- 1) 中村慶春⁽¹⁾ 日本医科大学付属病院 消化器外科): 膵臓領域における腹腔鏡下手術の可能性; 腹腔鏡下膵体尾部切除術の保険収載を受けて. 日本膵臓学会大会 (第 43 回) (山形), 2012. 6.
 - 2) 中村慶春⁽¹⁾ 日本医科大学 消化器外科): 安全で確実な腹腔鏡下膵切除の手術手技. 日本肝胆膵外科学会学術集会 (第 24 回) (大阪府), 2012. 5.
 - 3) 中村慶春⁽¹⁾ 日本医科大学 外科・消化器外科): 腹腔鏡下膵切除術の標準化について. 九州内視鏡下外科手術研究会 (第 22 回) (長崎), 2012. 9.
- (8) ワークショップ:
- 1) 内田英二⁽¹⁾ 日本医科大学 外科): 十二指腸乳頭部癌および中下部胆管癌の治療戦略における pitfall 十二指腸乳頭部癌および中下部胆管癌の治療戦略. 日本外科学会 (第 112 回) (千葉), 2012. 4.
 - 2) 吉岡正人, 中村慶春, 松本智司, 田尻 孝, 内田英二⁽¹⁾ 日本医科大学付属病院 外科): 腹腔鏡下膵尾側切除術の手術手技について. 日本肝胆膵外科学会学術集会 (第 24 回) (大阪府), 2012. 5.
 - 3) 横山 正, 吉田 寛, 平方敦史, 松下 晃, 内田英二⁽¹⁾ 日本医科大学多摩永山病院 外科): 当科の膵頭十二指腸切除術における膵空腸吻合の工夫とその成績. 日本肝胆膵外科学会学術集会 (第 24 回) (大阪府), 2012. 5.
 - 4) 水口義昭, 有馬保生, 横室茂樹, 真々田裕宏, 谷合信彦, 中村慶春, 吉岡正人, 松下 晃, 川野陽一, 清水哲也, 吉田 寛, 内田英二⁽¹⁾ 日本医科大学 外科): Lap-c における術中胆道損傷 (術中の対処と術後の対処も含めて) 腹腔鏡下胆のう摘出術胆管損傷症例におけるピットフォールと対策 特に総胆管完全断裂例について. 日本肝胆膵外科学会学術集会 (第 24 回) (大阪府), 2012. 5.
 - 5) 中村慶春, 松本智司, 吉岡正人, 松下 晃, 清水哲也, 山初和也, 相本隆幸, 田尻 孝, 内田英二⁽¹⁾ 日本医科大学 外科): 膵尾側切除における膵切離法とその成績 腹腔鏡下尾側膵切除術における自動縫合器を用いた膵切離法. 日本肝胆膵外科学会学術集会 (第 24 回) (大阪府), 2012. 5.
 - 6) 谷合信彦, 吉田 寛, 吉岡正人, 川野陽一, 水口義昭, 清水哲也, 上田純志, 真々田裕宏, 内田英二⁽¹⁾ 日本医科大学 外科): 胆管細胞癌の現状と展開 肝内胆管癌に対する肝切除術とゲムシタピンの有効性. 日本肝臓学会総会 (第 48 回) (石川県), 2012. 6.
 - 7) 水口義昭, 真々田裕宏, 有馬保生, 清水哲也, 谷合信彦, 吉岡正人, 川野陽一, 吉田 寛, 瀧澤俊広, 内田英二⁽¹⁾ 日本医科大学/大学院医学研究科臓器病態制御外科): 胆管細胞癌 (Cooperation of p300 and PCAF in the control of microRNA 200c/141 transcription and epithelial characteristics). 日本肝臓学会総会 (第 48 回) (石川県), 2012. 6.
 - 8) 川野陽一, 谷合信彦, 真々田裕宏, 吉岡正人, 峯田 章, 松下 晃, 水口義昭, 清水哲也, 上田純志, 吉田 寛, 内田英二⁽¹⁾ 日本医科大学付属病院 外科): 門脈圧亢進症 当科における難治性胸/腹水に対する胸/腹腔静脈シャントの経験. 日本肝臓学会総会 (第 48 回) (石川県), 2012. 6.
 - 9) 岩切勝彦, 野村 務, 川見典之, 佐野弘仁, 田中由理子, 河越哲朗, 萩原信敏, 松谷 毅, 宮下正夫, 内田英二⁽¹⁾ 日本医科大学 消化器内科): PPI 抵抗性 NERD の治療戦略. 日本食道学会学術集会 (第 66 回) (長野県), 2012. 6.
 - 10) 柳 健¹⁾, 簡野晃次¹⁾, 石丸さやか¹⁾, 高尾嘉宗²⁾, 吉田 寛²⁾, 内田英二³⁾, 岡田昌義¹⁾ ⁽¹⁾ 東京血管外科クリニック, ⁽²⁾ 日本医科大学多摩永山病院 外科, ⁽³⁾ 日本医科大学付属病院 外科): 日帰り下肢静脈瘤手術の安全性と患者からみた利点・問題点. 日本臨床外科学会総会 (第 74 回) (東京), 2012. 11.
 - 11) 牧野浩司¹⁾, 吉田 寛¹⁾, 内田英二²⁾ ⁽¹⁾ 日本医科大学 多摩永山病院 外科, ⁽²⁾ 日本医科大学 外科): 経鼻内視鏡の診断能向上の工夫: 経鼻用オーバーチューブ利用による挿入時のスコープのレンズの汚れ曇り予防の工夫. 日本消化器内視鏡学会総会 (第 83 回) (東京), 2012. 5.

- 12) 松谷 毅¹⁾, 野村 務¹⁾, 萩原信敏¹⁾, 山初和也¹⁾, 上田純志¹⁾, 松下 晃¹⁾, 平方 敦²⁾, 高尾嘉宗²⁾, 内田英二¹⁾
(¹⁾ 日本医科大学 外科, ²⁾ 日本医科大学多摩永山病院 外科): 成人鼠径ヘルニアに対する前方到達法ー underlay patch 展開の工夫ー. 日本ヘルニア学会学術集会 (名古屋市), 2012. 4.
- 13) 渡辺昌則¹⁾, 野村 聡¹⁾, 前島頭太郎¹⁾, 千原直人¹⁾, 小峯 修¹⁾, 水谷 聡¹⁾, 吉野雅則¹⁾, 坊 英樹¹⁾, 鈴木英之¹⁾, 内田英二²⁾: 大腸緊急手術における切開部 SSI 対策. 日本外科感染症学会総会 (25 回) (千葉市), 2012. 11.
- 14) 川野陽一¹⁾, 谷合信彦¹⁾, 吉田 寛²⁾, 内田英二¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学 消化器外科, ²⁾ 日本医科大学付属多摩永山病院 外科): 門亢症に対する生体肝移植における部分的脾動脈塞栓術 (PSE) の意義. 日本門脈圧亢進症学会総会 (19 回) (東京), 2012. 9.
- 15) 内田英二¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学外科): 十二指腸乳頭部癌および中下部胆管癌の治療戦略. 日本外科学会定期学術集会 (112) (千葉県), 2012. 4.
- 16) 山田岳史¹⁾, 松本智司²⁾, 菅 隼人¹⁾, 小泉岐博¹⁾, 進士誠一¹⁾, 松田明久²⁾, 内田英二¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学 消化器外科, ²⁾ 日本医科大学 千葉北総病院 外科): 教育機関で行うハイブリット腹腔鏡補助下虫垂切除術: 双孔式から単孔式へ. 日本腹部救急医学会総会 (49) (福岡), 2013. 3.
- 17) 川野陽一¹⁾, 谷合信彦¹⁾, 相本隆幸¹⁾, 中村慶春¹⁾, 吉岡正人¹⁾, 松下 晃¹⁾, 水口義昭¹⁾, 清水哲也¹⁾, 上田純志¹⁾, 住吉弘樹¹⁾, 村田 智³⁾, 汲田伸一郎³⁾, 吉田 寛²⁾, 内田英二¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学消化器外科, ²⁾ 日本医科大学多摩永山病院 外科, ³⁾ 日本医科大学 放射線科): 当院における肝胆膵手術後出血に対する治療戦略. 日本腹部救急医学会総会 (49) (福岡), 2013. 3.
- 18) 清水哲也¹⁾, 吉岡正人¹⁾, 松下 晃¹⁾, 水口義昭¹⁾, 中村慶春¹⁾, 相本隆幸¹⁾, 内田英二¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学 外科): ERCP に起因した後腹膜穿孔の対応: 手術適応の判断. 日本腹部救急医学会総会 (49) (福岡), 2013. 3.
- 19) 谷合信彦¹⁾, 吉田 寛²⁾, 真々田裕宏¹⁾, 吉岡正人¹⁾, 川野陽一¹⁾, 水口義昭¹⁾, 清水哲也¹⁾, 上田純志¹⁾, 高田英志¹⁾, 内田英二¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学 消化器外科, ²⁾ 日本医科大学多摩永山病院 外科): 孤立性胃静脈瘤出血に対する PSE 併用 B-RTO の有効性. 日本腹部救急医学会総会 (49) (福岡市), 2013. 3.
- 20) 菅 隼人¹⁾, 内田英二¹⁾, 松本智司¹⁾, 山田岳史¹⁾, 小泉岐博¹⁾, 進士誠一¹⁾, 佐々木順平¹⁾, 谷 杏彌¹⁾, 原 敬介¹⁾, 古川清憲¹⁾: 腹腔鏡下結腸癌術後症例における大建中湯の影響: X 線不透過マーカーを用いた腸管運動の評価を中心に. 日本消化器外科学会総会 (67) (富山市), 2012. 7.
- 21) 中村慶春¹⁾, 松本智司¹⁾, 吉岡正人¹⁾, 松下 晃¹⁾, 清水哲哉¹⁾, 山初和也¹⁾, 谷合信彦¹⁾, 相本隆幸¹⁾, 内田英二¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学外科・消化器外科): 腹腔鏡下膵切除術の手術手技と中長期手術成績から見た術式の展望について. 日本消化器外科学会総会 (67) (富山市), 2012. 7.
- 22) 水口義昭¹⁾, 中村慶春¹⁾, 松本智司¹⁾, 吉岡正人¹⁾, 清水哲也¹⁾, 内田英二¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学 消化器外科): 当科における先天性胆道拡張症に対する内視鏡下手術, 整容面も含めた術式の変遷. 日本内視鏡外科学会総会 (25) (横浜市), 2012. 12.
- (9) ポスター:
- 1) 加藤俊二, 安東克征, 小野寺浩之, 櫻澤信行, 萩原信敏, 金沢義一, 山下直行, 野村 務, 藤田逸郎, 内田英二 (¹⁾ 日本医科大学附属病院 消化器外科): 栄養経路, 減圧目的の消化管瘻作成と連携による外科医の負担軽減の試み. 日本外科系連合学会学術集会 (第 37 回) (福岡), 2012. 6.
- 2) 清水哲也, 中村慶春, 内田英二, 松本智司, 吉岡正人, 松下 晃, 水口義昭, 山初和也, 田尻 孝 (¹⁾ 日本医科大学 外科): 当科における先天性胆道拡張症の腹腔鏡下手術. 日本肝胆膵外科学会学術集会 (第 24 回) (大阪府), 2012. 5.
- 3) 高 和英, 中村慶春, 山初和也, 松本智司, 吉岡正人, 松下 晃, 清水哲也, 内田英二 (¹⁾ 日本医科大学 外科): 若年女性に発生した膵管内乳頭粘液性腫瘍に対して腹腔鏡下膵中央切除術 (Lap-CP) を施行した 1 例. 日本肝胆膵外科学会学術集会 (第 24 回) (大阪府), 2012. 5.

- 4) 山初和也, 中村慶春, 松本智司, 田尻 孝, 内田英二⁽¹⁾ 日本医科大学 外科): 腹腔鏡下臍中央切除術 (Lap-CP) の手術手技について. 日本肝胆膵外科学会学術集会 (第 24 回) (大阪府), 2012. 5.
- 5) 清水哲也, 吉田 寛, 真々田裕宏, 谷合信彦, 吉岡正人, 川野陽一, 水口義昭, 上田純志, 中村慶春, 相本隆幸, 有馬保生, 内田英二⁽¹⁾ 日本医科大学 消化器外科): 肝切除後の難治性胆汁漏れに対しエタノールによる biliary ablation が有効であった 1 例. 日本肝胆膵外科学会学術集会 (第 24 回) (大阪府), 2012. 5.
- 6) 水谷 聡, 鈴木英之, 星野有哉, 黒田誠司, 村木 輝, 前島顕太郎, 吉野雅則, 小峯 修, 渡辺昌則, 内田英二⁽¹⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院 消化器病センター): 術前診断に難渋した IgG4 関連硬化性胆管炎の 1 例. 日本肝胆膵外科学会学術集会 (第 24 回) (大阪府), 2012. 5.
- 7) 平方敦史, 吉田 寛, 横山 正, 牧野浩司, 丸山 弘, 松下 晃, 高尾嘉宗, 住吉宏樹, 馬越通信, 堀田正啓, 関 奈紀, 早川朋宏, 内田英二⁽¹⁾ 日本医科大学多摩永山病院 外科): 巨大肝血管腫に対する肝切除. 日本肝胆膵外科学会学術集会 (第 24 回) (大阪府), 2012. 5.
- 8) 上田純志, 吉田 寛, 真々田裕宏, 谷合信彦, 吉岡正人, 平方敦史, 川野陽一, 水口義昭, 清水哲也, 内田英二⁽¹⁾ 日本医科大学 消化器外科): 自己免疫性肝炎を合併した肝細胞癌切除後 8 年目に再発し急速な増大を示した 1 例. 日本肝胆膵外科学会学術集会 (第 24 回) (大阪府), 2012. 5.
- 9) 清水哲也, 中村慶春, 松本智司, 吉岡正人, 松下 晃, 山初和也, 田尻 孝, 内田英二⁽¹⁾ 日本医科大学 外科): 安全な腹腔鏡下臍頭十二指腸切除術を行うための臍切離と再建術の工夫. 日本肝胆膵外科学会学術集会 (第 24 回) (大阪府), 2012. 5.
- 10) 星野有哉, 鈴木英之, 中村慶春, 水谷 聡, 村木 輝, 内田英二⁽¹⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院 消化器病センター): 腹腔鏡下臍切除術の検討 (会議録). 日本肝胆膵外科学会学術集会 (第 24 回) (大阪府), 2012. 5.
- 11) 村木 輝, 鈴木英之, 水谷 聡, 星野有哉, 渡辺昌則, 内田英二⁽¹⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院 消化器病センター): 胆嚢総肝管瘻, 胆嚢十二指腸瘻を同時に伴う Mirizzi 症候群の 1 例. 日本肝胆膵外科学会学術集会 (第 24 回) (大阪府), 2012. 5.
- 12) 松下 晃, 山初和也, 川本聖郎, 清水哲也, 川野陽一, 吉岡正人, 中村慶春, 相本隆幸, 平方敦史, 横山 正, 吉田 寛, 内田英二⁽¹⁾ 日本医科大学 外科): ヒト膵癌における STAT5 の発現, 活性化の意義. 日本肝胆膵外科学会学術集会 (第 24 回) (大阪府), 2012. 5.
- 13) 保田智彦, 川野陽一, 上田純志, 山初和也, 清水哲也, 水口義昭, 吉岡正人, 松下 晃, 中村慶春, 谷合信彦, 相本隆幸, 真々田裕宏, 内田英二⁽¹⁾ 日本医科大学 外科): 術前診断に苦慮した肝エキノコックス症の 1 例. 日本肝胆膵外科学会学術集会 (第 24 回) (大阪府), 2012. 5.
- 14) 川野陽一, 谷合信彦, 吉岡正人, 中村慶春, 松本智司, 松下 晃, 水口義昭, 清水哲也, 上田純志, 真々田裕宏, 吉田 寛, 内田英二⁽¹⁾ 日本医科大学 外科): 当科における鏡視下肝切除術での様々な工夫. 日本肝胆膵外科学会学術集会 (第 24 回) (大阪府), 2012. 5.
- 15) 谷合信彦, 吉田 寛, 川野陽一, 水口義昭, 吉岡正人, 清水哲也, 上田純志, 真々田裕宏, 内田英二⁽¹⁾ 日本医科大学 外科): 肝内胆管癌に対する肝切除術とゲムシタピンによる抗がん剤治療の成績. 日本肝胆膵外科学会学術集会 (第 24 回) (大阪府), 2012. 5.
- 16) 松下 晃, 山初和也, 清水哲也, 川野陽一, 吉岡正人, 中村慶春, 相本隆幸, 平方敦史, 横山 正, 吉田 寛, 内田英二⁽¹⁾ 日本医科大学 外科): GS 療法による術前化学療法施行後, R0 手術を施行した borderline resectable 膵頭部癌の 1 例. 日本肝胆膵外科学会学術集会 (第 24 回) (大阪府), 2012. 5.
- 17) 相本隆幸, 内田英二, 中村慶春, 松下 晃, 勝野 暁, 張 一光, 川本聖郎, 山初和也, 小林 匡⁽¹⁾ 日本医科大学 外科): 切除可能膵癌に対する術前化学療法の意義. 日本肝胆膵外科学会学術集会 (第 24 回) (大阪府), 2012. 5.
- 18) 野村 聡, 水谷 聡, 鈴木英之, 村木 輝, 豊田哲鎬, 前島顕太郎, 小峯 修, 吉野雅則, 渡辺昌則, 内田英二⁽¹⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院 消化器病センター): 閉塞性胆管炎を来した Choledocoele の 1 例. 日本肝胆

膵外科学会学術集会（第24回）（大阪府），2012. 5.

- 19) 安藤文彦, 吉田 寛, 横山 正, 平方敦史, 高尾嘉宗, 牧野浩司, 丸山 弘, 住吉宏樹, 馬越通信, 堀田正啓, 関 奈紀, 早川朋宏, 松下 晃, 内田英二⁽¹⁾ 日本医科大学多摩永山病院 外科)：膵頭部 IMPN 診断が契機となり R0 手術を成し得た進行胆嚢扁平上皮癌の1例. 日本肝胆膵外科学会学術集会（第24回）（大阪府），2012. 5.
 - 20) 谷合信彦, 吉田 寛, 吉岡正人, 川野陽一, 清水哲也, 上田純志, 水口義昭, 真々田裕宏, 内田英二⁽¹⁾ 日本医科大学 外科)：肝管空腸吻合を伴う肝切除後胆汁漏, 腹腔内膿瘍対策 デュープルドレイン vs.Blake ドレイン. 日本肝胆膵外科学会学術集会（第24回）（大阪府），2012. 5.
 - 21) 清水哲也, 吉岡正人, 松下 晃, 水口義昭, 中村慶春, 相本隆幸, 有馬保生, 内田英二⁽¹⁾ 日本医科大学 外科)：ERCP 関連後腹膜穿孔にて広範囲後腹膜気腫を呈し保存的に治療した1例. 日本胆道学会学術集会（第48回）（東京），2012. 9.
 - 22) 横山 正, 吉田 寛, 平方敦史, 内田英二⁽¹⁾ 日本医科大学多摩永山病院 外科)：Gemcitabine+cisplatin 併用療法（GP 療法）で長期 CR が得られている転移性胆道癌の1例. 日本胆道学会学術集会（第48回）（東京），2012. 9.
- (10) サージカルフォーラム：
- 1) 谷 杏彌, 内田英二, 松本智司, 菅 隼人, 山田岳史, 小泉岐博, 佐々木順平, 原 敬介, 島田 隆, 渡邊 淳⁽¹⁾ 日本医科大学 外科)：マイクロアレイを用いた大腸癌組織における経時的遺伝子発現変化の検討. 日本外科学会（第112回）（千葉），2012. 4.
 - 2) 野村 務, 宮下正夫, 松谷 毅, 萩原信敏, 牧野浩司, 丸山 弘, 加藤俊二, 藤田逸郎, 金沢義一, 櫻澤信行, 小野寺浩之, 内田英二⁽¹⁾ 日本医科大学 消化器外科)：食道癌術後胃管再建症例の逆流性食道炎および残食道円柱上皮化生に関する検討. 日本外科学会（第112回）（千葉），2012. 4.
 - 3) 渡辺昌則, 小峯 修, 前島顕太郎, 千原直人, 水谷 聡, 吉野雅則, 坊 英樹, 尾形昌男, 鈴木英之, 内田英二⁽¹⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院 消化器病センター)：大腸手術の表層 SSI 対策. 日本外科学会（第112回）（千葉），2012. 4.
 - 4) 水口義昭, 有馬保生, 真々田裕宏, 谷合信彦, 相本隆幸, 中村慶春, 吉岡正人, 川野陽一, 清水哲也, 上田純志, 瀧澤俊広, 内田英二⁽¹⁾ 日本医科大学 外科)：P300 と PCAF による microRNA200c/141 の転写制御は胆管癌の上皮間葉移行を調節する. 日本外科学会（第112回）（千葉），2012. 4.
 - 5) 古川清憲, 内田英二⁽¹⁾ 日本医科大学附属病院 外科)：外科患者の有害事象の実態 簡便な GTT を用いたカルテレビューによる検討. 日本外科学会（第112回）（千葉），2012. 4.
- (11) 一般講演：
- 1) 松下 晃, 山初和也, 川本聖郎, 清水哲也, 川野陽一, 吉岡正人, 中村慶春, 相本隆幸, 平方敦史, 横山 正, 吉田 寛, 内田英二⁽¹⁾ 日本医科大学 外科)：ヒト膵癌における STAT5A, 5B の発現とその意義についての検討. 日本膵臓学会大会（第43回）（山形），2012. 6.
 - 2) 上田純志, 松田陽子, 山初和也, 内田英二, 内藤善哉, 石渡俊行⁽¹⁾ 日本医科大学 臓器病態制御外科学)：膵癌における epithelial splicing regulatory protein1 (ESRP1) の発現の検討. 日本膵臓学会大会（第43回）（山形），2012. 6.
 - 3) 横山 正, 吉田 寛, 平方敦史, 松下 晃, 高尾嘉宗, 住吉宏樹, 堀田正啓, 関 奈紀, 内田英二⁽¹⁾ 日本医科大学多摩永山病院 外科)：膵頭十二指腸切除術後の合併症対策として ドレイン管理と工夫. 日本膵臓学会大会（第43回）（山形），2012. 6.
 - 4) 菅 隼人, 内田英二, 松本智司, 山田岳史, 小泉岐博, 進士誠一, 佐々木順平, 山岸杏彌, 原 敬介⁽¹⁾ 日本医科大学 外科)：当施設における直腸癌に対する術前化学放射線療法. 日本外科系連合学会学術集会（第37回）（福岡），2012. 6.

- 5) 金沢義一, 加藤俊二, 小野寺浩之, 藤田逸郎, 内田英二⁽¹⁾ (日本医科大学 外科): 胃癌同時性肝転移症例に対する Palliation 手術の功罪. 日本外科系連合学会学術集会 (第 37 回) (福岡), 2012. 6.
- 6) 高田英志, 横井公良, 横室茂樹, 瀬谷知子, 松本智司, 堀場光二, 鶴田宏之, 櫻澤信行, 松田明久, 田中宣威, 内田英二⁽¹⁾ (日本医科大学千葉北総病院 外科): NOMI による広範囲腸管壊死が原因となった門脈ガス血症の 1 例. 日本 shock 学会 (第 27 回) (東京), 2012. 5.
- 7) 萩原信敏, 宮下正夫, 竹田晋浩, 野村 務, 松谷 毅, 小泉有美馨, 間瀬大司, 牧野浩司, 中溝宗永, 横島一彦, 稲井俊太, 酒主敦子, 内田英二⁽¹⁾ (日本医科大学 外科): 食道癌術後胃管壊死に伴うショックから救命しえた 1 例. 日本 shock 学会 (第 27 回) (東京), 2012. 5.
- 8) 大山莉奈, 鈴木英之, 渡辺昌則, 吉野雅則, 松信哲朗, 三浦克洋, 豊田哲鎬, 中田亮輔, 宮下正夫, 内田英二⁽¹⁾ (日本医科大学武蔵小杉病院 消化器病センター): 閉塞性大腸炎穿孔術後ショックの遷延により残存腸管の虚血を繰り返した 1 例. 日本 shock 学会 (第 27 回) (東京), 2012. 5.
- 9) 松谷 毅, 松田明久, 野村 務, 丸山 弘, 萩原信敏, 沓掛真彦, 田村和広, 宮下正夫, 内田英二⁽¹⁾ (日本医科大学 外科): マウス盲腸穿刺結紮術における脂肪細胞機能と PPAR- γ リガンド投与による抗炎症作用. 日本 Shock 学会 (第 27 回) (東京), 2012. 5.
- 10) 関口久美子, 萩原信敏, 藤田逸郎, 加藤俊二, 宮下正夫, 野村 務, 金沢義一, 松谷 毅, 櫻澤信行, 小野寺浩之, 松野邦彦, 上田康二, 小泉里奈, 内田英二⁽¹⁾ (日本医科大学 外科 (消化器・一般・乳腺・移植外科)): 内視鏡治療にて再手術を回避できた十二指腸潰瘍穿孔術後の 1 例. 日本消化器内視鏡学会関東地方会 (第 94 回) (東京), 2012. 6.
- 11) 中田亮輔, 鈴木英之, 渡辺昌則, 吉野雅則, 千原直人, 松信哲朗, 三浦克洋, 内田英二⁽¹⁾ (日本医科大学武蔵小杉病院 消化器病センター): 胃検診後のバリウム排泄遅延による直腸潰瘍の 1 例. 日本消化器内視鏡学会関東地方会 (第 94 回) (東京), 2012. 6.
- 12) 柳 健¹⁾, 有蘭久雄¹⁾, 簡野晃次¹⁾, 高尾嘉宗²⁾, 吉田 寛²⁾, 内田英二³⁾ (1) 東京血管外科クリニック, 2) 日本医科大学多摩永山病院 外科, 3) 日本医科大学付属病院 外科): 1320nm パルスヤグレーザーによる EVLA は下肢静脈瘤治療の第一選択となりうる. 日本血管外科学会学術総会 (第 40 回) (長野), 2012. 5.
- 13) 谷合信彦, 吉田 寛, 吉岡正人, 川野陽一, 水口義昭, 清水哲也, 上田純志, 真々田裕宏, 内田英二⁽¹⁾ (日本医科大学 外科): 胆管細胞癌の現状と展開 肝内胆管癌に対する肝切除術とゲムシタピンの有効性. 日本肝臓学会総会 (第 48 回) (石川), 2012. 6.
- 14) 川野陽一, 谷合信彦, 真々田裕宏, 吉岡正人, 峯田 章, 松下 晃, 水口義昭, 清水哲也, 上田純志, 吉田 寛, 内田英二⁽¹⁾ (日本医科大学付属病院 外科): 門脈圧亢進症 当科における難治性胸/腹水に対する胸/腹腔静脈シャントの経験. 日本肝臓学会総会 (第 48 回) (石川), 2012. 6.
- 15) 中村慶春⁽¹⁾ (日本医科大学外科): テーマ「脾疾患の診断と治療」I. 低侵襲手術としての腹腔鏡下脾切除術. 日本医師会生涯教育講座 (東京), 2012. 6.
- 16) 高橋 翼, 上砂光裕, 赤尾美春, 窪倉浩俊, 右田 真, 勝部康弘, 内田英二⁽¹⁾ (日本医科大学武蔵小杉病院 小児外科): 胸腔鏡下に切除した梗塞肺葉外肺分画症の 1 例. 日本小児外科学会 (第 49 回) (横浜), 2012. 5.
- 17) 柳 健¹⁾, 簡野晃次¹⁾, 有蘭久雄¹⁾, 高尾嘉宗²⁾, 吉田 寛²⁾, 内田英二³⁾, 岡田昌義¹⁾ (1) 東京血管外科クリニック, 2) 日本医科大学付属多摩永山病院 外科, 3) 日本医科大学付属病院 外科): 下肢静脈瘤に対する日帰りレーザー手術 5000 肢の治療経験と患者側からの評価. 日本短期滞在外科手術研究会学術総会 (第 8 回) (和歌山), 2012. 6.
- 18) 小川 護, 松下 晃, 松野邦彦, 川野陽一, 中村慶春, 相本隆幸, 内田英二⁽¹⁾ (日本医科大学 外科): mFOLF-OX6 による化学療法が奏功し, 手術を施行し得た脾腺房細胞癌, 肝転移, リンパ節転移の 1 例. 日本消化器病学会関東支部例会 (第 319 回) (東京), 2012. 5.
- 19) 中村慶春⁽¹⁾ (日本医科大学付属病院 外科): 腹腔鏡下脾切除について. 文京区内視鏡手術セミナー (東京),

2012. 4.

- 20) 保田智彦, 内田英二, 菅 隼人, 山田岳史, 小泉岐博, 進士誠一, 上田純志, 山岸杏彌, 原 敬介⁽¹⁾ 日本医科大学付属病院消化器外科): リンパ節転移を認めた腫瘍径 10mm の直腸カルチノイドの 1 例. 日本消化器病学会関東支部 (東京), 2012. 7.
- 21) 高根祐希, 安藤文彦, 上田純志, 内田英二, 川野陽一, 谷合信彦, 中村慶春, 松下 晃, 松野邦彦⁽¹⁾ 日本医科大学付属病院 消化器外科): 睪原発・肝転移の非機能的神経内分泌腫瘍 (NET) を腹腔鏡下同時切除の 1 例. 日本消化器病学会関東支部例会 (第 321 回) (東京), 2012. 9.
- 22) 杉田久記, 清水哲也, 中村慶春, 吉岡正人, 水口義昭, 真々田裕宏, 有馬保生, 内田英二⁽¹⁾ 日本医科大学付属病院 消化器外科): 妊娠を契機に診断された先天性胆道拡張症に対し腹腔鏡下手術を施行した 1 例. 外科集談会 (第 826 回) (茨城県), 2012. 9.
- 23) Aimoto T, Uchida E, Mizutani S, Hoshino A, Kawano Y, Matsushita A, Muraki A, Yagi A, Suzuki H, Kobayashi T⁽¹⁾ 日本医科大学 消化器外科): Left posterior approach for pancreaticoduodenectomy for pancreatic head cancer. European Pancreatic Club (44th meeting) (チェコ (プラハ)), 2012. 6.
- 24) Hoshino A, Nakamura K, Mizutani S, Aimoto T, Suzuki H, Uchida E, Suzuki H⁽¹⁾ 日本医科大学 武蔵小杉病院消化器病センター): Laparoscopic pancreatic resection: Single-institution experience of 7 patients. European Pancreatic Club (44th meeting) (チェコ (プラハ)), 2012. 6.
- 25) Mizutani S, Suzuki H, Aimoto T, Yagi A, Muraki A, Komine O, Yoshino M, Hoshino A, Watanabe M, Uchida E⁽¹⁾ 日本医科大学 武蔵小杉病院消化器病センター): Feasibility and efficacy of distal pancreatectomy with en bloc celiac axis resection (DP-CAR) for locally advanced pancreatic body cancer. European Pancreatic Club (44th meeting) (チェコ (プラハ)), 2012. 6.
- 26) Yagi A, Mizutani S, Hoshino A, Muraki A, Aimoto T, Suzuki H, Uchida E⁽¹⁾ 日本医科大学 武蔵小杉病院消化器病センター): Clinicopathologic study on pancreatic groove carcinoma. European Pancreatic Club (44th meeting) (チェコ (プラハ)), 2012. 6.
- 27) Muraki A, Mizutani S, Hoshino A, Yagi A, Aimoto T, Suzuki H, Uchida E⁽¹⁾ 日本医科大学 武蔵小杉病院消化器病センター): Long-term outcome after Frey procedures for chronic pancreatitis with inflammatory mass of the pancreatic head: Comparison of pancreaticoduodenectomy. European Pancreatic Club (44th meeting) (チェコ (プラハ)), 2012. 6.
- 28) 水口義昭, 中村慶春, 松本智司, 吉岡正人, 清水哲也, 内田英二⁽¹⁾ 日本医科大学付属病院 消化器外科): 先天性胆道拡張症成人例に対する腹腔鏡下分流手術. 日本睪・胆管合流異常研究会 (第 35 回) (東京), 2012. 9.
- 29) 吉岡正人, 谷合信彦, 中村慶春, 川野陽一, 水口義昭, 清水哲也, 山初和也, 上田純志, 内田英二⁽¹⁾ 日本医科大学付属病院 消化器外科): 術後病理診断で SS 胆嚢癌に対し, 腹腔鏡補助下肝 S4a+S5 切除術を追加した 1 例. 日本胆道学会学術集会 (第 48 回) (東京), 2012. 9.
- 30) 上田康二, 小野寺浩之, 加藤俊二, 金沢義一, 櫻澤信行, 藤田逸郎, 野村 務, 萩原信敏, 松谷 毅, 内田英二⁽¹⁾ 日本医科大学 消化器外科): 短期間で再発を認めた後腹膜脂肪肉腫の 1 例とその臨床病理学的特徴. 外科集談会 (第 825 回) (東京), 2012. 6.
- 31) 中田亮輔, 鈴木英之, 渡辺昌則, 吉野雅則, 千原直人, 松信哲朗, 三浦克洋, 豊田哲鎬, 内田英二⁽¹⁾ 日本医科大学 武蔵小杉病院 消化器病センター): 検診を契機に診断された無症候性アメーバ性腸炎の 1 例. 外科集談会 (第 825 回) (東京), 2012. 6.
- 32) 安藤文彦, 水口義昭, 有馬保生, 真々田裕宏, 中村慶春, 相本隆幸, 谷合信彦, 保田智彦, 内田英二⁽¹⁾ 日本医科大学付属病院 消化器外科): 術前画像診断し安全に腹腔鏡下胆嚢摘出術を施行した右後区域枝分岐胆嚢管胆石症の 1 例. 外科集談会 (第 825 回) (東京), 2012. 6.
- 33) 上田純志, 松田陽子, 山初和也, 内田英二, 内藤善哉, 石渡俊行⁽¹⁾ 日本医科大学 臓器病態制御学): 湿潤性

- 膵管癌組織における ESRP1 と FGFR2 の発言と役割の検討. 日本病理学会総会 (第 100 回) (東京), 2012. 4.
- 34) Matsushita A, Sumiyoshi H, Kawano Y, Mizuguchi Y, Yoshioka M, Hagiwara N, Matsutani T, Nakamura Y, Matsumoto S, Aimoto T, Ishiwata T, Naito Z, Uchida E ⁽¹⁾ Department of Surgery and Department of Pathology, Nippon Medical School) : Signal Transducer and Activator of Transcription 5 (STAT5) Expression and Activation in Pancreatic Cancer. American Pancreatic Association International Association of Pancreatology 2012 Joint Meeting (Miami), 2012. 11.
- 35) 網谷亮輔, 水口義昭, 真々田裕宏, 有馬保生, 相本隆幸, 中村慶春, 吉岡正人, 松下 晃, 川野陽一, 清水哲也, 上田純志, 高田英志, 住吉宏樹, 松野邦彦, 内田英二, その他 1 名 ⁽¹⁾ 日本医科大学付属病院消化器外科) : 胆嚢腫瘍との鑑別診断に難渋した胆嚢結石症の 1 例. 外科集談会 (第 827 回) (東京), 2012. 12.
- 36) 松田範子, 宮本正章, 豊富達智, 中山拓也, 志村亜由香, 佐々木拓也, 鈴木健一, 木山輝郎, 内田英二, 桐木園子, 高木 元, 飯村剛史, 小川 令, 竹田晋浩, 徳永 昭 ⁽¹⁾ 日本医科大学付属病院 ME 部) : 高気圧酸素療法と血管再生医療・局所陰圧閉鎖療法併用による難治性下腿潰瘍・足壊疽症例の創傷治癒促進効果. 第 47 回日本高気圧環境・潜水医学会学術総会 (北海道), 2012. 11.
- 37) 河越哲朗, 川見典之, 梅澤まり子, 二神生爾, 岩切勝彦, 松谷 毅, 野村 務, 宮下正夫, 宮下次廣, 坂本長逸 ⁽¹⁾ 日本医科大学 消化器内科) : Stage IV B 食道がんにおける集学的治療の検討. 日本食道学会学術集会 (第 66 回) (長野県), 2012. 6.
- 38) 野村 聡, 渡辺昌則, 小峯 修, 千原直人, 前島顕太郎, 坊 英樹, 鈴木英之, 櫻澤信行, 内田英二 ⁽¹⁾ 日本医科大学 武蔵小杉病院 消化器病センター) : 表在型 Barrett 食道癌の 1 例. 日本食道学会学術集会 (第 66 回) (長野県), 2012. 6.
- 39) 坂田義則, 牧野浩司, 吉田 寛, 丸山 弘, 横山 正, 宮下正夫, 野村 務, 松谷 毅, 萩原信敏, 内田英二 ⁽¹⁾ 日本医科大学 多摩永山病院 外科) : 高齢者に対する食道癌手術 縦隔鏡補助下・胸腔鏡補助下食道切除術, 開胸手術. 日本食道学会学術集会 (第 66 回) (長野県), 2012. 6.
- 40) 丸山 弘, 吉田 寛, 牧野浩司, 横山 正, 平方敦史, 高尾嘉宗, 住吉宏樹, 堀田正啓, 松谷 毅, 内田英二 ⁽¹⁾ 日本医科大学 多摩永山病院 外科) : 高度肝障害合併食道癌に対し 2 期手術を施行した 1 例. 日本食道学会学術集会 (第 66 回) (長野県), 2012. 6.
- 41) 松野邦彦, 松谷 毅, 野村 務, 萩原信敏, 岩切勝彦, 河越哲郎, 川見典之, 藤田逸郎, 宮下正夫, 内田英二 ⁽¹⁾ 日本医科大学消化器外科) : 悪性リンパ腫合併食道扁平上皮癌の 1 例. 日本食道学会学術集会 (第 66 回) (長野県), 2012. 6.
- 42) 原田潤一郎, 松谷 毅, 野村 務, 萩原信敏, 谷合信彦, 川野陽一, 上田純志, 松野邦彦, 宮下正夫, 内田英二 ⁽¹⁾ 日本医科大学 消化器外科) : 肝細胞癌の食道転移の 1 例. 日本食道学会学術集会 (第 66 回) (長野県), 2012. 6.
- 43) 篠塚恵理子, 松谷 毅, 野村 務, 萩原信敏, 岩切勝彦, 河越哲郎, 川見典之, 藤田逸郎, 宮下正夫, 内田英二 ⁽¹⁾ 日本医科大学 消化器外科) : 多発性筋炎合併食道腺癌の 1 例. 日本食道学会学術集会 (第 66 回) (長野県), 2012. 6.
- 44) 馬越道信, 松谷 毅, 野村 務, 萩原信敏, 丸山 弘, 牧野浩司, 高尾嘉宗, 吉田 寛, 宮下正夫, 内田英二 ⁽¹⁾ 日本医科大学 消化器外科) : 化学放射線療法後に主病変は CR が得られたにもかかわらず環椎に転移した食道癌の 1 例. 日本食道学会学術集会 (第 66 回) (長野県), 2012. 6.
- 45) 松谷 毅, 野村 務, 萩原信敏, 藤田逸郎, 金沢義一, 岩切勝彦, 丸山 弘, 牧野浩司, 宮下正夫, 内田英二 ⁽¹⁾ 日本医科大学 消化器外科) : 腹臥位胸腔鏡下食道切除術の工夫と治療成績. 日本食道学会学術集会 (第 66 回) (長野県), 2012. 6.
- 46) 小峯 修, 渡辺昌則, 鈴木英之, 野村 務, 坊 英樹, 吉野雅則, 水谷 崇, 前島顕太郎, 越智友洋, 内田英二 ⁽¹⁾ 日本医科大学 武蔵小杉病院 消化器病センター) : 食道癌術後早期経腸栄養における免疫調整栄養剤 (オ

- キシーバ)の有用性. 日本食道学会学術集会(第66回)(長野県), 2012. 6.
- 47) 萩原信敏, 宮下正夫, 野村 務, 松谷 毅, 中溝宗永, 横島一彦, 酒主敦子, 河越哲朗, 牧野浩司, 内田英二
(¹日本医科大学 消化器外科): チーム医療の取り組みで喉頭温存食道切除が可能であった頸胸部進行食道癌の1例. 日本食道学会学術集会(第66回)(長野県), 2012. 6.
- 48) 古木裕康, 松谷 毅, 野村 務, 萩原信敏, 藤田逸郎, 岩切勝彦, 河越哲朗, 川見典之, 宮下正夫, 内田英二
(¹日本医科大学 消化器外科): 食道神経内分泌腫瘍の1例. 日本食道学会学術集会(第66回)(長野県), 2012. 6.
- 49) 高尾嘉宗, 松谷 毅, 丸山 弘, 野村 務, 牧野浩司, 馬越道信, 萩原信敏, 吉田 寛, 宮下正夫, 内田英二
(¹日本医科大学 多摩永山病院 外科): 化学放射線療法後の食道癌性狭窄に対する胸腔鏡補助下食道バイパス手術の成績. 日本食道学会学術集会(第66回)(長野県), 2012. 6.
- 50) 渡辺昌則, 野村 聡, 小峯 修, 前島顕太郎, 水谷 聡, 吉野雅則, 坊 英樹, 鈴木英之, 内田英二(¹日本医科大学 武蔵小杉病院 消化器病センター): 食道癌術後 mortality と morbidity の危険因子. 日本食道学会学術集会(第66回)(長野県), 2012. 6.
- 51) 牧野浩司, 吉田 寛, 丸山 弘, 横山 正, 平方敦史, 宮下正夫, 野村 務, 松谷 毅, 萩原信敏, 内田英二
(¹日本医科大学 多摩永山病院 外科): 腹臥位胸腔鏡下食道癌手術における様々な工夫と手術時間・出血量の減少. 日本食道学会学術集会(第66回)(長野県), 2012. 6.
- 52) 山下浩二, 五十嵐健人, 岡村律子, 軸蘭智雄, 竹間由佳, 栗田智子, 柳原恵子, 飯田信也, 芳賀駿介, 清水一雄
(¹日本医科大学 外科): 3T-MRI と 3D-CT リンパ管造影の第2・第3リンパ節転移評価による腋窩郭清省略の検討. 日本乳癌学会学術総会(第20回)(熊本県), 2012. 6.
- 53) 谷 瞳, 岩野菜梨絵, 高濱克也, 天野康雄, 村上隆介, 汲田伸一郎, 柳原恵子, 飯田信也, 芳賀駿介, 土屋眞一
(¹日本医科大学附属病院 放射線科): MRI において non-mass-like enhancement を示した乳癌の検討. 日本乳癌学会学術総会(第20回)(熊本県), 2012. 6.
- 54) 岩野菜梨絵, 谷 瞳, 村上隆介, 汲田伸一郎, 柳原恵子, 飯田信也, 芳賀駿介, 土屋眞一(¹日本医科大学放射線科): 乳癌センチネルリンパ節診断における SPECT-CT の有用性. 日本乳癌学会学術総会(第20回)(熊本県), 2012. 6.
- 55) 飯田信也, 宮下正夫, 芳賀駿介, 山下浩二, 柳原恵子, 栗田智子, 岩本美樹, 山下直行, 土屋眞一, 内田英二
(¹日本医科大学附属病院 がん診療センター): 癌探知犬による乳癌スクリーニング. 日本乳癌学会学術総会(第20回)(熊本県), 2012. 6.
- 56) 岩本美樹, 芳賀駿介, 飯田信也, 山下浩二, 柳原恵子, 栗田智子, 村上隆介, 土屋眞一, 内田英二(¹日本医科大学附属病院 乳腺科): 若年性乳癌の診断 画像診断の有用性についての検討. 日本乳癌学会学術総会(第20回)(熊本県), 2012. 6.
- 57) 栗田智子, 柳原恵子, 飯田信也, 山下浩二, 岩本美樹, 古川清憲, 樋口勝美, 土屋眞一, 芳賀駿介, 内田英二
(¹日本医科大学附属病院 乳腺科): 進行再発乳癌における新規アブラキサンの有効性と安全性の検討. 日本乳癌学会学術総会(第20回)(熊本県), 2012. 6.
- 58) 横山 正, 吉田 寛, 関 奈紀, 内田英二(¹日本医科大学多摩永山病院 外科): 転移性乳癌における Gemcitabine+S-1 療法の試み. 日本乳癌学会学術総会(第20回)(熊本県), 2012. 6.
- 59) 兼重久美子, 横山 正(¹日本医科大学多摩永山病院 看護部): 閉経前乳がん患者に対する内分泌治療の看護介入の検討. 日本乳癌学会学術総会(第20回)(熊本県), 2012. 6.
- 60) 柳 健¹, 有蘭久雄¹, 簡野晃次¹, 石丸さやか¹, 高尾嘉宗², 吉田 寛², 内田英二³, 岡田昌義¹(¹東京血管外科クリニック, ²日本医科大学多摩永山病院 外科, ³日本医科大学付属病院 外科): 日本人に対する下肢静脈瘤血管内レーザー焼灼術(EVLA)は欧米並みの治療成績となりうるか. 日本脈管学会総会(第53回)(東京), 2012. 10.

- 61) 山田岳史¹⁾, 内田英二¹⁾, 小泉岐博¹⁾, 菅 隼人¹⁾, 松本智司²⁾, 進士誠一¹⁾, 松本明久²⁾, 佐々木順平²⁾, 谷 杏彌¹⁾, 原 啓介¹⁾ (1) 日本医科大学消化器外科, 2) 日本医科大学千葉北総病院外科) : 高齢者結腸癌腹腔鏡手術の意義 : 腹腔鏡手術は消化管運動を早期に回復させる. 日本消化器病学会総会 (第 99 回) (鹿児島市), 2013. 3.
- 62) 山田岳史¹⁾, 内田英二¹⁾, 松本智司²⁾, 菅 隼人¹⁾, 小泉岐博¹⁾, 進士誠一¹⁾, 松田明久²⁾, 谷 杏彌¹⁾, 原 啓介¹⁾, 佐々木順平²⁾, 中山雅人³⁾, 牛田 弘³⁾, 北野史郎³⁾ (1) 日本医科大学消化器外科, 2) 日本医科大学千葉北総病院外科, 3) 凸版印刷総合印刷所) : 患者末梢血を用いた KRAS 変異診断. 日本消化器病学会総会 (第 99 回) (鹿児島市), 2013. 3.
- 63) 名兄耶浩幸¹⁾, 二神生爾¹⁾, 河越哲郎¹⁾, 山脇博士¹⁾, 小高康裕¹⁾, 新福摩弓¹⁾, 堀江 茜¹⁾, 川見典之¹⁾, 岩切勝彦¹⁾, 飯泉 匡¹⁾, 星原芳雄²⁾, 牧野浩司³⁾, 宮下正夫³⁾, 土屋真一⁴⁾, 坂本長逸¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院消化器内科, 2) 経済産業省診療所, 3) 日本医科大学付属病院消化器外科, 4) 日本医科大学付属病院病理部) : ROS 刺激下流の新規分子マーカー, apurinic apyrimidinic endonuclease-1 (APE-1) を用いた食道癌進展および化学療法感受性の解析. 日本消化器病学会総会 (第 99 回) (鹿児島市), 2013. 3.
- 64) 原総津子¹⁾, 山田岳史¹⁾, 菅 隼人¹⁾, 松本智司¹⁾, 小泉岐博¹⁾, 佐々木順平¹⁾, 谷 杏彌¹⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学消化器外科) : FOLFOX による下肢末梢神経障害と皮膚温 : 赤外線サーモグラフィによる検討. 日本消化器病学会総会 (第 99 回) (鹿児島市), 2013. 3.
- 65) 宮元亮子¹⁾, 金子恵子¹⁾, 川本智章¹⁾, 水野杏一¹⁾, 安井大輔²⁾, 秋葉綾子²⁾, 中澤 賢²⁾, 村田 智²⁾, 清水哲也³⁾, 川野陽一³⁾, 谷合信彦³⁾, 真々田裕宏³⁾ (1) 日本医科大学付属病院肝臓内科, 2) 日本医科大学付属病院放射線科, 3) 日本医科大学付属病院第一外科) : 当院における Sorafenib の臨床使用経験. 日本消化器病学会総会 (第 99 回) (鹿児島), 2013. 3.
- 66) 松谷 毅¹⁾, 野村 務¹⁾, 藤田逸郎¹⁾, 金沢義一¹⁾, 萩原信敏¹⁾, 櫻澤信行¹⁾, 小野寺浩之¹⁾, 加藤俊二¹⁾, 丸山弘²⁾, 牧野浩司²⁾, 吉田 寛²⁾, 宮下正夫¹⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学 医学部 外科, 2) 日本医科大学多摩永山病院 外科) : 食道癌性狭窄に対する腹腔鏡補助下食道バイパス手術. 日本消化器内視鏡学会総会 (第 83 回) (東京), 2012. 5.
- 67) 新井洋紀¹⁾, 櫻澤信行¹⁾, 萩原信敏¹⁾, 松谷 毅¹⁾, 野村 務¹⁾, 宮下正夫¹⁾, 内田英二 (1) 日本医科大学 消化器・一般・乳腺・移植外科) : 食道癌術後縫合不全に対しナイロン糸を用いたループ付クリップにて内視鏡的に閉鎖し保存的加療をし得た 1 例. 日本消化器内視鏡学会総会 (第 83 回) (東京), 2012. 5.
- 68) 松田範子¹⁾, 宮本正章³⁾, 豊富達智¹⁾, 中山拓也¹⁾, 志村亜由香¹⁾, 佐々木拓也¹⁾, 鈴木健一¹⁾, 木山輝郎²⁾, 内田英二²⁾, 桐木園子³⁾, 高木 元³⁾, 飯村剛史⁴⁾, 小川 令⁴⁾, 竹田晋浩^{1,5)}, 徳永 昭⁶⁾ (1) 日本医科大学付属病院 ME 部, 2) 日本医科大学付属病院 外科, 3) 日本医科大学付属病院 循環器・再生医療科, 4) 日本医科大学付属病院 形成外科・美容外科, 5) 日本医科大学付属病院 集中治療室, 6) 日本医科大学武蔵小杉病院消化器病センター) : 高気圧酸素療法と骨髄血管再生療法・局所陰圧閉鎖療法併用による難治性下腿潰瘍・足壊疽症例の創傷治癒促進効果. 日本高気圧環境・潜水医学会学術総会 (第 47 回) (札幌市), 2012. 11.
- 69) 高田英志¹⁾, 谷合信彦¹⁾, 真々田裕宏¹⁾, 吉岡正人¹⁾, 川野陽一¹⁾, 水口義昭¹⁾, 清水哲也¹⁾, 上田純志¹⁾, 内藤善哉²⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院 消化器外科, 2) 日本医科大学付属病院 統御機構病理) : 腓神経内分分泌腫瘍術後 19 年目に切除しえた肝神経内分分泌腫瘍の 1 例. 日本外科病理学会学術集会 (第 17 回) (仙台市), 2012. 10.
- 70) 山下浩二¹⁾, 五十嵐健人¹⁾, 岡村律子¹⁾, 軸菌智雄¹⁾, 竹間由佳¹⁾, 岩本美紀¹⁾, 栗田智子¹⁾, 柳原恵子¹⁾, 飯田信也¹⁾, 芳賀俊介¹⁾, 清水一雄¹⁾ (1) 日本医科大学外科) : 早期乳癌に対する皮下乳腺全摘での乳輪縁アプローチによる乳腺内視鏡手術の有効性. 日本癌治療学会学術集会 (第 50 回) (横浜市), 2012. 10.
- 71) 相本隆幸¹⁾, 内田英二¹⁾, 松下 晃¹⁾, 川野陽一¹⁾, 水谷 聡²⁾, 鈴木英之²⁾ (1) 日本医科大学消化器外科, 2) 日本医科大学武蔵小杉病院消化器病センター) : 腓癌に対する左方アプローチによる臍頭十二指腸切除術. 日本癌治療学会学術集会 (第 50 回) (横浜市), 2012. 10.

- 72) 吉岡将史^{1, 2)}, 山根由唯¹⁾, 進士誠一²⁾, 原田潤一郎²⁾, 菅 隼人²⁾, 山田岳史²⁾, 小泉岐博²⁾, 上田純志²⁾, 高田英志²⁾, 内田英二²⁾, 藤森俊二³⁾, 河越哲郎³⁾, 三井啓吾³⁾, 川見典之³⁾, 高橋陽子³⁾, その他 1 名 (1) 日本医科大学付属病院 研修医, 2) 日本医科大学 消化器外科, 3) 日本医科大学 消化器内科): 原発性多発小腸癌の 1 例. 日本消化器病学会 関東支部例会 (東京), 2012. 12.
- 73) 野村 務¹⁾, 松谷 毅¹⁾, 萩原信敏¹⁾, 山初和也¹⁾, 佐々木順平²⁾, 上田純志¹⁾, 山岸杏彌¹⁾, 松野邦彦¹⁾, 古木裕康¹⁾, 原田潤一郎¹⁾, 古川清憲¹⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学 消化器外科, 2) 日本医科大学付属千葉北総病院 外科): 腹壁癒痕ヘルニア術後メッシュ感染の経験. 日本ヘルニア学会学術集会 (第 10 回) (名古屋市), 2012. 4.
- 74) 堀田正啓¹⁾, 丸山 弘¹⁾, 吉田 寛¹⁾, 牧野浩司¹⁾, 高尾嘉宗¹⁾, 横山 正¹⁾, 寺西宣央¹⁾, 菅野仁士¹⁾, 関 奈紀¹⁾, 内田英二²⁾ (1) 日本医科大学多摩永山病院 外科, 2) 日本医科大学付属病院 外科): S 状結腸癌腹壁穿通による腹壁膿瘍, 壊死性筋膜炎の 1 例. 日本外科感染症学会総会 (第 25 回) (千葉市), 2012. 11.
- 75) 川野陽一¹⁾, 谷合信彦¹⁾, 吉岡正人¹⁾, 松下 晃¹⁾, 水口義昭¹⁾, 清水哲也¹⁾, 上田純志¹⁾, 高田英志¹⁾, 真々田裕宏¹⁾, 吉田 寛²⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院 消化器外科, 2) 日本医科大学多摩永山病院 外科): 超音波検査で指摘された肝変形を契機に発見され, IVR 治療を施行した Budd-Chiari syndrome の 1 例. 日本門脈圧亢進症学会総会 (19 回) (東京), 2012. 9.
- 76) 松本智司¹⁾, 内田英二²⁾, 瀬谷知子¹⁾, 鶴田宏之¹⁾, 菅 隼人¹⁾, 山田岳史²⁾, 小泉岐博²⁾, 松田明久¹⁾, 進士誠一²⁾, 佐々木順平¹⁾, 横井公良¹⁾ (1) 日本医科大学千葉北総病院外科, 2) 日本医科大学付属病院外科): 鏡視下右側結腸手術における頭側アプローチ法. 日本大腸肛門病学会学術集会 (67 回) (福岡市), 2012. 11.
- 77) 豊田哲鎬¹⁾, 鈴木英之¹⁾, 吉野雅則¹⁾, 千原直人¹⁾, 松信哲朗¹⁾, 前島賢太郎¹⁾, 三浦克洋¹⁾, 大山莉奈¹⁾, 野村聡¹⁾, 山岸征嗣¹⁾, 中田亮輔¹⁾, 渡辺昌則¹⁾, 内田英二²⁾ (1) 日本医科大学武蔵小杉病院, 2) 日本医科大学 外科): 当科における潰瘍性大腸炎に対するインフリキシマブの使用経験. 日本大腸肛門病学会学術集会 (第 67 回) (福岡市), 2012. 11.
- 78) 菅 隼人¹⁾, 内田英二¹⁾, 松本智司²⁾, 鶴田宏之²⁾, 山田岳史¹⁾, 小泉岐博¹⁾, 進士誠一¹⁾, 佐々木順平²⁾, 谷 杏彌¹⁾, 原 啓介¹⁾, 鈴木英之³⁾, 古川清憲¹⁾ (1) 日本医科大学消化器外科, 2) 日本医科大学千葉北総病院 外科, 3) 日本医科大学武蔵小杉病院消化器病センター): 再発 S 状結腸・直腸癌に対する S-1 併用化学放射線療法. にはん大腸肛門病学科器学術集会 (第 67 回) (福岡市), 2012. 11.
- 79) 瀬谷知子¹⁾, 田中宣威¹⁾, 横井公良¹⁾, 堀場光二¹⁾, 鶴田宏之¹⁾, 松本智司¹⁾, 高橋由至¹⁾, 進士誠一²⁾, 松田明久¹⁾, 佐々木順平¹⁾, 高橋吾郎¹⁾, 若林秀行¹⁾, 内田英二²⁾ (1) 日本医科大学千葉北総病院外科, 2) 日本医科大学消化器外科): 大腸癌肝転移, 肺転移症例にける MCT1, CD44v6, CD147 (EMMPRIN) の発現. 日本大腸肛門病学会学術集会 (第 67 回) (福岡市), 2012. 11.
- 80) 谷 杏彌¹⁾, 内田英二¹⁾, 松本智司¹⁾, 菅 隼人¹⁾, 山田岳史¹⁾, 小泉岐博¹⁾, 進士誠一¹⁾, 佐々木順平¹⁾, 原啓介¹⁾ (1) 日本医科大学外科): 大腸がん手術検体における網羅的発現遺伝子解析による経時的变化の検討. 日本大腸肛門病学会学術集会 (第 67 回) (福岡市), 2012. 11.
- 81) 小泉岐博¹⁾, 内田英二¹⁾, 菅 隼人¹⁾, 山田岳史¹⁾, 進士誠一¹⁾, 山岸杏彌¹⁾, 原絵津子¹⁾, 原 啓介¹⁾, 松本智司²⁾ (1) 日本医科大学付属病院消化器外科, 2) 日本医科大学千葉北総病院外科): 腹腔鏡下直腸癌手術における側方リンパ節廓清術. 日本大腸肛門病学会学術集会 (第 67 回) (福岡市), 2012. 11.
- 82) 松信哲朗¹⁾, 鈴木英之¹⁾, 吉野雅則¹⁾, 三浦克洋¹⁾, 豊田哲鎬¹⁾, 大山莉奈¹⁾, 中田亮輔¹⁾, 野村 聡¹⁾, 前島賢太郎¹⁾, 千原直人¹⁾, 渡辺昌則¹⁾, 内田英二²⁾ (1) 日本医科大学武蔵小杉病院消化器病センター, 2) 日本医科大学外科): 高齢者大腸癌イレウスの問題点. 日本大腸肛門病学会学術集会 (第 67 回) (福岡市), 2012. 11.
- 83) 大山莉奈¹⁾, 鈴木英之¹⁾, 吉野雅則¹⁾, 松信哲朗¹⁾, 三浦克洋¹⁾, 豊田哲鎬¹⁾, 八木亜紀¹⁾, 中田亮輔¹⁾, 野村 聡¹⁾, 前島賢太郎¹⁾, 千原直人¹⁾, 渡辺昌則¹⁾, 内田英二²⁾ (1) 日本医科大学武蔵小杉病院消化器病センター, 2) 日本医科大学消化器外科): 大腸多発肝転移に対する術前化学療法により組織学的 CR を得た 1 例. 日本大腸肛門病学

会学術集会（第 67 回）（福岡市），2012. 11.

- 84) 鈴木英之¹⁾，吉野雅則¹⁾，松信哲朗¹⁾，三浦克洋¹⁾，中田亮輔¹⁾，大山莉奈¹⁾，菅 隼人²⁾，松本智司²⁾，小泉岐博²⁾，渡辺昌則¹⁾，内田英二²⁾：ストーマ造設の傾向と合併症の検討。日本大腸肛門病学会学術集会（第 67 回）（福岡市），2012. 11.
- 85) 山田岳史¹⁾，菅 隼人¹⁾，松本智司¹⁾，小泉岐博¹⁾，進士誠一¹⁾，金沢義一¹⁾，佐々木順平²⁾，谷 杏彌¹⁾，内田英二¹⁾（¹⁾ 日本医科大学消化器外科，²⁾ 日本医科大学千葉北総病院外科）：再発大腸癌に対する化学療法中における最大大腰筋面積比の意義：長期化学療法により栄養状態は徐々に悪化する？。日本大腸肛門病学会学術集会（第 67 回）（福岡市），2012. 11.
- 86) 進士誠一¹⁾，菅 隼人¹⁾，松本智司¹⁾，山田岳史¹⁾，小泉岐博¹⁾，山岸杏彌¹⁾，原 啓介¹⁾，高 和英¹⁾，藤森俊二²⁾，辰口篤志²⁾，内田英二¹⁾（¹⁾ 日本医科大学消化器外科，²⁾ 日本医科大学消化器内科）：腹腔鏡補助下結腸切除した突発性腸間膜静脈硬化症の 1 例。日本大腸肛門病学会学術集会（第 67 回）（福岡市），2012. 11.
- 87) 高橋吾郎¹⁾，瀬谷知子¹⁾，若林秀幸¹⁾，佐々木順平¹⁾，松田明久¹⁾，松本智司¹⁾，鶴田宏之¹⁾，堀場光二¹⁾，横井公良¹⁾，田中宣威¹⁾，内田英二²⁾（¹⁾ 日本医科大学千葉北総病院 外科，²⁾ 日本医科大学消化器外科）：当院で経験した大腸印鑑細胞癌の 4 例。日本大腸肛門病学会学術集会（第 67 回）（福岡市），2012. 11.
- 88) 中田亮輔¹⁾，鈴木英之¹⁾，松信哲朗¹⁾，吉野雅則¹⁾，三浦克洋¹⁾，豊田哲鎬¹⁾，大山莉奈¹⁾，千原直人¹⁾，渡辺昌則¹⁾，内田英二²⁾（¹⁾ 日本医科大学武蔵小杉病因消化器病センター，²⁾ 日本医科大学消化器外科）：機能的端々吻合（open 法）術後に吻合部再発をきたした上行結腸癌の 1 例。日本大腸肛門病学会学術集会（第 67 回）（福岡市），2012. 11.
- 89) 古川清憲¹⁾，内田英二¹⁾（¹⁾ 日本医科大学付属病院外科）：外科患者の有害事象の実態：簡便な GTT を用いたカルテレビューによる検討。日本外科学会定期学術集会（112）（千葉県），2012. 4.
- 90) 水口義昭¹⁾，有馬保生¹⁾，真々田裕宏¹⁾，谷合信彦¹⁾，相本隆幸¹⁾，中村慶春¹⁾，吉岡正人¹⁾，川野陽一¹⁾，清水哲也¹⁾，上田純志¹⁾，瀧澤俊広²⁾，内田英二¹⁾（¹⁾ 日本医科大学外科，²⁾ 日本医科大学分子解剖）：P300 と PCAF による microRNA200c/141 の転写制御は胆管癌の上皮間葉移行を調節する。日本外科学会定期学術集会（112）（千葉県），2012. 4.
- 91) 渡辺昌則¹⁾，小峯 修¹⁾，前島頭太郎¹⁾，千原直人¹⁾，水谷 聡¹⁾，吉野雅則¹⁾，坊 英樹¹⁾，尾形昌男¹⁾，鈴木英之¹⁾，内田英二²⁾（¹⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院消化器病センター，²⁾ 日本医科大学臓器病態制御外科）：大腸手術の表層 SSI 対策。日本外科学会定期学術集会（112）（千葉県），2012. 4.
- 92) 野村 務¹⁾，宮下正夫¹⁾，松谷 毅¹⁾，萩原信敏¹⁾，牧野浩司²⁾，丸山 弘²⁾，加藤俊二¹⁾，藤田逸郎¹⁾，金沢義一¹⁾，櫻澤信行¹⁾，小野寺浩之¹⁾，内田英二¹⁾（¹⁾ 日本医科大学消化器外科，²⁾ 日本医科大学多摩永山病院外科）：食道癌術後胃管再建症例の逆流性食道炎および残食道円柱上皮化生に関する検討。日本外科学会定期学術集会（千葉県），2012. 4.
- 93) 谷 杏彌¹⁾，内田英二¹⁾，松本智司¹⁾，菅 隼人¹⁾，山田岳史¹⁾，小泉岐博¹⁾，佐々木順平¹⁾，原 敬介¹⁾，島田隆²⁾，渡邊 淳²⁾（¹⁾ 日本医科大学外科，²⁾ 日本医科大学大学院分子遺伝学）：マイクロアレイを用いた大腸癌組織における経時的遺伝子発現変化の検討。日本外科学会定期学術集会（112）（千葉県），2012. 4.
- 94) 木山輝郎¹⁾，藤田逸郎¹⁾，小野寺浩之¹⁾，櫻澤信行¹⁾，白川 毅²⁾，加藤俊二¹⁾，内田英二¹⁾（¹⁾ 日本医科大学外科，²⁾ 日本医科大学千葉北総病院外科）：鏡視下 overlap 法による腹腔鏡下胃切除後吻合法の標準化。日本外科学会定期学術集会（千葉県），2012. 4.
- 95) 吉岡正人¹⁾，中村慶春¹⁾，内田英二¹⁾（¹⁾ 日本医科大学臓器病態制御外科）：腹腔鏡下臍中央切除術における手術手技の工夫について。日本外科学会定期学術集会（112）（千葉県），2012. 4.
- 96) 清水哲也¹⁾，中村慶春¹⁾，松本智司¹⁾，吉岡正人¹⁾，内田英二¹⁾（¹⁾ 日本医科大学外科）：腹腔鏡下臍頭十二指腸切除術における臍臓の切離と吻合操作の工夫。日本外科学会定期学術集会（112）（千葉県），2012. 4.
- 97) 相本隆幸¹⁾，内田英二¹⁾，中村慶春¹⁾，松下 晃¹⁾，勝野 暁¹⁾，張 一光¹⁾，川本聖郎¹⁾，山初和也¹⁾：臍頭十二

- 指腸切除術に対する行程別教育プログラムの実際と成果. 日本外科学会定期学術集会 (112) (千葉県), 2012. 4.
- 98) 横山 正¹⁾, 吉田 寛¹⁾, 牧野浩司¹⁾, 丸山 弘¹⁾, 松下 晃¹⁾, 平方敦史¹⁾, 高尾嘉宗¹⁾, 馬越通信¹⁾, 堀田正啓¹⁾, 早川朋宏¹⁾, 内田英二²⁾ (1) 日本医科大学多摩永山病院外科, 2) 日本医科大学消化器外科): 腫瘍集学的治療としての術前・術後補助化学療法への積極的取り組み. 日本外科学会定期学術集会 (112) (千葉県), 2012. 4.
- 99) 鈴木英之¹⁾, 黒川 顕²⁾, 渡辺昌則¹⁾, 坊 英樹¹⁾, 吉野雅則¹⁾, 水谷 聡¹⁾, 小峯 修¹⁾, 松信哲朗¹⁾, 内田英二³⁾ (1) 日本医科大学武蔵小杉病院消化器病センター, 2) 日本医科大学武蔵小杉病院, 3) 日本医科大学外科): 癌治療におけるカンサーボードの役割と問題点. 日本外科学会定期学術集会 (112) (千葉県), 2012. 4.
- 100) 篠塚恵理子¹⁾, 宮下正夫¹⁾, 水口義昭¹⁾, 赤城一郎¹⁾, 菊池邦生²⁾, 萩原信敏¹⁾, 松谷 毅¹⁾, 牧野浩司¹⁾, 野村務¹⁾, 瀧澤俊広²⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学外科, 2) 日本医科大学外科分子解剖): 食道扁平上皮癌における mRNA 発現と臨床病理学的意義の検討. 日本外科学会定期学術集会 (112) (千葉県), 2012. 4.
- 101) 萩原信敏¹⁾, 宮下正夫¹⁾, 野村 務¹⁾, 牧野浩司¹⁾, 松谷 毅¹⁾, 山下直行²⁾, 赤城一郎¹⁾, 加藤俊二¹⁾, 藤田逸郎¹⁾, 金沢義一¹⁾, 櫻澤信行¹⁾, 小野寺浩之¹⁾, 篠塚恵理子¹⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学外科, 2) 坪井病院外科): 食道癌における腫瘍マーカーの有用性の検討. 日本外科学会定期学術集会 (112) (千葉県), 2012. 4.
- 102) 堀場光二¹⁾, 横井公良¹⁾, 田中宣威¹⁾, 横室茂樹¹⁾, 瀬谷知子¹⁾, 勝田美和子¹⁾, 白川 毅¹⁾, 牧野浩司²⁾, 野村務²⁾, 宮下正夫²⁾, 内田英二²⁾ (1) 日本医科大学千葉北総病院外科, 2) 日本医科大学臓器病態制御外科): 食道扁平上皮癌における EMMPRIN/CD147/MCT-1 の共存発現. 日本外科学会定期学術集会 (千葉県), 2012. 4.
- 103) 前島顕太郎¹⁾, 坊 英樹¹⁾, 鈴木英之¹⁾, 渡辺昌則¹⁾, 尾形昌男¹⁾, 吉野雅則¹⁾, 小峯 修¹⁾, 水谷 聡¹⁾, 千原直人¹⁾, 松信哲朗¹⁾, 内田英二²⁾ (1) 日本医科大学武蔵小杉病院消化器病センター, 2) 日本医科大学外科): 腹腔鏡補助下幽門側胃切除術における肥満が及ぼす術中・術後の合併症. 日本外科学会定期学術集会 (112), 2012. 4.
- 104) 藤田逸郎¹⁾, 木山輝郎¹⁾, 菅野仁士¹⁾, 小野寺浩之¹⁾, 櫻澤信行¹⁾, 金沢義一¹⁾, 萩原信敏¹⁾, 松谷 毅¹⁾, 牧野浩司²⁾, 野村 務¹⁾, 加藤俊二¹⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学外科, 2) 日本医科大学多摩永山病院外科): 腹腔鏡下幽門側胃切除 (LADG) における D2 廓清. 日本外科学会定期学術集会 (112) (千葉県), 2012. 4.
- 105) 松本智司¹⁾, 菅 隼人¹⁾, 中村慶春¹⁾, 山田岳史¹⁾, 小泉岐博¹⁾, 佐々木順平²⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学外科, 2) 日本医科大学千葉北総病院外科): 教育機関における鏡視下虫垂切除術の位置づけと術式の工夫. 日本外科学会定期学術集会 (112) (千葉県), 2012. 4.
- 106) 川野陽一¹⁾, 谷谷信彦¹⁾, 吉岡正人¹⁾, 清水哲也¹⁾, 上田純志¹⁾, 水口義昭¹⁾, 真々田裕宏¹⁾, 吉田 寛²⁾, 村田智³⁾, 汲田伸一郎³⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学外科, 2) 日本医科大学多摩永山病院外科, 3) 日本医科大学放射線科): 大量肝切除を要する肝細胞癌, 胆道癌症例での術前門脈塞栓術の効果と問題点の相違点. 日本外科学会定期学術集会 (112) (千葉県), 2012. 4.
- 107) 櫻澤信行¹⁾, 加藤俊二¹⁾, 藤田逸郎¹⁾, 金沢義一¹⁾, 小野寺浩之¹⁾, 野村 務¹⁾, 牧野浩司¹⁾, 松谷 毅¹⁾, 萩原信敏¹⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学消化器外科): 胃癌取扱い新規約 14 版と新ガイドラインにおける術前診断と病理結果からみた当科における手術治療の妥当性の検討. 日本外科学会定期学術集会 (112) (千葉県), 2012. 4.
- 108) 菅野仁士¹⁾, 山下直行¹⁾, 岩井拓磨¹⁾, 湖山信篤¹⁾, 小野寺浩之²⁾, 櫻澤信行²⁾, 金沢義一²⁾, 藤田逸郎²⁾, 木山輝郎²⁾, 加藤俊二²⁾, 萩原信敏²⁾, 野村 務²⁾, 宮下正夫²⁾, 内田英二²⁾ (1) 坪井病院外科, 2) 日本医科大学外科): 迷走神経温存幽門側胃切除術後における残胃環境: 内視鏡および栄養学的評価. 日本外科学会定期学術集会 (112) (千葉県), 2012. 4.
- 109) 菅 隼人¹⁾, 内田英二¹⁾, 松本智司¹⁾, 山田岳史¹⁾, 小泉岐博¹⁾, 進士誠一¹⁾, 佐々木順平¹⁾, 谷 杏彌¹⁾, 原 敬介¹⁾, 古川清憲¹⁾ (1) 日本医科大学外科): S 状結腸癌術後症例における X 線不透過マーカーを用いた腸管運動の評価—大建中湯の効果の検討を中心に—. 日本外科学会定期学術集会 (112) (千葉県), 2012. 4.

- 110) 谷合信彦¹⁾, 吉岡正人¹⁾, 川野陽一¹⁾, 清水哲也¹⁾, 上田純志¹⁾, 吉田 寛²⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学外科, 2) 日本医科大学多摩永山病院外科): 肝細胞癌に対する肝切除周術期管理における血液製材の意義. 日本外科学会定期学術集会 (112) (千葉県), 2012. 4.
- 111) 松下 晃¹⁾, 吉田 寛¹⁾, 横山 正¹⁾, 牧野浩司¹⁾, 丸山 弘¹⁾, 松谷 毅¹⁾, 平方敦史¹⁾, 山初和也²⁾, 川本聖郎²⁾, 中村慶春²⁾, 相本隆幸²⁾, 内田英二²⁾ (1) 日本医科大学多摩永山病院外科, 2) 日本医科大学臓器病態制御外科): Neuropilin-1 を標的とした新たな膀胱癌治療. 日本外科学会定期学術集会 (112) (千葉県), 2012. 4.
- 112) 星野有哉¹⁾, 鈴木英之¹⁾, 中村慶春²⁾, 水谷 聡¹⁾, 五十嵐健人³⁾, 南 史朗⁴⁾, 清水一雄³⁾, 内田英二²⁾ (1) 日本医科大学武蔵小杉病院消化器病センター, 2) 日本医科大学外科, 3) 日本医科大学外科・内分泌外科, 4) 日本医科大学老人病研究所分子病理部門): 医療用スポンジスペイサーを使用した腹腔鏡下副腎摘除術. 日本外科学会定期学術集会 (112) (千葉県), 2012. 4.
- 113) 山際 亮¹⁾, 水谷 智¹⁾, 鈴木英之¹⁾, 豊田哲鎬¹⁾, 山岸征嗣¹⁾, 村木 輝¹⁾, 渡辺昌則¹⁾, 田島廣之²⁾, 内田英二³⁾ (1) 日本医科大学武蔵小杉病院 消化器病センター, 2) 日本医科大学武蔵小杉病院 血管内低侵襲治療センター, 3) 日本医科大学 外科): IVR により救命し得た膵頭部癌十二指腸出血の 1 例. 日本腹部救急医学会総会 (49) (福岡市), 2013. 3.
- 114) 松野邦彦¹⁾, 松谷 毅¹⁾, 萩原信敏¹⁾, 野村 務¹⁾, 藤田逸郎¹⁾, 金沢義一¹⁾, 小野寺浩之¹⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学 消化器外科): 高齢者食道癌手術後に門脈ガス血症と腸管囊胞様気腫症を呈した非閉塞性腸間膜虚血の 1 例. 日本腹部救急医学会総会 (49) (福岡市), 2013. 3.
- 115) 原田潤一郎¹⁾, 水口義昭¹⁾, 上田純志¹⁾, 高田英志¹⁾, 住吉宏樹¹⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学 消化器外科): 上部消化管内視鏡にて肝臓が観察された胃潰瘍穿孔の 1 例. 日本腹部救急医学会総会 (49) (福岡市), 2013. 3.
- 116) 水口義昭¹⁾, 真々田裕宏¹⁾, 有馬保生¹⁾, 中村慶春¹⁾, 谷合信彦¹⁾, 相本隆幸¹⁾, 松下 晃¹⁾, 吉岡正人¹⁾, 川野陽一¹⁾, 清水哲也¹⁾, 上田純志¹⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学 消化器外科): 計画的抗血小板薬継続投与による胆石症手術の周術期成績. 日本腹部救急医学会総会 (49) (福岡市), 2013. 3.
- 117) 萩原信敏¹⁾, 野村 務¹⁾, 松谷 毅¹⁾, 藤田逸郎¹⁾, 金沢義一¹⁾, 小野寺浩之¹⁾, 宮下正夫²⁾, 山下直行³⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学 消化器外科, 2) 日本医科大学千葉北総病院 外科, 3) 坪井病院 外科): 食道癌再手術後の内ヘルニアから門脈ガス血症と腸管囊胞様気腫症を呈した 1 例. 日本腹部救急医学会総会 (49) (福岡市), 2013. 3.
- 118) 早川朋宏¹⁾, 佐々木順平¹⁾, 横室茂樹¹⁾, 瀬谷知子¹⁾, 堀場光二¹⁾, 鶴田宏之¹⁾, 松本智司¹⁾, 櫻澤信行¹⁾, 松田明久¹⁾, 山初和也¹⁾, 高橋吾郎¹⁾, 若林秀幸¹⁾, 菊地友太¹⁾, 鈴木えりか¹⁾, 宮下正夫¹⁾, その他 2 名 (1) 日本医科大学千葉北総病院 外科, 2) 日本医科大学 外科): 大腸癌術後に発症した超高齢者の Bochdalek 孔ヘルニア嵌頓の 1 例. 日本腹部救急医学会総会 (49) (福岡市), 2013. 3.
- 119) 高田英志¹⁾, 小泉岐博¹⁾, 谷合信彦¹⁾, 川野陽一¹⁾, 上田純志¹⁾, 松野邦彦¹⁾, 住吉宏樹¹⁾, 安藤文彦¹⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学 消化器外科): 直腸癌による穿孔性虫垂炎と考えられた 1 例. 日本腹部救急医学会総会 (49) (福岡市), 2013. 3.
- 120) 水谷 聡¹⁾, 鈴木英之¹⁾, 山岸征嗣¹⁾, 村木 輝¹⁾, 大山莉奈¹⁾, 清水貴夫¹⁾, 前島顕太郎¹⁾, 小峯 修¹⁾, 吉野雅則¹⁾, 中塚雄久¹⁾, 渡辺昌則¹⁾, 内田英二²⁾ (1) 日本医科大学武蔵小杉病院 消化器病センター, 2) 日本医科大学外科): 重症急性胆管炎の検討. 日本腹部救急医学会総会 (49) (福岡市), 2013. 3.
- 121) 関口久美子¹⁾, 山田岳史¹⁾, 町田 幹²⁾, 松本智司¹⁾, 菅 隼人¹⁾, 小泉岐博¹⁾, 進士誠一¹⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学 消化器外科, 2) 日本医科大学 放射線科): Clostridium difficile 関連腸炎の早期発見に CT が有効であった 2 例. 日本腹部救急医学会総会 (49) (福岡市), 2013. 3.
- 122) 菅 隼人¹⁾, 内田英二¹⁾, 山田岳史¹⁾, 小泉岐博¹⁾, 進士誠一¹⁾, 谷 杏彌¹⁾, 原 敬介¹⁾ (1) 日本医科大学 消化器外科): 大腸憩室疾患に対する手術治療例の検討. 日本腹部救急医学会総会 (49) (福岡市), 2013. 3.
- 123) 住吉宏樹¹⁾, 牧野浩司²⁾, 平方敦史²⁾, 丸山 弘²⁾, 横山 正²⁾, 吉田 寛²⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学 消化

- 器外科, ²⁾ 日本医科大学付属多摩永山病院 消化器外科): 人工妊娠中絶後に発症した子宮, 空腸穿孔による汎発性腹膜炎の1例. 日本腹部救急医学会総会 (49) (福岡市), 2013. 3.
- 124) 豊田哲鎬¹⁾, 鈴木英之¹⁾, 吉野雅則¹⁾, 水谷 聡¹⁾, 松信哲朗¹⁾, 三浦克洋¹⁾, 清水貴夫¹⁾, 大山莉奈¹⁾, 内田英二²⁾ (¹⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院 消化器病センター, ²⁾ 日本医科大学 外科): 虫垂切除後診断された虫垂胚細胞カルチノイドの1例. 日本腹部救急医学会総会 (49) (福岡市), 2013. 3.
- 125) 星野 悠¹⁾, 鈴木英之¹⁾, 水谷 聡¹⁾, 内田英二²⁾ (¹⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院 消化器病センター, ²⁾ 日本医科大学 外科): 高齢者の内視鏡的経鼻胆道ドレナージ (ENDP) 症例の検討. 日本腹部救急医学会総会 (49) (福岡市), 2013. 3.
- 126) 山岸征嗣¹⁾, 鈴木英之¹⁾, 吉野雅則¹⁾, 松信哲郎¹⁾, 豊田哲鎬¹⁾, 野村 務¹⁾, 大山莉奈¹⁾, 水谷 聡¹⁾, 内田英二²⁾ (¹⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院 消化器病センター, ²⁾ 日本医科大学 外科): 下部消化管出血のIVR後に消化管穿孔をきたした1例. 日本腹部救急医学会総会 (49) (福岡市), 2013. 3.
- 127) 菊地友太¹⁾, 櫻澤信行¹⁾, 横室茂樹¹⁾, 瀬谷知子¹⁾, 堀場光二¹⁾, 鶴田宏之¹⁾, 松本智司¹⁾, 松田明久¹⁾, 佐々木順平¹⁾, 山初和也¹⁾, 高橋吾郎¹⁾, 若林秀幸¹⁾, 早川朋宏, 鈴木えりか, 宮下正夫, その他2名 (¹⁾ 日本医科大学千葉北総病院 外科): 術中胆道鏡によるインジゴカルミン散布が有用であったERBD後膵内胆管穿孔の1例. 日本腹部救急医学会総会 (49), 2013. 3.
- 128) 田邊智英¹⁾, 吉岡正人¹⁾, 中村慶春¹⁾, 松下 晃¹⁾, 川野陽一¹⁾, 清水哲也¹⁾, 住吉宏樹¹⁾, 相本隆幸¹⁾, 内田英二¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学 消化器外科): インスリンノーマの腹腔鏡下膵切除と術中末梢動脈血インスリン値モニタリングの有用性. 外科集団会 (828) (東京), 2013. 3.
- 129) 大山莉奈¹⁾, 松信哲朗¹⁾, 鈴木英之¹⁾, 吉野雅則¹⁾, 三浦克洋¹⁾, 豊田哲鎬¹⁾, 村木 輝¹⁾, 山際 亮¹⁾, 松岡保子¹⁾, 渡辺昌則¹⁾, 内田英二²⁾ (¹⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院 消化器病センター, ²⁾ 日本医科大学 消化器外科): 肛門部 Bowen 病の1例. 外科集団会 (828) (東京), 2013. 3.
- 130) 吉岡将史¹⁾, 進士誠一¹⁾, 原田潤一郎¹⁾, 菅 隼人¹⁾, 山田岳史¹⁾, 小泉岐博¹⁾, 上田純志¹⁾, 高田英志¹⁾, 内田英二¹⁾, 藤森俊二²⁾, 河越哲郎²⁾, 三井啓吾²⁾, 川見典之²⁾, 高橋陽子²⁾, 坂本長逸²⁾, その他1名 (¹⁾ 日本医科大学消化器外科, ²⁾ 日本医科大学 消化器内科): 原発性多発小腸癌の1例. 日本消化器病学会関東地方会 (322) (東京), 2012. 12.
- 131) 鈴木えりか¹⁾, 櫻澤信行¹⁾, 松田明久¹⁾, 菊池友太¹⁾, 横井公良¹⁾, 加藤俊二²⁾, 内田英二²⁾ (¹⁾ 日本医科大学千葉北総病院 外科, ²⁾ 日本医科大学 消化器外科): 十二指腸潰瘍穿孔術後出血を繰り返した1例. 潰瘍病態研究会 (21) (神奈川県), 2012. 8.
- 132) 上田純志¹⁾, 吉田 寛¹⁾, 谷合信彦¹⁾, 吉岡正人¹⁾, 川野陽一¹⁾, 水口義昭¹⁾, 清水哲也¹⁾, 高田英志¹⁾, 内田英二¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学大学院 臓器病態制御外科学): 肝細胞癌におけるソナゾイド造影超音波検査所見と血管マーカーの検討. 日本消化器病学会大会 (54) (神戸市), 2012. 10.
- 133) 松下 晃¹⁾, 川本聖郎¹⁾, 清水哲也¹⁾, 川野陽一¹⁾, 水口義昭¹⁾, 吉岡正人¹⁾, 松谷 毅¹⁾, 松本智司¹⁾, 中村慶春¹⁾, 相本隆幸¹⁾, 平方敦史²⁾, 横山 正²⁾, 吉田 寛²⁾, 内田英二¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学 消化器外科, ²⁾ 日本医科大学多摩永山病院 外科): ヒト膵癌におけるSTAT5の発現および臨床病理学的検討. 日本消化器病学会大会 (54) (神戸市), 2012. 10.
- 134) 山下直行¹⁾, 湖山信篤¹⁾, 菅野仁士¹⁾, 岩井拓磨¹⁾, 萩原信敏²⁾, 藤田逸郎²⁾, 金沢儀一²⁾, 小野寺浩之²⁾, 加藤俊二²⁾, 宮下正夫²⁾, 内田英二²⁾ (¹⁾ 坪井病院 外科, ²⁾ 日本医科大学 消化器外科): 長期予後を見据えた上部限局胃癌に対する迷走神経温存胃漿筋筋層縦切開噴門形成術 (NP-EGP). 日本消化器関連学会週間 (神戸市), 2012. 10.
- 135) 永嶋裕司¹⁾, 安田正俊¹⁾, 三浦富宏¹⁾, 岩崎 衛¹⁾, 佐藤 康²⁾, 川村 徹²⁾, 中嶋 昭²⁾, 三浦妙太³⁾, 吉田 寛⁴⁾, 内田英二⁵⁾ (¹⁾ 玉川病院 消化器内科, ²⁾ 玉川病院 外科, ³⁾ 玉川病院 病理部, ⁴⁾ 日本医科大学多摩永山病院 外科, ⁵⁾ 日本医科大学大学院 臓器病態制御外科学): 当院で経験した腸管気腫症の検討. 日本消化器関連学会

週間 (20) (神戸市), 2012. 10.

- 136) 松谷 毅¹⁾, 松田明久¹⁾, 野村 務¹⁾, 藤田逸郎¹⁾, 金沢義一¹⁾, 萩原信敏¹⁾, 小野寺浩之¹⁾, 丸山 弘²⁾, 牧野浩司²⁾, 宮下正夫¹⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学 消化器外科, 2) 日本医科大学多摩永山病院 外科): 消化器癌手術による生体反応と性差: 脂肪細胞機能としてのアディポサイトカインを中心に. 消化器関連学会週間 (20) (神戸市), 2012. 10.
- 137) 水谷 聡¹⁾, 鈴木英之¹⁾, 吉田 寛²⁾, 谷合信彦³⁾, 山岸正嗣¹⁾, 村木 輝¹⁾, 八木亜紀¹⁾, 前島顕太郎¹⁾, 小峯修¹⁾, 吉野雅則¹⁾, 星野有哉¹⁾, 渡辺昌則¹⁾, 内田英二³⁾ (1) 日本医科大学武蔵小杉病院 消化器病センター, 2) 日本医科大学多摩永山病院 外科, 3) 日本医科大学 消化器外科): 肝門部胆管癌に対する術前 ERCP の工夫. 日本消化器内視鏡学会総会 (84) (神戸市), 2012. 10.
- 138) 清水哲也¹⁾, 吉岡正人¹⁾, 松下 晃¹⁾, 水口義昭¹⁾, 川野陽一¹⁾, 中村慶春¹⁾, 相本隆幸¹⁾, 谷合信彦¹⁾, 真々田裕宏¹⁾, 有馬保生¹⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学 消化器外科): ERCP 関連後腹膜穿孔の治療方針: 手術適応をどう判断するか. 日本消化器内視鏡学会総会 (84) (神戸市), 2012. 10.
- 139) 中村慶春¹⁾, 松本智司¹⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学 消化器外科): 当科における腹腔鏡下臍中央切除 (Lap-CP) の手術手技について. 日本消化器内視鏡学会総会 (84) (神戸市), 2012. 10.
- 140) 吉岡正人¹⁾, 中村慶春¹⁾, 松下 晃¹⁾, 清水哲也¹⁾, 山初和也¹⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学 消化器外科): 若年発症の IPMN に対し, 腹腔鏡下臍中央切除術を施行した 1 例. 日本消化器内視鏡学会総会 (84) (神戸市), 2012. 10.
- 141) 萩原信行¹⁾, 櫻澤信行¹⁾, 野村 務¹⁾, 牧野浩司¹⁾, 松谷 毅¹⁾, 大川敬一¹⁾, 加藤俊二¹⁾, 藤田逸郎¹⁾, 金沢義一¹⁾, 小野寺浩之¹⁾, 山下直行²⁾, 赤城一郎¹⁾, 篠塚恵理子¹⁾, 宮下正夫¹⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学 消化器外科, 2) 坪井病院 外科): 食道癌術後縫合不全にたいしての内視鏡的クリッピング処置の工夫. 日本消化器内視鏡学会総会 (84) (神戸市), 2012. 10.
- 142) 松谷 毅¹⁾, 野村 務¹⁾, 藤田逸郎¹⁾, 金沢義一¹⁾, 萩原信敏¹⁾, 丸山 弘²⁾, 牧野浩司²⁾, 早川朋宏²⁾, 岩切勝彦³⁾, 河越哲郎³⁾, 川見典之³⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学 消化器外科, 2) 日本医科大学多摩永山病院 外科, 3) 日本医科大学 消化器内科): 食道癌術後に輪状甲状膜切開で挿入した気管カニューレによる気管膜様部損傷に対し気管ステントを留置した 1 例. 日本消化器内視鏡学会総会 (84) (神戸市), 2012. 10.
- 143) 小野寺浩之¹⁾, 加藤俊二¹⁾, 櫻澤信行¹⁾, 金沢義一¹⁾, 萩原信敏¹⁾, 山下直行¹⁾, 牧野浩司²⁾, 野村 務¹⁾, 藤田逸郎¹⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学 消化器外科, 2) 日本医科大学多摩永山病院 外科): 栄養経路, ドレナージとしての消化管瘻増設 (PEG, PTEG, PEJ) の適応と課題. 日本消化器内視鏡学会総会 (84) (神戸市), 2012. 10.
- 144) 藤田逸郎¹⁾, 小野寺浩之¹⁾, 金沢義一¹⁾, 櫻澤信行¹⁾, 萩原信敏¹⁾, 松谷 毅¹⁾, 牧野浩司²⁾, 野村 務¹⁾, 木山輝郎¹⁾, 加藤俊二¹⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学大学院 臓器病態制御外科, 2) 日本医科大学多摩永山病院 外科): 大学病院における栄養管理目的の PEG のてきおう m と現状. 日本消化器内視鏡学会総会 (84) (神戸市), 2012. 10.
- 145) 関 奈紀¹⁾, 牧野浩司¹⁾, 横山 正¹⁾, 丸山 弘¹⁾, 平方敦史¹⁾, 高尾嘉宗¹⁾, 住吉宏樹¹⁾, 坂田義則¹⁾, 堀田正啓¹⁾, 吉田 寛¹⁾, 内田英二²⁾ (1) 日本医科大学多摩永山病院 外科, 2) 日本医科大学 消化器外科): 10 年間無治療にて緩徐な進行をしている胃癌の経過観察されている 1 例. 日本消化器内視鏡学会総会 (84) (神戸市), 2012. 10.
- 146) 野村 務¹⁾, 松谷 毅¹⁾, 萩原信敏¹⁾, 藤田逸郎¹⁾, 金沢義一¹⁾, 小野寺浩之¹⁾, 中村慶春¹⁾, 牧野浩司²⁾, 丸山弘²⁾, 川見典之³⁾, 岩切勝彦³⁾, 宮下正夫¹⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学大学院 臓器病態制御外科学, 2) 日本医科大学多摩永山病院 外科, 3) 日本医科大学大学院 器官機能病態内科学): びまん性食道癌に対する外科治療: 腹臥位胸鏡下 long myotomy の経験. 日本消化器内視鏡学会総会 (84) (神戸市), 2012. 10.
- 147) 川野陽一¹⁾, 谷合信彦¹⁾, 吉岡正人¹⁾, 松下 晃¹⁾, 水口義昭¹⁾, 清水哲也¹⁾, 上田純志¹⁾, 中村慶春¹⁾, 松本智

- 司¹⁾, 吉田 寛²⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学 消化器外科, 2) 日本医科大学多摩永山病院 外科): 当科における鏡視下肝切除を安全におこなうための様々な手技の工夫. 日本消化器外科学会大会 (10) (神戸市), 2012. 10.
- 148) 相本隆幸¹⁾, 内田英二¹⁾, 川野陽一¹⁾, 松下 晃¹⁾, 水谷 聡²⁾, 鈴木英之²⁾ (1) 日本医科大学 消化器外科, 2) 日本医科大学多摩永山病院 消化器病センター): 膵癌に対する左方アプローチ膵頭十二指腸切除術. 日本消化器外科学会大会 (10) (神戸市), 2012. 10.
- 149) 松下 晃¹⁾, 山初和也¹⁾, 清水哲也¹⁾, 川野陽一¹⁾, 吉岡正人¹⁾, 中村慶春¹⁾, 相本隆幸¹⁾, 平方敦史²⁾, 横山 正²⁾, 吉田 寛²⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学 消化器外科, 2) 日本医科大学多摩永山病院 外科): CEM, S1による術前化学療法後, R0手術を施行したborderline resectable 膵頭部癌の2例. 日本消化器外科学会大会 (10) (神戸市), 2012. 10.
- 150) 中田亮輔¹⁾, 鈴木英之¹⁾, 小峯 修¹⁾, 渡辺昌則¹⁾, 星野有哉¹⁾, 坊 英樹¹⁾, 吉野雅則¹⁾, 水谷 聡¹⁾, 千原直人¹⁾, 松信哲朗¹⁾, 前島顕太郎¹⁾, 三浦克洋¹⁾, 村木 輝¹⁾, 三島圭介¹⁾, 内田英二²⁾ (1) 日本医科大学武蔵小杉病院 消化器病センター, 2) 日本医科大学 消化器外科): 消化管位置置換異常を伴う虫垂炎に対する腹腔鏡手術の有用性. 日本消化器外科学会大会 (10) (神戸市), 2012. 10.
- 151) 青木悠人¹⁾, 山田岳史¹⁾, 菅 隼人¹⁾, 松本智司²⁾, 小泉岐博¹⁾, 原絵津子¹⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学 消化器外科, 2) 日本医科大学千葉北総病院 外科): 造影CTによる絞扼性イレウス診断. 日本消化器外科学会大会 (10) (神戸市), 2012. 10.
- 152) 牧野浩司¹⁾, 丸山 弘¹⁾, 吉田 寛¹⁾, 横山 正¹⁾, 平方敦史¹⁾, 宮下正夫¹⁾, 野村 務¹⁾, 松谷 毅¹⁾, 萩原信敏¹⁾, 高尾嘉宗¹⁾, 住吉宏樹¹⁾, 坂田義則¹⁾, 関 奈紀¹⁾, 堀田正啓¹⁾, 早川朋宏¹⁾, その他1名 (1) 日本医科大学多摩永山病院 外科, 2) 日本医科大学 外科): 縦隔鏡補助下と胸腔鏡補助下食道切除術を用いた当科の高齢者に対する食道癌手術. 日本消化器外科学会大会 (10) (神戸市), 2012. 10.
- 153) 野村 務¹⁾, 松谷 毅¹⁾, 萩原信敏¹⁾, 牧野浩司²⁾, 丸山 弘²⁾, 藤田逸郎¹⁾, 小野寺浩之¹⁾, 中村慶春¹⁾, 千原直人³⁾, 渡辺昌則³⁾, 小峰 修³⁾, 鈴木英之³⁾, 土屋喜一⁴⁾, 勝田美和子⁴⁾, 川本聖郎⁴⁾, その他2名 (1) 日本医科大学大学院 臓器病態制御外科学, 2) 日本医科大学多摩永山病院 外科, 3) 日本医科大学武蔵小杉病院消化器病センター, 4) 佼成病院): III型食道裂孔ヘルニアに対するカラーゲンフィルム付き半吸収性メッシュの使用経験. 日本消化器外科学会大会 (10) (神戸市), 2012. 10.
- 154) 千原直人¹⁾, 野村 務²⁾, 鈴木英之¹⁾, 渡辺昌則¹⁾, 小峯 修¹⁾, 水谷 聡¹⁾, 中田亮輔¹⁾, 内田英二²⁾ (1) 日本医科大学武蔵小杉病院 消化器病センター, 2) 日本医科大学 消化器外科): Upside down stomachを合併した巨大食道裂孔ヘルニアに対する腹腔鏡下修復術: Barbed suture と Mesh の使用経験. 日本消化器外科学会大会 (10) (神戸市), 2012. 10.
- 155) 木山輝郎¹⁾, 藤田逸郎¹⁾, 小野寺浩之¹⁾, 櫻澤信行¹⁾, 加藤俊二¹⁾, 金沢義一¹⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学 消化器外科): 腹腔鏡下胃切除後の体内内連続縫合の工夫. 日本消化器外科学会大会 (10) (神戸市), 2012. 10.
- 156) 坊 英樹¹⁾, 前島顕太郎¹⁾, 松信哲朗¹⁾, 小峯 修¹⁾, 吉野雅則¹⁾, 渡辺昌則¹⁾, 鈴木英之¹⁾, 徳永 昭¹⁾, 内田英二²⁾ (1) 日本医科大学武蔵小杉病院 消化器病センター, 2) 日本医科大学大学院 臓器病態制御外科学): 消化器癌手術における手術部位感染防止に対する真皮縫合. 日本消化器外科学会大会 (10) (神戸市), 2012. 10.
- 157) 山田岳史¹⁾, 菅 直人¹⁾, 松本智司¹⁾, 小泉岐博¹⁾, 進士誠一¹⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学 消化器外科): 消化器癌における早期緩和ケアの重要性: 特に疼痛治療, 栄養支持療法について. 日本消化器外科学会大会 (10) (神戸市), 2012. 10.
- 158) 豊田哲鎬¹⁾, 萩原英之¹⁾, 小笠原康夫¹⁾, 小泉正樹¹⁾, 安部 豊¹⁾, 加納恒久¹⁾, 名取穰治¹⁾, 内山喜一郎¹⁾, 松本光司²⁾, 鈴木英之³⁾, 内田英二⁴⁾ (1) 海老名総合病院 外科, 2) 海老名総合病院 病理診断科, 3) 日本医科大学武蔵小杉病院 消化器病センター, 4) 日本医科): 胃癌の診断で術前化学療法を行い食道類基底細胞癌と術後診断された1例. 日本消化器外科学会大会 (10) (神戸市), 2012. 10.

- 159) 山下直行¹⁾, 湖山信篤¹⁾, 菅野仁士¹⁾, 岩井拓磨¹⁾, 萩原信敏²⁾, 藤田逸郎²⁾, 金沢義一²⁾, 小野寺浩之²⁾, 加藤俊二²⁾, 宮下正夫²⁾, 内田英二²⁾ (1) 坪井病院 外科, (2) 日本医科大学 消化器外科) : 進行再発胃癌の治療における軽腸栄養(経口接種)の重要性. 日本消化器外科学会大会 (10) (神戸市), 2012. 10.
- 160) 金沢義一¹⁾, 藤田逸郎¹⁾, 萩原信敏¹⁾, 松谷 毅¹⁾, 山下直行²⁾, 加藤俊二¹⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学 消化器外科, (2) 坪井病院 外科) : 高度進行胃癌に対する Palliation 手術の功罪. 日本消化器外科学会大会 (10) (神戸市), 2012. 10.
- 161) 前島顕太郎¹⁾, 坊 英樹¹⁾, 鈴木英之¹⁾, 渡辺昌則¹⁾, 小峯 修¹⁾, 吉野雅則¹⁾, 水谷 聡¹⁾, 千原直人¹⁾, 松信哲朗¹⁾, 内田英二²⁾ (1) 日本医科大学武蔵小杉病院 消化器病センター, (2) 日本医科大学 消化器外科) : 80歳以上高齢者胃癌手術における E-PASS scoring system と術後合併症の検討. 日本消化器外科学会大会 (10) (神戸市), 2012. 10.
- 162) 松田明久¹⁾, 松谷 毅²⁾, 丸山 弘³⁾, 横室茂樹¹⁾, 瀬谷知子¹⁾, 堀場光二¹⁾, 松本智司¹⁾, 鶴田宏之¹⁾, 櫻澤信行¹⁾, 佐々木順平¹⁾, 横山 正³⁾, 田中宣威¹⁾, 横井公良¹⁾, 内田英二²⁾ (1) 日本医科大学千葉北総病院 外科, (2) 日本医科大学大学院 臓器病態制御外科学, (3) 日本医科大学多摩永山病院 外科) : 上部消化管癌手術における脂肪細胞機能低下の術後合併症発生への関与. 日本消化器外科学会大会 (10) (神戸市), 2012. 10.
- 163) 進士誠一¹⁾, 松本智司¹⁾, 菅 隼人¹⁾, 藤田逸郎¹⁾, 山田岳史¹⁾, 萩原信敏¹⁾, 小泉岐博¹⁾, 山岸杏彌¹⁾, 武田幸喜¹⁾, 原 啓介¹⁾, 高 和英¹⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学 消化器外科) : 単孔式腹腔鏡補助下十二指腸空腸吻合術を施行した上腸間膜動脈症候群の1例. 日本消化器外科学会大会 (10) (神戸市), 2012. 10.
- 164) 小泉岐博¹⁾, 内田英二¹⁾, 菅 隼人¹⁾, 山田岳史¹⁾, 進士誠一¹⁾, 山岸杏彌¹⁾, 原 啓介¹⁾, 松本智司²⁾ (1) 日本医科大学 消化器外科, (2) 日本医科大学千葉北総病院 外科) : 小腸疾患に対する単孔式腹腔鏡下手術の有用性. 日本消化器外科学会大会 (10) (神戸市), 2012. 10.
- 165) 松野邦彦¹⁾, 松下 晃¹⁾, 山初和也¹⁾, 清水哲也¹⁾, 川野陽一¹⁾, 吉岡正人¹⁾, 中村慶春¹⁾, 相本隆幸¹⁾, 内田 (1) 日本医科大学 消化器外科) : mFOLFOX6 による化学療法が奏功した肝転移, リンパ節転移を伴う隣接存癌の1切除例. 日本消化器外科学会大会 (10) (神戸市), 2012. 10.
- 166) 鈴木英之¹⁾, 渡辺昌則¹⁾, 吉野雅則¹⁾, 松信哲朗¹⁾, 千原直人¹⁾, 三浦克洋¹⁾, 中田亮輔¹⁾, 菅 隼人²⁾, 内田英二²⁾ (1) 日本医科大学武蔵小杉病院 消化器病センター, (2) 日本医科大学 消化器外科) : 緊急手術におけるストーマ合併症の検討と対策. 日本消化器外科学会大会 (10) (神戸市), 2012. 10.
- 167) 宮元亮子¹⁾, 金子恵子¹⁾, 清水秀治¹⁾, 川本智章¹⁾, 水野杏一¹⁾, 安井大祐²⁾, 秋葉絢子²⁾, 中澤 賢²⁾, 村田 智²⁾, 清水哲也³⁾, 川野陽一³⁾, 谷合信彦³⁾, 真々田裕宏³⁾ (1) 日本医科大学 肝臓内科, (2) 日本医科大学 放射線科, (3) 日本医科大学 消化器外科) : 当院における Sorafenib の臨床使用経験. 日本消化器病学会大会 (54) (神戸市), 2012. 10.
- 168) 吉岡正人¹⁾, 中村慶春¹⁾, 松下 晃¹⁾, 川野陽一¹⁾, 清水哲也¹⁾, 谷合信彦¹⁾, 相本隆幸¹⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学 消化器外科) : 臍液瘻に対する洗浄ドレーンの有用性. 日本腹部救急医学会総会 (49) (福岡市), 2013. 3.
- 169) Ueda J¹⁾, Yoshida H¹⁾, Mamada Y¹⁾, Tani ai N¹⁾, Yoshioka M¹⁾, Kawano Y¹⁾, Simizu T¹⁾, Takata H¹⁾, Mizuguchi Y¹⁾ (1) Department of surgery, Nippon Medical School) : Surgical Resection of a Leiomyosarcoma of the Inferior Vena Cava Mimicking Hepatic Tumor : CASE REPORT [368]. World Congress of the International Association of Surgeons, Gastroenterologists and Oncologists (22) (Thailand), 2012. 12.
- 170) Ueda J¹⁾, Yoshida H¹⁾, Mamada Y¹⁾, Tani ai N¹⁾, Yoshioka M¹⁾, Kawano Y¹⁾, Simizu T¹⁾, Takata H¹⁾, Uchida E¹⁾ (1) Nippon Medical School Department of Surgery) : Transmesocolic Hernia of Ascending Colon with Intestinal Obstruction [449]. World Congress of the International Association of Surgeons, Gastroenterologists and Oncologists (22) (Thailand), 2012. 12.
- 171) Takata H¹⁾, Mtsumoto S¹⁾, Tani ai N¹⁾, Kawano Y¹⁾, Ueda J¹⁾, Yikoi K¹⁾, Uchida E¹⁾ (1) Nippon Medical

- School Department of Surgery) : A Case of Hemangioma of the A Small Intestine Thet was Diagnosed Preoperatively and Resected Using Single Port Laparoscopic Surgery [563]. World Congress of the Intemational Association of Surgeons, Gastroenterologists and Oncologists (22) (Thailand), 2012. 12.
- 172) Takata H¹, Matsuda A¹, Matsumoto S¹, Taniai N¹, Kawano Y¹, Ueda J¹, Yokoi K¹, Uchida E¹ (¹ Nippon Medical School Department of Surgery) : A Case of Hemangioma of Wide Ranged Non-Occlusive Mesenteric Ischemia Associated With Duodenal Ischemia [567]. World Congress of the Intemational Association of Surgeons, Gastroenterologists and Oncologists (22) (Thailand), 2012. 12.
- 173) Taniai N¹, Kawano Y¹, Ueda J¹, Takata H¹, Uchida E¹ (¹ Department of Surgery, Nippon Medical School) : Hepatectomy And Chemorterapy for Intrahepatic Cholangiocarcinoma [474]. World Congress of the Intemational Association of Surgeons, Gastroenterologists and Oncologists (22) (Thailand), 2012. 12.
- 174) Kawano Y¹, Aimoto T¹, Taniai N¹, Mamada H¹, Toshida H¹, Nakamura Y¹, Yoshioka M¹, Matsushita A¹, Shimizu T¹, Mizuguchi Y¹, Ueda J¹, Takata H¹, Uchida E¹ (¹ Department of Surgery, Nippon Medical School) : Interventional Radiology for Arterial Hemorrhage after Pancreatic Resection [565]. World Congress of the Intemational Association of Surgeons, Gastroenterologists and Oncologists (22) (Thailand), 2012. 12.
- 175) Kan H¹, Uchida E¹, Matsumoto S¹, Tsuruta H¹, Yamada T¹, Koizumi M¹, Shinji S¹, Sasaki J¹, Yamagishi A¹, Hara K¹ (¹ Department of Surgery, Nippon Medical School) : Comparison of Postoperative Intestinal Motility Using Radiopaque Markers in Patients that Underwent Radical Conventional Open Surgery and Laparoscopic Surgery for Colon Cancer [630]. World Congress of the Intemational Association of Surgeons, Gastroenterologists and Oncologists (22) (Thailand), 2012. 12.
- 176) Matsuda A¹, Matsumoto S¹, Kan H², Yamada T², Koizumi M², Sinji S², Sasaki J¹, Tani A², Yokoi K¹, Uchida E² (¹ Departmennt of Surgery, Nippon Medical School Chiba-Hokuso Hospital, ² Departmennt of Surgery, Nippon Medical School) : The Effect of Intraoperative Rectal Washout on Local Recurrence after Rectal Cancer Surgery : A Meta-Analysis. KOREA-JAPAN-CHINA (KJC) COLORECTAL CANCER (CRC) SYMPOSIUM (Seoul, Korea), 2012. 9.
- 177) Sasaki J¹, Matsuda A¹, Matsumoto S¹, Kan H², Yamada T², Koizumi M², Sinji S², Tani A², Yokoi K¹, Uchida E² (¹ Departmennt of Surgery, Nippon Medical School Chiba-Hokuso Hospital, ² Departmennt of Surgery, Nippon Medical School) : Does Postoperative Complication Have a Negative Impact on Long-Term Outcomesfollowing Hepatic Resection for Colorectal Liver Metastasis? : A Meta-Analysis. KOREA-JAPAN-CHINA (KJC) COLORECTAL CANCER (CRC) SYMPOSIUM (Seoul, Korea), 2012. 9.
- 178) Suzuki H¹, Yoshino M¹, Matsunobu T¹, Miura K¹, Toyoda T¹, Nakata R¹, Oyama R¹, Watanabe M¹, Uchida E² (¹ Insutitute of Gastroenterology , Nippon Medical School Musashikosugi Hospital, ² Departmennt of Surgery, Nippon Medical School) : Cost-effectiveness of advanced colorectal cancer chemotherapy in Japan. KOREA-JAPAN-CHINA (KJC) COLORECTAL CANCER (CRC) SYMPOSIUM (Seoul, Korea), 2012. 9.
- 179) Nakata R¹, Suzuki H¹, Yoshino M¹, Matsunobu T¹, Watanabe M¹, Chihara N¹, Miura K¹, Uchida E² (¹Insutitute of Gastroenterology , Nippon Medical School Musashikosugi Hospital, ²Departmennt of Surgery, Nippon Medical School) : A case of early perforation after the colorectal tube placement in an obstructive transvers colon cancer. KOREA-JAPAN-CHINA (KJC) COLORECTAL CANCER (CRC) SYMPOSIUM (Seoul, Korea), 2012. 9.
- 180) Rina O¹, Suzuki H¹, Yoshino M¹, Matsunobu T¹, Miura K¹, Toyoda T¹, Nakata R¹, Mizutani S¹, Watanabe M², Uchida E (¹ Insutitute of Gastroenterology , Nippon Medical School Musashikosugi Hospital,

- 2) Department of Surgery, Nippon Medical School) : A case of advanced colorectal cancer with Virchows metastasis achieving clinical complete remission (Virchow と s の間にアポストフィー). KOREA-JAPAN-CHINA (KJC) COLORECTAL CANCER (CRC) SYMPOSIUM (Seoul, Korea), 2012. 9.
- 181) Yamada T¹⁾, Matsumoto S¹⁾, Kan H¹⁾, Koizumi M¹⁾, Matsuda A¹⁾, Sinji S¹⁾, Sasaki J¹⁾, Uchida E¹⁾ ¹⁾ (1) Department of Surgery, Nippon Medical School) : Surgical techniques for standardization of laparoscopic low anterior resection. KOREA-JAPAN-CHINA (KJC) COLORECTAL CANCER (CRC) SYMPOSIUM (Seoul, Korea), 2012. 9.
- 182) Tani A^{1,2)}, Matsumoto S¹⁾, Kan H¹⁾, Yamada T¹⁾, Koizumi M¹⁾, Sinji S¹⁾, Sasaki J¹⁾, Hara K^{1,2)}, Uchida E¹⁾, Watanabe A²⁾, Shimada T²⁾ ¹⁾ Department of Surgery, Nippon Medical School, ²⁾ Department of Biochemistry and Molecular Biology, Nippon Medical School) : Time-dependent change of gene expressions by microarray analysis in colon cancer tissue. KOREA-JAPAN-CHINA (KJC) COLORECTAL CANCER (CRC) SYMPOSIUM (Seoul, Korea), 2012. 9.
- 183) 吉野雅則¹⁾, 鈴木英之¹⁾, 渡辺昌則¹⁾, 松信哲朗¹⁾, 三浦克洋¹⁾, 中田亮輔¹⁾, 内田英二²⁾ ¹⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院消化器病センター, ²⁾ 日本医科大学外科・消化器外科) : 血清 p53 抗体上昇が発見契機となった大腸癌肝転移再発の切除例. 日本消化器外科学会総会 (67) (富山市), 2012. 7.
- 184) 牧野浩司¹⁾, 丸山 弘¹⁾, 吉田 寛¹⁾, 横山 正¹⁾, 平方敦史¹⁾, 宮下正夫²⁾, 野村 務²⁾, 松谷 毅²⁾, 萩原信敏²⁾, 内田英二²⁾ ¹⁾ 日本医科大学多摩永山病院 外科, ²⁾ 日本医科大学外科・消化器外科) : 腹臥位腹腔鏡下食道癌手術における左側上縦隔の展開の工夫と施設異動による手術時間と出血量の減少. 日本消化器外科学会総会 (67) (富山市), 2012. 7.
- 185) 坂田義則¹⁾, 野村 務¹⁾, 松谷 毅¹⁾, 萩原信敏¹⁾, 牧野浩司²⁾, 丸山 弘²⁾, 加藤俊二¹⁾, 藤田逸郎¹⁾, 宮下正夫¹⁾, 内田英二¹⁾ ¹⁾ 日本医科大学外科・消化器外科, ²⁾ 日本医科大学多摩永山病院外科) : 胃食道逆流症による重症肺炎に対して腹腔鏡下逆流防止術が著効した1例. 日本消化器外科学会総会 (67) (富山市), 2012. 7.
- 186) 谷 杏彌^{1, 2)}, 内田英二¹⁾, 松本智司¹⁾, 菅 隼人¹⁾, 山田岳史¹⁾, 小泉岐博¹⁾, 進士誠一¹⁾, 原 敬介^{1, 2)}, 島田隆²⁾, 渡邊 淳^{2, 3)} ¹⁾ 日本医科大学外科・消化器外科, ²⁾ 日本医科大学大学院 分子遺伝学, ³⁾ 日本医科大学付属病院 ゲノム先端医療部) : マイクロアレイを用いた大腸癌組織における経時的遺伝子発現変化の検討. 日本消化器外科学会総会 (67) (富山市), 2012. 7.
- 187) 坊 英樹¹⁾, 前島顕太郎¹⁾, 三浦克洋¹⁾, 小峯 修¹⁾, 吉野雅則¹⁾, 渡辺昌則¹⁾, 鈴木英之¹⁾, 徳永 昭¹⁾, 内田英二²⁾ ¹⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院消化器病センター, ²⁾ 日本医科大学大学院臓器病態制御外科) : 消化器がん手術における手術部位感染防止に対する真皮縫合. 日本消化器外科学会総会 (67) (富山市), 2012. 7.
- 188) 横山 正¹⁾, 吉田 寛¹⁾, 平方敦史¹⁾, 牧野浩司¹⁾, 丸山 弘¹⁾, 高尾嘉宗¹⁾, 住吉宏樹¹⁾, 関 奈紀¹⁾, 早川朋宏¹⁾, 内田英二²⁾ : 超高齢者の臍頭十二指腸切除術症例からみた術前から術後にかけての要点. 日本消化器外科学会総会 (67) (富山市), 2012. 7.
- 189) 原絵津子¹⁾, 山田岳史¹⁾, 松本智司¹⁾, 菅 隼人¹⁾, 小泉岐博¹⁾, 内田英二¹⁾ ¹⁾ 日本医科大学外科・消化器外科) : 当科における腹腔鏡下虫垂切除術の変遷 : hybrid 手術の有用性. 日本消化器外科学会総会 (67) (富山市), 2012. 7.
- 190) 松田明久¹⁾, 横井公良¹⁾, 横室茂樹¹⁾, 瀬谷知子¹⁾, 堀場光二¹⁾, 鶴田宏之¹⁾, 白川 毅¹⁾, 佐々木順平¹⁾, 田中宣威¹⁾, 内田英二²⁾ ¹⁾ 日本医科大学千葉北総病院外科, ²⁾ 日本医科大学外科・消化器外科) : 直腸癌前方切除術における術中直腸洗浄の局所再発抑制効果 : メタアナリシスによる検討. 日本消化器外科学会総会 (67) (富山市), 2012. 7.
- 191) 前島顕太郎¹⁾, 鈴木英之¹⁾, 渡辺昌則¹⁾, 坊 英樹¹⁾, 小峯 修¹⁾, 吉野雅則¹⁾, 水谷 聡¹⁾, 内田英二²⁾ ¹⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院消化器病センター, ²⁾ 日本医科大学外科・消化器外科) : 切除不能信仰・再発胃癌に対する S-1+CDDP 療法の有害事象対策と外来化学療法への導入. 日本消化器外科学会総会 (67) (富山市), 2012.

7.

- 192) 松谷 毅¹⁾, 野村 務¹⁾, 萩原信敏¹⁾, 丸山 弘²⁾, 牧野浩司²⁾, 藤田逸郎¹⁾, 金沢儀一¹⁾, 櫻澤信行¹⁾, 宮下正夫¹⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学外科・消化器外科, 2) 日本医科大学多摩永山病院外科): 腹臥位胸腔鏡下食道切除術の工夫と治療成績. 日本消化器外科学会総会 (67) (富山市), 2012. 7.
- 193) 山初和也¹⁾, 中村慶春¹⁾, 松本智司¹⁾, 松下 晃¹⁾, 吉岡正人¹⁾, 清水哲也¹⁾, 田尻 孝¹⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学外科・消化器外科): 鏡視下臍縮小手術の手術手技. 日本消化器外科学会総会 (67) (富山市), 2012. 7.
- 194) 木山輝郎¹⁾, 藤田逸郎¹⁾, 小野寺浩之¹⁾, 櫻澤信行¹⁾, 加藤俊二¹⁾, 菅野仁士¹⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学外科・消化器外科): 腹腔鏡補助下胃全摘における再建の工夫. 日本消化器外科学会総会 (67) (富山市), 2012. 7.
- 195) 平方敦史¹⁾, 吉田 寛¹⁾, 横山 正¹⁾, 牧野浩司¹⁾, 丸山 弘¹⁾, 関 奈紀¹⁾, 高尾嘉宗¹⁾, 住吉宏樹¹⁾, 堀田正啓²⁾, 内田英二 (1) 日本医科大学多摩永山病院外科, 2) 日本医科大学大学院臓器病態制御外科): LigaSure Small Jaw による肝切除の工夫. 日本消化器外科学会総会 (67) (富山市), 2012. 7.
- 196) 吉岡正人¹⁾, 谷合信彦¹⁾, 川野陽一¹⁾, 清水哲也¹⁾, 上田純志¹⁾, 真々田裕宏¹⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学外科・消化器外科): 肝門部胆管癌に対する肝動脈, 門脈再建を伴う左三区域切除. 日本消化器外科学会総会 (67) (富山市), 2012. 7.
- 197) 丸山 弘¹⁾, 牧野浩司¹⁾, 吉田 寛¹⁾, 横山 正¹⁾, 平方敦史¹⁾, 野村 務²⁾, 松谷 毅²⁾, 萩原信敏²⁾, 宮下正夫²⁾, 内田英二²⁾ (1) 日本医科大学多摩永山病院外科, 2) 日本医科大学外科・消化器外科): 腹臥位胸腔鏡下食道切除における食道ストリッピングによる 106 racL の廓清. 日本消化器外科学会総会 (67) (富山市), 2012. 7.
- 198) 上田純志¹⁾, 谷合信彦¹⁾, 吉田 寛²⁾, 真々田裕宏¹⁾, 吉岡正人¹⁾, 川野陽一¹⁾, 水口義昭¹⁾, 清水哲也¹⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学大学院臓器病態制御外科, 2) 日本医科大学多摩永山病院外科): 稀な肝腫瘍に対するソナゾイド造影超音波検査の検討. 日本消化器外科学会総会 (67) (富山市), 2012. 7.
- 199) 松本智司¹⁾, 菅 隼人¹⁾, 山田岳史¹⁾, 小泉岐博¹⁾, 進士誠一¹⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学外科・消化器外科): 右側結腸がんに対する単孔式手術の役割. 日本消化器外科学会総会 (67) (富山市), 2012. 7.
- 200) 原 啓介¹⁾, 内田英二¹⁾, 菅 隼人¹⁾, 松本智司¹⁾, 山田岳史¹⁾, 小泉岐博¹⁾, 山岸杏彌¹⁾ (1) 日本医科大学外科・消化器外科): 遠隔転移そ巣切除の観点からおこなった大腸癌 stageIV の細分類. 日本消化器外科学会総会 (67) (富山市), 2012. 7.
- 201) 清水哲也¹⁾, 中村慶春¹⁾, 松本智司¹⁾, 吉岡正人¹⁾, 松下 晃¹⁾, 山初和也¹⁾, 谷合信彦¹⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学外科・消化器外科): 腹腔鏡下臍切除術における臍消化管吻合操作の工夫. 日本紹介外科学会総会 (67) (富山市), 2012. 7.
- 202) 萩原信敏¹⁾, 野村 務¹⁾, 宮下正夫¹⁾, 牧野浩司¹⁾, 松谷 毅¹⁾, 丸山 弘¹⁾, 岩切勝彦²⁾, 藤田逸郎¹⁾, 山下直行³⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学外科・消化器外科, 2) 日本医科大学 消化器内科, 3) 慈山会坪井病院外科): III 型食道裂孔ヘルニアに対する腹腔鏡下手術. 日本消化器外科学会総会 (67) (富山市), 2012. 7.
- 203) 小泉岐博¹⁾, 内田英二¹⁾, 菅 隼人¹⁾, 松本智司¹⁾, 山田岳史¹⁾, 山岸杏彌¹⁾, 原 敬介¹⁾ (1) 日本医科大学外科・消化器外科): 腹腔鏡下直腸癌手術における側方廓清の手術手技と短期成績. 日本消化器外科学会総会 (67) (富山市), 2012. 7.
- 204) 川野陽一¹⁾, 谷合信彦¹⁾, 真々田裕宏¹⁾, 吉岡正人¹⁾, 松下 晃¹⁾, 水口義昭¹⁾, 清水哲哉¹⁾, 上田純志¹⁾, 吉田寛²⁾, 内田英二¹⁾: 持続吸引式皮下ドレーンと真皮縫合の肝切除術後創部合併症に対する有用性. 日本消化器外科学会総会 (67) (富山市), 2012. 7.
- 205) 相本隆幸¹⁾, 内田英二¹⁾, 中村慶春¹⁾, 松下 晃¹⁾, 勝野 暁¹⁾, 張 一光¹⁾, 川本聖郎¹⁾, 山初和也¹⁾, 小林 匡²⁾ (1) 日本医科大学外科・消化器外科, 2) 小林病院): 臍管内乳頭粘液性腫瘍 (IPMN) 由来浸潤癌に対する治療戦略. 日本消化器外科学会総会 (67) (富山市), 2012. 7.
- 206) 金沢義一¹⁾, 藤田逸郎¹⁾, 小野寺浩之¹⁾, 櫻澤信行¹⁾, 山田岳史¹⁾, 山下直行²⁾, 木山輝郎¹⁾, 横井公良³⁾, 加藤俊

- 二¹), 内田英二¹) (1) 日本医科大学外科・消化器外科, 2) 慈三会坪井病院, 3) 日本医科大学千葉北総病院外科): 当院における超高齢者(85歳以上)胃癌手術治療の成績. 日本消化器外科学会総会(67)(富山市), 2012. 7.
- 207) 山田岳史¹), 菅 隼人²), 松本智司¹), 小泉岐博¹), 進士誠一¹), 松田明久²), 谷 杏彌¹), 原絵津子, 青木悠人, 原 敬介, 内田英二 (1) 日本医科大学 消化器外科, 2) 日本医科大学 千葉北総病院 外科): 大腸憩室炎に対する待機的腹腔鏡補助下手術. 日本腹部救急医学会総会(49)(福岡), 2013. 3.
- 208) 川野陽一¹), 谷合信彦¹), 村田 智²), 小原勝敏³), 内田英二¹) (1) 日本医科大学 消化器外科, 2) 日本医科大学放射線科, 3) 福島県立医科大学付属病院 内視鏡診療部): 十二指腸静脈瘤出血を繰り返す原因不明肝外門脈閉塞症への治療(内視鏡治療 VS 外科治療 VS IVR 治療). 日本消化器内視鏡学会総会(83)(東京都), 2012. 5.
- 209) 川野陽一¹), 谷合信彦¹), 村田 智²), 汲田伸一郎²), 内田英二¹), 田尻 孝¹) (1) 日本医科大学 消化器外科, 2) 日本医科大学 放射線科): 門脈合併症. 肝臓内視鏡外科研究会(6)(東京都), 2012. 11.
- 210) 関 奈月, 平方敦史, 丸山 弘, 牧野浩司, 横山 正, 高尾嘉宗, 住吉宏樹, 馬越通信, 堀田正啓, 早川朋宏, 吉田 寛, 内田英二 (1) 日本医科大学多摩永山病院 外科): 子宮体部癌肉腫による肝転移に対し肝切除術を施行し得た1例. 日本臨床科学外科総会(第74回)(東京都), 2012. 11.
- 211) 原田潤一郎, 藤田逸郎, 萩原信敏, 小野寺浩之, 櫻澤信行, 金沢義一, 木山輝郎, 吉行俊郎, 加藤俊二, 内田英二 (1) 日本医科大学附属病院 消化器一般・移植外科): 早期胃癌術後骨転移症例の1例. 日本臨床科学外科総会(第74回)(東京都), 2012. 11.
- 212) 山根由唯, 進士誠一, 菅 隼人, 金沢義一, 山田岳史, 小泉岐博, 山岸杏彌, 原 敬介, 内田英二 (1) 日本医科大学 消化器外科): 碎石位に伴い発症した左下腿コンパートメント症候群の1例. 日本臨床科学外科総会(第74回)(東京都), 2012. 11.
- 213) 堀場光二, 横井公良, 宮下正夫, 横室茂樹, 瀬谷知子, 松本智司, 鶴田宏之, 松田明久, 高橋吾郎, 田中宣威, 内田英二 (1) 日本医科大学千葉北総病院 外科): 結腸癌を誘因とした成人腸重積症3症例. 日本臨床科学外科総会(第74回)(東京都), 2012. 11.
- 214) 菊地友太, 松田明久, 横室茂樹, 瀬谷知子, 堀場光二, 鶴田宏之, 松本智司, 櫻澤信行, 佐々木順平, 山初和也, 高橋吾郎, 若林秀幸, 早川朋宏, 横井公良, 内田英二 (1) 日本医科大学千葉北総病院 外科): 壊死型が否定しえなかった Poor risk 虚血性大腸炎に対して非観血的に治療しえた1例. 日本臨床科学外科総会(第74回)(東京都), 2012. 11.
- 215) 岩井拓磨, 山下直行, 川本聖郎, 湖山信篤, 内田英二 (1) 坪井病院 外科): Docetaxel+TS-1+CDDP(DCS)による術前化学療法後, 切除術施行し得た進行胃癌の1例. 日本臨床科学外科総会(第74回)(東京都), 2012. 11.
- 216) 鈴木えりか, 瀬谷知子, 横室茂樹, 堀場光二, 鶴田宏之, 松本智司, 櫻澤信行, 松田明久, 佐々木順平, 山初和也, 高橋吾郎, 若林秀幸, 早川朋宏, 横井公良, 内田英二 (1) 日本医科大学千葉北総病院 外科): 貧血精査にて指摘され, 外科的切除で診断に至った十二指腸球部 Brunner 腺過形成の1例. 日本臨床科学外科総会(第74回)(東京都), 2012. 11.
- 217) 櫻澤信行, 横井公良, 横室茂樹, 瀬谷知子, 堀場光二, 松本智司, 鶴田宏之, 松田明久, 佐々木順平, 山初和也, 高橋吾郎, 若林秀幸, 早川朋宏, 菊池友太, 内田英二 (1) 日本医科大学千葉北総病院 外科): 当院における腹腔鏡補助下胃切除の治療成績の検討. 日本臨床科学外科総会(第74回)(東京都), 2012. 11.
- 218) 清水哲也, 谷合信彦, 吉岡正人, 川野陽一, 水口義昭, 上田純志, 高田英志, 真々田裕宏, 吉田 寛, 内田英二 (1) 日本医科大学 消化器外科): インジコカルミンによる胆道リークテストにて胆管交通を認めた巨大多発肝嚢胞の1手術例. 日本臨床科学外科総会(第74回)(東京都), 2012. 11.
- 219) 山下直行¹), 湖山信篤¹), 川本聖郎¹), 岩井拓磨¹), 藤田逸郎²), 金沢義一²), 小野寺浩之²), 加藤俊二²), 萩原信敏²), 櫻澤信行²), 牧野浩司²), 宮下正夫²), 内田英二²) (1) 坪井病院 外科, 2) 日本医科大学 消化器外科): 根治性と長期予後から考える上部限局胃癌(U)に対する噴門側胃切除術. 日本胃癌学会総会(85)(大阪市),

2013. 2.

- 220) 坊 英樹¹⁾, 前島 颯¹⁾, 鈴木英之¹⁾, 渡辺昌則¹⁾, 小峯 修¹⁾, 内田英二²⁾ (1) 日本医科大学武蔵小杉病院 消化器病センター, 2) 日本医科大学 消化器外科): 80歳以上高齢者胃癌手術における E-PASS scoring system と術後合併症の検討. 日本胃癌学会総会 (85) (大阪市), 2013. 2.
- 221) 松谷 毅¹⁾, 藤田逸郎¹⁾, 野村 務¹⁾, 金沢義一¹⁾, 萩原信敏¹⁾, 小野寺浩之¹⁾, 丸山 弘²⁾, 牧野浩司²⁾, 高尾嘉宗²⁾, 加藤俊二¹⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学 消化器外科, 2) 日本医科大学多摩永山病院 外科): 高齢者胃癌に対する腹腔鏡下胃切除術— POSSUM score を用いたリスク評価—. 日本胃癌学会総会 (85) (大阪市), 2013. 2.
- 222) 山下直行¹⁾, 湖山信篤¹⁾, 川本聖郎¹⁾, 岩井拓磨¹⁾, 藤田逸郎²⁾, 金沢義一²⁾, 小野寺浩之²⁾, 加藤俊二²⁾, 萩原信敏²⁾, 櫻澤信行²⁾, 牧野浩司²⁾, 宮下正夫²⁾, 内田英二²⁾ (1) 坪井病院 外科, 2) 日本医科大学 消化器外科): CART, 腹腔内化学療法にて治療導入可能となった急速腹水貯留を伴う若年胃癌の1例. 日本胃癌学会総会 (85) (大阪市), 2013. 2.
- 223) 山田岳史¹⁾, 藤田逸郎¹⁾, 加藤俊二¹⁾, 金沢義一¹⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学 消化器外科): 緩和ケアチームとNSTによる胃癌診療のサポート. 日本胃癌学会総会 (85) (大阪市), 2013. 2.
- 224) 藤田逸郎¹⁾, 木山輝郎¹⁾, 小野寺浩之¹⁾, 櫻澤信行¹⁾, 菅野仁士¹⁾, 金沢義一¹⁾, 萩原信敏¹⁾, 松谷 毅¹⁾, 牧野浩司¹⁾, 野村 務¹⁾, 加藤俊二¹⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学 消化器外科): 廓清精度を意識した腹腔鏡下胃切除における D2 廓清: 12a-8a 廓清. 日本胃癌学会総会 (85) (大阪市), 2013. 2.
- 225) 木山輝郎^{1, 2)}, 藤田逸郎²⁾, 小野寺浩之²⁾, 金沢義一²⁾, 加藤俊二²⁾, 内田英二²⁾ (1) 松江病院 外科, 2) 日本医科大学 消化器外科): 腹腔鏡下胃全摘後再建における縫合結紮法. 日本胃癌学会総会 (85) (大阪市), 2013. 2.
- 226) 牧野浩司¹⁾, 藤田逸郎²⁾, 吉田 寛¹⁾, 丸山 弘¹⁾, 野村 務²⁾, 松谷 毅²⁾, 萩原信敏²⁾, 寺西宣央¹⁾, 菅野仁士¹⁾, 高尾嘉宗¹⁾, 坂田義則¹⁾, 堀田正啓¹⁾, 関 奈紀¹⁾, 宮下哲平¹⁾, 内田英二²⁾ (1) 日本医科大学多摩永山病院 外科, 2) 日本医科大学 消化器外科): 腹腔鏡下胃癌手術と食道癌の腹腔鏡下胃管作成術の共通点と相違点. 日本胃癌学会総会 (85) (大阪市), 2013. 2.
- 227) 前島 颯¹⁾, 坊 英樹¹⁾, 鈴木英之¹⁾, 渡辺昌則¹⁾, 小峯 修¹⁾, 吉野雅則¹⁾, 水谷 聡¹⁾, 千原直人¹⁾, 松信哲朗¹⁾, 内田英二²⁾ (1) 日本医科大学武蔵小杉病院 消化器病センター, 2) 日本医科大学 消化器外科): 早期胃癌に対する開腹手術と腹腔鏡補助手術の比較: E-PASS スコアリングシステムを用いて. 日本胃癌学会総会 (85) (大阪市), 2013. 2.
- 228) 菅野仁士¹⁾, 吉田 寛¹⁾, 牧野浩司¹⁾, 丸山 弘¹⁾, 横山 正¹⁾, 平方敦史¹⁾, 寺西宣央¹⁾, 坂田義則¹⁾, 高尾嘉宗¹⁾, 関 奈紀¹⁾, 堀田正啓¹⁾, 宮下哲平¹⁾, 藤田逸郎²⁾, 内田英二²⁾ (1) 日本医科大学多摩永山病院 外科, 2) 日本医科大学 消化器外科): 肝転移に対し肝切除およびRFAを施行し長期生存が得られたAFP産生胃癌の1例. 日本胃癌学会総会 (85) (大阪市), 2013. 2.
- 229) 萩原信敏¹⁾, 野村 務¹⁾, 松谷 毅¹⁾, 加藤俊二¹⁾, 藤田逸郎¹⁾, 金沢義一¹⁾, 牧野浩司¹⁾, 丸山 弘¹⁾, 櫻澤信行¹⁾, 小野寺浩之¹⁾, 山下直行²⁾, 赤城一郎¹⁾, 篠塚恵理子¹⁾, 宮下正夫¹⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学 消化器外科, 2) 坪井病院 外科): 多臓器転移を認めた巨大消化管間質腫瘍 (GIST) に対して集学的治療にて病勢コントロール可能であった1例. 日本胃癌学会総会 (85) (大阪市), 2013. 2.
- 230) 小野寺浩之¹⁾, 加藤俊二¹⁾, 櫻澤信行¹⁾, 金沢義一¹⁾, 藤田逸郎¹⁾, 萩原信敏¹⁾, 野村 務¹⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学 消化器外科): 胃全摘術後の抗癌剤治療によって再発形式が播種から局所再発形式をとった2切除例. 日本胃癌学会総会 (85) (大阪市), 2013. 2.
- 231) 清水哲也¹⁾, 中村慶春¹⁾, 吉岡正人¹⁾, 松下 晃¹⁾, 水口義昭¹⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学 消化器外科): 腹腔鏡下に摘出しえたトライツ靱帯近傍の空腸 GIST の1例. 日本内視鏡外科学会総会 (25) (横浜市), 2012. 12.
- 232) 松下 晃¹⁾, 中村慶春¹⁾, 住吉宏樹¹⁾, 松野邦彦¹⁾, 清水哲也¹⁾, 川野陽一¹⁾, 水口義昭¹⁾, 吉岡正人¹⁾, 相本隆

- 幸¹，内田英二¹ (1) 日本医科大学 消化器外科)：腹腔鏡下臍頭十二指腸切除術を施行し得たサルコイドーシスを合併した十二指腸乳頭部癌の1例。日本内視鏡外科学会総会 (25) (横浜市)，2012. 12.
- 233) 清水哲也¹，中村慶春¹，松本智司¹，吉岡正人¹，松下 晃¹，水口義昭¹，野村 務¹，内田英二¹ (1) 日本医科大学 消化器外科)：臍 Solid Pseudopapillary Neoplasm に対し腹腔鏡下脾臓・脾動脈温存脾体尾部切除を施行した1例。日本内視鏡外科学会総会 (25) (横浜市)，2012. 12.
- 234) 原田潤一郎¹，中村慶春¹，松本智司¹，吉岡正人¹，松下 晃¹，清水哲也¹，山初和也¹，上田純志¹，内田英二¹ (1) 日本医科大学 消化器外科)：Peutz-Jeghers 症候群に合併した IPMN に対し腹腔鏡下臍頭十二指腸切除術を施行した1例。日本内視鏡外科学会総会 (25) (横浜市)，2012. 12.
- 235) 平方敦史¹，吉田 寛¹，牧野浩司¹，丸山 弘¹，横山 正¹，寺田宣央¹，菅野仁士¹，高尾嘉宗¹，坂田義則¹，関 奈紀¹，堀田正啓¹，宮下哲平¹，内田英二²，その他1名 (1) 日本医科大学多摩永山病院 外科，2) 日本医科大学 消化器外科)：当科における Parietex Composite Mesh を用いた腹腔鏡下腹壁癒痕ヘルニア修復術。日本内視鏡外科学会総会 (25) (横浜市)，2012. 12.
- 236) 吉岡正人¹，中村慶春¹，松本智司¹，清水哲也¹，内田英二¹ (1) 日本医科大学 消化器外科)：出血性ショックを呈した十二指腸 GIST に対し腹腔鏡下十二指腸切除術を施行した1例。日本内視鏡外科学会総会 (25) (横浜市)，2012. 12.
- 237) 松本智司¹，菅 隼人²，山田岳史²，小泉岐博²，松田明久¹，進士誠一²，佐々木順平¹，横井公良¹，内田英二²，その他1名 (1) 日本医科大学 消化器外科)：腹腔鏡下右側結腸手術における頭側アプローチの有用性。日本内視鏡外科学会総会 (25) (横浜市)，2012. 12.
- 238) 大山莉奈¹，鈴木英之¹，松信哲朗¹，渡辺昌則¹，吉野雅則¹，小峯 修¹，水谷 聡¹，千原直人¹，前島健太郎¹，三浦克洋¹，豊田哲鎬¹，中田亮輔¹，清水貴夫¹，内田英二²，その他1名 (1) 日本医科大学武蔵小杉病院 消化器病センター，2) 日本医科大学 消化器外科)：傍十二指腸ヘルニアに対し腹腔鏡補助下ヘルニア修復術を施行した1例。日本内視鏡外科学会総会 (25) (横浜市)，2012. 12.
- 239) 萩原信敏¹，野村 務¹，松谷 毅¹，牧野浩司¹，加藤俊二¹，藤田逸郎¹，金沢義一¹，櫻澤信行¹，小野寺浩之¹，山下直行²，赤城一郎¹，篠塚恵理子¹，宮下正夫¹，内田英二¹，その他1名 (1) 日本医科大学 消化器外科，2) 坪井病院 外科)：Parietex Composite Mesh を用いて腹腔鏡下手術にて治療を行った，巨大食道裂孔ヘルニアの1例。日本内視鏡外科学会総会 (25) (横浜市)，2012. 12.
- 240) 山初和也¹，中村慶春¹，松本智司¹，松下 晃¹，住吉宏樹¹，田尻 孝¹，内田英二¹ (1) 日本医科大学 消化器外科)：腹腔鏡下臍切除術を施行した臍インスリノーマ9例の検討。日本内視鏡外科学会総会 (25) (横浜市)，2012. 12.
- 241) 菅野仁士¹，吉田 寛¹，牧野浩司¹，丸山 弘¹，横山 正¹，平方敦史¹，寺西宣央¹，坂田義則¹，高尾嘉宗¹，関 奈紀¹，堀田正啓¹，宮下哲平¹，内田英二²，その他1名 (1) 日本医科大学多摩永山病院 外科，2) 日本医科大学 消化器外科)：胆石症および巨大肝嚢胞に対し，腹腔鏡下胆嚢摘出術と肝嚢胞天蓋切除術を同時に施行した1例。日本内視鏡外科学会総会 (25) (横浜市)，2012. 12.
- 242) 松田明久¹，吉田 寛²，横山 正²，丸山 弘²，横室茂樹¹，松本智司¹，横井公良¹，松谷 毅³，内田英二³，その他1名 (1) 日本医科大学千葉北総病院 外科，2) 日本医科大学多摩永山病院 外科，3) 日本医科大学消化器外科)：発症早期に診断し腹腔鏡下手術を施行しえた小児胆嚢捻転賞の1例。日本内視鏡外科学会総会 (25) (横浜市)，2012. 12.
- 243) 木山輝郎¹，藤田逸郎¹，小野寺浩之¹，金沢義一¹，加藤俊二¹，内田英二¹ (1) 日本医科大学 消化器外科)：腹腔鏡下噴門側胃切除における食道胃吻合法の工夫。日本内視鏡外科学会総会 (25) (横浜市)，2012. 12.
- 244) 櫻澤信行¹，横井公良¹，横室茂樹¹，瀬谷知子¹，堀場光二¹，鶴田宏之¹，松本智司¹，松田明久¹，山初和也¹，佐々木順平¹，高橋吾郎¹，早川朋宏¹，若林秀幸¹，鈴木えりか¹，菊地友太¹，その他1名 (1) 日本医科大学千葉北総病院 外科，2) 日本医科大学 消化器外科)：当院における腹腔鏡補助下幽門側胃切除に対する肥

- 満が及ぼす合併症の検討. 日本内視鏡外科学会総会 (25) (横浜市), 2012. 12.
- 245) 藤田逸郎¹⁾, 金沢義一¹⁾, 菅野仁士²⁾, 小野寺浩之¹⁾, 櫻澤信行³⁾, 萩原信敏¹⁾, 牧野浩司²⁾, 野村 務¹⁾, 木山輝郎¹⁾, 加藤俊二¹⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学 消化器外科, 2) 日本医科大学多摩永山病院 外科, 3) 日本医科大学千葉北総病院 外科): 肥満症例における腹腔鏡下胃切除術: #6 廓清におけるアプローチ. 日本内視鏡外科学会総会 (25) (横浜市), 2012. 12.
- 246) 高尾嘉宗¹⁾, 松谷 毅²⁾, 丸山 浩¹⁾, 牧野浩司¹⁾, 横山 正¹⁾, 平方敦史¹⁾, 野村 務²⁾, 萩原信敏²⁾, 吉田 寛¹⁾, 内田英二²⁾ (1) 日本医科大学多摩永山病院 外科, 2) 日本医科大学 消化器外科): 食道機関紙 および癌性狭窄に対する胸腔胸補助下食道バイパス手術. 日本内視鏡外科学会総会 (25) (横浜市), 2012. 12.
- 247) 住吉宏樹¹⁾, 中村慶春¹⁾, 清水哲也¹⁾, 川野陽一¹⁾, 松下 晃¹⁾, 吉岡正人¹⁾, 相本隆幸¹⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学 消化器外科): 腹腔鏡下に摘出し得たパラガングリオーマ (某大動脈異所征褐色細胞腫) の1例. 日本内視鏡外科学会総会 (25) (横浜市), 2012. 12.
- 248) 山田岳史¹⁾, 菅 隼人¹⁾, 松本智司²⁾, 小泉岐博¹⁾, 進士誠一¹⁾, 内田英二¹⁾, その他1名 (1) 日本医科大学 消化器外科, 2) 日本医科大学千葉北総病院 外科): イレウスに対する内視鏡手術. 日本内視鏡外科学会総会 (25) (横浜市), 2012. 12.
- 249) あ: 日本臨床外科学会総会 (第74回) (東京都), 2012. 11.
- 250) 若林秀幸, 横井公良, 横室茂樹, 瀬谷知子, 堀場光二, 松本智司, 鶴田宏之, 櫻澤信行, 松田明久, 佐々木順平, 山初和也, 高橋吾郎, 早川朋宏, 鈴木えりか, 内田英二 (1) 日本医科大学千葉北総病院 外科): 腹壁癭痕ヘルニア嵌頓に対しParietex Composite (PCO) Meshを用いて腹腔鏡下ヘルニア修復術を施行した1例. 日本臨床外科学会総会 (第74回) (東京都), 2012. 11.
- 251) 関 奈紀, 横山 正, 牧野浩二, 丸山 弘, 平方敦史, 寺西宣央, 菅野仁士, 高尾嘉宗, 坂田義則, 堀田正哲, 丹野正隆, 吉田 寛, 内田英二 (1) 日本医科大学多摩永山病院 一般・消化器・乳腺外科.): 結核の既往なく, 診断に難渋した乳腺腫瘍を初発症状とした肺外結核の1例. 日本臨床外科学会総会 (第74回) (東京都), 2012. 11.
- 252) 高尾嘉宗, 横山 正, 牧野浩司, 平方敦史, 寺西宣央, 菅野仁士, 坂田義則, 堀田正啓, 関 奈紀, 宮下哲平, 吉田 寛, 内田英二 (1) 日本医科大学多摩永山病院): 急性腹症にて発症した盲腸癌腫重積症の1例. 日本臨床外科学会総会 (第74回) (東京都), 2012. 11.
- 253) 川本聖郎, 湖山信篤, 山下直行, 岩井拓磨, 内田英二 (1) 坪井病院 外科): 成人腸回転異常症を伴い診断に苦慮した盲腸癌・空腸浸潤の1例. 日本臨床外科学会総会 (第74回) (東京都), 2012. 11.
- 254) 大山莉奈, 鈴木英之, 吉野雅則, 水谷 聡, 松信哲朗, 三浦克洋, 豊田哲鎬, 八木亜記, 中田亮輔, 内田英二 (1) 日本医科大学武蔵小杉病院 消化器病センター): 学療法が奏効しClinical CRを得た遠隔リンパ節転移を伴う盲腸癌に対し, 原発巣切除を行った症例. 日本臨床外科学会総会 (第74回) (東京都), 2012. 11.
- 255) 高田英志, 松本智司, 谷合信彦, 真々田裕宏, 吉岡正人, 川野陽一, 水口義昭, 清水哲也, 上田純志, 横井公良, 内田英二 (1) 日本医科大学千葉北総病院 外科): 小腸内視鏡にて術前診断し単孔式腹腔鏡下切除を行った小腸血管腫の1例. 日本臨床外科学会総会 (第74回) (東京都), 2012. 11.
- 256) 早川朋宏, 櫻澤信行, 宮下正夫, 横室茂樹, 瀬谷知子, 堀場光二, 鶴田宏之, 松本智司, 松田明久, 佐々木順平, 山初和也, 高橋吾郎, 若林秀幸, 横井公良, 内田英二 (1) 日本医科大学千葉北総病院 外科): 大腿ヘルニア嵌頓から壊死性筋膜炎を発症した1例. 日本臨床外科学会総会 (第74回) (東京都), 2012. 11.
- 257) 住吉宏樹, 松下 晃, 清水哲也, 川野陽一, 吉岡正人, 中村慶春, 相本隆幸, 内田英二 (1) 日本医科大学 消化器外科): 局所進行腓尾部癌に対し, 術前化学療法が奏功しR0手術を施行し得た1例. 日本臨床外科学会総会 (第74回) (東京都), 2012. 11.
- 258) 近藤亮太, 吉安正行, 吉村和康, 沖野哲也, 柿沼大輔, 内田英二 (1) 博慈会記念総合病院 外科): 腓体尾部切除術後の遅発性腓液瘻に対し腓管ステント留置が有効であった腓体部癌の1例. 日本臨床外科学会総会 (第74回)

- (東京都), 2012. 11.
- 259) 鈴木英之, 黒川 顕, 勝俣範之, 渡辺昌則, 坊 英樹, 吉野雅則, 水谷 聡, 小峯 修, 松信哲朗, 内田英二 (1) 日本医科大学武蔵小杉病院 消化器病センター): チーム医療としての院内がんサーボードの役割. 日本臨床外科学会総会 (第 74 回) (東京都), 2012. 11.
- 260) 宮下哲平, 平方敦史, 牧野浩司, 横山 正, 丸山 弘, 寺西宣央, 菅野仁士, 高尾嘉宗, 坂田義則, 堀田正啓, 関 奈紀, 吉田 寛, 内田英二 (1) 日本医科大学多摩永山病院 外科): 肝嚢胞性腫瘍と鑑別が困難であった肝嚢胞に対し腹腔鏡補助下にて切除し得た 1 例. 日本臨床外科学会総会 (第 74 回) (東京都), 2012. 11.
- 261) 山下直行, 湖山信篤, 川本聖郎, 岩井拓磨, 菅野仁士, 萩原信敏, 藤田逸郎, 金澤義一, 小野寺浩之, 加藤俊二, 宮下正夫, 内田英二 (1) 坪井病院 外科): 長期化学療法後に R0 手術が可能となった 4 型食道浸潤胃癌の 1 例. 日本臨床外科学会総会 (第 74 回) (東京都), 2012. 11.
- 262) 三島圭介, 有田 淳, 高橋和裕, 松野直徒, 鈴木隆文, 鈴木英之, 内田英二 (1) 東戸塚記念病院): イレウスを呈した小腸アニサキスの 1 切除例. 日本臨床外科学会総会 (第 74 回) (東京都), 2012. 11.
- 263) 住吉宏樹, 中村慶春, 清水哲也, 川野陽一, 吉岡正人, 松下 晃, 相本隆幸, 内田英二 (1) 日本医科大学 消化器外科): インスリノーマに対する腹腔鏡下膵切除術における術中末梢動脈血インスリン値モニタリングについての有用性. 日本臨床外科学会総会 (第 74 回) (東京都), 2012. 11.
- 264) 松田明久, 横室茂樹, 瀬谷知子, 堀場光二, 鶴田宏之, 松本智司, 櫻澤信行, 佐々木順平, 山初和也, 高橋吾郎, 若林秀幸, 早川朋宏, 鈴木えりか, 横井公良, 内田英二 (1) 日本医科大学千葉北総病院 外科): S 状結腸癌術後, 多臓器転移状態で歯肉への転移を認めた 1 例. 日本臨床外科学会総会 (第 74 回) (東京都), 2012. 11.
- 265) 松下 晃, 中村慶春, 清水哲也, 川野陽一, 吉岡正人, 松本智司, 田尻 孝, 内田英二 (1) 日本医科大学 消化器外科): 腹腔鏡下膵切除術における膵空腸吻合の工夫. 日本臨床外科学会総会 (第 74 回) (東京都), 2012. 11.
- 266) 横山 正, 吉田 寛, 牧野 浩, 丸山 弘, 平方敦史, 寺西宣央, 菅野仁士, 高尾嘉宗, 坂田義則, 関 奈紀, 堀田正啓, 宮下哲平, 内田英二 (1) 日本医科大学多摩永山病院 外科): 膵頭十二指腸切除術における膵管チューブを利用した膵空腸吻合の工夫と成績. 日本臨床外科学会総会 (第 74 回) (東京都), 2012. 11.
- 267) 牧野浩司, 丸山 弘, 吉田 寛, 横山 正, 平方敦史, 寺西宣央, 菅野仁士, 野村 務, 松谷 毅, 萩原信敏, 高尾嘉宗, 坂田義則, 関 奈紀, 堀田正啓, 内田英二 (1) 日本医科大学多摩永山病院 外科): 胸腔鏡下食道癌手術で側臥位, 腹臥位両法を行い腹臥位法を選択した理由とその弱点克服の工夫. 日本臨床外科学会総会 (第 74 回) (東京都), 2012. 11.
- 268) 菅野仁士, 吉田 寛, 牧野浩司, 丸山 弘, 横山 正, 平方敦史, 寺西宣央, 坂田義則, 高尾嘉宗, 関 奈紀, 堀田正啓, 宮下哲平, 内田英二 (1) 日本医科大学多摩永山病院 外科): 絞扼性イレウスの早期補助診断法についての検討. 日本臨床科学外科総会 (第 74 回) (東京都), 2012. 11.
- 269) 山田岳史, 菅 隼人, 松本智司, 小泉岐博, 進士誠一, 青木悠人, 原絵津子, 内田英二 (1) 日本医科大学 消化器外科): 造影 CT による絞扼性イレウスの早期診断. 日本臨床外科学会総会 (第 74 回) (東京都), 2012. 11.
- 270) 山田岳史, 菅 隼人, 松本智司, 金沢義一, 小泉岐博, 進士 誠, 岩本美樹, 青木悠人, 内田英二 (1) 日本医科大学 消化器外科): 早期緩和治療 機会を逃さない速やかな介入が重要である. 日本臨床外科学会総会 (第 74 回) (東京都), 2012. 11.
- 271) 川野陽一, 谷合信彦, 吉岡正人, 松下 晃, 水口義昭, 清水哲也, 上田純志, 高田英志, 真々田裕宏, 吉田 寛, 内田英二 (1) 日本医科大学 消化器外科): 当科における開腹肝切除後 SSI 予防を考慮した閉創法の工夫. 日本臨床外科学会総会 (第 74 回) (東京都), 2012. 11.
- 272) 松谷 毅, 野村 務, 萩原信敏, 藤田逸郎, 金沢義一, 小野寺浩之, 丸山 弘, 牧野浩司, 高尾嘉宗, 松田明久, 宮下正夫, 内田英二 (1) 日本医科大学 消化器外科): 腹臥位胸腔鏡下食道切除術における工夫. 日本臨床外科学会総会 (第 74 回) (東京都), 2012. 11.

- 273) 牧野浩司, 丸山 弘, 吉田 寛, 横山 正, 平方敦史, 寺西宣央, 菅野仁士, 野村 務, 松谷 毅, 萩原信敏, 高尾嘉宗, 坂田義則, 関 奈紀, 堀田正啓, 内田英二 (1) 日本医科大学多摩永山病院 外科): 腹臥位胸腔鏡下食道手術 (VATS-E) におけるストリッピングによる左側上縦隔の展開後の左反回神経周囲リンパ節郭清の工夫と助手の積極的参加やリトラクターやシーリングシステムを用いた効率的な食道切除とのコツ. 日本臨床外科学会総会 (第 74 回) (東京都), 2012. 11.
- 274) 松本智司, 横室茂樹, 鶴田宏之, 菅 隼人, 山田岳史, 櫻澤信行, 松田明久, 進士誠一, 佐々木順平, 高橋吾郎, 横井公良, 内田英二 (1) 日本医科大学千葉北総病院 外科): 教育的観点からみた鏡視下虫垂切除術と術式の工夫. 日本臨床外科学会総会 (第 74 回) (東京都), 2012. 11.
- 275) 中村慶春, 松本智司, 吉岡正人, 松下 晃, 清水哲也, 谷合信彦, 田尻 孝, 内田英二 (1) 日本医科大学 消化器外科): 腹腔鏡下痔切除術におけるエネルギーデバイスの選択とその使用法. 日本臨床外科学会総会 (第 74 回) (東京都), 2012. 11.
- 276) 平方敦史, 吉田 寛, 横山 正, 牧野浩司, 丸山 弘, 寺西宣央, 菅野仁士, 高尾嘉宗, 坂田義則, 関 奈紀, 堀田 正啓, 宮下 哲平, 内田 英二 (1) 日本医科大学多摩永山病院 外科): LigaSure, VIO system による無結紮肝切離の試み. 日本臨床外科学会総会 (第 74 回) (東京都), 2012. 11.
- 277) 松野邦彦, 川野陽一, 松下 晃, 吉岡正人, 水口義昭, 清水哲也, 上田純志, 住吉宏樹, 高田英志 (1) 日本医科大学 消化器外科): 術前診断に難渋した Mirizzi 症候群を伴う黄色肉芽腫性胆嚢炎の 1 切除例. 日本臨床外科学会総会 (第 74 回) (東京都), 2012. 11.
- 278) 清水哲也 (1) 日本医科大学 消化器外科): 超音波内視鏡膵管穿刺ランデブー法を用いて副乳頭切開を施行した Pancreas divisum の 1 例. 武蔵野消化器病談話会 (第 43 回) (東京都), 2012. 10.
- 279) 水口義昭 (1) 日本医科大学 消化器外科): 今こそ, Academic Surgeon の時代だ!. 「きみが外科医になる日」セミナー (東京都), 2013. 2.
- 280) 柳原恵子 (1) 日本医科大学 乳腺外科): ママさん外科医の挑戦. 「きみが外科医になる日」セミナー (東京都), 2013. 2.
- 281) 菅野仁士 (1) 日本医科大学 多摩永山病院 外科): 医療経済的観点と器械の特性を生かしたエネルギーデバイスの選択と使用. 橋桜消化器外科研究会 (第 2 回) (東京都), 2013. 3.
- 282) 菊池友太 (1) 日本医科大学 千葉北総病院 外科): 鏡視下大腸手術における超音波メス (ハーモニック) とバイポーラ・デバイス (エンシール) の活用法. 橋桜消化器外科研究会 (第 2 回) (東京都), 2013. 3.
- 283) 川野陽一 (1) 日本医科大学 消化器外科): Energy device revolution & Our technical evolution. 橋桜消化器外科研究会 (第 2 回) (東京都), 2013. 3.
- 284) 山岸征嗣 (1) 日本医科大学 武蔵小杉病院消化器病センター): エナジーデバイスの使い分けと使用のコツ. 橋桜消化器外科研究会 (第 2 回) (東京都), 2013. 3.
- 285) 山田岳史 (1) 日本医科大学 消化器外科): かかりつけ医による大腸がん術後フォローアップ: 東京都地域連携パス活用. 葛飾区消化器連携フォーラム (東京都), 2012. 12.
- 286) 川野陽一: 当科のおすすめの鏡視下肝切除術における様々な工夫: セプラフィルムの貼付方も添えて. 肝胆膵移植外科 (東京都), 2013. 3.
- 287) Kan H, Uchida E, Matsumoto S, Tsuruta H, Yamada T, Koizumi M, Shinji S, Sasaki J, Yamagishi A, Hara K: Influence of Daikenchuto (DKT) on postoperative intestinal motility in patients that had undergone radical laparoscopic surgery for colon cancer. Asian Pacific Digestive Week 2012, 2012. 12.
- 288) 菅 隼人, 内田英二, 山田岳史, 小泉岐博, 進士誠一, 山岸杏彌, 原 敬介, 松本智司, 鶴田宏之, 鈴木英之: 局所進行直腸癌に対する S-1 併用術前科学放射線療法の意義. 大腸癌研究会 (第 78 回), 2013. 1.
- (12) ビデオセッション:
- 1) 清水哲也, 中村慶春, 松本智司, 吉岡正人, 内田英二 (1) 日本医科大学 外科): 腹腔鏡下膵頭十二指腸切除術に

- おける膵臓の切離と吻合操作の工夫. 日本外科学会 (第 112 回) (千葉), 2012. 4.
- 2) 吉岡正人, 中村慶春, 内田英二⁽¹⁾ 日本医科大学 臓器病態制御外科): 腹腔鏡下膵中央切除術における手術手技の工夫について. 日本外科学会 (第 112 回) (千葉), 2012. 4.
- 3) 木山輝郎, 藤田逸郎, 小野寺浩之, 櫻澤信行, 白川 毅, 加藤俊二, 内田英二⁽¹⁾ 日本医科大学 外科): 鏡視下 overlap 法による腹腔鏡下胃切除後吻合法の標準化. 日本外科学会雑誌 (第 112 回) (千葉), 2012. 4.
- (13) 企画プログラム:
- 1) 谷合信彦¹⁾, 川野陽一¹⁾, 吉岡正人¹⁾, 清水哲也¹⁾, 上田純志¹⁾, 吉田 寛¹⁾, 内田英二¹⁾ ⁽¹⁾ 日本医科大学外科・消化器外科): 肝切除術における持続吸引式皮下ドレーンの有用性. 日本消化器外科学会総会 (67) (富山市), 2012. 7.
- (14) 企画関連口演:
- 1) 山田岳史¹⁾, 松本智司¹⁾, 菅 隼人¹⁾, 小泉岐博¹⁾, 進士誠一¹⁾, 佐々木順平²⁾, 内田英二¹⁾ ⁽¹⁾ 日本医科大学外科・消化器外科, ²⁾ 日本医科大学千葉北総病院外科): ERAS を科学する. 日本消化器外科学会総会 (67) (富山市), 2012. 7.
- (15) 企業関連口演:
- 1) 水口義昭¹⁾, 横室茂樹¹⁾, 真々田裕宏¹⁾, 有馬保生¹⁾, 清水哲也¹⁾, 神田知洋¹⁾, 谷合信彦¹⁾, 吉田 寛¹⁾, 瀧澤俊広²⁾, 内田英二¹⁾ ⁽¹⁾ 日本医科大学大学院臓器病態制御外科, ²⁾ 日本医科大学大学院医学研究科 機能形態学): Micro RNA 解析から見た, 肝疾患における病態生理解明とバイオマーカー探索. 日本消化器外科学会総会 (67) (富山市), 2012. 7.
- (16) 主題 1:
- 1) 上田純志¹⁾, 谷合信彦¹⁾, 真々田裕宏¹⁾, 吉岡正人¹⁾, 川野陽一¹⁾, 水口義昭¹⁾, 清水哲也¹⁾, 高田英志¹⁾, 内田英二¹⁾ ⁽¹⁾ 日本医科大学 消化器一般移植外科): 胆道癌および肝内胆管癌における術中病理迅速診断の検討. 日本外科病理学会学術集会 (第 17 回) (仙台市), 2012. 10.
- (17) 主題関連:
- 1) 村木 輝¹⁾, 鈴木英之¹⁾, 松信哲朗¹⁾, 渡辺昌則¹⁾, 吉野雅則¹⁾, 小峯 修¹⁾, 水谷 聡¹⁾, 千原直人¹⁾, 前島顕太郎¹⁾, 三浦克洋¹⁾, 豊田哲鎬¹⁾, 中田亮輔¹⁾, 内田英二²⁾ ⁽¹⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院 消化器病センター, ²⁾ 日本医科大学 外科): 術者の技量とアクセスポートにこだわった腹腔鏡下虫垂切除術 (LA) の工夫. 日本腹部救急医学会総会 (49) (福岡市), 2013. 3.
- (18) 主題関連演題:
- 1) 山田岳史¹⁾, 菅 隼人¹⁾, 藤田逸郎¹⁾, 金沢義一¹⁾, 小泉岐博¹⁾, 進士誠一¹⁾, 内田英二¹⁾ ⁽¹⁾ 日本医科大学 消化器外科): 消化器癌治療が大腰筋筋肉腫に与える影響. 日本静脈経腸栄養学会学術集会 (28) (金沢市), 2013. 2.
- 2) 山田岳史¹⁾, 菅 隼人¹⁾, 松本智司²⁾, 小泉岐博¹⁾, 進士誠一¹⁾, 佐々木順平²⁾, 内田英二¹⁾ ⁽¹⁾ 日本医科大学 消化器外科, ²⁾ 日本医科大学千葉北総病院 外科): 大腸癌術後回復能力強化プログラム-何が重要か?. 日本静脈経腸栄養学会学術集会 (28) (金沢市), 2013. 2.
- (19) 特別企画:
- 1) 水口義昭, 中村慶春, 清水哲也, 真々田裕宏, 内田英二⁽¹⁾ 日本医科大学 外科): 胆嚢と総胆管の内視鏡外科鏡視下総胆管手術 先天性胆道拡張症に対する鏡下手術. 日本肝胆膵外科学会学術集会 (第 24 回) (大阪府), 2012. 5.
- 2) 中村慶春, 松本智司, 吉岡正人, 松下 晃, 川野陽一, 水口義昭, 清水哲也, 山初和也, 相本隆幸, 谷合信彦, 真々田裕宏, 田尻 孝, 内田英二⁽¹⁾ 日本医科大学 外科 (消化器外科): 腹腔鏡下膵切除を学ぶ 腹腔鏡下膵切除術の手術手技 開腹術と同様に安心して行える手技を目指して. 日本肝胆膵外科学会学術集会 (第 24 回) (大阪府), 2012. 5.

(20) 要請ビデオ：

- 1) 堀田正啓¹⁾, 牧野浩司¹⁾, 吉田 寛¹⁾, 丸山 弘¹⁾, 横山 正¹⁾, 平方敦史¹⁾, 野村 務²⁾, 松谷 毅²⁾, 萩原信敏²⁾, 内田英二²⁾ (1) 日本医科大学多摩永山病院 外科, 2) 日本医科大学外科・消化器外科)：食道癌切除後再建吻合の工夫. 日本消化器外科学会総会 (67) (富山市), 2012. 7.

(21) 要望ビデオ：

- 1) 進士誠一¹⁾, 内田英一¹⁾, 小泉岐博¹⁾, 菅 隼人¹⁾, 松本智司¹⁾, 山田岳史¹⁾, 山岸杏彌¹⁾, 原 敬介¹⁾, 古川清憲¹⁾ (1) 日本医科大学外科・消化器外科)：横行結腸癌に対する横行結腸間膜頭側アプローチ. 日本消化器外科学会総会 (67) (富山市), 2012. 7.
- 2) 藤田逸郎¹⁾, 木山輝郎¹⁾, 金沢義一¹⁾, 小野寺浩之¹⁾, 菅野仁士¹⁾, 萩原信敏¹⁾, 櫻澤信行¹⁾, 牧野浩司²⁾, 加藤俊二¹⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学外科・消化器外科, 2) 日本医科大学多摩永山病院外科)：腹腔鏡下幽門側切除 (LAG) における #5-12a 廓清. 日本消化器外科学会総会 (67), 2012. 7.

(22) 要望演題：

- 1) 中村慶春, 松本智司, 吉岡正人, 松下 晃, 清水哲也, 山初和也, 住吉宏樹, 相本隆幸, 内田英二 (1) 日本医科大学 消化器外科)：腹腔鏡下臍切除術の手術手技について. 日本臍切研究会 (第 39 回) (東京都), 2012. 8.
- 2) 菅野仁士¹⁾, 吉田 寛¹⁾, 牧野浩司¹⁾, 丸山 弘¹⁾, 横山 正¹⁾, 平方敦史¹⁾, 寺西宣央¹⁾, 坂田義則¹⁾, 高尾嘉宗¹⁾, 関 奈紀¹⁾, 堀田正啓¹⁾, 宮下哲平¹⁾, 内田英二²⁾ (1) 日本医科大学多摩永山病院 外科, 2) 日本医科大学外科)：絞扼性イレウスの早期診断指標についての検討. 日本腹部救急医学会総会 (49) (福岡市), 2013. 3.
- 3) 青木悠人¹⁾, 山田岳史¹⁾, 菅 隼人¹⁾, 松本智司²⁾, 小泉岐博¹⁾, 進士誠一¹⁾, 原絵津子³⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学消化器外科, 2) 日本医科大学千葉北総病院 外科, 3) 北村山公立病院 外科)：腸管壁 CT 値を用いた絞扼性イレウス診断の有効性. 日本腹部救急医学会総会 (49) (福岡市), 2013. 3.
- 4) 安藤文彦¹⁾, 山田岳史¹⁾, 青木悠人¹⁾, 松本智司²⁾, 小泉岐博¹⁾, 進士誠一¹⁾, 山岸杏彌¹⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院 消化器外科, 2) 日本医科大学千葉北総病院 外科)：絞扼性 ileus の造影 CT 診断：各所見出現時期の検討. 日本腹部救急医学会総会 (49) (福岡市), 2013. 3.
- 5) 山岸杏彌¹⁾, 内田英二¹⁾, 菅 隼人¹⁾, 山田岳史¹⁾, 小泉岐博¹⁾, 進士誠一¹⁾, 原 敬介¹⁾ (1) 日本医科大学 消化器外科)：術前減圧菅にて緊急手術を回避しえた, 結腸直腸がん閉塞症例における術後腸管運動改善の評価. 日本腹部救急医学会総会 (49) (福岡市), 2013. 3.
- 6) 野村 務¹⁾, 松谷 毅¹⁾, 萩原信敏¹⁾, 牧野浩司²⁾, 丸山 弘²⁾, 加藤俊二¹⁾, 藤田逸郎¹⁾, 中村慶春¹⁾, 宮下正夫¹⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学外科・消化器外科, 2) 日本医科大学多摩永山病院外科)：当施設における胃食道逆流症患者に対する外科治療の現状. 日本消化器外科学会総会 (67) (富山市), 2012. 7.
- 7) 鈴木英之¹⁾, 吉野雅則¹⁾, 松信哲朗¹⁾, 三浦克洋¹⁾, 菅 隼人²⁾, 松本智司²⁾, 小泉岐博²⁾, 渡辺昌則¹⁾, 内田英二²⁾ (1) 日本医科大学武蔵小杉病院消化器病センター, 2) 日本医科大学外科・消化器外科)：肥満症例に対する大腸癌腹腔鏡下手術. 日本消化器外科学会総会 (67) (富山市), 2012. 7.
- 8) 松谷 毅¹⁾, 野村 務¹⁾, 萩原信敏¹⁾, 藤田逸郎¹⁾, 金沢義一¹⁾, 小野寺浩之¹⁾, 松田明久¹⁾, 丸山 弘²⁾, 牧野浩司²⁾, 内田英二¹⁾, その他 1 名 (1) 日本医科大学 消化器外科, 2) 日本医科大学多摩永山病院 外科)：腹臥位胸腔鏡下食道切除術における手技の工夫と手術成績. 日本内視鏡外科学会総会 (25) (横浜市), 2012. 12.
- 9) 中村慶春¹⁾, 松本智司¹⁾, 内田英二¹⁾, その他 1 名 (1) 日本医科大学 消化器外科)：Laparoscopic left mesenteric approach による腹腔鏡下臍頭十二指腸切除術での臍頭神経叢 II 部の切離・廓清. 日本内視鏡外科学会総会 (25) (横浜市), 2012. 12.
- 10) 鈴木英之¹⁾, 吉野雅則¹⁾, 松信哲朗¹⁾, 三浦克洋¹⁾, 豊田哲鎬¹⁾, 菅 隼人²⁾, 松本智司²⁾, 小泉岐博²⁾, 中田亮輔¹⁾, 渡辺昌則¹⁾, 内田英二²⁾, その他 1 名 (1) 日本医科大学武蔵小杉病院 消化器病センター, 2) 日本医科大学 消化器外科)：肥満症例に対する腹腔鏡下大腸手術 (LAC) の特徴と対策. 日本内視鏡外科学会総会 (25) (横浜市), 2012. 12.

11) 中田亮輔¹⁾, 鈴木英之¹⁾, 前島顕太郎¹⁾, 渡辺昌則¹⁾, 星野有哉¹⁾, 坊 英樹¹⁾, 吉野雅則¹⁾, 小峯 修¹⁾, 小峯 聡¹⁾, 千原 聡¹⁾, 松信哲朗¹⁾, 三浦克洋¹⁾, 野村 聡¹⁾, 豊田哲篤¹⁾, 山岸征嗣¹⁾, その他1名 (¹⁾ 日本医科大学 武蔵小杉病院 消化器病センター, ²⁾ 日本医科大学 消化器外科): 術前 CT で診断し, 腹腔鏡下治療した魚骨による盲腸せんこうの1例. 日本内視鏡外科学会総会 (25) (横浜市), 2012. 12.

(23) 要望演題ビデオ:

- 1) 木山輝郎, 藤田逸郎, 小野寺浩之, 金沢義一, 坂東功一, 内田英二, 加藤俊二 (¹⁾ 日本医科大学 外科): 腹腔鏡補助下噴門側胃切除における食道胃吻合法による再建. 日本臨床外科学会総会 (第74回) (東京都), 2012. 11.
- 2) 清水哲也, 中村慶春, 吉岡正人, 松下 晃, 内田英二 (¹⁾ 日本医科大学 消化器外科): 腹腔鏡下脾頭十二指腸切除術 (Lap-PD) における脾切離と脾消化管吻合の工夫. 日本臨床外科学会総会 (第74回) (東京都), 2012. 11.
- 3) 谷合信彦, 吉田 寛, 吉岡正人, 川野陽一, 清水哲也, 上田純志, 真々田祐宏, 水口義昭, 内田英二 (¹⁾ 日本医科大学 消化器外科): VAIO system によるイオ電極を用いた肝離断面止血法. 日本臨床科学外科総会 (第74回) (東京都), 2012. 11.
- 4) 萩原信敏, 野村 務, 松谷 毅, 牧野浩司, 藤田逸郎, 赤城 一, 篠塚恵理子, 加藤俊二, 金沢義一, 山下直行, 桜澤信行, 小野寺浩之, 宮下正夫, 内田英二 (¹⁾ 日本医科大学 消化器外科): 腹腔鏡補助下胃管作成の際の術中偶発症を少なくするための工夫. 日本臨床外科学会総会 (第74回) (東京都 (会議録)), 2012. 11.
- 5) 松信哲朗, 鈴木英之, 吉野雅則, 三浦克洋, 豊田哲篤, 大山莉奈, 清水貴夫, 渡辺昌則, 内田英二 (¹⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院 消化器病センター): 合併症減少を目指した人工肛門造設の工夫. 日本臨床外科学会総会 (第74回) (東京都), 2012. 11.
- 6) 星野有哉, 鈴木英之, 中村慶春, 水谷 聡, 内田英二 (¹⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院 消化器病センター): 腹腔鏡下脾腫瘍核出術を施行したインスリノーマの1例. 日本臨床外科学会総会 (第74回) (東京都), 2012. 11.
- 7) 水口義昭, 中村慶春, 松本智司, 吉岡正人, 清水哲也, 田尻 孝, 内田英二 (¹⁾ 日本医科大学 消化器外科): 先天性胆道拡張症に対する腹腔鏡下分流手術, 特に胆道再建について. 日本臨床外科学会総会 (第74回) (東京都 (会議録)), 2012. 11.

(24) 要望演題口演:

- 1) 松下 晃, 住吉宏樹, 清水哲也, 川野陽一, 水口義昭, 吉岡正人, 中村慶春, 相本隆幸, 平方敦史, 横山 正, 吉田 寛, 内田英二 (¹⁾ 日本医科大学 消化器外科): 胃癌に対するGSによる術前化学療法の意義と問題点. 日本臨床外科学会総会 (第74回) (東京都), 2012. 11.
- 2) 鈴木英之, 吉野雅則, 松信哲朗, 三浦克洋, 豊田哲篤, 中田亮輔, 大山莉奈, 渡辺昌則, 内田英二 (¹⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院 消化器病センター): 大腸癌外来化学療法における医療経済. 日本臨床外科学会総会 (第74回) (東京都), 2012. 11.
- 3) 野村 務, 松谷 毅, 萩原信敏, 牧野浩司, 丸山 弘, 藤田逸郎, 金沢義一, 中村慶春, 小野寺浩之, 岩切勝彦, 宮下正夫, 内田英二 (¹⁾ 日本医科大学 消化器外科): High-Resolution Manometr にて筋層切開を行う範囲を決定し腹臥位胸腔鏡下にて long myotomy を施行したびまん性食道痙攣の2例. 日本臨床外科学会総会 (第74回) (東京都), 2012. 11.
- 4) 菅 隼人, 内田英二, 山田岳史, 小泉岐博, 進士誠一, 谷 杏彌, 原 敬介, 松本智司, 鶴田宏之, 鈴木英之, 古川清憲 (¹⁾ 日本医科大学 消化器外科): 直腸癌に対するS-1併用術前化学放射線療法. 日本臨床外科学会総会 (第74回) (東京都), 2012. 11.
- 5) 吉岡正人, 谷合信彦, 川野陽一, 清水哲也, 上田純志, 高田英志, 内田英二 (¹⁾ 日本医科大学附属病院 消化器外科): 当科における腹腔鏡補助下右側肝切除術の工夫. 日本臨床外科学会総会 (第74回) (東京都), 2012. 11.
- 6) 山下直行, 湖山信篤, 川本聖郎, 岩井拓磨, 藤田逸郎, 金澤義一, 小野寺浩之, 加藤俊二, 萩原信敏, 宮下正

夫, 櫻澤信行, 牧野浩司, 内田英二⁽¹⁾ 坪井病院 外科): First Line の選別による非根治胃癌に対する治療戦略の試み. 日本臨床外科学会総会 (第 74 回) (東京都), 2012. 11.

[多摩永山病院消化器外科・乳腺外科・一般外科]

研究概要

「研究体制とその現状」 研究目的臨床上の疑問点をテーマとし臨床研究で得られた結果をフィードバックさせ、治療成績の向上を目指す。 研究体制消化器系臓器別に上部消化管, 下部消化管, 肝胆膵の 3 領域における病態生理, 臨床病理的研究を行う体制をとっている。 研究課題は癌に関連するものが多い。 手術手技, 腹腔鏡下手術など外科特有のものもある。 研究者は自分の診療における専門領域に関する研究課題を見出しテーマとしている。 研究材料, 方法診療業務から得た臨床データ, 血液, 組織, 臓器等を材料としている。 病理組織学的方法を用いる場合には, 当院病理部との共同研究となる。 分子生物学的手法を用いる場合は, 武蔵小杉病院老人病研究所と協力している。 文部科学省, 厚生労働省の科学研究補助金による研究, 多施設共同研究, 日本がん臨床試験推進機構主導の臨床試験にも参画している。 研究結果の公表各医学会, 多摩地域の研究会等で発表する。 さらに原著, 症例報告, 著書等に論文として公表する。

研究業績

論文

[追加分]

追加分総説:

- 1) 野村 務, 宮下正夫, 松谷 毅, 萩原信敏, 牧野浩司, 丸山 弘, 岩切勝彦, 川見典之, 坂本長逸, 内田英二: 食道癌術後胃管再建症例からみた Barrett 様上皮の観察. 消化器内科 2012; 54 (2): 192-196.

追加分原著:

- 1) 川野陽一, 相本隆幸, 谷合信彦, 真々田裕宏, 吉田 寛, 中村慶春, 廣井 信, 峯田 章, 吉岡正人, 上田純志, 村田 智, 汲田伸一郎, 内田英二: 脾切除後動脈性出血に対する Interventional Radiology の意義. 日本腹部救急医学会雑誌 2012; 32 (3): 575-581.

(1) 原著:

- 1) Yokoyama T, Yoshida H, Makino H, Maruyama H, Suzuki S, Matsutani T, Matsushita A, Hirakata A, Sasajima K, Uchida E: Efficacy and safety of Gemcitabine monotherapy for patients with advanced biliary tract cancer. J Nippon Med Sch 2012; 79 (3): 204-212.
- 2) 野村 務¹⁾, 松谷 毅¹⁾, 萩原信敏¹⁾, 牧野浩司²⁾, 丸山 弘²⁾, 藤田逸郎¹⁾, 中村慶春¹⁾, 岩切勝彦³⁾, 宮下正夫¹⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学臓器病態制御外科, 2) 日本医科大学多摩永山病院外科, 3) 日本医科大学消化器内科): 食道裂孔ヘルニアに対するメッシュを用いた腹腔鏡下手術. 日医大医会誌 2012; 8 (3): 207-210.
- 3) 柳 健, 吉田 寛, 内田英二: 日帰り下肢静脈瘤根治術. 日医大医会誌 2013; 9 (1): 4-5.
- 4) Matsutani T, Matsuda T, Arai H, Takao Y, Yoshida H, Sasajima K, Uchida E: Successful endoscopic dilatation of a severe stricture of the cervical esophagus after definitive combined chemotherapy plus radiotherapy for esophageal cancer. Esophagus 2012; 9 (4): 252-256.
- 5) 野村 務¹⁾, 松谷 毅¹⁾, 萩原信敏¹⁾, 牧野浩司²⁾, 宮下正夫¹⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学臓器病態制御外科, 2) 日本医科大学多摩永山病院外科): III 型食道裂孔ヘルニアに対する腹腔鏡下逆流防止術 (LARS): 当施設における経験. 手術 2012; 66 (11): 1627-1631.
- 6) Shinozuka E¹⁾, Miyashita M¹⁾, Mizuguchi Y¹⁾, Akagi I¹⁾, Kikuchi K²⁾, Makino H¹⁾, Matsutani T¹⁾, Hagiwara

N¹), Nomura T¹), Uchida E¹), Takizawa T²) (1) Department of Surgery for Organ Function and Biological Regulation, Nippon Medical School, (2) Department of Molecular Anatomy and Medicine, Nippon Medical School) : SnoN/SKIL modulates proliferation through control of hsa-miR-720 transcription in esophageal cancer cells. *Biochemical and Biophysical Research Communications* 2013 ; 430 (1) : 101-106.

(2) 総説 :

- 1) 牧野浩司, 内田英二 : 術式別術前・術後管理 小腸・大腸 腹膜炎手術. *消化器外科* 2012 ; 35 (5) : 688-692.
- 2) 平方敦史, 吉田 寛 : 左横隔膜下ドレーン. *消化器外科ナーシング* 2012 ; 17 (7) : 46-50.
- 3) 吉田 寛, 横山 正, 平方敦史, 丸山 弘, 牧野浩司, 真々田裕宏, 谷合信彦, 内田英二 : 「集中治療医に必要な最新のステント治療法の知識」肝・胆・膵のステント. *ICUとCCU* 2012 ; 36 (10) : 747-753.
- 4) 吉田 寛, 真々田裕宏, 谷合信彦, 平方敦史, 上田達夫, 村田 智, 汲田伸一郎, 内田英二 : 部分的脾動脈塞栓術 (PSE). *日本門脈圧亢進症雑誌* 2012 ; 18 (4) : 215-216.

(3) 症例報告 :

- 1) Maruyama H, Yoshida H, Hirakata A, Matsutani T, Yokoyama T, Suzuki S, Matsushita A, Sasajima K, Kikuchi Y, Uchida E : Surgical treatment of a patient with diaphragmatic invasion by a ruptured hepatocellular carcinoma with biliary and portal venous tumor thrombi. *J Nippon Med Sch* 2012 ; 79 (2) : 147-152.
- 2) 松谷 毅, 野村 務, 萩原信敏, 吉田 寛, 宮下正夫, 内田英二 : 80歳以上の高齢者進行食道癌に対する Docetaxel/Nadaplatin/5-FU 併用化学放射線療法. *日医大医会誌* 2012 ; 8 (2) : 143-146.
- 3) 馬越通信, 内田英二, 松谷 毅, 鈴木成治, 吉田 寛, 笹島耕二 : 胃癌術後再発による再建挙上空腸狭窄に対し十二指腸用ステント留置で quality of life が改善した1例. *外科* 2012 ; 74 (4) : 437-440.
- 4) 松谷 毅, 吉田 寛, 笹島耕二, 丸山 弘, 横山 正, 松下 晃, 平方敦史, 高尾嘉宗, 馬越通信, 早川朋宏, 片山博徳, 細根 勝, 内田英二 : 同時性食道胃重複癌に対し術前 Docetaxel/CDDP/5-Fluorouracil 併用化学療法が奏効し手術を施行した1例. *癌と化学療法* 2012 ; 39 (4) : 645-648.
- 5) 松谷 毅, 吉田 寛, 笹島耕二, 丸山 弘, 横山 正, 鈴木成治, 片山博徳, 細根 勝, 内田英二 : S-1/Cisplatin 併用術前化学療法が奏効し根治切除し得た CA19-9 産生進行胃癌の1例. *癌と化学療法* 2012 ; 39 (4) : 653-656.
- 6) 上田純志, 吉田 寛, 真々田裕宏, 谷合信彦, 吉岡正人, 川野陽一, 水口義昭, 清水哲也, 武田幸樹, 内田英二 : 術後12年目に切除しえた胃 GIST 肝転移の1例. *肝臓* 2012 ; 53 (4) : 225-230.
- 7) 住吉宏樹, 横井公良, 牧野浩司, 金沢義一, 山田岳史, 内田英二 : 手術と化学療法で一時的に症状緩和が得られた G-CSF 産生大腸癌の1例. *日臨外会誌* 2012 ; 73 (7) : 1753-1758.
- 8) 松下 晃, 笹島耕二, 吉田 寛, 鈴木成治, 松谷 毅, 内田英二 : 外科的治療と術後化学療法で長期生存を得た横行結腸間膜原発 extragastrintestinal stromal tumor (EGIST) の1例. *臨床外科* 2012 ; 67 (5) : 711-714.
- 9) Ueda J, Yoshida H, Makino H, Yokoyama T, Maruyama H, Hirakata A, Ueda H, Watanabe M, Uchida E, Uchida E : Transmesocolic hernia of the ascending colon with intestinal obstruction. *Case Report in Gastroenterology* 2012 ; 6 : 344-349.
- 10) Yokoyama T, Yoshida H, Makino H, Maruyama H, Suzuki S, Matsutani T, Matsushita A, Hirakata A, Sasajima K, Uchida E : Spontaneous complete necrosis of advanced hepatocellular carcinoma. *J Nippon Med Sch* 2012 ; 79 (3) : 213-217.
- 11) Matsutani T, Sasajima K, Maruyama H, Yoshida H, Katayama H, Hosone M, Matsuda A, Uchida E : Endoscopic removal of a large hyperplastic (inflammatory) polyp in esophagogastric anastomosis after esophagectomy. *Esophagus* 2012 ; 9 (2) : 114-117.
- 12) Ueda J, Yoshida H, Mamada Y, Tani N, Yoshioka M, Mineta S, Kawano Y, Shimizu T, Hara E, Kawamoto C, Kaneko K, Uchida E : Surgical Resection of a Solitary Para-aortic Lymph Node Metastasis

from Hepatocellular Carcinoma. *World J Gastroenterol* 2012; 18 (23) : 3027-3031.

- 13) 松谷 毅, 野村 務, 萩原信敏, 丸山 弘, 馬越通信, 内田英二: 根治的化学放射線療法後に局所再発した高齢者食道癌性狭窄に対し腹腔鏡補助下食道バイパス手術を施行した1例. *手術* 2012; 66 (8) : 1155-1159.
- 14) 松谷 毅, 吉田 寛, 野村 務, 萩原信敏, 内田英二: 巨大気腫性肺嚢胞と十二指腸潰瘍穿孔による汎発性腹膜炎を同時に手術した1例. *日本腹部救急医学会雑誌* 2012; 32 (5) : 935-938.
- 15) Akagi I, Miyashita M, Takahashi K, Matsutani T, Matsuda A, Nomura T, Makino H, Hagiwara N, Uchida E: Determination of urinary trypsin inhibitor provides insight into postoperative complications in patients following esophagectomy. *EXPERIMENTAL AND THERAPEUTIC MEDICINE* 2012; 4 (1) : 84-88.
- 16) Ueda J, Yoshida H, Mamada Y, Taniyai N, Yoshioka M, Mineta S, Kawano Y, Shimizu T, Hara E, Kawamoto C, Kaneko K, Uchida E: Surgical resection of a solitary para-aortic lymph node metastasis from hepatocellular carcinoma. *World J Gastroenterol* 2012; 18 (23) : 3027-3031.
- 17) Akagi I, Furukawa K, Miyashita M, Kiyama T, Matsuda A, Nomura T, Makino H, Hagiwara N, Takahashi K, Uchida E: Surgical wound management made easier and more cost-effective. *ONCOLOGY LETTERS* 2012; 4 (1) : 97-100.
- 18) Mizutani S, Suzuki H, Yoshida H, Arima Y, Kitayama Y, Uchida E: A Case of IgG4-related sclerosing cholangitis with a normal serum IgG4 level: report of a case. *J Nippon Med Sch* 2012; 79 (5) : 367-372.
- 19) 松谷 毅, 野村 務, 萩原信敏, 丸山 弘, 高尾嘉宗, 内田英二: 化学放射線療法後の遺残食道癌に腹腔鏡補助下食道バイパス手術を施行した1例. *日医大医会誌* 2012; 8 (4) : 260-263.
- 20) 早川朋宏, 松谷 毅, 平方敦史, 吉田 寛, 笹島耕二, 内田英二: 腹腔鏡下手術を施行した胃神経鞘腫の1例. *臨床外科* 2013; 68 (1) : 100-103.
- 21) Matsutani T, Sasajima K, Yoshida H, Hosone M, Katayama H, Uchida E: A case of intramural gastric tube metastasis from esophageal squamous cell carcinoma. *Esophagus* 2012; 9 (4) : 239-242.
- 22) Maruyama H, Yoshida H, Makino M, Yokoyama T, Matsutani T, Matsushita A, Hirakata A, Furukawa K, Uchida E: Late-onset deep infection after prosthetic inguinal hernia repair. *日本外科感染症学会雑誌* 2012; 9 (2) : 187-191.

著 書

- 1) 吉田 寛, 田尻 孝, 内田英二: [分担] 第10部食道・胃静脈瘤治療の実際 II 食道静脈瘤治療 1. 待期・予防例に対する治療法 2) 食道静脈瘤結紮術 (EVL) ② EVLによる間欠療法. 食道・胃静脈瘤 (鈴木博昭, 小原勝敏,), 2012; pp214-217, 日本メディカルセンター.
- 2) 吉田 寛, 田尻 孝, 内田英二: [分担] 第11部食道・胃静脈瘤治療におけるPSEの役割. 食道・胃静脈瘤 (鈴木博昭, 小原勝敏), 2012; pp297-301, 日本メディカルセンター.
- 3) Makino H, Yoshida H, Uchida E: [分担] Endoscopic clipping and application of fibrin glue for an esophago-mediastinal fistula. *Current Concepts in General Thoracic Surgery* (Cagini L.), 2012; pp263-278, In Tech (USA).
- 4) Yoshida H, Mamada Y, Taniyai N, Tajiri T, Uchida E: [分担] Surgical Management in Portal Hypertension. *HEPATIC SURGERY*, 2013; pp517-529, In Tech (USA).

学会発表

(1) シンポジウム:

- 1) 谷合信彦, 吉田 寛, 吉岡正人, 川野陽一, 清水哲也, 上田純志, 内田英二: 肝切除術中のIVC損傷による想

定外大量出血に対するタココンプの有用性. 日本肝胆膵外科学会・学術集会 (第 24 回) (大阪), 2012. 5.

- 2) 川野陽一, 谷合信彦, 真々田裕宏, 吉岡正人, 松下 晃, 水口義昭, 清水哲也, 上田純志, 吉田 寛, 内田英二: 当科における大量肝切除に対する術前門脈塞栓術の適応と限界. 日本肝胆膵外科学会・学術集会 (第 24 回) (大阪), 2012. 5.
 - 3) 谷合信彦, 吉田 寛, 真々田裕宏, 吉岡正人, 川野陽一, 水口義昭, 清水哲也, 上田純志, 内田英二: 門脈圧亢進症, 脾機能亢進症における部分脾動脈塞栓術 (PSE) の意義 (PSE vs 脾摘). 日本消化器外科学会総会 (第 67 回) (富山), 2012. 7.
 - 4) 谷合信彦, 吉田 寛, 内田英二: Child C 症例に対する部分脾動脈塞栓術 (PSE) の意義. 日本門脈圧亢進症学会総会 (第 19 回) (東京), 2012. 9.
 - 5) 牧野浩司, 丸山 弘, 吉田 寛, 横山 正, 平方敦史, 寺西宣央, 菅野仁士, 高尾嘉宗, 坂田義則, 堀田正啓, 関 奈紀, 宮下哲平, 野村 務, 松谷 毅, 萩原信敏, その他 1 名: 腹臥位での stripping 後の簡単な左側上縦隔展開, 安全に周囲リンパ節郭清を行う食道切除, 内翻胃管作成の工夫. 日本内視鏡外科学会総会 (第 25 回) (横浜), 2012. 12.
 - 6) 丸山 弘, 吉田 寛, 牧野浩司, 横山 正, 平方敦史, 堀田正啓, 寺西宣央, 菅野仁士, 内田英二: 当院消化器外科領域における耐性菌対策. 日本外科感染症学会総会 (第 25 回) (千葉県), 2012. 11.
 - 7) 川野陽一, 谷合信彦, 吉岡正人, 松下 晃, 水口義昭, 清水哲也, 上田純志, 高田英志, 真々田裕宏, 吉田 寛, 内田英二: 当科における開腹肝切除術後創部合併症が医療費に及ぼす影響とその対策. 日本外科感染症学会総会 (第 25 回) (千葉県), 2012. 11.
 - 8) 川野陽一, 谷合信彦, 中村慶春, 吉岡正人, 松下 晃, 水口義昭, 清水哲也, 上田純志, 吉田 寛, 内田英二: ENDO MINI-RETRACT™ を用いた肝門部操作に有用な脈管処理法. 肝臓内視鏡外科研究会 (第 6 回) (東京), 2012. 11.
- (2) パネルディスカッション:
- 1) 松谷 毅, 松田明久, 野村 務, 藤田逸郎, 金沢義一, 萩原信敏, 丸山 弘, 牧野浩司, 加藤俊二, 宮下正夫, 内田英二: 消化器癌手術侵襲における内臓脂肪細胞機能と術前 PPAR- γ リガンド投与による抗炎症作用. 日本外科学会定期学術集会 (第 112 回) (千葉県), 2012. 4.
 - 2) 坂田義則, 吉田 寛, 牧野浩司, 横山 正, 丸山 弘, 平方敦史, 寺西宣央, 菅野仁士, 高尾嘉宗, 堀田正啓, 関 奈紀, 宮下哲平, 内田英二: 高齢者における総胆管結石の治療 総胆管十二指腸 側側吻合. 日本臨床外科学会 (第 74 回) (新宿), 2012. 11.
 - 3) 谷合信彦, 吉田 寛, 内田英二: 門脈圧亢進症治療における部分脾動脈塞栓術 (PSE) の意義. 日本消化器関連学会週間 (第 20 回) (第 16 回日本肝臓学会・第 54 回日本消化器病学会・第 84 回日本消化器内視鏡学会・第 10 回消化器外科学会合同) (JDDW) (神戸), 2012. 10.
- (3) ワークショップ:
- 1) 水口義昭, 有馬保生, 横室茂樹, 真々田裕宏, 谷合信彦, 中村慶春, 吉岡正人, 松下 晃, 川野陽一, 清水哲也, 吉田 寛, 内田英二: 腹腔鏡下胆のう摘出術胆管損傷症例におけるピットフォールと対策. 特に総胆管完全断裂例において. 日本肝胆膵外科学会・学術集会 (第 24 回) (大阪), 2012. 5.
 - 2) 横山 正, 吉田 寛, 平方敦史, 松下 晃, 内田英二: 当科の膝頭十二指腸切除術における膝空腸吻合の工夫とその成績. 日本肝胆膵外科学会・学術集会 (第 24 回) (大阪), 2012. 5.
 - 3) 谷合信彦, 吉田 寛, 吉岡正人, 川野陽一, 水口義昭, 清水哲也, 上田純志, 真々田裕宏, 内田英二: 肝内胆管癌に対する肝切除術とゲムシタビンの有効性. 日本肝臓学会総会 (第 48 回) (石川県), 2012. 6.
 - 4) 川野陽一, 谷合信彦, 真々田裕宏, 吉岡正人, 峯田 章, 松下 晃, 水口義昭, 清水哲也, 上田純志, 吉田 寛, 内田英二: 当科における難治性/腹水に対する胸/腹腔静脈シャントの経験. 日本肝臓学会総会 (第 48 回) (石川県), 2012. 6.

- 5) 水口義昭, 真々田裕宏, 有馬保生, 清水哲也, 谷合信彦, 吉岡正人, 川野陽一, 吉田 寛, 瀧澤俊広, 内田英二: Cooperation of p300 and PCAF in the control of microRNA 200c/141 transcription and epithelial characteristics. 日本肝臓学会総会 (第 48 回) (石川県), 2012. 6.
 - 6) 川野陽一, 谷合信彦, 吉田 寛, 内田英二: 門亢症に対する生体肝移植における部分的脾動脈塞栓術 (PSE) の意義. 日本門脈圧亢進症学会総会 (第 19 回) (東京), 2012. 9.
 - 7) 高田樹一¹⁾, 中澤貴秀¹⁾, 渋谷明隆¹⁾, 大部 誠¹⁾, 吉田 寛, 日高 央¹⁾, 南野 務¹⁾, 田中賢明¹⁾, 奥脇裕介¹⁾ (¹⁾ 北里大学東病院消化器内科): 肝内腫瘍性病変の増大を伴った特発性門脈圧亢進症の 1 例. 日本門脈圧亢進症学会総会 (第 19 回) (東京), 2012. 9.
 - 8) 柳 健, 簡野晃次, 石丸さやか, 高尾嘉宗, 吉田 寛, 内田英二, 岡田昌義: 日帰り下肢静脈瘤手術の安全性と患者からみた利点・問題点. 日本臨床外科学会 (第 74 回) (新宿), 2012. 11.
 - 9) 牧野浩司, 吉田 寛, 内田英二: 経鼻内視鏡の診断能向上の工夫: 経鼻用オーバーチューブ利用による挿入時のスコープのレンズの汚れ曇り予防の工夫. 日本消化器内視鏡学会総会 (第 83 回) (東京), 2012. 5.
 - 10) 谷合信彦, 吉田 寛, 真々田裕宏, 吉岡正人, 川野陽一, 水口義昭, 清水哲也, 上田純志, 高田英志, 内田英二: 孤立性胃静脈瘤に対する PSE 併用 B-RTO の有効性. 日本腹部救急医学会総会 (第 49 回) (福岡), 2013. 3.
 - 11) 川野陽一, 谷合信彦, 相本隆幸, 中村慶春, 吉岡正人, 松下 晃, 水口義昭, 清水哲也, 上田純志, 高田英志, 住吉宏樹, 村田 智, 汲田伸一郎, 吉田 寛, 内田英二: 当科における肝胆脾手術後出血に対する治療戦略. 日本腹部救急医学会総会 (第 49 回) (福岡), 2013. 3.
- (4) サージカルフォーラム:
- 1) 野村 務, 宮下正夫, 松谷 毅, 萩原信敏, 牧野浩司, 丸山 弘, 加藤俊二, 藤田逸郎, 金沢義一, 櫻澤信行, 小野寺浩之, 内田英二: 食道癌術後胃管再建症例の逆流性食道炎および残食道門柱上皮化生に関する検討. 日本外科学会定期学術集会 (第 112 回) (千葉県), 2012. 4.
- (5) 一般講演:
- 1) 横山 正, 吉田 寛, 牧野浩司, 丸山 弘, 松下 晃, 平方敦史, 高尾嘉宗, 馬越通信, 堀田正啓, 早川朋宏, 内田英二: 膀胱集学的治療としての術前・術後補助化学療法への積極的取り組み. 日本外科学会定期学術集会 (第 112 回) (千葉県), 2012. 4.
 - 2) 上田純志, 谷合信彦, 吉田 寛, 真々田裕宏, 吉岡正人, 川野陽一, 清水哲也, 内田英二: 肝細胞癌に対する術前, 術中ソナゾイド造影超音波検査の有用性の検討. 日本外科学会定期学術集会 (第 112 回) (千葉県), 2012. 4.
 - 3) 萩原信敏, 宮下正夫, 野村 務, 牧野浩司, 松谷 毅, 山下直行, 赤城一郎, 加藤俊二, 藤田逸郎, 金沢義一, 櫻澤信行, 小野寺浩之, 篠塚恵理子, 内田英二: 食道癌における腫瘍マーカーの有用性の検討. 日本外科学会定期学術集会 (第 112 回) (千葉県), 2012. 4.
 - 4) 藤田逸郎, 木山輝郎, 菅野仁士, 小野寺浩之, 櫻澤信行, 金沢義一, 萩原信敏, 松谷 毅, 牧野浩司, 野村 務, 加藤俊二, 内田英二: 腹腔鏡下幽門側胃切除 (LADG) における D2 郭清. 日本外科学会定期学術集会 (第 112 回) (千葉県), 2012. 4.
 - 5) 川野陽一, 谷合信彦, 吉岡正人, 清水哲也, 上田純志, 水口義昭, 真々田裕宏, 吉田 寛, 村田 智, 汲田伸一郎, 内田英二: 大量肝切除を要する肝細胞癌, 胆道癌症例での術前門脈塞栓術の効果と問題点の相違点. 日本外科学会定期学術集会 (第 112 回) (千葉県), 2012. 4.
 - 6) 篠塚恵理子, 宮下正夫, 水口義昭, 赤城一郎, 菊池邦生, 萩原信敏, 松谷 毅, 牧野浩司, 野村 務, 瀧澤俊広, 内田英二: 食道扁平上皮癌における miRNA 発現と臨床病理学的意義の検討. 日本外科学会定期学術集会 (第 112 回) (千葉県), 2012. 4.
 - 7) 堀場光二, 横井公良, 田中宣威, 横室茂樹, 瀬谷知子, 勝田美和子, 白川 毅, 牧野浩司, 野村 務, 宮下正

- 夫, 内田英二: 食道扁平上皮癌における EMMPRIN/CD147, MCT-1 の共存発現. 日本外科学会定期学術集会 (第 112 回) (千葉県), 2012. 4.
- 8) 松下 晃, 吉田 寛, 横山 正, 牧野浩司, 丸山 弘, 松谷 毅, 平方敦史, 山初和也, 川本聖郎, 中村慶春, 相本隆幸, 内田英二: Neuropilin-1 を標的とした新たな膀胱癌治療. 日本外科学会定期学術集会 (第 112 回) (千葉県), 2012. 4.
 - 9) 櫻澤信行, 加藤俊二, 藤田逸郎, 金沢義一, 小野寺浩之, 野村 務, 牧野浩司, 松谷 毅, 萩原信敏, 内田英二: 胃癌取扱い新規約 14 版と新ガイドラインにおける術前診断と病理結果からみた当科における手術治療の妥当性の検討. 日本外科学会定期学術集会 (第 112 回) (千葉県), 2012. 4.
 - 10) 菅野仁士, 山下直行, 岩井拓磨, 湖山信篤, 小野寺浩之, 櫻澤信行, 金沢義一, 藤田逸郎, 木山輝郎, 加藤俊二, 萩原信敏, 野村 務, 宮下正夫, 内田英二: 迷走神経温存幽門側胃切除術後における残胃環境-内視鏡および栄養学的評価-. 日本外科学会定期学術集会 (第 112 回) (千葉県), 2012. 4.
 - 11) 谷合信彦, 吉岡正人, 川野陽一, 清水哲也, 上田純志, 吉田 寛, 内田英二: 肝細胞癌に対する肝切除周術期管理における血液製剤の意義. 日本外科学会定期学術集会 (第 112 回) (千葉県), 2012. 4.
 - 12) 谷合信彦, 吉田 寛, 吉岡正人, 川野陽一, 清水哲也, 上田純志, 水口義昭, 真々田裕宏, 内田英二: 肝管空腸吻合を伴う肝切除後胆汁漏, 腹腔内膿瘍対策: デューブルドレーン vs. Blake ドレーン. 日本肝胆膵外科学会・学術集会 (第 24 回) (大阪), 2012. 5.
 - 13) 安藤文彦, 吉田 寛, 横山 正, 平方敦史, 高尾嘉宗, 牧野浩司, 丸山 弘, 住吉宏樹, 馬越通信, 堀田正啓, 関 奈紀, 早川朋宏, 松下 晃, 内田英二: 膵頭部 IMPN 診断が契機となり RO 手術を成し得た進行胆嚢扁平上皮癌の 1 例. 日本肝胆膵外科学会・学術集会 (第 24 回) (大阪), 2012. 5.
 - 14) 松下 晃, 山初和也, 清水哲也, 川野陽一, 吉岡正人, 中村慶春, 相本隆幸, 平方敦史, 横山 正, 吉田 寛, 内田英二: GS 療法による術前化学療法施行後, RO 手術を施行した borderline resectable 膵頭部癌の 1 例. 日本肝胆膵外科学会・学術集会 (第 24 回) (大阪), 2012. 5.
 - 15) 谷合信彦, 吉田 寛, 川野陽一, 水口義昭, 吉岡正人, 清水哲也, 上田純志, 真々田裕宏, 内田英二: 肝内胆管癌に対する肝切除術とゲムシタビンによる抗がん剤治療の成績. 日本肝胆膵外科学会・学術集会 (第 24 回) (大阪), 2012. 5.
 - 16) 川野陽一, 谷合信彦, 吉岡正人, 中村慶春, 松本智司, 松下 晃, 水口義昭, 清水哲也, 上田純志, 真々田裕宏, 吉田 寛, 内田英二: 当科における鏡視下肝切除術での様々な工夫. 日本肝胆膵外科学会・学術集会 (第 24 回) (大阪), 2012. 5.
 - 17) 松下 晃, 山初和也, 川本聖郎, 清水哲也, 川野陽一, 吉岡正人, 中村慶春, 相本隆幸, 平方敦史, 横山 正, 吉田 寛, 内田英二: ヒト膵癌における STAT5 の発現, 活性化の意義. 日本肝胆膵外科学会・学術集会 (第 24 回) (大阪), 2012. 5.
 - 18) 上田純志, 吉田 寛, 真々田裕宏, 谷合信彦, 吉岡正人, 平方敦史, 川野陽一, 水口義昭, 清水哲也, 内田英一, 内田英二: 自己免疫性肝炎を合併した肝細胞癌切除後 8 年目に再発し急速な増大を示した 1 例. 日本肝胆膵外科学会・学術集会 (第 24 回) (大阪), 2012. 6.
 - 19) 平方敦史, 吉田 寛, 横山 正, 牧野浩司, 丸山 弘, 松下 晃, 高尾嘉宗, 住吉宏樹, 馬越通信, 堀田正啓, 関 奈紀, 早川朋宏, 内田英二: 巨大肝血管腫に対する肝切除. 日本肝胆膵外科学会・学術集会 (第 24 回) (大阪), 2012. 6.
 - 20) 清水哲也, 吉田 寛, 真々田裕宏, 谷合信彦, 吉岡正人, 川野陽一, 水口義昭, 上田純志, 中村慶春, 相本隆幸, 有馬保生, 内田英二: 肝切除後の難治性胆瘻に対してエタノールによる biliary ablation が有効であった 1 例. 日本肝胆膵外科学会・学術集会 (第 24 回) (大阪), 2012. 6.
 - 21) 坂田義則, 牧野浩司, 吉田 寛, 丸山 弘, 横山 正, 宮下正夫, 野村 務, 松谷 毅, 萩原信敏, 内田英二: 高齢者に対する食道癌手術: 縦隔鏡補助下・胸腔鏡補助下食道切除術, 開胸手術. 日本食道学会学術集会 (第

- 66回) (長野), 2012. 6.
- 22) 松谷 毅, 野村 務, 萩原信敏, 藤田逸郎, 金沢義一, 岩切勝彦, 丸山 弘, 牧野浩司, 内田英二: 腹臥位胸腔鏡下食道切除術の工夫と治療成績. 日本食道学会学術集会 (第66回) (長野), 2012. 6.
 - 23) 馬越通信, 松谷 毅, 野村 務, 萩原信敏, 丸山 弘, 牧野浩司, 高尾嘉宗, 吉田 寛, 宮下正夫, 内田英二: 化学放射線療法後に主病変はCRが得られたにもかかわらず環椎に転移した食道癌の1例. 日本食道学会学術集会 (第66回) (長野県), 2012. 6.
 - 24) 萩原信敏, 宮下正夫, 野村 務, 松谷 毅, 中溝宗永, 横島一彦, 酒主敦子, 河越哲郎, 牧野浩司, 内田英二: チーム医療の取り組みで喉頭温存食道切除が可能であった頸胸部進行食道癌の1例. 日本食道学会学術集会 (第66回) (長野県), 2012. 6.
 - 25) 牧野浩司, 吉田 寛, 丸山 弘, 横山 正, 平方敦史, 宮下正夫, 野村 務, 松谷 毅, 萩原信敏, 内田英二: 腹臥位胸腔鏡下食道癌手術における様々な工夫と手術時間・出血量の減少. 日本食道学会学術集会 (第66回) (長野県), 2012. 6.
 - 26) 野村 務, 松谷 毅, 萩原信敏, 牧野浩司, 丸山 弘, 藤田逸郎, 岩切勝彦, 川見典之, 宮下正夫, 内田英二: 食道運動機能障害に対する当施設での治療の現状と今後の方向性: 外科の立場から. 日本食道学会学術集会 (第66回) (長野県), 2012. 6.
 - 27) 高尾嘉宗, 松谷 毅, 丸山 弘, 野村 務, 牧野浩司, 馬越通信, 萩原信敏, 吉田 寛, 宮下正夫, 内田英二: 化学放射線療法後の食道癌性狭窄に対する胸腔鏡補助下食道バイパス手術の成績. 日本食道学会学術集会 (第66回) (長野県), 2012. 6.
 - 28) 松下 晃, 山初和也, 川本聖郎, 清水哲也, 川野陽一, 吉岡正人, 中村慶春, 相本隆幸, 平方敦史, 横山 正, 吉田 寛, 内田英二: ヒト臍癌における STATA5A,5B の発現とその意義についての検討. 日本臍臓学会 (第43回) (山形県), 2012. 6.
 - 29) 兼重久美子, 横山 正: 閉経前乳がん患者に対する内分泌治療の看護介入の検討. 日本乳癌学会学術集会 (第20回) (熊本), 2012. 6.
 - 30) 横山 正, 吉田 寛, 関 奈紀, 内田英二: 転移性乳癌における Gemcitabine+S-1 療法の試み. 日本乳癌学会学術集会 (第20回) (熊本), 2012. 6.
 - 31) 松谷 毅, 野村 務, 萩原信敏, 丸山 弘, 牧野浩司, 藤田逸郎, 金沢義一, 櫻澤信行, 宮下正夫, 内田英二: 腹臥位胸腔鏡下食道切除術の工夫と治療成績. 日本消化器外科学会総会 (第67回) (富山), 2012. 7.
 - 32) 牧野浩司, 丸山 弘, 吉田 寛, 横山 正, 平方敦史, 宮下正夫, 野村 務, 松谷 毅, 萩原信敏, 内田英二: 腹臥位胸腔鏡下食道癌手術における左側上縦隔の展開の工夫と施設異動による手術時間と出血量の減少. 日本消化器外科学会総会 (第67回) (富山), 2012. 7.
 - 33) 菅野仁士, 山下直行, 岩井拓磨, 湖山信篤, 櫻澤信行, 金沢義一, 藤田逸郎, 木山輝郎, 加藤俊二, 内田英二: 迷走神経温存幽門側胃切除術後における残胃環境評価: 内視鏡および栄養学的観点から. 日本消化器外科学会総会 (第67回) (富山), 2012. 7.
 - 34) 山下直行, 湖山信篤, 菅野仁士, 岩井拓磨, 藤田逸郎, 金沢義一, 加藤俊二, 萩原信敏, 宮下正夫, 内田英二: 上部限局胃癌に対する迷走神経温存胃漿膜筋層縦切開噴門形成術 (NP-EGP) の中長期的評価. 日本消化器外科学会総会 (第67回) (富山), 2012. 7.
 - 35) 横山 正, 吉田 寛, 平方敦史, 牧野浩司, 丸山 弘, 高尾嘉宗, 住吉宏樹, 関 奈紀, 早川朋宏, 内田英二: 超高齢者臍頭十二指腸切除術症例からみた術前から術後にかけての要点. 日本消化器外科学会総会 (第67回) (富山), 2012. 7.
 - 36) 坂田義則, 野村 務, 松谷 毅, 萩原信敏, 牧野浩司, 丸山 弘, 加藤俊二, 藤田逸郎, 宮下正夫, 内田英二: 胃食道逆流症による重症肺炎に対して腹腔鏡下逆流防止術が著効した1例. 日本消化器外科学会総会 (第67回) (富山), 2012. 7.

- 37) 萩原信敏, 野村 務, 宮下正夫, 牧野浩司, 松谷 毅, 丸山 弘, 岩切勝彦, 藤田逸郎, 山下直行, 内田英二: III 型食道裂孔ヘルニアに対する腹腔鏡下手術. 日本消化器外科学会総会 (第 67 回) (富山), 2012. 7.
- 38) 川野陽一, 谷合信彦, 真々田裕宏, 吉岡正人, 松下 晃, 水口義昭, 清水哲也, 上田純志, 吉田 寛, 内田英二: 持続吸引式皮下ドレーンと真皮縫合の肝切除術後創部合併症に対する有用性. 日本消化器外科学会総会 (第 67 回) (富山), 2012. 7.
- 39) 横山 正, 吉田 寛, 平方敦史, 内田英二: 我々の臍頭十二指腸切除術後のドレーン管理と工夫. 日本臍切除研究会 (第 39 回) (東京), 2012. 8.
- 40) 川野陽一, 谷合信彦, 吉岡正人, 松下 晃, 水口義昭, 清水哲也, 上田純志, 高田英志, 真々田裕宏, 吉田 寛, 内田英二: 超音波検査で指摘された肝変形を契機に発見され, IVR 治療を施行した Budd-Chiari syndrome の 1 例. 日本門脈圧亢進症学会総会 (第 19 回) (東京), 2012. 9.
- 41) 上田純志, 吉田 寛, 真々田裕宏, 谷合信彦, 吉岡正人, 川野陽一, 水口義昭, 清水哲也, 高田英志, 内田英二: 肝細胞癌におけるソナゾイド造影超音波検査所見と血管マーカーの検討. 日本消化器関連学会週間 (第 20 回) (JDDW) 日本消化器病学会 (第 54 回) (神戸), 2012. 10.
- 42) 松下 晃, 川本聖郎, 清水哲也, 川野陽一, 水口義昭, 吉岡正人, 松谷 毅, 松本智司, 中村慶春, 相本隆幸, 平方敦史, 横山 正, 吉田 寛, 内田英二: ヒト臍癌における STAT5 の発見及び臨床病理学会的検討. 日本消化器関連学会週間 (第 20 回) (JDDW) 日本消化器病学会 (第 54 回) (神戸), 2012. 10.
- 43) 山下直行, 湖山信篤, 菅野仁士, 岩井拓磨, 萩原信敏, 藤田逸郎, 金沢義一, 小野寺浩之, 加藤俊二, 宮下正夫, 内田英二: 長期予後を見据えた上部限局胃癌に対する迷走神経温存胃漿膜筋層縦切開噴門形成術 (NP-EGP). 日本消化器関連学会週間 (第 20 回) (JDDW) 日本消化器病学会 (第 54 回) (神戸), 2012. 10.
- 44) 永嶋裕司, 安田正俊, 三浦富宏, 佐藤 康, 川村 徹, 中嶋 昭, 三浦妙太, 吉田 寛, 内田英二: 当院で経験した腸管気腫症の検討. 日本消化器関連学会週間 (第 20 回) (JDDW) 日本消化器病学会 (第 54 回) (神戸), 2012. 10.
- 45) 松谷 毅, 松田明久, 野村 務, 藤田逸郎, 金沢義一, 萩原信敏, 小野寺浩之, 丸山 弘, 牧野浩司, 宮下正夫, 内田英二: 消化器癌手術による生体反応と性差-脂肪細胞機能としてのアディポサイトカインを中心に-. 日本消化器関連学会週間 (第 20 回) (JDDW) 日本消化器病学会 (第 54 回) (神戸), 2012. 10.
- 46) 横山 正, 吉田 寛, 平方敦史, 内田英二: Gemcitabine+cisplatin 併用療法 (GP 療法) で長期 CR が得られている転移性胆道癌の 1 例. 日本胆道学会学術集会 (第 48 回) (新宿), 2012. 9.
- 47) 牧野浩司, 吉田 寛, 丸山 弘, 横山 正, 平方敦史, 藤田逸郎, 金沢義一, 山下直行, 内田英二: 胃進行癌に対する CD-DST 法による抗癌剤感受性検査施行とテーラーメイド治療の試み. 日本癌学会学術総会 (第 71 回) (札幌), 2012. 9.
- 48) 関 奈紀, 丸山 弘, 吉田 寛, 牧野浩司, 横山 正, 平方敦史, 寺西宣央, 菅野仁士, 坂田義則, 高尾嘉宗, 堀田正啓, 宮下哲平: 異所性子宮内膜症による腸閉塞. 城西科研究会 (第 85 回) (東京), 2012. 9.
- 49) 平方敦史, 吉田 寛, 牧野浩司, 丸山 弘, 横山 正, 寺西宣央, 菅野仁士, 高尾嘉宗, 坂田義則, 関 奈紀, 堀田正啓, 宮下哲平, 内田英二: 当科における Parietex Composite Mesh を用いた腹腔鏡下腹壁瘢痕ヘルニア修復術. 日本内視鏡外科学会総会 (第 25 回) (横浜), 2012. 12.
- 50) 萩原信敏, 野村 務, 松谷 毅, 牧野浩司, 加藤俊二, 藤田逸郎, 金沢義一, 櫻澤信行, 小野寺浩之, 山下直行, 赤木一郎, 篠塚恵理子, 宮下正夫, 内田英二: Parietex Composite Mesh を用いた腹腔鏡下手術にて治療を行った, 巨大食道裂孔ヘルニアの 1 症例. 日本内視鏡外科学会総会 (第 25 回) (横浜), 2012. 12.
- 51) 菅野仁士, 吉田 寛, 牧野浩司, 丸山 弘, 横山 正, 平方敦史, 寺西宣央, 坂田義則, 高尾嘉宗, 関 奈紀, 堀田正啓, 宮下哲平, 内田英二: 胆石症および巨大肝嚢胞に対し, 腹腔鏡下嚢摘術と肝嚢胞天蓋切除術を同時に施行した 1 例. 日本内視鏡外科学会総会 (第 25 回) (横浜), 2012. 12.
- 52) 高尾嘉宗, 松谷 毅, 丸山 弘, 牧野浩司, 横山 正, 平方敦史, 野村 務, 萩原信敏, 吉田 寛, 内田英二:

- 食道気管支瘻および癌性狭窄に対する胸腔鏡補助下食道バイパス手術. 日本内視鏡外科学会総会 (第 25 回) (横浜), 2012. 12.
- 53) 藤田逸郎, 金沢義一, 菅野仁士, 小野寺浩之, 櫻澤信行, 萩原信敏, 牧野浩司, 野村 務, 木山輝郎, 加藤俊二, 内田英二: 肥満症例における腹腔鏡下胃切除術: #6 郭清におけるアプローチ. 日本内視鏡外科学会総会 (第 25 回) (横浜), 2012. 12.
- 54) 高尾嘉宗, 横山 正, 牧野浩司, 平方敦史, 寺西宣央, 菅野仁士, 坂田義則, 堀田正啓, 関 奈紀, 宮下哲平, 吉田 寛, 内田英二: 急性腹症にて発症した盲腸癌腫瘍重積症の 1 例. 日本臨床外科学会 (第 74 回) (新宿), 2012. 11.
- 55) 関 奈紀, 横山 正, 牧野浩司, 丸山 弘, 平方敦史, 寺西宣央, 菅野仁士, 高尾嘉宗, 坂田義則, 堀田正啓, 丹野正隆, 吉田 寛, 内田英二: 結核の既往なく, 診断に難渋した乳腺腫瘍を初発症状とした肺外結核の 1 例. 日本臨床外科学会 (第 74 回) (新宿), 2012. 11.
- 56) 清水哲也, 谷合信彦, 吉岡正人, 川野陽一, 水口義昭, 上田純志, 高田英志, 真々田裕宏, 吉田 寛, 内田英二: インジコカルミンによる胆道リークテストにて胆管交通を認めた巨大多発肝嚢胞の 1 手術例. 日本臨床外科学会 (第 74 回) (新宿), 2012. 11.
- 57) 宮下哲平, 平方敦史, 牧野浩司, 横山 正, 丸山 弘, 寺西宣央, 菅野仁士, 高尾嘉宗, 坂田義則, 堀田正啓, 関 奈紀, 吉田 寛, 内田英二: 肝嚢胞性腫瘍と鑑別が困難であった肝嚢胞に対し腹腔鏡補助下にて切除し得た 1 例. 日本臨床外科学会 (第 74 回) (新宿), 2012. 11.
- 58) 関 奈紀, 横山 正, 宮下哲平, 堀田正啓, 坂田義則, 高尾嘉宗, 菅野仁士, 寺西宣央, 平方敦史, 丸山 弘, 牧野浩司, 吉田 寛: 両側乳癌術後 6 年以上経過後に鼠径部に孤立性リンパ節転移を来した 1 例. 日本乳癌学会関東地方会 (第 9 回) (埼玉), 2012. 12.
- 59) 堀田正啓, 丸山 弘, 吉田 寛, 牧野浩司, 高尾嘉宗, 横山 正, 寺西宣央, 菅野仁士, 関 奈紀, 内田英二: S 状結腸膈腹壁穿通による腹壁腫瘍, 壊死性筋膜炎の 1 例. 日本外科感染症学会総会 (第 25 回) (千葉県), 2012. 11.
- 60) 柳 健, 有蘭久雄, 簡野晃次, 高尾嘉宗, 吉田 寛, 内田英二: 1320nm パルスヤグレーザーによる EVLA は下肢静脈瘤治療の第一選択となりうる. 日本血管外科学会 (第 40 回), 2012. 5.
- 61) 松谷 毅, 野村 務, 藤田逸郎, 金沢義一, 萩原信敏, 櫻澤信行, 小野寺浩之, 加藤俊二, 丸山 弘, 牧野浩司, 吉田 寛, 宮下正夫, 内田英二: 食道癌性狭窄に対する腹腔鏡補助下食道バイパス手術. 日本消化器内視鏡学会総会 (第 83 回) (東京), 2012. 5.
- 62) Makino H, Yoshida H, Nomura T, Matsutani T, Hagiwara N, Yokoyama T, Hirakata A, Miyashita M, Uchida E: Esophageal Stripping Creates a Clear Operative Field for Lymph-Node Dissection along the Left Recurrent Laryngeal Nerve in Prone Video-Assisted Thoracoscopic Surgery of Esophagus (VATS-E). DDW 2012 (San Diego, CA, USA), 2012. 5.
- 63) 水谷 聡, 鈴木英之, 吉田 寛, 谷合信彦, 山岸正嗣, 八木亜記, 前島顕太郎, 小峯 修, 吉野雅則, 星野有哉, 渡辺昌則, 内田英二: 肝門部胆管癌に対する術前 ERCP の工夫. 日本消化器関連学会週間 (第 20 回) (JDDW) 日本消化器内視鏡学会 (第 84 回) (神戸), 2012. 10.
- 64) 萩原信敏, 櫻澤信行, 野村 務, 牧野浩司, 松谷 毅, 大川敬一, 加藤俊二, 藤田逸郎, 金沢義一, 小野寺浩之, 山下直行, 赤木一郎, 篠塚恵理子, 宮下正夫, 内田英二: 食道癌術後縫合不全に対しての内視鏡的クリッピング処置の工夫. 日本消化器関連学会週間 (第 20 回) (JDDW) 日本消化器内視鏡学会 (第 84 回) (神戸), 2012. 10.
- 65) 松谷 毅, 野村 務, 藤田逸郎, 金沢義一, 萩原信敏, 丸山 弘, 牧野浩司, 早川朋宏, 岩切勝彦, 河越哲郎, 川見典之, 内田英二: 食道癌術後に輪状甲状腺切開で挿入した気管カニューレによる気管膜様部損傷に対し気管ステントを留置した 1 例. 日本消化器関連学会週間 (第 20 回) (JDDW) 日本消化器内視鏡学会 (第 84 回) (神

- 戸), 2012. 10.
- 66) 小野寺浩之, 加藤俊二, 櫻澤信彦, 金沢義一, 萩原信敏, 山下直行, 牧野浩司, 野村 務, 藤田逸郎, 内田英二: 栄養経路, ドレナージとしての消化管瘻造設 (PEG, PTEG, PEJ) の適応と課題. 日本消化器関連学会週間 (第 20 回) (JDDW) 日本消化器内視鏡学会 (第 84 回) (神戸), 2012. 10.
 - 67) 藤田逸郎, 小野寺浩之, 金沢義一, 櫻澤信彦, 萩原信敏, 松谷 毅, 牧野浩司, 野村 務, 木下輝郎, 加藤俊二, 内田英二: 大学病院における栄養管理目的の PEG の適応と現状. 日本消化器関連学会週間 (第 20 回) (JDDW) 日本消化器内視鏡学会 (第 84 回) (神戸), 2012. 10.
 - 68) 関 奈紀, 牧野浩司, 横山 正, 丸山 弘, 平方敦史, 高尾嘉宗, 住吉宏樹, 坂田義則, 堀田正啓, 吉田 寛, 内田英二: 10 年間無治療にて緩徐な進行をしている胃癌の経過観察されている 1 例. 日本消化器関連学会週間 (第 20 回) (JDDW) 日本消化器内視鏡学会 (第 84 回) (神戸), 2012. 10.
 - 69) 野村 務, 松谷 毅, 萩原信敏, 藤田逸郎, 金沢義一, 小野寺浩之, 中村慶春, 牧野浩司, 丸山 弘, 川見典之, 岩切勝彦, 宮下正夫, 内田英二: びまん性食道痙攣に対する外科治療: 腹臥位胸腔鏡下 long myotomy の経験. 日本消化器関連学会週間 (第 20 回) (JDDW) 日本消化器内視鏡学会 (第 84 回) (神戸), 2012. 10.
 - 70) 川野陽一, 谷合信彦, 吉岡正人, 松下 晃, 水口義昭, 清水哲也, 上田純志, 中村慶春, 松本智司, 吉田 寛, 内田英二: 当科における鏡視下肝切除術を安全に行うための様々な手技の工夫. 日本消化器関連学会週間 (第 20 回) (JDDW) 消化器外科学会 (第 10 回) (神戸), 2012. 10.
 - 71) 松下 晃, 山初和也, 清水哲也, 川野陽一, 吉岡正人, 中村慶春, 相本隆幸, 平方敦史, 横山 正, 吉田 寛, 内田英二: GEM, S1 による術前化学療法後, R0 手術を施行した borderline resectable 膵頭部癌の 2 例. 日本消化器関連学会週間 (第 20 回) (JDDW) 第 10 回消化器外科学会 (第 10 回) (神戸), 2012. 10.
 - 72) 牧野浩司, 丸山 弘, 吉田 寛, 横山 正, 平方敦史, 宮下正夫, 野村 務, 松谷 毅, 萩原信敏, 高尾嘉宗, 住吉宏樹, 坂田義則, 関 奈紀, 堀田正啓, 早川朋宏, その他 1 名: 縦隔鏡補助下と胸腔鏡補助下食道切除術を用いた当科の高齢者に対する食道癌手術. 日本消化器関連学会週間 (第 20 回) (JDDW) 消化器外科学会 (第 10 回) (神戸), 2012. 10.
 - 73) 野村 務, 松谷 毅, 萩原信敏, 牧野浩司, 丸山 弘, 藤田逸郎, 小野寺浩之, 中村慶春, 千原直人, 渡辺昌則, 小峯 修, 鈴木英之, 土屋喜一, 勝田美和子, 川本聖郎, その他 2 名: III 型食道裂孔ヘルニアに対するコラーゲンフィルム付き半吸収性メッシュの使用経験. 日本消化器関連学会週間 (第 20 回) (JDDW) 消化器外科学会 (第 10 回) (神戸), 2012. 10.
 - 74) 山下直行, 湖山信篤, 菅野仁士, 岩井拓磨, 萩原信敏, 藤田逸郎, 金沢義一, 小野寺浩之, 加藤俊二, 宮下正夫, 内田英二: 進行再発胃癌の治療における経腸栄養 (経口摂取の重要性). 日本消化器関連学会週間 (第 20 回) (JDDW) 消化器外科学会 (第 10 回) (神戸), 2012. 10.
 - 75) 松田明久, 松谷 毅, 丸山 弘, 横室茂樹, 瀬谷知子, 堀場光二, 松本智司, 鶴田宏之, 櫻澤信彦, 佐々木順平, 横山 正, 田中威宣, 横井公良, 内田英二: 上部消化管癌手術における脂肪細胞機能低下の術後合併症発生への関与. 日本消化器関連学会週間 (第 20 回) (JDDW) 消化器外科学会 (第 10 回) (神戸), 2012. 10.
 - 76) Makino H, Maruyama H, Yoshida H, Nomura T, Matsutani T, Hagiwara N, Miyashita M, Yokoyama T, Hirakata A, Takao Y, Sumiyoshi Y, Hotta M, Hayakawa T, Uchida E: Esophageal stripping creates a clear operative field for lymphnode dissection along the left recurrent laryngeal nerve in prone video-assisted thoracoscopic surgery of esophagus (VATS-E). World Congress of the International Society for Diseases of the Esophagus (13th) (Venice, Italy), 2012. 10.
 - 77) 藤田逸郎, 木山輝郎, 小野寺浩之, 桜澤信彦, 菅野仁士, 金沢義一, 萩原信敏, 松谷 毅, 牧野浩司, 野村 務, 加藤俊二, 内田英二: 郭清制度を意識した腹腔鏡下胃切除における D2 郭清: 12a-8a 郭清. 日本胃癌学会総会 (第 85 回) (大阪), 2013. 2.
 - 78) 松谷 毅, 藤田逸郎, 野村 務, 金沢義一, 萩原信敏, 小野寺浩之, 丸山 弘, 牧野浩司, 高尾嘉宗, 加藤俊

- 二、内田英二：高齢者胃癌に対する腹腔鏡下胃切除術：POSSUM score を用いたリスク評価。日本胃癌学会総会（第 85 回）（大阪），2013. 2.
- 79) 菅野仁士，吉田 寛，牧野浩司，丸山 弘，横山 正，平方敦史，寺西宣央，坂田義則，高尾嘉宗，関 奈紀，堀田正啓，宮下哲平，藤田逸郎，内田英二：肝転移に対し肝切除および RFA を施行し長期生存が得られた AFP 産生胃癌の 1 例。日本胃癌学会総会（第 85 回）（大阪），2013. 3.
- 80) 萩原信敏，野村 務，松谷 毅，加藤俊二，藤田逸郎，金沢義一，牧野浩司，丸山 弘，桜澤信行，小野寺浩之，山下直行，赤城一郎，篠塚恵理子，宮下正夫，内田英二：多臓器転移を認めた巨大消化管腫瘍（GIST）に対して集学的治療にて病勢コントロール可能であった 1 例。日本胃癌学会総会（第 85 回）（大阪），2013. 2.
- 81) 牧野浩司，藤田逸郎，吉田 寛，丸山 弘，野村 務，松谷 毅，萩原信敏，寺西宣央，菅野仁士，高尾嘉宗，坂田義則，堀田正啓，関 奈紀，宮下哲平，内田英二：腹腔鏡下胃癌手術と食道癌の腹腔鏡下胃管作成術の共通点と相違点。日本胃癌学会総会（第 85 回）（大阪），2013. 3.
- 82) 住吉宏樹，牧野浩司，平方敦史，丸山 弘，横山 正，吉田 寛，内田英二：人工妊娠中絶後に発症した子宮，空腸穿孔による汎発性腹膜炎の 1 例。日本腹部救急医学会総会（第 49 回）（福岡），2013. 3.
- 83) 菅野仁士，山下直行，岩井拓磨，湖山信篤，櫻沢信行，金沢義一，藤田逸郎，木山輝郎，加藤俊二，内田英二：迷走神経温存幽門側胃切除術後における残胃環境評価：内視鏡および栄養学的観点から。日本消化器外科学会総会（第 67 回）（富山県），2012. 7.
- 84) 丸山 弘¹⁾，吉田 寛¹⁾，牧野浩司¹⁾，横山 正¹⁾，平方敦史¹⁾，高尾嘉宗¹⁾，住吉宏樹¹⁾，堀田正啓¹⁾，松谷 毅²⁾，内田英二²⁾（¹⁾ 日本医科大学多摩永山病院外科，²⁾ 日本医科大学外科）：高度肝障害合併食道癌に対して 2 期的手術を施行した 1 例。日本食道学会学術集会（第 66 回）（軽井沢），2012. 6.
- 85) 松谷 毅，藤田逸郎，野村 務，金沢義一，萩原信敏，小野寺浩之，丸山 弘，牧野浩司，高尾嘉宗，加藤俊二，内田英二：高齢者胃癌に対する腹腔鏡胃切除術-POSSUM score を用いたリスク評価。日本胃癌学会総会（第 85 回）（大阪），2013. 2.
- 86) 山下直行¹⁾，湖山信篤¹⁾，川本聖郎¹⁾，岩井拓磨¹⁾，藤田逸郎²⁾，金沢義一²⁾，小野寺浩之²⁾，加藤俊二²⁾，萩原信敏²⁾，櫻沢信行²⁾，牧野浩司²⁾，宮下正夫²⁾，内田英二²⁾（¹⁾ 坪井病院外科，²⁾ 日本医科大学外科）：CART，腹腔内化学療法にて治療導入可能となった急速腹水貯留を伴う若年者胃癌の 1 例。日本胃癌学会総会（第 85 回）（大阪），2013. 2.
- 87) 山下直行¹⁾，湖山信篤¹⁾，川本聖郎¹⁾，岩井拓磨¹⁾，藤田逸郎²⁾，金沢義一²⁾，小野寺浩之²⁾，加藤俊二²⁾，萩原信敏²⁾，櫻沢信行²⁾，牧野浩司²⁾，宮下正夫²⁾，内田英二²⁾（¹⁾ 坪井病院外科，²⁾ 日本医科大学外科）：根治性と長期予後から考える上部限局胃癌（U）に対する噴門側胃切除術。日本胃癌学会総会（第 85 回）（大阪），2013. 2.
- (6) 招請講演：
- 1) Yoshida H：New trends in surgical treatment for portal hypertension. World Congress of Pediatric Gastroenterology Hepatology and Nutrition (4th) (Taiwan)，2012. 11.
- (7) オリジナルセッション：
- 1) 山下直行，内田英二，湖山信篤，菅野仁士，岩井拓磨，小野寺浩之，櫻澤信行，萩原信敏，藤田逸郎，金沢義一，加藤俊二，牧野浩司，宮下正夫：癌探知犬による胃癌スクリーニング。日本癌学会学術総会（第 71 回）（札幌），2012. 9.
- (8) 企画関連口演：
- 1) 水口義昭，横室茂樹，真々田裕宏，有馬保生，清水哲也，神田知洋，谷合信彦，吉田 寛，瀧澤俊広，内田英二：Micro RNA 解析から見た，肝疾患における病態生理解明とバイオマーカー探索。日本消化器外科学会総会（第 67 回）（富山），2012. 7.
- (9) 主題関連セッション：
- 1) 横山 正，吉田 寛，平方敦史，松下 晃，高尾嘉宗，住吉宏樹，堀田正啓，関 奈紀，内田英二：膝頭十二指

腸切除術の合併症対策としてのドレーン管理と工夫. 日本膵臓学会 (第 43 回) (山形県), 2012. 6.

(10) 主題関連演題:

- 1) 平方敦史, 吉田 寛, 横山 正, 牧野浩司, 丸山 弘, 寺西宣央, 菅野仁士, 高尾嘉宗, 坂田義則, 関 奈紀, 堀田正啓, 宮下哲平, 内田英二: LigaSure, VIO system による無結紮肝切離の試み. 日本臨床外科学会 (第 74 回) (新宿), 2012. 11.
- 2) 牧野浩司, 丸山 弘, 吉田 寛, 横山 正, 平方敦史, 寺西宣央, 菅野仁士, 野村 務, 松谷 毅, 萩原信敏, 高尾嘉宗, 坂田義則, 関 奈紀, 堀田正啓, 内田英二: 腹臥位胸腔鏡下食道手術 (VATS-E) におけるストリッピングによる左側上縦隔の展開後の左反回神経周囲リンパ節郭清の工夫と助手の積極的参加やリトラクターやシーリングシステムを用いた効率的な食道切除とのコツ. 日本臨床外科学会 (第 74 回) (新宿), 2012. 11.
- 3) 松谷 毅, 野村 務, 萩原信敏, 藤田逸郎, 金沢義一, 小野寺浩之, 丸山 弘, 牧野浩司, 高尾嘉宗, 松田明久, 宮下正夫, 内田英二: 腹臥位胸腔鏡下食道切除術における工夫. 日本臨床外科学会 (第 74 回) (新宿), 2012. 11.
- 4) 川野陽一, 谷合信彦, 吉岡正人, 松下 晃, 水口義昭, 清水哲也, 上田純志, 高田英志, 真々田裕宏, 吉田 寛, 内田英二: 当科における開腹肝切除後 SSI 予防を考慮した閉創法の工夫. 日本臨床外科学会 (第 74 回) (東京), 2012. 11.
- 5) 菅野仁士, 吉田 寛, 牧野浩司, 丸山 弘, 横山 正, 平方敦史, 寺西宣央, 坂田義則, 高尾嘉宗, 関 奈紀, 堀田正啓, 宮下哲平, 内田英二: 絞扼性イレウスの早期補助診断法についての検討. 日本臨床外科学会 (第 74 回) (新宿), 2012. 11.
- 6) 牧野浩司, 丸山 弘, 吉田 寛, 横山 正, 平方敦史, 寺西宣央, 菅野仁士, 野村 務, 松谷 毅, 萩原信敏, 高尾嘉宗, 坂田義則, 関 奈紀, 堀田正啓, 内田英二: 胸腔鏡下食道癌手術で側臥位, 腹臥位両方を行い腹臥位法を選択した理由とその弱点克服の工夫. 日本臨床外科学会 (第 74 回) (新宿), 2012. 11.
- 7) 横山 正, 吉田 寛, 牧野浩司, 丸山 弘, 平方敦史, 寺西宣央, 菅野仁士, 高尾嘉宗, 坂田義則, 関 奈紀, 堀田正啓, 宮下哲平, 内田英二: 臍頭十二指腸切除術における臍管チューブを利用した臍空腸吻合の工夫と成績. 日本臨床外科学会 (第 74 回) (新宿), 2012. 11.

(11) 特別セッション:

- 1) 谷合信彦, 川野陽一, 吉岡正人, 清水哲也, 上田純志, 吉田 寛, 内田英二: 肝切除術における持続吸引式皮下ドレーンの有用性. 日本消化器外科学会総会 (第 67 回) (富山), 2012. 7.

(12) 要望ビデオ:

- 1) 丸山 弘, 牧野浩司, 吉田 寛, 横山 正, 平方敦史, 野村 務, 松谷 毅, 萩原信敏, 宮下正夫, 内田英二: 腹臥位胸腔鏡下食道切除術における食道ストリッピングによる 106recl の郭清. 日本消化器外科学会総会 (第 67 回) (富山), 2012. 7.
- 2) 堀田正啓, 牧野浩司, 吉田 寛, 丸山 弘, 横山 正, 平方敦史, 野村 務, 松谷 毅, 萩原信敏, 内田英二: 食道癌切除後, ステープルライン内翻による胃管作成とアンビルヘッド装着先行後挿入による頸部吻合の工夫. 日本消化器外科学会総会 (第 67 回) (富山), 2012. 7.
- 3) 平方敦史, 吉田 寛, 横山 正, 牧野浩司, 丸山 弘, 関 奈紀, 高尾嘉宗, 住吉宏樹, 堀田正啓, 内田英二: LigaSure Small Jaw による肝切除の工夫. 日本消化器外科学会総会 (第 67 回) (富山), 2012. 7.
- 4) 藤田逸郎, 木山輝郎, 金沢義一, 小野寺浩之, 菅野仁士, 萩原信敏, 櫻澤信行, 牧野浩司, 加藤俊二, 内田英二: 腹腔鏡下幽門側胃切除 (LAG) における #5-12a 郭清. 日本消化器外科学会総会 (第 67 回) (富山), 2012. 7.

(13) 要望演題:

- 1) 野村 務, 松谷 毅, 萩原信敏, 牧野浩司, 丸山 弘, 加藤俊二, 藤田逸郎, 中村慶春, 宮下正夫, 内田英二: 当施設における胃食道逆流症患者に対する外科医療の現状. 日本消化器外科学会総会 (第 67 回) (富山), 2012.

7.

- 2) 上田純志, 谷合信彦, 吉田 寛, 真々田裕宏, 吉岡正人, 川野陽一, 水口義昭, 清水哲也, 内田英二: 稀な肝腫瘍に対するソナゾイド造影超音波検査の検討. 日本消化器外科学会総会 (第 67 回) (富山), 2012. 7.
 - 3) 松谷 毅, 野村 務, 萩原信敏, 藤田逸郎, 金沢義一, 小野寺浩之, 松田明久, 丸山 弘, 牧野浩司, 内田英二: 腹臥位胸腔鏡下食道切除における手技の工夫と手術成績. 日本内視鏡外科学会総会 (第 25 回) (横浜), 2012. 12.
 - 4) 山下直行, 湖山信篤, 川本聖郎, 岩井拓磨, 藤田逸郎, 金沢義一, 小野寺浩之, 加藤俊二, 萩原信敏, 宮下正夫, 櫻澤信行, 牧野浩司, 内田英二: First Line の選別による非根治胃癌に対する治療戦略の試み. 日本臨床外科学会 (第 74 回) (新宿), 2012. 11.
 - 5) 野村 務, 松谷 毅, 萩原信敏, 牧野浩司, 丸山 弘, 藤田逸郎, 金沢義一, 中村慶春, 小野寺浩之, 岩切勝彦, 宮下正夫, 内田英二: High-Resolution Manometry にて筋層切開を行う範囲を決定し腹臥位胸腔鏡下にて long myotomy を施行したびまん性食道痙攣の 2 例. 日本臨床外科学会 (第 74 回) (新宿), 2012. 11.
 - 6) 松下 晃, 住吉宏樹, 清水哲也, 川野陽一, 水口義昭, 吉岡正人, 中村慶春, 相本隆幸, 平方敦史, 横山 正, 吉田 寛, 内田英二: 膀胱癌に対する GS による術前化学療法の意義と問題点. 日本臨床外科学会 (第 74 回) (新宿), 2012. 11.
 - 7) 菅野仁士, 吉田 寛, 牧野浩司, 丸山 弘, 横山 正, 平方敦史, 寺西宣央, 坂田義則, 高尾嘉宗, 関 奈紀, 堀田正啓, 宮下哲平, 内田英二: 絞扼性イレウスの早期診断指標についての検討. 日本腹部救急医学会総会 (第 49 回) (福岡), 2013. 3.
- (14) 要望演題ビデオ:
- 1) 萩原信敏, 野村 務, 松谷 毅, 牧野浩司, 藤田逸郎, 赤城一郎, 篠塚恵理子, 加藤俊二, 金沢義一, 山下直行, 櫻澤信行, 小野寺浩之, 宮下正夫, 内田英二: 腹腔鏡補助下胃管作成の際の術中偶発症を少なくするための工夫. 日本臨床外科学会 (第 74 回) (新宿), 2012. 11.
 - 2) 谷合信彦, 吉田 寛, 吉岡正人, 川野陽一, 清水哲也, 上田純志, 真々田裕宏, 水口義昭, 内田英二: VAIO system によるイオ電極を用いた肝離断面止血法. 日本臨床外科学会 (第 74 回) (新宿), 2012. 11.

[千葉北総病院外科]

研究概要

消化器外科および一般外科領域における基礎的、臨床的研究を行い、その成果を学会や学会誌等で報告しており、食道癌、胃癌、大腸癌をはじめとする消化器癌に対して、外科的治療とともに術前、術後の化学療法、放射線療法などを併用した集学的治療も行っている。1. 消化器疾患に対する内視鏡治療、特に早期胃癌に対する EMR、ESD 早期大腸癌に対する EMR、胆道疾患に対する内視鏡治療、閉塞性黄疸や癌再発に対する消化管狭窄に対する内視鏡的ステント挿入等、さらには食道静脈瘤に対する内視鏡的治療や内視鏡的胃瘻設術も行っている。2. 腹腔鏡手術は胆嚢摘出術のみならず、早期胃癌に対しても行っており、大腸癌では早期から進行癌まで適応拡大しつつあります。3. 開腹手術はエビデンスに基づき食道癌や肝胆膵の悪性腫瘍含めた消化器癌全般に対し積極的にを行い、若い外科医の経験、育成に力を注いでいる。各種学会の修練施設としての機能を十分に発揮すべく努力している。4. EBM に基づいた医療を行うのみならず、新たな EBM を作るべく、癌化学療法を中心に臨床試験を積極的に行っている。5. 研究としては、(1) 内視鏡を用いた新たな低侵襲治療法の開発、(2) がん悪性度の研究、(3) がん診断に関わるバイオマーカーの研究等を行っている。

研究業績

論文

〔追加分〕

追加分原著：

- 1) 山田岳史¹⁾, 内田英二¹⁾, 菅 隼人¹⁾, 松本智司¹⁾, 金沢義一¹⁾, 小泉岐博¹⁾, 佐々木順平¹⁾, 横井公良²⁾ (1) 日本医科大学外科, 2) 日本医科大学千葉北総病院外科) : 終末期大腸癌における oncologic emergency に対する予後予測に基づいた初期治療計画. 日本腹部救急医学会雑誌 2010 ; 30 (6) : 805-808.
- 2) Sasaki J¹⁾, Matsumoto S¹⁾, Kan H¹⁾, Yamada T¹⁾, Koizumi M¹⁾, Mizuguchi Y¹⁾, Uchida E¹⁾ (1) Surgery for Organ Function and Biological Regulation, Graduated Medicine, Nippon Medical School) : Objective Assessment of Postoperative Gastrointestinal Motility in Elective Colonic Resection Using a Radiopaque Marker Provides an Evidence for the Abandonment of Preoperative Mechanical Bowel Preparation. J Nippon Med Sch 2012 ; 79 (4) : 259-266.

(1) 原著：

- 1) 山田岳史¹⁾, 菅 隼人¹⁾, 松本智司¹⁾, 小泉岐博¹⁾, 佐々木順平¹⁾, 谷 杏彌¹⁾, 横井公良²⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院・外科, 2) 日本医科大学千葉北総病院・外科) : Oxaliplatin による末梢神経障害に対する桂枝加朮附湯と附子の効果. 癌と化学療法 2012 ; 39 (11) : 1687-1691.
- 2) 中村慶春¹⁾, 松本智司¹⁾, 吉岡正人¹⁾, 松下 晃¹⁾, 清水哲也¹⁾, 山初和也¹⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学消化器外科) : 腹腔鏡下膵頭十二指腸切除術 Laparoscopic pancreaticoduodenectomy (Lap-PD). 消化器外科 2012 ; 35 (10) : 1459-1470.
- 3) 野村 務¹⁾, 松谷 毅¹⁾, 萩原信敏¹⁾, 牧野浩司²⁾, 宮下正夫¹⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学臓器病態制御外科, 2) 日本医科大学多摩永山病院外科) : III 型食道裂孔ヘルニアに対する腹腔鏡下逆流防止術 (LARS) : 当施設における経験. 手術 2012 ; 66 (11 別刷) : 1627-1631.
- 4) 山初和也^{1, 2)}, 松田陽子²⁾, 石渡俊行²⁾, 鈴木妙子²⁾, 川原清子²⁾, 相本隆幸¹⁾, 中村慶春¹⁾, 松下 晃¹⁾, 上田純志^{1, 2)}, 内藤善哉²⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学臓器病態制御外科学, 2) 日本医科大学病理学 (統御機構・腫瘍学)) : 新たな分子標的治療としての Nestin による膵癌の腫瘍新生血管増殖抑制. 癌の臨床 2012 ; 58 (6) : 355-360.
- 5) Matsuda A¹⁾, Kishi T²⁾, Musso G²⁾, Matsutani T³⁾, Yokoi K¹⁾, Wang P⁴⁾, Uchida E³⁾ (1) Department of Surgery, Nippon Medical School Chiba-Hokuso Hospital, Inzai, Chiba, Japan, 2) Division of Psychiatry Research, The Zucker Hillside Hospital, Glen Oaks, NY, 3) Department of Surgery, Nippon Medical School, Bunkyo-ku, Tokyo, Japan, 4) Department of Surgery, Hofstra North Shore-LIJ School of Medicine, Manhasset, NY) : The Effect of Intraoperative Rectal Washout on local Recurrence after Rectal Cancer Surgery : A Meta-Analysis. SURGICAL ONCOLOGY 2012 ; 20 (3) : 856-863.
- 6) 岩切勝彦¹⁾, 川見典之¹⁾, 田中由理子¹⁾, 佐野弘仁¹⁾, 星原芳雄^{1, 2)}, 野村 務³⁾, 松谷 毅³⁾, 萩原信敏³⁾, 宮下正夫³⁾, 坂本長逸¹⁾ (1) 日本医科大学消化器内科学, 2) 経済産業省診療所, 3) 日本医科大学消化器外科学) : アカシアの診断とバルーン拡張術. 日本消化器病学会雑誌 2012 ; 109 (5) : 710-721.
- 7) 松谷 毅¹⁾, 野村 務¹⁾, 萩原信敏¹⁾, 吉田 寛^{1, 2)}, 宮下正夫¹⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学大学院医学研究科臓器病態制御外科学, 2) 日本医科大学多摩永山病院外科) : 80 歳以上の高齢者進行食道癌に対する Docetaxel/ Nedaplatin/5-FU 併用化学放射線療法. 日医大医会誌 2012 ; 8 (2) : 143-146.

(2) 総説：

- 1) 松田明久¹⁾, 宮下正夫¹⁾ (1) 日本医科大学千葉北総病院外科) : ショックの薬剤対応 Drug usage in shock. 消化器外科 2012 ; 35 (10) : 1560-1564.

- 2) 野村 務¹⁾, 松谷 毅¹⁾, 萩原信敏¹⁾, 牧野浩司²⁾, 丸山 弘²⁾, 藤田逸郎¹⁾, 中村慶春¹⁾, 岩切勝彦³⁾, 宮下正夫¹⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学大学院医学研究科臓器病態制御外科, 2) 日本医科大学多摩永山病院外科, 3) 日本医科大学大学院医学研究科病態制御腫瘍内科学): 食道裂孔ヘルニアに対するメッシュを用いた腹腔鏡下手術. 日医大医学会誌 2012; 8 (3): 207-210.
- 3) 宮下正夫¹⁾, 松田明久¹⁾ (1) 日本医科大学千葉北総病院外科): 時代の変遷に伴うショックの原因と基礎疾患. 侵襲と免疫 2012; 21 (3): 2-8.

(3) 症例報告:

- 1) 住吉宏樹^{1, 2)}, 横井公良²⁾, 牧野浩司¹⁾, 金沢義一¹⁾, 山田岳史¹⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学外科, 2) 日本医科大学千葉北総病院外科): 手術と化学療法で一時的に症状緩和が得られた G-CSF 産生大腸癌の 1 例. 日本臨床外科学会雑誌 2012; 73 (7 別刷): 1753-1758.
- 2) 高田英志^{1, 2)}, 松田明久¹⁾, 松本智司¹⁾, 上田純志²⁾, 横井公良¹⁾, 内田英二²⁾ (1) 日本医科大学千葉北総病院外科, 2) 日本医科大学消化器外科): 十二指腸まで虚血が及んだ広範囲非閉塞性腸管虚血症の 1 例. 日本臨床外科学会雑誌 2012; 73 (12 別刷): 3145-3149.
- 3) 早川朋宏¹⁾, 松谷 毅²⁾, 平方敦史¹⁾, 吉田 寛¹⁾, 笹島耕二¹⁾, 内田英二²⁾ (1) 日本医科大学多摩永山病院外科, 2) 日本医科大学外科): 腹腔鏡下手術を施行した胃神経鞘腫の 1 例. 臨床外科 2013; 68 (1 別刷): 100-104.

学会発表

[追加分]

追加分一般講演:

- 1) 若林秀幸¹⁾, 山田岳史²⁾, 横井公良¹⁾, 田中宣威¹⁾, 横室茂樹¹⁾, 内田英二²⁾ (1) 日本医科大学千葉北総病院外科, 2) 日本医科大学 外科): ゲフィチニブが原因と考えられ, 消化管穿孔と鑑別困難であった腸管囊腫様気腫症 (PCI) の 1 例. 千葉県外科医会 (第 63 回) (千葉), 2011. 11.

(1) 一般講演:

- 1) 松本智司¹⁾, 菅 隼人¹⁾, 山田岳史¹⁾, 小泉岐博¹⁾, 進士誠一¹⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学外科・消化器外科): 右側結腸がんに対する単孔式手術の役割. 日本消化器外科学会総会 (第 67 回) (富山), 2012. 7.
- 2) 松田明久¹⁾, 横井公良¹⁾, 横室茂樹¹⁾, 瀬谷知子¹⁾, 堀場光二¹⁾, 鶴田宏之¹⁾, 白川 毅¹⁾, 佐々木順平¹⁾, 田中宣威¹⁾, 内田英二²⁾ (1) 日本医科大学千葉北総外科, 2) 日本医科大学外科・消化器外科): 直腸癌前方切断術における術中直腸洗浄の局所再発抑制効果: メタアナリシスによる検討. 日本消化器外科学会総会 (第 67 回) (富山), 2012. 7.
- 3) 山初和也¹⁾, 中村慶春¹⁾, 松本智司¹⁾, 松下 晃¹⁾, 吉岡正人¹⁾, 清水哲也¹⁾, 田尻 孝¹⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学外科・消化器外科): 鏡視下膀胱小手術の手術手技. 日本消化器外科学会総会 (第 67 回) (富山), 2012. 7.
- 4) 菅野仁士¹⁾, 山下直行¹⁾, 岩井拓磨¹⁾, 湖山信篤¹⁾, 小野寺浩之²⁾, 櫻澤信行²⁾, 金沢義一²⁾, 藤田逸郎²⁾, 木山輝郎²⁾, 加藤俊二²⁾, 萩原信敏²⁾, 野村 務²⁾, 宮下正夫²⁾, 内田英二²⁾ (1) 坪井病院外科, 2) 日本医科大学外科): 迷走神経温存幽門側胃切除術後における残胃環境: 内視鏡および栄養学的評価. 日本外科学会定期学術集会 (第 112 回) (千葉), 2012. 4.
- 5) 山初和也¹⁾, 松田陽子²⁾, 石渡俊行²⁾, 山本哲志²⁾, 萩尾真人²⁾, 相本隆幸¹⁾, 中村慶春¹⁾, 松下 晃¹⁾, 上田純志¹⁾, 内田英二¹⁾, 内藤善哉²⁾ (1) 日本医科大学臓器病態制御外科, 2) 日本医科大学第二病理): Nestin による膀胱癌腫瘍新生血管増殖制御と新たな分子標的治療の可能性. 日本外科学会定期学術集会 (第 112 回) (千葉), 2012. 4.
- 6) 松本智司¹⁾, 菅 隼人¹⁾, 中村慶春¹⁾, 山田岳史¹⁾, 小泉岐博¹⁾, 佐々木順平²⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学外

- 科, ²⁾ 日本医科大学千葉北総病院外科): 教育機関における鏡視下虫垂切除術の位置づけと術式の工夫. 日本外科学会定期学術集会 (第 112 回) (千葉), 2012. 4.
- 7) 堀場光二¹⁾, 横井公良¹⁾, 田中宣威¹⁾, 横室茂樹¹⁾, 瀬谷知子¹⁾, 勝田美和子¹⁾, 白川 毅¹⁾, 牧野浩司²⁾, 野村 務²⁾, 宮下正夫²⁾, 内田英二²⁾ (¹⁾ 日本医科大学千葉北総病院外科, ²⁾ 日本医科大学臓器病態制御外科): 食道扁平上皮癌における EMMPRIN/CD147, MCT-1 の共存発現. 日本外科学会定期学術集会 (第 112 回) (千葉), 2012. 4.
- 8) 櫻澤信行, 加藤俊二, 藤田逸郎, 金沢義一, 小野寺浩之, 野村 務, 牧野浩司, 松谷 毅, 萩原信敏, 内田英二 (¹⁾ 日本医科大学消化器外科): 胃癌取扱い新規約 14 版と新ガイドラインにおける術前診断と病理結果からみた当科における手術治療の妥当性の検討. 日本外科学会定期学術集会 (第 112 回) (千葉), 2012. 4.
- 9) 野村 務¹⁾, 松谷 毅¹⁾, 萩原信敏¹⁾, 山初和也¹⁾, 佐々木順平²⁾, 上田純志¹⁾, 山岸杏彌¹⁾, 松野邦彦¹⁾, 古川清憲¹⁾, 内田英二¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学 消化器外科, ²⁾ 日本医科大学附属千葉北総病院 外科): 当院における鼠径部ヘルニア手術教育の現状. 日本ヘルニア学会学術集会 (第 10 回) (愛知), 2012. 4.
- 10) 松谷 毅¹⁾, 野村 務¹⁾, 萩原信敏¹⁾, 山初和也¹⁾, 上田純志¹⁾, 松下 晃¹⁾, 平方敦史²⁾, 高尾嘉宗²⁾, 内田英二¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学 外科, ²⁾ 日本医科大学多摩永山病院 外科): 成人鼠径ヘルニアに対する前方到達法: underlay patch 展開の工夫. 日本ヘルニア学会学術集会 (第 10 回) (愛知), 2012. 4.
- 11) 野村 務¹⁾, 松谷 毅¹⁾, 萩原信敏¹⁾, 山初和也¹⁾, 佐々木順平²⁾, 上田純志¹⁾, 山岸杏彌¹⁾, 松野邦彦¹⁾, 古木裕康¹⁾, 原田潤一郎¹⁾, 古川清憲¹⁾, 内田英二¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学 消化器外科, ²⁾ 日本医科大学附属千葉北総病院外科): 腹壁癒痕ヘルニア術後メッシュ感染の経験. 日本ヘルニア学会学術集会 (第 10 回) (愛知), 2012. 4.
- 12) 山初和也¹⁾, 中村慶春¹⁾, 松本智司¹⁾, 田尻 孝¹⁾, 内田英二¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学 外科): 腹腔鏡下臍中央切除術 (Lap-CP) の手術手技について. 日本肝胆膵外科学会・学術集会 (第 24 回) (大阪), 2012. 5.
- 13) 高 和英¹⁾, 中村慶春¹⁾, 山初和也¹⁾, 松本智司¹⁾, 吉岡正人¹⁾, 松下 晃¹⁾, 清水哲也¹⁾, 内田英二¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学 外科): 若年女性に発生した臍管内乳頭粘液性腫瘍に対して腹腔鏡下臍中央切除術 (Lap-CP) を施行した 1 例. 日本肝胆膵外科学会・学術集会 (第 24 回) (大阪), 2012. 5.
- 14) 中村慶春¹⁾, 松本智司¹⁾, 吉岡正人¹⁾, 松下 晃¹⁾, 川野陽一¹⁾, 水口義昭¹⁾, 清水哲也¹⁾, 山初和也¹⁾, 相本隆幸¹⁾, 谷合信彦¹⁾, 真々田裕宏¹⁾, 田尻 孝¹⁾, 内田英二¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学 外科 (消化器外科)): 腹腔鏡下臍切除術の手術手技: 開腹術と同様に安心して行える手技を目指して. 日本肝胆膵外科学会・学術集会 (第 24 回) (大阪), 2012. 5.
- 15) 中村慶春¹⁾, 松本智司¹⁾, 松下 晃¹⁾, 吉岡正人¹⁾, 清水哲也¹⁾, 山初和也¹⁾, 田尻 孝¹⁾, 内田英二¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学 外科): 巨大臍粘液性嚢胞性腫瘍に対する腹腔鏡下臍体尾部切除術. 日本肝胆膵外科学会・学術集会 (第 24 回) (大阪), 2012. 5.
- 16) 中村慶春¹⁾, 松本智司¹⁾, 吉岡正人¹⁾, 松下 晃¹⁾, 清水哲也¹⁾, 山初和也¹⁾, 相本隆幸¹⁾, 田尻 孝¹⁾, 内田英二¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学 外科): 腹腔鏡下尾側臍切除術における自動縫合器を用いた臍切離法. 日本肝胆膵外科学会・学術集会 (第 24 回) (大阪), 2012. 5.
- 17) 水口義昭¹⁾, 有馬保生¹⁾, 横室茂樹¹⁾, 真々田裕宏¹⁾, 谷合信彦¹⁾, 中村慶春¹⁾, 吉岡正人¹⁾, 松下 晃¹⁾, 川野陽一¹⁾, 清水哲也¹⁾, 吉田 寛¹⁾, 内田英二¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学 外科): 腹腔鏡下胆のう摘出術胆管損傷症例におけるピットフォールと対策. 特に総胆管完全断裂例について. 日本肝胆膵外科学会・学術集会 (第 24 回) (大阪), 2012. 5.
- 18) 吉岡正人¹⁾, 中村慶春¹⁾, 松本智司¹⁾, 田尻 孝¹⁾, 内田英二¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学附属病院 外科): 腹腔鏡下臍尾側切除術の手術手技について. 日本肝胆膵外科学会・学術集会 (第 24 回) (大阪), 2012. 5.
- 19) 安藤文彦^{1, 2)}, 吉田 寛¹⁾, 横山 正¹⁾, 平方淳史¹⁾, 高尾嘉宗¹⁾, 牧野浩司¹⁾, 丸山 弘¹⁾, 住吉宏樹¹⁾, 馬越通信¹⁾, 堀田正啓¹⁾, 関 奈紀¹⁾, 早川朋宏¹⁾, 松下 晃^{1, 2)}, 内田英二²⁾ (¹⁾ 日本医科大学多摩永山病院 外科, ²⁾ 日本医科大学 消化器外科): 臍頭部 IMPN 診断が契機となり RO 手術を成し得た進行胆嚢扁平上皮癌の 1 例.

日本肝胆膵外科学会・学術集会（第24回）（大阪），2012. 5.

- 20) 相本隆幸¹⁾，内田英二¹⁾，中村慶春¹⁾，松下 晃¹⁾，勝野 暁¹⁾，張 一光¹⁾，川本聖郎¹⁾，山初和也¹⁾，小林 匡²⁾（¹⁾ 日本医科大学 外科，²⁾ 小林病院）：切除可能膵癌に対する術前化学療法の意義. 日本肝胆膵外科学会・学術集会（第24回）（大阪），2012. 5.
- 21) 松下 晃¹⁾，山初和也¹⁾，清水哲也¹⁾，川野陽一¹⁾，吉岡正人¹⁾，中村慶春¹⁾，相本隆幸¹⁾，平方淳史²⁾，横山 正²⁾，吉田 寛²⁾，内田英二¹⁾（¹⁾ 日本医科大学 外科，²⁾ 日本医科大学 多摩永山病院 外科）：GS療法による術前化学療法施行後，RO手術を施行したborderline resectable膵頭部癌の1例. 日本肝胆膵外科学会・学術集会（第24回）（大阪），2012. 5.
- 22) 川野陽一¹⁾，谷合信彦¹⁾，吉岡正人¹⁾，中村慶春¹⁾，松本智司¹⁾，松下 晃¹⁾，水口義昭¹⁾，清水哲也¹⁾，上田純志¹⁾，真々田裕宏¹⁾，吉田 寛²⁾，内田英二¹⁾（¹⁾ 日本医科大学 外科，²⁾ 日本医科大学多摩永山病院 外科）：当科における鏡視下肝切除術での様々な工夫. 日本肝胆膵外科学会・学術集会（第24回）（大阪），2012. 5.
- 23) 保田智彦¹⁾，川野陽一¹⁾，上田純志¹⁾，山初和也¹⁾，清水哲也¹⁾，水口義昭¹⁾，吉岡正人¹⁾，松下 晃¹⁾，中村慶春¹⁾，谷合信彦¹⁾，相本隆幸¹⁾，真々田裕宏¹⁾，内田英二¹⁾（¹⁾ 日本医科大学 外科）：術前診断に苦慮した肝エキノコックス症の1例. 日本肝胆膵外科学会・学術集会（第24回）（大阪），2012. 5.
- 24) 松下 晃¹⁾，山初和也¹⁾，川本聖郎¹⁾，清水哲也¹⁾，川野陽一¹⁾，吉岡正人¹⁾，中村慶春¹⁾，相本隆幸¹⁾，平方淳史²⁾，横山 正²⁾，吉田 寛²⁾，内田英二¹⁾（¹⁾ 日本医科大学 外科，²⁾ 日本医科大学 多摩永山病院 外科）：ヒト膵癌におけるSTAT5の発現，活性化の意義. 日本肝胆膵外科学会・学術集会（第24回）（大阪），2012. 5.
- 25) 清水哲也¹⁾，中村慶春¹⁾，松本智司¹⁾，吉岡正人¹⁾，松下 晃¹⁾，山初和也¹⁾，田尻 孝¹⁾，内田英二¹⁾（¹⁾ 日本医科大学 外科）：安全な腹腔鏡下膵頭十二指腸切除術を行うための膵切離と再建術の工夫. 日本肝胆膵外科学会・学術集会（第24回）（大阪），2012. 5.
- 26) 平方淳史¹⁾，吉田 寛¹⁾，横山 正¹⁾，牧野浩司¹⁾，丸山 弘¹⁾，松下 晃²⁾，高尾嘉宗¹⁾，住吉宏樹¹⁾，馬越通信¹⁾，堀田正啓¹⁾，関 奈紀¹⁾，早川朋宏¹⁾，内田英二²⁾（¹⁾ 日本医科大学多摩永山病院 外科，²⁾ 日本医科大学 付属病院 外科）：巨大肝血管腫に対する肝切除. 日本肝胆膵外科学会・学術集会（第24回）（大阪），2012. 5.
- 27) 清水哲也¹⁾，中村慶春¹⁾，内田英二¹⁾，松本智司¹⁾，吉岡正人¹⁾，松下 晃¹⁾，水口義昭¹⁾，山初和也¹⁾，田尻 孝¹⁾（¹⁾ 日本医科大学 外科）：当科における先天性胆道拡張症の腹腔鏡下手術. 日本肝胆膵外科学会・学術集会（第24回）（大阪），2012. 5.
- 28) 鈴木英之¹⁾，吉野雅則¹⁾，松信哲朗¹⁾，三浦克洋¹⁾，豊田哲鎬¹⁾，中田亮輔¹⁾，大山莉奈¹⁾，菅 隼人²⁾，松本智司²⁾，小泉岐博²⁾，渡辺昌則¹⁾，内田英二²⁾（¹⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院消化器病センター，²⁾ 日本医科大学消化器外科）：コストとコンプライアンスからみた進行再発大腸癌化学療法の問題点. 日本大腸肛門病学会学術集会（第67回）（福岡），2012. 11.
- 29) 進士誠一¹⁾，菅 隼人¹⁾，松本智司¹⁾，山田岳史¹⁾，小泉岐博¹⁾，山岸杏彌¹⁾，原 啓介¹⁾，高 和英¹⁾，藤森俊二²⁾，辰口篤志²⁾，内田英二¹⁾（¹⁾ 日本医科大学 消化器外科，²⁾ 日本医科大学 消化器内科）：腹腔鏡補助下結腸切除した特発性腸間膜静脈硬化症の1例. 日本大腸肛門病学会学術集会（第67回）（福岡），2012. 11.
- 30) 山田岳史¹⁾，松本智司²⁾，菅 隼人¹⁾，小泉岐博¹⁾，進士誠一¹⁾，佐々木順平²⁾，谷 杏彌¹⁾，松田明久²⁾，内田英二¹⁾（¹⁾ 日本医科大学 消化器外科，²⁾ 日本医科大学千葉北総病院外科）：ERASは腸管蠕動麻痺を早期に回復させるのか？. 日本大腸肛門病学会学術集会（第67回）（福岡），2012. 11.
- 31) 山田岳史¹⁾，菅 隼人¹⁾，松本智司²⁾，小泉岐博²⁾，進士誠一¹⁾，金沢義一¹⁾，佐々木順平²⁾，谷 杏彌¹⁾，内田英二¹⁾（¹⁾ 日本医科大学消化器外科，²⁾ 日本医科大学千葉北総病院外科）：再発大腸癌に対する化学療法中における最大大腰筋面積比の意義：長期化学療法により栄養状態は徐々に悪化する？. 日本大腸肛門病学会学術集会（第67回）（福岡），2012. 11.
- 32) 原絵津子¹⁾，山田岳史¹⁾，菅 隼人¹⁾，松本智司²⁾，小泉岐博¹⁾，進士誠一¹⁾，内田英二¹⁾（¹⁾ 日本医科大学消化器

- 外科, ²⁾ 日本医科大学千葉北総病院外科) : FOLFIRI にて高アンモニア血症による意識障害をきたした 1 例. 日本大腸肛門病学会学術集会 (第 67 回) (福岡), 2012. 11.
- 33) 鈴木英之¹⁾, 吉野雅則¹⁾, 松信哲朗¹⁾, 三浦克洋¹⁾, 中田亮輔¹⁾, 大山莉奈¹⁾, 菅 隼人²⁾, 松本智司²⁾, 小泉岐博²⁾, 渡辺昌則¹⁾, 内田英二²⁾ (¹⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院消化器病センター, ²⁾ 日本医科大学消化器外科) : ストーマ増設の傾向と合併症の検討. 日本大腸肛門病学会学術集会 (第 67 回) (福岡), 2012. 11.
- 34) 青木悠人¹⁾, 山田岳史¹⁾, 菅 隼人¹⁾, 松本智司²⁾, 金沢義一¹⁾, 小泉岐博¹⁾, 進士誠一²⁾, 佐々木順平¹⁾, 内田英二¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学付属病院消化器外科, ²⁾ 日本医科大学千葉北総病院外科) : 耐糖能障害合併結腸癌患者における術後消化管運動の検討. 日本大腸肛門病学会学術集会 (第 67 回) (福岡), 2012. 11.
- 35) 小泉岐博¹⁾, 内田英二¹⁾, 菅 隼人¹⁾, 山田岳史¹⁾, 進士誠一¹⁾, 山岸杏彌¹⁾, 原絵津子¹⁾, 原 敬介¹⁾, 松本智司²⁾ (¹⁾ 日本医科大学付属病院消化器外科, ²⁾ 日本医科大学千葉北総病院外科) : 腹腔鏡下直腸癌手術における側方リンパ筋郭清術. 日本大腸肛門病学会学術集会 (第 67 回) (福岡), 2012. 11.
- 36) 菅 隼人¹⁾, 内田英二¹⁾, 松本智司²⁾, 鶴田宏之²⁾, 山田岳史¹⁾, 小泉岐博¹⁾, 進士誠一¹⁾, 佐々木順平²⁾, 谷 杏彌¹⁾, 原 敬介¹⁾, 鈴木英之³⁾, 古川清憲¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学消化器外科, ²⁾ 日本医科大学千葉北総病院, ³⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院) : 再発 S 状結腸・直腸癌に対する S-1 併用化学放射線療法. 日本大腸肛門病学会学術集会 (第 67 回) (福岡), 2012. 11.
- 37) 松田明久¹⁾, 松本智司¹⁾, 瀬谷知子¹⁾, 堀場光二¹⁾, 鶴田宏之¹⁾, 佐々木順平¹⁾, 横井公良¹⁾, 内田英二²⁾ (¹⁾ 日本医科大学千葉北総病院外科, ²⁾ 日本医科大学外科) : 大腸癌肝転移における肝切除後合併症の発生は長期成績に影響を及ぼすか? : メタアナリシスによる検討. 日本大腸肛門病学会学術集会 (第 67 回) (福岡), 2012. 11.
- 38) 松本智司¹⁾, 内田英二²⁾, 瀬谷知子¹⁾, 鶴田宏之¹⁾, 菅 隼人²⁾, 山田岳史²⁾, 小泉岐博²⁾, 松田明久¹⁾, 進士誠一²⁾, 佐々木順平¹⁾, 横井公良¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学千葉北総病院外科, ²⁾ 日本医科大学付属病院外科) : 鏡視下右側結腸手術における頭側アプローチ法. 日本大腸肛門病学会学術集会 (第 67 回) (福岡), 2012. 11.
- 39) 瀬谷知子¹⁾, 田中宣威¹⁾, 横井公良¹⁾, 堀場光二¹⁾, 鶴田宏之¹⁾, 松本智司¹⁾, 高橋由至¹⁾, 進士誠一²⁾, 松田明久¹⁾, 佐々木順平¹⁾, 高橋吾郎¹⁾, 若林秀幸¹⁾, 内田英二²⁾ (¹⁾ 日本医科大学千葉北総病院外科, ²⁾ 日本医科大学第一外科) : 大腸癌肝転移, 肺転移症例における MCT1, CD44v6, CD147 (EMMPRIN) の発現. 日本大腸肛門病学会学術集会 (第 67 回) (福岡), 2012. 11.
- 40) 谷 杏彌¹⁾, 内田英二¹⁾, 松本智司¹⁾, 菅 隼人¹⁾, 山田岳史¹⁾, 小泉岐博¹⁾, 進士誠一¹⁾, 佐々木順平¹⁾, 原 敬介¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学外科) : 大腸がん手術検体における網羅的発現遺伝子解析による経時的变化の検討. 日本大腸肛門病学会学術集会 (第 67 回) (福岡), 2012. 11.
- 41) 高橋吾郎¹⁾, 瀬谷知子¹⁾, 若林秀幸¹⁾, 佐々木順平¹⁾, 松田明久¹⁾, 松本智司¹⁾, 鶴田宏之¹⁾, 堀場光二¹⁾, 横井公良¹⁾, 田中宣威¹⁾, 内田英二²⁾ (¹⁾ 日本医科大学千葉北総病院, ²⁾ 日本医科大学付属病院 消化器・一般・乳腺・移植外科) : 当院で経験した大腸印環細胞癌の 4 例. 日本大腸肛門病学会学術集会 (第 67 回) (福岡), 2012. 11.
- 42) 中村慶春¹⁾, 松本智司¹⁾, 内田英二¹⁾ (¹⁾ 日本医大・外科) : 当科における腹腔鏡下臍中央切除術 (Lap-CP) の手術手技について. 日本消化器内視鏡学会総会 (第 84 回) (神戸), 2012. 10.
- 43) 吉岡正人¹⁾, 中村慶春¹⁾, 松下 晃¹⁾, 清水哲也¹⁾, 山初和也¹⁾, 内田英二¹⁾ (¹⁾ 日本医大付属病院・1 外科) : 若年発症の IPMN に対し, 腹腔鏡下臍中央切除術を施行した 1 例. 日本消化器内視鏡学会総会 (第 84 回) (神戸), 2012. 10.
- 44) 萩原信敏¹⁾, 櫻澤信行¹⁾, 野村 務¹⁾, 牧野浩司¹⁾, 松谷 毅¹⁾, 大川敬一¹⁾, 加藤俊二¹⁾, 藤田逸郎¹⁾, 金沢義一¹⁾, 小野寺浩之¹⁾, 山下直行²⁾, 赤城一郎¹⁾, 篠塚恵里子¹⁾, 宮下正夫¹⁾, 内田英二¹⁾ (¹⁾ 日本医大・外科, ²⁾ 坪井病院・外科) : 食道癌術後縫合不全に対しての内視鏡的クリッピング処置の工夫. 日本消化器内視鏡学会総会 (第 84 回) (神戸), 2012. 10.
- 45) 松谷 毅¹⁾, 野村 務¹⁾, 藤田逸郎¹⁾, 金沢義一¹⁾, 萩原信敏¹⁾, 丸山 弘²⁾, 牧野浩司²⁾, 早川朋宏²⁾, 岩切勝

- 彦³，河越哲郎³，川見典之³，内田英二¹ (1) 日本医大・外科，² 日本医大多磨永山病院・外科，³ 日本医大・消化器内科)：食道癌術後に輪状甲状膜切開で挿入した気管カニューレによる気管膜様部損傷に対し気管ステントを留置した1例。日本消化器内視鏡学会総会 (第84回) (神戸)，2012. 10.
- 46) 小野寺浩¹，加藤俊二¹，櫻澤信行¹，金沢義一¹，萩原信敏¹，山下直行¹，牧野浩司²，野村 務¹，藤田逸郎¹，内田英二¹ (1) 日本医大・外科，² 日本医大多磨永山病院・外科)：栄養経路，ドレナージとしての消化管瘻増設 (PEG,PTEG, PEJ) の適応と課題。日本消化器内視鏡学会総会 (第84回) (神戸)，2012. 10.
- 47) 藤田逸郎¹，小野寺浩¹，金沢義一¹，櫻澤信行¹，萩原信敏¹，松谷 毅¹，牧野浩司²，野村 務¹，木山輝郎¹，加藤俊二¹，内田英二¹ (1) 日本医大大学院・臓器病態制御外科学，² 日本医大多磨永山病院・外科)：大学病院における栄養管理目的のPEGの適応と現状。日本消化器内視鏡学会総会 (第84回) (神戸)，2012. 10.
- 48) 野村 務¹，松谷 毅¹，萩原信敏¹，藤田逸郎¹，金沢義一¹，小野寺浩¹，中村慶春¹，牧野浩司²，丸山弘²，川見典之³，岩切勝彦³，宮下正夫¹，内田英二¹ (1) 日本医大大学院・臓器病態制御外科学，² 日本医大多磨永山病院・外科，³ 日本医大大学院・器官機能病態内科学)：びまん性食道痙攣に対する外科治療：腹臥位胸腔鏡下 long myotomy の経験。日本消化器内視鏡学会総会 (第84回) (神戸)，2012. 10.
- 49) 中村慶春¹，松本智司¹，田尻 孝¹，内田英二¹ (1) 日本医科大学消化器外科学)：標準化を目指した腹腔鏡下膵切除術の手術手技。日本臨床外科学会総会 (第74回) (東京)，2012. 11.
- 50) 中村慶春¹，松本智司¹，吉岡正人¹，松下 晃¹，清水哲也¹，谷合信彦¹，田尻 孝¹，内田英二¹ (1) 日本医科大学消化器外科学)：腹腔鏡下膵切除術におけるエネルギーデバイスの選択とその使用法。日本臨床外科学会総会 (第74回) (東京)，2012. 11.
- 51) 松本智司¹，横室茂樹¹，鶴田宏之¹，菅 隼人²，山田岳史²，櫻澤信行¹，松田明久¹，進士誠一²，佐々木順平¹，高橋吾郎¹，横井公良¹，内田英二² (1) 日本医科大学千葉北総病院外科，² 日本医科大学付属病院外科)：教育的観点からみた鏡視下虫垂切除術と術式の工夫。日本臨床外科学会総会 (第74回) (東京)，2012. 11.
- 52) 松谷 毅¹，野村 務¹，萩原信敏¹，藤田逸郎¹，金沢義一¹，小野寺浩¹，丸山 弘²，牧野浩司²，高尾嘉宗²，松田明久³，宮下正夫³，内田英二¹ (1) 日本医科大学消化器外科，² 日本医科大学多磨永山病院外科，³ 日本医科大学千葉北総病院外科)：腹臥位胸腔鏡下食道切除術における工夫。日本臨床外科学会総会 (第74回) (東京)，2012. 11.
- 53) 山田岳史¹，菅 隼人¹，松本智司²，金沢義一¹，小泉岐博¹，進士誠一¹，岩本美樹¹，青木悠人¹，内田英二¹ (1) 日本医科大学消化器外科，² 日本医科大学千葉北総病院外科)：早期緩和治療：機会を逃さない速やかな介入が重要である。日本臨床外科学会総会 (第74回) (東京)，2012. 11.
- 54) 山田岳史¹，菅 隼人¹，松本智司²，小泉岐博¹，進士誠一¹，青木悠人¹，原絵津子¹，内田英二¹ (1) 日本医大消化器外科，² 日本医大千葉北総病院外科)：造影CTによる絞扼性イレウスの早期診断。日本臨床外科学会総会 (第74回) (東京)，2012. 11.
- 55) 松下 晃¹，中村慶春¹，清水哲也¹，川野陽一¹，吉岡正人¹，松本智司¹，田尻 孝¹，内田英二¹ (1) 日本医科大学消化器外科)：腹腔鏡下膵切除術における膵空腸吻合の工夫。日本臨床外科学会総会 (第74回) (東京)，2012. 11.
- 56) 菅 隼人¹，内田英二¹，山田岳史¹，小泉岐博¹，進士誠一¹，谷 杏彌¹，原 敬介¹，松本智司²，鶴田宏之²，鈴木英之³，古川清憲¹ (1) 日本医科大学消化器外科，² 日本医科大学千葉北総病院外科，³ 日本医科大学武蔵小杉病院消化器病センター)：直腸癌に対するS-1併用術前化学放射線療法。日本臨床外科学会総会 (第74回) (東京)，2012. 11.
- 57) 野村 務¹，松谷 毅¹，萩原信敏¹，牧野浩司²，丸山 弘²，藤田逸郎¹，金沢義一¹，中村慶春¹，小野寺浩之¹，岩切勝彦³，宮下正夫⁴，内田英二¹ (1) 日本医科大学消化器外科，² 日本医科大学付属多磨永山病院外科，³ 日本医科大学消化器内科，⁴ 日本医科大学千葉北総病院外科)：High-Resolution Manometryにて筋層切開を行う範囲を決定し腹臥位胸腔鏡下にて long myotomy を施行したびまん性食道痙攣の2例。日本臨床外科学

会総会（第74回）（東京），2012. 11.

- 58) 水口義昭¹⁾，中村慶春¹⁾，松本智司²⁾，吉岡正人¹⁾，清水哲也¹⁾，田尻 孝¹⁾，内田英二¹⁾（¹⁾ 日本医科大学消化器外科，²⁾ 日本医科大学千葉北総病院）：先天性胆道拡張症に対する腹腔鏡下分流手術，特に胆道再建について．日本臨床外科学会総会（第74回）（東京），2012. 11.
- 59) 吉岡正人¹⁾，中村慶春¹⁾，松本智司¹⁾，松下 晃¹⁾，清水哲也¹⁾，内田英二¹⁾（¹⁾ 日本医科大学付属病院消化器外科）：腹腔鏡下膵中央切除術における膵消化管吻合操作の工夫．日本臨床外科学会総会（第74回）（東京），2012. 11.
- 60) 萩原信敏¹⁾，野村 務¹⁾，松谷 毅¹⁾，牧野浩司¹⁾，藤田逸郎¹⁾，赤城一郎¹⁾，篠塚恵理子¹⁾，加藤俊二¹⁾，金沢義一¹⁾，山下直行²⁾，櫻澤信行¹⁾，小野寺浩之¹⁾，宮下正夫¹⁾，内田英二¹⁾（¹⁾ 日本医科大学消化器外科，²⁾ 坪井病院外科）：腹腔鏡補助下胃管作成の際の術中偶発症を少なくするための工夫．日本臨床外科学会総会（第74回）（東京），2012. 11.
- 61) 松田明久¹⁾，横室茂樹¹⁾，瀬谷知子¹⁾，堀場光二¹⁾，鶴田宏之¹⁾，松本智司¹⁾，櫻澤信行¹⁾，佐々木順平¹⁾，山初和也¹⁾，高橋吾郎¹⁾，若林秀幸¹⁾，早川朋宏¹⁾，鈴木えりか¹⁾，横井公良¹⁾，内田英二²⁾（¹⁾ 日本医科大学千葉北総病院外科，²⁾ 日本医科大学消化器外科）：S状結腸癌術後，多臓器転移状態で歯肉への転移を認めた1例．日本臨床外科学会総会（第74回）（東京），2012. 11.
- 62) 山下直行¹⁾，湖山信篤¹⁾，川本聖郎¹⁾，岩井拓磨¹⁾，菅野仁士²⁾，萩原信敏²⁾，藤田逸郎²⁾，金沢義一²⁾，小野寺浩之²⁾，加藤俊二²⁾，宮下正夫²⁾，内田英二²⁾（¹⁾ 坪井病院外科，²⁾ 日本医科大学外科）：長期化学療法後にRO手術が可能となった4型食道浸潤胃癌の1例．日本臨床外科学会総会（第74回）（東京），2012. 11.
- 63) 高田英志^{1, 2)}，松本智司¹⁾，谷合信彦²⁾，真々田裕宏²⁾，吉岡正人²⁾，川野陽一²⁾，水口義昭²⁾，清水哲也²⁾，上田純志²⁾，横井公良¹⁾，内田英二²⁾（¹⁾ 日本医科大学千葉北総病院外科，²⁾ 日本医科大学消化器外科）：小腸内視鏡にて術前診断し単孔式腹腔鏡下切除を行った小腸血管腫の1例．日本臨床外科学会総会（第74回）（東京），2012. 11.
- 64) 若林秀幸¹⁾，横井公良¹⁾，横室茂樹¹⁾，瀬谷知子¹⁾，堀場光二¹⁾，松本智司¹⁾，鶴田宏之¹⁾，櫻澤信行¹⁾，松田明久¹⁾，佐々木順平¹⁾，山初和也¹⁾，高橋吾郎¹⁾，早川朋宏¹⁾，鈴木えりか¹⁾，内田英二²⁾（¹⁾ 日本医科大学千葉北総病院外科，²⁾ 日本医科大学付属病院外科）：腹壁癒痕ヘルニア嵌頓に対しParietex Com-posite (PCO) Meshを用いて腹腔鏡下ヘルニア修復術を施行した1例．日本臨床外科学会総会（第74回）（東京），2012. 11.
- 65) 鈴木えりか¹⁾，瀬谷知子¹⁾，横室茂樹¹⁾，堀場光二¹⁾，鶴田宏之¹⁾，松本智司¹⁾，櫻澤信行¹⁾，松田明久¹⁾，佐々木順平¹⁾，山初和也¹⁾，高橋吾郎¹⁾，若林秀幸¹⁾，早川朋宏¹⁾，横井公良¹⁾，内田英二²⁾（¹⁾ 日本医科大学千葉北総病院外科，²⁾ 日本医科大学消化器外科）：貧血精査にて指摘され，外科的切除で診断に至った十二指腸球部 Brunner腺過形成の1例．日本臨床外科学会総会（第74回）（東京），2012. 11.
- 66) 菊池友太¹⁾，松田明久¹⁾，横室茂樹¹⁾，瀬谷知子¹⁾，堀場光二¹⁾，鶴田宏之¹⁾，松本智司¹⁾，櫻澤信行¹⁾，佐々木順平¹⁾，山初和也¹⁾，高橋吾郎¹⁾，若林秀幸¹⁾，早川朋宏¹⁾，横井公良¹⁾，内田英二²⁾（¹⁾ 日本医科大学千葉北総病院外科，²⁾ 日本医科大学消化器外科）：壊死型が否定しえなかったPoor risk虚血性大腸炎に対して非観血的に治療した1例．日本臨床外科学会総会（第74回）（東京），2012. 11.
- 67) 堀場光二¹⁾，横井公良¹⁾，宮下正夫¹⁾，横室茂樹¹⁾，瀬谷知子¹⁾，松本智司¹⁾，鶴田宏之¹⁾，松田明久¹⁾，高橋吾郎¹⁾，田中宣威¹⁾，内田英二²⁾（¹⁾ 日本医科大学千葉北総病院外科，²⁾ 日本医科大学臓器病態制御外科）：結腸癌を誘因とした成人腸重積症3症例．日本臨床外科学会総会（第74回）（東京），2012. 11.
- 68) 中村慶春¹⁾，松本智司¹⁾，吉岡正人¹⁾，松下 晃¹⁾，清水哲也¹⁾，野村 務¹⁾，内田英二¹⁾（¹⁾ 日本医科大学 消化器外科）：腹腔鏡下膵切除術の標準化を目指した手術手技と中長期手術成績の検討．日本内視鏡外科学会総会（第25回）（横浜），2012. 12.
- 69) 水口義昭¹⁾，中村慶春¹⁾，松本智司¹⁾，吉岡正人¹⁾，清水哲也¹⁾，内田英二¹⁾（¹⁾ 日本医科大学付属病院 消化器外科）：当科における先天性胆道拡張症に対する内視鏡下手術，整容面も含めた術式の変遷．日本内視鏡外科学

会総会（第 25 回）（横浜），2012. 12.

- 70) 松谷 毅¹⁾，野村 務¹⁾，萩原信敏¹⁾，藤田逸郎¹⁾，金沢義一¹⁾，小野寺浩之¹⁾，松田明久¹⁾，丸山 弘²⁾，牧野浩司²⁾，内田英二¹⁾（¹⁾ 日本医科大学 消化器外科，²⁾ 日本医科大学多磨永山病院外科）：腹臥位胸腔鏡下食道切除術における手技の工夫と手術成績. 日本内視鏡外科学会総会（第 25 回）（横浜），2012. 12.
- 71) 中村慶春¹⁾，松本智司¹⁾，内田英二¹⁾（¹⁾ 日本医科大学 消化器外科）：Laparoscopic left mesenteric approach による腹腔鏡下脾頭十二指腸切除術での脾頭神経叢 II 部の切離・郭清. 日本内視鏡外科学会総会（第 25 回）（横浜），2012. 12.
- 72) 鈴木英之¹⁾，吉野雅則¹⁾，松信哲朗¹⁾，三浦克洋¹⁾，豊田哲鎬¹⁾，菅 隼人²⁾，松本智司²⁾，小泉岐博²⁾，中田亮輔¹⁾，渡辺昌則¹⁾，内田英二²⁾（¹⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院 消化器病センター，²⁾ 日本医科大学 消化器外科）：肥満症例に対する腹腔鏡下大腸手術（LAC）の特徴と対策. 日本内視鏡外科学会総会（第 25 回）（横浜），2012. 12.
- 73) 清水哲也¹⁾，中村慶春¹⁾，松本智司¹⁾，吉岡正人¹⁾，松下 晃¹⁾，水口義昭¹⁾，野村 務¹⁾，内田英二¹⁾（¹⁾ 日本医科大学 消化器外科）：脾 Solid Pseudopapillary Neoplasm に対し腹腔鏡下脾臓・脾動静脈温存脾体尾部切除術を施行した 1 例. 日本内視鏡外科学会総会（第 25 回）（横浜），2012. 12.
- 74) 原田潤一郎¹⁾，中村慶春¹⁾，松本智司¹⁾，吉岡正人¹⁾，松下 晃¹⁾，清水哲也¹⁾，山初和也¹⁾，上田純志¹⁾，内田英二¹⁾（¹⁾ 日本医科大学 消化器外科）：Peutz-Jeghers 症候群に合併した IPMN に対し腹腔鏡下脾頭十二指腸切除術を施行した 1 例. 日本内視鏡外科学会総会（第 25 回）（横浜），2012. 12.
- 75) 吉岡正人¹⁾，中村慶春¹⁾，松本智司¹⁾，清水哲也¹⁾，内田英二¹⁾（¹⁾ 日本医科大学付属病院）：出血性ショックを呈した十二指腸 GIST に対し腹腔鏡下十二指腸切除術を施行した 1 例. 日本内視鏡外科学会（第 25 回）（横浜），2012. 12.
- 76) 山下直行¹⁾，菅野仁士²⁾，岩井拓磨¹⁾，川本聖郎¹⁾，湖山信篤¹⁾，萩原信敏²⁾，藤田逸郎²⁾，金沢義一²⁾，小野寺浩之²⁾，櫻澤信行²⁾，内田英二²⁾（¹⁾ 坪井病院 外科，²⁾ 日本医科大学 外科）：腹腔鏡補助下幽門側胃切除後の体重変化. 日本内視鏡外科学会総会（第 25 回）（横浜），2012. 12.
- 77) 松本智司¹⁾，菅 隼人²⁾，山田岳史²⁾，小泉岐博²⁾，松田明久¹⁾，進士誠一²⁾，佐々木順平¹⁾，横井公良¹⁾，内田英二²⁾（¹⁾ 日本医科大学千葉北総病院 外科，²⁾ 日本医科大学付属病院 外科）：鏡視下右側結腸手術における頭側アプローチの有用性. 日本内視鏡外科学会総会（第 25 回）（横浜），2012. 12.
- 78) 萩原信敏¹⁾，野村 務¹⁾，松谷 毅¹⁾，牧野浩司¹⁾，加藤俊二¹⁾，藤田逸郎¹⁾，金沢義一¹⁾，櫻澤信行¹⁾，小野寺浩之¹⁾，山下直行²⁾，赤城一郎¹⁾，篠塚恵理子¹⁾，宮下正夫¹⁾，内田英二¹⁾（¹⁾ 日本医科大学 消化器外科，²⁾ 坪井病院 外科）：Parietex Composite Mesh を用いて腹腔鏡下手術にて治療を行った，巨大食道裂孔ヘルニアの 1 症例. 日本内視鏡外科学会総会（第 25 回）（横浜），2012. 12.
- 79) 山初和也¹⁾，中村慶春¹⁾，松本智司¹⁾，松下 晃¹⁾，住吉宏樹¹⁾，田尻 孝¹⁾，内田英二¹⁾（¹⁾ 日本医科大学 消化器外科）：腹腔鏡下脾切除術を施行した脾インスリノーマ 9 例の検討. 日本内視鏡外科学会総会（第 25 回）（横浜），2012. 12.
- 80) 松田明久¹⁾，吉田 寛²⁾，横山 正²⁾，丸山 弘²⁾，横室茂樹¹⁾，松本智司¹⁾，横井公良¹⁾，松谷 毅³⁾，内田英二³⁾（¹⁾ 日本医科大学千葉北総病院外科，²⁾ 日本医科大学多磨永山病院外科，³⁾ 日本医科大学消化器外科）：発症早期に診断し腹腔鏡下手術を施行しえた小児胆嚢捻転症の 1 例. 日本内視鏡外科学会総会（第 25 回）（横浜），2012. 12.
- 81) 櫻澤信行¹⁾，横井公良¹⁾，横室茂樹¹⁾，瀬谷知子¹⁾，堀場光二¹⁾，鶴田宏之¹⁾，松本智司¹⁾，松田明久¹⁾，山初和也¹⁾，佐々木順平¹⁾，高橋吾郎¹⁾，早川朋宏¹⁾，若林秀幸¹⁾，鈴木えりか¹⁾，菊池友太¹⁾，その他 1 名（¹⁾ 日本医科大学千葉北総病院外科，²⁾ 日本医科大学付属病院消化器外科）：当院における腹腔鏡補助下幽門側胃切除に対する肥満が及ぼす合併症の検討. 日本内視鏡外科学会総会（第 25 回）（横浜），2012. 12.
- 82) 藤田逸郎¹⁾，金沢義一¹⁾，菅野仁士²⁾，小野寺浩之¹⁾，櫻澤信行³⁾，萩原信敏¹⁾，牧野浩司²⁾，野村 務¹⁾，木山輝

- 郎¹，加藤俊二¹，内田英二¹ (1) 日本医科大学付属病院 外科，² 日本医科大学多摩永山病院 外科，³ 日本医科大学千葉北総病院 外科)：肥満症例における腹腔鏡下胃切除術：#6 郭清におけるアプローチ。日本内視鏡外科学会総会 (第 25 回) (横浜)，2012. 12.
- 83) 山田岳史¹，菅 隼人¹，松本智司²，小泉岐博¹，進士誠一¹，内田英二¹ (1) 日本医科大学 消化器外科，² 日本医科大学 千葉北総病院外科)：イレウスに対する内視鏡手術。日本内視鏡外科学会総会 (第 25 回) (横浜)，2012. 12.
- 84) 山初和也¹，横室茂樹¹，宮下正夫¹，横井公良¹，内田英二 (1) 日本医科大学千葉北総病院外科)：胆管原発腺神経内分泌細胞癌の一切除術。千葉肝胆膵外科フォーラム (第 12 回) (千葉)，2012. 11.
- 85) 松田明久¹，松谷 毅²，丸山 弘³，横室茂樹¹，瀬谷知子¹，堀場光二¹，松本智司¹，鶴田宏之¹，櫻澤信行¹，佐々木順平¹，横山 正³，田中宣威¹，横井公良¹，内田英二² (1) 日本医科大学千葉北総病院・外科，² 日本医科大学大学院・臓器病態制御外科学，³ 日本医科大学多摩永山病院・外科)：上部消化管癌手術における脂肪細胞機能低下の術後合併症発生への関与。日本消化器外科学会大会 (第 10 回) (神戸)，2012. 10.
- 86) 木山輝郎¹，藤田逸郎¹，小野寺浩之¹，櫻澤信行¹，加藤俊二¹，金沢義一¹，内田英二¹ (1) 日本医大・外科)：腹腔鏡下胃切除後の体腔内連続縫合の工夫。日本消化器外科学会大会 (第 10 回) (神戸)，2012. 10.
- 87) 松下 晃¹，川本聖郎¹，清水哲也¹，川野陽一¹，水口義昭¹，吉岡正人¹，松谷 毅¹，松本智司¹，中村慶春¹，相本隆幸¹，平方淳史²，横山 正²，吉田 寛²，内田英二¹ (1) 日本医大・外科，² 日本医大多摩永山病院・外科)：ヒト臍癌における STAT5 の発現および臨床病理学的検討。日本消化器病学会大会 (第 54 回) (神戸)，2012. 10.
- 88) 中村慶春¹，松本智司¹，内田英二¹ (1) 日本医大・外科)：腹腔鏡下膵切除術の標準化を目指した手術手技の工夫。日本消化器外科学会大会 (第 10 回) (神戸)，2012. 10.
- 89) 松谷 毅¹，松田明久¹，野村 務¹，藤田逸郎¹，金沢義一¹，萩原信敏¹，小野寺浩之¹，丸山 弘²，牧野浩司²，宮下正夫¹，内田英二¹ (1) 日本医大・外科，² 日本医大多摩永山病院・外科)：消化器癌手術による生体反応と性差：脂肪細胞機能としてのアディポサイトカインを中心に。日本消化器病学会大会 (第 54 回) (神戸)，2012. 10.
- 90) 川野陽一¹，谷合信彦¹，吉岡正人¹，松下 晃¹，水口義昭¹，清水哲也¹，上田純志¹，中村慶春¹，松本智司¹，吉田 寛²，内田英二¹ (1) 日本医大・外科，² 日本医大多摩永山病院・外科)：当科における鏡視下肝切除術を安全に行うための様々な手技の工夫。日本消化器外科学会大会 (第 10 回) (神戸)，2012. 10.
- 91) 山下直行¹，湖山信篤¹，菅野仁士¹，岩井拓磨¹，萩原信敏²，藤田逸郎²，金澤義一²，小野寺浩之²，加藤俊二²，宮下正夫²，内田英二² (1) 坪井病院・外科，² 日本医大・外科)：長期予後を見据えた上部限局胃癌に対する迷走神経温存胃漿膜筋層縦切開噴門形成術 (NP-EGP)。日本消化器病学会大会 (第 54 回) (神戸)，2012. 10.
- 92) 牧野浩司¹，丸山 弘¹，吉田 寛¹，横山 正¹，平方敦史¹，宮下正夫²，野村 務²，松谷 毅²，萩原信敏²，高尾嘉宗¹，住吉宏樹¹，坂田義則¹，関 奈紀¹，堀田正啓¹，早川朋宏¹，その他 1 名 (1) 日本医大多摩永山病院・外科，² 日本医大・外科)：縦隔鏡補助下と胸腔鏡補助下食道切除術を用いた当科の高齢者に対する食道癌手術。日本消化器外科学会大会 (第 10 回) (神戸)，2012. 10.
- 93) 野村 務¹，松谷 毅¹，萩原信敏¹，牧野浩司²，丸山 弘²，藤田逸郎¹，小野寺浩之¹，中村慶春¹，千原直人³，渡辺昌則³，小峯 修³，鈴木英之³，土屋喜一⁴，勝田美和子⁴，宮下正夫¹，その他 2 名 (1) 日本医大大学院・臓器病態制御外科学，² 日本医大多摩永山病院・外科，³ 日本医大武蔵小杉病院・消化器病センター，⁴ 倭成病院)：III 型食道裂孔ヘルニアに対するコラーゲンフィルム付き半吸収性メッシュの使用経験。日本消化器外科学会大会 (第 10 回) (神戸)，2012. 10.
- 94) 山下直行¹，湖山信篤¹，菅野仁士¹，岩井拓磨¹，萩原信敏¹，藤田逸郎²，金澤義一²，小野寺浩之²，加藤俊二²，宮下正夫²，内田英二² (1) 坪井病院・外科，² 日本医大・外科)：進行再発胃癌の治療における経腸栄養

- (経口摂取)の重要性. 日本消化器外科学会大会 (神戸), 2012. 10.
- 95) 青木悠人¹⁾, 山田岳史¹⁾, 菅 隼人¹⁾, 松本智司²⁾, 小泉岐博¹⁾, 原絵津子¹⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医大付属病院・1 外科, 2) 日本医大千葉北総病院・外科): 造影 CT による絞扼性イレウス診断. 日本消化器外科学会大会 (第 10 回) (神戸), 2012. 10.
- 96) 山田岳史¹⁾, 菅 隼人¹⁾, 松本智司¹⁾, 小泉岐博¹⁾, 進士誠一¹⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医大付属病院・1 外科): 消化器癌における早期緩和ケアの重要性: 特に疼痛治療, 栄養支持療法について. 日本消化器外科学会大会 (第 10 回) (神戸), 2012. 10.
- 97) 進士誠一¹⁾, 松本智司¹⁾, 菅 隼人¹⁾, 藤田逸郎¹⁾, 山田岳史¹⁾, 萩原信敏¹⁾, 小泉岐博¹⁾, 山岸杏彌¹⁾, 武田幸喜¹⁾, 原 啓介¹⁾, 高 和英¹⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医大・外科): 単孔式腹腔鏡補助下十二指腸空腸吻合術を施行した上腸間膜動脈症候群の 1 例. 日本消化器外科学会大会 (第 10 回) (神戸), 2012. 10.
- 98) 小泉岐博¹⁾, 内田英二¹⁾, 菅 隼人¹⁾, 山田岳史¹⁾, 進士誠一¹⁾, 山岸杏彌¹⁾, 原 敬介¹⁾, 松本智司²⁾ (1) 日本医大・外科, 2) 日本医大千葉北総病院・外科): 小腸疾患に対する単孔式腹腔鏡下手術の有用性. 日本消化器外科学会大会 (第 10 回) (神戸), 2012. 10.
- 99) 松田明久¹⁾, 宮下正夫¹⁾, 松谷 毅²⁾, 高橋吾郎¹⁾, 田村和弘³⁾, 横井公良¹⁾, 内田英二²⁾ (1) 日本医科大学千葉北総病院外科, 2) 日本医科大学消化器外科学, 3) 東京薬科大学内分分子薬理学): Adiponectin 産生低下は, 術後合併症の予測因子となりうるか?: 上部消化管癌手術における検討. 外科侵襲とサイトカイン研究会 (第 19 回) (神戸), 2012. 12.
- 100) Matsuda A¹⁾, Yang W¹⁾, Jacob A¹⁾, Aziz M¹⁾, Wang P¹⁾ (1) Department of Surgery, North Shore-LIJ Medical Center): VISFATIN INHIBITOR FK866 ATTENUATES ACUTE LUNG INJURY INDUCED BY INTESTINAL ISCHEMIA/REPERFUSION. Shock Society (7th) (Miami), 2012. 6.
- 101) 松田明久¹⁾, 松本智司¹⁾, 横室茂樹¹⁾, 瀬谷知子¹⁾, 鶴田宏之¹⁾, 櫻澤信行¹⁾, 佐々木順平¹⁾, 高橋吾郎¹⁾, 宮下正夫¹⁾, 横井公良¹⁾ (1) 日本医大千葉北総病院 外科): 直腸がん・鏡視下側方郭清手技の定型化を目指して. 千葉内視鏡外科研究会 (第 18 回) (千葉), 2013. 2.
- 102) Seya T¹⁾, Tanaka N¹⁾, Yokoi K¹⁾, Miyasita M¹⁾, Yokomuro S¹⁾, Mamada Y¹⁾, Horiba K¹⁾, Tsuruta H¹⁾, Matsumoto S¹⁾, Takahashi Y¹⁾, Sakurazawa N¹⁾, Shinji S¹⁾, Matsuda A¹⁾, Sasaki J¹⁾, Uchida E²⁾ (1) Dept. Surgery, Chiba Hokusoh HP., Nippon Medical School, Inzai, 2) Dept. Surgery, Nippon Medical School, Tokyo, Japan): EXPRESSION OF MONOCARBOXYLATE TRANSPORTER 1, CD44V6 AND CD147 IN COLORECTAL CANCER WITH LIVER OR PULMONARY METASTASIS. UNITED EUROPEAN GASTROENTEROLOGY WEEK (20th) (AMSTERDAM), 2012. 10.
- 103) Matsumoto S¹⁾, Yokoi K¹⁾, Kan H¹⁾, Yamada T¹⁾, Koizumi M¹⁾, Matsuda A¹⁾, Sasaki J¹⁾, Tani A¹⁾, Uchida E¹⁾ (1) Department of Surgery, Nippon Medical School, Tokyo, Japan): The role of single-incision laparoscopic surgery for right colonic cancer. KOREA-JAPAN-CHINA COLORECTAL CANCER SYMPOSIUM (13th) (Seoul), 2012. 9.
- 104) Matsuda A¹⁾, Matsumoto S¹⁾, Kan H²⁾, Yamada T²⁾, Koizumi M²⁾, Shinji S²⁾, Sasaki J¹⁾, Tani A²⁾, Yokoi K¹⁾, Uchida E²⁾ (1) Department of Surgery, Nippon Medical School Chiba-Hokusou Hospital, Japan, 2) Department of Surgery, Nippon Medical School, Japan): The Effect of Intraoperative Rectal Washout on Local Recurrence after Rectal Cancer Surgery: A Meta-Analysis. KOREA-JAPAN-CHINA COLORECTAL CANCER (13th) (Seoul), 2012. 9.
- 105) Sasaki J¹⁾, Matsuda A¹⁾, Matsumoto S¹⁾, Kan H²⁾, Yamada T²⁾, Koizumi M²⁾, Shinji S²⁾, Tani A²⁾, Yokoi K¹⁾, Utida E²⁾ (1) Department of Surgery, Nippon Medical School Chiba-Hokuso Hospital, Japan, 2) Department of Surgery, Nippon Medical School, Japan): Does Postoperative Complication Have a Negative Impact on Long-Term Outcomes following Hepatic Resection for Colorectal Liver Metastasis?: A Meta-Analysis.

- KOREA-JAPAN-CHINA (13th) (Seoul), 2012. 9.
- 106) Yamada T¹⁾, Matsumoto S¹⁾, Kan H¹⁾, Koizumi M¹⁾, Matsuda A¹⁾, Shinji S¹⁾, Sasaki J¹⁾, Uchida E¹⁾ (1) Department of Surgery, Nippon Medical School, Tokyo, Japan) : Surgical techniques for standardization of laparoscopic low anterior resection. KOREA-JAPAN-CHINA COLORECTAL CANCER SYMPOSIUM (The13th) (Seoul), 2012. 9.
- 107) 松田明久¹⁾ (1) 日本医科大学千葉北総病院外科) : 外科的侵襲後における MFG-E8 の役割とその治療応用. 日本医科大学医学部総会 (第 80 回) (東京), 2012. 9.
- 108) 山田岳史¹⁾, 松本智司²⁾, 菅 隼人¹⁾, 小泉岐博¹⁾, 進士誠一¹⁾, 松田明久²⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学 消化器外科, 2) 日本医科大学 千葉北総) : 教育機関で行うハイブリッド腹腔鏡補助下垂虫切除術 : 双孔式から単孔式へ. 日本腹部救急医学会総会 (第 49 回) (福岡), 2013. 3.
- 109) 安藤文彦¹⁾, 山田岳史¹⁾, 青木悠人¹⁾, 菅 隼人¹⁾, 松本智司²⁾, 小泉岐博¹⁾, 進士誠一¹⁾, 山岸杏彌¹⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学附属病院 消化器外科, 2) 日本医科大学千葉北総病院 外科) : 絞扼性 ileus の造影 CT 診断 : 各所見出現時期の検討. 日本腹部救急医学会総会 (第 49 回) (福岡), 2013. 3.
- 110) 青木悠人¹⁾, 山田岳史¹⁾, 菅 隼人¹⁾, 松本智司²⁾, 小泉岐博¹⁾, 進士誠一¹⁾, 原絵津子³⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学附属病院 消化器外科, 2) 日本医科大学千葉北総病院 外科, 3) 北村山公立病院 外科) : 腸管壁 CT 値を用いた絞扼性イレウス診断の有効性. 日本腹部救急医学会総会 (第 49 回) (福岡), 2013. 3.
- 111) 山田岳史¹⁾, 菅 隼人¹⁾, 松本智司²⁾, 小泉岐博¹⁾, 進士誠一¹⁾, 松田明久²⁾, 谷 杏彌¹⁾, 原絵津子¹⁾, 青木悠人¹⁾, 原 啓介¹⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学附属病院 消化器外科, 2) 日本医科大学千葉北総病院 外科) : 大腸憩室炎に対する待機的腹腔鏡補助手術. 日本腹部救急医学会総会 (第 49 回) (福岡), 2013. 3.
- 112) 萩原信敏¹⁾, 野村 務¹⁾, 松谷 毅¹⁾, 藤田逸郎¹⁾, 金沢義一¹⁾, 小野寺浩之¹⁾, 宮下正夫²⁾, 山下直行³⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学附属病院 消化器外科, 2) 日本医科大学千葉北総病院 外科, 3) 坪井病院 外科) : 食道癌再手術後の内ヘルニアから門脈ガス血症と腸管嚢胞様気腫症を呈した 1 例. 日本腹部救急医学会総会 (第 49 回) (福岡), 2013. 3.
- 113) 早川朋宏¹⁾, 佐々木順平¹⁾, 横室茂樹¹⁾, 瀬谷知子¹⁾, 堀場光二¹⁾, 鶴田宏之¹⁾, 松本智司¹⁾, 櫻澤信行¹⁾, 松田明久¹⁾, 山初和也¹⁾, 高橋吾郎¹⁾, 若林秀幸¹⁾, 菊池友太¹⁾, 鈴木えりか¹⁾, 宮下正夫¹⁾, その他 2 名 (1) 日本医科大学千葉北総病院 外科, 2) 日本医科大学附属病院 外科) : 大腸癌術後に発症した腸高齢者の Bochdalek 孔ヘルニア陥頓の 1 例. 日本腹部救急医学会総会 (第 49 回) (福岡), 2013. 3.
- 114) 関口久美子¹⁾, 山田岳史¹⁾, 町田 幹²⁾, 松本智司¹⁾, 菅 隼人¹⁾, 小泉岐博¹⁾, 進士誠一¹⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学 消化器外科, 2) 日本医科大学 放射線科) : Clostridium difficile 関連腸炎の早期発見に腹部 CT が有用であった 2 例. 日本腹部救急医学会総会 (第 49 回) (福岡), 2013. 3.
- 115) 菊池友太¹⁾, 櫻澤信行¹⁾, 横室茂樹¹⁾, 瀬谷知子¹⁾, 堀場光二¹⁾, 鶴田宏之¹⁾, 松本智司¹⁾, 松田明久¹⁾, 佐々木順平¹⁾, 山初和也¹⁾, 高橋吾郎¹⁾, 若林秀幸¹⁾, 早川朋宏¹⁾, 鈴木えりか¹⁾, 宮下正夫¹⁾, その他 2 名 (1) 日本医科大学千葉北総病院 外科, 2) 日本医科大学附属病院 外科) : 術中胆道鏡によるインジゴカルミン散布が有用であった ERBD 後隣内胆管穿孔の 1 例. 日本腹部救急医学会総会 (第 49 回) (福岡), 2013. 3.

13. 外科学（乳腺外科学）

[付属病院乳腺科]

研究業績

論文

(1) 総説：

- 1) 山下浩二, 芳賀駿介：3D-CTリンパ管造影によるセンチネルリンパ節生検3D-CT Mammary Lymphography for Sentinel Node Biopsy. 乳癌（第2版）-基礎と臨床の最新研究動向- 乳癌の検査・診断 2012；70（7）：377-380.

学会発表

(1) 特別講演：

- 1) Yamashita K：Trans-Axillary Retro-Mammary (TARM) approached Video-assisted Breast Surgery (VABS) needs no injury on the whole breast with good esthetic outcomes.(Postgraduate Course II：“Single Port Surgery - Joined with TANKO”). 20th International Congress of the European Association for Endoscopic Surgery（第20回）(Brussels, Belgium), 2012. 6.
- 2) Yamashita K：Long-term results of endoscopic video-assisted breast surgery (VABS) between trans-axillary retro-mammary approach(TARM)and periareolar approach. 23rd Annual Meeting of Asian Pacific Endocrine Conference（第23回）(Bangkok, Thailand), 2012. 7.
- 3) 山下浩二：乳腺内視鏡手術について：低侵襲と整容性. 相模・町田乳腺疾患カンファレンス（第23回）(東京), 2013. 2.

(2) シンポジウム：

- 1) 山下浩二, 五十嵐健人¹⁾, 岡村律子¹⁾, 軸菌智雄¹⁾, 岩本美樹, 栗田智子, 柳原恵子, 飯田信也, 芳賀駿介, 清水一雄¹⁾ ⁽¹⁾ 外科学（内分泌外科）：低侵襲と整容性を追求した腋窩単孔式乳腺内視鏡手術の工夫. 日本臨床外科学会総会（第74回）(東京), 2012. 11.
- 2) 山下浩二：乳腺内視鏡手術 Video-assisted breast surgery (VABS) と乳癌の標準治療（乳腺・内分泌における内視鏡外科）. 日本内視鏡外科学会総会（第25回）(横浜), 2012. 12.

(3) 一般講演：

- 1) Yamashita K, Haga S, Shimizu K¹⁾ ⁽¹⁾ 外科学（内分泌外科）：Second nodes biopsy is guided by 3D-CT lymphography to avoid the axillary node dissection on sentinel node-metastasized patients.. Annual Meeting of American Society of Breast Surgery（第13回）(Phoenix, USA), 2012. 5.
- 2) Yamashita K, Haga S, Shimizu K¹⁾ ⁽¹⁾ 外科学（内分泌外科）：Comparison of long-term results of endoscopic video-assisted breast surgery (VABS) between trans-axillary retro-mammary approach (TARM) and periareolar approach. Annual meeting of the American Society of Clinical Oncology（第48回）(Chicago, IL, USA), 2012. 6.
- 3) Yamashita K, Haga S, Shimizu K¹⁾ ⁽¹⁾ 外科学（内分泌外科）：Trans-Axillary Retro-Mammary (TARM) approached Video-assisted Breast Surgery (VABS) needs no injury on the whole breast with good esthetic outcomes. 20th International Congress of the European Association for Endoscopic Surgery（第20回）(Brussels, Belgium), 2012. 6.
- 4) Yamashita K, Haga S, Shimizu K¹⁾ ⁽¹⁾ 外科学（内分泌外科）：Comparison of long-term results of endo-

- scopic video-assisted breast surgery (VABS) between trans-axillary retro-mammary approach (TARM) and periareolar approach. 2012 Breast Cancer Symposium of ASCO (第5回) (San Francisco, USA), 2012. 9.
- 5) Yamashita K, Haga S, Shimizu K¹⁾ (1) 外科学 (内分泌外科) : Long Term Results of Video-assisted Breast Surgery (VABS). 32th Biennial Congress of the European Society of Surgical Oncology (第32回) (Valencia, Spain), 2012. 9.
 - 6) Yamashita K, Haga S, Shimizu K¹⁾ (1) 外科学 (内分泌外科) : Breast Cancer Patients treated by Video-assisted Breast Surgery (VABS) have Better Long-Term Results. 38th World Congress of International College of Surgeons (第38回) (Brisbane, Australia), 2012. 11.
 - 7) Yamashita K, Haga S, Shimizu K¹⁾ (1) 外科学 (内分泌外科) : Periareolar approach in video-assisted breast surgery is aesthetics in skin-sparing mastectomy. 13th International St. Gallen Breast Cancer Conference : Primary Therapy of Early Breast Cancer with Treatment Consensus Update (第13回) (St. Gallen, Switzerland), 2013. 3.
 - 8) 山下浩二, 赤須東樹¹⁾, 五十嵐健人¹⁾, 岡村律子¹⁾, 軸菌智雄¹⁾, 竹間由佳¹⁾, 栗田智子, 柳原恵子, 飯田信也, 芳賀駿介, 清水一雄¹⁾ (1) 外科学 (内分泌外科) : センチネルリンパ節転移陽性者の腋窩郭清省略へ向けて, 3D-CT リンパ管造影による第2・第3リンパ節生検の有用性. 日本外科学会学術総会 (第112回) (幕張), 2012. 4.
 - 9) 山下浩二, 五十嵐健人¹⁾, 岡村律子¹⁾, 軸菌智雄¹⁾, 竹間由佳¹⁾, 栗田智子, 柳原恵子, 飯田信也, 芳賀駿介, 清水一雄¹⁾ (1) 外科学 (内分泌外科) : 3T-MRI と 3D-CT リンパ管造影の第2・第3リンパ節転移評価による腋窩郭清省略の検討. 日本乳癌学会学術総会 (第20回) (熊本), 2012. 6.
 - 10) 山下浩二 : 腋窩単孔アプローチによる乳腺内視鏡手術 TARM-VABS. 乳腺内視鏡手術研究会 (第25回) (熊本), 2012. 6.
 - 11) 山下浩二 : 大腿骨転子間骨硬化像. Zenith Meeting Japan 2012 in Kobe (神戸), 2012. 6.
 - 12) 山下浩二, 五十嵐健人¹⁾, 岡村律子¹⁾, 軸菌智雄¹⁾, 栗田智子, 柳原恵子, 芳賀駿介, 清水一雄¹⁾ (1) 外科学 (内分泌外科) : 早期乳癌に対する皮下乳腺全摘での乳輪縁アプローチによる乳腺内視鏡手術の有効性. 日本癌治療学会学術集会 (第50回) (横浜), 2012. 10.

14. 外科学（内分泌外科学）

[付属病院内分泌外科]

研究業績

論文

(1) 原著：

1) 五十嵐健人, 清水一雄：甲状腺癌の治療効果と治療費. 外科 2013；75（1）：6-11.

(2) 総説：

- 1) 清水一雄：ベラルーシ共和国におけるチェルノブイリ原発事故後の甲状腺癌検診13年の経験：福島原発事故の甲状腺に与える影響を考える. 日本成人矯正歯科学会雑誌 2012；19（2）：48-54.
- 2) 清水一雄¹⁾, 山田英雄²⁾, 赤須東樹¹⁾, 五十嵐健人¹⁾, 岡村律子¹⁾, 軸菌智雄¹⁾, 竹間由佳¹⁾, Danilova L³⁾, Demidchik Y³⁾, Grigorovich A⁴⁾ (1) 日本医科大学内分泌外科, 2) NPO 法人チェルノブイリ医療支援ネットワーク医療顧問 ロシア語通訳, 3) Belarusian Medical Academy of Post-graduate Education, 4) Brest Endocrine Hospital)：チェルノブイリ原発事故後の継続的甲状腺検診の経験と福島原発事故後の甲状腺癌に与える影響についてを考える. 東京都医師会雑誌 2012；65（9）：411-418.
- 3) 清水一雄, 赤須東樹, 五十嵐健人, 岡村律子, ヘイムス規予美, 竹間由佳, 軸菌智雄：甲状腺がんに対する minimally invasive surgery の有用性と将来展望. 臨床外科 2012；67（5）：608-613.

著書

- 1) 清水一雄：〔共著〕特集 甲状腺腫瘍の最近のトピックス：放射線と甲状腺癌の臨床. 病理と臨床, 2013；pp19-24, 文光堂.

学会発表

(1) 特別講演：

- 1) Shimizu K：Radiation exposure and thyroid cancer- Considering the influence of the Fukushima Nuclear Accident bases on the experience of mass screening in Belarus in the aftermath of the Chernobyl disaster. Progress in Radiology 2012 (Tokyo), 2012. 9.
- 2) 清水一雄¹⁾, 赤須東樹¹⁾, 五十嵐健人¹⁾, 岡村律子¹⁾, 竹間由佳¹⁾, 土屋眞一²⁾, 山田英雄³⁾, 渡会泰彦³⁾, 村瀬幸宏³⁾ (1) 日本医科大学内分泌外科, 2) 日本医科大学病理部, 3) チェルノブイリ医療支援ネットワーク)：チェルノブイリ原発事故後の甲状腺癌検診の経験：福島原発事故に対する今後の対応. 日本臨床細胞学会 (53) (千葉県), 2012. 6.
- 3) 清水一雄：チェルノブイリ事故後大量発生した小児甲状腺癌に対する医療支援の経験：福島原発事故による甲状腺癌への影響と将来展望. 徳島内分泌研究会 (18) (徳島県), 2012. 11.

(2) 招待講演：

- 1) 清水一雄：内分泌疾患「放射線障害と甲状腺癌」：チェルノブイリ原発事故後の小児甲状腺検診の経験から考える福島原発事故の影響. 茨城県潮来保健所・長期療養児講演会 (茨城県鹿嶋市), 2012. 9.
- 2) Shimizu K：Ultrasound features of benign thyroid nodule. Thyroid and Parathyroid Ultrasound Workshop (Malaysia), 2012. 7.
- 3) 清水一雄：チェルノブイリから学ぶ：放射線の知識と子供たちに伝えたいこと. 神奈川県高等学校教科研究会看

護部会前期研究大会（神奈川県），2012. 7.

- 4) 清水一雄：放射線被曝と甲状腺癌：チェルノブイリ原発事故後の甲状腺癌検診の経験と福島原発事故の影響. 平成 24 年度東北臨床検査技師会整理機能検査部門研修会（宮城県仙台市），2012. 7.
- 5) 清水一雄：チェルノブイリ原発事故後の甲状腺癌検診の経験と福島原発事故被害者に対する今後の対応. 医療技術者研修会（124）（東京都），2012. 10.
- 6) Shimizu K：Endoscopic Endocrine Neck Surgery using Gasless Lifting Procedure：An Experience of 600 Cases. ENDOSCOPIC & LAPAROSCOPIC SURGEONS OF ASIA（Saudi Arabia），2012. 12.

(3) 教育講演：

- 1) 清水一雄：ベラルーシ共和国におけるチェルノブイリ原発事故後の甲状腺癌検診 13 年の経験－福島原発事故後の甲状腺に与える影響を考える. 日本成人矯正歯科学会（20）（東京都），2012. 6.

(4) シンポジウム：

- 1) 岡村律子¹⁾，赤須東樹¹⁾，五十嵐健人¹⁾，軸菌智雄¹⁾，清水一雄¹⁾（¹⁾ 日本医科大学 内分泌外科）：600 例を超えた各種甲状腺疾患に対する内視鏡補助下手術（VANS 法）：経験から得られた工夫と改善. 日本内視鏡外科学会総会第 25 回（神奈川県横浜市パシフィコ横浜），2012. 12.
- 2) 五十嵐健人，岡村律子，竹間由佳，ヘイムス規予美，軸菌智雄，赤須東樹，清水一雄：当科における内分泌外科専門医教育の現状と問題点. 日本内分泌外科学会（第 24 回）（名古屋），2012. 6.
- 3) 五十嵐健人，岡村律子，軸菌智雄，赤須東樹，清水一雄：当科におけるパセドウ病外科治療の現状. 日本甲状腺外科学会（第 45 回）（横浜），2012. 10.
- 4) 五十嵐健人，岡村律子，軸菌智雄，清水一雄：Management of the pheochromocytoma. Endoscopic & Laparoscopic Surgeons Asia（11th）（Riyadh - Saudi Arabia），2012. 12.
- 5) 神森 眞¹⁾，福森龍也¹⁾，吉川啓一¹⁾，星 雅恵¹⁾，清水一雄²⁾，山田 哲¹⁾（¹⁾ 金地病院外科，²⁾ 日本医科大学 内分泌外科）：総合的甲状腺分化癌治療の確率と遠隔転移に対する個別化対応. 日本外科学会定期学術集会（112），2012. 4.

(5) 一般講演：

- 1) 岡村律子¹⁾，五十嵐健人¹⁾，竹間由佳¹⁾，赤須東樹¹⁾，岡島史宣²⁾，江本直也²⁾，清水一雄¹⁾（¹⁾ 日本医科大学付属病院 内分泌外科，²⁾ 日本医科大学千葉北総病院 内科）：小麦アレルギー発症を契機に薬剤アレルギー出現し，術前甲状腺機能コントロールに難渋したパセドウ病の 1 例. 日本内分泌外科学会総会第 24 回（名古屋市），2012. 6.
- 2) 岡村律子¹⁾，竹間由佳¹⁾，軸菌智雄¹⁾，五十嵐健人¹⁾，清水一雄¹⁾，高橋美紀子²⁾，土屋真一²⁾（¹⁾ 日本医科大学 内分泌外科，²⁾ 日本医科大学 病理部）：甲状腺に転移した骨肉腫の 1 例. 日本甲状腺学会第 55 回（福岡市），2012. 11.
- 3) 五十嵐健人，岡村律子，軸菌智雄，清水一雄：気管浸潤を伴う甲状腺 Granular cell tumor. 日本甲状腺学会（第 55 回）（福岡），2012. 12.
- 4) 五十嵐健人，岡村律子，軸菌智雄，赤須東樹，清水一雄：内視鏡下甲状腺切除術（VANS 法）の術式変遷と工夫. 先進医療フォーラム（第 4 回）（東京），2013. 1.
- 5) Shimizu K：Video-Assisted Endoscopic Thyroid and Parathyroid Surgery using gasless skin lifting method-an experience of 569 cases. International Congress of the European Association for Endoscopic Surgery（Brussels,Belgium），2012. 6.

15. 外科学（心臓血管外科学）

[付属病院心臓血管外科・千葉北総病院胸部・心臓血管]

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) Ishii Y : Is pulmonary vein isolation effective for permanent atrial fibrillation?. *Gen Thorac Cardiovasc Surg* 2012 ; 60 : 68-70.
- 2) Schuessler R, Ishii Y, Khagi Y, Diabagate K, Boineau J, Damiano R : The effects of inflammation on heart rate and rhythm in a canine model of cardiac surgery. *Heart Rhythm* 2012 ; 9 : 432-439.
- 3) Fujii M, Besho R, Ochi M, Shimizu K, Terajima K¹⁾, Takeda S¹⁾ (¹⁾ Nippon Medical School Anesthesiology) : Effect of postoperative landiolol administration for atrial fibrillation after off pump coronary artery bypass surgery. *Journal of Cardiovascular Surgery* 2012 ; 53 (3) : 369-374.
- 4) Fujii M, Chambers D¹⁾ (¹⁾ St Thomas Hospital) : Cardioprotection with esmolol cardioplegia : efficacy as a blood-based solution. *European Journal of Cardiothoracic Surgery* 2013 ; 43 (3) : 619-627.
- 5) 新田 隆 : 不整脈の外科治療. *CCU テキスト* 2013 ; 216-219.
- 6) Ueda A, Fukamizu S, Soejima K, Tejima T, Nishizaki M, Nitta T, Kobayashi Y, Hiraoka M, Sakurada H : Clinical and electrophysiological characteristics in patients with sustained monomorphic reentrant ventricular tachycardia associated with dilated-phase hypertrophic cardiomyopathy. *Europace* 2012 ; 14 : 734-740.
- 7) Nitta T, Wakita M, Watanabe Y, Ohmori H, Sakamoto S, Ishii Y, Ochi M : Double Potential Mapping : A Novel Technique for Locating the Site of Incomplete Ablation. *Innovations* 2012 ; 7 : 429-434.
- 8) Shimizu A, Nitta T, Kurita T, Imai K, Kobayashi Y, Soejima K, Niwano S, Watanabe S, Abe H, Aizawa Y, Okumura K : Actual conditions of implantable defibrillation therapy over 5 years in Japan. *Journal of Arrhythmia* 2012 ; 18 : 236-272.
- 9) Nitta T, Kurita J, Murata H, Ohmori H, Sakamoto S, Ochi M, Shimizu K : Intraoperative Electroanatomic Mapping. *The Annals of Thoracic Surgery* 2012 ; 93 : 1285-1286.
- 10) Kurita T, Nitta T, Noda T, Fukushima H, Shimizu A, Ohe T, Aizawa Y, Chiba Y : Nippon Storm Study Design. *Journal of Arrhythmia* 2012 ; 28 : 277-279.

(2) 総説：

- 1) Nitta T, Ishii Y, Sakamoto S : Surgical Treatment of Atrial Fibrillation : State of the Art, 2012. *Journal of Arrhythmia* 2012 ; 28 : 338-346.

(3) 症例報告：

- 1) Bessho R, Fujii M, Ishii Y, Ochi M, Shimizu K : Open stent grafting with a trifurcated graft for an infected aortic arch aneurysm concomitant with severe calcified aorta. *annals of Thoracic and Cardiovascular surgery* 2012.
- 2) Ohmori H, Nitta T, Sakamoto S, Haraguchi S, Shimizu K, Ochi M : A case of thoracoscopy-guided lead extraction with an excimer laser sheath. *Journal of Arrhythmia* 2012 ; 28 (4) : 247-249.
- 3) Tanita A, Hosokawa Y, Tomiyama T, Kato M, Matsuda J, Sawai K, Arita Y, Aokage T, Suzuki H,

Murata H, Shibui T, Nitta T, Tanaka K, Mizuno K, Takeda D, et al. : Giant left atrium due to mitral stenosis with massive atelectasis : A successful case with perioperative approach. International Journal of Cardiology 2013 ; 163 : 23-25.

- 1) Okumura K, Aizawa Y, Hagiwara N, Isobe F, Katoh T, Matsumoto K, Murakawa Y, Nitta T, Ohnishi S, Shimizu A : Guidelines for non-pharmacotherapy of cardiac arrhythmias (JCS 2011). Circulation Journal 2013 ; 77 : 249-274.
- 2) Murakawa Y, Nogami A, Hirao K, Shoda M, Aonuma K, Ikeguchi S, Nitta T, Iwa Y, Ueshima H, Uno K, et al. : A brief report on the nationwide survey of catheter ablation in Japan/the Japanese Catheter Ablation Registry (JCAR. Journal of Arrhythmia 2012 ; 28 : 122-126.

著 書

- 1) 別所竜蔵 : [分担] VIII 急性大動脈解離 3 外科治療の適応. CCU テキスト-循環器救急から集中治療管理まで-(田中啓治, 山本剛), 2013 ; pp236-238, (株) 文光堂.
- 2) 大森裕也 : [分担] デバイス植込みに関する合併症への対処. ナースのための心臓大血管手術 周術期管理のポイント (西田 博), 2012 ; pp241-248, メディカ出版.
- 3) 石井庸介, 新田 隆 : [自著] 不整脈の外科治療 心房細動 : テイラーメイド治療について. 不整脈診療レジデントマニュアル, 2012 ; pp224-233, 医学書院.
- 4) 石井庸介 : [自著] 病態と術式がわかる疾患別ナースのための心臓大血管手術 周術期管理のポイント. メイズ手術. ハートナーシング, 2012 ; pp233-240, メディカ出版.
- 5) 新田 隆¹⁾, 田中啓治²⁾, 山本 剛²⁾ (¹⁾ 日本医科大学心臓血管外科, ²⁾ 日本医科大学集中治療室) : [分担] 不整脈外科治療. CCU テキスト, 2013 ; pp216-219, 文光堂.
- 6) 新田 隆 : [分担] 心臓手術後の不整脈. 今日の循環器疾患治療指針, 2013 ; pp261-264, 医学書院.
- 7) 藤井正大 : [分担] III 章 緊急治療用機器 3 PCPS, 補助循環. CCU テキスト-循環器救急から集中治療管理まで-(田中啓治, 山本剛), 2013 ; pp86-90, 文光堂.
- 8) 塚 宏一¹⁾, 藤井正大 (¹⁾ 日本医科大学付属病院集中治療室) : [分担] 第3章循環管理 6 大動脈疾患. ICU・CCU 看護 (早川弘一, 高野照夫, 高島尚美), 2013 ; pp144-153, 医学書院.
- 9) 藤井正大, 落 雅美 : [分担] IV 冠動脈外科の Knack&Pitfall 2 グラフト準備 4) 橈骨動脈. 冠動脈外科の要点と盲点 (高本眞一, 坂田隆造), 2012 ; pp144-148, 文光堂.
- 10) 新田 隆 : [分担] 不整脈の外科治療. 今日の循環器疾患の治療 (井上 博, 許 俊鋭, 檜垣實男, 代田浩之, 筒井裕之), 2013 ; pp252-255, 医学書院.
- 11) 新田 隆 : [共著] 不整脈外科 : 目に見えない病気を手術で治す魅力に惹かれて. 不整脈学, 2012 ; 南江堂.
- 12) 新田 隆 : [編集] 2012-2013 Data Book ベースメーカー ICD CR (須磨幸蔵, 田中茂夫, 新田 隆, 石川利之), 2012 ; CE コーポレーション.
- 13) 新田 隆 : 巻頭言 : チーム医療を支えるプロフェッショナルリズム. 東京都臨床工学会誌, 2012.
- 14) 新田 隆 : [分担] 不整脈疾患の病態・術式・管理のポイント : 心室頻拍手術. 疾患別 ナースのための心臓血管手術 手術期管理のポイント (西田博), 2012 ; pp249-253, メディカ出版.
- 15) 新田 隆 : [分担] 不整脈疾患の病態・術式・管理のポイント : コラム. 疾患別 ナースのための心臓血管手術 手術期管理のポイント (西田博), 2012 ; p254, メディカ出版.
- 16) 新田 隆 : トレンドビュー : 完全胸腔鏡下肺静脈隔離術心房細動に“切らない”手術_x000B_左心耳切除で抗凝固療法からの離脱も. 日経メディカル, 2013.

学会発表

〔追加分〕

追加分パネルディスカッション：

- 1) Ishii Y, Nitta T, Sakamoto S, Watanabe Y, Bessho R, Ochi M : Does the Maze Procedure Prevent Stroke for the Long Term after Surgery?. 第 77 回日本循環器学会 (横浜), 2014. 3.

追加分一般講演：

- 1) 川瀬康裕, 石井庸介, 仁科 大, 廣本敦之, 別所竜蔵 : 心房細動手術周術期の心房細動とそのマネージメント. 不整脈ハイブリッド治療研究会 (第 4 回) (東京), 2012. 3.
- 2) 石井庸介, 川瀬康裕, 仁科 大, 吉尾敬秀, 新田 隆, 別所竜蔵 : 心房細動手術後の周術期心房細動に対するマネージメント. 第 43 回日本心臓血管外科学会総会 (台場), 2014. 2.
- 3) 芝田匡史¹⁾, 栗田二郎¹⁾, 上田仁美¹⁾, 鈴木大悟¹⁾, 渡邊嘉之¹⁾, 坂本俊一郎¹⁾, 大森祐也¹⁾, 藤井正大¹⁾, 新田隆¹⁾, 落 雅美¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学付属病院 心臓血管外科) : 重症低肺機能を伴う胸腹部大動脈瘤に対してハイブリッド治療を施行した 1 例. 心臓血管外科ウインターセミナー学術集會 (第 27 回) (秋田 プラザホテル山麓荘), 2012. 1.

追加分特別講演：

- 1) 新田 隆 : 「不整脈の非薬物治療ガイドライン」2011 年改訂版解説 : 外科治療. 日本不整脈学会, 2011. 6.

(1) 特別講演：

- 1) Ishii Y : Atrial tachycardia after the Maze procedure : Mechanism and prevention. 5th Asia-pacific Heart Rhythm Society (Taipei), 2012. 10.
- 2) 新田 隆 : 心房細動の外科治療 低侵襲手術からメイズ手術まで. 聖路加心血管セミナー (4), 2012. 11.
- 3) 新田 隆 : より高い成功率のメイズ手術のために. KCJL2012, 2012. 4.
- 4) 落 雅美 : 左主幹部病変は CABG で治療する. 和歌山循環器 Debate Conference (和歌山県), 2012. 4.

(2) 招待講演：

- 1) Ohmori H, Nitta T, Fujii M, Sakamoto S, Watanabe Y, Kurita J, Suzuki D, Shibata M, Ueda H, Ochi M : Difficult Cases in Lead Extraction. Asia Pacific Heart Rhythm Society (5th) (Taiwan), 2012. 10.
- 2) 石井庸介 : 術後不整脈の機序とマネージメント. 第 5 回 Cardiovascular Meeting (東京), 2012. 6.
- 3) Nitta T¹⁾, Shibata M¹⁾, Ueda H¹⁾, Kurita J¹⁾, Sakamoto S¹⁾, Watanabe Y¹⁾, Ohmori H¹⁾, Fujii M¹⁾, Ishii Y¹⁾, Miyauchi Y²⁾, Ochi M¹⁾ (¹⁾ Nippon Medical School Department of Surgery Division of Cardiocascular, ²⁾ Nippon Medical School Department of Medicine) : AT after the Maze Procedure. Asia Pacific Heart Rhythm Society Scientific Session (5) (Taiwan ROC), 2012. 10.
- 4) Nitta T¹⁾, Shibata M¹⁾, Ueda H¹⁾, Kurita J¹⁾, Sakamoto S¹⁾, Watanabe Y¹⁾, Ohmori H¹⁾, Fujii M¹⁾, Ishii Y : Surgery for Non-Ischemic Ventricular tachycardia. Asia Pacific Heart Rhythm Society Scientific Session (5) (Taiwan ROC), 2012. 10.
- 5) Nitta T¹⁾, Ueda H¹⁾, Kurita J¹⁾, Sakamoto S¹⁾, Watanabe Y¹⁾, Ohmori H¹⁾, Fujii M¹⁾, Ishii Y¹⁾, Miyasuchi Y²⁾, Ochi M¹⁾ (¹⁾ Nippon Medical School Department of Surgery Divisions of Cardiovascular, ²⁾ Nippon Medical School Department of Medicine) : Surgery for Non-Ischemic Ventricular Tachycardia. Asia Pacific Heart Rhythm Society Scientific Session (5) (Taiwan ROC), 2012. 9.
- 6) Nitta T, Shibata M, Ueda H, Kurita J, Sakamoto S, Watanabe Y, Ohmori H, Fujii M, Ochi M : Minimally Invasive Procedure for AF in Mitral Valve Disease. AAATS Mitral Conclave (2), 2012. 9.
- 7) Nitta T : Concomitant maze Surgery. Kalayanakit Kitiyakara Memorial Lecture (Mahidol univertyity (Thailand), 2012. 9.

- 8) Nitta T : Best Practice in AF Surgery : The State of The Art. CDI International Heart Symposium (3) (Thailand), 2012. 5.
 - 9) 坂本俊一郎¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院 心臓血管外科) : GP Mapping and Ablation in AF Surgery. Asian pacific heart rhythm society scientific session (5th) (Taipei), 2012. 10.
 - 10) 落 雅美 : 我が国の冠動脈外科は世界標準を超えているか?. 札幌胸部外科フォーラム (11) (北海道), 2012. 4.
- (3) 教育講演 :
- 1) 石井庸介 : 僧帽弁輪と冠静脈洞に対するアブレーション. 9th Advanced Technology in Cardiovascular Surgery (東京), 2012. 11.
 - 2) 新田 隆 : Meet the Expert : Quick&Efficient Mase Procedure with Modern Technology. 日本心臓弁膜症学会, 2012. 11.
 - 3) 新田 隆 : メイズ術後 AT の頻度と発生機序. ATCVS 研究会 (9), 2012. 11.
 - 4) 新田 隆 : 器質的心疾患の心室頻拍 (外科治療). 日本不整脈学会 カテーテルアブレーション関連冬季大会 2012 研修セミナー (24), 2012. 11.
 - 5) 新田 隆 : ウェットラボ : これが正しいメイズ手術. KCJL 2012, 2012. 4.
 - 6) 落 雅美 : 我が国の冠動脈バイパス術の過去と未来. オホーツク勉強会 (北海道), 2012. 10.
- (4) シンポジウム :
- 1) Nitta T : Optimize and Multiply Stimulation Points. New Horizons in Heart Failure, 2013. 2.
 - 2) 栗田二郎¹⁾, 宮本正章²⁾, 石井庸介¹⁾, 青山純也¹⁾, 高木 元²⁾, 田畑泰彦³⁾, 落 雅美¹⁾, 清水一雄¹⁾ (1) 日本医科大学 心臓血管外科, 2) 同 再生医療科, 3) 京都大学再生医科学研究所 生体材料学分野) : 重症虚血肢に対する徐放化多血小板血漿 (Platelet-Rich Plasma : PRP) による血管新生療法. 日本外科学会学術集会 (第 112 回) (幕張), 2012. 4.
 - 3) Nitta T : when and how to apply concomitant or stand-alone surgical ablation. International Symposium on Progress in Clinical Pacing (15) (Italy), 2012. 12.
 - 4) Nitta T : THE FORUM ON : SURGICAL OPTIONS IN ARRHYTHMIAS TREATMENT Session I : Atrial fibrillation. International Symposium on Progress in Clinical Pacing (15) (Italy), 2012. 12.
 - 5) Nitta T : Surgical Ablation of Non-ischemic VT. Cardiostim (18) (France), 2012. 6.
 - 6) Nitta T : Video Session : Technique dose matter-AF surgery : How to prevent- post-op atrial tachycardia. CDI International Heart Symposium (3) (Thailand), 2012. 5.
 - 7) 藤井正大, 別所竜蔵, 仁科 大, 丸山雄二, 新田 隆, 落 雅美, 清水一雄 : Sivelestat reduces myocardial injury after St Thomas cardioplegic arrest in cardiac surgery (心筋保護法の現状と問題点 : 臨床上これ以上の改善は必要ないのか (先天性心疾患に対する心筋保護法も含む)). 日本心臓血管外科学会学術総会 (第 42 回) (秋田), 2012. 4.
 - 8) 藤井正大, 上田仁美, 芝田匡史, 鈴木大悟, 栗田二郎, 渡邊嘉之, 坂本俊一郎, 大森裕也, 新田 隆, 落 雅美 : OPCAB 施行率向上への課題 : 立ちはだかる 2 つの壁 (「Off-pump CABG の将来を探る : 我が国の OPCAB 施行率向上は可能か?」). 日本冠疾患学会学術集会演題登録 (第 26 回) (東京), 2012. 12.
- (5) パネルディスカッション :
- 1) 大森裕也 : リードの不具合. 植込みデバイス関連冬季大会 (第 5 回) (東京), 2013. 2.
 - 2) 新田 隆 : Keynote Lecture : メイズ手術の背景と変遷. 日本心臓血管外科学会学術集会 (東京), 2013. 2.
 - 3) Nitta T¹⁾, Ishii Y¹⁾, Kurita J¹⁾, Sakamoto S¹⁾, Ohmori H¹⁾, Fujii M¹⁾, Miyauchi Y²⁾, Ochi M¹⁾ (1) Nippon MEdical School Department of Surgery Division of Cardiovascular, 2) Nippon Medical School Department of Medicen) : Surgical AF Ablation : Dose the Use of RF Increase the Incidence of Post-OP AT. 日本不整脈学

会 (27), 2012. 7.

- 4) 芝田匡史, 新田 隆, 上田仁美, 鈴木大悟, 栗田二郎, 渡邊嘉之, 坂本俊一郎, 大森祐也, 藤井正大, 落 雅美⁽¹⁾ 日本医科大学付属病院 心臓血管外科): 固定様式の異なる左室心外膜リードの比較検討. 植込みデバイス関連冬季大会 (第5回) (東京 一橋大学一橋講堂・如水会館 (東京都千代田区一ツ橋)), 2013. 2.

(6) ワークショップ:

- 1) 大森裕也, 新田 隆, 藤井正大, 坂本俊一郎, 渡邊嘉之, 栗田二郎, 鈴木大悟, 芝田匡史, 上田仁美, 落 雅美: 外科的リード抜去の実際 (デバイス感染症の現状と対策). 植込みデバイス関連冬季大会 (第5回) (東京), 2013. 2.

(7) 一般講演:

- 1) 田上素子, 坪 宏一¹⁾, 藤井正大, 高橋賢一朗, 栗田二郎, 坂本俊一郎, 大森裕也, 井村 肇, 別所竜蔵, 新田隆, 落 雅美⁽¹⁾ 日本医科大学 集中治療室): A型急性大動脈解離に対する手術成績: 急性期全弓部置換術の妥当性. 心臓血管外科学会 (第42回) (秋田), 2012. 4.
- 2) 田上素子, 坪 宏一¹⁾, 藤井正大, 高橋賢一朗, 栗田二郎, 坂本俊一郎, 大森裕也, 井村 肇, 別所竜蔵, 新田隆, 落 雅美⁽¹⁾ 日本医科大学 集中治療室): A型急性大動脈解離に対する全弓部置換術の手術成績: 術前・術中因子が及ぼす早期死亡率への影響の有無. 血管外科学会 (第40回) (長野), 2012. 5.
- 3) 田上素子, 坪 宏一¹⁾, 藤井正大, 高橋賢一朗, 栗田二郎, 坂本俊一郎, 大森裕也, 井村 肇, 別所竜蔵, 新田隆, 落 雅美⁽¹⁾ 日本医科大学 集中治療室): TAAに対する TAR, Long Elephant Trunk 留置後 DICを発症した下行大動脈瘤に対し Stent Graft 内挿術を施行した1例. 血管外科学会 (第40回) (長野), 2012. 5.
- 4) 川瀬康裕, 吉尾敬秀, 仁科 大, 石井庸介, 別所竜蔵: 心拍動下冠動脈バイパス術に対する予防的 IABP 挿入の有用性. 日本冠疾患学会 (第26回) (東京), 2012. 12.
- 5) 大森裕也, 新田 隆, 田上素子, 坂本俊一郎, 藤井正大, 栗田二郎, 落 雅美: 固定様式の異なる心外膜電極による左室ペーシングの比較 Comparison of different types of myocardial electrode for left ventricular pacing. 日本胸部外科学会定期学術集会 (第65回) (福岡市), 2012. 10.
- 6) 栗田二郎¹⁾, 芝田匡史¹⁾, 高橋賢一朗¹⁾, 田上素子¹⁾, 坂本俊一郎¹⁾, 大森裕也¹⁾, 藤井正大¹⁾, 新田 隆¹⁾, 落雅美¹⁾, 村田 智²⁾, 田島廣之²⁾ ⁽¹⁾ 日本医科大学付属病院 心臓血管外科, ⁽²⁾ 同 放射線科): ハイリスク胸腹部大動脈瘤に対する debranching EVAR の有用性. 日本大動脈研究会 (第20回) (幕張), 2012. 4.
- 7) 栗田二郎¹⁾, 高橋賢一朗¹⁾, 田上素子¹⁾, 坂本俊一郎¹⁾, 大森裕也¹⁾, 藤井正大¹⁾, 新田 隆¹⁾, 落 雅美¹⁾ ⁽¹⁾ 日本医科大学付属病院 心臓血管外科): 総大腿動脈領域の高度石灰化病変に対する血栓内膜摘除施行症例の検討. 日本血管外科学会学術総会 (第40回) (長野), 2012. 5.
- 8) 栗田二郎¹⁾, 上田仁美¹⁾, 芝田匡史¹⁾, 鈴木大悟¹⁾, 渡邊嘉之¹⁾, 坂本俊一郎¹⁾, 大森裕也¹⁾, 藤井正大¹⁾, 新田隆¹⁾, 村田 智²⁾, 田島廣之²⁾, 落 雅美¹⁾ ⁽¹⁾ 日本医科大学付属病院 心臓血管外科, ⁽²⁾ 同 放射線科): High Risk 胸腹部大動脈瘤に対する Debranching TEVAR の初期成績の検討. 日本心臓血管外科学会学術総会 (第43回) (台場 (東京)), 2013. 2.
- 9) 新田 隆, 芝田匡史, 上田仁美, 鈴木大悟, 栗田二郎, 坂本俊一郎, 大森裕也, 藤井正大, 落 雅美: 難治性不整脈の外科治療. 先進医療フォーラム, 2013. 1.
- 10) Nitta T: Surgical Tool and Energy Sources Available. International Symposium on Progress in Clinical Pacing (15) (Italy), 2012. 12.
- 11) 新田 隆: 心房細動の外科治療. 佐倉循環器懇話会, 2012. 6.
- 12) Nitta T, Ishii Y, Sakamoto S, Kurita J, Ohmori H, Fujii M, Ochi M, Shimizu K: Radiofrequency Ablation dose not Increase the Incidence of Atrial Tachycardia after the Maze Procedure: Findings from the Postoperative Electrophysiological Study.. Annual Meeting of the American Association for Thoracic Surgery (San Francisco, USA), 2012. 4.

- 13) 藤井正大, 落 雅美, 高橋賢一朗, 田上素子, 栗田二郎, 坂本俊一郎, 大森裕也, 新田 隆, 清水一雄 : CKD 症例における A 型急性大動脈解離の外科治療の予後. 日本心臓血管外科学会学術総会 (第 42 回) (秋田), 2012. 4.
 - 14) 藤井正大, 落 雅美, 高橋賢一朗, 田上素子, 栗田二郎, 坂本俊一郎, 大森裕也, 新田 隆, 清水一雄 : 10 年の遠隔期成績から両側内胸動脈による composite Y-graft の信頼性を検証する. 日本心臓血管外科学会学術総会 (第 42 回) (秋田), 2012. 4.
 - 15) 藤井正大, 落 雅美, 高橋賢一朗, 田上素子, 栗田二郎, 坂本俊一郎, 大森裕也, 新田 隆, 清水一雄 : CKD 症例における Stanford A 型急性大動脈解離の外科治療の問題点. 日本血管外科学会学術総会 (第 40 回) (長野), 2012. 5.
 - 16) 藤井正大, 上田仁美, 芝田匡史, 鈴木大悟, 栗田二郎, 坂本俊一郎, 大森裕也, 新田 隆, 丸山雄二¹⁾, 井村肇¹⁾, 仁科 大²⁾, 石井庸介²⁾, 別所竜蔵²⁾, 落 雅美 (¹⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院 心臓血管外科, ²⁾ 日本医科大学千葉北総病院 胸部・心臓血管外科) : 冠血行再建術における両側内胸動脈を用いた composite Y-graft の検証 : 10 年以上の遠隔期成績から. 日本胸部外科学会定期学術集会 (第 65 回) (福岡), 2012. 10.
 - 17) 藤井正大, 上田仁美, 芝田匡史, 鈴木大悟, 栗田二郎, 渡邊嘉之, 坂本俊一郎, 大森裕也, 新田 隆, 落 雅美 : 心臓血管外科領域における Tolvaptan 投与効果の検討. 日本心臓血管外科学会学術総会 (第 43 回) (東京), 2013. 2.
 - 18) 上田仁美¹⁾, 芝田匡史¹⁾, 田上素子¹⁾, 栗田二郎¹⁾, 坂本俊一郎¹⁾, 大森裕也¹⁾, 藤井正大¹⁾, 新田 隆¹⁾, 落 雅美¹⁾, 間瀬大司²⁾, 小泉有美馨²⁾, 竹田晋浩²⁾ (¹⁾ 日本医科大学附属病院心臓血管外科, ²⁾ 日本医科大学付属病院麻酔科) : 甲状腺機能低下症の加療中に発症した急性心筋梗塞に対し緊急 CABG を施行した 1 例. 日本胸部外科学会関東甲信越地方会 (第 159 回) (さいたま市), 2012. 6.
 - 19) 上田仁美¹⁾, 新田 隆¹⁾, 藤井正大¹⁾, 坂本俊一郎¹⁾, 大森裕也¹⁾, 渡邊嘉之¹⁾, 栗田二郎¹⁾, 鈴木大悟¹⁾, 芝田匡史¹⁾, 落 雅美¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学付属病院心臓血管外科) : リード抜去困難症例に対する治療戦略. 植込みデバイス関連冬季大会 (第 5 回) (東京), 2013. 2.
 - 20) 上田仁美¹⁾, 坂本俊一郎¹⁾, 芝田匡史¹⁾, 鈴木大悟¹⁾, 栗田二郎¹⁾, 渡邊嘉之¹⁾, 大森裕也¹⁾, 藤井正大¹⁾, 新田隆¹⁾, 落 雅美¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学心臓血管外科) : 心房細動手術における GP アブレーションの周術期心房頻脈予防に関する比較検討. 日本心臓血管外科学会学術総会 (第 43 回) (東京), 2013. 2.
 - 21) 芝田匡史¹⁾, 栗田二郎¹⁾, 上田仁美¹⁾, 鈴木大悟¹⁾, 渡邊嘉之¹⁾, 坂本俊一郎¹⁾, 大森裕也¹⁾, 藤井正大¹⁾, 新田隆¹⁾, 落 雅美¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学付属病院 心臓血管外科) : 受傷から約 1 か月半経過後に左手背タバコ窩に発生した外傷性仮性動脈瘤の 1 例. 日本血管外科学会地方会関東甲信越地方会 (第 20 回) (東京 トラストシティーカンファレンス丸の内), 2012. 11.
 - 22) 坂本俊一郎¹⁾, 大森裕也¹⁾, 高橋賢一郎¹⁾, 田上素子¹⁾, 栗田二郎¹⁾, 藤井正大¹⁾, 新田 隆¹⁾, 落 雅美¹⁾, 清水一雄¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学 心臓血管外科) : 心房細動手術における心臓神経叢 (GP) ネットワークの同定と除神経効果についての検討. 日本心臓血管外科学会学術総会 (第 42 回) (秋田), 2012. 4.
- (8) Debate Session :
- 1) Nitta T : Technical aspect pf Maze : Difficult cases Presentation and discussion. MAZE Discussion (Mahidol University) (Bangkok,Thailand), 2012. 9.
- (9) Movie session :
- 1) Fujii M, Kambe M, Ochi M, Hinokiyama K¹⁾ (¹⁾ 福岡こども病院 心臓外科) : Repair of partial anomalous pulmonary venous connection with a modified double decker technique in adult. ANNUAL MEETING 2013 Society for Cardiothoracic Surgery In Great Britain and Ireland (Brighton, UK), 2013. 3.

16. 外科学（呼吸器外科学）

[付属病院呼吸器外科・千葉北総病院呼吸器外科]

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) Shimada Y¹⁾, Saji H¹⁾, Kakihana M¹⁾, Honda H¹⁾, Nomura M¹⁾, Usuda J²⁾, Kajiwara N¹⁾, Ohira T¹⁾, Ikeda N¹⁾ (1) Tokyo Medical University First Department of Surgery, (2) Nippon Medical School Department of Thoracic Surgery) : Retrospective Analysis of Nodal Spread Patterns According to Tumor Location in Pathological N2 Non-small Cell Lung Cancer. World Journal of Surgery 2012 ; 36 (12) : 2865-2871.

(2) 総説：

- 1) 白田実男¹⁾, 池田徳彦²⁾ (1) 日本医科大学呼吸器外科, (2) 東京医科大学外科一講座) : 光線力学的診断と治療. 医学のあゆみ 2012 ; 240 (6) : 501-504.
- 2) Ikeda N¹⁾, Saji H¹⁾, Hagiwara M¹⁾, Ohira T¹⁾, Usuda J²⁾, Kajiwara N¹⁾ (1) Tokyo Medical University First Department of Surgery, (2) Nippon Medical School Department of Thoracic Surgery) : Recent advances in video-assisted thoracoscopic surgery for lung cancer. Asian Journal of Endoscopic Surgery 2013 ; 6 : 9-13.

(3) 研究報告書：

- 1) 白田実男¹⁾, 池田徳彦²⁾ (1) 日本医科大学呼吸器外科, (2) 東京医科大学外科一講座) : 肺癌に対する PDT による治療戦略. 光アライアンス 2012 ; 23 (7) : 1-4.
- 2) 白田実男¹⁾, 池田徳彦²⁾ (1) 日本医科大学呼吸器外科, (2) 東京医科大学外科一講座) : 光・レーザーによる中心型肺癌の早期発見と内視鏡的治療. 光アライアンス 2012 ; 23 (7) : 23-26.

(4) 症例報告：

- 1) Kubokura H⁰⁾, Okamoto J⁰⁾, Hoshina H⁰⁾, Ishii H^{0, 1)}, Koizumi K⁰⁾, Shimizu K⁰⁾ (1) 日本医科大学武蔵小杉病院病理部) : Mediastinal Cystic Hemangioma Presenting as Bilateral Bloody Pleural Effusion : A Case Report. J Nippon Med Sch 2012 ; 79 (5) : 381-384.
- 2) 揖斐孝之, 平井恭二, 竹内真吾, 別所竜蔵, 川本雅司^{0, 1)}, 原口秀司, 小泉 潔, 清水一雄 (1) 帝京大学溝の口病院 臨床病理科) : Mature teratoma of the posterior mediastinum : report of a case. General Thoracic and Cardiovascular Surgery 2012.
- 3) 揖斐孝之, 秋山博彦^{0, 1)}, 岡田大輔, 吉野直之, 平井恭二, 清水一雄 (1) 埼玉県立がんセンター 胸部外科) : Intramuscular myxoma in the chest wall. General Thoracic and Cardiovascular Surgery 2013.

著書

- 1) 白田実男 : [分担] 光線力学的治療 : PDT. 気管支鏡ベストテクニック (浅野 文祐*, 宮澤 輝臣* 編), 2012 ; pp213-221, 中外医学者.

学会発表

(1) シンポジウム：

- 1) 白田実男 : 肺癌に対するレーザー治療の現況. 日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡円門医大会 (20) (大阪府), 2013. 2.

(2) 一般講演：

- 1) 佐藤 明, 飯島慶仁, 木下裕康, 岡田大輔, 三上 巖, 原口秀司, 清水一雄：胸骨正中切開後胸骨離開創に対して閉鎖陰圧療法（VAC療法）が有効であった1例. 肺癌学会総会（53）（岡山），2012. 11.
- 2) 吉野直之¹⁾, 平田知己¹⁾, 小泉 潔²⁾, 清水一雄²⁾（¹⁾ 日本医科大学多摩永山病院病院呼吸器外科, ²⁾ 日本医科大学外科学講座呼吸器外科）：興味深い局在・性格を示した Type B3 胸腺腫の2例. 日本呼吸器外科学会総会（第29回）（秋田市），2012. 5.
- 3) 井上達哉, 飯島慶仁, 竹内真吾, 竹内千枝, 佐藤 明, 青木悠人, 石角太郎, 白田実男：肺原発骨肉腫の1例. 文京区呼吸器外科研究会（22）（東京都），2013. 3.
- 4) 白田実男：複合型光ファイバーの肺癌診断・治療への応用. 日本原子力研究開発機構・レーザー共同研究所成果報告会（3）（福井県），2012. 12.
- 5) 揖斐孝之, 平井恭二, 竹内真吾, 別所竜蔵, 清水一雄：赤芽球瘍を合併した胸腺腫の1手術例. 日本呼吸器外科学会総会（第29回）（秋田），2012. 5.
- 6) 揖斐孝之, 平井恭二, 別所竜蔵, 清水一雄：冠動脈バイパス手術後, 前縦隔に発生した気管支原性嚢胞の1手術例. 日本内視鏡外科学会総会（第25回）（横浜），2012. 12.

17. 脳神経外科学

[付属病院脳神経外科]

研究概要

平成24年度付属病院脳神経外科における論文業績は英文19編、和文7編の計26編であった。これに分担著書として17編、編集4編が加わる。学会発表は107回あり内国際学会は101回であった。一方、研究補助金に関しては、文部科学省科学研究費を3件、厚生労働省科学研究費を2件取得している。また、4年前から戦略的研究基盤形成支援事業の研究代表者の教室として活動している。当教室の基礎的な研究グループは、下垂体、悪性脳腫瘍、血管障害、脊椎脊髄、機能外科の5つに分かれている。また、治療を主体とした横断的なグループとしては、血管内治療、神経内視鏡、バイパス手術のグループが活動している。下垂体腫瘍は教室最大のテーマであるため、研究者も多く基礎の教室や老人病研究所、さらには他大学との関連が深く、従って業績も最も多い。経蝶形骨下垂体手術件数は2,500例を越え、さらに内視鏡単独手術も1,000例を越えた。この分野は引き続き、本邦をリードする基礎的および臨床的研究業績を重ねていきたい。他の脳腫瘍については、教室で永年取り組んできた悪性脳腫瘍の化学療法の基礎的、臨床的研究に加えて、症例報告がいくつかみられた。脳血管障害は血管内治療の領域も含め、最近活動が活発になってきているが、千駄木地区の再開発のため十分な診療機器が備わっていないことが難点である。最近脊髄グループや機能外科への取り組みに関する活躍が目立っている。脳神経外科という極めて多忙な診療活動をかかえながらも教室員には年1編以上の論文投稿（審査有のもの）と助教以上には科研費応募を義務としている。現在、脳神経外科医療は地方から崩壊しつつあり、東京近郊にもその影響は現れ始めている。それでも、当教室は本邦では屈指の診療・研究レベルを保持しているが、マンパワーが回復されない限り、大きな飛躍は期待できない状況である。

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) Adachi K¹, Yoshimura A², Aso R², Miyashita T², Yoshida D, Teramoto A, Shimura T (1) Department of Neurosurgery, Musashi Kosugi Hospital, (2) Academic Quality and Development Office) : Clinical clerkship course for medical students on lumbar puncture using simulators. J Nippon Med Sch 2012 ; 79 (6) : 430-437.
- 2) 喜多村孝幸 : 特発性正常圧水頭症とは : 原因不明の水頭症 歩行・認知・排尿がカギ. 月刊介護保険 2012 ; (202) : 52-54.
- 3) 太組一朗¹, 廣中浩平¹, 山田 明¹, 足立好司¹, 酒井行直², 春原沙織², 田島廣之³, 饒波正博⁴, 吉田大蔵, 寺本 明 (1) 武蔵小杉病院脳神経外科, (2) 武蔵小杉病院内科, (3) 武蔵小杉病院低侵襲治療科, (4) 沖縄赤十字病院脳神経外科) : 結節性硬化症の成人症例 : 難治てんかんと腎機能障害. 日本医科大学医学雑誌 2012 ; 8 (4) : 234-235.
- 4) Murai Y, Kominami S¹, Yoshida Y², Mizunari T¹, Adachi K³, Koketsu K¹, Kobayashi S¹, Teramoto A (1) Department of Neurosurgery, Chiba Hokuso Hospital, (2) Department of Neurosurgery, Ebara Hospital, (3) Department of Neurosurgery, Musashi Kosugi Hospital) : Preoperative liquid embolization of cerebellar hemangioblastomas using N-butyl cyanoacrylate. Neuroradiology 2012 ; 54 (9) : 981-988.
- 5) Murai Y, Mizunari T¹, Takagi R², Amano Y², Mizumura S², Komaba Y³, Okubo S³, Kobayashi S¹, Teramoto A (1) Department of Neurosurgery, Chiba Hokuso Hospital, (2) Department of Radiology, (3) Department of Internal Medicine) : Analysis of ischemic cerebral lesions using 3.0-T diffusion-weighted imaging and magnetic resonance angiography after revascularization surgery for ischemic disease. Clin Neurol Neurosurg

2012 ; 115 (7) : 1063-1070.

- 6) Murai Y, Kobayashi S¹⁾, Teramoto A (¹⁾ Department of Neurosurgery, Chiba Hokuso Hospital) : Subarachnoid hemorrhage of unknown etiology along the cortical convexity. J Nippon Med Sch 2012 ; 79 (4) : 301-306.
- 7) Matano F, Murai Y, Tateyama K, Mizunari T¹⁾, Umeoka K¹⁾, Koketsu K¹⁾, Kobayashi S¹⁾, Teramoto A (¹⁾ Clin Neurol Neurosurg) : Perioperative complications of superficial temporal artery to middle cerebral artery bypass for the treatment of complex middle cerebral artery aneurysms. Clin Neurol Neurosurg 2012 ; 115 (6) : 718-724.
- 8) Adachi K¹⁾, Murai Y, Teramoto A (¹⁾ Department of Neurosurgery, Musashi Kosugi Hospital) : Infantile cerebellar pilocytic astrocytoma with autism spectrum disorder. J Nippon Med Sch 2012 ; 79 (3) : 228-231.
- 9) 村井保夫, 水成隆之¹⁾, 小林士郎¹⁾, 立山幸次郎, 岩本直高, 纈纈健太¹⁾, 寺本 明 (¹⁾ 千葉北総病院脳神経センター脳神経外科) : Radial artery graft の基本手技と周術期管理. 脳神経外科ビデオジャーナル 2012 ; 19 (1).
- 10) Terao T¹⁾, Mishina M²⁾, Takumi I³⁾, Komaba Y²⁾, Mizunari T⁴⁾, Kobayashi S⁴⁾, Yoshida D, Teramoto A (¹⁾ Department of Neurosurgery, Yathuhoken Hospital, ²⁾ Department of Internal Medicine, ³⁾ Department of Neurosurgery, Musashi Kosugi Hospital, ⁴⁾ Department of Neurosurgery, Chiba Hokuso Hospital) : Early CT signs as early predictors of hemorrhagic transformation under heparinization in patients with cardiogenic embolism. Geriatr Gerontol Int 2012 ; 12 (3) : 418-424.
- 11) 鈴木雅規¹⁾, 小南修史¹⁾, 白銀一貴, 纈纈健太¹⁾, 岩本直高, 大村朋子¹⁾, 三品雅洋²⁾, 水成隆之¹⁾, 小林士郎¹⁾, 寺本 明 (¹⁾ 千葉北総病院脳神経センター脳神経外科, ²⁾ 第二内科) : Wake-up ischemic stroke に対する Merci Retriever 応用の可能性. 脳卒中 2012 ; 34 (4) : 228-234.
- 12) Mitsuishi M, Morita A, Sugita N, Sora S, Mochizuki R, Tanimoto K, Baek Y, Takahashi H, Harada K : Master-slave robotic platform and its feasibility study for micro-neurosurgery. Int J Med Robot 2012 ; 9 : 180-189.
- 13) Morita A¹⁾, Kirino A¹⁾, Hashi K¹⁾, Aoki N¹⁾, Fukuhara S¹⁾, Hashimoto N¹⁾, Nakayama T¹⁾, Sakai M¹⁾, Teramoto A¹⁾, Tominari S¹⁾, Yoshimoto T¹⁾ (¹⁾ The UCAS Japan Investigators) : The natural course of unruptured cerebral aneurysms in a japanese cohort. N Engl J Med 2012 ; 366 (26) : 2474-2482.
- 14) Saito M, Takahashi Y, Yoshimura Y, Shima A, Morita A, Houkin K, Nakayama T, Nozaki K : Inadequate communication between patients with unruptured cerebral aneurysms and neurosurgeons. Neurol Med Chir 2012 ; 52 (12) : 873-877.
- 15) Yamaoka Y, Ichikawa Y, Kimura T, Sameshima T, Morita A : A novel method for transcranial doppler microembolic signal monitoring at the vertebrobasilar junction in vertebral artery dissection patients. J Neuroimaging 2012.
- 16) Nishimura K, Kimura T, Morita A : Watertight dural closure constructed with dura seal for bypass surgery. Neurol Med Chir 2012 ; 52 (7) : 521-524.
- 17) Yamaguchi F, Asakura T, Takahashi H¹⁾, Kitamura T, Teramoto A (¹⁾ Kasugai Rehabilitation Hospital) : Low frequency ultrasonication induced antitumor effect in 5-aminolevulinic acid treated malignant glioma. Journal of Cancer Therapy 2013 ; 4 (1) : 170-175.
- 18) 喜多村孝幸, 寺本 明 : 脳室と髄液腔の最新情報 - 脳室と髄液の解剖と生理 - 神経内視鏡手術に必要な脳室の解剖. Clinical Neuroscience 2012 ; 30 (4) : 380-383.
- 19) Kim K¹⁾, Emoto N²⁾, Mishina M³⁾, Okada S⁴⁾, Isu T⁵⁾, Yoshida D, Kobayashi S¹⁾, Teramoto A (¹⁾ Department of Neurosurgery, Chiba Hokuso Hospital, ²⁾ Department of Internal Medicine, Chiba Hokuso Hospital, ³⁾ Department of Neurology, Neurological Institute, ⁴⁾ Department of Radiology, Chiba Hokuso Hospital,

- 5) Department of Neurosurgery, Kushiro Rosai Hospital) : Incidental detection of thyroid nodules at magnetic resonance imaging of the cervical spine. *Neurol Med Chir* 2013 ; 53 (2) : 77-81.
- 20) Yoshida D, Kim K¹⁾, Takumi I²⁾, Yamaguchi F, Adachi K²⁾, Teramoto A (¹⁾ Department of Neurosurgery, Chiba Hokuso Hospital, ²⁾ Department of Neurosurgery, Musashi Kosugi Hospital) : A transfection method for short interfering RNA with the lipid-like self-assembling nanotube, A6K. *Med Mol Morphol* 2013 ; 46(2) : 86-91.
- 21) Takumi I¹⁾, Mishina M²⁾, Hironaka K¹⁾, Oyama K¹⁾, Yamada A¹⁾, Adachi K¹⁾, Yoshida D, Teramoto A (¹⁾ Department of Neurosurgery, Musashi Kosugi Hospital, ²⁾ Department of Internal Medicine) : Simple solution for preventing cerebrospinal fluid loss and brain shift during multitrack deep brain stimulation surgery in the semisupine position : polyethylene glycol hydrogel dural sealant capping : rapid communication. *Neurol Med Chir* 2013 ; 53 (1) : 1-6.
- 22) 村井保夫, 水成隆之¹⁾, 小林士郎¹⁾, 梅岡克哉¹⁾, 立山幸次郎, 額顯健太¹⁾, 亦野文宏, 喜多村孝幸, 寺本 明 (¹⁾ 千葉北総病院脳神経センター脳神経外科) : 撓骨動脈グラフトの基本. *脳卒中の外科* 2013 ; 41 : 33-38.
- 23) Hirohata T¹⁾, Asano K²⁾, Ogawa Y³⁾, Takano S⁴⁾, Amano K⁵⁾, Isozaki O⁵⁾, Iwai Y⁶⁾, Sakata K⁷⁾, Fukushima N⁸⁾, Nishioka H⁸⁾, Yamada S⁸⁾, Tahara S, Ishii Y, Teramoto A, Matsuno A⁹⁾ (¹⁾ Department of Neurosurgery, Tokyo University, ²⁾ Department of Neurosurgery, Hirosaki University, ³⁾ Department of Neurosurgery, Kunan Hospital, ⁴⁾ Department of Neurosurgery, Tukuba University, ⁵⁾ Department of Neurosurgery, Tokyo Womens Medical University, ⁶⁾ Department of Neurosurgery, Osaka City General Hospital, ⁷⁾ Department of Neurosurgery, Kurume University, ⁸⁾ Department of Neurosurgery, Toranomon Hospital, ⁹⁾ Department of Neurosurgery, Teikyo Chiba General Hospital) : DNA Mismatch Repair protein (MSH6) correlated with the responses of atypical pituitary adenomas and pituitary carcinomas to temozolomide : the national cooperative study by the Japan society for hypothalamic and pituitary tumors. *J Clin Endocrin Metab* 2013 ; 98 (3) : 1130-1136.
- 24) Oyama N, Tahara S, Oyama K¹⁾, Isii Y, Teramoto A (¹⁾ Department of Neurosurgery, Musashi Kosugi Hospital) : Assessment of pre and postoperative endocrine function in 94 patients with Rathkes cleft cyst. *Endocr J* 2013 ; 60 (2) : 207-213.
- (2) 症例報告 :
- 1) 石坂栄太郎, 田原重志, 石井雄道, 戸田茂樹, 喜多村孝幸, 寺本 明 : 内視鏡下経蝶形骨アプローチによる開放術を施行した錐体骨先端部コレステリン肉芽腫の1例. *脳神経外科ジャーナル* 2012 ; 21 (11) : 890-895.
- 2) Sameshima T, Morita A, Yamaoka Y, Ichikawa Y : Ipsilateral sensorimotor deficits in lateral medullary infarction. *J Stroke Cerebrovasc Dis* 2012.

著 書

- 1) 浦 裕之, 太組一朗 : [自著] 第5章 抗てんかん治療薬の副作用の疫学データと発現機序, 診断・治療の現状 : 第3節 抗利尿ホルモン不適合分泌症候群 (SIADH), 水中毒. 副作用軽減化新薬開発, 2012 ; pp368-371, 技術情報協会.
- 2) 浦 裕之, 太組一朗 : [自著] 第5章 抗てんかん治療薬の副作用の疫学データと発現機序, 診断・治療の現状 : 第4節 視覚異常, 視覚調節障害. 副作用軽減化新薬開発, 2012 ; pp372-375, 技術情報協会.
- 3) 太組一朗 : [編集] (特集) てんかんの治療法 : てんかんの治療法. 月刊波 12月号, 2012 ; p355, 日本てんかん協会.
- 4) 太組一朗 : [編集] (特集) てんかんの治療法 : 手術でなおす. 月刊波 12月号, 2012 ; pp362-365, 日本てんかん協会.

- 5) 太組一朗：〔訪問記〕国際てんかん協会（IBE）訪問記。月刊波9月号，2012；pp280-281，日本てんかん協会。
- 6) Takumi I：〔自著〕Spreading the world!。International Epilepsy News，2012；p17，Stillorgan。
- 7) Murai Y：〔編集〕Aneurysm，2012；p414，Intech。
- 8) Murai Y，Teramoto A：〔自著〕Chapter15-Retroperitoneal haemorrhage as a dangerous complication of endovascular cerebral aneurysmal coiling。Aneurysm，2012；pp313-326，Intech。
- 9) Murai Y，Teramoto A：〔自著〕Pediatric tumors：Safe resection of hemangioblastoma using indocyanin green videoangiography。Methods of Cancer diagnosis, Therapy and Prognosis，2012；pp285-290，Springer。
- 10) 井須豊彦，金景成：〔自著〕首・肩・腕の痛みとしびれをとる本，2012；講談社。
- 11) 金景成：〔分担〕Tinell様徴候：外来診察時に触れるべき箇所。しびれ，痛みの外来診療（井須豊彦），2012；pp42-44，中外医学社。
- 12) 金景成：〔分担〕腰椎椎間板ヘルニアの自然経過。しびれ，痛みの外来診療（井須豊彦），2012；pp53-54，中外医学社。
- 13) 金景成：〔分担〕見逃してはいけない病気。しびれ，痛みの外来診療（井須豊彦），2012；pp67-70，中外医学社。
- 14) 金景成：〔分担〕外来で経過をみる際のポイントと問題点。しびれ，痛みの外来診療（井須豊彦），2012；pp70-71，中外医学社。
- 15) 金景成：〔分担〕難治性のしびれ，痛みに対する薬物治療ならびに脊髄刺激法。しびれ，痛みの外来診療（井須豊彦），2012；pp103-105，中外医学社。
- 16) 大畑建治¹⁾，寺本明，新井一²⁾，塩川芳昭³⁾（¹⁾大阪市立大学大学院医学研究科脳神経外科，²⁾順天堂大学医学部脳神経外科，³⁾杏林大学医学部脳神経外科）：〔編集〕脳神経外科手術のトラブルシューティングーリスクの克服。NS NOW 18，2012；Medical View。
- 17) 大山健一¹⁾（¹⁾武蔵小杉病院脳神経外科）：〔分担〕拡大経蝶形骨手術：巨大下垂体腺腫。NS NOW 19 下垂体外科 Update：大きく変わった経蝶形骨手術（寺本明），2012；Medical View。
- 18) 田原重志，石井雄道，寺本明：〔分担〕第2章臨床知識 C. 治療総論 1. 下垂体手術①。下垂体疾患診療マニュアル，2012；診断と治療社。
- 19) 石井雄道，田原重志，寺本明：〔分担〕第2章臨床知識 D. 下垂体前葉疾患各論 32. 下垂体偶発腫瘍。下垂体疾患診療マニュアル，2012；診断と治療社。
- 20) 勝野亮，谷川緑野：〔自著〕動脈の損傷。NS NOW 18 脳神経外科手術のトラブルシューティングーリスクの克服，2012；pp26-31，Medical View。
- 21) 村井保夫，寺本明，茂木奈津¹⁾（¹⁾東京女子医科大学付属病院）：〔自著〕疾患と看護がわかる看護過程ナーシングプロセスークモ膜下出血。クリニカルスタディ，2012；pp33-55，（株）メディカルフレンド社。

学会発表

(1) 座談会：

- 1) 山口文雄：脳腫瘍診療医のてんかんマネジメント：新規抗てんかん薬のインパクト。2012。11。
- 2) 山口文雄：硬膜形成術の工夫。脳腫瘍カンファレンス，2013。3。

(2) 特別講演：

- 1) 森田明夫：UCAS Japanの結果と日本における大規模臨床研究のありかた。13th International Seminar of Cerebrovascular Disease，2013。2。
- 2) 喜多村孝幸：頭痛診療における満足度の高い治療とは。第28回港ペインコントロールプラクティス研究会，2013。2。

(3) 招待講演：

- 1) 田原重志：内視鏡下経鼻の下垂体腫瘍摘出術の実際。第10回多摩視床下部下垂体勉強会，2012. 11.
- 2) 田原重志：先端巨大症に対する集学的治療。第32回日本脳神経外科コンgres総会，2012. 5.
- 3) 田原重志：先端巨大症に対する集学的治療。(社)日本脳神経外科学会第71回学術総会，2012. 10.
- 4) 喜多村孝幸：頭痛診療における満足度の高い治療とは。第32回日本脳神経外科コンgres総会，2012. 5.

(4) シンポジウム：

- 1) Tahara S, Kitamura T, Ishii Y, Takei M¹⁾, Sanno N²⁾, Teramoto A (¹⁾ Hayashi Neurosurgery Clinic, ²⁾ Sanno Clinic) : Endoscopic transsphenoidal surgery for GH secreting pituitary adenomas. 5th Harbin International Neurosurgical Conference & the WFNS education program (Harbin, China), 2012. 7.
- 2) 田原重志, 喜多村孝幸, 石井雄道, 服部裕次郎, 竹井麻生¹⁾, 山王直子²⁾, 寺本 明 (¹⁾ 林脳神経外科クリニック, ²⁾ 山王クリニック) : 巨大下垂体腺腫に対する内視鏡下経鼻の手術の手術成績。(社)日本脳神経外科学会第71回学術総会，2012. 10.
- 3) 田原重志, 石井雄道, 服部裕次郎, 杉山 誠¹⁾, 山王直子²⁾, 寺本 明 (¹⁾ 関東労災病院脳神経外科, ²⁾ 山王クリニック) : 下垂体腫瘍に対する内視鏡下経蝶経骨手術の現状と展望。第19回日本神経内視鏡学会，2012. 11.
- 4) 山口文雄：脳腫瘍手術における intraoperative “Real Motor Tract Mapping”。第18回日本脳神経モニタリング学会，2012. 12.

(5) セミナー：

- 1) 山口文雄：てんかんの診断から最新の治療まで：日常診療に潜むてんかんでどう見極め、どこまで治療を行っていくべきか？。日医生涯教育協力講座セミナー，2012. 9.
- 2) 山口文雄：てんかんの診断から最新の治療まで：てんかん治療における地域医療連携・病診医療連携の重要性。日医生涯教育協力講座セミナー，2012. 9.
- 3) 山口文雄：術中神経路認識による脳腫瘍手術。第58回千葉神経外科研究会，2012. 6.
- 4) 山口文雄：脳腫瘍とてんかん。大塚製薬招聘勉強会，2012. 12.
- 5) 山口文雄：脳腫瘍とてんかん2。グラクソ・スミスクライン社員教育会，2012. 7.
- 6) 山口文雄：脳腫瘍。エーザイ社内講演会，2012. 11.
- 7) 喜多村孝幸：頭痛と上手に付き合うために：治療の最前線。第9回脳神経外科市民公開講座，2012. 4.
- 8) 石井雄道：下垂体外科の新しい術式。第31回東京成長ホルモン成長因子セミナー，2012. 5.
- 9) 石井雄道：下垂体機能低下を来す脳神経外科疾患と手術：下垂体機能低下症について。市民公開講座－脳のホルモンってなに？，2012. 5.
- 10) 石井雄道：下垂体機能低下を来す脳神経外科疾患と手術。イーライリリー社員研修会，2012. 9.
- 11) 石井雄道：安全な基本・応用手技の習得：経鼻下垂体頭蓋底手術。第6回千葉神経内視鏡ハンズオンセミナー，2012. 12.

(6) 一般講演：

- 1) 吉田大蔵, 白銀一貴, 寺本 明¹⁾ (¹⁾ 東京労災病院) : 下垂体腺腫におけるインターフェロン誘導性膜貫通タンパク質 (IFITM1) の成長, 浸潤, 増殖におけるシグナル伝達の役割。第53回日本神経病理学会総会学術研究会，2012. 6.
- 2) 吉田大蔵, 白銀一貴, 寺本 明¹⁾ (¹⁾ 東京労災病院) : 下垂体腺腫におけるインターフェロン誘導性膜貫通タンパク質 (IFITM1) の腫瘍成長に果たすシグナル解析に関する研究。(社)日本脳神経外科学会第71回学術総会，2012. 10.
- 3) 杉山 誠¹⁾, 田原重志, 石井雄道, 寺本 明²⁾ (¹⁾ 関東労災病院脳神経外科, ²⁾ 東京労災病院) : 内視鏡下経鼻の下垂体腫瘍摘出術における髄液漏治療の標準的基本手技の検討。第16回神奈川脳神経外科手術手技研究会，2012. 9.

- 4) 杉山 誠¹⁾, 吉田信介¹⁾, 石下洋平¹⁾, 大野晋吾¹⁾, 立澤孝幸¹⁾, 熊井潤一郎¹⁾, 石井雄道, 田原重志, 寺本 明²⁾
(¹⁾ 関東労災病院脳神経外科, ²⁾ 東京労災病院) : 内視鏡下経鼻の経蝶形骨下垂体腫瘍摘出術髄液漏修復標準的
手技の検討. (社) 日本脳神経外科学会第 71 回学術総会, 2012. 10.
- 5) 杉山 誠¹⁾, 立澤孝幸¹⁾, 熊井潤一郎¹⁾, 石井雄道, 田原重志, 寺本 明²⁾ (¹⁾ 関東労災病院脳神経外科, ²⁾ 東京
労災病院) : 内視鏡下経鼻の下垂体腫瘍摘出術における髄液漏治療の標準的基本手技の検討. 第 19 回日本神経内
視鏡学会, 2012. 11.
- 6) Takumi I¹⁾, Mishina M²⁾, Hironaka K²⁾, Oyama K²⁾, Yamada A²⁾, Adachi K²⁾, Hamamoto M³⁾, Kitamura
S³⁾, Yoshida D, Teramoto A (¹⁾ Department of Neurosurgery, Musashi Kosugi Hospital, ²⁾ Department of
Internal Medicine, ³⁾ Department of Neurology, Musashi Kosugi Hospital) : Simple solution for cerebrospinal
fluid loss and brain shift in semi-supine-positioned multitrack deep brain stimulation surgery : Polyethylene
glycol hydrogel dural sealant capping. The Movement Disorder Society's 16th International Congress of Par-
kinson's Disease and Movement Disorders (Dublin, Ireland), 2012. 6.
- 7) 太組一朗, 廣中浩平, 山田 明, 足立好司, 寺尾 健, 寺本 明, 百東比古, 秋元正宇 : 外後頭隆起の突出によ
る頭痛に対し切除手術が著効した 2 例. 第 30 回日本頭蓋顎顔面外科学会総会, 2012. 11.
- 8) 太組一朗, 展 広智, 山田 明, 足立好司, 饒波正博, 寺本 明 : 皮質病変を伴う側頭葉てんかんの一手術症
例 : 慢性頭蓋内電極留置による言語野マッピング. 第 70 回神奈川てんかん懇話会, 2012. 6.
- 9) 展 広智, 太組一朗, 山田 明, 足立好司, 饒波正博, 寺本 明 : 難治性複雑部分発作を呈する側頭葉腫瘍の 1
手術例. 第 119 回社団法人日本脳神経外科学会関東支部会, 2012. 12.
- 10) 村井保夫, 高木 亮¹⁾, 関根鉄朗¹⁾, 水成隆之²⁾, 小林士郎²⁾, 汲田伸一郎¹⁾, 喜多村孝幸, 寺本 明 (¹⁾ 放射線
科, ²⁾ 千葉北総病院脳神経センター脳神経外科) : 4D-flow MRI による治療困難な内頸動脈瘤に対する Radial
artery graft の評価. (社) 日本脳神経外科学会第 71 回学術総会, 2012. 10.
- 11) 亦野文宏, 村井保夫, 立山幸次郎, 水成隆之¹⁾, 梅岡克哉¹⁾, 纈纈健太¹⁾, 小林士郎¹⁾, 喜多村孝幸 (¹⁾ 千葉北総
病院脳神経センター脳神経外科) : 治療困難な中大脳動脈瘤に STA-MCA バイパスを安全に行う為に. (社) 日
本脳神経外科学会第 71 回学術総会, 2012. 10.
- 12) 中川俊祐, 村井保夫, 和田剛志, 展 広智¹⁾, 喜多村孝幸, 寺本 明 (¹⁾ 武蔵小杉病院脳神経外科) : 橈骨動脈
グラフトを用いた多発内頸動脈瘤による頸動脈-海綿靜脈洞瘻の治療. (社) 日本脳神経外科学会第 71 回学術総
会, 2012. 10.
- 13) 村井保夫, 水成隆之¹⁾, 小林士郎¹⁾, 立山幸次郎, 岩本直高, 纈纈健太¹⁾, 寺本 明 (¹⁾ 千葉北総病院脳神経セ
ンター脳神経外科) : 橈骨動脈グラフトの基本 : 0 例の反省を込めた基本手技. 第 41 回日本脳卒中の外科学会,
2012. 4.
- 14) 梅岡克哉¹⁾, 水成隆之¹⁾, 玉置智規²⁾, 村井保夫, 立山幸次郎, 岩本直高, 纈纈健太¹⁾, 小林士郎¹⁾, 寺本 明 (¹⁾
千葉北総病院脳神経センター脳神経外科, ²⁾ 多摩永山病院脳神経外科) : 頸動脈分岐部における, CEA と RA
graft での適切な剥離面についての検討. 第 41 回日本脳卒中の外科学会, 2012. 4.
- 15) 水成隆之¹⁾, 小林士郎¹⁾, 梅岡克哉¹⁾, 纈纈健太¹⁾, 玉置智規²⁾, 村井保夫, 立山幸次郎, 岩本直高, 白銀一貴,
寺本 明 (¹⁾ 千葉北総病院脳神経センター脳神経外科, ²⁾ 多摩永山病院脳神経外科) : 内頸動脈 blood blister like
aneurysm の治療方針. 第 41 回日本脳卒中の外科学会, 2012. 4.
- 16) 纈纈健太¹⁾, 村井保夫, 足立好司²⁾, 亦野文宏, 水成隆之¹⁾, 梅岡克哉¹⁾, 小林士郎¹⁾, 寺本 明 (¹⁾ 千葉北総病
院脳神経センター脳神経外科, ²⁾ 武蔵小杉病院脳神経外科) : SCS-P02-7 インドシアニンググリーンビデオ血管撮
影を用いた術中前交通動脈血流評価. 第 41 回日本脳卒中の外科学会, 2012. 4.
- 17) 亦野文宏, 村井保夫, 足立好司¹⁾, 寺本 明 (¹⁾ 武蔵小杉病院脳神経外科) : 頭蓋内内頸動脈狭窄と甲状腺機能
亢進症出血例, 2 次性甲状腺機能亢進症例を含む 3 症例の検討. 第 41 回日本脳卒中の外科学会, 2012. 4.
- 18) 関根鉄朗¹⁾, 高木 亮¹⁾, 天野康雄¹⁾, 松村善雄¹⁾, 村井保夫, 寺本 明, 鈴木由里子¹⁾, 汲田伸一郎¹⁾ (¹⁾ 放射

- 線科) : 4D-Flow MRI を用いた脳血流動態解析 : EC-IC bypass 術後の逆行性血流の発現頻度. JRC 2012, 2012. 4.
- 19) 関根鉄朗¹⁾, 高木 亮¹⁾, 天野康雄¹⁾, 松村善雄¹⁾, 村井保夫, 鈴木由里子¹⁾, 汲田伸一郎¹⁾ (¹⁾ 放射線科) : 4D Flow MRI を用いた眼動脈逆行性血流の臨床的評価 : 内頸動脈閉塞例における脳血流 SPECT との比較. 第 40 回日本磁気共鳴医学会大会, 2012. 9.
- 20) 田原重志, 石井雄道, 竹井麻生¹⁾, 山王直子²⁾, 横田裕行³⁾, 寺本 明 (¹⁾ 林脳神経外科クリニック, ²⁾ 山王クリニック, ³⁾ 高度救命救急センター) : 頭部外傷後の重症型成人成長ホルモン分泌不全症に対し成長ホルモンを導入した 1 例. 第 85 回日本内分泌学会学術総会, 2012. 4.
- 21) 寺尾 健¹⁾, 酒井直之¹⁾, 喜多村孝幸 (¹⁾ 谷津保健病院脳神経外科) : 片頭痛治療における漢方薬を用いた治療経験. 第 40 回日本頭痛学会総会, 2012. 11.
- 22) 中江竜太¹⁾, 恩田秀賢²⁾, 高山泰広²⁾, 荒木 尚²⁾, 直江康孝¹⁾, 布施 明²⁾, 佐藤秀貴²⁾, 吉田大蔵, 横田裕行²⁾, 寺本 明 (¹⁾ 川口市立医療センター救命救急センター, ²⁾ 高度救命救急センター) : TCD による脳血管攣縮の診断 : mBFV の左右比を用いた検討. 第 28 回スパズム・シンポジウム, 2012. 4.
- 23) 白銀一貴, 玉置智規, 山崎道生, 木暮一成, 野手洋治 : 腫瘍内出血を繰り返し, 治療に難渋した巨大大脳鎌髄膜腫の 1 例. (社) 日本脳神経外科学会第 71 回学術総会, 2012. 10.
- 24) 展 広智¹⁾, 山口文雄, 樋口直司, 國保倫子²⁾, 石井雄道, 喜多村孝幸, 寺本 明 (¹⁾ 武蔵小杉病院脳神経外科, ²⁾ 千葉北総病院脳神経センター脳神経外科) : 症候性てんかんを伴う脳腫瘍に対する治療の試み : 摘出術における MST の併用. (社) 日本脳神経外科学会第 71 回学術総会, 2012. 10.
- 25) 樋口直司, 山口文雄, 喜多村孝幸 : 治療に苦慮している Gliosarcoma の 1 例. 第 24 回東京脳腫瘍治療懇話会, 2012. 6.
- 26) 樋口直司, 山口文雄, 國保倫子¹⁾, 石井雄道, 足立好司²⁾, 喜多村孝幸 (¹⁾ 千葉北総病院脳神経センター脳神経外科, ²⁾ 武蔵小杉病院脳神経外科) : 治療に苦慮している Gliosarcoma の 1 例. 第 17 回文京脳腫瘍研究会, 2012. 7.
- 27) 樋口直司, 山口文雄, 展 広智¹⁾, 國保倫子²⁾, 石井雄道, 喜多村孝幸 (¹⁾ 武蔵小杉病院脳神経外科, ²⁾ 千葉北総病院脳神経センター脳神経外科) : 自験例 100 症例から得られた脳腫瘍手術における 5-ALA 蛍光診断についての検討. (社) 日本脳神経外科学会第 71 回学術総会, 2012. 10.
- 28) 服部裕次郎, 田原重志, 石井雄道, 山王直子¹⁾, 井野元智恵²⁾, 長村義之³⁾, 寺本 明, 喜多村孝幸 (¹⁾ 山王クリニック, ²⁾ 東海大学医学部病理診断学, ³⁾ 国際医療福祉大学三田病院病理部) : 下垂体機能低下を認めなかった IgG4 関連下垂体炎の 1 例. 第 39 回日本神経内分泌学会学術集会, 2012. 9.
- 29) 服部裕次郎, 田原重志, 喜多村孝幸, 石井雄道, 竹井麻生¹⁾, 山王直子²⁾, 井野元智恵³⁾, 長村義之⁴⁾, 寺本 明 (¹⁾ 林脳神経外科内科クリニック, ²⁾ 東海大学医学部病理診断学, ³⁾ 国際医療福祉大学三田病院病理部) : GH 産生下垂体腺腫に対する内視鏡下経鼻的手術による被膜外摘出の臨床病理学的検討. 第 8 回アクロメガリーフォーラム, 2012. 10.
- 30) 服部裕次郎, 田原重志, 石井雄道, 山王直子¹⁾, 井野元智恵²⁾, 長村義之³⁾, 寺本 明, 喜多村孝幸 (¹⁾ 山王クリニック, ²⁾ 東海大学医学部病理診断学, ³⁾ 国際医療福祉大学三田病院病理部) : IgG4 関連下垂体炎の臨床病理学的検討. (社) 日本脳神経外科学会第 71 回学術総会, 2012. 10.
- 31) Suzuki M¹⁾, Kominami S¹⁾, Kobayashi S¹⁾, Teramoto A (¹⁾ Department of Neurosurgery, Chiba Hokusai Hospital) : Endovascular embolisation with ethanol and n-butyl cyanoacrylate to intracranial meningioma in the elderly without subsequent surgery. 10th meeting of Asian-Australasian Federation of Interventional and Therapeutic Neuroradiology (Nagoya, Japan), 2012. 6.
- 32) Yamaguchi F : Real subcortical mapping under brain shift conditions in glioma surgery. 2012 American Association of Neurological Surgeons Annual Meeting, 80th AANS Annual Scientific Meeting (Miami, Florida),

2012. 4.

- 33) Yamaguchi F : Intraoperative tracking of subcortical motor fibers in glioma surgery. 2012 Congress of Neurological Surgeons Annual Meeting (Chicago, Illinois), 2012. 10.
- 34) 山口文雄, 展 広智¹⁾, 國保倫子²⁾, 樋口直司, 大村朋子²⁾, 石井雄道, 小島豊之³⁾, 喜多村孝幸, 高橋 弘⁴⁾, 寺本 明 (¹⁾ 武蔵小杉病院脳神経外科, ²⁾ 千葉北総病院脳神経センター脳神経外科, ³⁾ 四谷メディカルキューブ, ⁴⁾ 春日居サイバーナイフリハビリ病院) : 脳腫瘍手術における“Real Motor Tract Mapping”. (社)日本脳神経外科学会第71回学術総会, 2012. 10.
- 35) 國保倫子¹⁾, 山口文雄, 樋口直司, 展 広智²⁾, 石井雄道, 寺本 明, 喜多村孝幸 (¹⁾ 千葉北総病院脳神経センター脳神経外科, ²⁾ 武蔵小杉病院脳神経外科) : 術中運動誘発電位における BIS (Bispectral Index) と F-wave についての検討. (社)日本脳神経外科学会第71回学術総会, 2012. 10.
- 36) 山口文雄 : 脳腫瘍による症候性てんかんに対する治療の試み. 第2回千駄木脳腫瘍研究会, 2012. 6.
- 37) 水成隆之, 額額健太, 大村朋子, 鈴木雅規, 梅岡克哉, 金 景成, 小南修史, 小林士郎 : 脳底動脈遠位部動脈瘤の1例について. 第6回東葛脳神経外科手術手技研究会, 2012. 9.
- 38) 水成隆之¹⁾, 梅岡克哉¹⁾, 額額健太¹⁾, 石坂栄太郎¹⁾, 小林士郎¹⁾, 玉置智規²⁾, 村井保夫, 立山幸次郎, 白銀一貴 (¹⁾ 千葉北総病院脳神経センター脳神経外科, ²⁾ 多摩永山病院脳神経外科) : 内頸動脈解離性動脈瘤に対する治療戦略 : blister like aneurysm を含めて. (社)日本脳神経外科学会第71回学術総会, 2012. 10.
- 39) 大村朋子¹⁾, 山口文雄, 足立好司²⁾, 小林士郎¹⁾ (¹⁾ 千葉北総病院脳神経センター脳神経外科, ²⁾ 武蔵小杉病院脳神経外科) : テモゾロマイド長期投与症例の検討. (社)日本脳神経外科学会第71回学術総会, 2012. 10.
- 40) 額額健太¹⁾, 水成隆之¹⁾, 岩本直高, 立山幸次郎, 村井保夫, 小林士郎¹⁾ (¹⁾ 千葉北総病院脳神経センター脳神経外科) : 脳底動脈本幹部動脈瘤に対する当施設での治療経験. (社)日本脳神経外科学会第71回学術総会, 2012. 10.
- 41) 足立好司, 山口文雄, 野手洋治, 小林士郎 : 中枢神経系原発悪性リンパ腫の画像診断 : 最近の非特異画像の増加について. (社)日本脳神経外科学会第71回学術総会, 2012. 10.
- 42) 石井雄道, 小林士郎¹⁾, 寺本 明 (¹⁾ 千葉北総病院脳神経センター脳神経外科) : 巨大下垂体腺腫に対する手術. 第10回千葉下垂体疾患研究会, 2012. 11.
- 43) 戸田茂樹, 喜多村孝幸, 寺本 明, 中川俊介 : 低髄液圧症候群の治療戦略 : 慢性硬膜下血腫合併例について. 第117回 (社)日本脳神経外科学会関東支部学術集会, 2012. 4.
- 44) 中川俊祐, 土居 浩¹⁾, 吉田陽一¹⁾, 徳永 仁¹⁾, 望月由武人¹⁾, 中村精紀¹⁾, 長崎弘和¹⁾, 山川功太¹⁾ (¹⁾ 荏原病院脳神経外科) : 嚥下痛を併発した上位頸椎肉芽腫性炎症の2例. 第117回 (社)日本脳神経外科学会関東支部学術集会, 2012. 4.
- 45) 石井雄道, 田原重志, 大山健一¹⁾, 喜多村孝幸, 寺本 明 (¹⁾ 武蔵小杉病院脳神経外科) : ラトケ嚢胞再発例に対する手術. 第85回日本内分泌学会学術総会, 2012. 4.
- 46) 中江竜太¹⁾, 恩田秀賢²⁾, 高山泰広²⁾, 荒木 尚²⁾, 直江康孝¹⁾, 布施 明²⁾, 佐藤秀貴²⁾, 吉田大蔵, 横田裕行²⁾, 寺本 明 (¹⁾ 川口市立医療センター救命救急センター, ²⁾ 高度救命救急センター) : TCD による脳血管攣縮の診断 : mBFV の左右比を用いた検討. 第41回日本脳卒中の外科学会, 2012. 4.
- 47) 立山幸次郎, 亦野文宏, 寺本 明 : 高位病変に対する頸部内頸動脈内膜剥離術の工夫耳下腺の剥離と脳べらの活用による C1 上縁までの動脈切開. 第41回日本脳卒中の外科学会, 2012. 4.
- 48) 戸田茂樹, 寺本 明 : 脳虚血再灌流時脳浮腫における cimetidine の効果について : ラットモデルでの検討. 第41回日本脳卒中の外科学会, 2012. 4.
- 49) 石井雄道, 田原重志, 喜多村孝幸, 寺本 明 : 髄膜腫に対する経鼻頭蓋底手術. 第64回関東脳神経外科懇話会, 2012. 6.
- 50) 戸田茂樹 : 急激な意識障害をきたした脳脊髄液減少症に合併した慢性硬膜下血腫の2症例. 第21回日本意識障

害学会, 2012. 7.

- 51) 松野 彰¹⁾, 後藤芳明¹⁾, 山田 創¹⁾, 山田昌興¹⁾, 保谷克巳¹⁾, 村上峰子¹⁾, 廣畑倫生¹⁾, 石井雄道, 寺本 明, 山崎一人²⁾, 石田康生²⁾ (1) 帝京大学ちば総合医療センター脳神経外科, 2) 帝京大学ちば総合医療センター病理部) : 術前診断に苦慮した鞍上部腫瘍の1例. 第39回日本神経内分泌学会学術集会, 2012. 9.
- 52) Ishii Y, Oyama K¹⁾, Tahara S, Teramoto A (1) Department of Neurosurgery, Musashi Kosugi Hospital) : Endoscopic endonasal skull base surgery : Results of our 23 cases. 23rd Annual Meeting of Asia-Pacific Endocrine Conference (Bangkok,Thailand), 2012. 7.
- 53) 石井雄道, 大山健一¹⁾, 田原重志, 喜多村孝幸, 寺本 明 (1) 武蔵小杉病院脳神経外科) : 当院における内視鏡下経鼻頭蓋底手術の治療成績. (社) 日本脳神経外科学会第71回学術総会, 2012. 10.
- 54) 石井雄道, 大山健一¹⁾, 田原重志, 喜多村孝幸, 寺本 明 (1) 武蔵小杉病院脳神経外科) : 内視鏡下経鼻頭蓋底手術 : 当院における治療経験と手術適応. 第19回日本神経内視鏡学会, 2012. 11.
- 55) 戸田茂樹 : 頸椎前方固定における cylindrical cage と square type (box type) の違い : 当院での分析結果. (社) 日本脳神経外科学会第71回学術総会, 2012. 10.
- 56) 戸田茂樹 : SIHの画像診断-RIとCTとのfusion画像を用いて. (社) 日本脳神経外科学会第71回学術総会, 2012. 10.
- 57) 立山幸次郎 : 高位頸部内頸動脈狭窄症に対する術式の工夫下顎骨は誰にとって邪魔なのか?. (社) 日本脳神経外科学会第71回学術総会, 2012. 10.
- 58) 杉山 誠¹⁾, 立澤孝幸¹⁾, 熊井潤一郎¹⁾, 石井雄道, 田原重志, 寺本 明 (1) 関東労災病院脳神経外科) : 内視鏡下経鼻の下垂体腫瘍摘出術中の髄液漏修復標準の基本手技の検討. 第23回日本間脳下垂体腫瘍学会, 2013. 3.
- 59) 額綱健太¹⁾, 水成隆之¹⁾, 岩本直高²⁾, 立山幸次郎, 村井保夫, 小林士郎¹⁾ (1) 千葉北総病院脳神経センター脳神経外科, 2) 横浜新緑病院脳神経外科) : 当施設の脳底動脈本幹部動脈瘤に対する治療経験. 第42回日本脳卒中の外科学会, 2013. 3.
- 60) 中川俊祐, 村井保夫, 和田剛志, 展 広智, 立山幸次郎, 喜多村孝幸, 寺本 明, 水成隆之¹⁾, 小林士郎¹⁾, 吉田陽一²⁾ (1) 千葉北総病院脳神経センター脳神経外科, 2) 荏原病院脳神経外科) : 多発内頸動脈瘤による頸動脈-海綿静脈洞瘻の橈骨動脈グラフトを用いた外科的治療. 第42回日本脳卒中の外科学会, 2013. 3.
- 61) 亦野文宏, 村井保夫, 中川俊祐, 和田剛志, 喜多村孝幸 : Angiographically occult AVMの治療方針 indocyanine green videoangiography 所見の考察. 第42回日本脳卒中の外科学会, 2013. 3.
- 62) 水成隆之¹⁾, 額綱健太¹⁾, 梅岡克哉¹⁾, 小林士郎¹⁾, 玉置智規²⁾, 村井保夫, 白銀一貴, 石坂栄太郎 (1) 千葉北総病院脳神経センター脳神経外科, 2) 多摩永山病院脳神経外科) : 内頸動脈解離性動脈瘤 (blister like aneurysm) に対する治療戦略. 第42回日本脳卒中の外科学会, 2013. 3.
- 63) 村井保夫, 高木 亮¹⁾, 関根鉄朗¹⁾, 水成隆之²⁾, 小林士郎²⁾, 汲田伸一郎¹⁾, 寺本 明 (1) 放射線科, 2) 千葉北総病院脳神経センター脳神経外科) : 4D-flow MRIを用いた脳血流解析による Radial artery graft の評価 : RAGは脳血流に役立っているのか?. 第42回日本脳卒中の外科学会, 2013. 3.
- 64) 梅岡克哉¹⁾, 水成隆之¹⁾, 國保倫子¹⁾, 額綱健太¹⁾, 大村朋子¹⁾, 鈴木雅規¹⁾, 金 景成¹⁾, 村井保夫, 小南修史¹⁾, 小林士郎 (1) 千葉北総病院脳神経センター脳神経外科) : 後下小脳動脈に限局した動脈瘤の発生原因に対する検討. 第42回日本脳卒中の外科学会, 2013. 3.
- 65) 関根鉄朗¹⁾, 高木 亮¹⁾, 天野善雄¹⁾, 村井保夫, 鈴木由里子¹⁾, 汲田伸一郎¹⁾, 寺本 明 (1) 放射線科) : 4D Flow MRIを用いた眼動脈逆行性血流の臨床的評価 : 内頸動脈閉塞例における脳血流 SPECT との比較. 第38回日本脳卒中学会総会, 2013. 3.
- 66) 亦野文宏, 村井保夫, 足立好司¹⁾, 喜多村孝幸, 寺本 明, 大久保誠二²⁾, 片山泰郎²⁾, 関根鉄郎³⁾, 高木 亮³⁾, 汲田伸一郎³⁾ (1) 武蔵小杉病院脳神経外科, 2) 第二内科, 3) 放射線科) : くも膜下出血を伴った可逆性分節性脳血管収縮 (Call Fleming 症候群) の1例. 第38回日本脳卒中学会総会, 2013. 3.

- 67) 中川俊祐¹⁾, 村井保夫, 和田剛志, 展 広智, 立山幸次郎, 喜多村孝幸, 寺本 明, 水成隆之²⁾, 小林士郎²⁾, 吉田陽一³⁾ (1) 武蔵小杉病院脳神経外科, 2) 千葉北総病院脳神経センター脳神経外科, 3) 荏原病院脳神経外科): 橈骨動脈グラフトを用いた多発内頸動脈瘤による頸動脈-海綿静脈洞瘻の治療. 第18回日本脳神経外科救急学会, 2013. 2.
- 68) 亦野文宏, 村井保夫, 足立好司¹⁾, 喜多村孝幸, 寺本 明, 大久保誠二²⁾, 片山泰朗²⁾, 関根鉄郎³⁾, 高木 亮³⁾, 汲田伸一郎³⁾ (1) 武蔵小杉病院脳神経外科, 2) 第二内科, 3) 放射線科): くも膜下出血を伴った可逆性分節性脳血管収縮 (Call Fleming 症候群) の1例. 第18回日本脳神経外科救急学会, 2013. 2.
- 69) 白銀一貴, 玉置智規¹⁾, 野手洋治¹⁾ (1) 多摩永山病院脳神経外科): 頸動脈狭窄症の外科治療. 第42回日本脳卒中の外科学会, 2013. 3.
- 70) 高野幸路¹⁾, 高野順子¹⁾, 田原重志, 寺本 明, 有田和徳²⁾ (1) 東京大学医学部腎臓・内分泌内科, 2) 鹿児島大学脳神経外科): メチロールのクラスター解析でGH産生腺腫が gsp 変異陽性と変異陰性を含む群と変異陰性のみの群の2群に分けられた. 第23回日本間脳下垂体腫瘍学会, 2013. 3.
- 71) 亦野文宏, 村井保夫, 足立好司¹⁾, 白銀一貴, 吉田大蔵, 喜多村孝幸 (1) 武蔵小杉病院脳神経外科): TSH産生腺腫に合併した頭蓋内血管狭窄症の1例. 第23回日本間脳下垂体腫瘍学会, 2013. 3.
- 72) 田原重志, 喜多村孝幸, 石井雄道, 服部裕次郎, 石井直子¹⁾, 井野元智恵²⁾, 長村義之³⁾, 寺本 明, 森田明夫 (1) 山王クリニック, 2) 東海大学医学部基盤診療学系病理診断学, 3) 国際医療福祉大学三田病院病理診断センター): 先端巨大症に対する内視鏡下経鼻的下垂体腫瘍摘出術の治療成績と長期経過: 本邦と欧米における新たな治療基準との比較. 第23回日本間脳下垂体腫瘍学会, 2013. 3.
- 73) 白銀一貴, 吉田大蔵, 寺本 明: 下垂体腺腫におけるNeuropilin-1発現の意義. 第23回日本間脳下垂体腫瘍学会, 2013. 3.
- 74) 石井雄道, 田原重志, 服部裕次郎, 大山健一¹⁾, 寺本 明 (1) 武蔵小杉病院脳神経外科): 経鼻内視鏡手術の現状と未来-1000例を越える手術経験より. 第23回日本間脳下垂体腫瘍学会, 2013. 3.
- 75) 服部裕次郎, 石井雄道, 田原重志, 大山健一¹⁾, 寺本 明 (1) 武蔵小杉病院脳神経外科): 偶発的に見つかったLow GH acromegalyの1例. 第23回日本間脳下垂体腫瘍学会, 2013. 3.
- 76) 田原重志, 石井雄道, 服部裕次郎, 井野元智恵¹⁾, 長村義之²⁾, 寺本 明 (1) 東海大学医学部基盤診療学系病理診断学, 2) 国際医療福祉大学病理診断センター): 先端巨大症に対する内視鏡下経鼻的下垂体腫瘍摘出術の治療成績: 本邦と欧米における新しい治療基準との比較. 厚生労働省難治性疾患克服研究事業 間脳下垂体機能障害に関する調査研究班 平成24年度班会議, 2013. 1.
- 77) 高野幸路¹⁾, 寺本 明, 田原重志, 有田和徳²⁾ (1) 東京大学大学院医学系研究科腎臓・内分泌内科学, 2) 鹿児島大学医歯学総合研究科脳神経外科): 機能性下垂体腺腫の腫瘍発生原因と腫瘍増殖に関与する因子の解析. 厚生労働省難治性疾患克服研究事業 間脳下垂体機能障害に関する調査研究班 平成24年度班会議, 2013. 1.
- 78) 戸田茂樹: 慢性硬膜下血腫 (CSDII) 合併脳脊髄液減少症 (SHI) の頭部CT画像変化. 第36回日本脳神経CI学会総会, 2013. 2.
- 79) 亦野文宏: T1 SPECTにて後期濃染像を認めたMicrocystic meningiomaの1例. 第36回日本脳神経CI学会総会, 2013. 2.
- 80) 森田明夫: 未破脳動脈瘤はどうすべきか?. 第9回永山神経外科研究会, 2013. 3.
- 81) 佐藤 俊: 片頭痛・群発頭痛の非典型例とパルプロ酸の予防効果. 第8回文京ニューロサイエンスフォーラム, 2013. 2.
- 82) 村井保夫: 前交通動脈瘤が接して併発した下垂体腺腫の外科治療. 9th Neurosurgical Video Conference, 2013. 3.
- (7) 平成23年度同窓会医学研究助成金受賞記念講演:
- 1) 村井保夫: 蛍光脳血流解析の基礎的研究. 第80回日本医科大学医学会総会, 2012. 9.

(8) 平成 24 年度奨学賞受賞記念講演：

- 1) 村井保夫：Indocyanine green videoangiography によるモニタリングを併用した撓骨動脈グラフトによる脳動脈瘤手術手技の開発. 第 80 回日本医科大学医学会総会, 2012. 9.

[武蔵小杉病院脳神経外科]

研究概要

武蔵小杉病院脳神経外科は、付属病院・多摩永山病院・千葉北総病院と密接な連携を保ちながら、脳腫瘍・脳血管障害・神経外傷・中枢神経系奇形・機能的脳疾患（神経血管圧迫症候群，パーキンソン病，てんかんなど）・整容的脳神経疾患と、あらゆる脳神経系の外科的治療を行っている。脳腫瘍は悪性の症例が多く、十分な術前神経症状・画像・電気生理学検査による評価を行い、手術に際しては各種モニタリングにより安全確実な摘出をめざしている。術後の放射線化学療法を含む集学的治療を施行し、良好な結果を収めている。脳卒中に対しては、stroke care unit (SCU) が昨年度で休止となったが、神経内科のご協力を仰ぎ、脳血管障害の入院症例数を維持することができている。この場を借りて感謝申し上げる次第である。小児疾患に関しては、脳腫瘍の治療を主体に行っているが、水頭症や中枢神経系奇形に対しても積極的に取り組んでいる。機能的脳疾患は、てんかんやパーキンソン病の手術症例が増加しており、治療成績も向上している。整容脳神経外科は院内のみならず、他県からの紹介例が増えてきており、良好な治療成績を達成している。基礎的領域では、分子生物学的手法を用いた脳腫瘍のサイトカインによる治療機構の解析、免疫療法の神経疾患に対する臨床応用研究、ビデオ脳波モニタリングを用いたてんかん発症様式の解析、新規抗てんかん薬の治療効果解析などのテーマで研究を進めている。また、医学教育にも積極的に取り組み、学生の技能・知識の到達度評価、新しい教育手法の研究、実践を行っている。

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) 大山健一，田原重志¹⁾，足立好司，亦野文宏¹⁾，山田 明，太組一朗，高橋 弘²⁾，寺本 明¹⁾ (¹⁾ 付属病院脳神経外科， ²⁾ 春日居サイバーナイフ・リハビリ病院)：蝶形骨洞内異所性髄膜腫の 1 例. CI 研究 2012；33 (3・4)：181-185.
- 2) 太組一朗，廣中浩平，山田 明，足立好司，酒井行直¹⁾，春原沙織¹⁾，田島廣之²⁾，饒波正博³⁾，吉田大蔵⁴⁾，寺本 明⁴⁾ (¹⁾ 武蔵小杉病院内科， ²⁾ 武蔵小杉病院放射線科， ³⁾ 沖縄赤十字病院脳神経外科， ⁴⁾ 付属病院脳神経外科)：結節性硬化症の成人症例：難治てんかんと腎機能障害. 日医大医会誌 2012；8 (4)：234-235.
- 3) 太組一朗：全身けいれん発作を起こした患者にはどう対処したらよいでしょうか？：(特集) てんかんの診断と連携—プライマリ・ケア医に求められるてんかん診療. 治療 2012；94 (10)：1755-1757.
- 4) 浦 裕之¹⁾，太組一朗 (¹⁾ 東邦大学)：第 3 節 抗利尿ホルモン不適合分泌症候群 (SIADH)，水中毒第 5 章抗てんかん治療薬の副作用の疫学データと発現機序，診断・治療の現状. 副作用軽減化 新薬開発 2012；368-371.
- 5) 川上康彦¹⁾，太組一朗，山崎峰雄²⁾，長谷川大輔³⁾ (¹⁾ 多摩永山病院小児科， ²⁾ 付属病院神経内科， ³⁾ 日本獣医生命科学大学獣医放射線学教室)：日本医科大学てんかん診療の歴史・現況・そして未来「日本医科大学包括てんかん診療ミーティング」結成報告. 日医大医会誌 2013；9 (1)：33-34.
- 6) Takumi I, Mishina M¹⁾, Hironaka K, Ooyama K, Yamada A, Adachi, Hamamoto M²⁾, Kitamura S²⁾, Yoshida D³⁾, Teramoto A⁴⁾ (¹⁾ 付属病院神経内科， ²⁾ 武蔵小杉病院神経内科， ³⁾ 付属病院脳神経外科， ⁴⁾ 東京労災病院脳神経外科)：Simple Solution for Cerebrospinal Fluid Loss and Brain Shift in Semi-supine-positioned Multitrack Deep Brain Stimulation Surgery：Polyethylene Glycol Hydrogel Dural Sealant Capping. Neurol Med Chir 2013；53 (1)：1-6.

- 7) Ura H¹⁾, Sugaya Y²⁾, Ohata H³⁾, Takumi I, Sadamoto K¹⁾, Shibasaki T³⁾, Maru E³⁾ (1) Department of Clinical Sciences, Faculty of Pharmaceutical Sciences, Toho University, 2) Department of Psychiatry, University of Tokyo, 3) Department of Physiology, Nippon Medical School) : Vagus nerve stimulation induced long-lasting enhancement of synaptic transmission and decreased granule cell discharge in the hippocampal dentate gyrus of urethane-anesthetized rats. *Brain Res* 2013 ; 1492 : 63-71.
- 8) 足立好司 : Current Organ Topics : Central Nervous System Tumor 脳腫瘍 中枢神経系原発悪性リンパ腫 IV. 中枢神経系原発悪性リンパ腫の画像診断. 癌と化学療法 2012 ; 39 (6) : 906-909.
- 9) 足立好司 : 臨床医学の展望 2012 脳神経外科学 悪性脳腫瘍の化学療法の現況. 日本医事新報 2012 ; 4580 : 42-42.
- 10) Adachi K, Yoshimura A¹⁾, Aso R¹⁾, Miyashita T^{1, 2)}, Yoshida D³⁾, Teramoto A³⁾, Shimura T¹⁾ (1) Academic Quality and Development Office, Nippon Medical School, 2) Department of Radiology, Nippon Medical School, 3) Department of Neurosurgery, Nippon Medical School) : Clinical Clerkship Course for Medical Students on Lumbar Puncture Using Simulators. *J Nippon Med Sch* 2012 ; 79 (6) : 430-437.
- 11) Yoshimura A^{1, 2)}, Kosai H^{2, 3)}, Morimoto T²⁾, Kim C^{3, 4)}, Tsueshita T^{3, 4)}, Adachi K, Aso R^{1, 3)}, Shimura T^{1, 3)}, Nakano H^{5, 6)}, Gemm A²⁾ (1) Academic Quality and Development Office, Nippon Medical School, 2) Division of Pulmonary Medicine, Infectious Diseases and Oncology, Department of Internal Medicine, Nippon Medical School, 3) Working Committee of Clinical Simulation Laboratory, Nippon Medical School, 4) Department of Anesthesiology, Nippon Medical School, 5) Training Center for Medical Interns, Nippon Medical School Hospital 7 Division of Geriatrics, Department of Internal Medicine, Nippon Medi, 6) Division of Geriatrics, Department of Internal Medicine, Nippon Medical School) : An Effective Training Program for Chest Tube Drainage for Medical Interns in a Clinical Simulation Laboratory. *J Nippon Med Sch* 2012 ; 79 (6) : 403-408.
- (2) 症例報告 :
- 1) Adachi K, Murai Y¹⁾, Teramoto A²⁾ (1) Department of Neurosurgery, Nippon Medical School, 2) Department of Neurosurgery, Tokyo Rosai Hospital) : Infantile Cerebellar Pilocytic Astrocytoma with Autism Spectrum Disorder. *J Nippon Med Sch* 2012 ; 79 (3) : 228-231.
- 2) Adachi K, Ishii N¹⁾, Takahashi H²⁾, Teramoto A³⁾ (1) Sanno Clinic, 2) Department of Neurosurgery, Kasugai Rehabilitation Hospital, 3) Department of Neurosurgery, Graduate School of Medicine, Nippon Medical School) : Congenital Dermoid Cyst at the Anterior Fontanelle : Neuroimaging before and after Fontanelle Closure. *J Nippon Med Sch* 2012 ; 79 (4) : 291-295.
- 3) Adachi K, Hironaka K, Suzuki H, Oharazawa H : Isolated trochlear nerve palsy with perimesencephalic subarachnoid haemorrhage. *BMJ Case Reports* 2012 ; 2012.006175 : Epub.

著 書

- 1) 大山健一 : [分担] 拡大経蝶形骨手術 : 巨大下垂体腺腫. NS NOW No.19 下垂体外科 Update (寺本 明), 2012 : pp102-112, メジカルビュー社.
- 2) 浦 裕之¹⁾, 太組 一朗 (1) 東邦大学薬学部臨床病態学研究室) : [分担] 第3節 抗利尿ホルモン不適合分泌症候群 (SIADH), 水中毒第5章 抗てんかん治療薬の副作用の疫学データと発現機序, 診断・治療の現状. 副作用軽減化 新薬開発, 2012 ; pp368-371, 技術情報協会.
- 3) 浦 裕之¹⁾, 太組 一朗 (1) 東邦大学薬学部臨床病態学研究室) : [分担] 第4節 視覚異常, 視調節障害第5章 抗てんかん治療薬の副作用の疫学データと発現機序, 診断・治療の現状. 副作用軽減化 新薬開発, 2012 ; pp372-375, 技術情報協会.

- 4) 太組一朗：〔編集〕てんかんの治療法（特集・てんかんの治療法）．月刊 波（太組一朗），2012；pp355-355，日本てんかん協会．
- 5) 太組一朗：〔編集〕手術でなおす（特集・てんかんの治療法）．月刊 波（太組一朗），2012；pp362-365，日本てんかん協会．
- 6) 太組一朗：〔分担〕国際てんかん協会（IBE）訪問記．月刊 波，2012；pp280-281，日本てんかん協会．
- 7) Takumi I：〔分担〕Spreading the world!：International Epilepsy News (Neweletter of the international bureau for epilepsy)．Issue2, 2012, Stillorgan, Ireland., 2012；p17.
- 8) 太組一朗，野手洋治¹⁾（¹ 多摩永山病院脳神経外科）：〔分担〕減圧開頭後の頭蓋形成術．頭蓋顔面骨の骨固定基本とバリエーション 脳神経外科医・形成外科医のための 1st step（小室祐造 新井一 平林慎一），2013；pp115-119，克誠堂出版．
- 9) 太組一朗，野手洋治¹⁾（¹ 多摩永山病院脳神経外科）：〔分担〕頭皮の消毒，頭髮の処理．頭蓋顔面骨の骨固定基本とバリエーション 脳神経外科医・形成外科医のための 1st step（小室祐造 新井一 平林慎一），2013；pp210-210，克誠堂出版．
- 10) 太組一朗，野手洋治¹⁾（¹ 多摩永山病院脳神経外科）：〔分担〕パーホルの処理．頭蓋顔面骨の骨固定基本とバリエーション 脳神経外科医・形成外科医のための 1st step（小室祐造 新井一 平林慎一），2013；pp212-212，克誠堂出版．

学会発表

〔追加分〕

追加分一般講演：

- 1) 足立好司，展 広智，大山健一，山田 明，太組一朗，勝俣範之¹⁾（¹ 武蔵小杉病院腫瘍内科）：急激な視力障害で発症した副鼻腔峰巣型横紋筋肉腫．京浜脳神経外科懇話会（第 18 回）（川崎市），2013. 7.

(1) シンポジウム：

- 1) 太組一朗，寺本 明¹⁾（¹ 東京労災病院脳神経外科）：新しいてんかん治療 新規抗てんかん薬・難治性てんかんの外科治療・てんかんネットワーク．日本救急医学会学術総会（第 40 回）日本救急医学会・日本てんかん学会合同シンポジウム（京都市），2012. 11.
- 2) Sanjo, Nakamura Y, Kitamoto, Yamada M, Hamaguchi T, Moriwaki, Aoki, Kuroiwa Y, Nishizawa, Takeda M, Inuzuka T, Abe K, Murai H, Murayama, Takumi I, et al.：Human prion diseases in Japan：a prospective surveillance from 1999. Asian Pacific Prion Symposium 2012 (APPS2012)（横浜市），2012. 7.
- 3) Sakai K, Hamaguchi T, Noguchi-Shinohara, Nozaki, Sato T, Takumi I, Sanjo N, Nakamura Y, Kitamoto T, Saito N, Mizusawa H, Yamada：Prion protein propagation in dura mater graft-associated Creutzfeldt-Jakob disease. Asian Pacific Prion Symposium 2012 (APPS2012)（横浜市），2012. 7.
- 4) 太組一朗，三品雅洋¹⁾，廣中浩平，大山健一，山田 明，足立好司，濱本 真²⁾，北村 伸²⁾，吉田大蔵³⁾，森田明夫³⁾，寺本 明^{3, 4)}（¹ 付属病院神経内科，²⁾ 武蔵小杉病院神経内科，³⁾ 付属病院脳神経外科，⁴⁾ 東京労災病院脳神経外科）：DBS—精度を高める工夫とその成果—DBS 手術における PEG キャッピング法：術中脳脊髄液漏出防止により頭蓋内への空気侵入を防ぐ．日本定位・機能脳神経外科学会（第 52 回）（岡山市），2013. 1.

(2) セミナー：

- 1) 太組一朗：最近のニューロモデュレーション：外科医から見たパーキンソン病治療を中心に．汐田病院セミナー（神奈川県川崎市），2012. 11.
- 2) 太組一朗：大人のとんかん：成人てんかん診療を担当する外科医の立場から．日本てんかん協会神奈川県支部平成 24 年度てんかん市民講座（第 2 回）（神奈川県横浜市），2012. 10.

- 3) 太組一朗：てんかん診療のエッセンス：日常てんかん診療のコツと専門医紹介のタイミング. 湘南西部 Epilepsy Forum (東海大学脳神経外科講演会) (神奈川県厚木市), 2012. 9.
 - 4) 太組一朗：脳神経外科医から見た成人てんかん診療. てんかんを考える会 (第2回) (横浜市大精神科てんかん診療グループ講演会) (神奈川県横浜市), 2012. 8.
 - 5) 太組一朗：脳神経外科医の役割・最新のてんかん外科. 日本医師会生涯教育協力講セミナー『てんかんの診断から最新の治療まで』(神奈川県横浜市), 2012. 7.
 - 6) 太組一朗：脳神経外科医にとっての日常てんかん診療. 第2回阪神てんかんフォーラム (第2回) (大阪府大阪市), 2012. 7.
 - 7) 太組一朗：成人てんかん診療のコツ：診断・薬剤選択・手術適応. Epilepsy Management Meeting (大分県大分市), 2012. 7.
 - 8) 太組一朗：変革するてんかん医療：新規抗てんかん薬・QOL・てんかん外科. Epilepsy Management Meeting (沖縄県那覇市), 2012. 6.
 - 9) 太組一朗：側頭葉てんかんに対し薬物治療が奏功した症例 (症例提示). 脳神経外科専門医のためのてんかん治療フォーラム：専門的てんかん治療に向けての第一歩 (第3回) (東京都新宿区), 2013. 3.
 - 10) 太組一朗：外科医から見た成人てんかん診療：治療方針を見誤らないために. 君津地域てんかん研究会 (千葉県君津市), 2013. 3.
 - 11) 太組一朗：成人てんかんの診断と外科治療. 関東神経生理検査技術研究会主催日曜講習会 (第47回) (東京都文京区), 2013. 3.
 - 12) 太組一朗：外科医から見たてんかん診断：治療方針を見誤らないために. 市川てんかんカンファレンス (千葉県市川市), 2013. 3.
- (3) 一般講演：
- 1) 展 広智, 山口文雄¹⁾, 樋口直司¹⁾, 國保倫子¹⁾, 石井雄道¹⁾, 喜多村孝幸¹⁾, 寺本 明²⁾ (1) 付属病院脳神経外科, ²⁾ 東京労災病院脳神経外科)：症候性てんかんを伴う脳腫瘍に対する治療の試み：摘出術における MST の併用 Treatment of the symptomatic epilepsy in brain tumor patients; the role of MST intumor resection. 日本脳神経外科学会学術総会 (第72回) (大阪市), 2012. 10.
 - 2) 展 広智, 太組一朗, 山田 明, 足立好司, 饒波正博¹⁾, 寺本 明²⁾ (1) 沖縄赤十字病院脳神経外科, ²⁾ 東京労災病院脳神経外科)：難治性複雑部分発作を呈する側頭葉腫瘍の一手術例 Successful surgical treatment of intractable temporal lobe epilepsy with brain tumor: a case report. 日本脳神経外科学会関東支部学術集会 (第119回) (大宮市), 2012. 12.
 - 3) 太組一朗, 廣中浩平, 山田 明, 足立好司, 寺尾 健¹⁾, 寺本 明²⁾, 百東比古³⁾, 秋元正宇⁴⁾ (1) 谷津保健病院脳神経外科, ²⁾ 東京労災病院脳神経外科, ³⁾ 付属病院形成外科, ⁴⁾ 千葉北総病院形成外科)：外後頭隆起の突出による頭痛に対し切除手術が著効した2例. 日本頭蓋顎顔面外科学会総会 (第30回) (大阪市), 2012. 11.
 - 4) 太組一朗, 秋元正宇¹⁾, 寺本 明²⁾ (1) 千葉北総病院形成外科, ²⁾ 付属病院脳神経外科, ³⁾ 東京労災病院脳神経外科)：整容を考慮した頭蓋形成術における新しい固定法の工夫：吸収性プレートヒンジ型加工とハイドロキシアパタイトセメントによるハイブリッド法. 日本脳神経外科学会学術総会 (第71回) (大阪市), 2012. 8.
 - 5) 太組一朗, 饒波正博¹⁾, 嘉手川淳¹⁾, 寺本 明²⁾ (1) 沖縄赤十字病院脳神経外科, ²⁾ 付属病院脳神経外科, ³⁾ 東京労災病院脳神経外科)：成人てんかん外来診療における JME. 日本てんかん学会学術総会 (第46回) (東京都千代田区), 2012. 10.
 - 6) 饒波正博¹⁾, 嘉手川淳¹⁾, 太組一朗 (1) 沖縄赤十字病院脳神経外科)：無てんかん手術地域におけるてんかん手術の決定について：誰が勧め, 決定し, 術後治療しているのか. 日本てんかん学会学術総会 (第46回) (東京都千代田区), 2012. 10.
 - 7) 太組一朗, 展 広智, 山田 明, 足立好司, 饒波正博¹⁾, 寺本 明²⁾ (1) 沖縄赤十字病院脳神経外, ²⁾ 付属病

- 院脳神経外科, ³⁾ 東京労災病院脳神経外科) : 皮質病変を伴う側頭葉てんかんの一手術症例 : 慢性頭蓋内電極留置による言語野マッピング. 神奈川てんかん懇話会 (第70回) (神奈川県横浜市), 2012. 7.
- 8) 太組一朗 : 皮質病変を伴う側頭葉てんかんの手術症例 : 慢性頭蓋内電極留置による発作記録と言語野マッピング. 日本医科大学包括てんかん診療ミーティング (第1回) (東京都文京区), 2012. 6.
- 9) 太組一朗 : てんかんの治療. あさつての勉強会 (第2回) (東京都新宿区), 2012. 12.
- 10) 太組一朗 : 第1部 iV. 薬物療法 (post newAED era). Tokyo Metropolitan Epilepsy Seminar (東京都千代田区), 2012. 8.
- 11) Masahiro N¹⁾, Ichiro T, Jun K¹⁾, Akira T^{2,3)}, Eiichi T¹⁾ (¹⁾ 沖縄赤十字病院脳神経外科, ²⁾ 付属病院脳神経外科, ³⁾ 東京労災病院脳神経外科) : The establishment of professional epilepsy practice where there is no full-time epilepsy specialist in the Okinawa island area - Our experience of Kariyushi Epilepsy Project in the past 3 years. Annual Meeting of American Epilepsy Society (66th) (San Diego (USA)), 2012. 12.
- 12) Ichiro T, Masahiro N¹⁾, Jun K¹⁾, Akira T^{2,3)} (¹⁾ 沖縄赤十字病院脳神経外科, ²⁾ 付属病院脳神経外科, ³⁾ 東京労災病院脳神経外科) : Misdiagnosed JME : a Japan-oriented current problem in adult-epilepsy outpatient. Annual Meeting of American Epilepsy Society (66th) (San Diego (USA)), 2012. 12.
- 13) Ichiro T, Masahiro N¹⁾, Kohei H, Kenichi O, Akira Y, Koji A, Makoto H²⁾, Shin K²⁾, Daizo Y³⁾, Akira T^{3,4)} (¹⁾ 付属病院内科, ²⁾ 武蔵小杉病院内科, ³⁾ 付属病院脳神経外科, ⁴⁾ 東京労災病院) : Simple solution for cerebrospinal fluid loss and brain shift in semi-supine-positioned multitrack deep brain stimulation surgery : Polyethylene glycol hydrogel dural sealant capping.. The Movement Disorder Society's 16th International Congress of Parkinson's Disease and Movement Disorders (Dublin, Ireland), 2012. 6.
- 14) Sakai K, Hamaguchi T, Moeko Noguchi-Shinohara M, Nozaki I, Sato T, Takumi I, Sanjo N, Nakamura Y, Kitamoto T, Saito N, Mizusawa H, Yamada M : Prion protein propagation in dura mater graft-associated Creutzfeldt-Jakob disease. PRION2012 (アムステルダム (オランダ)), 2012. 5.
- 15) 日高可奈子¹⁾, 足立好司, 高橋 弘²⁾ (¹⁾ 武蔵小杉病院言語療法室, ²⁾ 春日居サイバーナイフ・リハビリ病院) : 脳腫瘍患者における高次脳機能障害. 意識障害学会 (第21回) (河口湖町 (山梨県)), 2012. 7.
- 16) 高山幸芳 : 慢性硬膜下血腫の認知機能障害 : その特徴と評価法. 日本意識障害学会 (第21回) (河口湖町 (山梨県)), 2012. 7.
- 17) 中川俊祐, 村井保夫¹⁾ (¹⁾ 付属病院脳神経外科) : 橈骨動脈グラフトを用いた多発内頸動脈瘤による頸動脈-海綿静脈洞瘻の治療 : 4D-flow MRI 脳血流解析を含めて. 日本脳神経外科救急学会 (第18回) (弘前市), 2013. 2.
- 18) 立山幸次郎, 樋口直司¹⁾, 森田明夫¹⁾ (¹⁾ 付属病院脳神経外科) : Pterional approach と Anterior interhemispheric approach を一期的に行い, 術後静脈梗塞をきたした1例. 日本脳卒中学会総会 (第38回) (東京), 2013. 3.
- 19) 額健太¹⁾, 水成隆之¹⁾, 岩本直高¹⁾, 立山幸次郎, 村井保夫²⁾, 小林士郎¹⁾ (¹⁾ 千葉北総病院脳神経センター脳神経外科, ²⁾ 付属病院脳神経外科) : 当施設の脳底動脈本幹部動脈瘤に対する治療経験. 日本脳卒中学会総会 (第38回) (東京), 2013. 3.
- 20) 足立好司, 大山健一, 寺本 明¹⁾, 北山康彦²⁾, 勝保範之³⁾, 吉田朗彦⁴⁾ (¹⁾ 東京労災病院脳神経外科, ²⁾ 武蔵小杉病院病理部, ³⁾ 武蔵小杉病院腫瘍内科) : 視力障害で発症した成人蝶形骨洞横紋筋肉腫の1手術例. 日本脳腫瘍病理解学会 (第30回) (名古屋市), 2012. 5.
- 21) 太組一朗, 山田 明, 展 広智, 足立好司, 寺本 明¹⁾ (¹⁾ 東京労災病院脳神経外科) : 神奈川県脳神経外科施設におけるプリオン病対策 : アンケート調査の結果から. 神奈川脳神経外科手術手技研究会 (第18回) (横浜市), 2013. 1.
- 22) 足立好司, 太組一朗, 立山幸次郎, 展 広智 : 悪性脳腫瘍に対するギリアデルの使用経験. 脳腫瘍カンファレンス (東京), 2013. 3.

- 23) 太組一朗, 川上康彦¹⁾, 森田明夫²⁾ (1) 多摩永山病院小児科, 2) 付属病院脳神経外科): 実績報告と協議会への期待. 国立てんかん外科ネットワーク会議(全国てんかんセンターネットワーク協議会設立準備会)(第14回)(東京都港区), 2013. 2.
- 24) 太組一朗, 饒波正博¹⁾, 嘉手川淳¹⁾, 森田明夫²⁾, 寺本 明^{2,3)} (1) 沖繩赤十字病院脳神経外科, 2) 付属病院脳神経外科, 3) 東京労災病院脳神経外科): 若年性ミオクロニーてんかん: 脳神経外科医の功罪. 日本てんかん外科学会(第36回)(岡山市), 2013. 1.
- 25) 太組一朗, 山田 明, 展 広智, 足立好司, 森田明夫¹⁾, 寺本 明^{1,2)} (1) 付属病院脳神経外科, 2) 東京労災病院脳神経外科): 神奈川県脳神経外科施設におけるプリオン病対策: アンケート調査の結果から. 神奈川脳神経外科手術手技研究会(第18回)(横浜市), 2013. 1.
- 26) 中川俊祐, 村井保夫¹⁾, 和田剛志¹⁾, 展 広智¹⁾, 立山幸次郎, 喜多村孝幸¹⁾, 寺本 明²⁾, 水成隆之³⁾, 小林士郎³⁾, 吉田陽一⁴⁾ (1) 付属病院脳神経外科, 2) 東京労災病院脳神経外科, 3) 千葉北総病院脳神経センター脳神経外科, 4) 東京都保険医療公社荏原病院脳神経外科): 多発内頸動脈瘤による頸動脈-海綿静脈洞瘻の橈骨動脈グラフトを用いた外科的治療. 日本脳卒中学会総会第(第38回)(東京), 2013. 3.
- 27) Adachi K, Hiroshi T¹⁾, Akira T²⁾ (1) 春日居サイバーナイフ・リハビリ病院, 2) 東京労災病院脳神経外科): MR characteristics and hormonal environment in neurohypophyseal germinoma. Deutsche Gesellschaft für Neurochirurgie (Leipzig, Germany), 2012. 6.

[多摩永山病院脳神経外科]

研究概要

日本医科大学多摩永山病院脳神経外科は日本脳神経外科学会専門医訓練施設および日本脳卒中学会総会専門医訓練施設として、教育・研究・診療を付属病院脳神経外科学教室と共同で行っている。また、神経生理学・分子神経病理学などの幅広いニューロサイエンスの手法を用いて研究を行っている。1. 脳腫瘍(特に良性腫瘍)の手術、とりわけ脳深部の腫瘍(頭蓋底手術)に対し、最小限の侵襲(minimally invasive surgery)にて、合併症を最小限に止めるべく手術法の開発、モニタリングの改良を行なっている。2. 虚血性脳血管障害に対し、頸動脈内膜剥離術、頭蓋内外バイパス術の更なる技術向上にて、当該疾患に対する良好な成績を治めている。3. 脊髄および脊髄疾患に対し、低侵襲手術にて患者様の予後向上に努めている。4. 脳血栓症に対する抗血小板剤の有効な使用方法(薬剤モニタリング)について、血小板活性化に関する基礎的研究を行なっている。5. 悪性脳腫瘍に対して、手術・放射線療法に加えて独自の化学療法・免疫療法・遺伝子治療等、集学的治療を行っている。SPECTによる核医学的研究および臨床神経病理学的研究を行っている。6. 脳下垂体腫瘍に対して手術のみならず臨床内分泌学的研究を行っている。頭部外傷症例とくに高齢者頭部外傷において脳血流評価を上記各種手法にて行い、高次機能障害・長期予後予測因子の解明を行っている。7. 脳下垂体腫瘍の臨床内分泌学的研究を行っている。頭部外傷症例とくに高齢者頭部外傷において脳血流評価を上記各種手法にて行い、高次機能障害・長期予後予測因子の解明を行っている。8. 頭痛・三叉神経痛・顔面痙攣に対しても内服治療および手術治療にて、良好な成績を取っている。

研究業績

論文

(1) 原著:

- 1) 玉置智規, 野手洋治, 寺本 明¹⁾ (1) 付属病院脳神経外科): 橋, 延髄海綿状血管腫 5 例の直達手術. 脳卒中の外科 2012; 40 (3): 154-158.

(2) その他・ビデオ:

- 1) 玉置智規: 頸動脈内膜剥離術における嘔声について. VIDEO JOURNAL of Japan Neurosurgery 2012; 19(3).

学会発表

[追加分]

追加分一般講演：

- 1) 玉置智規, 野手洋治：脳腫瘍術後てんかんにレベチラセタムが有効であった1例. 第1回多摩てんかん懇話会(東京), 2011. 12.

(1) シンポジウム：

- 1) 玉置智規, 野手洋治, 斎藤寛浩¹⁾, 梅岡克哉²⁾, 水成 隆之²⁾ (1) 旭川赤十字病院脳神経外科, 2) 付属病院脳神経外科)：CEA 前後の eGFR, 尿蛋白及び造影剤を使用しない CEA. 日本頸部脳血管治療学会 (第 11 回) (名古屋), 2012. 6.

(2) 一般講演：

- 1) Tamaki T, Node Y, Saito N¹⁾ (1) Department of Neurosurgery, Asahikawa Red Cross Hospital)：Perioperative Renal Function in Carotid Endarterectomy Patients. 9th ASIAN CONGRESS of NEUROLOGICAL SURGEONS (Istanbul/Turkey), 2012. 9.
- 2) Tamaki T, Node Y, Saito N¹⁾, Saegusa H²⁾, Teramoto A³⁾ (1) Department of Neurosurgery, Asahikawa Red Cross Hospital, 2) Department of Otolaryngology, Nippon Medical School, 3) Department of Neurosurgery, Nippon Medical School)：Hoarseness after carotid endarterectomy. 9th ASIAN CONGRESS of NEUROLOGICAL SURGEONS (Istanbul/Turkey), 2012. 9.
- 3) 玉置智規, 野手洋治, 寺本 明¹⁾ (1) 付属病院脳神経外科)：脳内出血における血流依存性血管拡張反応と末梢動脈脈波速度. 日本脳卒中学会総会 (第 37 回) (福岡), 2012. 4.
- 4) 玉置智規, 斎藤寛浩¹⁾, 三枝英人²⁾, 梅岡克哉³⁾, 立山幸次郎³⁾, 山崎道生, 水成隆之³⁾, 野手洋治, 寺本 明³⁾ (1) 旭川赤十字病院脳神経外科, 2) 付属病院耳鼻咽喉科, 3) 付属病院脳神経外科)：CEA 術後嘔声回避への工夫. 日本脳卒中の外科学会 (第 41 回) (福岡), 2012. 4.
- 5) 玉置智規, 野手洋治, 久保田稔¹⁾, 水成隆之²⁾ (1) 多摩永山病院中央検査室, 2) 付属病院脳神経外科)：CEA における迷走神経刺激装置の使用経験. 日本頸部脳血管治療学会 (第 11 回) (名古屋), 2012. 6.
- 6) 木暮一成, 井須豊彦¹⁾, 野手洋治, 寺本 明²⁾ (1) 釧路労災病院脳神経外科, 2) 付属病院脳神経外科)：変形性腰椎症の手術時期と自然経過. 日本脊椎外科学会 (第 27 回) (千葉), 2012. 6.
- 7) 木暮一成, 井須豊彦¹⁾, 野手洋治, 寺本 明²⁾ (1) 釧路労災病院脳神経外科, 2) 付属病院脳神経外科)：当科における前方除圧固定術の術式選択. 日本脊椎外科学会 (第 27 回) (千葉), 2012. 6.
- 8) 山崎道生, 木暮一成, 玉置智規, 野手洋治：放射線治療後に発症した神経膠腫の 2 例. 日本脳神経外科学会関東支部学術集会 (第 118 回) (東京), 2012. 9.
- 9) 木暮一成, 井須豊彦¹⁾, 野手洋治, 寺本 明²⁾ (1) 釧路労災病院脳神経外科, 2) 付属病院脳神経外科)：頸椎症, 腰椎症の手術時期と自然経過：特に外側椎間板障害と自然経過に着目して. 日本脳神経外科学会学術総会 (第 71 回) (大阪), 2012. 10.
- 10) 玉置智規, 三枝英人¹⁾, 野手洋治, 斎藤寛浩²⁾, 梅岡克哉³⁾, 水成隆之³⁾ (1) 付属病院耳鼻咽喉科, 2) 旭川赤十字病院脳神経外科, 3) 付属病院脳神経外科)：CEA による声帯麻痺回避への工夫発声が必要な職業の症例は CEA を避けるべきか?. 日本脳神経外科学会学術総会 (第 71 回) (大阪), 2012. 10.
- 11) 玉置智規, 斎藤寛浩¹⁾, 梅岡克哉²⁾, 水成隆之²⁾, 野手洋治, 寺本 明²⁾ (1) 旭川赤十字病院脳神経外科, 2) 付属病院脳神経外科)：CEA 中内頸動脈から back flow が得られなかった 2 症例. 日本脳卒中の外科学会 (第 41 回) (福岡), 2012. 4.
- 12) 野手洋治, 玉置智規, 木暮一成, 山崎道生：駅構内プラットホーム事故の臨床的研究. 日本脳神経外科学会学術総会 (第 71 回) (大阪), 2012. 10.

- 13) 山崎道生, 木暮一成, 玉置智規, 野手洋治:放射線治療後に発生した神経膠腫の2例. 日本脳神経外科学会学術総会(第71回)(大阪), 2012. 10.
- 14) 野手洋治, 玉置智規, 木暮一成, 山崎道生:「駅構内プラットホームでの事故”Platform Accident”の臨床的検討. 永山神経外科研究会(第8回)(東京), 2012. 7.
- 15) 玉置智規, 野手洋治:脳血栓患者の血流依存性血管拡張反応(FMD)の経時変化. 日本脳卒中学会総会(第38回)(東京), 2013. 3.
- 16) 玉置智規, 三枝英人¹⁾, 野手洋治, 斎藤寛浩²⁾, 梅岡克哉³⁾, 水成隆之³⁾ (1) 付属病院耳鼻咽喉科, 2) 旭川赤十字病院脳神経外科, 3) 付属病院脳神経外科):CEA後嗚声回避の工夫:神経保護と術後創部血腫予防の手技. 日本脳卒中の外科学会(第42回)(東京), 2013. 3.
- 17) 玉置智規, 野手洋治, 斎藤寛浩¹⁾, 梅岡克哉²⁾, 水成隆之²⁾ (1) 旭川赤十字病院脳神経外科, 2) 付属病院脳神経外科):CEA前後のeGFR, 尿蛋白の変動及び造影剤を使用しないCEA. 日本脳卒中の外科学会(第42回)(東京), 2013. 3.
- 18) 玉置智規:当院におけるCEAの現状. 永山神経外科研究会(第9回)(東京), 2013. 3.
- 19) 木暮一成:当科における頸椎前方固定術の歴史的変遷. 永山神経外科研究会(第9回)(東京), 2013. 3.

[千葉北総病院脳神経外科]

研究概要

開院19年目を迎えた千葉北総病院脳神経外科は、付属病院脳神経外科と綿密な関係を保ちながら、脳血管障害、頭部外傷、脳腫瘍、脳代謝、脳血管内手術、脊髄脊椎外科、機能的脳神経外科、日本脳卒中協会千葉県支部を中心とした臨床および基礎的研究を行った。①脳血管障害:内頸動脈病変に対するRAグラフト術における合併症回避の方法を発表した。又、脳底動脈本幹部動脈瘤治療の現状を述べた。②頭部外傷:ゴルフカートに関係する頭部外傷例の継続研究を行った。上位胸髄損傷後、発見が遅れた不安定下位胸椎骨折例の検討を行った。外科的手術を用いた外傷性脳血管障害の長期予後を論じた。③脳腫瘍:テモゾロマイド長期投与例の報告を行った。転移性脳腫瘍MRIにおけるT1緩和時間と造影効果について詳細に検討した。④脳代謝:ヒト被殻におけるアデノシンA1及びA2Aレセプターの加齢変化を「Synapse」に誌上発表した。⑤脳血管内治療:Wake-up ischemic strokeに対するMerci Retrieverの応用の可能性を「脳卒中」に誌上発表した。ガンマナイフ治療との組み合わせを前提とした脳動静脈奇形の塞栓術に対し検討を加えた。海綿静脈洞部硬動静脈瘻の塞栓術を発表した。⑥脊髄脊椎外科:腰痛を呈する拘扼性上殿皮神経障害に対する新しい手術法を開発した。頸椎前方手術法の手術選択基準に関する検討を加えた。⑦機能的脳神経外科:三叉神経痛と舌咽神経痛の外科治療を発表した。石灰化椎骨動脈が責任血管であった三叉神経痛を報告した。⑧日本脳卒中協会千葉県支部:脳卒中急性期のstroke bypassを構築する目的で、脳卒中急性期病院、行政、救急隊員に呼びかけて設立した千葉県脳卒中急性期医療協議会も継続して開催した。脳卒中対策基本法を早期実現するための署名活動を積極的に実施した。

研究業績

論文

[追加分]

追加分原著:

- 1) Kominami S, Watanabe A¹⁾, Suzuki M, Mizunari T, Kobayashi S, Teramoto A²⁾ (1) Department of Neuropathology, Faculty of Medicine, University of Tokyo, 2) Department of Neurosurgery, Graduate School of Medicine, Nippon Medical School): Preoperative embolization of meningiomas with N-butyl cyanoacrylate. Interv Neuroradiol 2012; 18 (2): 133-139.

- 2) Murai Y¹⁾, Mizunari T, Umeoka K, Tateyama K¹⁾, Kobayashi S, Teramoto A¹⁾ (1) Department of Neurosurgery, Nippon Medical School) : Ischemic complications after radial artery grafting and aneurysmal trapping for ruptured internal carotid artery anterior wall aneurysm. *World Neurosurg* 2012 ; 77 (1) : 166-171.
- 3) Kim K^{1, 2)}, Isu T³⁾, Morimoto D⁴⁾, Sugawara A⁵⁾, Kobayashi S^{1, 2)}, Teramoto A^{2, 5)} (1) Department of Neurosurgery, Nippon Medical School Chiba Hokusoh Hospital, 2) Department of Neurosurgery, Graduate School of Medicine, Nippon Medical School, 3) Department of Neurosurgery, Kushiro Rosai Hospital, 4) Department of Neurosurgery, Iwate Medical University, 5) Department of Neurosurgery, Nippon Medical School) : Cervical anterior fusion with the Williams-Isu method : clinical review. *J Nihon Med Sch* 2012 ; 79 (1) : 37-45.
- 4) Kominami S, Watanabe A¹⁾, Akimoto M²⁾, Kobayashi S, Teramoto A³⁾ (1) Department of Neuropathology, Faculty of Medicine, University of Tokyo, 2) Department of Radiation Oncology and Image-applied Therapy, Graduate School of Medicine, 3) Department of Neurosurgery, Nippon Medical School) : Superficial temporal arteriovenous fistula as a complication of rhytidectomy. *J Craniofac Surg* 2012 ; 23 (2) : 603-605.

追加分症例報告 :

- 1) Umeoka K, Shirokane K, Mizunari T, Kobayashi S, Teramoto A¹⁾ (1) Department of Neurosurgery, Nippon Medical School) : Dissecting aneurysm of the anterior temporal artery. *Neurol Med Chir (Tokyo)* 2011 ; 51 (11) : 777-780.

(1) 原著 :

- 1) Mishina M^{1, 2)}, Kimura Y^{2, 3)}, Naganawa M⁴⁾, Ishii K²⁾, Oda K²⁾, Sakata M²⁾, Toyohara J²⁾, Kobayashi S, Katayama Y¹⁾, Ishiwata K²⁾ (1) The Second Department of Internal Medicine, Nippon Medical School, 2) Positron Medical Center, Tokyo Metropolitan Institute of Gerontology, 3) Biophysics Group, Molecular Imaging Center, National Institute of Radiological Sciences, 4) Department of Diagnostic Radiology, PET Center, Yale University, New Haven, Connecticut) : Differential Effects of Age on Human Striatal Adenosine A¹ and A^{2A} Receptors. *Synapse* 2012 ; 66 (9) : 832-839.
- 2) Terao T¹⁾, Mishina M^{2, 3)}, Takumi I^{1, 5)}, Komaba Y³⁾, Mizunari T¹⁾, Kobayashi S¹⁾, Yoshida D⁴⁾, Teramoto A⁴⁾ (1) Departments of Neurosurgery, 2) Departments of Neurosurgery, Nippon Medical School Chiba-Hokusoh Hospital, 3) The Second Department of Internal Medicine Nippon Medical School, 4) Department of Neurosurgery, Nippon Medical School, 5) Department of Neurosurgery, Nippon Medical School Musashi-Kosugi Hospital) : Early computed tomography signs as early predictors of hemorrhagic transformation under heparinization in patients with cardiogenic embolism. *Geriatrics & Gerontology International* 2012 ; 12 (3) : 418-424.
- 3) Murai Y¹⁾, Kobayashi S, Teramoto A¹⁾ (1) Department of Neurosurgery, Graduate School of Medicine, Nippon Medical School) : Subarachnoid hemorrhage of unknown etiology along the cortical convexity. *J Nippon Med Sch* 2012 ; 79 (4) : 301-306.
- 4) Matano F¹⁾, Murai Y¹⁾, Tateyama K¹⁾, Mizunari T, Umeoka K, Koketsu K, Kobayashi S, Teramoto A¹⁾ (1) Department of Neurosurgery, Nippon Medical School) : Perioperative complications of superficial temporal artery to middle cerebral artery bypass for the treatment of complex middle cerebral artery aneurysms. *Clin Neurol Neurosurg* 2012 ; 115 (6) : 718-724.
- 5) Murai Y¹⁾, Kominami S, Yoshida Y¹⁾, Mizunari T, Adachi K, Koketsu K, Kobayashi S, Teramoto A¹⁾ (1) Department of Neurosurgery, Nippon Medical School) : Preoperative liquid embolization of cerebellar heman-

glioblastomas using N-butyl cyanoacrylate. *Neuroradiology* 2012 ; 54 (9) : 981-988.

- 6) Morimoto D¹⁾, Isu T¹⁾, Kim K, Sugawara A²⁾, Matsumoto R¹⁾, Isobe M¹⁾ (¹⁾ Department of Neurosurgery, Kushiro Rosai Hospital, Hokkaido, ²⁾ Department of Neurosurgery, Iwate Medical School) : Microsurgical medial fenestration with an ultrasonic bone curette for lumbar foraminal stenosis. *J Nippon Med Sch* 2012 ; 79 (5) : 327-334.
 - 7) Murai Y¹⁾, Mizunari T, Takagi R³⁾, Amano Y³⁾, Mizumura S³⁾, Komaba Y²⁾, Okubo S²⁾, Kobayashi S, Teramoto A¹⁾ (¹⁾ Department of Neurosurgery, Nippon Medical School, ²⁾ Department of Internal Medicine, Division of Neurology, Nephrology, and Rheumatology, Nippon Medical School, Tokyo, Japan, ³⁾ Department of Radiology, Nippon Medical School, Tokyo, Japan) : Analysis of ischemic cerebral lesions using 3.0-T diffusion-weighted imaging and magnetic resonance angiography after revascularization surgery for ischemic disease. *Clin Neurol Neurosurg* 2012 ; 115 (7) : 1063-1070.
 - 8) Kominami S, Watanabe A^{1,2)}, Kobayashi S, Teramoto A²⁾ (¹⁾ Department of Neurosurgery, Graduate School of Medicine, Nippon Medical School, ²⁾ Department of Neurosurgery, Nippon Medical School) : Ruptured feeder aneurysm associated with cerebellar arteriovenous malformation. *J Nippon Med Sch* 2012 ; 79 (4) : 296-300.
 - 9) 金 景成, 井須豊彦¹⁾ (¹⁾ 釧路労災病院脳神経外科) : 圧迫性脊髄障害 : 頸髄, 腰部脊柱管狭窄症に対する低侵襲手術の現状と可能性. *ペインクリニック* 2012 ; 33 (7) : 939-947.
 - 10) 鈴木雅規, 小南修史, 白銀一貴, 額額健太, 岩本直高, 大村朋子, 三品雅洋²⁾, 水成隆之, 小林士郎, 寺本 明¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学付属病院脳神経外科, ²⁾ 日本医科大学付属病院神経内科) : Wake-up ischemic stroke に対する Merci Retriever 応用の可能性. *脳卒中* 2012 ; 34 (4) : 228-234.
 - 11) 三品雅洋¹⁾, 小林士郎 (¹⁾ 日本医科大学付属病院神経内科) : 徹底ガイド脳卒中 Q&A : プレホスピタルからリハビリまで II 脳卒中の救急医療体制 Q10 急性期脳卒中専門医療機関. *救急・集中治療* 2012 ; 24 (7-8) : 817-822.
 - 12) Mishina M^{1,2)}, Kim K, Kominami S, Mizunari T, Kobayashi S, Katayama Y^{1,2)} (¹⁾ Neurological Institute, Nippon Medical School, Chiba Hokusoh Hospital, ²⁾ Neurological Institute, Nippon Medical School, Chiba Hokusoh Hospital) : Impact of polyunsaturated fatty acid consumption prior to ischemic stroke. *Acta Neurol Scand* 2013 ; 127 (3) : 181-185.
- (2) 総説 :
- 1) 梅岡克哉 : 顔面痙攣・三叉神経痛の外科治療. *印旛市郡医師会報* 2012 ; 58 (2) : 59-61.
 - 2) 三品雅洋¹⁾, 小林士郎, 原 行弘²⁾, 片山泰朗¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学大学院神経内科学, ²⁾ 日本医科大学千葉北総病院リハビリテーション科) : 印旛脳卒中地域連携パスの効果. *日医大医学会誌* 2012 ; 8 (4) : 246-254.
 - 3) 小林士郎 : 慢性硬膜下血腫の見落とし. *日本医師会雑誌別冊 医療係争事例から学ぶ* 2013 ; 141 (10) : 108-109.
- (3) 症例報告 :
- 1) Suzuki M, Kominami S, Kobayashi S, Teramoto A¹⁾ (¹⁾ Department of Neurosurgery, Nippon Medical School) : Treatment of intracranial meningioma in an elderly patient by endovascular embolization without subsequent surgical removal. *JNET* 2013 ; 6 (3) : 175-180.

著 書

[追加分]

追加分 :

- 1) 金 景成 : [分担] 頸椎前方除圧固定術 Williams-Isu 法のレビュー. *痛み・しびれの脊椎脊髄外科, 治療の効果*

- とレビュー（井須豊彦編著），2012；pp16-17，メジカルビュー社。
- 2) 金 景成：〔分担〕頸椎前方除圧固定術．頸椎可動性を温存する手術法のレビュー．痛み・しびれの脊椎脊髄外科，治療の効果とレビュー（井須豊彦編著），2012；pp22-23，メジカルビュー社。
 - 3) 金 景成：〔分担〕スパーサーを用いない頸椎椎弓形成術のレビュー．痛み・しびれの脊椎脊髄外科，治療の効果とレビュー（井須豊彦編著），2012；pp40-41，メジカルビュー社。
 - 4) 金 景成：〔分担〕腰椎変性すべり症と腰椎分離すべり症に対する後方除圧術のレビュー．痛み・しびれの脊椎脊髄外科，治療の効果とレビュー（井須豊彦編著），2012；pp56-57，メジカルビュー社。
 - 5) 金 景成：〔分担〕生体内分解吸収性材料のレビュー．痛み・しびれの脊椎脊髄外科，治療の効果とレビュー（井須豊彦編著），2012；pp84-85，メジカルビュー社。
 - 6) 金 景成：〔分担〕脊椎手術に用いるセラミックに関するレビュー．痛み・しびれの脊椎脊髄外科，治療の効果とレビュー（井須豊彦編著），2012；pp88-89，メジカルビュー社。
 - 7) 金 景成：〔分担〕超音波骨メスのレビュー．痛み・しびれの脊椎脊髄外科，治療の効果とレビュー（井須豊彦編著），2012；pp96-97，メジカルビュー社。
 - 8) 金 景成：〔分担〕頸椎前方除圧固定術後の後弯形成に関するレビュー．痛み・しびれの脊椎脊髄外科，治療の効果とレビュー（井須豊彦編著），2012；pp120-121，メジカルビュー社。
 - 9) 金 景成：〔分担〕脊椎手術後出血のレビュー．痛み・しびれの脊椎脊髄外科，治療の効果とレビュー（井須豊彦編著），2012；pp130-131，メジカルビュー社。
 - 10) 金 景成：〔分担〕脊髄動静脈奇形に対する放射線療法のレビュー．痛み・しびれの脊椎脊髄外科，治療の効果とレビュー（井須豊彦編著），2012；pp136-137，メジカルビュー社。
 - 11) 金 景成：〔分担〕脊椎・脊髄腫瘍に対する重粒子線治療のレビュー．痛み・しびれの脊椎脊髄外科，治療の効果とレビュー（井須豊彦編著），2012；pp140-141，メジカルビュー社。
 - 12) 金 景成：〔分担〕神経根性疼痛の臨床診断・画像診断のレビュー．痛み・しびれの脊椎脊髄外科，治療の効果とレビュー（井須豊彦編著），2012；pp146-147，メジカルビュー社。
- 1) 金 景成：〔共著〕首・肩・腕の痛みとしびれをとる本．首・肩・腕の痛みとしびれをとる本（井須豊彦監修），2012；講談社。
 - 2) 金 景成：〔分担〕Tinel 様徴候：外来診察時に触れるべき箇所．しびれ，痛みの外来診療（井須豊彦編著），2012；pp42-44，中外医学社。
 - 3) 金 景成：〔分担〕腰椎椎間板ヘルニアの自然経過．しびれ，痛みの外来診療（井須豊彦編著），2012；pp53-54，中外医学社。
 - 4) 金 景成：〔分担〕見逃してはいけない病気．しびれ，痛みの外来診療（井須豊彦編著），2012；pp67-70，中外医学社。
 - 5) 金 景成：〔分担〕外来で経過をみる際のポイントと問題点．しびれ，痛みの外来診療（井須豊彦編著），2012；pp70-71，中外医学社。
 - 6) 金 景成：〔分担〕難治性のしびれ，痛みに対する薬物治療ならびに脊髄刺激法．しびれ，痛みの外来診療（井須豊彦編著），2012；pp103-105，中外医学社。

学会発表

〔追加分〕

追加分ビデオ：

- 1) 村井保夫¹⁾，足立好司²⁾，纈纈健太，水成隆之，亦野文宏¹⁾，梅岡克哉，小林士郎，寺本 明¹⁾（¹⁾ 日本医科大学脳神経外科，²⁾ 日本医科大学付属武蔵小杉病院脳神経外科）：ICG videoangiography を用いた前交通動脈瘤クリッピング後の評価．脳神経外科手術と機器学会（第21回）（大阪），2012. 3.

追加分一般講演：

- 1) 水成隆之, 小林士郎, 梅岡克哉, 額綱健太, 玉置智規¹⁾, 村井保夫²⁾, 立山幸次郎³⁾, 岩本直高, 白銀一貴²⁾, 寺本 明²⁾ (1) 日本医科大学多摩永山病院脳神経外科, 2) 日本医科大学脳神経外科, 3) 博慈会記念総合病院脳神経外科)：内頸動脈病変に対する RA グラフト術における合併症回避. 脳神経外科手術と機器学会 (第 21 回) (大阪), 2012. 3.
- 2) 金 景成：脊椎硬膜外血腫の手術. The 8th Neurosurgical Video Conference (東京), 2012. 2.
- 3) Mishina M¹⁾, Kim K, Kobayashi S, Katayama Y¹⁾ (1) The Second Department of Internal Medicine, Nippon Medical School)：Relationship between Outcome and Polyunsaturated Fatty Acids level in Acute Ischemic Stroke. International Stroke Conference (New Orleans), 2012. 1.
- 4) 梅岡克哉：三叉神経痛の外科治療. 文京ニューロサイエンスフォーラム (第 7 回) (東京), 2012. 2.

(1) 特別講演：

- 1) 小林士郎：脳神経外科領域のめまい：最新の診断と治療. 星薬科大学認定薬剤師研修生涯教育講座 (東京), 2012. 5.
- 2) 梅岡克哉：三叉神経痛の診断と外科的治療. 千葉頭痛研究会 (第 13 回) (千葉), 2012. 6.
- 3) 水成隆之：脳血管障害の基礎と臨床. 東葉臨床医学セミナー (第 115 回) (千葉), 2012. 7.
- 4) 金 景成：基礎から学ぶ頭部外傷 解剖から脳脊髄液減少症まで. 平成 24 年度成田市養護教諭研修会 (千葉), 2012. 8.
- 5) 金 景成：病院で行う保存療法：薬物治療, シップ, 神経ブロック等. 釧路管内健康フォーラム 2012 (釧路), 2012. 9.
- 6) 金 景成：痺れ・痛みの外来治療：専門医がそのポイントをお教えします. 四街道地区医師会生涯学習及び市民公開講座 (千葉), 2012. 10.
- 7) 小林士郎：脳卒中とは…。千葉県脳卒中セミナー (千葉), 2012. 11.
- 8) 金 景成：硬膜内・硬膜外出血の対処法. AOSpine Advances Seminar 京都 (京都), 2012. 11.
- 9) 小林士郎：脳卒中にならないために. 白井市市民公開講座 (千葉), 2012. 12.

(2) シンポジウム：

- 1) 永野 修¹⁾, 芹澤 徹²⁾, 小南修史, 樋口佳則³⁾, 青柳京子¹⁾, 藤川 厚¹⁾, 町田利生¹⁾, 小林士郎, 小野純一¹⁾, 佐伯直勝³⁾ (1) 千葉県循環器病センター 脳神経外科, 2) 築地神経科クリニック 東京ガンマユニットセンター, 3) 千葉大学大学院医学研究院 脳神経外科学)：直径 3cm 以下の小型 AVM に対するガンマナイフ治療：塞栓術を併用した安全な治療への取り組み. 日本脳卒中の外科学会 (第 41 回) (福岡), 2012. 4.
- 2) 金 景成, 井須豊彦¹⁾, 森本大二郎²⁾, 菅原 淳³⁾, 小林士郎, 寺本 明⁴⁾ (1) 釧路労災病院脳神経外科, 2) 横浜新緑病院脳神経外科, 3) 岩手医科大学脳神経外科, 4) 日本医科大学脳神経外科)：頸椎前方手術法の手術法選択基準に関する検討. 日本脊髄外科学会 (第 27 回) (千葉), 2012. 6.
- 3) 金 景成, 小南修史, 小林士郎：頭蓋頸椎移行部硬膜動静脈ろうに対する術中 ICG 蛍光撮影に関する経験. 日本術中画像情報学会学術大会 (第 12 回) (茨城), 2012. 7.
- 4) 水成隆之：当院脳神経センターにおける脳卒中急性期管理：急性期からの合併症対策とリハビリテーション. 日本病院脳神経外科学会 (第 15 回) (北海道), 2012. 7.
- 5) 小南修史, 鈴木雅規, 渡辺 玲¹⁾, 小林士郎 (1) 東京共済病院 脳神経外科)：外科的摘出術を前提としない脳動静脈奇形に対する最善の塞栓術. NPO 法人日本脳神経血管内治療学会学術総会 (第 28 回) (仙台), 2012. 11.
- 6) 水成隆之, 額綱健太, 梅岡克哉, 小林士郎, 玉置智規¹⁾, 村井保夫¹⁾, 白銀一貴¹⁾, 石坂栄太郎¹⁾ (1) 日本医科大学 脳神経外科)：内頸動脈解離性動脈瘤 (blister like aneurysm) に対する治療戦略. 脳卒中の外科学会 (第 42

回) (東京), 2013. 3.

(3) 一般講演:

- 1) 大村朋子, 水成隆之, 金 景成, 小南修史, 小林士郎, 寺本 明¹⁾ (1) 日本医科大学脳神経外科): 長期の経過を辿った転移性脳腫瘍の1例. 日本脳神経外科学会 関東支部学術集会 (第117回) (東京), 2012. 4.
- 2) 金 景成: 自家椎体を用いた頸椎前方固定術後10年以上の長期成績に関する研究. 日本脊椎脊髄病学会 (第41回) (福岡), 2012. 4.
- 3) 古口徳雄¹⁾, 小沢義典²⁾, 烏谷博英³⁾, 小林士郎 (1) 千葉県救急医療センター 神経内科, ²⁾ 千葉労災病院, ³⁾ 松戸市立病院): 千葉県共用脳卒中地域医療連携バスの使用状況と課題: 県医師会アンケート調査を中心に. 日本脳卒中の外科学会 (第41回) (福岡), 2012. 4.
- 4) 阿部雅志¹⁾, 池亀 敏¹⁾, 富田尚樹¹⁾, 加藤丈司¹⁾, 河原崎昇¹⁾, 小南修史, 小林士郎 (1) 日本医科大学千葉北総病院放射線センター): 急性期診療のためのMRI検査に対する教育プログラム導入. 日本脳卒中の外科学会 (第41回) (福岡), 2012. 4.
- 5) 富田尚樹¹⁾, 阿部雅志¹⁾, 池亀 敏¹⁾, 阿部晃大¹⁾, 上田 司¹⁾, 加藤丈司¹⁾, 河原崎昇¹⁾, 岡田 進²⁾, 小林士郎 (1) 日本医科大学千葉北総病院放射線センター, ²⁾ 日本医科大学千葉北総病院放射線科): 脳血管障害患者に対する頭部MRA高速撮像法の検討. 日本脳卒中の外科学会 (第41回) (福岡), 2012. 4.
- 6) 村井保夫¹⁾, 水成隆之, 小林士郎, 立山幸次郎¹⁾, 岩本直高¹⁾, 額額健太, 寺本 明¹⁾ (1) 日本医科大学脳神経外科): 橈骨動脈グラフトの基本: 80例の反省を込めた基本手技. 日本脳卒中の外科学会 (第41回) (福岡), 2012. 4.
- 7) 梅岡克哉, 水成隆之, 玉置智規²⁾, 村井保夫¹⁾, 立山幸次郎¹⁾, 岩本直高¹⁾, 額額健太, 小林士郎, 寺本 明¹⁾ (1) 日本医科大学脳神経外科, ²⁾ 日本医科大学付属多摩永山病院脳神経外科): 頸動脈分岐部における, CEAとRA graftでの適切な剥離面についての検討. 日本脳卒中の外科学会 (第41回) (福岡), 2012. 4.
- 8) 水成隆之, 小林士郎, 梅岡克哉, 額額健太, 玉置智規¹⁾, 村井保夫¹⁾, 立山幸次郎¹⁾, 岩本直高¹⁾, 白銀一貴¹⁾, 寺本 明¹⁾ (1) 日本医科大学脳神経外科): 内頸動脈 blood blister like aneurysm の治療方針. 日本脳卒中の外科学会 (第41回) (福岡), 2012. 4.
- 9) 玉置智規¹⁾, 斎藤寛浩²⁾, 三枝直人³⁾, 梅岡克哉, 立山幸次郎⁴⁾, 山崎道生⁴⁾, 水成隆之, 野手洋治¹⁾, 寺本 明⁴⁾ (1) 日本医科大学多摩永山病院 脳神経外科, ²⁾ 旭川赤十字病院 脳神経外科, ³⁾ 日本医科大学耳鼻咽喉科, ⁴⁾ 日本医科大学 脳神経外科): CEA術後嗄声回避への工夫. 日本脳卒中の外科学会 (第41回) (福岡), 2012. 4.
- 10) 額額健太, 村井保夫¹⁾, 足立好司²⁾, 亦野文宏³⁾, 水成隆之, 梅岡克哉⁴⁾, 小林士郎, 寺本 明¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院 脳神経外科, ²⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院 脳神経外科): インドシアニングリーンビデオ血管撮影を用いた術中前交通動脈血流評価. 日本脳卒中の外科学会 (第41回) (福岡), 2012. 4.
- 11) 鈴木雅規, 小南修史, 石坂栄太郎, 額額健太, 大村朋子, 金 景成, 水成隆之, 小林士郎, 寺本 明¹⁾ (1) 日本医科大学脳神経外科): 当院における心原性脳塞栓症患者のDWI-ASPECTの評価・解析. 日本脳卒中の外科学会 (第41回) (福岡), 2012. 4.
- 12) 小南修史, 鈴木雅規, 小林士郎, 寺本 明¹⁾ (1) 日本医科大学脳神経外科): 脳動静脈奇形に対する血管内治療-NBCAを用いた塞栓術のOnyxに対する優位性. 日本脳卒中の外科学会 (第41回) (福岡), 2012. 4.
- 13) 玉置智規¹⁾, 斎藤寛浩²⁾, 梅岡克哉, 水成隆之, 野手洋治¹⁾, 寺本 明 (1) 日本医科大学多摩永山病院 脳神経外科, ²⁾ 旭川赤十字病院 脳神経外科): CEA中内頸動脈からback flowが得られなかった2症例. 日本脳卒中の外科学会 (第41回) (福岡), 2012. 4.
- 14) 三品雅洋¹⁾, 神谷信雄¹⁾, 阿部 新¹⁾, 須田 智¹⁾, 酒巻雅典¹⁾, 大久保誠二¹⁾, 小南修史, 水成隆之, 小林士郎, 片山泰朗¹⁾ (1) 日本医科大学内科学講座 神経・腎臓・膠原病リウマチ部門): 中枢性肺胞低換気症候群を呈した延髄梗塞例における気管切開術の効果. 日本脳卒中の外科学会 (第41回) (福岡), 2012. 4.
- 15) 金 景成, 井須豊彦¹⁾, 大村朋子, 森本大二郎²⁾, 菅原 淳³⁾, 小林士郎, 寺本 明⁴⁾ (1) 釧路労災病院脳神経外

- 科, ²⁾ 横浜新緑病院脳神経外科, ³⁾ 岩手医科大学脳神経外科, ⁴⁾ 日本医科大学脳神経外科): SUPER FIXSORB による Transarticular screw fixation を行った 1 例. 日本脊髄外科学会 (第 27 回) (千葉), 2012. 6.
- 16) 森本大二郎¹⁾, 井須豊彦²⁾, 金 景成, 菅原 淳³⁾, 今井哲秋²⁾, 山崎和義²⁾, 千葉泰弘²⁾, 穂刈正昭²⁾, 松本亮司²⁾, 磯部正則³⁾ (¹⁾ 横浜新緑病院脳神経外科, ²⁾ 釧路労災病院脳神経外科, ³⁾ 岩手医科大学脳神経外科): 腰椎金属固定術後に残存・再燃した腰下肢症状の原因と対応. 日本脊髄外科学会 (第 27 回) (千葉), 2012. 6.
- 17) 石坂栄太郎, 額額健太, 大村朋子, 鈴木雅規, 梅岡克哉, 金 景成, 小南修史, 水成隆之, 小林士郎: 出血発症の硬膜動静脈瘻の 1 例. 東葛脳神経外科カンファレンス (第 78 回) (千葉), 2012. 6.
- 18) 本多正昌, 石栗由美, 高橋陽子, 大野佳恵, 矢萩英子, 佐々木優子, 浮須由比, 水成隆之: 看護ケアによる意識障害患者に対する覚醒の促し全身清拭, アロマオイル使用を実施して. 日本意識障害学会 (第 21 回) (山梨), 2012. 7.
- 19) 甲斐恵里加, 宇田川恵, 宇地原綾, 佐藤杏奈, 藤田美穂, 西田穂奈美, 本田直子, 佐々木優子, 矢萩英子, 水成隆之: はちみつを使用した口腔ケアによる肺炎予防の効果. 日本意識障害学会 (第 21 回) (山梨), 2012. 7.
- 20) 水成隆之, 額額健太, 大村朋子, 鈴木雅規, 梅岡 克哉, 金 景成, 小南修史, 小林士郎: 脳底動脈遠位部動脈瘤の 1 例について. 東葛脳神経外科手術手技研究会 (第 6 回) (千葉), 2012. 9.
- 21) 水成隆之, 梅岡克哉, 額額健太, 石坂栄太郎¹⁾, 小林士郎, 玉置智規²⁾, 村井保夫¹⁾, 立山幸次郎³⁾, 白銀一貴¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学脳神経外科, ²⁾ 日本医科大学多摩永山病院脳神経外科, ³⁾ 博慈会記念総合病院脳神経外科): 内頸動脈解離性動脈瘤に対する治療戦略: blister like aneurysm を含めて. 日本脳神経外科学会学術総会 (第 71 回) (大阪), 2012. 10.
- 22) 小南修史, 鈴木雅規, 渡辺 玲¹⁾, 永野 修²⁾, 芹澤 徹³⁾, 小林士郎 (¹⁾ 東京共済病院脳神経外科, ²⁾ 千葉県循環器病センター脳神経外科, ³⁾ 築地神経科クリニック 東京ガンマユニットセンター): ガンマナイフ治療との組み合わせを前提とした脳動静脈奇形の塞栓術. 日本脳神経外科学会学術総会 (第 71 回) (大阪), 2012. 10.
- 23) 金 景成, 江本直也¹⁾, 井須豊彦²⁾, 小林士郎 (¹⁾ 日本医科大学脳神経外科, ²⁾ 日本医科大学多摩永山病院脳神経外科, ³⁾ 博慈会記念総合病院脳神経外科): 糖尿病性神経障害に伴うしびれに関する検討. 日本脳神経外科学会学術総会 (第 71 回) (大阪), 2012. 10.
- 24) 梅岡克哉, 田草川豊¹⁾, 尼崎憲一²⁾, 小林士郎 (¹⁾ 東京医科大学脳神経外科, ²⁾ 三井記念病院脳神経外科): 三叉神経痛と舌咽神経痛の外科治療. 日本脳神経外科学会学術総会 (第 71 回) (大阪), 2012. 10.
- 25) 鈴木雅規, 小南修史, 渡辺 玲¹⁾, 小林士郎 (¹⁾ 東京共済病院脳神経外科): 当施設における海綿静脈洞部硬膜動静脈瘻塞栓術. 日本脳神経外科学会学術総会 (第 71 回) (大阪), 2012. 10.
- 26) 大村朋子, 山口文雄¹⁾, 足立好司²⁾, 小林士郎 (¹⁾ 日本医科大学脳神経外科, ²⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院脳神経外科): テモゾロマイド長期投与症例の検討. 日本脳神経外科学会学術総会 (第 71 回) (大阪), 2012. 10.
- 27) 額額健太, 水成隆之, 岩本直高¹⁾, 立山幸次郎¹⁾, 村井保夫²⁾, 小林士郎 (¹⁾ 博慈会記念総合病院脳神経外科, ²⁾ 日本医科大学脳神経外科, ⁵⁾): 脳底動脈本幹部動脈瘤に対する当施設での治療経験. 日本脳神経外科学会学術総会 (第 71 回) (大阪), 2012. 10.
- 28) 石坂栄太郎, 水成隆之, 額額健太, 大村朋子, 鈴木雅規, 梅岡克哉, 金 景成, 小南修史, 小林士郎: 両側内頸動脈低形成に両側椎骨動脈狭窄を合併した 1 例. 日本脳神経外科学会学術総会 (第 71 回) (大阪), 2012. 10.
- 29) 加藤文司¹⁾, 河原崎昇¹⁾, 岡田 進¹⁾, 小南修史, 水成隆之, 小林士郎 (¹⁾ 日本医科大学千葉北総病院放射線センター): 転移性脳腫瘍 MRI における T1 緩和時間と造影効果. 日本脳神経外科学会学術総会 (第 71 回) (大阪), 2012. 10.
- 30) 金 景成, 井須豊彦¹⁾, 小林士郎 (¹⁾ 釧路労災病院脳神経外科): 尿病に認めたしびれに関する研究. しびれ・痛みの研究会 (第 1 回) (東京), 2012. 5.
- 31) 三品雅洋¹⁾, 鈴木正彦³⁾, 石井賢二²⁾, 北村 伸¹⁾, 長縄美香²⁾, 木村裕一²⁾, 橋本昌也³⁾, 坂田宗之²⁾, 織田圭一²⁾, 豊原 潤²⁾, 小林士郎, 片山泰朗¹⁾, 石渡喜一²⁾ (¹⁾ 日本医科大学 神経内科, ²⁾ 東京都健康長寿医療セン

- ター 研究所 神経画像研究チーム, ³⁾ 東京慈恵会医科大学附属青戸病院 (神経内科): ジスキネジアを呈するパーキンソン病における被殻アデノシン A2A 受容体密度: [11C] TMSX PET を用いた検討. 日本神経学会総会 (第 53 回) (東京), 2012. 5.
- 32) 加藤丈司¹⁾, 富田尚樹¹⁾, 池亀 敏¹⁾, 永井淳司¹⁾, 阿部雅志¹⁾, 河原崎昇¹⁾, 岡田 進²⁾, 小林士郎 (¹⁾ 日本医科大学千葉北総病院放射線センター, ²⁾ 日本医科大学千葉北総病院放射線科): 3T MRI における T1 強調型 FLAIR の造影効果: 脳腫瘍の信号変化とコントラストについて. 日本放射線技術学会秋期学術大会 (第 40 回) (東京), 2012. 10.
- 33) 山口文雄¹⁾, 展 広智¹⁾, 國保倫子¹⁾, 樋口直司¹⁾, 大村朋子, 石井雄道¹⁾, 小島豊之²⁾, 喜多村孝幸¹⁾, 高橋弘³⁾, 寺本 明⁴⁾ (¹⁾ 日本医科大学脳神経外科, ²⁾ 四谷メディカルキューブ脳神経外科, ³⁾ 景雲会春日居リハビリテーション病院脳神経外科, ⁴⁾ 東京労災病院脳神経外科): 脳腫瘍手術における“Real Motor Tract Mapping”. 日本脳神経外科学会学術総会 (第 71 回) (大阪), 2012. 10.
- 34) 足立好司¹⁾, 山口文雄²⁾, 野手洋治²⁾, 小林士郎 (¹⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院脳神経外科, ²⁾ 日本医科大学脳神経外科): 中枢神経系原発悪性リンパ腫の画像診断: 最近の非特異画像の増加について. 日本脳神経外科学会学術総会 (第 71 回) (大阪), 2012. 10.
- 35) 玉置智規¹⁾, 斎藤寛浩²⁾, 梅岡克哉, 水成隆之, 三枝英人³⁾, 野手洋治⁴⁾ (¹⁾ 日本医科大学多摩永山病院脳神経外科, ²⁾ 旭川赤十字病院脳神経外科, ³⁾ 日本医科大学耳鼻咽喉科, ⁴⁾ 日本医科大学脳神経外科): CEA による声帯麻痺回避への工夫 発声が重要な職業の症例は CEA を避けるべきか?. 日本脳神経外科学会学術総会 (第 71 回) (大阪), 2012. 10.
- 36) 森本大二郎¹⁾, 井須豊彦¹⁾, 金 景成, 菅原 淳³⁾, 今井哲秋²⁾, 山崎和義²⁾, 千葉泰弘²⁾, 穂刈正昭²⁾, 松本亮司²⁾, 磯部正則²⁾ (¹⁾ 横浜新緑総合病院脳神経外科, ²⁾ 釧路労災病院脳神経外科, ³⁾ 岩手医科大学脳神経外科): 腰椎術後の残存症状の原因であった上殿皮神経障害の治療成績. 日本脳神経外科学会学術総会 (第 71 回) (大阪), 2012. 10.
- 37) 村井保夫¹⁾, 高木 亮²⁾, 関根鉄朗²⁾, 水成隆之, 小林士郎, 汲田伸一郎²⁾, 寺本 明³⁾ (¹⁾ 日本医科大学脳神経外科, ²⁾ 日本医科大学放射線科, ³⁾ 東京労災病院脳神経外科): 4D-flow MRI による治療困難な内頸動脈瘤に対する Radial artery graft の評価: 術後の放射線学的所見に因る治療戦略の評価. 日本脳神経外科学会学術総会 (第 71 回) (大阪), 2012. 10.
- 38) 千葉泰弘¹⁾, 井須豊彦¹⁾, 森本大二郎²⁾, 今井哲秋¹⁾, 穂刈正昭¹⁾, 金 景成, 磯部正則¹⁾ (¹⁾ 釧路労災病院脳神経外科, ²⁾ 横浜新緑総合病院脳神経外科): 腰椎変性疾患と腰椎周辺疾患の併存症例における治療戦略. 日本脳神経外科学会学術総会 (第 71 回) (大阪), 2012. 10.
- 39) 中川俊祐¹⁾, 村井保夫¹⁾, 和田剛志¹⁾, 展 広智¹⁾, 立山幸次郎²⁾, 喜多村孝幸¹⁾, 寺本 明³⁾, 高木 亮⁴⁾, 関根鉄朗⁴⁾, 汲田伸一郎⁴⁾, 大久保誠²⁾, 水成隆之, 小林士郎, 吉田陽一⁶⁾ (¹⁾ 日本医科大学脳神経外科, ²⁾ 博慈会記念総合病院脳神経外科, ³⁾ 東京労災病院脳神経外科, ⁴⁾ 日本医科大学放射線科, ⁵⁾ 日本医科大学神経内科, ⁶⁾ 東京都保健医療公社荏原病院脳神経外科): 橈骨動脈グラフトを用いた多発内頸動脈瘤による頸動脈-海綿静脈洞瘻の治療: 4D-flow MRI による脳血流解析を含めて. 日本脳神経外科学会学術総会 (第 71 回) (大阪), 2012. 10.
- 40) 亦野文宏¹⁾, 村井保夫¹⁾, 立山幸次郎¹⁾, 水成隆之, 梅岡克哉, 額額健太, 小林士郎, 喜多村孝幸¹⁾, 寺本 明²⁾ (¹⁾ 日本医科大学脳神経外科, ²⁾ 東京労災病院): 治療困難な中大脳動脈瘤に STA-MCA バイパスを安全に行う為に. 日本脳神経外科学会学術総会 (第 71 回) (大阪), 2012. 10.
- 41) 井須豊彦¹⁾, 森本大二郎²⁾, 千葉泰弘¹⁾, 金 景成, 今井哲秋¹⁾, 磯部正則¹⁾ (¹⁾ 釧路労災病院脳神経外科, ²⁾ 横浜新緑総合病院脳神経外科): 腰痛を呈する拘扼性上殿皮神経障害に対する手術法. 日本脊髄障害医学会 (第 47 回) (静岡), 2012. 10.
- 42) 山口朋子¹⁾, 小塚和豊¹⁾, 岡崎舞子¹⁾, 妹尾麻代¹⁾, 金 景成, 原 行弘¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学千葉北総病院 リハ

- ビリテーション科)：脊髄ショックの蔓延がリハビリテーションを阻害する。日本脊髄障害医学会(第47回)(静岡), 2012. 10.
- 43) 金 景成, 井須豊彦¹⁾, 森本大二郎²⁾, 千葉泰弘²⁾, 菅原 淳²⁾, 小林士郎 (1) 釧路労災病院脳神経外科, ²⁾ 横浜新緑総合病院脳神経外科)：上臂皮神経障害患者腰椎の放射線学的検討。日本脊髄障害医学会(第47回)(静岡), 2012. 10.
- 44) 金 景成, 井須豊彦¹⁾, 小林士郎 (1) 釧路労災病院脳神経外科)：脊髄損傷に伴う神経因性疼痛にノイロトロピン注が有効であった2症例。日本脊髄障害医学会(第47回)(静岡), 2012. 10.
- 45) 三品雅洋¹⁾, 鈴木正彦³⁾, 石井賢二²⁾, 北村 伸¹⁾, 長縄美香²⁾, 木村祐一²⁾, 橋本昌也³⁾, 坂田宗之²⁾, 織田圭一²⁾, 豊原 潤²⁾, 小林士郎, 片山泰朗¹⁾, 石渡喜一²⁾ (1) 日本医科大学 神経内科, ²⁾ 東京都健康長寿医療センター 研究所 神経画像研究チーム, ³⁾ 東京慈恵会医科大学附属青戸病院 神経内科)：ジスキネジアを呈するパーキンソン病における被殻アデノシン A2A 受容体密度：[11C] TMSX PET を用いた検討。日本脳循環代謝学会総会(第24回)(広島), 2012. 11.
- 46) 石井雄道¹⁾, 小林士郎, 寺本 明²⁾ (1) 日本医科大学付属病院脳神経外科, ²⁾ 東京労災病院)：巨大下垂体腺腫に対する手術。千葉下垂体疾患研究会(第10回)(千葉), 2012. 11.
- 47) 大村朋子, 國保倫子, 纈纈健太, 鈴木雅規, 梅岡克哉, 金 景成, 小南修史, 水成隆之, 小林士郎)：Chondroma(軟骨腫)の1例。千葉北総神経放射線研究会(第75回)(千葉), 2012. 11.
- 48) 鈴木雅規, 小南修史, 小林士郎)：micro AVMに関連した破裂前脈絡叢動脈遠位部動脈瘤の1例。NPO 法人日本脳神経血管内治療学会学術総会(第28回)(仙台), 2012. 11.
- 49) 阿部雅志¹⁾, 池亀 敏¹⁾, 富田尚樹¹⁾, 加藤文司¹⁾, 河原崎昇¹⁾, 小南修史, 鈴木雅規, 小林士郎 (1) 日本医科大学千葉北総病院放射線センター)：PROPELLERを用いた頸動脈ステント留置術後経過観察法の検討。NPO 法人日本脳神経血管内治療学会学術総会(第28回)(仙台), 2012. 11.
- 50) 池亀 敏¹⁾, 阿部雅志¹⁾, 富田尚樹¹⁾, 加藤文司¹⁾, 河原崎昇¹⁾, 鈴木雅規, 小林士郎 (1) 日本医科大学千葉北総病院放射線センター)：頸動脈ブラーク描出のための variable refocusing flip angle 3D fast spin-echo (CUBE)の検討。NPO 法人日本脳神経血管内治療学会学術総会(第28回)(仙台), 2012. 11.
- 51) 金 景成)：しびれ, 痛みの診療。看護師との協調診療を行う上での工夫。東北北海道脳神経外科研究会(釧路), 2012. 11.
- 52) 梅岡克哉, 田草川豊¹⁾, 國保倫子, 纈纈健太, 大村朋子, 鈴木雅規, 金 景成, 小南修史, 水成隆之, 小林士郎 (1) 東京医科大学病院 脳神経外科)：石灰化椎骨動脈が責任血管であった三叉神経痛の1例。日本脳神経外科学会 関東支部学術集会(第119回)(埼玉), 2012. 12.
- 53) 水成隆之)：われわれの施設における脳底動脈本幹部動脈瘤治療の現状。The 12th International Seminar of Cerebrovascular Disease(東京), 2012. 4.
- 54) Kominami S)：Embolization of brain and spinal cord AVMs with NBCA. Joint Meeting of The 10th Asia-Pacific Congress of Cardiovascular & Interventional Radiology (APCCVIR)(Kobe), 2012. 5.
- 55) Suzuki M, Kominami S, Kobayashi S, Teramoto A¹⁾ (1) Department of Neurosurgery, Nippon Medical School)：Endovascular embolisation with ethanol and n-butyl cyanoacrylate to intracranial meningioma in the elderly without subsequent surgery. The 10th meeting of Asian-Australasian Federation of Interventional and Therapeutic Neuroradiology (AAFITN 2012)(Nagoya), 2012. 6.
- 56) 梅岡克哉)：石灰化椎骨動脈が責任血管であった三叉神経痛の1例。日本脳神経減圧術学会(第15回)(岡山), 2013. 1.
- 57) 加藤文司¹⁾, 富田尚樹¹⁾, 池亀 敏¹⁾, 阿部雅志¹⁾, 河原崎昇¹⁾, 岡田 進²⁾, 小林士郎 (1) 日本医科大学千葉北総病院放射線センター, ²⁾ 日本医科大学千葉北総病院放射線科)：多発性硬化症の3T MRI-脱髄斑の信号変化について。千葉MRIセミナー(第28回)(千葉), 2013. 2.

- 58) 瀨瀬健太, 水成隆之, 白銀一貴, 赤野文宏, 國保倫子, 廣中浩平, 大村朋子, 鈴木雅規, 梅岡克哉, 金 景成, 小南修史, 小林士郎: 頭蓋内頸動脈解離に対し High flow bypass を行った症例. 東葛脳神経外科手術手技研究会 (第7回) (千葉), 2013. 2.
- 59) 金 景成, 井須豊彦¹⁾, 小林士郎 (1) 釧路労災病院脳神経外科): 糖尿病患者に認めるしびれに関する検討. 千葉神経外科研究会 (第60回) (千葉), 2013. 2.
- 60) 小南修史: 脊髄動静脈奇形に対する NBCA を用いた塞栓術. 日本画像医学会 (第32回) (東京), 2013. 2.
- 61) 金 景成, 江本直也¹⁾, 岡田 進²⁾, 井須豊彦³⁾, 小林士郎, 森田明夫⁴⁾ (1) 日本医科大学千葉北総病院 内分泌内科, 2) 日本医科大学千葉北総病院 放射線科, 3) 釧路労災病院脳神経外科, 4) 日本医科大学 脳神経外科): 頸椎 MRI で発見される甲状腺偶発腫に関する研究. 日本脳神経 CI 学会総会 (第36回) (広島), 2013. 2.
- 62) 國保倫子, 金 景成, 井須豊彦¹⁾, 小林士郎, 森田明夫²⁾ (1) 釧路労災病院脳神経外科, 2) 日本医科大学脳神経外科): 頭蓋内慢性硬膜下血腫に合併する腰椎硬膜下血腫の頻度と特徴. 日本脳神経 CI 学会総会 (第36回) (広島), 2013. 2.
- 63) 喜多村孝雄, 金 景成, 國保倫子, 井須豊彦¹⁾, 鈴木雅規, 小南修史, 小林士郎, 森田明夫²⁾ (1) 釧路労災病院脳神経外科, 2) 日本医科大学 脳神経外科): 3TMRI にて胸腰髄血管障害との鑑別を要した2例. 日本脳神経 CI 学会総会 (第36回) (広島), 2013. 2.
- 64) 大村朋子, 小林士郎, 羽鳥 務¹⁾, 森田明夫²⁾ (1) 日本医科大学千葉北総病院 病理部, 2) 日本医科大学 脳神経外科): Primary intracerebral malignant fibrous histiocytoma (MFH) の1例. 日本脳神経 CI 学会総会 (第36回) (広島), 2013. 2.
- 65) 玉置智規¹⁾, 三枝英人²⁾, 野手洋治¹⁾, 斎藤寛浩³⁾, 梅岡克哉, 水成隆之 (1) 日本医科大学多摩永山病院 脳神経外科, 2) 日本医科大学 耳鼻咽喉科, 3) 旭川赤十字病院 脳神経外科): CEA 後嗄声回避の工夫: 神経保護と術後創部血腫予防の手法. 脳卒中の外科学会 (第42回) (東京), 2013. 3.
- 66) 瀨瀬健太, 水成隆之, 立山幸次郎²⁾, 村井保夫¹⁾, 小林士郎 (1) 日本医科大学 脳神経外科, 2) 博慈会記念総合病院): 当施設の脳底動脈本幹部動脈瘤に対する治療経験. 脳卒中の外科学会 (第42回) (東京), 2013. 3.
- 67) 梅岡克哉, 水成隆之, 國保倫子, 瀨瀬健太, 大村朋子, 鈴木雅規, 金 景成, 村井保夫¹⁾, 小南修史, 小林士郎 (1) 日本医科大学 脳神経外科): 後下小脳動脈に限局した動脈瘤の発生原因に対する検討. 脳卒中の外科学会 (第42回) (東京), 2013. 3.
- 68) 村井保夫¹⁾, 高木 亮²⁾, 関根鉄朗²⁾, 水成隆之, 小林士郎, 汲田伸一郎²⁾, 寺本 明¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院 脳神経外科, 2) 日本医科大学付属病院 放射線科): 4D-flow MRI を用いた脳血流解析による Radial artery graft の評価: RAG は脳血流に役立っているのか?. 脳卒中の外科学会 (第42回) (東京), 2013. 3.
- 69) 石坂栄太郎, 水成隆之, 瀨瀬健太, 大村朋子, 鈴木雅規, 梅岡克哉, 金 景成, 小南修史, 小林士郎: 両側内頸動脈低形成に両側椎骨動脈狭窄を合併した1例. 脳卒中の外科学会 (第42回) (東京), 2013. 3.
- 70) 三品雅洋¹⁾, 太組一朗²⁾, 小林士郎, 片山泰朗¹⁾ (1) 日本医科大学大学院医学研究科 神経内科学分野, 2) 日本医科大学武蔵小杉病院 脳神経外科): 気温と虚血性脳卒中の関係. 脳卒中の外科学会 (第42回) (東京), 2013. 3.
- 71) 太組一朗¹⁾, 三品雅洋²⁾, 小林士郎, 片山泰朗²⁾, 寺本 明³⁾ (1) 日本医科大学武蔵小杉病院 脳神経外科, 2) 日本医科大学大学院医学研究科 神経内科学分野, 3) 東京労災病院): 気温と出血性脳卒中の関係. 脳卒中の外科学会 (第42回) (東京), 2013. 3.
- 72) 鈴木雅規, 小南修史, 小林士郎: 当院における rt-PA 投与の現状と脳血管造影及び脳血管内手術のタイミング. 脳卒中の外科学会 (第42回) (東京), 2013. 3.
- 73) 山田敏雅, 水成隆之, 瀨瀬健太, 小林士郎, 森田明夫¹⁾ (1) 日本医科大学 脳神経外科): 意識消失発作で発症した両側椎骨動脈狭窄, 両側内頸動脈狭窄に対する治療経験. 脳卒中の外科学会 (第42回) (東京), 2013. 3.
- 74) 玉置智規¹⁾, 野手洋治¹⁾, 斎藤寛浩²⁾, 梅岡克哉, 水成隆之 (1) 日本医科大学多摩永山病院 脳神経外科, 2) 旭川

赤十字病院 脳神経外科) : CEA 前後の eGFR, 尿蛋白の変動及び造影剤を使用しない CEA. 脳卒中の外科学会 (第 42 回) (東京), 2013. 3.

75) 小南修史 : ちょっと苦労した tentorial dural AVF の 1 例. The 21th Intrascular Neurosurgery Winter Seminar (長野), 2013. 3.

76) Mishina M^{1,2)}, Ishii K²⁾, Suzuki M^{2,3)}, Kitamura S^{1,4)}, Hashimoto M^{2,3)}, Kimura Y^{2,5)}, Sakata M²⁾, Oda K²⁾, Toyohara J²⁾, Kobayashi S, Katayama Y¹⁾, Ishiwata K²⁾ (1) The Second Department of Internal Medicine, Nippon Medical School, 2) Positron Medical Center, Tokyo Metropolitan Institute of Gerontology, 3) Department of Neurology, The Jikei University School of Medicine, 4) Department of Internal Medicine, Nippon Medical School Musashi Kosugi Hospital, 5) Molecular Imaging Center, National Institute of Radiological Sciences) : Evaluation of putaminal adenosine A1 receptors in drug naïve Parkinsons disease measured with [11C] MPDX PET. The 16th International Congress of Parkinsons Disease and Movement Disorders (Dublin), 2012. 6.

77) Mishina M¹⁾, Kim K, Kobayashi S, Katayama Y¹⁾ (1) The Second Department of Internal Medicine, Nippon Medical School) : Relationship between Polyunsaturated Fatty Acids Level and Acute Ischemic Stroke in a Japanese Farming Area. Asia Pacific Stroke Conference 2012 (Tokyo), 2012. 9.

(4) ビデオセッション :

1) 井須豊彦¹⁾, 森本大二郎¹⁾, 金 景成, 今井哲秋¹⁾, 松本亮司¹⁾ (1) 釧路労災病院脳神経外科) : 拘扼性上殿皮神経障害に対する手術法. 日本脊髄外科学会 (第 27 回) (千葉), 2012. 6.

2) 森本大二郎¹⁾, 井須豊彦²⁾, 金 景成, 今井哲秋²⁾, 松本亮司²⁾, 磯部正則²⁾ (1) 横浜新緑病院脳神経外科, 2) 釧路労災病院脳神経外科) : 上殿皮神経障害の診断および外科的治療成績. 日本脊髄外科学会 (第 27 回) (千葉), 2012. 6.

18. 整形外科

[付属病院整形外科・武蔵小杉病院整形外科・多摩永山病院整形外科・千葉北総病院整形外科]

研究概要

整形外科教室の平成24年度の研究は、臨床研究において脊椎部、肩、肘、股、膝関節部、手の外科、足の外科、骨軟部腫瘍などを対象にした疾患ならびに外傷に対する手術数が急激に増加したことを背景に、臨床研究報告や講演を行った。部位別にみると、脊椎疾患の診断、治療、手術手技、手の外科では手関節周辺骨折、末梢神経、腱の障害に対する治療法および手術法の開発、肩関節障害に対する手術的治療の新知見などを発表した。人工膝関節に関しては日常生活機能向上を目指した新しい手術手技を報告した。基礎研究においては自己免疫性関節炎に対する治療薬の開発に関する基礎研究成果および、軟骨変性に関する基礎研究成果を報告した。また、第22回日本シミュレーション外科学会を主催した。学会発表は量、質ともに向上し、国際学会の発表も増え、教育研修講演、シンポジウム、招待講演、一般講演などが積極的に行われた。

研究業績

論文

[追加分]

追加分原著：

- 1) Nanno M, Sawaizumi T, Takai S : Two cases of flexor digitorum profundus avulsion due to enchondroma of the distal phalanx. J Nippon Med Sch 2012 ; 79 (1) : 79-84.

追加分症例報告：

- 1) 南野光彦, 澤泉卓哉, 堀口 元, 伊藤博元, 高井信朗 : 外傷性肘関節拘縮に対する肘関節授動術の治療経験. 東日本整形災害外科学会雑誌 2012 ; 24 (1) : 36-39.

(1) 原著：

- 1) Nanno M, Sawaizumi T, Ito H : Double clavicle fracture associated with ipsilateral scapular neck and coracoid process fracture.. Journal of Orthopaedic Surgery 2012 ; 20 (2) : 246-249.
- 2) 南野光彦, 澤泉卓哉, 高井信朗 : 尺骨鉤状突起骨折の治療成績の検討. 東日本整形災害外科学会雑誌 2012 ; 24 (4) : 481-484.
- 3) 植松卓哉, 河路秀巳, 高井信朗 : 前外側進入による人工骨頭置換術の治療経験. Hip Joint (日本股関節学会誌) 2012 ; 38 : 629-631.
- 4) Kitagawa Y, Tamai K, Kim Y, Hayashi M, Makino A, Takai S : Intravascular papillary endothelial hyperplasia of the finger mri features with histological correlation. J Hand Surg Eur 2013 ; 38 (3) : 306-312.
- 5) Kitagawa Y, Tamai K, Tsunoda R, Sawaizumi T, Takai S : Bone changes associated with soft tissue tumors in the hand. J Nippon Med Sch 2012 ; 79 (4) : 267-273.
- 6) 高井信朗 : 成人膝関節慢性疾患の手術法・長期成績と専門医に紹介するタイミング. 日本医師会雑誌 2012 ; 141 (8) : 1722-1725.
- 7) 宮本雅史 : 腰痛の評価. マンスリーブック オルソペディックス 2012 ; 25 (7) : 15-26.
- 8) 堀口 元, 澤泉卓哉, 青木孝文, 南野光彦, 高井信朗 : 超音波長軸像による橈骨遠位端部での長母指屈筋腱の走行について. 日本手外科学会雑誌 2012 ; 29 (2) : 19-21.

- 9) 飯澤典茂, 高井信朗: 人工関節置換術後感染の疫学と対策. リウマチ科 2012; 48 (2): 187-192.
 - 10) 林 幹彦, 玉井健介, 高井信朗: 原因不明の股関節痛, 股関節周囲部痛患者を対象とした greater trochanteric pain syndrome (GTPS) の検索. Hip Joint (日本股関節学会誌) 2012; 38: 848-851.
 - 11) 友利裕二: 前外側進入法を用いた小児上腕骨外顆骨折の治療. 整形・災害外科 2012; 55 (6): 801-807.
 - 12) 友利裕二, 鳥濱喜仁¹⁾ (1) 浮間中央病院 整形外科): 20 年来の外傷後肘関節拘縮に対し関節授動術を行った 1 例. 整形・災害外科 2012; 55 (10): 1277-1281.
 - 13) 友利裕二, 櫻庭 実¹⁾, 川井 章²⁾, 宮本慎平¹⁾, 別府保男²⁾, 中馬広一²⁾, 中谷文彦²⁾ (1) 国立がん研究センター 東病院 形成再建外科, 2) 国立がん研究センター 中央病院 骨軟部腫瘍科): 下肢悪性骨軟部腫瘍切除後骨欠損に対する自家処理骨移植と遊離腓骨皮弁併用例の治療成績. 日本マイクロサージャリー学会誌 2012; 25 (3): 157-163.
 - 14) 友利裕二, 黒田浩司¹⁾ (1) 亀田総合病院): 徒手整復不能であった背側転位型基節骨骨頭骨折の 1 例. 臨床整形外科 2012; 47 (11): 1141-1145.
 - 15) 友利裕二, 石川 肇¹⁾, 阿部麻美¹⁾, 大谷 博¹⁾, 中園 清¹⁾, 村澤 章¹⁾ (1) 新潟県立リウマチセンター): 生物学的製剤の導入と手の機能再建術で ADL が著しく向上した重症 RA の 1 例. 中部リウマチ 2012; 42 (1): 48-49.
 - 16) 河路秀巳, 小林俊之, 植松卓哉, 宮本 暖, 大場良輔, 高井信朗: 大腿骨頭壊死に対する bipolar 人工骨頭置換術の術後成績. Hip Joint (日本股関節学会誌) 2012; 38: 806-809.
 - 17) 橋口 宏, 岩下 哲, 南 和文, 高井信朗: 腱板断裂に対する VERSALOK アンカーを用いた鏡視下 suture bridge 法の治療成績. JOSKAS 2012; 37 (3): 400-405.
 - 18) 橋口 宏, 岩下 哲, 星川直哉, 高井信朗: 腱板大断裂・広範囲断裂修復術後に対する protective rehabilitation の有用性. 肩関節 2012; 36 (2): 661-664.
 - 19) 澤泉卓哉: 橈骨遠位端骨折の治療 橈骨遠位端骨折の疫学. 臨床整形外科 2012; 47 (11): 1053-1054.
 - 20) Ishikawa T¹⁾, Minami K²⁾, Ishiguro H¹⁾, Torisu Y¹⁾, Ishida J¹⁾ (1) Division of Gastroenterology and Hepatology, Department of internal Medicine, Jikei University School of Medicine, 2) Dept. of orthopedic Surgery, Nippon Medical School): Effect of rehydration solution on hydration state during "Sumo" training in summer. Gazzetta Medica Italiana-Archivio Per Le Scienze Mediche 2013; 172 (1-2): 71-79.
- (2) 総説:
- 1) 友利裕二, 黒田浩司¹⁾ (1) 亀田総合病院): 徒手整復不能であった騎乗型小指中節骨頸部骨折の 1 例. 整形・災害外科 2012; 55 (4): 435-438.
 - 2) 橋口 宏, 岩下 哲, 南 和文, 小塚和豊¹⁾, 大熊康弘¹⁾, 玉川智子¹⁾, 石田 溪¹⁾ (1) 日本医科大学千葉北総病院リハビリテーション科): スポーツ整形外科 術後リハビリテーション・プログラム (第 22 回) 上肢のスポーツ損傷 肩鎖関節脱臼. 臨床スポーツ医学 2012; 29 (7): 737-743.
 - 3) 橋口 宏: 肩鎖関節脱臼に対する鏡視下烏口鎖骨靭帯再建術. 整形外科 SURGICAL TECHNIQUE 2012; 2 (4): 407-420.
 - 4) 橋口 宏: 肩鎖関節脱臼に対する鏡視下烏口鎖骨靭帯再建術. 関節外科 2012; 31 (12): 1474-1480.
 - 5) 南 和文, 中嶋隆夫: 【スポーツ外傷・障害における初期診断のピットフォール】 脊椎における初期診断のピットフォール. 臨床スポーツ医学 2013; 30 (1): 29-34.
 - 6) 南 和文: 【学校スポーツにおける外傷・障害診療ガイド】 種目・疾患別の診療の実際 整形外科編 相撲における腰痛. 臨床スポーツ医学 2012; 29 (臨増): 352-359.
- (3) 研究報告書:
- 1) 岩下 哲, 橋口 宏, 高井信朗: 鏡視下腱板修復術における斜角筋ブロックの除痛効果に関する検討. 肩関節 2012; 36 (3): 945-948.

(4) 症例報告：

- 1) 南野光彦, 澤泉卓哉, 堀口 元, 高井信朗：有鉤骨鉤部偽関節に伴った小指屈筋腱断裂の2例. 関東整形災害外科学会雑誌 2012；43 (5)：335-339.
- 2) 南野光彦, 澤泉卓哉, 堀口 元, 高井信朗：肩甲骨頸部および烏口突起骨折を合併した鎖骨重複骨折の1例. 雑誌 整形外科 2012；63 (9)：953-956.
- 3) 南野光彦, 澤泉卓哉, 高井信朗：超音波カラードブラを用いた第2背側中手動脈皮弁栄養血管（穿通枝）の検索. 日本マイクロサージャリー学会誌 2012；25 (3)：133-137.
- 4) 南野光彦, 澤泉卓哉, 堀口 元, 花岡央泰, 伊藤博元, 高井信朗：橈骨遠位端部における長母指屈筋腱の滑動性について：健常者における超音波短軸像による検討. 東日本整形災害外科学会雑誌 2012；24 (2)：177-180.
- 5) Kitagawa Y, Tamai K, Kim Y, Hayashi M, Makino A, Takai S：Lipoma of the finger with bone erosion. J Nippon Med Sch 2012；79 (4)：307-311.
- 6) Kitagawa Y, Yokoyama M¹⁾, Tamai K, Takai S⁽¹⁾ Dept of Pathology, Tokyo Metropolitan Police Hospital)：Chronic expanding hematoma extending over plural gluteal muscles associated with piriformis syndrome. J Nippon Med Sch 2012；79 (6)：478-483.

著 書

〔追加分〕

追加分：

- 1) 今野俊介, 宮本雅史：〔分担〕腰椎コルセットはどのように行うのですか. 運動器の痛みをとる・やわらげる (宗圓聰, 紺野愼一), 2012；pp260-262, メディカルビュー社.
- 2) 今野俊介, 宮本雅史：〔分担〕がんの骨転移における手術のタイミングを教えてください. 運動器の痛みをとる・やわらげる (宗圓聰, 紺野愼一), 2012；pp295-297, メディカルビュー社.
- 1) 南野光彦：〔分担〕橈骨頭骨折, 橈骨頸部骨折. 今日の臨床サポート, 2013；エルゼビア・ジャパン株式会社.
- 2) 南野光彦：〔分担〕ばね指, 強直母指, ドケルバン病. 2012年度版整形外科 治療指針, 2013；pp937-938, 医学書院.
- 3) 高井信朗：〔分担〕運動器疾患, 主な疾病と診療, 変形性関節症, 変形性膝関節症. 臨床病態学3巻 第2版 (北村聖), 2013；pp36-42, ヌーヴェルヒロカワ.
- 4) 宮本雅史：〔自著〕第4章治療. 腰痛診療ガイドライン2012 (日本整形外科学会・日本腰痛学会), 2012；pp61-66, 南江堂.
- 5) 宮本雅史：〔自著〕JOABPEQJOACMEQのダウンロードの仕方. JOABPEQJOACMEQ マニュアル (日本整形外科学会・日本脊椎脊髄病学会診断・評価等基準委員会), 2012；pp13-16, 南江堂.
- 6) 宮本雅史：〔自著〕腰椎椎間板ヘルニア. 診療ガイドライン UP TO DATE 2012-2013 (門脇孝), 2012；pp643-647, メディカルレビュー社.
- 7) 元文芳和：〔分担〕骨粗鬆性椎体骨折. 今日の治療指針2013 (山口 徹, 北原光夫, 福井次矢), 2013；pp952-952, 医学書院.
- 8) 飯澤典茂, 高井信朗：〔分担〕軽度骨欠損に対する機種を選択, 補填材料の使い分けと手術手技. 膝関節の難治性病態に対する手術：日常診療で困ったときのこの一冊, 2012；pp42-50, メジカルビュー社.
- 9) 金 竜：〔分担〕腰椎椎間板ヘルニア. 整形外科看護, 2012；pp57-59, メディカ出版.
- 10) 金 竜：〔分担〕腰椎分離症, 分離すべり症. 整形外科看護, 2012；pp60-63, メディカ出版.
- 11) 金 竜：〔分担〕腰部脊柱管狭窄症. 整形外科看護, 2012；pp64-66, メディカ出版.
- 12) 澤泉卓哉：〔自著〕肘頭骨折. 骨折-プレート治療マイスター, 2012；pp61-71, Medical View.
- 13) 澤泉卓哉：〔自著〕橈骨頭骨折. 骨折-プレート治療マイスター, 2012；pp72-85, Medical View.

学会発表

〔追加分〕

追加分講演：

- 1) 宮本雅史：頸椎症性脊髄症のMRIと臨床。富山脊椎脊髄画像診断研究会（第7回）（富山県），2012. 3.

(1) 教育講演：

- 1) 北川泰之：疼痛を伴う軟部腫瘍。日本整形外科学会骨軟部腫瘍学術集会（第45回）（京都），2012. 7.
- 2) 高井信朗：人工関節の現状と展望。東海関節外科研究会（第61回）（名古屋市），2012. 4.
- 3) 高井信朗：人工膝関節の現状と展望。埼玉県整形外科医会（さいたま市），2012. 6.
- 4) 高井信朗：人工膝関節の現状と展望。城東整形外科医会学術講演会（第25回）（墨田区），2012. 7.
- 5) 高井信朗：人工膝関節の現状と展望。さくら整形外科フォーラム（第4回）（豊島区），2012. 8.
- 6) 高井信朗：人工膝関節の現状と展望。北海道膝関節研究会（第50回）（札幌市），2012. 8.
- 7) 高井信朗：膝関節痛の診断と治療。実地医家のための病診連携セミナー（文京区），2012. 9.
- 8) 高井信朗：人工膝関節の現状と展望。熊本県臨床整形外科医会教育研修講演会（熊本市），2012. 9.
- 9) 高井信朗：人工膝関節の現状と展望。秋田県運動器疾患セミナー（第8回）（秋田市），2012. 10.
- 10) 高井信朗：スポーツと人工膝関節。日本臨床スポーツ医学会学術集会（第23回）（横浜市），2012. 11.
- 11) 高井信朗：人工膝関節の現状と展望。沖縄県整形外科研修会（沖縄），2012. 11.
- 12) 高井信朗：膝蓋大腿関節障害の基礎と臨床。名整会セミナー（第8回）（名古屋市），2012. 11.
- 13) 高井信朗：人工膝関節の現状と展望。広島 Bone & Joint セミナー（第11回）（広島市），2013. 2.
- 14) 高井信朗：人工膝関節の現状と展望。獨整会公開学術講演会（第48回）（宇都宮市），2013. 2.
- 15) 澤泉卓哉：DVR Anatomic Plate clinical Update。日本手外科学会学術集会（第55回）（横浜），2012. 4.
- 16) 澤泉卓哉：日常診療に生かす橈骨遠位端骨折診療ガイドライン。日本整形外科学会学術総会（第85回）（京都），2012. 5.
- 17) 澤泉卓哉：日常診療に役立つ橈骨遠位端骨折診療ガイドライン。整形外科アップデートセミナー（第5回）（東京），2012. 7.
- 18) 澤泉卓哉：橈骨遠位端骨折診療ガイドライン。熊本手の外科研究会（第273回）（熊本），2012. 11.
- 19) 澤泉卓哉：橈骨遠位端骨折診療ガイドラインと私の治療法。山形整形外科セミナー（第48回）（山形），2013. 1.
- 20) 澤泉卓哉：舟状骨偽関節に対する血管柄付き第2中手骨基部骨移植術。横浜上肢手術セミナー（第2回）（横浜），2013. 2.
- 21) 澤泉卓哉：手関節の痛み。北区医師会学術講演会（東京），2013. 3.

(2) シンポジウム：

- 1) 羽生忠正¹⁾，荒木信人²⁾，大森 豪³⁾，五谷寛之⁴⁾，杉山 肇⁵⁾，原口直樹⁶⁾，丸山 公⁷⁾，宮本雅史⁸⁾（¹⁾長岡赤十字病院整形外科，²⁾大阪府立成人病センター，³⁾新潟大学研究推進機構超域学術院，⁴⁾清恵会病院大阪外傷マイクロサージャリ-センター，⁵⁾神奈川リハビリテーション病院整形外科，⁶⁾東京警察病院整形外科，⁷⁾関町病院，⁸⁾日本医科大学）：患者立脚評価法の現状報告：日本整形外科学会診断・評価基準等委員会から。日本整形外科学会学術総会（第85回）（京都），2012. 5.
- 2) 森 淳，飯澤典茂，尾崎大也，竹之内研二，松井秀平，高井信朗：内側側副靭帯深層を温存したCR型人工膝関節置換術。東日本整形災害外科学会（第61回）（高崎），2012. 9.
- 3) 元文芳和，宮本雅史，今野俊介，須藤賢太郎，高井信朗：骨粗鬆症性新鮮椎体骨折に対する単純X線の有用性とその限界。日本整形外科学会学術総会（第85回）（京都），2012. 5.
- 4) Aoki T：Application of External Fixator for Correction of Juvenile Ankle Deformity Followed by Epiphysial

Growth Plate Injury. Japan-Taiwan Orthopaedic Symposium (20th) (Yokohama), 2012. 4.

- 5) 中嶋隆夫, 南 和文, 金 竜, 家田俊也, 高井信朗: 頸椎後方インストゥルメンテーションの安全性に関する検討. 東日本整形災害外科学会 (第 61 回) (高崎), 2012. 9.
 - 6) 橋口 宏, 岩下 哲, 星川直哉, 高井信朗: 拘縮肩に対する手術治療. 日本肩関節学会 (第 39 回) (東京), 2012. 10.
 - 7) 五谷寛之¹⁾, 今枝敏彦²⁾, 安部幸雄³⁾, 百瀬敏充⁴⁾, 森友寿夫⁵⁾, 大井宏之⁶⁾, 面川庄平⁷⁾, 澤泉卓哉⁸⁾, 金谷文則⁹⁾
(¹⁾ 清恵会病院大阪外傷マイクロサージャリ-センター, ²⁾ 金城学院大学, ³⁾ 済生会下関総合病院 整形外科, ⁴⁾ 諏訪赤十字病院 整形外科, ⁵⁾ 大阪大学 整形外科, ⁶⁾ 聖隷浜松病院手の外科マイクロサージャリ-センター, ⁷⁾ 奈良県立医科大学 整形外科, ⁸⁾ 日本医科大学, ⁹⁾ 琉球大学 大学院医学研究科整形外科): 日本手外科学会最接着肢, 手, 指の機能評価基準の統計学的検証. 日本手外科学会学術集会 (第 55 回) (横浜), 2012. 4.
 - 8) 面川庄平¹⁾, 今枝敏彦²⁾, 澤泉卓哉³⁾, 百瀬敏充⁴⁾, 五谷寛之⁵⁾, 安部幸雄⁶⁾, 森友寿夫⁷⁾, 金谷文則⁸⁾ (¹⁾ 奈良県立医科大学 整形外科, ²⁾ 金城学院大学, ³⁾ 日本医科大学, ⁴⁾ 諏訪赤十字病院 整形外科, ⁵⁾ 清恵会病院 大阪外傷マイクロサージャリ-センター, ⁶⁾ 済生会下関総合病院 整形外科, ⁷⁾ 大阪大学 整形外科, ⁸⁾ 琉球大学大学院医学研究科整形外科): 尺骨突き上げ症候群に対する手くびの評価. 日本語版 PRWE-J の反応性. 日本手外科学会学術集会 (第 55 回) (横浜), 2012. 4.
 - 9) 五谷寛之¹⁾, 今枝敏彦²⁾, 百瀬敏充³⁾, 大井宏之⁴⁾, 安部幸雄⁵⁾, 森友寿夫⁶⁾, 根本孝一⁷⁾, 面川庄平⁸⁾, 澤泉卓哉⁹⁾, 金谷文則¹⁰⁾ (¹⁾ 清恵会病院大阪外傷マイクロサージャリ-センター, ²⁾ 金城学院大学, ³⁾ 諏訪赤十字病院整形外科, ⁴⁾ 聖隷浜松病院手の外科マイクロサージャリ-センター, ⁵⁾ 済生会下関総合病院整形外科, ⁶⁾ 大阪大学整形外科, ⁷⁾ 防衛医科大学校整形外科, ⁸⁾ 奈良県立医科大学整形外科, ⁹⁾ 日本医科大学, ¹⁰⁾ 琉球大学大学院医学研究科整形外科): 患者立脚評価法の今後の課題. 日本手外科学会機能評価表における患者立脚評価の現状. 日本整形外科学会学術総会 (第 85 回) (京都), 2012. 5.
 - 10) 今枝敏彦¹⁾, 内山茂晴²⁾, 和田卓郎³⁾, 沖永修二⁴⁾, 面川庄平⁵⁾, 澤泉卓哉⁶⁾, 百瀬敏充⁷⁾, 森友寿夫⁸⁾, 五谷寛之⁹⁾, 安部幸雄¹⁰⁾, 西田 淳¹⁰⁾, 大井宏之¹⁰⁾, 金谷文則¹⁰⁾ (¹⁾ 金城学院大学, ²⁾ 信州大学 整形外科, ³⁾ 札幌医科大学整形外科道民医療推進学講座, ⁴⁾ 東京通信病院 整形外科, ⁵⁾ 奈良県立医科大学 整形外科, ⁶⁾ 日本医科大学, ⁷⁾ 諏訪赤十字病院 整形外科, ⁸⁾ 大阪大学 整形外科, ⁹⁾ 清恵会病院大阪外傷マイクロサージャリ-センター, ¹⁰⁾ その他): 患者立脚評価法の頑丈と今後の課題. Patient-Rated Wrist Evaluation (PRWE) 日本語版の信頼性, 妥当性および反応性に関する統計学的検討. 日本整形外科学会学術総会 (第 85 回) (京都), 2012. 5.
 - 11) 南 和文: コンタクトスポーツに対するスポーツ医科学的アプローチ・相撲. 関西臨床スポーツ医・科学研究会 (第 22 回) (大阪), 2012. 6.
- (3) パネルディスカッション:
- 1) 青木孝文, 高井信朗: 外反母趾の保存療法と予防 外反母趾に対する前足部弾性包帯固定法. 日本靴医学会 (第 26 回) (東京), 2012. 9.
 - 2) 中嶋隆夫, 橋口 宏, 岩下 哲, 佐竹美彦, 南 和文, 金 竜, 高井信朗: 脊椎手術周術期 VTE の予防と治療. 関東整形災害外科学会 (第 53 回) (宇都宮), 2013. 3.
 - 3) 橋口 宏, 岩下 哲, 星川直哉, 南 和文, 高井信朗: 成長期の肩スポーツ障害: リトルリーグショルダー. 東日本整形災害外科学会 (第 61 回) (高崎), 2012. 9.
 - 4) 澤泉卓哉¹⁾, 泉山 公²⁾, 長田伝重³⁾, 面川庄平⁴⁾, 坂野 昭⁵⁾, 戸部正博⁶⁾, 長尾聡哉⁷⁾, 南野光彦⁸⁾, 西浦康正⁹⁾, 森友寿夫¹⁰⁾, 金谷文則¹⁰⁾ (¹⁾ 日本医科大学, ²⁾ 聖マリアンナ医科大学 整形外科, ³⁾ 独協医科大学 整形外科, ⁴⁾ 奈良県立医科大学 整形外科, ⁵⁾ 平塚共済病院 整形外科, ⁶⁾ 東京手の外科スポーツ医学研究所, ⁷⁾ 駿河台日本大学病院 整形外科, ⁸⁾ 日本医科大学, ⁹⁾ 筑波大学附属病院 土浦市地域臨床教育ステーション, ¹⁰⁾ その他): 橈骨遠位端骨折診療ガイドライン報告 ガイドライン策定の経緯と方法. 日本手外科学会学術集会 (第

55回) (横浜), 2012. 4.

(4) セミナー :

- 1) 帖佐悦男¹⁾, 伊藤博元¹⁾, 坂本桂造¹⁾, 高倉義典¹⁾, 成田哲也¹⁾, 南郷明德¹⁾, 古府照男¹⁾, 新井賢一郎¹⁾, 木下光雄¹⁾, 杉本和也¹⁾, 田中康仁¹⁾, 森 淳, 安田稔人¹⁾, 山本恵太郎¹⁾ (1) 日本整形外科学会アキレス腱断裂ガイドライン委員会 : 日常診療に生かすアキレス腱断裂診療ガイドライン. 日本整形外科学会学術総会 (第 85 回) (京都), 2012. 5.

(5) ポスター :

- 1) 北川泰之, 牧野 晃, 林 幹彦, 金 竜, 玉井健介, 高井信朗 : 血管脂肪腫の MRI 像. 日本整形外科学会骨軟部腫瘍学術集会 (第 45 回) (京都), 2012. 7.
- 2) 北川泰之, 金 竜, 林 幹彦, 牧野 晃, 玉井健介, 高井信朗, 細根 勝¹⁾, 丹野正隆¹⁾ (1) 病理部 : 低悪性度軟骨肉腫への脱分化を伴った大腿部脱分化型脂肪肉腫の 1 例. 日本整形外科学会骨軟部腫瘍学術集会 (第 45 回) (京都), 2012. 7.
- 3) 宮本雅史 : 腰部脊柱管狭窄症に対する治療成績評価法としての JOABPEQ の有用性について. 日本脊椎脊髄病学会 (第 41 回) (久留米), 2012. 4.

(6) 一般講演 :

- 1) 南野光彦, 澤泉卓哉, 小寺訓江, 堀口 元, 友利裕二, 高井信朗 : トリアムシノロン腱鞘内注射後に長母指屈筋腱断裂が生じた 1 例. 関東整形災害外科学会 (第 53 回) (宇都宮), 2013. 3.
- 2) 南野光彦, 澤泉卓哉, 小寺訓江, 堀口 元, 友利裕二, 高井信朗 : 尺骨鉤状突起骨折の治療成績と手術適応について : 2 つの骨折型分類による検討. 日本肘関節学会 (第 25 回) (東京), 2013. 2.
- 3) 南野光彦, 澤泉卓哉, 小寺訓江, 堀口 元, 友利裕二, 高井信朗 : CREST 症候群に伴った小指 calcinosis circumscripta の 1 例. 東日本手外科研究会 (第 27 回) (東京), 2013. 1.
- 4) 南野光彦, 澤泉卓哉, 高井信朗 : 尺骨鉤状突起骨折の治療成績の検討. 東日本整形災害外科学会 (第 61 回) (高崎), 2012. 9.
- 5) 南野光彦, 澤泉卓哉, 高井信朗 : 超音波短軸像による橈骨遠位端部での長母指屈筋腱の滑動性について : プレート固定例に対する検討. 日本骨折治療学会 (第 38 回) (東京), 2012. 6.
- 6) 南野光彦, 澤泉卓哉, 高井信朗 : 成人橈骨頭・頸部骨折の治療成績の検討. 日本骨折治療学会 (第 38 回) (東京), 2012. 6.
- 7) Nanno M, Sawaizumi T, Takai S : Three-dimensional analysis of the ligamentous attachments of the carpal tunnel. The 8th International Hand and Wrist Biomechanics Meeting (Kawasaki, Japan), 2012. 4.
- 8) 南野光彦 : 橈骨遠位端骨折ガイドライン策定委員会報告 : 診断. 日本手外科学会学術集会 (第 55 回) (横浜市), 2012. 4.
- 9) 南野光彦, 澤泉卓哉, 小寺訓江, 堀口 元, 高井信朗 : 超音波短軸像における正中神経の手根管内での移動について : 健常者での手関節肢位変化および手指運動による検討. 日本手外科学会学術集会 (第 55 回) (横浜市), 2012. 4.
- 10) 南野光彦, 澤泉卓哉, 堀口 元, 高井信朗 : 橈骨遠位端部における長母指屈筋腱の滑動性について : 超音波短軸像による検討. 日本手外科学会学術集会 (第 55 回) (横浜市), 2012. 4.
- 11) Ishihara Y, Takai S, Thay-Lee Q¹⁾, Mihata T²⁾, Michelle-McGarry H³⁾ (1) Orthopaedic Biomechanics Laboratory, Long Beach VA Healthcare System and University of California, Irvine, (2) Orthopaedic Biomechanics Laboratory, Long Beach VA Healthcare System and University of California, Irvine, Department of Orthopedic Surgery, Osaka Medi, (3) Orthopaedic Biomechanics Laboratory, Long Beach VA Healthcare System and University of California, Irvine) : The role of superior shoulder capsule on passive stability of the glenohumeral joint. Orthopaedic Reserch Society 2013 (米国), 2013. 1.

- 12) 大場良輔, 河路秀巳, 宮本 暖, 植松卓哉, 高井信朗: ITST を用いた大腿骨転子部骨折治療における nail 径の選択に関する考察. 日本股関節学会 (第 39 回) (新潟), 2012. 12.
- 13) 花岡央泰, 堀口 元, 山田祐子, 福田慶一, 南野光彦, 青木孝文: 鎖骨遠位端骨折に対する手術症例の検討. 神奈川上肢外科研究会 (第 18 回) (横浜), 2012. 10.
- 14) 北川泰之, 玉井健介, 金 竜, 林 幹彦, 牧野 晃, 高井信朗: 手の血管内乳頭状内皮過形成. 日本手外科学会学術集会 (第 55 回) (横浜市), 2012. 4.
- 15) 北川泰之, 玉井健介, 金 竜, 林 幹彦, 牧野 晃, 高井信朗: 上肢の有病性軟部腫瘍. 日本手外科学会学術集会 (第 55 回) (横浜市), 2012. 4.
- 16) 宮本雅史: 腰椎椎間板ヘルニア診療ガイドライン. 整形外科ガイドラインを語る会 (第 6 回) (東京), 2012. 11.
- 17) 宮本雅史, 元文芳和, 今野俊介, 須藤賢太郎, 星川直哉, 高井信朗, 福井 充¹⁾, 小野寺剛, 岩下 哲¹⁾ 大阪府立大学医学部推計学研究室): JOABPEQ を用いた作業関連性腰痛に関する疫学調査結果について. 日本整形外科学会学術総会 (第 85 回) (京都), 2012. 5.
- 18) 谷口慎一郎¹⁾, 福井 充²⁾, 笠井裕一³⁾, 加藤圭彦⁴⁾, 金森昌彦⁵⁾, 金山雅弘⁶⁾, 川上 守⁷⁾, 紺野慎一⁸⁾, 竹下克志⁹⁾, 田中信弘, 種市 洋, 千葉一裕, 橋爪 洋, 細野 昇, 宮本雅史, その他 1 名¹⁾ 関西医科大学付属滝井病院整形外科, ²⁾ 大阪府立大学医学部推計学研究室, ³⁾ 三重大学脊椎外科・医用工学, ⁴⁾ 山口大学大学院医学系研究科整形外科学, ⁵⁾ 富山大学医学部整形外科, ⁶⁾ 函館中央病院脊椎センター, ⁷⁾ 和歌山県立医科大学附属病院北分院脊椎ケアセンター, ⁸⁾ 福島県立医科大学医学部整形外科, ⁹⁾ 東京大学大学院整形外科, ¹⁰⁾ 日本医科大学, その他): SRQD および JOABPEQ による心理的評価の腰椎手術前後の経時的経過. 日本脊椎脊髄病学会 (第 41 回) (久留米), 2012. 4.
- 19) 榊原紀彦¹⁾, 笠井裕一¹⁾, 紺野慎一²⁾, 高橋和久³⁾, 千葉一裕⁴⁾, 宮本雅史⁵⁾, 種市 洋⁶⁾, 加藤圭彦⁷⁾, 金森昌彦⁸⁾, 金山雅弘⁹⁾, 細野 昇, 竹下克志, 田中信弘, 橋爪 洋, 松永俊二, その他 1 名¹⁾ 三重大学脊椎外科・医用工学, ²⁾ 福島県立医科大学医学部整形外科, ³⁾ 千葉大学大学院医学研究院整形外科学, ⁴⁾ 慶応義塾大学整形外科, ⁵⁾ 日本医科大学, ⁶⁾ 独協医科大学整形外科学教室, ⁷⁾ 山口大学大学院医学系研究科整形外科学, ⁸⁾ 富山大学医学部整形外科, ⁹⁾ 函館中央病院脊椎センター, ¹⁰⁾ その他): JOABPEQ, JOACMEQ の認知度調査. 日本脊椎脊髄病学会 (第 41 回) (久留米), 2012. 4.
- 20) 宮本雅史, 元文芳和, 今野俊介, 宮本 暖, 丸山 剛, 高井信朗: 生活習慣と心理・社会的要因が職業性腰痛に及ぼす影響について. 日本腰痛学会 (第 20 回) (神戸), 2012. 11.
- 21) 星川直哉, 植松卓哉, 河路秀巳, 高井信朗: セメントレス人工股関節全置換術の術後に急変し死亡した 1 例. 関東整形災害外科学会 (第 53 回) (宇都宮), 2013. 3.
- 22) 森 淳, 金 勝乾¹⁾, 勝見 明¹⁾, 中山修一¹⁾, 武田秀樹¹⁾, 内山英司¹⁾, 三木英之¹⁾, 成田哲也¹⁾, 尾崎大也, 高井信朗¹⁾ 日本バスケットボール協会スポーツ医科学委員会): 男子バスケットボールアジア選手権・世界選手権 (2005~2011) における日本代表チームへのメディカルサポート. 日本整形外科スポーツ医学会 (第 38 回) (横浜), 2012. 9.
- 23) 元文芳和, 宮本雅史, 今野俊介, 宮本 暖, 丸山 剛, 高井信朗: 骨粗鬆症性新鮮椎体骨折診断時における単純 X 線動態撮影の有用性. 日本腰痛学会 (第 20 回) (神戸), 2012. 11.
- 24) 堀口 元, 澤泉卓哉, 南野光彦, 小寺訓江, 友利裕二, 高井信朗: 小児上腕骨顆上骨折に対する梃子を利用した経皮的ピンニング. 日本肘関節学会 (第 25 回) (東京), 2013. 2.
- 25) 堀口 元, 澤泉卓哉, 青木孝文, 南野光彦, 高井信朗: 超音波長軸像による橈骨遠位端部での長母指屈筋腱の走行 遠位骨片の背屈変形の検討. 日本手外科学会学術集会 (第 55 回) (横浜市), 2012. 4.
- 26) 堀口 元, 青木孝文, 高井信朗: 手根管症候群の発症における手内在筋の関与について. 東日本手外科研究会 (第 27 回) (東京), 2013. 1.

- 27) 飯澤典茂, 尾崎大也, 大場良輔, 星川直哉, 高井信朗: 上腕骨大結節粉碎骨折に対する bridging suture 固定法の治療成績. 日本関節鏡・膝・スポーツ整形外科学会 (JOSKAS) (第4回) (沖縄), 2012. 7.
- 28) Kim Y, Nakajima T, Miyamoto M, Tamai K, Takai S: The Learning Curve of a Microscopic Flavectomy for Lumbar Stenosis Using a detachable Spinal Retractor. Japanese-Korean Combined Orthopaedic Symposium (22nd) (Tochigi Japan), 2012. 6.
- 29) 林 幹彦, 玉井健介, 北川泰之, 金 竜, 牧野 晃, 高井信朗: 股関節周囲部痛患者における greater trochanteric pain syndrome の検討. 日本整形外科学会学術総会 (第85回) (京都), 2012. 5.
- 30) 林 幹彦, 玉井健介, 北川泰之, 金 竜, 牧野 晃, 高井信朗: 大腿骨転子部骨折に対する PFNA 症例の検討. 日本骨折治療学会 (第38回) (東京), 2012. 6.
- 31) 林 幹彦, 玉井健介, 北川泰之, 金 竜, 牧野 晃, 高井信朗: 大腿骨近位部骨折患者の入院時アルブミン値は早期予後予測に有用か?. 日本骨折治療学会 (第38回) (東京), 2012. 6.
- 32) 今野俊介, 宮本雅史, 元文芳和, 須藤賢太郎, 星川直哉, 高井信朗: 脛骨神経刺激性感覚誘発電位の中心型腰部脊柱管狭窄症における包括的診断精度の検討. 日本整形外科学会学術総会 (第85回) (京都), 2012. 5.
- 33) 今野俊介, 宮本雅史, 元文芳和, 須藤賢太郎, 大場良輔, 高井信朗: 腰部脊柱管狭窄症診断における脛骨神経刺激性感覚誘発電位の至適パラメータの選択. 日本脊椎脊髄病学会 (第41回) (久留米), 2012. 4.
- 34) 青木孝文, 花岡央泰, 福田慶一, 堀口 元, 山田祐子, 南野光彦, 高井信朗: 短腓骨筋腱で機能再建を行った後脛骨筋機能不全症の1例. 東日本整形災害外科学会 (第61回) (高崎), 2012. 9.
- 35) 青木孝文, 堀口 元, 花岡央泰, 高井信朗: 外側小切開による踵骨骨折の低侵襲整復固定法. 日本足の外科学会 (第37回) (神奈川), 2012. 10.
- 36) 友利裕二: 橈骨遠位端骨折 (AO 分類 C 型) に合併した三角線維軟骨複合体損傷の手関節鏡視下評価. 日本手外科学会学術集会 (第55回) (横浜市), 2012. 4.
- 37) 友利裕二: 手指の拘縮を主訴として来院した線状強皮症の1例. 日本リウマチ学会 (第56回) (東京), 2012. 4.
- 38) 友利裕二, 澤泉卓哉, 南野光彦, 小寺訓江, 堀口 元, 高井信朗: 小児上腕骨顆上骨折に対する牽引台を用いた非観血的整復・経皮鋼線固定術の治療成績. 日本骨折治療学会 (第38回) (東京), 2012. 6.
- 39) Tomori Y, Sawaizumi T, Nanno M, Kodera N, Horiguchi G, Takai S: Arthroscopic evaluation of Triangular Fibrocartilage Complex Lesion in extra-articular distal radius fractures (AO type A). APFSSH Annual Meeting (The 9th) (Bali, Indonesia), 2012. 10.
- 40) 友利裕二, 澤泉卓哉, 南野光彦, 小寺訓江, 堀口 元, 高井信朗: 小児上腕骨顆上および遠位骨幹部骨折に対する前方小切開母指整復法. 日本最小侵襲整形外科学会 (第18回) (奈良), 2012. 11.
- 41) 友利裕二, 澤泉卓哉, 南野光彦, 小寺訓江, 堀口 元, 高井信朗: 外傷性関節不安定症による環指 MP 関節掌側脱臼の1例. 東日本手外科研究会 (第27回) (東京), 2013. 1.
- 42) 友利裕二, 澤泉卓哉, 南野光彦, 小寺訓江, 堀口 元, 高井信朗: 60歳以上の成人上腕骨遠位端骨折に対する LHP を用いた骨接合術の治療成績. 日本肘関節学会 (第25回) (東京), 2013. 2.
- 43) 友利裕二, 澤泉卓哉, 南野光彦, 小寺訓江, 堀口 元, 高井信朗: 小児上腕骨顆上骨折整復不能例に対する肘関節前方小皮切母指整復法. 日本肘関節学会 (第25回) (東京), 2013. 2.
- 44) 友利裕二, 澤泉卓哉, 南野光彦, 小寺訓江, 堀口 元, 高井信朗: 60歳以上の成人上腕骨遠位端骨折に対する LHP を用いた骨接合術の治療成績. 関東整形災害外科学会 (第53回) (宇都宮), 2013. 3.
- 45) 友利裕二, 澤泉卓哉, 南野光彦, 小寺訓江, 堀口 元, 高井信朗: 屈曲型小児上腕骨顆上骨折の治療経験. 関東整形災害外科学会 (第53回) (宇都宮), 2013. 3.
- 46) 河路秀巳, 小林俊之, 高橋謙治, 植松卓哉, 宮本 暖, 大場良輔, 星川直哉, 高井信朗: VerSys & Trilogy (Zimmer 社) を用いたセメントレス人工股関節置換術の中期成績. 日本股関節学会 (第39回) (新潟), 2012.

12.

- 47) 中嶋隆夫, 南 和文, 金 竜, 家田俊也, 丸山智之¹⁾, 渡辺典男¹⁾, 高井信朗¹⁾ (日本医科大学千葉北総病院放射線センター): 低線量 myelo-tomoshynthesis の試み. 日本側彎症学会 (第 46 回) (神戸), 2012. 10.
- 48) Nakajima T, Minami K, Kim Y, Ieda T, Sawaizumi T, Takai S : Surgical treatment of infectious spondylitis in lumbosacral region by Ilizarov external fixator. Japan-Korean Combined Orthopaedic Symposium (JKCOS2012) (The 22nd) (Nikko), 2012. 6.
- 49) 橋口 宏, 岩下 哲, 星川直哉, 南 和文, 高井信朗: 関節拘縮を合併した腱板断裂に対する関節鏡下関節包解離術・腱板修復術の治療成績. 日本整形外科学会学術総会 (第 85 回) (京都), 2012. 5.
- 50) 橋口 宏, 岩下 哲, 星川直哉, 南 和文, 高井信朗: 腱板大断裂・広範囲断裂鏡視下修復術後に対する protect rehabilitation. 日本整形外科学会学術総会 (第 85 回) (京都), 2012. 5.
- 51) 橋口 宏, 岩下 哲, 星川直哉, 南 和文, 高井信朗: スーチャーアンカーを用いた鏡視下上腕二頭筋長頭腱固定術の治療成績. 日本関節鏡・膝・スポーツ整形外科学会 (JOSKAS) (第 4 回) (沖縄), 2012. 7.
- 52) 橋口 宏, 岩下 哲, 星川直哉, 高井信朗: 肩鎖関節脱臼に対する人工靭帯を用いた鏡視下烏口鎖骨靭帯再建術. 日本肩関節学会 (第 39 回) (東京), 2012. 10.
- 53) 岩下 哲, 橋口 宏, 星川直哉, 高井信朗: 関節拘縮を伴った腱板断裂例における肩甲骨周囲筋活動量の検討. 日本肩関節学会 (第 39 回) (東京), 2012. 10.
- 54) 岩下 哲, 橋口 宏, 南 和文, 星川直哉, 高井信朗: 鏡視下腱板修復術後に発症した上腕骨頭壊死の 1 例. 東日本整形災害外科学会 (第 61 回) (高崎), 2012. 9.
- 55) 岩下 哲, 橋口 宏, 南 和文, 星川直哉, 高井信朗: 変形性肩鎖関節症に対する鏡視下鎖骨遠位端切除術の治療成績. 日本関節鏡・膝・スポーツ整形外科学会 (JOSKAS) (第 4 回) (沖縄), 2012. 7.
- 56) 岩下 哲, 橋口 宏, 中嶋隆夫, 佐竹美彦, 南 和文, 高井信朗: 2D/3D レジストレーション法を用いた肩関節動作解析における精度検証. 関東整形災害外科学会 (第 53 回) (宇都宮), 2013. 3.
- 57) 佐竹美彦, 南 和文, 橋口 宏, 中嶋隆夫, 岩下 哲, 高井信朗: Ceramic on Ceramic セメントレス人工股関節置換術の術後中期成績. 関東整形災害外科学会 (第 53 回) (宇都宮), 2013. 3.
- 58) 小寺訓江, 澤泉卓哉, 南野光彦, 堀口 元, 高井信朗: 舟状骨偽関節に対する血管柄付き第 2 中手骨基部骨移植術の検討. 日本手外科学会学術集会 (第 55 回) (横浜市), 2012. 4.
- 59) 小寺訓江, 澤泉卓哉, 南野光彦, 友利裕二, 高井信朗: 橈骨手根関節脱臼骨折の 1 例. 東日本手外科研究会 (第 27 回) (東京), 2013. 1.
- 60) 竹之内研二, 高橋謙治, 金子礼志¹⁾, 小岩政仁²⁾, 鎌田利一³⁾, 森 淳, 河路秀巳, 高井信朗, 中村 洋¹⁾ (国立国際医療研究センター 国府台病院, ²⁾ 春日部秀和病院, ³⁾ 原整形外科): RA の生物学的製剤治療における脂質代謝マーカー解析. 日本リウマチ学会総会・学術集会 (第 56 回) (東京), 2012. 4.
- 61) 竹之内研二, 高橋謙治, 金子礼志¹⁾, 小岩政仁²⁾, 鎌田利一³⁾, 森 淳, 河路秀巳, 高井信朗, 中村 洋¹⁾ (国立国際医療研究センター 国府台病院, ²⁾ 春日部秀和病院, ³⁾ 原整形外科): RA の生物学的製剤治療における脂質代謝マーカー解析. 日本臨床リウマチ学会 (第 27 回) (神戸), 2012. 11.
- 62) 角田 隆¹⁾, 星川直哉¹⁾, 野呂瀬嘉彦²⁾, 前田美穂²⁾, 楠崎克之³⁾, 高井信朗¹⁾ (1) 日本医科大学大学院整形外科, ²⁾ 日本医科大学付属病院感染制御部, ³⁾ 九条病院整形外科): アクリジンオレンジ光線力学療法による新しい感染症治療法の検討. 第 35 回日本骨・関節感染症学会 (鹿児島), 2012. 4.
- 63) 角田 隆¹⁾, 竹内恵美子²⁾, 大庭建三³⁾, 山口文雄⁴⁾, 久保田智樹⁵⁾, 腹子あきこ²⁾, 長谷川幸子²⁾, 古池和子²⁾, 広村 健⁵⁾, 上嶋 学⁶⁾, 坂本篤裕⁷⁾ (1) 日本医科大学整形外科, ²⁾ 日本医科大学看護部, ³⁾ 日本医科大学老年内科学, ⁴⁾ 日本医科大学脳神経外科学, ⁵⁾ 日本医科大学リハビリテーション科, ⁶⁾ 日本医科大学資材課, ⁷⁾ 日本医科大学麻酔科学): 付属病院における転倒, 転落事例の分析. 日本医科大学医学会総会 (第 80 回) (東京), 2012. 9.

(7) Poster :

- 1) Tomori Y, Sawaizumi T, Nanno M, Kodera N, Horiguchi G, Takai S : A Case Report- Distal humeral diaphyseal fracture in a child. APFSSH Annual Meeting (The 9th) (Bali, Indonesia), 2012. 10.

(8) 講演 :

- 1) 北川泰之 : 日常診療で問題となる有痛性軟部腫瘍. 若手整形外科医の会 (東京), 2012. 9.
- 2) 北川泰之 : 有痛性軟部腫瘍. 西東京整形外科懇話会 (東京), 2013. 2.
- 3) 宮本雅史 : 脊椎リハビリテーション. 平成 24 年夏季セラピスト研修会 (幕張), 2012. 6.
- 4) 宮本雅史 : 脊椎リハビリテーション. 平成 24 年秋季セラピスト研修会 (幕張), 2012. 11.
- 5) 宮本雅史 : 日常生活に生かす腰椎椎間板ヘルニアの診療ガイドライン. 日本整形外科学会学術総会 (第 85 回) (京都), 2012. 5.
- 6) 宮本雅史 : 腰椎椎間板ヘルニアの診療ガイドライン. 整形外科アップデートセミナー (第 6 回) (東京), 2012. 9.
- 7) 宮本雅史 : 頸椎性脊髄症の診断と治療. 脊椎疾患を考える会 (第 1 回) (東京), 2012. 11.
- 8) 南 和文 : スポーツ医学からみると相撲はまだ面白い. 葛飾区医師会 (東京), 2012. 5.

[付属病院リウマチ科]

研究業績

- 2) 高橋謙治 : 【変形性膝関節症をめぐる進歩】(PART4) 変形性膝関節症の保存療法 : 変形性関節症に対する物理療法. Bone Joint Nerve 2012 ; 2 (1) : 85-90.

(1) 原著 :

- 1) Kamada T, Kurokawa-Suzuki M¹⁾, Kato T¹⁾, Takenouchi K, Takahashi K, Yoshioka T¹⁾, Uchida T¹⁾, Mitsui H²⁾, Suematsu N¹⁾, Okamoto K¹⁾, Yudo K³⁾, Katayama Y³⁾, Nakamura H (¹⁾ Clinical Proteomics and Molecular Medicine, St. Marianna University Graduate School of Medicine, ²⁾ Department of Orthopaedic Surgery, St. Marianna University Graduate School of Medicine, ³⁾ Department of Frontier Medicine, Institute of Medical Science, St. Marianna University Graduate School of Medicine) : Proteomic analysis of bone marrow-adherent cells in rheumatoid arthritis and osteoarthritis. International Journal of Rheumatic Diseases 2012 ; 15 (2) : 169-178.
- 2) Masuko K^{1,2)}, Murata M³⁾, Beppu M⁴⁾, Nakamura H, Kato T¹⁾, Yudoh K³⁾ (¹⁾ Department of Biochemistry, St. Marianna University School of Medicine, ²⁾ Graduate School of Nutritional Science, Sagami Women's University, ³⁾ Department of Frontier Medicine, Institute of Medical Science, ⁴⁾ Department of Orthopedic Surgery, St. Marianna University School of Medicine) : Sphingosine-1-phosphate modulates expression of vascular endothelial growth factor in human articular chondrocytes : a possible new role in arthritis. International Journal of Rheumatic Diseases 2012 ; 15 (4) : 366-373.

(2) 総説 :

- 1) 高橋謙治 : 先天性股関節脱臼. 整形外科看護 2012 ; 17 (5) : 5-7.
- 2) 高橋謙治 : 変形性股関節症. 整形外科看護 2012 ; 17 (5) : 8-10.
- 3) Kawakami Y^{1,2)}, Matsuo K²⁾, Murata M³⁾, Hudoh K³⁾, Nakamura H, Shimizu H⁴⁾, Beppu M⁴⁾, Inaba Y²⁾, Saito T²⁾, Kato T¹⁾, Masuko K^{1,5)} (¹⁾ Department of Biochemistry, Institute of Medical Science, St. Marianna University School of Medicine, ²⁾ Department of Orthopaedic Surgery, School of Medicine, Yokohama City

University, ³) Department of Frontier Medicine, Institute of Medical Science, St. Marianna University School of Medicine, ⁴) Department of Orthopaedic Surgery, St. Marianna University School of Medicine, ⁵) Graduate School of Nutritional Science, Sagami Women's University) : Expression of Angiotensin II Receptor-1 in Human Articular Chondrocytes. *Arthritis* 2012 ; 648537 : Epub.

- 4) Murata M¹), Yudoh K¹), Shimizu H²), Beppu M²), Nakamura H, Kato T³), Masuko K^{3,4}) (¹) Department of Frontier Medicine, Institute of Medical Science, St. Marianna University School of Medicine, ²) Department of Orthopaedic Surgery, St. Marianna University School of Medicine, ³) Department of Biochemistry, St. Marianna University School of Medicine, ⁴) Graduate School of Nutritional Science, Sagami Women's University) : Layilin, a talin-binding hyaluronan receptor, is expressed in human articular chondrocytes and synovio-cytes and is down-regulated by interleukin-16. *Modern Rheumatology* 2012 ; 15 (2) : 169-178.

学会発表

〔追加分〕

追加分一般講演 :

- 1) 高橋謙治 : 日本医大のリウマチ診療に対する工夫. 千駄木関節リウマチ医療連携フォーラム (東京), 2012. 2.

(1) 教育講演 :

- 1) 中村 洋 : リウマチ性疾患における関節炎の鑑別診断. 和歌山 RA フォーラム (第 28 回) (和歌山), 2012. 7.
2) 中村 洋 : 変形性関節症の病態と治療. 変形性膝関節症を考える会 (第 4 回) (大阪), 2012. 9.
3) 中村 洋 : 日本医科大学付属病院におけるリウマチ診療について. 東京東部地区リウマチフォーラム (第 1 回) (東京), 2012. 9.
4) 中村 洋 : リウマチの手術「末梢関節」. 巻頭甲信越地区リウマチ教育研修会 (昭和 24 年度) (宇都宮), 2012. 10.
5) 中村 洋 : 関節リウマチにおける non-Bio DMARD の役割. 横浜市整形外科医会 (メディカルシンポジウム 2012) (横浜), 2012. 11.
6) 中村 洋 : 関節リウマチの薬物治療と手術療法. 埼玉東部リウマチ研究会 (第 13 回) (春日部), 2012. 11.
7) 中村 洋 : 関節リウマチに対する薬物治療の進歩と実際. 武蔵小杉整形外科病診連携講演会 (第 3 回) (川崎), 2013. 2.

(2) シンポジウム :

- 1) 北條達也¹), 高橋謙治, 外村 仁²), 新井祐志²), 久保俊一²) (¹) 同志社大学大学院スポーツ健康科学研究科, ²) 京都府立医科大学大学院運動器機能再生外科学) : 関節に対する温熱療法の基礎と臨床応用. 日本整形外科学会学術総会 (第 85 回) (京都), 2012. 5.
2) 高橋謙治, 高井信朗¹), 加藤和夫²), 新藤康弘²), 黒崎弘正³), 中村 洋 (¹) 日本医科大学整形外科, ²) 明治大学工学部, ³) カンククロクリニック) : 関節軟骨老化の病態と電磁波温熱療法の効果. 日本抗加齢学会医学会総会 (第 12 回) (横浜), 2012. 6.

(3) セミナー :

- 1) 中村 洋 : 変形性関節症の痛みとその対策. 千駄木整形外科カンファレンス (東京), 2012. 10.
2) 中村 洋 : リウマチ疾患の薬物治療について. 千駄木クリニカル薬剤セミナー (東京), 2012. 9.

(4) ワークショップ :

- 1) 高橋謙治, 竹之内研二, 小岩政仁¹), 鎌田利一²), 橋本三四郎³), 高井信朗⁴), 中村 洋 (¹) 秀和総合病院整形外科・リウマチ科, ²) 原整形外科病院, ³) ハシモトクリニック, ⁴) 日本医科大学整形外科) : 関節リウマチに対する生物学的製剤治療中の KL-6 異常値の検討. 日本リウマチ学会総会 (第 56 回) (東京), 2012. 4.

(5) 一般講演：

- 1) Takahashi K, Hashimoto S, Kurosaki H, Takenouchi K, Nakamura H, Takai S : A comparison of radiofrequency and microwave hyperthermia on knee osteoarthritis. ICHO & JCTM 2012 (Kyoto, Japan), 2012. 8.
- 2) Kurosaki H, Sekine, Takahashi K : Immunological examination of synovial fluid in osteoarthritis : Comparizon between before and after hyperthemia treatment. ICHO & JCTM 2012 (Kyoto, Japan), 2012. 8.
- 3) 中村 洋¹⁾, 高橋謙治¹⁾, 竹之内研二¹⁾, 小岩政仁²⁾, 鎌田利一³⁾, 森 淳¹⁾, 河路秀巳¹⁾, 高井信朗¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学整形外科, ²⁾ 秀和綜合病院 整形外科, ³⁾ 原整形外科病院) : RA に対するエタネルセプト投与量の減量オプションについて. 日本リウマチ学会総会 (第 56 回) (東京), 2012. 4.
- 4) 鎌田利一¹⁾, 高橋謙治, 竹之内研二, 小岩政仁²⁾, 金子礼志³⁾, 中村 洋 (¹⁾ 原整形外科病院, ²⁾ 秀和綜合病院 整形外科, ³⁾ 国立国際医療センター 国府台病院 内科) : TNF 阻害薬で治療中の関節リウマチ患者における固形癌の発症リスクについて. 日本リウマチ学会総会 (第 56 回) (東京), 2012. 4.
- 5) 竹之内研二, 高橋謙治, 金子礼志²⁾, 小岩政仁³⁾, 鎌田利一⁴⁾, 森 淳¹⁾, 河路秀巳¹⁾, 高井信朗¹⁾, 中村 洋 (¹⁾ 日本医科大学整形外科, ²⁾ 国立国際医療研究センター国府台病院, ³⁾ 秀和綜合病院, ⁴⁾ 原整形外科病院) : RA の生物学的製剤治療における脂質代謝マーカー解析. 日本リウマチ学会総会 (第 56 回) (東京), 2012. 4.
- 6) 小岩政仁¹⁾, 後藤 晋¹⁾, 高橋謙治²⁾, 竹之内研二²⁾, 鎌田利一³⁾, 高井信朗²⁾, 中村 洋²⁾ (¹⁾ 秀和綜合病院 整形外科, ²⁾ 日本医科大学 整形外科, ³⁾ 原 整形外科病院 整形外科) : 関節リウマチ患者における生物製剤使用中止例の検討. 日本リウマチ学会総会 (第 56 回) (東京), 2012. 4.
- 7) 高橋謙治¹⁾, 高井信朗¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学 整形外科) : 変形性膝関節症に対するラジオ波および極超短波温熱療法と比較検討. 日本リハビリテーション医学会学術集会 (第 49 回) (福岡), 2012. 6.
- 8) 森 信二¹⁾, 高橋謙治, 黒崎弘正¹⁾ (¹⁾ カンクロクリニック) : 電磁波温熱療法が変形性膝関節症に与える効果. 日本医学物理学学会学術大会 (第 104 回) (つくば), 2012. 9.
- 9) 黒崎弘正¹⁾, 新藤康弘²⁾, 渡部和樹²⁾, 森 信二¹⁾, 高橋謙治, 加藤和夫²⁾ (¹⁾ カンクロクリニック, ²⁾ 明治大学工学部) : サーモトロンによる膝加温の MRI を用いた 3D-SAR 分布解析. 日本医学放射線学会秋季臨床大会 (長崎), 2012. 9.
- 10) 中村 洋¹⁾, 高橋謙治¹⁾, 竹之内研二¹⁾, 遊道和雄²⁾, 有戸光美³⁾, 佐藤利行³⁾, 黒川真奈絵³⁾, 加藤智啓³⁾, 友利裕二¹⁾, 河路秀巳¹⁾, 高井信朗¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学 整形外科, ²⁾ 聖マリアンナ医科大学難病治療センター, ³⁾ 聖マリアンナ医科大学学生化学) : OA 軟骨細胞に対するセレコキシブの作用—プロテオミクスを用いた網羅的解析—. 日本関節病学会 (第 40 回) (鹿児島), 2012. 11.
- 11) 高橋謙治, 橋本三四郎²⁾, 黒崎弘正³⁾, 竹之内研二¹⁾, 中村 洋¹⁾, 高井信朗¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学大学院運動機能再生再建医学分野 (整形外科), ²⁾ ハシモトクリニック, ³⁾ 東京厚生年金病院放射線科) : 変形性膝関節症に対するヒアルロン酸関節内投与と温熱療法の併用. 日本関節病学会 (第 40 回) (鹿児島), 2012. 11.
- 12) 橋本三四郎¹⁾, 高橋謙治²⁾, 中村 洋²⁾, 村田三奈子¹⁾, 竹之内研二²⁾, 高井信朗²⁾ (¹⁾ ハシモトクリニック, ²⁾ 日本医科大学大学院運動機能再生再建医学分野 (整形外科)) : 早期変形性膝関節症に対する MRI 評価とヒアルロン酸注射効果の検討. 日本関節病学会 (第 40 回) (鹿児島), 2012. 11.
- 13) 竹之内研二, 高橋謙治, 金子礼志¹⁾, 鎌田利一²⁾, 小岩政仁³⁾, 河路秀巳⁴⁾, 森 淳⁴⁾, 高井信朗⁴⁾, 中村 洋 (¹⁾ 国際医療研究センター国府台病院 リウマチ膠原病科, ²⁾ 原整形外科病院, ³⁾ 秀和綜合病院 整形外科リウマチ科, ⁴⁾ 日本医科大学 整形外科) : RA の生物学的製剤治療における脂質代謝マーカー解析. 日本臨床リウマチ学会 (第 27 回) (神戸), 2012. 11.

(6) 研修講演：

- 1) 高橋謙治：臨床に役立つ運動器温熱療法のエビデンス. 日本整形外科学会 (第 85 回) (京都), 2012. 5.

19. 産婦人科学

[付属病院女性診療科・産科]

研究概要

周産期医学, 婦人科腫瘍学, 生殖内分泌医学, 手術学の各部門でそれぞれ精力的に研究が行われた。周産期医学領域では, 症例報告に加えて, 胎盤に特異的なマイクロ RNA の局在・機能につき分子解剖学講座との共同研究を継続した。婦人科腫瘍学では, 神奈川県立がんセンターとの臨床データベースをもとにした共同研究を継続するとともに, 希少症例の臨床病理学的報告を行った。また, 子宮内膜癌細胞における性ステロイド作動性分子群を同定し, 子宮体癌に対する標的治療開発の礎とした。子宮体癌の手術においては腹腔鏡手術による根治術を導入しており, 今後子宮頸癌, 卵巣癌にも導入を検討している。生殖医学分野では, 子宮形態異常を原因とする不育症に対し手術療法を積極的に施行し, 手術アプローチによる生児獲得率の検討をおこなった。マウス過排卵モデルを用いた基礎研究による周排卵期特異的分子シグナリングの同定および解析を行い欧州ヒト生殖学会議にて報告した。さらに微生物学免疫学教室との共同研究で免疫学的妊娠維持機構の解析を行い米国生殖免疫学会にて発表した。手術学では, 内視鏡手術や, 骨盤臓器脱に対するメッシュ手術などを専門に担当する低侵襲手術部門を立ち上げ, 深部子宮内膜症に対する独自の手術アプローチや, 子宮内膜症術後再発に対する検討を行った。以上の成果について, 本邦および海外の学術集会および論文にて報告を行った。

研究業績

論文

[追加分]

追加分原著:

- 1) 竹下俊行:【不育症の指針】不育症の治療法 夫リンパ球免疫療法. 臨床婦人科産科 2012; 66 (3): 262-267.
- 2) 竹下俊行:【不育症】臨床編 子宮形態異常. HORMONE FRONTIER IN GYNECOLOGY 2012; 19 (1): 43-47.
- 3) Hayashi M, Nakai A, Sekiguchi A, Takeshita T: Fetal heart rate classification proposed by the perinatology committee of the Japan Society of Obstetrics and Gynecology: reproducibility and clinical usefulness. J Nippon Med Sch 2012; 79 (1): 60-68.

(1) 原著:

- 1) Negishi Y, Wakabayashi A, Shimizu M, Ichikawa T, Kumagai Y, Takeshita T, Takahashi H: Disruption of maternal immune balance maintained by innate DC subsets results in spontaneous pregnancy loss in mice. Immunobiology 2012; 217 (10): 951-961.
- 2) 竹下俊行: II 内分泌・不妊 6. 不育症. 産婦人科の実際 2012; 61 (11): 1657-1663.
- 3) 竹下俊行: 不育症ってどんな病気? 病態・原因・治療について知る. 助産雑誌 2012; 66 (10): 812-816.
- 4) 桑原慶充, 竹下俊行: オフィスギニコロジー—女性プライマリ・ケア【II章 月経異常/不妊・不育・避妊】第2度無月経. 臨床婦人科産科 2012; 66 (5): 1039-1043.
- 5) 浜野愛理, 明楽重夫, 大内 望, 峯 克也, 市川雅男, 竹下俊行: GnRH アゴニスト反復投与後にレボノルゲストレル徐放型子宮内避妊システムが有効であった子宮腺筋症の1例. 東京産科婦人科学会誌 2012; 61 (1): 150-154.
- 6) 印出佑介, 高橋恵理佳, 山口 暁, 横田明重, 山口 稔, 竹下俊行: 母児 CMV (cyomegalovirus) screening

の実施成績. 産婦人科の実際 2012 ; 61 (5) : 795-802.

- 7) 磯崎 太一, 竹下 俊行 : 【絨毛性疾患アップデート「取扱い規約」改訂をふまえて】絨毛性疾患の取扱い 存続絨毛症の取扱い. 臨床婦人科産科 2012 ; 66 (8) : 647-653.
- 8) 大内 望, 峯 克也, 市川雅男, 浜野愛理, 小野修一, 阿部 崇, 黒瀬圭輔, 明楽重夫, 竹下俊行 : 経腔回収バックを使用した3mm細径鉗子による低侵襲腹腔鏡下卵巣嚢腫摘出術. 東京産科婦人科学会誌 2012 ; 61 (2) : 210-213.
- 9) 小野修一, 明楽重夫, 峯 克也, 市川雅男, 黒瀬圭輔, 竹下俊行 : 腹腔鏡下にて診断・治療し得た無症候性小腸子宮内膜症の1例. 日本エンドメトリオーシス学会誌 2012 ; 33 (7) : 241-244.
- 10) 峯 克也, 明楽重夫, 浜野愛理, 小野修一, 大内 望, 市川雅男, 黒瀬圭輔, 竹下俊行 : 子宮内膜症および子宮腺筋症におけるジェノゲスト投与中止例の検討. 日本エンドメトリオーシス学会誌 2012 ; 33 (7) : 178-180.
- 11) 浜野愛理, 明楽重夫, 大内 望, 峯 克也, 市川雅男, 竹下俊行 : レボノルゲストレル徐放型子宮内避妊システム (LNG-IUS) の難治性子宮腺筋症に対する有用性の検討. 日本エンドメトリオーシス学会誌 2012 ; 33 (7) : 149-153.
- 12) 林 昌子, 竹下俊行 : 日本産科婦人科学会周産期委員会が提唱する分娩中の胎児心拍数陣痛図の波形分類の再現性と有用性の検討. 産婦人科の実際 2012 ; 61 (8) : 1227-1232.
- 13) 瀧澤俊広¹⁾, 大口昭英¹⁾, 右田 真²⁾, 松原茂樹³⁾, 竹下俊行 ¹⁾ 日本医大分子解剖学, ²⁾ 日本医大小児科・遺伝診療科, ³⁾ 自治医大産婦人科 : 【臨床・創薬利用が見えてきた micro RNA】(第1章) microRNA 診断 妊婦における miRNA 診断 胎盤特異的 miRNA と妊娠高血圧症候群の発症予知. 遺伝子医学 MOOK (9) : 110-115.
- 14) 池田真利子, 明楽重夫, 小野修一, 阿部 崇, 峯 克也, 市川雅男, 竹下俊行 : 当科低侵襲手術チーム : Team MIS (Minimally Invasive Surgery) における腹腔鏡手術研修システムについて. 東京産科婦人科学会誌 2013 ; 62 (1) : 12-16.
- 15) 鴨井青龍, 山本晃人, 松橋智彦, 川瀬里衣子, 山田 隆, 黒瀬圭輔, 土居大祐, 米山剛一, 竹下俊行 : 【産婦人科の薬剤使用プラクティス : 病態別処方-婦人科編】腫瘍 子宮体癌, 子宮内膜増殖症. 産婦人科の実際 2012 ; 61 (11) : 1793-1799.
- 16) Ichikawa M, Akira S, Hamano E, Ono S, Mine K, Takeshita T : Mimic Mini-laparoscopic Surgery is a Simple and Secure Approach Using Direct Placement of 3-mm Trocars without Noticeable Scars. J Nippon Med Sch 2013 ; 80 (1) : 78-82.
- 17) Sekiguchi A, Okuda N, Kawabata I, Nakai A, Takeshita T : Ultrasound Detection of Lacunae-like Image of a Cesarean Scar Pregnancy in the First Trimester. J Nippon Med Sch 2013 ; 80 (1) : 70-73.
- 18) Fujikura T, Takeshita T, Homma H, Adachi K, Miyake K, Kudo M, Takizawa T, Nagayama H, Hirakawa K : Team-based Learning Using an Audience Response System : A Possible New Strategy for Interactive Medical Education. J Nippon Med Sch 2013 ; 80 (1) : 63-69.
- 19) Ichikawa M, Akira S, Mine K, Ohuchi N, Kurose K, Takeshita T : Novel hybrid laparoscopic sacrocolpopexy for pelvic organ prolapse with a severe paravaginal defect. J Obstet Gynaecol Res 2013 ; 39 (2) : 603-607.
- 20) Sato A, Ishiwata T, Matsuda Y, Yamamoto T, Asakura H, Takeshita T, Naito Z : Expression and role of nestin in human cervical intraepithelial neoplasia and cervical cancer. Int J Oncol 2012 ; 41 (2) : 441-448.
- 21) Mase Y, Ishibashi O, Ishikawa T, Takizawa T, Kiguchi K, Ohba T, Katabuchi H, Takeshita T, Takizawa T : MiR-21 is enriched in the RNA-induced silencing complex and targets COL4A1 in human granulosa cell lines. Reprod Sci 2012 ; 19 (10) : 1030-1040.
- 22) Kuwabara Y, Katayama A, Igarashi M, Tomiyama R, Piao H, Kaneko R, Abe T, Mine K, Akira S, Orimo H, Takeshita T : Rapid and transient upregulation of CCL11 (eotaxin-1) in mouse ovary during terminal stages of follicular development. Am J Reprod Immunol 2012 ; 67 (5) : 358-368.

- 23) Sawa R : The Case of Fukushima Prefectural Ono Hospital : From the standpoint of the special counsel. JMAJ 2012 ; 55 (2) : 179-185.
- 24) 畑中卓司, 尾崎孝良, 角田 政, 水谷 渉, 吉田澄人, 澤倫太郎 : 福島県原子力災害に対する損害賠償と復旧・復興のあり方に関する研究. 日医総研ワーキングペーパー 2012 ; 257-257.

(2) 総説 :

- 1) 齋藤英和, 石原 理, 久具宏司, 榊原秀也, 澤倫太郎, 津田尚武, 阪埜浩司, 平原史樹 : 平成 23 年度倫理委員会 登録・調査委員会報告 (2010 年度分の体外受精・胚移植等の臨床実施成績および 2012 年 7 月における登録施設名). 日産婦誌 2012 ; 64 (9) : 2110-2140.

(3) 症例報告 :

- 1) 山本晃人, 池田真利子, 鴨井青龍, 伊藤麻利江, 島田 学, 黒瀬圭輔, 竹下俊行 : 卵巣癌と鑑別に苦慮したた骨盤内原発不明癌の 1 例. 東京産科婦人科学会誌 2012 ; 61 (3) : 377-382.
- 2) 寺田佳世子, 山岸絵美, 川端伊久乃, 中尾仁彦, 桑原知仁, 印出佑介, 林 昌子, 奥田直貴, 関口敦子, 中井章人 : 未熟奇形腫に腹膜神経膠腫症を合併し growing teratoma syndrome を呈した 1 例. 東京産科婦人科学会誌 2013 ; 62 (1) : 76-80.

著 書

- 1) 竹下俊行 : [分担] 習慣流産, 不育症. 今日の臨床サポート, 2013 : Elsevier Japan.
- 2) 竹下俊行 : [監修] 性分化と性器形態の異常内性器形態の異常. 病気が見える : 婦人科・乳腺外科 (医療情報科学研究所), 2013 ; pp70-75, メディックメディア.

学会発表

[追加分]

追加分一般講演 :

- 1) 山本晃人, 鴨井青龍, 伊藤麻利江, 島田 学, 松橋智彦, 山田 隆, 黒瀬圭輔, 米山剛一, 竹下俊行 : 当院における神経温存広汎子宮全摘術の検討. 日本婦人科腫瘍学会 (第 52 回) (東京), 2912. 7.

(1) 特別講演 :

- 1) 竹下俊行 : 不育症診療 Up date. 徳島産科婦人科学会 (第 78 回) (徳島), 2013. 1.

(2) 教育講演 :

- 1) 竹下俊行 : 不育症. 日本産科婦人科学会総会 (第 64 回) (神戸), 2012. 4.
- 2) 明楽重夫 : メッシュによる治療. 日本産科婦人科学会 (第 64 回), 2012. 4.
- 3) 明楽重夫 : 日本産科婦人科内視鏡学会技術認定医合格のポイント : 審査員はここをみる. 関東連合産科婦人科学会 (第 123 回) (東京), 2012. 6.

(3) シンポジウム :

- 1) 市川雅男 : 単孔, 細径, NOTE, そして擬態法へ. 単孔式内視鏡手術研究会 (第 6 回) (札幌), 2012. 6.
- 2) 明楽重夫 : 我が国における月経困難症・子宮内膜症の実態と受診行動の現状 : 女子大生アンケートから. 日本エンドメトリオーシス学会 (第 34 回) (栃木), 2013. 1.
- 3) 竹下俊行 : 産婦人科から発信する男女共同参画-次世代を担う若手産婦人科医のキャリア継続へ向けて. 日本肝臓学会 (第 48 回) (金沢), 2012. 6.
- 4) 澤倫太郎 : 専攻医セミナー「産婦人科専攻医研修の要点」周産期. 関東連合産科婦人科学会 (第 124 回), 2012. 10.

(4) ワークショップ：

- 1) 市川雅男, 明楽重夫, 小野修一, 池田真利子, 峯 克也, 竹下俊行：骨盤臓器脱に対する内視鏡手術. 日本女性骨盤底医学会 (第 14 回) (大阪), 2012. 7.
- 2) 明楽重夫：技術認定制度の課題と将来像：産婦人科. 日本内視鏡外科学会 (第 25 回) (横浜), 2012. 12.
- 3) 市川雅男, 明楽重夫, 池田真利子, 小野修一, 峯 克也, 竹下俊行：擬態法を用いた新しい美容的アプローチ：Mimic Mini Laparoscopy. 日本内視鏡外科学会 (第 25 回) (横浜), 2012. 12.
- 4) 市川雅男：オリオンとカメレオン：新しい美容的アプローチの登場. 日本エンドメトリオーシス学会 (第 34 回) (栃木), 2013. 1.

(5) 一般講演：

- 1) Igarashi M, Kuwabara Y, Hashimoto E, Ouchi N, Satomi M, Sawa R, Takeshita T：Assessment of Doppler flow wave forms through the ductus arteriosus in the fetuses exposed to low-dose aspirin. XX FIGO WORLD CONGRESS OF GYNECOLOGY AND OBSTETRICS (イタリア), 2012. 10.
- 2) Yonezawa M, Yamaguchi S¹⁾, Yoneyama K (1) Yamaguchi Hospital)：STATUS OF HPV INFECTION IN EARLY PUERPERIUM. 14th Biennial Meeting of the International Gynecologic Cancer Society (Canada), 2012. 10.
- 3) 関口敦子, 川端伊久乃, 奥田直貴, 林 昌子, 印出佑介, 桑原知仁, 山岸絵美, 高橋恵理佳, 中尾仁彦, 中井章人, 竹下俊行：前置胎盤における頸管長測定の意義. 日本産科婦人科学会 (第 64 回) (神戸), 2012. 4.
- 4) 神戸沙織, 石田洋一¹⁾, 菊池邦生²⁾, 大口昭英¹⁾, 松原茂樹¹⁾, 鈴木光明¹⁾, 竹下俊行, 瀧澤俊広²⁾ (1) 自治医大, ²⁾ 日本医大分子解剖学)：胎盤由来のマイクロ RNA は妊娠期間中エクソソームを介して母体血球細胞に取り込まれている. 日本産科婦人科学会 (第 64 回) (神戸), 2012. 4.
- 5) 山本晃人, 鴨井青龍, 黒瀬圭輔, 安井麻利江, 竹下俊行, 坂本且一¹⁾, 佐藤悠二²⁾, 宮下正夫³⁾ (1) 坪井病院, ²⁾ セントシュガーたん探知犬育成センター, ³⁾ 日本医大がん診療センター)：婦人科悪性腫瘍に対する癌探知犬の有用性. 日本産科婦人科学会 (第 64 回) (神戸), 2012. 4.
- 6) 浜野愛理, 明楽重夫, 大内 望, 峯 克也, 市川雅男, 渡辺昇一¹⁾, 竹下俊行 (1) 勝楽堂病院)：難治性子宮筋腫症へのレボノルゲストレル徐放型子宮内避妊システムの有用性の検討. 日本産科婦人科学会 (第 64 回) (神戸), 2012. 4.
- 7) 桑原慶充, 富山僚子, 山下恵理子, 小野修一, 市川智子, 峯 克也, 明楽重夫, 竹下俊行：周排卵期卵巣における, IL-1 beta 誘導性ケモカイン群の同定および解析. 日本産科婦人科学会 (第 64 回) (神戸), 2012. 4.
- 8) 大口昭英¹⁾, 平嶋周子²⁾, 高橋佳代²⁾, 大丸貴子²⁾, 有賀治子²⁾, 鈴木寛正²⁾, 竹下俊行, 松原茂樹²⁾, 瀧澤俊広³⁾, 鈴木光明²⁾ (1) 芳賀赤十字, ²⁾ 自治医大, ³⁾ 日本医大分子解剖学)：microRNA (miR-210 及び miR-518) の標的遺伝子産物 HSD17B1 蛋白質の血漿レベル及び母体因子を用いた妊娠高血圧腎症の発症予知. 日本産科婦人科学会 (第 64 回) (神戸), 2012. 4.
- 9) 川端伊久乃, 関口敦子, 奥田直貴, 林 昌子, 印出佑介, 桑原知仁, 山岸絵美, 尾崎景子, 滝本佳世子, 中井章人, 竹下俊行：切迫早産症例に対する 3rd trimester からの progesterone 投与の有用性. 日本産科婦人科学会 (第 64 回) (神戸), 2012. 4.
- 10) 深見武彦, 西田直子, 森 瑛子, 松村好克, 立山尚子, 糸井博美, 柿栖睦実, 松島 隆, 土居大祐, 可世木久幸, 朝倉啓文, 竹下俊行：妊娠中期に Amniotic fluid sludge を認めた切迫流産の 4 症例. 日本産科婦人科学会 (第 64 回) (神戸), 2012. 4.
- 11) 澤倫太郎, 五十嵐美和, 峯 克也, 桑原慶充, 里見操緒, 竹下俊行：胎児血管特性を応用したアデノシン誘導型 DES の開発：羊成獣血管における long acting adenosine によるステント内再狭窄抑制効果について. 日本産科婦人科学会 (第 64 回) (神戸), 2012. 4.
- 12) 松橋智彦, 高橋秀実¹⁾, 竹下俊行 (1) 日本医大微生物学免疫学)：低容量科学療法における樹状細胞を介した卵

- 巣癌細胞増殖抑制とそのメカニズム. 日本産科婦人科学会 (第 64 回) (神戸), 2012. 4.
- 13) 根岸靖幸, 野口 唯, 岩崎奈央, 酒井宏一郎¹⁾, 河合尚基²⁾, 竹下俊行 (¹⁾ 東京臨海病院神経内科, ²⁾ 東京臨海病院): 傍腫瘍性小脳変性症を随伴した卵巣癌の 1 例. 日本産科婦人科学会 (第 64 回) (神戸), 2012. 4.
 - 14) 小野修一, 峯 克也, 阿部 崇, 市川智子, 神戸沙織, 山下恵理子, 富山僚子, 桑原慶充, 明楽重夫, 竹下俊行: 不育症を呈した中隔子宮 42 症例の臨床的検討. 日本産科婦人科学会 (第 64 回) (神戸), 2012. 4.
 - 15) 里見操緒, 山下恵理子, 小野修一, 島田 学, 五十嵐美和, 阿部 崇, 八木幸恵, 峯 克也, 桑原慶充, 澤倫太郎, 竹下俊行: 妊娠 10 週以降原因不明胎内死亡のリスク因子に関する検討. 日本産科婦人科学会 (第 64 回) (神戸), 2012. 4.
 - 16) 高屋 茜, 米山剛一, 渡辺美千明, 山田 隆, 阿部裕子, 米澤美令, 中西一步, 白銀 恵, 竹下俊行: 遠位型ミオパチー合併妊娠の 1 例. 日本産科婦人科学会 (第 64 回) (神戸), 2012. 4.
 - 17) 岩崎奈央, 根岸靖幸, 野口 唯, 河合尚基¹⁾, 竹下俊行 (¹⁾ 東京臨海病院): 妊娠悪阻加療中に敗血症ショックを来した症例. 日本産科婦人科学会 (第 64 回) (神戸), 2012. 4.
 - 18) 山口道子, 糸井博美, 柿栖睦実, 間瀬有里, 立山尚子, 西田直子, 深見武彦, 松島 隆, 土居大祐, 可世木久幸, 朝倉啓文, 竹下俊行: 分娩までの子宮頸管腺領域の echogenicity の変化. 日本産科婦人科学会 (第 64 回) (神戸), 2012. 4.
 - 19) 佐藤杏月, 石渡俊行¹⁾, 鴨井青龍, 米山剛一, 土居大祐, 黒瀬圭輔, 山本晃人, 朝倉啓文, 竹下俊行, 内藤善哉¹⁾ (¹⁾ 日本医大統御機構・腫瘍学): 子宮頸部異形成と子宮頸癌における nestin の発現と癌幹細胞との関係. 日本産科婦人科学会 (第 64 回) (神戸), 2012. 4.
 - 20) 市川雅男, 大内 望, 峯 克也, 明楽重夫, 竹下俊行: 骨盤臓器脱に対するダブルメッシュ全腹腔鏡下仙骨陰固定術の術後一年の成績と QOL 評価. 日本産科婦人科学会 (第 64 回) (神戸), 2012. 4.
 - 21) 峯 克也, 桑原慶充, 神戸沙織, 小野修一, 山下恵理子, 阿部 崇, 市川智子, 富山僚子, 西 弥生, 明楽重夫, 竹下俊行: 体外受精に発症した異所性妊娠: リスク因子の検討. 日本産科婦人科学会 (第 64 回) (神戸), 2012. 4.
 - 22) 高橋宏典¹⁾, 菊池郁夫²⁾, 竹下俊行, 松原茂樹¹⁾, 鈴木光明¹⁾, 瀧澤俊広²⁾ (¹⁾ 自治医大, ²⁾ 日本医大分子解剖学): 胎盤栄養膜における接着因子 CD44 の浸潤能と発現制御機構の解析. 日本産科婦人科学会 (第 64 回) (神戸), 2012. 4.
 - 23) 山本晃人, 鴨井青龍, 伊藤麻利江, 島田 学, 黒瀬圭輔, 竹下俊行: 卵巣癌との鑑別に苦慮した骨盤内発現不明癌の 1 例. 東京産科婦人科学会 (第 362 回) (東京), 2012. 5.
 - 24) 中山裕樹¹⁾, 近内勝幸¹⁾, 飯田哲士¹⁾, 松橋智彦, 丸山康世¹⁾, 塚田ひとみ¹⁾, 川瀬里衣子, 小野瀬亮¹⁾, 加藤久盛¹⁾ (¹⁾ 神奈川県立がんセンター): 子宮体癌と頸癌の鑑別診断における細胞診の重要性. 日本臨床細胞学会春期大会 (第 53 回) (千葉), 2012. 6.
 - 25) 米澤美令, 米山剛一, 松本二郎¹⁾, 白銀 恵, 中西一步, 村川裕子, 高屋 茜, 山田 隆, 渡辺美千明, 中井章人, 朝倉啓文, 竹下俊行 (¹⁾ 山王クリニック): 頸管縫縮糸抜糸は羊水塞栓症の危険因子となり得るか. 関東連合産科婦人科学会 (第 123 回) (東京), 2012. 6.
 - 26) 新村裕樹, 松橋智彦, 黒瀬圭輔, 鴨井青龍, 竹下俊行: 卵巣癌に対する化学療法中に発症し, その診断と治療に苦慮したカンジダ性敗血症の 1 例. 関東連合日本産科婦人科学会 (第 123 回) (東京), 2012. 6.
 - 27) 中西一步, 白銀 恵, 米澤美令, 村川裕子, 高屋 茜, 山田 隆, 渡辺美千明, 米山剛一: 卵巣子宮内膜症嚢胞が発生基盤となったと考えられる骨盤内炎症性疾患 (PID) の 3 症例. 関東連合日本産科婦人科学会 (第 123 回) (東京), 2012. 6.
 - 28) 平泉良枝, 小西真理世, 布施由紀子¹⁾, 田村俊之¹⁾, 三浦直美¹⁾, 三浦 敦¹⁾, 三宅秀彦¹⁾, 鈴木俊治¹⁾ (¹⁾ 葛飾赤十字産院): 当院の助産師との協働による分娩のアウトカム検討. 関東連合産科婦人科学会 (第 123 回) (東京), 2012. 6.

- 29) 川端伊久乃, 関口敦子, 奥田直貴, 林 昌子, 印出佑介, 中井章人, 竹下俊行: 症候性前置胎盤に対する progesterone 投与は早産予防に有効か?. 日本周産期・新生児医学会 (第 48 回) (大宮), 2012. 7.
- 30) 柿栖睦実, 深見武彦, 糸井博美, 立山尚子, 西田直子, 松村好克, 松島 隆, 朝倉啓文, 竹下俊行: 妊娠中期に Amniotic fluid sludge が観察され流産に至った 2 症例. 日本周産期・新生児医学会 (第 48 回) (大宮), 2012. 7.
- 31) 米山剛一, 米澤美令, 高屋 茜, 永野玲子, 伊藤麻利江, 中井章人, 朝倉啓文, 竹下俊行: 頸管縮糸抜糸後に発症した致死的羊水塞栓症 2 症例の検討. 日本周産期・新生児医学会 (第 48 回) (大宮), 2012. 7.
- 32) 五十嵐美和, 桑原慶充, 橋本恵理子, 大内 望, 里見操緒, 澤倫太郎, 竹下俊行: 低用量アスピリン療法は胎児動脈管の血流動態に影響するか?. 日本周産期・新生児医学会 (第 48 回) (大宮), 2012. 7.
- 33) 佐藤杏月, 石渡俊行¹⁾, 鴨井青龍, 米山剛一, 土居大祐, 黒瀬圭輔, 山本晃人, 朝倉啓文, 竹下俊行, 内藤善哉¹⁾ (¹⁾ 日本医大統御機構・腫瘍学): 癌幹細胞マーカー nestin の子宮頸部異形成と子宮頸癌における発現と役割. 日本婦人科腫瘍学会 (第 52 回) (東京), 2012. 7.
- 34) 黒瀬圭輔, 浜野愛理, 岩崎奈央, 松橋智彦, 山本晃人, 鴨井青龍, 竹下俊行: 腹水貯留および Douglas 窩播種病変のみられた卵巣原発 Endometrioid adenofibroma の 1 例. 日本婦人科腫瘍学会 (第 52 回) (東京), 2012. 7.
- 35) 丸山康世¹⁾, 飯田哲士¹⁾, 松橋智彦, 近内勝幸¹⁾, 塚田ひとみ¹⁾, 川瀬里衣子, 小野瀬亮¹⁾, 加藤久盛¹⁾, 中山裕樹¹⁾ (¹⁾ 神奈川県立がんセンター): 再発小細胞癌の治療経験. 日本婦人科腫瘍学会 (第 52 回) (東京), 2012. 7.
- 36) 峯 克也, 桑原慶充, 神戸沙織, 小野修一, 阿部 崇, 市川智子, 富山僚子, 田中弥生, 明楽重夫, 竹下俊行: 高度生殖補助医療後の異所性妊娠 発生要因についての検討. 日本受精着床学会 (第 30 回) (大阪), 2012. 8.
- 37) 重見大介, 田村俊之, 佐藤杏月, 松橋智彦, 山本晃人, 川瀬里衣子, 黒瀬圭輔, 米山剛一, 鴨井青龍, 竹下俊行, 寺崎美佳¹⁾, 福田 悠¹⁾ (¹⁾ 日本医大解析人体病理学): 9 年後に再発が認められた Atypical polypoid adenomyoma (APAM) の 1 例. 日本医大医学会 (東京), 2012. 9.
- 38) 新村裕樹, 白銀 恵, 小野修一, 大内 望, 山本晃人, 五十嵐美和, 峯 克也, 桑原慶充, 里見操緒, 澤倫太郎, 鴨井青龍, 竹下俊行: 経筋層的胚移植後, 子宮頸部円錐切除により頸管短縮に対し経腹の子宮頸管縫縮術をした妊婦の 1 例. 日本医大医学会 (80 回) (東京), 2012. 9.
- 39) 池田真利子, 市川雅男, 小野修一, 阿部 崇, 峯 克也, 明楽重夫, 竹下俊行: 当科の低侵襲手術チーム: Minimally invasive surgery (MIS) における腹腔鏡下手術トレーニングシステムについて. 日本医大医学会 (第 80 回) (東京), 2012. 9.
- 40) 明楽重夫: 産科婦人科内視鏡手術ガイドラインについて. 日本産科婦人科内視鏡学会 (第 52 回) (札幌), 2012. 9.
- 41) 市川雅男, 明楽重夫, 峯 克也, 小野修一, 竹下俊行: 重度の Paravaginal defect を伴う骨盤臓器脱に対する新たなハイブリッド腹腔鏡下仙骨腔固定術. 日本産科婦人科内視鏡学会 (第 52 回) (札幌), 2012. 9.
- 42) 峯 克也, 市川雅男, 池田真利子, 小野修一, 黒瀬圭輔, 明楽重夫, 竹下俊行: 経腔回収バックによる安全・確実な 3mm 細径腹腔鏡下卵巣皮様嚢腫摘出術: バスタブ法. 日本産科婦人科内視鏡学会 (第 52 回) (札幌), 2012. 9.
- 43) 池田真利子, 市川雅男, 小野修一, 阿部 崇, 峯 克也, 明楽重夫, 竹下俊行: 当院における腹腔鏡下手術トレーニングシステムについて. 東京産科婦人科学会 (第 363 回) (東京), 2012. 9.
- 44) 寺田佳世子, 山岸絵美, 川端伊久乃, 中尾仁彦, 桑原知仁, 印出佑介, 林 昌子, 奥田直貴, 関口敦子, 中井章人: 未熟奇形腫に腹膜神経膠腫症を合併し術後化学療法中に growing teratoma syndrome を呈した 1 例. 東京産科婦人科学会 (第 363 回) (東京), 2012. 9.
- 45) 峯 克也, 市川雅男, 池田真利子, 小野修一, 黒瀬圭輔, 明楽重夫, 竹下俊行: 経腔回収バックを併用した 3mm

- 細径鉗子による低侵襲腹腔鏡下施術：バスタブ法. 日本産科婦人科手術学会（第35回）（京都），2012. 9.
- 46) 重見大介, 田村俊之, 関根仁樹¹⁾, 松橋智彦, 山本晃人, 川瀬里衣子, 黒瀬圭輔, 米山剛一, 鴨井青龍, 竹下俊行¹⁾ 墨東病院産婦人科)：初発から9年を経て再発した Atypical polypoid adenomyoma (APAM) の1例. 関東連合産科婦人科学会（第124回）（山梨），2012. 10.
- 47) 新村裕樹, 白銀 恵, 小野修一, 大内 望, 山本晃人, 五十嵐美和, 峯 克也, 桑原慶充, 里見操雄, 澤倫太郎, 鴨井青龍, 竹下俊行：子宮頸部円錐切除後の頸管短縮に対し経腹的子宮頸管縫縮術を施行した経筋層的胚移植後妊娠の1例. 関東連合産科婦人科学会（第124回）（山梨），2012. 10.
- 48) 桑原慶充, 富山僚子, 小野修一, 山下恵理子, 峯 克也, 明楽重夫, 竹下俊行：周排卵期のマウス卵巣における, オステオポンチンの発現調節及び局在解析. 日本生殖医学会（第57回）（長崎），2012. 11.
- 49) 小野修一, 阿部 崇, 富山僚子, 峯 克也, 桑原慶充, 明楽重夫, 竹下俊行：比較的高齢不育症症例における流産リスク因子の検討. 日本生殖医学会（第57回）（長崎），2012. 11.
- 50) 川瀬里衣子, 黒瀬圭輔, 鴨井青龍, 松原美幸¹⁾, 大橋隆治¹⁾, 土屋眞一¹⁾, 竹下俊行¹⁾ 日本医大病院病理部)：頸癌との鑑別に細胞診が有用であった子宮体癌の1例. 日本臨床細胞学会秋期大会（第51回）（新潟），2012. 11.
- 51) 中山裕樹¹⁾, 加藤久盛¹⁾, 佐治晴哉³⁾, 宮城悦子²⁾, 松橋智彦, 飯田哲士¹⁾, 丸山康世¹⁾, 小野瀬亮¹⁾, 近内勝幸¹⁾, 平原史樹²⁾ ¹⁾ 神奈川県立がんセンター, ²⁾ 横浜市立大, ³⁾ 小田原市立病院)：神奈川県における無料クーポン使用状況と若年者の検診への誘導. 日本臨床細胞学会秋期大会（第51回）（新潟），2012. 11.
- 52) 塚田ひとみ¹⁾, 中沢和美¹⁾, 松井成明²⁾, 佐藤慎吉³⁾, 松橋智彦, 飯田哲士⁴⁾, 丸山康世⁴⁾, 小野瀬亮⁴⁾, 加藤久盛⁴⁾, 中山裕樹⁴⁾ ¹⁾ 東海大付属大磯病院婦人科, ²⁾ 東海大付属大磯病院病理検査科, ³⁾ 東海大付属大磯病院病理診断科, ⁴⁾ 神奈川県立がんセンター)：子宮体癌における腹腔細胞診陽性例の予後および細胞増殖能の検討. 日本臨床細胞学会秋期大会（第51回）（新潟），2012. 11.
- 53) 彭 為霞¹⁾, 佐藤杏月, 高屋 茜, 釜口晴美²⁾, 土屋眞一³⁾, 内藤善哉¹⁾ ¹⁾ 日本医大統御機構・腫瘍学, ²⁾ 日本医大病院病理部)：40代に発生した卵巣癌肉腫の1例. 日本臨床細胞学会秋期大会（第51回）（新潟），2012. 11.
- 54) 佐藤杏月, 彭 為霞¹⁾, 寺崎美佳²⁾, 葉山綾子³⁾, 松原美幸³⁾, 鴨井青龍, 朝倉啓文, 竹下青龍, 土屋眞一⁴⁾, 内藤善哉⁴⁾ ¹⁾ 日本医大統御機構・腫瘍学, ²⁾ 日本医大解析人体病理学, ³⁾ 日本医大病院病理部)：細胞診でポリープ状異型腺筋腫 (Atypical polypoid adenomyoma: APAM) が疑われた1例. 日本臨床細胞学会秋期大会（第51回）（新潟），2012. 11.
- 55) 小野修一, 明楽重夫, 池田真利子, 峯 克也, 市川雅男, 竹下俊行：当院における子宮筋腫に対する腹腔鏡手術の工夫. 日本内視鏡外科学会（第25回）（横浜），2012. 12.
- 56) 桑原慶充, 片山 映, 富山僚子, 朴 華, 米澤美令, 橋本恵理子, 小野修一, 峯 克也, 明楽重夫, 竹下俊行¹⁾ 日本医大生化学・分子生物学)：周排卵期のマウス卵巣におけるオステオポンチンの発現・局在・機能についての解析. 日本生殖免疫学会（第27回）（大阪），2012. 12.
- 57) 瀧澤俊広¹⁾, 岩城 隼¹⁾, 吉武 洋¹⁾, 石川朋子²⁾, 瀧澤敬美¹⁾, 三嶋拓也¹⁾, 程久美子³⁾, 竹下俊行, 松原茂樹⁴⁾ ¹⁾ 日本医大分子解剖学, ²⁾ お茶の水女子大生活環境教育研究センター, ³⁾ 東京大生物化学専攻, ⁴⁾ 自治医大産婦人科)：胎盤血管内皮細胞においてRAB3はIgG輸送体であるIIb型Fc受容体を含む小胞の輸送能を調節している. 日本生殖免疫学会（第27回）（大阪），2012. 12.
- 58) 根岸靖幸, 清水真澄¹⁾, 若林あや子¹⁾, 市川智子, 竹下俊行, 高橋秀実¹⁾ ¹⁾ 日本医大微生物免疫学)：妊娠マウスにおける樹状細胞亜分画く変動とIL-12産生. 日本生殖免疫学会（第27回）（大阪），2012. 12.
- 59) 菊池邦生¹⁾, アリモハメド¹⁾, 岩城 隼¹⁾, 吉武 洋¹⁾, 瀧澤敬美¹⁾, 石川 源, 松原茂樹²⁾, 竹下俊行, 瀧澤俊広¹⁾ ¹⁾ 日本医大分子解剖学, ²⁾ 自治医大産婦人科)：microRNAの網羅的解析手法と生殖免疫学分野での応用. 日本生殖免疫学会（第27回）（大阪），2012. 12.

- 60) 市川雅男, 明楽重夫: 術中出血・尿管損傷回避のための目に見える TVM 手術+ソフトカダバーによる解剖学的検証. TVM 研究会 (福岡), 2013. 3.
- 61) 重見大介, 峯 克也, 小野修一, 市川雅男, 明楽重夫, 竹下俊行, 吉田 淳¹⁾ (1) 木場公園クリニック): 妊娠成立後に月経様出血, 卵胞発育様エコー像, 基礎体温の二相性変化を認め診断に苦慮した異所性妊娠の1例. 東京産科婦人科学会 (第365回) (東京), 2013. 2.
- 62) 重見大介, 明楽重夫, 大内 望, 小野修一, 峯 克也, 市川雅男, 竹下俊行: ジェノゲストの卵巣チョコレート嚢胞摘出術後の再発予防における有用性の検討. 日本エンドメトリオーシス学会 (第34回) (栃木), 2013. 1.
- 63) 池田真利子, 明楽重夫, 渋井庸子, 小野修一, 峯 克也, 市川雅男, 竹下俊行: 卵巣嚢胞摘出術後の卵巣予備能の評価は, FSH よりも AMH の方が鋭敏である. 日本エンドメトリオーシス学会 (第34回) (栃木), 2013. 1.
- 64) 桑原 章, 苛原 稔, 斉藤英和, 石原 理, 久具宏司, 澤倫太郎, 堀 大蔵, 津田尚武, 阪埜浩司, 榊原秀也, 平原史樹, 渡部 洋: 生殖補助医療により一卵性多胎は増加している. 日本産科婦人科学会 (第64回), 2012. 4.

[武蔵小杉病院女性診療科・産科]

研究概要

1. 超音波画像診断 妊娠初期胎児および周産期における胎児超音波診断に加え, 1) 常位胎盤早期剥離における早期超音波像の研究, 2) 超音波画像から見た前置胎盤の出血量の予測, 3) 子宮頸管無力症における超音波画像変化, 産婦人科内視鏡学 新しい内視鏡治療器具の開発や内視鏡手術による卵管通水と子宮内膜症と不妊症の関連研究などが行われている 3. 婦人科腫瘍 1) 子宮頸癌健診における日母分類の改定や HPV との関連についての研究, 2) 卵巣癌における抗がん剤の効果および副作用の研究

研究業績

論文

[追加分]

追加分原著:

- 1) 柿栖睦実¹⁾, 関口敦子¹⁾, 川端伊久乃¹⁾, 中井章人¹⁾, 朝倉啓文¹⁾, 竹下俊行¹⁾ (1) 日本医科大学病院産婦人科学教室): HELLP 症候群の重症度と子癇発症との関連性. 日本妊娠高血圧学会誌 2012; 20: 7-12.
- 2) Ishibashi O, Ohkuchi A, Ali M, Kurashina R, Luo S, Ishikawa T, Takizawa T, Hirashima C, Takahashi K, Migita M, Ishikawa G, Yoneyama K, Asakura H, Izumi A, Matsubara S, その他2名: Hydroxysteroid (17-B) dehydrogenase 1 is dysregulated by miR-210 and miR-518c that are aberrantly expressed in pre-eclamptic. Hypertension 2012; 59 (2): 265-273.

(1) 原著:

- 1) 杉浦 賢¹⁾, 土居大祐¹⁾, 林 康子¹⁾, 加藤久盛¹⁾, 東條龍太郎¹⁾ (1) 神奈川県産科婦人科医会婦人科悪性腫瘍対策部): 平成22年度神奈川県産科婦人科医会婦人科悪性腫瘍登録集計報告. 神奈川産科婦人科学会誌 2012; 49 (1): 10-13.
- 2) 杉浦 賢¹⁾, 土居大祐¹⁾, 林 康子¹⁾, 加藤久盛¹⁾, 東條龍太郎¹⁾ (1) 神奈川県産科婦人科医会婦人科悪性腫瘍対策部): 平成23年度神奈川県産科婦人科医会婦人科悪性腫瘍登録集計報告. 神奈川産科婦人科学会誌 2013; 49 (2): 60-64.
- 3) Tateyama N, Asakura H, Takeshita T: Correlation between an absence of cervical gland area on transvag. J Perinat Med 2012; 41 (2): 151-157.

- 4) Sato A^{1,2)}, Ishiwata T¹⁾, Mathuda Y¹⁾, Yamamoto T¹⁾, Asakura H²⁾, Takeshita T²⁾, Naito Z¹⁾ (1) Departments of Pathology and Integrative Oncological Pathology, Nippon Medical School, Tokyo, 2) Division of Reproductive Medicine, Perinatology and Gynecologic Oncology Graduate School of Medicine, Perinatology and Gynecologic Oncology, Graduate, 3) School of Medicine, Nippon Medical School, Tokyo) : Expression and role of nestin in human cervical intraepithelial neoplasia and cervical cancer. International J of Oncology 2012 ; 41 (2) : 441-448.
- 5) Mase Y, Ishibashi O, Ishikawa T, Takizawa T, Kiguchi K, Ohba T, Katabuchi H, Takeshita T, Takizawa T : MiR-21 is Enriched in the RNA-induced Silencing Complex and Targets COL4A1 in Human Granulosa Cell Lines. Reproductive Sciences 2012 ; 19 (10) : 1030-1040.

(2) 総説 :

- 1) 朝倉啓文, 土居大祐 : 骨盤位, 横位の帝王切開術. 産婦人科の実際 2012 ; 61 (6) : 873-878.
- 2) 松島 隆, 深見武彦, 朝倉啓文 : 切迫早産の診断と管理. 産婦人科の実際 2012 ; 61 (7) : 965-971.
- 3) 朝倉啓文, 深見武彦, 矢代健太郎, 松村好克, 土居大祐 : 地域周産期母子医療センター : 当院の現状と問題点. 産婦人科の実際 2012 ; 61 (13) : 2061-2067.

著 書

- 1) 松島 隆, 竹下俊行¹⁾ (1) 日本医科大学産婦人科学教室) : [分担] 第10章…画像診断読影のコツ c. CT. 改訂第2版 MFICU-母体・胎児ICU-マニュアル (MFICU (周産期医療) 連絡協議会), 2013 ; pp569-577, メディカ出版.
- 2) 朝倉啓文 : [自著] 異所性妊娠. 周産期診療ワークショップ (日本周産期新生児医学会, 教育研修委員会), 2012 ; pp2-5, メジカルビュー社.
- 3) 朝倉啓文 : [自著] 帝王切開後経膈分娩. 今日の治療指針 (山口徹, 北原光夫, 福井次矢), 2013 ; p1136, 医学書院.

学会発表

[追加分]

追加分一般講演 :

- 1) 朝倉啓文 : 妊娠高齢化の中, 帝王切開の増加を考える. 日本医科大学同窓会総会 (平成 24 年度) (東京), 2012. 1.

(1) 一般講演 :

- 1) 柿栖陸実, 森 瑛子, 加藤雅彦, 糸井博美, 間瀬有里, 立山尚子, 西田直子, 深見武彦, 松島 隆, 土居大祐, 可世木久幸, 朝倉啓文 : 多彩な組織型を含む卵巣原発 carcinosarcoma の 1 症例. 関東連合産科婦人科学会総会・学術集会 (123 回) (東京), 2012. 6.
- 2) 柿栖陸実¹⁾, 関口敦子²⁾, 川端伊久乃²⁾, 中井章人²⁾, 朝倉啓文¹⁾, 竹下俊行³⁾ (1) 日本医科大学武蔵小杉病院女性診療科・産科, 2) 日本医科大学多摩永山病院女性診療科・産科, 3) 日本医科大学付属病院女性診療科・産科) : HELLP 症候群重症度と子癇発症の関連性. 日本妊娠高血圧学会 (第 33 回) (長崎), 2012. 9.
- 3) 中尾仁彦, 立山尚子, 土居大祐, 稲垣知子, 野口 唯, 糸井博美, 柿栖陸実, 山口道子, 西田直子, 深見武彦, 松島 隆, 可世木久幸, 朝倉啓文 : 破裂を期した悪性ブレンナー腫瘍の 1 例. 神奈川産科婦人科学会学術講演会 (第 399 回) (神奈川), 2012. 9.
- 4) 稲垣知子, 間瀬有里, 野口 唯, 糸井博美, 柿栖陸実, 山口道子, 立山尚子, 西田直子, 深見武彦, 土居大祐, 可世木久幸, 朝倉啓文 : 産褥心筋症の 1 例. 神奈川産科婦人科学会学術講演会 (第 398 回) (神奈川), 2012. 7.

- 5) 杉浦 賢¹⁾, 土居大祐¹⁾, 林 康子¹⁾, 加藤久盛¹⁾, 東條龍太郎¹⁾ (¹⁾ 神奈川県産科婦人科医会 悪性腫瘍対策本部) :平成 23 年度婦人科悪性腫瘍登録集計報告. 神奈川産科婦人科学会学術講演会 (第 398 回) (神奈川), 2012. 7.
- 6) 佐藤杏月^{1, 4)}, 為霞¹⁾, 寺崎美佳²⁾, 葉山綾子³⁾, 松原美幸³⁾, 鴨居青龍⁴⁾, 朝倉啓文⁴⁾, 竹下俊行⁴⁾, 土屋眞一³⁾, 内藤善哉¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学病理学教室 (統御機構・腫瘍学), ²⁾ 日本医科大学病理学教室 (解析人体病理学), ³⁾ 日本医科大学付属病院病理部, ⁴⁾ 日本医科大学産婦人科学教室) :細胞診でポリープ状異型腺筋腫 (Atypical polypoid adenomyoma : APAM) が疑われた 1 例. 日本臨床細胞学会秋期大会 (第 51 回) (新潟), 2012. 11.
- 7) 糸井博美¹⁾, 土居大祐¹⁾, 佐藤杏月¹⁾, 松島 隆¹⁾, 中村祐司²⁾, 永井祥子²⁾, 前本直子²⁾, 許田展男²⁾, 北山康彦¹⁾, 朝倉啓文 (¹⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院女性診療科・産科, ²⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院病理部) :ポリープ状異型腺筋腫 (APAM) を再発した症例の子宮内膜細胞診の検討. 日本臨床細胞学会秋期大会 (第 51 回) (新潟), 2012. 11.
- 8) 稲垣知子, 西田直子, 深見武彦, 野口 唯, 糸井博美, 柿栖陸実, 山口道子, 立山尚子, 松島 隆, 土居大祐, 朝倉啓文 :死産を繰り返した原発性アルドステロン症合併妊娠の 1 例. 日本医科大学医学会総会 (第 80 回) (東京), 2012. 9.
- 9) 松村好克¹⁾, 矢代健太郎¹⁾, 柿栖陸実²⁾, 糸井博美²⁾, 立山尚子²⁾, 西田直子²⁾, 深見武彦²⁾, 松島 隆²⁾, 朝倉啓文²⁾, 竹下俊行²⁾, 川滝元良³⁾ (¹⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院新生児内科, ²⁾ 日本医科大学武蔵小杉女性診療科・産科, ³⁾ 神奈川県立こども医療センター新生児科) :出生前診断し得た心内合併異常のない修正大血管転位 (isolated ccTGA) の 1 例. 日本周産期・新生児医学会総会および学術集会 (埼玉), 2012. 7.
- 10) 柿栖陸実, 深見武彦, 糸井博美, 立山尚子, 西田直子, 松村好克, 松島 隆, 朝倉啓文, 竹下俊行 :妊娠中期に Amniotic fluid sludge が観察され流産に至った 2 症例. 日本周産期・新生児医学会総会および学術集会 (第 48 回) (埼玉), 2012. 7.
- 11) 佐藤杏月^{1, 2)}, 石渡俊行²⁾, 鴨居青龍¹⁾, 米山剛一¹⁾, 土居大祐¹⁾, 黒瀬圭輔¹⁾, 山本晃人¹⁾, 朝倉啓文¹⁾, 竹下俊行¹⁾, 内藤善哉²⁾ (¹⁾ 日本医科大学産婦人科学教室, ²⁾ 日本医科大学病理学教室 (統御機構・腫瘍学)) :癌幹細胞マーカー nestin の子宮頸部異形成と子宮頸癌における発現と役割. 日本婦人科腫瘍学会学術講演会 (第 52 回) (東京), 2012. 7.
- 12) 柿栖陸実, 加藤雅彦, 佐藤杏月, 松島 隆, 土居大祐, 可世木久幸, 朝倉啓文 :多彩な組織型をしました卵巣癌肉腫の 1 例. 日本婦人科腫瘍学会学術講演会 (第 52 回) (東京), 2012. 7.
- 13) 川端伊久乃, 林 昌子, 中西一步, 山岸絵美, 桑原知仁, 高橋恵理佳, 橋本恵理子, 印出佑介, 奥田直貴, 石川源, 関口敦子, 明楽重夫, 中井章人, 朝倉啓文, 竹下俊行, その他 2 名 (¹⁾ 日本医科大学産婦人科学教室) :「分娩後約 20000ml の大量出血を来し, Sheehan 症候群および両下肢末梢神経障害を発症した 1 例. 四水会 (第 367 回) (東京), 2012. 6.
- 14) 深見武彦, 西田直子, 森 瑛子, 松村好克, 立山尚子, 糸井博美, 柿栖陸実, 松島 隆, 土居大祐, 可世木久幸, 朝倉啓文, 竹下俊行 :妊娠中期に Amniotic fluid sludge を認めた切迫早産の 4 症例. 日本産科婦人科学会学術講演会 (第 64 回) (兵庫), 2012. 4.
- 15) 山口道子, 糸井博美, 柿栖陸実, 間瀬有里, 立山尚子, 西田直子, 深見武彦, 松島 隆, 土居大祐, 可世木久幸, 朝倉啓文, 竹下俊行 :分娩までの子宮頸管腺領域の echogenicity の変化. 日本産科婦人科学会学術講演会 (第 64 回) (兵庫), 2012. 4.
- 16) 佐藤杏月, 石渡俊行, 鴨居青龍, 米山剛一, 土居大祐, 黒瀬圭輔, 山本晃人, 朝倉啓文, 竹下俊行, 内藤善哉 (¹⁾ 日本医科大学産婦人科学教室, ²⁾ 日本医科大学病理学教室 (統御機構・腫瘍学)) :子宮頸部異形成と子宮頸癌における nestin の発現と癌幹細胞との関係. 日本産科婦人科学会学術講演会 (第 64 回) (兵庫), 2012. 4.
- 17) 米澤美令, 米山剛一, 松本二郎, 白銀 恵, 中西一步, 村川裕子, 高屋 茜, 山田 隆, 渡辺三千明, 中井章

人：頸管縫縮糸抜糸は羊水塞栓の危険因子となり得るか。日本周産期・新生児学会総会および学術集会（埼玉），2012. 7.

- 18) 吉田智香子¹⁾，藤原寛行¹⁾，竹井祐二¹⁾，土居大祐，朝倉啓文，多田宏美²⁾，香坂信明²⁾，渡部 博²⁾，深沢一雄（¹⁾ 自治医科大学病院産婦人科，²⁾ 獨協大学病院産婦人科，³⁾ 慈恵医科大学第三病院産婦人科）：外科的介入を要した妊娠合併卵巣腫瘍 191 症例の臨床的特徴。日本産科婦人科学会学術講演会（兵庫），2012. 4.
- 19) 米山剛一¹⁾，米澤美令¹⁾，高屋 茜¹⁾，長野玲子¹⁾，伊藤麻利江¹⁾，中井章人¹⁾，朝倉啓文¹⁾，竹下俊行¹⁾（¹⁾ 日本医科大学病院産婦人科学教室）：頸管砲縮術抜糸後に発症した致死性の羊水塞栓症 2 例の検討。日本周産期・新生児学会総会および学術集会（埼玉），2012. 7.
- 20) 川端伊久乃，中井章人，石川 源，関口敦子，朝倉啓文，竹下俊行：妊娠高血圧症候群，HELLP 症候群における母体肝血流量評価。日本妊娠高血圧学会（第 33 回）（長崎），2012. 9.
- 21) 柿栖睦実，立山尚子，稲垣知子，中尾仁彦，野口 唯，糸井博美，山口道子，西田直子，深見武彦，松島 隆，土居大祐，朝倉啓文：白血球異常高値を示した淋菌症腹膜炎の 1 例。神奈川県感染症学会（第 13 回）（横浜），2012.
- 22) 石川真由美¹⁾，立山尚子²⁾，望月 徹³⁾，大場るり子¹⁾，中島敏晶¹⁾，南 史朗¹⁾（¹⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院内分泌・糖尿病・動脈硬化内科，²⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院女性診療科・産科，³⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院感染制御部）：エルシニア感染症を伴った糖尿病合併妊娠の 1 例。日本内科学会関東地方会，2013. 3.
- 23) 澤田真紀¹⁾，竹田善治¹⁾，三宅秀彦¹⁾，石川浩史¹⁾，林龍之介¹⁾，田中 守¹⁾，谷垣伸治¹⁾，大浦則章¹⁾，牧野真太郎¹⁾，田島 敦¹⁾，青木弘子¹⁾，荒川 香¹⁾，正岡直樹¹⁾，青木宏明¹⁾，木戸浩一郎¹⁾，その他 14 名（¹⁾ 日本早産予防研究会）：前置胎盤の周産期予後に関する他施設共同研究。日本産科婦人科学会学術講演会（兵庫），2012. 4.
- 24) Sato A^{1,2)}，Ishiwata T¹⁾，Yamamoto T¹⁾，Mathuda Y²⁾，Asakura H²⁾，Takeshita T¹⁾，Naito Z（¹⁾ Departments of Pathology and Integrative Oncological Pathology, Nippon Medical School, Tokyo, Japan, ²⁾ Division of Reproductive Medicine, Perinatology and Gynecologic Oncology Graduate School of Medicine Nippon Medical School, Tokyo, Japan）：Role of stem cell marker, nestin in human uterine cervical intraepithelial neoplasia and cervical cancer. AACR（第 103 回）（Chicago），2012. 4.
- 25) 佐藤杏月^{1,2)}，石渡俊行¹⁾，山本哲志¹⁾，松田陽子¹⁾，朝倉啓文²⁾，竹下俊行²⁾，内藤善哉¹⁾（¹⁾ 日本医科大学病理学講座（統御機構・腫瘍学），²⁾ 日本医科大学産婦人科学講座）：子宮頸部異形成と子宮頸癌における nestin の発現と cancer stem cell との関連。日本病理学会総会（第 101 回）（東京），2012. 4.

[多摩永山病院女性診療科・産科]

研究概要

本年度の当教室の研究内容は以下の如くである。(1) 妊婦とスポーツ；妊婦スポーツの安全性や効果について、身体的及び精神的側面から幅広く研究を行っている。身体面では、活性酸素や抗酸化物質の測定によるトレーニング効果の評価や超音波パルスドプラ、脈波伝導速度を用いた運動中の母児の血行動態変化、心機能評価をはじめ、スポーツが妊娠、分娩に与える影響・予後を広範囲に調査している。産褥期の子宮復古、母乳栄養確立母胎の睡眠障害や妊娠中のマイナートラブルに与える影響などについて、興味深い成績をあげている。(2) 周産期領域；臨床面では、妊娠高血圧症候群・子宮内胎児発育不全に対し、超音波断層法・生化学検査などを用いその病態生理の解明を行っている。超音波断層法による母体腎・肝臓の観察では新たな視点から、妊娠高血圧症候群、胎児心拍数図の解析に対し有益なデータが集積しつつある。切迫早産に腔内洗浄治療・黄体ホルモン投与などの治療を行い早産の予防効果を上げている。また、胎児・新生児低酸素脳症に関する動物実験を行い、脳内エネルギー代謝やミトコンドリア機能と虚血灌流傷害の関係を検討している。

研究業績

論文

〔追加分〕

追加分症例報告：

- 1) 印出佑介, 滝本佳世子, 高橋恵理佳, 尾崎景子, 中尾仁彦, 山岸絵美, 桑原知仁, 林 昌子, 奥田直貴, 川端伊久乃, 関口敦子, 中井章人：胎児腹腔内臍帯静脈瘤の管理例と文献的考察. 関東産婦誌 2012 ; 49 (1) : 95-100.

(1) 原著：

- 1) Nakai A¹⁾, Saito S⁴⁾, Unno N²⁾, Kubo T³⁾, Minakami H⁵⁾ (1) Department of Obstetrics and Gynecology, Nippon Medical School, 2) Department of Obstetrics and Gynecology, Kitasato University, 3) Department of Maternal Fetal and Neonatal Medicine, National Center for Child Health and Development, Tokyo, 4) Department of Obstetrics and Gynecology, University of Toyama, 5) Department of Obstetrics, Hokkaido University Graduate School of Medicine, Sapporo, Japan) : Review of the pandemic (H1N1) 2009 among pregnant Japanese women. J Obstet Gynaecol Res 2012 ; 38 (5) : 757-762.
- 2) 中井章人：第64回日本産科婦人科学会・学術講演会：会長特別企画ワークショップ：東日本大震災から一年：現状と提言：1. 東日本大震災による周産期医療への影響. 日産婦誌 2012 ; 64 (8) : 1788-1792.
- 3) Kawabata I¹⁾, Nakai A¹⁾, Sekiguchi A¹⁾, Inoue Y²⁾, Takeshita T¹⁾ (1) Department of Obstetrics and Gynecology, Nippon Medical School, Tokyo, Japan, 2) Inoue Ladies Clinic, Tokyo, Japan) : The effect of regular exercise training during pregnancy on postpartum brachial-ankle pulse wave velocity, a measure of arterial stiffness. Journal of Sports Science and Medicine 2012 ; 11 : 489-494.
- 4) Unno N¹⁾, Minakami H²⁾, Kubo T⁷⁾, Fujimori K³⁾, Ishiwata I⁴⁾, Terada H⁵⁾, Saito S⁶⁾, Yamaguchi I⁵⁾, Kunugita N⁵⁾, Nakai A⁸⁾, Yoshimura Y⁹⁾ (1) Department of Obstetrics and Gynecology, Kitasato University, School of Medicine, Sagami-hara, 2) Department of Obstetrics and Gynecology, Hokkaido University Graduate School of Medicine, Sapporo, 3) Department of Obstetrics and Gynecology, School of Medicine, Fukushima Medical University, Fukushima, 4) Ishiwata Obstetrics and Gynecologic Hospital, Mito, 5) Department of Environmental Health, National Institute of Public Health, Wako, 6) Department of Obstetrics and Gynecology, Graduate School of Medicine and Pharmaceutical Science, University of Toyama, Toyama, 7) Department of Maternal-Fetal and Neonatal Medicine, National Center for Child Health and Development, 8) Department of Obstetrics and Gynecology, Tama-Nagayama Hospital, Nippon Medical School, 9) Department of Obstetrics and Gynecology, Keio University School of Medicine, Tokyo, Japan) : Effect of the Fukushima nuclear power plant accident on radioiodine (131I) content in human breast milk. J Obstet Gynaecol Res 2012 ; 38 (5) : 772-779.
- 5) Innde Y, Ryu A¹⁾, Matsushita N¹⁾, Sekiguchi A, Nakai A, Takeshita T²⁾ (1) Department of Obstetrics and Gynecology, Bern Forest Clinic, 2) Department of Obstetrics and Gynecology, Nippon Medical School) : “Double eyes” sign of congenital bilateral dacryocystoceles. J Med Ultrasonics 2013 ; 40 (1) : 77-79.
- 6) Sekiguchi A¹⁾, Okuda N¹⁾, Kawabata I¹⁾, Nakai A¹⁾, Takeshita T²⁾ (1) Department of Obstetrics and Gynecology, Nippon Medical School Tama Nagayama Hospital, 2) Department of Obstetrics and Gynecology, Nippon Medical School Hospital) : Ultrasound detection of lacunae-like image of a cesarean scar pregnancy in the first trimester. J Nippon Med Sch 2013 ; 80 (1) : 70-73.

(2) 総説：

- 1) 川端伊久乃：産婦人科オフィス診療指針：保険診療上の留意点を含めて；周産期分野；9. 切迫早産. 産科と婦人科 2012 ; 79 (増刊) : 55-59.

- 2) 林 昌子, 中井章人: 特集: CTG テキストブック 2012: 日本母体胎児学会共同企画: 臨床編: トレーニングの実際. 周産期医学 2012; 42 (4): 501-505.
- 3) 川端伊久乃: 特集: 早産リスク: 最新の評価と対策: 各論: プロゲステロン使用の有効性. 産婦人科の実際 2012; 61 (4): 637-642.
- 4) 印出佑介¹⁾, 高橋恵理子¹⁾, 山口 暁²⁾, 横田明重²⁾, 山口 稔²⁾, 竹下俊行¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学産婦人科, ²⁾ 山口病院産婦人科): 母児 CMV (cytomegalovirus) screening の実施成績. 産婦人科の実際 2012; 61 (5): 795-802.
- 5) 林 昌子, 中井章人, 松田義雄¹⁾ (¹⁾ 東京女子医科大学母子総合医療センター): 特集: 不妊と周産期医療: 産科の立場から: データベースからみた ART 妊娠: 単胎妊娠. 周産期医学 2012; 42 (8): 1005-1010.
- 6) 林 昌子, 中井章人, 松田義雄¹⁾ (¹⁾ 東京女子医科大学母子総合医療センター): 特集: 不妊と周産期医療: 産科の立場から: データベースからみた ART 妊娠: 多胎妊娠. 周産期医学 2012; 42 (8): 1011-1016.
- 7) 関口敦子, 中井章人: 今月の臨床: 前置胎盤と癒着胎盤: ワンランク上の診断と治療: 前置胎盤: 前置胎盤・低置胎盤の臨床経過と管理. 臨産婦 2012; 66 (9): 724-729.
- 8) 与田仁志¹⁾, 中井章人 (¹⁾ 東邦大学医学部新生児科): 第30回周産期学シンポジウム 2012「長期予後からみた出生前診断症例における周産期管理の再評価: 長期予後からみた出生前診断と治療: シンポジウムのまとめ. 周産期学シンポジウム抄録集 2012; (30): 75-76.
- 9) 関口敦子, 中井章人: 特集: 周産期と腎: 妊娠中の腎尿路系の変化: 卵巣静脈症候群を含む. 周産期医学 2012; 42 (9): 1095-109.
- 10) 中井章人: 特集: 産婦人科医療の未来の予測: ライフスタイルと仕事: 男性産婦人科医師の未来予想図. 産婦人科の実際 2012; 61 (10): 1503-1511.
- 11) 川端伊久乃, 中井章人: 特集: 超音波検査から何が分かる?: 7. 切迫早産, 子宮筋腫・卵巣腫瘍合併妊娠と超音波検査. BIRTH 2012; 1 (8): 53-61.
- 12) 川端伊久乃: Q&A で学ぶお母さんと赤ちゃんの栄養: 産科編: 妊娠～妊娠中: 生野菜は苦手です. 代わりに野菜ジュースを飲んでもいいですか?. 周産期医学 2012; 42 (増刊): 49-50.
- 13) 川端伊久乃: Q&A で学ぶお母さんと赤ちゃんの栄養: 基礎と臨床: 母体: 1. 母体総論栄養の基礎: 市販飲料水(軟水・硬水, スポーツドリンク)の種類と選び方. 周産期医学 2012; 42 (増刊): 279-282.
- 14) 中井章人: Q&A で学ぶお母さんと赤ちゃんの栄養: 基礎と臨床: 母体: 2. 妊娠中の栄養と食事: 妊娠中の運動と食事. 周産期医学 2012; 42 (増刊): 317-320.
- 15) 中井章人: 特集: 周産期施設の設置要件と実情: 10. オープン・セミオープンシステムを用いたネットワーク診療. 産婦人科の実際 2012; 61 (13): 2095-2099.
- 16) 寺田佳世子, 中井章人: 助産師だからこそ知っておきたい術前・術後の管理とケアの実践: 帝王切開のすべて: 第3章帝王切開の適応を押さえよう: 第1節母体要因での適応: 1. 妊娠高血圧症候群. ペリネイタルケア 2013; (新春増刊): 50-50.
- 17) 寺田佳世子, 中井章人: 助産師だからこそ知っておきたい術前・術後の管理とケアの実践: 帝王切開のすべて: 第3章帝王切開の適応を押さえよう: 第1節母体要因での適応: 2. 妊娠糖尿病. ペリネイタルケア 2013; (新春増刊): 51-51.
- 18) 寺田佳世子, 中井章人: 助産師だからこそ知っておきたい術前・術後の管理とケアの実践: 帝王切開のすべて: 第3章帝王切開の適応を押さえよう: 第1節母体要因での適応: 3. 児頭骨盤不均衡 (CPD). ペリネイタルケア 2013; (新春増刊): 52-53.
- 19) 寺田佳世子, 中井章人: 助産師だからこそ知っておきたい術前・術後の管理とケアの実践: 帝王切開のすべて: 第3章帝王切開の適応を押さえよう: 第1節母体要因での適応: 3. 児頭骨盤不均衡 (CPD). ペリネイタルケア 2013; (新春増刊): 52-53.

- 20) 寺田佳世子, 中井章人: 助産師だからこそ知っておきたい術前・術後の管理とケアの実践: 帝王切開のすべて: 第3章帝王切開の適応を押さえよう: 第1節母体要因での適応: 4. 子宮筋腫核出術既往. ペリネイタルケア 2013; (新春増刊): 54-54.
- 21) 山岸絵美, 中井章人: 助産師だからこそ知っておきたい術前・術後の管理とケアの実践: 帝王切開のすべて: 第3章帝王切開の適応を押さえよう: 第1節母体要因での適応: 5. 前置胎盤・低置胎盤. ペリネイタルケア 2013; (新春増刊): 55-55.
- 22) 山岸絵美, 中井章人: 助産師だからこそ知っておきたい術前・術後の管理とケアの実践: 帝王切開のすべて: 第3章帝王切開の適応を押さえよう: 第1節母体要因での適応: 6. 既往帝王切開. ペリネイタルケア 2013; (新春増刊): 56-56.
- 23) 桑原知仁, 中井章人: 助産師だからこそ知っておきたい術前・術後の管理とケアの実践: 帝王切開のすべて: 第3章帝王切開の適応を押さえよう: 第1節母体要因での適応: 7. 感染症 (単純ヘルペスウイルス, HIV). ペリネイタルケア 2013; (新春増刊): 57-58.
- 24) 桑原知仁, 中井章人: 助産師だからこそ知っておきたい術前・術後の管理とケアの実践: 帝王切開のすべて: 第3章帝王切開の適応を押さえよう: 第1節母体要因での適応: 8. 切迫早産. ペリネイタルケア 2013; (新春増刊): 59-59.
- 25) 浜野愛理, 中井章人: 助産師だからこそ知っておきたい術前・術後の管理とケアの実践: 帝王切開のすべて: 第3章帝王切開の適応を押さえよう: 第1節母体要因での適応: 9. 胎盤早期剥離. ペリネイタルケア 2013; (新春増刊): 60-60.
- 26) 浜野愛理, 中井章人: 助産師だからこそ知っておきたい術前・術後の管理とケアの実践: 帝王切開のすべて: 第3章帝王切開を押さえよう: 第1節母体要因での適応: 10. 切迫子宮破裂. ペリネイタル 2013; (新春増刊): 61-61.
- 27) 橋本恵理子, 中井章人: 助産師だからこそ知っておきたい術前・術後の管理とケアの実践: 帝王切開のすべて: 第3章帝王切開を押さえよう: 第2節胎児要因での適応: 1. 骨盤位. ペリネイタルケア 2013; (新春増刊): 64-64.
- 28) 橋本恵理子, 中井章人: 助産師だからこそ知っておきたい術前・術後の管理とケアの実践: 帝王切開のすべて: 第3章帝王切開の適応を押さえよう: 第2節胎児要因での適応: 2. 多胎妊娠. ペリネイタルケア 2013; (新春増刊): 65-65.
- 29) 橋本恵理子, 中井章人: 助産師だからこそ知っておきたい術前・術後の管理とケアの実践: 帝王切開のすべて: 第3章帝王切開の適応を押さえよう: 第2節胎児要因での適応: 3. 巨大児. ペリネイタルケア 2013; (新春増刊): 66-66.
- 30) 橋本恵理子, 中井章人: 助産師だからこそ知っておきたい術前・術後の管理とケアの実践: 帝王切開のすべて: 第3章帝王切開の適応を押さえよう: 第2節胎児要因での適応: 4. 癒着胎盤. ペリネイタルケア 2013; (新春増刊): 67-68.
- 31) 浜野愛理, 中井章人: 助産師だからこそ知っておきたい術前・術後の管理とケアの実践: 帝王切開のすべて: 第3章帝王切開の適応を押さえよう: 第2節胎児要因での適応: 5. 前置血管. ペリネイタルケア 2013; (新春増刊): 69-69.
- 32) 浜野愛理, 中井章人: 助産師だからこそ知っておきたい術前・術後の管理とケアの実践: 帝王切開のすべて: 第3章帝王切開の適応を押さえよう: 第2節胎児要因での適応: 6. 胎児発育不全 (FGR). ペリネイタルケア 2013; (新春増刊): 70-70.
- 33) 山岸絵美, 中井章人: 助産師だからこそ知っておきたい術前・術後の管理とケアの実践: 帝王切開のすべて: 第3章帝王切開の適応を押さえよう: 第2節胎児要因での適応: 7. 胎児心拍数波形異常 (胎児機能不全). ペリネイタルケア 2013; (新春増刊): 71-73.

- 34) 山岸絵美, 中井章人: 助産師だからこそ知っておきたい術前・術後の管理とケアの実践: 帝王切開のすべて: 第3章帝王切開の適応を押さえよう: 第2節胎児要因での適応: 8. 臍帯脱出. ペリネイタルケア 2013; (新春増刊): 74-74.
 - 35) 桑原知仁, 中井章人: 助産師だからこそ知っておきたい術前・術後の管理とケアの実践: 帝王切開のすべて: 第3章帝王切開の適応を押さえよう: 第2節胎児要因での適応: 9. 分娩停止. ペリネイタルケア 2013; (新春増刊): 75-75.
 - 36) 関口敦子, 中井章人: 前置胎盤における頸管長測定の意義. 産婦人科の実際 2013; 62 (1): 111-117.
 - 37) 石川 源, 中井章人: 特集: 脳性麻痺と産科医療補償制度: 脳性麻痺の疫学: 周産期医療の進歩は脳性麻痺の減少につながっているのか?. 周産期医学 2013; 43 (2): 155-160.
 - 38) 関口敦子, 中井章人: 特集: 分娩時異常出血への対応: 分娩時異常出血とは: 出血量との関連. 産婦人科の実際 2013; 62 (2): 141-146.
 - 39) 川端伊久乃, 中井章人: ホルモン療法実践マニュアル: 各論: I. 周産期分野: 2. 切迫早産. 産科と婦人科 2013; 80 (増刊): 47-51.
- (3) 症例報告:
- 1) 山岸絵美, 奥田直貴, 滝本佳世子, 尾崎景子, 中尾仁彦, 桑原知仁, 印出佑介, 林 昌子, 川端伊久乃, 関口敦子, 中井章人: 子宮腺筋症術後の全前置胎盤癒着に小腸子宮内膜症を合併し産褥子宮全摘手術を施行した1例. 東京産婦会誌 2012; 61 (1): 50-54.
 - 2) 中尾仁彦, 印出佑介, 林 昌子, 滝本佳世子, 尾崎景子, 桑原知仁, 高橋恵理佳, 山岸絵美, 奥田直貴, 川端伊久乃, 関口敦子, 中井章人: 妊娠中に診断された腎性尿崩症の1例. 東京産婦会誌 2012; 61 (2): 265-269.
 - 3) 寺田佳世子, 山岸絵美, 川端伊久乃, 中尾仁彦, 桑原知仁, 印出佑介, 林 昌子, 奥田直貴, 関口敦子, 中井章人: 未熟奇形種に腹膜神経膠腫症を合併し growing teratoma syndrome を呈した1例. 東京産婦会誌 2013; 62 (1): 76-80.

学会発表

(1) 特別講演:

- 1) 中井章人: 日本の私立医科大学の現状と医師の就労環境. 早稲田大学 2012年5月定例理事会および講演会(東京都), 2012. 5.
- 2) 中井章人: 母胎, 胎児情報の集約化とその問題点. 経済産業省東北復興医療情報化調査事業「周産期小児健康情報ネットワーク」コンソーシアム集会(東京都), 2012. 5.
- 3) 中井章人: ホルモン治療の活用(婦人科良性疾患). 富士製薬工業主催招聘研究会(東京都), 2012. 6.
- 4) 中井章人: 婦人科良性疾患・手術にしますか, それとも…。婦人科ME研究会(第7回)(東京都), 2012. 6.
- 5) 中井章人: 産科危機的出血への対応ガイドライン概説. 多摩産科DIC講演会(東京都), 2012. 7.
- 6) 中井章人: 「昔の常識, 今非常識? 切迫早産管理は変わる」。平成24年度福岡県産婦人科医会臨時研修会(福岡市), 2012. 8.
- 7) 石川 源: 栄養膜シンシチウム化における細胞小器官の機能形態学的検討. 日本医科大学医学会総会(第80回)(東京都), 2012. 9.
- 8) 中井章人: 産婦人科勤務医として働くということ. 平成24年度滋賀県産婦人科医会学術研修会(第2回)(大津市), 2012. 9.
- 9) 中井章人: 婦人科外来診療における超音波の活用. 東京産婦人科臨床フォーラム(第6回)(東京都), 2012. 9.
- 10) 中井章人: 限られた人材で行う周産期協働システムについて. 富山大学附属病院病院運営企画研修会(富山市), 2012. 9.
- 11) 中井章人: 婦人科良性疾患: 紹介しますか, それとも。八王子産婦人科医会学術講演会(東京都), 2012. 10.

- 12) 中井章人：残された課題，常位胎盤早期剥離：どう対応する？（周産期医療ステージ11），産科中小施設研究会（第25回）（東京都），2012. 10.
- 13) 中井章人：常位胎盤早期剥離：東京都周産期母子医療センターの年間成績から見えること，南多摩エリア周産期医療ネットワークグループ検討会（第3回）および多摩産婦人科病診連携懇話会（第41回）（東京都），2012. 10.
- 14) 中井章人：母胎，胎児情報の集約化とその問題点2，経済産業省東北復興医療情報化調査事業「周産期小児健康情報ネットワーク」コンソーシアム集会（東京都），2012. 10.
- 15) 中井章人：周産期コンソーシアム：地域連携編，東京都区南部周産期ネットワークグループ研修会（第2回）（東京都），2013. 2.
- 16) 中井章人：周産期コンソーシアム：院内助産編，平成24年度冬季山梨産科婦人科学会・山梨県産婦人医会合同学術集会（甲府市），2013. 2.
- 17) 中井章人：周産期医療ステージ（12）医師と助産師で学ぶ共通の言語「CTG」，産科中小施設研究会（第26回）（東京都），2013. 3.
- 18) 中井章人：CTGに関する用語・定義の改訂：医師と助産師で学ぶ共通の言語「CTG」，南多摩エリア周産期医療ネットワークグループ検討会（第4回）および多摩産婦人科病診連携懇話会（第42回）（東京都），2013. 3.
- (2) 基調講演：
 - 1) 中井章人：CTGの限界（「成熟児のasphyxiaとcerebral palsy」：「成熟児のasphyxiaとcerebral palsyその疫学と予防」），日本周産期・新生児医学会 周産期学シンポジウム（第31回）（大阪府），2013. 1.
- (3) シンポジウム：
 - 1) 中井章人：5「母体搬送」か「新生児搬送」か（常位胎盤早期剥離の臨床的諸問題の解決に向けて），日本周産期・新生児医学会総会および学術集会（第48回）（さいたま市），2012. 7.
- (4) セミナー：
 - 1) 中井章人：産婦人科診療ガイドライン：産科編2011を読み解く（産科救急トリアージに必須の知識），生命科学研究所セミナー（東京都），2012. 4.
 - 2) 中井章人：産婦人科診療ガイドライン：産科編2011を読み解く（産科救急トリアージに必須の知識），生命科学研究所セミナー（東京都），2012. 9.
 - 3) 中井章人：I.常位胎盤早期剥離のインパクト II.東京都周産期医療協議会の提案（「常位胎盤早期剥離 up to date」 part I），実践セミナー in 東京（東京都），2012. 12.
 - 4) 中井章人：I.日本産科婦人科学会周産期登録による病態解析 II.診断（臨床症状，超音波所見，胎児心拍数陣痛図） III.望まれる対応（「常位胎盤早期剥離 up to date」 part 2），実践セミナー in 東京（東京都），2012. 12.
- (5) ワークショップ：
 - 1) 中井章人：現状と提言（東日本大震災から1年），公益社団法人日本産科婦人科学会臨時総会ならびに学術講演会（第64回）（神戸市），2012. 4.
 - 2) 川端伊久乃，中井章人，石川 源，関口敦子，朝倉啓文，竹下俊行，三宅秀彦¹⁾（¹⁾日本赤十字社葛飾赤十字産院産科）：妊娠高血圧症候群，HELLP症候群における母胎肝血流評価，日本妊娠高血圧学会（第33回）（長崎市），2012. 9.
- (6) 一般講演：
 - 1) 関口敦子，川端伊久乃，奥田直貴，林 昌子，印出佑介，桑原知仁，山岸絵美，高橋恵理佳，中尾仁彦，中井章人，竹下俊行：前置胎盤における頸管長測定の意義，公益社団法人日本産科婦人科学会臨時総会ならびに学術講演会（第64回）（神戸市），2012. 4.
 - 2) 浜野愛理¹⁾，明楽重夫¹⁾，大内 望¹⁾，峯 克也¹⁾，市川雅男¹⁾，渡辺昇一²⁾，竹下俊行¹⁾（¹⁾日本医科大学，²⁾勝楽堂病院）：難治性子宮腺筋症へのレボノルゲストレル徐放型子宮内避妊システムの有用性の検討，公益社団法人

- 人日本産科婦人科学会臨時総会ならびに学術講演会（第64回）（神戸市），2012. 4.
- 3) 桑原慶充，富山僚子，山下恵理子，小野修一，市川智子，峯 克也，明楽重夫，竹下俊行：周排卵期卵巣におけるIL-1 beta 誘導性ケモカイン群の同定および解析. 公益社団法人日本産科婦人科学会臨時総会ならびに学術講演会（第64回）（神戸市），2012. 4.
 - 4) 川端伊久乃，関口敦子，奥田直貴，林 昌子，印出佑介，桑原知仁，山岸絵美，尾崎景子，滝本佳世子，中井章人，竹下俊行：切迫早産症例に対する3rd trimesterからのprogesterone投与の有用性. 公益社団法人日本産科婦人科学会臨時総会ならびに学術講演会（第64回）（神戸市），2012. 4.
 - 5) 小野修一，峯 克也，阿部 崇，市川智子，神戸沙織，山下恵理子，富山僚子，桑原慶充，明楽重夫，竹下俊行：不育症を呈した中隔子宮42例の臨床的検討. 公益社団法人日本産科婦人科学会臨時総会ならびに学術講演会（第64回）（神戸市），2012. 4.
 - 6) 里見操緒，山下恵理子，小野修一，島田 学，五十嵐美和，阿部 崇，八木幸恵，峯 克也，桑原慶充，澤倫太郎，竹下俊行：妊娠10週以降原因不明胎内死亡のリスク因子に関する検討. 公益社団法人日本産科婦人科学会臨時総会ならびに学術講演会（第64回）（神戸市），2012. 4.
 - 7) 澤田真紀¹⁾，竹田善治¹⁾，三宅秀彦¹⁾，石川浩史¹⁾，林龍之介¹⁾，田中 守¹⁾，谷垣伸治¹⁾，大浦訓章¹⁾，薄井里英¹⁾，坂田麻理子¹⁾，牧野真太郎¹⁾，田嶋 敦¹⁾，青木弘子¹⁾，荒川 香¹⁾，正岡直樹¹⁾，その他16名（¹⁾日本早産予防研究会）：前置胎盤の周産期予後に関する多施設共同研究. 公益社団法人日本産科婦人科学会臨時総会ならびに学術講演会（第64回）（神戸市），2012. 4.
 - 8) 峯 克也，桑原慶充，神戸沙織，小野修一，山下恵理子，阿部 崇，市川智子，富山僚子，西 弥生，明楽重夫，竹下俊行：体外受精後に発症した異所性妊娠：リスク因子の検討. 公益社団法人日本産科婦人科学会臨時総会ならびに学術講演会（第64回）（神戸市），2012. 4.
 - 9) Ishikawa G¹⁾，Robinson MJ²⁾，Ishikawa A¹⁾，Takizawa T³⁾，Takeshita T¹⁾（¹⁾ Department of Obstetrics and Gynecology, Nippon Medical School, ²⁾ Department of Physiology and Cell Biology, ³⁾ Department of Molecular Anatomy and Medicine）：Remarkable modulation of the Golgi and trans-Golgi network in fused BeWo cell. 公益社団法人日本産科婦人科学会臨時総会ならびに学術講演会（第64回）（神戸市），2012. 4.
 - 10) 桑原知仁，川端伊久乃，滝本佳世子，尾崎景子，中尾仁彦，高橋恵理佳，山岸絵美，印出佑介，林 昌子，奥田直貴，関口敦子，中井章人：重症妊娠悪阻を契機に分娩まで遷延する肝機能障害を発症した1例. 東京産科婦人科学会例会（第362回）（東京都），2012. 5.
 - 11) 米澤美令¹⁾，米山剛一¹⁾，松本二郎⁵⁾，白銀 恵¹⁾，中西一步¹⁾，村川裕子¹⁾，高屋 茜¹⁾，山田 隆¹⁾，渡辺美千明¹⁾，中井章人²⁾，朝倉啓文³⁾，竹下俊行⁴⁾（¹⁾日本医科大学千葉北総病院産婦人科，²⁾日本医科大学多摩永山病院産婦人科，³⁾日本医科大学武蔵小杉病院産婦人科，⁴⁾日本医科大学産婦人科，⁵⁾山王クリニック産婦人科）：頸管縫縮糸抜糸は羊水塞栓症発症の危険因子となり得るか. 関東連合産科婦人科学会総会・学術集会（第123回）（東京都），2012. 6.
 - 12) 尾崎景子，川端伊久乃，桑原知仁，阿部裕子，滝本佳世子，高橋恵理佳，山岸絵美，印出佑介，林 昌子，奥田直貴，関口敦子，中井章人：2絨毛膜2羊膜双胎の1児胎内死亡後に血液凝固異常をきたした1例. 関東連合産科婦人科学会総会・学術集会（第123回）（東京都），2012. 6.
 - 13) 大塚英恵，深田幸仁¹⁾，太田幸秀¹⁾，石田健太郎¹⁾，関根仁樹¹⁾，船倉 翠¹⁾，神部友香理¹⁾，渡邊征雄¹⁾，武内務¹⁾，品川寿弥¹⁾，林 瑞成¹⁾（¹⁾都立墨東病院産婦人科）：妊娠30週で大動脈解離を来したMarfan症候群疑いの1症例. 関東連合産科婦人科学会総会・学術集会（第123回）（東京都），2012. 6.
 - 14) 川端英恵，林 昌子，中西一步，寺田佳世子，浜野愛理，山岸絵美，桑原知仁，高橋恵理佳，印出佑介，奥田直貴，川端伊久乃，石川 源，関口敦子，中井章人，竹下俊行：分娩後約20,000mlの大量出血をきたしSheehan症候群および両下肢末梢神経障害を発症した1例. 四水会（第367回）（東京都），2012. 6.
 - 15) 関口敦子，川端伊久乃，奥田直貴，林 昌子，印出佑介，山岸絵美，中井章人，竹下俊行：癒着のない全前置胎

- 盤：前壁付着と後壁付着の比較. 日本周産期・新生児医学会総会および学術集会（第48回）（さいたま市），2012. 7.
- 16) 川端伊久乃，関口敦子，奥田直貴，林 昌子，印出佑介，中井章人，竹下俊行：症候性前置胎盤に対する progesterone 投与は早産予防に有効か？. 日本周産期・新生児医学会総会および学術集会（第48回）（さいたま市），2012. 7.
- 17) 五十嵐美和，桑原慶充，橋本恵理子，大内 望，里見操緒，澤倫太郎，竹下俊行：低用量アスピリン療法は胎児動脈管の血流動態に影響するか？. 日本周産期・新生児医学会総会および学術集会（第48回）（さいたま市），2012. 7.
- 18) 桑原知仁，尾崎景子，阿部裕子，寺田佳世子，山岸絵美，高橋恵理佳，印出佑介，林 昌子，奥田直貴，川端伊久乃，関口敦子，中井章人：二絨毛膜に羊膜双胎の一児胎内死亡に血液凝固異常をきたした1例. 日本医科大学医学会総会（第80回）（東京都），2012. 9.
- 19) 寺田佳世子，山岸絵美，川端伊久乃，中尾仁彦，桑原知仁，印出佑介，林 昌子，奥田直貴，関口敦子，中井章人：未熟奇形腫に腹膜神経膠腫を合併し術後化学療法中に growing teratoma syndrome を呈した1例. 東京産科婦人科学会例会（第363回）（東京都），2012. 9.
- 20) 川端英恵，印出佑介，寺田佳世子，尾崎景子，中尾仁彦，高橋恵理佳，山岸絵美，印出佑介，林 昌子，奥田直貴，川端伊久乃，石川 源，関口敦子，中井章人：Clostridium perfringens 感染による子宮筋層内ガス壊疽から敗血症を呈した子宮腺筋症の1例. 関東連合産科婦人科学会総会・学術集会（第124回）（甲府市），2012. 10.
- 21) 桑原慶充，富山僚子，小野修一，山下恵理子，峯 克也，明楽重夫，竹下俊行：周排卵期のマウス卵巣における，オステオポンチンの発現調節及び局在解析. 日本生殖医学会学術講演会・総会（第57回）（長崎市），2012. 11.
- 22) 小野修一，阿部 崇，富山僚子，峯 克也，桑原慶充，明楽重夫，竹下俊行：比較的高齢不育症例における流産リスク因子の検討. 日本生殖医学会学術講演会・総会（第57回）（長崎市），2012. 11.
- 23) 川端英恵，印出佑介，寺田佳世子，浜野愛理，山岸絵美，桑原知仁，橋本恵理子，奥田直貴，川端伊久乃，石川源，関口敦子，中井章人：Clostridium perfringens 感染による子宮筋層内ガス壊疽から敗血症を呈した子宮腺筋症の1例. 平成24年度日本医科大学産科婦人科学教室同窓会臨床研究会（東京都），2012. 11.
- 24) 五十嵐亜沙美¹⁾，川端伊久乃，川端英恵，寺田佳世子，浜野愛理，関口敦子，朝倉啓文，越野立夫，中井章人⁽¹⁾ 医療法人スポーツメディカル八王子スポーツ整形外科）：妊婦のマイナートラブルにおける運動習慣の効果：産後1ヶ月のアンケート結果より，女性スポーツ医学研究会学術集会（第26回）（東京都），2012. 12.
- 25) 印出佑介，川端英恵，浜野愛理，山岸絵美，桑原知仁，橋本恵理子，林 昌子，奥田直貴，川端伊久乃，石川源，関口敦子，中井章人：低置胎盤または前置胎盤を合併した第2三半期の死産母胎の管理. 東京産科婦人科学会例会（第364回）（東京都），2012. 12.
- 26) 浜野愛理，山岸絵美，関口敦子，桑原知仁，印出佑介，林 昌子，奥田直貴，川端伊久乃，桑原慶充，石川 源，中井章人：死胎児の評価に3DCTが有用であった未受診妊婦の1例. 東京産婦人科医会・東京産科婦人科学会合同研修会（第26回）並びに東京産科婦人科学会例会（第365回）（東京都），2013. 2.
- (7) ミニレクチャー：
- 1) 石川 源：初期診療で妊娠症例に遭遇したら… . 日本医科大学多摩永山病院ミニレクチャー（平成24年度第11回）（東京都），2012. 10.
- (8) 学術奨励賞応募演題（示説）：
- 1) 柿栖睦実¹⁾，関口敦子²⁾，川端伊久乃²⁾，中井章人²⁾，朝倉啓文¹⁾，竹下俊行³⁾ ⁽¹⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院産婦人科，²⁾ 日本医科大学多摩永山病院女性診療科・産科，³⁾ 日本医科大学付属病院女性診療科・産科）：HELLP 症候群重症度と子癇発症の関連. 日本妊娠高血圧学会（第33回）（長崎市），2012. 9.

(9) 平成 22 年度課題研究報告：

- 1) 石川 源：妊娠高血圧症候群胎盤において発現変動を認める micro RNA の診断マーカーとしての可能性の検討，およびその胎盤における機能解明．日本妊娠高血圧学会（第 33 回）（長崎市），2012. 9.

[千葉北総病院女性診療科・産科]

研究概要

当教室では婦人科腫瘍学部門，手術学部門，周産期学部門のそれぞれにおいて基礎研究ならびに臨床研究を行っている．婦人科腫瘍学部門では子宮頸癌，子宮体癌，卵巣癌の発がんに関する基礎研究を行っている．そのなかでも特に子宮体癌におけるマイクロ RNA の関与に関する研究を精力的に継続している．また，卵巣癌化学療法に関する臨床研究としてこれまで多施設共同研究として遂行してきたパクリタキセル，カルボプラチンの隔週投与法の結果がまとまった．手術学部門では，婦人科内視鏡手術を中心として臨床研究を行っている．特に腹腔鏡補助下の子宮腺筋症切除術の臨床的研究を精力的におこない，学会に報告している．さらに，婦人科内視鏡手術の指導法，手術時に使用する電気メスの原理および指導法の研究を行っている．周産期学部門においては妊産婦死亡の減少を目的として，羊水塞栓症の発症機序を解明するために臨床病理学的研究を施行中である．

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) 永野玲子，星野裕子¹⁾，船倉 翠¹⁾，渡邊征雄¹⁾，竹内 努¹⁾，品川寿弥¹⁾，深田幸仁¹⁾，林 瑞成¹⁾，大森意素²⁾，清水光政²⁾，渡辺とよ子²⁾ (¹⁾ 東京都立墨東病院 周産期センター産科， ²⁾ 東京都立墨東病院 新生児科)：当院における妊娠 22-23 周の分娩管理と新生児予後．日本周産期新生児学会 2013；48 (4)：885-891.
- 2) Ishibashi O¹⁾，Ohkuchi A²⁾，Md-Ali M¹⁾，Kurashina R⁵⁾，Shan-Shun L⁴⁾，Ishikawa T¹⁾，Takizawa T¹⁾，Hirashima C²⁾，Takahashi K²⁾，Migita M³⁾，Ishikawa G⁶⁾，Yoneyama K，Asakura H⁵⁾，Izumi A²⁾，Matsubara S²⁾，et al. (¹⁾ Department of Molecular Medicine and Anatomy,Nippon Medical School, ²⁾ Jichi Medical University,Tochiji, ³⁾ Ppediatrics,Nippon Medical School, ⁴⁾ Clinical College of Harbin Medical University, ⁵⁾ Department of Obstetrics and Gynecology,Nippon Medical School, ⁶⁾ Department of Obstetrics and Gynecology,Nippon Medical School Musashikosuji Hospital, ⁷⁾ Department of Obstetrics and Gynecology, Nippon Medical School Tama Yagayama Hospital)：Hydroxysteroid (17-) Dehydrogenase 1 Is Dysregulated by Mir-210 and Mir-518c That Are Aberrantly Expressed in Preeclamptic Placentas A Novel Marker for Predicting Preeclampsia. Hypertension 2012；59：265-273.
- 3) 重見大介¹⁾，田村俊之¹⁾，佐藤杏月²⁾，松橋智彦²⁾，山本晃人，川瀬里衣子¹⁾，黒瀬圭輔¹⁾，米山剛一，鴨井青龍¹⁾，竹下俊行¹⁾，寺崎美佳，福田 悠 (¹⁾ 日本医科大学付属病院 女性診療科・産科， ²⁾ 日本医科大学大学院)：9 年後に再発が認められた Atypical polypoid adenomyoma (APAM) の 1 例．日医大医会誌 2012；8 (4)：327-327.

(2) 総説：

- 1) 鴨井青龍¹⁾，山本晃人，松橋智彦¹⁾，川瀬里衣子¹⁾，山田 隆，黒瀬圭輔¹⁾，土居大祐¹⁾，米山剛一，竹下俊行¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学付属病院 女性診療科・産科)：産婦人科の薬剤使用プラクティス：病態別処方：婦人科編腫瘍，子宮体癌，子宮内膜増殖症．産婦人科の実際 2012；61 (11)：1793-1799.

学会発表

(1) シンポジウム：

- 1) 米山剛一, 竹下俊行¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院 女性診療科・産科)：子宮体癌における microRNA の役割。日本医科大学シンポジウム 私立大学戦略的研究基盤形成支援事業公開シンポジウム (東京都), 2013. 1.

(2) 一般講演：

- 1) Yoneyama K, Konishi H¹⁾, Yahata T²⁾, Fujita K²⁾, Aoki Y³⁾, Doi D⁴⁾, Kodama S⁵⁾, Honma S⁵⁾, Kato H⁶⁾, Nakayama H⁶⁾, Takeshita T⁴⁾, Tanaka K²⁾ (1) Department of Obstetrics and Gynecology, Kato Womens Clinic, 2) Department of Obstetrics and Gynecology, School of Medicine Niigata University, 3) Department of Obstetrics and Gynecology, Faculty of Medicine, University of the Ryukyus, 4) Department of Obstetrics and Gynecology, Nippon Medical School, 5) Department of Gynecology, Niigata Cancer Center Hospital, 6) Department of Gynecology, Kanagawa Cancer Center Hospital)：Long term results of a phase II study of paclitaxel and carboplatin with a biweekly schedule in patients with epithelial ovarian cancer. 日本産科婦人科学会 (第 64 回) (京都府), 2012. 4.
- 2) 山本晃人, 鴨井青龍¹⁾, 黒瀬圭輔¹⁾, 安井麻利江, 竹下俊行¹⁾, 坂本且一²⁾, 佐藤悠二³⁾, 宮下正夫⁴⁾ (1) 日本医科大学付属病院女性診療科・産科, 2) 坪井病院, 3) セントシュガーがん探知犬育成センター, 4) 日本医科大学がん診療センター)：婦人科悪性腫瘍に対する癌探知犬の有用性. 日本産科婦人科学会 (第 64 回) (兵庫県), 2012. 4.
- 3) 米澤美令, 米山剛一, 松本二郎¹⁾, 白銀 恵, 中西一步, 村川裕子, 高屋 茜, 山田 隆, 渡辺美千明, 中井章人³⁾, 朝倉啓文⁴⁾, 竹下俊行²⁾ (1) 山王クリニック産婦人科, 2) 日本医科大学付属病院女性診療科・産科, 3) 日本医科大学多摩永山病院女性診療科・産科, 4) 日本医科大学武蔵小杉病院女性診療科・産科)：頸管縫縮糸抜糸は羊水塞栓症発症の危険因子となり得るか. 関東連合産科婦人科学会 (第 123 回) (東京都), 2012. 6.
- 4) 中西一步, 白銀 恵, 米澤美令, 村川裕子, 高屋 茜, 山田 隆, 渡辺美千明, 米山剛一：卵巣子宮内膜症性嚢胞が発生基盤となったと考えられる骨盤内炎症性疾患 (PID) の 3 症例. 関東連合産科婦人科学会 (第 123 回) (東京都), 2012. 6.
- 5) 米山剛一, 米澤美令, 高屋 茜, 永野玲子, 伊藤麻利江, 中井章人¹⁾, 朝倉啓文²⁾, 竹下俊行³⁾ (1) 日本医科大学多摩永山病院 女性診療科・産科, 2) 日本医科大学武蔵小杉病院 女性診療科・産科, 3) 日本医科大学付属病院 女性診療科・産科)：頸管縫縮糸抜糸後に発症した致死的水羊塞栓症 2 症例の検討. 日本周産期・新生児医学会 (第 48 回) (埼玉県), 2012. 7.
- 6) 佐藤杏月¹⁾, 石渡俊行²⁾, 鴨井青龍¹⁾, 米山剛一, 土居大祐¹⁾, 黒瀬圭輔, 山本晃人¹⁾, 朝倉啓文³⁾, 竹下俊行¹⁾, 内藤義哉²⁾ (1) 日本医科大学付属病院 女性診療科・産科, 2) 日本医科大学病理学教室 統御機構・腫瘍学, 3) 日本医科大学武蔵小杉病院 女性診療科・産科)：癌幹細胞マーカー nestin の子宮頸部異形成と子宮頸癌における発現と役割. 日本婦人科腫瘍学会 (第 52 回) (東京都), 2012. 7.
- 7) 山本晃人, 鴨井青龍¹⁾, 伊藤麻利江, 島田 学¹⁾, 松崎智彦¹⁾, 山田 隆, 黒瀬圭輔¹⁾, 米山剛一, 竹下俊行¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院 女性診療科・産科)：当院における神経温存広汎子宮全摘術後の検討. 日本婦人科腫瘍学会 (第 52 回) (東京都), 2012. 7.
- 8) 米山剛一, 大山莉奈¹⁾, 村川裕子, 中西一步, 白銀 恵, 伊藤麻利江, 高屋 茜, 山田 隆, 渡辺美千明 (1) 日本医科大学武蔵小杉病院 消化器病センター)：下大静脈内に広範な腫瘍塞栓を呈した子宮体癌の 1 例. 日本婦人科腫瘍学会 (第 52 回) (東京都), 2012. 7.
- 9) 伊藤麻利江, 山田 隆, 中西一步, 白銀 恵, 高屋 茜, 村川裕子, 渡辺美千明, 新井 悟¹⁾, 羽鳥 努¹⁾, 米山剛一 (1) 日本医科大学千葉北総病院 病理部)：Malignant struma ovarii との診断を得た 1 症例. 日本婦人科腫瘍学会 (第 52 回) (東京都), 2012. 7.
- 10) 渡辺美千明, 中西一步, 山田 隆, 村川裕子, 米山剛一, 市川雅男¹⁾, 峯 克也¹⁾, 黒瀬圭輔¹⁾, 明楽重夫¹⁾, 竹

- 下俊行¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院 女性診療科・産科)：妊孕性の改善をめざした腹腔鏡補助下子宮腺筋症切除術. 日本産婦人科手術学会 (第 35 回) (京都府), 2012. 9.
- 11) 佐藤杏月¹⁾, 石渡俊行²⁾, 鴨井青龍¹⁾, 米山剛一, 土居大祐³⁾, 黒瀬圭輔¹⁾, 山本晃人, 朝倉啓文³⁾, 竹下俊行¹⁾, 内藤善哉²⁾ (1) 日本医科大学付属病院 女性診療科・産科, 2) 日本医科大学病理学教室 (統制機構・腫瘍学), 3) 日本医科大学武蔵小杉病院 女性診療科・産科)：子宮頸部異形成と子宮頸癌における nestin の発現と癌幹細胞との関係. 日本産科婦人科学会 (第 64 回) (兵庫県), 2012. 4.
- 12) 高屋 茜, 米山剛一, 渡辺美千明, 山田 隆, 阿部裕子, 米澤美令, 中西一步, 白銀 恵¹⁾, 竹下俊行¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院 女性診療科・産科)：遠位型ミオパチー合併妊娠の 1 例. 日本産科婦人科学会 (第 64 回) (兵庫県), 2012. 4.
- 13) 渡辺美千明, 中西一步, 村川裕子, 山田 隆, 米山剛一, 黒瀬圭輔¹⁾, 明楽重夫¹⁾, 竹下俊行¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院 女性診療科・産科)：クロージャードバイス V-Loc180 による腹腔鏡補助下子宮筋腫核出術における縫合法の工夫. 日本産科婦人科内視鏡学会 (第 52 回) (北海道), 2012. 9.
- 14) 角田陽平¹⁾, 渡辺美千明, 中西一步, 村川裕子, 山田 隆, 黒瀬圭輔²⁾, 米山剛一, 明楽重夫²⁾, 竹下俊行²⁾ (1) 日本医科大学千葉北総病院 研修医, 2) 日本医科大学付属病院 女性診療科・産科)：子宮腺筋症に対する腹腔鏡補助下子宮腺筋症切除術：再発と妊娠予後についての検討. 日本産科婦人科内視鏡学会 (第 52 回) (北海道), 2012. 9.
- 15) 渡辺美千明, 中西一步, 山田 隆, 村川裕子, 米山剛一, 市川雅男¹⁾, 峯 克也¹⁾, 黒瀬圭輔¹⁾, 明楽重夫¹⁾, 竹下俊行¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院 女性診療科・産科)：妊孕性の改善をめざした腹腔鏡補助下子宮腺筋症切除術. 日本産婦人科手術学会 (第 35 回) (京都府), 2012. 9.
- 16) Yoneyama K, Doi D¹⁾, Nakayama H²⁾, Yamada T, Kurose K³⁾, Katoh H²⁾, Kamoi S³⁾, Takeshita T³⁾ (1) Nippon Medical School Musashi Kosugi Hospital, 2) Kanagawa Cancer Center Hospital, 3) Nippon Medical School Hospital)：EVALUATION OF PROGNOSTIC FACTORS IN ENDOMETRIAL CANCER：子宮体癌における予後因子の評価. Biennial meeting of the International Gynecologic Cancer Society (14th) (Vancouver Canada), 2012. 10.
- 17) 角田陽平¹⁾, 米山剛一, 中西一步, 山田 隆, 村川裕子, 山本晃人, 伊藤麻利江, 永野玲子, 渡辺美千明, 新井悟²⁾, 平野孝幸²⁾, 羽鳥 努²⁾ (1) 日本医科大学千葉北総病院 研修医, 2) 日本医科大学千葉北総病院 病理部)：術前に強く悪性転化を疑った卵巣成熟嚢胞性奇形腫の 1 例. 関東連合産科婦人科学会総会 (第 124 回) (山梨県), 2012. 10.
- 18) 重見大介¹⁾, 田村俊之¹⁾, 関根仁樹¹⁾, 松橋智彦²⁾, 山本晃人, 川瀬里衣子¹⁾, 黒瀬圭輔¹⁾, 米山剛一, 鴨井青龍¹⁾, 竹下俊行¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院 女性診療科・産科, 2) 日本医科大学 大学院)：初発から 9 年を経て再発した Atypical polypoid adenomyoma (APAM) の 1 例. 関東連合産科婦人科学会総会 (第 124 回) (山梨県), 2012. 10.
- 19) 米山剛一, 島津絢美¹⁾, 山本晃人, 山田 隆, 笹谷昌司¹⁾, 京本晃典¹⁾, 三枝順子¹⁾, 清水秀樹¹⁾, 小黒辰夫¹⁾, 羽鳥 努¹⁾ (1) 日本医科大学千葉北総病院 病理部)：腹腔細胞診陽性卵巣腫瘍の臨床病理学的検討. 日本臨床細胞学会秋季大会 (第 51 回) (新潟県), 2012. 11.
- 20) 山本晃人, 島津絢美¹⁾, 山田 隆, 米山剛一, 笹谷昌司¹⁾, 京本晃典¹⁾, 三枝順子¹⁾, 清水秀樹¹⁾, 小黒辰夫¹⁾, 羽鳥 努¹⁾ (1) 日本医科大学千葉北総病院 病理部)：子宮体癌における腹腔細胞診陽性例の検討. 日本臨床細胞学会秋期大会 (第 51 回) (新潟県), 2012. 11.
- 21) 渡辺美千明, 渡邊建一郎¹⁾, 神戸沙織¹⁾, 阿部裕子, 山田 隆, 峯 克也²⁾, 市川雅男²⁾, 黒瀬圭輔²⁾, 米山剛一, 明楽重夫²⁾, 竹下俊行²⁾ (1) 日本医科大学 大学院, 2) 日本医科大学付属病院 女性診療科・産科)：当科で施行する小切開・吊り上げ法による腹腔鏡下手術：Reduced Port Surgery の観点から. 小切開・鏡視外科学会 (第 3 回) (東京都), 2012. 11.

- 22) 高屋 茜¹⁾, 桑原広輔²⁾, 白銀 恵²⁾, 中西一步, 米澤美令²⁾, 阿部裕子, 山田 隆, 渡辺美千明, 米山剛一⁽¹⁾ 日本医科大学 大学院, ²⁾ 日本医科大学付属病院 女性診療科・産科): 術前に扁平上皮癌への悪性転化と診断した成熟嚢胞性奇形腫の1例. 千葉県産科婦人科医学会平成24年度冬期学術講演会(千葉県), 2013. 2.
- 23) 中西一步, 渡辺美千明, 加藤雅彦, 村川裕子, 山本晃人, 永野玲子, 山田 隆, 米山剛一, 羽鳥 努¹⁾ ⁽¹⁾ 日本医科大学千葉北総病院 病理部): 腹腔鏡補助下に摘出した子宮体部アデノマトイド腫瘍の1例. 千葉県産科婦人科医学会平成24年度冬期学術集会(千葉県), 2013. 2.
- 24) 山本晃人, 伊藤麻利江, 加藤雅彦, 中西一步, 村川裕子, 永野玲子, 山田 隆, 渡辺美千明, 米山剛一: 成熟嚢胞性奇形腫悪性転化の極初期の1症例. 千葉県産科婦人科医学会平成24年度冬期学術講演会(千葉県), 2013. 2.
- 25) 山田 隆, 伊藤麻利江, 中西一步, 加藤雅彦, 村川裕子, 山本晃人, 永野玲子, 渡辺美千明, 羽鳥 努¹⁾, 米山剛一⁽¹⁾ 日本医科大学千葉北総病院 病理部): 術後4年に膈転移を来した子宮腫瘍の1例. 千葉県産科婦人科医学会平成24年度冬期学術講演会(千葉県), 2013. 2.
- 26) 角田陽平¹⁾, 渡辺美千明, 伊藤麻利江, 加藤雅彦, 村川裕子, 山本晃人, 山田 隆, 米山剛一⁽¹⁾ 日本医科大学千葉北総病院 研修医): 腹腔鏡補助下子宮腺筋症切除術で妊孕性の改善をめざす: 妊娠予後と再発について. 千葉産婦人科内視鏡手術研究会(第二回)(千葉県), 2013. 3.
- 27) 渡辺美千明, 角田陽平¹⁾, 伊藤麻利江, 加藤雅彦, 村川裕子, 山本晃人, 山田 隆, 米山剛一⁽¹⁾ 日本医科大学千葉北総病院 研修医): クロージャーデバイス V-LOCR を用いた子宮筋腫核出術. 千葉産婦人科内視鏡手術研究会(第2回)(千葉県), 2013. 3.
- 28) 進藤恵美¹⁾, 岡田 進¹⁾, 中條秀信¹⁾, 古川一博¹⁾, 榎村剛司¹⁾, 森田布季子¹⁾, 米山剛一, 羽鳥 努²⁾, 汲田伸一郎³⁾ ⁽¹⁾ 日本医科大学千葉北総病院 放射線科, ²⁾ 日本医科大学千葉北総病院 病理部, ³⁾ 日本医科大学付属病院 放射線科): 皮様嚢腫の悪性転化を来した興味深い所見を呈する3例. 日本画像医学会(第32回)(東京都), 2013. 2.
- 29) Yonezawa M, Yamaguti S¹⁾, Yoneyama K⁽¹⁾ Department of Obstetrics and Gynecology, Yamaguchi Womens Clinic): HPV INFECTION IN ERALY PUERPERIUM. Biennial Meeting of the International Gynecologic Cancer Society (14th) (Canada), 2012. 10.

20. 耳鼻咽喉科学

[付属病院耳鼻咽喉科・頭頸部外科・武蔵小杉病院耳鼻咽喉科・多摩永山病院耳鼻咽喉科・千葉北総病院耳鼻咽喉科]

研究概要

分野の主たる研究領域は鼻科学, 免疫・アレルギー学, 耳科学, めまい平衡医学, 頭頸部外科学, 音声言語医学ならびに嚥下機能に関するものである。生理学的, 形態学的, 免疫学的, 分子生物的研究方法を駆使して, 質の高い基礎的・臨床的研究成果を目指している。この入力された業績の英文・和文論文, 学会発表で示されている通り, 様々な研究が症例報告を含めて, 質の高い成果として国内・国外に示されている。2011年度に発表された英文原著は人員の減少にもかかわらず昨年より増加し17になり(論文合計53, 英文総説4), 国内外の耳鼻咽喉科学教室を凌駕している。英文での症例報告も2報あり, どちらも頭頸部腫瘍というエビデンスの構築しにくい分野のもので非常に価値のあるものである。また分野主任が編集主幹した日本のアレルギー性鼻炎ガイドライン2013年度版は新たにCQAを取り入れ, 注目されている。これらの活動を援助するための外部からの競争的研究補助金獲得も積極的に行われ, 若手研究者の文部科学省研究費補助金やスタッフの厚生労働省科学研究費をはじめとした研究補助金を獲得している。分野教授は厚生労働省化学研究費補助金事業分担研究者を行い, 花粉症の舌下免疫療法では国内のトップにある。他の分野においても積極的に分野全員で国際学会や国内学会への参加・発表も行い, 着実な成果を上げている。次年度も同じように質の高い, 患者のためになる基礎的・臨床的研究を行っていきたい。

研究業績

論文

[追加分]

追加分総説:

- 1) Matsune S: Allergic Rhinitis and Vascular Endothelial Growth Factor. J Nippon Med Sch 2021; 79 (3): 170-175.
- 2) 後藤 穰: 薬物併用療法の有用性. 日本鼻科学会誌 2011; 50 (3): 250-250.

追加分原著:

- 1) 後藤 穰: 花粉症治療に用いられる薬物療法のトピックス. アレルギー・免疫 2012; 19 (3): 392-399.
- 2) 湯田厚司¹⁾, 後藤 穰²⁾, 太田伸男³⁾, 岡野光博⁴⁾, 松原 篤⁵⁾, 大久保公裕²⁾ (1) ゆたクリニック, 2) 日本医科大学耳鼻咽喉科, 3) 山形大学耳鼻咽喉科・頭頸部外科学, 4) 岡山大学大学院医歯薬学総合研究科耳鼻咽喉科・頭頸部外科学, 5) 弘前大学大学院医学研究科耳鼻咽喉科学): スギ花粉症治療における抗ヒスタミン薬の処方 インターネットによる医師調査 (続報2). Progress in Medicine 2012; 32 (2): 385-391.
- 3) 岡野光博¹⁾, 後藤 穰²⁾, 太田伸男³⁾, 湯田厚司⁴⁾, 松原 篤⁵⁾, 大久保公裕²⁾ (1) 岡山大学大学院医歯薬学総合研究科耳鼻咽喉科・頭頸部外科学, 2) 日本医科大学耳鼻咽喉科, 3) 山形大学耳鼻咽喉科・頭頸部外科学, 4) ゆたクリニック, 5) 弘前大学大学院医学研究科耳鼻咽喉科学): スギ花粉症治療におけるステロイド薬の処方と検査法 インターネットによる医師調査 (続報1). Progress in Medicine 2012; 32 (2): 379-384.
- 4) 後藤 穰: 花粉症はどの程度 QOL を低下させるか?. JOHNS 2012; 28 (1): 93-96.

(1) 原著:

- 1) 後藤 穰: ガイドラインのワンポイント解説 アレルギー性鼻炎 ガイドラインに基づいた診断と治療. アレルギー 2012; 61 (11): 1637-1642.

- 2) 後藤 穰：アレルギー性鼻炎における治験のエンドポイント. アレルギー・免疫 2012；19（11）：1683-1690.
- 3) 後藤 穰：アレルギー性鼻炎における外用薬治療について. ENTONI 2012；（140）：52-57.
- 4) 後藤 穰：アレルギー性鼻炎, 結膜炎 アレルギー性鼻炎の原因. 小児科学レクチャー 2012；2（3）：650-655.
- 5) 後藤 穰：小児花粉症の診断. ENTONI 2013；（149）：20-24.
- 6) Shiiba K¹⁾, Sindo S²⁾, Ikezono T²⁾, Sekine K¹⁾, Matsumura T³⁾, Sekiguchi S⁴⁾, Yagi T⁵⁾, Okubo K¹⁾ (1) Department of Otorhinolaryngology, Nippon Medical School, 2) Department of Otorhinolaryngology, Saitama Medical University, 3) Department of Biochemistry and Molecular Biology, Nippon Medical School, 4) Mitsubishi Chemical Medience Corporation, 5) University of Human Environments) : Cochlin expression in the rat perilymph during postnatal development. Acta Oto-Laryngologica 2012；（132）：1134-1139.
- 7) 小林正佳^{1,2)}, 三輪高喜^{1,3)}, 黒野祐一^{1,4)}, 丹生健一^{1,5)}, 松根彰志^{1,4)}, 内田 淳^{1,6)}, 都築建三^{1,7)}, 近藤健二⁸⁾, 滋賀英明³⁾, 藤尾久美⁵⁾, 松脇由典⁹⁾, 本間博友¹⁰⁾, 中西清香, 三村英也, 小河孝夫, その他4名 (1) 日本鼻科学会嗅覚検査検討委員会, 2) 三重大学大学院医学系研究科耳鼻咽喉科・頭頸部外科, 3) 金沢医科大学耳鼻咽喉科, 4) 鹿児島大学医学部耳鼻咽喉科・頭頸部外科学, 5) 神戸大学大学院医学研究科耳鼻咽喉科頭頸部外科学分野, 6) 昭和大学耳鼻咽喉科, 7) 兵庫医科大学耳鼻咽喉科, 8) 東京大学医学部耳鼻咽喉科, 9) 東京慈恵会医科大学耳鼻咽喉科, 10) 順天堂大学医学部耳鼻咽喉科) : 静脈性嗅覚検査・希釈法の有用性に関する検討. 日本鼻科学会誌 2012；51（4）：445-449.
- 8) Fujikura T¹⁾, Takeshita T²⁾, Homma H³⁾, Adachi K⁴⁾, Miyake K⁵⁾, Kudo M⁶⁾, Takizawa T⁷⁾, Nagayama H⁸⁾, Hirakawa K⁹⁾ (1) Academic Quality and Development Office, Nippon Medical School, 2) Division of Reproductive Medicine, Perinatology and Gynecologic Oncology, Graduate School of Medicine, Nippon Medical School, 3) Division of Cardiology, Hepatology, Geriatrics, and Integrated Medicine, Department of Internal Medicine, Graduate School of Medicine, Nippon Medical S, 4) Department of Neurosurgery, Graduate School of Medicine, Nippon Medical School, 5) Department of Biochemistry and Molecular Biology, and Division of Gene Therapy Research Center for Advanced Medical Technology, Nippon Medical School, 6) Department of Pathology and Integrative Oncological Pathology, Nippon Medical School, 7) Department of Molecular Medicine and Anatomy, Nippon Medical School, 8) Department of Neurological, Nephrological and Rheumatological Sciences, Graduate School of Medicine, Nippon Medical School, 9) Department of Legal Medicine, Nippon Medical School) : Team-based Learning Using an Audience Response System : A Possible New Strategy for Interactive Medical Education. Journal of Nippon Medical School 2013；80（1）：63-69.
- 9) Gotoh M, Yuta A¹⁾, Ohta N²⁾, Matsubara A³⁾, Okubo K (1) Yuta Clinic, 2) Yamagata Univ, 3) Hirosaki Univ) : Severity Assessment of Japanese Cedar Pollinosis Using the Practical Guideline for the Management of Allergic Rhinitis in Japan and the Allergic Rhinitis and its Impact on Asthma Guideline.. Allergol Int 2013；65（2）：181-189.
- 10) Gotoh M¹⁾, Okubo K¹⁾, Hashiguchi K²⁾, Wakabayashi K³⁾, Kanzaki S⁴⁾ (1) 日本医科大学 耳鼻咽喉科, 2) ふたばクリニック, 3) 北里研究所病院 耳鼻咽喉科, 4) 慶応大学 耳鼻咽喉科) : Non invasive biological evaluation of response to pranlukast treatment in pediatric patients with Japanese cedar pollinosis.. Allergy Asthma Proc 2012；33：459-466.
- 11) Endo S¹⁾, Gotoh M, Okubo K, Hashiguchi K²⁾, Suzuki H¹⁾, Masuyama K¹⁾ (1) Department of Otolaryngology, Yamanashi Univ, 2) Futaba Clinic) : Trial of pranlukast inhibitory effect for cedar exposure using an OHIO chamber. Journal of Drug Assessment 2012；1：48-54.
- 12) Hashiguchi K¹⁾, Okubo K, Wakabayashi K²⁾, Gotoh M (1) Futaba Clinic, 2) Department of Otolaryngology, Kitazato Institute Hospital) : The assessment of the optimal duration of early intervention with montelukast in the treatment of Japanese cedar pollinosis symptoms induced in an artificial exposure chamber. Journal of

Drug Assessment 2012 ; 1 : 40-47.

- 13) Fujieda S¹⁾, Kurono Y²⁾, Okubo K³⁾, Ichimura K⁴⁾, Enomoto T⁵⁾, Kawauchi H⁶⁾, Masuyama K⁷⁾, Gotoh M²⁾, Suzaki H⁸⁾, Okamoto Y⁹⁾, Takenaka H¹⁰⁾ (1) Department of Otolaryngology, Fukui Univ, 2) Department of Otolaryngology, Kagoshima Univ, 3) Department of Otolaryngology, Nippon Medical School, 4) Department of Otolaryngology, Jichi Medical Univ, 5) Department of Otolaryngology, Totori Univ, 6) Department of Otolaryngology, Shimane Univ, 7) Department of Otolaryngology, Yamanashi Univ, 8) Department of Otolaryngology, Showa Univ, 9) Department of Otolaryngology, Chiba Univ, 10) and others) : Examination, diagnosis and classification for Japanese allergic rhinitis : Japanese guideline. *Auris Nasus Larynx* 2012 ; 39 (6) : 553-556.
 - 14) Inai S, Watanabe K, Okubo K : Inducible nitric oxide synthase participates in cochlear damage after acoustic stimulation in guinea pigs. *J Nippon Med Sch* 2012 ; 79 (2) : 121-128.
 - 15) Ishida A¹⁾, Ohta N¹⁾, Suzuki Y¹⁾, Kakehata S¹⁾, Okubo K, Ikeda H²⁾, Shiraishi H²⁾, Izuhara K²⁾ (1) Yamagata Univ, 2) Saga Univ) : Expression of pendrin and periostin in allergic rhinitis and chronic rhinosinusitis. *Allergology Int* 2012 ; 61 (4) : 589-595.
 - 16) Kamio T, Watanabe K, Okubo K : Acoustic stimulation promotes DNA fragmentation in the guinea pig cochlea. *J Nippon Med Sch* 2012 ; 79 (5) : 349-356.
 - 17) Bousquet J¹⁾, Schnemann H¹⁾, Samolinski B¹⁾, Okubo K, et al. (1) World Health Organization Collaborating center for Asthma and Rhinitis) : Allergic rhinitis and its impact on asthma (ARIA) : Achievements in 10 years and future needs. *J Allergy Clin Immunol* 2012 ; 130 (5) : 1049-1062.
 - 18) Mori S, Pawankar R, Ozu C, Nonaka M, Yagi T, Okubo K : Expression and role of MMP-2, MMP-9, MMP-13, TIMP-1 and TIMP-2 in allergic nasal mucosa. *Allergy Asthma Immunol Res* 2012 ; 4 (4) : 231-239.
 - 19) Watanabe K, Bloch W¹⁾ (1) Institute fuer Kreislaufforschung und Sportmedizin, Deutsche Sporthochschule Koeln.) : Histone methylation and acetylation indicates epigenetic change in the aged cochlea of mice. *Eur Arch ORL* 2012 ; 10 : 1-8.
 - 20) Watamabe K, Hatano G, Aoki H, Okubo K : The necessity of simple x-ray examination : A case report of button battery migration into the nasal cavity. *J Pedia Emerg* 2012 ; 29 (2) : 209-211.
 - 21) Saigusa H, Yamaguchi S, Nakamura T, Komachi T, Kadosono O, Ito H, Saigusa M¹⁾, Niimi S²⁾ (1) Private Practice, Tyler Oral and Facial Surgery, 2) Department of Speech-Language Pathology and Audiology, International University of Health and Welfare) : Surgical Improvement of of Speech Disorder Caused by Amyotrophic Lateral Sclerosis.. *Tohoku J Exp Med* 2012 ; 228 : 371-376.
 - 22) Saigusa H, Kumiko T¹⁾, Yamashita K¹⁾, Saigusa M²⁾, Aino I, Niimi S³⁾ (1) Department of Anatomy, Nippon Medical School, 2) Private Practice, Tyler Oran and Facial Surgery, 3) Department of Speech-Language Pathology and Audiology, International University of Welfare and Health) : Fiber Arrangement of the Vertical Lingual Muscle of the Human Adult Tongue. *Eur J Anatomy* 2012 ; 16 : 177-183.
 - 23) 三枝英人, 中村 毅, 小町太郎, 山口 智, 門園 修, 愛野威一郎, 伊藤裕之 : 慢性期統合失調症患者に発症した重症筋無力症による嚥下障害の1例. *嚥下医学* 2013 ; 2 : 61-68.
 - 24) Tamaki T¹⁾, Node Y¹⁾, Saitou N¹⁾, Saigusa H (1) Department of Neurosurgery, Nippon Medical School) : Observation of Vocal Fold and Pharyngeal Paralysis After Carotid Endarterectomy Using a Magnifying laryngoscope. *World J Surg* 2013 ; 37 (4) : 911-914.
- (2) 総説 :
- 1) 松根彰志 : 副鼻腔気管支症候群に伴う副鼻腔病変と治療. *MB ENTONI* 2012 ; 143 : 41-44.
 - 2) 松根彰志 : 外科的治療. *耳鼻咽喉科・頭頸部外科* 2013 ; 85 (1) : 30-34.
 - 3) 後藤 穰 : アレルギー性鼻炎治療のトピックス. *日医大医会誌* 2012 ; 8 (4) : 236-240.

- 4) 中溝宗永：頸部腫瘍の鑑別診断. 都耳鼻会報 2013；(140)：61-65.
 - 5) 松根彰志：細胞増殖因子. JOHNS 2013；29 (3)：341-346.
 - 6) 藤倉輝道¹⁾ (1) 日本医科大学教育推進室)：PBL からこれからの医学教育を考える. 日本医科大学医学会雑誌 2012；8 (3)：188-194.
 - 7) 藤倉輝道：アレルギー性鼻炎の自然経過. アレルギー・免疫 2012；19 (9)：1410-1416.
 - 8) Gotoh M, Okubo K：Sublingual immunotherapy for Japanese cedar pollinosis：current status in Japan. Clin Exp Allergy Rev 2012；12：36-40.
 - 9) 横島一彦, 中溝宗永：耳下腺主要の治療方針を決定するための鑑別診断. MB ENT 2012；148：34-39.
 - 10) Yonekura S¹⁾, Okamoto Y¹⁾, Horiguchi S¹⁾, Okubo K, Gotoh M, Konno A¹⁾, Okuda M (1) Chiba Univ)：Early intervention for Japanese cedar and cypress pollinosis. Clin Exp Allergy rev 2012；2012：10-16.
 - 11) Yuta A¹⁾, Ogihara H¹⁾, Yamanaka K¹⁾, Ogawa Y¹⁾, Mizutani H¹⁾, Okubo K (1) Mie Univ)：Therapeutic outcomes and immunological effect of sublingual immunotherapy for Japanese cedar pollinosis. Clin Exp Allergy Rev 2012；12：29-35.
 - 12) 大久保公裕：鼻アレルギー. アレルギー疾患診療 NAVI. 耳喉頭頸 2012；84 (5)：289-295.
 - 13) 大久保公裕：アレルギー性鼻炎に対する舌下免疫療法. アレルギー疾患の新常識. 治療 2012；94 (11)：1894-1899.
 - 14) 大久保公裕：アレルギー性鼻炎 図でみる免疫学の ABC. JOHNS 2013；29 (3)：495-502.
 - 15) 大久保公裕, 松根彰志：鼻アレルギー診療ガイドライン. 日医雑誌 2013；141 (10)：2167-2171.
 - 16) 三枝英人：嚥下内視鏡検査と治療計画：耳鼻咽喉科の場合. ENTONI 2012；147：59-66.
 - 17) 三枝英人：多系統萎縮症. ドクターサロン 2013；57：39-43.
 - 18) 伊藤裕之, 山口 智：誤嚥防止術の適応はどのようなものですか?. JOHNS 2012；28 (12)：1881-1883.
- (3) 研究報告書：
- 1) 大久保公裕：免疫療法による花粉症予防と免疫療法のガイドライン作成に向けた研究スギ花粉症に対する舌下免疫療法の経年効果に関する研究. 厚生労働省科学研究費補助金 免疫アレルギー疾患等予防・治療研究事業報告書 2013；27-29.
- (4) 症例報告：
- 1) 中溝宗永：観察義務・転送義務を怠ったために、その後患者が倒れて急性喉頭蓋炎から低酸素脳症により死亡したとして、損害賠償を求めた事例. 医療判例解説 2013；(42)：97-100.
 - 2) Fujikura T, Ishida M, Sekine K, Aoki H, Okubo K：Solitary Fibrous Tumor Arising from the Superior Nasal Turbinate：A Case Report. J Nippon Med Sch 2012；79 (5)：373-376.
 - 3) Yokoshima K, Nakamizo M, Sakanushi A, Ozu R, Yamaguchi S, Tone Y, Inai S, Murakami R, Okubo K：Surgical management of tongue cancer during pregnancy. ANL 2012；39 (3)：428-430.
 - 4) 萩原信敏¹⁾, 松谷 毅¹⁾, 野村 務¹⁾, 中溝宗永, 横島一彦, 河越哲郎²⁾, 川見典之²⁾, 宮下次廣³⁾, 宮下正夫¹⁾, 内田英二¹⁾ (1) 消化器外科, 2) 消化器内科, 3) 放射線治療科)：チーム医療で喉頭温存食道切除が可能であった頸胸部食道癌の1例. 日医大医会誌 2013；9 (1)：20-24.

著 書

〔追加分〕

追加分：

- 1) 赤澤 晃¹⁾, 松根彰志, 秋山一男²⁾, 足立 満³⁾, 宇理須厚雄⁴⁾, 大久保公裕, 大田 健⁵⁾, 片山一朗⁶⁾, 久保千春⁷⁾, 河野陽一⁸⁾, 近藤直実⁹⁾, 塩原哲夫, 有馬孝恭⁸⁾, 安藤仁志⁴⁾, 鈴木聖子^{4,10)}, その他 60 名 (1) 東京都立小児総合医療センターからだの専門診療部アレルギー科, 2) 国立病院機構相模原病院, 3) 昭和大学医学部内科学

講座呼吸器・アレルギー内科, 4) 藤田保健衛生大学坂文種報徳會病院小児科, 5) 帝京大学医学部内科学講座呼吸器・アレルギー内科, 6) 大阪大学大学院医学系研究科皮膚科学, 7) 九州大学病院, 8) 千葉大学大学院医学研究科小児病態学, 9) 岐阜大学大学院医学系研究科小児病態学, 10) その他): [分担] アレルギー性鼻炎・第4章. 臨床医のためのアレルギー診療ガイドブック (一般社団法人 日本アレルギー学会), 2013; pp154-155, 診断と治療社.

- 1) 松根彰志, 大久保公裕, その他 80 名 (1) 日本医科大学付属病院耳鼻咽喉科): [分担] アレルギー性鼻炎. アレルギー・リウマチ膠原病診療 最新ガイドライン (足立 満・笠間 毅), 2012; pp74-80, 総合医学社.
- 2) 浦野正美¹⁾, 松根彰志, 笠井 創²⁾, 須納瀬広³⁾, 坂口博史⁴⁾, 江上徹也⁵⁾, 武市紀人⁶⁾, 福田 諭⁶⁾, 小島博己⁷⁾, 高橋晴雄⁸⁾, 福田智美⁸⁾, 原測保明⁹⁾, 長門利純⁹⁾, 篠崎 剛¹⁰⁾, 林 隆一¹⁰⁾, その他 29 名 (1) 浦野耳鼻咽喉科医院, 2) 笠井耳鼻咽喉科クリニック, 3) 東京女子医科大学東医療センター耳鼻咽喉科, 4) 京都府立医科大学耳鼻咽喉科・頭頸部外科, 5) 江上耳鼻咽喉科医院, 6) 北海道大学病院耳鼻咽喉科・頭頸部外科, 7) 東京慈恵会医科大学耳鼻咽喉科, 8) 長崎大学医学部耳鼻咽喉・頭頸部外科, 9) 旭川医科大学耳鼻咽喉科・頭頸部外科, 10) その他): [分担] 第2章 鼻骨骨折整復術. 耳鼻咽喉科の外来処置・外来小手術 (浦野正美), 2012; pp156-159, 中山書店.
- 3) 後藤 穰: [分担] 第4章 よくある患者の訴えと診療のコツ (Q&A) 特異的免疫療法の施行法と効果発現機序について教えて下さい. 臨床医のための アレルギー 診療ガイドブック (日本アレルギー学会), 2012; pp150-156, 診断と治療社.
- 4) 後藤 穰, 大久保公裕: [分担] 3-2-2 アレルギー性鼻炎. 新機能抗体開発ハンドブック, 2012; pp284-289, エヌ・ティー・エス.
- 5) 藤倉輝道¹⁾ (1) 日本医科大学教育推進室): [分担] 第4章アレルギー性鼻炎 ケーススタディ 1: 29 歳女性. 臨床医のためのアレルギー診療ガイドブック (日本アレルギー学会), 2012; pp148-150, 診断と治療社.
- 6) 藤倉輝道¹⁾ (1) 教育推進室): [分担] 第4章アレルギー性鼻炎 Q & A レーザー治療の施行法と効果発現機序について教えて下さい. 臨床医のためのアレルギー診療ガイドブック (日本アレルギー学会), 2012; pp156-157, 診断と治療社.
- 7) 大久保公裕: [分担] 12. 耳鼻咽喉科用薬. 治療薬ハンドブック 2013 (高久史磨), 2013; pp224-238, じほう.
- 8) 大久保公裕 (1) 昭和大, 2) 千葉大, 3) 南東北病院, 4) 島根大, 5) 鹿児島大): [編集] 第4章アレルギー性鼻炎. 臨床医のためのアレルギー診療ガイドブック (日本アレルギー学会), 2012; pp147-194, 診断と治療社.
- 9) 大久保公裕: [編集] 第5章花粉症. 臨床医のためのアレルギー診療ガイドブック (日本アレルギー学会), 2012; pp195-230, 診断と治療社.
- 10) 大久保公裕: [分担] 15 アレルギー性鼻炎に対する舌下免疫療法. アレルギー疾患の免疫療法と分子標的治療 - 理論と実践 - (近藤直実), 2013; pp90-93, 診断と治療社.
- 11) 大久保公裕, 黒野祐一¹⁾, 市村恵一²⁾, 榎本雅夫³⁾, 岡本美孝⁴⁾, 川内秀之⁵⁾, 洲崎春海⁶⁾, 藤枝重治⁷⁾, 増山敬祐⁸⁾ (1) 鹿児島大, 2) 自治医大, 3) 鳥取大, 4) 千葉大, 5) 島根大, 6) 昭和大, 7) 福井大, 8) 山梨大): [共著] 鼻アレルギー診療ガイドライン. 鼻アレルギー診療ガイドライン (鼻アレルギー診療ガイドライン作成委員会), 2013; pp1-129, ライフサイエンス.
- 12) 大久保公裕: [分担] 鼻アレルギー診療ガイドライン. ファーマナビゲーター抗ヒスタミン薬編 (宮地良樹, 岡本美孝, 谷内一彦), 2012; pp182-191, メディカルレビュー社.
- 13) 大久保公裕: [分担] Q5 剤形 (普通錠, OD 錠) の使い分けは?. 抗ヒスタミン薬 達人の処方箋 (宮地良樹), 2013; pp110-111, メディカルレビュー社.

学会発表

[追加分]

追加分一般講演：

- 1) 関根久遠¹⁾, 池園哲郎²⁾, 木村百合香³⁾, 椎葉恭子¹⁾, 喜多村健⁴⁾, 八木聰明⁵⁾, 松根彰志¹⁾, 大久保公裕¹⁾ (1) 日本医科大学耳鼻咽喉科, 2) 埼玉医科大学耳鼻咽喉科, 3) 東京都健康長寿医療センター耳鼻咽喉科, 4) 東京医科歯科大学耳鼻咽喉科, 5) 人間環境大学)：高齢者及び超高齢者における内耳 microRNA 発現の比較検討. 日本耳科学会総会・学術講演会 (第 21 回) (沖縄), 2011. 11.

(1) 特別講演：

- 1) 中溝宗永：下咽頭・頸部食道癌の外科治療. 近畿耳鼻咽喉科手術手技研究会 (第 26 回) (大阪), 2012. 10.
- 2) 中溝宗永：頸部腫瘍の鑑別診断. 東京都耳鼻咽喉科医会・学術講演会 (東京), 2012. 10.
- 3) Yokoshima K : Patient-oriented head and neck cancer treatment ; Function preservation surgery based on safe free tissue transfer. Kosin University Head and Neck Conference (Busan), 2012. 9.
- 4) 大久保公裕：小児アレルギー性鼻炎の診療. 西日本小児アレルギー研究会 (第 40 回) (福岡), 2012. 8.
- 5) 三枝英人：ヒトの舌はどこからきたのか?. 利根地区耳鼻咽喉科勉強会, 2012. 6.
- 6) 三枝英人：ヒト独自の嚥下の成り立ちと, その障害について考える. 榊原記念病院内講演会, 2012. 9.
- 7) 三枝英人：嚥下障害の成り立ちそ対応. 自休会研究会, 2012. 7.
- 8) 三枝英人：ヒトの嚥下障害の成り立ちからその障害を考える. 第 9 回大阪摂食嚥下勉強会, 2012. 7.
- 9) 三枝英人：嚥下の成り立ちから, その障害を考える. 戸田中央総合病院 NST 勉強会, 2012. 8.
- 10) 三枝英人：嚥下の成り立ちからその障害を考える.. 第 2 回小金井グループ研究会, 2013. 2.

(2) 教育講演：

- 1) 中溝宗永：外来手術・手技シリーズ「咽喉頭・頸部」. 日本耳鼻咽喉科学会専門医講習会 (第 26 回) (福岡), 2012. 11.
- 2) 三枝英人：耳鼻咽喉科領域における胃食道逆流とその対策. 第一三共株式会社病院第一営業所内研修会, 2013. 1.
- 3) 三枝英人：摂食・嚥下機能評価の症例検討. 摂食・嚥下機能支援推進事業評価医養成研修 ステップ II ④, 2013. 2.

(3) シンポジウム：

- 1) 松根彰志：アレルギー性鼻炎の鼻粘膜リモデリング. 日本アレルギー学会春季臨床大会 (第 24 回) (大阪市), 2012. 5.
- 2) 松根彰志：耳鼻咽喉科とマクロライド療法. 日本感染症学会東日本地方会学術集会 (第 61 回) 日本化学療法学会東日本支部総会 (第 59 回) (東京都), 2012. 10.
- 3) 島田健一, 後藤 穰, 大久保公裕, 神沼 修¹⁾, 中谷明弘²⁾, 廣井隆親¹⁾ (1) 東京都医学総合研究所, 2) 新潟大学研究推進機構超域学院パーソナルゲノム医学)：スギ花粉症舌下免疫療法の効果発現機序における血清サイトカインの関与. 日本アレルギー学会 (62 回) (大阪), 2012. 11.
- 4) 後藤 穰, 竹内裕美¹⁾, 榎本雅夫²⁾, 大久保公裕 (1) 鳥取大学耳鼻咽喉科・頭頸部外科, 2) NPO 日本健康増進支援機構)：アレルギー疾患の診断・治療における特異的 IgE 抗体の微量および高値測定の意義：耳鼻科領域における検討. アレルギー学会 (第 62 回) (大阪), 2012. 11.
- 5) 大久保公裕, 後藤 穰：アレルギー性鼻炎：免疫療法の効果を向上させるために (各種アレルギー疾患における免疫療法の機序, 効果, そして問題点). 日本アレルギー学会 (第 62 回) (大阪), 2012. 11.
- 6) 大久保公裕：アレルギー性鼻炎の病態と最新治療：薬物療法, 免疫療法の有効性 (アレルギー疾患の最新の病態・治療について). 日本アレルギー学会 (第 62 回) (大阪), 2012. 11.

- 7) 大久保公裕：小児アレルギー性鼻炎ガイドライン（アレルギーガイドライン解説）. 日本小児アレルギー学会（第49回）（大阪），2012. 9.
 - 8) Okubo K：The mechanism and the effect of sublingual immunotherapy for Japanese cedar pollinosis. Asian Research Symposium in Rhinology（15th）（Singapore），2012. 5.
 - 9) 大久保公裕，後藤 稔，湯田厚司¹⁾（¹⁾ 湯田クリニック）：アレルギー性鼻炎における免疫療法の知見（免疫療法）. 日本アレルギー学会春季臨床大会（第24回）（大阪），2012. 5.
- (4) セミナー：
- 1) 松根彰志：慢性副鼻腔炎の病態と治療についての到達点と課題. 耳鼻咽喉科臨床学会総会・学術講演会（第74回）（東京都），2012. 7.
 - 2) 松根彰志：慢性副鼻腔炎の薬物治療. 日本鼻科学会総会・学術講演会（第51回）（千葉市），2012. 9.
 - 3) 後藤 稔：アレルギー性鼻炎の免疫療法. 日本耳鼻咽喉科臨床学会（第74回）（東京），2012. 7.
 - 4) 後藤 稔：免疫療法の実際. 日本鼻科学会（第51回）（千葉），2012. 9.
 - 5) 後藤 稔：アレルギー性鼻炎の治療戦略. 日本アレルギー学会（第62回）（大阪），2012. 11.
 - 6) 大久保公裕，橋口一弘¹⁾（¹⁾ ふたばクリニック）：アレルギー性鼻炎の併用療法. 日本アレルギー学会（第62回）（大阪），2012. 11.
 - 7) 大久保公裕：舌下免疫療法の現状と期待. 日本鼻科学会（第51回）（千葉），2012. 9.
 - 8) 大久保公裕：one airway one disease-アレルギー性鼻炎の治療. 日本鼻科学会（第51回）（千葉），2012. 9.
 - 9) 大久保公裕：小児アレルギー性鼻炎に対する抗ロイコトリエン薬の効果. 日本小児アレルギー学会（第49回）（大阪），2012. 9.
 - 10) 大久保公裕：小児花粉症の実際. 日本小児アレルギー学会（第49回）（大阪），2012. 9.
 - 11) 大久保公裕：アレルギー性鼻炎. 日本アレルギー学会春季臨床大会（第24回）（大阪），2012. 5.
- (5) ワークショップ：
- 1) 大久保公裕：免疫療法の実際：皮下注射による免疫療法（SCIT）の手技を中心に. 日本アレルギー学会春季臨床大会（第24回）（大阪），2012. 5.
- (6) 一般講演：
- 1) 松根彰志：ヒト慢性副鼻腔炎における，鼻茸および篩骨洞粘膜由来培養上皮細胞の炎症性サイトカインの産出. 日本耳鼻咽喉科学会総会・学術講演会（第113回）（新潟市），2012. 5.
 - 2) 岩崎智憲¹⁾，齊藤一誠¹⁾，原田みずえ²⁾，宮下圭一²⁾，松根彰志³⁾，武元嘉彦¹⁾，深水 篤¹⁾，佐藤秀夫¹⁾，稲田絵美¹⁾，長谷川大子¹⁾，覚野恵梨子⁴⁾，嘉ノ海龍三⁴⁾，早崎治明⁵⁾，黒野祐一²⁾，山崎要一¹⁾（¹⁾ 鹿児島大学大学院医歯学総合研究科小児歯科学分野，²⁾ 鹿児島大学大学院耳鼻咽喉科学教室，³⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院耳鼻咽喉科，⁴⁾ カノミ矯正・小児歯科クリニック，⁵⁾ 新潟大学大学院医歯学総合研究所小児歯科学分野）：上気道流体シミュレーションを用いた上顎骨急速拡大による歯科治療前後の呼吸時咽頭気道圧の評価（Best Presentation受賞）. 日本睡眠学会（第37回）（横浜市），2012. 6.
 - 3) 関根久遠¹⁾，椎葉恭子¹⁾，木村まき¹⁾，松根彰志¹⁾，大久保公裕²⁾（¹⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院耳鼻咽喉科，²⁾ 日本医科大学付属病院耳鼻咽喉科頭頸部外科）：上顎洞真菌症に対する内視鏡下鼻内手術. 耳鼻咽喉科臨床学会総会・学術講演会（第74回）（東京都），2012. 7.
 - 4) 関根久遠¹⁾，松根彰志¹⁾，椎葉恭子¹⁾，木村まき¹⁾，大久保公裕²⁾（¹⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院耳鼻咽喉科，²⁾ 日本医科大学付属病院耳鼻咽喉科頭頸部外科）：当科におけるハンノキ花粉症について. 臨床アレルギー研究会（第69回）（東京都），2012. 6.
 - 5) 関根久遠¹⁾，椎葉恭子¹⁾，石田麻里子¹⁾，木村まき¹⁾，松根彰志¹⁾（¹⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院耳鼻咽喉科）：当院での鼻手術症例データ登録. 小此木信六郎記念耳鼻咽喉科研究会（第4回）（東京都），2013. 3.
 - 6) 関根久遠，松根彰志，大久保公裕（³⁾ 日本医科大学付属病院耳鼻咽喉科）：鼻副鼻腔炎患者の総Ig・血中好酸

- 球数と真菌・黄ブ球菌エンテロトキシン抗体価. 臨床アレルギー研究会 (第70回) (東京都), 2012. 11.
- 7) 中溝宗永, 横島一彦, 稲井俊太, 酒主敦子, 大久保公裕: 外切開による喉頭温存下咽頭部分切除術の成績. 日本癌治療学会 (第50回) (横浜), 2012. 10.
 - 8) 島田健一, 後藤 稔, 大久保公裕, 神沼 修¹⁾, 中谷明弘²⁾, 廣井隆親¹⁾ (1) 東京都医学総合研究所, 2) 新潟大学研究推進機構超域学院パーソナルゲノム医学): 血清サイトカインによる舌下免疫療法の治療効果予測. 日本アレルギー学会 (第62回) (大阪), 2012. 11.
 - 9) 関根久遠, 松根彰志, 大久保公裕¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院耳鼻咽喉科・頭頸部外科): 上顎洞真菌症に対する下鼻甲介前方スイングを用いた手術法について. 日本頭頸部外科学会総会 (第23回) (鹿児島市), 2013. 1.
 - 10) 関根久遠, 松根彰志, 大久保公裕¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院耳鼻咽喉科): 鼻副鼻腔炎における総Ig値, 末梢血好酸球数と真菌, 黄ブ球菌エンテロトキシン特異的抗体値に関する検討. 日本耳鼻咽喉科免疫アレルギー学会 (第31回) (倉敷市), 2013. 2.
 - 11) 後藤 稔: 舌下免疫療法における血清サイトカインの相互作用. SCIENCE in shinagawa (東京), 2012. 4.
 - 12) 林 彦^{1, 2)}, 松根彰志¹⁾, 李 英姫³⁾, 川田智之³⁾, 大久保公裕¹⁾ (1) 日本医科大学耳鼻咽喉科, 2) 吉林省図們市人民病院・中国耳鼻咽喉科, 3) 日本医科大学衛生学・公衆衛生学): 慢性副鼻腔炎の鼻茸形成におけるサイトカインプロファイルと新規マクロライドEM900による抑制効果に関する研究. 学校法人日本医科大学 外国人留学者研究会プログラム (東京都), 2013. 2.
 - 13) Yokoshima K, Nakamizo M, Inai S, Sakanushi A, Kokawa T, Okubo K: Three cases of carcinoma of the hypopharynx developing as metachronous second primary cancers after total laryngectomy with radiotherapy for carcinoma of the larynx. 日韓耳鼻咽喉科学会 (第14回) (京都), 2012. 4.
 - 14) Yokoshima K, Nakamizo M, Inai S, Sakanushi A, Kokawa T, Okubo K: Anatomical variation of the superior thyroid vein for the functional preservation of the parathyroid glands during pharyngo-laryngectomy with bilateral neck dissection. International Conference on Head and Neck Cancer (8th.) (Toronto), 2012. 7.
 - 15) 横島一彦, 中溝宗永, 稲井俊太, 酒主敦子, 細矢 慶, 吉野綾穂, 原口美穂子, 大久保公裕: 高齢頭頸部癌患者に対する治療法の選択と手術療法の位置づけ. 日本頭頸部外科学会 (第23回) (鹿児島), 2013. 1.
 - 16) 大崎由香利¹⁾, 横島一彦, 工藤美美¹⁾, 中溝宗永, 稲井俊太, 酒主敦子, 齋藤有希子, 大久保公裕 (1) 付属病院看護部): 頭頸部癌2症例の遺族に対するインタビューからグリーフケアを考える. 日本癌治療学会 (第50回) (横浜), 2012. 10.
 - 17) 横島一彦, 中溝宗永, 酒主敦子, 稲井俊太, 粉川隆行, 大久保公裕: 顔面神経の鋭的切離が不可能だった耳下腺癌への対応と術後経過. 日本頭頸部癌学会 (第36回) (松江), 2012. 6.
 - 18) 横島一彦, 中溝宗永, 酒主敦子, 稲井俊太, 草間 薫, 森美穂子, 粉川隆行, 齋藤有希子, 大久保公裕: 認知症を併存する頭頸部癌患者への対応. 日本耳鼻咽喉科学会 (第113回) (新潟), 2012. 5.
 - 19) 稲井俊太¹⁾, 中溝宗永¹⁾, 横島一彦¹⁾, 酒主敦子¹⁾, 大久保公裕¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院 耳鼻咽喉科・頭頸部外科): 顎下腺に腺様嚢胞癌と oncocytoma が同時に発生した1例. 日本頭頸部癌学会 (第36回) (島根県松江市), 2012. 6.
 - 20) 稲井俊太¹⁾, 中溝宗永¹⁾, 横島一彦¹⁾, 酒主敦子¹⁾, 細矢 慶¹⁾, 原口美穂子¹⁾, 大久保公裕¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院 耳鼻咽喉科・頭頸部外科): 頭頸部領域に発生した神経鞘腫手術症例の検討. 日本頭頸部外科学会 (第23回) (鹿児島県鹿児島市), 2013. 1.
 - 21) 原口美穂子¹⁾, 三枝英人¹⁾, 細矢 慶¹⁾, 稲井俊太¹⁾, 酒主敦子¹⁾, 横島一彦¹⁾, 中溝宗永¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院 耳鼻咽喉科・頭頸部外科): 頸部気管腺様嚢胞癌の1例. 日本頭頸部外科学会 (第23回) (鹿児島), 2013. 1.
 - 22) 森美穂子¹⁾, 若山 望¹⁾, 吉野綾穂¹⁾, 村上亮介¹⁾, 草間 薫¹⁾, 後藤 稔¹⁾, 青木秀治¹⁾, 大久保公裕¹⁾ (1) 日本

- 医科大学付属病院 耳鼻咽喉科・頭頸部外科)：当科アレルギー外来において過去2年間に減感作療法を開始した患者の現況. 日本耳鼻咽喉科学会東京都地方部会(第196回)(東京), 2012. 7.
- 23) 増田 敬¹⁾, 大久保公裕⁽¹⁾ 同愛記念小児科)：小児気管支喘息のコントロール状態はアレルギー性鼻炎に影響されるか-SACRA Questionnaire を用いた検討. 小児耳鼻咽喉科学会(第7回)(岡山), 2012. 6.
- 24) 大塚博邦¹⁾, 高梨征雄²⁾, 大久保公裕⁽¹⁾ 大塚耳鼻咽喉科, ²⁾ 神奈川総合高校)：スギ花粉症と細菌感染. 日本アレルギー学会(第62回)(大阪), 2012. 11.
- 25) 細矢 慶, 増野 聡, 後藤 稔, 大久保公裕)：スギ花粉症に対する舌下免疫療法の治療期間の検討. 日本アレルギー学会(第62回)(大阪), 2012. 11.
- 26) 大久保公裕)：季節性アレルギー性鼻炎に対するフェキソフェナジン/ブソイドエフェドリン配合剤の有効性検証比較試験. 日本鼻科学会(第51回)(千葉), 2012. 9.
- 27) 橋口一弘¹⁾, 若林健一郎²⁾, 神崎 晶³⁾, 末松 潔⁴⁾, 大久保公裕⁽¹⁾ ふたばクリニック, ²⁾ 北里研究所, ³⁾ 慶応大, ⁴⁾ 左門町クリニック)：OHIO chamber を用いたフルチカゾンフランカルボン酸点鼻剤とレボセチリジン錠のスギ花粉症症状に対する併用療法の効果. 日本耳鼻咽喉科免疫アレルギー学会(第31回)(倉敷), 2013. 2.
- 28) 橋口一弘¹⁾, 末松 潔²⁾, 土河三千紀³⁾, 大久保公裕⁽¹⁾ ふたばクリニック, ²⁾ 左門町クリニック, ³⁾ 大腸薬品)：スギ花粉症患者における2011年花粉時期の症状発現. 日本アレルギー学会春季臨床大会(第24回)(大阪), 2012. 5.
- 29) 太田伸男¹⁾, 鈴木祐輔¹⁾, 高橋裕一¹⁾, 和気貴祥¹⁾, 大久保公裕⁽¹⁾ 山形大)：スギ花粉症患者の眼鼻以外の症状に関する検討. 日本アレルギー学会春季臨床大会(第24回)(大阪), 2012. 5.
- 30) Watanabe K, Bloch W)：Presbycusis and epigenetics. 49th Inner Ear Biology Workshop (Tuebingen), 2012. 9.
- 31) 渡邊健一, 大久保公裕)：老人性難聴とエピジェネティクス. 第22回日本耳科学会総会(名古屋), 2012. 10.
- 32) 渡邊健一)：加齢マウス蝸牛におけるヒストン修飾とエピジェネティクス. 第80回日本医科大学医学会総会 海外留学生講演(東京都), 2012. 9.
- 33) 渡邊健一)：加齢による内耳形態変化とエピジェネティクス. 第6回小此木研究会(東京), 2013. 3.
- 34) 小町太郎¹⁾, 馬場俊吉¹⁾, 門園 修¹⁾, 井手路子¹⁾ ⁽¹⁾ 日本医科大学千葉北総病院 耳鼻咽喉科)：上眼静脈拡張を伴った眼症状が上顎洞真菌症治療後に改善しえた1例. 日本鼻科学会(第51回)(千葉県), 2012. 9.
- 35) 門園 修¹⁾, 井手路子¹⁾, 小町太郎¹⁾, 馬場俊吉¹⁾ ⁽¹⁾ 日本医科大学千葉北総病院)：頭振を認めためまい症の1例. 日耳鼻千葉県地方部会(第82回)(千葉県), 2013. 1.
- 36) 井手路子¹⁾, 小町太郎¹⁾, 門園 修¹⁾, 馬場俊吉¹⁾ ⁽¹⁾ 日本医科大学千葉北総病院)：急性腎不全合併のため血液透析を要した急性扁桃炎の1例. 日耳鼻千葉県地方部会(第81回)(千葉県), 2012. 7.
- 37) 吉野綾穂, 三枝英人, 山口 智, 森美穂子, 若山 望, 伊藤裕之, 太田史一¹⁾, 大山義雄²⁾ ⁽¹⁾ 太田総合病院耳鼻咽喉科, ²⁾ 大山耳鼻咽喉科医院)：小児期から遷延していた難治性声門下狭窄症例の治療経験. 第33回東日本音声外科研究会, 2012. 4.
- 38) 三枝英人, 山口 智, 門園 修, 小町太郎, 伊藤裕之)：嚥下スクリーニング検査のみにより嚥下不能と診断されていた1例. 第20回耳鼻咽喉科リハビリテーション研究会, 2012. 4.
- 39) 三枝英人, 中村 毅, 山口 智, 小町太郎, 門園 修, 伊藤裕之)：嚥下に伴うジストニアと思われる喉頭の異常運動による嚥下障害. 第27回大脳基底核研究会, 2012. 6.
- 40) 吉野綾穂, 三枝英人, 山口 智, 伊藤裕之, 大久保公裕)：頸椎亜脱臼を合併する嚥下障害に対する局所麻酔下の嚥下機能改善術の経験. 第196回日本耳鼻咽喉科学会東京都地方部会学術講演会, 2012. 7.
- 41) 門園 修, 三枝英人, 山口 智, 小町太郎, 中村 毅, 愛野威一郎, 粉川隆行, 伊藤裕之)：多発性硬化症に合併した特異な音声障害. 第57回日本音声言語医学会総会・学術講演会, 2012. 10.
- 42) 三枝英人, 山口 智, 小町太郎, 門園 修, 伊藤裕之)：口腔底再建後の舌運動障害による構音障害に対する舌前

- 方形成の工夫. 第 57 回日本音声言語医学会総会・学術講演会, 2012. 10.
- 43) 山口 智, 三枝英人, 小町太郎, 門園 修, 伊藤裕之, 大久保公裕: 咽頭蠕動波は咽頭期嚥下開始の真の指標となり得るのか?. 第 64 回日本気管食道科学会総会・学術講演会, 2012. 11.
- 44) 三枝英人, 山口 智, 小町太郎, 門園 修, 伊藤裕之: 遅発性ジスキネジアによる嚥下障害の 1 例: 慢性期統合失調症に発症する嚥下障害についての臨床的研究.. 第 64 回日本気管食道科学会総会・学術講演会, 2012. 11.
- 45) 伊藤裕之, 加藤邦孝¹⁾, 鈴木康司²⁾, 三枝英人, 小泉千秋³⁾ (¹⁾ 東京慈恵会医科大学耳鼻咽喉科, ²⁾ 国立リハビリテーションセンター耳鼻咽喉科, ³⁾ 神奈川リハビリテーション病院理学療法科): 成人脳血管障害に伴う嚥下障害-球麻痺と偽性球麻痺の比較-. 第 64 回日本気管食道科学会総会・学術講演会, 2012. 11.
- 46) 三枝英人, 山口 智, 小町太郎, 門園 修, 伊藤裕之: 慢性サルコイドミオパチーによる嚥下障害の 1 例. 第 36 回日本嚥下医学会総会・学術講演会, 2013. 3.
- 47) 山口 智, 三枝英人, 小町太郎, 門園 修, 伊藤裕之: 逆流防止手術により改善した重度嚥下障害の 1 症例. 第 36 回日本嚥下医学会総会・学術講演会, 2013. 3.
- 48) 三枝英人, 山口 智, 小町太郎, 門園 修, 中村 毅, 伊藤裕之: 難治性咽頭期嚥下障害に対する Krespi 法 (粘膜下輪状軟骨後板亜全摘術) の改良による機能改善. 第 36 回日本嚥下医学会総会・学術講演会, 2013. 3.
- 49) 三枝英人, 山口 智, 小町太郎, 門園 修, 伊藤裕之: 小児喉頭乳頭腫症例の治療経過. 第 25 回日本喉頭科学会総会・学術講演会, 2013. 3.
- 50) Wakayama N, Saigusa H, Yamaguchi S, Komachi T, Kadosono O, Ito H, Okubo K: Clinical Studies for Unknown Originated Associated Palsies. Laryngology 2012 (Malaysia), 2012. 6.
- 51) Yamaguchi S, Saigusa H, Komachi T, Kadosono O, Wakayama N, Ito H, Okubo K: A Case of Unilateral Recurrent Laryngeal Nerve Palsy with Chronic Inflammatory Demyelinating Polyneuropathy. Laryngology 2012 (Malaysia), 2012. 6.
- 52) 萩原由佳¹⁾, 高橋英明¹⁾, 後藤 穰, 大久保公裕 (¹⁾ 日本医科大学 医学部 4 年生): スギ舌下免疫療法による有効性の評価 (初年度の結果). 日本耳鼻咽喉科免疫アレルギー学会 (第 31 回) (倉敷), 2013. 2.

21. 泌尿器科学

[付属病院泌尿器科]

研究業績

論文

[追加分]

追加分原著：

- 1) Suzuki Y, Saito Y, Kondo Y : Bone-anchored sling created with the InVance™system for the treatment of incontinence after radical prostatectomy : initial experience in Japan. J Nippon Med Sch 2012 ; 79 (2) : 143-146.

(1) 原著：

- 1) Suzuki Y, Matsuzawa I, Hamasaki T, Kimura G, Kondo Y : Retrospective study of laparoscopic radical prostatectomy for localized prostate cancer after transurethral resection of the prostate compared with retro-pubic radical prostatectomy at the same institution. J Nippon Med Sch 2012 ; 79 (6) : 416-421.
- 2) Suzuki Y, Saito Y, Ogushi S, Kimura G, Kondo Y : Bone-anchored sling using the Mini Quick Anchor Plus and polypropylene mesh to treat post-radical prostatectomy incontinence : early experience. Int J Urol 2012 ; 19 (10) : 957-960.
- 3) 木村 剛, 柳 雅人, 河原崎由里子, 木全亮二, 松沢一郎, 鈴木康友, 濱崎 務, 近藤幸尋 : 小径腎癌の予後因子の検討. 腎癌研究会会報 2012 ; 42 : 104-105.

(2) 総説：

- 1) 木村 剛, 濱崎 務, 近藤幸尋 : リンパ節郭清の現状と可能性 腎細胞癌. 泌尿器外科 2012 ; 25 (10).

(3) 症例報告：

- 1) 野村俊一郎, 鈴木康友, 齊藤友香, 田邊邦明, 小串聡子, 松沢一郎, 濱崎 務, 木村 剛, 近藤幸尋 : 膀胱癌 plasmacytoid variant を認めた 1 例. 日本泌尿器科学会雑誌 2013 ; 104 (1) : 26-29.
- 2) Ohashi 1R, Hosokawa 2Y, Kimura G, Kondo Y, Tanaka 2K, Tsuchiya 1S ⁽¹⁾ Division of Diagnostic Pathology, ⁽²⁾ Department of Intensive and Cardiac Care Unit) : Acute renal failure as the presenting sign of disseminated intravascular coagulation in a patient with metastatic prostate cancer. International Journal of Nephrology and Renovascular Disease 2013 ; 6 : 47-51.
- 3) Saito 1Y, Nagayama 1M, Miura 1Y, Ogushi S, Suzuki Y, Noro 1R, Minegishi 1Y, Kimura G, Kondo Y, Gemma 1A ⁽¹⁾ Department of Pulmonary Medicine and Oncology) : A Case of Pneumocystis Pneumonia Associated with Everolimus Therapy for Renal Cell Carcinoma. Jpn J Clin Oncol 2013.
- 4) Saito Y¹⁾, Kunugi S²⁾, Suzuki Y, Kousuke N¹⁾, Miura Y¹⁾, Minegishi Y¹⁾, Kimura G, Kondo Y, Azuma A¹⁾, Fukuda Y²⁾, Gemma A¹⁾ ⁽¹⁾ Department of Pulmonary Medicine and Oncology, Graduate School of Medicine, Nippon Medical School, ⁽²⁾ Department of Analytic Human Pathology, Graduate School of Medicine) : Granuloma-forming Interstitial Pneumonia Occurring One Year after the Start of Everolimus Therapy. Intern Med 52 : 263-267, 2013 2013 ; 52 : 263-267.

(4) Case Report：

- 1) Yoshinobu S¹⁾, Mikie N¹⁾, Yukiko M¹⁾, Satoko O²⁾, Yasutomo S²⁾, Rintaro N¹⁾, Yuji M¹⁾, Go K²⁾, Akihiko

G¹) (1) Department of Pulmonary Medicine and Oncology, Graduate School of Medicine, Nippon Medical School, Tokyo, Japan, (2) Department of Urology, Graduate School of Medicine, Nippon Medical School, Tokyo, Japan) : A Case of Pneumocystis Pneumonia Associated with Everolimus Therapy for Renal Cell Carcinoma. Japanese Journal of Clinical Oncology 2013 ; 2 (18).

著 書

- 1) 濱崎 務¹⁾, 木村 剛¹⁾, 近藤幸尋¹⁾ (1) 日本医科大学大学院泌尿器科学) : [自著] 患者さんに説明できる 腹腔鏡下腎摘除術の知識とポイント. 泌尿器ケア Urological Nursing, 2012 ; pp22-26, メディカ出版.
- 2) 濱崎 務¹⁾, 木村 剛¹⁾, 近藤幸尋¹⁾ (1) 日本医科大学泌尿器科) : [自著] 手術手技 泌尿器腹腔鏡手術—もう一歩, ステップアップするために① 腎癌に対する腹腔鏡下根治的腎摘除術 ハンドアシスト法. 臨床泌尿器科, 2012 ; pp925-928, 医学書院.

学会発表

(1) 教育講演 :

- 1) 柳 雅人¹⁾, 近藤幸尋¹⁾, 遠藤勇氣²⁾, 西村泰司²⁾, 水沼仁孝³⁾, 新井正徳⁴⁾, 横田裕行⁴⁾, 中澤 賢⁵⁾, 村田 智⁵⁾, 汲田伸一郎⁵⁾ (1) 日本医科大学付属病院泌尿器科, (2) 大田原赤十字病院泌尿器科, (3) 大田原赤十字病院放射線科, (4) 日本医科大学付属病院高度救命救急センター, (5) 日本医科大学付属病院放射線科) : 深在性腎損傷に対する経カテーテル的動脈塞栓術の役割. 日本泌尿器科学会総会 (第100回) (横浜), 2012. 4.

(2) シンポジウム :

- 1) 松澤一郎¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院泌尿器科) : Robot Assisted Radical Prostatectomy : Tips and Tricks. 日本泌尿器内視鏡学会総会 (第26回) (仙台), 2012. 11.
- 2) 荒井陽一¹⁾, 近藤幸尋²⁾ (1) 東北大学泌尿器科, (2) 日本医科大学泌尿器科) : Future of Radical Prostatectomy. 日本泌尿器科学会東部総会 (第77回) (東京), 2012. 10.
- 3) 濱崎 務¹⁾ (1) 日本医科大学泌尿器科) : 腹腔鏡下前立腺全摘術 : 生き残る為には. 日本泌尿器科学会東部総会 (第77回) (東京), 2012. 10.

(3) パネルディスカッション :

- 1) 柳 雅人¹⁾, 近藤幸尋¹⁾, 遠藤勇氣²⁾, 西村泰司²⁾, 水沼仁孝³⁾, 新井正徳⁴⁾, 横田裕行⁴⁾, 中澤 賢⁵⁾, 村田 智⁵⁾, 汲田伸一郎⁵⁾ (1) 日本医科大学付属病院泌尿器科, (2) 大田原赤十字病院泌尿器科, (3) 大田原赤十字病院放射線科, (4) 日本医科大学付属病院高度救命救急センター, (5) 日本医科大学付属病院放射線科) : 深在性腎損傷に対する経カテーテル的動脈塞栓術の役割 : 大規模病院および中小規模病院の比較. 日本泌尿器科学会東部総会 (第77回) (東京), 2012. 10.
- 2) Masato Y¹⁾ (1) Department of Urology Nippon Medical School) : Papillary Renal Cell Carcinoma Type 1 and 2 : Clinicopathological Characteristics and Prognosis. Congress of the Societe Internationale Urologie (32) (FUKUOKA), 2012. 9.

(4) セミナー :

- 1) 近藤幸尋¹⁾, 西山博之²⁾, 横溝 晃³⁾ (1) 日本医科大学泌尿器科, (2) 筑波大学泌尿器科, (3) 九州大学泌尿器科) : BCG膀胱内注入療法の予後因子 : 基礎と臨床 最近の話題. 日本泌尿器科学会総会 (第100回) (横浜), 2012. 4.
- 2) 近藤幸尋¹⁾, 西山博之²⁾, 横溝 晃³⁾ (1) 日本医科大学泌尿器科, (2) 筑波大学泌尿器科, (3) 九州大学泌尿器科) : BCG膀胱内注入療法の予後因子 : 基礎と臨床 最近の話題. 日本泌尿器科学会総会 (第100回) (横浜), 2012. 4.
- 3) 近藤幸尋¹⁾, 桶川隆嗣²⁾ (1) 日本医科大学泌尿器科, (2) 杏林大学泌尿器科) : 前立腺癌の新規薬剤評価における血

中循環癌細胞 (Circulation Tumor Cells ; CTCs) の測定と, その Characterization の意味とは. 日本泌尿器科学会東部総会 (第 77 回) (東京), 2012. 10.

- 4) Kimura G, Mototsugu IO, Pantuck 2A ⁽¹⁾ Department of Urology, Keio University School of Medicine, ⁽²⁾ UCLA David Geffen School of Medicine) : When do you think of presurgical molecular target therapy?. Advancements in Urology 2013 : AUA-JUA Symposium in Las Vegas (Las Vegas), 2013. 2.

(5) 一般講演 :

- 1) 新藤貴雄¹⁾, 木村 剛¹⁾, 濱崎 務¹⁾, 田邊邦明¹⁾, 赤塚 純¹⁾, 武田隼人¹⁾, 木全亮二¹⁾, 松澤一郎¹⁾, 鈴木康友¹⁾, 近藤幸尋¹⁾ ⁽¹⁾ 日本医科大学泌尿器科) : 骨形成を伴った腎細胞癌の 1 例. 日本泌尿器科学会東京地方会 (第 609 回) (東京), 2012. 6.
- 2) 河原崎由里子¹⁾, 松澤一郎¹⁾, 稲津宏紀¹⁾, 赤塚 純¹⁾, 小串聡子¹⁾, 木全亮二¹⁾, 鈴木康友¹⁾, 濱崎 務¹⁾, 木村剛¹⁾, 近藤幸尋¹⁾ ⁽¹⁾ 日本医科大学泌尿器科) : アドレナリン酸ナトリウム水和物の腔内誤挿入により尿道閉鎖を来した 1 例. 日本泌尿器科学会東京地方会 (第 610 回) (東京), 2012. 12.
- 3) 井上 泰¹⁾, 赤塚 純¹⁾, 新藤貴雄¹⁾, 河原崎由里子¹⁾, 柳 雅人¹⁾, 小串聡子¹⁾, 高橋 亮¹⁾, 木全亮二¹⁾, 松澤一郎¹⁾, 鈴木康友¹⁾, 濱崎 務¹⁾, 木村 剛¹⁾, 近藤幸尋¹⁾ ⁽¹⁾ 日本医科大学泌尿器科) : ソラフェニブ内服により, 多形紅斑を呈した腎細胞癌の 2 例. 日本泌尿器科学会東京地方会 (第 611 回) (東京), 2013. 2.
- 4) 高橋 亮¹⁾, 木全亮二¹⁾, 柳 雅人¹⁾, 飯ヶ谷重来¹⁾, 河原崎由里子¹⁾, 近藤幸尋¹⁾ ⁽¹⁾ 日本医科大学泌尿器科) : 施設入所中の長期尿道留置カテーテル患者さんの, 失禁型尿道ステント留置の試み. 日本老年泌尿器科学会 (第 25 回) (徳島県), 2012. 6.
- 5) 上野 悟¹⁾, 溝上 敦¹⁾, 島村正喜¹⁾, 折戸松男¹⁾, 石田武之¹⁾, 並木幹夫¹⁾, 深貝隆志²⁾, 藤本直浩³⁾, 大岡均至⁴⁾, 近藤幸尋⁵⁾, 新井 学⁵⁾, 井手久満⁵⁾, 片岡和義⁵⁾ ⁽¹⁾ 金沢大学医学部泌尿器科学グループ, ⁽²⁾ 昭和大学医学部泌尿器科学, ⁽³⁾ 産業医科大学医学部泌尿器科学, ⁽⁴⁾ 国立病院機構神戸医療センター泌尿器科, ⁽⁵⁾ 骨転移を有する前立腺癌症例に対するゾレドロン酸併用 CAB 療法に関する研究グループ) : 骨転移を有する前立腺癌症例に対するゾレドロン酸併用 CAB 療法に関する多施設共同無作為化比較試験の中間報告. 日本泌尿器科学会総会 (第 100 回) (横浜), 2012. 4.
- 6) 鈴木康一郎¹⁾, 梨井隼菱¹⁾, 船田 哲¹⁾, 越智敦彦¹⁾, 志賀直樹¹⁾, 太田智則¹⁾, 古谷雄三²⁾, 齋藤友香³⁾, 鈴木康友³⁾, 近藤幸尋³⁾ ⁽¹⁾ 亀田メディカルセンター泌尿器科, ⁽²⁾ 塩田病院泌尿器科, ⁽³⁾ 日本医科大学泌尿器科) : IPSS と CLSS を用いたナフトピジルの有効性に対する評価の比較検討. 日本泌尿器科学会総会 (第 100 回) (横浜), 2012. 4.
- 7) 小串聡子¹⁾, 鈴木康友¹⁾, 箕輪忠明¹⁾, 河原崎由里子¹⁾, 青木綾子¹⁾, 齋藤友香¹⁾, 松澤一郎¹⁾, 濱崎 務¹⁾, 木村剛¹⁾, 近藤幸尋¹⁾ ⁽¹⁾ 日本医科大学付属病院泌尿器科) : 過活動膀胱を伴う男性下部尿路症状に対する塩酸タムスロシン先行投与後のコハク酸ソリフェナシンの有用性について. 日本泌尿器科学会総会 (第 100 回) (横浜), 2012. 4.
- 8) 中川 徹¹⁾, 尾形吉彦¹⁾, 河原貴史¹⁾, 原 智彦¹⁾, 中西弘之¹⁾, 辻山元晴¹⁾, 新井恵東²⁾, 金井弥栄²⁾, 藤元博行¹⁾ ⁽¹⁾ 国立がんセンター中央病院泌尿器後腹膜腫瘍科, ⁽²⁾ 国立がん研究センター研究分子病理分野) : 膀胱全摘術後に再発をきたした膀胱癌症例の予後予測因子. 日本泌尿器科学会総会 (第 100 回) (横浜), 2012. 4.
- 9) 木全亮二¹⁾, 根本 勺¹⁾, 鈴木康友¹⁾, 濱崎 務¹⁾, 木村 剛¹⁾, 村田 智²⁾, 近藤幸尋¹⁾ ⁽¹⁾ 日本医科大学付属病院泌尿器科, ⁽²⁾ 日本医科大学付属病院放射線科) : Poor Risk の浸潤性膀胱癌症例に対する, NIPP 法を用いた動注化学療法による膀胱温存療法の検討並びに最新の治療工夫. 日本泌尿器科学会総会 (第 100 回) (横浜), 2012. 4.
- 10) 林 達郎¹⁾, 木村 剛²⁾, 柳 雅人²⁾, 赤塚 純²⁾, 遠藤勇氣³⁾, 武田隼人²⁾, 青木綾子²⁾, 小串聡子²⁾, 木全亮二²⁾, 松澤一郎²⁾, 鈴木康友²⁾, 濱崎 務, 近藤幸尋 ⁽¹⁾ 博慈会記念総合病院泌尿器科, ⁽²⁾ 日本医科大学付属病院泌尿器科, ⁽³⁾ 大田原赤十字病院泌尿器科) : 小径腎癌の予後因子. 日本泌尿器科学会総会 (第 100 回) (横浜),

2012. 4.

- 11) 木村 剛¹⁾, 赤塚 純¹⁾, 鈴木健太¹⁾, 林 達郎¹⁾, 飯ヶ谷重来¹⁾, 田邊邦明¹⁾, 河原崎由里子¹⁾, 近藤幸尋¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院泌尿器科) : 超音波造影剤ソナゾイドを用いた前立腺癌の客観的診断に対する探索的検討. 日本泌尿器科学会総会 (第 100 回) (横浜), 2012. 4.
- 12) 赤塚 純^{1, 2)}, 木村 剛¹⁾, 鈴木健太¹⁾, 近藤幸尋¹⁾, 大澤秀一²⁾ (1) 日本医科大学付属病院泌尿器科, 2) 平成立石病院泌尿器科) : 前立腺癌診断における超音波造影剤ソナゾイドの有用性について前向き試験 370 例の結果. 日本泌尿器科学会総会 (第 100 回) (横浜), 2012. 4.
- 13) 濱崎 務¹⁾, 柳 雅人¹⁾, 遠藤勇氣²⁾, 鈴木康友¹⁾, 木村 剛¹⁾, 西村泰司²⁾, 近藤幸尋¹⁾ (1) 日本医科大学泌尿器科, 2) 大田原赤十字病院泌尿器科) : 腹腔鏡から学んだ開腹前立腺全摘術 : 後輩の指導のために. 日本泌尿器科学会総会 (第 100 回) (横浜), 2012. 4.
- 14) 鈴木康友¹⁾, 齋藤友香¹⁾, 小串聡子¹⁾, 野村俊一郎¹⁾, 田邊邦明¹⁾, 飯ヶ谷重来¹⁾, 松澤一郎¹⁾, 濱崎 務¹⁾, 木村 剛¹⁾, 近藤幸尋¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院泌尿器科) : 日本医科大学付属病院における泌尿器科経験 10 年未満の術者による TUR-P の治療成績について (切除重量別の検討). 日本泌尿器科学会総会 (第 100 回) (横浜), 2012. 4.
- 15) 尾形吉彦^{1, 2)}, 中川 徹²⁾, 河原貴史²⁾, 原 智彦²⁾, 中西弘之²⁾, 込山元清²⁾, 藤元博行²⁾ (1) 日本医科大学付属病院泌尿器科, 2) 国立がんセンター泌尿器・後腹膜腫瘍科) : 創処置時スタンダードブリーチ採用前後における手術部位感染発生率の検討. 日本泌尿器科学会総会 (第 100 回) (横浜), 2012. 4.
- 16) 野村俊一郎¹⁾, 根本 勺²⁾, 塩路 豪²⁾, 三浦剛史²⁾, 坪井成美²⁾, 近藤幸尋²⁾, 阿部裕行³⁾ (1) 日本医科大学付属病院泌尿器科, 2) 日本医科大学千葉北総病院泌尿器科, 3) 神栖済生会病院泌尿器科) : Gemcitabine + Docetaxel による化学療法が著効した再発性 G-CFS 産生性尿管癌の 1 例. 日本泌尿器科学会総会 (第 100 回) (横浜), 2012. 4.
- 17) 河原崎由里子¹⁾, 木全亮二¹⁾, 松澤一郎¹⁾, 鈴木康友¹⁾, 濱崎 務¹⁾, 木村 剛¹⁾, 近藤幸尋¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院泌尿器科) : A case of management of a refractory traumatic urethral structure using the urethral stent (Memokath). 日本泌尿器内視鏡学会総会 (第 26 回) (仙台), 2012. 11.
- 18) 濱崎 務¹⁾, 木全亮二¹⁾, 高橋 亮¹⁾, 武田隼人²⁾, 林 達郎³⁾, 松澤一郎¹⁾, 鈴木康友¹⁾, 赤塚 純¹⁾, 木村 剛¹⁾, 近藤幸尋¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院泌尿器科, 2) 平成立石病院泌尿器科, 3) 博慈会記念総合病院泌尿器科) : 子宮・付属器全摘術後尿管断裂に対し保存的治療が可能であった 1 例. 日本泌尿器内視鏡学会総会 (第 26 回) (仙台), 2012. 11.
- 19) 小串聡子¹⁾, 鈴木康友¹⁾, 襄輪忠明¹⁾, 柳 雅人¹⁾, 木全亮二¹⁾, 松澤一郎¹⁾, 濱崎 務¹⁾, 木村 剛¹⁾, 近藤幸尋¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院泌尿器科) : 腹腔鏡下膀胱部分切除を施行した膀胱子宮内膜症の 2 例. 日本泌尿器内視鏡学会総会 (第 26 回) (仙台), 2012. 11.
- 20) 木全亮二¹⁾, 河原崎由里子¹⁾, 松澤一郎¹⁾, 鈴木康友¹⁾, 濱崎 務¹⁾, 林 達郎²⁾, 木村 剛¹⁾, 近藤幸尋¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院泌尿器科, 2) 博慈会記念総合病院泌尿器科) : TUL 治療後, 腎膿瘍を呈した症例の治療経験. 日本泌尿器内視鏡学会総会 (第 26 回) (仙台), 2012. 11.
- 21) 武田隼人^{1, 2)}, 大澤秀一¹⁾, 赤塚 純²⁾, 濱崎 務²⁾, 近藤幸尋²⁾ (1) 平成立石病院泌尿器科, 2) 日本医科大学付属病院泌尿器科) : ESWL にて加療した鑄型結石の CT 値による破碎効率に臨床的検討. 日本泌尿器内視鏡学会総会 (第 26 回) (仙台), 2012. 11.
- 22) 大澤秀一¹⁾, 武田隼人¹⁾, 赤塚 純²⁾, 林 達郎³⁾, 近藤幸尋²⁾ (1) 平成立石病院泌尿器科, 2) 日本医科大学付属病院泌尿器科, 3) 博慈会記念総合病院泌尿器科) : 平成立石病院における ESWL (結石破碎装置 : ドルニエ D,1000 以上) の治療成績の検討. 日本泌尿器内視鏡学会総会 (第 26 回) (仙台), 2012. 11.
- 23) 赤塚 純^{1, 2)}, 大澤秀一²⁾, 野村俊一郎¹⁾, 柳 雅人¹⁾, 鈴木康友¹⁾, 濱崎 務¹⁾, 木村 剛¹⁾, 近藤幸尋¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院泌尿器科, 2) 平成立石病院泌尿器科) : 腎鑄型結石経過観察中に発覚した腎盂扁平上皮癌の

- 1 例. 日本泌尿器内視鏡学会総会 (第 26 回) (仙台), 2012. 11.
- 24) 武田隼人¹⁾, 木村 剛¹⁾, 松沢一郎¹⁾, 鈴木康友¹⁾, 濱崎 務¹⁾, 近藤幸尋¹⁾ (1) 日本医科大学附属病院泌尿器科) : Oncological outcome of high risk prostate cancer treated with laparoscopic prostatectomy. World Congress of Endourology and ESWL (30th) (イスタンブール), 2012. 9.
- 25) 武田隼人¹⁾, 松沢一郎¹⁾, 鈴木康友¹⁾, 濱崎 務¹⁾, 木村 剛¹⁾, 近藤幸尋¹⁾ (1) 日本医科大学附属病院泌尿器科) : ハイリスク前立腺癌に対する腹腔鏡下前立腺全摘術の Oncological outcome. 日本癌治療学会総会 (第 50 回) (横浜), 2012. 10.
- 26) 稲津宏紀¹⁾, 赤塚 純¹⁾, 新藤貴雄¹⁾, 田邊邦明²⁾, 武田隼人³⁾, 木全亮二¹⁾, 松澤一郎¹⁾, 鈴木康友¹⁾, 濱崎 務¹⁾, 木村 剛¹⁾, 近藤幸尋¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院泌尿器科, 2) 海老名総合病院泌尿器科, 3) 平成立石病院泌尿器科) : 膀胱尿路上皮癌 micropapillary variant の 1 例. 日本泌尿器科学会東部総会 (第 77 回) (東京), 2012. 10.
- 27) 河野弘圭¹⁾, 松澤一郎¹⁾, 井上 泰¹⁾, 箕輪忠明²⁾, 飯ヶ谷重来³⁾, 河原崎由里子¹⁾, 柳 雅人¹⁾, 木全亮二¹⁾, 鈴木康友¹⁾, 濱崎 務¹⁾, 木村 剛¹⁾, 近藤幸尋¹⁾, 小斉平聖治⁴⁾ (1) 日本医科大学付属病院泌尿器科, 2) 日本医科大学千葉北総病院泌尿器科, 3) 北村山公立病院泌尿器科, 4) 日本医科大学付属病院呼吸器内科) : 精巣腫瘍による腫瘍性肺塞栓症を起こした 1 例. 日本泌尿器科学会東部総会 (第 77 回) (東京), 2012. 10.
- 28) 井上 泰¹⁾, 小串聡子¹⁾, 河野弘圭¹⁾, 新藤貴雄¹⁾, 柳 雅人¹⁾, 武田隼人³⁾, 佐々木崇²⁾, 木全亮二¹⁾, 松澤一郎¹⁾, 鈴木康友¹⁾, 濱崎 務¹⁾, 木村 剛¹⁾, 近藤幸尋¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院泌尿器科, 2) 日本医科大学多摩永山病院泌尿器科, 3) 平成立石病院泌尿器科) : TUR-P で診断された Prostatic stromal tumor of uncertain malignant potential (STUMP) の 1 例. 日本泌尿器科学会東部総会 (第 77 回) (東京), 2012. 10.
- 29) 野村俊一郎¹⁾ (1) 日本医科大学泌尿器科) : 抗癌剤動注化学療法を施行した膀胱癌患者の生存に関する Dual-specificity tyrosine-(Y)-phosphorylation-regulated kinase2 (DYRK2) の発見の意義. 泌尿器科分子・細胞研究会 (第 22 回) (高知), 2013. 3.
- 30) Kimura G, Akatsuka J, Suzumura K, Nomura S, Saito Y, Kondo Y : What can we do to maximize the detection rates of prostate cancer?. The 32nd Congress of the Societe Internationale d'Urologie (Fukuoka), 2012. 10.
- 31) Akatsuka J, Kimura G, Suzumura K, Nomura S, Minowa T, Osawa IS, Kondo Y (1) Department of Urology, Heisei Tateishi Hospital) : Clinical usefulness of the ultrasound contrast agent Perflubutane in the diagnosis of prostatic cancer : A prospective clinical trial. The 32nd Congress of the SociétéInternationale d'Urologie (Fukuoka), 2012. 10.
- 32) Yanagi M, Kimura G, Suzumura K, Tanabe K, Iigaya S, Kondo Y : Papillary Renal Cell Carcinoma Type 1 and 2 : Clinicopathological Characteristics and Prognosis. The 32nd Congress of the Societe Internationale d'Urologie (Fukuoka), 2012. 10.
- (6) 座長 :
- 1) 濱崎 務¹⁾ (1) 日本医科大学泌尿器科) : 腎 4. 日本泌尿器内視鏡学会総会 (第 26 回) (仙台), 2012. 11.
- (7) Moderator :
- 1) Yukihiro K¹⁾ (1) Department of Urology Nippon Medical School) : New Technology-2. World Congress of Endourology and SWL (30) (ISTANBUL), 2012. 9.
- (8) PODIUM SESSION 04 :
- 1) Jun A¹⁾ (1) Department of Urology Nippon Medical School) : Clinical Usefulness of the Ultrasound Contrast Agent Perflubutane in the Diagnosis of Prostatic Cancer : AProspective Clinical Trial. Congress of the Societe Internatioale Urologie (32) (FUKUOKA), 2012. 10.
- 2) Go K¹⁾ (1)Department of Urology Nippon Medical School) : What Can We Do to Maximize the Detection Rates

of Prostate Cancer?. Congress of the Societe Internationale Urologie (32) (FUKUOKA), 2012. 9.

(9) シンポジウム 座長：

- 1) 近藤幸尋¹⁾, 内田豊昭²⁾ (1) 日本医科大学泌尿器科, 2) 東海大学泌尿器科)：前立腺癌：低侵襲治療の役割. 日本泌尿器科学会総会 (第 100 回) (横浜), 2012. 4.

(10) シンポジウム 2 司会：

- 1) 近藤幸尋¹⁾, 小川 修²⁾ (1) 日本医科大学大学院医学研究科 泌尿器科学, 2) 京都大学医学研究科 泌尿器科学教室)：「どうする？日本のデバイスラグ」. 日本泌尿器内視鏡学会総会 (第 26 回) (仙台), 2012. 11.

(11) デイバート：

- 1) 鈴木康友¹⁾, 齋藤友香¹⁾, 小串聡子¹⁾, 近藤幸尋¹⁾ (1) 日本医科大学泌尿器科)：male sling：当科における経験も含め. 日本泌尿器科学会東部総会 (第 77 回) (東京), 2012. 10.

(12) ポスター 座長：

- 1) 鈴木康友¹⁾ (1) 日本医科大学泌尿器科)：上部尿路／腫瘍 05. 日本泌尿器科学会総会 (第 100 回) (横浜), 2012. 4.

(13) ポスターディスカッション：

- 1) 赤塚 純¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院泌尿器科)：ソナゾイドの前立腺癌診断に対する有用性の検討：前向き臨床試験 (第二期) の結果. 日本癌治療学会学術集会 (第 50 回) (横浜), 2012. 10.
- 2) 武田隼人¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院泌尿器科)：ハイリスク前立腺癌に対する腹腔鏡下前立腺全摘術の oncological outcome. 日本癌治療学会学術集会 (第 50 回) (横浜), 2012. 10.

(14) ワークショップ オーガナイザー：

- 1) 近藤幸尋¹⁾, 那須保友²⁾, 寺地敏郎³⁾, 武中 篤⁴⁾, 竹澤 豊⁵⁾, 市川孝治⁶⁾, 古家琢也⁷⁾, 戸澤啓一⁸⁾ (1) 日本医科大学泌尿器科, 2) 岡山大学病院 新医療研究開発センター, 3) 東海大学医学部泌尿器科学教室, 4) 鳥取大学医学部 泌尿器科学教室, 5) 伊勢崎市民病院泌尿器科, 6) 倉敷成人病センター泌尿器科, 7) 弘前大学泌尿器科学講座, 8) 名古屋市中立腎・泌尿器科学分野)：保険診療において果たすべき JSE の役割：新規医療技術 (LRP,RALP) 導入における施設基準への提言. 日本泌尿器内視鏡学会総会 (第 26 回) (仙台), 2012. 11.

(15) 教育セミナー 4-8：

- 1) 木村 剛¹⁾ (1) 日本医科大学泌尿器科)：ネクサバル. 日本泌尿器科学会総会 (第 100 回) (横浜), 2012. 4.

(16) 卒後教育プログラム 10：

- 1) 木村 剛¹⁾, 藤井靖久²⁾, 近藤恒徳³⁾ (1) 日本医科大学泌尿器科, 2) がん研有明病院泌尿器科, 3) 東京女子医科大学泌尿器科)：泌尿器科腫瘍【10】進行性腎がんの治療. 日本泌尿器科学会総会 (第 100 回) (横浜), 2012. 4.

[武蔵小杉病院泌尿器科]

研究概要

当科では現在、尿路生殖器腫瘍疾患をはじめ尿路結石、尿路感染症、前立腺肥大症などの排尿障害を中心に診療および臨床的研究を行っている。特筆すべきものを以下に示す。1) 前立腺癌に対しては生検正診率を向上させるために、経直腸的多コア生検を導入し、従来の 6ヶ所生検との比較を行っている。2) 経尿道的手術には電解質溶液下 TUR システムを導入し、膀胱腫瘍や前立腺肥大症で安全な手術成績を収めている。3) 尿管結石の保存的治療については α 1-ブロッカーを併用した治療を行い、自然排石向上の可能性を調査している。4) 下部尿路症状 (LUTS) や過活動膀胱 (OAB) に対して、国際前立腺症状スコア (IPSS) や過活動膀胱症状スコア (OABSS) および尿流動態検査を実施して各種内服における治療効果を判定するとともに、メタボリックシンドロームとの関連の有無も検討している。5) その他、稀な症例については適宜症例報告をすることに努めている。

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) Ohgaki K, Horiuchi K, Kondo Y¹⁾ (1) Department of Urologic Surgery, Nippon Medical School Graduate School of Medicine) : Association Between Metabolic Syndrome and Male Overactive Bladder in a Japanese Population Based on Three Different Sets of Criteria for Metabolic Syndrome and the Overactive Bladder Symptom Score. UROLOGY 2012 ; 79 (6) : 1372-1378.
- 2) Matsumoto K¹⁾, Irie A¹⁾, Inatsuchi H²⁾, Ogata Y²⁾, Hanai K²⁾, Sekine H³⁾, Ohya K³⁾, Murota-Kawano A³⁾, Sakamoto M⁴⁾, Miyakita H⁵⁾, Tokunaga M⁵⁾, Masuda A⁵⁾, Horiuchi K, Sato M⁶⁾, Ohgaki K, et al. (1) Kitasato University School of Medicine, 2) Shizuoka Municipal Shimizu Hospital, 3) University Hospital Mizonokuchi, Teikyo University School of Medicine, 4) Asao General Hospital, 5) Tokai University Oiso Hospital, 6) Nippon Medical School Tamanagayama Hospital) : A 2-week Maintenance Regimen of Intravesical Instillation of Bacillus Calmette-Guérin is Safe, Adherent and Effective in Patients with Non-muscle-invasive Bladder Cancer : A Prospective, Multicenter Phase II Clinical Trial. Jpn J Clin Oncol 2012 ; 42 (9) : 813-819.

学会発表

(1) 一般講演：

- 1) 大垣憲司, 藤原博通, 佐藤三洋¹⁾, 堀内和孝 (1) 日本医科大学多摩永山病院泌尿器科) : 泌尿器科領域における 3way valve 式末梢静脈穿刺型中心静脈カテーテルの使用経験. 日本泌尿器科学会東部総会 (第 77 回) (東京), 2012. 10.

[多摩永山病院泌尿器科]

研究概要

当科では感染症、結石から神経疾患、腫瘍を中心に診療、研究を行っているが、特筆すべき点を列記する。1) 尿路感染症：扱う感染症は急性単純性膀胱炎から閉塞性腎盂腎炎まで重症度は多岐に亘る一方、起炎菌側の問題として抗生剤に対する耐性化がある。耐性化傾向の検討も含め最適治療法を研究している。2) 尿路結石：内視鏡下手術の他、体外衝撃波結石粉碎術も行い臨床的検討を行っている3) 排尿障害：施設入所中の全介助を要する排尿障害を伴った症例への対応として尿道ステントを積極的に用い、その有用性を検討している。4) 前立腺癌：手術、放射線による治療も行なっているが、内分泌療法の適応となった症例に対してはその副作用、特に糖・脂質代謝異常、骨密度の減少について検討を行い合併症の予防に役立てている。5) 膀胱癌：浸潤性膀胱癌に対しては化学療法と放射線照射の併用療法にて膀胱温存を図っている。6) 女性尿失禁、骨盤臓器脱：保存的治療無効の場合は外科的治療を施行し、手術の有効性を検討している。また腹圧性失禁のみならず、切迫性尿失禁と臓器脱の関連を研究している。

研究業績

学会発表

(1) 一般講演：

- 1) 鈴木健太, 齋藤友香, 佐々木崇, 佐藤三洋 : 当院での尿路結石に対する ESWL の治療成績. 多摩泌尿器医会 (118 回) (武蔵野市吉祥寺), 2013. 3.

[千葉北総病院泌尿器科]

研究業績

学会発表

(1) 一般講演：

- 1) 野村俊一郎, 根本 勺, 塩路 豪, 三浦剛史, 坪井成美, 近藤 幸尋¹⁾, 阿部裕行²⁾ (¹⁾ 日本医科大学付属病院泌尿器科, ²⁾ 神栖済生会病院 泌尿器科) : Gemcitabine+Docetaxel による化学療法が著効した再発性 G-CSF 産生性尿管癌の 1 例. 日本泌尿器科学会総会 (第 100 回) (横浜), 2012. 4.
- 2) 坪井成美, 三浦剛史, 塩路 豪, 根本 勺, 鈴木健太¹⁾, 河原崎由里子¹⁾, 田邊邦明¹⁾, 飯ヶ谷重来¹⁾, 野村俊一郎¹⁾, 近藤幸尋¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学付属病院 泌尿器科) : 尿管ステント (メモカス 051) の使用経験. 日本泌尿器科学会総会 (第 100 回) (横浜), 2012. 4.

22. 眼科学

[付属病院眼科・武蔵小杉病院眼科・多摩永山病院眼科]

研究概要

前眼部分野では、角膜創傷治癒促進因子としてのPPAR- γ に関する研究がまとめられた（高橋）。ドライアイ関連では涙液浸透圧との関連に関する研究を行った（高橋・五十嵐）。前眼部の知覚に関連して、羞明感の他覚的計測を目的としたfNIRS（機能的近赤外線分光法）による前頭葉賦活化の研究を行った（小野）。白内障手術に関連しては、手術の際に用いる超音波吸引装置の発熱による前房温度の変化を解析した。また、超音波の楕円発振による虹彩色素脱出の頻度と原因を検討した（鈴木）。ぶどう膜分野では、臨床研究としてswept source OCTによるぶどう膜炎患者の脈絡膜に於ける病態を組織像、蛍光眼底撮影と比較し、画像診断可能と成るような解析を行った。また眼自己免疫疾患である原田病に特異性の高いと考えられるT細胞、TCRの解析を継続した（山木）。臨床研究として「眼炎症性疾患の臨床統計」と「強膜炎の臨床統計と治療成績」の検討を行った。基礎研究として「新規の免疫制御分子による眼炎症抑制」および「関節リウマチに随伴する強膜炎と角膜炎のモデル作成」をおこなった（堀）。網膜分野では、オカルト黄斑ジストロフィー（OMD）の症例でRP1L1遺伝子の新規疾患関連異常を発見した。常染色体優性視神経萎縮およびクリスタリン網膜症についても遺伝子解析の計画中である（亀谷）。アデノ随伴ウイルスタイプ8の有用性について、投与方法の違いによる遺伝子導入効率と発現期間の検討を進展させた（五十嵐）。補償光学（AO）眼底カメラを用いて遺伝性網膜疾患、加齢性黄斑変性等の網膜病態を継時的に観察及び各種画像と比較検討した。また健常者のAO画像について視細胞密度、細胞間距離等の解析を施行した（後町）。緑内障関連では、緑内障手術後の24時間日内変動および視野検査後の眼圧変動と24時間眼圧日内変動への影響について検討した（中元）

研究業績

論文

[追加分]

追加分原著：

- 1) 鈴木久晴：PEA装置を理解する（後編），臨床セミナー，IOL&RS 2011；25（4）：587-589.
- 2) Yamaguchi T, Bissen-Miyajima H, Hori-Komai Y, Matsumoto Y, Ebihara N, Takahashi H, Tsubota K, Shimazaki J：“Infectious keratitis outbreak after laser in situ keratomileusis at a single laser center in Japan”. J Cataract Refract Surg 2011；37（5）：894-900.

(1) 原著：

- 1) 仲里ゆり，南野麻美，鈴木久晴，国重智之，若山久仁子，高橋 浩：線維柱帯切除術後の毛様体解離が疑われた低眼圧黄斑症．眼科手術 2012；25（4）：583-586.
- 2) 志和利彦：ベリスタ VS ベンチュリー：ベンチュリー派の一人として．IOL&RS 2012；26（3）：300-303.
- 3) Shiraki Y, Ono M, Ide K：Voice Activity Degree Analysis in Telephone Coaching. IADIS 2012（Lisbon）2012；2012：39-46.
- 4) 鈴木久晴：硬い核（G4～5），特集 白内障難症例対策 その1. IOL&RS 2012；26（3）：276-280.
- 5) Suzuki H, Shiwa T, Oharazawa H, Takahashi H：Usefulness of a Semicircular Capsulotomy Marker. J Nippon Med Sch 2012；79（3）：195-197.
- 6) 鈴木久晴，坂西京子，稲毛道憲，小原澤英彰，志和利彦，高橋 浩：Signature Ellips FXによる虹彩色素脱出の頻度と原因の検討．眼科手術 2013；26（1）：99-102.

- 7) Suzuki H, Shiwa T, Oharazawa H, Igarashi T, Takahashi H : Simultaneous treatment of pterygium and temporal conjunctivochalasis. J Nippon Med Sch 2013 ; 80 (1) : 74-77.
 - 8) Igarashi T, Miyake M, Asakawa N, Miyake N, Shimada T, Takahashi T : Direct comparison of the administration routes for AAV8-mediated ocular gene therapy. Current eye research 2013 ; 38 (3).
 - 9) Kuwabara Y, Katayama A, Igarashi T, Tomiyama R, Piao H, Kaneko R, Abe T, Mine K, Akira S, Orimo H, Takeshita T : Rapid and Transient Upregulation of CCL11 (Eotaxin-1) in Mouse Ovary During Terminal Stages of Follicular Development. J Reprod Immunol 2012 ; 67 (5) : 358-368.
 - 10) Igarashi T, Itoh Y, Shimizu A, Igarashi T, Yoshizaki K, Fukunaga Y : A case of juvenile Sjögren's syndrome with interstitial nephritis. J Nippon Med Sch 2012 ; 79 (4) : 286-290.
 - 11) Igarashi T, Nakazato Y, Kunishige T, Fujita M, Yamada Y, Fujimoto C, Okubo K¹⁾, Takahashi H⁽¹⁾ 耳鼻咽喉科学) : Mometasone Furoate Nasal Spray Relieves the Ocular Symptoms of Seasonal Allergic Rhinconjunctivitis. J Nippon Med Sch 2012 ; 79 (3) : 182-189.
 - 12) Igarashi T, Itoh Y, Maeda M, Igarashi T, Fukunaga Y : Mean hemoglobin levels in venous blood samples and prevalence of anemia in Japanese elementary and junior high school students. J Nippon Med Sch 2012 ; 79 (3) : 232-235.
- (2) 総説 :
- 1) 國重智之 : 期待のホープ. IOL&RS 2012 ; 26 (4) : 487-489.
 - 2) 高橋 浩 : 特集 角膜内皮細胞の病態 1. 病態と検査法. 眼科 2012 ; 54 (13) : 1861-1868.
 - 3) 鈴木久晴, 狩野 廉, 後藤憲仁, 後藤 浩, 小早川信一郎, 徳田芳裕 : コンサルテーションコーナー エキスパートに聞く. IOL&RS 2012 ; 26 (3) : 342-348.
 - 4) 鈴木久晴 : ASCRS2012 印象記. IOL&RS 2012 ; 26 (3) : 353-354.
 - 5) 堀 純子 : 特集 : 眼疾患とアレルギー - 診断と治療 - 強膜炎の診断と治療. アレルギーの臨床 2013 ; 33 (3) : 45-49.

著 書

〔追加分〕

追加分 :

- 1) 高橋 浩 : [分担] I. 構造とその病態, D. 角膜, 特発性角膜内皮炎, 反復性角膜びらん, 老人環, 帯状角膜変性, アミロイド変性, 角膜脂肪変性. 眼科学第2版 TEXT BOOK OF OPHTHALMOLOGYI (丸尾敏夫 本田孔士 白井正彦 大鹿哲郎), 2011 ; pp117-120, 文光堂.
- 2) 高橋 浩 : [分担] V. レーザーならびに外科的治療, H. 強膜, 強膜手術総論, 強膜手術各論. 眼科学第2版 TEXT BOOK OF OPHTHALMOLOGYII (丸尾敏夫 本田孔士 白井正彦 大鹿哲郎), 2011 ; pp1317-1320, 文光堂.
- 3) 高橋 浩 : [分担] V. レーザーならびに外科的治療, I. 前房, 前房穿刺, 前房洗浄, 前房形成. 眼科学第2版 TEXT BOOK OF OPHTHALMOLOGYII (丸尾敏夫 本田孔士 白井正彦 大鹿哲郎), 2011 ; pp1321-1323, 文光堂.
- 1) 國重智之, 堀 純子 : [共著] 眼表面の免疫特権. 臨床眼科 (根本 昭, 寺崎浩子, 中澤 満, 坂本泰二, 鈴木康之, 天野史郎), 2012 ; pp346-350, 医学書院.
- 2) 高橋和久, 堀 純子 : [共著] 強膜炎 (強膜壊死). 眼科 (薬物療法) 臨時増刊号 (澤 充, 谷原秀信, 坪田一男, 岸 章治, 後藤 浩, 三村 治, 飯島裕幸), 2012 ; pp1290-1294, 金原出版.
- 3) 鈴木久晴 : [分担] 視神経, 網膜への侵襲を低減する工夫, 低侵襲手術 患者さんにやさしい手術を行うためのコツ. 新 ES NOW 11 (ビッセン宮島 弘子, 門之園 一明), 2012 ; pp54-61, メジカルビュー社.

学会発表

〔追加分〕

追加分一般講演：

- 1) 薫 一帆, 國重智之, 稲毛道憲, 小野眞史, 高橋 浩：Haab's striae に合併した水疱角膜症に対し DSAEK を施行した 1 例. 角膜カンファレンス 2013 日本角膜学会総会（第 37 回）日本角膜移植学会（第 29 回）（南紀白浜）, 2012. 2.
- 2) 鈴木久晴, 志和利彦, 高橋 浩：Ellips FX の超音波パワー設定と前房温度変化の関係. 日本眼科手術学会総会（第 36 回）（福岡）, 2012. 1.

(1) 特別講演：

- 1) 堀 純子：強膜炎診療の現状と展望. 北海道眼科ワークショップ（第 12 回）（北海道）, 2012. 5.
- 2) 堀 純子：眼炎症疾患へのアプローチ診断のコツと新治療の展望. 函館眼科医会学術講演会（函館）, 2012. 8.
- 3) 堀 純子：眼の恒常性の不思議 “Immune privilege” の謎を解く：亡き恩師からのミッション. 宮城眼科先進医療研究会（宮城）, 2012. 10.
- 4) 堀 純子：強膜炎診療の現状と展望. 北海道眼科ワークショップ（第 12 回）（北海道）, 2012. 5.
- 5) 堀 純子：眼炎症疾患へのアプローチ診断のコツと新治療の展望. 函館眼科医会学術講演会（函館）, 2012. 8.
- 6) 堀 純子：強膜炎診療の現状と展望. YOKOHAMA 病診連携の会（第 8 回）（横浜）, 2013. 3.
- 7) 中元兼二：マイトマイシン C 併用線維柱帯切除術後の長期眼圧変動. 東京眼科集談会（第 775 回）（東京）, 2012. 8.
- 8) 中元兼二：緑内障診療ガイドラインと薬物治療. 練馬区眼科医会学術講演会（練馬区眼科医会学術講演会）, 2012. 4.
- 9) 中元兼二：緑内障 -基礎が先か, 臨床が先か-「臨床から考える 緑内障の病態, 治療戦略」. 九州眼科学会ランチョンセミナー 1（第 82 回）（福岡）, 2012. 4.
- 10) 中元兼二：緑内障テレフォンカンファレンス. 緑内障薬物治療アップデート（東京）, 2012. 6.
- 11) 中元兼二：緑内障ガイドラインと薬物治療. 品川 ophthalmic Express（東京）, 2012. 7.
- 12) 中元兼二：緑内障薬物治療アップデート. 横須賀市眼科医会学術講演会（横浜）, 2012. 7.
- 13) 中元兼二：緑内障薬物治療アップデート. Sendagi Ophthalmic Seminar（第 1 回）（東京）, 2012. 9.
- 14) 中元兼二：緑内障薬物治療アップデート. 長野県眼科医会集談会（第 246 回）（長野）, 2012. 9.
- 15) 中元兼二：緑内障診療ガイドライン第 3 版に基づく診断と治療. 若手眼科医のための緑内障勉強会（CNTGS）（東京）, 2012. 10.
- 16) 中元兼二：緑内障薬物治療アップデート. 香川大学眼科研究会（香川）, 2012. 10.
- 17) 中元兼二：質にこだわった薬物治療. ドクターズカンファレンス（東京）, 2012. 10.
- 18) 中元兼二：緑内障薬物治療アップデート. 帝京大学眼科学術講演会（第 28 回）（東京）, 2012. 10.
- 19) 中元兼二：眼科健診で見つかる目の病気（緑内障を中心に）. 練馬区 区民健康づくりセミナー（第 16 回）（東京）, 2012. 6.
- 20) 中元兼二：緑内障診療において薬剤師に必要な知識と期待される役割. WEB SYMPOSIUM（東京）, 2013. 1.
- 21) 鈴木久晴：前眼部解析装置の基礎知識 角膜形状測定（スリットスキャン型）. JSCRS（Japanese Society of Cataract and Refractive Surgeons）（第 27 回）（東京）, 2012. 6.
- 22) 鈴木久晴：白内障手術の基本手技 術野の準備と超音波装置の理解. 日本眼科手術学会総会（第 36 回）（福岡）, 2013. 1.

- 23) 鈴木久晴：みんなで考える白内障手術 QOV トーリック眼内レンズの導入. JSCRS (Japanese Society of Cataract and Refractive Surgeons) (第 27 回) (東京), 2012. 6.
 - 24) 鈴木久晴：もしもこんな主訴の患者さんが来たら. Bay Ocular Club (神奈川), 2012. 7.
 - 25) Suzuki H: Accommodating IOL. ASCRS (American Society of Colon and Rectal Surgeons) (Chicago,USA), 2012. 4.
 - 26) 高橋 浩：ドライアイ・疾患概念と治療方針. 大阪角膜フォーラム (第 8 回) (大阪), 2012. 6.
 - 27) 高橋 浩：角膜アップデート・ドライアイと角膜内皮. 日大眼科症例検討会 (第 105 回) (東京), 2012. 6.
 - 28) 高橋 浩：角膜アップデート・ドライアイと角膜内皮. 筑波 TOC・第 7 回茨城県眼科医会フォーラム (第 45 回) (茨城), 2012. 6.
 - 29) 高橋 浩：水疱性角膜症のすべて・角膜内皮細胞・病態と検査. 東京オキュラーサーフェスフォーラム (第 17 回) (東京), 2012. 7.
 - 30) 高橋 浩：第 15 回難儀な手術シリーズ. 千駄木眼科フォーラム (第 16 回) (東京), 2012. 7.
 - 31) 高橋 浩：アレルギー性結膜疾患・診療の基本と点鼻ステロイドの話題. 瀬戸内眼科コロシウム (広島), 2012. 9.
 - 32) 高橋 浩：ドライアイと角膜内皮. 熊本眼疾患研究会 (第 36 回) (熊本), 2012. 10.
 - 33) 高橋 浩：ドライアイ・疾患概念と治療方針. 大塚製薬勉強会 (東京), 2012. 10.
 - 34) 高橋 浩：炎症性疾患としてのドライアイ. 三条市燕市眼科学術講演会 (新潟), 2012. 11.
 - 35) 高橋 浩：第 16 回難儀な手術シリーズ. 千駄木フォーラム (第 17 回) (東京), 2012. 12.
 - 36) 高橋 浩：眼科からの花粉症予防と対策. 東京都花粉症予防・治療シンポジウム (第 7 回) (東京), 2013. 1.
 - 37) 高橋 浩：本当は難しいはやり目の診断. 城東地区眼科医・コメディカルセミナー (第 24 回) (東京), 2013. 2.
 - 38) 高橋 浩：ドライアイ・疾患概念と治療方針. 神奈川県眼科医会病院見学会および講習会 (第 41 回) (鶴見), 2013. 2.
 - 39) 堀 純子：Infliximab の投与時反応：10 例の投与例の検討. Infliximab Behcet's Meeting (東京), 2013. 3.
 - 40) 鈴木久晴：軽度結膜弛緩症を合併した翼状片に対しての遊離弁移植. COST (東京), 2012. 4.
 - 41) 鈴木久晴：コンタクトによる？難治性角膜潰瘍. OSKA (第 1 回) (神奈川), 2012. 11.
 - 42) 鈴木久晴：白内障手術の基礎の基礎. 白内障サージャン勉強会 in 神奈川 (神奈川), 2012. 11.
 - 43) 鈴木久晴：糖尿病による眼合併症の臨床. 川崎糖尿病懇話会 (第 49 回) (神奈川), 2012. 11.
 - 44) 鈴木久晴：チン小帯脆弱：眼内レンズ縫着のトラブル症例. CSE 研究会 (第 18 回) (東京), 2013. 2.
- (2) 教育講演：
- 1) 南野麻美：緑内障とは何か？. 日本緑内障学会 (第 23 回) (金沢), 2012. 9.
 - 2) 小野真史：ドライアイとは. ドライマウス研究会 (第 21 回) (東京), 2012. 9.
 - 3) 小野真史：コーチングの原則. メディカル・コーチング研修会 (2013) (東京), 2013. 1.
 - 4) 小野真史：コーチングの基本 傾聴・承認. メディカル・コーチング研修会 (2013) (東京), 2013. 1.
 - 5) 小野真史：コーチングの基本 実践. メディカル・コーチング研修会 (2013) (東京), 2013. 1.
 - 6) 中元兼二, 小林康彦¹⁾ (1) こばやし眼科クリニック)：緑内障診療ガイドライン第 3 版に基づく診断と治療. 千駄木フォーラム (第 16 回) (東京), 2012. 7.
- (3) シンポジウム：
- 1) 谷口ヒロ子, 堀 純子：眼炎症を制御する新しい分子群 Molecular mechanisms in regulation of ocular inflammation. 日本眼科学会総会 (第 116 回) (東京), 2012. 4.
 - 2) 片上千加子, 高村悦子, 篠崎和美, 外園千恵, 佐佐木香る, 北川和子, 堀 純子：やさしい角結膜感染症クリニック：疑問解決！症例から学ぶ角膜ヘルペス塾. 日本臨床眼科学会総会 (第 66 回) (京都), 2012. 10.

- 3) 鈴木久晴：白内障手術器具アップデート 分割・チョッパー関連. JSCRS (Japanese Society of Cataract and Refractive Surgeons) (第 27 回) (東京), 2012. 6.
 - 4) 鈴木久晴：「合併症・難症例：苦手を克服しよう」「みんなで解決！合併症対策」. JSCRS ウィンターセミナー (東京), 2012. 12.
- (4) 一般講演：
- 1) Kunishige T, Suzuki H, Serizawa M, Shiwa T, Takahashi H : The antiseptic effect of ozonated solution during cataract surgery. ASCRS (American Society of Colon and Rectal Surgeons) (Chicago,USA), 2012. 4.
 - 2) 國重智之, 鈴木久晴, 芹澤元子, 志和利彦, 高橋 浩：白内障手術中におけるオゾン水点眼の消毒効果. JSCRS (Japanese Society of Cataract and Refractive Surgeons) 学術総会 (第 27 回) (東京), 2012. 6.
 - 3) 谷口ヒロ子, 堀 純子, 王 明聡, 北原由紀, 中島敦夫¹⁾ (1) 東京警察病院)：前部強膜炎マウスモデルにおける眼局所の病態解析. 日本眼科学会総会 (第 116 回) (東京), 2012. 4.
 - 4) Taniguchi H, Wang M, Kitahara Y, Nakajima A¹⁾, Hori J (1) 東京警察病院)：Ocular Immune Pathological Analysis in a Murine Model of Anterior Scleritis. ARVO (Association for research in vision and ophthalmology) (Fort Lauderdale, FL, USA), 2012. 4.
 - 5) Terada M, Taniguchi H, Maruyama K, Abe R, Hori J : Inhibitory Role of ICOS in Antigen-specific T cell-mediated Ocular Tissue Damage. ARVO (Association for research in vision and ophthalmology) (Fort Lauderdale, FL, USA), 2012. 4.
 - 6) Takahashi K, Wakayama K, Takahashi H, Hori J : Clinical Features and Treatment Outcome of Japanese Patients with Scleritis. ARVO (Association for research in vision and ophthalmology) (Fort Lauderdale, FL, USA) Takahashi, K Wakayama, H Takahashi, J Hori), 2012. 4.
 - 7) 榎村真智子, 堀 純子, 王 明聡, 谷口ヒロ子, 高橋 浩, 梯彰 弘, 秋葉久弥, 八木田秀雄：角膜移植後の免疫寛容における Tim-3/Gal-9 経路の抑制的役割. 日本眼炎症学会 (第 46 回) (横浜), 2012. 7.
 - 8) 小野真史, 鈴木雅也¹⁾, 中村 響¹⁾, 熊谷直也¹⁾, 高橋 浩 (1) 東海光学)：色調による羞明改善と前頭葉賦活化減少. 角膜カンファレンス 2013 日本角膜学会総会 (第 37 回) 日本角膜移植学会 (第 29 回) (南紀白浜), 2013. 2.
 - 9) 明尾慶一郎, 高橋 浩：保存角膜パッチを要した周辺部穿孔の 3 例. 角膜カンファレンス 2013 日本角膜学会総会 (第 37 回) 日本角膜移植学会 (第 29 回) (南紀白浜), 2013. 2.
 - 10) 一戸 唱, 五十嵐勉, 飯島 修¹⁾, 小野真史, 高橋 浩 (1) 生化学・分子生物学)：自発的開眼維持による涙液浸透圧の変化. 角膜カンファレンス 2013 日本角膜学会総会 (第 37 回) 日本角膜移植学会 (第 29 回) (南紀白浜), 2013. 2.
 - 11) 中元兼二, 高橋 浩：マイトマイシン C 併用線維柱帯切除術後眼の長期眼圧変動. 日本緑内障学会 (第 23 回) (金沢), 2012. 9.
 - 12) 鈴木久晴：Ellips FX™ (AMO) による虹彩色素脱出を予防するための曲り超音波チップの効果. 日本臨床眼科学会 (第 66 回) (京都), 2012. 10.
 - 13) 國重智之, 谷口ヒロ子, 大野健州¹⁾, 東みゆき¹⁾, 堀 純子 (1) 東京医科歯科大学 分子免疫学)：V-domain Ig suppressor of T cell activation (VISTA) is necessary for corneal allograft survival. Tokyo ocular immunology meeting (第 19 回) (東京), 2013. 2.
 - 14) 小野真史, 鈴木雅也¹⁾, 中村 響¹⁾, 永田裕子¹⁾, 高橋 浩 (1) 東海光学)：カラーレンズによる羞明改善と前頭葉賦活化減少. 日本眼科学会総会 (第 116 回) (東京), 2012. 4.
 - 15) 野呂隆彦, 中元兼二, 里 誠, 安田典子, 伊藤義徳, 小川俊平, 松田英樹, 中野 匡, 常岡 寛：視野検査後の眼圧変動と 24 時間眼圧日内変動. 日本緑内障学会 (第 23 回) (金沢), 2012. 9.

- 16) 中元兼二：緑内障薬物治療アップデート. Tokyo Glaucoma Retina Joint Conference 2012 Autumn (東京), 2012. 11.
- 17) Suzuki H, Shiwa T, Oharazawa H, Takahashi H : Semicircle-shaped capsulotomy marker. ASCRS (American Society of Colon and Rectal Surgeons) (Chicago,USA), 2012. 4.
- 18) Suzuki H, Shiwa T, Oharazawa H, Takahashi H : Semicircle-shaped capsulotomy marker. ESCRS (European Society of Cataract and Refractive Surgeons) (Milano,Italiana), 2012. 9.
- 19) 鈴木久晴, 大木孝太郎¹⁾, 志和利彦, 高橋 浩 (¹⁾大木眼科) : Ellips FX (AMO) を用いた超音波乳化吸引における切開創の温度と前房温度の検討. JSCRS (Japanese Society of Cataract and Refractive Surgeons) (第27回) (東京), 2012. 6.
- 20) 鈴木久晴, 岩間真由美 : 半円式 CCC マーカーの教育効果. BOSS (Bay Ophthalmic Surgical Seminar) (第11回) (神奈川), 2012. 10.
- 21) 鈴木久晴 : 急性緑内障発作後の白内障手術：あなたなら, どう挑みますか? ビデオセッション. JSCRS ウインターセミナー (第1回) (東京), 2012. 12.
- 22) 鈴木久晴, 稲毛道憲, 志和利彦, 高橋 浩 : 老視治療としての水晶体再建術における眼内レンズの現在と今後の展望. 先進医療フォーラム (第4回) (東京), 2013. 1.
- 23) 鈴木久晴, 岩間真由美, 志和利彦, 高橋 浩 : 半円式 CCC マーカーの開発とその教育効果. 日本眼科手術学会総会 (第36回) (福岡), 2013. 1.
- 24) Iijima O¹⁾, Miyake K¹⁾, Sugano-Tajima H¹⁾, Igarashi T, Kanokoda C¹⁾, Watanabe A¹⁾, Shimada T¹⁾ (¹⁾生化学・分子生物学講座) : Rescue of Lethal Hypophosphatasia Mice by Neonatal Ex Vivo Gene Therapy Using Lentivirally Transduced Bone Marrow Cells. American society of hematology (Atlanta), 2012. 4.
- 25) 五十嵐勉, 三宅弘一¹⁾, 浅川なぎさ¹⁾, 三宅紀子¹⁾, 島田 隆¹⁾, 高橋 浩 (¹⁾生化学・分子生物学講座) : 異なる投与方法による AAVtype8 ベクターの遺伝子導入効率と安全性の比較検討. 日本網膜硝子体学会 (第51回) (山梨), 2012. 12.

[千葉北総病院眼科]

研究業績

学会発表

(1) 特別講演 :

- 1) 亀谷修平 : 遺伝性眼疾患と黄斑局所 ERG. 東京眼科集談会 (東京), 2012. 8.

(2) 一般講演 :

- 1) 加部東武徳, 高橋永幸, 後藤陽子, 五十嵐勉, 亀谷修平, 山木邦比古, 溝田 淳, 三宅養三, 高橋 浩 : 新規 RP1L1 遺伝子異常を認めた Occult Macular Dystrophy の2例. 日本眼科学会総会 (第116回) (東京), 2012. 4.
- 2) 高橋永幸, 加部東武徳, 亀谷修平, 五十嵐勉, 三方崇嗣, 山木邦比古, 高橋 浩 : ERG に異常がみられた筋ジストロフィー患者のジストロフィン遺伝子シークエンス解析. 日本眼科学会総会 (第116回) (東京), 2012. 4.
- 3) Kameya S, Kabuto T, Takahashi H, Goto-Fukuura Y, Igarashi T, Akahori M, Iwata T, Mizota A, Yamaki K, Miyake Y, Takahashi H : A new mutation in RP1L1 gene in occult macular dystrophy patient associated with a depolarizing pattern of focal macular ERG. ARVO 2012 (フロリダ), 2012. 5.
- 4) Kameya S, Kabuto T, Takahashi H, Goto-Fukuura Y, Igarashi T, Akahori M, Iwata T, Mizota A, Yamaki K, Miyake Y, Takahashi H : A new mutation in RP1L1 gene in occult macular dystrophy patient as-

sociated with a depolarizing pattern of focal macular ERG. 50th ISCEV (International Society for Clinical Physiology of Vision) (Valencia, Spain), 2012. 6.

- 5) 加部東武徳, 中島清子, 高橋永幸, 菊地佐知子, 亀谷修平, 山木邦比古, 高橋 浩: RP1L1 遺伝子異常を認めた Occult Macular Dystrophy の 1 例における補償光学カメラによる解析. 日本臨床視覚電気生理学学会 (第 60 回) (名古屋), 2012. 10.
- 6) 菊地佐知子, 加部東武徳, 中島清子, 高橋永幸, 亀谷修平, 山木邦比古, 高橋 浩: 新規 OPA1 遺伝子異常を認めた常染色体優性視神経萎縮の 1 例. 日本臨床視覚電気生理学学会 (第 60 回) (名古屋), 2012. 10.
- 7) 高橋永幸, 中島清子, 加部東武徳, 菊地佐知子, 亀谷修平, 山木邦比古, 高橋 浩: Rep-1 遺伝子異常を認めたコロイデミア患者の補償光学眼底カメラによる網膜形態解析. 日本網膜硝子体学会総会 (第 51 回) (甲府市), 2012. 12.
- 8) 中島清子, 亀谷修平, 高橋永幸, 菊地佐知子, 加部東武徳, 山木邦比古, 高橋 浩, パックミッシェル¹⁾ (1) ケアンズヴァン病院): 補償光学眼底カメラを用いた萎縮型加齢性黄斑変性症の観察. 日本臨床眼科学会 (第 66 回) (京都), 2012. 10.
- 9) Gocho K, Benchaboune M, Kameya S, Yamaki K, Takahashi H, Sahel J, Paques M: Adaptive optics follow up study of Geographic atrophy. The American Academy of Ophthalmology (Chicago, Illinois), 2012. 11.
- 10) Gocho K, Audo I, Mohand-Said S, Kameya S, Yamaki K, Takahashi H, Sahel J, Paques M: Follow-up study of MEWDS using adaptive optics retinal imaging. European Association for Vision and Eye Research (EAVE) (Nice, France), 2012. 10.
- 11) Gocho-Nakashima K, Audo I, Mohand-Said S, Takahashi H, Sahel J, Paques M: Adaptive optics monitoring of cone photoreceptor mosaic in MEWDS cases. 12th EURETINA Congress (Milan, Italy), 2012. 9.
- 12) Gocho-Nakashima K, Ullern M, Benchaboune M, Takahashi H, Sahel J, Paques M: Adaptive optics imaging of Geographic atrophy. The Association for Research in Vision and Ophthalmology Annual Meeting (ARVO) (Fort Lauderdale, Florida, USA), 2012. 5.
- 13) Gocho-Nakashima K, Audo I, Mohand-Said S, Takahashi H, Sahel J, Paques M: Adaptive optics monitoring in MEWDS cases. ARVO/International Society for Imaging in the Eye Meeting (Fort Lauderdale, Florida, USA), 2012. 5.

23. 麻酔科学

[付属病院麻酔科]

研究概要

本教室の3大研究テーマである全身麻酔の機序解明と新たな麻酔薬・麻酔法の開発、重症患者管理と重症化阻止、神経障害性疼痛解明と慢性痛の一掃対策につき種々の臨床および基礎的研究が行われた。特に本年は多くの大学院生の論文が掲載された。大学院生による研究の一部は、薬理学鈴木教授および解剖学小澤教授の指導下で行われ、神経障害性疼痛における機序解明や、麻酔による日内変動遺伝子変化の研究等多くの成果が報告された。また、手術侵襲制御、周術期体液・代謝管理、人工呼吸管理、術後疼痛管理、緩和ケア、ペインクリニック等従来の臨床研究テーマについても幅広く研究が行われた。さらに、本年度は、体液・代謝管理研究会を主催し、体液・代謝管理における多くの研究も行われた。以下に主な内容を示す。基礎研究：マイクロアレイ、realtime RT-PCR、細胞培養装置、パッチクランプ等を用いて、1) 麻酔による体内重要臓器における遺伝子発現への影響、2) 麻酔とプロテオミクス、3) 麻酔とメタボロミクス、4) 神経障害性疼痛に及ぼす治療効果等。臨床研究：臨床麻酔、外科系集中治療、ペインクリニック、緩和医療領域において、1) 周術期 β 遮断薬の効果、2) 周術期心イベントの発生要因、3) 新たな輸液製剤の臨床的效果、4) 外科侵襲による生体反応、5) 非侵襲的人工呼吸管理、特にECMO、6) 新たな疼痛管理法等。

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) Sakamoto A, Kitakaze M¹, Takamoto S², Namiki A³, Kasanuki H⁴, Hosoda S⁵, JL-KNIGHT study group
(¹ Department of Cardiovascular Medicine, National Cerebral and Cardiovascular Center, ² Mitsui Memorial Hospital, ³ Otaru City Hospital Bureau, ⁴ Joint Graduate School of Tokyo Womens Medical University and Waseda University Cooperative Major in Advanced Biomedical Sciences, ⁵ Sakakibara Heart Institute) : Landiolol, an ultra-short-acting beta₁- blocker, more effectively terminates atrial fibrillation than diltiazem after open heart surgery. *Circulation Journal* 2012 ; 76 (5) : 1097-1101.
- 2) Nakazato K¹, Takeda S¹, Tanaka K¹, Sakamoto A (¹ Division of Intensive Care Unit and Coronary Care Unit, Nippon Medical School Hospital) : Aggressive treatment with noninvasive ventilation for mild hypoxemic respiratory failure after cardiovascular surgery : Retrospective observational study. *Journal of cardiothoracic surgery* 2012 ; 7 (1) : 41.
- 3) Muto Y, Sakai A¹, Sakamoto A, Suzuki H¹ (¹ Department of Pharmacology, Nippon Medical School) : Activation of NK1 receptors in the locus coeruleus induces analgesia through noradrenergic-mediated descending inhibition in a rat model of neuropathic pain. *Br J Pharmacol* 2012 ; 166 (3) : 1047-1057.
- 4) Watanabe H, Kamagata C, Tsuboko Y, Sakamoto A : Volatile and intravenous anesthesia alter rat liver proteins : Proteomic time course analysis of rat liver proteins. *The Open Proteomics Journal* 2012 ; 5 : 8-16.
- 5) Tajima T, Hirakawa K¹, Kawaguchi H, Sakamoto A (¹ NMR Laboratory and Department of Legal Medicine, Nippon Medical School) : Proton nuclear magnetic resonance and pattern recognition analysis of liver extracts from rats under different anesthetics. *BMC Med Imaging* 2012 ; 12 : 28.
- 6) Tsuboko Y, Takeda S¹, Mii S, Nakazato K, Tanaka K¹, Uchida E², Sakamoto A (¹ Division of Intensive Care Unit and Coronary Care Unit, Nippon Medical School Hospital, ² Department of Surgery, Nippon Medical School) : Clinical evaluation of sivelestat for acute lung injury/acute respiratory distress syndrome follow-

- ing surgery for abdominal sepsis. *Drug Design, Development and Therapy* 2012 ; 6 : 273-278.
- 7) Kadota K, Iijima N¹⁾, Ohe-Hayashi Y, Takumi K¹⁾, Higo S¹⁾, Sakamoto A, Ozawa H¹⁾ (¹⁾ Department of Anatomy and Neurobiology, Graduate School of Medicine, Nippon Medical School) : Time-dependent repression of mPer2 expression in the suprachiasmatic nucleus by inhalation anesthesia with sevoflurane. *Neuroscience Letters* 2012 ; 528 (2) : 153-158.
 - 8) Nakatani H, Kim C, Sakamoto A : Low-dose dexmedetomidine facilitates the carotid body response to low oxygen tension in vitro via α 2-adrenergic receptor activation in rabbits. *European Journal of Anaesthesiology* 2012 ; 29 (12) : 570-576.
 - 9) Ishikawa M, Tanaka S, Arai M, Genda Y, Sakamoto A : Differences in microRNA changes of healthy rat liver between sevoflurane and propofol anesthesia. *Anesthesiology* 2012 ; 117 (6) : 1245-1252.
 - 10) Tanaka S, Ishikawa M, Arai M, Genda Y, Sakamoto A : Changes in microRNA expression in rat lungs caused by sevoflurane anesthesia : a TaqMan low-density array study. *Biomedical Research* 2012 ; 33 (5) : 255-263.
 - 11) Genda Y, Arai M, Ishikawa M, Tanaka S, Okabe T, Sakamoto A : MicroRNA changes in the dorsal horn of the spinal cord of rats with chronic constriction injury : A TaqMan low density array study. *International Journal of Molecular Medicine* 2013 ; 31 (1) : 129-137.
 - 12) Takeda J¹⁾, Namiki A²⁾, Ozaki M³⁾, Fukuda K⁴⁾, Morita K⁵⁾, Kanmura Y⁶⁾, Yamakage M²⁾, Komatsu T⁷⁾, Inada E⁸⁾, Kawate R⁹⁾, Kanazawa M¹⁰⁾, Sakamoto A, et al. (¹⁾ Keio University, ²⁾ Sapporo Medical University, ³⁾ Tokyo Womens Medical University, ⁴⁾ Kyoto University Hospital, ⁵⁾ Okayama University Hospital, ⁶⁾ Kagoshima University, ⁷⁾ University of Tokyo, ⁸⁾ Juntendo University, ⁹⁾ NTT Medical Center Tokyo, ¹⁰⁾ Tokai University) : A prospective randomized multicenter comparative study of BLM-240 (desflurane) versus sevoflurane in Japanese patients. *Journal of Anesthesia* 2013 ; 27 (3) : 468-471.
 - 13) Nakanishi K, Takeda S, Kim C, Koda S, Sakamoto A : Postoperative atrial fibrillation in patients undergoing coronary artery bypass grafting or cardiac valve surgery : intraoperative use of landiolol. *Journal of Cardiothoracic Surgery* 2013 ; 8 (19) : 19.
 - 14) Nagai R¹⁾, Kinugawa K²⁾, Inoue H³⁾, Atarashi H⁴⁾, Seino Y⁵⁾, Yamashita T⁶⁾, Shimizu W⁷⁾, Aiba T⁷⁾, Kitakaze M⁷⁾, Sakamoto A, Ikeda T⁸⁾, Imai Y²⁾, Daimon T⁹⁾, Fujino K¹⁰⁾, Nagano T¹⁰⁾, et al. (¹⁾ Jichi Medical University, ²⁾ University of Tokyo, ³⁾ University of Toyma, ⁴⁾ Nippon Medical School Tama Nagayama Hospital, ⁵⁾ Nippon Medical School Chiba Hokusou Hospital, ⁶⁾ The Cardiovascular Institute, ⁷⁾ National Cerebral and Cardiovascular Center, ⁸⁾ Toho University Omori Medical Center, ⁹⁾ Hyogo College of Medicine, ¹⁰⁾ ONO Pharmaceutical Co., LTD) : Urgent management of rapid heart rate in patients with atrial fibrillation/flutter and left ventricular dysfunction -Comparison of the ultra-short-acting β 1-selective blocker landiolol with digoxin (J-Land Study). *Circulation Journal* 2013 ; 77 (4) : 908-916.
 - 15) Takeda S, Kotani T¹⁾, Nakagawa S²⁾, Ichiba S³⁾, Aokage T⁴⁾, Ochiai R⁵⁾, Taenaka N⁶⁾, Kawamae K⁷⁾, Nishimura M⁸⁾, Ujike Y³⁾, Tajimi K⁹⁾ (¹⁾ tokyo women medical college, ²⁾ national center for child health and development, ³⁾ okayama university, ⁴⁾ nippon medical school, ⁵⁾ toho university, ⁶⁾ takarazuka city hospital, ⁷⁾ yamagata university, ⁸⁾ tokushima university, ⁹⁾ akita university) : Extracorporeal Membrane Oxygenation for 2009 Influenza A (H1N1) Severe Respiratory Failure in Japan. *Journal of anesthesia* 2012 ; 26 (5) : 650-657.
 - 16) 小野寺英貴, 幸田修典, 坂本篤裕, 古市結富子¹⁾, 清水 淳¹⁾, 三枝英人²⁾, 山口 智²⁾ (¹⁾ 榊原記念病院麻酔科, ²⁾ 日本医科大学耳鼻咽喉科教室) : 心臓外科における経食道エコー留置後の披裂軟骨脱臼の発生について. *Cardiovascular Anesthesia* 2013 ; 16 (2) : 41-45.

(2) 総説：

- 1) 坂本篤裕：パルスオキシメータの可能性. 麻酔・集中治療とテクノロジー 2012；1（1）：21-25.
- 2) 竹田晋浩：ECMO-up to date. 再評価の経緯と本邦における臨床一適応症例とは. ICU と CCU 2012；36（5）：319-326.
- 3) 竹田晋浩：呼吸不全の体外式膜型人工肺（ECMO）治療. 日本医事新報 2013；4629（1）：50-51.

(3) 症例報告：

- 1) 古市結富子¹⁾, 清水 淳¹⁾, 田畑 実²⁾, 高梨秀一郎²⁾, 坂本篤裕（¹⁾ 榊原記念病院麻酔科, ²⁾ 榊原記念病院心臓血管外科）：当院における右小開胸アプローチによる Minimally Invasive Cardiac Surgery（MICS）に対する麻酔管理について. 日本臨床麻酔学会誌 2012；32（3）：402-407.
- 2) 古市結富子¹⁾, 清水 淳¹⁾, 坂本篤裕：大動脈縮窄症術後の吻合部瘤と大動脈弁狭窄に対して, 弓部・下行大動脈置換術と大動脈弁置換術を施行した1例. 麻酔 2012；61（4）：393-396.
- 3) 小野雄一¹⁾, 松本 学¹⁾, 金 史英¹⁾, 横田裕行¹⁾, 坂本篤裕（¹⁾ 日本医科大学高度救命救急センター）：特発性食道破裂周術期の呼吸不全に対して分離肺換気および V-V ECMO を導入した1症例. 麻酔 2012；61（10）：1137-1140.

(4) 誌上座談会：

- 1) 坂本篤裕, 鈴木利保¹⁾, 祖父江和哉²⁾, 志馬伸朗³⁾, 伊藤健二¹⁾（¹⁾ 東海大学付属病院診療部麻酔科, ²⁾ 名古屋市立大学麻酔・危機管理医学分野, ³⁾ 京都医療センター救命救急科）：術前絶飲食ガイドライン適用の意義と今後の課題. 臨床麻酔 2012；36（9）：1345-1356.

著 書

- 1) 坂本篤裕：〔分担〕4. 心・血管作動薬. 麻酔科学レビュー 2013（天羽敬祐監修），2013；pp23-28, 総合医学社.
- 2) 竹田晋浩：〔分担〕38. 麻酔科医と救急医療. 麻酔科学レビュー 2013（天羽敬祐監修），2013；pp208-212, 総合医学社.
- 3) 本郷 卓：〔分担〕IX 章 その他の治療法とリハビリテーション4 栄養管理, 水分管理. CCU テキスト：循環器救急から集中治療管理まで（田中啓治 山本 剛），2013；pp260-263, 文光堂.
- 4) 本郷 卓：〔分担〕4 章 モニタリング装置 1. 心電図. 循環補助装置 The first step：麻酔科医と ME の役割（坂本篤裕・金 徹），2013；pp143-147, 克誠堂出版.
- 5) 坂本篤裕：〔監修〕循環補助装置 The first step：麻酔科医と ME の役割, 2013；克誠堂出版.
- 6) 金 徹¹⁾（¹⁾ 日本医科大学千葉北総病院麻酔科）：〔編集〕循環補助装置 The first step：麻酔科医と ME の役割, 2013；克誠堂出版.
- 7) 金 徹¹⁾（¹⁾ 日本医科大学千葉北総病院麻酔科）：〔分担〕1. 補助循環装置作動時の麻酔科医の役割. 循環補助装置 The first step：麻酔科医と ME の役割（坂本篤裕監修・金徹編集），2013；pp1-10, 克誠堂出版.
- 8) 鈴木健一¹⁾（¹⁾ 日本医科大学付属病 ME 部）：〔分担〕2. 循環補助装置作動時の ME の役割. 循環補助装置 The first step：麻酔科医と ME の役割（坂本篤裕監修・金徹編集），2013；pp11-16, 克誠堂出版.
- 9) 金 徹¹⁾, 鈴木健一²⁾, 小林克也³⁾, 鈴木 亮⁴⁾, 堀江 格⁵⁾, 宮内 靖⁵⁾, 青影聡之³⁾, 竹田晋浩³⁾（¹⁾ 日本医科大学千葉北総病院麻酔科, ²⁾ 日本医科大学付属病院 ME 部, ³⁾ 日本医科大学付属病院集中治療室, ⁴⁾ 日本医科大学千葉北総病院 ME 部, ⁵⁾ 日本医科大学付属病院循環器内科）：〔分担〕3. 循環補助装置. 循環補助装置 The first step：麻酔科医と ME の役割（坂本篤裕監修・金徹編集），2013；pp17-142, 克誠堂出版.
- 10) 本郷 卓, 河原裕泰, 佐藤千代¹⁾, 杖下隆哉, 鈴木規仁, 古市結富子²⁾, 小林克也³⁾, 小泉有美馨⁴⁾（¹⁾ 東京臨海病院麻酔科, ²⁾ 榊原記念病院麻酔科, ³⁾ 日本医科大学付属病院集中治療室, ⁴⁾ 海老名総合病院麻酔科）：〔分担〕4. モニタリング装置. 循環補助装置 The first step：麻酔科医と ME の役割（坂本篤裕監修・金徹編集），2013；pp143-198, 克誠堂出版.

- 11) 金 徹¹⁾ (1) 日本医科大学千葉北総病院麻酔科) : [分担] 5. 麻酔科医と ME の連携. 循環補助装置 The first step : 麻酔科医と ME の役割 (坂本篤裕監修・金徹編集), 2013 ; pp199-202, 克誠堂出版.
- 12) 金 徹¹⁾, 鈴木健一²⁾, 鈴木 亮³⁾, 杖下隆哉, 古市結富子⁴⁾, 中里桂子⁴⁾ (1) 日本医科大学千葉北総病院麻酔科, 2) 日本医科大学付属病院 ME 部, 3) 日本医科大学付属病院循環器内科, 4) 榊原祈念病院麻酔科) : [分担] 座談会. 循環補助装置 The first step : 麻酔科医と ME の役割 (坂本篤裕監修・金徹編集), 2013 ; pp203-222, 克誠堂出版.
- 13) 竹田晋浩 : [共著] NPPV. 新呼吸療法テキスト (竹田晋浩), 2012 ; pp227-230, アトムス.

学会発表

(1) 教育講演 :

- 1) 竹田晋浩 : ARDS 診断基準の問題点と新しい診断基準. 第 26 回東北救急医学会総会・学術集会 (仙台), 2012. 6.
- 2) 竹田晋浩 : 急性呼吸不全治療の流れ. 第 21 回日本集中治療医学会東北地方会 (盛岡), 2012. 7.

(2) シンポジウム :

- 1) 坂本篤裕 : 周術期における β 遮断薬の有用性 (心臓手術の周術期管理最前線). 日本循環制御医学会総会 (第 33 回) (栃木県下野市), 2012. 6.
- 2) 坂本篤裕 : 手術室内各職種における役割分担と問題点 (手術室の効率化と安全対策のテーマ). 日本麻酔科学会学術集会 (第 59 回) (神戸市), 2012. 6.
- 3) 坂本篤裕 : 周術期薬物予防投与による手術運営効率化への可能性 (手術室の効率的運営). 日本臨床麻酔学会大会 (第 32 回) (福島), 2012. 11.
- 4) 坂本篤裕, 鈴木健一¹⁾, 竹田晋浩²⁾ (1) 日本医科大学付属病院 ME 部, 2) 日本医科大学付属病院集中治療室) : 手術室の効率的運営における臨床工学技士の役割と現状 (手術室におけるチーム医療). 日本手術医学会総会 (第 34 回) (東京), 2012. 10.
- 5) 竹田晋浩 : 大侵襲手術周術期における体液・代謝管理のながれ (周術期管理における体液・代謝管理の現状と展望). 体液・代謝管理研究会年次学術集会 (第 28 回) (東京), 2013. 1.
- 6) 八木 馨 : COP と体液変動推移 (各種モニタリングによる体液管理・輸液管理の現状と展望). 体液・代謝管理研究会年次学術集会 (第 28 回) (東京), 2013. 1.
- 7) 坂本篤裕 : 周術期における循環器疾患薬と薬剤管理 (周術期患者管理). 平成 24 年度厚生労働省チーム医療普及事業シンポジウム (広島市), 2013. 2.
- 8) 竹田晋浩 : ウィルス肺炎と急性呼吸不全. 第 52 回日本呼吸器学会学術講演会 (神戸), 2012. 4.

(3) パネルディスカッション :

- 1) 小林克也¹⁾, 竹田晋浩¹⁾, 青景聡之¹⁾, 間瀬大司¹⁾, 山本 剛¹⁾, 田中啓二¹⁾, 坂本篤裕 (1) 日本医科大学付属病院集中治療室) : ECMO の安全管理と本邦での問題点 (日本での呼吸不全に対する ECMO : 我々はどうすべきか?). 日本集中治療医学会学術集会 (第 40 回) (松本市), 2013. 2.

(4) セミナー :

- 1) 坂本篤裕 : 周術期における短時間作用型 β 遮断薬の有用性. 城北周術期セミナー 2012 (東京), 2012. 7.
- 2) 坂本篤裕 : 周術期における β 遮断薬の有用性. 日本循環器学会学術集会 (第 77 回) (東京), 2013. 3.

(5) 一般講演 :

- 1) 本郷 卓, 小野寺英貴, 坂本篤裕 : 術中大量出血した症例で, 術前から麻酔科医は出血に備えていたか. 日本麻酔科学会学術集会 (第 59 回) (神戸市), 2012. 6.
- 2) 岸川洋昭, 坂本篤裕 : 活性窒素種による抗菌作用の検討およびバイオフィルム形成への影響. 日本麻酔科学会学術集会 (第 59 回) (神戸市), 2012. 6.

- 3) 萩原めぐみ, 飯島典生¹⁾, 坂本篤裕, 小澤一史¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学大学院生体制御形態科学): 吸入薬 Sevoflurane による時計遺伝子 rat Per2 発現の抑制. 日本麻酔科学会学術集会 (第 59 回) (神戸市), 2012. 6.
- 4) 竹内純平, 岡部 格, 鎌形千尋, 小野寺英貴, 坂本篤裕: スガマデクス発売後の当院でのロクロニウム使用量と抜管時間の変化. 日本麻酔科学会学術集会 (第 59 回) (神戸市), 2012. 6.
- 5) 石川真士, 田中俊輔, 荒井雅江, 源田雄紀, 坂本篤裕: ラット肝臓 microRNA 発現に対するセボフルラン, プロポフォールの影響. 日本麻酔科学会学術集会 (第 59 回) (神戸市), 2012. 6.
- 6) 源田雄紀, 荒井雅江, 石川真士, 田中俊輔, 岡部 格, 坂本篤裕: Chronic constrictive injury rat 脊髄後角の microRNA 変化の検討: TaqMan Low Density Array を用いた microRNA 網羅解析. 日本麻酔科学会学術集会 (第 59 回) (神戸市), 2012. 6.
- 7) 中里桂子, 竹田晋浩, 坂本篤裕: 心臓血管外科手術後の抜管における NIV (Noninvasive ventilation) への移行の有効性第 2 報. 日本麻酔科学会学術集会 (第 59 回) (神戸市), 2012. 6.
- 8) 古市結富子¹⁾, 清水 淳¹⁾, 中里桂子¹⁾, 横塚 基¹⁾, 三井誠司¹⁾, 坂本篤裕 (¹⁾ 榊原記念病院麻酔科): 低体温循環停止・逆行性脳灌流時間が術後の覚醒に与える影響. 日本麻酔科学会学術集会 (第 59 回) (神戸市), 2012. 6.
- 9) 杉田慎二, 岡部 格, 坂本篤裕: リアルタイム RT-PCR 法を用いたラット虚血再灌流障害に対するデクスメトミジン持続投与による腎保護効果の検討. 日本麻酔科学会学術集会 (第 59 回) (神戸市), 2012. 6.
- 10) 幸田修典, 大江裕美子, 岡部 格, 幸田真理子, 河原裕泰, 鈴木規仁, 中西一浩, 坂本篤裕: 当院ペインクリニック外来におけるトラマドール塩酸塩・アセトアミノフェン配合製剤の使用経験. 日本ペインクリニック学会大会 (第 46 回) (松江市), 2012. 7.
- 11) 内木亮介¹⁾, 清水祐一郎¹⁾, 米内大輔¹⁾, 水野幸一¹⁾, 幸田真理子¹⁾, 坂本篤裕 (¹⁾ 日本医科大学多摩永山病院麻酔科): 治療に難渋している第 5 腰椎神経引き抜き損傷の 1 例. 日本ペインクリニック学会大会 (第 46 回) (松江市), 2012. 7.
- 12) 幸田真理子¹⁾, 米内大輔¹⁾, 清水祐一郎¹⁾, 水野幸一¹⁾, 内木亮介¹⁾, 坂本篤裕 (¹⁾ 日本医科大学多摩永山病院麻酔科): 肺尖部腫瘍による上肢痛の治療に腕神経叢造営と腕神経叢ブロックが有用だった 1 例. 日本ペインクリニック学会大会 (第 46 回) (松江市), 2012. 7.
- 13) 森 啓介, 林裕美子, 岡部 格, 幸田修典, 河原裕泰, 鈴木規仁, 中西一浩, 坂本篤裕: 術後臍液瘻に伴う激しい上腹部痛のコントロールにフェンタニルとトラマドールの併用が有用であった 1 例. 日本ペインクリニック学会大会 (第 46 回) (松江市), 2012. 7.
- 14) 水野幸一¹⁾, 幸田真理子¹⁾, 米内大輔¹⁾, 清水祐一郎¹⁾, 内木亮介¹⁾, 坂本篤裕 (¹⁾ 日本医科大学多摩永山病院麻酔科): 最小皮切による脊髄刺激療法サージカルトライアルの試み. 日本ペインクリニック学会大会 (第 46 回) (松江市), 2012. 7.
- 15) 河原裕泰, 鈴木規仁, 幸田修典, 岡部 格, 大江裕美子, 中西一浩, 坂本篤裕: 肢端紅痛症に対する交感神経ブロックおよび硬膜外ブロックの効果について. 日本ペインクリニック学会大会 (第 46 回) (松江市), 2012. 7.
- 16) 木村隆平, 河原裕泰, 鈴木規仁, 岡部 格, 幸田修典, 大江裕美子, 中西一浩, 坂本篤裕: レイノー病に対するタグラフィルの使用経験. 日本ペインクリニック学会大会 (第 46 回) (松江市), 2012. 7.
- 17) 鈴木規仁, 岡部 格, 河原裕泰, 幸田修典, 大江裕美子, 中西一浩, 坂本篤裕: 閉塞性血栓性血管炎に伴う左下肢痛に高用量フェンタニル貼付剤が必要であった症例. 日本ペインクリニック学会大会 (第 46 回) (松江市), 2012. 7.
- 18) 荒井雅江, 小野寺秀貴¹⁾, 本郷 卓, 坂本篤裕 (¹⁾ 日本医科大学千葉北総病院麻酔科): 出血性病変と凝固障害を合併した感染性心内膜炎に対し nafamostat にて人工心肺を使用した症例. 日本心臓血管麻酔学会学術大会 (第 17 回) (仙台市), 2012. 9.
- 19) 古市結富子¹⁾, 中里桂子¹⁾, 横塚 基¹⁾, 三井誠司¹⁾, 清水 淳¹⁾, 高梨秀一郎²⁾, 坂本篤裕 (¹⁾ 榊原記念病院麻

- 酔科, ²⁾ 榊原記念病院心臓血管外科) : Child-Pugh B の肝硬変を合併した患者に対する心臓血管手術麻酔の経験. 日本心臓血管麻酔学会学術大会 (第 17 回) (仙台市), 2012. 9.
- 20) 萩原めぐみ, 鎌形千尋, 幸田修典, 間瀬大司, 小林克也, 竹田晋浩, 坂本篤裕 : 人工心肺離脱時に肺水腫をきたし, その原因鑑別に苦慮した 1 症例. 日本心臓血管麻酔学会学術大会 (第 17 回) (仙台市), 2012. 9.
- 21) 石川真士, 鎌形千尋, 幸田修典, 坂本篤裕 : 成人右室二腔症の 1 麻酔経験. 日本心臓血管麻酔学会学術大会 (第 17 回) (仙台市), 2012. 9.
- 22) 田中俊輔, 岸川洋昭, 杖下隆哉, 幸田修典, 鎌形千尋, 坂本篤裕 : 右房まで進展した腎腫瘍の麻酔経験. 日本心臓血管麻酔学会学術大会 (第 17 回) (仙台市), 2012. 9.
- 23) 森田智教, 河原裕泰, 大江裕美子, 鈴木規仁, 岸川洋昭, 坂本篤裕 : 糖尿病性神経障害に対しデュロキセチンが著効した 1 症例. 日本麻酔科学会関東甲信越・東京支部合同学術集会 (第 52 回) (軽井沢), 2012. 9.
- 24) 門脇史宣, 河原裕泰, 萩原めぐみ, 岸川洋昭, 鈴木規仁, 坂本篤裕 : Ehlers Danlos 症候群の疼痛管理経験. 日本麻酔科学会関東甲信越・東京支部合同学術集会 (第 52 回) (軽井沢), 2012. 9.
- 25) 大槻達郎, 鎌形千尋, 石川真士, 武藤友美, 坂本篤裕 : 低侵襲血行動態モニターを用いた褐色細胞腫手術の麻酔管理. 日本麻酔科学会関東甲信越・東京支部合同学術集会 (第 52 回) (軽井沢), 2012. 9.
- 26) 鎌崎 剛¹⁾, 寺嶋克幸¹⁾, 西維東洲¹⁾, 坂本篤裕 (¹⁾ 三井記念病院麻酔科) : 気管挿管後に生じた被裂軟骨脱臼の臨床経験. 日本麻酔科学会関東甲信越・東京支部合同学術集会 (第 52 回) (軽井沢), 2012. 9.
- 27) 保利陽子, 鎌形千尋, 幸田修典, 鈴木規仁, 岸川洋昭, 坂本篤裕 : 収縮性心膜炎に対する心膜切除術で, 右室圧波形を指標に術中管理した症例. 日本麻酔科学会関東甲信越・東京支部合同学術集会 (第 52 回) (軽井沢), 2012. 9.
- 28) 尾中寛恵, 武藤友美, 杖下隆哉, 坂本篤裕 : PCEA と iv-PCA のプロトコルの検討. 日本麻酔科学会関東甲信越・東京支部合同学術集会 (第 52 回) (軽井沢), 2012. 9.
- 29) 木村祐輔, 大江裕美子, 岸川洋昭, 金 徹¹⁾, 坂本篤裕 (¹⁾ 日本医科大学千葉北総病院麻酔科) : 修正型電気痙攣療法後に心静止となった 1 例. 日本麻酔科学会関東甲信越・東京支部合同学術集会 (第 52 回) (軽井沢), 2012. 9.
- 30) 荒井雅江, 杖下隆哉, 鈴木健一¹⁾, 村田 智²⁾, 坂本篤裕 (¹⁾ 日本医科大学付属病院 ME 部, ²⁾ 日本医科大学付属病院放射線科) : 骨盤内閉鎖循環下抗癌剤灌流療法および関連療法の周術期管理. 日本麻酔科学会関東甲信越・東京支部合同学術集会 (第 52 回) (軽井沢), 2012. 9.
- 31) 伊藤直美, 幸田修典, 大江裕美子, 小林克也, 坂本篤裕 : 術後心不全を繰り返す患者に対し, 良好に周術期管理をしえた症例. 日本麻酔科学会関東甲信越・東京支部合同学術集会 (第 52 回) (軽井沢), 2012. 9.
- 32) 木村隆平, 鎌形千尋, 杖下隆哉, 本郷 卓, 坂本篤裕 : CABG 術後の患者に対し胃切除施行時グラフと切離が必要となり術後狭心症を発症した 1 症例. 日本臨床麻酔学会大会 (第 32 回) (福島), 2012. 11.
- 33) 野崎純一, 源田雄紀, 鈴木規仁, 本郷 卓, 坂本篤裕 : スガマデクスを投与下が, 術後再クラーレ化が疑われた 1 症例. 日本臨床麻酔学会大会 (第 32 回) (福島), 2012. 11.
- 34) 大槻達郎¹⁾, 竹田晋浩¹⁾, 青景聡之¹⁾, 後藤玄太郎¹⁾, 原田里音¹⁾, 間瀬大司¹⁾, 小泉有美馨¹⁾, 山本 剛¹⁾, 田中啓治¹⁾, 坂本篤裕 (¹⁾ 日本医科大学付属病院集中治療室) : 術後心原性肺水腫に対し V-A ECMO を用いて救命し得た 1 例. 日本呼吸療法医学会学術総会 (第 34 回) (宜野湾市), 2012. 7.
- 35) 庭山ゆう子¹⁾, 森嶋俊介¹⁾, 鈴木健一¹⁾, 坂本篤裕, 竹田晋浩²⁾ (¹⁾ 日本医科大学付属病院 ME 部, ²⁾ 日本医科大学付属病院集中治療室) : NPPV における加温加湿についての検討. 日本呼吸療法医学会学術総会 (第 32 回) (宜野湾市), 2012. 7.
- 36) 古市結富子¹⁾, 中里桂子¹⁾, 横塚 基¹⁾, 三井誠司¹⁾, 清水 淳¹⁾, 坂本篤裕 (¹⁾ 榊原記念病院麻酔科) : 当院における冠動脈バイパス術後の呼吸器合併症に関する調査. 日本呼吸療法医学会学術総会 (第 32 回) (宜野湾市), 2012. 7.

- 37) 坪光祥晃¹⁾, 竹田晋浩²⁾, 坂本篤裕 (¹⁾ 日本医科大学千葉北総病院麻酔科, ²⁾ 日本医科大学付属病院集中治療室) : 腹部外科術後の敗血症性呼吸不全に対する Sivelestat 治療の評価. 日本呼吸療法医学会学術総会 (第 32 回) (宜野湾市), 2012. 7.
- 38) 森嶋俊介¹⁾, 庭山ゆう子¹⁾, 鈴木健一¹⁾, 坂本篤裕, 竹田晋浩²⁾ (¹⁾ 日本医科大学付属病院 ME 部, ²⁾ 日本医科大学付属病院集中治療室) : MAQUET 社製遠心ポンプ ROTAFLOW と NIPRO 社製膜型人工肺 BIOCUBE を使用した ECMO 回路にて経験した 5 症例. 日本呼吸療法医学会学術総会 (第 32 回) (宜野湾市), 2012. 7.
- 39) 古市結富子¹⁾, 中里桂子¹⁾, 坪光祥晃¹⁾, 三井誠司¹⁾, 清水 淳¹⁾, 高梨秀一郎²⁾, 坂本篤裕 (¹⁾ 榊原記念病院麻酔科, ²⁾ 榊原記念病院心臓血管外科) : 当院成人患者における心臓血管手術後のデクスメトミジンの使用状況. 日本集中治療医学会学術集会 (第 40 回) (松本市), 2013. 2.
- 40) 原田里音, 竹田晋浩¹⁾, 間瀬大司¹⁾, 後藤玄太郎, 大槻達郎, 小泉有美馨¹⁾, 田中啓二¹⁾, 坂本篤裕 (¹⁾ 日本医科大学付属病院集中治療室) : 人工心肺離脱後の両心不全, 呼吸不全に V-A ECMO が有効であった 1 症例. 日本集中治療医学会学術集会 (第 40 回) (松本市), 2013. 2.
- 41) 小野寺英貴¹⁾, 金 徹¹⁾, 辻本芳孝¹⁾, 中島祐史¹⁾, 井上哲夫¹⁾, 坂本篤裕 (¹⁾ 日本医科大学千葉北総病院麻酔科) : 麻酔導入後に発症した逆たこっほ型心筋症の 1 例. 日本集中治療医学会学術集会 (第 40 回) (松本市), 2013. 3.
- 42) 後藤玄太郎, 竹田晋浩¹⁾, 小泉有美馨¹⁾, 間瀬大司¹⁾, 原田里音, 大槻達郎, 田中啓二¹⁾, 坂本篤裕 (¹⁾ 日本医科大学付属病院集中治療室) : 感染性心内膜炎により出血性脳梗塞を合併するも緊急大動脈弁置換術を施行し救命することができた 1 例. 日本集中治療医学会学術集会 (第 40 回) (松本市), 2013. 3.
- 43) 坪光祥晃¹⁾, 清水 淳¹⁾, 三井誠司¹⁾, 中里桂子¹⁾, 古市結富子¹⁾, 坂本篤裕 (¹⁾ 三井記念病院麻酔科) : 感染性心内膜炎に対する術後管理の検討. 日本集中治療医学会学術集会 (第 40 回) (松本市), 2013. 3.
- 44) 竹内純平, 竹田晋浩¹⁾, 間瀬大司¹⁾, 小林克也¹⁾, 大越有一, 高橋祐生, 田中啓二¹⁾, 坂本篤裕 : 食道癌術後気管食道ろうに対して ECMO 補助下にろう孔閉鎖術の周術期管理を行った 1 例. 日本集中治療医学会学術集会 (第 40 回) (松本市), 2013. 3.
- 45) 大越有一, 竹田晋浩¹⁾, 小林克也¹⁾, 間瀬大司¹⁾, 竹内純平, 高橋祐生, 田中啓二¹⁾, 坂本篤裕 (¹⁾ 日本医科大学付属病院集中治療室) : 人工心肺離脱時の呼吸不全に対して ECMO 導入が有効であった症例. 日本集中治療医学会学術集会 (第 40 回) (松本市), 2013. 3.
- 46) 大槻達郎, 竹田晋浩¹⁾, 後藤玄太郎, 原田里音, 間瀬大司¹⁾, 小泉有美馨¹⁾, 田中啓二¹⁾, 坂本篤裕 (¹⁾ 日本医科大学付属病院集中治療室) : 人工弁機能不全に対する大動脈弁再置換術を施行した大動脈炎症候群の 1 例. 日本集中治療医学会学術集会 (第 40 回) (松本市), 2013. 3.
- 47) 中里桂子¹⁾, 古市結富子¹⁾, 坪光祥晃¹⁾, 三井誠司¹⁾, 清水 淳¹⁾, 竹田晋浩²⁾, 坂本篤裕 (¹⁾ 榊原記念病院麻酔科, ²⁾ 日本医科大学付属病院集中治療室) : 1 秒量の低い症例における開心術の検討. 日本集中治療医学会学術集会 (第 40 回) (松本市), 2013. 3.
- 48) 高橋祐生, 竹田晋浩¹⁾, 大越有一, 竹内純平, 間瀬大司¹⁾, 小林克也¹⁾, 小泉有美馨¹⁾, 田中啓二¹⁾, 坂本篤裕 (¹⁾ 日本医科大学付属病院集中治療室) : 臍帯血移植後の ARDS に対してステロイドが有効であった症例. 日本集中治療医学会学術集会 (第 40 回) (松本市), 2013. 3.
- 49) 岸川洋昭, 鈴木規仁, 坂本篤裕 : 症状寛解が得られた小児肢端紅痛症の 1 症例. 日本慢性疼痛学会 (第 42 回) (東京), 2013. 2.
- 50) 鈴木規仁, 岸川洋昭, 坂本篤裕 : 複合性局所疼痛症候群 (CRPS) 患者におけるオピオイドによる嗜癖を来した症例. 日本慢性疼痛学会 (第 42 回) (東京), 2013. 2.
- 51) Goto G, Ishikawa M, Sakamoto A : Changes in gene expression of micromas on rats hippocampus. American Society of Anesthesiologists Annual Meeting (2012) (Washington DC), 2012. 10.
- 52) Hori Y, Arai M, Ishikawa M, Genda Y, Tanaka S, Sakamoto A : Differential expression of hippocampal

micromas in rat chronic pain models. American Society of Anesthesiologists Annual Meeting (2012) (Washington DC), 2012. 10.

- 53) 尾中寛恵, 武藤友美, 杖下隆哉, 坂本篤裕: PCA と iv-PCA のプロトコルの検討. 日本麻酔科学会 関東甲信越・東京支部 合同学術集会 (第 52 回) (軽井沢), 2012. 9.
- 54) 尾中寛恵, 武藤友美, 杖下隆哉, 坂本篤裕: PCA と iv-PCA のプロトコルの検討. 日本麻酔科学会 関東甲信越・東京支部 合同学術集会 (第 52 回) (軽井沢), 2012. 9.

[武蔵小杉病院麻酔科]

研究概要

慢性的なマンパワー不足の中, 武蔵小杉病院麻酔科では主に臨床に即した研究をおこなっている. 医局員が日常の麻酔, ペイン業務で遭遇する種々の問題, 疑問より発生起案したテーマをもとにチームを編成し研究を進めている. 従って臨床にすぐ反映され, 有益となる研究テーマであるという特徴を有している. 食道がん, 肺がん等の開胸手術における侵襲防御, 産科領域の麻酔管理法, 気道管理方は当科の長年のテーマであり継続的な研究を行っている. 特に産科麻酔領域は帝王切開術だけでも年間 250 症例以上と付属 4 病院の中でも有数の症例数である. この領域は非常に緊急性を伴う手術であるにもかかわらず, 国により国内でも施設により差があり, 本邦におけるスタンダードといえる麻酔管理も確立していない. 日本麻酔科学会でも今後の重要課題として提起されており今後も当科研究活動の柱として位置付けられるものである.

研究業績

学会発表

(1) 一般講演:

- 1) 大角 真, 鳥海博司, 坂本光太郎, 鈴木万三, 尾藤博保: 胎児機能不全における緊急帝王切開 (urgent cesarean delivery) に対する脊髄くも膜下麻酔での局所薬の選択についての検討. 日本麻酔科学会学術集会 (第 59 回) (神戸), 2012. 6.
- 2) 鈴木万三, 鈴木新平, 宮澤英彦: 大腸, 直腸がん手術における術中使用オピオイドと術後創部感染の関係. 日本麻酔科学会学術大会 (第 59 回) (神戸), 2012. 6.
- 3) 下地玉恵¹⁾, 赤羽日出男¹⁾, 山口朋禎¹⁾, 岸 泰宏¹⁾, 若城由美子¹⁾, 宮内秀典¹⁾, 栗原香織¹⁾, 小泉嘉子¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院緩和ケアチーム): 当院における緩和ケア啓発普及活動の状況. 日本緩和医療学会学術大会 (第 17 回) (神戸), 2012. 6.
- 4) 赤羽日出男, 坂本光太郎, 大角 真, 鳥海博司, 鈴木新平, 和田美紀, 宮澤英彦: ペインクリニック診療における直流微弱電流治療の効果. 日本ペインクリニック学会大会 (第 46 回) (松江), 2012. 7.
- 5) 鳥海博司, 大角 真, 鈴木新平, 稲木敏一郎, 赤羽日出男, 尾藤博保: 治療抵抗性の中枢神経障害性疼痛に対しトラマドール・アセトアミノフェン配合薬が著効した症例. 公益社団法人日本麻酔科学会関東甲信越・東京支部 合同学術集会 (第 52 回) (軽井沢), 2012. 9.

[多摩永山病院麻酔科]

研究概要

当科では周術期管理及びペインクリニックに関する臨床的研究を行っている. 新しい術式が日に日に増加し, 術後回復力強化プログラム (ERAS) や日帰り手術が注目されている今日では, 従来とは全く異なった概念の麻酔法及び周術期管理が要求されている. 本年度は気道管理および気道管理の教育法, 人工的気胸及び気腹を用いた内視鏡手術

の術中管理法、くも膜下鎮痛法による帝王切開術後疼痛管理、術中神経モニタリングと麻酔管理、末梢神経ブロックを用いた術中術後鎮痛法などをテーマとして研究を進めてきた。次年度もこれらを継続的に研究し、新たなニーズに応えられる周術期管理法を当科から発信していきたい。ペインクリニックでは、難治性の痛みに対する侵襲的治療を積極的に行っている。脊髄刺激電極埋め込み術の最小侵襲手術手技の研究、また、昨年倫理委員での承認得てRACZカテーテル神経根形成治療を開始した。短期的成績ではあるが良好な治療成績が得られている。RACZカテーテルの手術手技の完成と長期予後の検討について、今後さらなる検討を重ねていく。

研究業績

学会発表

(1) 一般講演：

- 1) 内木亮介, 清水祐一郎, 米内大輔, 水野幸一, 幸田真理子, 坂本篤裕¹⁾ (1) 日本医科大学麻酔科学教室)：治療に難渋している第5腰椎引き抜き損傷の1例。日本ペインクリニック学会(第46回)(松江市), 2012. 7.
- 2) 幸田真理子^{0,1)}, 米内大輔, 清水祐一郎, 水野幸一, 内木亮介, 坂本篤裕 (1) 日本医科大学麻酔科学教室)：肺尖部腫瘍による上肢痛の治療に腕神経叢造影と腕神経叢ブロックが有用だった1例。日本ペインクリニック学会(第46回)(松江), 2012. 7.
- 3) 水野幸一, 幸田真理子, 米内大輔, 清水祐一郎, 内木亮介, 坂本篤裕^{0,1)} (1) 日本医科大学麻酔科学教室)：最小皮切による脊髄刺激療法サージカルトライアルの試み。日本ペインクリニック学会(第46回)(松江市), 2012. 7.
- 4) 幸田修典^{0,1)}, 大江裕美子^{0,1)}, 岡部 格^{0,1)}, 幸田真理子, 河原裕泰^{0,1)}, 鈴木規仁^{0,1)}, 中西一浩^{0,1)}, 坂本篤裕^{0,1)} (1) 日本医科大学麻酔科学教室)：当院ペインクリニック外来におけるトラマドール塩酸塩アセトアミノフェン配合剤の使用経験。日本ペインクリニック学会(第46回)(松江市), 2012. 7.
- 5) Nishikawa K : Comparison of anatomical changes during X-ray laryngoscopy with the Macintosh and a new curved blade in the patient with the unexpected difficult airway. Difficult Airway Society (21st) (Cardiff, UK), 2012. 11.
- 6) Batuwitige B¹⁾, Mcdonald A¹⁾, Nishikawa K¹⁾, Lythgoe D³⁾, Mercer S^{1,2)}, Charters P¹⁾ (1) Aintree University Hospital NHS Foundation Trust, 2) Centre for Simulation and Patient Safety NHS North West, 3) University of Liverpool) : Determining the best introducer for intubating with the C-MAC D-blade videolaryngoscope. Anaesthetic Research Society 2012 Winter Meeting (London, UK), 2012. 12.
- 7) Nishikawa K : Dynamic changes of the upper airway during laryngoscopy with the Macintosh and a new curved blade in the patient with the unexpected difficult airway. Anaesthetic Research society 2012 Winter Meeting (London, UK), 2012. 12.

[千葉北総病院麻酔科]

研究概要

毎年のことながら、年度替わりに医局員の半数近くの入れ換えがあり、組織的な研究体制の確立が困難な状況が続いている。当院では、今年度に入り手術件数が飛躍的に増加してきており、さらにこの傾向に拍車をかける結果となった。そんななか、大学院生3名は自身の研究成果をまとめる時期にあったが、年度中にすべてが修了し、晴れて医員・助教となった。多忙をきわめる診療業務の合間をぬって、臨床研究では、金講師を筆頭に研究体制が次第に芽生えてきてはいるところである。テーマには、気道管理、循環系非侵襲的モニタリングの疾患別特徴の解析、麻酔中の消化器活動、肺気量の変動などがあり、今後の発展が期待される。

研究業績

論文

[追加分]

追加分原著：

- 1) Watanabe H, Kamagata C¹⁾, Tsuboko Y¹⁾, Sakamoto A¹⁾ (¹⁾ Department of Anesthesiology and Pain Medicine, Graduate School of Medicine, Nippon Medical School, Tokyo, Japan) : Volatile and Intravenous Anesthesia Alter Rat Liver Proteins : Proteomic Time Course Analysis of Rat Liver Proteins. The Open Proteomics Journal 2012 ; 5 : 8-16.

(1) 原著：

- 1) Nakatani H, Kim C, Satamoto A¹⁾ (¹⁾ Department of Anesthesiology, Nippon Medical School, Tokyo, Japan) : Low-dose dexmedetomidine facilitates the carotid body response to low oxygen tension in vitro via α 2-adrenergic receptor activation in rabbits. European Journal of Anaesthesiology 2012 ; 29 (12) : 570-576.
- 2) Nakanishi K¹⁾, Kim C, Sakamoto A¹⁾ (¹⁾ Department of Anesthesiology, Nippon Medical School, Tokyo, Japan) : Postoperative atrial fibrillation in patients undergoing coronary artery bypass grafting or cardiac valve surgery : intraoperative use of landiolol. J Cardiothorac Surg 2013 ; 8 : 19-25.

著書

- 1) 金 徹, 坂本篤裕¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学付属病院 麻酔科) : [編集] 循環補助装置 The first step 麻酔科医とMEの役割 (坂本篤裕・金 徹), 2013 ; pp1-228, 克誠堂出版株式会社.
- 2) 金 徹, 坂本篤裕¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学付属病院 麻酔科) : [共著] 1. 循環補助装置作動時の麻酔科医の役割 2. 循環補助装置 大動脈内バルーンパンピング 目的・目標 経皮的心肺補助/体外膜型肺 目的・目標 人工心肺 目的・目標 作業時の注意点 応と禁忌 3. 麻酔科医とMEの連携. 循環補助装置 The first step 麻酔科医とMEの役割 (坂本篤裕・金 徹), 2013 ; pp1-228, 克誠堂出版株式会社.
- 3) 金 徹 : [共著] 合併症を有する患者の術前・術後管理 2. 呼吸器系 (1) 気管支喘息. 術前・術後管理 必携, 2012 ; pp785-787, へるす出版.

学会発表

(1) 特別講演：

- 1) 金 徹 : 「術前経口補水一何を, 何時まで, どれくらい?」. 第1回福井県周術期体液管理研究会 (福井), 2012. 6.

(2) シンポジウム：

- 1) 中島祐史, 井上哲夫, 坂本篤裕¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学付属病院麻酔科) : 電気痙攣療法におけるパルス波治療器における検討課題電気痙攣療法における麻酔薬の工夫. 日本精神神経学会学術総会 (札幌), 2012. 5.

(3) セミナー：

- 1) 金 徹 : 胃排出速度を規定する因子を考える. 日本臨床麻酔学会第32回大会ランチオンセミナー 11 (福島), 2012. 11.

(4) 一般講演：

- 1) 小野寺英貴, 辻本芳孝, 中島祐史, 金 徹, 井上哲夫, 坂本篤裕¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学付属病院麻酔科) : 麻酔導入後に発生した逆たこつぼ心筋症の1例. 第40回日本集中治療医学会学術集会 (長野県), 2013. 2.
- 1) 金 徹 : 「クリアウォーターの胃排出時間を規定する因子」. 第10回周術期待液代謝侵襲研究会 (東京), 2012. 8.

24. 救急医学

[付属病院高度救命救急センター・武蔵小杉病院救命救急センター・多摩永山病院救命救急センター]

研究業績

論文

〔追加分〕

追加分総説：

- 1) Pape H¹⁾, Tsukamoto T^{1,3)}, Kobbe P¹⁾, Tarkin I¹⁾, Katsoulis S²⁾, Peitzman A¹⁾ (1) University of Pittsburgh Medical Center, 2) University of Leeds, 3) Department of Emergency and Critical Care Medicine, Nippon Medical School) : Assessment of the Clinical Course with Inflammatory Parameters. *Injury* 2007 ; 38 (12) : 1358-1364.
- 2) Tsukamoto T^{1,2)}, Pape H¹⁾ (1) University of Pittsburgh Medical Center, 2) Department of Emergency and Critical Care Medicine) : Animal Models for Trauma Research : What are the Options?. *Shock* 2009 ; 31 (1) : 3-10.
- 3) Tsukamoto T^{1,2)}, Chanthaphavong R¹⁾, Pape H¹⁾ (1) University of Pittsburgh Medical Center, 2) Department of Emergency and Critical Care Medicine, Nippon Medical School) : Current Theories on the Pathophysiology of Multiple Organ Failure after Trauma. *Injury* 2010 ; 41 (1) : 21-26.
- 4) Michard, F, Fernandez-Mondejar E, Kirov, M, Malbrain M, Tagami T : A new and simple definition for acute lung injury. *Critical Care Medicine* 2012 ; 40 (3) : 1004-1006.
- 5) 布施 明：【人為災害】科学災害 1. 製油所などを含む工場（爆発）事故. *最新医学* 2012 ; 67 (増刊号) : 616-623.

追加分原著：

- 1) Kobbe P¹⁾, Stoffels B¹⁾, Schmidt J¹⁾, Tsukamoto T^{1,2)}, Gutkin D³⁾, Bauer A¹⁾, Pape H¹⁾ (1) University of Pittsburgh, 2) Department of Emergency and Critical Care Medicine, Nippon Medical School, 3) VAMC Oakland) : IL-10 Deficiency Augments Acute Lung but not Liver Injury in Hemorrhagic Shock. *Cytokine* 2009 ; 45 (1) : 26-31.
- 2) Tsukamoto T^{1,2)}, Antonic V³⁾, El Hajj I¹⁾, Stojadinovic A³⁾, Binion D¹⁾, Izadjoo M⁴⁾, Yokota H²⁾, Pape H¹⁾, Bauer A¹⁾ (1) University of Pittsburgh Medical Center, 2) Department of Emergency and Critical Care Medicine, Nippon Medical School, 3) Walter Reed Army Medical Center, 4) Armed Forces Institute of Pathology) : Novel Model of Peripheral Tissue Trauma-induced Inflammation and GastrointestinalDysmotility. *Neurogastroenterol& Motility* 2011 ; 23 (4) : 379-386.
- 3) Tagami T¹⁾, Kushimoto S, Tosa R, Hagiwara J, Hirama H, Yokota H (1) Department of Emergency and Critical Care Medicine, Nippon Medical School, Tokyo, Japan) : The precision of PiCCO measurements in hypothermic post-cardiac arrest patients. *Anaesthesia* 2012 ; 67 (3) : 236-243.

追加分症例報告：

- 1) 五十嵐豊, 松本 学, 池田 司, 佐藤 慎, 渡邊顕弘, 和田剛志, 鈴木 剛, 橋詰哲広, 関厚二朗, 恩田秀賢, 布施 明, 川井 真, 横田裕行：頭部外傷後の多発脳血管攣縮に対し経皮的血管形成術および局所動注療法を施行して良好な結果を得た1例. *日本神経救急学会雑誌* 2012 ; 24 (3) : 91-96.

- 2) 橋詰哲広, 松本 学, 五十嵐豊, 渡邊顕弘, 和田剛志, 鈴木 剛, 関厚二郎, 恩田秀賢, 布施 明, 横田裕行 : 上矢状静脈洞壁硬膜動静脈瘻の根治後に S 状静脈洞および上錐体静脈洞に Isolated Sinus として再発した 1 例. 日本神経救急学会雑誌 2012 ; 24 (3) : 104-109.
- 3) Fuse A, Igarashi Y, Matsumoto G, Yokota H : Multiple symptomatic traumatic cerebral vasospasm treated by percutaneous transluminal angioplasty. J Trauma 2012 ; 72 (3) : E116-E116.

(1) 原著 :

- 1) 本村友一¹⁾, 益子邦洋¹⁾, 横田裕行, デイエットマーオツテ²⁾ (¹⁾ 日本医科大学北総病院救命救急センター, ²⁾ ドイツハノーファー医科大学附属交通事故調査ユニット) : 自動四輪車乗員の頭部外傷受傷率における乗車位置間比較検討. 日本外傷学会雑誌 2012 ; 26 (3) : 325-329.
- 2) Shimokawa K¹⁾, Takakuwa R¹⁾, Taya K¹⁾, Wada Y¹⁾, Yamazaki N²⁾, Murata M²⁾, Hirata K³⁾, Masuno T, Yokota H, Ishii F¹⁾ (¹⁾ Department of Pharmaceutical Sciences, Meiji Pharmaceutical University, ²⁾ Department of Health Care and Sciences, Meiji Pharmaceutical University, ³⁾ Department of Pharmacy, Nippon Medical School) : Adsorption of various antimicrobial agents to endotoxin removal polymyxin-B immobilized fiber (Toraymyxin®). Colloids and Surfaces B : Biointerfaces 2012 ; 90 : 58-61.
- 3) Tagami T, Hirata K¹⁾, Takeshige T²⁾, Matsui J³⁾, Takinami M⁴⁾, Satake M⁵⁾, Satake S⁶⁾, Yui T⁷⁾, Itabashi K⁸⁾, Sakata T⁹⁾, Tosa R¹⁰⁾, Kushimoto S, Yokota H, Hiramata H (¹⁾ Department of Emergency Medicine, Takeda General Hospital, Fukushima, ²⁾ Department of Surgery, Fukushima Prefectural Aizu General Hospital, Fukushima, ³⁾ Department of Internal Medicine, Bange Kousei General Hospital, Fukushima, ⁴⁾ Department of Surgery, Yuurin Hospital, Fukushima, ⁵⁾ Department of Surgery, Fukushima Prefectural Minami-Aizu Hospital, Fukushima, ⁶⁾ Tatami Asahi Hospital, Fukushima, ⁷⁾ Department of Internal Medicine, Fukushima Prefectural Kitakata Hospital, Fukushima, ⁸⁾ Department of Surgery, Fukushima Prefectural Miyashita Hospital, Fukushima, ⁹⁾ Nishiaizu Hospital, Fukushima, ¹⁰⁾ Department of Emergency and Critical Care Medicine, Aizu Chuo Hospital, Fukushima) : "Implementation of the Fifth Link of the Chain of Survival Concept for Out-of-Hospital Cardiac Arrest". Circulation 2012 ; 126 (5) : 589-597.
- 4) Suzuki K, Nemoto K¹⁾, Ninomiya N, Kuno M, Kubota M²⁾, Yokota H (¹⁾ Shinjuku Vocational College of Acupuncture and Judo Therapy, Tokyo, Japan, ²⁾ Department of Clinical Laboratory, Nippon Medical School, Tokyo, Japan) : Fasudil, a Rho-kinase inhibitor, attenuates lipopolysaccharide-induced vascular hyperpermeability and colonic muscle relaxation in guinea pigs. Journal of Surgical Research 2012 ; 178 (1) : 352-357.
- 5) Watanabe A, Tagami T, Yokobori S, Matsumoto G, Igarashi Y, Suzuki G, Onda H, Fuse A, Yokota H : Global End-Diastolic Volume is Associated with the Occurrence of Delayed Cerebral Ischemia and Pulmonary Edema after Subarachnoid Hemorrhage. Shock 2012 ; 38 (5) : 480-485.
- 6) Hirata K¹⁾, Kurokawa A²⁾, Yokota H (¹⁾ Department of Pharmacy, Nippon Medical School Hospital, ²⁾ Department of Emergency and Critical Care Medicine, Nippon Medical School, Musashikosugi Hospital) : Analysis of Admission Cases Due to Adverse Drug-related Events at Critical Care Departments in Japan in 2008. 日本臨床救急医学会雑誌 2012 ; 15 (6) : 717-725.
- 7) Wada T^{1, 4)}, Jesmin S^{1, 3)}, Gando S¹⁾, Sultana S^{2, 3)}, Zaedi S^{2, 3)}, Hiroyuki Y⁴⁾ (¹⁾ Division of Acute and Critical Care Medicine, Department of Anesthesiology and Critical Care Medicine, Hokkaido University Graduate School of Medicine, ²⁾ Division of Gene Therapeutics, Research Institute, National Center for Global Health and Medicine, ³⁾ Health and Diseases Research Center for Rural Peoples (HDRCRP), ⁴⁾ Department of Emergency and Critical Care Medicine, Nippon Medical School) : Using angiogenic factors and their soluble receptors to predict organ dysfunction in patients with disseminated intravascular coagulation associated

with severe trauma. *Critical Care* 2012 ; 16 (2) : R63.

- 8) Wada T^{1,4)}, Jesmin S^{2,3)}, Gando S¹⁾, Yanagida Y¹⁾, Mizugaki A⁴⁾, Sultana S³⁾, Zaedi S³⁾, Hiroyuki Y⁴⁾ (1) Division of Acute and Critical Care Medicine, Department of Anesthesiology and Critical Care Medicine, Hokkaido University Graduate School of Medicine, (2) Department of Emergency and Critical Care Medicine, Faculty of Medicine, University of Tsukuba, (3) Health and Diseases Research Center for Rural Peoples (HDR-CRP), (4) Department of Emergency and Critical Care Medicine, Nippon Medical School) : Angiogenic factors and their soluble receptors predict organ dysfunction and mortality in post-cardiac arrest syndrome. *Critical Care* 2012 ; 16 (5) : R171.
- 9) Wada T^{1,4)}, Jesmin S^{2,3)}, Gando S¹⁾, Yanagida Y¹⁾, Mizugaki A⁴⁾, Sultana S³⁾, Zaedi S³⁾, Hiroyuki Y⁴⁾ (1) Division of Acute and Critical Care Medicine, Department of Anesthesiology and Critical Care Medicine, Hokkaido University Graduate School of Medicine, (2) Department of Emergency and Critical Care Medicine, Faculty of Medicine, University of Tsukuba, (3) Health and Diseases Research Center for Rural Peoples (HDR-CRP), (4) Department of Emergency and Critical Care Medicine, Nippon Medical School) : The role of angiogenic factors and their soluble receptors in acute lung injury (ALI)/ acute respiratory distress syndrome (ARDS) associated with critical illness. *Journal of Inflammation* 2013 ; 10 (1) : 6.
- 10) Kitazono M¹⁾, Yokota H¹⁾, Satoh H¹⁾, Onda H¹⁾, Matsumoto G¹⁾, Fuse A¹⁾, Teramoto A²⁾ (1) Dept. of Emergency and Critical Care Medicine, Nippon Medical School, (2) Dept. of Neurosurgery, Nippon Medical School) : Measurement of inflammatory cytokines and thrombomodulin in chronic subdural hematoma. *Neurol Med Chir (Tokyo)* 2012 ; 52 (11) : 810-815.
- 11) Fuse A¹⁾, Okumura T²⁾, Hagiwara J¹⁾, Tanabe T¹⁾, Fukuda R¹⁾, Masuno T¹⁾, Mimura S³⁾, Yamamoto K²⁾, Yokota H¹⁾ (1) Dept. of emergency and Critical Care Medicine, Nippon Medical School, (2) Cabinet Secretariat (for Crisis Management), Government of Japan, (3) Emergency Medicine, Tokushima Prefectural Central Hospital) : New Information Technology Tools for a Medical Command System for Mass Decontamination. *Prehosp Disast Med* 2013 ; 28 (3) : 1-3.
- 12) Matsumoto T¹⁾, Hanaki H¹⁾, Kimura T¹⁾, Nemoto M¹⁾, Higashihara M¹⁾, Yokota H^{1,2)}, Oda S¹⁾, Akiyama N¹⁾, Miyao N¹⁾, Yoshida M¹⁾, Yukioka T¹⁾, Soma K¹⁾, Ohyashiki K¹⁾, Suzuki Y¹⁾, Arai T¹⁾, et al. (1) ABK Dose Finding Study Group, (2) Department of Emergency and Critical Care Medicine, Nippon Medical School) : Clinical efficacy and safety of arbekacin sulfate in patients with MRSA sepsis or pneumonia : a multi-institutional study. *Journal of Infection Chemotherapy* 2013 ; 19 (1) : 128-137.

(2) 総説 :

- 1) 恩田秀賢, 横田裕行 : 熱中症総論 熱中症の危険因子. *日本臨床* 2012 ; 70 (6) : 947-951.
- 2) 横田裕行 : 被災者への急性期災害医療支援からみた課題-DMAT や JMAT 活動の経験から. *日本医師会雑誌* 2012 ; 141 (1) : 26-31.
- 3) 白石振一郎, 横田裕行 : 熱中症の予防と治療. *日本医師会雑誌* 2012 ; 141 (2) : 274-277.
- 4) 横田裕行 : 救急医療における終末期医療とチーム医療. *救急医学* 2012 ; 36 (6) : 731-736.
- 5) 横田裕行 : これで安心! 「熱中症」対策. *Genki Aging (元気エイジング)* 2012 ; 2012年 (夏号) : 6-9.
- 6) 久保田稔¹⁾, 横田裕行 (1) 日本医科大学多摩永山病院中央検査室) : 脳死移植のための神経生理学的検査-脳死判定時の脳波検査を含む. *検査と技術* 2012 ; 40 (8) : 710-714.
- 7) 三宅康史^{1,2)}, 有賀 徹^{1,2)}, 井上健一郎^{1,3)}, 奥寺 敬^{1,4)}, 北原孝雄^{1,5)}, 島崎修次^{1,6)}, 鶴田良介^{1,7)}, 横田裕行¹⁾, 中村俊介^{1,2)}, 坪倉正治^{1,8)} (1) 日本救急医学会熱中症に関する委員会, (2) 昭和大学医学部救急医学, (3) 医療法人春回会井上病院, (4) 富山大学医学部救急・災害医学, (5) 北里大学医学部救命救急医学, (6) 国士舘大学大学院救急システム研究科, (7) 山口大学医学部附属病院先進救急医療センター, (8) 東京大学医科学研究所社会連

携研究部門)：本邦における熱中症の現状 -Heatstroke STUDY2010 最終報告-. 日本救急医学会雑誌 2012；23 (5)：211-230.

- 8) 横田裕行：予防が大切！夏場に多い脳梗塞. こまど 2012；28：12-15.
 - 9) 横田裕行：日本外傷学会臓器損傷分類について. 日本外傷学会雑誌 2012；26 (2)：103-109.
 - 10) 横田裕行：熱中症の予防・対策. NHK テレビテキスト「きょうの健康」 2012；(293)：84-88.
 - 11) 坂本哲也¹⁾，山口芳裕²⁾，小井土雄一³⁾，横田裕行^{4, 6)}，有賀 徹⁵⁾ (¹⁾ 日本救急医学会福島原発事故緊急ワーキンググループ担当理事， ²⁾ 日本救急医学会福島原発事故緊急ワーキンググループ委員長， ³⁾ 日本救急医学会福島原発事故緊急ワーキンググループ副院長， ⁴⁾ 日本救急医学会福島原発事故災害に対する後方搬送等についてのワーキンググループ担当理事， ⁵⁾ 日本救急医学会代表理事， ⁶⁾ 日本医科大学救急医学教室)：原発に関する日本救急医学会の医療支援. 日本医師会雑誌 2012；141 (1)：66-70.
 - 12) 小原俊彦，横田裕行：胸骨圧迫と人工呼吸. 消化器外科 2012；35 (10)：1471-1475.
 - 13) 横田裕行：頭部外傷の治療指針. 救急医学：「指標」・「基準」の使い方とエビデンス 2012；36 (10)：1395-1397.
 - 14) 宮内雅人，横田裕行：腹部外傷. 日本医師会雑誌「消化器疾患診療のすべて」 2012；141 (特別号 (2))：S324-S325.
 - 15) 恩田秀賢，横田裕行：日本医科大学付属病院高度救命救急センターにおける高齢者に対する取り組み. Geriatric Medicine 2012；50 (10)：1232-1238.
 - 16) 増野智彦，横田裕行：出血性ショック治療の最前線. 侵襲と免疫 2012；21 (3)：16-21.
 - 17) 長谷川雄二¹⁾，横田裕行 (¹⁾ 目白病院)：シンポジウム1「東京ルール：現状と明日」. 日本救急医学会関東地方会雑誌 2012；33：2-3.
 - 18) 宮内雅人，横田裕行：ヘモグロビン異常ーカルボキシヘモグロビン血症. 血液症候群 (第2版)ーその他の血液疾患を含めてー 2013；21 (別冊)：451-455.
 - 19) 布施 明^{1, 5)}，五十嵐豊¹⁾，渡邊顕弘¹⁾，石井浩統¹⁾，白石振一郎¹⁾，増野智彦¹⁾，奥村 徹^{2, 5)}，徳野慎一^{3, 5)}，齋藤大蔵^{4, 5)}，横田裕行^{1, 5)} (¹⁾ 日本医科大学付属病院高度救命救急センター， ²⁾ 川崎医科大学救急医学， ³⁾ 防衛医科大学校防衛医学講座， ⁴⁾ 防衛医科大学校防衛医学研究センター外傷研究部門， ⁵⁾ 日本爆傷研究会)：本邦における Tactical Emergency Medical Support (戦術的緊急医療支援) の必要性和導入における課題. 日本臨床救急医学会雑誌 2013；16 (1)：7-12.
 - 20) Fuse A, Yokota H：Lessons learned from the Japan Earthquake and Tsunami, 2011. J Nippon Med Sch 2012；79 (4)：312-315.
 - 21) 田上 隆：肺血管外水分量/胸腔内血液容量. 救急医学：「指標」「基準」の使い方とエビデンス 2012；36 (10)：1167-1169.
- (3) 症例報告：
- 1) 恩田秀賢，布施 明，五十嵐豊，鈴木 剛，松本 学，金 史英，横田裕行：重症頭部外傷の経過中に外傷性脳動脈瘤破裂を合併し2度の脳低温療法を施行し社会復帰した1例. 日本救急医学会雑誌 2012；23 (6)：265-272.
 - 2) 海老沼麻里¹⁾，荒木 尚^{1, 2)}，小川理郎^{1, 2)}，増野智彦²⁾，横田裕行²⁾ (¹⁾ 足利赤十字病院救命救急センター， ²⁾ 日本医科大学救急医学)：意識障害と顔面打撲で来院し，全身造影CTが有用であった肝損傷の1例. 日本救急医学会関東地方会雑誌 2012；33：129-130.
 - 3) 有馬大輔，尾本健一郎，石井浩統，萩原 純¹⁾，河野陽介，白石振一郎，新井正徳，増野智彦，辻井厚子，金史英，横田裕行 (¹⁾ 東京医療センター外科)：吐血で救急搬送された十二指腸球部の嵌頓による食道裂孔ヘルニアの1例. 日本救急医学会関東地方会雑誌 2012；33：209-211.
 - 4) 小野雄一，有馬大輔，太田好紀，鈴木 剛，松本 学，白石振一郎，尾本健一郎，横田裕行：CT画像所見から Waterhouse-Friderichsen 症候群が疑われた乳児症例. 日本集中治療医学会雑誌 2013；20 (1)：51-55.

- 5) 宮内雅人, 橋詰哲広, 松本 学, 横田裕行: 腹部大動脈瘤破裂手術後, methicillin-resistant Staphylococcus aureus (MRSA) による化膿性脊椎炎を発症した1例. 日本集中治療医学会雑誌 2013; 20 (1): 89-90.
- 6) Tagami T¹⁾, Kawakami Y²⁾, Kusakabe T³⁾, Kido N¹⁾, Kawaguchi T³⁾, Omura M²⁾, Tosa R²⁾ (1) Department of Emergency and Critical Care Medicine, Nippon Medical School, 2) Department of Emergency and Critical Care Medicine, Aizu Chuo Hospital, 3) Department of Pathology, Aizu Chuo Hospital): Disseminated Aspergillosis Associated With Tsunami Lung. RESPIRATORY CARE 2012; 57 (10): 1674-1678.
- 7) 上野 孝¹⁾, 横田裕行, 川名誠司¹⁾ (1) 日本医科大学大学院皮膚粘膜炎病態学講座): 日本医科大学付属病院における中毒性表皮壊死症の検討. 熱傷 2013; 39 (1): 66-74.

(4) 委員会報告:

- 1) 増野智彦^{1, 2)}, 坂本哲也²⁾, 齋藤大蔵²⁾, 織田 順²⁾, 阪本雄一郎²⁾, 東平日出夫²⁾, 中原慎二²⁾, 藤田 尚²⁾, 三宅康史²⁾, 森村尚登²⁾, 木村昭夫²⁾, 横田順一郎 (1) 日本医科大学救急医学教室, 2) 日本外傷学会トラウマレジストリー検討委員会): 国内レジストリー制度の現状と比較. 日本外傷学会雑誌 2012; 26 (4): 441-445.
- 2) 三宅康史²⁾, 坂本哲也²⁾, 齋藤大蔵²⁾, 織田 順²⁾, 阪本雄一郎²⁾, 東平日出夫²⁾, 中原慎二²⁾, 藤田 尚²⁾, 増野智彦^{1, 2)}, 森村尚登²⁾, 木村昭夫²⁾, 横田順一郎 (1) 日本医科大学救急医学教室, 2) 日本外傷学会トラウマレジストリー検討委員会): JTDB と医工連携. 日本外傷学会雑誌 2012; 26 (4): 438-440.
- 3) 齋藤大蔵²⁾, 坂本哲也²⁾, 織田 順²⁾, 阪本雄一郎²⁾, 東平日出夫²⁾, 中原慎二²⁾, 藤田 尚²⁾, 増野智彦^{1, 2)}, 三宅康史²⁾, 森村尚登²⁾, 木村昭夫²⁾, 横田順一郎 (1) 日本医科大学救急医学教室, 2) 日本外傷学会トラウマレジストリー検討委員会): 日本外傷データベースの設立, 現状, そして今後の展望. 日本外傷学会雑誌 2012; 26 (4): 435-437.

(5) 体験レポート:

- 1) 五十嵐豊^{1, 2)}, 萩原 純^{1, 2)}, 大村真理子¹⁾, 田上 隆^{1, 2)}, 布施 明²⁾, 土佐亮一¹⁾, 横田裕行²⁾ (1) 会津中央病院救命救急センター, 2) 日本医科大学付属病院高度救命救急センター): 東日本大震災における被災した病院からの高齢者の受け入れ. 日本集団災害医学会雑誌東日本大震災臨時増刊号 2012; 17 (1): 291-295.

著 書

[追加分]

追加分:

- 1) 布施 明: [分担] 6章 発災～災害急性期 6. 治療 4) 災害救護所(現場)での医療. 災害救護(勝見敦, 小原真理子), 2012; pp236-240, スーヴェル廣川.
- 1) 横田裕行: [分担] PCECの目的と実際. 救急・ERノート「まずい! から始める意識障害の初期診療」([編集] 堤晴彦, 興水健治, 中田一之), 2012; pp230-238, 羊土社.
- 2) 横田裕行: [編集] 救急・集中治療「徹底ガイド: 脳卒中 Q&A -プレホスピタルからリハビリまで-」. 救急・集中治療「徹底ガイド: 脳卒中 Q&A -プレホスピタルからリハビリまで-」([特集編集] 横田裕行), 2012; 総合医学社.
- 3) 松本 学: [分担] 急性期虚血性脳卒中に対する血管内治療. 救急・集中治療「徹底ガイド: 脳卒中 Q&A -プレホスピタルからリハビリまで-」([特集編集]), 2012; pp889-897, 総合医学社.
- 4) 横田裕行: [分担] 改正臓器移植法施行後の脳死移植の現状. Annual Review 神経 2013 ((編集) 鈴木則宏, 祖父江元, 荒木信夫, 宇川義一, 川原信隆), 2013; pp168-174, 中外医学社.
- 5) 横田裕行: [監訳] 脳死ー概念と診断, そして諸問題ー. 脳死ー概念と診断, そして諸問題ー ((監訳) 有賀徹, 横田裕行), 2013; へるす出版.
- 6) 横田裕行, 高木 誠¹⁾, 辻 哲也²⁾ (1) 東京徳生会中央病院, 2) 慶應義塾大学医学部リハビリテーション医学教室): [監修] NHK ここが聞きたい名医にQ「脳卒中のベストアンサー」. NHK ここが聞きたい名医にQ「脳

- 卒中中のベストアンサー」(監修)高木誠, 横田裕行, 辻哲也), 2013;主婦と生活社.
- 7) 横田裕行:〔分担〕急性期頭蓋内疾患の治療. ICU・CCU看護(編集:早川弘一, 高野照夫, 高島尚美), 2013; pp258-272, 医学書院.
 - 8) 横田裕行:〔分担〕補項① 脳死診断と対応. ICU・CCU看護(編集:早川弘一, 高野照夫, 高島尚美), 2013; pp292-300, 医学書院.
 - 9) 横田裕行:〔分担〕補項② 急性期疾患の終末期対応. ICU・CCU看護(編集:早川弘一, 高野照夫, 高島尚美), 2013; pp301-305, 医学書院.
 - 10) 横田裕行:〔分担〕脳神経の管理に関する基礎知識. ICU・CCU看護(編集:早川弘一, 高野照夫, 高島尚美), 2013; pp246-257, 医学書院.
 - 11) 増野智彦:〔分担〕急性肝不全. ICU・CCU看護(編集:早川弘一, 高野照夫, 高島尚美), 2013; pp213-219, 医学書院.
 - 12) 新井正徳:〔分担〕急性腎不全. ICU・CCU看護(編集:早川弘一, 高野照夫, 高島尚美), 2013; pp220-227, 医学書院.
 - 13) 横田裕行:〔分担〕脳低体温療法. CCUテキスト(編集:田中啓治, 山本剛), 2013; pp249-252, 文光堂.
 - 14) 田上 隆:〔分担〕循環・呼吸動態と酸素代謝モニタリング:PICCO, 肺動脈カテーテル, ScvO₂. 救急・集中治療「sepsis・SIRS:いま生かす!最新の病態把握に基づく適切な診療へ」, 2012; pp1211-1219, 総合医学社.
 - 15) 林 励治^{1,2)}, 川井 真^{1,2)} (1) 日本医科大学付属病院 総合診療センター, 2) 日本医科大学付属病院 高度救命救急センター):〔分担〕第2部 ERで必要な整形・外傷治療のエッセンス第1章 整形外科的手技の苦手を克服:骨折・捻挫に強くなろう! 1 ERでの朝まで待てない上手なコンサルテーション. レジデントノート別冊救急・ERノート7直伝! 救急手技プラチナテクニック(太田祥一), 2013; pp228-236, 羊土社.
 - 16) 布施 明:〔分担〕A31~65. 第35回救急救命士国家試験問題 解答・解説集(山本保博), 2012; pp15-33, へるす出版.
 - 17) 布施 明:〔翻訳〕第5章 脳死後の臓器提供. 脳死 -概念と診断,そして諸問題(有賀徹, 横田裕行), 2013; pp97-147, へるす出版.
 - 18) 横田裕行:〔分担〕びまん性軸索損傷. 今日の神経疾患治療指針(第2版)(編集)水澤英洋, 鈴木則宏, 梶龍兒, 吉良潤一, 神田隆, 齋藤延人), 2013; pp573-575, 医学書院.
 - 19) 小原良規:〔分担〕専門医のための疾患・外傷必須診療ガイドVI 膝関節・下腿;下腿骨骨折. 関節外科 基礎と臨床 Journal of Joint Surgery 10月増刊号(帖佐悦男), 2012; pp313-316, メディカルビュー社.

学会発表

〔追加分〕

追加分ポスター:

- 1) Wada T^{1,3)}, Jesmin S²⁾, Gando S³⁾, Hiroyuki Y¹⁾ (1) Department of Emergency and Critical Care Medicine, Nippon Medical School, 2) Division of Gene Therapeutics, Research Institute, National Center for Global Health and Medicine, 3) Department of Anesthesiology and Critical Care Medicine, Hokkaido University Graduate School of Medicine): Angiogenic factors and their soluble receptors in patients with DIC associated with severe trauma. International Symposium on Intensive Care and Emergency Medicine (32nd) (Brussels), 2012. 3.

(1) 特別講演:

- 1) 横田裕行:救急医療体制における脳卒中診療の現状と問題点. 茨城県県西・県南・つくば地区日本医科大学の会(下妻市), 2012. 4.

- 2) 横田裕行：救急医療施設からみた脳死下臓器提供. 徳島急性血液浄化研究会（第28回）（徳島市），2012. 6.
 - 3) 横田裕行：病院前救護と治療. 会津若松地方広域市町村整備組合消防本部「救命救急講演会」（会津若松市），2012. 9.
 - 4) 横田裕行：脳死判定と臓器提供 -救急医療施設の視点から-. 新潟神経内科シンポジウム（第16回）（新潟市），2012. 9.
 - 5) 横田裕行：日本版ガイドライン2010の概要と救急救命士の今後. 江東区救急業務連絡協議会救急シンポジウム（東京），2012. 10.
 - 6) 横田裕行：重症頭部外傷における病態とモニタリング. 山口県神経損傷クリティカルケア研究会（山口市），2012. 11.
 - 7) 横田裕行：日本の救急医療の現状と課題. 21世紀保健医療フォーラム（第259回）（東京），2012. 11.
 - 8) 横田裕行：局所災害発生時における医療機関と消防機関との連携. 湘南地区メディカルコントロール協議会発足10周年記念事業学術講演会（藤沢市），2012. 11.
 - 9) 田上 隆^{1, 2)} (1) 日本医科大学付属病院高度救命救急センター, 2) Aizu Chain of Survival Concept Campaign Group) : Implementation of the Fifth Link of the “Chain of Survival” Concept for Out-of-Hospital Cardiac Arrest. 第40回日本集中治療学会（松本市），2013. 3.
 - 10) 増野智彦：救急医療現場におけるITの活用. 佐賀県の救急医療を考える集い（佐賀市），2013. 2.
 - 11) 横田裕行：外傷学における頭部外傷の位置付けと治療. 佐賀県の救急医療を考える集い（佐賀市），2013. 2.
 - 12) 横田裕行：脳卒中急性期診療の現状と課題：病院前からER, ICU. 山口県脳血管障害研究会（第30回）（宇部市），2013. 1.
 - 13) 布施 明：Tactical Emergency Medical Supportについて. 第3回日本爆傷研究会（大阪），2013. 2.
 - 14) 増野智彦：救急医療に求められる医療情報システム-電子化は敵か味方か-. 日本救急看護学会学術集会（第14回）（東京），2012. 11.
 - 15) 増野智彦：PMXを用いた最近の臨床および基礎研究. 仙台Sepsis forum（第1回）（仙台市），2012. 5.
 - 16) 増野智彦：意識障害から見る低血糖とショック-救急救命士処置拡大に向けて-. 北区救急業務連絡協議会（東京），2012. 10.
- (2) 招待講演：
- 1) 恩田秀賢，横田裕行：在宅医療の展望 在宅医療における大学病院の役割 当院高度救命救急センターにおける高齢者に対する取り組み. 日本老年医学会総会学術集会（第54回）（東京），2012. 6.
 - 2) Tagami T¹⁾, Ryoichi T²⁾, Omura M²⁾, Yokota H¹⁾ (1) Department of Emergency and Critical Care Medicine, Nippon Medical School, 2) Department of Emergency and Critical Care Medicine, Aizu Chuo Hospital) : THE IMPACT OF CARDIAC ARREST DURATION ON EXTRAVASCULAR LUNG WATER AND PULMONARY VASCULAR PERMEABILITY IN POST-CARDIAC ARREST PATIENTS. THIRTY-FIFTH ANNUAL CONFERENCE ON SHOCK (Miami Beach, Florida, USA), 2012. 6.
 - 3) 布施 明：中央区防災計画における医療従事者の役割とその実践. 日本橋医師会学術講演会（東京），2013. 1.
 - 4) 布施 明：医療従事者のためのトリアージの実践と首都直下地震における医療活動. 江戸川区医師会講演会（東京），2013. 1.
- (3) 教育講演：
- 1) 恩田秀賢，横田裕行：事故発生時における学校での救急処置：柔道の必修化に伴う危機管理対応. 平成24年度養護教諭研修会（東京），2012. 8.
 - 2) 横田裕行：病院前救護の現状と将来. 茨城県救急医学会（第36回）（水戸市），2012. 9.
- (4) 基調講演：
- 1) 横田裕行：我国における救急医療体制の現状と将来構想について. (社)秋田県病院協会主催「第23回秋田県病

院大会」(秋田市), 2012. 10.

(5) シンポジウム :

- 1) 高山泰広¹⁾, 土佐亮一¹⁾, 大村真理子¹⁾, 山村英治¹⁾, 坂本和嘉子¹⁾, 佐藤 慎¹⁾, 横田裕行, 佐藤秀貴, 直江康孝, 荒木 尚, 桑本健太郎, 中江竜太, 小関一英²⁾ (1) 会津中央病院救命救急センター, 2) 平成帝京大学健康メディカル学部): 頭部外傷急性期の線溶活性に対するトラネキサム酸大量療法について. 日本外傷学会総会・学術集会 (第 26 回) (東京), 2012. 5.
- 2) 恩田秀賢, 布施 明, 山口昌紘, 藤木 悠, 五十嵐豊, 渡邊顕弘, 和田剛志, 鈴木 剛, 松本 学, 橋詰哲弘, 関厚二郎, 横田裕行: 重症頭部外傷に伴う外傷性脳血管障害の検討. 日本外傷学会総会・学術集会 (第 26 回) (東京), 2012. 5.
- 3) 横田裕行: AED のデータ利用の意義とあり方. 非医療従事者に対する AED 普及啓発シンポジウム (第 3 回) (さいたま市), 2012. 8.
- 4) 渥美生弘¹⁾, 谷口雄亮¹⁾, 新田幸司²⁾, 森本耕市²⁾, 水 大介¹⁾, 林 卓郎¹⁾, 有吉孝一¹⁾, 佐藤慎一¹⁾, 横田裕行 (1) 神戸市立医療センター中央市民病院救命救急センター, 2) 神戸市消防局): PAD を増やすために何をすべきか: 「まちかど救急ステーション」神戸市におけるとりくみから. 日本臨床救急医学会総会・学術集会 (第 15 回) (熊本市), 2012. 6.
- 5) 横田裕行: 東日本大震災の急性期医療支援活動から学ぶこと. 日本意識障害学会 (第 21 回) (富士吉田市), 2012. 7.
- 6) 佐藤 慎¹⁾, 土佐亮一¹⁾, 高山泰広¹⁾, 大村真理子¹⁾, 山村英治¹⁾, 横田裕行 (1) 会津中央病院救命救急センター): PCPS を 2 度活用し社会復帰した心停止後症候群の 1 例. 日本神経救急学会学術集会 (第 26 回) (高松市), 2012. 9.
- 7) 高山泰広¹⁾, 横田裕行, 土佐亮一¹⁾, 大村真理子¹⁾, 山村英治¹⁾, 佐藤 慎¹⁾, 佐藤秀貴²⁾, 直江康孝, 荒木 尚, 中江竜太, 北菌雅敏 (1) 会津中央病院救命救急センター, 2) 東京臨海病院救急部): 神経集中治療領域における脳低温療法および PCPS の役割について: 心停止後症候群 123 例の検討より. 日本神経救急学会学術集会 (第 26 回) (高松市), 2012. 6.
- 8) 齋藤伸行¹⁾, 八木貴典¹⁾, 林田和之¹⁾, 原 義明¹⁾, 松本 尚¹⁾, 益子邦洋¹⁾, 横田裕行 (1) 日本医科大学千葉北総病院救命救急センター): 重症敗血症患者に対する PiCCO™ システムを用いた初期蘇生後の輸液管理法は 2 次性 ARDS 発症を抑制する. 日本 Shock 学会総会 (第 27 回) (東京), 2012. 5.
- 9) 渡邊顕弘, 五十嵐豊, 和田剛志, 鈴木 剛, 関厚二郎, 松本 学, 恩田秀賢, 布施 明, 横田裕行, 磯谷英二¹⁾ (1) 東京医科歯科大学救急災害医学分野救命救急センター): クモ膜下出血患者の周術期循環管理における PiCCO の役割 -重症度による循環指標の違い-. 日本脳卒中学会総会 (第 37 回) (STROKE 2012) (福岡市), 2012. 4.
- 10) 横田裕行: 臓器提供施設におけるチーム医療の実践. 日本脳死・脳蘇生学会総会・学術集会 (第 25 回) (宮崎市), 2012. 5.
- 11) 荒木 尚, 横田裕行: 小児脳死下臓器提供体制の構築について. 日本脳死・脳蘇生学会総会・学術集会 (第 25 回) (宮崎市), 2012. 5.
- 12) 荒木 尚, 横田裕行, 北菌雅敏, 横堀将司, 高山泰広, 恩田秀賢, 中江竜太, 渡邊顕弘, 佐藤秀貴, 布施 明: 小児重症頭部外傷に対する急性期治療方針の決定. 日本脳神経外科学会第 71 回学術集会 (大阪市), 2012. 10.
- 13) 恩田秀賢, 布施 明, 山口昌紘, 藤木 悠, 五十嵐豊, 渡邊顕弘, 鈴木 剛, 松本 学, 橋詰哲弘, 横田裕行: 重症頭部外傷に伴う外傷性脳血管障害の診断と治療. 日本脳神経外科学会総会学術集会 (第 71 回) (大阪市), 2012. 10.
- 14) 近藤久禎¹⁾, 2), 島田二郎²⁾, 横田裕行²⁾, 増野智彦²⁾, 田邊晴山²⁾, 中野公介²⁾, 猪口正孝²⁾, 野口英一²⁾, 石原哲²⁾, 堀 進悟²⁾, 小井土雄一²⁾ (1) 国立病院機構災害医療センター, 2) 日本救急医学会福島原発事故災害に対

- する後方搬送等についてのWG)：福島復興支援における災害医療の役割. 日本救急医学会総会・学術集会 (第40回) (京都市), 2012. 11.
- 15) 和田剛志, ジェスミンサブリナ¹⁾, 水柿明日美, 横田裕行 (1) 国立国際医療研究センター)：生体侵襲下臓器障害と血管新生関連因子 (VEGF, Angiopoietin) の関連：播種性血管内凝固症候群 (DIC) との関わり. 日本救急医学会総会・学術集会 (第40回) (京都市), 2012. 11.
 - 16) 松本 学, 佐藤悦子, 和田剛志, 小野雄一, 田上 隆, 白石振一郎, 恩田秀賢, 増野智彦, 宮内雅人, 辻井厚子, 横田裕行：心肺停止蘇生後に対する脳低温療法の前予測因子. 日本救急医学会総会・学術集会 (第40回) (京都市), 2012. 11.
 - 17) 木下順弘^{1, 2)}, 横田裕行²⁾, 島崎修次²⁾, 黒川 顕²⁾, 有賀 徹²⁾, 箕輪良行²⁾, 石松伸一²⁾, 佐藤 章²⁾, 田中秀治²⁾, 布施 明²⁾ (1) 熊本大学侵襲制御医学, 2) 終末期医療のあり方に関する委員会)：救急医療における終末期症例のWEB登録の現状報告. 日本救急医学会総会・学術集会 (第40回) (京都市), 2012. 11.
 - 18) 松本 学, 藤木 悠, 山口昌紘, 五十嵐豊, 渡邊顕弘, 鈴木 剛, 橋詰哲広, 恩田秀賢, 布施 明, 横田裕行：救命救急センターにおける痙攣患者617症例の特徴とその転帰：救命救急医の役割. 日本救急医学会総会・学術集会 (第40回) (京都市), 2012. 11.
 - 19) 布施 明, 五十嵐豊, 渡邊顕弘, 石井浩統, 増野智彦, 宮内雅人, 横田裕行：警視庁 IMAT (Incident Medical Assistance Team) の創設. 日本集団災害医学会総会・学術集会 (第18回) (神戸市), 2013. 1.
 - 20) 田邊晴山¹⁾, 横田裕行 (1) 救急救命東京研修所)：救急蘇生統計 (全国ウツタイムデータ) を用いた研究について：レビュー. 日本救急医学会関東地方会 (第63回) (東京), 2013. 2.
 - 21) 松本 学¹⁾, 太田友紀²⁾, 岩瀬史朗¹⁾, 小林辰輔¹⁾, 宮崎善史¹⁾, 牧 真彦¹⁾, 加藤頼子¹⁾, 萩原一樹¹⁾, 瀧口 徹¹⁾, 横田裕行 (1) 山梨県立中央病院救命救急センター, 2) 近畿大学医学部付属病院中央手術部)：心停止後症候群に対する脳低温療法の前予測因子. 日本救急医学会関東地方会 (第63回) (東京), 2013. 2.
 - 22) 横堀将司^{1, 2)}, Bullock R¹⁾, Gafavelli S¹⁾, Bramlett H¹⁾, Dietrich D¹⁾, 横田裕行²⁾ (1) Department of Neurosurgery, University of Miami, 2) 日本医科大学付属病院高度救命救急センター)：Thromboelastography を用いた血液凝固モニタリングー Goal Direct Therapy を指向した実験的検討. 日本脳神経外傷学会 (第36回) (名古屋市), 2013. 3.
 - 23) 高山泰広¹⁾, 前田佳一郎²⁾, 横田裕行³⁾, 佐藤秀貴³⁾, 直江康孝³⁾, 荒木 尚³⁾, 寺本 明⁴⁾, 喜多村孝幸 (1) 会津中央病院救命救急センター, 2) 会津中央病院脳神経外科, 3) 日本医科大学救急医学, 4) 日本医科大学脳神経外科)：頭部外傷急性期における穿頭術と開頭術の選択について. 日本脳神経外傷学会 (第36回) (名古屋市), 2013. 3.
 - 24) 五十嵐豊, 横堀将司¹⁾, 山口昌紘, 渡邊顕弘, 橋詰哲広, 鈴木 剛, 恩田秀賢, 布施 明, 横田裕行 (1) Department of Neurosurgery, University of Miami Miller School of Medicine)：急性硬膜下血腫に対する microdialysis を用いた脳循環代謝モニタリング. 日本脳神経外傷学会 (第36回) (名古屋市), 2013. 3.
 - 25) 横堀将司^{1, 2)}, Bullock R¹⁾, Gajavelli S¹⁾, Mondello S³⁾, Wang K⁴⁾, Hayes R³⁾, Bramlett H¹⁾, Dietrich D¹⁾, 横田裕行²⁾ (1) Department of Neurosurgery, University of Miami, 2) 日本医科大学付属病院高度救命救急センター, 3) Center of Innovate Research, Banyan Biomarkers, Inc., 4) Department of Psychiatry and Neuroscience, University of Florida)：急性硬膜下血腫における虚血再灌流障害一早期導入脳低温療法の有効性. 日本脳神経外傷学会 (第36回) (名古屋市), 2013. 3.
 - 26) 松本 学^{1, 2)}, 岩瀬史朗¹⁾, 小林辰輔¹⁾, 宮崎善史¹⁾, 牧 真彦¹⁾, 瀧口 徹¹⁾, 萩原一樹¹⁾, 布施 明²⁾, 横田裕行²⁾ (1) 山梨県立中央病院救命救急センター, 2) 日本医科大学付属病院高度救命救急センター)：痙攣重積治療における外傷後痙攣の特徴. 日本脳神経外傷学会 (第36回) (名古屋市), 2013. 3.
 - 27) 嶺 貴彦¹⁾, 村田 智¹⁾, 川俣博志¹⁾, 小野澤志郎¹⁾, 上田達夫¹⁾, 杉原史恵¹⁾, 横田裕行, 岡田 進¹⁾, 汲田伸一郎¹⁾ (1) 日本医科大学放射線医学)：出血性上部消化管潰瘍に対する NBCA 塞栓術：循環への寄与と粘膜治療の

経過. 日本腹部救急医学会総会 (第 49 回) (福岡市), 2013. 3.

- 28) 宮内雅人, 坂本和嘉子, 田上 隆, 石井浩統, 新井正徳, 金 史英, 横田裕行: 当院における消化管出血における治療戦略について. 日本腹部救急医学会総会 (第 49 回) (福岡市), 2013. 3.
 - 29) 金 史英, 尾本健一郎¹⁾, 萩原 純²⁾, 坂本和嘉子, 石井浩統, 田上 隆, 増野智彦, 宮内雅人, 新井正徳, 横田裕行 (¹⁾ 独立行政法人国立病院機構東京医療センター救命救急センター, ²⁾ 独立行政法人国立病院機構東京医療センター外科): Acute care surgeon 育成のカリキュラム. 日本腹部救急医学会総会 (第 49 回) (福岡市), 2013. 3.
 - 30) 横田裕行, 五十嵐豊: 当院におけるドクターカーの現状と問題点: ドクターカー運用 10 年間の活動から. 日本集中治療医学会学術集会 (第 40 回) (松本市), 2013. 2.
 - 31) 横田裕行: 救急医療における週末期医療. 日本集中治療医学会学術集会 (第 40 回) (松本市), 2013. 2.
 - 32) 横田裕行: 脳卒中における病院前救急システムの進化: 現状と展望. 日本脳卒中学会総会 (第 38 回) (東京), 2013. 3.
 - 33) 横田裕行: 日本救急医学会の支援活動医療活動および今後の展望. 福島県立医科大学救急医療学講座主催「東日本大震災の復興及び将来へ向けての課題: いわき地域における医療の復興・再生に向けて」(いわき市), 2013. 3.
 - 34) 横田裕行: AED のデータ利用・検証に関する WG 会議からの提案. 第 4 回非医療従事者に対する AED 普及啓発シンポジウム (福岡市), 2013. 3.
- (6) パネルディスカッション:
- 1) 八木貴典¹⁾, 齋藤伸行¹⁾, 本村雄一¹⁾, 益子一樹¹⁾, 安松比呂志¹⁾, 亀山大介¹⁾, 大西惟貴¹⁾, 原 義明¹⁾, 松本尚¹⁾, 益子邦洋¹⁾, 横田裕行 (¹⁾ 日本医科大学千葉北総病院救命救急センター): HEMS を用いた現場緊急開胸の検討. 日本航空医療学会総会 (第 19 回) (木更津市), 2012. 11.
 - 2) 小原俊彦¹⁾, 兵働英也¹⁾, 川井 真^{1, 2)}, 須崎 真¹⁾, 小野寺直子¹⁾, 林 励治¹⁾, 増野智彦¹⁾, 安武正弘¹⁾, 横田裕行²⁾ (¹⁾ 日本医科大学付属病院総合診療センター, ²⁾ 日本医科大学付属病院高度救命救急センター): 大学病院 ER 運営における内科系専門医の重要性. 日本救急医学会総会・学術集会 (第 40 回) (京都市), 2012. 11.
 - 3) 益子一樹¹⁾, 松本 尚¹⁾, 本村友一¹⁾, 八木貴典¹⁾, 原 義明¹⁾, 益子邦洋¹⁾, 横田裕行 (¹⁾ 日本医科大学千葉北総病院救命救急センター): 局地災害・複数傷病者事案対応を見据えた複数ドクターヘリ運用体制. 日本救急医学会総会・学術集会 (第 40 回) (京都市), 2012. 11.
 - 4) 五十嵐豊, 渡邊頭弘, 石井浩統, 宮内雅人, 増野智彦, 布施 明, 川井 真, 横田裕行: 東京都区部におけるドクターカーの現状: ドクターカー運用 10 年間の総括. 日本救急医学会総会・学術集会 (第 40 回) (京都市), 2012. 11.
 - 5) 増野智彦, 重村朋子, 吉野美緒, 稲本絵里, 市村美帆¹⁾, 五十嵐豊, 渡邊頭弘, 石井浩統, 布施 明, 松井 豊²⁾, 横田裕行 (¹⁾ 東洋大学 HIRC21, ²⁾ 筑波大学人間系): 安心・安全な病院前診療活動を支えるシステム構築の必要性. 日本救急医学会総会・学術集会 (第 40 回) (京都市), 2012. 11.
 - 6) 金 史英, 増野智彦, 坂本和嘉子, 石井浩統, 田上 隆, 白石振一郎, 宮内雅人, 新井正徳, 辻井厚子, 横田裕行: 腹腔内臓器損傷に伴う多発外傷の治療戦略. 日本腹部救急医学会総会 (第 49 回) (福岡市), 2013. 3.
 - 7) 安松比呂志¹⁾, 益子一樹¹⁾, 林田和之¹⁾, 松本 尚¹⁾, 益子邦洋¹⁾, 横田裕行 (¹⁾ 日本医科大学千葉北総病院救命救急センター): 当施設における腹腔内臓器損傷の戦略. 日本腹部救急医学会総会 (第 49 回) (福岡市), 2013. 3.
- (7) セミナー:
- 1) 横田裕行: 医療から見た熱中症. 環境省熱中症対策に係る自治体等担当者向け講習会 (大宮市), 2012. 5.
 - 2) 横田裕行: 我が国の脳死と終末期医療. 日本小児救急医学会脳死問題検討会主催「小児救急における脳死患者の対応セミナー」(東京), 2012. 6.

- 3) 横田裕行：脳卒中かなと思ったら。第12回東京都脳卒中市民公開セミナー（東京），2012. 11.
- 4) 白石振一郎：低体温療法時における鎮静の工夫。日本集中治療医学会関東甲信越地方会（第21回）（前橋市），2012. 8.
- (8) ワークショップ：
- 1) 島崎修次^{1,4)}，田中秀治¹⁾，横田裕行^{2,4)}，木下順広³⁾，竹内一夫⁴⁾（¹⁾ 国士舘大学救急システム研究科，国士舘大学大学院救急システム研究科，²⁾ 日本医科大学大学院医学研究科救急医学分野，³⁾ 熊本大学生命科学研究部侵襲制御医学，⁴⁾ 脳死下での臓器提供事例に係る検証会議（医学的検証作業グループ）：救命治療，法的脳死判定に関する状況。日本移植学会総会（第48回）（名古屋市），2012. 9.
 - 2) 横田裕行，有賀 徹¹⁾，木下順広²⁾，坂本哲也³⁾，荒木 尚⁴⁾，芦刈淳太郎⁵⁾（¹⁾ 昭和大学医学部救急医学，²⁾ 熊本大学生命科学研究部侵襲制御医学，³⁾ 帝京大学医学部救急医学，⁴⁾ 足利赤十字病院救命救急センター，⁵⁾ 社団法人日本臓器移植ネットワーク）：法的脳死判定の結果と分析。日本移植学会総会（第48回）（名古屋市），2012. 9.
 - 3) 増野智彦，重村朋子，吉野美緒¹⁾，稲本絵里，市村美帆²⁾，五十嵐豊，渡邊顕弘，石井浩統，布施 明，松井豊³⁾，横田裕行（¹⁾ 日本医科大学小児科，²⁾ 東洋大学HIRC21，³⁾ 筑波大学人間系）：安心して充実した病院前診療活動を行うためにすべきこと。日本集団災害医学会総会・学術集会（第18回）（神戸市），2013. 1.
 - 4) 田上 隆^{1,2)}（¹⁾ 日本医科大学付属病院高度救命救急センター，²⁾ SOS-KANTO Study 解析班）：SOS-KANTO Study 10年間の比較：中間報告。日本救急医学会関東地方会（第63回）（東京），2013. 2.
 - 5) 横堀将司^{1,3)}，横堀将司²⁾，荒木 尚^{1,3)}，恩田秀貴^{1,3)}，松本 学^{1,3)}，高山泰広^{1,3)}，布施 明^{1,3)}，横田裕行^{1,3)}（¹⁾ 日本医科大学救急医学教室，²⁾ Department of Neurosurgery, University of Miami Miller School of Medicine, Miami, FL, USA，³⁾ 頭部外傷データベース検討委員会（日本神経外傷学会，日本交通科学協議会））：高齢者重症頭部外傷に対する積極的治療の変遷と今後の展望—頭部外傷データベースにおける検討。日本脳神経外傷学会（第36回）（名古屋市），2013. 3.
- (9) ポスター：
- 1) 富永直樹，松本 学，藤木 悠，山口昌紘，五十嵐豊，渡邊顕弘，橋詰哲広，鈴木 剛，恩田秀賢，布施 明，横田裕行：外傷性脳血管障害の1例 -内頸動脈海綿静脈洞瘻-。日本医科大学医学会総会（第80回）（東京），2012. 9.
 - 2) 松田絵里奈¹⁾，藤本雄飛¹⁾，日下部誠¹⁾，林 耕次¹⁾，鈴木 剛¹⁾，田上 隆¹⁾，林 励治¹⁾，増野智彦¹⁾，川井真¹⁾，横田裕行（¹⁾ 日本医科大学付属病院総合診療科）：骨盤の不顕性骨折により後腹膜血腫，ショックを来し動脈塞栓術を必要とした1例。日本医科大学医学会総会（第80回）（東京），2012. 9.
 - 3) 藤木 悠：突然の意識障害で発症した松果体部 Pleomorphic Xanthoastrocytoma の1例。日本医科大学医学会総会（第80回）（東京），2012. 9.
 - 4) 築山 敦，斉藤英正，川井 峻，山口昌紘，渡邊顕弘，佐藤悦子，鈴木 剛，田上 隆，小原良規，金 史英，横田裕行，町田 幹¹⁾（¹⁾ 日本医科大学附属病院放射線科）：3DCTによる診断が有用であった食道穿孔の1例。日本医科大学医学会総会（第80回）（東京），2012. 9.
 - 5) 金 史英，有馬大輔，石井浩統，河野洋介，尾本健一郎，増野智彦，新井正徳，辻井厚子，横田裕行：Acute care surgery -当院での手術手技とトレーニング。日本外科学会定期学術集会（第112回）（千葉市），2012. 4.
 - 6) 松本 学，藤木 悠，山口昌紘，五十嵐豊，渡邊顕弘，和田剛志¹⁾，橋詰哲広，鈴木 剛，恩田秀賢，布施 明，横田裕行（¹⁾ 日本医科大学付属病院脳神経外科）：tPA 非適応虚血性脳卒中への積極的治療は患者予後を改善する。日本脳神経外科学会第71回学術総会（大阪市），2012. 10.
 - 7) 山口昌紘，藤木 悠，五十嵐豊，渡邊顕弘，橋詰哲広，鈴木 剛，松本 学，恩田秀賢，布施 明，横田裕行：当院救命センターにおける出血発症による椎骨動脈解離16症例の特徴と予後。日本脳神経外科学会第71回学術総会（大阪市），2012. 10.

- 8) 布施 明, 山口昌紘, 藤木 悠, 五十嵐豊, 渡邊頭弘, 和田剛志¹⁾, 鈴木 剛, 松本 学, 恩田秀賢, 横田裕行 (¹⁾ 日本医科大学脳神経外科): マイクロ波照射脳損傷モデルのタンパク質網羅的解析による検討. 日本脳神経外科学会第71回学術総会 (大阪市), 2012. 10.
- 9) 渡邊頭弘, 藤木 悠, 山口昌紘, 五十嵐豊, 鈴木 剛, 松本 学, 橋詰哲広, 田上 隆, 恩田秀賢, 横堀将司, 布施 明, 横田裕行: クモ膜下出血周術期管理における DCI と肺水腫に関わる循環指標: PiCCO を用いた評価. 日本脳神経外科学会第71回学術総会 (大阪市), 2012. 10.
- 10) 安松比呂志¹⁾, 松本 尚¹⁾, 大西惟貴¹⁾, 亀山大介¹⁾, 益子一樹¹⁾, 八木貴典¹⁾, 原 義明¹⁾, 益子邦洋¹⁾, 本庄貴志²⁾, 水野憲宏²⁾, 星島洋子²⁾, 白石恵美²⁾, 二股美鶴²⁾, 大森章代²⁾, 横田裕行 (¹⁾ 日本医科大学千葉北総病院救命救急センター, ²⁾ 日本医科大学千葉北総病院救命救急センター外来): 重症体幹部外傷に対する超積極的出血制御への挑戦. 日本航空医療学会総会 (第19回) (木更津市), 2012. 11.
- 11) 石井浩統, 増野智彦, 吉田直人, 坂本和嘉子, 田上 隆, 白石振一郎, 金 史英, 新井正徳, 辻井厚子, 川井真, 横田裕行: 標準化教育としてのトヨタ生産方式の応用. 日本救急医学会総会・学術集会 (第40回) (京都市), 2012. 11.
- 12) 金 史英, 徳田裕二, 吉田直人, 坂本和嘉子, 石井浩統, 田上 隆, 白石振一郎, 増野智彦, 新井正徳, 辻井厚子, 横田裕行: 消化器症状を主訴とせず搬送された開腹症例の検討: 腹部救急診療のピットフォール. 日本救急医学会総会・学術集会・学術集会 (第40回) (京都市), 2012. 11.
- 13) 戸田 翠, 林 励治, 小原良規, 田中俊尚, 塚本剛志, 奈良慎平, 小野真平, 大泉 旭, 川井 真, 横田裕行: 持続陰圧吸引療法 (NPWT) 後の分層植皮と創内・創外固定で治療した広範囲軟部組織損傷を伴う四肢開放骨折の2例. 日本救急医学会総会・学術集会 (第40回) (京都市), 2012. 11.
- 14) 白石振一郎, 小野雄一, 金 史英, 水柿明日美, 田中 勝, 溝渕大騎, 塚本剛志, 新井正徳, 横田裕行: BIS モニターが有用であった気管挿管管理を要する喘息重積発作の1症例. 日本救急医学会総会・学術集会 (第40回) (京都市), 2012. 11.
- 15) 直江康孝¹⁾, 小川太志¹⁾, 田上正茂¹⁾, 中野公介¹⁾, 小野寺修一¹⁾, 米沢光平¹⁾, 中江竜太¹⁾, 小出正樹¹⁾, 北菌雅俊¹⁾, 細井康太郎¹⁾, 横田裕行 (¹⁾ 川口市立医療センター救命救急センター): PRES (posterior reversible encephalopathy syndrome) の病態についての考察. 日本救急医学会総会・学術集会 (第40回) (京都市), 2012. 11.
- 16) 林 励治, 戸田 翠, 小原良規, 塚本剛志, 大泉 旭, 川井 真: 下腿骨開放骨折 Gustilo IIIc に対し IVR と広背筋皮弁を併用し患肢温存しえた1例. 日本骨折治療学会 (第38回) (東京), 2012. 6.
- 17) Wada T^{1,2)}, Jesmin S¹⁾, Gando S¹⁾, Yokota H²⁾ (¹⁾ Division of Acute and Critical Care Medicine, Hokkaido University Graduate School of Medicine, ²⁾ Department of Emergency & Critical Care Medicine, Nippon Medical School): Angiogenic factors and their soluble receptors predict organ dysfunction and mortality in post-cardiac arrest syndrome (PCAS). Society of Critical Medicine (42nd) (Puerto Rico), 2013. 1.
- 18) 藤木 悠¹⁾, 高山泰広¹⁾, 秋山 豪¹⁾, 山村英治¹⁾, 大村真理子¹⁾, 土佐亮一¹⁾, 横田裕行 (¹⁾ 会津中央病院救命救急センター): 頭部外傷に伴う神経原性肺水腫の増悪で救命し得なかった1例. 日本脳神経外傷学会 (第36回) (名古屋市), 2013. 3.
- 19) 北菌雅敏¹⁾, 中江竜太¹⁾, 直江康孝¹⁾, 田原重志²⁾, 横田裕行 (¹⁾ 川口市立医療センター救命救急センター, ²⁾ 日本医科大学付属病院高度救命救急センター): 頭部外傷後に重症型成人成長ホルモン分泌不全症を呈した1例. 日本脳神経外傷学会 (第36回) (名古屋市), 2013. 3.
- 20) Subrina J¹⁾, 和田剛志, 水柿明日美²⁾, 丸藤 哲²⁾, 横田裕行 (¹⁾ 筑波大学医学医療系救急・集中治療部, ²⁾ 北海道大学大学院医学研究科侵襲制御医学講座救急医学分野): エンドトキシンにより誘発された炎症・凝固活性化における PAR2 blocking peptide の効果. 日本集中治療医学会学術集会 (第40回) (松本市), 2013. 2.
- 21) 和田剛志, 早川峰司¹⁾, 丸藤 哲¹⁾, 柳田雄一郎¹⁾, 水柿明日美, Subrina J²⁾, 横田裕行 (¹⁾ 北海道大学大学院

- 医学研究科侵襲制御医学講座救急医学分野,²⁾ 筑波大学医学医療系救急・集中治療部)：心停止後症候群 (post-cardiac arrest syndrome : PCAS) における凝固線容反応. 日本集中治療医学会学術集会 (第 40 回) (松本市), 2013. 2.
- 22) 宮内雅人, 橋詰哲広, 松本 学, 白石振一郎, 横田裕行：腹部大動脈流破裂手術後, MRSA による化膿性脊椎炎を発症した 1 例. 日本集中治療医学会学術集会 (第 40 回) (松本市), 2013. 2.
- 23) 須崎 真¹⁾, 大久保誠二²⁾, 阿部 新²⁾, 三品雅洋²⁾, 小原俊彦¹⁾, 桂研一郎²⁾, 安武正弘¹⁾, 川井 真^{1, 3)}, 横田裕行³⁾, 片山泰朗²⁾ (¹⁾ 日本医科大学付属病院総合健診センター, ²⁾ 日本医科大学大学院医学研究科神経内科学分野, ³⁾ 日本医科大学大学院医学研究科救急医学分野)：脳卒中患者における血清 K 値に関する検討. 日本脳卒中学会総会 (第 38 回) (東京), 2013. 3.
- (10) 一般講演：
- 1) 恩田秀賢, 横田裕行：Lance-Adams 症候群 11 症例に対する治療経験. 日本脳死・脳蘇生学会総会・学術集会 (第 25 回) (宮崎県), 2012. 5.
- 2) 荒木 尚, 横田裕行：小児脳死下臓器提供の院内体制構築の問題点. 日本小児神経外科学会 (第 40 回) (岡山市), 2012. 6.
- 3) 荒木 尚, 横田裕行, 佐藤秀貴, 布施 明, 横堀将司, 高山泰広, 恩田秀賢：小児重症頭部外傷治療におけるガイドラインの意義：びまん性脳腫脹に対する治療法選択の検討. 日本小児神経外科学会 (第 40 回) (岡山市), 2012. 6.
- 4) 金 史英, 河野陽介, 石井浩統, 増野智彦, 新井正徳, 横田裕行：当院における Acute care surgery -胸腹部多発外傷の治療成績. 日本外傷学会総会・学術集会 (第 26 回) (東京), 2012. 5.
- 5) 村山浩之¹⁾, 土佐亮一¹⁾, 高山泰広¹⁾, 大村真理子¹⁾, 山村英治¹⁾, 坂本和嘉子¹⁾, 佐藤 慎¹⁾, 横田裕行, 直江康孝 (¹⁾ 会津中央病院救命救急センター)：自傷行為における外傷急性期と精神科医のかかわりについて. 日本外傷学会 1 総会・学術集会 (第 26 回) (東京), 2012. 5.
- 6) 土佐亮一¹⁾, 高山泰広¹⁾, 大村真理子¹⁾, 坂本和嘉子¹⁾, 山村英治¹⁾, 佐藤 慎¹⁾, 横田裕行 (¹⁾ 会津中央病院救命救急センター)：高齢者外傷の初期診療で注意すべき項目について. 日本外傷学会総会・学術集会 (第 26 回) (東京), 2012. 5.
- 7) 直江康孝¹⁾, 小川太志¹⁾, 中野公介¹⁾, 田上正茂¹⁾, 米沢光平¹⁾, 小野寺修一¹⁾, 中江竜太¹⁾, 飯島広和¹⁾, 北薮雅敏¹⁾, 小出正樹¹⁾, 萩原祐亮¹⁾, 高山泰広²⁾, 横田裕行 (¹⁾ 川口市立医療センター救命救急センター, ²⁾ 会津中央病院救命救急センター)：頭部外傷後の高次脳機能障害発生因子の検討. 日本外傷学会総会・学術集会 (第 26 回) (東京), 2012. 5.
- 8) 五十嵐豊, 藤木 悠, 山口昌紘, 渡邊顕弘, 増野智彦, 布施 明, 川井 真, 横田裕行：ドクターアンビュランスによる重症外傷の病院前治療. 日本外傷学会総会・学術集会 (第 26 回) (東京), 2012. 5.
- 9) 荒木 尚¹⁾, 小川理郎¹⁾, 横田裕行 (¹⁾ 足利赤十字病院救命救急センター)：地域中核病院における小児多発外傷診療体制の構築. 日本外傷学会総会・学術集会 (第 26 回) (東京), 2012. 5.
- 10) 和田剛志, 早川峰司¹⁾, ジャスミンサブリナ²⁾, 丸藤 哲¹⁾, 横田裕行 (¹⁾ 北海道大学大学院医学研究科救急医学分野, ²⁾ 国立国際医療研究センター遺伝子治療研究開発部)：外傷における好中球エラスターゼによるフィブリン分解. 日本外傷学会総会・学術集会 (第 26 回) (東京), 2012. 5.
- 11) 高山泰広¹⁾, 土佐亮一¹⁾, 大村真理子¹⁾, 横田裕行, 佐藤秀貴, 直江康孝 (¹⁾ 会津中央病院救命救急センター)：頭部外傷後の炎症と凝固線容反応について. 日本外傷学会総会・学術集会 (第 26 回) (東京都), 2012. 5.
- 12) 辻井厚子, 増野智彦, 新井正徳, 金 史英, 田上 隆, 横田裕行：胸部 CT による肺挫傷の診断と重症度評価. 日本外傷学会総会・学術集会 (第 26 回) (東京), 2012. 5.
- 13) 坂本和嘉子¹⁾, 高山泰広¹⁾, 佐藤 慎¹⁾, 山村英治¹⁾, 大村真理子¹⁾, 土佐亮一¹⁾, 横田裕行 (¹⁾ 会津中央病院救命救急センター)：肝損傷における肝酵素の上昇と画像所見の関係について. 日本外傷学会総会・学術集会 (第

- 26回) (東京), 2012. 5.
- 14) 大村真理子¹⁾, 高山泰広¹⁾, 佐藤 慎¹⁾, 山村英治¹⁾, 坂本和嘉子¹⁾, 土佐亮一¹⁾, 横田裕行 (¹⁾ 会津中央病院救命救急センター): 両下腿骨々折後の手術中に発症した肺動脈血栓塞栓症の1例. 日本外傷学会総会・学術集会 (第26回) (東京), 2012. 5.
 - 15) 松本 学, 尾本健一郎, 金 史英, 新井正徳, 村田 智, 横田裕行: 外傷性動脈解離に対する血管内治療. 日本外傷学会総会・学術集会 (第26回) (東京), 2012. 5.
 - 16) 山村英治¹⁾, 高山泰広¹⁾, 佐藤 慎¹⁾, 坂本和嘉子¹⁾, 大村真理子¹⁾, 土佐亮一¹⁾, 横田裕行 (¹⁾ 会津中央病院救命救急センター): 骨傷のない後腹膜及び骨盤腔内軟部組織損傷の1例: 急性期 D-dimer 値と CT 所見より. 日本外傷学会総会・学術集会 (第26回) (東京), 2012. 5.
 - 17) 安松比呂志¹⁾, 林田和一¹⁾, 益子一樹¹⁾, 三木隆久¹⁾, 本村友一¹⁾, 松本 尚¹⁾, 益子邦洋¹⁾, 横田裕行 (¹⁾ 日本医科大学千葉北総病院救命救急センター): 重症肝損傷に対する DCS-TAE: “hybrid bleeding control”. 日本外傷学会総会・学術集会 (第26回) (東京), 2012. 5.
 - 18) 石井浩統, 新井正徳, 太田好紀, 尾本健一郎, 金 史英, 横田裕行: 術後14年目に下行結腸皮膚瘻を発症した腎損傷の1例. 日本外傷学会総会・学術集会 (第26回) (東京), 2012. 5.
 - 19) 新井正徳, 関厚二郎, 和田剛志, 塚本剛志, 金 史英, 横田裕行: 多発外傷後に重篤な呼吸不全を来たし, ECMOを導入し救しえた1例. 日本外傷学会総会・学術集会 (第26回) (東京), 2012. 5.
 - 20) 松本 学, 藤木 悠, 山口昌紘, 五十嵐豊, 渡邊顕弘, 恩田秀賢, 布施 明, 横田裕行: 頭頸部外傷における経カテーテル動脈塞栓術の役割. 日本外傷学会総会・学術集会 (第26回) (東京), 2012. 5.
 - 21) 戸田 翠, 林 励治, 田中俊尚¹⁾, 塚本剛志, 大泉 旭²⁾, 川井 真, 横田裕行 (¹⁾ 川口市立医療センター整形外科, ²⁾ 明理会病院整形外科): 術後に腸管の後腹膜穿孔を合併した重症骨盤骨折の1例. 日本外傷学会総会・学術集会 (第26回) (東京), 2012. 5.
 - 22) 秋山 輝¹⁾, 西川慈人¹⁾, 田邊智英¹⁾, 松井崇頼¹⁾, 中村昌義¹⁾, 増野智彦, 布施 明, 横田裕行 (¹⁾ 日本医科大学医学部医学科): 災害時医学生生活動支援 学生待機システムの提案. 日本臨床救急医学会総会・学術集会 (第15回) (熊本市), 2012. 6.
 - 23) 木村和巳¹⁾, 三原博樹¹⁾, 宮本裕子¹⁾, 高木和也¹⁾, 三橋正典¹⁾, 鈴木 剛, 田邊晴山, 増野智彦, 布施 明, 横田裕行 (¹⁾ 東京消防庁): 救急救命士認定資格別による特定行為 (静脈路確保) の現状と課題. 日本臨床救急医学会総会・学術集会 (第15回) (熊本市), 2012. 6.
 - 24) 三原博樹¹⁾, 木村和巳¹⁾, 宮本裕子¹⁾, 高木和也¹⁾, 恩田秀賢, 塚本剛志, 増野智彦, 新井正徳, 川井 真, 横田裕行 (¹⁾ 東京消防庁): 静脈路評価分類を用いた静脈路確保の客観的難易度評価とうっ血操作の効果. 日本臨床救急医学会総会・学術集会 (第15回) (熊本市), 2012. 6.
 - 25) 石井浩統, 金 史英, 松本 学, 田上 隆, 白石振一郎, 尾本健一郎, 新井正徳, 増野智彦, 辻井厚子, 横田裕行: 上腸間膜動脈塞栓症に対し術前 Stenting および小腸部分切除術を施行した1例. 日本臨床救急医学会総会・学術集会 (第15回) (熊本市), 2012. 6.
 - 26) 稲本絵里¹⁾, 吉野美緒²⁾, 市村美帆³⁾, 重村朋子⁴⁾, 松井 豊⁵⁾, 増野智彦, 横田裕行 (¹⁾ 日本医科大学多摩永山病院, ²⁾ 日本医科大学付属病院小児科, ³⁾ 東洋大学, ⁴⁾ 日本医科大学侵襲生体管理学教室, ⁵⁾ 筑波大学): 病院前救急診療活動に従事する看護師の精神的衝撃となる体験. 日本臨床救急医学会総会・学術集会 (第15回) (熊本市), 2012. 6.
 - 27) 吉野美緒¹⁾, 川尻泰樹²⁾, 市村美帆³⁾, 稲本絵里⁴⁾, 重村朋子⁵⁾, 松井 豊⁶⁾, 増野智彦, 横田裕行 (¹⁾ 日本医科大学小児科, ²⁾ 首都大学東京人文科学研究科, ³⁾ 日本医科大学多摩永山病院, ⁴⁾ 日本医科大学侵襲生体管理学教室, ⁵⁾ 筑波大学): 病院前救急診療活動に従事する看護師の精神的健康度に関する研究. 日本臨床救急医学会総会・学術集会 (第15回) (熊本市), 2012. 6.
 - 28) 上西蔵人¹⁾, 原 義明¹⁾, 飯田浩章¹⁾, 平林篤志¹⁾, 大西惟貴¹⁾, 高松広周¹⁾, 松本 尚¹⁾, 益子邦洋¹⁾, 川井 真,

- 横田裕行⁽¹⁾日本医科大学北総病院救命救急センター)：外傷性下肢切断症例の検討。日本臨床救急医学会総会・学術集会(第15回)(熊本市), 2012. 6.
- 29) 高木和也¹⁾, 宮本裕子¹⁾, 木村和巳¹⁾, 三原博樹¹⁾, 石井浩統, 白石振一郎, 増野智彦, 金 史英, 宮内雅人, 横田裕行⁽¹⁾東京消防庁)：転落事故の重症度と高エネルギー事故の比較。日本臨床救急医学会総会・学術集会(第15回)(熊本市), 2012. 6.
- 30) 宮本裕子¹⁾, 高木和也¹⁾, 三原博樹¹⁾, 木村和巳¹⁾, 松本 学, 橋詰哲広, 田上 隆, 増野智彦, 辻井厚子, 横田裕行⁽¹⁾東京消防庁)：CRP補助器具におけるコーチング機能の有用性。日本臨床救急医学会総会・学術集会(第15回)(熊本市), 2012. 6.
- 31) 五十嵐豊, 藤木 悠, 山口昌紘, 渡邊顕弘, 石井浩統, 田上 隆, 増野智彦, 布施 明, 川井 真, 横田裕行：ドクターカー10年間の総括：有効な病院前治療は何か。日本臨床救急医学会総会・学術集会(第15回)(熊本市), 2012. 6.
- 32) 恩田秀賢, 五十嵐豊, 渡邊顕弘, 和田剛志, 鈴木 剛, 松本 学, 布施 明, 横田裕行, 渥美生弘¹⁾(¹⁾神戸中央市民病院救命救急センター)：マイクロダイアリシス(MD)を用いた蘇生後脳症の病態把握。日本脳死・脳蘇生学会総会・学術集会(第25回)(宮崎市), 2012. 5.
- 33) 松本 学, 藤木 悠, 山口昌紘, 五十嵐豊, 渡邊顕弘, 橋詰哲広, 鈴木 剛, 恩田秀賢, 布施 明, 横田裕行：意識障害患者における脳波異常。日本意識障害学会(第21回)(富士吉田市), 2012. 7.
- 34) 五十嵐豊^{1,2)}, 萩原 純^{1,2)}, 大村真理子²⁾, 田上 隆^{1,2)}, 松本 学¹⁾, 恩田秀賢¹⁾, 増野智彦¹⁾, 布施 明¹⁾, 土佐亮一²⁾, 横田裕行¹⁾(¹⁾日本医科大学付属病院高度救命救急センター, ²⁾温知会会津病院救命救急センター)：東日本大震災において転院搬送された遷延性意識障害患者の転帰。日本意識障害学会(第21回)(富士吉田市), 2012. 7.
- 35) 畝本恭子¹⁾, 竹ノ下尚子¹⁾, 遠藤広史¹⁾, 菊池広子¹⁾, 上笹 宙¹⁾, 松田 潔¹⁾, 横田裕行⁽¹⁾日本医科大学武蔵小杉病院救命救急センター)：浸透圧性脱髄症候群の1回復例。日本神経救急学会学術集会(第26回)(高松市), 2012. 6.
- 36) 藤木 悠, 松本 学, 山口昌紘, 五十嵐豊, 渡邊顕弘, 橋詰哲広, 鈴木 剛, 恩田秀賢, 布施 明, 横田裕行, 喜多村孝幸¹⁾(¹⁾日本医科大学付属病院脳神経外科)：突然の意識障害で発症した松果体部Pleomorphic Xantho-astrocytomaの1例。日本神経救急学会学術集会(第26回)(高松市), 2012. 6.
- 37) 松本 学, 田中 勝, 藤木 悠, 山口昌紘, 五十嵐豊, 渡邊顕弘, 橋詰哲広, 鈴木 剛, 恩田秀賢, 布施 明, 横田裕行：脳卒中患者の病院前悪化。日本神経救急学会学術集会(第26回)(高松市), 2012. 6.
- 38) 鈴木 剛, 布施 明, 横田裕行, 松村智裕¹⁾, 岡本 研¹⁾, 草野輝男¹⁾, 内藤善哉²⁾, 石渡俊行²⁾, 松田陽子²⁾, 西野武士³⁾(¹⁾日本医科大学生化学・分子生物学講座(代謝学・栄養学), ²⁾日本医科大学病理学講座(統御機構・腫瘍学), ³⁾東京大学大学院農学生命科学研究科応用生命化学)：3 vessel occlusion modelを用いたマウスの脳虚血再還流傷害の解析。日本Shock学会総会(第27回)(東京), 2012. 5.
- 39) 田上 隆, 土佐亮一, 増野智彦, 白石振一郎, 横田裕行：肺血管外水分量を利用した急性肺障害の診断。日本Shock学会総会(第27回)(東京), 2012. 5.
- 40) 和田剛志^{1,2)}, 東山明日美^{1,2)}, ジャスミンサブリナ¹⁾, 丸藤 哲¹⁾, 横田裕行²⁾(¹⁾北海道大学大学院医学研究科救急医学分野, ²⁾日本医科大学付属病院高度救命救急センター)：心停止後症候群における血管新生関連因子の役割。日本Shock学会総会(第27回)(東京), 2012. 5.
- 41) 亀山麻子¹⁾, 斉藤伸行¹⁾, 八木貴典¹⁾, 益子邦洋¹⁾, 横田裕行⁽¹⁾日本医科大学千葉北総病院救命救急センター)：敗血症性ショックに対してPDEIII阻害薬が有効であった症例。日本Shock学会総会(第27回)(東京), 2012. 5.
- 42) 吉田直人, 辻井厚子, 新井正徳, 宮内雅人, 横田裕行, 平田清貴¹⁾, 林田真喜子²⁾, 大野曜吉²⁾(¹⁾日本医科大学付属病院薬剤部, ²⁾日本医科大学法医学)：当院高度救命救急センターでの急性薬物中毒の経年的変化。日本中

- 毒学会総会・学術集会（第34回）（東京），2012. 7.
- 43) 平田清貴¹⁾，奈良弘恵¹⁾，木下順子¹⁾，宮内雅人，吉田直人，林田眞喜子²⁾，片山志郎¹⁾，横田裕行（¹⁾ 日本医科大学付属病院薬剤部，²⁾ 日本医科大学法医学）：当院高度救命救急センターにおける急性抗うつ薬中毒の動向。日本中毒学会総会・学術集会（第34回）（東京），2012. 5.
- 44) 松本 学，鈴木 剛，関厚二期，恩田秀賢，布施 明，横田裕行，阿部 新¹⁾，桂研一郎¹⁾，片山泰朗¹⁾（¹⁾ 日本医科大学付属病院内科学講座 神経・腎臓・膠原病リウマチ部門）：救命救急センターにおける急性期重症脳梗塞に対する脳血管内治療。日本脳卒中学会総会（第37回）（STROKE 2012）（福岡市），2012. 4.
- 45) 中江竜太¹⁾，恩田秀賢，高山泰広，荒木 尚，直江康孝¹⁾，布施 明，佐藤秀貴，吉田大蔵²⁾，横田裕行，寺本明²⁾（¹⁾ 川口市立医療センター救命救急センター，²⁾ 日本医科大学付属病院脳神経外科）：TCDによる脳血管攣縮の診断 -mBFVの左右比を用いた検討-。日本脳卒中学会総会（第37回）（STROKE 2012）（福岡市），2012. 4.
- 46) 松本 学，五十嵐豊，渡邊顕弘，和田剛志，橋詰哲広，鈴木 剛，関厚二期，恩田秀賢，布施 明，横田裕行：プレホスピタルにおける脳卒中の病型判断。日本脳卒中学会総会（第37回）（STROKE 2012）（福岡市），2012. 4.
- 47) 畝本恭子¹⁾，渡邊顕弘，北蘭雅敏，中江竜太，鈴木 剛，足立好司²⁾，黒川 顕¹⁾，横田裕行，寺本 明²⁾（¹⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院救命救急センター，²⁾ 日本医科大学脳神経外科）：脳卒中重症例初期診療における救命救急センター初療の意義。日本脳卒中学会総会（第37回）（STROKE 2012）（福岡市），2012. 4.
- 48) 遠藤広史¹⁾，松田 潔¹⁾，望月 徹¹⁾，石之神小織¹⁾，菊池広子¹⁾，河野陽介¹⁾，田中 勝¹⁾，黒川 顕¹⁾，横田裕行（¹⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院救命救急センター）：高齢化社会における救命救急センター搬送患者の変化，今後の役割について。日本救命医療学会総会・学術集会（第27回）（東京），2012. 9.
- 49) 山口昌紘，藤木 悠，五十嵐豊，渡邊顕弘，橋詰哲広，鈴木 剛，松本 学，恩田秀賢，布施 明，横田裕行：Stent assisted coilingにて椎骨動脈（PICA）を温存し治療し得た椎骨動脈解離（VA）の1例。日本救命医療学会総会・学術集会（第27回）（東京），2012. 9.
- 50) 徳田裕二，松本 学，恩田秀賢，石井浩統，白石振一郎，松本剛志，金 史英，増野智彦，宮内雅人，辻井厚子，新井正徳，横田裕行：多発外傷後に重篤な呼吸不全を来たし，ECMOを導入し救命しえた1例。過大侵襲研究会（第46回）（東京），2012. 10.
- 51) 横堀将司，Ross B¹⁾，Shyam G¹⁾，Helen B¹⁾，Dalton D¹⁾，横田裕行，寺本 明²⁾（¹⁾ Department of Neurosurgery, University of Miami Miller School of Medicine，²⁾ 日本医科大学付属病院脳神経外科）：重症頭部外傷における新しいBiomarkerと治療戦略—初期診療から周術期管理まで—。一般社団法人日本脳神経外科学会第71回学術総会（大阪市），2012. 10.
- 52) 鈴木 剛，布施 明，横田裕行，松村智裕¹⁾，岡本 研¹⁾，草野輝男¹⁾，内藤善哉²⁾，石渡俊行²⁾，松田陽子²⁾，西野武士³⁾（¹⁾ 日本医科大学生化学・分子生物学，²⁾ 日本医科大学病理学（統御機構・腫瘍学），³⁾ 東京大学大学院農学生命科学研究科応用生命化学）：脳虚血再灌流傷害におけるキサンチン酸化還元酵素阻害薬の神経細胞保護効果の検討。一般社団法人日本脳神経外科学会第71回学術総会（大阪市），2012. 10.
- 53) 恩田秀賢，山口昌紘，藤木 悠，五十嵐豊，渡邊顕弘，鈴木 剛，松本 学，橋詰哲広，布施 明，横田裕行：当施設における Levetiracetam 投与の検討。日本救急医学会総会・学術集会（第40回）（京都市），2012. 11.
- 54) 増野智彦，石井浩統，松本 学，白石振一郎，金 史英，宮内雅人，新井正徳，布施 明，辻井厚子，川井 真，横田裕行：救急医療現場における携帯型情報入力端末の活用と有効性。日本救急医学会総会・学術集会（第40回）（京都市），2012. 11.
- 55) 三宅康史¹⁾，有賀 徹¹⁾，井上健一郎²⁾，奥寺 敬³⁾，北原孝雄⁴⁾，島崎修次⁵⁾，坪倉正治⁶⁾，鶴田良介⁷⁾，中村俊介¹⁾，横田裕行（¹⁾ 昭和大学医学部救急医学，²⁾ 医療法人春回会井上病院，³⁾ 富山大学大学院医学薬学教育部危機管理医学（救急・災害医学），⁴⁾ 北里大学医学部救命救急医学，⁵⁾ 杏林大学医学部附属病院救急医学，⁶⁾ 東京

- 大学医科学研究所社会連携研究部門, 7) 山口大学医学部付属病院先進救急医療センター) : 本救急医学会の熱中症に関する活動. 日本救急医学会総会・学術集会 (第40回) (京都市), 2012. 11.
- 56) 布施 明, 山口昌紘, 鈴木 剛, 恩田秀賢, 松本 学, 金 史英, 新井正徳, 辻井厚子, 増野智彦, 宮内雅人, 横田裕行 : マイクロ波照射脳損傷モデルの2次元電気泳動による検討. 日本救急医学会総会・学術集会 (第40回) (京都市), 2012. 11.
- 57) 鈴木健介^{1,2)}, 根本香代^{2,3)}, 二宮宣文^{1,2)}, 久野将宗²⁾, 横田裕行¹⁾ (1) 日本医科大学大学院, 2) 日本医科大学多摩永山病院, 3) 新宿鍼灸柔整専門学校) : Fasudil は LPS による皮膚・腸間膜血管透過性亢進を抑制する. 日本救急医学会総会・学術集会 (第40回) (京都市), 2012. 11.
- 58) 鈴木 剛, 布施 明, 横田裕行, 松村智裕¹⁾, 岡本 研¹⁾, 草野輝男¹⁾, 内藤善哉²⁾, 石渡俊行²⁾, 松田陽子²⁾, 西野武士³⁾ (1) 日本医科大学生化学・分子生物学講座, 2) 日本医科大学病理学講座 (統御機構・腫瘍学), 3) 東京大学大学院農学生命科学研究科応用生命科学) : キサンチン酸化還元阻害薬と 3 vessel occlusion model を用いたマウスの脳虚血再還流障害の解析. 日本救急医学会総会・学術集会 (第40回) (京都市), 2012. 11.
- 59) 高山泰広¹⁾, 土佐亮一¹⁾, 秋山 豪¹⁾, 横田裕行, 佐藤秀貴, 直江康孝, 荒木 尚 (1) 会津中央病院救命救急センター) : 頭部外傷急性期のトラネキサム酸大量療法とウリナスタチンの投与方法について. 日本救急医学会総会・学術集会 (第40回) (京都市), 2012. 11.
- 60) 荒木 尚, 横田裕行, 佐藤秀貴, 布施 明, 横堀将司, 高山泰広, 恩田秀賢 : 小児重症頭部外傷治療における重症頭部外傷ガイドラインの意義. 日本救急医学会総会・学術集会 (第40回) (京都市), 2012. 11.
- 61) 渡邊顕弘, 五十嵐豊, 橋詰哲広, 鈴木 剛, 松本 学, 恩田秀賢, 布施 明, 横田裕行, 磯谷栄二¹⁾ (1) SAH-PiCCO グループ) : クモ膜下出血患者の周術期循環管理における PiCCO の役割 : 循環管理の指導. 日本救急医学会総会・学術集会 (第40回) (京都市), 2012. 11.
- 62) 鷲島克之¹⁾, 横田裕行²⁾, 有賀 徹²⁾, 坂本哲也²⁾, 荒木 尚²⁾, 芦刈淳太郎²⁾, 木下順弘¹⁾ (1) 熊本大学医学部附属病院集中治療部, 2) 円滑な脳死下臓器提供に資するための科学的分析に関する研究) : 脳死判定における無呼吸吸試験中の PaCO₂ の上昇速度の解析. 日本救急医学会総会・学術集会 (第40回) (京都市), 2012. 11.
- 63) 白石振一郎^{1,2)}, 丸藤 哲²⁾, 田熊清継²⁾, 荒木恒敏²⁾, 池田弘人²⁾, 齋藤大蔵²⁾, 藤島清太郎²⁾, 小倉裕司²⁾, 久志本成樹²⁾, 小谷穰治²⁾, 鈴木幸一郎²⁾, 鈴木 泰²⁾, 武山直志²⁾, 鶴田良介²⁾, 真弓俊彦²⁾, その他4名 (1) 日本医科大学付属病院高度救命救急センター, 2) 日本救急医学会 Sepsis Registry 特別委員会) : 敗血症患者における血液・巣培養結果と重症度の関係についての検討 : 日本救急医学会 Sepsis Registry 527 例の解析. 日本救急医学会総会・学術集会 (第40回) (京都市), 2012. 11.
- 64) 上西蔵人¹⁾, 原 義明¹⁾, 飯田浩章¹⁾, 平林篤志¹⁾, 高松広周¹⁾, 大西惟貴¹⁾, 松本 尚¹⁾, 益子邦洋¹⁾, 川井 真, 横田裕行 (1) 日本医科大学千葉北総病院救命救急センター) : 当科における重症骨盤骨折の初期治療戦略は妥当か?. 日本救急医学会総会・学術集会 (第40回) (京都市), 2012. 11.
- 65) 溝渕大騎, 松本 学, 金 史英, 石井浩統, 坂本和嘉子, 田上 隆, 宮内雅人, 新井正徳, 川井 真¹⁾, 横田裕行 (1) 日本医科大学付属病院総合診療科) : 外科救急疾患における意識障害患者の検討. 日本救急医学会総会・学術集会 (第40回) (京都市), 2012. 11.
- 66) 田邊晴山¹⁾, 丹野克俊²⁾, 近藤久禎³⁾, 山本保博⁴⁾, 横田裕行 (1) 救急振興財団救急救命東京研修所, 2) 札幌医科大学附属病院救急集中治療部, 3) 災害医療センター臨床研修部, 4) 東京臨海病院) : 救命救急センターにおける転院・転棟の促進に係るコーディネータ, 事務作業補助者等の配置状況と効果について. 日本救急医学会総会・学術集会 (第40回) (京都市), 2012. 11.
- 67) 飯田浩章¹⁾, 高松広周¹⁾, 大西惟貴¹⁾, 平林篤志¹⁾, 上西蔵人¹⁾, 齋藤伸行¹⁾, 原 義明¹⁾, 松本 尚¹⁾, 益子邦洋¹⁾, 川井 真, 横田裕行 (1) 日本医科大学千葉北総病院救命救急センター) : 機械による上肢巻き込み外傷の検討. 日本救急医学会総会・学術集会 (第40回) (京都市), 2012. 11.
- 68) 藤木 悠, 松本 学, 山口昌紘, 五十嵐豊, 渡邊顕弘, 鈴木 剛, 橋詰哲広, 恩田秀賢, 布施 明, 横田裕行 :

- 救命救急センターにおける急性期重症脳梗塞に対する脳血管内治療. 日本救急医学会総会・学術集会 (第40回) (京都市), 2012. 11.
- 69) 山村英治¹⁾, 高山泰広¹⁾, 佐藤 慎¹⁾, 秋山 豪¹⁾, 大村真理子¹⁾, 村山浩之¹⁾, 土佐亮一¹⁾, 横田裕行 (¹⁾ 会津中央病院救命救急センター) : 死後の造形CTでどこまで死因を推定できるか : 当院での死後造影CT. 日本救急医学会総会・学術集会 (第40回) (京都市), 2012. 11.
- 70) 橋詰哲広, 山口昌紘, 藤木 悠, 五十嵐豊, 渡邊顕弘, 鈴木 剛, 松本 学, 恩田秀賢, 布施 明, 横田裕行 : 当院3次救命センターにおける脳梗塞患者の特徴と予後. 日本救急医学会総会・学術集会 (第40回) (京都市), 2012. 11.
- 71) 新井正徳, 金 史英, 尾本健一郎¹⁾, 白石振一郎, 石井浩統, 田上 隆, 増野智彦, 辻井厚子, 久志本成樹²⁾, 横田裕行 (¹⁾ 東京医療センター, ²⁾ 東北大学大学院医学系研究科外科病態学講座救急医学分野) : Open abdomenを要した破裂性腹部大動脈瘤に対する両側腹直筋鞘前葉反転法の有用性. 日本救急医学会総会・学術集会 (第40回) (京都市), 2012. 11.
- 72) 五十嵐豊, 松本 学, 山口昌紘, 渡邊顕弘, 橋詰哲広, 鈴木 剛, 恩田秀賢, 布施 明, 横田裕行 : 脳卒中患者の病院前悪化に関係する因子. 病院前救急診療研究会学術集会 (第7回) (豊中市), 2013. 1.
- 73) 宮内雅人, 平田清貴¹⁾, 林田眞喜子²⁾, 大野曜吉²⁾, 横田裕行 (¹⁾ 日本医科大学付属病院薬剤部, ²⁾ 日本医科大学法医学教室) : 過去7年間の急性中毒死亡例についての検討. 日本中毒学会東日本地方会 (第27回) (山形市), 2013. 1.
- 74) 石川秀樹¹⁾, 石原 哲¹⁾, 大桃丈知¹⁾, 勝見 敦²⁾, 三浦邦久¹⁾, 山口芳裕¹⁾, 横田裕行¹⁾, 坂本哲也¹⁾ (¹⁾ 東京都医師会救急委員会, ²⁾ 東京都医師会) : 東京都総合防災訓練にみるトリアージタグの形式上および運用上の不備と改善案. 日本集団災害医学会総会・学術集会 (第18回) (神戸市), 2013. 1.
- 75) 布施 明^{1,6)}, 五十嵐豊¹⁾, 石井浩統¹⁾, 白石振一郎¹⁾, 増野智彦¹⁾, 横田裕行^{1,6)}, 大西光雄^{2,6)}, 徳野慎^{—3,6)}, 齋藤大蔵^{4,6)}, 奥村 徹^{5,6)} (¹⁾ 日本医科大学付属病院高度救命救急センター, ²⁾ 大阪大学医学部付属病院高度救命救急センター, ³⁾ 防衛医科大学校防衛医学, ⁴⁾ 防衛医科大学校防衛医学研究センター外傷研究部門, ⁵⁾ 内閣官房 (安全保障・危機管理担当), ⁶⁾ 日本爆傷研究会) : 日本版 TEMS (Tactical Emergency Medical Support) コース創設における課題. 日本集団災害医学会総会・学術集会 (第18回) (神戸市), 2013. 1.
- 76) 石井浩統, 布施 明, 五十嵐豊, 渡邊顕弘, 恩田秀賢, 増野智彦, 宮内雅人, 徳野慎^{—2)}, 奥村 徹¹⁾, 横田裕行 (¹⁾ 内閣官房 (首相官邸) 安全保障・危機管理担当, ²⁾ 防衛医科大学校) : 大規模災害時大量傷病者搬送における鉄道のもつ可能性. 日本集団災害医学会総会・学術集会 (第18回) (神戸市), 2013. 1.
- 77) 久野将宗¹⁾, 小井土雄^{—2)}, 近藤久禎²⁾, 河駕 讓²⁾, 五十嵐豊, 石井浩統, 藤木 悠, 葉田甲太³⁾ (¹⁾ 日本医科大学多摩永山病院救命救急センター, ²⁾ 国立病院機構災害医療センター, ³⁾ 東和病院) : 途上国における災害医療セミナー開催の経験から : ラオス人民民主共和国における事例. 日本集団災害医学会総会・学術集会 (第18回) (神戸市), 2013. 1.
- 78) 五十嵐豊, 内海清乃¹⁾, 平井国雄²⁾, 渡邊顕弘, 石井浩統, 宮内雅人, 増野智彦, 布施 明, 横田裕行 (¹⁾ 日本医科大学付属病院看護部, ²⁾ 日本医科大学付属病院放射線技術部門) : 当院における被ばく医療への取り組み. 日本集団災害医学会総会・学術集会 (第18回) (神戸市), 2013. 1.
- 79) 山口昌紘, 鈴木 剛, 藤木 悠, 五十嵐豊, 渡邊顕弘, 松本 学, 橋詰哲広, 恩田秀賢, 布施 明, 横田裕行 : くも膜下出血で発症した頭蓋頸椎移行部硬膜動静脈瘻の1例. 日本救急医学会関東地方会 (第63回) (東京), 2013. 2.
- 80) 笹山亜紗子¹⁾, 荒木 尚¹⁾, 小川理郎¹⁾, 春日義生²⁾, 増野智彦, 金 史英, 横田裕行 (¹⁾ 足利赤十字病院救命救急センター, ²⁾ 足利赤十字病院婦人科) : ER型救急センターにおける産婦人科救急疾患の診療経験. 日本救急医学会関東地方会 (第63回) (東京), 2013. 2.
- 81) 世良 泰¹⁾, 荒木 尚¹⁾, 小川理郎¹⁾, 小林靖明²⁾, 横田裕行 (¹⁾ 足利赤十字病院救命救急センター, ²⁾ 足利赤十

- 字病院小児科)：地域中核病院 ER における小児多発外傷診療院内体制の準備. 日本救急医学会関東地方会 (第 63 回) (東京), 2013. 2.
- 82) 近田祐介¹⁾, 齋藤伸行¹⁾, 八木貴典¹⁾, 原 義明¹⁾, 松本 尚¹⁾, 益子邦洋¹⁾, 横田裕行 (¹⁾ 日本医科大学千葉北総病院救命救急センター)：救命救急センターに搬送された軽症小児頭部外傷における CT 適応基準の妥当性の検討. 日本救急医学会関東地方会 (第 63 回) (東京), 2013. 2.
- 83) 徳田裕二, 田上 隆, 金 史英：上行大動脈アプローチによるステントクラフト留置が有効であった外傷性胸部大動脈損傷の 1 例. 日本救急医学会関東地方会 (第 63 回) (東京), 2013. 2.
- 84) 松田絵里奈¹⁾, 藤本雄飛¹⁾, 日下部誠, 鈴木 剛, 田上 隆, 林 励治¹⁾, 増野智彦¹⁾, 川井 真¹⁾, 横田裕行 (¹⁾ 日本医科大学付属病院総合診療科)：骨盤の不顕性骨折により後腹膜血腫, ショックをきたし動脈塞栓術を必要とした 1 例. 日本救急医学会関東地方会 (第 63 回) (東京), 2013. 2.
- 85) 日下部誠, 恩田秀賢, 溝渕大騎, 田中 勝, 水柿明日美, 五十嵐豊, 小野真平, 白石振一郎, 塚本剛志, 新井正徳, 宮内雅人, 川井 真, 横田裕行：脱法ハーブを誤用しメトヘモグロビン血症および不整脈を来たした 1 例. 日本救急医学会関東地方会 (第 63 回) (東京), 2013. 2.
- 86) Wada T^{1, 4)}, Jesmin S^{2, 3)}, Gando S¹⁾, Yanagida Y¹⁾, Mizgaki A⁴⁾, Yokota H⁴⁾ (¹⁾ Division of Acute and Critical Care Medicine, Department of Anesthesiology and Critical Care Medicine, Hokkaido University Graduate School of Medicine, ²⁾ Department of Emergency and Critical Care Medicine, Faculty of Medicine, University of Tsukuba, ³⁾ Health and Diseases Research Center for Rural Peoples (HDRCRP), ⁴⁾ Department of Emergency and Critical Care Medicine, Nippon Medical School)：Angiogenic factors and their soluble receptors in acute lung injury (ALI)/acute respiratory distress syndrome (ARDS) in critically ill patients. European Society of Intensive Care Medicine (25th) (Lisbon), 2012. 10.
- 87) 和田剛志^{1, 2)}, 丸藤 哲¹⁾, 早川峰司¹⁾, 柳田雄一郎¹⁾, 水柿明日美²⁾, ジュスミンサブリーナ^{1, 3)}, 横田裕行²⁾ (¹⁾ 北海道大学大学院医学研究科侵襲制御医学講座救急医学分野, ²⁾ 日本医科大学付属病院高度救命救急センター, ³⁾ 筑波大学医学医療系救急・集中治療部)：心停止後症候群 (PCAS) における凝固線溶反応. 日本集中治療医学会学術集会 (第 40 回) (松元市), 2013. 2.
- 88) 中江竜太¹⁾, 高山泰広²⁾, 北蘭雅敏¹⁾, 恩田秀賢²⁾, 桑本健太郎²⁾, 直江康孝¹⁾, 布施 明²⁾, 佐藤秀貴²⁾, 横田裕行²⁾ (¹⁾ 川口市立医療センター救命救急センター, ²⁾ 日本医科大学救急医学教室)：頭部外傷に伴う凝固線溶系障害の検討. 日本脳神経外傷学会 (第 36 回) (名古屋市), 2013. 3.
- 89) 増野智彦, 須崎 真¹⁾, 鈴木将太¹⁾, 小野寺直子¹⁾, 林 励治¹⁾, 兵働英也¹⁾, 小原俊彦¹⁾, 鮑本哲兵²⁾, 河越哲郎²⁾, 安武正弘¹⁾, 川井 真¹⁾, 横田裕行 (¹⁾ 日本医科大学総合診療センター, ²⁾ 日本医科大学消化器内科)：胃蜂窩織炎・十二指腸潰瘍に伴う急性胃拡張により生じた門脈ガス血症の 1 例. 日本腹部救急医学会総会 (第 49 回) (福岡市), 2013. 3.
- 90) 辻井厚子, 新井正徳, 金 史英, 増野智彦, 白石振一郎, 坂本和嘉子, 徳田裕二, 久志本成樹¹⁾, 横田裕行 (¹⁾ 東北大学医学部救急医学)：特異な経過を呈した外傷性脾動静脈瘻の 1 例. 日本腹部救急医学会総会 (第 49 回) (福岡市), 2013. 3.
- 91) 松本 学^{1, 2)}, 岩瀬史明¹⁾, 小林辰輔¹⁾, 宮崎善史¹⁾, 牧 真彦¹⁾, 加藤頼子¹⁾, 萩原一樹¹⁾, 瀧口 徹¹⁾, 片山泰朗³⁾, 横田裕行²⁾ (¹⁾ 山梨県立中央病院救命救急センター, ²⁾ 日本医科大学付属病院高度救命救急センター, ³⁾ 日本医科大学大学院医学研究科神経内科学分野)：脳卒中患者の病院前ア k k あ. 日本脳卒中学会総会 (第 38 回) (東京), 2013. 3.
- 92) 石井浩統, 金 史英, 徳田裕二, 坂本和嘉子, 田上 隆, 白石振一郎, 新井正徳, 増野智彦, 辻井厚子, 横田裕行：腹直筋鞘前葉翻転法および双茎皮弁を併施した腹壁再建の 1 例. 日本臨床外科学会総会 (第 74 回) (東京), 2012. 11.

(11) 研修会：

- 1) 横田裕行：PCEC/PSLS の標準化を目指して，総論・各論．駿東田方地域 MC 協議会主催「PCEC 指導者研修会」（三島市），2012. 10.

(12) シンポジウム関連演題：

- 1) 田上 隆，久志本成樹¹⁾，土佐亮一²⁾，横田裕行（¹⁾ 東北大学病院高度救命救急センター，²⁾ 会津中央病院救命救急センター）：侵襲と生体反応：肺血管外水分量を利用した急性肺障害の診断．日本救急医学会総会・学術集会（第 40 回）（京都市），2012. 11.
- 2) 高山泰広¹⁾，土佐亮一¹⁾，大村真理子¹⁾，横田裕行，佐藤秀貴，直江康孝（¹⁾ 会津中央病院救命救急センター）：敗血症と外傷急性期の炎症反応と凝固線容系障害の違いについて．日本救急医学会総会・学術集会（第 40 回）（京都市），2012. 11.
- 3) 高山泰広¹⁾，土佐亮一¹⁾，大村真理子¹⁾，山村英治¹⁾，横田裕行，田上 隆（¹⁾ 会津中央病院救命救急センター）：脳低温療法と PCPS の神経学的予後への「底上げ効果」と診療スキルについて．日本救急医学会総会（第 40 回）（京都市），2012. 11.
- 4) 田上 隆^{1, 2)}，田上 隆³⁾，土佐亮一^{1, 3)}，久志本成樹^{1, 4)}，大村真理子^{1, 3)}，横田裕行^{1, 2)}（¹⁾ Aizu Chain of Survival Concept Campaign Group，²⁾ 日本医科大学付属病院高度救命救急センター，³⁾ 会津中央病院救命救急センター，⁴⁾ 東北大学病院高度救命救急センター）：「5 つ目の救命の連鎖」は，院外心肺停止患者の予後を改善する：Aizu Chain of Survival Concept Campaign．日本救急医学会総会・学術集会（第 40 回）（京都市），2012. 11.
- 5) 荒木 尚^{1, 6)}，横田裕行^{1, 6)}，有賀 徹^{2, 6)}，木下順弘^{3, 6)}，坂本哲也^{4, 6)}，芦刈淳太郎^{5, 6)}（¹⁾ 日本医科大学救急医学，²⁾ 昭和大学医学部救急医学，³⁾ 熊本大学医学部大学院侵襲制御医学，⁴⁾ 帝京大学医学部救急医学，⁵⁾ 社団法人日本臓器移植ネットワーク，⁶⁾ 厚労科研「円滑な脳死下臓器提供に資するための科学的分析に関する研究」班）：臓器提供施設における時間的負担の調査分析に関する研究．日本救急医学会総会・学術集会（第 40 回）（京都市），2012. 11.
- 6) 畝本恭子¹⁾，金子純也¹⁾，苛原隆之¹⁾，遠藤広史²⁾，菊池広子²⁾，福田令雄¹⁾，北橋章子¹⁾，桑本健太郎¹⁾，松田潔²⁾，二宮宣文¹⁾，横田裕行（¹⁾ 日本医科大学多摩永山病院救命救急センター，²⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院救命救急センター）：3 次救急施設で扱う壱撃重積症例の慢性期管理の一考察．日本救急医学会総会・学術集会（第 40 回）（京都市），2012. 11.
- 7) 須崎 真¹⁾，小野寺直子¹⁾，兵働英也¹⁾，小原俊彦¹⁾，増野智彦^{1, 2)}，林 励治^{1, 2)}，安武正弘¹⁾，川井 真^{1, 2)}，横田裕行²⁾（¹⁾ 日本医科大学付属病院総合診療センター，²⁾ 日本医科大学付属病院高度救命救急センター）：研修医が望む充実した総合・救急診療研修とは—初期臨床研修医による評価・感想—．日本救急医学会総会・学術集会（第 40 回）（京都市），2012. 11.
- 8) 恩田秀賢，松本 学，藤木 悠，山口昌紘，五十嵐豊，渡邊顕弘，鈴木 剛，橋詰哲弘，布施 明，川井 真，横田裕行：当施設における Levetiracetam 投与の検討．日本救急医学会総会・学術集会（第 40 回）（京都市），2012. 11.

(13) 会長賞選考講演：

- 1) 鈴木健介^{1, 2)}，根本香代^{1, 2)}，二宮宣文^{1, 2)}，久野将宗²⁾，横田裕行¹⁾（¹⁾ 日本医科大学大学院侵襲生体管理学分野，²⁾ 日本医科大学多摩永山病院救命救急センター）：エンドトキシン血症の発症機序における Rho/Rho-kinase シグナル経路の関与．日本 Shock 学会総会（第 27 回）（東京），2012. 5.

(14) 教育ランチョンセミナー：

- 1) 横田裕行：法的脳死判定：臨床医のための脳死判定技術の取得．日本脳死・脳蘇生学会総会・学術集会（第 25 回）（宮崎市），2012. 5.

(15) 市民講座：

- 1) 横田裕行：当院救命救急センターにおける脳卒中对応．日本脳卒中学会総会（第38回）市民公開講座（東京都文京区），2013. 3.

(16) 主要演題：

- 1) 宮内雅人，坂本和嘉子，石井浩統，金 史英，川井 真，横田裕行：極細径上部消化管内視鏡スコープの救急分野への応用．日本救急医学会総会・学術集会（第40回）（京都市），2012. 11.

(17) 動画セッション：

- 1) 上西蔵人¹⁾，原 義明¹⁾，飯田浩章¹⁾，平林篤志¹⁾，大西惟貴¹⁾，高松広周¹⁾，松本 尚¹⁾，益子邦洋¹⁾，大泉 旭，川井 真，横田裕行（¹⁾日本医科大学千葉北総病院高度救命救急センター）：重症骨盤骨折の初期治療における pelvic packing の効果と限界．日本外傷学会総会・学術集会（第26回）（東京），2012. 5.
- 2) 本村友一¹⁾，安松比呂志¹⁾，三木隆久¹⁾，益子一樹¹⁾，林田和之¹⁾，松本 尚¹⁾，益子邦洋¹⁾，横田裕行（¹⁾日本医科大学千葉北総病院救命救急センター）：小児重症肝損傷症例．日本外傷学会総会・学術集会（第26回）（東京），2012. 5.

(18) 優秀演題：

- 1) 五十嵐豊，藤木 悠，山口昌紘，渡邊顕弘，和田剛志，小野雄一，鈴木 剛，松本 学，恩田秀賢，横堀将司，増野智彦，布施 明，川井 真，横田裕行：重症頭部外傷におけるマイクログアイアリスによる予後の予測．日本外傷学会総会・学術集会（第26回）（東京），2012. 5.
- 2) 松本 学，水柿明日美，和田剛志，田上 隆，白石振一郎，増野智彦，宮内雅人，辻井厚子，布施 明，横田裕行：院外心肺停止患者に対する ECPR 施行時脳低温療法の検討．日本集中治療医学会学術集会（第40回）（松本市），2013. 2.

[武蔵小杉病院救命救急センター]

研究概要

川崎武蔵小杉地域における救命救急センターの果たす役割に関する研究，発表を行った．遠藤は，川崎地域でも進行している高齢化に注目し，病院外心肺停止症例における蘇生の適否，living will の表出方法について発表した．この課題は，川崎に限らず全国的な問題であり，今後武蔵小杉モデルを発信していく必要がある．望月は，川崎市内の病院内感染防御ネットワークの構築にたずさわって，他院の感染防御への取り組みが正しく実施されているか，互いの感染防御チームがラウンドしあう川崎市内の体制が機能するよう寄与している．この現状報告，ならびに課題等を発表した．病院を越えた地域での感染対策は耐性菌の発声抑止のためにも有用であり，さらなる連携が必要と思われる．松田は，プレホスピタルケアに着目し，救急隊員の病院実習，および病院前に医師を派遣するドクターカーについて，川崎地域の特性も踏まえて研究，発表した．プレホスピタルケアの充実は，救急医療発展のためには不可欠な要素であり，当施設の特徴であるドクターカーの活動を活性化することもその解決の一要素となりうると考えている．当施設の特徴を生かし，地域に根差した臨床研究を今後も継続していく予定である．

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) 橘和聡文¹⁾，一色彩子¹⁾，清水康弘¹⁾，安藤 順¹⁾，市川太郎¹⁾，竹ノ下尚子²⁾，金城忠志²⁾，田島廣之²⁾，春原沙織³⁾，村澤恒男³⁾，畝本恭子（¹⁾日本医科大学武蔵小杉病院放射線科，²⁾日本医科大学武蔵小杉病院血管内低侵襲治療センター，³⁾日本医科大学武蔵小杉病院内科）：腎血管筋脂肪腫の腎動脈瘤破裂に対する緊急動脈塞栓術．映像情報メディカル 2013；45（2）：156-158.

- 2) 野口周作^{1, 2)}, 望月 徹^{2, 3)}, 吉田奈央¹⁾, 上野ひろむ⁴⁾ (1) 日本医科大学武蔵小杉病院薬剤部, 2) 日本医科大学武蔵小杉病院感染制御部, 3) 日本医科大学武蔵小杉病院救命救急センター, 4) 日本医科大学武蔵小杉病院看護部) : 段階的な抗菌薬適正使用強化策の効果. 日本環境感染学会誌 2013 ; 28 (2) : 79-85.
- 3) 望月 徹^{1, 2)} (1) 日本医科大学武蔵小杉病院救命救急センター, 2) 日本医科大学武蔵小杉病院感染制御部) : 感染・抗菌薬のPK/PD. 救急医学 2012 ; 36 (10) : 1342-1344.

学会発表

(1) シンポジウム :

- 1) 松田 潔, 望月 徹, 石之神小織, 菊池広子, 遠藤広史, 河野陽介, 竹ノ下尚子, 石室正輝, 小峰達也, 黒川 顕 : 川崎市における医師現場出動の現状と課題. 病院前救急診療研究会 (第7回) (大阪), 2013. 1.

(2) ワークショップ :

- 1) 松田 潔, 岩瀬史明¹⁾, 小林辰輔¹⁾, 宮崎善史¹⁾, 牧 真彦¹⁾, 石丸直樹¹⁾, 萩原一樹¹⁾ (1) 山梨県立中央病院救命救急センター) : 救急救命士の再教育病院実習にもっと光を. 日本臨床救急医学会 (第15回) (熊本), 2012. 6.

(3) 一般講演 :

- 1) 遠藤広史¹⁾, 松田 潔¹⁾, 望月 徹^{1, 2)}, 石之神小織¹⁾, 上笹 宙¹⁾, 菊池広子¹⁾, 河野陽介¹⁾, 竹ノ下尚子¹⁾, 黒川 顕¹⁾ (1) 日本医科大学武蔵小杉病院救命救急センター, 2) 日本医科大学武蔵小杉病院感染制御部) : ADL 障害を有する心肺停止患者と救命救急センター. 日本救急医学会総会 (第40回) (京都), 2012. 11.
- 2) 遠藤広史¹⁾, 松田 潔¹⁾, 望月 徹^{1, 2)}, 石之神小織¹⁾, 上笹 宙¹⁾, 菊池広子¹⁾, 河野陽介¹⁾, 田中 勝¹⁾, 竹ノ下尚子¹⁾, 黒川 顕¹⁾ (1) 日本医科大学武蔵小杉病院救命救急センター, 2) 日本医科大学武蔵小杉病院感染制御部) : 高齢化社会における救命救急センター搬送患者の変化, 今後の役割について. 日本救命医療学会総会 (第27回) (東京), 2012. 9.
- 3) 田中 勝¹⁾, 望月 徹^{1, 2)}, 石之神小織¹⁾, 菊池広子¹⁾, 遠藤広史¹⁾, 河野陽介¹⁾, 竹ノ下尚子¹⁾, 松田 潔¹⁾ (1) 日本医科大学武蔵小杉病院救命救急センター, 2) 日本医科大学武蔵小杉病院感染制御部) : 当院の救命救急センターにおける感染制御の在り方. 日本救急医学会関東地方会 (第63回) (東京), 2013. 2.
- 4) 吉田奈央¹⁾, 野口周作²⁾, 望月 徹^{2, 3)}, 八木 孝⁴⁾ (1) 日本医科大学武蔵小杉病院薬剤部, 2) 日本医科大学武蔵小杉病院感染制御部, 3) 日本医科大学武蔵小杉病院救命救急センター, 4) 日本医科大学武蔵小杉病院内科) : ICT 抗菌薬ラウンドの有用性評価. 日本化学療法学会学術集会 (第60回) (福岡), 2012. 4.
- 5) 野口周作¹⁾, 望月 徹^{1, 2)}, 吉田奈央³⁾, 上野ひろむ⁴⁾ (1) 日本医科大学武蔵小杉病院感染制御部, 2) 日本医科大学武蔵小杉病院救命救急センター, 3) 日本医科大学武蔵小杉病院薬剤部, 4) 日本医科大学武蔵小杉病院看護部) : カルバペネム系抗菌薬高用量投与時コンサルト制導入に関する検討. 日本環境感染学会総会 (第28回) (横浜), 2013. 3.
- 6) 望月 徹^{1, 2)}, 上野ひろむ³⁾, 野口周作²⁾, 長島悟郎⁴⁾, 竹村 弘⁴⁾, 三田由美子⁴⁾, 坂本光男⁴⁾, 駒場留美子⁴⁾, 平居義裕⁴⁾, 佐藤政延⁴⁾, 福島里美⁴⁾ (1) 日本医科大学武蔵小杉病院救命救急センター, 2) 日本医科大学武蔵小杉病院感染制御部, 3) 日本医科大学武蔵小杉病院看護部, 4) KAWASAKI 地域感染制御協議会) : 感染防止対策地域連携における KAWASAKI 地域感染制御協議会の役割. 日本環境感染学会総会 (第28回) (横浜), 2013. 3.
- 7) 竹ノ下尚子¹⁾, 田島廣之¹⁾, 金城忠志¹⁾, 市川太郎²⁾, 一色彩子²⁾, 安藤 順²⁾, 清水康弘²⁾, 山口香織²⁾, 橘和聡文²⁾, 星野有哉³⁾, 鈴木英之³⁾, 畝本恭子 (1) 日本医科大学武蔵小杉病院血管内低侵襲治療センター, 2) 日本医科大学武蔵小杉病院放射線科, 3) 日本医科大学武蔵小杉病院消化器病センター) : 静脈管開存に対し経カテーテル的塞栓術が成功した1例. 日本静脈学会総会 (第32回) (大宮), 2012. 6.
- 8) 竹ノ下尚子¹⁾, 田島廣之¹⁾, 金城忠志¹⁾, 井村 肇²⁾, 丸山雄二²⁾, 白川 真²⁾, 田上素子²⁾, 山本英世³⁾, 徳山榮

男³⁾, 望月 徹^{4, 5)} (1) 日本医科大学武蔵小杉病院血管内低侵襲治療センター, 2) 日本医科大学武蔵小杉病院心臓血管外科, 3) 日本医科大学武蔵小杉病院循環器内科, 4) 日本医科大学武蔵小杉病院救命救急センター, 5) 日本医科大学武蔵小杉病院感染制御部) : 感染性総腸骨動脈瘤に対してステントグラフト内挿術を施行した1例. 川崎大動脈ステントグラフト研究会 (第1回) (川崎), 2013. 1.

9) 望月 徹^{1, 2)}, 野口周作²⁾, 山口朋禎³⁾, 八木 孝³⁾, 中摩健二³⁾, 渡辺昌則⁴⁾ (1) 日本医科大学武蔵小杉病院救命救急センター, 2) 日本医科大学武蔵小杉病院感染制御部, 3) 日本医科大学武蔵小杉病院内科, 4) 日本医科大学武蔵小杉病院消化器病センター) : アシネトバクター・パウマニに対するエピガロカテキンガレートの静菌殺菌効力の検討. 日本感染症学会 (第86回), 2012. 4.

10) 石川真由美¹⁾, 立山尚子²⁾, 望月 徹^{3, 4)}, 大場るり子¹⁾, 中島敏晶¹⁾, 南 史朗¹⁾ (1) 日本医科大学武蔵小杉病院内科, 2) 日本医科大学武蔵小杉病院女性診療科・産科, 3) 日本医科大学武蔵小杉病院感染制御部, 4) 日本医科大学武蔵小杉病院救命救急センター) : エルシニア感染症を伴った糖尿病合併妊娠の1例. 日本内科学会関東地方会 (第595回), 2013. 3.

[多摩永山病院救命救急センター]

研究概要

当施設は多摩地区の3次救急医療施設として多発外傷, 頭部外傷, 整形外科外傷, 熱傷, 虚血性心疾患, 脳血管障害, 薬物中毒, 災害医療と多岐に渡る患者に対して, それぞれの分野での専門医を中心に自己完結的に集中治療に当たるとともに, 併せて各分野での臨床研究をおこなっている. 重症患者における循環動態モニタリング, 頭部外傷に対する低体温療法, 脳梗塞急性期に対するt-PAの投与, 血栓溶解法, 多発性外傷に対するダメージコントロール, 心肺停止後の低体温療法などに取り組んでいる. また, 病院前から継続して行われる救急医療システムの改善についても救急救命士とともに検討している. 臨床研究のほかエンドトキシン血症モデルモルモットを用いた基礎研究も継続して行っており, 結果を学会発表, 誌上发表している. また, 災害医療に関しても国内, 海外への派遣に積極的に参加している. その他, 東京消防庁等からの要請によりドクターアンビュランスによる救急現場出動や地域救急医療センターとして東京ルールに積極的に参加している

研究業績

論文

(1) 原著 :

1) Suzuki K³⁾, Nemoto K^{2, 3)}, Ninomiya N³⁾, Kuno M³⁾, Kubota M¹⁾, Yokoya H³⁾ (1) Department of Clinical Laboratory, Nippon Medical School, 2) Shinjuku Vocational College of Acupuncture and Judo Therapy, 3) Department of Emergency Critical Care Medicine) : Fasudila Rho-kinase inhibitor attenuates lipopolysaccharide-induced vascular hyperpermeability and colonic muscle relaxation in guinea pigs. JOURNAL OF SURGICAL RESEARCH 2012 ; 178 (1) : 352-357.

2) 諸江雄太, 二宮宣文, 鈴木健介, 苜原隆之, 小柳正雄, 栗本健太郎, 石之神小織, 福田令雄 : 瓦礫の下の医療における安全とは? : 崩壊したスーパーマーケット駐車場崩落現場での活動を経験して学んだこと. 日本集団災害医学会誌 2012 ; 17 (1) : 45-51.

(2) 総説 :

1) 二宮宣文, 根本香代, 久野将宗 : エンドトキシン誘発腸管弛緩反応の作用機序 : 覚醒モルモットを用いた in vivo 実験研究. 日本救急医学会雑誌 2012 ; 23 (8) : 333-341.

2) 畝本恭子 : くも膜下出血治療の現状と展望. 救急医学 2012 ; 36 (8) : 944-949.

著 書

- 1) 畝本恭子：〔分担〕脳震盪（SISを含む）. 今日の治療指針 2013, 2013：pp46-47, 医学書院.
- 2) 畝本恭子：〔分担〕脳低温療法と体温管理. 救急・集中治療 Vo.24 No.7.8（横田裕行）, 2012：pp293-298, 総合医学社.
- 3) 二宮宣文：〔共著〕東日本大震災における東北の医療復旧. Business Labor Trend Business Labor Trend, 2012：p36, 独立行政法人 労働政策研究・研修機構.
- 4) 畝本恭子：〔分担〕中枢神経・中枢神経疾患 ICP, CPP. 「指標」・「基準」の使い方とエビデンス, 2012：pp1220-1222, へるす出版.

学会発表

(1) 特別講演：

- 1) 鈴木健介^{1,2)}, 根本香代^{1,2)}, 二宮宣文^{1,2)}, 久野将宗²⁾, 横田裕行¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学大学院侵襲生体管理学分野, ²⁾ 日本医科大学多摩永山病院救命救急センター)：エンドトキシン血症の発症機序における Rho/Rho-kinase シグナル経路の関与. 日本 Shock 学会 (第 27 回) (東京), 2012. 5.

(2) 教育講演：

- 1) 畝本恭子：脳低温療法における望ましい管理と modality. 日本脳低温療法学会 (第 15 回) (横浜), 2012. 7.

(3) シンポジウム：

- 1) 高山泰広, 土佐亮一, 大村真理子, 山村英治¹⁾, 阪本和嘉子¹⁾, 佐藤 慎¹⁾, 横田裕行¹⁾, 佐藤秀貴²⁾, 直江康孝²⁾, 荒木 尚²⁾, 桑本健太郎²⁾, 中江竜太²⁾, 小関一英³⁾ (¹⁾ 会津中央病院救命救急センター, ²⁾ 日本医科大学救急医学, ³⁾ 平静帝京大学健康メディカル学部)：頭部外傷急性期の線溶活性に対するトラネキサム酸大量療法について. 日本外傷学会 (第 26 回) (東京), 2012. 5.
- 2) 二宮宣文, 畝本恭子, 久野将宗, 諸江雄太, 栗本健太郎, 小柳正雄, 北橋章子, 苛原隆之, 金子純也, 福田令雄, 溝渕大騎, 鈴木健介：日本医科大学多摩永山病院における災害拠点病院としての役割. 日本救命医療学会総会・学術集会 (第 27 回) (東京), 2012. 9.
- 3) 畝本恭子, 金子純也, 苛原隆之, 遠藤広史¹⁾, 菊池広子¹⁾, 福田令雄, 北橋章子, 栗本健太郎, 松田 潔¹⁾, 二宮宣文, 横田裕行²⁾ (¹⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院, ²⁾ 日本医科大学高度救命救急センター)：3次救急施設で扱う痙攣重積症例の慢性期管理の一考察. 救急医学会総会・学術集会 (第 40 回) (京都 国立京都国際会館), 2012. 11.
- 4) 畝本恭子, 金子純也, 北橋章子, 栗本健太郎, 二宮宣文, 横田裕行¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学付属病院 高度救命救急センター)：救命救急センターにおける痙攣重積症例の臨床：成人例を中心に. 日本てんかん学会 (第 46 回) (東京), 2012. 10.
- 5) 佐藤格夫¹⁾, 播摩 裕²⁾, 岡村昌彦¹⁾, 苛原隆之, 磐井佑輔³⁾, 鈴木崇生¹⁾, 小池 薫¹⁾ (¹⁾ 京都大学医学部初期診療救急科, ²⁾ 鳥根県中央病院外科, ³⁾ 相模原共同病院外科)：京都大学救急科における Acute care surgeon 育成プログラム作成にむけて. 日本腹部救急医学会総会 (第 49 回) (福岡), 2013. 3.

(4) パネルディスカッション：

- 1) 諸江雄太, 二宮宣文, 畝本恭子, 久野将宗, 栗本健太郎, 小柳正雄, 北橋章子, 福田令雄, 苛原隆之, 金子純也：指導医新規申請費必要な診療実績等は完結型救命救急センターでの短期研修で経験できる. 救急医学会総会・学術集会 (第 40 回) (京都 国立京都国際会館), 2012. 11.
- 2) 二宮宣文, 畝本恭子, 久野将宗, 諸江雄太, 栗本健太郎, 小柳正雄, 北橋章子, 苛原隆之, 金子純也, 福田令雄, 鈴木健介：3種のドクターカーの役割分担. 救急医学会総会・学術集会 (第 40 回) (京都 国立京都国際会館), 2012. 11.
- 3) 久野将宗, 鈴木健介, 二宮宣文, 畝本恭子, 諸江雄太, 栗本健太郎, 小柳正雄, 北橋章子, 福田令雄, 苛原隆

之, 金子純也: 当施設におけるドクターカーシステムの現状と今後の展望. 救急医学会総会・学術集会 (第 40 回) (京都 国立京都国際会館), 2012. 11.

(5) セミナー:

- 1) 畝本恭子: 頭部外傷における頭蓋内圧モニタリングへの実際. 日本脳神経外傷学会 (第 36 回) (名古屋), 2013. 3.

(6) ワークショップ:

- 1) 鈴木健介, 二宮宣文, 畝本恭子, 久野将宗, 諸江雄太, 栗本健太郎, 小柳正雄, 苜原隆之, 金子純也, 福田令雄, 北橋章子: 東日本大震災における初動調査の経験から: アセスメントシートが医療支援にもたらすもの. 日本集団災害医学会総会・学術集会 (第 18 回) (神戸), 2013. 1.

(7) 一般講演:

- 1) 池畑直樹¹⁾, 久野将宗, 石之神小織, 諸江雄太, 栗本健太郎, 北橋章子, 福田令雄, 近津大地¹⁾, 二宮宣文⁽¹⁾ (東京医科大学口腔外科講座): 救命救急センターにおける顎顔面骨骨折の臨床統計計画的検討および口腔外科医の役割. 日本臨床救急医学会総会学術集会 (第 15 回) (熊本), 2012. 6.
- 2) 稲村嘉昭¹⁾, 田中秀治¹⁾, 二宮宣文, 高橋宏幸²⁾, 喜熨斗智也¹⁾, 白川 透¹⁾, 長谷川瑛一¹⁾, 斉藤朋香¹⁾, 島崎修次¹⁾ (1) 国士舘大学大学院救急システム研究科, 2) 国士舘大学体育学部スポーツ医科学科): 東京都多摩市における AED マップ作製と効果. 日本臨床救急医学会総会学術集会 (第 15 回) (熊本), 2012. 6.
- 3) 稲村嘉昭¹⁾, 田中秀治¹⁾, 二宮宣文, 久野将宗, 喜熨斗智也¹⁾, 鈴木健介, 白川 透¹⁾, 長谷川瑛一¹⁾, 斉藤朋香¹⁾ (1) 国士舘大学大学院救急システム研究科): 東京都多摩市における AED 適正配置の検討. 日本臨床救急医学会総会学術集会 (第 15 回) (熊本), 2012. 6.
- 4) 苜原隆之, 諸江雄太, 福田令雄, 金子純也, 小柳正雄, 北橋章子, 石之神小織, 久野将宗, 二宮宣文: 腹部外傷による出血性ショックに対し, 大動脈閉塞バルーン (IABO) 併用下に開腹止血術を行い救命した 1 例. 日本臨床救急医学会総会学術集会 (第 15 回) (熊本), 2012. 6.
- 5) Ninomiya N, Kuno M, Suzuki K: The Confined Space Medicine At Tokyo Metropolitan On East Japan Earthquake2011. THE 11th ASIA-PACIFIC CONFERENCE ON EMERGENCY AND DISASTER MEDICINE (11th) (INDONESIA Bali), 2012. 9.
- 6) Irahara T: Medical Support Activity For Great East Japan Earthquake Disaster by small-sized Doctor Car NINO. THE 11th ASIA-PACIFIC CONFERENCE ON EMERGENCY AND DISASTER MEDICINE (11th) (INDONESIA Bali), 2012. 9.
- 7) Kuno M, Koido Y¹⁾, Kondo H¹⁾, Kawashima Y¹⁾, Igarashi Y²⁾, Ishii H²⁾ (1) National Disaster Medical Center, 2) Nipponn Medical School): Holding Disaster Education Seminars in the Lao Peoples Democratic Republic. THE 11th ASIA-PACIFIC CONFERENCE ON EMERGENCY AND DISASTER MEDICINE (11th) (INDONESIA BALI), 2012. 9.
- 8) 久野将宗, 東岡宏明¹⁾, 高桑大介²⁾, 吉岡留美³⁾, 白倉透規⁴⁾, 中野京子⁵⁾ (1) 関東労災病院, 2) 武蔵野赤十字病院, 3) JA-LP ガス情報センター, 4) 立川メディカルセンター 立川総合病院, 5) 株式会社ノルメカエイシア): 日本集団災害医学会が主催する集団災害セミナーのトリアージ教育の効果と今後の課題. 日本集団災害医学会総会・学術集会 (第 18 回) (神戸), 2013. 1.
- 9) 二宮宣文, 久野将宗, 苜原隆之, 鈴木健介: 災害医療は急性期だけではない. 日本集団災害医学会総会・学術集会 (第 18 回) (神戸), 2013. 1.
- 10) 久野将宗, 小井土雄一¹⁾, 近藤久禎¹⁾, 河嶋 譲¹⁾, 五十嵐豊²⁾, 石井浩統²⁾, 藤木 悠²⁾, 葉田甲太³⁾ (1) 国立病院機構災害医療センター, 2) 日本医科大学付属病院 高度救命救急センター, 3) 東和病院): 途上国における災害医療セミナー開催の経験から: ラオス人民民主共和国における事例. 日本集団災害医学会総会・学術集会 (第 18 回) (神戸), 2013. 1.

- 11) 鈴木健介, 根本香代, 二宮宣文, 久野将宗, 横田裕行¹⁾ (1) 日本医科大学院): Fasudil は LPS による皮膚・腸間膜血管透過性亢進を抑制する. 救急医学会総会・学術集会 (第 40 回) (京都 国立京都国際会館), 2012. 11.
- 12) 鈴木健介, 二宮宣文, 畝本恭子, 諸江雄太, 榎本健太郎, 小柳正雄, 北橋章子, 福田令雄, 苛原隆之, 金子純也: 救命救急センターにおける救急救命士病院実習の現状調査. 救急医学会総会・学術集会 (第 40 回) (京都 国立京都国際会館), 2012. 11.
- 13) 二宮宣文, 畝本恭子, 久野将宗, 諸江雄太, 榎本健太郎, 小柳正雄, 北橋章子, 苛原隆之, 金子純也, 福田令雄, 鈴木健介: 死亡時刻の未来予想は出来るか. 救急医学会総会・学術集会 (第 40 回) (京都 国立京都国際会館), 2012. 11.
- 14) 苛原隆之, 諸江雄太, 福田令雄, 金子純也, 北橋章子, 榎本健太郎, 小柳正雄, 久野将宗, 畝本恭子, 二宮宣文: 当センターにおける Acute Care Surgery の現状. 救急医学会総会・学術集会 (第 40 回) (京都 国立京都国際会館), 2012. 11.
- 15) 金子純也, 苛原隆之, 福田令雄, 北橋章子, 久野将宗, 榎本健太郎, 小柳正雄, 諸江雄太, 畝本恭子, 二宮宣文: 頸部刺創の 2 例 血管損傷の評価を中心に. 救急医学会総会・学術集会 (第 40 回) (京都 国立京都国際会館), 2012. 11.
- 16) 井上潤一¹⁾, 小井土雄一¹⁾, 近藤久禎²⁾, 二宮宣文 (1) 国際病院機構災害医療センター救命救急センター, 2) 国際病院機構災害医療センター臨床研究部政策企画研究室長): 東日本大震災における消防と DMAT 等医療チームによる現場活動の分析. 救急医学会総会・学術集会 (第 40 回) (京都 国立京都国際会館), 2012. 11.
- 17) 榎本健太郎, 金子純也, 佐藤 慎, 畝本恭子, 諸江雄太, 久野将宗, 小柳正雄, 福田令雄, 苛原隆之, 溝渕大騎, 根本京子, 二宮宣文: 多発外傷における前頭蓋底骨折の治療戦略. 過大侵襲研究会 (第 46 回) (東京), 2012. 10.
- 18) 溝渕大騎, 苛原隆之, 福田令雄, 諸江雄太, 根本杏子, 金子純也, 北橋章子, 久野将宗, 小柳正雄, 榎本健太郎, 畝本恭子, 二宮宣文: 鼠径ヘルニア嵌頓用手環納による腸管穿孔に対し緊急開腹術を行った 1 例. Acute Care Surgery 研究会 (東京), 2012. 11.
- 19) 苛原隆之, 諸江雄太, 溝渕大騎, 根本杏子, 金子純也, 北橋章子, 榎本健太郎, 小柳正雄, 久野将宗, 畝本恭子, 二宮宣文: 心肺停止蘇生後に診断された穿孔性腹膜炎に対し開腹手術を施行した 1 例. Acute Care Surgery 研究会 (東京), 2012. 11.
- 20) 苛原隆之, 諸江雄太, 福田令雄, 金子純也, 北橋章子, 榎本健太郎, 小柳正雄, 久野将宗, 畝本恭子, 二宮宣文: 当センターにおける重症 ICU 患者に対する早期経腸栄養の取り組み. 日本集中治療医学会 (第 40 回) (松本), 2013. 3.
- 21) 久野将宗, 苛原隆之, 金子純也, 福田令雄, 北橋章子, 小柳正雄, 榎本健太郎, 諸江雄太, 畝本恭子, 二宮宣文: PCPS 管理を行い心停止後に臓器提供となった 1 症例. 日本集中治療医学会 (第 40 回) (松本), 2013. 3.
- 22) Kuno M, Ninomiya N, Suzuki K, Kaneko J, Irahara T, Oyanagi M, Kuwamoto K, Moroe Y, Kitahashi A: The state of consultation and treatment by various medical facilities at disaster-relief shelters-Lessons from medical support activities following the Great Easten Japan Earthquake. THE 11th ASIA-PACIFIC CONFERENCE ON EMERGENCY AND DISASTER MEDICINE (11th) (INDONESIA Bali), 2012. 9.
- 23) 久野将宗, 小井土雄一¹⁾, 近藤久禎¹⁾, 河島 譲¹⁾, 五十嵐豊²⁾, 石井浩統²⁾, 藤木 悠²⁾, 葉田甲太³⁾ (1) 国立病院機構災害医療センター, 2) 日本医科大学付属病院高度救命救急センター, 3) 東和病院): ラオス人民民主主義共和国での災害教育セミナーを開催して. 日本国際保健医療学会 (第 27 回) (岡山), 2012. 11.

[千葉北総病院救命救急センター]

研究業績

論文

[追加分]

追加分原著：

- 1) Kutsukata N¹⁾, Sakamoto Y¹⁾, Mashiko K, Ochi M²⁾ (1) Department of Emergency Disaster Medicine, Saga University Hospital, Emergency Medical Center, (2) Department of Cardiovascular Surgery, Nippon Medical School) : Morphological evaluation of areas of damage in blunt cardiac injury and investigation of traffic accident research. General Thoracic and Cardiovascular Surgery 2012 ; 60 (1) : 31-35.

追加分研究報告書：

- 1) 西本哲也¹⁾, 富永 茂¹⁾, 松井靖浩²⁾, 本村友一, 阪本雄一郎³⁾ (1) 日本大学, (2) 交通安全研究所, (3) 佐賀大学) : 人体組織の衝撃耐性の解明と被害軽減のための安全基準に関する研究 (サステナブルモビリティの実現に向けて). 2011 ; 1-105.

(1) 原著：

- 1) 本村友一¹⁾, 益子邦洋¹⁾, 横田裕行²⁾, ディエトマーオツテ³⁾ (1) 日本医科大学 千葉北総病院 救命救急センター, (2) 日本医科大学 救急医学教室, (3) ドイツハノーファー医科大学附属 交通事故調査ユニット) : 自動四輪車乗員の頭部外傷受傷率における乗車位置間比較検討. 日本外傷学会雑誌 2012 ; 26 (3) : 325-329.
- 2) 本村友一¹⁾, 松本 尚¹⁾, 益子邦洋¹⁾ (1) 日本医科大学千葉北総病院救命救急センター) : 東日本大震災における福島県立医科大学でのドクターヘリ群統制活動の報告—明確化した課題と対策—. 日本集団災害医学会誌 2012 ; 17 (1) : 171-178.
- 3) 富永 茂¹⁾, 西本哲也²⁾, 本村友一³⁾, 益子邦洋³⁾ (1) 日本大学理工学部機械工学科, (2) 日本大学工学部機械工学科バイオメカニクス研究室, (3) 日本医科大学千葉北総病院救命救急センター) : 事故実態調査に基づく自動車乗員の胸腹部傷害の発生条件に関する解析. 自動車技術会論文集 2012 ; 44 (4) : 1073-1078.
- 4) 本村友一¹⁾, 益子邦洋¹⁾, 本村あゆみ²⁾, 岩瀬博太郎²⁾, 織田成人³⁾, 嶋村文彦⁴⁾, 森本文雄⁵⁾, 中西加寿也⁶⁾, 北村伸哉⁷⁾, 金 弘⁸⁾, 岡本 健⁹⁾, 葛西 猛¹⁰⁾, 糟谷美有紀 (1) 日本医科大学千葉北総病院救命救急センター, (2) 千葉大学大学院医学研究院法医学教室, (3) 千葉大学大学院医学研究院救急集中治療医学, (4) 千葉県救急医療センター外傷治療科, (5) 国保松戸市立病院救命救急センター, (6) 成田赤十字病院救命救急センター, (7) 君津中央病院救急・集中治療科, (8) 船橋市立医療センター救命救急センター, (9) 順天堂大学浦安病院救命救急センター, (10) 亀田総合病院救命救急センター) : 千葉県交通事故死亡事例検証会 (平成 21 年) による preventable trauma death の検討. 日本救急医学会雑誌 2012 ; 23 (9) : 383-390.
- 5) 北村啓多¹⁾, 西本哲也²⁾, 本村友一³⁾ (1) 日本大学大学院, (2) 日本大学工学部, (3) 日本医科大学千葉北総病院救命救急センター) : 交通事故実態調査に基づく腹部傷害メカニズムの解析. 日本機械学会 2012 年度論文集 2012 ; 12 (1) : J021024-J021024.
- 6) 三木隆久, 松本 尚, 林田和之, 本村友一, 益子一樹, 安松比呂志, 亀山大介, 齋藤伸行, 益子邦洋 : 外傷性大動脈損傷に対する治療方法の検討. 日本救急医学会関東地方海雑誌第 33 巻 2012 ; 23 (9) : 107-110.
- 7) Kobayashi N¹⁾, Hara N¹⁾, Shimura T²⁾, Yokoyama S¹⁾, Shirakabe A¹⁾, Shinada T¹⁾, Tomita K¹⁾, Murakami D²⁾, Takano M²⁾, Seino Y²⁾, Matsumoto H, Mashiko K, Mizuno K³⁾ (1) Division of Intensive Care Unit, (2) Cardiovascular Center, (3) Department of Cardiovascular Medicine, Nippon Medical School) : Characteristics of Patients With Cardiac Arrest Caused by Coronary Vasospasm. Circulation Journal 2013 ; 77 (3) :

673-678.

- 8) 黒田梨絵¹⁾, 三木明子²⁾, 上野幸廣³⁾, 益子一樹, 河野元嗣³⁾, 益子邦洋 (¹⁾ 筑波大学大学院人間総合科学研究科, ²⁾ 筑波大学医学医療系, ³⁾ 筑波メディカルセンター病院救命救急センター) : 救命救急センターに勤務する医師の職業性ストレスとコーピング特性. 日本航空医療学会雑誌 2013 ; 13 (3) : 3-12.
- 9) Matsumoto H, Kanemaru K, Hara Y, Yagi T, Saito N, Tetsu S, Iida H, Jonishi K, Motomura T, Masuda Y, Hayashida K, Hirabayashi A, Mashiko K, Yokota H¹⁾ (¹⁾ Department of Critical Care Medicine, Nippon Medical School) : Development of an Educational Program for the Helicopter Emergency Medical Services in Japan. Air Medical Journal 2013 ; 32 (2) : 84-87.
- 10) 松本 尚, 益子一樹, 三木隆久, 本村友一, 安松比呂志, 益子邦洋 : 特集 : 膝損傷の外科的治療 膝損傷に対する pancreas preservation 手術の意義. Japanese Journal of Acute Surgery 2012 ; 2 : 11-15.
- 11) Kushimoto S¹⁾, Taira Y¹⁾, Kitazawa Y¹⁾, Okuchi K¹⁾, Sakamoto T¹⁾, Ishikura H¹⁾, Endo T¹⁾, Yamanouchi S¹⁾, Tagami T¹⁾, Yamaguchi J¹⁾, Yoshikawa K¹⁾, Sugata M¹⁾, Kase Y¹⁾, Kanemura T¹⁾, Saito N, et al. (¹⁾ The PiCCO Pulmonary Edema Study Group) : The clinical usefulness of extravascular lung water and pulmonary vascular permeability index to diagnose and characterize pulmonary edema : a prospective multicenter study on the quantitative differential diagnostic definition for acute lung injury/acute respiratory distress syndrome. Critical Care 2012 2012 ; 1-15.

(2) 総説 :

- 1) 益子邦洋, 松本 尚, 林田和之, 本村友一, 益子一樹, 三木隆久, 安松比呂志 : Acute care surgery とは. 消化器外科 2012 ; 35 (8) : 1215-1223.
- 2) 益子邦洋, 松本 尚, 林田和之, 益子一樹 : 3. Damage control surgery の概念, 判断と術式, 周術期管理. 手術 2012 ; 66 (11) : 1539-1545.
- 3) 川俣博志¹⁾, 嶺 貴彦¹⁾, 田島廣之²⁾, 三木隆久, 八木貴典, 吉富有哉, 益子邦洋 (¹⁾ 日本医科大学千葉北総病院放射線科, ²⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院血管内・低侵襲治療センター) : 心大血管・末梢血管外傷の IVR. 臨床画像 2012 ; 28 (10) : 163-172.
- 4) 益子一樹, 益子邦洋 : 心嚢穿刺. 消化器外科 2012 ; 35 (10) : 1501-1504.
- 5) 益子一樹, 松本 尚 : 腸閉塞の治療指標. 救急医学 2012 ; 36 (10) : 1262-1264.
- 6) 益子邦洋 : 若さと Professionalism - 今, 社会に必要とされる若手救急医 特集にあたって. 日本腹部救急医学会雑誌 2012 ; 32 (5) : 887-888.
- 7) 益子邦洋 : 救命救急と緊急輸血. 神奈川輸血研究会誌 2013 ; 4 (1) : 36-40.
- 8) 松本 尚 : II 災害医療メディカルサポート TTT ドクターヘリ. 救急医学 2013 ; 37 (1) : 54-58.

(3) 研究報告書 :

- 1) 益子邦洋, 石川博敏¹⁾, 斎藤有紀子²⁾, 篠田伸夫³⁾, 西川 渉³⁾, 松田徹之, 松本 尚³⁾, 山野 豊 (¹⁾ 自動車安全運転センター (JSDC), ²⁾ 北里大学医学部附属医学教育研究センター 医学原論研究部門, ³⁾ 認定 NPO 法人救急ヘリ病院ネットワーク) : 事故自動通報システム (ACN) が起動するドクターヘリシステムによる交通事故死亡削減効果の研究. タカタ財団助成研究論文集 2012 ; 1-89.
- 2) 益子邦洋, 織田成人¹⁾, 嶋村文彦²⁾, 渋谷正徳³⁾, 中西加寿也⁴⁾, 北村伸哉⁵⁾, 金 弘⁶⁾, 岡本 健⁷⁾, 葛西 猛⁸⁾, 糟谷美有紀⁹⁾, 旭 健一¹⁰⁾, 中村敏親¹⁰⁾ (¹⁾ 千葉大学医学附属病院救急・集中治療部, ²⁾ 千葉県救急医療センター外傷治療科, ³⁾ 国保松戸市立病院, ⁴⁾ 成田赤十字病院救命救急センター, ⁵⁾ 君津中央病院救急・集中治療科, ⁶⁾ 船橋市立医療センター救命救急センター, ⁷⁾ 順天堂大学浦安病院救急診療科, ⁸⁾ 亀田総合病院救命救急センター, ⁹⁾ 旭中央病院救命救急センター, ¹⁰⁾ その他) : 平成 22 年 交通事故死亡事例調査報告書. 平成 22 年 交通事故死亡事例調査報告書 2012 ; 1-43.
- 3) 益子邦洋, 石川博敏²⁾, 斎藤有紀子¹⁾, 篠田伸夫²⁾, 西川 渉²⁾, 松田徹之, 松本 尚²⁾, 山野 豊 (¹⁾ 北里大学

医学部附属医学教育研究センター 医学原論研究部門, ²⁾ 認定 NPO 法人救急ヘリ病院ネットワーク): 事故自動通報システム (ACN) が起動するドクターヘリシステムによる交通事故死亡削減効果の研究. 平成 23 年度タカタ財団助成研究実施報告書 2012; 1-132.

(4) 症例報告:

- 1) 齋藤伸行, 八木貴典, 林田和之, 原 義明, 松本 尚, 益子邦洋, 横田裕行¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学救急医学講座): Staphylococcus intermedius による尿路感染症により高アンモニア血症を来した 1 例. 日本救急医学会雑誌 2012; 23 (5): 205-210.
- 2) 嶺 貴彦¹⁾, 川俣博志¹⁾, 岡田 進¹⁾, 松本 尚, 吉富有哉, 益子邦洋, 村田 智²⁾, 汲田伸一郎²⁾ (¹⁾ 日本医科大学千葉北総病院放射線科, ²⁾ 日本医科大学付属病院放射線科): ICU・CCU: あんな症例, こんな症例 (第 11 回) Damage Control Surgery の一環としての外傷 IVR. ICU と CCU 2013; 37 (2): 162-163.

著 書

[追加分]

追加分:

- 1) 川俣博志¹⁾, 進藤恵美¹⁾, 本村友一 (¹⁾ 日本医科大学千葉北総病院放射線科): [分担] 第 1 章 外傷の IVR ⑥ 四肢外傷 上肢・下肢動脈損傷-出血. 即断即決! できる救急 IVR 手技のコツとポイント (中島康雄 田島廣之 西巻 博 大友康裕), 2012; pp58-59, メジカルビュー社.
- 2) 小濱啓次, 明石勝也, 石原 晋, 加藤啓一, 河村剛史, 阪井裕一, 鈴木正之, 田中経一, 中澤 誠, 野口 宏, 野見山延, 益子邦洋 (¹⁾ 赤十字救急法研究委員会): [追加分監修] 赤十字救急法講習教本 (日本赤十字社), 2011; pp1-127, 株式会社 日赤サービス.
- 3) 小濱啓次, 明石勝也, 石原 晋, 加藤啓一, 河村剛史, 阪井裕一, 鈴木正之, 田中経一, 中澤 誠, 野口 宏, 野見山延, 益子邦洋 (¹⁾ 赤十字救急法研究委員会): [追加分監修] 赤十字救急法基礎講習教本 (日本赤十字社), 2011; pp1-64, 株式会社 日赤サービス.
- 4) 原 義明 (¹⁾ 日本医科大学千葉北総病院 救命救急センター): [分担] 骨折整復と固定法. 救急・集中治療 (久志本成樹), 2011; pp542-548, 総合医学社.
- 1) 梅香 満, 益子邦洋: [分担] 9 溺水. 呼吸器疾患最新の治療 2013-2015 (貫和敏博 杉山幸比古 門田淳一), 2013; pp196-198, 南江堂.
- 2) 小関一英¹⁾, 木村昭夫²⁾, 益子邦洋, 松本 尚 (¹⁾ 帝京平成大学健康メディカル学部医療科学科, ²⁾ 国立国際医療研究センター 救命救急センター): [翻訳] 急性腹症の早期診断病歴と身体所見による診断技能をみがく (監訳/小関一英 監訳協力/木村昭夫・益子邦洋・松本 尚), 2012; pp1-263, メディカル・サイエンス・インターナショナル.
- 3) 益子邦洋: [分担] 腹部外傷に対する開腹術の適応. 今日の治療指針 2013 年版 (山口 徹・北原光夫・福井次矢), 2013; pp64-65, 医学書院.
- 4) 坂本哲也¹⁾, 嶋村光高¹⁾, 鈴木正純¹⁾, 竹内保男¹⁾, 中川 隆¹⁾, 益子邦洋¹⁾, 吉田英法¹⁾ (¹⁾ 応急救護処置教本編集委員会): [編集] 運転者による応急救護処置 (監修/警察庁交通局 編集/応急救護処置教本研修委員会), 2012; pp1-47, 社団法人 全日本指定自動車教習所協会連合会.
- 5) 坂本哲也¹⁾, 嶋村光高¹⁾, 鈴木正純¹⁾, 竹内保男¹⁾, 中川 隆¹⁾, 益子邦洋¹⁾, 吉田英法¹⁾ (¹⁾ 応急救護処置教本編集委員会): [編集] 運転者による応急救護処置 (指導用) (監修/警察庁交通局 編集/応急救護処置教本研修委員会), 2012; pp1-94, 社団法人 全日本指定自動車教習所協会連合会.
- 6) 坂本哲也¹⁾, 嶋村光高¹⁾, 鈴木正純¹⁾, 竹内保男¹⁾, 中川 隆¹⁾, 益子邦洋¹⁾, 吉田英法¹⁾ (¹⁾ 応急救護処置教本編集委員会): [編集] 旅客自動車の運転者による応急救護処置 (監修/警察庁交通局 編集/応急救護処置教本研修委員会), 2012; pp1-80, 社団法人 全日本指定自動車教習所協会連合会.

- 7) 坂本哲也¹⁾, 嶋村光高¹⁾, 鈴木正純¹⁾, 竹内保男¹⁾, 中川 隆¹⁾, 益子邦洋¹⁾, 吉田英法¹⁾ (¹⁾ 応急救護処置教本編集委員会) : [編集] 旅客自動車の運転者による応急救護処置 (指導用) (監修/警察庁交通局 編集/応急救護処置教本研修委員会), 2012 ; pp1-168, 社団法人 全日本指定自動車教習所協会連合会.
- 8) 益子邦洋 : [分担] 問題解説. 第 106 回 医師国家試験問題解説 (国試対策問題編集委員会), 2012 ; pp1-583, メディックメディア.
- 9) 益子邦洋 : [編集] 「指標」・「基準」の使い方とエビデンス (益子邦洋), 2012 ; pp1-1480, へるす出版.
- 10) 益子一樹, 松本 尚 : [分担] 腸閉塞の治療指標. 「指標」・「基準」の使い方とエビデンス (益子邦洋), 2012 ; pp1262-1264, へるす出版.
- 11) 原 義明 : [分担] 骨盤骨折の治療指標. 「指標」・「基準」の使い方とエビデンス (益子邦洋), 2012 ; pp1409-1411, へるす出版.
- 12) 齋藤伸行 : [分担] 輸血, 血液製剤の使用基準. 「指標」・「基準」の使い方とエビデンス (益子邦洋), 2012 ; pp1474-1478, へるす出版.
- 13) 真弓俊彦¹⁾, 大友康裕²⁾, 北野光秀³⁾, 益子邦洋, 山下裕一⁴⁾ (¹⁾ 一宮市立市民病院救命救急センター, ²⁾ 東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科救急災害医学分野, ³⁾ 済生会横浜市東部病院救命救急センター, ⁴⁾ 福岡大学病院消化器外科) : [編集] 手術動画とシエーマでわかる外傷外科手術スタンダード (日本 Acute Care Surgery 学会), 2012 ; pp1-289, 羊土社.
- 14) 益子邦洋 : [分担] 第 1 章 外傷外科治療総論 1. 外傷外科の治療概念. 手術動画とシエーマでわかる外傷外科手術スタンダード (日本 Acute Care Surgery 学会), 2012 ; pp16-23, 羊土社.
- 15) 齋藤伸行, 真弓俊彦¹⁾ (¹⁾ 一宮市立病院救命救急センター) : [分担] 第 1 章 外傷外科治療総論 2. 周術期管理. 手術動画とシエーマでわかる外傷外科手術スタンダード (日本 Acute Care Surgery 学会), 2012 ; pp24-38, 羊土社.
- 16) 松本 尚 : [分担] 第 1 章 外傷外科治療総論 3. 出血性ショック時の大動脈遮断手技. 手術動画とシエーマでわかる外傷外科手術スタンダード (日本 Acute Care Surgery 学会), 2012 ; pp39-42, 羊土社.
- 17) 松本 尚 : [分担] DVD DISC1 第 1 章 外傷外科治療総論 3. 緊急開胸による胸部大動脈遮断. 手術動画とシエーマでわかる外傷外科手術スタンダード (日本 Acute Care Surgery 学会), 2012 ; 羊土社.
- 18) 原 義明 (¹⁾ 日本医科大学千葉北総病院 救命救急センター) : [分担] スポーツ医学と救急医学骨盤. 救急医学, 2012 ; pp1080-1084, へるす出版.

学会発表

[追加分]

追加分シンポジウム :

- 1) 益子邦洋, 吉富有哉, 松本 尚, 原 義明, 八木貴典, 林田和之, 齋藤伸行, 飯田浩章, 上西蔵人, 本村友一, 益子一樹, 三木隆久, 安松比呂志, 亀山大介, 近田祐介 : 救命救急センターで遭遇したアナフィラキシー : ドクターヘリによる搬送例. 日本皮膚科学会東京支部学術集会 (第 76 回), 2012. 2.
- 2) 原 義明, 益子邦洋 : 救命救急センターにおける IC の現状と工夫. 日本精神神経学会 (第 107 回) (東京), 2011. 10.
- 3) 松本 尚 : 災害時のドクターヘリ運用と課題. 日本集団災害医学会 (第 17 回) (石川県金沢市), 2012. 2.

追加分一般講演 :

- 1) 原 義明, 松本 尚, 齋藤伸行, 八木貴典, 林田和之, 飯田浩章, 上西蔵人, 本村友一¹⁾, 川井 真, 益子邦洋¹⁾, 横田裕行 (¹⁾ 日本医科大学千付属病院 高度救命救急センター) : プレホスピタルにおけるシーツラッピングの普及のために. 日本救急医学会 (第 39 回) (東京), 2011. 10.

追加分教育講演：

- 1) 松本 尚：外傷システムの構築と外傷外科に必要な戦術・戦略. 日本腹部救急医学会（第48回）（石川県金沢市），2012. 3.

(1) 特別講演：

- 1) 益子邦洋：地域救急医療体制とメディカルコントロール. おおたかの森地区救急医療連携セミナー 2013, 2013. 2.
- 2) 益子邦洋：外傷症例検討会から外傷学会, そして Acute Care Surgery 学会へ. 外傷症例検討会（第39回）, 2012. 10.
- 3) 益子邦洋：ドクターヘリの現状と展望：Acute Care Surgery と感染症を含めて. 青森救急医療感染症診療講演会, 2012. 10.
- 4) 益子邦洋：プレホスピタルケアの高度化を目指して－ドクターヘリと救急救命士業務拡大－. 宮崎救急医学会（第40回）, 2012. 8.

(2) 招待講演：

- 1) Mashiko K：Realizing the potential：challenges and opportunities for HEMS in Japan / Asia. AgustaWestland EMS Seminar (1st)（イタリア/ローマ）, 2012. 9.

(3) 教育講演：

- 1) 松本 尚：過去の DMAT 活動経験から. 日本臨床工学会（第22回）（富山県富山市）, 2012. 5.

(4) 基調講演：

- 1) 益子邦洋：医工連携のイノベーション－世界と闘える態勢の構築へ向けて－. 日本交通科学協議会総会・学術講演会（第48回）, 2012. 6.

(5) シンポジウム：

- 1) 林田和之, 松本 尚, 益子一樹, 三木隆久, 安松比呂志, 本村友一, 益子邦洋：IIIb 型肝損傷に対する Damage Control Strategy. Acute Care Surgery 研究会学術集会（第4回）, 2012. 11.
- 2) 益子邦洋, 大友康裕¹⁾, 北野光秀²⁾, 久志本成樹³⁾, 七戸俊明⁴⁾, 村尾佳則⁵⁾, 坂本照夫⁶⁾, 椰野正人⁷⁾, 袴田健一⁸⁾, 溝端康光⁹⁾, 山下裕一¹⁰⁾, 横田順一朗¹⁰⁾（¹⁾ 東京医科歯科大学救命救急センター, ²⁾ 済生会横浜市東部病院救命救急センター, ³⁾ 東北大学救急医学, ⁴⁾ 北海道大学消化器外科 II, ⁵⁾ 近畿大学救命救急センター, ⁶⁾ 久留米大学高度救命救急センター, ⁷⁾ 名古屋大学消化器外科, ⁸⁾ 弘前大学消化器乳腺甲状腺外科, ⁹⁾ 大阪市立大学救急生体管理医学, ¹⁰⁾ その他）：Acute Care Surgeon に必要な胸部外傷の Decision Making と手術手技. 日本外科学会（第112回）, 2012. 4.
- 3) 本村友一, 齋藤伸行, 八木貴典, 松本 尚, 益子邦洋：ドクターヘリが実現する重症患者救命のための『医師派遣と集約化』. 日本集中治療医学会学術集会（第40回）, 2013. 2.
- 4) 益子一樹, 松本 尚, 林田和之, 八木貴典, 齋藤伸行, 三木隆久, 安松比呂志, 益子邦洋：Acute care surgery への取り組み：実践と教育. 日本腹部救急医学会（第49回）, 2013. 3.
- 5) 上西蔵人, 原 義明, 飯田浩章, 平林篤志, 大西惟貴, 高松広周, 川井 真¹⁾（¹⁾ 日本医科大学救命救急センター）：寛骨臼複合骨折の治療成績. 骨折治療学会（第38回）（東京）, 2012. 6.

(6) パネルディスカッション：

- 1) 本村友一, 益子邦洋：我が国の医工連携交通事故マイクロ調査のあり方：真実を掴まずして世界一の外傷予防なし. 日本交通科学協議会総会・学術講演会（第48回）, 2012. 6.
- 2) 益子一樹, 松本 尚, 本村友一, 八木貴典, 原 義明, 益子邦洋, 横田裕行¹⁾（¹⁾ 日本医科大学救急医学）：局地災害・複数傷病者事案対応を見据えた複数ドクターヘリ運用体制. 日本救急医学会総会・学術集会（第40回）, 2012. 11.

- 3) 八木貴典, 齋藤伸行, 本村友一, 益子一樹, 安松比呂志, 亀山大介, 大西惟貴, 原 義明, 松本 尚, 益子邦洋, 横田裕行¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院): HEMSを用いた現場緊急開胸の検討. 日本航空医療学会総会 (第19回), 2012. 12.
 - 4) 清水直樹¹⁾, 六車 崇²⁾, 植松悟子²⁾, 井上信明¹⁾, 八木貴典, 北村伸哉³⁾, 松本 尚, 益子邦洋 (1) 東京都立小児総合医療センター, 2) 成育医療研究センター, 3) 君津中央病院): 重篤小児集約拠点の確立におけるドクターヘリ連携とドクターカー機能高度化の検討. 日本救急医学会総会・学術集会 (第40回), 2012. 11.
 - 5) 松本 尚, 林田和之, 益子一樹, 三木隆久, 本村友一, 安松比呂志, 益子邦洋: Acute care surgeryの本流: 重症外傷を如何に救うか. Acute Care Surgery研究会学術集会 (第4回), 2012. 11.
 - 6) 齋藤伸行, 八木貴典, 原 義明, 松本 尚, 益子邦洋: 災害外傷診療と Damage control resuscitation. 日本輸血・細胞治療学会 (第60回), 2012. 5.
 - 7) 安松比呂志, 益子一樹, 林田和之, 松本 尚, 益子邦洋, 横田裕行¹⁾ (1) 日本医科大学救急医学): 当施設における腹腔内臓器損傷の戦略. 日本腹部救急医学会総会 (第49回) (福岡県福岡市), 2013. 3.
- (7) セミナー:
- 1) 齋藤伸行: ショックに対する血行動態モニタリング: What is the next hemodynamic target?. 日本外傷学会総会・学術集会 (第26回), 2012. 5.
 - 2) 益子邦洋: 救命救急医療の現状と緊急輸血: ERでは何が起きているのか Part3. 日本輸血・細胞治療学会 (第60回), 2012. 5.
 - 3) 齋藤伸行: ショックに対する血行動態モニタリングあなたは何を指標に治療しますか?. 日本救急医学会・学術集会教育セミナー6, 2012. 11.
 - 4) 益子邦洋: 医・工連携のイノベーション: 交通事故の調査分析と救急医療. 交通科学安全セミナー (第41回), 2013. 2.
- (8) ワークショップ:
- 1) 益子一樹, 松本 尚, 林田和之, 安松比呂志, 三木隆久, 齋藤伸行, 八木貴典, 益子邦洋, 横田裕行¹⁾ (1) 日本医科大学救急医学): 重症ショックに対するダメージコントロールを可能にする“Resuscitation”. 日本消化器外科学会 (第67回), 2012. 7.
 - 2) 安松比呂志, 齋藤伸行, 本村友一, 三木隆久, 益子一樹, 林田和之, 松本 尚, 益子邦洋, 横田裕行¹⁾ (1) 日本医科大学救急医学): 緊急開腹手術における皮下閉鎖式ドレーンの有用性の検討. 日本外科感染症学会総会 (第25回) (千葉県千葉市幕張), 2012. 11.
- (9) サージカルフォーラム:
- 1) 松本 尚, 林田和之, 益子一樹, 三木隆久, 本村友一, 安松比呂志, 原 義明, 益子邦洋: 超重症体幹部外傷に必要な手術手技と治療成績. 日本外科学会 (第112回), 2012. 4.
- (10) 一般講演:
- 1) 本村友一, 林田和之, 益子一樹, 安松比呂志, 原 義明, 八木貴典, 松本 尚, 益子邦洋: 事故自動通報システムが起動するドクターヘリによる救命の可能性. 日本航空医療学会総会 (第19回) (千葉県木更津市), 2012. 12.
 - 2) 富永 茂¹⁾, 菊池厚躬²⁾, 西本哲也²⁾, 本村友一³⁾, 益子邦洋³⁾ (1) 日本大学理工学部機械工学科, 2) 日本大学理工学部機械工学科バイオメカニクス研究室, 3) 日本医科大学千葉北総病院救命救急センター): 事故実態調査に基づく自動車乗員の胸腹部傷害の発生条件に関する解析. 自動車技術会春季学術講演会 (横浜), 2012. 5.
 - 3) Motomura T, Matsumoto H, Mashiko K, Sakamoto Y¹⁾, Matsui Y²⁾, Tominaga S³⁾, Nishimoto T⁴⁾ (1) Department of Emergency and Critical Care Medicine, Saga University Hospital, 2) National Traffic Safety and Environment Laboratory, 3) College of Science and Technology, Nihon University, 4) Nihon University Biomechanics Research Unit): Problems in cases of preventable trauma death following traffic accidents in

Chiba prefecture, Japan in 2009. European Congress of Trauma and Emergency Surgery (13rd) (Basel, Switzerland), 2012. 5.

- 4) Motomura T, Matsumoto H, Mashiko K, Sakamoto Y¹⁾, Matsui Y²⁾, Tominaga S³⁾, Nishimoto T⁴⁾ (1) Department of Emergency and Critical Care Medicine, Saga University Hospital, 2) National Traffic Safety and Environment Laboratory, 3) College of Science and Technology, Nihon University, 4) Nihon University Biomechanics Research Unit) : IN-DEPTH INVESTIGATION OF TRAFFIC ACCIDENTS EARLY AFTER THE EVENT CAN BE USEFUL TO TREATMENT. World Trauma Congress (1st) (Rio de Janeiro, Brasil), 2012. 8.
- 5) 本村友一¹⁾, 平林篤志¹⁾, 吉富有哉¹⁾, 安松比呂志¹⁾, 松本 尚¹⁾, 益子邦洋¹⁾, 阪本雄一郎²⁾, 松井靖浩³⁾, 富永茂⁴⁾, 西本哲也⁵⁾ (1) 日本医科大学千葉北総病院救命救急センター, 2) 佐賀大学医学部附属病院救命救急センター, 3) 独立行政法人交通安全環境研究所, 4) 日本大学理工学部機械工学科, 5) 日本大学工学部機械工学科バイオメカニクス研究室) : 早期交通事故ミクロ調査の外傷診療への有益性について. 日本救急医学会 (第40回) (京都), 2012. 11.
- 6) 本村友一¹⁾, 松本 尚¹⁾, 益子邦洋¹⁾ (1) 日本医科大学千葉北総病院救命救急センター) : 医師派遣現場からの動画伝送システム共同開発の現状. 日本救急医学会 (第40回) (京都), 2012. 11.
- 7) 薄衣佑太郎¹⁾, 宇治橋貞幸¹⁾, 本村友一²⁾ (1) 東京工業大学, 2) 日本医科大学 千葉北総病院 救命救急センター) : 群集事故における呼吸障害に関する実験的研究. バイオエンジニアリング講演会 (第40回) (筑波市), 2013. 1.
- 8) 本村あゆみ¹⁾, 本村友一, 千葉文子¹⁾, 猪口 剛¹⁾, 岩瀬博太郎¹⁾, 八木貴典, 原 義明, 松本 尚, 益子邦洋 (1) 千葉大学大学院医学研究院法医学教室) : 救急法医療カンファレンスの試み. 日本救急医学会総会・学術集会 (第40回), 2012. 11.
- 9) 松本 勉¹⁾, 本村友一²⁾, 松本 尚²⁾, 益子邦洋²⁾ (1) 栄町消防本部, 2) 日本医科大学千葉北総病院救命救急センター) : MC 主催によるエマルゴトレインシステムを用いた机上訓練の有用性について. 全国救急隊員シンポジウム (第21回) (岡山), 2013. 1.
- 10) 上西蔵人, 原 義明, 飯田浩章, 平林篤志, 大西惟貴, 高松広周, 松本 尚, 益子邦洋, 川井 真¹⁾, 横田裕行¹⁾ (1) 日本医科大学 高度救命救急センター) : 外傷性下肢切断症例の検討. 日本臨床救急医学会総会・学術集会 (第15回), 2012. 6.
- 11) 上田太一郎, 安松比呂志, 益子一樹, 林田和之, 松本 尚, 益子邦洋 : 重症急性膀胱炎後の感染性膀胱壊死に対して段階的治療が奏功した1例. 千葉重症感染症研究会 (第8回), 2012. 6.
- 12) 上田太一郎 : ドクターヘリによる医師現場出動によって救命し得た外傷性窒息の1例. 東葛地区救急カンファレンス (第13回), 2012. 9.
- 13) 齋藤伸行 : 薬剤耐性菌は人口呼吸器関連肺炎の死亡率を上昇させるか. 日本感染症学会学術集会 (第87回) (長崎), 2012. 4.
- 14) Onishi Y, Saito N, Yagi T, Hara Y, Matsumoto H, Okada S, Mashiko K : CAN WE PREDICT INTRA-PELVIC MAJOR ARTERIAL BLEEDING IN PATIENTS WITH STABLE PELVIC FRACTURE FROM THE SIZE OF RETROPERITONEAL HEMATOMA ON ENHANCED CT SCANS?. アメリカ外傷外科学会 (第71回) (アメリカ カウアイ, ハワイ), 2012. 9.
- 15) 上西蔵人, 原 義明, 飯田浩章, 平林篤志, 高松広周, 大西惟貴, 松本 尚, 益子邦洋, 川井 真¹⁾, 横田裕行¹⁾ (1) 日本医科大学高度救命救急センター) : 当科における重症骨盤骨折の初期治療戦略は妥当か?. 日本救急医学会総会・学術集会 (第40回), 2012. 11.
- 16) 飯田浩章, 高松広周, 大西惟貴, 平林篤志, 上西蔵人, 齋藤伸行, 原 義明, 松本 尚, 益子邦洋, 川井 真¹⁾, 横田裕行¹⁾ (1) 日本医科大学高度救命救急センター) : 機械による上肢巻き込み外傷の検討. 日本救急医学会総

会・学術集会（第40回），2012. 11.

- 17) 齋藤伸行, 八木貴典, 林田和之, 原 義明, 松本 尚, 益子邦洋: 出血性ショックに対する大量輸血後の Transfusion associated circulatory overload にする検討. 日本救急医学会総会・学術集会（第40回）, 2012. 11.
- 18) 亀山大介, 松本 尚, 益子一樹, 本村友一, 林田和之, 齋藤伸行, 八木貴典, 益子邦洋: 千葉県ラピッドカー運用の現状とこれから. 日本救急医学会総会・学術集会（第40回）, 2012. 11.
- 19) 平林篤志, 齋藤伸行, 八木貴典, 原 義明, 松本 尚, 益子邦洋: 重症鈍的外傷における活性型 VII 因子製剤使用に関する検討. 日本救急医学会総会・学術集会（第40回）, 2012. 11.
- 20) 黒田梨絵¹⁾, 三木明子²⁾, 上野幸廣³⁾, 益子一樹, 河野元嗣³⁾, 益子邦洋 (¹⁾ 筑波大学大学院 人間総合科学研究科, ²⁾ 筑波大学 医学医療系, ³⁾ 筑波メディカルセンター病院 救命救急センター): ドクターヘリに搭乗する医師と看護師 PTSD と出来事体験後の認知. 日本航空医療学会総会（第19回）, 2012. 12.
- 21) 安松比呂志, 松本 尚, 亀山大介, 益子一樹, 八木貴典, 原 義明, 益子邦洋, 本庄貴志, 水野憲宏, 星島洋子, 白石恵美, 二俣美鶴, 大森章代, 横田裕行¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学付属病院高度救命救急センター): 重症体幹部外傷に対する超積極的出血制御への挑戦. 日本航空医療学会総会（第19回）, 2012. 12.
- 22) 亀山麻子, 齋藤伸行, 八木貴典, 原 義明, 松本 尚, 益子邦洋 (¹⁾ 日本医科大学救急医学): 人工呼吸患者における 3 系脂肪酸含有経腸栄養製剤の有効性の検討-Propensity score matching analysis-. 日本救急医学会総会・学術集会（第40回）, 2012. 11.
- 23) 高松広周, 益子邦洋, 松本 尚, 原 義明, 八木貴典, 林田和之, 齋藤伸行, 飯田浩章, 上西蔵人, 本村友一, 益子一樹: 不安定型骨盤骨折に対する創外固定の pin site infection に関する検討. 日本救急医学会総会・学術集会（第40回）, 2012. 11.
- 24) 亀山麻子, 齋藤伸行, 八木貴典, 吉富有哉, 亀山大介, 近田祐介, 松本 尚, 益子邦洋: 気管挿管後の遅延性上気道狭窄による 3 症例についての検討. 日本救急医学会関東地方会（第63回）, 2013. 2.
- 25) 近田祐介, 齋藤伸行, 八木貴典, 原 義明, 松本 尚, 益子邦洋, 横田裕行¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学付属病院高度救命救急センター): 救命救急センターに搬送された軽症小児頭部外傷における CT 適応基準の妥当性の検討. 日本救急医学会関東地方会（第63回）, 2013. 2.
- 26) 上田太一郎, 林田和之, 齋藤伸行, 吉富有哉, 亀山大介, 安松比呂志, 三木隆久, 益子一樹, 本村友一, 上西蔵人, 飯田浩章, 八木貴典, 原 義明, 松本 尚, 益子邦洋: 当院における頸部鋭的外傷症例の検討. 日本救急医学会関東地方会（第63回）, 2013. 2.
- 27) 佐藤格夫¹⁾, 小池 薫¹⁾, 村田希吉²⁾, 大友康裕²⁾, 益子邦洋 (¹⁾ 京都大学 初診診療・救急科, ²⁾ 東京医科歯科大学 救命救急センター): World Society of Emergency Surgery による CIAOW Study の紹介. Acute Care Surgery 研究会学術集会（第4回）, 2012. 11.
- 28) 益子一樹, 安松比呂志, 三木隆久, 林田和之, 松本 尚, 益子邦洋: ダメージコントロール戦略にて救命しえた重症胸部外傷の 1 例. Acute Care Surgery 研究会学術集会（第4回）, 2012. 11.
- 29) 亀山大介, 松本 尚, 飯田浩章, 上西蔵人, 林田和之, 齋藤伸行, 八木貴典, 益子邦洋: 千葉県ラピットカー: 運用の現状とこれから. 千葉県救急医療研究会（第15回）, 2012. 4.
- 30) 齋藤伸行, 八木貴典, 飯田浩章, 原 義明, 松本 尚, 益子邦洋: 鈍的外傷患者における大動脈遮断バルーンを用いた治療戦略. 日本外傷学会（第26回）, 2012. 5.
- 31) 安松比呂志, 林田和之, 益子一樹, 三木隆久, 本村友一, 松本 尚, 益子邦洋, 横田裕行¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学高度救命救急センター): 重症肝損傷に対する DCS+TAE - “hybrid bleeding control”. 日本外傷学会（第26回）, 2012. 5.
- 32) 吉富有哉, 本村友一, 安松比呂志, 益子一樹, 松本 尚, 益子邦洋: 車×車の交通事故にて来院したシートベルト外傷の 1 例. 日本交通科学協議会総会・学術講演会（第48回）, 2012. 6.
- 33) 亀山麻子, 亀山大介, 吉富有哉, 齋藤伸行, 八木貴典, 益子邦洋: 当センターにおける ARDS 患者の予後予測

- 因子についての検討. 日本集中治療医学会学術集会 (第 40 回), 2013. 2.
- 34) 齋藤伸行, 加瀬寛恵¹⁾, 八木貴典, 益子邦洋⁽¹⁾ (日本医科大学千葉北総病院集中治療室): 声門下吸引付き気管チューブの人工呼吸器関連肺炎予防に関する無作為臨床試験. 日本集中治療医学会学術集会 (第 40 回), 2013. 2.
 - 35) 吉富有哉, 亀山麻子, 亀山大介, 八木貴典, 益子邦洋: 敗血症性ショック患者におけるミルリノンの使用経験. 日本集中治療医学会学術集会 (第 40 回), 2013. 2.
 - 36) 亀山大介, 亀山麻子, 吉富有哉, 齋藤伸行, 八木貴典, 原 義明, 松本 尚, 益子邦洋: 当救命救急センターにおける長期人工呼吸患者の予後の調査. 日本集中治療医学会学術集会 (第 40 回), 2013. 2.
 - 37) 齋藤伸行, 志馬伸朗¹⁾, 杉山和宏¹⁾, 石井賢造¹⁾, 増田幸子¹⁾, 坂本和嘉子¹⁾, 森田敏夫¹⁾, 金村剛宗¹⁾ (1) VAP Net-JCCMC): 救命救急センターにおける人工呼吸器関連肺炎に関する疫学調査. 日本集中治療医学会学術集会 (第 40 回), 2013. 2.
 - 38) 安松比呂志: 局所災害において希少な医療チームという資源を有効に活用するには. 千葉救急集中治療「ここが知りたい」フォーラム」(第 8 回), 2012. 10.
 - 39) 益子邦洋, 松本 尚, 八木貴典, 本村友一, 鈴木春男¹⁾, 榛澤芳雄¹⁾, 安井一彦¹⁾, 大橋秀幸¹⁾, 西田 泰¹⁾ (1) 千葉県交通事故調査委員会): 歩行中事故死者の障害部位と外傷診療体制の課題 - 千葉県交通事故調査委員会の分析より -. GIA フォーラム: 歩行者の死傷事故ゼロを目指して, 2012. 5.
 - 40) 石川博敏¹⁾, 益子邦洋, 松本 尚, 松田徹之¹⁾, 葛巻清吾²⁾, 藤田浩一²⁾ (1) 認定 NPO 法人救急ヘリ病院ネットワーク, 2) トヨタ自動車): AACN とドクターヘリを結ぶ救命救急医療システムの開発に向けた実証実験. GIA フォーラム: 交通事故傷害予測実現のための戦略～ドライブ・レコーダや EDR などの活用～, 2012. 5.
 - 41) Matsumoto H: Trauma system construction through Japanese HEMS system. WORLD TRAUMA CONGRESS 2012 (Rio de Janeiro/Brazil), 2012. 8.
 - 42) Matsumoto H: Role of resuscitative thoracotomy at the scene. WORLD TRAUMA CONGRESS 2012 (Rio de Janeiro/Brazil), 2012. 8.
 - 43) Matsumoto H: Prehospital care in Japan. WORLD TRAUMA CONGRESS 2012 (Rio de Janeiro/Brazil), 2012. 8.
 - 44) Saito N: Prevention of ventilator-associated pneumonia by early tracheostomy in patients with trauma: propensity score matching analysis. European Society of Intensive Care Medicine (25th) (Lisbon, Portugal), 2012. 10.
 - 45) 齋藤伸行, 八木貴典, 飯田浩章, 上西蔵人, 原 義明, 松本 尚, 益子邦洋: 救命救急センターにおける頸髄損傷患者の人工呼吸離脱予測に関する検討. 日本呼吸療法医学会学術集会 (第 34 回), 2012. 7.
 - 46) 三木隆久, 松本 尚, 林田和之, 本村友一, 益子一樹, 安松比呂志, 齋藤伸行, 八木貴典, 益子邦洋: 降下性壊死性縦隔炎に対し頸部アプローチで縦隔ドレナージを施行した症例. Acute Care Surgery 研究会, 2012. 11.
 - 47) 齋藤伸行¹⁾, 本村友一¹⁾, 三木隆久¹⁾, 益子一樹¹⁾, 林田和之¹⁾, 松本 尚¹⁾, 益子邦洋¹⁾, 横田裕行²⁾ (1) 日本医科大学千葉北総病院救命救急センター, 2) 日本医科大学救急医学): 緊急開腹手術における皮下閉鎖式ドレインの有用性の検討. 日本外科感染症学会総会 (第 25 回) (ホテルニューオータニ幕張), 2012. 11.
 - 48) 本村友一, 亀山大介, 益子一樹, 松本 尚, 益子邦洋: 成田国際空港の実践災害訓練: 航空機災害を想定したエマルゴトレーニング. 日本集団災害医学会 (第 18 回) (神戸市), 2013. 1.
 - 49) 上西蔵人, 原 義明, 飯田浩章, 川井 真¹⁾ (1) 日本医科大学救命救急センター): 大腿骨転子下骨折の治療成績. 日本股関節学会 (第 39 回) (新潟), 2012. 12.
 - 50) Jonishi K, Hara Y, Matsumoto H, Kawai M¹⁾, Mashiko K (1) 日本医科大学救命救急センター): Clinical outcomes of complex acetabular fractures. 17th Congress of Asia Pacific Orthopaedic Association (delhi, India), 2012. 10.

- 51) Jonishi K, Hara Y, Kawai M¹⁾, Matsumoto H, Mashiko K ^{(1) 日本医科大学救命救急センター} : Complex Limb Salvage or Early or Late Amputation? Clinical Outcomes for Gustilo IIIB Lower Extremity Fractures. international society of orthopaedic surgery and traumatology (33rd) (Dubai, United Arab Emirates), 2012. 11.
- 52) 原 義明, 飯田浩章, 上西蔵人, 平林篤志, 高松広周, 大西惟貴, 川井 真¹⁾ ^{(1) 日本医科大学病院 高度救命救急センター} : 当施設における偽関節の現状と治療戦略. 骨折治療学会 (第38回) (東京), 2012. 6.
- 53) 亀山麻子, 齋藤伸行 : 急激な進行により敗血症性ショックを呈した Aeromonas 感染症の1症例. 日本感染症学会学術講演会 (第87回) (長崎ブリックホール), 2012. 4.
- 54) 亀山麻子, 實川東洋¹⁾, 吉富有哉, 亀山大介, 齋藤伸行, 八木貴典, 松本 尚, 益子邦洋 ^{(1) 日本医科大学千葉北総病院 薬剤部} : MRSA 治療における当科のバンコマイシン投与量設計についての検討. MRSA フォーラム (第3回) (東京京王プラザ), 2012. 7.
- 55) 亀山麻子, 齋藤伸行, 八木貴典, 益子邦洋, 横田裕行¹⁾ ^{(1) 日本医科大学 高度救命救急センター} : 敗血症性ショックに対してPDEIII 阻害薬が有効であった症例. 日本 Shock 学会総会 (第27回) (東京都千代田区 砂防会館), 2012. 5.
- 56) 平林篤志, 上西蔵人, 飯田浩章, 大西惟貴, 高松広周, 原 義明, 川井 真¹⁾ ^{(1) 日本医科大学救急医学} : 髓内釘を使用した下肢開放骨折に対するLIPUS照射の有用性の検討. 骨折治療学会 (第38回) (東京), 2012. 6.
- (11) 研究報告 :
- 1) 益子邦洋 : 事故自動通報システム (ACN) が起動するドクターヘリシステムによる交通事故死亡削減効果の研究. タカタ財団助成研究報告会 (第3回), 2012. 6.
- (12) 動画セッション :
- 1) 本村友一, 安松比呂志, 三木隆久, 益子一樹, 林田和之, 松本 尚, 益子邦洋, 横田裕行¹⁾ ^{(1) 日本医科大学救急医学講座} : 小児重症肝損傷症例. 日本外傷学会 (第26回), 2012. 5.
- 2) 上西蔵人, 原 義明, 飯田浩章, 平林篤志, 大西惟貴, 高松広周, 松本 尚, 益子邦洋, 大泉 旭¹⁾, 川井 真¹⁾, 横田裕行¹⁾ ^{(1) 日本医科大学高度救命救急センター} : 重症骨盤骨折の初期治療における pelvic packing の効果と限界. 日本外傷学会 (第26回), 2012. 5.

25. 形成外科学

[付属病院形成外科・美容外科]

研究業績

論文

[追加分]

追加分原著：

- 1) Mateev M¹⁾, Huang C^{2, 3)}, Imanaliev A¹⁾, Ono S³⁾, Hyakusoku H³⁾, Ogawa R³⁾ (1) Department of Plastic and Reconstructive Microsurgery and Hand Surgery, National Hospital of Kyrgyzstan, Bishkek, Kyrgyzstan, 2) Department of Plastic Surgery, Meitan General Hospital, Beijing, China, 3) Department of Plastic, Reconstructive and Aesthetic Surgery) : Combining the External Fixation and Microsurgical Osteoseptocutaneous Flap Transplantation Methods for Limb Salvage. *Eplasty* 2012 ; 12 (1) : e16-e16.
- 2) Agha R¹⁾, Ogawa R²⁾, Pietramaggiore G³⁾, Orgill D³⁾ (1) National Institute of Health and Clinical Excellence Scholar, Department of Vascular Surgery, Cambridge University Hospitals NHS Foundation Trust, 2) Department of Plastic and Reconstructive Surgery, Nippon Medical School, 3) Division of Plastic Surgery, Brigham and Womens Hospital, Boston) : A review of the role of mechanical forces in cutaneous wound healing. *J Surg Res* 2011 ; 171 (2) : 700-708.
- 3) Paolo E¹⁾, Ogawa R²⁾, Raj V, Orgill D¹⁾ (1) Division of Plastic Surgery, Brigham and Womens Hospital, 2) Department of Plastic, Reconstructive and Aesthetic Surgery) : Reply : The Reconstructive Ladder in Light of Evidence-Based Medicine. *Plast Reconstr Surg* 2011 ; 127 (2) : 1018-1019.
- 4) Ono S, Ogawa R, Hyakusoku H : Reply : Finding a Favorable Treatment of polyacrylamide hydrogel Injection Complication. *Plast Reconstr Surg* 2011 ; 127 (6) : 2510-2511.
- 5) Ogawa R¹⁾, Okai K²⁾, Tokumura F³⁾, Mori K²⁾, Ohmori Y¹⁾, Huang C¹⁾, Hyakusoku H¹⁾, Akaishi S¹⁾ (1) Department of Plastic, Reconstructive and Aesthetic Surgery, Nippon Medical School, 2) Research and Development Department, Nichiban Co., Ltd, Tokyo, 3) Medicinal Safety Information Group, Nichiban Co., Ltd, Hidaka) : The relationship between skin stretching/contraction and pathologic scarring : The important role of mechanical forces in keloid generation. *Wound Repair Regen* 2012 ; 20 (2) : 149-157.

(1) 原著：

- 1) 小野真平¹⁾, 林 宏光²⁾, 百束比古¹⁾ (1) 形成外科, 2) 放射線科) : 超薄皮弁・プロペラ皮弁による躯幹・四肢再建, 特集 : マイクロサージャリー技術の進歩とその応用. *整形・災害外科* 2012 ; 55 (4) : 365-374.
- 2) Ono S, Ogawa R, Takami Y, Hyakusoku H : A case of Breast Reconstruction with Bilaterally divided Transverse Rectus Abdominis Musculocutaneous Flaps after Removal of Injected Silicone and Granuloma. *J Nippon Med Sch* 2012 ; 79 (3) : 223-227.
- 3) 陳 貴史^{1, 2)}, 河邊京子^{1, 2)}, 百束比古²⁾ (1) 伏見駅前陳皮フ科, 2) 日本医科大学形成外科) : 金の糸と種々のレーザー・高周波機器との相互作用における短期間実験的検討. *日美外報* 2012 ; 34 (2) : 1-7.
- 4) 小川 令, 赤石論史, 秋田定伯¹⁾, 土佐泰祥²⁾, 山脇聖子³⁾, 岡部圭介⁴⁾, 長尾宗朝⁵⁾, 山本 純⁶⁾ (1) 長崎大学医学部形成外科, 2) 昭和大学形成外科, 3) 京都大学医学研究科形成外科, 4) 慶應義塾大学形成外科, 5) 岩手医科大学形成外科, 6) 関西医科大学形成外科) : 癬痕・ケロイド治療研究会ケロイド・肥厚性傷跡分類・評価表作

成ワーキンググループ【ケロイド・肥厚性瘢痕の分類・評価】ケロイド・肥厚性瘢痕分類・評価表 2011 (JSW Scar Scale 2011). 瘢痕・ケロイド治療ジャーナル 2012; 6 (1) : 19-22.

- 5) 小川 令, 黄 晨昱, 赤石論史, 百束比古: ケロイドの網羅的遺伝子発見解析およびシグナル伝達経路のバイオインフォマティクス解析. 瘢痕・ケロイド治療研究ジャーナル 2012; 6 (1) : 23-24.
- 6) 飯村剛史¹⁾, 小野真平¹⁾, 林 宏光²⁾, 中尾淳一¹⁾, 土肥輝之¹⁾, 赤石論史¹⁾, 百束比古¹⁾, 小川 令¹⁾ (1) 形成外科, ²⁾ 放射線科): MDCTによる胸部ケロイドの生理学的血行動態の解析. 瘢痕・ケロイド治療研究ジャーナル 2012; 6 (1) : 29-31.
- 7) 栗林茂彦¹⁾, 宮下次廣¹⁾, 小澤由季子¹⁾, 岩野茉莉恵¹⁾, 小川 令²⁾, 赤石論史²⁾, 土肥輝之²⁾, 百束比古²⁾, 汲田伸一郎¹⁾ (1) 放射線医学, ²⁾ 形成外科・美容外科): 高線量率小線源治療装置によるケロイドの術後照射. 瘢痕・ケロイド治療研究ジャーナル 2012; 6 (1) : 52-54.
- 8) 土佐真美子¹⁾, 村上正洋¹⁾, 百束比古²⁾ (1) 武蔵小杉病院形成外科, ²⁾ 付属病院形成外科・美容外科): ケロイド発症年齢の検討. 瘢痕・ケロイド治療研究ジャーナル 2012; 6 (1) : 69-70.
- 9) 青木 律¹⁾, ²⁾ (1) グリーンウッドスキンクリニック立川, ²⁾ 付属病院形成外科・美容外科): 冷却脂肪融解術 (cryolipolysis) による軀幹の瘦身治療について. PEPARS 2012; 67 (1) : 45-53.
- 10) Uysal C¹⁾, Tobita M²⁾, Hyakusoku H²⁾, Mizuno H²⁾ (1) Department of Plastic and Reconstructive Surgery, Baskent University Faculty of Medicine, Ankara, Turkey, ²⁾ Department of Plastic, Reconstructive and Aesthetic Surgery): Adipose-derived stem cells enhance primary tendon repair: Biomechanical and immunohistochemical evaluation. J Plast Reconstr Aesthet Surg 2012; 65 (12) : 1712-1719.
- 11) Ono S¹⁾, Ogawa R¹⁾, Hayashi H²⁾, Takami Y¹⁾, Hyakusoku H¹⁾ (1) Department of Plastic, Reconstructive and Aesthetic Surgery, ²⁾ Department of Radiology): How large can a pedicled perforator flap be?. Plast Reconstr Surg 2012; 130 (1) : 195e-196e.
- 12) Ono S, Ogawa R, Eura S, Takami Y, Hyakusoku H: Perforator-supercharged perforator-based propeller flaps. Plast Reconstr Surg 2012; 129 (5) : 875e-877e.
- 13) Ono S¹⁾, Chung K²⁾, Takami Y¹⁾, Chin T¹⁾, Ogawa R¹⁾, Gao J³⁾, Hyakusoku H¹⁾ (1) Department of Plastic, Reconstructive and Aesthetic Surgery, ²⁾ Department of Surgery, Section of Plastic Surgery, University of Michigan Health System, ³⁾ Nan-fang Medical University): Perforator-supercharged occipitocervicopectoral flaps for lower face and neck reconstruction. Plast Reconstr Surg 2012; 129 (4) : 879-887.
- 14) 小川 令, 赤石論史, 土肥輝之, 百束比古: 物理的刺激と炎症の軽減に焦点を絞ったケロイド治療. 創傷 2012; 3 (2) : 82-88.
- 15) 小川 令: 理想的な皮膚, 軟部組織, 胸骨の縫合法. 胸部外科 2012; 65 (4) : 324-330.
- 16) Murakami M, Ono S, Ishii N, Hyakusoku H: Reconstruction of elbow region defects using radial collateral artery perforator (RCAP)-based propeller flaps. J Plast Reconstr Aesthet Surg 2012; 65 (10) : 1418-1421.
- 17) 小川 令, 百束比古: 形成外科領域に必要な免疫抑制剤の知識. PEPARS 2012; 70 (1) : 22-26.
- 18) Huang C^{1, 2)}, Ogawa R¹⁾ (1) Department of Plastic, Reconstructive and Aesthetic Surgery, ²⁾ Department of Plastic Surgery, Meitan General Hospital, Beijing): Fibroproliferative Disorders and Their Mechanobiology. Connective Tissue Research 2012; 53 (3) : 187-196.
- 19) Huang C, Ogawa R: Effect of hydrostatic pressure on bone regeneration using human mesenchymal stem cells. Tissue Eng Part A 2012; 18 (19-20) : 2106-2113.
- 20) Huang C, Akaishi S, Ogawa R: Mechanosignaling pathways in cutaneous scarring. Arch Dermatol Res 2012; 304 (8) : 589-597.
- 21) Nguyen D, Ogawa R: The sternalis muscle-incidental finding of a rare chest wall muscle variant during keloid excision-chest wall reconstruction. Eplasty 2012; 12 : e36-e36.

- 22) Tan P¹⁾, Patel A²⁾, Taub P³⁾, Lampert J³⁾, Xipoleas G³⁾, Santiago G³⁾, Silver L³⁾, Sheriff H⁴⁾, Lin T⁵⁾, Cooter R⁶⁾, Diogo F⁷⁾, Salazaard B⁸⁾, Kim B⁹⁾, Lee Y⁹⁾, Ogawa R (1) Singapore General Hospital, Singapore, 2) Guys and St. Thomas Hospital, London, United Kingdom, 3) Mt. Sinai Medical Center, New York, 4) Derriford Hospital, Plymouth, United Kingdom, 5) Chang Gung Memorial Hospital, Kaohsiung, Taiwan, 6) Waverly House Plastic Surgery Centre, Adelaide, Australia, 7) Federal University of Rio de Janeiro, Rio de Janeiro, Brazil, 8) Timone Childrens Hospital, Marseille, France, 9) Seoul National University Hospital, Seoul, Korea) : Cultural perspectives in facial allotransplantation. *Eplasty* 2012 ; 12 : e39-e39.
- 23) Arima J, Ogawa R, Iimura T, Azuma H, Hyakusoku H : Relationship between Keloid and Hypertension. *J Nippon Med Sch* 2012 ; 79 (6) : 494-495.
- 24) Josh F¹⁾, Kobe K²⁾, Tobita M¹⁾, Tanaka R¹⁾, Suzuki K³⁾, Ono K³⁾, Hyakusoku H²⁾, Mizuno H^{1,2)} (1) Department of Plastic and Reconstructive Surgery, Juntendo University School of Medicine, 2) Department of Plastic and Reconstructive Surgery, Nippon Medical School, 3) R&D Central Research Laboratory, JMS Co. Ltd., Hiroshima) : Accelerated and Safe Proliferation of Human Adipose-derived Stem Cells in Medium Supplemented with Human Serum. *J Nippon Med Sch* 2012 ; 79 (6) : 444-452.
- 25) Takami Y, Hyakusoku H : Feasibility of dermis grafts in burn surgery. *Burns* 2013 ; 39 (2) : 369-369.
- 26) Uysal C^{1,2)}, Tobita M²⁾, Hyakusoku H²⁾, Mizuno H²⁾ (1) Department of Plastic and Reconstructive Surgery, Baskent University Faculty of Medicine, Ankara, Turkey, 2) Department of Plastic and Reconstructive Surgery, Nippon Medical School) : Adipose-derived stem cells enhance primary tendon repair : biomechanical and immunohistochemical evaluation.. *J Plast Reconstr Aesthet Surg* 2012 ; 65 (12) : 1712-1719.
- 27) 百束比古 : 乳房インプラントの合併症と対策 (2) : 乳房増大術 (豊胸術) について, 特集 : 乳房インプラントの合併症と対策. *形成外科* 2013 ; 56 (2) : 151-159.
- 28) Ono S, Sebastin S¹⁾, Chung K²⁾ (1) Department of Hand and Reconstructive Microsurgery, National University Health System, Singapore, 2) Section of Plastic Surgery, Department of Surgery, University of Michigan Health System, Ann Arbor) : Evidence on Prognosis. *Plastic and Reconstructive Surgery* 2013 ; 131 (3) : 655-665.
- 29) Igota S^{1,2)}, Tosa M^{1,3)}, Murakami M³⁾, Egawa S¹⁾, Shimizu H¹⁾, Hyakusoku H⁴⁾, Ghazizadeh M¹⁾ (1) Department of Molecular Pathology, Institute of Gerontology, Nippon Medical School, Kawasaki, 2) Department of Plastic and Reconstructive Surgery, Higashi-totsuka Memorial Hospital, Yokohama, 3) Department of Plastic and Reconstructive Surgery, Nippon Medical School, Musashi-kosugi Hospital, Kawasaki, 4) Department of Plastic and Reconstructive Surgery, Nippon Medical School, Tokyo) : Identification and Characterization of Wnt Signaling Pathway in Keloid Pathogenesis. *Int J Med Sci* 2013 ; 10 (4) : 344-354.
- (2) 総説 :
- 1) 小川 令 : 保存的治療, IX. ケロイド・肥厚性瘢痕治療の理論と実際, 研修医・外科系医師が知っておくべき形成外科の基本知識と手技. *形成外科* 2012 ; 55 (増刊号) : 308-311.
- 2) 高見佳宏, 百束比古 : 外来での小外科 : その標準化に向けて. *日本医師会雑誌* 2013 ; 141 (10) : 2269-2269.
- (3) 研究報告書 :
- 1) 小川 令 : 糖尿病性皮膚難治性潰瘍に対する物理的刺激による治療法の開発. *上原記念生命科学財団研究報告集* 2012 ; 25 (1) : 1-4.
- (4) 症例報告 :
- 1) 渡邊真泉, 土肥輝之, 赤石論史, 百束比古, 小川 令 : ケロイド・肥厚性瘢痕術後の瘢痕ケアにおけるメタピック®の有用性. *瘢痕・ケロイド治療研究ジャーナル* 2012 ; 6 (1) : 47-48.
- 2) 香西達一¹⁾, 秋元正宇¹⁾, 細矢 慶²⁾, 百束比古³⁾ (1) 千葉北総病院形成外科, 2) 千葉北総病院耳鼻咽喉科, 3) 付

属病院形成外科・美容外科)：鼻中隔矯正術後，鼻孔部に生じたケロイド様腫瘍の著明な肥厚により鼻孔閉鎖を生じた1例. 日本頭蓋顎顔面外科学会誌 2012；28(2・3)：129-133.

- 3) 渡邊真泉¹⁾，野本俊一¹⁾，百束比古¹⁾，水野博司²⁾ (¹⁾ 日本医科大学形成外科， ²⁾ 順天堂大学医学部形成外科)：塩基性繊維芽細胞増殖因子の徐放型ゼラチンシートが奏功した糖尿病性足潰瘍の1例. 日形会誌 2012；32(2)：917-922.

著書

〔追加分〕

追加分：

- 1) Ogawa R：〔編集〕SPECIAL ISSUE：SCAR. Journal of Wound Technology, 2012；Editions MF, France.
- 1) 百束比古，小川 令：〔編集〕アトラス きずのきれいな治し方 改訂第二版：外傷，褥瘡，足の壊疽からレーザー治療まで一. アトラス きずのきれいな治し方 改訂第二版，2012；全日本病院出版会.
- 2) 小川 令：〔分担〕1 きずの種類と治り方：きれいなきずになるまでの考え方. アトラス きずのきれいな治し方 改訂第二版 一外傷，褥瘡，足の壊疽からレーザー治療まで一，2012；pp1-11，全日本病院出版会.
- 3) 小川 令：〔分担〕コラム 陰圧閉鎖療法 (VAC 療法)：その理論と実際. アトラス きずのきれいな治し方 改訂第二版 一外傷，褥瘡，足の壊疽からレーザー治療まで一，2012；pp22-25，全日本病院出版会.
- 4) 百束比古：〔分担〕3 手術で治す方法：形成外科の縫い方と皮膚移植. アトラス きずのきれいな治し方 改訂第二版 一外傷，褥瘡，足の壊疽からレーザー治療まで一，2012；pp27-31，全日本病院出版会.
- 5) 小野真平，百束比古：〔分担〕コラム 局所皮弁法の新しい波：穿通枝皮弁とプロペラ皮弁. アトラス きずのきれいな治し方 改訂第二版 一外傷，褥瘡，足の壊疽からレーザー治療まで一，2012；pp32-32，全日本病院出版会.
- 6) 陳 貴史¹⁾，百束比古 (¹⁾ 伏見駅前陳皮フ科・形成外科クリニック)：〔分担〕コラム 切断指，デグロービング・リング損傷の治療. アトラス きずのきれいな治し方 改訂第二版 一外傷，褥瘡，足の壊疽からレーザー治療まで一，2012；pp48-49，全日本病院出版会.
- 7) 稲田浩美¹⁾，百束比古 (¹⁾ 付属病院看護部)：〔分担〕B. 褥瘡のできやすい部位と予防法，7 褥瘡の治療：とこずれをどう治療するか. アトラス きずのきれいな治し方 改訂第二版：外傷，褥瘡，足の壊疽からレーザー治療まで，2012；pp65-67，全日本病院出版会.
- 8) 石井暢明，百束比古：〔分担〕F. 褥瘡の手術適応と術式の選択，7 褥瘡の治療：とこずれをどう治療するか. アトラス きずのきれいな治し方 改訂第二版 一外傷，褥瘡，足の壊疽からレーザー治療まで一，2012；pp81-83，全日本病院出版会.
- 9) 百束比古，大木更一郎：〔分担〕G. 褥瘡手術の実際，7 褥瘡の治療：とこずれをどう治療するか. アトラス きずのきれいな治し方 改訂第二版 一外傷，褥瘡，足の壊疽からレーザー治療まで一，2012；pp83-90，全日本病院出版会.
- 10) 小川 令：〔分担〕コラム 消毒の誤解・ラップ療法の功罪. アトラス きずのきれいな治し方 改訂第二版：外傷，褥瘡，足の壊疽からレーザー治療まで，2012；pp99-101，全日本病院出版会.
- 11) 野本俊一，百束比古：〔分担〕9 下腿潰瘍：治りにくいのはなぜか，手術はどうやるのか. アトラス きずのきれいな治し方 改訂第二版：外傷，褥瘡，足の壊疽からレーザー治療まで，2012；pp109-114，全日本病院出版会.
- 12) 高見佳宏：〔分担〕11 熱傷・熱傷潰瘍：やけどとその後遺症はどうするか. アトラス きずのきれいな治し方 改訂第二版：外傷，褥瘡，足の壊疽からレーザー治療まで，2012；pp125-132，全日本病院出版会.
- 13) 小川 令，百束比古：〔分担〕12 瘢痕・瘢痕拘縮：整容と機能の両面から. アトラス きずのきれいな治し方 改訂第二版：外傷，褥瘡，足の壊疽からレーザー治療まで，2012；pp133-142，全日本病院出版会.
- 14) 百束比古，Vinh V¹⁾ (¹⁾ ベトナム国立熱傷研究所)：〔分担〕コラム 薄い皮弁による整容的再建：皮弁は厚いと

- いう常識への挑戦. アトラス きずのきれいな治し方 改訂第二版：外傷，褥瘡，足の壊疽からレーザー治療まで，2012；pp143-144，全日本病院出版会.
- 15) 小川 令，赤石論史：〔分担〕13 ケロイド・肥厚性癬痕：赤く盛り上がったきずあとは何か. アトラス きずのきれいな治し方 改訂第二版：外傷，褥瘡，足の壊疽からレーザー治療まで，2012；pp145-156，全日本病院出版会.
 - 16) 大木更一郎：〔分担〕14 きずから発生する重篤な疾患について：ラップ療法など密閉療法によるものを含めて. アトラス きずのきれいな治し方 改訂第二版：外傷，褥瘡，足の壊疽からレーザー治療まで，2012；pp159-161，全日本病院出版会.
 - 17) 百束比古，奥田貴久：〔分担〕15 美容目的の異物埋（注）入と傷跡：顔面と乳房. アトラス きずのきれいな治し方 改訂第二版：外傷，褥瘡，足の壊疽からレーザー治療まで，2012；pp163-166，全日本病院出版会.
 - 18) 青木 律¹⁾，赤石論史，小池幸子²⁾（¹⁾ グリーンウッドスキンクリニック立川，²⁾ 銀座エルクリニック）：〔分担〕16 傷跡のレーザー治療：美容外科ではきずにどう対応するか. アトラス きずのきれいな治し方 改訂第二版：外傷，褥瘡，足の壊疽からレーザー治療まで，2012；pp167-169，全日本病院出版会.
 - 19) 石井暢明，百束比古：〔分担〕コラム きれいな刺青の除去. アトラス きずのきれいな治し方 改訂第二版：外傷，褥瘡，足の壊疽からレーザー治療まで，2012；pp170-171，全日本病院出版会.
 - 20) 青木 律^{1,2)}，青木恵理¹⁾（¹⁾ グリーンウッドスキンクリニック立川，²⁾ 付属病院形成外科）：〔分担〕17 スキンケア：皮膚をやさしく扱うには. アトラス きずのきれいな治し方 改訂第二版：外傷，褥瘡，足の壊疽からレーザー治療まで，2012；pp173-177，全日本病院出版会.
 - 21) 青木 律^{1,2)}（¹⁾ グリーンウッドスキンクリニック立川，²⁾ 付属病院形成外科）：〔分担〕A. メイクアップセラピーとは何か？ 18 傷跡のリハビリテーション. アトラス きずのきれいな治し方 改訂第二版：外傷，褥瘡，足の壊疽からレーザー治療まで，2012；pp179-180，全日本病院出版会.
 - 22) 青木 律^{1,2)}（¹⁾ グリーンウッドスキンクリニック立川，²⁾ 付属病院形成外科）：〔分担〕B. メイクアップにおける色調の調整と錯視効果 18 傷跡のリハビリテーション. アトラス きずのきれいな治し方 改訂第二版1：外傷，褥瘡，足の壊疽からレーザー治療まで，2012；pp180-182，全日本病院出版会.
 - 23) かづきれいこ^{1,2)}（¹⁾ REIKO KAZKI，²⁾ 付属病院形成外科）：〔分担〕C. きずあとのリハビリメイク®：リハビリメイク®の実際 18 傷跡のリハビリテーション. アトラス きずのきれいな治し方 改訂第二版：外傷，褥瘡，足の壊疽からレーザー治療まで，2012；pp183-188，全日本病院出版会.
 - 24) 小川 令：〔分担〕2. 肥厚性癬痕・ケロイドの発生機序 第VIII章 癬痕・肥厚性癬痕・ケロイド・癬痕拘縮. 創傷のすべて（市岡滋監修），2012；pp344-346，克誠堂出版.
 - 25) 小川 令：〔分担〕4. 肥厚性癬痕・ケロイドの手術的治療 第VIII章 癬痕・肥厚性癬痕・ケロイド・癬痕拘縮. 創傷のすべて（市岡滋監修），2012；pp350-352，克誠堂出版.
 - 26) Ogawa R, Hyakusoku H：〔分担〕The Burn Reconstructive Units on the Face and Neck. Burns：Prevention, Causes and Treatment (Emily S. Mclaughlin, Ava O. Paterson), 2012；pp143-154, Nova Science Pub Inc；.
 - 27) Ogawa R：〔分担〕30. Benign and Malignant Nonmelanocytic Tumors of The Skin and Soft Tissue. Plastic Surgery：3rd Edition, Principles (Peter C. Neligan), 2012；pp707-742, Elsevier.
 - 28) Helm D¹⁾, Orgill B¹⁾, Ogawa R, Orgill D¹⁾（¹⁾ Division of Plastic Surgery, Brigham and Womens (Womens の n と s の間にシングルクフォート) Hospital, Harvard Medical School, Boston）：〔分担〕Burn Dressings and Skin Substitutes. Biomaterials Science, Third Edition：An Introduction to Materials in Medicine (Buddy D. Ratner, Allan S. Hoffman, Frederick J. Schoen, Jack E. Lemons), 2012；pp1006-1010, Academic Press, New York.
 - 29) Ogawa R, Koch H¹⁾（¹⁾ Division of Plastic, Aesthetic and Reconstructive Surgery, Department of Surgery, Medical University of Graz, Graz, Austria）：〔編集〕Editorial：Scars and keloids - basics, prevention and treat-

ment. *European Surgery*, Volume 44, Issue 2, 2012 ; pp67-67, Springer, Germany.

- 30) Ogawa R, Hyakusoku H : [分担] Definition and Nomenclature of Propeller Flaps. *Perforator Flaps : Anatomy, Technique, & Clinical Applications*, 2nd Edition, Volume II (PHILLIP BLONDEEL, STEVEN MORRIS, GEOFFREY HALLOCK, PETER NELIGAN), 2013 ; pp1305-1316, Quality Medical Publishing, Missouri.
- 31) Hyakusoku H, Ogawa R : [分担] The Superthin Flap - The concept of the Subdermal Vascular Network Flap. *Perforator Flaps : Anatomy, Technique, & Clinical Applications*, 2nd Edition, Volume II (PHILLIP BLONDEEL, STEVEN MORRIS, GEOFFREY HALLOCK, PETER NELIGAN), 2013 ; pp1329-1360, Quality Medical Publishing, Missouri.

学会発表

(1) 特別講演 :

- 1) 小川 令, 百束比古 : 熱傷治療・再建外科の進歩について—ラップ療法の功罪から最新の穿通枝茎超薄皮弁まで—. *日本熱傷学会九州地方会 (第 23 回) (沖縄)*, 2013. 2.

(2) 招待講演 :

- 1) Hyakusoku H : Preoperative identification for the clinical use of perforators in whole body-----free, narrow pedicled, propeller, supercharging flaps. *Chinese National Congress of Aesthetic & Plastic Surgeons (The 9th) (広州)*, 2012. 9.
- 2) Ogawa R : Total Management of Keloids and Hypertrophic Scars. *Aesthetic Asia 2012 (Singapore)*, 2012. 9.
- 3) Ogawa R : The Most Current Algorithms of Scar Management and Our Recent Trials. *Seoul Scar Symposium (Seoul)*, 2012. 11.
- 4) 小川 令 : SSI・肥厚性瘢痕を予防する創閉鎖の最新知見. *冠動脈外科学会学術大会 (第 17 回) (東京)*, 2012. 7.
- 5) 小川 令, 水野秀一¹⁾ (1) 米国ハーバード大学プリガムウィメンズ病院整形外科 : 変形性膝関節症治療を目的とした脂肪組織由来幹細胞を用いた軟骨再生. *公益財団法人ひと・健康・未来研究財団助成研究発表会 (第 10 回) (京都)*, 2012. 12.
- 6) 小川 令 : 傷の線維化における物理的刺激の役割 : 皮膚や傷はどのように力を感じているか? . *線維化病態研究会 (第 9 回) (東京)*, 2012. 12.
- 7) 百束比古 : 20 年後を見据えた形成外科. *順天堂大学形成外科医局研究会 (第 17 回) (東京)*, 2013. 3.

(3) シンポジウム :

- 1) 小野真平, 百束比古 : 顔面フィラー注入のガイドライン作成に向けて : 美容外科後遺症外来からの提言. *日本形成外科学会総会・学術集会 (第 55 回) (東京)*, 2012. 4.
- 2) 小川 令, 野本俊一, 石井暢明, 小野真平, 香西達一, 渋谷偉織, 奥田貴久, 百束比古 : 乳房への脂肪注入の問題点. *日本形成外科学会総会・学術集会 (第 55 回) (東京)*, 2012. 4.
- 3) 小川 令, 百束比古 : 2 次治癒に対する瘢痕拘縮抑制の治療戦略. *日本創傷外科学会総会・学術集会 (第 4 回) (福岡)*, 2012. 7.
- 4) 小川 令¹⁾, 赤石諭史¹⁾, 土肥輝之¹⁾, 栗林茂彦²⁾, 宮下次廣²⁾, 百束比古¹⁾ (1) 形成外科, 2) 放射線治療科 : ケロイドに対する電子線治療および密封小線源高線量率表在照射治療 : 709 症例 838 部位の解析. *日本創傷外科学会総会・学術集会 (第 4 回) (福岡)*, 2012. 7.
- 5) 栗林茂彦¹⁾, 宮下次廣¹⁾, 小川 令²⁾, 土肥輝之²⁾, 小澤由季子¹⁾, 岩野茉莉恵¹⁾, 秋元裕義¹⁾, 百束比古²⁾, 汲田伸一郎¹⁾ (1) 放射線医学, 2) 形成外科 : 高線量率小線源治療装置によるケロイドの術後照射. *日本創傷外科学会総会・学術集会 (第 4 回) (福岡)*, 2012. 7.

- 6) 小川 令, 百束比古 : Super-thin Flap とその穿通枝付加. 日本形成外科手術手技学会 (第 18 回) (東京), 2013. 2.
- (4) パネルディスカッション :
- 1) Ogawa R, Akaishi S, Dohi T, Kuyibayashi S¹⁾, Miyashita T¹⁾, Hyakusoku H (¹⁾ Department of Radiology) : An Integrated Approach with The Use of Radiation Therapy. Congress of the World Union of Wound Healing Societies (The 4th) (Yokohama), 2012. 9.
 - 2) 赤石論史^{1,2)}, 菅 浩隆²⁾, Garg R²⁾, Wong V²⁾, 小川 令¹⁾, Gurtner G²⁾, 百束比古¹⁾ (¹⁾ 付属病院形成外科・美容外科, ²⁾ スタンフォード大学形成外科) : ケロイド・肥厚性瘢痕にレーザーは効くのか. 日本創傷外科学会総会・学術集会 (第 4 回) (福岡), 2012. 7.
- (5) セミナー :
- 1) 小川 令, 百束比古 : ケロイドにおける炎症の原因と治療. 日本形成外科学会総会・学術集会 (第 55 回) (東京), 2012. 4.
 - 2) Ogawa R : The Most Current Algorithms of Scar Management and Our Recent Trials. Congress of the World Union of Wound Healing Societies (The 4th) (Yokohama), 2012. 9.
 - 3) Ogawa R : Vacuum-Assisted Closure (VAC) Therapy and Scar Formation. Japan-Korea Congress of Plastic and Reconstructive Surgery (The 11th) (Awaji), 2012. 5.
 - 4) 小川 令 : 形成外科手術手技の開発のために今何ができるか?. 日本形成外科手術手技学会 (第 18 回) (東京), 2013. 2.
- (6) ポスター :
- 1) Iimura T, Kazuki R¹⁾, Hyakusoku H, Ogawa R (¹⁾ KAZKI REIKO) : Cosmetic and Psychological Effectiveness of Rehabilitation Make-up® For Post-Burn Scar Patients. Congress of the World Union of Wound Healing Societies (The 4th) (Yokohama), 2012. 9.
 - 2) Huang C¹⁾, Akaishi S, Hyakusoku H, Ogawa R (¹⁾ Department of Plastic Surgery, Meitan General Hospital, Beijing, China) : Can The Histological Separated Hypertrophic Scars and Keloids Be The Same?. Congress of the World Union of Wound Healing Societies (The 4th) (Yokohama), 2012. 9.
 - 3) Dohi T, Kuribayashi S¹⁾, Miyashita T¹⁾, Akaishi S, Hyakusoku H, Ogawa R (¹⁾ Department of Radiology) : High-Dose-Rate Superficial Brachytherapy (HDR-SB) As A Postoperative Radiation Therapy for Keloids. Congress of the World Union of Wound Healing Societies (The 4th) (Yokohama), 2012. 9.
 - 4) Nagashima Y, Akaishi S, Koike S, Dohi T, Hyakusoku H, Ogawa R : Nd : YAG Laser Treatment of Keloids and Hypertrophic Scars. Congress of the World Union of Wound Healing Societies (The 4th) (Yokohama), 2012. 9.
 - 5) Azuma H, Sawamura T, Hyakusoku H, Ogawa R : Xylitol Treatment of Chronic Wounds with Biofilms. Congress of the World Union of Wound Healing Societies (The 4th) (Yokohama), 2012. 9.
 - 6) Azuma H, Okai K¹⁾, Tokumura F²⁾, Mori K¹⁾, Dohi T, Akaishi S, Hyakusoku H, Ogawa R (¹⁾ Research and Development Department, Nichiban Co., Ltd, Tokyo, ²⁾ Medicinal Safety Information Group, Nichiban Co., Ltd, Hidaka) : Sralbilization Methods using Tape/Gel Sheet for Preventing and Treating Heavy Scarring. Congress of the World Union of Wound Healing Societies (The 4th) (Yokohama), 2012. 9.
 - 7) Sano H¹⁾, Orbay H, Terashi H²⁾, Hyakusoku H, Ogawa R (¹⁾ Department of Surgical Science, Graduate School of Medicine, The University of Tokyo, Tokyo, ²⁾ Department of Plastic Surgery, Graduate School of Medicine, Kobe University, Kobe) : A Natural Scaffold Using Adipose Tissue for Tissue Regeneration. Congress of the World Union of Wound Healing Societies (The 4th) (Yokohama), 2012. 9.
 - 8) 田嶋繭子²⁾, 村上正洋²⁾, 桑原大彰²⁾, 石井暢明¹⁾, 百束比古¹⁾ (¹⁾ 付属病院形成外科, ²⁾ 武蔵小杉病院形成外

- 科)：経皮的冠動脈拡張術 (PTCA) 後に生じた右上腕放射線潰瘍を穿通枝プロペラ (PPP) 皮弁で再建した 1 例. 日本医科大学医学会総会 (第 80 回) (東京), 2012. 9.
- 9) 奈良慎平, 小川 令, 秋山 豪, 若林奈緒, 杉本貴子, 櫻井 透, 新井正徳, 塚元剛志, 白石振一郎, 恩田秀賢, 横田裕行, 百東比古: 重症熱傷に対し同種皮膚移植を行い良好な結果を得た 1 例. 日本医科大学医学会総会 (第 80 回) (東京), 2012. 9.
- 10) 村上正洋¹⁾, 百東比古²⁾ (¹⁾ 武蔵小杉病院形成外科, ²⁾ 付属病院形成外科・美容外科): 眉毛下皮膚切除術における男女差の検討. 日本医科大学医学会総会 (第 80 回) (東京), 2012. 9.
- 11) 青木宏信, 長嶋有紀, 土肥輝之, 大木更一郎, 百東比古: 腹直筋皮弁と陰圧吸引療法にて治療した胸部外科手術後創部離解の 1 例. 日本医科大学医学会総会 (第 80 回) (東京), 2012. 9.
- 12) 櫻井 透, 小川 令, 奈良慎平, 若林奈緒, 有馬樹里, 杉本貴子, 百東比古: リンパ浮腫に対するリンパ管静脈吻合の検討. 日本医科大学医学会総会 (第 80 回) (東京), 2012. 9.
- 13) 高見佳宏, 小野真平, 松本典子, 有馬樹里, 百東比古: 高濃度グルコースによる培養皮膚リンパ管内皮細胞の変化. 日本医科大学医学会総会 (第 80 回) (東京), 2012. 9.
- 14) 野一色千景, 小野真平, 江浦重義, 大木更一郎, 百東比古: 顔面骨多発骨折に対するプレート固定の考察. 日本医科大学医学会総会 (第 80 回) (東京), 2012. 9.
- 15) 杉本貴子, 小川 令, 赤石論史, 土肥輝之, 百東比古: 耳の腫瘍の治療戦略. 日本医科大学医学会総会 (第 80 回) (東京), 2012. 9.
- 16) 朝日林太郎, 小野真平, 百東比古: 剣山植皮片の固定に陰圧閉鎖療法 (VAC) を用い良好な治療アウトカムを得た 1 例. 日本医科大学医学会総会 (第 80 回) (東京), 2012. 9.
- 17) 飯村剛史, 小川 令, 有馬樹里, 杉本貴子, 若林奈緒, 桑原大彰, 百東比古: 当科における局所陰圧閉鎖療法 (VAC 療法) の評価と考察. 日本医科大学医学会総会 (第 80 回) (東京), 2012. 9.
- 18) 長嶋有紀, 小川 令, 赤石論史, 土肥輝之, 小池幸子, 百東比古: Nd:YAG レーザーを用いた瘢痕治療の検討. 日本医科大学医学会総会 (第 80 回) (東京), 2012. 9.
- 19) 有馬樹里, 小川 令, 飯村剛史, 東 秀子, 赤石論史, 百東比古: ケロイドの重症化と高血圧との関連性. 日本医科大学医学会総会 (第 80 回) (東京), 2012. 9.
- 20) 若林奈緒, 小川 令, 赤石論史, 百東比古: ケロイドにおけるインピーダンス法による皮膚バリア機能測定の検証. 日本医科大学医学会総会 (第 80 回) (東京), 2012. 9.
- 21) 松本典子, 有馬樹里, 小野真平, 赤石論史, 高見佳宏, 百東比古: ラット腹部皮弁における supercharge の効果について. 日本医科大学医学会総会 (第 80 回) (東京), 2012. 9.
- 22) 赤石論史¹⁾, Wong V²⁾, Rustad K²⁾, Sorkin M²⁾, Glotzbach J²⁾, Januszzyk M²⁾, Longaker M²⁾, Gurtner G²⁾ (¹⁾日本医科大学付属病院形成外科・美容外科, ²⁾Department of Surgery, Division of Plastic and Reconstructive Surgery, Stanford University): 力学的刺激が Focal adhesion kinase (FAK) を介して肥厚性瘢痕を形成する. 日本形成外科学会基礎学術集会 (第 21 回) (福島), 2012. 10.
- 23) 桑原大彰¹⁾, 土佐眞美子²⁾, 枝川聖子³⁾, 百東比古⁴⁾, 村上正洋²⁾, ガジザデモハマッド³⁾ (¹⁾ 会津中央病院形成外科, ²⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院, ³⁾ 日本医科大学老人病研究所病理部門, ⁴⁾ 日本医科大学付属病院形成外科・美容外科): ケロイド発生における表皮間葉系転換の役割についての研究. 日本形成外科学会基礎学術集会 (第 21 回) (福島), 2012. 10.
- 24) Ono S, Wakabayashi N, Hyakusoku H: Complication After Silicone Injection for Soft-tissue Augmentation. International Congress of Oriental Society of Aesthetic Plastic Surgery (The 13th) (Seoul), 2012. 10.
- (7) 一般講演:
- 1) 小川 令: 熱傷やケロイドによる拘縮解除を目的とした局所皮弁術におけるデザインの工夫. 日本形成外科学会総会・学術集会 (第 55 回) (東京), 2012. 4.

- 2) かづきれいこ^{1,2)}, 百東比古¹⁾ (1) 付属病院形成外科, ²⁾ REIKO KAZKI) : 注視点から見たリハビリメイクの外觀改善効果および満足度調査 : 単純性血管腫症例での検討. 日本形成外科学会総会・学術集会 (第 55 回) (東京), 2012. 4.
- 3) 長嶋有紀, 秋山 豪, 土肥輝之, 高見佳宏, 百東比古 : 皮膚難治性潰瘍に対する人工真皮を用いた保存的治療. 日本形成外科学会総会・学術集会 (第 55 回) (東京), 2012. 4.
- 4) 桑原大彰, Huang C, 小野真平, 百東比古, 小川 令 : 線状瘢痕修正に対する Small-Wave Incision (SWI) 法の有用性 : 開発から展望. 日本形成外科学会総会・学術集会 (第 55 回) (東京), 2012. 4.
- 5) 土佐真美子¹⁾, 村上正洋¹⁾, 百東比古²⁾ (1) 武蔵小杉病院形成外科, ²⁾ 形成外科・美容外科) : ケロイド発症年齢と原因から考えるスクリーニングポイントの検討. 日本形成外科学会総会・学術集会 (第 55 回) (東京), 2012. 4.
- 6) 土肥輝之, 小川 令, 赤石諭史, 青木雅代, 小野真平, 百東比古 : プロペラ皮弁によるケロイド治療. 日本形成外科学会総会・学術集会 (第 55 回) (東京), 2012. 4.
- 7) 土肥輝之¹⁾, 小川 令¹⁾, 赤石諭史¹⁾, 宮下次廣²⁾, 栗林茂彦²⁾, 百東比古¹⁾ (1) 形成外科・美容外科, ²⁾ 放射線科) : ケロイドに対する放射線単独療法. 日本形成外科学会総会・学術集会 (第 55 回) (東京), 2012. 4.
- 8) 小野真平, 百東比古 : シリコンバッグプロステシスと未分化大細胞型リンパ腫 (ALCL) の関連性における文献的考察. 日本形成外科学会総会・学術集会 (第 55 回) (東京), 2012. 4.
- 9) 石井暢明, 渋谷偉織, 若林奈緒, 百東比古 : 悪性腫瘍摘出後上腹部再建に Advancement Muscle Pedicled Propeller (MPP) Flap を用いた 1 例. 日本形成外科学会総会・学術集会 (第 55 回) (東京), 2012. 4.
- 10) 小野真平, 小川 令, 高見佳宏, 百東比古 : 穿通枝付加局所穿通枝皮弁 Perforator-supercharged local perforator-based flap. 日本形成外科学会総会・学術集会 (第 55 回) (東京), 2012. 4.
- 11) 飯村剛史, 小川 令, 有馬樹里, 杉本貴子, 若林奈緒, 桑原大彰, 秋山 豪, 百東比古 : 当院における局所陰圧閉鎖療法 (VAC 療法) の評価と考察. 日本形成外科学会総会・学術集会 (第 55 回) (東京), 2012. 4.
- 12) 石井佳奈¹⁾, 日野紀子²⁾, 益子美登利²⁾, 小川 令^{2,3)} (1) 武蔵小杉病院臨床研修医, ²⁾ NPO 法人ニューヨークでボランティア, ³⁾ 付属病院形成外科) : メイクアップが女性に与える心理的影響の解析. 日本形成外科学会総会・学術集会 (第 55 回) (東京), 2012. 4.
- 13) 長嶋有紀¹⁾, 秋山 豪¹⁾, 土肥輝之¹⁾, 高見佳宏¹⁾, 百東比古¹⁾, 宮本正章²⁾ (1) 形成外科・美容外科, ²⁾ 再生医療科) : 足趾壊疽に対する治療戦略と形成外科の役割. 日本形成外科学会総会・学術集会 (第 55 回) (東京), 2012. 4.
- 14) 有馬樹里, 小川 令, 百東比古 : 遠隔皮弁術が第一選択となる症例の考察. 日本形成外科学会総会・学術集会 (第 55 回) (東京), 2012. 4.
- 15) 村上正洋¹⁾, 百東比古²⁾ (1) 武蔵小杉病院形成外科, ²⁾ 付属病院形成外科・美容外科) : 男性の退行性上眼瞼皮膚弛緩症に対する眉毛下皮膚切除術. 日本形成外科学会総会・学術集会 (第 55 回) (東京), 2012. 4.
- 16) 野一色千景, 小川 令, 百東比古 : 顔面骨多発骨折に対するプレート固定の考察. 谷根千形成懇話会 (第 11 回) (東京), 2012. 7.
- 17) 朝日林太郎, 小川 令, 百東比古 : 吸収性骨プレートをを用いた自家骨移植により良好な結果が得られた石灰化頭血腫の 1 例. 谷根千形成懇話会 (第 11 回) (東京), 2012. 7.
- 18) 青木宏信, 小川 令, 百東比古 : 腹直筋皮弁と簡易 VAC 療法にて治療した胸部外科手術後創離解の 1 例. 谷根千形成懇話会 (第 11 回) (東京), 2012. 7.
- 19) 櫻井 透, 小川 令, 百東比古 : リンパ浮腫に対するリンパ管静脈吻合の検討. 谷根千形成懇話会 (第 11 回) (東京), 2012. 7.
- 20) 有馬樹里, 小川 令, 百東比古 : ケロイドと高血圧の関連性の検討. 谷根千形成懇話会 (第 11 回) (東京), 2012. 7.

- 21) 長嶋有紀, 小川 令, 百束比古: ND: YAG レーザーを用いた癬痕治療の検討. 谷根千形成懇話会 (第 11 回) (東京), 2012. 7.
- 22) 庄司真美¹⁾, 村上正洋¹⁾, 百束比古 (¹⁾ 武蔵小杉病院形成外科): 初期臨床研修医が考える形成外科の意義: 副耳症例の手術から. 谷根千形成懇話会 (第 11 回) (東京), 2012. 7.
- 23) 杉本貴子, 小川 令, 百束比古: 耳の腫瘍の治療戦略. 谷根千形成懇話会 (第 11 回) (東京), 2012. 7.
- 24) 藪野雄大¹⁾, 村上正洋¹⁾, 百束比古 (¹⁾ 武蔵小杉病院形成外科): 猫耳皮弁法を用いた埋没耳の経験. 谷根千形成懇話会 (第 11 回) (東京), 2012. 7.
- 25) 桑原広輔¹⁾, 村上正洋¹⁾, 百束比古: 耳垂に発生した稀な先天性耳瘻孔の治療経験と流注膿瘍の進展形態に関する考察. 谷根千形成懇話会 (第 11 回) (東京), 2012. 7.
- 26) 松本典子, 小川 令, 百束比古: ラット腹部皮弁における supercharge の効果について. 谷根千形成懇話会 (第 11 回) (東京), 2012. 7.
- 27) 若林奈緒, 小川 令, 百束比古: ケロイドにおける皮膚バリア機能測定結果の検証. 谷根千形成懇話会 (第 11 回) (東京), 2012. 7.
- 28) 青木雅代, 小川 令, 百束比古: ケロイドの遺伝子治療. 谷根千形成懇話会 (第 11 回) (東京), 2012. 7.
- 29) 須永 中¹⁾, 小川 令 (¹⁾ 自治医科大学形成外科): ケロイド由来線維芽細胞におけるエピジェネティック修飾の網羅的解析. 谷根千形成懇話会 (第 11 回) (東京), 2012. 7.
- 30) 飛田護邦, 小川 令, 百束比古: 脂肪組織幹細胞と多血小板血漿による硬組織再生の検証. 谷根千形成懇話会 (第 11 回) (東京), 2012. 7.
- 31) Sugimoto A, Akimoto M¹⁾, Hyakusoku H (¹⁾ Department of Plastic and Reconstructive Surgery, Chiba-hokuso Hospital): Finite element analysis of pressure ulcer model derived from CT scan of sacrum. International Conference of ISSiS (The 8th) (Seoul), 2012. 6.
- 32) Shibuya I, Akimoto M¹⁾, Akaishi S, Hyakusoku H (¹⁾ Department of Plastic and Reconstructive Surgery, Nippon Medical School Chiba Hokusoh Hospital): Computational model of the shrinking scar. International Conference of ISSiS (The 8th) (Seoul), 2012. 6.
- 33) Nomoto S, Murakami M¹⁾, Akimoto M²⁾, Hyakusoku H (¹⁾ Department of Plastic and Reconstructive Surgery, Nippon Medical School Musashi Kosugi Hospital, ²⁾ Department of Plastic and Reconstructive Surgery, Nippon Medical School Chiba Hokusoh Hospital): How do the dog ears emerge?-A new design for resection of an epidermal cyst using a finite element model-. International Conference of ISSiS (The 8th) (Seoul), 2012. 6.
- 34) Kitta E¹⁾, Akimoto M¹⁾, Hyakusoku H (¹⁾ Department of Plastic and Reconstructive Surgery, Nippon Medical School Chiba Hokusoh Hospital): Biomechanics and computer simulation of the Z plasty. International Conference of ISSiS (The 8th) (Seoul), 2012. 6.
- 35) Akimoto M¹⁾, Hyakusoku H (¹⁾ Department of Plastic and Reconstructive Surgery, Nippon Medical School Chiba Hokusoh Hospital): Finite element analysis of wound protective effect in various skin adhesive dressings. International Conference of ISSiS (The 8th) (Seoul), 2012. 6.
- 36) Dohi T, Akaishi S, Aoki M, Hyakusoku H, Ogawa R: Flap Surgery for Keloid Reconstruction. Congress of the World Union of Wound Healing Societies (The 4th) (Yokohama), 2012. 9.
- 37) Nagashima Y, Huang C¹⁾, Ono S, Hyakusoku H, Ogawa R (¹⁾ Department of Plastic Surgery, Meitan General Hospital, Beijing, China): Small-Wave Incision Methods for Scar Surgery. Congress of the World Union of Wound Healing Societies (The 4th) (Yokohama), 2012. 9.
- 38) Dohi T, Kuribayashi S¹⁾, Miyashita T¹⁾, Akaishi S, Hyakusoku H, Ogawa R (¹⁾ Department of Radiology): High-Dose-Rate Superficial Brachytherapy (HDR-SB) As A Single Therapy For Keloids. Congress of the

- World Union of Wound Healing Societies (The 4th) (Yokohama), 2012. 9.
- 39) Huang C¹⁾, Akaishi S, Dohi T, Hyakusoku H, Ogawa R (¹⁾ Department of Plastic Surgery, Meitan General Hospital, Beijing, China) : Strategy for Treating Ear Keloids. Congress of the World Union of Wound Healing Societies (The 4th) (Yokohama), 2012. 9.
 - 40) Aoki M, Nakao J, Dohi T, Akaishi S, Miyashita T¹⁾, Hyakusoku H, Ogawa R (¹⁾ Department of Radiology) : Mesurement of Keloid Color. Congress of the World Union of Wound Healing Societies (The 4th) (Yokohama), 2012. 9.
 - 41) Arima J, Imura T, Azuma H, Hyakusoku H, Ogawa R : Relationship between Keloid and Hypertension. Congress of the World Union of Wound Healing Societies (The 4th) (Yokohama), 2012. 9.
 - 42) Ogawa R, Huang C¹⁾, Akaishi S, Hyakusoku H (¹⁾ Department of Plastic Surgery, Meitan General Hospital, Beijing, China) : Bioinformatics Approach for Keloid Signaling Pathway Analysis using Whole Human Genome Oligo Microarray. Congress of the World Union of Wound Healing Societies (The 4th) (Yokohama), 2012. 9.
 - 43) Huang C¹⁾, Miyazaki K²⁾, Akaishi S, Hyakusoku H, Ogawa R (¹⁾ Department of Plastic Surgery, Meitan General Hospital, Beijing, China, ²⁾ Jichi Medical School) : Biological Effects of Cellular Stretch on Human Dermal Fibroblasts. Congress of the World Union of Wound Healing Societies (The 4th) (Yokohama), 2012. 9.
 - 44) Imura T, Ogawa R, Arima J, Sugimoto A, Wakabayashi N, Kuwahara H, Akiyama G, Hyakusoku H : Analysis of Negative Pressure Wound Therapy in Nippon Medical School. Congress of the World Union of Wound Healing Societies (The 4th) (Yokohama), 2012. 9.
 - 45) Akiyama G, Takami Y, Dohi T, Nagashima Y, Sugimoto A, Hyakusoku H, Ogawa R : Combination Therapy of Negative Pressure Wound Therapy (NPWT) and Hyperbaric Oxygen Therapy (HBOT) for Infectious Foot Gangrene. Congress of the World Union of Wound Healing Societies (The 4th) (Yokohama), 2012. 9.
 - 46) Wakabayashi N, Ono S, Ishii N, Hyakusoku H, Ogawa R : External Wire Flame Fixation Methods of Skin Grafting for Burn Wounds and Scars. Congress of the World Union of Wound Healing Societies (The 4th) (Yokohama), 2012. 9.
 - 47) Azuma H, Okai K²⁾, Tokumura F³⁾, Mori K, Ohmori Y, Huang C¹⁾, Akaishi S, Hyakusoku H, Ogawa R (¹⁾ Department of Plastic Surgery, Meitan General Hospital, Beijing, China, ²⁾ Research and Development Department, Nichiban Co., Ltd, Tokyo, ³⁾ Medicinal Safety Information Group, Nichiban Co., Ltd, Hidaka) : The Relationship between Skin Stretching / Contraction and Pathological Scarring. Congress of the World Union of Wound Healing Societies (The 4th) (Yokohama), 2012. 9.
 - 48) Ogawa R, Watanabe A¹⁾, Fujita A¹⁾, Akaishi S, Hyakusoku H, Shimada T¹⁾ (¹⁾ Division of Clinical Genetics, Nippon Medical School) : Analysis of Single Nucleotide Polymorphisms on Keloid / Hypertrophic Scar Patients. Congress of the World Union of Wound Healing Societies (The 4th) (Yokohama), 2012. 9.
 - 49) 香西達一¹⁾, 秋元正宇¹⁾, 橘田絵里香¹⁾, 百東比古²⁾ (¹⁾ 千葉北総病院形成外科, ²⁾ 付属病院形成外科) : 術後縫合創への接着性スプリント (ピタシート®) の使用経験と有用性. 日本創傷外科学会総会・学術集会 (第4回) (福岡), 2012. 7.
 - 50) 有馬樹里, 小川 令, 飯村剛史, 東 秀子, 百東比古 : ケロイドの重症化と高血圧との関連性. 日本創傷外科学会総会・学術集会 (第4回) (福岡), 2012. 7.
 - 51) 土佐真美子¹⁾, 山本 彰²⁾, 村上正洋¹⁾, 市川太郎²⁾, 百東比古³⁾ (¹⁾ 武蔵小杉病院形成外科, ²⁾ 武蔵小杉病院放射線科, ³⁾ 付属病院形成外科・美容外科) : ケロイドにおける電子線治療症例の術後5年間のフォローアップ結

- 果より考える有用性と適応. 日本創傷外科学会総会・学術集会 (第4回) (福岡), 2012. 7.
- 52) 長嶋有紀¹⁾, 秋山 豪¹⁾, 土肥輝之¹⁾, 高見佳宏¹⁾, 百束比古¹⁾, 宮本正章²⁾, 桐木園子²⁾ (1) 形成外科・美容外科, 2) 再生医療科): 難治性重症足潰瘍・壊疽に対する形成外科の役割. 日本創傷外科学会総会・学術集会 (第4回) (福岡), 2012. 7.
- 53) 大木琴美¹⁾, 百束比古²⁾, 村上正洋³⁾ (1) 博慈会記念総合病院形成外科, 2) 付属病院形成外科・美容外科, 3) 武蔵小杉病院形成外科): 丹毒との鑑別を要した周期性発熱症候群 (PFAPA) の1症例. 日本創傷外科学会総会・学術集会 (第4回) (福岡), 2012. 7.
- 54) 朝日林太郎: 剣山植皮片の固定に陰圧閉鎖療法 (VAC) を用いた良好な治療アウトカムを得た1例. 日本創傷外科学会総会・学術集会 (第4回) (福岡), 2012. 7.
- 55) 伊吾田慎一¹⁾, 土佐眞美子²⁾, 岩切 致²⁾, 村上正洋²⁾, 百束比古³⁾ (1) 東戸塚記念病院形成外科, 2) 武蔵小杉病院形成外科, 3) 形成外科): 下腿開放骨折に対する Gastrocnemius muscle flap による再建例. 日本創傷外科学会総会・学術集会 (第4回) (福岡), 2012. 7.
- 56) 田嶋繭子¹⁾, 土佐眞美子²⁾, 桑原広輔²⁾, 藪野雄大²⁾, 梅澤裕己¹⁾, 大木琴美²⁾, 岩切 致²⁾, 百束比古¹⁾, 村上正洋²⁾ (1) 付属病院形成外科・美容外科, 2) 武蔵小杉病院形成外科): 種々の難治性潰瘍に対する Light-emitting diode を用いた光線療法の経験. 日本創傷外科学会総会・学術集会 (第4回) (福岡), 2012. 7.
- 57) Dohi T, Akaishi S, Takami Y, Hyakusoku H, Ogawa R: Keloid surgery using perforator pedicled propeller flap. Japan-Korea Congress of Plastic and Reconstructive Surgery (The 11th) (Awaji), 2012. 5.
- 58) Iimura T¹⁾, Ono S^{1, 2)}, Nakao J¹⁾, Ogawa R¹⁾, Takami Y¹⁾, Hyakusoku H¹⁾ (1) Department of Plastic, Reconstructive and Aesthetic Surgery, Nippon Medical School, 2) University of Michigan): Supra-fascial Perforator Directionality (SPD): A New Principle in Perforator Flaps Design. Japan-Korea Congress of Plastic and Reconstructive Surgery (The 11th) (Awaji), 2012. 5.
- 59) Arima J, Ishii N, Kuwahara H, Hyakusoku H: Distally based sural "propeller" flap. Japan-Korea Congress of Plastic and Reconstructive Surgery (The 11th) (Awaji), 2012. 5.
- 60) 小川 令¹⁾, 小山太郎²⁾, 小林一広³⁾, 波間隆則³⁾, 百束比古¹⁾ (1) 日本医科大学形成外科, 2) 医療法人社団ウエルエイジング城西クリニック, 3) アンファー株式会社開発部): 伸展刺激が毛乳頭細胞に与える影響の解析. 日本形成外科学会基礎学術集会 (第21回) (福島), 2012. 10.
- 61) 小川 令¹⁾, Huang C²⁾, 百束比古¹⁾ (1) 日本医科大学形成外科, 2) Department of Plastic Surgery Meitan General Hospital, Beijing, China): 静水圧負荷によるヒト骨髄由来間葉系幹細胞を用いた骨再生. 日本形成外科学会基礎学術集会 (第21回) (福島), 2012. 10.
- 62) 高見佳宏, 小野真平, 松本典子, 有馬樹里, 百束比古: 培養皮膚リンパ管内皮細胞に対する高濃度グルコースの影響. 日本形成外科学会基礎学術集会 (第21回) (福島), 2012. 10.
- 63) 小川 令¹⁾, 渡邊 淳²⁾, 藤田京志²⁾, 赤石論史¹⁾, 百束比古¹⁾, 島田 隆²⁾ (1) 日本医科大学付属病院形成外科・美容外科, 2) 日本医科大学付属病院ゲノム先端医療部): ケロイドの一塩基多型 (SNPs) と臨床型の相関について. 日本形成外科学会基礎学術集会 (第21回) (福島), 2012. 10.
- 64) 赤石論史¹⁾, Wong V²⁾, Levi K⁴⁾, Schultz G⁴⁾, Dauskardt R³⁾ (1) 日本医科大学付属病院形成外科・美容外科, 2) Department of Surgery, Division of Plastic and Reconstructive Surgery, Stanford University, 3) Department of Materials Science and Engineering, Stanford University, 4) Neodyne Biosciences, Inc): 皮膚の性状の違いが癩痕の形成に与える影響. 日本形成外科学会基礎学術集会 (第21回) (福島), 2012. 10.
- 65) 赤石論史¹⁾, 菅 浩隆²⁾, Wong V²⁾, Garg R²⁾, Gurter G²⁾ (1) 日本医科大学付属病院形成外科・美容外科, 2) Department of Surgery, Division of Plastic and Reconstructive Surgery, Stanford University): マウス皮膚におけるケロイド様癩痕作成の試み. 日本形成外科学会基礎学術集会 (第21回) (福島), 2012. 10.
- 66) 土佐眞美子¹⁾, ガジザデモハマッド²⁾, 枝川聖子²⁾, 百束比古³⁾, 村上正洋¹⁾ (1) 日本医科大学武蔵小杉病院形成

- 外科, ²⁾ 日本医科大学老人病研究所病理部門, ³⁾ 日本医科大学付属病院形成外科): cAbl チロジンキナーゼをターゲットとしたケロイド治療確立のための基礎研究. 日本形成外科学会基礎学術集会 (第 21 回) (福島), 2012. 10.
- 67) 須永 中¹⁾, 菅原康志¹⁾, 宇田宏一¹⁾, 去川俊二¹⁾, 桂木容子¹⁾, 宮崎邦夫¹⁾, 加持秀明¹⁾, 小川 令²⁾ (¹⁾ 自治医科大学形成外科, ²⁾ 日本医科大学形成外科): ケロイド由来繊維芽細胞におけるエピジェネティック修飾の網羅的解析. 日本形成外科学会基礎学術集会 (第 21 回) (福島), 2012. 10.
- 68) 杉本貴子, 小川 令, 赤石論史, 土肥輝之, 百東比古: 耳の腫瘍の美容的形成手術. 第 35 回日本美容外科学会総会および第 115 回学術集会 (東京), 2012. 10.
- 69) 渋谷偉織¹⁾, 小野真平²⁾, 百東比古²⁾ (¹⁾ 北村山公立病院, ²⁾ 付属病院形成外科): シリコンバッグプロステーシスと未分化大細胞型リンパ腫 (ALCL) の関連性における文献的考察について. 第 35 回日本美容外科学会総会および第 115 回学術集会 (東京), 2012. 10.
- 70) 若林奈緒¹⁾, 朝日林太郎¹⁾, 小野真平^{1, 2)}, 百東比古¹⁾ (¹⁾ 付属病院形成外科・美容外科, ²⁾ 付属病院救急救命センター): 両側乳房内シリコンジェル注入により敗血症に陥った男性患者症例. 第 35 回日本美容外科学会総会および第 115 回学術集会 (東京), 2012. 10.
- 71) 長嶋有紀, 小川 令, 赤石論史, 土肥輝之, 小池幸子, 百東比古: Nd: YAG レーザーを用いた瘢痕治療の検討. 第 35 回日本美容外科学会総会および第 115 回学術集会 (東京), 2012. 10.
- 72) かづきれいこ^{1, 2)}, 百東比古²⁾, 青木 律^{2, 3)} (¹⁾ REIKO KAZKI, ²⁾ 日本医科大学形成外科・美容外科, ³⁾ グリーンウッドスキンクリニック立川): 日本医大病院におけるリハビリメイク外来約 7 年の結果の検討. 第 35 回日本美容外科学会総会および第 115 回学術集会 (東京), 2012. 10.
- 73) 梅澤裕己, 長嶋有紀, 小野真平, 小川 令, 百東比古: Supercharging CP/OCP 超薄皮弁による顔面頸部再建-sCP 皮弁の経験. 日本頭蓋顎顔面外科学会学術集会 (第 30 回) (大阪), 2012. 11.
- 74) 江浦重義¹⁾, 石井暢明¹⁾, 小川 令¹⁾, Vinh V²⁾, 百東比古¹⁾ (¹⁾ 付属病院形成外科・美容外科, ²⁾ ベトナム熱傷研究所): 広範囲顔面瘢痕の双茎遊離超薄皮弁による再建. 日本頭蓋顎顔面外科学会学術集会 (第 30 回) (大阪), 2012. 11.
- 75) 橋田絵里香¹⁾, 秋元正宇¹⁾, 百東比古²⁾ (¹⁾ 千葉北総病院形成外科, ²⁾ 付属病院形成外科・美容外科): 皮膚悪性腫瘍切除における局所皮弁による再建のシミュレーション. 日本シミュレーション外科学会 (第 22 回) (東京), 2012. 11.
- 76) 赤石論史¹⁾, Wong V²⁾, Reinhold D⁴⁾, 小川 令¹⁾, 百東比古¹⁾, 秋元正宇²⁾ (¹⁾ 付属病院形成外科・美容外科, ²⁾ 千葉北総病院形成外科, ³⁾ スタンフォード大学形成外科, ⁴⁾ スタンフォード大学材料工学): 皮膚性状と瘢痕形成においての関係性の予測. 日本シミュレーション外科学会 (第 22 回) (東京), 2012. 11.
- 77) 秋元正宇¹⁾, 橋田絵里香¹⁾, 香西達一¹⁾, 百東比古²⁾ (¹⁾ 千葉北総病院形成外科, ²⁾ 付属病院形成外科・美容外科): FEM シミュレーションによる創傷被覆材の創保定能力の力学的検討. 日本シミュレーション外科学会 (第 22 回) (東京), 2012. 11.
- 78) 小野真平: 半切した長橈側手根伸筋 (ECRL) 腱の反転移行 (turn-over transfer) により長母子伸筋 (EPL) 腱の再建をしたリウマチ患者の 1 例. 手外科研究会 (第 1 回) (東京), 2012. 11.
- 79) 百東比古: 穿通枝を利用した皮膚軟部組織欠損の新しい被覆法—皮膚狭茎超薄皮弁, 穿通枝付加超薄皮弁, プロペラ皮弁, 穿通枝付加プロペラ皮弁, シャントスーパーチャージング皮弁など. 手外科研究会 (第 1 回) (東京), 2012. 11.
- 80) 小野真平: 日本医科大学における手外科診療チーム構築の試み. 手外科研究会 (第 1 回) (東京), 2012. 11.
- 81) 若林奈緒, 小川 令, 赤石論史, 百東比古: インピーダンス法を用いたケロイドの皮膚バリア機能測定. 瘢痕・ケロイド治療研究会 (第 7 回) (横浜), 2012. 11.
- 82) 有馬樹里, 小川 令, 飯村剛史, 東 秀子, 赤石論史, 百東比古: ケロイドの重症化と高血圧との関連性. 瘢

- 痕・ケロイド治療研究会（第7回）（横浜），2012. 11.
- 83) 小川 令，赤石論史，百東比古：ケロイド・肥厚性癬痕の体質，全身因子と局所因子に関する文献的ならびに経験的考察．癬痕・ケロイド治療研究会（第7回）（横浜），2012. 11.
- 84) 赤石論史¹⁾，小川 令¹⁾，菅 浩隆²⁾，Wong V²⁾，Gurtner G²⁾，百東比古¹⁾（¹⁾ 付属病院形成外科，²⁾ スタンフォード大学形成外科）：人間以外の動物にケロイド・肥厚性癬痕はできるか．癬痕・ケロイド治療研究会（第7回）（横浜），2012. 11.
- 85) 青木雅代¹⁾，三宅弘一²⁾，小川 令¹⁾，土肥輝之¹⁾，赤石論史¹⁾，百東比古¹⁾（¹⁾ 付属病院形成外科・美容外科，²⁾ 日本医科大学分子遺伝学）：ケロイドに対する遺伝子治療の可能性．癬痕・ケロイド治療研究会（第7回）（横浜），2012. 11.
- 86) 伊吾田慎一¹⁾，土佐眞美子^{2,3)}，村上正洋²⁾，枝川聖子³⁾，清水 一³⁾，百東比古⁴⁾，ガジザデモハマッド³⁾（¹⁾ 東戸塚記念病院形成外科，²⁾ 武蔵小杉病院形成外科，³⁾ 武蔵小杉病院老人病研究所病理部門，⁴⁾ 日本医科大学形成外科）：ケロイドにおける Wnt シグナル伝達経路の発現解析．癬痕・ケロイド治療研究会（第7回）（横浜），2012. 11.
- 87) 杉本貴子，小川 令，土肥輝之，赤石論史，百東比古：耳垂ケロイド・肥厚性癬痕症例の外科的治療法の検討．癬痕・ケロイド治療研究会（第7回）（横浜），2012. 11.
- 88) 土佐眞美子¹⁾，村上正洋¹⁾，百東比古²⁾（¹⁾ 武蔵小杉病院形成外科，²⁾ 付属病院形成外科・美容外科）：帝王切開術後早期からのソフトシリコンジェルシート固定による肥厚性癬痕予防効果の検討．癬痕・ケロイド治療研究会（第7回）（横浜），2012. 11.
- 89) 長嶋有紀，小川 令，赤石論史，土肥輝之，小池幸子，百東比古：Nd：YAG レーザーを用いた癬痕治療の検討．癬痕・ケロイド治療研究会（第7回）（横浜），2012. 11.
- 90) 飯村剛史¹⁾，小川 令¹⁾，かづきれいこ^{1,2)}，百東比古¹⁾（¹⁾ 日本医科大学形成外科，²⁾ REIKO KAZKI）：熱傷後癬痕患者におけるリハビリメイク®による外観および精神面の改善の検討．癬痕・ケロイド治療研究会（第7回）（横浜），2012. 11.
- 91) Wakabayashi N, Shibuya I, Ishii N, Hyakusoku H: Severe late complication cases of injection mammo-plasty using hydrogel material. International Congress of Oriental Society of Aesthetic Plastic Surgery (The 13th) (Seoul), 2012. 10.
- 92) 有馬樹里¹⁾，石井暢明¹⁾，渋谷偉織¹⁾，百東比古¹⁾，小野真平²⁾（¹⁾ 付属病院形成外科・美容外科，²⁾ 付属病院救命救急センター・形成外科）：Dual perforators pedicled propeller flap：踵周囲部再建の遊離皮弁再建との比較．日本マイクロサージャリー学会学術集会（第39回）（福岡），2012. 12.
- 93) 梅澤裕己，長嶋有紀，小野真平，小川 令，百東比古：Perforator Supercharging CP/OCP 超薄皮弁による頸部癬痕拘縮の検討．日本マイクロサージャリー学会学術集会（第39回）（福岡），2012. 12.
- 94) 小野真平¹⁾，Chung K²⁾，百東比古¹⁾（¹⁾ 日本医科大学形成外科，²⁾ ミシガン大学形成外科）：下腿開放骨折（Gustilo IIIB & IIIC）の予後をEBMに基づいてアプローチする．日本マイクロサージャリー学会学術集会（第39回）（福岡），2012. 12.
- 95) 青木宏信，小川 令，百東比古：ケロイド・肥厚性癬痕の類似疾患の検討．日本創傷治療学会（第42回）（北海道），2012. 12.
- 96) 野一色千景¹⁾，小川 令¹⁾，赤石論史¹⁾，土肥輝之¹⁾，栗林茂彦²⁾，宮下次廣²⁾，百東比古¹⁾（¹⁾ 付属病院形成外科・美容外科，²⁾ 付属病院放射線治療科）：ケロイドに対する放射線単独照射療法の検討－とくに作用機序の考察．日本創傷治療学会（第42回）（北海道），2012. 12.
- 97) 松本典子，高見佳宏，杉本貴子，小野真平，百東比古：高濃度グルコース環境による皮膚リンパ管内皮細胞障害．日本創傷治療学会（第42回）（北海道），2012. 12.
- 98) 桐木市川園子¹⁾，高木 元¹⁾，久保田芳明¹⁾，手塚晶人¹⁾，飯村剛史²⁾，高見佳宏²⁾，松田範子³⁾，宮本正彰¹⁾，水

- 野杏一⁴⁾ (1) 付属病院再生医療科, 2) 付属病院形成外科, 3) 付属病院 ME 部, 4) 付属病院第一内科): マゴットセラピー 159 例から考える下肢救済実績. 日本創傷治癒学会 (第 42 回) (北海道), 2012. 12.
- 99) 櫻井 透, 小川 令, 若林奈緒, 杉本貴子, 有馬樹里, 奈良慎平, 百束比古: 下肢リンパ浮腫に対するリンパ管静脈吻合術による蜂窩織炎の予防効果. 日本創傷治癒学会 (第 42 回) (北海道), 2012. 12.
- 100) 杉本貴子, 高見佳宏, 松本典子, 渋谷偉織, 百束比古: 「ラップ療法」にて拡大・増悪してリウマチ性下腿潰瘍の 1 例. 日本創傷治癒学会 (第 42 回) (北海道), 2012. 12.
- 101) 高見佳宏, Orbay H, 小野真平, 百束比古: 脂肪組織由来幹細胞とコラーゲン架橋による無細胞真皮マトリックスの移植特性の変化. 日本創傷治癒学会 (第 42 回) (北海道), 2012. 12.
- 102) 小川 令, 赤石論史, 小野真平, 飯村剛史, 土肥輝之, 百束比古: 前胸部の大きなケロイドに対する穿通枝茎プロペラ皮弁による再建法. 日本形成外科手術手技学会 (第 18 回) (東京), 2013. 2.
- 103) 岩切 致¹⁾, 桑原広輔¹⁾, 大木琴美¹⁾, 村上正洋¹⁾, 百束比古²⁾ (1) 武蔵小杉病院形成外科, 2) 付属病院形成外科・美容外科): われわれの行っているタイオーバー固定法の工夫. 日本形成外科手術手技学会 (第 18 回) (東京), 2013. 2.
- 104) 朝日林太郎¹⁾, 小野真平²⁾, 小川 令¹⁾, 百束比古¹⁾ (1) 付属病院形成外科・美容外科, 2) 付属病院高度救命救急センター): 植皮片の生着に難渋が予想される患者に対する剣山ドレナージ及び VAC 療法併用の有用性. 日本形成外科手術手技学会 (第 18 回) (東京), 2013. 2.
- 105) 朝日林太郎^{1,2)}, 小野真平^{1,2)}, 櫻井 透¹⁾, 赤石論史¹⁾, 小川 令¹⁾, 百束比古¹⁾ (1) 形成外科・美容外科, 2) 高度救命救急センター): 全身熱傷患者に対するハイドロサージェリーシステム「パーサジェット S」の使用経験. 関東形成外科学会・東京地方会 (第 273 回) (東京), 2013. 3.
- 106) 小野真平, 朝日林太郎, 百束比古: 皮弁内穿通枝吻合 (Intra-flap Perforator Anastomosis) により薄く大きな皮弁を tailor-made する. 関東形成外科学会・東京地方会 (第 273 回) (東京), 2013. 3.
- 107) 朝日林太郎: パーサジェット S を用いた手背熱傷の治療経験. 手外科研究会 (第 2 回) (東京), 2013. 3.
- 108) 小野真平: Superficial Palmer Branch of the Radial Artery (SPBRA Flap) による指尖部再建の治療経験. 手外科研究会 (第 2 回) (東京), 2013. 3.
- 109) 櫻井 透: 上肢のケロイド・癬痕拘縮治療. 手外科研究会 (第 2 回) (東京), 2013. 3.
- 110) 百束比古: 穿通枝付加超薄皮弁とプロペラ皮弁—その国際的普及まで. 再生再建外科研究会 (第 1 回) (東京), 2013. 2.
- 111) 小川 令: 再生医学の歴史と形成外科領域での将来展望. 再生再建外科研究会 (第 1 回) (東京), 2013. 2.
- 112) 小野真平: 下行膝動脈穿通枝皮弁 Descending genicular artery perforator (D-GAP) flap. 再生再建外科研究会 (第 1 回) (東京), 2013. 2.
- 113) 小川 令: ケロイドに対する集学的治療: 標準的治療から教科書に載っていない最新の治療まで. 再生再建外科研究会 (第 1 回) (東京), 2013. 2.
- 114) 小川 令: メカノバイオロジーを利用した再生医療の試み. 再生再建外科研究会 (第 1 回) (東京), 2013. 2.
- (8) 研究奨励賞講演:
- 1) 赤石論史¹⁾, 小川 令¹⁾, ガートナージェフリー²⁾, ウォンビクター²⁾, 百束比古¹⁾ (1) 付属病院形成外科・美容外科, 2) 米国スタンフォード大学形成外科): 力学的因子が Focal Adhesion Kinase (FAK) を介して肥厚性癬痕を誘導する. 日本創傷治癒学会 (第 42 回) (北海道), 2012. 12.
- (9) 展示演題:
- 1) 土肥輝之¹⁾, 小川 令¹⁾, 赤石論史¹⁾, 宮下次廣²⁾, 栗林茂彦²⁾, 百束比古¹⁾ (1) 形成外科・美容外科, 2) 放射線科): ケロイドに対する術後小線源治療の有効性. 日本形成外科学会総会・学術集会 (第 55 回) (東京), 2012. 4.
- 2) 東 秀子¹⁾, 小川 令¹⁾, 岡井和久²⁾, 森 和之³⁾, 土肥輝之¹⁾, 赤石論史¹⁾, 百束比古¹⁾ (1) 形成外科・美容外

- 科, ²⁾ ニチバン株式会社研究開発部, ³⁾ ニチバン株式会社品質保証部): 癬痕予防・治療におけるテープ・ジェルシート固定の工夫. 日本形成外科学会総会・学術集会 (第 55 回) (東京), 2012. 4.
- 3) 飯村剛史¹⁾, 小川 令¹⁾, かづきれいこ^{1,2)}, 百束比古¹⁾ (¹⁾ 付属病院形成外科・美容外科, ²⁾ REIKO KAZKI): 熱傷後癬痕患者におけるリハビリメイク®による外観および精神面の改善の検討. 日本形成外科学会総会・学術集会 (第 55 回) (東京), 2012. 4.
- 4) 有馬樹里, 小川 令, 飯村剛史, 東 秀子, 百束比古: ケロイドの重症化と高血圧の関連性. 日本形成外科学会総会・学術集会 (第 55 回) (東京), 2012. 4.
- 5) 杉本貴子¹⁾, 江浦重義¹⁾, 桑原大彰¹⁾, 百束比古¹⁾, 飛田護邦²⁾ (¹⁾ 形成外科・美容外科, ²⁾ 形成外科幹細胞生物学・組織再生研究室): 歯周病が著明であった上肢 Buerger 病の 1 例. 日本形成外科学会総会・学術集会 (東京), 2012. 4.
- 6) 藪野雄大¹⁾, 土佐眞美子¹⁾, 岩切 致¹⁾, 野本俊一¹⁾, 田嶋繭子¹⁾, 百束比古²⁾, 村上正洋¹⁾ (¹⁾ 武蔵小杉病院形成外科, ²⁾ 付属病院形成外科・美容外科): 難治性下腿潰瘍を合併した Klinefelter 症候群の 3 症例. 日本形成外科学会総会・学術集会 (第 55 回) (東京), 2012. 4.
- 7) 若林奈緒, 渋谷偉織, 石井暢明, 百束比古: 乳房に対するポリアクリラミドハイドロジェル注入による後遺症の検討. 日本形成外科学会総会・学術集会 (第 55 回) (東京), 2012. 4.
- 8) 小野真平¹⁾, 小川 令¹⁾, 林 宏光²⁾, 高見佳宏¹⁾, 百束比古¹⁾ (¹⁾ 形成外科, ²⁾ 放射線科): 四肢の穿通枝は中枢に向かう: SPD concept. 日本形成外科学会総会・学術集会 (第 55 回) (東京), 2012. 4.
- 9) 小野真平, 小川 令, 高見佳宏, 百束比古: 穿通枝プロペラ皮弁による四肢軟部組織欠損の治療戦略. 日本形成外科学会総会・学術集会 (第 55 回) (東京), 2012. 4.
- 10) 小野真平, 小川 令, 江浦重義, 高見佳宏, 百束比古: 穿通枝付加穿通枝プロペラ皮弁 Perforator-supercharged perforator-based propeller flap. 日本形成外科学会総会・学術集会 (第 55 回) (東京), 2012. 4.

[武蔵小杉病院形成外科]

研究概要

臨床: 1) ケロイド・肥厚性癬痕: 手術後ケロイドおよび肥厚性癬痕の予防を目的とした scar control 外来は今年で 8 年目に入り, 3000 例を超えた. 術後早期からのトラニラスト内服やシリコンジェルシート使用による肥厚性癬痕抑制効果の検討結果もまとまりつつある. ステロイドの局所注射の際の激痛を和らげるための前処置を工夫したり, 大きなケロイドなどには手術と電子線治療を併用し, 難治のアクネケロイドに対しては LED を用いた光線力学療法を併用することで治療効果をあげている. 2) 褥瘡・下腿潰瘍などの難治性潰瘍: 一般の局所治療に加え前述の光線療法や局所陰圧閉鎖療法を積極的に行い, 上皮化促進効果を得ている. 重症下肢虚血を原因とする潰瘍に対しては, 血管内・低侵襲治療センターおよび内科と協力体制を構築し救済に務めている. 3) 眼形成外科: 近隣眼科からの紹介増加により, 手術数も増えている. また, 近隣眼科医との情報共有を十分に行うことで, より質の高い治療を行えるようになりつつある. さらに, 当院眼科医師の手術参加, 当科医師の眼科外来研修など, 相互交流も開始した. 基礎: ケロイドの発生機序の解明と特効薬の開発を目的とした基礎研究を継続している. われわれは, ケロイド発生に IL-6 シグナルが関与していることを明らかにしてきたが, その研究を発展させ, IL-6 関連遺伝子の SNP 解析を行い, 興味ある結果を得ている. さらに, ケロイドにおける Wnt シグナルや EMT などの解析やケロイドモデルの作成を試み, ケロイド発生原因の解明および分子標的治療薬の開発を目指している.

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) Murakami M, Ono S¹⁾, Ishii N¹⁾, Hyakusoku H¹⁾ (1) Department of Plastic,Reconstructive and Aesthetic Surgery,Nippon Medical School) : Reconstruction of elbow region defects using radial collateral artery perforator (RCAP)-based propeller flaps. J Plast Reconstr Aesthet Surg 2012 ; 65 (10) : 1418-1421.
- 2) 野村好美¹⁾, 村上正洋, 若城由美子²⁾, 伊藤桃子¹⁾ (1) 武蔵小杉病院 看護部, 2) 武蔵小杉病院 薬剤科) : 医療機器による褥瘡の現状と医療機器の分類による対策指標. 日本褥瘡学会誌 2012 ; 14 (4) : 533-557.
- 3) 村上正洋, 中村 敏¹⁾ (1) なかむら眼科・形成外科) : 眼瞼の形成外科手術における局所麻酔のコツ. PEPARS 2012 ; 72 : 1-8.
- 4) Igota S^{1,2)}, Tosa M, Murakami M, Egawa S¹⁾, Shimizu H¹⁾, Hyakusoku H³⁾, Ghazizadeh M¹⁾ (1) Department of Molecular Pathology,Institute of Gerontology,Nippon Medical School, 2) Department of Plastic and Reconstructive Surgery,Higashi-totsuka Memorial Hospital, 3) Department of Plastic and Reconstructive Surgery,Nippon Medical School) : Identification and Characterization of Wnt Signaling Pathway in Keloid Pathogenesis. Int J Med Sci 2013 ; 10 (4) : 344-354.
- 5) 土佐真美子, 村上正洋, 百束比古¹⁾ (1) 附属病院 形成外科・美容外科) : ケロイド発症年齢の検討. 癬痕・ケロイド治療研究ジャーナル 2012 ; 6 (1) : 69-70.

著書

- 1) 村上正洋, 中村 敏¹⁾ (1) なかむら眼科・形成外科) : [分担] 上眼瞼皮膚弛緩症. 新ES NOW No.12 眼科手術のトラブルシューティング (山本哲也 江口秀一郎 ビッセン宮島弘子 門之園一明), 2012 ; pp22-27, メジカルビュー社.
- 2) 村上正洋 : [分担] VII. 眼瞼下垂・皮膚弛緩症 12. 眉毛下皮膚切除術. 眼手術学 2. 眼瞼 (大鹿哲郎 野田実香), 2013 ; pp330-339, 文光堂.

学会発表

(1) 特別講演：

- 1) 村上正洋：きずを考える：縫うべきか縫わぬべきか・さて考える. 医療法人おもと会特別講演会（沖縄），2012. 9.
- 2) 土佐真美子：きずを考える：ケロイドと戦う. 医療法人おもと会特別講演会（沖縄），2012. 9.

(2) 教育講演：

- 1) 村上正洋：傷の治し方，治り方. 美容形成外科を支える現代の名匠講演会（第6回）（沖縄），2012. 5.
- 2) 村上正洋：眼瞼の加齢性変化に対する手術治療：上眼瞼皮膚弛緩症と下眼瞼内半症を中心に. 城東地区眼科医・コメディカルセミナー（第23回）（東京），2012. 9.
- 3) 村上正洋：あきらめないで！まぶたの老化. 美容形成外科を支える現代の名匠講演会（第6回）（沖縄），2012. 5.
- 4) 村上正洋：眼形成：形成外科医として眼科と美容外科の狭間で考えること. 千駄木眼科フォーラム（第17回）（東京），2012. 12.

(3) パネルディスカッション：

- 1) 村上正洋, 中村 敏¹⁾ (1) なかむら眼科・形成外科) : 退行性下眼瞼内反症の治療：形成外科医にできること，形成外科医もすべきこと. 日本頭蓋顎顔面外科学会学術集会（第30回）（大阪），2012. 11.

(4) ポスター：

- 1) 伊吾田慎¹⁾, 土佐眞美子, 岩切 致, 村上正洋, 百束比古²⁾ (1) 東戸塚記念病院 形成外科, 2) 付属病院 形成外科・美容外科)：下腿開放骨折に対する Gastrocnemius muscle flap による再建例. 日本創傷外科学会総会・学術集会 (第4回) (福岡), 2012. 7.
- 2) 田嶋繭子¹⁾, 土佐眞美子, 桑原広輔, 藪野雄大, 梅澤裕己¹⁾, 野本俊一¹⁾, 大木琴美, 岩切 致, 百束比古¹⁾, 村上正洋 (1) 付属病院 形成外科・美容外科)：種々の難治性潰瘍に対する Light-emitting diode を用いた光線療法の実験. 日本創傷外科学会総会・学術集会 (第4回) (福岡), 2012. 7.
- 3) 藪野雄大, 野本俊一¹⁾, 岩切 致, 土佐眞美子, 奈良慎平¹⁾, 田嶋繭子¹⁾, 村上正洋 (1) 付属病院 形成外科・美容外科)：猫耳皮弁法を用いた埋没耳の治療経験. 日本医科大学医学会総会 (第80回) (東京), 2012. 9.
- 4) 田嶋繭子¹⁾, 村上正洋, 桑原大彰¹⁾, 石井暢明¹⁾, 百束比古¹⁾ (1) 付属病院 形成外科・美容外科)：経皮的冠動脈拡張術 (PTCA) 後に生じた右上腕放射線潰瘍を穿通枝プロペラ (PPP) 皮弁で再建した1例. 日本医科大学医学会総会 (第80回) (東京), 2012. 9.
- 5) 桑原広輔, 村上正洋, 藪野雄大, 田嶋繭子¹⁾, 野本俊一¹⁾, 岩切 致, 土佐眞美子, 百束比古¹⁾ (1) 付属病院 形成外科・美容外科)：耳垂に発生した稀な先天性耳瘻孔の治療経験と流注膿瘍の進展形態に関する考察. 日本医科大学医学会総会 (第80回) (東京), 2012. 9.
- 6) 村上正洋, 百束比古¹⁾ (1) 付属病院 形成外科・美容外科)：眉毛下皮膚切除術における男女差の検討. 日本医科大学医学会総会 (第80回) (東京), 2012. 9.
- 7) Tosa M, Murakami M, Hyakusoku H¹⁾ (1) Department of Plastic, Reconstructive and Aesthetic Surgery, Nippon Medical School)：EVALUATION OF THE EFFECT TO PREVENT POSTOPERATIVE HYPERTROPHIC SCAR AND KELOID BY THE PROPHYLACTIC USE OF SOFT SILICONE GEL SHEET. Congress of the World Union of Wound Healing Societies (The 4th) (Yokohama), 2012. 9.
- 8) Yabuno Y, Murakami M, Ono S¹⁾, Kuwahara H¹⁾, Kuroda S²⁾, Ishii N¹⁾, Hyakusoku H¹⁾ (1) Department of Plastic, Reconstructive and Aesthetic Surgery, Nippon Medical School, 2) Department of Plastic Surgery, Ohama Daiichi Hospital)：RECONSTRUCTION OF DISTAL ARM AND ELBOW DEFECTS USING RADIAL COLLATERAL ARTERY PERFORATOR (RCAP)-BASED PROPELLER FLAPS. Congress of the World Union of Wound Healing Societies (The 4th) (Yokohama), 2012. 9.
- 9) Tosa M, Igota S¹⁾, Murakami M, Ghazizadeh M¹⁾ (1) Department of Molecular Pathology Institute of Development and Aging Sciences, Nippon Medical School)：EVALUATION OF THE STEM CELL FACTOR RECEPTOR C-KIT IN KELOID LESIONS. Congress of the world Union of Wound Healing Societies (The 4th) (Yokohama), 2012. 9.
- 10) Nomoto S¹⁾, Murakami M, Hyakusoku H¹⁾, Akimoto M²⁾ (1) Department of Plastic, Reconstructive and Aesthetic Surgery, Nippon Medical School, 2) Department of Plastic Surgery, Nippon Medical School, Chiba)：A NEW INCISION DESIGN FOR RESECTION OF AN EPIDERMAL CYST USING A FINITE ELEMENT MODEL. Congress of the World Union of Wound Healing Societies (The 4th) (Yokohama), 2012. 9.
- 11) Ghazizadeh M¹⁾, Egawa S¹⁾, Shimizu H¹⁾, Igota S²⁾, Tosa M (1) Department of Molecular Pathology, Institute of Gerontology, Nippon Medical School, 2) Department of Plastic and Reconstructive Surgery, Higashi-totsuka Memorial Hospital)：Involvement of a Wnt/ β -catenin Canonical Signaling Pathway in Keloid Pathogenesis. Annual Meeting of the Japanese Society for Investigative Dermatology (The 37th) (Okinawa), 2012. 12.
- 12) Tosa M, Ghazizadeh M¹⁾, Murakami M (1) Department of Molecular Pathology, Institute of Gerontology, Nippon Medical School)：Involvement of Th17/IL-17 in the pathogenesis of keloid. Annual Meeting of the Japanese Society for Investigative Dermatology (The 37th) (Okinawa), 2012. 12.
- 13) Shimizu H¹⁾, Igota S^{1, 2)}, Tosa M, Egawa S¹⁾, Ghazizadeh M¹⁾ (1) Department of Molecular Pathology, Institute

of Gerontology, Nippon Medical School, ²⁾ Department of Plastic and Reconstructive Surgery, Higashi-totsuka Memorial Hospital) : MicroRNA Expression Profiles in Keloid and Normal Dermal Fibroblasts. Annual Meeting of the Japanese Society for Investigative Dermatology (The 37th) (Okinawa), 2012. 12.

(5) 一般講演 :

- 1) 土佐眞美子, 村上正洋, 百東比古¹⁾ (¹⁾ 付属病院 形成外科・美容外科) : ケロイド発症年齢と原因から考えるスクリーニングポイントの検討. 日本形成外科学会総会・学術集会 (第55回) (東京), 2012. 4.
- 2) 村上正洋, 百東比古¹⁾ (¹⁾ 付属病院 形成外科・美容外科) : 男性の退行性上眼瞼皮膚弛緩症に対する眉毛下皮膚切除術. 日本形成外科学会総会・学術集会 (第55回) (東京), 2012. 4.
- 3) 土佐眞美子, 山本 彰¹⁾, 村上正洋, 市川太郎¹⁾, 百東比古²⁾ (¹⁾ 武蔵小杉病院 放射線科, ²⁾ 付属病院 形成外科・美容外科) : ケロイドにおける電子線治療症例の術後5年間のフォローアップ結果より考える有用性と適応. 日本創傷外科学会総会・学術集会 (第4回) (福岡), 2012. 7.
- 4) 大木琴美¹⁾, 百東比古²⁾, 村上正洋 (¹⁾ 博慈会記念総合病院 形成外科, ²⁾ 付属病院 形成外科・美容外科) : 丹毒との鑑別を要した周期性発熱症候群 (PFAPA) の1症例. 日本創傷外科学会総会・学術集会 (第4回) (福岡), 2012. 7.
- 5) 土佐眞美子, ガジザデモハammad¹⁾, 枝川聖子¹⁾, 百東比古²⁾, 村上正洋 (¹⁾ 老人病研究所病理部門, ²⁾ 付属病院 形成外科・美容外科) : cAblチロジンキナーゼをターゲットとしたケロイド治療確立のための基礎研究. 日本形成外科学会基礎学術集会 (第21回) (福島), 2012. 10.
- 6) 村上正洋 : 男性に行った眉毛下皮膚切除術の検討. 日本眼窩疾患シンポジウム (第27回) (山形), 2012. 11.
- 7) 伊吾田慎一¹⁾, 土佐眞美子, 村上正洋, 枝川聖子²⁾, 清水 一¹⁾, 百東比古³⁾, ガジザデモハammad²⁾ (¹⁾ 東戸塚記念病院 形成外科, ²⁾ 老人病研究所 病理部門, ³⁾ 付属病院 形成外科・美容外科) : ケロイドにおける Wnt シグナル伝達経路の発現解析. 瘢痕・ケロイド治療研究会 (第7回) (横浜), 2012. 11.
- 8) 土佐眞美子, 村上正洋, 百東比古¹⁾ (¹⁾ 付属病院 形成外科・美容外科) : 帝王切開術後早期からのソフトシリコンジェルシート固定による肥厚性瘢痕予防効果の検討. 瘢痕・ケロイド治療研究会 (第7回) (横浜), 2012. 11.
- 9) 岩切 致, 桑原広輔, 大木琴美, 村上正洋, 百東比古¹⁾ (¹⁾ 付属病院 形成外科・美容外科) : われわれの行っているタイオーバー固定法の工夫. 日本形成外科手術手技学会 (第18回) (東京), 2013. 2.
- 10) Nomoto S¹⁾, Murakami M, Akimoto M²⁾, Hyakusoku H (¹⁾ Department of Plastic and Reconstructive Surgery, Nippon Medical School, ²⁾ Department of Plastic and Reconstructive Surgery, Nippon Medical School, Chiba) : How do the dog ears emerge? : A new design for resection of an epidermal cyst using a finite element model. International Conference of ISSiS (The 8th) (Seoul), 2012. 6.

(6) 展示演題 :

- 1) 藪野雄大, 土佐眞美子, 岩切 致, 野本俊一, 田嶋繭子, 百東比古¹⁾, 村上正洋 (¹⁾ 付属病院 形成外科・美容外科) : 難治性下腿潰瘍を合併した Klinefelter 症候群の3症例. 日本形成外科学会総会・学術集会 (第55回) (東京), 2012. 4.
- 2) 伊吾田慎一¹⁾, 村井真美¹⁾, 杉井政澄¹⁾, 定岡侑子¹⁾, 土佐眞美子, 岩切 致, 村上正洋, 百東比古²⁾ (¹⁾ 東戸塚記念病院 形成外科, ²⁾ 付属病院 形成外科・美容外科) : 人工真皮と V.A.C.ATS 治療システムの併用療法の経験と小工夫. 日本形成外科学会総会・学術集会 (第55回) (東京), 2012. 4.
- 3) 桑原大彰¹⁾, 土佐眞美子, 枝川聖子²⁾, 百東比古³⁾, 村上正洋, ガジザデモハammad²⁾ (¹⁾ 会津中央病院 形成外科, ²⁾ 老人病研究所病理部門, ³⁾ 付属病院 形成外科・美容外科) : ケロイド浸潤における Wnt5a-Ror シグナルと上皮間葉系転換のに関する基礎的研究. 日本形成外科学会基礎学術集会 (第21回) (福島), 2012. 10.

[千葉北総病院形成外科]

研究概要

コンピュータ・シミュレーションによる臨床上的さまざまな現象の解明をテーマに研究をおこなっている。ケロイドの進展機序に関するコンピュータシミュレーションの研究、頭蓋顔面外科領域とくに脳神経外科との境界領域における頭蓋再建術の研究に成果があった。皮膚手術シミュレーションの研究は、様々な皮膚形成術をモデル化し、手術シミュレーションを行うものである。皮膚形成術により発生する皮膚の進展、圧縮変形、応力、ひずみなどを解析しその構造力学的挙動を解明した。皮弁形成術のデザインは熟練医の経験と勘によることが多かった。これを客観的に示し誰にでもできるようにするために皮膚形成術の従来法を構造力学的に評価した。褥瘡発生機序の研究は褥瘡モデルを作成し様々な力学的条件からその発生機序を解明するものである。これらの結果から褥瘡発生予防効果の高いシートの形状を考察した。今後褥瘡発生予防のための新しい器具の開発、褥瘡再発防止効果の高い新しい手術法の開発等が期待できる。ケロイドの進展機序に関する研究はケロイドをモデル化し応力集中の状況からその進展機序を解明しようとするものである。従来のモデルでは説明のできなかった様々ケロイドの特性について構造力学的に解析した。さらにケロイドの進展予防のためのシリコンシートの作用機序について解明を試みた。頭蓋顔面外科領域の再建の研究では自家組織による再建を中心として整容的にも考慮した術式を考案した。とくに肋骨によるフレームを用いることによって効果的に小児の頭蓋を再建することに成功した。また頭蓋骨外板を分節上に切離しさらにこれを皮弁として用いることで形態再建に優れた術式を開発した。

研究業績

論文

(1) 総説：

- 1) 秋元正宇：有限要素法による人体の力学シミュレーション。日医大医会誌 2012；8（2）：72-73.
- 2) 秋元正宇：研修医・外科系医師が知っておくべき形成外科の基本知識と手技【慢性創傷治療の理論と実際（褥瘡）】。形成外科（0021-5228）2012；55（増刊）：S242-S247.

(2) 症例報告：

- 1) 香西達一，秋元正宇，細谷 慶¹⁾，百束比古²⁾（¹⁾千葉北総病院 耳鼻咽喉科，²⁾付属病院 形成外科・美容外科）：鼻中隔矯正術後，鼻孔部に生じたケロイド様腫瘤の著明な肥厚により鼻孔閉鎖を生じた1例。日本頭蓋顔面外科学会誌（0914-594X）2012；28（2）：129-133.

学会発表

(1) シンポジウム：

- 1) 秋元正宇：ガイドラインシンポジウム：感染巣：壊死性筋膜炎・ガス壊疽。日本創傷外科学会総会・学術集会（第4回），2012. 7.
- 2) 秋元正宇：術後創を創傷被覆材などで保定することの力学的意義：有限要素法によるシミュレーションから。日本形成外科学会基礎学術集会（第21回），2012. 10.

(2) セミナー：

- 1) 秋元正宇：ピタシートの創傷保定能力の検討。日本形成外科学会総会・学術集会（第55回），2012. 4.

(3) 一般講演：

- 1) Sugimoto A¹⁾，Akimoto M，Hyakusoku H¹⁾（¹⁾Nippon Medical School, Fuzoku Hospital）：Finite element analysis of pressure ulcer model derived from CT scan of sacrum.(8th). International Conference of the International Society for Simulation Surgery (Seoul), 2012. 6.
- 2) Sibuya I¹⁾，Akimoto M，Akaishi S¹⁾，Hyakusoku H¹⁾：Computational model of the sinking scar. Interna-

- tional Conference of the international Society for Simulation Surgery (8th) (Seoul), 2012. 6.
- 3) Nomoto S²⁾, Murakami M²⁾, Akimoto M, Hyakusoku H¹⁾ (¹⁾ Nippon Medical School, Fuzoku Hospital, ²⁾ Nippon Medical School, Musasikosugi Hospital) : How do the dog ears emerge?. International Conference of the international Society for Simulation Surgery (8th) (Seoul), 2012. 6.
 - 4) Kitta E, Akimoto M, Hyakusoku H¹⁾ (¹⁾ Nippon Medical School, Fuzoku Hospital) : Biomechanics and computer simulation of the Z plasty. International Conference of the international Society for Simulation Surgery (8th) (Seoul), 2012. 6.
 - 5) Akimoto M, Hyakusoku H¹⁾ (¹⁾ Nippon Medical School, Fuzoku Hospital) : Finite Element Analysis of wound protective effect in various skin adhesive dressings.. International Conference of the international Society for Simulation Surgery (8th) (Seoul), 2012. 6.
 - 6) 香西達一, 秋元正宇, 橋田絵里香, 百束比古¹⁾ (¹⁾ 附属病院形成外科・美容外科) : 術後縫合創への接着性スプリント (ピタシート[®]) の使用経験と有用性. 日本創傷外科学会総会・学術集会 (第4回), 2012. 7.
 - 7) 太組一朗¹⁾, 廣中浩平¹⁾, 山田 明¹⁾, 足立好司¹⁾, 秋元正宇 (¹⁾ 武蔵小杉病院脳神経外科) : 外後頭隆起の突出による頭痛に対し切除手術が著効した2例. 日本頭蓋顎顔面外科学会, 2012. 11.
 - 8) 橋田絵里香, 秋元正宇, 百束比古¹⁾ (¹⁾ 附属病院形成外科・美容外科) : 皮膚悪性腫瘍切除における局所皮弁による再建のシミュレーション. 日本シミュレーション外科学会 (第22回), 2012. 12.
 - 9) 秋元正宇, 橋田絵里香, 香西達一, 百束比古¹⁾ (¹⁾ 附属病院形成外科・美容外科) : FEMシミュレーションによる創傷被覆材の創保定能力の力学的検討. 日本シミュレーション外科学会 (第22回), 2012. 12.
 - 10) Kubo T¹⁾, Fujimori R²⁾, Akimoto M, Iwasaki T¹⁾ (¹⁾ Alcare Co., Ltd, ²⁾ Fujimori Plastic and Reconstructive surgery Clinic) : Development of a new sprints designed to improve the appearance of scar tissue.. Congress of the World Union of Wound Healing Societys (4th) (Yokohama), 2012. 9.
 - 11) Nomoto S¹⁾, Murakami M¹⁾, Hyakusoku H²⁾, Akimoto M (¹⁾ 武蔵小杉病院 形成外科, ²⁾ 附属病院 形成外科・美容外科) : A new incision design for resection of an epidermal cyst using a finite element model.. Congress of the World Union of Wound Healing Societys (4th) (Yokohama), 2012. 9.
 - 12) Akimoto M, Fujimori R¹⁾, Kubo T²⁾, Iwasaki T²⁾ (¹⁾ Alcare Co., Ltd, ²⁾ Fujimori Plastic and Reconstructive surgery Clinic) : the effectiveness of different sheet dressings used for securing wounds by performing finite element analysis.. Congress of the World Union of Wound Healing Societys (4th) (Yokohama), 2012. 9.
 - 13) 赤石 諭¹⁾, Wong V²⁾, Reinhold D²⁾, 小川 令¹⁾, 百束比古¹⁾, 秋元正宇 (¹⁾ 附属病院形成外科・美容外科) : 皮膚性状と瘢痕形成における関係性の予測. 日本シミュレーション外科学会 (第22回) (赤石 諭史 (日本医科大学附属病院 形成外科・美容外科), Wong Victor, Reinhold Dauskardt, 小川 令, 百束 比古, 秋元 正宇), 2012. 12.

26. 付属病院付置施設等

[付属病院遺伝診療科]

研究概要

新しい時代の遺伝子医学に対応するため、遺伝子医療部門が大学病院を中心に全国的に立ち上がり、日本医科大学付属病院では平成15年5月から独立した遺伝診療科として遺伝診療（遺伝カウンセリング）外来診療を行っている。対象疾患は先天性代謝異常症、家族性腫瘍、染色体異常症など多彩な分野にわたり、年々来談者数は増加し新患者数は平成25年3月までにのべ約600件となった。遺伝診療外来は臨床遺伝専門医、看護師、認定遺伝カウンセラーによるチームで担当している。個々の症例の診療方針や倫理的問題点は、外来担当者以外に基礎医学研究者、臨床医、臨床心理士などの各職種が参加する月1回定例の遺伝診療カンファレンスで検討している。遺伝子検査はハイテクリサーチセンターと共同で低ホスファターゼ症、血管型エーラスタンロス症候群などについて遺伝子診断法を独自に確立し、他施設からの依頼にも応じている。特に、高度の倫理的な検討が必要な出生前遺伝子診断、発症前診断は倫理委員会との連携をとり施行した。さらに、臨床遺伝教育に関しては、卒前（臨床遺伝コース）、卒後（臨床遺伝専門医制度認定施設）に力を入れ、学外からも高い評価を受けている。昨年度から本診療科が中心となり構築した厚生労働省難治性疾患克服事業の「過剰運動<hypermobility>症候群類縁疾患における診断基準の確立ならびに病態解明」研究班を引き続き担当した。平成24年10月には、第10回全国遺伝子医療部門連絡会議（大会長：渡邊 淳）を主催するし、全国の遺伝医療の取りまとめを担当した。今後も我が国の遺伝医療の一角を担うと共に、日本医科大学を代表する診療科として発展させていきたい。

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) 渡邊 淳, 島田 隆：染色体異常症. ワンランク上の小児の臨床検査 2013；3 (2)：519-523.
- 2) Takeichi N¹), Midorikawa S²), Watanabe A³), Naing B³), Tamura H^{1,4}), Kano T¹), Ishizaki A¹), Sugi-hara H¹), Nissato S⁵), Saito Y⁵), Aita Y⁵), Ishii K⁵), Igarashi T⁶), Kawakami Y⁵), Hara H⁵), et al. (1) 付属病院 内分泌代謝内科, 2) 福島県立医科大学, 3) 生化学・分子生物学 (分子遺伝学), 4) 田村医院, 5) 筑波大学, 6) 付属病院内分泌外科)：Identical germline mutations in the TMEM127 gene in 2 unrelated Japanese patients with bilateral pheochromocytoma. Clin Endocrinol 2012；77 (5)：707-714.
- 3) 渡邊 淳¹), 畠山未来¹), 島田 隆¹) (1) 生化学・分子生物学)：過剰運動症候群. 日本臨床新領域別症候群シリーズ 20 先天性代謝異常症候群 (第2版) 下—病因・病態研究, 診断・治療の進歩 2012；別冊：727-730.
- 4) 渡邊 淳^{1,2}), 佐々木元子^{1,2}), 島田 隆^{1,2}) (1) 生化学・分子生物学, 2) 付属病院 ゲノム先端医療部)：薬物代謝酵素の遺伝学的検査. メディカルテクノロジー—今日から役立つ遺伝子検査実践マニュアル 2012；40 (13)：1621-1625.
- 5) Masuno M^{1,2}), Watanabe A⁹), Naing B⁹), Shimada T⁹), Fujimoto W³), Ninomiya S⁴), Ueda Y⁵), Kadota K⁶), Kotaka T⁷), Kondo E⁸), Yamanouchi Y²), Inoue M³), Ouchi K¹), Kuroki Y²) (1) Departments of Pediatrics Dermatology, Kawasaki Medical School, Kurashiki, 2) Genetic Counseling Program, Graduate School of Health and Welfare, Kawasaki University of Medical Welfare, Kurashiki, 3) Departments of Dermatology, Kawasaki Medical School, Kurashiki, 4) Departments of Clinical Genetics, Kurashiki Central Hospital, Kurashiki, 5) Departments of Hematology, Kurashiki Central Hospital, Kurashiki, 6) Departments of Cardiology, Kurashiki Central Hospital, Kurashiki, 7) Departments of Psychiatry, Kurashiki Central Hospital, Kurashiki,

8) Department of Hematology and Oncology, Okayama University Hospital, Okayama, Japan, 9) Department of Biochemistry and Molecular Biology) : Ehlers-Danlos syndrome, vascular type : A novel missense mutation in the COL3A1 gene. *Congenital Anomalies* 2012 ; 52 (4) : 207-210.

著 書

- 1) Watanabe A¹⁾, Orimo H¹⁾, Takeshita T²⁾, Shimada T¹⁾ (1) 生化学・分子生物学, 2) 付属病院 女性診療科・産科) : [自著] Prenatal diagnosis of severe perinatal (lethal) hypophosphatasia. *Prenatal Diagnosis - Morphology Scan and Invasive Methods. Prenatal Diagnosis (Dr. Richard Choy)*, 2012 ; pp27-32, In Tech.
- 2) 渡邊 淳^{1,2)} (1) 生化学・分子生物学 (分子遺伝学), 2) 付属病院 ゲノム先端医療部) : [分担] 遺伝子検査のとおりに病気は発症するか. 【新版】医療倫理 (関東医学哲学・倫理学会), 2013 ; pp188-193, 太陽出版.
- 3) 渡邊 淳^{1,2)} (1) 生化学・分子生物学 (分子遺伝学), 2) 付属病院 ゲノム先端医療部) : [分担] 個人の体質に合ったオーダーメイド医療は可能か. 【新版】医療倫理 (関東医学哲学・倫理学会), 2013 ; pp188-193, 太陽出版.
- 4) 渡邊 淳¹⁾, 島田 隆¹⁾ (1) 生化学・分子生物学 (分子遺伝学)) : [分担] Ehlers-Danlos 症候群. 先天代謝異常ハンドブック (遠藤文夫/山口清次/大浦敏博/奥山虎之), 2013 ; pp410-411, 中山書店.

学会発表

[追加分]

追加分特別講演 :

- 1) 渡邊 淳^{1,2)} (1) 付属病院 ゲノム先端医療部, 2) 生化学・分子生物学) : がん診療・研究における遺伝学の役割 遺伝情報を医療現場で適切に扱うには今, 臨床の現場で起こりつつあること. 国立がん研究センター東病院 (千葉), 2012. 3.

(1) 特別講演 :

- 1) 渡邊 淳¹⁾ (1) 生化学・分子生物学 (分子遺伝学)) : Ehlers-Danlos 症候群. 第1回 桜山臨床病理症例検討会 (名古屋市立大学) (名古屋), 2012. 7.
- 2) 渡邊 淳^{1,2)} (1) 付属病院 ゲノム先端医療部, 2) 生化学・分子生物学) : がん個別化治療に向けた臨床遺伝学の役割 - 遺伝情報を医療現場で適切に扱うには今, 臨床の現場で起こりつつあること. 【BREAC 試験】研究会 (東京), 2012. 7.

(2) シンポジウム :

- 1) 渡邊 淳^{1,2)} (1) 生化学・分子生物学 (分子遺伝学)) : 遺伝学的検査の諸問題 (ファーマコジェネティクスを含む). 第36回日本遺伝カウンセリング学会 (松本), 2012. 6.
- 2) 渡邊 淳^{1,2)} (1) 生化学・分子生物学 (分子遺伝学), 2) 付属病院 ゲノム先端医療部) : 臨床現場における PGx の課題. 第33回日本臨床薬理学会学術総会 (沖縄), 2012. 11.

(3) 一般講演 :

- 1) Watanabe A¹⁾, Naing B¹⁾, Sasaki M, Akutsu K²⁾, Kosaihiira S³⁾, Gemma A³⁾, Shimada T¹⁾ (1) 生化学・分子生物学 (分子遺伝学), 2) 付属病院 集中治療室, 3) 付属病院 呼吸器内科) : An intronic mutation affecting pre-mRNA splicing in the COL3A1 gene as novel mechanisms causing vascular Ehlers-Danlos syndrome. *American Society of Human Genetics Annual Meeting 2012 (Sanfrancisco)*, 2012. 11.
- 2) Naing B¹⁾, Watanabe A¹⁾, Hatamochi A²⁾, Morisaki H³⁾, Shimada T¹⁾ (1) 生化学・分子生物学 (分子遺伝学), 2) 獨協医科大学 皮膚科, 3) 国立循環器病研究センター) : Phenotype differences in patients with nonsense mutations of COL3A1 causing nonsense-mediated mRNA decay in vascular Ehlers-Danlos Syndrome. *First*

- International Symposium on the Ehlers-Danlos Syndrome (Ghent (Belgium)), 2012. 6.
- 3) Watanabe A¹, Naing B¹, Shimada T¹ (1) 生化学・分子生物学 (分子遺伝学) : A novel gene therapy strategy for vascular Ehlers-Danlos syndrome. First International Symposium on the Ehlers-Danlos Syndrome (Ghent (Belgium)), 2012. 6.
 - 4) Watanabe A¹, Hatakeyama M^{1,2}, Tsunoda R³, Matsumoto K⁴, Kawame H², Shimada T¹ (1) 生化学・分子生物学 (分子遺伝学), (2) お茶の水女子大学 遺伝カウンセリングコース, (3) 付属病院 整形外科, (4) 島根大学 : Hypermobility Syndrome in Japan. First International Symposium on the Ehlers-Danlos Syndrome (Ghent (Belgium)), 2012. 6.
 - 5) Watanabe A¹, Fujita A¹, Hatakeyama M¹, Watanabe H, Shimada T¹, Matsumoto K² (1) 生化学・分子生物学 (分子遺伝学), (2) 島根大学 : The first case of Tenascin-X deficient type Ehlers-Danlos syndrome in Japan. European Human Genetics Conference 2012 (Nurnberg (Germany)), 2012. 6.
 - 6) Watanabe A¹, Satoh S², Fujita A¹, Naing B¹, Orimo H¹, Shimada T¹ (1) 生化学・分子生物学 (分子遺伝学), (2) 青森県立中央病院 : PERINATAL (LETHAL) TYPE OF HYPOPHOSPHATASIA RESULTING FROM PATERNAL ISODISOMY OF CHROMOSOME 1. 6th Alkaline Phosphatase and Hypophosphatasia International Symposium (Hugue (France)), 2012. 5.
 - 7) 渡辺 淳¹, 鈴木由美, 山本基子¹, 峯 克也², Naing B¹, 竹下俊行², 折茂英生², 島田 隆¹ (1) 生化学・分子生物学, (2) 付属病院女性診療科・産科 : 低フォスファターゼ症の遺伝診療周産期型における出生前からの follow up の必要性. 日本人類遺伝学会第 57 回大会 (東京), 2012. 10.
 - 8) 渡邊 淳, Naing B, 島田 隆, 谷垣伸治¹, 橋場剛士¹, 田中 啓¹, 片山素子¹, 宮崎典子¹, 松島実穂¹, 橋本玲子¹, 大西宏明¹, 小野正恵¹ (1) 杏林大学 : 妊娠中にリスク評価のために行った血管型エーラスダンロス症候群の発症前診断. 日本人類遺伝学会第 57 回大会 (東京), 2012. 10.
 - 9) 渡邊 淳, 畠山未来, 藤田京志, 渡辺裕子, 松本健一¹, 大木由加志, 島田 隆 (1) 島根大学 : テネイシン X 欠損を認めたエーラス・ダンロス症候群 - 本邦第 1 例. 第 36 回日本遺伝カウンセリング学会 (松本), 2012. 6.
 - 10) Naing B¹, 渡邊 淳¹, 島田 隆¹ (1) 生化学・分子生物学 : hrMCA を基盤とした家族性動脈瘤遺伝子変異同定システムの開発. 第 19 回日本遺伝子診療学会大会 (千葉), 2012. 7.
 - 11) 森崎敦夫¹, Banyar T², 小川真吾¹, 佐々木元子², 渡邊 淳², 島田 隆² (1) 第三学年, (2) 生化学・分子生物学 : 新規 COL3A1 遺伝子変異により血管型エーラスダンロス症候群 (vEDS) と診断した 1 症例. 第 80 回日本医科大学医学会総会 (東京), 2012. 9.

[付属病院集中治療室]

研究業績

論文

[追加分]

追加分総説 :

- 1) 田島廣之, 金城忠志, 竹ノ下尚子, 市川大郎, 山本英世, 村田 智, 中沢 賢, 小野澤志郎, 嶺 貴彦, 上田達夫, 山本 剛, 田中啓治 (1) 武蔵小杉病院放射線科, (2) 武蔵小杉病院循環器内科, (3) 付属病院放射線科, (4) 付属病院集中治療室) : 急性肺血栓塞栓症の IVR. 臨床放射線 2012 ; 27 (2) : 245-252.

追加分原著 :

- 1) 村田広茂, 宮内靖史, 田中啓治, 野間さつき, 有田淑恵, 高橋健太, 植竹俊介, 林 洋史, 坪井一平, 山本哲平, 岡崎玲子, 堀江 格, 林 明聡, 山本 剛, 小原俊彦, その他 4 名 (1) 日本医科大学付属病院 集中治療

室, ²⁾ 日本医科大学内科学講座 (循環器, 肝臓, 老年, 総合病態部門): VT storm に対するアミオダロン静注薬の有効性. *Progress in Medicine* 2012; 32 (1): 424-429.

- 2) Tanaka K, Takeda S, Yamamoto T ⁽¹⁾ Fever and Antipyretic in Critically ill patients Evaluation (FACE) Study Group): Association of body temperature and antipyretic treatments with mortality of critically ill patients with and without sepsis: multi-centered prospective observational study. *Crit Care* 2012; 16 (1): R33.
- 3) 村田広茂, 野間さつき, 有田淑恵, 山本 剛, 田中啓治, 宮内靖史, 高橋健太, 植竹俊介, 林 洋史, 坪井一平, 山本哲平, 岡崎怜子, 堀江 格, 林 明聡, 小原俊彦, その他4名 ⁽¹⁾ 日本医科大学附属病院集中治療室, ²⁾ 日本医科大学 内科学講座 (循環器・肝臓・老年・総合病態部門): VT storm に対するアミオダロン静注薬の有効性. *Progress In Medicine* 2012; 32 (臨時増刊号): 424-429.

(1) 原著:

- 1) Miyachi H, Yamamoto A, Otsuka T, Yoshikawa M, Kodani E, Endo Y, Nakagomi A, Kusama Y, Atarashi H, Mizuno K ⁽¹⁾ Division of Cardiology, Department of Internal Medicine, Nippon Medical School Tama-Nagayama Hospital): Relationship between left ventricular dyssynchrony and systolic dysfunction is independent of impaired left ventricular myocardial perfusion in heart failure: Assessment with 99mTc-sestamibi gated myocardial scintigraphy. *Int J Cardiol* 2012; in press (Epub ahead of print).
- 2) 山本 彰, 宮地秀樹, 阿部和也, 小林由子, 玉井 仁, 草間芳樹, 新 博次, 汲田伸一郎: 二核種同時 SPECT と心電図同期 SPECT を用いた心筋梗塞における心筋血流・脂肪酸代謝, 収縮能, 同期性の関係の検討. *臨床放射線* 2012; 57 (1): 123-135.
- 3) 間瀬大司, 竹田晋浩: 呼吸管理法は患者予後を変えるか, 人工呼吸法の進歩, ALI, ARDS の予後. *Anesthesia 21 Century* 2012; 14 (2): 4-10.
- 4) Takeda S, Kotani T, Nakagawa S, Ichiba S, Aokage T, Ochiai R, Taenaka N, Kawamae K, Nishimura M, Ujike Y, Tajimi K: Extracorporeal Membrane Oxygenation for 2009 Influenza A (H1N1) Severe Respiratory Failure in Japan. *Journal of anesthesia* 2012; (26): 650-657.
- 5) 澤井啓介, 宮地秀樹, 野間さつき, 有田淑恵, 青景聡之, 鈴木浩臣, 洪井俊之, 細川雄亮, 坪 宏一, 山本 剛, 田中啓治, 高野仁司, 小原俊彦, 水野杏一 ⁽¹⁾ 日本医科大学付属病院 集中治療室, ²⁾ 日本医科大学内科学講座 (循環器, 肝臓, 老年, 総合病態部門): 巨大右房内血栓を伴う亜広範囲型肺塞栓に対して, 血栓溶解療法を選択し, 経時的な病態把握により救命できた1例. *心臓* 2012; 44 (7): 937-938.
- 6) Hosokawa Y, Tanaka K, Mizuno K ⁽¹⁾ Intensive and Cardiac Care Unit, Nippon Medical School, Tokyo, Japan, ²⁾ Department of Internal Medicine (Division of Cardiology, Hepatology, Geriatric and Integrated Medicine), Nippon Medical School, Tokyo, Japan): Successful Treatment for Refractory Coronary Thrombus with Scoring Balloon Angioplasty. *Catheterization and Cardiovascular Interventions* 2012; 71: 282-287.
- 7) Hosokawa Y, Yamamoto T, Yabuno Y, Hara K, Aokage T, Nakazato K, Suzuki H, Suzuki M, Ueno A, Munakata R, Tokita Y, Yamamoto E, Akutsu K, Takano H, Sato N, et al. ⁽¹⁾ Intensive and Cardiac Care Unit, Nippon Medical School, Tokyo, Japan, ²⁾ Department of Internal Medicine (Division of Cardiology, Hepatology, Geriatric and Integrated Medicine), Nippon Medical School, Tokyo, Japan, ³⁾ Department Cardiology, Sakakibara Heart Institute, Japan): Inhaled nitric oxide therapy for secondary pulmonary hypertension with hypertrophic obstructive cardiomyopathy and severe kyphoscoliosis. *International Journal of Cardiology* 2012; 158 (1): e20-21.
- 8) Yamamoto T, Hosokawa Y, Imura H, Tanaka K ⁽¹⁾ Intensive and Cardiac Care Unit, Nippon Medical School, ²⁾ Division of Cardiovascular Surgery, Nippon, Medical School, Tokyo, Japan): Haemolytic anaemia due to ste-

nosed double-reinforced grafts after surgical repaired aortic dissection. *Interactive CardioVascular and Thoracic Surgery* 2012 ; (15) : 525-527.

- 9) Tanida A, Hosokawa Y, Tomiyama T, Kato M, Matsuda J, Sawai K, Arita Y, Aokage T, Suzuki H, Murata H, Miyachi H, Shibui T, Nei T, Akutsu K, Yamamoto T, et al. ⁽¹⁾ Intensive and Cardiac Care Unit, Nippon Medical School, Tokyo, Japan, ⁽²⁾ Division of Cardiovascular Surgery, Nippon Medical School, Tokyo, Japan, ⁽³⁾ Department Cardiology, Hakujuikai Memorial Hospital, Tokyo, Japan, ⁽⁴⁾ Department of Internal Medicine (Division of Cardiology, Hepatology, Geriatric and Integrated Medicine), Nippon Medical School, Tokyo, Japan) : Giant left atrium due to mitral stenosis with massive atelectasis : A successful case with peri-operative approach. *International Journal of Cardiology* 2013 ; 163 (2) : e23-25.
- 10) Yamamoto T, Takeda S, Sato N, Akutsu K, Mase H, Nakazato K, Mizuno K, Tanaka K ⁽¹⁾ Division of Intensive and Cardiac Care Unit, ⁽²⁾ Department of Internal Medicine (Divisions of Cardiology, Hepatology, Geriatrics, and Integrated Medicine), ⁽³⁾ Department of Anesthesiology and Intensive Care, ⁽⁴⁾ Department of Internal Medicine, Nippon Medical School Musashikosugi Hospital) : Noninvasive ventilation in pulmonary edema complicating acute myocardial infarction. *Circ J* 2012 ; 76 (11) : 2586-2591.
- 11) Yamamoto T, Takeda S, Sato N, Akutsu K, Mase H, Nakazato K, Mizuno K, Tanaka K ⁽¹⁾ Intensive and Cardiac Care Unit, Nippon Medical School Hospital) : “Noninvasive ventilation in pulmonary edema complicating acute myocardial infarction”. *Circ J* 2012 ; 76 (11) : 2586-2591.
- 12) Tanida A, Tomiyama Y, Kato M, Matsuda J, Sawai K, Arita Y, Aokage T, Suzuki H, Murata H, Miyachi H, Shibui T, Nei T, Akutsu K, Yamamoto T, Takeda S, et al. ⁽¹⁾ Intensive and Cardiac Care Unit, Nippon Medical School Hospital) : Intensive and Cardiac Care Unit, Nippon Medical School Hospital. *Int J Cardiol* 2013 ; 163 (2) : e23-25.
- 13) Munakata R, Yamamoto T, Hosokawa Y, Tokita Y, Akutsu K, Sato N, Murata S, Tajima H ⁽¹⁾ Intensive and Cardiac Care Unit, Nippon Medical School Hospital) : Massive pulmonary embolism requiring extracorporeal life support treated with catheter-based interventions. *Int Heart J* 2012 ; 53 (11) : 370-374.
- 14) 鈴木 学, 坪 宏一, 山本 剛, 佐藤直樹, 竹田晋浩, 田中啓治 : Medical ICU における sepsis/septic shock への低用量ステロイド投与に関する検討. *ICU と CCU* 2012 ; 36 (12) : 1103-1109.
- 15) Nei T, Urano S, Motoi N, Takizawa J, Kaneko C, Kanazawa H, Tazawa R, Nakagaki K, Akazawa K, Akasaka K, Ichiwata T, Azuma A, Nakata K ⁽¹⁾ Bioscience Medical Research Center, Niigata University Medical and Dental Hospital, Niigata, ⁽²⁾ Department of Internal Medicine, Nippon Medical School, Tokyo, ⁽³⁾ Collaborate Laboratories for Wildlife Health, Gentle, Nippon Veterinary and Life Science University, Tokyo, ⁽⁴⁾ Kitazato University, Kitasato Institute for Life Sciences, Kitasato University, Kanagawa, ⁽⁵⁾ Department of Respiratory Medicine, Dokkyo Medical University, Koshigaya Hospital, Saitama, ⁽⁶⁾ Department of Respiratory Medicine, Tokyo Medical University Hachioji Medical Center, Tokyo, Japan) : IgM-type GM-CSF autoantibody is etiologically a bystander but associated with IgG-type autoantibody production in autoimmune pulmonary alveolar proteinosis. *American Journal of Physiology - Lung Cellular and Molecular Physiology* 2012 ; 302 (9) : 959-964.

(2) 総説 :

- 1) 三井誠司, 竹田晋浩 : インフルエンザ. *呼吸器ケア* 2012 ; 4 (10) : 14-18.
- 2) 青景聡之, 竹田晋浩 : 体外式膜型人工肺 (ECMO) 治療. *呼吸器内科* 2012 ; 4 (21) : 343-349.
- 3) 竹田晋浩 : 再評価の経緯と本邦における臨床 : 適応症例とは. *ECMO-up to date. ICU と CCU* 2012 ; 5 (36) : 319-326.
- 4) 小林克也, 竹田晋浩 : 人工呼吸器の離脱. *レジデントのための人工呼吸エッセンス. レジデント・ノート* 2012 ;

14 (9) : 1766-1772.

- 5) 根井貴仁, 竹田晋浩 : VAP の予防と治療, Sepsis・SIRS. 救急・集中治療 (総合医学社) 2012 ; 24 (9-10) : 1221-1229.
 - 6) 竹田晋浩 : 呼吸不全の体外式膜型人工肺 (ECMO) 治療. 日本医事新報 2013 ; (4629) : 50-51.
 - 7) 有田淑恵, 山本 剛 ⁽¹⁾ 日本医科大学付属病院 集中治療室) : ICU・CCU における治療指針 : 病態にあった迅速・的確な診療のために (第 36 回) ジゴキシン. ICU と CCU (医学図書出版) 2012.
 - 8) 山本 剛 : BNP 高値を示した 46 歳の女性 (急性肺血栓塞栓症). 検査と技術 2012 ; 40 (10) : 1123-1128.
 - 9) 山本 剛 : ドカルバミン, デノパミン. ICU と CCU 2013 ; 37 (2) : 159-160.
 - 10) 山本 剛 : ビモベンダン. ICU と CCU 2013 ; 37 (1) : 81-83.
 - 11) 山本 剛 : コルホルシンドロパート. ICU と CCU 2012 ; 36 (11) : 1049-1051.
 - 12) 山本 剛 : オルプリノン. ICU と CCU 2012 ; 36 (10) : 763-765.
 - 13) 山本 剛 : ミルリノン. ICU と CCU 2012 ; 36 (9) : 687-689.
 - 14) 山本 剛 : アドレナリン. ICU と CCU 2012 ; 36 (8) : 613-615.
 - 15) 山本 剛 : ノルアドレナリン. ICU と CCU 2012 ; 36 (7) : 537-539.
 - 16) 山本 剛 : ドブタミン. ICU と CCU 2012 ; 36 (6) : 459-461.
 - 17) 山本 剛 : ドパミン. ICU と CCU 2012 ; 36 (5) : 379-381.
 - 18) 田島廣之, 金城忠志, 竹ノ下尚子, 市川太郎, 山本英世, 菊池有史, 佐藤直樹, 村田 智, 中沢 賢, 小野澤志郎, 山本 剛, 田中啓治 : 急性肺血栓塞栓症のカテーテル治療. 静脈学 2013 ; 24 (1) : 79-86.
 - 19) 山本 剛 : Latest management and outcomes of major pulmonary embolism in the cardiovascular disease early transport system : Tokyo CCU Network. ICU と CCU 2012 ; 36 (10) : 788-789.
 - 20) 山本 剛 : 関塚論文に対する Editorial Comment. 心臓 2012 ; 44 (5) : 610.
 - 21) 山本 剛 : 東京都 CCU ネットワーク活動状況報告 2010. ICU と CCU 2012 ; 36 (10) : 781-783.
 - 22) Yamamoto T, Yasutake M ⁽¹⁾ Division of Intensive and Cardiovascular Care Unit, Nippon Medical School Hospital, ⁽²⁾ Emergency and Integrated Medical Care Center, Nippon Medical School Hospital, ⁽³⁾ Department of Cardiovascular Medicine, Nippon Medical School Hospital) : Measurement of Heart-Type Fatty Acid-Binding Protein Before Discharge. Circ J 2013 ; 77 (4) : 904-905.
 - 23) 坏 宏一 ⁽¹⁾ 日本医科大学付属病院 集中治療室) : Marfan 症候群の場合 : 心血管疾患の画像診断マニュアル. Circulation up-to-date 2013 ; 8 (増刊 42) : 294-298.
 - 24) 坏 宏一 ⁽¹⁾ 日本医科大学付属病院 集中治療室) : Marfan 症候群と心疾患 : 全身疾患に合併する心疾患. 心エコー 2013 ; 14 (3) : 264-268.
- (3) 症例報告 :
- 1) 澤井啓介, 宮地秀樹, 野間さつき, 有田淑恵, 青景聡之, 鈴木浩臣, 洪井俊之, 細川雄亮, 坏 宏一, 山本 剛, 田中啓治, 高野仁司, 小原俊彦, 水野杏一 ⁽¹⁾ 日本医科大学多摩永山病院循環器内科) : 巨大右房内血栓を伴う亜広範型肺塞栓症に対して血栓溶解療法を選択し, 経時的な病態把握により救命できた 1 例. 心臓 2012 ; 44 (7) : 937-938.
 - 2) Miyachi H, Tanaka K, Mizuno K ⁽¹⁾ Intensive and Cardiac Care Unit, Nippon Medical School Hospital) : A rare case of left anterior chest bleeding in a female with takayasu disease. Ann Thorac Surg 2013 ; 95 (3) : 1098.
 - 3) Miyachi H, Tanaka K, Mizuno K ⁽¹⁾ Intensive and Cardiac Care Unit, Nippon Medical School Hospital) : Catheter-induced Bilateral Coronary Ostium Dissection in a Patient with Long-term Steroid Therapy. J Invasive Cardiol 2012 ; 24 (11) : E305-307.
 - 4) Tanida A, Hosokawa Y, Tomiyama T, Kato M, Matsuda J, Sawai K, Arita Y, Aokage T, Suzuki H,

- Murata H, Miyachi H, Shibui T, Nei T, Akutsu K, Yamamoto T, et al. ⁽¹⁾ Intensive and Cardiac Care Unit, Nippon Medical School Hospital) : Giant left atrium due to mitral stenosis with massive atelectasis : A successful case with perioperative approach. *Int J Cardiol* 2012 ; 263 (2) : E23-25.
- 5) Miyachi H, Kumita S, Tanaka K ⁽¹⁾ Intensive and Cardiac Care Unit, Nippon Medical School Hospital) : PET/CT and SPECT/CT cardiac fusion imaging in a patient with takotsubo cardiomyopathy. *Eur Heart J* 2013 ; 34 (5) : 397.
- 6) Tanida A, Hosokawa Y, Tomiyama T, Kato M, Matsuda J, Sawai K, Arita Y, Aokage T, Suzuki H, Murata H, Miyachi H, Shibui T, Nei T, Akutsu K, Yamamoto T ⁽¹⁾ Intensive and Cardiac Care Unit, Nippon Medical School, Tokyo, Japan, ⁽²⁾ Division of Cardiovascular Surgery, Nippon Medical School, Tokyo, Japan, ⁽³⁾ Division of Cardiology, Hakujuikai Memorial Hospital, Tokyo, Japan, ⁽⁴⁾ Department of Internal Medicine (Division of Cardiology, Hepatology, Geriatric, and Integrated Medicine), Nippon Medical School, Tokyo, Japan) : Giant left atrium due to mitral stenosis with massive atelectasis : A successful case with perioperative approach. *International Journal of Cardiology* 2013 ; 163 (2) : e23-e25.
- 7) Suzuki M, Sato N, Matsuda J, Niwa N, Murai K, Yamamoto T, Takeda S, Shigehara K, Nomura T, Gamma A, Tanaka K ⁽¹⁾ Intensive and Cardiac Care Unit, Graduate School of Medicine, Nippon Medical School, Tokyo, Japan.) : A case of rapid diagnosis of Boerhaave syndrome by thoracic drainage. *J Emerg Med* 2012 ; 43 (6) : e419-423.
- 8) Nei T, Akutsu K, Shima A, Tsuboi I, Suzuki H, Yamamoto T, Tanaka K, Shinoyama A, Kojima Y, Washio Y, Okawa S, Sonobe K, Norose Y, Saito R ⁽¹⁾ Division of Intensive Care Unit and Cardiac Care Unit, Nippon Medical School, Tokyo, Japan, ⁽²⁾ Department of Clinical Laboratory, Nippon Medical School, Tokyo, Japan, ⁽³⁾ Department of Microbiology and Immunology, Nippon Medical School, Tokyo, Japan, ⁽⁴⁾ Department of Moleculo-genetic Sciences, Microbiology and Immunology, Tokyo Medical and Dental University, Tokyo, Japan) : A case of streptococcal toxic shock syndrome due to Group G streptococci identified as *Streptococcus dysgalactiae* subsp. *equisimilis*. *Journal of Infection and Chemotherapy* 2012 ; 18 (6) : 919-924.
- 9) Nei T, Hyodo H, Sonobe K, Dan K, Saito R ⁽¹⁾ Divisions of Respiratory Medicine, Infection and Oncology,, ⁽²⁾ Divisions of Hematology, Gastroenterology and Endocrinology and Metabolism, Nippon Medical School, ⁽³⁾ Department of Clinical Laboratory, Nippon Medical School, Tokyo, Japan, ⁽⁴⁾ Department of Moleculo-genetic Sciences, Microbiology and Immunology, Tokyo Medical and Dental University, Tokyo, Japan) : “First Report of Infectious Pericarditis Due to *Bordetella holmesii* in an Adult Patient with Malignant Lymphoma”. *Journal of Clinical Microbiology* 2012 ; 50 (5) : 1815-1817.
- 10) Nei T, Okabe M, Mikami I, Koizumi Y, Mase H, Matsuda K, Yamamoto T, Takeda S, Tanaka K, Dan K ⁽¹⁾ Division of Intensive Care and Cardiac Care, Nippon Medical School, ⁽²⁾ Department of Internal Medicine, Division of Respiratory Medicine, Infection and Oncology, ⁽³⁾ Department of Internal Medicine, Division of Hematology, Gastroenterology and Endocrinology and Metabolism, ⁽⁴⁾ Department of Surgery, Division of Thoracic Surgery) : A non-HIV case with disseminated *Mycobacterium kansasii* disease associated with strong neutralizing autoantibody to interferon- γ . *Respiratory Medicine Case Reports* 2013 ; 8 : 10-13.
- 11) Tanida A, Hosokawa Y, Tomiyama T, Kato M, Matsuda J, Sawai K, Arita Y, Aokage T, Suzuki H, Murata H, Miyachi H, Shibui T, Nei T, Akutsu K, Yamamoto T, et al. ⁽¹⁾ Intensive and Cardiac Care Unit, Nippon Medical School, Tokyo, Japan, ⁽²⁾ Division of Cardiovascular Surgery, Nippon Medical School, Tokyo, Japan, ⁽³⁾ Division of Cardiology, Hakujuikai Memorial Hospital, Tokyo, Japan, ⁽⁴⁾ Department of Internal Medicine (Division of Cardiology, Hepatology, Geriatric, and Integrated Medicine), Nippon Medical School,

Tokyo, Japan) : Giant left atrium due to mitral stenosis with massive atelectasis : A successful case with perioperative approach. International Journal of Cardiology 2013 ; 163 (2) : e23-25.

- 1) 青景聡之, 竹田晋浩 (1) 日本医科大学付属病院 集中治療室) : 体外式膜型人工肺 (ECMO) 療法. 呼吸器内科 2012 ; 21 (4) : 343-349.
- 2) 青景聡之, 山本 剛, 田中啓治 (1) 日本医科大学付属病院 集中治療室) : 補助循環. medicina 2012 ; 49 (13) : 2122-2125.
- 3) 竹田晋浩, 青景聡之 (1) 日本医科大学付属病院 集中治療室) : ECMO : Update 再評価の経緯と本邦における臨床 適応症例とは. ICU と CCU 2012 ; 36 (5) : 319-326.
- 4) Takeda S, Kotani T, Nakagawa S, Ichida S, Aokage T, Ochiai R, Taenaka N, Kawamae K, Nishimura M, Ujike Y, Tajimi K (1) Intensive Care Unit & Cardiac Care Unit, Nippon Medical School Hospital, (2) Committee of Crisis Control, the Japanese Society of Respiratory Care Medicine and Committee of Pandemic H1N1 Surveillance, the Japanese Society of, (3) Intensive Care Medicine.) : "Extracorporeal membrane oxygenation for 2009 influenza A (H1N1) severe respiratory failure in Japan". Journal of Anesthesia 2012 ; 26 (5) : 650-657.
- 5) 間瀬大司, 竹田晋浩 (1) 日本医科大学付属病院 集中治療室) : 呼吸管理法は患者予後を変えるか 人工呼吸法の進歩, ALI, ARDS の予後. Anesthesia 21 Century 2012 ; 14 (2-43) : 2760-2766.

著 書

〔追加分〕

追加分 :

- 1) 竹田晋浩, 原田恭子, 佐藤愛子 : NPPV. 人工呼吸器-換気モード一超入門 (磨田裕), 2012 ; メディカ出版.
- 2) 村田広茂 (1) 日本医科大学 内科学講座 (循環器・肝臓・老年・総合病態部門)) : [分担] IV. 不整脈の非薬物治療 2. 一時的体外式ペースメーカー治療. 不整脈レジデントマニュアル (小林義典, 新田 隆), 2012 ; pp142-151, 医学書院.
- 1) 青景聡之, 竹田晋浩 : 体外式膜型人工肺 (ECMO) 治療. 呼吸器内科, 2012 ; pp343-349.
- 2) 青景聡之, 竹田晋浩 : 急性呼吸不全における ECMO の有用性, 成績. Annal review 呼吸器 (永井厚志, 桑野和善, 高橋和久), 2013 ; 中外医学社.
- 3) 竹田晋浩 : NPPV. 新呼吸療法テキスト, 2012 ; pp227-230, アトムス.
- 4) 野口裕幸 : 人工呼吸器・呼吸回路の点検と消毒. 新呼吸療法テキスト, 2012 ; pp225-230, アトムス.
- 5) 中里桂子, 竹田晋浩 : CPAP. はじめての人工呼吸管理 (岡元和文), 2012 ; pp104-110, 中外医学社.
- 6) 有田淑恵 (1) 日本医科大学付属病院集中治療室) : [分担] 意識障害 髄膜炎. 救急実践アドバンス (阿南英明編著), 2012 ; 永井書店.
- 7) 北村光信, 安武正弘 (1) 日本医科大学付属病院 集中治療室, (2) 日本医科大学付属病院 循環器内科) : [分担] 心不全患者に使用する利尿薬は何がよいですか. バソプレシン受容体拮抗薬を含めた利尿薬の使い分けを教えてください. 心不全診療 Q&A エキスパート 106 人からの回答 (北風 正史 編集), 2013 ; pp227-228, 中外出版社.
- 8) 細川雄亮 (1) 日本医科大学付属病院 集中治療室) : [分担] III 章 1 緊急 PCI. CCU テキスト (田中啓治, 山本剛), 2013 ; pp72-79, 文光堂.
- 9) 細川雄亮 (1) 日本医科大学付属病院 集中治療室) : [分担] III 章 2 大動脈内バルーンポンピング. CCU テキスト (田中啓治, 山本剛), 2013 ; pp80-84, 文光堂.
- 10) 山本 剛 : [分担] 急性肺塞栓症/深部静脈血栓症. 集中治療専門医テキスト (電子版) (日本集中治療医学会), 2013 ; 総合医学社.
- 11) 山本 剛 : [分担] 第 3 章 循環管理, D 心肺蘇生法. ICU・CCU 看護 (早川弘一, 高野照夫, 高島尚美), 2013 ;

- pp158-161, 医学書院.
- 12) 山本 剛：〔分担〕第3章 循環管理, C 病態と治療, 7 肺血栓塞栓症. ICU・CCU 看護 (早川弘一, 高野照夫, 高島尚美), 2013; pp154-157, 医学書院.
 - 13) 山本 剛：〔分担〕第3章 循環管理, C 病態と治療, 3 ショック. ICU・CCU 看護 (早川弘一, 高野照夫, 高島尚美), 2013; pp115-123, 医学書院.
 - 14) 田島廣之, 山本 剛⁽¹⁾ 武蔵小杉病院血管内・低侵襲治療センター,²⁾ 付属病院集中治療室)：〔分担〕急性大動脈解離 2. インターベンション治療 (血管内治療). CCU テキスト：循環器救急から集中治療管理まで (田中啓治, 山本 剛), 2013; pp232-235, 文光堂.
 - 15) 山本 剛：〔分担〕肺血栓塞栓症. CCU テキスト：循環器救急から集中治療管理まで (田中啓治, 山本 剛), 2013; pp223-226, 文光堂.
 - 16) 山本 剛：〔分担〕感染性心内膜炎. CCU テキスト：循環器救急から集中治療管理まで (田中啓治, 山本 剛), 2013; pp158-163, 文光堂.
 - 17) 山本 剛：〔分担〕ICU における sepsis の治療 Q35. sepsis 治療に生かす心エコー検査. sepsis・SIRS：いま生かす！最新の病態把握に基づく適切な診療へ (久志本茂樹), 2012; pp1237-1240, 総合医学社.
 - 18) 山本 剛：〔分担〕肺高血圧・肺塞栓の病態による心電図変化. 循環器 (CIRCULATION) (新 博次), 2012; pp41-48, 医学出版.
 - 19) 坏 宏一：〔分担〕急性大動脈解離. 心肺蘇生・心血管救急ガイドブック (笠貫宏, 野々木宏, 高木厚編), 2012; pp142-149, 南江堂.
 - 20) 坏 宏一：〔分担〕高血圧緊急症. 心肺蘇生・心血管救急ガイドブック (笠貫宏, 野々木宏, 高木厚編), 2012; pp174-178, 南江堂.
 - 21) 坏 宏一：〔自著〕急性大動脈解離. 症例から判断できる 循環器治療薬の選び方・使い方 (改定版) (池田隆徳編), 2013; pp376-385, 羊土社.
 - 22) 坏 宏一：〔分担〕大動脈瘤. 症例から判断できる 循環器治療薬の選び方・使い方 (改定版) (池田隆徳編), 2013; pp386-390, 羊土社.
 - 23) 坏 宏一：〔分担〕大動脈疾患. ICU・CCU 看護 (早川弘一, 高野照夫, 高島尚美編), 2013; pp144-153, 医学書院.
 - 24) 坏 宏一：〔分担〕急性大動脈解離, 病態と内科治療. CCU テキスト (田中啓治, 山本剛編), 2013; pp228-231, 文光堂.
 - 25) 坏 宏一：〔分担〕心筋炎, 難治性心不全. CCU テキスト (田中啓治, 山本剛編), 2013; pp164-166, 文光堂.
 - 26) 坏 宏一：〔分担〕心筋炎, 難治性心不全. CCU テキスト (田中啓治, 山本剛編), 2013; pp164-166, 文光堂.
 - 27) 坏 宏一：〔分担〕大動脈解離 / 大動脈疾患. 今日の臨床サポート (電子書籍) (永井良三, 福井次矢, 上村直実ら編), 2013; in press.
 - 28) 村田広茂⁽¹⁾ 日本医科大学 内科学講座 (循環器・肝臓・老年・総合病態部門)：〔分担〕“医学・医療をめぐる話題テーマ：青壮年急死症候群”. ガイドライン 外来診療 2013 (泉 孝英), 2013; pp592-596, 日経メディカル開発.
 - 29) 根井貴仁, 三浦義彦⁽¹⁾ 日本医科大学付属病院感染制御部)：〔分担〕第6章 ER での抗菌薬 3 重症感染症・医療関連感染症で使われる静注抗菌薬. 救急・ER ノート 症候と疾患から迫る ER の感染症診療 (大野博司編), 2012; pp351-359, 羊土社.
 - 30) 青景聡之, 竹田晋浩⁽¹⁾ 日本医科大学付属病院 集中治療室)：急性呼吸不全における ECMO の有用性, 成績. Annual Review 呼吸器 2013 (永井厚志), 2013; pp251-256, 中外医学社.

学会発表

〔追加分〕

追加分シンポジウム：

- 1) Murata H, Katoh T, Hayashi H, Osaka M (1) Department of Cardiovascular Medicine, Nippon Medical School, (2) Nippon Veterinary and Life Science University) : “Heart Check System by Using Integrated Information of Electrocardiogram and Plethysmogram Outside the Driver’s Awareness from an Automobile Steering Wheel”. “The 77th Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society”, 2913. 3.

追加分セミナー：

- 1) 北村光信 (1) 日本医科大学千葉北総病院 集中治療部) : 高感度トロポニン T 測定の急性心筋梗塞診断における有用性と今後の展開 初診時トロポニン T 陰性症例における高感度 TnT 測定の評価 iNET study 報告. 第 59 回心臓病学会学術集会, 2011. 9.

追加分一般講演：

- 1) Miyachi H, Takagi A, Miyauchi K, Yamasaki M, Tanaka H, Yoshikawa M, Saji M, Suzuki M, Yamamoto T, Nagao K, Takayama M (1) Tokyo CCU network scientific committee, (2) Intensive and Cardiac care unit, Nippon Medical School Hospital) : A Comparison of ST Elevation versus Non-ST Elevation Myocardial Infarction in Tokyo CCU Network Database. The 77th Annual Science Meeting of the Japanese Circulation Society (第 77 回) (東京), 2013. 7.
- 2) 北村光信, 畑 典武, 高山忠輝, 平山篤志, 小川雅史, 山科 章, 米良尚晃, 吉野秀朗, 中村文隆, 清野精彦 (1) 日本医科大学千葉北総病院 集中治療部, (2) 日本医科大学内科学系循環器内科学分野, (3) 東京医科大学 内科学第二講座, (4) 杏林大学医学部第二内科, (5) 提供大学ちば総合医療センター第三内科, (6) 日本医科大学千葉北総病院 循環器内科) : 初診時トロポニン T 陰性例における高感度トロポニン T 遊出動態と急性心筋梗塞診断. 第 59 回心臓病学会学術集会, 2011. 9.
- 3) Kitamura M, Takayama M, Yamamoto E, Takano H, Aoki S, Yasutake M, Hata N, Mizuno K (1) Nippon Medical School Chiba Hokuso, Division of CCU/ICU, (2) Sakakibara Heart Institute, Department of Cardiology, (3) Nippon Medical School, Division of Cardiology) : “IV-Nitroglycerine Tests Before and Immediately After Alcohol Septal Ablation Discloses the Hemodynamic Alteration in Symptomatic HOCM with Mild Pressure Gradient”. 第 74 回日本循環器学会総会, 2011. 3.
- 4) Kitamura M, Takayama M, Amano Y, Nakamura S, Takano H, Asai K, Hirayama Y, Hata N, Mizuno K (1) Division of Intensive Care Unit and Coronary Care Unit, Nippon Medical School Chiba-Hokuso Hospital, Chiba, (2) Department of Cardiology, Sakakibara Heart Institute, Tokyo, (3) Department of Radiology, Nippon Medical School Hospital, Tokyo, (4) Department of Cardiology, Nippon Medical School Hospital, Tokyo) : Cardiac Magnetic Resonance Analysis Demonstrates Effectiveness of Cibenzoline for Modest Hypertrophy of the Left Ventricle in Symptomatic Hypertrophic Obstructive Cardiomyopathy. 第 75 回日本循環器学会総会 夏期開催, 2011. 8.
- 5) Kitamura M, Takayama M, Yamamoto E, Takano H, Aoki S, Yasutake M, Hata N, Mizuno K (1) Nippon Medical School Chiba Hokuso, Division of CCU/ICU, (2) Sakakibara Heart Institute, Department of Cardiology, (3) Nippon Medical School, Division of Cardiology) : Direct Hemodynamic Assessment of Cibenzoline Administration Demonstrates Improvement of Left Ventricular Pressure Gradient Together with Diastolic Property in Refractory HOCM. 第 74 回日本循環器学会総会, 2011. 3.
- 6) 坏 宏一, 藤井正大, 宮地秀樹, 山本 剛, 落 雅美, 水野杏一, 田中啓治 : Non-Marfan 患者に生じた大動脈 3 腔解離破裂の 1 例. 第 53 回日本脈管学会総会, 2013. 10.

(1) 特別講演：

- 1) 村田広茂⁽¹⁾ 日本医科大学付属病院集中治療室，内科学（循環器・肝臓・老年・総合病態部門）：CCUにおける重症循環器疾患患者に対するプレセデックスの有用性．循環器 Critical Care Seminar, 2012. 9.

(2) 教育講演：

- 1) 竹田晋浩：ARDS 診断基準の問題点と新しい診断基準．第 26 回東北救急医学会総会・学術集会（仙台），2012. 6.
- 2) 竹田晋浩：急性呼吸不全治療の流れ．第 21 回日本集中治療医学会東北地方会（盛岡），2012. 7.
- 3) 山本 剛：ICU ベッドサイドでの心エコー検査の見方．第 40 回日本集中治療医学会学術集会，2013. 2.

(3) シンポジウム：

- 1) 竹田晋浩：一般診療における急性呼吸不全の呼吸管理，ウイルス肺炎と急性呼吸不全．第 52 回日本呼吸器学会学術講演（神戸），2012. 4.
- 2) 山本 剛，吉田伸子，高山守正⁽¹⁾ 付属病院 集中治療室）：高度肺水腫，ショックを合併した急性心筋梗塞の循環呼吸管理．第 40 回日本集中治療医学会学術集会，2013. 3.
- 3) 山本 剛，村田 智，田島廣之，田中啓治⁽¹⁾ 付属病院集中治療室，²⁾ 付属病院放射線科，³⁾ 武蔵小杉病院血管内・低侵襲治療センター）：急性肺塞栓症に対するカテーテル治療の現況．第 19 回肺塞栓症研究会・学術集会，2012. 11.
- 4) 山本 剛，塚 宏一，田中啓治⁽¹⁾ 付属病院 集中治療室）：血栓溶解療法における出血性合併症を再考する．第 53 回日本脈管学会総会，2012. 10.
- 5) 村田広茂⁽¹⁾ 日本医科大学付属病院 集中治療室）：心筋梗塞亜急性期に発症する Electrical Storm の実際．第 5 回植え込みデバイス関連冬季大会，2013. 2.
- 6) 青景聡之，竹田晋浩，山本 剛，田中啓治⁽¹⁾ 日本医科大学付属病院 集中治療室）：ECMO 患者の治療戦略．第 34 回日本呼吸療法医学会，2012. 7.
- 7) 青景聡之，竹田晋浩，山本 剛，田中啓治⁽¹⁾ 日本医科大学付属病院 集中治療室）：重症心不全に対する ECMO．第 60 回日本心臓病学会，2012. 9.
- 8) 青景聡之，竹田晋浩，山本 剛，田中啓治⁽¹⁾ 日本医科大学付属病院 集中治療室）：ARDS に対する ECMO．第 40 回日本集中治療医学会，2013. 2.
- 9) 小林克也¹⁾ ⁽¹⁾ 日本医科大学付属病院集中治療室）：重症呼吸不全に対する ECMO 療法（ALI/ARDS の管理を考える）．呼吸ケアリハビリテーション学会（第 22 回）（福井市），2012. 11.

(4) パネルディスカッション：

- 1) Miyachi H, Takayama M⁽¹⁾ Tokyo CCU network scientific committie, ²⁾ Intensive and Cardiac care unit, Nippon Medical School Hospital) : The Current Situation and Action of Tokyo CCU Network. The 77th Annual Science Meeting of the Japanese Circulation Society (第 77 回) (東京), 2013. 3.
- 2) 塚 宏一：大動脈瘤・大動脈解離ガイドライン改定のポイント：慢性期管理（ラウンドテーブルディスカッション）．第 53 回日本脈管学会総会（東京），2012. 11.
- 3) Akutsu K⁽¹⁾ Intensive and Cardiac Care Unit, Nippon Medical School Hospital) : 急性大動脈解離はなぜ起こるか？．第 77 回日本循環器学会総会（横浜），2013. 3.
- 4) 小林克也¹⁾，竹田晋浩¹⁾，青景聡之¹⁾，間瀬大司¹⁾，山本 剛¹⁾，坂本篤裕²⁾，田中啓治¹⁾ ⁽¹⁾ 日本医科大学付属病院集中治療室，²⁾ 日本医科大学付属病院麻酔科）：Risk management of ECMO and Problem in Japan (Respiratory ECMO in Japan ; What and How should we do?). 日本集中治療医学会学術集会（40 回）（松本市），2013. 2.

(5) 一般講演：

- 1) 宮地秀樹，高木 厚，宮内克己，山崎正雄，吉川雅智，佐地真育，鈴木 誠，山本 剛，長尾 建，高山守正

- (¹) 東京都 CCU ネットワーク学術委員会, (²) 日本医科大学付属病院集中治療室) : 東京都 CCU ネットワークデータベースで見る ST 上昇型急性心筋梗塞と非 ST 上昇型急性心筋梗塞の相違. 第 40 回日本集中治療医学会学術集会 (松本), 2013. 3.
- 2) 宮地秀樹, 坏 宏一, 志摩綾香, 澤井啓介, 青景聡之, 有田淑江, 川中秀和, 北村光信, 細川雄亮, 村井綱児, 林 明聡, 小野沢志郎, 村田 智, 水野杏一, 田中啓治 (¹) 日本医科大学付属病院集中治療室) : 急性 B 型大動脈解離における臓器虚血を緊急経カテーテル的開窓術によって解除した 1 例. 第 53 回日本脈管学会総会 (東京), 2012. 10.
- 3) Takagi K, Miyachi H, Yamamoto T, Yamamoto Y, Nakamura Y, Sawai K, Arita Y, Aokage T, Kitamura M, Murata H, Shibui T, Hosokawa Y, Nei T, Akutsu K, Tanaka K, et al. (¹) Intensive and Cardiac care unit, Nippon medical school hospital) : “Safety and usefulness of adjunctive intracoronary thrombolytic therapy in primary percutaneous coronary intervention for acute myocardial infarction with massive intracoronary thrombus”. Cardiovascular intervention and therapeutics (CVIT) (新潟), 2012. 7.
- 4) 高木宏治, 宮地秀樹, 澤井啓介, 青景聡之, 細川雄亮, 坏 宏一, 山本 剛, 田中啓治, 水野杏一 (¹) 日本医科大学付属病院集中治療室) : 集中治療における高齢者への侵襲的治療について. 日本老年医学会総会 (東京), 2012. 6.
- 5) 谷田篤史, 細川雄亮, 北村光信, 村田広茂, 宮地秀樹, 坏 宏一, 山本 剛, 佐藤直樹, 田中啓治 (¹) 日本医科大学付属病院 集中治療室, (²) 日本医科大学武蔵小杉病院 内科・循環器内科) : 右心腔内血栓を合併した亜広範型急性肺血栓塞栓症 4 例の検討. 第 1 回日本肺循環学会学術集会, 2012. 9.
- 6) 谷田篤史, 細川雄亮, 藤木 悠, 野間さつき, 吉永 綾, 有田淑恵, 青景聡之, 村田広茂, 北村光信, 宮地秀樹, 洪井俊之, 坏 宏一, 山本 剛, 田中啓治 (¹) 日本医科大学附属病院 集中治療室, (²) 日本医科大学附属病院外科学 (内分泌・心臓血管・呼吸器部門), (³) 光仁会 第一病院 循環器内科, (⁴) 日本医科大学附属病院内科学 (循環器・肝臓・老年・総合病態部門)) : 右心腔内巨大血栓を伴う亜広範型肺塞栓症に対し, 外科的血栓摘除術を施行し軽快した拡張型心筋症の 1 例. 第 225 回 日本循環器学会関東甲信越地方会, 2012. 9.
- 7) 谷田篤史, 山本 剛, 野間さつき, 有田淑恵, 青景聡之, 川中秀和, 澤井啓介, 坏 宏一, 竹田晋浩, 田中啓治 (¹) 日本医科大学附属病院 集中治療室) : 血栓溶解療法が禁忌な広範型肺塞栓症に対する治療成績. 第 40 回日本集中治療医学会学術集会, 2013. 3.
- 8) 有田淑恵, 坏 宏一, 山本 剛, 谷田篤史, 澤井啓介, 青景聡之, 川中秀和, 北村光信, 村田広茂, 宮地秀樹, 細川雄亮, 水野杏一, 田中啓治 (¹) 日本医科大学付属病院 集中治療室, (²) 日本医科大学付属病院 循環器内科) : 発熱を呈した急性大動脈解離患者におけるプロカルシトニンの動態. 第 53 回 日本脈管学会総会 (東京都), 2012. 10.
- 9) 根井貴仁, 藤澤洋輔, 泉 佑樹, 手塚晶人, 有田淑恵, 村田広茂, 細川雄亮, 宮地秀樹, 北村光信, 坏 宏一, 山本 剛, 竹田晋浩, 田中啓治 (¹) 日本医科大学付属病院 集中治療室, (²) 日本医科大学内科学講座 (循環器, 肝臓, 老年, 総合病態部門)) : 不明熱で精査中に多臓器不全となり, 血液培養陽性化から粟粒結核と診断された 1 例. 第 162 回 日本結核病学会 関東支部学会 (横浜市), 2012. 9.
- 10) 福泉 偉, 村田広茂, 林 洋史, 淀川顕司, 水野杏一, 谷田篤史, 有田淑恵, 坏 宏一, 山本 剛, 田中啓治 (¹) 日本医科大学附属病院 集中治療室, (²) 日本医科大学内科学講座 (循環器, 肝臓, 老年, 総合病態部門)) : ステロイド補充療法により心機能が正常化した副腎機能不全による代謝性心筋症の 1 例. 第 593 回 日本内科学会関東地方会 (東京都), 2012. 12.
- 11) 宮地秀樹, 坏 宏一, 志摩綾香, 澤井啓介, 青景聡之, 有田淑恵, 川中秀和, 北村光信, 村田広茂, 細川雄亮, 山本 剛, 村井綱児, 林 明聡, 小野澤志郎, 村田 智, その他 2 名 (¹) 日本医科大学付属病院 集中治療室, (²) 日本医科大学内科学講座 (循環器, 肝臓, 老年, 総合病態部門), (³) 日本医科大学付属病院 放射線科) : 急性 B 型大動脈解離における臓器虚血を緊急経カテーテル的開窓術によって解除した 1 例. 第 53 回 日本脈管学

会総会（東京都），2012. 10.

- 12) Kitamura M, Hata N, Takayama T, Hirayama A, Ogawa M, Yamashina A, Mera H, Yoshino H, Nakamura F, Seino Y ⁽¹⁾ Division of Intensive Care Unit, Nippon Medical School Chiba-Hokusoh Hospital, Chiba, Japan, ⁽²⁾ Division of Cardiology, Department of Medicine, Nihon University School of Medicine, Tokyo, Japan, ⁽³⁾ Department of Cardiology, Tokyo Medical University, Tokyo, Japan, ⁽⁴⁾ Second Department of Internal Medicine, Kyorin University School of Medicine, Tokyo, Japan, ⁽⁵⁾ Third Department of Internal Medicine, Teikyo University Chiba Medical Center, Chiba, Japan, ⁽⁶⁾ Cardiovascular center, Nippon Medical School Chiba-Hokusoh Hospital, Chiba, Japan) : High-sensitivity troponin T for earlier diagnosis of acute coronary syndrome with initially negative rapid-troponin T test - subanalysis of HsTnT-iNET study focused on coronary angiographic findings. 第77回日本循環器学会総会, 2013. 3.
- 13) Kitamura M, Takayama M, Amano Y, Matsuda J, Kubota Y, Nkamura S, Yoshida A, Takano H, Asai K, Mizuno K ⁽¹⁾ The department of Cardiovascular medicine, Nippon Medical School Hospital, Tokyo, Japan, ⁽²⁾ The department of Cardiology, Sakakibara Heart Institute, Tokyo, Japan, ⁽³⁾ The department of Radiology, Nippon Medical School Hospital, Tokyo, Japan) : Clinical Characteristics and Cardiac Magnetic Resonance for the patients received Repeat Alcohol Septal Ablation in Refractory Hypertrophic Obstructive Cardiomyopathy. 第77回日本循環器学会総会, 2013. 3.
- 14) Kitamura M, Takayama M, Amano Y, Matsuda J, Kubota Y, Nkamura S, Yoshida A, Takano H, Asai K, Mizuno K ⁽¹⁾ The department of Cardiovascular medicine, Nippon Medical School Hospital, Tokyo, Japan, ⁽²⁾ The department of Cardiology, Sakakibara Heart Institute, Tokyo, Japan, ⁽³⁾ The department of Radiology, Nippon Medical School Hospital, Tokyo, Japan) : Clinical Characteristics and Cardiac Magnetic Resonance for the patients received Repeat Alcohol Septal Ablation in Refractory Hypertrophic Obstructive Cardiomyopathy. American Heart Association Scientific Sessions 2012 (Los Angeles, United States), 2012. 11.
- 15) Kitamura M, Hata N, Takayama T, Hirayama A, Ogawa M, Yamashina A, Mera H, Yoshino H, Nakamura F, Seino Y ⁽¹⁾ Division of Intensive Care Unit, Nippon Medical School Chiba-Hokusoh Hospital, Chiba, Japan, ⁽²⁾ Division of Cardiology, Department of Medicine, Nihon University School of Medicine, Tokyo, Japan, ⁽³⁾ Department of Cardiology, Tokyo Medical University, Tokyo, Japan, ⁽⁴⁾ Second Department of Internal Medicine, Kyorin University School of Medicine, Tokyo, Japan, ⁽⁵⁾ Third Department of Internal Medicine, Teikyo University Chiba Medical Center, Chiba, Japan, ⁽⁶⁾ Cardiovascular center, Nippon Medical School Chiba-Hokusoh Hospital, Chiba, Japan) : High-sensitivity troponin T for earlier diagnosis of acute coronary syndrome with initially negative rapid-troponin T test - subanalysis of HsTnT-iNET study focused on coronary angiographic findings. European Society of Cardiology Congress 2012 (Munich, Germany), 2012. 8.
- 16) 谷田篤史, 細川雄亮, 藤木 悠, 野間さつき, 吉永 綾, 有田淑恵, 青景聡之, 村田広茂, 北村光信, 宮地秀樹, 洪井俊之, 坪 宏一, 山本 剛, 田中啓治, 落 雅美, その他3名 ⁽¹⁾ 日本医科大学付属病院 集中治療室, ⁽²⁾ 日本医科大学付属病院 外科学 ((内分泌・心臓血管・呼吸器部門), ⁽³⁾ 光仁会 第一病院 循環器内科, ⁽⁴⁾ 日本医科大学付属病院内科学 (循環器・肝臓・老年・総合病態部門)) : 右心腔内巨大血栓を伴う亜広範型肺塞栓症に対し, 外科的血栓摘除術を施行し軽快した拡張型心筋症の1例. 第225回日本循環器学会関東甲信越地方会, 2012. 9.
- 17) 谷田篤史, 細川雄亮, 北村光信, 村田広茂, 宮地秀樹, 坪 宏一, 山本 剛, 佐藤直樹, 田中啓治 ⁽¹⁾ 日本医科大学付属病院 集中治療室, ⁽²⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院 内科・循環器内科) : 右心腔内血栓を合併した亜広範型急性肺血栓塞栓症4例の検討. 第1回日本肺循環学会学術集会, 2012. 9.
- 18) 小野寺健太, 細川雄亮, 羽田朋人, 澤井啓介, 有田淑恵, 青景聡之, 川中秀和, 村田広茂, 北村光信, 宮地秀樹, 坪 宏一, 山本 剛, 田中啓治, 新田 隆, 堀江 格, その他1名 ⁽¹⁾ 日本医科大学付属病院 集中治療

- 室, ²⁾ 日本医科大学付属病院 外科学 (内分泌・心臓血管・呼吸器部門), ³⁾ 日本医科大学付属病院 循環器内科) : 胸部大動脈瘤に大動脈四尖弁を合併した1例. 第227回日本循環器学会関東甲信越地方会, 2013. 2.
- 19) 細川雄亮, 山本 剛, 北村光信, 村田広茂, 宮地秀樹, 宗像 亮, 時田祐吉, 坏 宏一, 竹田晋浩, 田中啓治 (¹⁾ 日本医科大学付属病院 集中治療室) : 心不全に対する持続的血液透析濾過法の治療成績. 第40回日本集中治療医学会学術集会, 2013. 2.
- 20) Hosokawa Y, Nagao K, Tchibana E, Yamamoto T, Takayama M (¹⁾ Tokyo CCU Network Committee and Intensive and Cardiac Care Unit, Nippon Medical School Hospital, Tokyo, Japan, ²⁾ Tokyo CCU Network Committee, Tokyo, Japan) : Initial characteristics and outcome of cardiogenic shock due to acute decompensated heart failure. 第70回日本循環器学会学術集会, 2013. 3.
- 21) Hosokawa Y, Yamamoto T, Watanabe Y, Tachibana E, Nagao K, Takayama M (¹⁾ Tokyo CCU Network Committee and Intensive and Cardiac Care Unit, Nippon Medical School Hospital, Tokyo, Japan, ²⁾ Tokyo CCU Network Committee, Tokyo, Japan) : Initial characteristics and outcome of cardiogenic shock due to acute decompensated heart failure. Acute Cardiac Care 2012 (トルコ・イスタンブール), 2012. 10.
- 22) 山本 剛, 吉田伸子, 高山守正 (¹⁾ 付属病院集中治療室, ²⁾ 東京都CCU連絡協議会事務局) : 東京都CCUネットワークの活動状況報告2011. 第32回東京CCU研究会, 2012. 12.
- 23) 山本 剛, 時田祐吉, 野間さつき, 中澤 賢, 村田 智, 高野仁司, 水野杏一, 吾妻安良太, 田中啓治 (¹⁾ 日本医科大学付属病院 集中治療室, ²⁾ 日本医科大学 循環器内科, ³⁾ 日本医科大学 放射線科, ⁴⁾ 日本医科大学 呼吸器内科) : 発症3ヶ月後に肺空洞病変を形成した肺塞栓症の1例. 第19回肺塞栓症研究会・学術集会, 2012. 11.
- 24) 坏 宏一, 渡辺 淳, 島田 隆, 田中啓治, 水野杏一 : 血管型 Ehlers-Danlos 症候群に対する Celiprolol の関連 event 抑制効果の検討. 第60回日本心臓病学会学術集会 (金沢), 2012. 9.
- 25) Murata H, Akutsu K, Yamamoto T, Tanaka K, Miyaushi Y, Hayashi M, Ueno A, Yodogawa K, Hirasawa Y, Iwasaki Y, Katoh T, Mizuno K (¹⁾ Division of Intensive and Coronary Care Unit, Nippon Medical School Hospital, ²⁾ Department of Cardiovascular Medicine, Nippon Medical School) : Clinical and Electrophysiological Characteristics of Intravenous Amiodarone-Refractory Monomorphic Ventricular Tachycardia. “The 77th Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society”, 2013. 3.
- 26) 福泉 偉, 村田広茂, 林 洋史, 淀川顕司, 水野杏一, 谷田篤史, 有田淑恵, 坏 宏一, 山本 剛, 田中啓治 (¹⁾ 日本医科大学 内科学講座 (循環器・肝臓・老年・総合病態部門), ²⁾ 日本医科大学付属病院 集中治療室) : ステロイド補充療法により心機能が正常化した副腎機能不全による代謝性心筋症の1例. 第593回日本内科学会関東地方会, 2012. 12.
- 27) 中島壮崇, 村田広茂, 有田淑恵, 澤井啓介, 青景聡之, 川中秀和, 細川雄亮, 根井貴仁, 坏 宏一, 山本 剛, 田中啓治, 水野杏一, 上田仁美, 栗田二郎, 大森裕也, その他4名 (¹⁾ 日本医科大学付属病院集中治療室, ²⁾ 日本医科大学 内科学講座 (循環器・肝臓・老年・総合病態部門), ³⁾ 日本医科大学 外科学講座 (心臓血管外科), ⁴⁾ 日本医科大学付属病院 病理学講座 (解析人体病理学), ⁵⁾ 博慈会記念総合病院 循環器科) : 心筋梗塞発症後, 遠隔期に重症化した心室中隔穿孔の1例. 第226回日本循環器学会関東甲信越地方会, 2012. 12.
- 28) 村田広茂 (¹⁾ 日本医科大学付属病院集中治療室, 内科学 (循環器・肝臓・老年・総合病態部門)) : “PTsMA 直後に高度房室ブロック, 心室頻拍を発症し ICD 適応と判断したが, 遠隔期の再評価で ICD 抜去到った1例”. 東京 HOCM フォーラム 2012, 2012. 10.
- 29) 村田広茂 (¹⁾ 日本医科大学付属病院集中治療室, 内科学 (循環器・肝臓・老年・総合病態部門)) : 不整脈への対策 : ICD 植え込み例の選択と長期予後に関して. 東京 HOCM フォーラム 2012, 2012. 10.
- 30) 村田広茂, 宮内靖史, 林 明聡, 高橋健太, 植竹俊介, 林 洋史, 坪井一平, 堀江 格, 淀川顕司, 小原俊彦, 加藤貴雄, 水野杏一, 山本 剛, 田中啓治 (¹⁾ 日本医科大学付属病院集中治療室, 内科学 (循環器・肝臓・老

- 年・総合病態部門))：VT storm に対するアミオダロン静注薬の有効性. 第27回日本不整脈学会学術集会, 2012. 7.
- 31) 有田淑恵, 村田広茂, 田中啓治, 野間さつき, 吉永 綾, 中村有希, 北村光信, 宮地秀樹, 細川雄亮, 根井貴仁, 塚 宏一, 山本 剛, 泉 佑樹, 水野杏一, 上田仁美, その他5名⁽¹⁾ 日本医科大学付属病院集中治療室, ⁽²⁾ 日本医科大学 内科学講座(循環器・肝臓・老年・総合病態部門), ⁽³⁾ 日本医科大学 附属病院心臓血管外科)：左室流出路破裂を来したが, 心嚢液貯留を伴わず診断に苦慮した大動脈弁置換術後の1例. 第224回日本循環器学会関東甲信越地方会, 2012. 6.
- 32) 根井貴仁, 有田淑恵, 齋藤良一⁽¹⁾ 日本医科大学付属病院 集中治療室, ⁽²⁾ 日本医科大学付属病院 内科学講座 呼吸器感染腫瘍部門, ⁽³⁾ 東京医科歯科大学 保健衛生学研究科 生体検査科学専攻 生体防御検査学分野)：G群β溶血性レンサ球菌による劇症型溶血性レンサ球菌感染症の1例. 第86回日本感染症学会総会・学術講演会(長崎県長崎市), 2012. 4.
- 33) 根井貴仁, 藤田和恵, 齋藤好信⁽¹⁾ 日本医科大学付属病院集中治療室, ⁽²⁾ 日本医科大学付属病院内科学講座呼吸器感染腫瘍部門)：抗IFNγ抗体が検出された非HIV患者のM. kansasiiによる播種性マイコバクテリウム感染症の1例. 第86回日本感染症学会総会・学術講演会, 2012. 4.
- 34) Nei T, Urano S, Kaneko C, Tazawa R, Inoue Y, Arai T, Hirose M, Nakagaki K, Nakata K⁽¹⁾ Niigata University Medical & Dental Hospital - Niigata/Jp, ⁽²⁾ Nippon Medical School-Tokyo/Jp, ⁽³⁾ Kinki-Chuo Chest Medical Center-Osaka/Jp, ⁽⁴⁾ Nippon Veterinary and Life Science University -Tokyo/Jp)：“Reduction Of IgG- And IgA- But Not IgM- GM-CSF Autoantibody Level In The Serum Strongly Associated The Remission Of Autoimmune Pulmonary Alveolar Proteinosis (aPAP)”. American Thoracic Society-International Conference, 2012 (SanFrancisco, US), 2012. 5.
- 35) 根井貴仁⁽¹⁾ 日本医科大学付属病院集中治療室)：抗IFNγ抗体が検出された非HIV患者のM. kansasiiによる播種性マイコバクテリウム感染症の1例. 第87回日本結核病学会総会, 2012. 5.
- 36) 根井貴仁⁽¹⁾ 日本医科大学付属病院集中治療室)：抗IFNγ抗体が検出された非HIV患者のM. kansasiiによる播種性マイコバクテリウム感染症の1例. 第87回日本結核病学会総会, 2012. 5.
- 37) 藤澤洋輔, 根井貴仁, 有田淑恵, 村田広茂, 北村光信, 宮地秀樹, 洪井俊之, 細川雄亮, 塚 宏一, 山本 剛, 田中啓治⁽¹⁾ 日本医科大学付属病院集中治療室)：不明熱で精査中に多臓器不全となり血液培養陽性化から粟粒結核と診断された1例. “第21回日本集中治療医学会関東甲信越地方会”(群馬県前橋市), 2012. 8.
- 38) 根井貴仁, 齋藤良一⁽¹⁾ 日本医科大学付属病院感染制御部, ⁽²⁾ 東京医科歯科大学微生物免疫学教室)：Lactobacillus plantarumによる降下性壊死性縦隔炎の1例. 第21回日本集中治療医学会関東甲信越地方会, 2012. 10.
- 39) Aokage T, Takeda S, Kotani T⁽¹⁾ Cardiac care unit & intensive care unit, Nippon Medical School Hospital)：EXTRACORPOREAL MEMBRANE OXYGENATION FOR 2009 INFLUENZA A (H1N1) SEVERE RESPIRATORY FAILURE IN JAPAN. 第1回Euro-ELSO (Rome, Italy), 2012. 5.
- 40) 間瀬大司, 藤井正大, 芝田匡史, 上田仁美, 鈴木大悟, 栗田二郎, 小林克也, 渡邊嘉之, 大森裕也, 坂本俊一郎, 竹田晋浩, 新田 隆, 田中啓治, 坂本篤裕, 落 雅美⁽¹⁾ 日本医科大学付属病院 集中治療室, ⁽²⁾ 日本医科大学付属病院 心臓血管外科, ⁽³⁾ 日本医科大学付属病院 麻酔科)：心臓血管外科手術後の水分管理におけるTolvaptanの使用に関する検討. 第26回日本冠疾患学会学術集会(東京), 2012. 12.
- 41) 間瀬大司, 竹田晋浩, 青景聡之, 小林克也, 田中啓治, 坂本篤裕⁽¹⁾ 日本医科大学付属病院 集中治療室, ⁽²⁾ 日本医科大学付属病院 麻酔科)：心臓手術後の循環不全に対する従来のPCPSシステムと新しいECMOシステムの比較検討. 第26回日本冠疾患学会学術集会, 2012. 12.
- 1) 塚 宏一⁽¹⁾ 日本医科大学付属病院集中治療室)：急性大動脈解離を見逃さないために. 第77回日本循環器学会総会(横浜), 2013. 3.
- 2) 青景聡之, 竹田晋浩, 山本 剛, 田中啓治⁽¹⁾ 日本医科大学付属病院 集中治療室)：成人重症呼吸不全に対し

て ECMO を考慮すべきではない (エキスパート Pro-Con 白熱ディベート 1 重症呼吸不全には体外式肺補助 (ECLA, ECMO) を用いる?)。第 40 回日本集中治療医学会, 2013. 2.

[付属病院病理部]

研究概要

現在, 病理部は病理専門医である専任病理医 5 名に加え, 今年度は細胞診専門医が 2 名誕生し病理組織に加え細胞診の診断と研究の基盤ができてきた。そのほか, 細胞検査士 9 名含む技師 11 名事務員 1 名のスタッフにより日常診断業務を遂行している。今年度は新病院建設の最中であり, 振動等で落ち着かない環境の中ではあったが臨床との共同開催である乳腺, 内分泌, 婦人科および消化器カンファレンス等も定例で開催され, 多くの医師や技師が参加し内容も充実してきており, 研究面でもその中から見出される貴重な症例などが対象となってきた。また, 医局長の専門である腎臓病理に関する研究も腎臓内科や小児科との共同研究などが新たな研究活動として始まったのも今年度の特徴であります。今後も継続して研究に取り組んでいきたいと考えている。

研究業績

論文

[追加分]

追加分原著:

- 1) 大橋隆治, 土屋眞一, 川本雅司¹⁾, 大久保公裕²⁾ (1) 帝京大学医学部附属溝口病院 臨床病理科, 2) 付属病院耳鼻咽喉科): Solitary nasal schwannoma: usefulness of CD34 and calretin staining for distinction from histological mimickers. (in press). J Nippon Med Sch 2013; 80 (4): 300-306.
- 2) 大橋隆治, 酒井行直¹⁾, 大塚智之¹⁾, 大野 大¹⁾, 益田幸成²⁾, 佐藤直樹¹⁾, 清水 章²⁾ (1) 武蔵小杉病院内科, 2) 日本医科大学病理学): Proliferative glomerulonephritis with monoclonal IgG2 κ deposit successfully treated with steroid: A case report and review of the literature. Clinical and Experimental Nephrology 2013 2013.
- 3) 大橋隆治, 細川雄亮¹⁾, 木村 剛²⁾, 近藤幸尋²⁾, 田中啓治¹⁾, 土屋眞一 (1) 付属病院集中治療室, 2) 付属病院泌尿器科): Acute renal failure as the presenting sign of disseminated intravascular coagulation in a patient with metastatic prostate cancer. International Journal of Nephrology and Renovascular Disease 2013; 6: 47-51.
- 4) 山本陽一朗, 小黒辰夫¹⁾, 三枝順子¹⁾, 大橋隆治, 土屋眞一 (1) 千葉北総病院病理部): In situ search for breast cancer stem cells and their niche: Film sheet epoxy resin embedding method (FSEM) and breast cancer stem cells. J Nippon Med Sch 2013; 80 (4): 240-241.
- 5) 土屋眞一, 大橋隆治, 松原美幸: 臨床検査の展望 (4. 病理検査). 臨床検査 2012; 57 (1): 26-33.

(1) 原著:

- 1) 大橋隆治: Etanercept suppresses arteritis in a murine model of Kawasaki disease: A comparative study involving different biological agents. International Journal of Vascular Medicine 2013; 2013: 1-10.
- 2) 窪倉浩俊¹⁾, 石井英昭, 岡本淳一¹⁾ (1) 武蔵小杉病院外科): Mediastinal cystic hemangioma presenting as bilateral bloody pleural effusion: a case report. J Nippon Med Sch 2012; 79 (5): 381-384.

著書

- 1) 土屋眞一: [監修] 序文. 体腔液細胞診カラーアトラス (土屋眞一), 2012; pp3-3, 文光堂.
- 2) 松原美幸: [分担] 13 臍臓. 体腔液細胞診アトラス, 2012; pp101-103.

学会発表

〔追加分〕

追加分一般講演：

- 1) 岩野茉莉絵¹⁾, 土屋眞一, 谷 瞳¹⁾, 村上隆介¹⁾, 汲田伸一郎¹⁾, 柳原恵子²⁾, 飯田信也²⁾, 芳賀駿介²⁾ (1) 日本医科大学放射線科, (2) 日本医科大学乳腺外科)：乳癌センチネルリンパ節生検における SPECT-CT の有用性. 日本乳癌学会 (第 20 回) (熊本), 2013. 6.

追加分教育講演：

- 1) 大橋隆治, 清水 章¹⁾ (1) 日本医科大学病理学)：管内増殖性糸球体腎炎様の組織像を呈した crystal-storing histiocytosis の 1 例. 日本腎病理協会総会 (第 11 回) (東京), 2012. 1.
- 2) 大橋隆治：その 1MPO-ANCA 高値の判明した巣状分節性糸球体硬化症の 15 歳男児例, その 2. MPO-ANCA 高値の判明した巣状分節性糸球体硬化症の 15 歳男児例. 関東小児腎研究会 (第 56 回) (東京), 2012. 1.

(1) 特別講演：

- 1) 土屋眞一, 池田智明¹⁾, 小西郁生²⁾ (1) 三重大学医学部産科婦人科, (2) 京都大学医学部産科婦人科)：市民公開講座：ご存知ですか？妊娠期に多いがんは子宮がんと乳癌！細胞診検診で守ろう母性. 日本臨床細胞学会総会 (第 53 回) (東京), 2012. 6.
- 2) 山本陽一朗：乳癌幹細胞および Niche の in situ 探索：薄層広視野樹脂包埋と乳癌幹細胞. 日本医科大学医学会総会 (第 80 回) (東京), 2012. 9.
- 3) 原田 大：シンガポール総合病院での一年間の研修留学報告. 日本医科大学医学会総会 (第 80 回) (東京), 2012. 9.

(2) シンポジウム：

- 1) 松原美幸, 土屋眞一：DCIS の特性に迫る：細胞診でどこまでわかる. 日本臨床細胞学会秋期大会 (第 51 回) (新潟), 2012. 11.

(3) セミナー：

- 1) 土屋眞一, 山口 倫, 越川 卓 (1) 久留米大学医学部附属医療センター, (2) 愛知県立大学看護学部)：乳腺穿刺吸引細胞診の精度に関するワーキンググループからの報告. 日本臨床細胞学会総会 (第 53 回) (東京), 2012. 6.
- 2) 土屋眞一, 佐藤春明, 川本雅司¹⁾, 越川 卓²⁾, 山口 倫³⁾ (1) 帝京大学医学部臨床病理科, (2) 愛知県立看護大学看護学部, (3) 久留米大学医学部附属医療センター)：乳腺細胞診誤判定 39 例の初期状態による再判定. 日本臨床細胞学会総会 (第 53 回) (東京), 2012. 6.
- 3) 松原美幸, 原田 大：病理組織・細胞診セミナー 11. 日本臨床細胞学会総会 (第 53 回) (東京), 2012. 6.

(4) ワークショップ：

- 1) 松永 徹¹⁾, 渋谷信介¹⁾, 羽場礼次¹⁾, 宮田佳奈²⁾, 笹島ゆうこ²⁾, 葉山綾子, 土屋眞一, 荒木 剛³⁾, 原田祐治³⁾ (1) 香川大学医学部附属病院病理部, (2) 帝京大学医学部附属病院病理部, (3) 島根大学医学部附属病院病理部)：ベセスダシステムの現況と今後への課題+ASC-H を中心に大学病院の立場から. 日本臨床細胞学会秋期大会 (第 51 回) (新潟), 2012. 11.
- 2) 大橋隆治：腎病理標準化と IgA 腎症：病理標準化のための病変の定義と疾患活動性. 日本病理学会総会 (第 101 回) (東京), 2012. 4.

(5) 一般講演：

- 1) 浅川一恵, 土屋眞一, 原田 大, 山本陽一朗, 葉山綾子, 松原美幸, 渡會泰彦：基質産生癌の特徴を有した乳癌の 3 例. 日本臨床細胞学会総会 (第 53 回) (東京), 2012. 6.
- 2) 北村隆司¹⁾, 小島朋子¹⁾, 三谷俊幸²⁾, 土屋眞一 (1) 昭和大学横浜市北部病院病理部, (2) 昭和大学藤が丘病院病

- 理診断科)：乳腺：直接法(吹き付け法)と液状検体. 日本臨床細胞学会秋期大会(第51回)(新潟), 2012. 11.
- 3) 川瀬里衣子¹⁾, 黒瀬圭輔¹⁾, 鴨井青龍¹⁾, 松原美幸, 大橋隆治, 土屋眞一, 竹下俊行¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院 女性診療科)：頸癌との鑑別に細胞診が有用であった子宮体癌の1例. 日本臨床細胞学会秋期大会(第51回)(新潟), 2012. 11.
 - 4) 彭 為霞¹⁾, 佐藤杏月¹⁾, 高屋 茜¹⁾, 釜口晴美, 土屋眞一, 内藤善哉¹⁾ (1) 日本医科大学病理学講座(統御機・腫瘍学))：40代に発生した卵巣癌肉腫の1例. 日本臨床細胞学会秋期大会(第51回)(新潟), 2012. 11.
 - 5) 齋藤良明, 松原美幸, 葉山綾子, 浅川一恵, 渡會泰彦, 土屋眞一, 内藤善哉¹⁾ (1) 日本医科大学病理学講座(統御機構・腫瘍学))：乳腺疾患から見た筋上皮細胞の検討. 日本臨床細胞学会秋期大会(第51回)(新潟), 2012. 11.
 - 6) 浅川一恵, 土屋眞一, 原田 大, 齋藤良明, 渡會泰彦, 松原美幸, 内藤善哉¹⁾ (1) 日本医科大学病理学講座(統御機構・腫瘍学))：神経内分泌細胞への分化を示す乳腺粘液癌の細胞学的検討. 日本臨床細胞学会秋期大会(第51回)(新潟), 2012. 11.
 - 7) 中村ひさ子¹⁾, 土屋眞一, 宮澤 勲¹⁾, 江原孝史²⁾, 半田幸雄¹⁾ (1) JA 長野厚生連北信総合病院臨床検査科, 2) 松本大学人間健康学部スポーツ健康学科)：乳腺紡錘細胞癌の1例. 日本臨床細胞学会秋期大会(第51回)(新潟), 2012. 11.
 - 8) 佐藤杏月¹⁾, 土屋眞一, 彭 為霞¹⁾, 寺崎美佳²⁾, 葉山綾子, 松原美幸, 鴨井青龍³⁾, 朝倉啓文³⁾, 竹下俊之³⁾, 内藤善哉¹⁾ (1) 日本医科大学病理学講座(統御機構・腫瘍学), 2) 日本医科大学病理学講座(解析人体病理), 3) 日本医科大学産婦人科学教室)：細胞診でポリリープ状異型腺筋腫(APAM)が疑われた1例. 日本臨床細胞学会秋期大会(第51回)(新潟), 2012. 11.
 - 9) 渡會泰彦, 土屋眞一, 大橋隆治, 原田 大, 川本雅司¹⁾, 木村 剛²⁾ (1) 帝京大学医学部附属溝口病院臨床病理科, 2) 日本医科大学付属病院泌尿器科)：悪性中皮腫類似の細胞が出現した炎症を伴う陰嚢水腫の1例. 日本臨床細胞学会秋期大会(第51回)(新潟), 2012. 11.
 - 10) 石井英昭, 山本陽一朗, 原田 大, 大橋隆治, 土屋眞一：胃癌における p53 の役割. 日本病理学会総会(第101回)(東京), 2012. 4.
 - 11) 谷 崇¹⁾, 石原 力¹⁾, 池田まり子¹⁾, 有馬留志¹⁾, 平間章郎¹⁾, 福井めぐみ¹⁾, 金子朋広¹⁾, 大橋隆治, 飯野靖彦¹⁾, 片山泰朗¹⁾ (1) 付属病院内科)：可逆性な大脳深部白質病変に伴う, 急速に進行する認知症を主訴に入院し, 特発性後腹膜線維症による腎後性腎不全と診断された1例. 第58回日本透析医学会学術集会(札幌), 2012. 6.
 - 12) 大野 大¹⁾, 酒井行直¹⁾, 大橋隆治, 清水 章²⁾ (1) 武蔵小杉病院内科, 2) 日本医科大学病理学)：健診を機に見された dense deposit disease の1例. 日本腎臓学会東部学術大会(第42回)(新潟), 2012. 10.
 - 13) 大塚智之¹⁾, 酒井行直¹⁾, 清水 章²⁾, 大橋隆治 (1) 武蔵小杉病院内科, 2) 日本医科大学病理学)：基礎疾患の明らかでない proliferative glomerulonephritis with monoclonal IgG deposits の1例. 日本腎臓学会東部学術大会(第42回)(新潟), 2012. 10.
 - 14) 大橋隆治：BK virus 腎症における p53 発現の意義について. 日本臨床腎移植学会(第46回)(千葉), 2013. 1.
 - 15) 大橋隆治, 深澤隆治¹⁾, 小川俊一¹⁾ (1) 付属病院小児科)：Comparison of 4 different biological agents for suppression of arteritis in a Kawasaki disease mouse model. 日本循環器学会学術集会(第77回)(東京), 2013. 3.
 - 16) 橋本淳也¹⁾, 大橋隆治 (1) 自衛隊大湊病院 診療部)：ネフローゼ状態を呈し, 診断及び治療に難渋した溶連菌感染症後の糸球体腎炎(PSAGN)の1例. 日本小児腎臓学会橋本(東京), 2012. 5.
 - 17) 谷 瞳¹⁾, 土屋眞一, 岩野梨菜絵¹⁾, 高濱克也¹⁾, 天野康雄¹⁾, 村上隆介¹⁾, 汲田伸一郎¹⁾, 柳原恵子²⁾, 飯田信也²⁾, 芳賀駿介 (1) 付属病院放射線科, 2) 付属病院乳腺科)：MRIにて non-mass-like enhancement を示した乳

癌の検討. 日本乳癌学会総会 (第 20 回) (熊本), 2012. 6.

- 18) 高山文吉¹⁾, 草間 律²⁾, 伊藤研一³⁾, 土屋眞一, 藤森 実⁴⁾ (1) 青樹会一之瀬画像センター, 2) 瀬原田クリニック, 3) 信州大学病院, 4) 東京医大茨木医療センター): MRI で所見が描出されなかった乳がん症例の検討. 日本乳癌学会総会 (第 20 回) (熊本), 2012. 6.
- 19) 飯田信也¹⁾, 土屋眞一, 宮下正夫²⁾, 芳賀駿介¹⁾, 山下浩二¹⁾, 柳原恵子¹⁾, 栗田智子¹⁾, 岩本美樹¹⁾, 山下直行³⁾, 内田英二⁴⁾ (1) 日本医科大学付属病院乳腺科, 2) 日本医科大学付属病院がん診療センター, 3) 坪井病院 外科, 4) 付属病院外科): 癌探知犬による乳癌スクリーニング. 日本乳癌学会総会 (第 20 回) (熊本), 2012. 6.
- 20) 岩本美樹¹⁾, 土屋眞一, 芳賀駿介¹⁾, 飯田信也¹⁾, 山下浩二¹⁾, 柳原恵子¹⁾, 栗田智子¹⁾, 村上隆介²⁾, 内田英二³⁾ (1) 付属病院乳腺科, 2) 付属病院放射線科, 3) 付属病院外科): 若年性乳癌の診断: 画像診断の有用性についての検討. 日本乳癌学会総会 (第 20 回) (熊本), 2012. 6.
- 21) 廣瀬脩二¹⁾, 土屋眞一, 吉田谷美美²⁾, 山内英子²⁾ (1) プレストクリニック立川, 2) 聖路加国際病院): ペーチェット病との鑑別に苦慮した肉芽腫性乳腺炎. 日本乳癌学会総会 (第 20 回) (熊本), 2012. 6.
- 22) 栗田智子¹⁾, 柳原恵子¹⁾, 飯田信也¹⁾, 山下浩二¹⁾, 岩本美樹¹⁾, 古川清憲¹⁾, 樋口勝美²⁾, 土屋眞一, 芳賀駿介¹⁾, 内田英二³⁾ (1) 付属病院乳腺科, 2) 安東病院外科, 3) 付属病院外科): 進行再発乳癌における新規アブラキサンの有効性と安全性の検討. 日本乳癌学会 (第 20 回) (熊本), 2012. 6.
- 23) 山田博文¹⁾, 黒田 徹¹⁾, 松本力雄¹⁾, 桂田純二郎¹⁾, 島田志保²⁾, 土屋眞一 (1) 赤心堂病院外科, 2) 赤心堂病院病理診断科): 広範囲に乳管内進展を伴った嚢胞内乳頭癌の 1 例. 日本乳癌学会関東地方会 (第 9 回) (大宮), 2012. 12.
- 24) 山田理恵子¹⁾, 土屋眞一, 加藤博之¹⁾, 宮崎正二郎²⁾, 杉本孝章²⁾, 平野あずさ²⁾, 武内祥子²⁾, 佐久間浩³⁾, 芳賀駿介³⁾ (1) 東京女子医科大学東医療センター検査科, 2) 谷津保険病院外科, 3) 日本医科大学付属病院乳腺科): 乳頭部に限局した浸潤性乳管癌の 1 例. 日本乳癌学会関東地方会 (第 9 回) (大宮), 2012. 12.

[付属病院中央検査部]

研究概要

高度医療の中で、臨床検査は病気の診断、治療において重要な役割を担っている。良質で安全な医療を遂行するためには、チーム医療の一員として、正確な検体採取と管理、効率的な検査手法の確立、付加価値をつけた検査結果の提供、最新技術の習得と業務効率を改善する努力が求められると共に、医療安全および感染制御への積極的な参画も新たな取り組みとして、中央検査部の重要な役割となっている。学術活動としては、専門分野ごとに、診断に必要な検査項目の導入検討と評価。業務の効率改善を目的とした検査試薬、分析機器、採血管の検討。測定手技による検査値の影響評価。検査データからの疾患診断へのアプローチ。症例検討。感染制御への取り組み。大規模災害発生時の対応などを広く学会を中心に発信した。今後、ますます臨床検査の重要性は増大し、その専門性、正確性と迅速性が求められる中、中央検査部は常に最新の技術と知識の習得に心がけ情報の発信を行う。

研究業績

論文

(1) 原著:

- 1) 園部一成, 野呂瀬嘉彦¹⁾, 三浦義彦¹⁾, 篠山明宏, 大川咲奈, 鷺尾洋平, 前原茂子¹⁾, 中川仁美¹⁾, 藤田昌久¹⁾, 前田美穂¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院感染制御部): 同一 VER 保菌者における VRE のパルスフィールド電気泳動の多様性. 環境感染誌 2013; 28 (1): 13-17.

(2) 研究報告書:

- 1) 小林紘士: 各施設の尿中有形成分分析装置の運用事例. 医療と検査機器・試薬 2012; 35 (4): 527-529.

(3) 症例報告：

- 1) Nei T¹⁾, Hyodo H²⁾, Sonobe K, Dan K²⁾, Saito R³⁾ (1) 日本医科大学付属病院感染制御部, 2) 日本医科大学付属病院血液内科, 3) 東京医科歯科大学大学院保健衛生学研究所生体防御検査学分野) : First Reports of Infectious Pericarditis Due to *Bordetella holmesii* in an Adult Patient with Malignant Lymphoma. J Clin Microbiol 2012 ; 50 (5) : 1815-1817.
- 2) 園部一成, 根井貴仁¹⁾, 兵働英也²⁾, 齋藤良一³⁾ (1) 日本医科大学付属病院感染制御部, 2) 日本医科大学付属病院血液内科, 3) 東京医科歯科大学大学院保健衛生学研究所生体防御検査学分野) : *Bordetella holmesii* による感染性心外膜炎症例. IASR 2012 ; 33 : 332-333.

学会発表

(1) シンポジウム：

- 1) 大久保泰歩, 日ノ澤進一郎, 柴田泰史, 三橋 太, 井上雅則, 飯野幸永, 本間 博 : 蛍光免疫分析装置 AQ90FLEX analyzer によるトロポニン T 測定の評価. 日本臨床検査自動化学会 (第 44 回) (神奈川), 2012. 10.
- 2) 山下純一 : 東北地方太平洋地震における当検査部の被害状況 : 実際の被害を受けてからみえた今後の対策. 臨床化学界関東支部総会 (第 20 回) (東京), 2012. 6.

(2) パネルディスカッション：

- 1) 大川咲奈, 園部一成, 中村祐三, 飯野幸永, 本間 博 : 免疫応答性宿主に発症した *Nocardia asiatica* による肺ノカルジア症の 1 例. 日本医学検査学会 (第 61 回) (三重), 2012. 6.
- 2) 鷺尾洋平, 園部一成, 大川咲奈, 中村祐三, 齋藤良一¹⁾, 飯野幸永, 本間 博 (1) 東京医科歯科大学大学院保健衛生学研究所生体防御検査学分野) : *Actinomyces israelii* による咬筋内膿瘍を繰り返した放線菌症の 1 例. 日本医学検査学会 (第 61 回) (三重), 2012. 6.
- 3) 鷺尾洋平, 根井貴仁¹⁾, 園部一成, 篠山明宏, 中村祐三, 田代綾香, 大川咲奈, 齋藤良一²⁾ (1) 日本医科大学付属病院感染制御部, 2) 東京医科歯科大学大学院保健衛生学研究所生体防御検査学分野) : *Lactobacillus plantarum* による降下性縦隔膿瘍の 1 症例. 微生物学会 (第 24 回) (神奈川), 2013. 2.

(3) 一般講演：

- 1) 日ノ澤進一郎, 三橋 太, 橋本政子, 飯野幸永, 本間 博 : 24hCcr 実測値と予測式値から決定される薬剤投与量の一致性第 2 報. 日本医学検査学会 (第 61 回) (三重), 2012. 6.
- 2) 影山憲貴, 柴田泰史, 鳴海武長, 山下純一, 佐藤美里, 高木 豊¹⁾, 三橋 太, 日ノ澤進一郎, 飯野幸永, 本間 博 (1) 日本医科大学付属武蔵小杉病院中央検査室) : 血液ガス分析の検体攪拌における妥当性検討. 日本臨床検査医学会学術集会 (第 59 回) (京都), 2012. 12.
- 3) 大久保泰歩, 日ノ澤進一郎, 柴田泰史, 三橋 太, 井上雅則, 飯野幸永, 本間 博 : AQT90FLEX analyzer を用いたトロポニン T 測定の評価. 東京都医学検査学会 (第 9 回) (東京), 2013. 2.
- 4) 下津留美, 大久保泰歩, 佐藤美里, 三橋 太, 柴田泰史, 飯野幸永, 本間 博 : 高感度トロポニン T の基礎的検討および高感度トロポニン I との比較. 日本医学検査学会 (第 61 回) (三重), 2012. 6.
- 5) 下津留美, 大久保泰歩, 佐藤美里, 三橋 太, 日ノ澤進一郎, 飯野幸永, 本間 博 : Cobas 6000 (e601) における高感度トロポニン T の有用性. 東京都医学検査学会 (第 9 回) (東京), 2013. 2.
- 6) 山下純一, 佐藤美里, 鳴海武長, 影山憲貴, 柴田泰史, 三橋 太, 青砥泰二, 飯野幸永, 本間 博 : 汎用自動分析装置用試薬汎用自動分析装置用試薬『LZ テスト栄研 MMP-3』の基礎的検討. 日本医学検査学会 (第 61 回) (三重), 2012. 6.
- 7) 山下純一, 佐藤美里, 鳴海武長, 影山憲貴, 柴田泰史, 三橋 太, 青砥泰二, 飯野幸永, 本間 博 : MMP-3 測定試薬『改良パナクリア MMP-3 「ラテックス」』の基礎的検討. 日本臨床検査自動化学会 (第 44 回) (神奈川), 2012. 10.

- 8) 山下純一, 佐藤美里, 影山憲貴, 柴田泰史, 三橋 太, 青砥泰二, 飯野幸永, 本間 博: ラテックス免疫比濁法による MMP-3 測定試薬 2 法の基礎的検討. 東京都医学検査学会 (第 9 回) (東京), 2013. 2.
- 9) 佐藤美里, 鳴海武長, 山下純一, 柴田泰史, 三橋 太, 日ノ澤進一郎, 青砥泰二, 飯野幸永, 本間 博: 「尿中微量アルブミン測定試薬「LZ テスト 栄研 U-ALB」の基礎的検討」. 日本臨床検査自動化学会 (第 44 回) (神奈川), 2012. 10.
- 10) 佐藤美里, 鳴海武長, 山下純一, 柴田泰史, 三橋 太, 青砥泰二, 飯野幸永, 本間 博: 「非特異反応によりミオグロビン偽高値を認めた 2 例の検討」. 東京都医学検査学会 (第 9 回) (東京), 2013. 2.
- 11) 柴田泰史, 青砥泰二, 三橋 太, 山下純一, 下津留美, 佐藤美里, 飯野幸永, 本間 博: cobas6000 (e601) を用いたプロカルシトニン測定の有用性. 日本医学検査学会 (第 61 回) (三重), 2012. 6.
- 12) 柴田泰史, 日ノ澤進一郎, 三橋 太, 山下純一, 影山憲貴, 鳴海武長, 佐藤美里, 大久保泰歩, 飯野幸永, 本間 博: 救命医療における血液ガス分析装置ラピッドポイント 500 の有用性. 日本臨床検査自動化学会 (第 44 回) (神奈川), 2012. 10.
- 13) 柴田泰史, 日ノ澤進一郎, 三橋 太, 山下純一, 影山憲貴, 鳴海武長, 佐藤美里, 飯野幸永, 本間 博: 補助循環装置使用患者における高速凝固促進剤入り採血管の有用性. 日本臨床検査医学会学術集会 (第 59 回) (京都), 2012. 11.
- 14) 柴田泰史, 日ノ澤進一郎, 三橋 太, 山下純一, 影山憲貴, 佐藤美里, 飯野幸永, 本間 博: 敗血症患者における重症度の指標としての CRP とプロカルシトニンの比較. 東京都医学検査学会 (第 9 回) (東京), 2013. 2.
- 15) 大川咲奈, 園部一成, 鷺尾洋平, 中村祐三, 齋藤良一¹⁾, 飯野幸永, 本間 博⁽¹⁾ 東京医科史大学大学院保健衛生学研究科生体防御検査学分野): グラム染色により迅速診断に至った肺ノカルジア症の 1 例. 私立医科大学臨床検査技師会 (第 30 回) (東京), 2012. 11.
- 16) 田代彩香, 村山智美, 鳴海武長, 日ノ澤進一郎, 中村祐三, 飯野幸永, 本間 博: 血清シスタチン C 測定試薬「FT ラテックス シスタチン C」の基礎的検討. 東京都医学検査学会 (第 9 回) (東京), 2013. 2.
- 17) 鷺尾洋平, 園部一成, 篠山明宏, 中村祐三, 齋藤良一¹⁾, 飯野幸永, 本間 博⁽¹⁾ 東京医科歯科大学大学院保健衛生学研究科生体防御検査学分野): *Lactobacillus plantarum* による降下性壊死性縦隔炎症例. 東京都医学検査学会 (第 9 回) (東京), 2013. 2.
- 18) 小林紘士, 三橋 太, 日ノ澤進一郎, 飯野幸永, 本間 博: 特徴的な尿沈渣所見を示したファブリー病の症例における一考察. 腎・泌尿器検査研究会第 9 回学術集会 (東京), 2013. 3.
- 19) 中山一隆¹⁾, 常木美智子, 間宮一夫, 由井俊輔¹⁾, 福永景子¹⁾, 平川経晃¹⁾, 岡本宗雄¹⁾, 脇田和志¹⁾, 岡部雅弘¹⁾, 了徳寺剛¹⁾, 玉井勇人¹⁾, 竹内純子¹⁾, 山口博樹¹⁾, 猪口孝一¹⁾, 檀 和夫¹⁾ ⁽¹⁾ 日本医科大学付属病院血液内科): シスメックス XE-5000 による機械的破碎赤血球カウントを用いた移植後 TMA 診断の試み. 第 35 回日本造血細胞移植学会総会 (石川), 2013. 3.

[付属病院薬剤部]

研究業績

論文

[追加分]

追加分原著:

- 1) 伊勢雄也¹⁾, 田近賢二²⁾, 久志本成樹³⁾, 緒方清行⁴⁾, 片山志郎¹⁾ ⁽¹⁾ 日本医科大学付属病院薬剤部, ²⁾ 横浜南共済病院血液内科, ³⁾ 東北大学病院高度救命救急センター, ⁴⁾ 日本医科大学付属病院輸血部): アルブミン適正使用評価委員会設置によるアルブミン製剤の適正使用に向けた積極的な介入がアルブミン製剤使用量ならびに患

者アウトカムに及ぼす影響. 日本輸血細胞治療学会誌 2012; 19 (2) : 33-41.

- 2) 久志本成樹¹⁾, 伊勢雄也²⁾, 新井正徳³⁾, 宮内真人³⁾, 川井 真³⁾, 横田裕行³⁾ (¹⁾ 東北大学病院高度救命救急センター, ²⁾ 日本医科大学付属病院薬剤部, ³⁾ 日本医科大学付属病院病院高度救命救急センター) : アルブミン適正使用を目指した使用量減少は集中治療患者の転帰に影響を与えるか. 日本集中治療医学会雑誌 2012; 19(2) : 261-262.
- 3) Ise Y¹⁾, Mori T²⁾, Katayama S¹⁾, Nagase H³⁾, Suzuki T²⁾ (¹⁾ 日本医科大学付属病院薬剤部, ²⁾ 星薬科大学薬品毒性学教室, ³⁾ 北里大学薬学部生命薬化学教室) : Rewarding effects of ethanol combined with low doses of morphine through dopamine D1 receptors. J Nippon Med Sch 2012; 80 (1) : 34-41.

(1) 原著 :

- 1) Ishii-Nozawa R¹⁾, Nakata K¹⁾, Ise Y²⁾, Sugaya K³⁾, Kosaka Y⁴⁾, Katayama S²⁾, Oikawa S⁵⁾, Takeuchi K¹⁾ (¹⁾ 明治薬科大学臨床薬理学教室, ²⁾ 日本医科大学付属病院薬剤部, ³⁾ 日本医科大学多摩永山病院薬剤部, ⁴⁾ 東京女子医科大学八千代医療センター薬剤部, ⁵⁾ 日本医科大学付属病院内分泌代謝内科) : Survey of the instruction method about adverse reactions of HMG-CoA Reductase Inhibitor (Statin) and the patients intelligibility : As cause search of non-compliance. アプライド・セラピューティクス 2012; 3 (2) : 28-36.
- 2) 伊勢雄也¹⁾, 片山志郎¹⁾, 中野博司²⁾, 大庭健三²⁾ (¹⁾ 日本医科大学付属病院薬剤部, ²⁾ 日本医科大学老年内科) : 認知症患者における服薬介助の現状ならびに貼付剤の有用性についての調査研究. 医薬品情報学 2012; 14(3) : 101-104.

(2) 総説 :

- 1) 稲毛俊介, 伊勢雄也, 片山志郎 : がん治療と緩和ケア : 分子標的治療薬の薬剤経済分析. 日医大医会誌 2012; 8 (4) : 241-245.

著 書

- 1) 岸田悦子 : [分担] コラム. がん化学療法レジメン管理マニュアル (濱 敏弘, 青山 剛, 東 加奈子, 川上 和宣, 宮田 広樹), 2012; pp222-222, 医学書院.
- 2) 岸田悦子 : [自著] 薬の個性がみえる 2012 年新薬リスト (上). ファーマトリビューン 8月号 (別冊), 2012; pp3-20, メディカルトリビューン.
- 3) 岸田悦子 : [自著] 薬の個性がみえる 2012 年新薬リスト (下). ファーマトリビューン 2013 1月号 (別冊), 2013; pp3-17, メディカルトリビューン.
- 4) 岸田悦子 : [自著] 新薬解説「フェソロデックス注 250mg」. ファーマトリビューン 8月号 (別冊), 2012; pp22-23, メディカルトリビューン.

学会発表

[追加分]

追加分シンポジウム :

- 1) 畝本賜男, 片山志郎 : 術前期中における持参薬管理について : DPC, チーム医療をキーワードに : 手術室薬剤師が行うチーム医療としての術前中止薬管理の問題点と今後の展開. 日本医療薬学会年会 (第 21 回) (神戸国際会議場), 2011. 10.

(1) シンポジウム :

- 1) 畝本賜男 (¹⁾ 薬剤部, ²⁾ 医療安全管理部) : リスクマネージャーの活性化 : ワーキンググループ立ち上げとその効用. 私立病院 (東京ブロック) 医療安全推進連絡会議 (第二回) (東京医科大学病院 臨床講堂), 2012. 7.

(2) ポスターセッション：

- 1) 岸田悦子, 片山志郎, 伊勢雄也¹⁾ 東京女子医科大学病院薬剤部, ²⁾ 日本大学板橋病院薬剤部, ³⁾ 昭和大学病院薬剤部, ⁴⁾ 慶應義塾大学病院薬剤部, ⁵⁾ 聖路加国際病院薬剤部, ⁶⁾ 東邦大学医療センター大森病院薬剤部, ⁷⁾ 帝京大学医学部附属病院薬剤部, ⁸⁾ 星薬科大学薬品毒性学教室, ⁹⁾ 東京都病院薬剤師会緩和医療領域薬剤師養成特別委員会, ¹⁰⁾ 東京都病院薬剤師会)：緩和医療領域における薬剤師の専門性向上に対する東京都病院薬剤師会の取り組み (第3報). 日本緩和医療薬学会年会 (第6回) (神戸), 2012. 10.

(3) 一般講演：

- 1) 加藤あゆみ¹⁾, 片山志郎¹⁾, 中西一浩^{1,2)} (1) 日本医科大学付属病院 緩和ケアチーム, ²⁾ 日本医科大学付属病院 緩和ケア科)：PCA ポンプを用いた呼吸困難感への対応. 日本緩和医療薬学会 (第6回) (神戸), 2012. 10.
- 2) 加藤あゆみ¹⁾, 伊勢雄也¹⁾, 林裕美子^{1,2)}, 片山志郎¹⁾, 中西一浩^{1,2)} (1) 日本医科大学付属病院 緩和ケアチーム, ²⁾ 日本医科大学付属病院 緩和ケア科)：緩和ケアチームにおけるトラマドール適正使用の評価. 日本医療薬学会 (第22回) (新潟), 2012. 10.
- 3) 芦崎雅之¹⁾, 加藤あゆみ, 坂本拓也²⁾, 鷺谷明子³⁾, 二木妙子⁴⁾, 榊 茂典⁵⁾, 増田由梨⁶⁾, 吉川有紀⁷⁾, 遠藤美緒⁸⁾, 岡澤美貴子⁹⁾ (1) 武蔵野赤十字病院 薬剤部, ²⁾ 東京労災病院 薬剤部, ³⁾ 東京都保健医療公社大久保病院 薬剤科, ⁴⁾ 日本歯科大学付属歯科病院 薬剤室, ⁵⁾ 東京慈恵会医科大学附属第三病院 薬剤部, ⁶⁾ 東京都済生会中央病院 薬剤部, ⁷⁾ 医療法人社団永生会南多摩病院 薬剤科, ⁸⁾ 昭和大学病院 薬剤部, ⁹⁾ NTT 東日本関東病院 薬剤部)：外来窓口における内服抗がん剤服用中の患者に対するファーマシューティカルケア：効率的な有効性・安全性確認システムの構築. 日本医療薬学会 (第22回) (新潟), 2012. 10.
- 4) 中川仁美¹⁾, 藤田昌久¹⁾, 三浦義彦¹⁾, 野呂瀬嘉彦¹⁾, 園部一成²⁾, 篠山明宏²⁾, 前原茂子³⁾, 根井貴仁¹⁾, 前田美穂¹⁾ (1) 付属病院 感染制御部, ²⁾ 付属病院 中央検査部, ³⁾ 付属病院 看護部)：患者周囲の環境調査から考える多剤耐性 *Acinetobacter baumannii* の感染対策. 日本環境感染学会総会 (第28回) (横浜), 2013. 3.
- 5) 本城和義¹⁾, 片山志郎²⁾ (1) 日本医科大学健診医療センター, ²⁾ 日本医科大学付属病院薬剤部)：院内製剤注射薬安全性担保のための品質試験の検討. 日本薬学会 (第133年会) (横浜), 2013. 3.
- 6) 輪湖理絵¹⁾, 萩原 研¹⁾, 伊勢雄也¹⁾, 片山志郎¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院薬剤部)：付属病院薬品情報室における医薬品情報の収集と提供について. 日本医科大学医学会総会 (第80回) (東京), 2012. 9.
- 7) 殿塚早百合, 飯田希里香, 加藤七奈, 鶴川百合, 富山弘野, 中村博子, 吉田羽奈, 渡邊友起子, 宮田広樹, 片山志郎：病棟薬剤業務実施加算算定にむけての当院の取り組み. 日本医療薬学会年会 (第22回) (新潟県), 2012. 10.
- 8) 武田弘太郎, 稲葉恵理, 大坂奈央子, 岡田 慧, 伊勢雄也, 片山志郎：調剤室における業務ならびに医療安全対策について. 日本医科大学医学会総会 (第80回) (日本医科大学), 2012. 9.

【付属病院生理機能センター】

研究概要

当センターでは今年度は主に心臓リハビリテーションの分野での研究を行った。当院で心臓リハビリテーションを導入された心筋梗塞患者を対象に、食塩摂取量を随時尿を用いて経時的に算出し、看護師や管理栄養士などと連携し、包括的な食塩摂取管理に取り組んだ。また、虚血性心疾患 (IHD) の危険因子の1つとして慢性腎臓病 (CKD) があり、CKDの早期発見に尿中アルブミンの測定が有用とされており、早朝尿の尿中アルブミンを測定し、アルブミン/クレアチニン比 (UACR) を求め、冠危険因子である高血圧と糖尿病に関係することを明らかにした。さらに呼吸機能障害の心疾患への影響に注目し心疾患において無症候であっても呼吸機能に異常を有する症例が存在し運動適応反応などの心疾患病態と関連することを示唆した。このように我々は患者に対する最善の医療実現のための包括的なりハビリテーションの取り組み、コメディカルとしてだけでなく、メディカルとしても新たな知見の創出に挑戦

している。そして学会発表などを通して医療の質向上に向けた研究実践活動を行い、国内はもとより国際的にも通用する人材育成をめざしている。

研究業績

学会発表

〔追加分〕

追加分一般講演：

- 1) 大野忠明¹⁾, 本間 博¹⁾, 時田祐吉¹⁾, 藤本啓志¹⁾, 佐藤丞子¹⁾, 横島友子¹⁾, 伊藤恵子¹⁾, 水野杏一¹⁾, 松崎つや子¹⁾ (内科学 (循環器・肝臓・老年・総合病態部門))：経胸壁心エコーによる上行大動脈壁硬度の評価-心機能と腎機能との関わり。日本超音波医学会学術集会 (第 84 回) (東京都港区), 2011. 5.

追加分特別講演：

- 1) 黄 俊憲¹⁾, 大野忠明¹⁾, 本間 博¹⁾, 田中貴久¹⁾, 時田祐吉¹⁾, 佐藤丞子¹⁾, 横島友子¹⁾, 伊藤恵子¹⁾, 水野杏一¹⁾, 松崎つや子¹⁾ (内科学 (循環器・肝臓・老年・総合病態部門))：脳梗塞症例における大動脈弁上に観察された索状構造物。日本超音波医学会学術集会 (第 84 回) (東京都港区), 2011. 5.

(1) パネルディスカッション：

- 1) 菅谷寿理, 福間長知¹⁾, 加藤和代¹⁾, 林 寛子¹⁾, 高橋 啓¹⁾, 會田智弘, 加藤政利, 大嶺桂子²⁾, 佐野真己³⁾, 水野杏一¹⁾ (1) 内科学 (循環器・肝臓・老年・総合病態部門), 2) 附属病院看護部, 3) 附属病院栄養課)：心筋梗塞患者に対する多職種による食塩制限。日本心臓病学会学術集会 (第 60 回) (石川県金沢市), 2012. 9.

(2) 一般講演：

- 1) 菅谷寿理, 福間長知¹⁾, 會田智弘, 加藤政利, 齊藤公一, 林 寛子¹⁾, 加藤和代¹⁾, 高橋 啓¹⁾, 水野杏一¹⁾ (1) 内科学 (循環器・肝臓・老年・総合病態部門))：包括的心臓リハビリテーションとしての心筋梗塞後患者に対する減塩指導。日本循環器学会学術集会 (第 77 回) (神奈川県横浜市), 2013. 3.
- 2) 會田智弘, 福間長知¹⁾, 加藤政利, 菅谷寿理, 本間 博¹⁾, 高圓雅博¹⁾, 林 寛子¹⁾, 加藤和代¹⁾, 高橋 啓¹⁾, 水野杏一¹⁾ (1) 内科学 (循環器・肝臓・老年・総合病態部門))：心筋梗塞後患者に対する尿中アルブミン測定の意義。日本循環器学会学術集会 (第 77 回) (神奈川県横浜市), 2013. 3.
- 3) 加藤政利, 福間長知¹⁾, 會田智弘, 菅谷寿理, 齊藤公一, 林 寛子¹⁾, 加藤和代¹⁾, 愛須紀子¹⁾, 高橋 啓¹⁾, 水野杏一¹⁾ (1) 内科学 (循環器・肝臓・老年・総合病態部門))：心疾患における呼吸機能検査指標と VE/VCO₂slope との関連。日本循環器学会学術集会 (第 77 回) (神奈川県横浜市), 2013. 3.
- 4) Kato M, Fukuma N¹⁾, Aida T, Sugaya J, Saitou K, Kouenn M¹⁾, Hayashi H¹⁾, Katoh K¹⁾, Takahashi H¹⁾, Honma H¹⁾, Mizuno K¹⁾ (1) Department of Cardiology)：Alteration of Relationship between Pulmonary Function and VE/VCO₂ Sleep through LV Function in Patients with Heart Disease. 日本循環器学会学術集会 (第 77 回) (神奈川県横浜市), 2013. 3.
- 5) 會田智弘, 福間長知¹⁾, 菅谷寿理, 加藤政利, 齊藤公一, 高圓雅博¹⁾, 林 寛子¹⁾, 加藤和代¹⁾, 愛須紀子¹⁾, 高橋 啓¹⁾, 水野杏一¹⁾ (1) 内科学 (循環器・肝臓・老年・総合病態部門))：心筋梗塞患者における尿中アルブミン異常の頻度と関係性。日本心臓病学会学術集会 (第 60 回) (石川県金沢市), 2012. 9.
- 6) 加藤政利, 福間長知¹⁾, 菅谷寿理, 會田智弘, 高圓雅博¹⁾, 林 寛子¹⁾, 加藤和代¹⁾, 愛須紀子¹⁾, 高橋 啓¹⁾, 本間 博¹⁾, 水野杏一¹⁾ (1) 内科学 (循環器・肝臓・老年・総合病態部門))：心臓リハビリテーションを導入された心疾患患者に対する呼吸機能検査の意義。日本心臓病学会学術集会 (第 60 回) (石川県金沢市), 2012. 9.

[付属病院看護部]

研究概要

看護部では、それぞれの専門看護領域において看護実践に基づいた看護研究を実施した。救急看護領域では「クリティカルな状況下でせん妄を発症した患者の体験とその記憶」、循環器看護領域では「慢性心不全患者への教育支援の改善とその効果」、小児看護領域では「遺伝性疾患を持つ患者・家族に対する小児病棟看護師が抱えるジレンマ」、脳神経外科看護領域では「脳神経外科病棟看護師の“触れるケア”に対する意識調査」、呼吸器看護領域では「エッセンシャルオイルを付加した足浴のリラクゼーション効果の検証」、手術看護領域では「手術室における器械出し業務の新人指導を始めたばかりの看護師が抱く心情」、消化器外科看護領域では「患者の手指衛生行動の実態と影響を与える因子」、耳鼻咽喉科頭頸部外科看護領域では「術直後の失声患者に対するストレスの少ないコミュニケーションツールの検討～ピクトグラムを使用して～」について取り組み、2013年日本医科大学4病院看護研究発表会において報告した。 今後は、院外学会発表や論文作成に取り組む予定である。

研究業績

論文

[追加分]

追加分解説：

- 1) 古山景子：血糖パターンマネジメントにおける療養支援。DM Ensemble 2012；1（3）：46-47.

(1) 原著：

- 1) 桐木（市川）園子¹⁾，古山景子⁽¹⁾ 日本医科大学付属病院再生医療科：感染症の看護とケアのポイント [最終回]：糖尿病患者の下肢の感染予防と 感染発症時の看護。化学療法の領域 2012；28（4）：674-680.

(2) 解説：

- 1) 倉藤晶子，佐野紀代，中村慶春¹⁾，内田英二¹⁾ ⁽¹⁾ 日本医科大学付属病院消化器外科：腹腔鏡手術看護徹底離解！指導 体位固定 機器（ハードウェア）第1回基本的理解。実践安全手術看護 2012；6（4）：75-80.
- 2) 倉藤晶子，佐野紀代，中村慶春¹⁾，内田英二¹⁾ ⁽¹⁾ 日本医科大学付属病院消化器外科：腹腔鏡手術看護徹底離解！指導 体位固定 機器（ハードウェア）第2回腹腔鏡手術における機械出し。実践安全手術看護 2013；6（5）：81-87.
- 3) 倉藤晶子，佐野紀代，中村慶春¹⁾，内田英二¹⁾ ⁽¹⁾ 日本医科大学付属病院消化器外科：腹腔鏡手術看護徹底離解！指導 体位固定 機器（ハードウェア）第3回腹腔鏡手術における外回り看護。実践安全手術看護 2013；6（6）：103-111.
- 4) 背戸陽子：3. 事例で学ぶ緊急度・重症度の判断ポイント。看護技術 2012；58（4）：28-29.
- 5) 原田恭子：法則16 侵襲の大きい手術後は、リフィリングによる脱水を尿量の変化に注意し予防する。ナーシング・トゥデイ 2012；27（3）：40-41.
- 6) 原田恭子：法則17 全身麻酔後は完全覚醒まで頻繁に観察し、深呼吸・咳を積極的に促し、酸素化の低下を予防する。ナーシング・トゥデイ 2012；27（3）：42-43.
- 7) 原田恭子：法則18 高齢者や循環器疾患のある患者は、手術後の不整脈出現を予測し、緊急対応ができるよう準備しておく。ナーシング・トゥデイ 2012；27（3）：44-45.

(3) 研究報告書：

- 1) 清水準一，石川陽子，志自岐康子，習田明裕，勝野とわ子，内藤明子，三輪聖恵：全国移植施設におけるクリニカル移植コーディネーターの配置と看護管理責任者の意向。日本移植・再生医療看護学会誌 2012；7（2）：3-11.

2) 石川陽子, 習田明裕, 清水準一, 内藤明子, 志自岐康子: クリニカル移植コーディネーター看護師 (CTCN) 養成教育プログラムの作成と検討. 日本移植・再生医療看護学会誌 2012; 7 (2): 13-21.

1) 背戸陽子: Expert Report. Emergency Care 2013; 26 (3): 28-29.

(4) 実践報告:

1) 小栗智美: 当院での老人看護専門看護師の活動報告. 日医大医学会誌 2012; 8 (4): 268-269.

2) 西川律子: 精神看護専門看護師の活動. 日医大医学会誌 2012; 8 (3): 228-229.

3) 深田陽子: がん看護専門看護師の活動報告. 日医大医学会誌 2013; 9 (1): 31-32.

著書

1) 内藤明子: [分担] 第7章 看護ケアのマネジメント. ナーシング・グラフィカ基礎看護学① 看護学概論 第4版 (川村佐和子・志自岐康子・松尾ミヨ子), 2013; pp255-272, メディカ出版.

2) 腹子あきこ, 鈴木みどり: [分担] 外来化学療法室看護師の薬剤別工夫. 肺癌化学療法レジメン 実践と工夫 (弦間昭彦), 2012; pp141-159, 中外医学社.

3) 稲村悠佳, 腹子あきこ, 久保田馨¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院化学療法科: [分担] がんの進行による症状悪化. Nursing Mook 74 決して安心できない! 慢性疾患の急性増悪とその対応 (藤田次郎), 2012; pp120-124, 学研メディカル秀潤社.

4) 村上正洋¹⁾, 志村知子 (1) 日本医科大学武蔵小杉病院形成外科: [分担] 顔のきず・その治し方: 新しくできた顔のきずの治療で気をつけること. きれいなきずの治し方 (百東比古・小川令), 2012; pp33-41, 全日本病院出版会.

5) 稲田浩美, 村上正洋¹⁾ (1) 日本医科大学武蔵小杉病院形成外科: [分担] 褥瘡の概念と分類 (褥瘡の治療). きずのきれいな治し方 (百東比古・小川令), 2012; pp59-65, 全日本病院出版会.

6) 稲田浩美, 百東比古¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院形成再生再建医学: [分担] 褥瘡のできやすい部位と予防法 (褥瘡の治療). きずのきれいな治し方 (百東比古・小川令), 2012; pp65-67, 全日本病院出版会.

7) 志村知子, 村上正洋¹⁾ (1) 日本医科大学武蔵小杉病院形成外科: [分担] 褥瘡の全身管理 (褥瘡の治療). きれいなきずの治し方 (百東比古・小川令), 2012; pp78-80, 全日本病院出版会.

8) 稲田浩美: [分担] 瘻孔を伴わない腹部解離創 (第II章慢性創傷 手術に伴う創傷). 創傷のすべて: キズを持つすべての人のために (市岡滋), 2012; pp104-105, 克誠堂出版.

9) 背戸陽子: [分担] 第4章 “場面別” フィジカルアセスメント H. 体位変換・移動前後のアセスメント. 臨床実践フィジカルアセスメント (佐藤憲明), 2012; pp165-167, 南江堂.

10) 背戸陽子: [分担] III 救急外来のトリアージプロセス 4. 状況のマネジメントと連携. 看護師のための院内トリアージテキスト (一般社団法人日本救急看護学会), 2012; pp105-110, へるす出版.

11) 原田恭子: [分担] 不整脈疾患. 心臓血管外科の術前術後管理と補助循環 (道又元裕), 2012; pp92-95, 日経研.

12) 志村知子: [共著] 皮膚創傷の管理. ICU・CCU看護 (早川弘一 高野照夫 高島尚美), 2013; pp327-346, 医学書院.

学会発表

(1) 教育講演:

1) 細萱順一: 集中治療における鎮痛・鎮静の管理. 日本集中治療医学会関東甲信越地方会 (第21回) (前橋), 2012. 8.

(2) シンポジウム:

1) 木下庸佑, 伊与恭子: Door to balloon time 短縮の工夫: 看護師の立場から (コメディカルシンポジウム2). 日本心血管インターベンション治療学会関東甲信越地方会 (第40回) (東京), 2012. 5.

- 2) 稲田浩美：介護職によるスローマ装具交換に関するワーキンググループの検討結果報告. 日本創傷・オストミー・失禁管理学会学術集会（第 21 回）（神戸），2012. 5.
 - 3) 志村知子：WOC の立場から見たクリティカルケア領域における下痢の問題点と対策. 日本創傷・オストミー・失禁管理学会（第 21 回）（神戸），2012. 5.
 - 4) 白川睦美：広範囲重症熱傷患者のチーム医療における看護師の役割（熱傷におけるチーム医療）. 日本熱傷学会関東地方会（第 21 回）（東京），2013. 1.
- (3) パネルディスカッション：
- 1) 原田恭子，鈴木智恵子：Sittan を使った背面開放座位とその適応患者について. 日本看護技術学会（第 11 回）（福岡），2012. 9.
- (4) セミナー：
- 1) 原田恭子：ポジショニングと離床. 日本集中治療医学会（第 40 回）（松本），2013. 2.
 - 2) 志村知子：救急・集中治療領域におけるアドバンストスキンケア-スキントラブル予防は患者の QOL を確実に変える-. 日本救急看護学会学術集会（第 14 回）（東京），2012. 11.
- (5) 一般講演：
- 1) 三橋恭子，内藤明子：私立 A 病院看護師の看護サービスに対する意識調査. 日本看護学会（第 43 回）（京都），2012. 10.
 - 2) 佐々木友子，原田恭子，内藤明子：A 病院における CCU 退室患者の情報共有に関する意識調査. 日本冠疾患学会学術集会（第 26 回）（東京），2012. 12.
 - 3) 西川律子，上田 諭¹⁾（¹⁾ 日本医科大学付属病院精神神経科）：当院におけるせん妄ケアに対する看護師教育の取り組み. 日本総合病院精神医学会総会（第 25 回）（東京都大田区），2012. 11.
 - 4) 西川律子，加藤和代¹⁾，安居葉子，橋澤美穂，福岡長知¹⁾，水野杏一¹⁾（¹⁾ 日本医科大学 循環器内科）：心臓リハビリテーション参加患者へのストレスマネジメントに関する集団教育と個別相談を通してみえた実態と課題. 日本循環器学会学術集会（第 77 回）（神奈川県横浜市），2013. 3.
 - 5) 穂山真理，荒井奈保子¹⁾，下平唯子²⁾（¹⁾ 河北総合病院，²⁾ 東京女子医科大学大学院研究科）：高齢悪性リンパ腫患者が造血幹細胞移植を選択しないことへの覚悟. 日本がん看護学会学術集会（第 26 回）（金沢），2013. 2.
 - 6) 柿沼香里，菊地奈々，中山涼子：摂食・嚥下評価のフローシート導入による脳梗塞患者の食事に関する変化. 日本脳卒中学会総会（第 38 回）（東京），2013. 3.
 - 7) 細萱順一，中村美鈴¹⁾（¹⁾ 自治医科大学大学院看護学研究科クリティカルケア看護学）：食道がん患者の術後疼痛と海峡術後疼痛症候群発症の関連性 第 1 報術後疼痛評価の推移からの示唆. 日本看護科学学会（第 32 回）（東京），2012. 12.
 - 8) 細萱順一，中村美鈴¹⁾（¹⁾ 自治医科大学大学院看護学研究科クリティカルケア看護学）：食道がん患者の術後疼痛と海峡術後疼痛症候群発症の関連性 第 2 報 アセスメントの視点と看護支援の検討. 日本看護科学学会（第 32 回）（東京），2012. 12.
 - 9) 原田恭子，伊予恭子，鈴木智恵子：心臓血管外科手術後患者に対する端座位保持器具（Sittan）の使用効果. 日本冠疾患学会学術集会（第 26 回）（東京），2012. 12.
 - 10) 牛島麻衣，佐藤憲明，榎 由里，白川睦美，橋本恵美：救命救急センターに配属となったキャリアをもつ看護師の職業的アイデンティティに関する影響要因・第 2 報. 日本救急看護学会学術集会（第 14 回）（東京），2012. 11.
 - 11) 志村知子：頸髄損傷患者における医療者の情報提供に伴う体験. 日本クリティカルケア看護学会（第 8 回）（東京），2012. 6.
 - 12) 草谷和代，佐藤憲明，高橋聡子：救命救急センターから一般病床への急な転棟の宣告を受けた患者の心理状態. 日本クリティカルケア看護学会（第 8 回）（東京），2012. 6.

- 13) 白川睦美：3次救命救急センターに搬送される外傷患者の体験する痛みの様相-トータルペインの視点から。日本クリティカルケア看護学会（第8回）（東京），2012. 6.
 - 14) 斉藤徳子，佐藤憲明，田中 茜，上田かおり，吉田真季子，島津美幸：救急外来 Walk in 患者におけるアンダートリアージの要因と今後の課題。日本救急看護学会学術集会（第14回）（東京），2012. 11.
 - 15) 小林美穂，志村知子，勝又美雪，成田清香，西畑 毅，河合清貴，高橋幸憲，鍬形忠光，佐藤憲明：我が国の救急領域における栄養管理に関する調査。日本救急看護学会学術集会（第14回）（東京），2012. 11.
 - 16) 山崎直人：高度救命救急センターにおける終末期医療に関しての看護師の関わり。日本救急医学会関東地方会（第63回）（東京），2013. 2.
 - 17) 高澤直央，佐藤憲明，成田清香，勝又美雪，小林美穂，牛島麻衣，高橋幸憲，河合清貴，鍬形忠光，志村知子：わが国の救急領域における栄養管理に関する調査。日本臨床救急医学会総会（第15回）（熊本），2012. 6.
 - 18) 杉野千秋，檀原三七子¹⁾，守田孝恵¹⁾，山崎秀夫¹⁾（¹⁾ 山口大学大学院医学系研究科保健学系学域）：麻疹に対する看護学生と一般学生の知識と意識調査。日本公衆衛生学会（第71回）（山口），2012. 10.
- (6) 示説：
- 1) 脇田知志¹⁾，山口博樹¹⁾，守屋慶一¹⁾，了徳寺剛¹⁾，安部雅弘¹⁾，平川経晃¹⁾，福永景子¹⁾，近藤麻加¹⁾，玉井隼人¹⁾，中村恭子¹⁾，田村秀人¹⁾，中山一隆¹⁾，檀 和夫¹⁾，長島千恵，穠山真理，その他2名（¹⁾ 日本医科大学 血液内科）：造血幹細胞移植患者におけるノロウイルス感染と血液内科病棟におけるノロウイルス感染管理の重要性。日本造血細胞移植学会総会（第35回）（金沢），2013. 3.
 - 2) 柿沼香里：食事状況の調整から誤嚥性肺炎の予防に至った8事例。日本看護学会成人看護I（第43回）（仙台），2012. 9.
 - 3) 菊地奈々，柿沼香里，中山涼子：摂食・嚥下評価のフローシート導入による看護師の嚥下評価に関する実践の変化。日本脳卒中学会総会（第38回）（東京），2013. 3.
 - 4) 中山涼子，柿沼香里，菊地奈々：摂食・嚥下評価のフローシート導入による看護師の嚥下評価に関する意識の変化。日本脳卒中学会総会（第38回）（東京），2013. 3.

[付属病院放射線科技師室]

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) 上山 毅，山谷裕哉，土井 司，錦 成郎，小倉明夫，川光秀昭，土橋俊男，奥秋知幸，松田 豪（¹⁾ 彩都友絃病院，²⁾ 奈良県立医科大学，³⁾ 大阪大学医学部附属病院，⁴⁾ 天理よろず相談所病院，⁵⁾ 京都市立病院，⁶⁾ 神戸大学医学部附属病院，⁷⁾ 日本医科大学付属病院，⁸⁾ フィリップスエレクトロニクスジャパン，⁹⁾ GEヘルスジェアジャパン）：MR検査の安全管理とMR専門技術者の関連性。日本磁気共鳴医学会雑誌 2012；32（4）：122-131.
- 2) 木藤善浩，今井 広，宮地利明，小倉明夫，町田好男，土井 司，土橋俊男，小林正人，清水幸三（¹⁾ 信州大学医学部附属病院，²⁾ シーメンス・ジャパン株式会社，³⁾ 金沢大学医薬保健研究域保健学系，⁴⁾ 京都市立病院，⁵⁾ 東北大学大学院医学系研究科，⁶⁾ 大阪大学医学部附属病院，⁷⁾ 日本医科大学付属病院，⁸⁾ 長野市民病院，⁹⁾ 奈良県立医科大学附属病院）：アレイコイルを使用した臨床画像のSNR測定におけるROI設定の影響。日本放射線技術学会雑誌 2012；68（9）：1269-1278.
- 3) 小川匡史¹⁾，椿山信吾¹⁾，松本 剛¹⁾，松村善雄¹⁾，土橋俊男¹⁾（¹⁾ 日本医科大学付属病院 放射線科技師室）：Multi-echo spin echo法を使用した心筋 T₂mappingの基礎的検討。日本磁気共鳴医学会雑誌 2013；33（1）：

13-21.

(2) 総説：

- 1) 土橋俊男：3T MRI の吸着事故を防ごう。インナービジョン 2012；27（9）：66-67.
- 2) 土橋俊男：MRI 検査の安全管理・最新事情。映像情報 Medical 2012；増刊号：78-85.
- 3) 土橋俊男：歯科用金属による MRI 画像への影響：金属 artifact の低減、除去方法。日本磁気歯科学会誌 2012；21（1）：1-9.

学会発表

(1) 特別講演：

- 1) 土橋俊男：MRI 検査の安全管理：最新事情。長野 MR 研究会 II（第 33 回），2012. 12.
- 2) 土橋俊男：MRI 検査の安全管理：最新事情。旗の台放射線カンファレンス 2012，2012. 12.
- 3) 土橋俊男：条件付き MRI 対応ペースメーカー患者の MRI 検査時の技術的注意点。条件付き MRI 対応植込み型デバイスセミナー（東京），2013. 3.

(2) 教育講演：

- 1) 土橋俊男：MRI 検査における基礎の再確認。私立医科大学放射線技師会学術講演会（第 17 回），2012. 9.
- 2) 松本 剛：医療機器の安全管理（入門講座 8）。日本放射線技術学会（第 40 回秋季学術大会）（東京都江戸川区タワーホール船堀），2012. 10.

(3) シンポジウム：

- 1) 土橋俊男：安全管理に関して（MR 磁場の影響あれこれ）。日本放射線技術学会，2012. 10.

(4) セミナー：

- 1) 土橋俊男：過去の事例から考える対策・対応（セーフティマネージメントのプラスワン）。東京 MRI 研究会（第 31 回），2012. 7.
- 2) 土橋俊男：こんな時あなたならどうする：臨床で遭遇する事例への対応を考える（第 4 回 MR 医療安全セミナー）。NPO 法人日本磁気共鳴専門技術者認定機構，2012. 12.
- 3) 土橋俊男：MRI 事故を防ぐために（MRI 装置の安全性の再考）。東京都診療放射線技師会（東京），2013. 1.
- 4) 土橋俊男：臨床実習指導 MRI の実習。日本診療放射線技師会（東京），2013. 2.
- 5) 土橋俊男：条件付き MRI 対応ペースメーカー：実際の検査施行について（検査準備および撮影時の注意事項）。東芝磁気共鳴塾（東京），2013. 2.

(5) 一般講演：

- 1) 小川匡史¹⁾，松村善雄¹⁾，土橋俊男¹⁾（¹⁾ 日本医科大学付属病院 放射線科技師室）：Multi-echo spin echo 法を使用した心筋 T₂mapping の基礎的検討。日本放射線技術学会（横浜），2012. 4.
- 2) 吉澤賢史，土橋俊男，原科悟史，吉見 晶，豊福将弘，下川健一，山野 勇，中島宗一郎，有賀大樹，松村善雄，大湾朝仁，その他 11 名：Two-dimensional phase sensitive inversion recovery-T₁ turbo field echo 法による心臓遅延造影 MRI。日本磁気共鳴医学会大会（第 40 回）（京都），2012. 9.

[付属病院 ME 部]

研究業績

著書

- 1) 鈴木健一¹⁾，青景聡之²⁾（¹⁾ 日本医科大学付属病院 ME 部，²⁾ 日本医科大学付属病院 集中治療室）：〔分担〕ECMO・ECLA 原理，効果，機器の操作，導入方法，初期設定。重症集中ケア特集 補助循環の理解とケア

(道又 元裕), 2012; pp82-89, 日総研.

- 2) 鈴木健一¹⁾, 青景聡之²⁾ (1) 付属病院 ME 部, 2) 付属病院 集中治療室): [分担] 特集 補助循環の理解とケア ECMO・ECLA 原理, 効果, 機器の操作, 導入方法, 初期設定. 重症集中ケア (道又元裕), 2012; pp82-89, 日総研.
- 3) 鈴木健一¹⁾, 竹田晋浩¹⁾, 小林克也²⁾ (1) 付属病院 ME 部, 2) 付属病院 麻酔科): [分担] ECMO: 治療成績向上のために. Clinical Engineering (磨田 裕), 2013; pp38-46, 秀潤社.
- 4) 鈴木健一¹⁾, 坂本篤裕²⁾, 金 徹³⁾ (1) 日本医科大学付属病院 ME 部, 2) 日本医科大学付属病院麻酔科, 3) 日本医科大学千葉北総病院): [分担] 麻酔科医と ME の役割. 循環補助装置 The first step 麻酔科医と ME の役割 (坂本篤裕), 2013; 克誠堂出版.
- 5) 鈴木健一: [分担] CCU における臨床工学技士の役割. CCU テキスト, 2013; pp291-296, 文光堂.

学会発表

[追加分]

追加分一般講演:

- 1) 八木 瞳¹⁾, 鈴木健一¹⁾, 小磯那津美¹⁾, 野口隼一¹⁾, 中山拓也¹⁾, 少前貴康¹⁾, 八重田知見¹⁾, 豊富達智¹⁾, 森嶋俊介¹⁾, 橋本美紀¹⁾, 美野輪恵子¹⁾, 白石千草¹⁾, 黄川田弥生¹⁾, 大石沙織¹⁾, 庭山ゆう子¹⁾, その他 2 名 (1) 日本医科大学付属病院 ME 部): EP 業務に携わって学んだこと: 1 年目 CE として. 日本心臓血管インターベンション治療学会 関東甲信越地方会 (第 38 回) (東京都), 2011. 5.

(1) 教育講演:

- 1) 鈴木健一¹⁾, 竹田晋浩¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院 ME 部): 日本医大における ECMO 管理について. 日本体外循環技術医学会中国地方大会 秋季セミナー (鳥取県), 2012. 11.

(2) シンポジウム:

- 1) 鈴木健一¹⁾, 竹田晋浩¹⁾, 松田範子¹⁾, 庭山ゆう子¹⁾, 大石沙織¹⁾, 黄川田弥生¹⁾, 白石千草¹⁾, 美野輪恵子¹⁾, 橋本美紀¹⁾, 森嶋俊介¹⁾, 豊富達智¹⁾, 八重田知見¹⁾, 少前貴康¹⁾, et al. (1) 日本医科大学付属病院 ME 部): How to upgrade the results of ECMO treatment in japan. 日本呼吸療法医学会 (第 34 回) (沖縄県那覇市), 2012. 7.
- 2) 鈴木健一¹⁾, 竹田晋浩¹⁾, 松田範子¹⁾, 庭山ゆう子¹⁾, 大石沙織¹⁾, 黄川田弥生¹⁾, 白石千草¹⁾, 美野輪恵子¹⁾, 橋本美紀¹⁾, 森嶋俊介¹⁾, 豊富達智¹⁾, 八重田知見¹⁾, 少前貴康¹⁾, その他 8 名 (1) 日本医科大学付属病院 ME 部): Door to Balloon time 短縮の工夫. 日本心臓血管インターベンション治療学会 関東甲信越地方会 (第 42 回) (東京), 2012. 5.
- 3) 鈴木健一¹⁾, 竹田晋浩¹⁾: 当院における ECMO システム. 日本集中治療医学会 (第 40 回) (松本市), 2013. 2.

(3) セミナー:

- 1) 鈴木健一¹⁾, 竹田晋浩¹⁾: 当院における ECMO 管理. 兵庫県臨床工学技士会 呼吸セミナー (第 24 回) (兵庫県), 2013. 2.
- 2) 庭山ゆう子¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院 ME 部): 人工呼吸器のモードとモニタリング. ナースのための人工呼吸器セミナー (アドバンス) (東京都中野区), 2012. 11.
- 3) 庭山ゆう子¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院 ME 部): ハイフローセラピー中の加温加湿. 公開セミナー ハイフローセラピー 呼吸管理最前線 (東京都千代田区), 2012. 12.

(4) 一般講演:

- 1) 中山拓也¹⁾, 佐々木拓也¹⁾, 志村亜由香¹⁾, 豊富達智¹⁾, 橋本美紀¹⁾, 松田範子¹⁾, 庭山ゆう子¹⁾, 鈴木健一¹⁾, 竹田晋浩¹⁾, 木山輝郎²⁾, 内田英二²⁾, 横田裕行³⁾, その他 12 名 (1) 日本医科大学付属病院 ME 部, 2) 同外科, 3)

- 高度救急救命センター)：急性CO中毒におけるHBOの有効治療期間の検討。東京都臨床工学会(第20回)(東京都)，2012. 6.
- 2) 松田範子¹⁾，豊富達智¹⁾，中山拓也¹⁾，志村亜由香¹⁾，佐々木拓也¹⁾，鈴木健一¹⁾，木山輝郎²⁾，内田英二²⁾，宮本正章³⁾，徳永 昭⁴⁾，竹田晋浩^{5,1)} (1) 日本医科大学付属病院 ME部，2) 日本医科大学外科，3) 日本医科大学内科・再生医療科，4) 日本医科大学武蔵小杉病院消化器病センター，5) 日本医科大学集中治療室)：日本医科大学における高気圧酸素治療の現状。日本高気圧環境・潜水医学会関東地方会総会(12)(東京)，2012. 6.
- 3) 松田範子¹⁾，宮本正章³⁾，豊富達智¹⁾，中山拓也¹⁾，志村亜由香¹⁾，佐々木拓也¹⁾，鈴木健一¹⁾，木山輝郎²⁾，内田英二²⁾，桐木園子³⁾，高木 元³⁾，飯村剛史⁴⁾，小川 令⁴⁾，竹田晋浩^{5,1)}，徳永 昭⁶⁾ (1) 日本医科大学付属病院ME部，2) 日本医科大学 外科，3) 日本医科大学 内科・再生医療科，4) 日本医科大学 啓せ外科・美容外科，5) 日本医科大学 集中治療室，6) 日本医科大学武蔵小杉病院消化器病センター)：高気圧酸素療法と血管再生医療・局所陰圧閉鎖療法併用による難治性下腿潰瘍・足壊疽症例の創傷治癒促進効果。日本高気圧環境・潜水医学会学術総会(47)(札幌市)，2012. 11.
- 4) 松田範子¹⁾，豊富達智¹⁾，中山拓也¹⁾，志村亜由香¹⁾，佐々木拓也¹⁾，鈴木健一¹⁾，木山輝郎²⁾，内田英二²⁾，桐木園子³⁾，高木 元³⁾，宮本正章³⁾，竹田晋浩^{4,1)}，徳永 昭⁵⁾ (1) 日本医科大学付属病院 ME部，2) 日本医科大学外科，3) 日本医科大学 内科・再生医療科，4) 日本医科大学 集中治療室，5) 日本医科大学武蔵小杉病院消化器病センター)：高気圧酸素療法と再生医療の併用による難治性潰瘍・壊死の創傷治癒促進効果。日本高気圧環境・潜水医学会北海道地方会(6)(札幌市)，2012. 7.
- 5) 橋本美紀，庭山ゆう子，鈴木健一，竹田晋浩：急性僧房弁閉鎖不全症術後の集中治療に携わった1症例。日本集中治療医学会学術集会(第40回)(長野県松本市)，2013. 2.
- 6) 美野輪恵子，鈴木健一，大石沙織，野口隼一：ME機器の適性台数を検討して。日本手術医学会総会(第34回)(東京都江東区)，2012. 10.
- 7) 庭山ゆう子¹⁾，森嶋俊介¹⁾，鈴木健一¹⁾，竹田晋浩²⁾，坂本篤裕¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院 ME部，2) 日本医科大学付属病院 集中治療室)：NPPVにおける加温加湿についての検討。日本呼吸療法医学会学術総会(第34回)(沖縄県宜野湾市)，2012. 7.
- 8) 白石千草¹⁾，鈴木健一¹⁾，宮地秀樹²⁾，竹田晋浩¹⁾ (1) ME部，2) 集中治療室)：SATを発症した患者に対し，臨床工学技士として関わった1症例。日本心血管インターベンション治療学会 関東甲信越地方会(第41回)(東京都)，2012. 5.

[ワクチン療法研究施設]

研究概要

当研究施設は，1972年(昭和47)に開設され，故丸山千里名誉教授が開発した人型結核菌体抽出物質(SSM：いわゆる丸山ワクチン)による悪性腫瘍の免疫療法を中心に研究を行っている。SSMの治験登録患者数は，2012年12月31日現在，3935592例を数え，依然として多数の新規患者の紹介を受けている。これらの患者のほとんどが学外からの紹介患者であることと，その大半が進行期癌・終末期癌であることは，SSMが治験薬として供給されているにも拘らず，その使用実態は治療薬であることの反映といえる。これらの点を考慮し，SSMの投与方法は画一に限定せず，主治医からの経過報告を基に患者ごとに個別に検討する体制をとっている。これらの研究の結果，基本投与方法のSSM-A・SSM-B交互隔日投与からA単独隔日・B単独隔日・AB交互連日投与等に変更することで，化学療法・放射線療法等の副作用，特に白血球数減少の軽減とともに，一般状態(QOL：Quality of Life)が改善される症例のあること等が判明しつつある。SSM使用患者は大半が進行期・終末期癌であるにも拘らず，良好な一般状態を維持しつつ，当初の予想を超えた長期延命の報告がみられることは，SSMが癌治療において全身療法として重責を果たしている結果といえる。現在，SSMの使用状況・成績についての検討とともに，SSMの本来の使用目的といえるBRM

(Biological Response Modifiers) としての作用および癌免疫療法としての作用について、特に進行期癌における QOL 向上と延命効果の立場からの検討、SSM と既存の治療法との併用時における効果的な投与方法の検討、長期生存者については背景要因の解析、延命効果におよぼす要因の影響の検討を行っている。また、SSM の投与経路ならびに癌予防への応用についても検討を重ねている。

研究業績

学会発表

(1) 招待講演：

- 1) 飯田和美：丸山ワクチン その現状と作用機序について。先端医療福祉開発研究会定例会（第 100 回）（東京），2012. 11.

[付属病院東洋医学科]

研究概要

東洋医学の原点である「黄帝内経」を読み解いた結果、「体表面に存在し邪気の制御」を担う「衛気」則ち「defense-qi」が「自然免疫」、また「血管周囲に存在し体内に必要な栄養物質の選別」を担う「營気」則ち「nutritional-qi」が「獲得免疫」を示すことが明らかとなったため、その内容を発表した（日本東洋医学会雑誌，64（1）：1-9，2013）。また、これら体内免疫システムを統御する「樹状細胞群（DC）」が体内異物を保持するタイプ（33D1 型）と異物を排除するタイプ（DEC-205 型）に大別されることを示し、妊娠維持には 33D1 型がプロゲステロンの影響を受けて活性化されることを解明した（*Immunobiology*, 217（10）：951-961，2012）。また、皮膚や粘膜などの体表面に局在する亜群である「ランゲルハンス細胞（LC）」を末梢血単核球から誘導するために E-cadherin が必須であることを見いだすとともに、LC と DC の機能的な差異を明らかにし（*Eur J Immunol* , 43（1）：270-280，2013），今後の LC 研究の礎とした。今後は、これらの樹状細胞群を用い、生薬の主成分である柴胡や人參、甘草などのサポニン群、あるいは薄荷などの精油群が LC や DC に及ぼす影響を検討し、漢方薬が免疫システムの根幹に及ぼす影響を分子レベルで明らかにする予定である。また、生薬植物群抽出物質が樹状細胞群のみならず、脂質抗原応答性を有する NKT 細胞や $\gamma\delta$ 型 T 細胞などの自然免疫担当細胞群に与える影響を検討するため、植物系細菌群に属すると推測され、ミコール酸やリポアラビノマンナンなどの脂質抗原に富む結核菌に着目し、ヒト型結核菌抽出物質である「丸山ワクチン」の粘膜自然免疫系への活性化能も合わせ検討し、生薬抽出物質群が粘膜自然免疫に及ぼす影響を明らかにするための布石とする。

研究業績

論文

[追加分]

追加分総説：

- 1) 平馬直樹，秋葉哲生¹⁾（¹⁾ あきば伝統医学クリニック）：江戸の医案を読む 第 18 回 下津春抱『本邦名医類案』よりその 2. 漢方と診療 2012；3（1）：66-72.

追加分原著：

- 1) 高久 俊，高久千鶴乃，栗林秀樹¹⁾，大藪英一¹⁾，平馬直樹，高橋秀実（¹⁾ 越谷大袋クリニック）：透析患者における上腹部の消化器症状に対して平胃散が著効した 4 例. 日本東洋医学雑誌 2011；62（4）：584-588.

(1) 原著：

- 1) Kobayashi T¹⁾，Nakatsuka K¹⁾，Shimizu M²⁾，Tamura H¹⁾，Shinya E¹⁾，Atsukawa M²⁾，Harimoto H²⁾，

- Takahashi H, Sakamoto C²⁾ (1) 3rd Department of Internal Medicine, Nippon Medical School, (2) Department of Microbiology and Immunology, Nippon Medical School) : Ribavirin modulates the conversion of human CD4 (+) CD25 (-) T cell to CD4 (+) CD25 (+) FOXP3 (+) T cell via suppressing interleukin-10-producing regulatory T cell. *Immunology* 2012 ; 137 (3) : 259-270.
- 2) Atsukwa M¹⁾, Nakatsuka K¹⁾, Kobayashi T¹⁾, Shimizu M²⁾, Tamura H¹⁾, Harimoto H¹⁾, Takahashi H, Sakamoto C¹⁾ (1) 3rd Department of Internal Medicine, Nippon Medical School, (2) Department of Microbiology and Immunology, Nippon Medical School) : Ribavirin downmodulates inducible costimulator on CD4+ T cells and their interleukin-10 secretion to assist in hepatitis C virus clearance. *J Gastroenterol Hepatol* 2012 ; 27 (4) : 823-831.
- 3) Inagaki S¹⁾, Takahashi M¹⁾, Fukunaga Y²⁾, Takahashi H (1) Department of Microbiology and Immunology, Nippon Medical School, (2) Department of Pediatrics, Nippon Medical School) : HTLV-I-infected breast milk macrophages inhibit monocyte differentiation to dendritic cells. *Viral Immunol* 2012 ; 25 (2) : 106-116.
- 4) Negishi Y¹⁾, Wakabayashi A¹⁾, Shimizu M¹⁾, Ichikawa T¹⁾, Kumagai Y¹⁾, Takeshita T²⁾, Takahashi H (1) Department of Microbiology and Immunology, Nippon Medical School, (2) Department of Obstetrics and Gynecology, Nippon Medical School) : Disruption of maternal immune balance maintained by innate DC subsets results in spontaneous pregnancy loss in mice. *Immunobiology* 2012 ; 217 (10) : 951-961.
- 5) Nakagawa Y¹⁾, Shimizu M¹⁾, Norose Y¹⁾, Takahashi M¹⁾, Takahashi H (1) Department of Microbiology and Immunology, Nippon Medical School) : Induction of rapid apoptosis for class I MHC molecule-restricted CD8+ HIV-1 gp160-specific murine activated CTLs by free antigenic peptide in vivo. *Int Immunol* 2013 ; 25 (1) : 11-24.
- 6) Mayumi N¹⁾, Watanabe E¹⁾, Norose Y¹⁾, Watari E¹⁾, Kawana S²⁾, Geijtenbeek T³⁾, Takahashi H (1) Department of Microbiology and Immunology, Nippon Medical School, (2) Department of Dermatology, Nippon Medical School, (3) Department of Experimental Immunology, Academic Medical Center, University of Amsterdam) : E-cadherin interactions are required for Langerhans cell differentiation. *Eur J Immunol* 2013 ; 43 (1) : 270-280.
- 7) 新谷英滋¹⁾, 高橋秀実 (1) 日本医科大学微生物学免疫学) : ヒト免疫不全ウイルス HIV-1 の Nef による樹状細胞 CD1 脂質抗原提示機能の低下. *臨床免疫・アレルギー科* 2012 ; 57 (2) : 269-274.
- 8) Takaku S, Nakagawa T¹⁾, Owaki A¹⁾, Shimizu M¹⁾, Takahashi M¹⁾, Takahashi H (1) Department of Microbiology and Immunology, Nippon Medical School) : Induction of apoptosis-resistant and TGF-*b*-insensitive murine + CTLs specific for HIV-1 gp160. *Cell Immunol* 2013 ; 280 (2) : 138-147.
- 9) Takahashi H, Mayumi N¹⁾, Watanabe E¹⁾ (1) Department of Microbiology and Immunology, Nippon Medical School) : Requirement of E-cadherin interactions for Langerhans cell differentiation. *J Nippon Med Sch* 2013 ; 80 (2).
- 10) Tamura H¹⁾, Ishibashi M¹⁾, Yamashita T¹⁾, Tanosaki S²⁾, Okuyama N¹⁾, Kondo A¹⁾, Hyodo H¹⁾, Shinya E³⁾, Takahashi H³⁾, Dong H⁴⁾, Tamada K⁵⁾, Chen L⁶⁾, Dan K¹⁾, Ogata K¹⁾ (1) 3rd Department of Internal Medicine, Division of Hematology, Nippon Medical School, (2) Division of Hematology, Fraternity Memorial Hospital, (3) Department of Microbiology and Immunology, Nippon Medical School, (4) Department of Immunology and Urology, College of Medicine, Mayo Clinic, Rochester, (5) Department of Otorhinolaryngology-Head and Neck Surgery, Marlene and Stewart Greenebaum Cancer Center, University of Maryland, (6) Department of Immunobiology, Yale School of Medicine) : Marrow stromal cells induce B7-H1 expression on myeloma cells, generating aggressive characteristics in multiple myeloma. *Leukemia* 2013 ; 27 (2) : 464-472.

(2) 総説：

- 1) 村上 努¹⁾, 高橋秀実⁽¹⁾ 国立感染症研究所, エイズ研究センター) : HIV と闘う宿主防御因子. 日本エイズ学会誌 2012 ; 14 (2) : 1-3.
- 2) 高橋秀実 : 第 25 回日本エイズ学会シンポジウム記録 : エイズウイルスの侵入・棲息部位である粘膜組織におけるウイルス制御法を探る. 日本エイズ学会誌 2012 ; 14 (2) : 11-14.
- 3) 高橋秀実 : HIV 感染制御における新たな標的としての自然免疫. 日本エイズ学会誌 2012 ; 14 (2) : 15-19.
- 4) 高橋秀実 : ビロリ菌と自己免疫. 臨床免疫・アレルギー科 2012 ; 58 (3) : 355-360.
- 5) 高橋秀実 : HIV ワクチン開発のための新たな指標. セフィーロ 2012 ; 5 : 1-8.
- 6) 高橋秀実 : Cross-presentaion. 炎症と免疫 2012 ; 20 (6) : 638-641.
- 7) 高橋秀実 : 丸山ワクチンの新展開. 遙か 2013 ; 8 (1) : 39-43.
- 8) 高橋秀実 : 免疫と漢方 : 黄帝内経に啓示された古代人の智慧. 日本東洋医学会雑誌 2013 ; 64 (1) : 1-9.
- 9) 平馬直樹 : 基礎理論と方剤を結ぶ入門講座④脾と胃の病証と治療. 日本中医学学会雑誌 2012 ; 12 (2) : 20-28.
- 10) 平馬直樹, 秋葉哲生¹⁾ (⁽¹⁾ あきば伝統医学クリニック) : 江戸の医案を読む 第 19 回 曲直瀬道三『出証配剤』より. 漢方と診療 2012 ; 3 (2) : 64-71.
- 11) 平馬直樹 : 基礎理論と方剤を結ぶ入門講座⑤肺 (大腸) の病証と治療. 日本中医学学会雑誌 2012 ; 12 (3) : 22-29.
- 12) 平馬直樹, 秋葉哲生¹⁾ (⁽¹⁾ あきば伝統医学クリニック) : 江戸の医案を読む 第 20 回 岡本玄治『玄治得効配剤』より. 漢方と診療 2012 ; 3 (3) : 58-65.
- 13) 平馬直樹 : 基礎理論と方剤を結ぶ入門講座⑥肝 (胆) の病証と治療. 日本中医学学会雑誌 2012 ; 12 (4) : 26-33.
- 14) 藤田 勇 : 地方鍼灸師が鍼灸界に思うこと 前篇. 医道の日本 2012 ; 71 (6) : 108-116.
- 15) 藤田 勇 : 地方鍼灸師が鍼灸界に思うこと 後篇. 医道の日本 2012 ; 71 (7) : 192-195.

著 書

- 1) 高橋秀実 : [分担] 17 章「免疫応答不全」. 微生物学, 2012 ; pp343-364, メディカル・サイエンス・インターナショナル社.

学会発表

[追加分]

追加分一般講演：

- 1) 平馬直樹 : 日本中医学会の設立と展望. 阪神蒲公英会 (兵庫), 2012. 1.

追加分教育講演：

- 1) 平馬直樹 : 中医基本処方解説その 9. 仙台中医学研究会 (宮城), 2012. 1.
- 2) 菅沼 栄 : 嘔吐・嘔・下痢病の脈・証・治 3. 東京中医学研究会 (東京), 2012. 1.
- 3) 菅沼 栄 : 嘔吐・嘔・下痢病の脈・証・治 4. 東京中医学研究会 (東京), 2012. 2.
- 4) 菅沼 栄 : 嘔吐・嘔・下痢病の脈・証・治 5. 東京中医学研究会 (東京), 2012. 3.

追加分招待講演：

- 1) 菅沼 栄 : 花粉症の弁証論治. 中国北京中医薬大学日本分校創立 20 周年記念講演 (東京), 2012. 3.

追加分特別講演：

- 1) 平馬直樹 : 日本在経方臨床応用. 2012 年中医薬学術検討会 (台北), 2012. 3.
- 2) 高橋秀実 : 免疫学の進歩が解き明かす丸山ワクチンの作用機序. 平成 24 年度日本医科大学同窓会 (東京), 2012. 1.
- 3) 高橋秀実 : 日常診療での東洋医学の有用性. 足利漢方学術講演会 (栃木), 2012. 2.

4) 高橋秀実：感染症と漢方. 愛宕漢方医学研究会（第12回）（東京），2012. 3.

(1) 特別講演：

- 1) 高橋秀実：丸山ワクチンによる自然免疫の活性化. 第10回NPO「丸山ワクチンとがんを考える会」（東京），2012. 5.
- 2) 高橋秀実：発汗解表法によるアレルギー治療. KAMPO Medical Conference（東京），2012. 7.
- 3) 高橋秀実：妊娠出産と免疫：新たながん免疫への視点. 平成24年度北区医師会夏の免疫・アレルギーセミナー（東京），2012. 8.
- 4) 平馬直樹：「漢方と中医学」. KAMPO Medical Conference（東京），2012. 9.
- 5) 高橋秀実：免疫制御医学としての東洋医学. 平成24年度兵庫医科大学・夏の漢方医学セミナー（兵庫），2012. 9.
- 6) 高橋秀実：免疫制御医学としての東洋医学. KAMPO Medical Conference（東京），2012. 10.
- 7) 平馬直樹：弁証論治のすすめ方. KAMPO Medical Conference（東京），2012. 12.
- 8) 津田篤太郎¹⁾（¹⁾ JR 東京総合病院 リウマチ・膠原病科）：漢方のコスモロジー：科学史・科学哲学から見た東洋医学. KAMPO Medical Conference（東京），2013. 1.
- 9) 高久千鶴乃：「心に残る症例：不妊症の漢方治療から」. KAMPO Medical Conference（東京），2013. 3.

(2) 教育講演：

- 1) 平馬直樹：中医基本処方解説その10. 仙台中医学研究会（宮城），2012. 4.
- 2) 菅沼 栄：瘡癰・腸癰・浸淫病の脈・証・治1. 東京中医学研究会（東京），2012. 4.
- 3) 平馬直樹：中医基本処方解説その14. 神奈川実践漢方勉強会（第39回）（横浜），2012. 5.
- 4) 菅沼 栄：跌蹶・手指臂腫・転筋・陰孤疝・；虫病. 東京中医学研究会（東京），2012. 5.
- 5) 平馬直樹：中医基本処方解説その11. 仙台中医学研究会（宮城），2012. 7.
- 6) 菅沼 栄：婦人の妊娠病の脈・証・治1. 東京中医学研究会（東京），2012. 9.
- 7) 平馬直樹：中医基本処方解説その12. 仙台中医学研究会（宮城），2012. 10.
- 8) 平馬直樹：中医基本処方解説その15. 神奈川実践漢方勉強会（第40回）（横浜），2012. 10.
- 9) 菅沼 栄：婦人の妊娠病の脈・証・治2. 東京中医学研究会（東京），2012. 10.
- 10) 菅沼 栄：婦人の産後病の脈・証・治. 東京中医学研究会（東京），2012. 11.
- 11) 平馬直樹：中医基本処方解説その15. 神奈川実践漢方勉強会（第41回）（横浜），2013. 2.

(3) シンポジウム：

- 1) 高橋秀実：自然免疫と獲得免疫. 和漢医薬学会学術大会（第29回）（東京），2012. 9.
- 2) 高橋秀実：自己免疫性肝炎，SLEに合併した血小板減少性紫斑病に奏功した温病をベースとした東洋医学的治療. 和漢医薬学会学術大会（第29回）（東京），2012. 9.

(4) ワークショップ：

- 1) 高久千鶴乃，平馬直樹，高橋秀実：多様化する難病治療と漢方の位置付けー完全型ベーチェット病の症例を通じて. 日本東洋医学会学術総会（第63回）（京都），2012. 6.
- 2) 小林史子¹⁾，渡邊恵理²⁾，高橋秀実（¹⁾ 日本医科大学小児科，²⁾ 日本医科大学微生物学免役学）：ピロリ菌ウレアーゼ刺激によるマウスB-1a細胞のTLR2シグナルを介した自己抗体産生. 日本ヘリコバクター学会学術集会（第18回）（岡山），2012. 6.

(5) 一般講演：

- 1) 高久 俊，大藪英一¹⁾，栗林秀樹¹⁾，高久千鶴乃，廣田 薫，近江恭子，小野顕人，平馬直樹，高橋秀実（¹⁾ 越谷大袋クリニック）：透析患者における重症高血圧症に対し漢方薬が著効した2例. 日本東洋医学会学術総会（第63回）（京都），2012. 6.

- 2) 廣田 薫, 近江恭子, 小野顕人, 高久千鶴乃, 高久 俊, 平馬直樹, 高橋秀実: 難治性嘔吐症に対し漢方薬が奏功した1例. 日本東洋医学会学術総会 (第63回) (京都), 2012. 6.
- 3) 近江恭子, 小野顕人, 廣田 薫, 高久 俊, 高久千鶴乃, 平馬直樹, 高橋秀実: 胃食道逆流症に対し呉茱萸湯が著効した1例. 日本東洋医学会学術総会 (第63回) (京都), 2012. 6.
- 4) 小野顕人, 近江恭子, 廣田 薫, 高久千鶴乃, 高久 俊, 平馬直樹, 高橋秀実: 漢方薬にて老人性皮膚掻痒症が改善した1例. 日本東洋医学会学術総会 (第63回) (京都), 2012. 6.
- 5) 福岡豊永, 藤田 勇, 高久千鶴乃, 高久 俊, 廣田 薫, 平馬直樹, 高橋秀実: 陰陽太極鍼が著効した小児サルコイドーシスの1例. 日本東洋医学会学術総会 (第63回) (京都), 2012. 6.
- 6) 福岡豊永, 高久 俊, 平馬直樹, 高橋秀実: がんの在宅医療における鍼灸治療の役割. 日本中医学会総会 (第3回) (東京), 2012. 9.
- 7) 高橋めぐみ¹⁾, 渡理英二²⁾, 高橋秀実 (1) 日本医科大学微生物学免疫学): 麻疹ウイルス持続感染細胞におけるミトコンドリア機能の解析. 日本ウイルス学会学術集会 (第60回) (大阪), 2012. 11.
- 8) Takahashi H, Kobayashi F¹⁾, Koike E¹⁾, Yamanishi S²⁾, Norose Y¹⁾, Nakagawa Y¹⁾ (1) Department of Microbiology and Immunology, Nippon Medical School, 2) Department of Pediatrics, Nippon Medical School): Auto-antibody production by murine B-1a cells stimulated with *Helicobacter pylori* urease through TLR2 signaling. 日本免疫学会学術集会 (第41回) (神戸), 2012. 12.
- 9) Wakabayashi A¹⁾, Nakagawa Y¹⁾, Shimizu M¹⁾, Takahashi H (1) Department of Microbiology and Immunology, Nippon Medical School): CD8⁺, CD103⁺ dendritic cells in the mesenteric lymph-nodes cross-present exogenous antigens captured through DEC-205 receptor when they are orally administered with cholera toxin. 日本免疫学会学術集会 (第41回) (神戸), 2012. 12.
- 10) Shinya E¹⁾, Owaki A¹⁾, Shimizu M¹⁾, Matsumura J¹⁾, Takahashi H (1) Department of Microbiology and Immunology, Nippon Medical School): HIV-1 Nef interferes with CD1a Ag presentation in immature dendritic cells: possible involvement of hematopoietic cell kinase (HCK). 日本免疫学会学術集会 (第41回) (神戸), 2012. 12.
- 11) Takaku S, Nakagawa Y¹⁾, Owaki A¹⁾, Shimizu M¹⁾, Takahashi M¹⁾, Takahashi H (1) Department of Microbiology and Immunology, Nippon Medical School): Induction of apoptosis-resistant and TGF- β -insensitive murine CD8⁺ CTLs specific for HIV-1 gp160. 日本免疫学会学術集会 (第41回) (神戸), 2012. 12.
- 12) Kumagai Y¹⁾, Takahashi H (1) Department of Microbiology and Immunology, Nippon Medical School): Epitope-grafted and antigenized antibodies can be used for versatile vaccination strategies to induce epitope-specific immune responses. 日本免疫学会学術集会 (第41回) (神戸), 2012. 12.
- 13) Negishi Y¹⁾, Wakabayashi A¹⁾, Shimizu M¹⁾, Ichikawa T¹⁾, Takeshita T²⁾, Takahashi H (1) Department of Microbiology and Immunology, Nippon Medical School, 2) Department of Obstetrics and Gynecology, Nippon Medical School): Maternal immune balance maintained by innate DC subsets appears to regulate pregnancy in mice. 日本免疫学会学術集会 (第41回) (神戸), 2012. 12.
- 14) 平馬直樹: 日本中医学会の設立と展望. 福岡医師漢方研究会 (福岡), 2012. 4.
- 15) 郷家明子: 鍼灸入門: 経絡治療の実際 (1). KAMPO Medical Conference (東京), 2012. 7.
- 16) 郷家明子: 鍼灸入門: 経絡治療の実際 (2). KAMPO Medical Conference (東京), 2012. 9.
- 17) 廣田 薫: ジストニアに対する東洋医学的アプローチ. KAMPO Medical Conference (東京), 2012. 9.
- 18) 郷家明子: 鍼灸入門: 経絡治療の実際 (3). KAMPO Medical Conference (東京), 2012. 10.
- 19) 郷家明子: 鍼灸入門: 経絡治療の実際 (4). KAMPO Medical Conference (東京), 2012. 11.
- 20) 小野顕人: 漢方治療にて下肢痛が改善した1例. KAMPO Medical Conference (東京), 2012. 11.
- 21) 郷家明子: 鍼灸入門: 経絡治療の実際 (5). KAMPO Medical Conference (東京), 2012. 12.

- 22) 高久 俊：血液透析患者における漢方治療の実際. KAMPO Medical Conference (東京), 2012. 12.
- 23) 郷家明子：鍼灸入門：経絡治療の実際 (6). KAMPO Medical Conference (東京), 2013. 1.
- 24) 郷家明子：鍼灸入門：経絡治療の実際 (7). KAMPO Medical Conference (東京), 2013. 2.
- 25) 小野顕人：漢方治療にて気管支喘息が改善した1例. KAMPO Medical Conference (東京), 2013. 2.
- 26) 郷家明子：鍼灸入門：経絡治療の実際 (4). KAMPO Medical Conference (東京), 2013. 3.

[ゲノム先端医療部]

研究概要

ヒト遺伝子研究の成果は、遺伝子検査の対象が従来の単一遺伝子病から薬物感受性や疾患易罹性へと幅が広がってきている。遺伝情報を個の医療に活用する、個人の疾患の早期診断さらに予防への応用、すなわちオーダーメイド医療（個別化医療）が現実のものになりつつある。今後、日常診療の場でオーダーメイド医療のための遺伝子情報を用いる機会が増えることが予想され、そのための病院内での体制作りが急がれる。日本医科大学付属病院では法人の全面的支援を受けて全国の医科大学に先駆け、平成20年4月にオーダーメイド遺伝子医療を実現するための「ゲノム先端医療部」を開設した。我々の部署では近年著しく増加してきた臨床の有用性が実証されつつある遺伝子情報を、倫理的課題にも配慮し医療現場に還元することを目的としている。イリノテカンの副作用に関連するUGT1A1遺伝子をはじめとして、2009年に同定された、インターフェロンの感受性に関わるIL28B遺伝子多型解析を、先進医療に向けて肝臓内科・消化器内科とともに開始した。さらに、「個人の遺伝情報に応じた医療の実現プロジェクト」の成果であるカルバマゼピン、ワルファリン関連の遺伝子多型検査を多施設前向き研究も武蔵小杉病院から開始した。さらなる検査項目の増加を目指し検討を進めている。これらのオーダーメイド医療が臨床の場で実現されていくには、倫理的・法的・社会的問題（Ethical, Legal and Social Issues）への対応を同時に検討することが求められる。オーダーメイド医療に関連する産学連携体制も付属病院中央検査部と連携し継続して進めている。さらに、個別化医療である遺伝子多型検査を、臨床検査の一部とする取り組みも進めている。ゲノム先端医療部は、これらの進歩に迅速に対応し、日本における先端医療の臨床応用への橋渡しを推進していく部署として発展していきたい。

研究業績

論文

(1) 総説：

- 1) 渡邊 淳¹⁾, 佐々木元子¹⁾, 島田 隆¹⁾ (1) 生化学・分子生物学, ²⁾ 付属病院 遺伝診療科)：薬物代謝酵素の遺伝学的検査. メディカルテクノロジー (臨時増刊今日から役立つ 遺伝子検査実践マニュアル) 2012; 40 (13)：1621-1625.
- 2) 渡邊 淳, 島田 隆：UGT1A1 遺伝子多型検査の意義と実際. 日本臨牀 (乳がん第2版 ー基礎と臨床の最新研究動向) 2012; 70 (増刊7)：475-479.
- 3) 渡邊 淳¹⁾, 本間 博²⁾, 島田 隆¹⁾ (1) 生化学・分子生物学, ²⁾ 付属病院 中央検査部)：Home brew. がん分子標的治療 2012; 10 (4)：40-45.
- 4) 渡辺 淳¹⁾ (1) 付属病院 遺伝診療科)：遺伝学的検査の諸問題 (ファーマコジェネティクスを含む). 日本遺伝カウンセリング学会誌 2012; 33 (3)：147-150.

著書

- 1) 渡邊 淳^{1,2)} (1) 生化学・分子生物学 (分子遺伝学), ²⁾ 付属病院 遺伝診療科)：[分担] 遺伝子検査のとおりには病気が発症するか. 【新版】医療倫理 (関東医学哲学・倫理学会), 2013; pp188-193, 太陽出版.
- 2) 渡邊 淳^{1,2)} (1) 生化学・分子生物学 (分子遺伝学), ²⁾ 付属病院 遺伝診療科)：[分担] 個人の体質に合った

オーダーメイド医療は可能か. 【新版】医療倫理 (関東医学哲学・倫理学会), 2013; pp188-193, 太陽出版.

学会発表

〔追加分〕

追加分特別講演:

- 1) 渡邊 淳^{1,2)} (1) 付属病院 遺伝診療科, 2) 生化学・分子生物学): がん診療・研究における遺伝学の役割 遺伝情報を医療現場で適切に扱うには今, 臨床の現場で起こりつつあること. 国立がん研究センター東病院 (千葉), 2012. 3.

(1) 特別講演:

- 1) 渡邊 淳¹⁾ (1) 付属病院 遺伝診療科, 2) 生化学・分子生物学): がん個別化治療に向けた 臨床遺伝学の役割: 遺伝情報を医療現場で適切に扱うには今, 臨床の現場で起こりつつあること. 【BREAC 試験】研究会 (東京), 2012. 7.

(2) シンポジウム:

- 1) 渡邊 淳^{1,2)} (1) 付属病院 遺伝診療科, 2) 生化学・分子生物学 (分子遺伝学)): 遺伝学的検査の諸問題 (ファーマコジェネティクスを含む). 日本遺伝カウンセリング学会 (松本), 2012. 6.
- 2) 渡邊 淳¹⁾ (1) 生化学・分子生物学): 臨床現場における PGx の課題. 第 33 回日本臨床薬理学会学術集会 (沖縄), 2012. 11.

(3) 一般講演:

- 1) 佐々木元子, 小川 令¹⁾, 藤田京志, Naing B²⁾, 赤石論史¹⁾, 百束比古¹⁾, 島田 隆²⁾, 渡邊 淳²⁾ (1) 付属病院 形成外科・美容外科, 2) 生化学・分子生物学 (分子遺伝医学)): 日本人におけるケロイドの重症度と遺伝子多型の相関関係. 日本人類遺伝学会第 57 回大会 (東京), 2012. 10.
- 2) 渡邊 淳, 岩崎由美, 川本智章¹⁾, 榎原義之²⁾, 中塚雄久^{2, 4)}, 福田 健²⁾, 飯野幸永³⁾, 本間 博³⁾, 島田 隆 (1) 付属病院 肝臓内科, 2) 付属病院 消化器内科, 3) 付属病院 中央検査部, 4) 武蔵小杉病院): i-densy を用いた IL28B 遺伝子多型解析の経験から: 医療機関内における投薬前遺伝子検査への活用に向けて. 日本臨床検査自動化学会第 44 回大会 (横浜), 2012. 9.
- 3) 渡邊 淳, 川本智章¹⁾, 榎原義之²⁾, 岩崎由美, 中塚雄久²⁾, 福田 健²⁾, 金子恵子¹⁾, 宮本亮子¹⁾, 佐久間郁行¹⁾, 星野有哉⁴⁾, 飯野幸永³⁾, 本間 博³⁾, 島田 隆 (1) 付属病院 肝臓内科, 2) 付属病院 消化器内科, 3) 付属病院 中央検査部, 4) 武蔵小杉病院消化器病センター): 医療機関内における投薬前遺伝子検査への実施への課題: IL28B 解析を通して. 第 80 回日本医科大学医学会総会 (東京), 2012. 9.
- 4) 渡邊 淳, 川本智章¹⁾, 榎原義之²⁾, 中塚雄久^{2, 4)}, 飯野幸永³⁾, 本間 博³⁾, 島田 隆 (1) 付属病院 肝臓内科, 2) 付属病院 消化器内科, 3) 付属病院 中央検査部, 4) 武蔵小杉病院消化器内科): i-densy を用いた IL28B 遺伝子多型解析の経験から: 医療機関内における投薬前遺伝子検査への活用に向けて. 第 59 回日本臨床検査医学会学術集会 (京都), 2012. 12.
- 5) 谷 杏彌^{3,4)}, 渡邊 淳^{1,2)}, 島田 隆^{1,2)}, 松本智司⁴⁾, 山田岳史⁴⁾, 原 敬介^{3,4)}, 内田英二⁴⁾ (1) 生化学・分子生物学, 2) 付属病院 遺伝診療科, 3) 大学院 分子遺伝医学, 4) 付属病院 外科): マイクロアレイを用いた大腸癌組織における経時的遺伝子発現変化の検討. 日本遺伝子診療学会第 19 回大会 (千葉), 2012. 7.
- 6) 原 敬介^{3,4)}, 渡邊 淳^{1,2)}, 松本智司³⁾, 山岸杏彌^{3,4)}, 島田 隆^{1,2)}, 内田英二³⁾ (1) 付属病院 遺伝診療科, 2) 生化学・分子生物学, 3) 付属病院 消化器外科, 4) 大学院 分子遺伝医学): 保存状態の異なる大腸癌検体 (FFPE, 凍結) から抽出した RNA ならびに遺伝子発現の検討. 日本臨床検査自動化学会第 44 回大会 (横浜), 2012. 10.

27. 武蔵小杉病院付置施設等

[武蔵小杉病院消化器病センター]

研究概要

当科は消化器外科医・内科医、内視鏡専門医により構成され、消化器疾患全般の診断から治療まで一貫した幅広い診療・研究を行っている。以下に現在精力的に継続している臨床的、基礎的研究テーマについて紹介する。【悪性疾患】1. 食道癌放射線感受性に関する基礎研究 2. 胃癌、大腸癌における化学療法・分子標的治療に関する基礎的・臨床病理学的研究 3. 肝細胞癌、膵癌の発癌に関連した遺伝子解析による基礎的研究 4. 消化器癌の集学的治療、抗癌剤感受性試験による個別化を含めた胃癌、大腸癌化学療法の確立 5. 進行膵・胆道癌に対する拡大手術および術後化学療法による予後改善の追求 6. 肝臓癌に対する集学的治療 7. 消化器癌（食道癌・胃癌・大腸癌）に対する鏡視下手術 8. 特殊内視鏡（拡大、特殊光観察）による消化管早期癌診断 9. 早期癌に対する内視鏡治療 10. IVRを応用した消化管、胆道、血管内ステント治療 11. 閉塞性黄疸に対する減黄術（PTCD、内視鏡的ステント） 12. 進行再発大腸癌に対する分子標的治療とバイオマーカーの研究 13. 直腸癌治療における肛門機能温存の追及 【緊急疾患】1. イレウスの保存的・外科的治療、病態解析、新しい診断と治療の開発 2. 上部消化管出血に対する内視鏡治療、臨床的研究 3. 上部消化管穿孔に対する大網充填術の臨床的・基礎的研究 4. 重症急性膵炎に対する集学的治療による予後改善の追求 【良性疾患】1. 胃十二指腸潰瘍における H. pylori の臨床的・基礎的研究 2. 胆道結石に対する内視鏡的治療・腹腔鏡手術 3. 鼠径ヘルニアに対する腹腔鏡手術（TAPP）の標準化と臨床的有用性の研究 4. 創傷治療、外科侵襲に関する基礎研究 5. 小腸鏡・カプセル内視鏡を利用した小腸疾患の早期診断・治療 6. 単孔式腹腔鏡下手術の標準化と臨床的有用性の研究 7. 炎症性腸疾患に対する分子生物学的治療の研究 8. イレウスに対する小腸鏡の診断・治療的有用性に関する研究

研究業績

論文

[追加分]

追加分症例報告：

- 1) 野村 聡¹⁾、塩谷 猛¹⁾、渋谷哲男¹⁾、渡邊善正¹⁾、南部弘太郎¹⁾、内間久隆²⁾、鈴木英之、内田英二³⁾ (1) さいたま市民医療センター 外科, (2) さいたま市民医療センター 病理, (3) 日本医科大学 外科)：イレウスをきたした小腸原発非特異型末梢性 T 細胞性リンパ腫の 1 例. 日本消化器外科学会雑誌 2013；45 (7)：758-765.

(1) 原著：

- 1) 千原直人、鈴木英之、渡辺昌則、豊田哲鎬、野村 聡、中田亮輔、大山莉奈、内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学 外科)：大腸憩室出血に対する内視鏡的治療の検討；透明フードの有用性. 日本腹部救急医学会雑誌 2013；33 (3)：1-5.

(2) 症例報告：

- 1) 豊田哲鎬¹⁾、塩谷 猛¹⁾、渋谷哲男¹⁾ (1) さいたま市民医療センター 外科)：コンポジックスクーゲルパッチで修復した Spiegel ヘルニアの 1 例. 日本外科系連合学会誌 2012；37 (2)：344-347.
- 2) 豊田哲鎬¹⁾、塩谷 猛¹⁾、渋谷哲男¹⁾、内間久隆²⁾ (1) さいたま市民医療センター 外科, (2) さいたま市民医療センター 病理)：虫垂切除後に診断された虫垂杯細胞カルチノイドの 1 例. 日本外科系連合学会誌 2012；37 (4)：802-806.
- 3) Mizutani S¹⁾、Suzuki H¹⁾、Yoshida H²⁾、Arima Y³⁾、Kitayama Y⁴⁾、Uchida E³⁾ (1) Institute of Gastroenterol-

ogy, Nippon Medical School Musashikosuigi Hospital, ²⁾ Department of surgery, Nippon Medical School Tamagayama Hospital, ³⁾ Department of pathology, Nippon Medical School Musashikosuigi Hospital, ⁴⁾ Department of surgery, Nippon Medical School) : A case of IgG4-related sclerosing cholangitis with a normal serum IgG4 level. J Nippon Med Sch 2012 ; 79 (5) : 367-372.

- 4) Watanabe M, Suzuki H, Maejima K, Komine O, Mizutani S, Yoshino M, Bo H, Kitayama Y¹⁾, Uchida E²⁾ (¹⁾ Department of Pathology, Nippon Medical School Musashikosugi Hospital, ²⁾ Department of Surgery, Nippon Medical School) : Surgical resection of late solitary locoregional gastric cancer recurrence in stomach bed. Medical Science Monitor 2012 ; 18 (7) : 53-56.
- 5) 埴 秀暁^{1, 2)}, 小笠原康夫²⁾, 名取穰治²⁾, 内山喜一郎²⁾, 鈴木英之²⁾ (¹⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院 消化器病センター, ²⁾ 海老名総合病院 外科) : 幽門空置胃切除 40 年後に発生した遺残幽門部残胃癌の 1 例. 日本臨床外科学会雑誌 2012 ; 73 (5) : 1106-1109.
- 6) 埴 秀暁¹⁾, 渡辺昌則¹⁾, 黒田誠司¹⁾, 野村 聡¹⁾, 前島顕太郎¹⁾, 水谷 聡¹⁾, 小峯 修¹⁾, 吉野雅則¹⁾, 坊 英樹¹⁾, 鈴木英之¹⁾, 内田英二¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院 消化器病センター) : たこ焼きによる食道熱傷の 1 例. Progress of Digestive Endoscopy 2012 ; 81 (02) : 76-77.
- 7) 埴 秀暁^{1, 2)}, 川島吉之²⁾, 横山康行²⁾, 網倉克己²⁾, 坂本裕彦²⁾, 田中洋一²⁾ (¹⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院 消化器病センター, ²⁾ 埼玉県立がんセンター 消化器外科) : 胃癌術後の腸瘻チューブが原因と考えられた腸重積症の 1 例. 日本臨床外科学会雑誌 2013 ; 74 (01) : 96-99.
- 8) 菊地 功¹⁾, 西村洋治¹⁾, 西田一典¹⁾, 西村ゆう¹⁾, 氏家秀樹¹⁾, 秋山博彦¹⁾, 埴 秀暁¹⁾, 八岡利昌¹⁾, 網倉克己¹⁾, 川島吉之¹⁾, 坂本裕彦¹⁾, 黒住昌史¹⁾, 田中洋一¹⁾ (¹⁾ 埼玉県立がんセンター消化器外科) : 下行結腸癌術後腋窩リンパ節転移の 1 例. 癌と化学療法 2012 ; 39 (12) : 2252-2254.
- 9) 中田亮輔, 鈴木英之, 吉野雅則, 松信哲朗, 渡辺昌則, 千原直人, 三浦克洋, 村木 輝, 黒田誠司, 三島圭介, 八木亜記, 和田由大, 越智友洋, 内田英二¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学 外科) : 経肛門イレウス管挿入後, 早期に穿孔をきたした横行結腸癌の 1 例. Progress of Digestive Endoscopy 2012 ; 80 (2) : 140-141.

学会発表

[追加分]

追加分一般講演 :

- 1) 野村 聡, 水谷 聡, 鈴木英之, 村木 輝, 豊田哲鎬, 前島顕太郎, 小峯 修, 吉野雅則, 渡邊雅則, 内田英二¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学 外科) : 閉塞性胆管炎を来した Choledocoele の 1 例. 日本肝胆膵外科学会学術集会 (第 24 回) (大阪), 2013. 5.
- 2) 野村 聡, 渡邊昌則, 小峯 修, 千原直人, 前島顕太郎, 坊 英樹, 鈴木英之, 櫻澤信行¹⁾, 内田英二¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学 外科) : 表在型 Barrett 食道癌の 1 例. 日本食道学会学術集会 (第 66 回) (長野), 2013. 6.
- 3) Yagi A¹⁾, Mizutani S¹⁾, Hoshino A¹⁾, Muraki A¹⁾, Aimoto T²⁾ (¹⁾ Institute of Gastroenterology, Nippon Medical School Musashikosugi Hospital, Kawasaki, Japan, ²⁾ Department of Surgery, Nippon Medical School, Tokyo, Japan) : Clinicopathologic Study on Pancreatic Groove Carcinoma. European Pancreatic Club 2013 (prague), 2013. 6.
- 4) 川島吉之¹⁾, 田中洋一¹⁾, 山田達也¹⁾, 福田 俊¹⁾, 岡 大嗣¹⁾, 横山康行¹⁾, 野田和雅¹⁾, 菊地 功¹⁾, 小倉俊郎¹⁾, 岸 慎一¹⁾, 埴 秀暁¹⁾, 八岡利昌¹⁾, 網倉克己¹⁾, 西村洋治¹⁾, 坂本裕彦¹⁾, その他 1 名 (¹⁾ 埼玉県立がんセンター消化器外科) : 左開胸開腹で切除した食道浸潤噴門部胃癌. 埼玉県医学会 (埼玉), 2012. 1.

(1) シンポジウム :

- 1) 千原直人, 鈴木英之, 渡辺昌則, 吉野雅則, 松信哲朗, 三浦克洋, 豊田哲鎬, 中田亮輔, 内田英二¹⁾ (¹⁾ 日本医

科大学 外科)：安全性を意識した大腸 ESD の工夫－直腸 ESD を中心に－(大腸腫瘍に対する内視鏡治療)．日本大腸肛門病学会学術集会 (第 67 回) (福岡)，2012. 11.

2) 鈴木英之，吉野雅則，松信哲朗，三浦克洋，豊田哲篤，中田亮輔，大山莉奈，菅 隼人，松本智司¹⁾，小泉岐博¹⁾，渡辺昌則，内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学 外科)：コストとコンプライアンスからみた進行再発大腸癌化学療法の問題点．日本大腸肛門病学会学術集会 (第 67 回) (福岡)，2012. 11.

3) Suzuki H, Yoshino M, Matsunobu T, Miura K, Toyoda T, Nakata R, Oyama R, Watanabe M, Uchida E¹⁾ (1) Nippon Medical School Department of Surgery)：Cost-effectiveness of advanced colorectal cancer chemotherapy in Japan. Korea-Japan-China Colorectal Cancer Symposium (The 13th) (Seoul)，2012. 9.

4) 坊 英樹：消化器癌手術における創感染のない最適な創治療をめざした閉創の工夫．日本創傷治療学会 (第 42 回) (札幌)，2012. 12.

(2) パネルディスカッション：

1) 千原直人，鈴木英之，渡辺昌則，星野有哉，小峯 修，吉野雅則，水谷 聡，三浦克洋，中田亮輔，内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学 外科)：完全単孔式 TAPP から細径鉗子を用いた単孔式 TAPP (plus one puncture) へ (単孔式腹腔鏡下ヘルニア修復術の実際)．日本ヘルニア学会学術集会 (第 10 回) (名古屋)，2012. 4.

(3) ワークショップ：

1) 渡辺昌則，野村 聡，前島顕太郎，千原直人，小峯 修，水谷 聡，吉野雅則，坊 英樹，鈴木英之，内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学外科)：大腸緊急手術における切開部 SSI 対策．日本外科感染症学会総会 (第 25 回) (幕張)，2012. 11.

(4) 一般講演：

1) 前島顕太郎，坊 英樹，鈴木英之，渡辺昌則，尾形昌男，吉野雅則，小峯 修，水谷 聡，千原直人，松信哲朗，内田英二¹⁾ (1) 付属病院 消化器外科)：腹腔鏡補助下幽門側胃切除術における肥満が及ぼす術中・術後の合併症．日本外科学会定期学術集会 (第 112 回) (千葉)，2012. 4.

2) 前島顕太郎，鈴木英之，渡辺昌則，坊 英樹，小峯 修，吉野雅則，水谷 聡，内田英二¹⁾ (1) 付属病院 消化器外科)：切除不能進行・再発胃癌に対する S-1+CDDP 療法の有害事象対策と外来化学療法への導入．日本消化器外科学会総会 (第 67 回) (富山)，2012. 7.

3) 前島顕太郎，坊 英樹，鈴木英之，渡辺昌則，小峯 修，吉野雅則，水谷 聡，千原直人，松信哲朗，内田英二¹⁾ (1) 付属病院 消化器外科)：80 歳以上高齢者胃癌手術症例における E-PASS scoring system と術後合併症の検討．日本消化器外科学会大会 (第 10 回) (JDDW) (神戸)，2012. 10.

4) 前島顕太郎，坊 英樹，渡辺昌則，鈴木英之，徳永 昭，内田英二¹⁾ (1) 付属病院 消化器外科)：消化管手術における手術部位感染防止に対する真皮縫合．日本創傷治療学会 (第 42 回) (札幌)，2012. 12.

5) 小峯 修，渡辺昌則，鈴木英之，野村 聡，坊 英樹，吉野雅則，水谷 聡，前島顕太郎，越智友洋，内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学外科)：食道癌術後早期経腸栄養における免疫調整栄養剤 (オキシールパ TM) の有用性．日本食道学会学術集会 (第 66 回) (軽井沢)，2012. 6.

6) 小峯 修，鈴木英之，渡辺昌則，水谷 聡，吉野雅則，千原直人，野村 聡，山岸征嗣，大山莉奈，清水貴夫，内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学外科)：針状把持鉗子 (Mini lap) を用いた単孔式腹腔鏡下胆嚢摘出術 (TANKO) の工夫．Needlescopic Surgery Meeting (第 8 回) (仙台)，2013. 2.

7) 前島顕太郎，坊 英樹，鈴木英之，渡辺昌則，小峯 修，吉野雅則，水谷 聡，千原直人，松信哲朗，内田英二¹⁾ (1) 付属病院 消化器外科)：早期胃癌に対する開腹手術と腹腔鏡補助下手術の比較：E-PASS スコアリングシステムを用いて．日本胃癌学会総会 (第 85 回) (大阪)，2013. 3.

8) 山岸征嗣¹⁾，塩谷 猛¹⁾，渋谷哲男¹⁾，渡邊 善正¹⁾，南部 弘太郎¹⁾，山田 太郎¹⁾，内間 久隆²⁾ (1) さいたま市民医療センター外科，2) さいたま市民医療センター病理診断科)：Segmental arterial mediolysis (SAM) による大網出血の 1 例．日本消化器関連学会週間 (第 20 回) (神戸)，2012. 10.

- 9) 鈴木英之, 吉野雅則, 松信哲朗, 三浦克洋, 豊田哲鎬, 千原直人, 渡辺昌則⁽¹⁾ 日本医科大学外科): 内視鏡診断で粘膜下層深部浸潤癌と診断し得た1例. 東京大腸癌フォーラム (東京), 2012. 9.
- 10) 清水貴夫, 鈴木英之, 渡辺昌則, 吉野雅則, 千原直人, 松信哲朗, 三浦克洋, 豊田哲鎬: 内視鏡診断で粘膜下層深部浸潤癌と診断し得た1例. 東京大腸癌フォーラム (東京), 2012. 9.
- 11) 清水貴夫, 鈴木英之, 渡辺昌則, 千原直人, 松信哲朗, 野村 聡, 豊田哲鎬, 村木 輝, 大山莉奈, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学外科): 腹膜透析中に鼠径ヘルニアを再発し TAPP にて治療し得た1例. 神奈川ヘルニア研究会 (第4回) (神奈川), 2012. 12.
- 12) 吉野雅則, 鈴木英之, 渡辺昌則, 松信哲朗, 三浦克洋, 中田亮輔, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学外科): 血清 p53 抗体上昇が発見契機となった大腸癌肝転移再発の切除例. 日本消化器外科学会総会 (第67回) (富山), 2012. 7.
- 13) 豊田哲鎬, 鈴木英之, 吉野雅則, 千原直人, 松信哲朗, 前島顕太郎, 三浦克洋, 大山莉奈, 野村 聡, 山岸征嗣, 中田亮輔, 渡辺昌則, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学 外科): 当科における潰瘍性大腸炎に対するインフリキシマブの使用経験. 日本大腸肛門病学会学術集会 (第67回) (福岡), 2012. 11.
- 14) 豊田哲鎬¹⁾, 小笠原康夫¹⁾, 萩原英之¹⁾, 小泉正樹¹⁾, 阿部 豊¹⁾, 加納恒久¹⁾, 名取稔治¹⁾, 内山喜一郎¹⁾, 鈴木英之, 内田英二²⁾ (1) 海老名総合病院 外科, 2) 日本医科大学 外科): 胃癌の診断で術前化学療法を行い食道類基底細胞癌と術後診断された1例. 日本消化器外科学会大会 (10) (神戸), 2012. 10.
- 15) 大山莉奈, 鈴木英之, 松信哲朗, 渡辺昌則, 吉野雅則, 三浦克洋, 豊田哲鎬, 中田亮輔, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院 外科): S 状結腸癌による閉塞性大腸炎穿孔術後, 残存腸管の虚血により穿孔を繰り返した1例. 日本 shock 学会 (第27回) (東京), 2012. 5.
- 16) 大山莉奈, 鈴木英之, 吉野雅則, 松信哲朗, 三浦克洋, 豊田哲鎬, 八木亜記, 中田亮輔, 村木 輝, 野村 聡, 前島顕太郎, 千原直人, 水谷 聡, 渡辺昌則, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院 外科): 大腸多発肝転移に対する術前化学療法により組織学的 CR を得た1例. 日本大腸肛門病学会学術集会 (第67回) (福岡), 2012. 11.
- 17) 大山莉奈, 鈴木英之, 松信哲朗, 吉野雅則, 小峯 修, 水谷 聡, 千原直人, 前島顕太郎, 三浦克洋, 豊田哲鎬, 中田亮輔, 清水貴夫, 渡辺昌則, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院外科): 傍十二指腸ヘルニアに対し腹腔鏡補助下ヘルニア修復術を施行した1例. 内視鏡外科学会総会 (第25回) (横浜), 2012. 12.
- 18) 大山莉奈, 鈴木英之, 松信哲朗, 吉野雅則, 三浦克洋, 豊田哲鎬, 八木亜記, 中田亮輔, 渡辺昌則, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院 外科): 化学療法が奏功し Clinical CR を得た遠隔リンパ節転移を伴う盲腸癌に対し原発巣切除を行った症例. 臨床外科学会総会 (第74回) (東京), 2012. 11.
- 19) 豊田哲鎬, 鈴木英之, 吉野雅則, 松信哲朗, 三浦克洋, 中田亮輔, 大山莉奈, 渡辺昌則, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学 外科): A case of cecal cancer with peritoneal metastasis presented Panitumumab induced Grade 4 adverse event of hypomagnesemia. KOREA-JAPAN-CHINA COLORECTAL CANCER SYMPOSIUM (13) (ソウル), 2012. 9.
- 20) 三島圭介, 鈴木 英之, 有田 淳¹⁾, 高橋和裕¹⁾, 鈴木隆文¹⁾, 内田英二²⁾ (1) 東戸塚記念病院 外科, 2) 日本医科大学付属病院 外科): イレウスを呈した小腸アニサキスの1切除例. 日本臨床外科学会総会 (第74回) (東京), 2012. 11.
- 21) 千原直人, 野村 務¹⁾, 鈴木英之, 渡辺昌則, 小峯 修, 水谷 聡, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学外科): Upside down stomach を合併した巨大食道裂孔ヘルニアに対する腹腔鏡下修復術: Barbed suture と Mesh の使用経験. JDDW2012 日本消化器外科学会大会 (第10回) (神戸), 2012. 10.
- 22) 千原直人, 鈴木英之, 渡辺昌則, 清水貴夫, 大山莉奈, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学外科): 当科における単孔式 TAPP の変遷. 神奈川ヘルニア研究会 (第4回) (神奈川), 2012. 12.
- 23) 千原直人, 鈴木英之, 渡辺昌則, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学 外科): 右単径ヘルニアでの初めの腹膜切開か

- らの7分. 日本腹腔鏡下ヘルニア手術手技研究集会 (第2回) (神奈川), 2013. 2.
- 24) Chihara N, Suzuki H, Watanabe M, Nakata R, Oyama R, Uchida E¹⁾ (1) Department of Surgery, Nippon Medical School, Tokyo, Japan) : Merit of the plus one punctured-single incision TAPP. Annual Hernia Repair (15th) (Orlando, FL), 2013. 3.
- 25) Shimizu T, Suzuki H, Watanabe M, Chihara N, Matsunobu T, Muraki A, Nakata R, Oyama R, Uchida E¹⁾ (1) Department of Surgery, Nippon Medicine School, Tokyo, Japan) : A case of incarcerated inguinal hernia on peritoneal dialysis (PD) repaired with laparoscopic TAPP. Annual Hernia Repair (15th) (Orlando, FL), 2013. 3.
- 26) 水谷 聡¹⁾, 鈴木英之¹⁾, 星野有哉¹⁾, 黒田誠司¹⁾, 村木 輝¹⁾, 前島顕太郎¹⁾, 小峯 修¹⁾, 吉野雅則¹⁾, 渡辺昌則¹⁾, 内田英二²⁾ (1) 日本医科大学武蔵小杉病院消化器病センター, 2) 日本医科大学外科) : 術前確定診断に難渋した IgG4 関連硬化性胆管炎の1例. 日本肝胆膵外科学会 (第24回) (大阪), 2012. 5.
- 27) Mizutani S, Suzuki H, Aimoto T, Yagi A, Muraki A, Komine O, Yoshino M, Watanabe M, Uchida E (1) Institute of Gastroenterology, Nippon Medical School Musashikosugi Hospital, 2) Department of surgery, Nippon Medical School) : Feasibility and Efficacy of Distal Pancreatectomy with en bloc Celiac Axis resection (DP-CAR) for Locally Advanced Pancreatic Body Cancer. European Pancreatic Club (44th) (Prague), 2012. 6.
- 28) 水谷 聡¹⁾, 鈴木英之¹⁾, 吉田 寛²⁾, 谷合信彦³⁾, 山岸征嗣¹⁾, 村木 輝¹⁾, 八木亜記¹⁾, 前島顕太郎¹⁾, 小峯修¹⁾, 吉野雅則¹⁾, 星野有哉¹⁾, 渡辺昌則¹⁾, 内田英二²⁾ (1) 日本医科大学武蔵小杉病院消化器病センター, 2) 日本医科大学多摩永山病院外科, 3) 日本医科大学外科) : 肝門部胆管癌に対する術前 ERCP の工夫. JDDW2012 日本消化器内視鏡学会 (第84回) (神戸), 2012. 10.
- 29) 大山莉奈, 千原直人, 鈴木英之, 渡辺昌則, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院外科) : 腹部手術歴のある TAPP の検討. 神奈川ヘルニア研究会 (第4回) (神奈川), 2012. 12.
- 30) 大山莉奈, 千原直人, 鈴木英之, 渡辺昌則, 中田亮輔, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院 外科) : Laparoscopic Transabdominal Preperitoneal (TAPP) Inguinal Hernia Repairs in Patients with Previous Abdominal Surgery. Annual Hernia Repair (15th) (Orlando, FL), 2013. 3.
- 31) 大山莉奈, 鈴木英之, 吉野雅則, 松信哲朗, 三浦克洋, 豊田哲鎬, 中田亮輔, 水谷 聡, 渡辺昌則, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院外科) : A case of advanced colorectal cancer with Virchow's metastasis achieving clinical complete remission. KOREA-JAPAN-CHINA COLORECTAL CANCER SYMPOSIUM (13) (ソウル), 2012. 9.
- 32) 大山莉奈, 松信哲朗, 鈴木英之, 吉野雅則, 三浦克洋, 豊田哲鎬, 村木 輝, 山際 亮, 松岡保子¹⁾, 渡辺昌則, 内田英二²⁾ (1) 日本医科大学武蔵小杉病院皮膚科, 2) 日本医科大学付属病院外科) : 肛門部 Bowen 病の1例. 外科集談会 (第828回) (東京), 2013. 3.
- 33) 大山莉奈, 鈴木英之, 松信哲朗, 吉野雅則, 三浦克洋, 豊田哲鎬, 中田亮輔, 千原直人, 渡辺昌則, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院外科) : 機能的端々吻合 (open 法) 術後の吻合部再発に関する検討. 神奈川臨床外科医学会集談会 (第135回) (神奈川), 2012. 12.
- 34) 三浦克洋¹⁾, 鈴木英之¹⁾, 千原直人¹⁾, 豊田哲鎬¹⁾, 渡辺昌則¹⁾, 内田英二²⁾ (1) 日本医科大学武蔵小杉病院消化器病センター, 2) 日本医科大学外科) : 閉鎖孔ヘルニア嵌頓に対し TAPP にて二期的に治療し得た1例. 神奈川県臨床外科医学会集談会 (第136回) (神奈川), 2013. 2.
- 35) 三浦克洋¹⁾, 鈴木英之¹⁾, 前島顕太郎¹⁾, 松信哲朗¹⁾, 千原直人¹⁾, 吉野雅則¹⁾, 坊 英樹¹⁾, 渡辺昌則¹⁾, 内田英二²⁾ (1) 日本医科大学武蔵小杉病院消化器病センター, 2) 日本医科大学外科) : 緊急大腸内視鏡にて整復し得た右側結腸軸捻転症の1例. 日本消化器内視鏡学会総会 (第83回) (東京), 2012. 5.
- 36) 渡辺昌則, 野村 聡, 小峯 修, 前島顕太郎, 水谷 聡, 吉野雅則, 坊 英樹, 鈴木英之, 内田英二¹⁾ (1) 日本

- 医科大学外科)：食道癌術後 mortality と morbidity の危険因子. 日本食道学会学術集会 (第 66 回) (軽井沢), 2012. 6.
- 37) 渡辺昌則, 小峯 修, 前島顕太郎, 千原直人, 水谷 聡, 吉野雅則, 坊 英樹, 鈴木英之, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学外科)：大腸手術の表層 SSI 対策. 日本外科学会定期学術集会 (第 112 回) (幕張), 2012. 4.
- 38) 星野有哉, 鈴木英之, 中村慶春¹⁾, 水谷 聡, 村木 輝, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学 外科)：腹腔鏡下膵切除術の検討. 日本肝胆膵外科学会 (第 24 回) (大阪), 2012. 5.
- 39) 松信哲朗, 鈴木英之, 吉野雅則, 三浦克洋, 豊田哲鎬, 大山莉奈, 中田亮輔, 野村 聡, 前島顕太郎, 千原直人, 渡辺昌則, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学 外科)：高齢者大腸癌イレウスの問題点. 日本大腸肛門病学会学術集会 (第 67 回) (福岡), 2012. 11.
- 40) 松信哲朗, 鈴木英之, 吉野雅則, 三浦克洋, 豊田哲鎬, 清水貴夫, 渡辺昌則, 坊 英樹, 小峯 修, 水谷 聡, 千原直人, 前島顕太郎, 野村 聡, 山岸征嗣, 大山莉奈, その他 2 名：漏れない・漏らさない DST の工夫. 橋桜消化器外科研究会 (第 1 回) (東京), 2012. 9.
- 41) 松信哲朗, 鈴木英之, 吉野雅則, 三浦克洋, 豊田哲鎬, 村木 輝, 八木亜記, 大山莉奈, 清水貴夫, 渡辺昌則, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院外科)：合併症の減少を目指した人工肛門造設の工夫. 臨床外科学会総会 (第 74 回) (東京), 2012. 11.
- 42) Hoshino A, Nakamura Y¹⁾, Mizutani S, Aimoto T¹⁾, Uchida E¹⁾, Suzuki H (1) Department of Surgery, Nippon Medical School)：Laparoscopic pancreatic resection : single-institution experience of 7 patients. Meeting of the European Pancreatic Club (EPC) (44rd) (プラハ), 2012. 6.
- 43) 星野有哉, 鈴木英之, 中村慶春, 水谷 聡, 五十嵐健人, 南 史朗, 清水一雄, 内田英二 (1) 日本医科大学 外科, 2) 日本医科大学老人病研究所, 3) 日本医科大学 内分泌外科)：医療用スポンジスペイサーを使用した腹腔鏡下副腎摘除術. 日本外科学会定期学術集会 (第 112 回) (千葉), 2012. 4.
- 44) 星野有哉, 鈴木英之, 中村慶春, 水谷 聡, 内田英二 (1) 日本医科大学 外科)：腹腔鏡下膵体尾部切除術を施行した 5 例の検討. 神奈川県消化器外科研究会 (第 41 回) (横浜), 2012. 6.
- 45) 星野有哉, 鈴木英之, 中村慶春¹⁾, 水谷 聡, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院外科)：腹腔鏡下膵切除術の検討. 膵臓内視鏡外科研究会 (第 4 回) (東京), 2012. 11.
- 46) 星野有哉, 鈴木英之, 中村慶春¹⁾, 水谷 聡, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院外科)：腹腔鏡下膵腫瘍核切除術を施行したインスリノーマの 1 例. 日本臨床外科学会総会 (第 74 回) (東京), 2012. 11.
- 47) 星野有哉, 鈴木英之, 水谷 聡, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学 外科)：高齢者の内視鏡的経鼻胆道ドレナージ (ENDB) 症例の検討. 日本腹部救急医学会 (第 49 回) (福岡), 2013. 3.
- 48) 黒田誠司¹⁾, 塩谷 猛¹⁾, 南部弘太郎 ¹⁾, 渡邊善正¹⁾, 和田由大 ¹⁾, 山田太郎 ¹⁾, 内間久隆²⁾, 島田裕司³⁾, 大石卓爾³⁾, 鈴木英之⁴⁾ (1) さいたま市民医療センター外科, 2) さいたま市民医療センター病理部, 3) さいたま市民医療センター放射線科, 4) 日本医科大学武蔵小杉病院消化器病センター)：成人特発性腸重積に 2 次性小腸軸捻転を合併した 1 例. 日本臨床外科学会総会 (第 74 回) (東京), 2012. 11.
- 49) 黒田誠司¹⁾, 塩谷 猛¹⁾, 南部弘太郎 ¹⁾, 渡邊善正¹⁾, 和田由大 ¹⁾, 山田太郎 ¹⁾, 内間久隆²⁾, 島田裕司³⁾, 大石卓爾³⁾ (1) さいたま市民医療センター外科, 2) さいたま市民医療センター病理部, 3) さいたま市民医療センター放射線科)：成人特発性腸重積の 1 例. 埼玉外科医会 (第 9 回) (埼玉), 2012. 7.
- 50) 黒田誠司¹⁾, 塩谷 猛¹⁾, 南部弘太郎 ¹⁾, 渡邊善正¹⁾, 和田由大 ¹⁾, 山田太郎 ¹⁾, 内間久隆²⁾, 島田裕司³⁾, 大石卓爾³⁾ (1) さいたま市民医療センター外科, 2) さいたま市民医療センター病理部, 3) さいたま市民医療センター放射線科)：腸管内へ迷入した腹腔内異物の 1 例. 日本臨床外科学会総会 (第 74 回) (福岡), 2013. 3.
- 51) 塙 秀暁^{1, 2)}, 川島吉之²⁾, 山田達也²⁾, 江原一尚²⁾, 福田 俊²⁾, 八岡利昌²⁾, 西村洋治²⁾, 網倉克己²⁾, 坂本裕彦²⁾, 田中洋一²⁾ (1) 日本医科大学武蔵小杉病院 消化器病センター, 2) 埼玉県立がんセンター 消化器外科)：胃癌術後の腸瘻チューブが原因と考えられた腸重積症の 1 例. 日本消化器外科学会総会 (第 67 回) (富山),

2012. 7.

- 52) 塙 秀暁^{1, 2)}, 横山康行²⁾, 小倉俊郎²⁾, 菊地 功²⁾, 野田和雅²⁾, 山田達也²⁾, 江原一尚²⁾, 福田 俊²⁾, 八岡利昌²⁾, 西村洋治²⁾, 網倉克己²⁾, 川島吉之²⁾, 坂本裕彦²⁾, 田中洋一²⁾ (1) 日本医科大学武蔵小杉病院 消化器病センター, 2) 埼玉県立がんセンター 消化器外科): がん専門病院における SSI サーベイランス. 日本外科感染症学会 総会学術集会 (第 25 回) (幕張), 2012. 11.
- 53) 塙 秀暁^{1, 2)}, 江原一尚²⁾, 野田和雅²⁾, 横山康行²⁾, 山田達也²⁾, 岡 大嗣²⁾, 福田 俊²⁾, 八岡利昌²⁾, 西村洋治²⁾, 網倉克己²⁾, 川島吉之²⁾, 坂本裕彦²⁾, 田中洋一²⁾, 有馬美和子²⁾, 黒住昌史²⁾ (1) 日本医科大学武蔵小杉病院 消化器病センター, 2) 埼玉県立がんセンター 消化器外科): 完全腹腔鏡下幽門側胃切除術における口側胃切除範囲マーキングの工夫. 日本内視鏡外科学会総会 (第 25 回) (横浜), 2012. 12.
- 54) 菊地 功¹⁾, 江原一尚¹⁾, 川島吉之¹⁾, 野田和雅¹⁾, 塙 秀暁¹⁾, 岡 大嗣¹⁾, 山田達也¹⁾, 福田 俊¹⁾, 中村 聡¹⁾, 石川英樹¹⁾, 小倉俊郎¹⁾, 横山康行¹⁾, 八岡利昌¹⁾, 西村洋治¹⁾, 坂本裕彦¹⁾, その他 1 名 (1) 埼玉県立がんセンター消化器外科): 腹腔内脂肪が腹腔鏡下幽門側胃切除術の難易度に与える影響の検討 腎周囲脂肪厚による腹腔内脂肪量の予測. 日本内視鏡外科学会総会 (第 25 回) (横浜), 2012. 12.
- 55) 横山康行¹⁾, 江原一尚¹⁾, 八岡利昌¹⁾, 中村 聡¹⁾, 石川英樹¹⁾, 野田和雅¹⁾, 菊地 功¹⁾, 小倉俊郎¹⁾, 塙 秀暁¹⁾, 岡 大嗣¹⁾, 福田 俊¹⁾, 山田達也¹⁾, 西村洋治¹⁾, 川島吉之¹⁾, 坂本裕彦¹⁾, その他 1 名 (1) 埼玉県立がんセンター消化器外科): 完全腹腔鏡下同時手術を行った胃・直腸重複癌の 1 例. 日本内視鏡外科学会総会 (第 25 回) (横浜), 2012. 12.
- 56) 江原一尚¹⁾, 川島吉之¹⁾, 山田達也¹⁾, 福田 俊¹⁾, 岡 大嗣¹⁾, 塙 秀暁¹⁾, 八岡利昌¹⁾, 横山康行¹⁾, 坂本裕彦¹⁾, 西村洋治¹⁾, 網倉克己¹⁾, 田中洋一¹⁾ (1) 埼玉県立がんセンター消化器外科): 完全腹腔鏡下胃全摘および噴門側胃切除後再建における, 偶発症を起こさないための工夫と注意点. 日本内視鏡外科学会総会 (第 25 回) (横浜), 2012. 12.
- 57) 野田和雅¹⁾, 江原一尚¹⁾, 川島吉之¹⁾, 福田 俊¹⁾, 岡 大嗣¹⁾, 山田達也¹⁾, 塙 秀暁¹⁾, 田中洋一¹⁾ (1) 埼玉県立がんセンター消化器外科): 肝動脈, 右胃動脈の分岐異常が認められた腹腔鏡下幽門側胃切除の 1 例. 日本内視鏡外科学会総会 (第 25 回) (横浜), 2012. 12.
- 58) 石川英樹¹⁾, 網倉克己¹⁾, 横山康行¹⁾, 塙 秀暁¹⁾, 江原一尚¹⁾, 山田達也¹⁾, 福田 俊¹⁾, 八岡利昌¹⁾, 西村洋治¹⁾, 川島吉之¹⁾, 坂本裕彦¹⁾, 田中洋一¹⁾, 小林泰文¹⁾, 黒住昌史¹⁾ (1) 埼玉県立がんセンター消化器外科): R-CHOP 療法後の瘢痕狭窄に対し手術を行った消化管悪性リンパ腫の 8 例. 日本臨床外科学会総会 (第 74 回), 2012. 10.
- 59) 野田和雅¹⁾, 江原一尚¹⁾, 川島吉之¹⁾, 福田 俊¹⁾, 山田達也¹⁾, 岡 大嗣¹⁾, 塙 秀暁¹⁾, 田中洋一¹⁾ (1) 埼玉県立がんセンター消化器外科): 当施設における腹腔鏡下幽門側胃切除術 (LDG) の定型化とその有用性. 日本臨床外科学会総会 (第 74 回), 2012. 10.
- 60) 川島吉之¹⁾, 山田達也¹⁾, 福田 俊¹⁾, 塙 秀暁¹⁾, 江原一尚¹⁾, 岡 大嗣¹⁾, 横山康行¹⁾, 八岡利昌¹⁾, 網倉克己¹⁾, 西村洋治¹⁾, 坂本裕彦¹⁾, 田中洋一¹⁾, 菊地 功¹⁾, 野田和雅¹⁾, 黒住昌史¹⁾ (1) 埼玉県立がんセンター消化器外科): 噴門側胃切除食道残胃吻合の適応, 逆流性食道炎症例からの反省点. 日本臨床外科学会総会 (第 74 回), 2012. 10.
- 61) 江原一尚¹⁾, 野田和雅¹⁾, 川島吉之¹⁾, 山田達也¹⁾, 福田 俊¹⁾, 岡 大嗣¹⁾, 塙 秀暁¹⁾, 菊地 功¹⁾, 小倉俊郎¹⁾, 坂本裕彦¹⁾, 西村洋治¹⁾, 網倉克己¹⁾, 八岡利昌¹⁾, 田中洋一¹⁾ (1) 埼玉県立がんセンター消化器外科): 各領域手術における様々なエネルギーデバイスの用い方 腹腔鏡下胃切除における, リンパ節廓清部位に応じたデバイスの使い分け. 日本臨床外科学会総会 (第 74 回), 2012. 10.
- 62) 川島吉之¹⁾, 福田 俊¹⁾, 山田達也¹⁾, 江原一尚¹⁾, 岡 大嗣¹⁾, 塙 秀暁¹⁾, 坂本裕彦¹⁾, 田中洋一¹⁾, 有馬美和子¹⁾, 黒住昌史¹⁾ (1) 埼玉県立がんセンター消化器外科): 食道癌下咽頭癌多発再発に経腸栄養とドセタキセル・ネダプラチンが有効であった 1 例. 日本食道学会学術集会 (第 66 回) (軽井沢), 2012. 6.

- 63) 鈴木英之, 渡辺昌則, 吉野雅則, 松信哲朗, 千原直人, 三浦克洋, 中田亮輔, 菅 隼人¹⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学 外科) : 緊急手術におけるストーマ合併症の検討と対策. JDDW2012 日本消化器外科学会大会 (第10回) (神戸), 2012. 10.
- 64) 鈴木英之, 黒川 顕, 渡辺昌則, 坊 英樹, 吉野雅則, 水谷 聡, 小峯 修, 松信哲朗, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学 外科) : 癌治療におけるカンサーボードの役割と問題点. 日本外科学会定期学術集会第 (112 回) (千葉), 2012. 4.
- 65) 鈴木英之, 吉野雅則, 松信哲朗, 三浦克洋, 中田亮輔, 大山莉奈, 菅 隼人¹⁾, 松本智司¹⁾, 小泉岐博¹⁾, 渡辺昌則, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学 消化器外科) : ストーマ作設の傾向と合併症の検討. 日本大腸肛門病学会学術集会 (第 67 回) (福岡), 2012. 11.
- 66) 鈴木英之, 吉野雅則, 松信哲朗, 三浦克洋, 豊田哲鎬, 中田亮輔, 大山莉奈, 渡辺昌則, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学 消化器外科) : 大腸癌外来化学療法における医療経済. 日本臨床外科学会総会 (第 74 回) (東京), 2012. 11.
- 67) 鈴木英之, 黒川 顕²⁾, 勝俣範之³⁾, 渡辺昌則, 坊 英樹, 吉野雅則, 水谷 智, 小峯 修, 松信哲朗, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学 消化器外科, ²⁾ 日本医科大学 病院長, ³⁾ 日本医科大学 腫瘍内科) : チーム医療としての院内カンサーボードの役割. 日本臨床外科学会総会 (第 74 回) (東京), 2012. 11.
- 68) Suzuki H, Yoshino M, Matsunobu T, Miura K, Toyoda T, Nakata R, Oyama R, Watanabe M, Uchida E¹⁾ (1) Nippon Medical School Department of Surgery) : Cost-effectiveness of advanced colorectal cancer chemotherapy in Japan. Korea-Japan-China Colorectal Cancer Symposium (The 13th) (ソウル), 2012. 9.
- 69) 鈴木英之, 吉野雅則, 松信哲朗, 三浦克洋, 豊田哲鎬, 中田亮輔, 大山莉奈, 渡辺昌則, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学 消化器外科) : Cost-effectiveness of advanced colorectal cancer chemotherapy in Japan. Korea-Japan-China Colorectal Cancer Symposium (The 13th) (ソウル), 2012. 9.
- 70) 和田由大¹⁾, 塩谷 猛¹⁾, 南部弘太郎¹⁾, 渡邊善正¹⁾, 黒田誠司¹⁾, 山田太郎¹⁾, 内間久隆²⁾ (1) さいたま市民医療センター 外科, ²⁾ さいたま市民医療センター 病理診断科) : 腸閉塞を来した単純性小腸潰瘍に腹腔鏡補助下小腸切除術を施行した 1 例. 埼玉県外科集談会 (第 30 回) (埼玉), 2012. 10.
- 71) 和田由大¹⁾, 塩谷 猛¹⁾, 南部弘太郎¹⁾, 渡邊善正¹⁾, 黒田誠司¹⁾, 山田太郎¹⁾, 中島嘉之²⁾, 浅見育広²⁾, 福田重信²⁾, 大竹はるか²⁾ (1) さいたま市民医療センター 外科, ²⁾ さいたま市民医療センター 消化器内科) : 腸石によるイレウスに対し腹腔鏡補助下腸石採石術を施行した 1 例. 外科集談会 (第 827 回) (東京), 2012. 12.
- 72) 村木 輝, 鈴木英之, 水谷 聡, 星野有哉, 渡辺昌則, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学 外科) : 胆囊総肝管瘻, 胆嚢十二指腸瘻を同時に伴う Mirizzi 症候群の 1 例. 日本肝胆膵外科学会学術集会 (第 24 回) (大阪), 2012. 5.
- 73) 村木 輝, 水谷 聡, 星野有哉, 八木重記, 相本隆幸¹⁾, 内田英二¹⁾, 鈴木英之 (1) 日本医科大学 外科) : Long-term Outcome after Frey Procedures for Chronic Pancreatitis with Inflammatory Mass of the Pancreatic Head : Comparison of Pancreaticoduodenectomy. European Pancreatic Club 2012 (The 44th Meeting) (Prague (Czech Republic)), 2012. 6.
- 74) 村木 輝, 山本康弘¹⁾, 岡村幹郎¹⁾, 重原健吾¹⁾, 宮本正之¹⁾, 鈴木和香子¹⁾ (1) 小林病院 外科) : 寄生虫による腸管外肉芽組織に起因した小腸イレウスの 1 例. 日本臨床外科学会北海道支部総会 (第 101 回) (釧路), 2012. 7.
- 75) 村木 輝, 山本康弘¹⁾, 岡村幹郎¹⁾, 重原健吾¹⁾, 宮本正之¹⁾, 鈴木和香子¹⁾ (1) 小林病院 外科) : 寄生虫の腸管外迷入に起因した小腸イレウスの 1 例. 日本臨床外科学会総会 (第 74 回) (新宿 (東京)), 2012. 11.
- 76) 村木 輝, 鈴木英之, 松信哲朗, 渡辺昌則, 吉野雅則, 小峯 修, 水谷 聡, 千原直人, 前島顕太郎, 三浦克洋, 豊田哲鎬, 中田亮輔, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学 外科) : 術者の技量とアクセスポートにこだわった腹腔鏡下虫垂切除術の工夫. 日本腹部救急医学会総会 (第 49 回) (福岡), 2013. 3.

- 77) 豊田哲鎬, 鈴木英之, 吉野雅則, 水谷 聡, 松信哲朗, 三浦克洋, 清水貴夫, 大山莉奈, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学 外科): 虫垂切除後診断された虫垂胚細胞カルチノイドの1例. 日本腹部救急医学会総会 (第49回) (福岡), 2013. 3.
- 78) 重原健吾¹⁾, 岡村幹郎¹⁾, 宮本正之¹⁾, 村木 輝, 鈴木和香子¹⁾, 山本康弘¹⁾ (1) 小林病院 外科): 下部消化管手術における皮膚埋没縫合の有用性の検討. 日本外科感染症学会総会学術集会 (第25回) (幕張 (千葉)), 2012. 11.
- 79) 山本康弘¹⁾, 岡村幹郎¹⁾, 重原健吾¹⁾, 宮本正之¹⁾, 村木 輝, 鈴木和香子¹⁾ (1) 小林病院 外科): TS-1/CDDPでCRを得た胃癌吻合部再発の1例. 日本癌治療学会学術集会 (第50回) (横浜 (神奈川)), 2012. 10.
- 80) 岡村幹郎¹⁾, 山本康弘¹⁾, 鈴木和香子¹⁾, 宮本正之¹⁾, 村木 輝, 重原健吾¹⁾ (1) 小林病院 外科): 十二指腸球部原発神経内分泌癌の1例. 日本癌治療学会学術集会 (第50回) (横浜 (神奈川)), 2012. 10.
- 81) 宮本正之¹⁾, 山本康弘¹⁾, 鈴木和香子¹⁾, 村木 輝, 重原健吾¹⁾, 岡村幹郎¹⁾ (1) 小林病院 外科): 進行大腸癌における抗癌剤感受性試験と予後の相関について. 日本臨床外科学会 (第74回) (新宿 (東京)), 2012. 11.
- 82) 坊 英樹, 渡辺昌則, 尾形昌男, 鈴木英之, 徳永 昭, 内田英二¹⁾ (1) 付属病院 消化器外科): 消化器癌手術における手術部位感染防止に対する真皮縫合. 日本外科学会定期学術集会 (第112回) (千葉), 2012. 4.
- 83) 坊 英樹, 前島顕太郎, 小峯 修, 吉野雅則, 渡辺昌則, 鈴木英之, 徳永 昭, 内田英二¹⁾ (1) 付属病院 消化器外科): 消化器癌手術における手術部位感染防止に対する真皮縫合. 日本消化器外科学会大会 (第10回) (JDDW) (神戸), 2012. 10.
- 84) 坊 英樹, 前島顕太郎, 小峯 修, 吉野雅則, 渡辺昌則, 鈴木英之, 徳永 昭, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学 消化器外科): 消化器癌手術における手術部位感染防止に対する真皮縫合. 日本消化器外科学会総会 (第67回) (富山), 2012. 7.
- 85) 坊 英樹, 前島顕太郎, 鈴木英之, 渡辺昌則, 小峯 修, 内田英二¹⁾ (1) 付属病院 消化器外科): 80歳以上高齢者胃癌手術におけるE-PASS scoring systemと術後合併症の検討. 日本胃癌学会総会 (第85回) (大阪), 2013. 3.
- 86) 山岸征嗣, 鈴木英之, 吉野雅則, 松信哲朗, 豊田哲鎬, 野村 聡, 大山莉奈, 水谷 聡, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学 外科): 下部消化管出血のIVR後に消化管穿孔をきたした1例. 日本腹部救急医学会 (第49回) (福岡), 2013. 3.
- 87) 山岸征嗣: エネルギーデバイスの使い方とこつ. 橋桜消化器外科研究会 (第2回) (東京), 2013. 3.
- 88) 中田亮輔, 鈴木英之, 渡辺昌則, 吉野雅則, 千原直人, 松信哲朗, 三浦克洋, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学 外科): 胃検診後のバリウム排泄遅延による直腸潰瘍の1例. 消化器内視鏡学会関東地方会 (第64回) (東京), 2012. 6.
- 89) 中田亮輔, 鈴木英之, 小峯 修, 渡辺昌則, 星野有哉, 坊 英樹, 吉野雅則, 水谷 聡, 千原直人, 松信哲朗, 前島顕太郎, 三浦克洋, 村木 輝, 黒田誠司, 内田英二¹⁾, その他3名 (1) 日本医科大学 外科): 消化管位置異常を伴う虫垂炎に対する腹腔鏡手術の2例. JDDW2012 日本消化器外科学会大会 (第10回) (神戸), 2012. 10.
- 90) 中田亮輔, 鈴木英之, 松信哲朗, 吉野雅則, 三浦克洋, 豊田哲鎬, 大山莉奈, 千原直人, 渡辺昌則, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学 外科): 機能的端々吻合 (open法) 術後に吻合部再発をきたした上行結腸癌の1例. 日本大腸肛門病学会学術集会 (第67回) (福岡), 2012. 11.
- 91) 中田亮輔, 鈴木英之, 前島顕太郎, 渡辺昌則, 星野有哉, 坊 英樹, 吉野雅則, 小峯 修, 水谷 聡, 千原直人, 松信哲朗, 三浦克洋, 野村 聡, 豊田哲鎬, 内田英二¹⁾, その他3名 (1) 日本医科大学 外科): 術前CTにて診断された魚骨による盲腸穿孔を, 腹腔鏡下に治療しえた1例. 日本内視鏡外科学会総会 (第25回) (横浜), 2012. 12.
- 92) 中田亮輔, 鈴木英之, 渡辺昌則, 吉野雅則, 千原直人, 松信哲朗, 三浦克洋, 豊田哲鎬, 内田英二 (1) 日本医

科大学外科)：検診を契機に診断された無症候性アメーバ性腸炎の1例。外科集談会(第825回)(東京), 2012. 6.

93) 中田亮輔, 鈴木英之, 吉野雅則, 松信哲朗, 渡辺昌則, 千原直人, 三浦克洋, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学 外科)：A case of early perforation after the colorectal tube placement in an obstructive transvers colon cancer. Korea-Japan-China Colorectal Cancer Symposium (The 13th) (ソウル), 2012. 9.

94) 中田亮輔, 鈴木英之, 千原直人, 渡辺昌則, 星野有哉, 小峯 修, 吉野雅則, 水谷 聡, 松信哲朗, 大山莉奈, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学 外科)：The stability and utility of recoil ring mesh for laparoscopic trans-preperitoneal hernioplasty (TAPP). Annual Hernia Repair (15th) (Orlando,FL), 2013. 3.

95) 山際 亮, 水谷 聡, 鈴木英之, 豊田哲鎬, 山岸征嗣, 村木 輝, 渡辺昌則, 田島廣之¹⁾, 内田英二²⁾ (1) 日本医科大学武蔵小杉病院 血管内低侵襲治療センター, ²⁾ 日本医科大学 外科)：IVRにより救命し得た脾頭部癌十二指腸出血の1例。日本腹部救急医学会総会(第49回)(福岡), 2013. 3.

(5) 要望演題：

1) 鈴木英之, 吉野雅則, 松信哲朗, 三浦克洋, 菅 隼人¹⁾, 松本智司²⁾, 小泉岐博¹⁾, 渡辺昌則, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学 外科, ²⁾ 日本医科大学 千葉北総病院 外科)：肥満症例に対する大腸癌腹腔鏡下手術。日本消化器外科学会総会(第67回)(富山), 2012. 7.

2) 鈴木英之, 吉野雅則, 松信哲朗, 三浦克洋, 豊田哲鎬, 菅 隼人¹⁾, 松本智司¹⁾, 小泉岐博¹⁾, 中田亮輔, 渡辺昌則, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学 消化器外科)：肥満症例に対する腹腔鏡下大腸手術(LAC)の特徴と対策。日本内視鏡外科学会総会(第25回)(横浜), 2012. 12.

[武蔵小杉病院循環器内科, 呼吸器内科, 腎臓内科, 神経内科, 動脈硬化・糖尿病・内分泌内科, 消化器内科, 腫瘍内科]

研究概要

認知症センター：臨床では、認知症の診断治療を行っています。認知症の早期発見と画像検査、そして認知症の人と家族を支える社会連携についての研究を行っています。私達の街ぐるみ認知症相談センターは、ユニークなものであり、日本で唯一の機関です。これまでの臨床と研究活動により、武蔵小杉病院は2012年12月に川崎市の認知症疾患医療センターに認定されています。腎臓内科：腎臓内科は少人数であるが、2012年度も活発な学会活動と論文発表を行った。学会活動で、日本腎臓学会東部学術集会において大野がdense deposit diseaseの1例を、大塚がproliferative glomerulonephritis with monoclonal IgG depositsの1例をそれぞれ報告した。日本透析医学会では、大塚が超高齢者腹膜透析導入について、酒井が武蔵小杉病院の透析に関する疫学調査を発表した。また日本腹膜透析医学会では大塚がCAPD患者に対するtolvaptanの有効性について報告した。論文については、酒井が英文原著を2報発表した。呼吸器では1：VF検査を利用した誤嚥予防策の有効性の検討。2：看護部と共同で長期間の非浸襲的持続陽圧呼吸使用時のマスク着用による褥瘡形成の予防策の検討。3：慢性呼吸不全疾患に対するリハビリテーション及び栄養療法による呼吸状態の研究。4：肺高血圧合併の呼吸不全患者の右心カテーテル所見による治療の有効性の検討。5：高齢者肺癌に対する適切な治療法の検討。今後継続的に研究を行う。内分泌糖尿病動脈硬化内科：成長ホルモンやインスリン様成長因子に関する基礎研究を国内外にて発表した。また原発性アルドステロン症に対し、副腎静脈サンプリングの結果を踏まえた治療方法に関する報告を行った。

循環器内科は冠動脈インターベンション、心不全に関する臨床研究を多数行い論文・学会発表を行った。

研究業績

論文

[追加分]

追加分総説：

- 1) 山本英世, 佐藤直樹, 田島廣之¹⁾ (1) 武蔵小杉病院血管内・低侵襲治療センター)：急性心筋梗塞に対する PCI できる救急 IVR 2012；86-88.
- 2) 山本英世, 徳山榮男, 水野杏一¹⁾ (1) 付属病院循環器内科)：急性心筋梗塞：ショックへの対応 (IABP,PCPS). できる救急 IVR 2012；89-91.
- 3) 山本英世, 中摩健二, 高野仁司¹⁾ (1) 付属病院循環器内科)：IVR 中における冠動脈損傷. できる救急 IVR 2012；92-93.
- 4) 山本英世, 菊池有史, 田島廣之¹⁾ (1) 武蔵小杉病院血管内・低侵襲治療センター)：心嚢ドレナージ. できる救急 IVR 2012；176-177.

(1) 原著：

- 1) Sakai Y, Otsuka T, Ohno D, Murasawa T, Naoki S, Mizuno K¹⁾ (1) Division of Cardiology, Department of Internal Medicine)：Efficacy of Aliskiren in Japanese Chronic Kidney Disease Patients with Hypertension. Renal Failure 2012；34 (4)：443-448.
- 2) Sakai Y, Kadoatsu Y¹⁾, Sakai S, Otsuka T, Ohno D, Murasawa T, Sato N, Mizuno K²⁾ (1) Department of Medical Engineering Nippon Medical School Musashikosugi Hospital, 2) Division of Cardiology, Department of Internal Medicine Nippon Medical School)：History and Current Practice of Blood Purification Therapy in Nippon Medical School Musashikosugi Hospital：31 Years of Practice. J Nippon Med Sch 2012；79 (5)：357-361.
- 3) 鈴木 学¹⁾, 坪 宏一¹⁾, 山本 剛¹⁾, 佐藤直樹, 竹田晋治¹⁾, 田中啓治¹⁾ (1) 付属病院集中治療室)：Medical ICU における sepsis/septic shock への低用量ステロイド投与に関する検討. ICU と CCU 2012；36 (12)：1103-1109.
- 4) Gheorghiade M¹⁾, Marti NC²⁾, Greene JS¹⁾, Sabbah NH³⁾, Roessing L⁴⁾, Burnett CJ⁵⁾, Campia U¹⁾, Collins PS⁶⁾, Cleland GJ⁸⁾, Levy DP⁷⁾, Gregg CF⁹⁾, Pitt B¹⁰⁾, Metra M¹⁰⁾, Ponikowski P¹⁰⁾, Sato N, et al. (1) Center of Cardiovascular Innovation, Northern University Feinberg School of Medicine, 2) Emory University, Atlanta, 3) Henry Ford Hospital, Detroit, 4) Global Clinical Development, Bayer HealthCare AG, Wuppertal, Germany, 5) Mayo Clinic, Rochester, 6) Vanderbilt University, 7) Wayne State University, 8) Castle Hill Hospital, Hull York Medical School, 9) University of California, 10) and others)：Soluble guanylate：a potential therapeutic target for heart failure. Heart Fail Rev 2013；(18)：123-134.
- 5) Gheorghiade M¹⁾, Vaduganathan M²⁾, Greene JS¹⁾, Mentz JR³⁾, Adams Jr FK⁴⁾, Anker FS⁵⁾, Arnold M⁶⁾, Baschiera F⁷⁾, Cleland GJ⁸⁾, Cotter G⁹⁾, Fonarow CG¹⁰⁾, Giordano C¹⁰⁾, Metra M¹⁰⁾, Misselwitz F¹⁰⁾, Naoki S, et al. (1) Center for Cardiovascular Innovation, Northern University Feinberg School of Medicine, 2) Department of Medicine, Massachusetts General Hospital, Harvard Medical School, 3) Division of Cardiology, Department of Medicine, Duke University Medical Center, 4) University of North Carolina School of Medicine, 5) Center for Clinical and Basic Research, IRCCS San Raffaele, 6) Division of Cardiology, University of Western Ontario, 7) Novartis Pharma AG, 8) Castle Hill Hospital, Hull York Medical School, 9) Momentum-Research, Inc, 10) and others)：Site selection in global clinical trials in patients hospitalised for heart failure：perceived problems and potential solutions. Heart Fail Rev 2012；Epub.
- 6) Sato N：Blood Urea Nitrogen as an Integrated Biomarker for Hospitalized Heart Failure. Circulation Journal

2012 ; 76 (10) : 2329-2330.

- 7) Nomura T¹⁾, Matsumoto S²⁾, Kitamura S, Ishiwata A³⁾, Ishii C³⁾, Nemoto R³⁾, Kawanami O³⁾ (1) 日本医科大学心理学, 2) Department of Neurology, Nippon Medical School, 3) 認知症相談センター) : Roles of consultation organizations in the early detection of dementia : from the practices of the community consultation Center for Citizens with mild cognitive impairment and dementia. J Nippon Med Sch 2012 ; 79 (6) : 438-443.
 - 8) 石渡明子¹⁾, 北村 伸, 野村俊明²⁾, 根本留美³⁾, 石井和香³⁾, 若松直樹³⁾, 片山泰朗¹⁾, 川並汪一³⁾ (1) 付属病院神経内科, 2) 日本医科大学心理学, 3) 街ぐるみ認知症相談センター) : 街ぐるみ認知症相談センターの4年間の活動状況. 日医大医会誌 2013 ; 9 (1) : 14-19.
 - 9) Takumi I¹⁾, Mishina M²⁾, Hironaka K²⁾, Ooyama K²⁾, Yamada A²⁾, Adachi K²⁾, Hamamoto M, Kitamura S, Yoshida D²⁾, Teramoto A²⁾ (1) Neurosurgery Musashikosugi Hospital, 2) 不明) : Simple Solution for Cerebrospinal Fluid Loss and Brain Shift in Semi-supine-positioned Multitrack Deep Brain Stimulation Surgery : Polyethylene Glycol Hydrogel Dural Sealant Dapping. Neurol Med Chir 2013 ; 53 : 1-6.
 - 10) 田島廣之¹⁾, 金城忠志¹⁾, 竹ノ下尚子¹⁾, 市川太郎²⁾, 山本英世, 菊池有史, 佐藤直樹, 村田 智³⁾, 中沢 賢³⁾, 小野澤志郎³⁾, 山本 剛⁴⁾, 田中啓治⁴⁾ (1) 武蔵小杉病院血管内・低侵襲治療センター, 2) 武蔵小杉病院放射線科, 3) 付属病院放射線科, 4) 付属病院集中治療室) : 急性肺血栓塞栓症のカテーテル治療. 日本静脈学会 2013 ; 24 (1) : 79-86.
- (2) 総説 :
- 1) 佐藤直樹 : 腎傷害と急性心不全—新展開. Cefiro 2012 ; (15) : 20-22.
 - 2) 佐藤直樹 : 高血圧と急性心不全. 日本医事新報 2012 ; (4592) : 76-80.
 - 3) 佐藤直樹 : 薬物療法 : 温故知新. 心臓 2012 ; 44 (5) : 528-530.
 - 4) 酒井行直, 佐藤直樹 : 急性心不全症候群における急性腎障害. Heart View 2012 ; 16 (9) : 14-19.
 - 5) 石田洋子¹⁾, 佐藤直樹 (1) 武蔵小杉病院看護部) : 急性心不全における薬物治療の実際と最新治験. Heart 2012 ; 12 (10) : 28-35.
 - 6) 佐藤直樹 : 急性心不全レジストリーから心不全の実態を探る. 最新医学 2012 ; 67 (7) : 1632-1638.
 - 7) 佐藤直樹 : 高齢者心不全患者のQOLの改善を目的とした薬物療法. MEDICAMENT NEWS 2012 ; (2099) : 11-12.
 - 8) 佐藤直樹 : 急性心不全. Heart View 2012 ; 16 (12) : 43-47.
 - 9) 佐藤直樹 : 心不全治療における利尿. 医学のあゆみ 2012 ; 243 (3) : 241-244.
 - 10) 佐藤直樹 : より良い急性心不全治療を目指して. 循環制御 2012 ; 33 (2) : 67-69.
 - 11) 佐藤直樹 : 急性心不全治療のエビデンス構築にむけて. medicina 2012 ; 49 (13) : 2170-2172.
 - 12) 佐藤直樹 : 心原性ショック. 今日の循環器疾患治療指針 2013 ; 92-96.
 - 13) 佐藤直樹 : 心原性肺水腫. 日本胸部臨床 2013 ; 72 (1) : 21-27.
 - 14) 佐藤直樹, 加藤真帆¹⁾, 梶本克也²⁾, 絹川弘一郎³⁾ (1) 日本大学医学部循環器内科, 2) 浅草寺病院循環器内科, 3) 東京大学大学院医学系研究科重症心不全治療開発講座) : 日本の心不全治療維新. Nikkei Medical 2013 ; 1 (4).
 - 15) 徳山榮男, 佐藤直樹 : 急性心不全, 慢性心不全急性増悪. レジデント 2013 ; 6 (3) : 14-24.
 - 16) 北村 伸 : メマンチンの基礎と特徴. Medicinal 2012 ; 2 (5) : 63-71.
 - 17) 北村 伸 : 認知症の検査と診断 脳形態画像のポイント—CT, MRI. Medicinal Practice 2012 ; 29 (5) : 773-779.
 - 18) 北村 伸 : 認知症の治療 1) 薬物療法. 医薬ジャーナル 2012 ; 48 (8) : 1985-1989.
 - 19) 北村 伸 : 認知症診断に必要な検査法 2) 画像検査 (CT/MRISPECT/PET). Medical Technology 2012 ; 41 (3) : 264-268.

20) 菊池有史：非侵襲・低侵襲的評価. *medicina* 2012；49（13）：2082-2086.

- 1) 佐藤直樹, 谷田貝茂雄¹⁾, 笹尾健一郎²⁾, 池亀俊美³⁾ (1) やたがいくクリニック, 2) 済生会中央病院救急診療科, 3) 聖路加国際病院聖路加メディロークス)：急性心不全診療をより良くするために. *medicina* 2012；49（13）：2174-2186.

著書

〔追加分〕

追加分：

- 1) 佐藤直樹：〔分担〕急性心不全の疫学. 心不全診療のQ&A（天木 誠），2012；pp7-9, 中外医学社.
- 1) 佐藤直樹：〔分担〕急性非代償性心不全にAKIのを生じた場合の対応について教えてください. 急性腎不全・AKI診療Q&A, 2012；pp101-102, 中外医学社.
- 2) 佐藤直樹：〔分担〕ベンチレーター・バンドル（ventilator bundle）とは？. パーフェクトガイド呼吸管理とケア, 2012；pp302-303, 総合医学社.
- 3) 北村 伸：〔分担〕認知症治療の現状と問題. エビデンスに基づく認知症補完療法へのアプローチ（工藤千秋 長谷川和夫 武者利光），2012；p165, パーソン書房.

学会発表

(1) 特別講演：

- 1) 白杵二郎：Sequential Analysis of Myofibroblast Differentiation and Transforming Growth Factor β 1/Smad Pathway Activation in Murine Pulmonary Fibrosis. 日本医科大学医学会総会（東京），2012. 9.
- 2) 北村 伸, 仁藤千香子¹⁾ (1) 付属病院神経内科)：血管性認知症とレビー小体型認知症の画像診断. 日本老年精神医学会（第27回）（大宮），2012. 6.

(2) シンポジウム：

- 1) 佐藤直樹：疫学調査から見えてくる日本の急性心不全患者の実態. 日本心不全学会学術集会（第16回）（仙台），2012. 11.
- 2) 佐藤直樹：急性期・慢性期の侵襲的陽圧換気療法の現状と今後の展望. 日本心不全学会学術集会（第16回）（仙台），2012. 11.
- 3) 北村 伸, 田中美枝子¹⁾ (1) 脳機能研究所)：脳波ルネッサンスー DIMENSION と NAT (Nuronal activity Topography) による新しい診断法ー：川崎市におけるまちぐるみ認知症相談センターでの Dimension 解析の有用性. 日本認知症学会学術集会（第31回）（筑波），2012. 10.
- 4) 高橋直人, 花岡大輔, 石川昌弘, 菊池有史, 山本英世, 網谷賢一, 内田高浩, 佐藤直樹, 宗像一雄, 汲田伸一郎¹⁾, 水野杏一²⁾ (1) 付属病院放射線科, 2) 付属病院循環器内科)：Gated Single Photon Emission Computed Tomography (GSPECT) Imaging beyond as Conventional Tool. 日本循環器学会学術集会（第77回）（横浜），2013. 3.

(3) パネルディスカッション：

- 1) 山本英世：急性心原性肺水腫例. 日本循環器学会学術集会（第77回）（横浜），2013. 3.

(4) セミナー：

- 1) 北村 伸：認知症の予防と治療を考える. 日本老年医学会学術集会・総会（東京），2012. 6.
- 2) 北村 伸：問診と神経学的診察. 日本老年医学会学術集会・総会（第54回）（東京），2012. 6.
- 3) 北村 伸：目からウロコ明日からできる認知症診療. 日本内科学会総会・講演会（第109回）（京都），2012. 4.
- 4) 北村 伸：問診と神経学的診察. 日本老年医学会総会（第53回）（東京），2012. 6.
- 5) 北村 伸：認知症の予防と治療を考える. 日本老年医学会総会（第53回）（東京），2012. 6.

(5) 一般講演：

- 1) 成田宏介¹⁾, 藤田和恵¹⁾, 林 宏紀¹⁾, 斎藤好信¹⁾, 山口朋禎, 吾妻安良太¹⁾, 弦間昭彦¹⁾ (1) 付属病院呼吸器内科) : L.pneumophila 血清群 12 による肺炎の症例報告は少ない。今回, 若干の文献の考察を加えて広告する。日本感染症学会東日本地方会学術集会 (第 61 回) (東京), 2012. 10.
- 2) 鈴木安奈, 菊池有史, 徳山榮男, 表 俊也, 山本英世, 大場るり子, 石川真由美, 南 史朗, 佐藤直樹 : 甲状腺クリーゼを契機にタコツボ型心筋症および左室細動を併発し救命しえた 1 例。内科学会関東地方会 (595 回) (東京), 2013. 3.
- 3) 石川真由美, 中島敏晶, 大場るり子, 南 史朗 : 口腔内カンジタ症を契機に発症した非ケトン性高浸透圧性昏睡の 1 例。日本内科学会関東地方会 (第 594 回) (東京), 2013. 2.
- 4) 中摩健二, 稲見茂信¹⁾, 久保田芳明¹⁾, 吉田明日香¹⁾, 中村俊一¹⁾, 神谷仁孝¹⁾, 村井綱兄¹⁾, 時田祐吉¹⁾, 高木元¹⁾, 高野仁司¹⁾, 浅井邦也¹⁾, 安武正弘¹⁾, 水野杏一¹⁾ (1) 付属病院循環器内科) : 嚴重な脂質管理にも関わらず Nobori 留置部位に黄色内膜を認めた症例。日本冠疾患学会学術集会 (第 6 回) (東京), 2012. 12.
- 5) 高木 聡¹⁾, 月岡悦子¹⁾, 山口貴子¹⁾, 板倉潮人, 白杵二郎 (1) 武蔵小杉病院看護部) : NPPV マスクの比較と効果的な選択方法の検討。日本呼吸ケア・リハビリテーション学会学術集会 (第 22 回) (福井), 2012. 11.
- 6) 山口朋禎, 本郷公英, 板倉潮人, 木下賀央里, 春原沙織, 白杵二郎 : フィブリン糊による気管支 閉鎖に成功し治癒した横隔膜下膿瘍の 1 例。日本呼吸器内視鏡学会関東支部会 (第 143 回) (東京), 2012. 12.
- 7) 成田宏介¹⁾, 藤田和恵¹⁾, 林 宏紀¹⁾, 斎藤好信¹⁾, 山口朋禎, 吾妻安良太¹⁾, 弦間昭彦¹⁾ (1) 付属病院呼吸器内科) : F-18-FDG PET/CT 検査を施行した呼吸器感染症症例の臨床的検討。日本感染症学会東日本地方会学術集会 (東京), 2012. 10.
- 8) 本郷公英, 高木宏治, 徳山榮男, 木下賀央里, 春原沙織, 菊池有史, 板倉潮人, 山本英世, 山口朋禎, 白杵二郎, 佐藤直樹 : 肺炎球菌性肺炎による急性呼吸窮迫症候群 (ARDS) に対し対外膜型酸素付加装置 (ECMO) を装着し救命し得た 1 例。日本呼吸器学会関東地方会 (第 201 回) (横浜), 2012. 9.
- 9) 大野 大, 大塚智之, 酒井行直, 村澤恒男 : 検診を機に発見された dense deposit disease の 1 例。日本腎臓学会東部学術大会 (第 42 回) (新潟), 2012. 10.
- 10) 大塚智之, 大野 大, 酒井行直, 村澤恒男 : 基礎疾患の明らかでない proliferative glomerulonephritis with monoclonal IgG deposits の 1 例。日本腎臓学会東部学術大会 (第 42) (新潟), 2012. 10.
- 11) 大塚智之, 大野 大, 酒井行直, 村澤恒男, 佐藤直樹, 大木麻美¹⁾, 山下英彦¹⁾, 前田幸生¹⁾ (1) 武蔵小杉病院血液浄化療法室) : 腹膜透析患者に tolvaptan を導入した 3 症例。日本腹膜透析医学会学術集会・総会 (第 18 回) (徳島), 2012. 9.
- 12) 山口朋禎, 本郷公英, 板倉潮人, 木下賀央里, 春原沙織, 白杵二郎 : 検診にて偶然発見された気管支動脈肺動脈奇形の 1 例。日本呼吸器学会関東地方会 (第 200 回) (東京), 2012. 7.
- 13) 山口朋禎, 木下賀央里, 春原沙織, 本郷公英, 板倉潮人, 白杵二郎 : 慢性呼吸器疾患におけるラメルテオンの不眠症治療に関する検討。日本呼吸器学会学術講演会 (第 52 回) (神戸), 2012. 4.
- 14) 板倉潮人, 木下賀央里, 春原沙織, 本郷公英, 山口朋禎, 白杵二郎 : 著明な肺高血圧症を合併し, 血管拡張剤の効果をも認めた嚢胞性線維症の一部検例。日本呼吸器学会学術講演会 (第 52 回) (神戸), 2012. 4.
- 15) 高木宏治, 山本英世, 鈴木啓士, 曾根教子, 表 俊也, 徳山榮男, 中村有希, 菊池有史, 石川昌弘, 網谷賢一, 高橋直人, 内田高浩, 佐藤直樹, 田島廣之¹⁾, 水野杏一²⁾, その他 2 名 (1) 武蔵小杉病院血管内・低侵襲治療センター, 2) 付属病院循環器内科) : 巨大嚢状動脈瘤を伴った冠動脈肺動脈血管奇形に対してコイル塞栓術を行った 1 例。日本血管内治療学会総会 (第 18 回) (東京), 2012. 7.
- 16) 酒井行直, 酒井沙織, 大塚智之, 大野 大, 村澤恒男, 門松 豊¹⁾, 前田幸生¹⁾, 佐藤直樹 (1) 武蔵小杉病院血液浄化療法室) : 日本医科大学武蔵小杉病院血液浄化療法室の歩み。日本透析医学会 (第 57 回) (札幌), 2012. 6.

- 17) 大塚智之, 酒井行直, 大野 大, 村澤恒男, 佐藤直樹, 大木麻美¹⁾, 前田幸生¹⁾, 渡辺祥子¹⁾, 山下英彦¹⁾ (武蔵小杉病院血液浄化療法室) : 腹膜透析を導入し良好な経過が得られた超高齢末期腎不全患者の1例. 日本透析医学会 (第57回) (札幌), 2012. 6.
- 18) 下地玉恵¹⁾, 赤羽日出男²⁾, 山口朋禎, 岸 泰宏³⁾, 若城由美子⁴⁾, 宮内秀典⁴⁾, 栗原香織¹⁾, 小泉嘉子¹⁾ (1) 武蔵小杉病院看護部, 2) 武蔵小杉病院麻酔科, 3) 武蔵小杉病院精神科, 4) 武蔵小杉病院薬剤部) : 当院における緩和ケア啓発普及活動の状況. 日本緩和医療学会学術大会 (岡山), 2012. 6.
- 19) 石川昌弘, 花岡大輔, 菊池有史, 山本英世, 網谷賢一, 高橋直人, 内田高浩, 佐藤直樹, 汲田伸一郎¹⁾, 水野杏一²⁾ (1) 付属病院放射線科, 2) 付属病院循環器内科) : 慢性腎臓病における左室同期不全の検討. 日本心臓核医学総会・学術大会 (第22回) (金沢), 2012. 6.
- 20) Takahashi N, Ishikawa M, Hanaoka D, Kikuchi A, Yamamoto E, Amitani K, Uchida T, Sato N, Munakata K, Mizuno K¹⁾ (1) Cardiology, Nippon Medical School Hospital) : Transient myocardial ischemia induced left ventricular mechanical dyssynchrony in patients with coronary artery disease. American College of Cardiology (MIAMI), 2012. 6.
- 21) Ishikawa M, Takahashi N, Hanaoka D, Kikuchi A, Yamamoto E, Amitani K, Uchida T, Sato N, Munakata K, Mizuno K¹⁾ (1) Cardiology, Nippon Medical School Hospital) : Assessment of left ventricular mechanical dyssynchrony in patients with end-stage renal disease. American College of Cardiology (ACC) (MIAMI), 2012. 6.
- 22) 成田宏介¹⁾, 藤田和恵¹⁾, 林 宏紀¹⁾, 齋藤好信¹⁾, 山口朋禎, 吾妻安良太¹⁾, 弦間昭彦¹⁾ (1) 付属病院呼吸器内科) : 非 HIV 症例における肺クリプトコックス症の臨床的検討. 日本感染症学会総会学術講演 (第86回) (長崎), 2012. 4.
- 23) 望月 徹¹⁾, 野口周作²⁾, 山口朋禎, 八木 孝, 中摩健二, 上野ひろむ³⁾, 渡辺昌則⁴⁾ (1) 武蔵小杉病院救命救急センター, 2) 武蔵小杉病院薬剤部, 3) 武蔵小杉病院看護部, 4) 武蔵小杉病院消化器病センター) : アシネトバクター・パウマニに対するエピガロカテキングレートの殺菌静菌効力の検討. 日本感染症学会総会学術講演 (第86回) (長崎), 2012. 4.
- 24) 北村 伸, 野村俊明¹⁾, 根本留美¹⁾, 並木香奈子¹⁾ (1) 日本医科大学町ぐるみ認知症相談センター) : 認知症を支える社会連携構築と認知症早期発見の試み. 日本老年医学会学術集会・総会 (第54回) (東京), 2012. 6.
- 25) Takahashi N, Ishikawa M, Hanaoka D, Kikuchi A, Yamamoto E, Amitani K, Uchida T, Sato N, Munakata K, Mizuno K¹⁾ (1) Cardiology, Nippon Medical School Hospital) : Potential Ability of Hemodialysis Therapy for Improvement of left Ventricular Mechanical Dyssynchrony in Patients with End-Stage Renal Diseasefree. American College of Cardiology (ACC) (MIAMI), 2012. 6.
- 26) 高橋直人, 花岡大輔, 菊池有史, 山本英世, 網谷賢一, 石川昌弘, 内田高浩, 佐藤直樹, 汲田伸一郎¹⁾, 水野杏一²⁾ (1) 付属病院放射線科, 2) 付属病院循環器内科) : 安定狭心症における左室同期不全の負荷変化における検討. 日本心臓核医学総会・学術大会 (第22回) (金沢), 2012. 6.
- 27) Hanaoka D, Takahashi N, Ishikawa M, Kikuchi A, Yamamoto E, Amitani K, Uchida T, Sato N, Munakata K, Kumita S¹⁾, Mizuno K²⁾ (1) Radiology, Nippon Medical School Hospital, 2) Cardiology, Nippon Medical School Hospital) : Left Ventricular Dyssynchrony is Associated Only with Wall Motion, but with Neither Ischemic Severity nor Extent in Ischemic Heart Disease.. 日本循環器学会学術集会 (第77回) (横浜), 2013. 3.
- 28) Takahashi N, Hanaoka D, Ishikawa M, Kikuchi A, Yamamoto E, Amitani K, Uchida T, Sato N, Munakata K, Kumita S¹⁾, Mizuno K²⁾ (1) Radiology, Nippon Medical School Hospital, 2) Cardiology, Nippon Medical School Hospital) : Gated Single Photon Emission Computed Tomography (GSPECT) Imaging beyond as Conventional Tool. 日本循環器学会学術集会 (第77回) (横浜), 2013. 3.

- 29) Ishikawa M, Takahashi N, Kikuchi A, Yamamoto E, Amitani K, Uchida T, Sato N, Munakata K, Mizuno K ⁽¹⁾ Cardiology, Nippon Medical School Hospital) : Assessment of Left Ventricular Mechanical Dys-synchrony in Patients with Chronic Kidney Disease. European Society of Cardiology (ESC) 2012 (München), 2012. 8.
- 30) 吉田奈央¹⁾, 野口周作¹⁾, 望月 徹²⁾, 八木 孝 ⁽¹⁾ 武蔵小杉病院薬剤部, ²⁾ 武蔵小杉病院感染制御部) : ICT 抗菌薬の有用性. 日本化学療法学会学術集会 (第 60 回) (福岡), 2012. 4.
- 31) 石川真由美, 久保木幸司¹⁾, 盛田俊介¹⁾, 芳野 原²⁾ ⁽¹⁾ 東邦大学医学部内科学講座糖尿病代謝内分泌科, ²⁾ 東邦大学医学部臨床検査医学研究室) : 成長ホルモンと加齢によるインスリン受容体/IGF-I 受容体ハイブリッド受容体容量の変化との関連性の検討. 日本内分泌学会学術総会 (第 85 回) (名古屋), 2012. 4.
- 32) Ishikawa M, Barclay LJ¹⁾, Brooks JA¹⁾, Mcphee RT¹⁾, Waters JM¹⁾ ⁽¹⁾ Institute for Molecular Bioscience, University of Queensland) : Hepatic production is regulated by kuppfer cells. The 6th International Congress of the Growth Hormone Research Society and IGF Society (Munich), 2012. 10.
- 33) 石川真由美, 伊賀 涼¹⁾, 小林結香¹⁾, 臼井州樹¹⁾, 久保木幸司¹⁾, 弘世貴久¹⁾ ⁽¹⁾ 東邦大学医学部内科学講座糖尿病代謝内分泌科) : パセドウ病に合併した臨床経過の異なった 1 型糖尿病の 2 症例. 日本内科学会関東地方会 (第 590 回) (東京), 2012. 9.
- 34) 石川真由美, 立山尚子¹⁾, 望月 徹²⁾, 大場るり子, 中島敏晶, 南 史朗 ⁽¹⁾ 武蔵小杉病院女性診療科・産科, ²⁾ 感染制御部) : エルシニア感染症を伴った糖尿病合併妊娠の 1 例. 日本内科学会関東地方会 (第 595 回) (東京), 2013. 3.

[武蔵小杉病院心臓血管外科, 呼吸器外科, 乳腺外科, 内分泌外科]

研究概要

1) 心臓血管外科領域 : ①近年, 心臓血管外科領域において高齢者や他臓器疾患を有するハイリスク症例が増加しており, また複合手術が必要な症例も多く, 高度な手術手技が要求される. 高カリウムを中心とした心筋保護法は確立された方法であるが, 最もすぐれた心筋保護法とは言い難い. 当施設における持続逆行性心筋保護法の有用性について研究している. ②冠動脈バイパス術において, 高度脳血管疾患を有する患者が多く, 周術期の脳血管合併症は依然大きな問題であるといえる. 術前の脳血管の評価から, 術中術後管理における脳合併症の予防に関して研究している. ③冠動脈バイパス手術において, 3次元 CT 検査を用いた静脈グラフトの術前評価を行い, その有用性を検討している. ④大動脈外科におけるステントとグラフトの進歩は著しく, 当施設においても血管内・低侵襲治療センターと連携してハイブリッドステントグラフト手術を行い, その有用性を検討している. 2) 呼吸器外科領域 : 胸部 3DCT の進歩により肺容積の定量が可能となった. この肺容積定量と術前呼吸機能検査をリンクさせることで, より精確な術後 (肺切除後) 予測肺機能の算定を行っている. 特に慢性閉塞性肺疾患 (COPD) や間質性肺炎 (IP) などを合併した低肺機能 (= 高リスク) 肺癌症例においては, その CT 肺容積定量及び肺機能検査から得られるデータとの相関より, より厳密なリスク評価を行い, 術式決定にフィードバックするという臨床研究を行っている. 3) 乳腺外科領域 : 抗癌剤と染色体の関係を観察するために, 乳癌培養細胞を用いた FISH 法と免疫蛍光染色を行い, 蛍光顕微鏡にて細胞個々の染色体を測定し, 細胞遺伝学的な基礎的実験を行っている. また間期細胞と凝集期細胞における染色体を観察し, 核分裂と染色体座の関係も研究する予定である. 4) 内分泌外科領域 : 甲状腺・副甲状腺手術後前頸部創傷治癒の経時的評価, 甲状腺切除量と術後補充療法の必要性の評価. 甲状腺濾胞癌の切除標本を用いた分子生物学的特徴の検索.

研究業績

論文

〔追加分〕

追加分症例報告：

- 1) Maruyama Y¹⁾, Imura H¹⁾, Shirakawa M¹⁾, Ochi M²⁾ (1) Department of Cardiovascular Surgery, Nippon Medical School Musashikosugi Hospital, 2) Department of Cardiovascular Surgery, Nippon Medical School) : Preoperative evaluation of the saphenous vein by 3-D contrastless computed tomography. Interactive Cardiovascular and Thoracic Surgery 2013 ; 16 (4) : 550-552.

追加分：

- 1) Imura H¹⁾, Assione R²⁾, Angelini G²⁾ (1) Cardiovascular Surgery, Nippon Medical School, 2) Bristol Heart Institute, Bristol University) : Lung ventilation/perfusion may reduce pulmonary injury during cardiopulmonary bypass. (Author reply). J Thorac Cardiovasc Surg 2010 ; 139 : 236-237.

(1) 原著：

- 1) Maruyama Y^{1,2)}, Chambers JD¹⁾ (1) Cardiac Surgical Research, The Rayne Institute (King's College London), St Thomas Hospital, 2) Department of Cardiovascular Surgery, Nippon Medical School) : Ischaemic postconditioning : does cardioplegia influence protection?. European Journal of Cardio-Thoracic Surgery 2012 ; 42 : 530-539.

(2) 症例報告：

- 1) Imura H¹⁾, Nitta T¹⁾, Sakamoto S¹⁾, Shimizu K¹⁾, Ochi M¹⁾ (1) Cardiovascular Surgery, Nippon Medical School) : Interactive pathologies of mitral prolapse and true membranous septal aneurysm with a valve like structure. circulation 2012 ; 126 (25) : 3095-3096.
- 2) Maruyama Y¹⁾, Ochi M¹⁾, Shimizu K¹⁾ (1) Department of Cardiovascular Surgery, Nippon Medical School) : Surgical management of a deep femoral artery aneurysm. J Nippon Med Sch 2012 ; 79 (5) : 377-380.

著書

- 1) 丸山雄二¹⁾, 落 雅美¹⁾ (1) 日本医科大学 心臓血管外科) : [分担] IV 章 急性冠症候群 各論 4 急性冠症候群の外科治療. CCU テキスト (田中啓治 山本剛), 2013 ; pp130-132, 文光堂.
- 2) 丸山雄二¹⁾, 落 雅美¹⁾ (1) 日本医科大学 心臓血管外科) : [分担] 川崎病. 冠動脈外科の要点と盲点 (監修 高本眞一 編集 坂田隆造), 2012 ; pp318-324, 文光堂.

学会発表

(1) シンポジウム：

- 1) 丸山雄二¹⁾, Chambers JD²⁾, 別所竜蔵³⁾, 藤井正大¹⁾, 仁科 大³⁾, 落 雅美¹⁾, 清水一雄¹⁾ (1) 日本医科大学 心臓血管外科, 2) St Thomas Hospital, The Rayne Institute (King's College London), Cardiac Surgical Research, 3) 日本医科大学千葉北総病院 心臓血管外科) : Ischemic postconditioning : does cardioplegia influence protection?. 日本心臓血管外科学会 (第 42 回) (秋田), 2012. 4.
- 2) 丸山雄二¹⁾, 柴田匡史¹⁾, 上田仁美¹⁾, 鈴木大悟¹⁾, 栗田二郎¹⁾, 渡邊嘉之¹⁾, 坂本俊一郎¹⁾, 大森裕也¹⁾, 藤井正大¹⁾, 新田 隆¹⁾, 落 雅美¹⁾ (1) 日本医科大学 心臓血管外科) : 川崎病若年成人例に対する冠動脈バイパス術. 日本冠疾患学会学術集会 (第 26 回) (東京), 2012. 12.

(2) ワークショップ：

- 1) 赤須東樹¹⁾, 竹間由佳²⁾, 軸蘭智雄^{2,3)}, ヘイムス清美^{2,4)}, 岡村律子²⁾, 五十嵐健人²⁾, 山下浩二⁵⁾, 清水一雄²⁾

(¹) 日本医科大学武蔵小杉病院 内分泌外科, (²) 日本医科大学付属病院 内分泌外科, (³) 日本医科大学大学院分子解剖学, (⁴) 伊藤病院 外科, (⁵) 日本医科大学付属病院 乳腺外科) : VANS 法の特性と最近のデバイスとの協働. 日本内分泌外科学会学術集会 (24 回) (名古屋), 2012. 6.

(3) 一般講演 :

- 1) 保科淑子, 田島廣之¹), 金城忠志¹), 丸山雄二, 井村 肇 (¹) 日本医科大学武蔵小杉病院 血管内・低侵襲治療センター) : 右第 5 指先天性動静脈奇形に対する 1%ポリドカノール硬化療法. 日本血管外科学会総会 (第 40 回), 2012. 5.
- 2) 保科淑子, 天神敏博, 北山康彦¹), 清水一雄²) (¹) 日本医科大学武蔵小杉病院 病理部, (²) 日本医科大学付属病院 外科学) : 当院における同時両側乳癌 4 例の検討. 日本乳癌学会学術総会 (第 20 回), 2012. 6.
- 3) 天神敏博, 保科淑子, 宅島美奈, 清水一雄¹) (¹) 日本医科大学 外科学) : 当科の高齢者乳癌に対するアジュバント療法. 日本乳癌学会学術総会 (第 20 回), 2012. 6.
- 4) 岡本淳一, 佐藤 明¹), 飯島慶仁¹), 窪倉浩俊, 三上 巖¹), 原口秀治¹), 小泉 潔¹), 清水一雄¹) (¹) 日本医科大学 外科学) : 肺年齢は肺癌手術後の入院期間と術後合併症を予測する. 日本呼吸器外科学会総会 (第 29 回), 2012. 5.
- 5) 岡本淳一, 佐藤 明¹), 飯島慶仁¹), 木下裕康¹), 窪倉浩俊, 三上 巖¹), 功刀しのぶ¹), 原口秀治¹), 清水一雄¹) (¹) 日本医科大学 外科学) : 比較的可まれな Large cell carcinoma rhabdoid phenotype と判断された 2 症例. 外科集談会 (第 825 回), 2012. 12.
- 6) 勝山彩友里, 岡本淳一, 窪倉浩俊, 許田典男¹), 北山康彦¹), 清水一雄²) (¹) 武蔵小杉病院 病理部, (²) 日本医科大学 外科学) : 気胸術後プラに肺腺癌組織を認めた 1 例. 日本肺癌学会関東支部会 (第 165 回), 2012. 12.
- 7) 丸山雄二¹), 井村 肇¹), 白川 真¹), 鈴木大悟¹), 落 雅美²), 清水一雄²) (¹) 日本医科大学武蔵小杉病院 心臓血管外科, (²) 日本医科大学 心臓血管外科) : Volume rendering 法を用いた単純 3DCT による大伏在静脈の CABG 術前評価. 日本心臓血管外科学会 (第 42 回) (秋田), 2012. 4.
- 8) 丸山雄二¹), 井村 肇¹), 白川 真¹), 鈴木大悟¹), 落 雅美²), 清水一雄²) (¹) 日本医科大学武蔵小杉病院 心臓血管外科, (²) 日本医科大学 心臓血管外科) : Volume rendering 法を用いた単純 3DCT による大伏在静脈の CABG 術前評価. 日本冠動脈外科学会学術大会 (第 17 回) (東京), 2012. 7.
- 9) 丸山雄二¹), 井村 肇¹), 白川 真¹), 田上素子¹), 落 雅美²) (¹) 日本医科大学武蔵小杉病院 心臓血管外科, (²) 日本医科大学 心臓血管外科) : Volume rendering 法を用いた単純 3DCT による大伏在静脈の CABG 術前評価. 日本胸部外科学会定期学術集会 (第 65 回) (福岡), 2012. 10.
- 10) 丸山雄二¹), 井村 肇¹), 白川 真¹), 田上素子¹), 落 雅美²) (¹) 日本医科大学武蔵小杉病院 心臓血管外科, (²) 日本医科大学 心臓血管外科) : Volume rendering 法を用いた単純 3DCT による大伏在静脈の CABG 術前評価. 日本冠疾患学会学術集会 (第 26 回) (東京), 2012. 12.
- 11) 赤須東樹¹), 天神敏博²) (¹) 日本医科大学武蔵小杉病院内分泌外科, (²) 日本医科大学武蔵小杉病院乳腺外科) : 甲状腺乳頭癌 : 術中触診所見の重要性. 神奈川県乳腺内分泌外科研究会 (第 29 回) (関内), 2013. 3.

[武蔵小杉病院病理部]

研究概要

消化器腫瘍性病変を中心として, 遺伝子異常の解析を含めて臨床病理形態学的に詳細な検討を行っている. 今後は乳腺及び消化器癌を含めて, 独自の HER2-FISH probe 用いた遺伝子増幅の異常を検討していく同時に, 癌に限らず特殊な腫瘍に関しては積極的に生の腫瘍組織を採取し, 凍結して保存する tissue bank の確立を進める予定である. また, 骨の脱灰や脂肪の脱脂に関して, 電磁波や超音波処理を用いた検討を行い, より優れた検体の作成を試みている. 臨床病理学的な症例検討会に関して, 現在消化器病理中心に行っているが, 25 年度から呼吸器との臨床呼吸器

放射線病理検討会を定期的に行っていくことになっている。細胞診症例検討会は、当院主催で定期的に川崎地区の勉強会を開催している。基礎実験に関しては、現在他院の婦人科と共同で子宮内膜症に対するプロゲステン製剤であるデュナゲストの内服ポリープや増殖症及び内膜癌に対する組織学効果を多数の症例を用いて解析している。また、耳鼻科領域における鼻茸の培養細胞を用いて、カルボシステインやTNF- α 及びTGF- β 1の前処置による細胞の増殖力や変性及び goblet cell の数の変化など、薬物に対する細胞形態学上の影響を検討中である。

研究業績

[武蔵小杉病院中央検査室]

研究概要

昨年度の下肢静脈超音波検査、視覚誘発電位検査 (VEP)、新生児 A ABR の日常業務開始に引き続き、平成 24 年度においては睡眠時無呼吸症候群の検査として PSG を開始した。現在のところ自施設でデータ解析をするまでに至っていないが、次年度においてはデータ解析を開始したい。検体検査においては NTproBNP、トロポニン T について測定法の再評価を行い、測定機を変更した。この結果、測定精度の向上と測定範囲の拡大が可能となったばかりか迅速性も格段に向上した。現在はこの測定機の有効活用を目的に、プロカルシトニン、HCG の測定法変更を画策している。また、血中薬物濃度におけるアルベカシン、テイコプラニンについては汎用機に適用可能な試薬の導入を試みている。細菌検査においては検査法の見直しを図り、効果的な選択分離培地の採用を目指し各種培地の比較検討等を実施すると共に、更なる改革に取り組んでいる。この過程の中で実施した *Campylobacter* 選択培地の性能評価については、現在投稿中である。

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) 高木 豊, 鳴海武長¹⁾, 山下純一¹⁾, 柴田泰史¹⁾, 佐藤美里¹⁾, 若松英俊¹⁾, 飯野幸永¹⁾, 本間 博¹⁾ (1) 付属病院中央検査部) : 自動分析機によるフィードフォワード的迅速測定法の試み, 医学検査 2012 ; 61 (4) : 728-735.

[武蔵小杉病院薬剤部]

研究概要

平成 24 年度は、診療報酬改定により病院薬剤師が病棟に於いて医薬品の管理や薬物治療管理に対して大いに期待されるべく、病棟薬剤業務実施加算が認められた年であった。また、この算定は医療現場に於いてチーム医療の推進に薬剤師が貢献出来るチャンスでもあると思える。武蔵小杉病院薬剤部は、このチーム医療において薬剤師が参画して行った論文、学会発表が多かった。前述のような背景の中で、ICT によるラウンドでの感染制御に関する論文や学会発表、癌患者に対する QOL 評価、抗癌剤の調製や緩和医療に関する学会発表、そして罹病患者が多いと言われる糖尿病の薬物療法に関する検査データからの治療評価などが主な内容であった。この数年間における武蔵小杉病院薬剤部の研究テーマは、糖尿病治療、感染制御、癌治療の 3 本柱で行っている。結果的には、今年度の研究内容も、この柱に見合ったものであったと思われる。

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) 野口周作²⁾, 望月 徹^{2,3)}, 吉田奈央, 上野ひろむ^{2,4)} (1) 日本医科大学武蔵小杉病院 感染制御部, 2) 同 救命救命センター, 3) 同 看護部)：段階的な抗菌薬適正使用強化策の効果. 環境感染誌 2013；28 (2)：79-85.

学会発表

(1) パネルディスカッション：

- 1) 吉田奈央, 野口周作, 五十嵐文²⁾, 佐藤 歩²⁾, 原 弘士³⁾, 白田 誠³⁾, 永井 徹³⁾, 牧野淳子⁴⁾, 岩崎弥生⁴⁾, 五十嵐俊²⁾ (1) 横浜市立市民病院 薬剤部, 2) 横浜市立脳血管医療センター 薬剤科, 3) 厚木市立病院 薬剤管理指導室)：神奈川県下4施設におけるVCM低感受性MRSAの検出状況と治療の現状. 医療薬学フォーラム2012 クリニカルファーマシーシンポジウム (第20回) (福岡), 2012. 7.
- 2) 永井 徹²⁾, 吉田奈央, 野口周作, 五十嵐文¹⁾, 佐藤 歩¹⁾, 原 弘士²⁾, 白田 誠²⁾, 牧野淳子³⁾, 岩崎弥生³⁾, 五十嵐俊¹⁾ (1) 横浜市立市民病院 薬剤部, 2) 横浜市立脳血管医療センター 薬剤科, 3) 厚木市立病院 薬剤管理指導室)：神奈川県下4施設の抗菌薬適正使用への取り組み. 医療薬学フォーラム2012 クリニカルファーマシーシンポジウム (第20回) (福岡), 2012. 7.
- 3) 五十嵐文¹⁾, 吉田奈央, 野口周作, 佐藤 歩¹⁾, 原 弘士²⁾, 白田 誠²⁾, 永井 徹²⁾, 牧野淳子³⁾, 岩崎弥生³⁾, 五十嵐俊¹⁾ (1) 横浜市立市民病院 薬剤部, 2) 横浜市立脳血管医療センター 薬剤科, 3) 厚木市立病院 薬剤管理指導室)：神奈川県下4施設における抗菌薬使用量と薬剤感受性の検討：続報. 医療薬学フォーラム2012 クリニカルファーマシーシンポジウム (第20回) (福岡), 2012. 7.
- 4) 宮内秀典, 此松晶子, 小野寺恵子²⁾, 野口周作, 原野謙一¹⁾, 島田慰彦, 勝俣範之¹⁾, 片岡博邦 (1) 日本医科大学武蔵小杉病院 腫瘍内科, 2) 同 看護部)：患者サロンの有用性評価とサロンから認識できた薬剤師の役割. 日本病院薬剤師会関東ブロック学術大会 (第42回) (横浜), 2012. 8.
- 5) 宮内秀典, 伊藤淳雄, 野口周作, 島田慰彦, 吉野雅則¹⁾, 鈴木英之¹⁾, 片岡博邦 (1) 日本医科大学武蔵小杉病院 消化器病センター)：消化器癌患者におけるオピオイドローテーションの現状と考察. 日本緩和医療薬学会 (第6回) (神戸), 2012. 10.
- 6) 吉田奈央, 野口周作, 五十嵐文¹⁾, 佐藤 歩¹⁾, 原 弘士²⁾, 白田 誠²⁾, 永井 徹²⁾, 牧野淳子³⁾, 岩崎弥生⁴⁾, 五十嵐俊¹⁾ (1) 横浜市立市民病院 薬剤部, 2) 横浜市立脳血管医療センター 薬剤科, 3) 厚木市立病院 薬剤管理指導室)：神奈川県下4施設におけるVCM低感受性MRSAの検出状況と治療の現状. 日本化学療法学会 東日本支部総会 (第59回) (東京), 2012. 10.
- 7) 岩崎弥生³⁾, 吉田奈央, 野口周作, 佐藤 歩¹⁾, 原 弘士²⁾, 白田 誠²⁾, 永井 徹²⁾, 牧野淳子³⁾, 五十嵐文¹⁾, 五十嵐俊¹⁾, 田中広紀⁴⁾, 鈴木絢子⁴⁾ (1) 横浜市立市民病院 薬剤部, 2) 横浜市立脳血管医療センター 薬剤科, 3) 厚木市立病院 薬剤管理指導室, 4) 昭和大学藤が丘病院 薬局)：県下5施設での学習会の活動報告：内容紹介と継続のコツ. かながわ薬剤師学術大会 (第11回) (横浜), 2013. 1.
- 8) 野口周作¹⁾, 望月 徹^{1,2)}, 吉田奈央, 上野ひろむ^{1,3)} (1) 日本医科大学武蔵小杉病院 感染制御部, 2) 同 救命救命センター, 3) 同 看護部)：カルバペネム系抗菌薬高用量投与時コンサルト制導入に関する検討. 日本環境感染学会総会 (第28回) (横浜), 2013. 3.
- 9) 此松晶子, 小野寺恵子²⁾, 原野謙一¹⁾, 勝俣範之¹⁾ (1) 日本医科大学武蔵小杉病院 腫瘍内科, 2) 同 看護部)：NCCN Templates を用いた制吐療法の統一に関する報告. 日本臨床腫瘍学会 (第10回) (大阪), 2012. 7.
- 10) 此松晶子：多剤薬剤アレルギー患者に対するカルボプラチン長時間脱感作療法が成功した再発卵巣がんの1例. 日本医療薬学会 (第22回) (新潟), 2012. 10.
- 11) 竹内崇浩⁴⁾, 伊藤淳雄⁴⁾, 東さやか⁴⁾, 片岡博邦, 石下宏征^{1,4)}, 坂田 譲^{1,4)}, 小川寿子^{2,4)}, 関根寿一^{2,4)}, 西村

有紀^{3,4)}, 河野博充^{3,4)} (1) 昭和大学横浜市北部病院 薬局, 2) 横浜総合病院 薬剤科, 3) 帝京大学医学部附属溝口病院 薬剤部, 4) 神奈川県糖尿病薬物治療研究会): 多施設共同による DPP4 阻害薬投与患者における臨床検査データによる糖尿病管理の評価. 日本医療薬学会 (第 22 回) (新潟), 2012. 10.

(2) 一般講演:

- 1) 吉田奈央, 野口周作²⁾, 望月 徹²⁾, 八木 孝³⁾ (1) 日本医科大学武蔵小杉病院 感染制御部, 2) 同 内科): ICT 抗菌薬ラウンドの有用性評価. 日本化学療法学会学術集会 (60 回) (福岡), 2012. 4.
- 2) 望月 徹¹⁾, 上野ひろむ¹⁾, 野口周作¹⁾, 長島悟郎¹⁾, 竹村 弘¹⁾, 三田由美子¹⁾, 坂本光男¹⁾, 駒場留美子¹⁾, 平居義裕¹⁾, 佐藤政延¹⁾, 福島里美¹⁾ (1) KAWASAKI 地域感染制御協議会): 感染防止対策地域連携における KAWASAKI 地域感染制御協議会の役割. 日本環境感染学会総会 (第 28 回) (横浜), 2013. 3.

[武蔵小杉病院看護部]

研究概要

1) 記録に不適当である用語熟語の理由と好ましい表現例を列挙した一覧の作成 2) 周術期にある患者に対し安楽のための看護ケアの現状 3) トリアージを行う上で自覚症状が乏しい患者に対し, 重篤な病態を見逃さないために必要な観察ポイント 4) 下血をきたす代表的な疾患, トリアージの実際, 事例, 注意点 5) 6) ブラキサン R, ドキシル R の薬, 副作用, 看護について 7) 大腿骨頸部骨折患者の積極的な肺理学療法の効果の検証 8) 当院におけるせん妄ケアの実際と課題 9) 腹膜透析を継続していくための導入期指導のポイントと当院における導入期指導の工夫 10) 幼児対象の手術見学がスムーズな麻酔導入につながるかの研究 11) 一般の方向けの緩和ケア啓発普及活動実施と効果の報告 12) 乳がん患者へのオリエンテーションを行う事での情報提供だけではなく精神面サポートについてのアンケート調査 13) 新診断基準による GDM に対し療養指導の実施, 母体および新生児への影響の報告 14) 特定看護師になる為の教育内容や役割, 活動報告, 現在までの実施報告 15) 認定看護師専門看護師との連携, チーム医療のためのセミナー, カンファレンスを通し, 見えてきた今後の課題と継続すべき事の報告 16) 自主性セルフケア向上を達成する為の患者希望と運営上の問題点 17) SMBG ダイアリーを用いた患者情報の把握と効果についての報告 18) 特定看護師 (仮称) の医療の現場においての患者や医師にとっての有意義な活用と活動報告 19) 当院における GDM 外来の実施と療養指導の結果報告 20) 小児科外来における一カ月検診での看護師による育児対策

研究業績

著書

- 1) 川上 薫, 駒形由未加, 高木 聡, 菊田明子: [分担] 患者・利用者記録として表現できない用語・熟語. 看護実践を証明するフォーカスチャータリング (川上千英子, 山本隆一), 2012; pp189-203, 医歯薬出版株式会社.
- 2) 佐々木久美子: [共著] 術中をしらなきゃわからない! 周術期ケア向上のコツ②患者の安楽のために. ナーシング・トゥデイ (草柳 かほる 他), 2013; pp24-27, 日本看護協会出版会.
- 3) 門馬 治: [自著] 無痛性の心筋梗塞. 救急看護&トリアージ (道又元裕ほか), 2012; pp17-22, 日総研出版.
- 4) 寒竹由香里: [分担] うんちに血が付いている こんな症状, どのようにトリアージしますか. 救急看護&トリアージ 創刊号 (道又元裕ほか), 2013; pp61-66, 日総研出版.
- 5) 小野寺恵子, 勝俣範之¹⁾ (1) 武蔵小杉病院 腫瘍内科): [分担] 抗生物質: ドキソルビジン塩酸塩リポソーム注射剤. プロフェッショナルがんナーシング 2013 別冊 がん化学療法の抗がん剤・ホルモン剤・分子標的薬はや調べノート (古瀬純司), 2013; p106, メディカ出版.
- 6) 小野寺恵子: [分担] 微小管阻害剤: パクリタキセルアルブミン懸濁液. プロフェッショナルがんナーシング 2013 年別冊 がん化学療法の薬 抗がん剤・ホルモン剤・分子標的薬はや調べノート (古瀬純司), 2013; p144, メディカ出版.

学会発表

(1) シンポジウム：

- 1) 二宮美香：せん妄（せん妄ケアにおける看護の課題）. 日本総合病院精神医学総会（第25回）（東京都），2012. 12.
- 2) 福永ヒトミ，佐々木友美，南 史郎¹⁾（¹⁾ 武蔵小杉病院 内分泌・糖尿病・動脈硬化内科）：特定看護師の目指すもの：人に優しい医療を求めて. 日本冠動脈外科学会（第17回）市民公開シンポジウム（東京都），2012. 7.
- 3) 福永ヒトミ：特定看護師（仮称）の活用「特定看護師業務試行事業の実践」. 日本看護学会看護管理学会（第43回）（京都府），2012. 10.

(2) ワークショップ：

- 1) 前田幸生：当院における導入期指導の工夫. 日本腹膜透析医学会学会集會・総会（第18回）（徳島県徳島市），2012. 9.

(3) 一般講演：

- 1) 川上 薫，本間 圭：整形外科領域における肺理学療法的重要性. 神奈川県看護学会（第15回）（神奈川県），2012. 11.
- 2) 竹内智美，郷司朋絵，佐々木久美子：幼児（2～6歳）のスムーズな麻酔導入のための手術室オリエンテーションの効果. 日本手術看護学会関東甲信越地区（第23回）（神奈川県），2012. 6.
- 3) 小野寺恵子，此松晶子¹⁾，勝俣範之²⁾，原野謙一²⁾（¹⁾ 武蔵小杉病院 薬剤部，²⁾ 武蔵小杉病院 腫瘍内科）：初回化学療法導入時の看護師による面談の効果. 日本臨床腫瘍学会（第10回）（大阪府），2012. 7.
- 4) 福永ヒトミ，望月瑠美，吉永美保，吉田真貴子，飯高洋子，金子佳世，島田博美¹⁾，八木 孝²⁾，南 史郎²⁾（¹⁾ 武蔵小杉病院 女性診療科・産科，²⁾ 武蔵小杉病院 内分泌・糖尿病・動脈硬化内科）：新しい診断基準による妊娠糖尿病患者を対象とした看護外来を実施して. 日本糖尿病学会年次学術集會（第55回）（神奈川県横浜市），2012. 5.
- 5) 北原和子¹⁾，福永ヒトミ（¹⁾ 聖マリアンナ医科大学横浜西部病院）：特定看護師の活動の現況と管理者の課題. 日本看護管理学会年次大会（第16回）（北海道札幌市），2012. 8.
- 6) 吉田真貴子，望月瑠美，瀧 知美，吉永美保，金子佳世，福永ヒトミ：糖尿病患者会における活動内容と患者希望に関する検討. 日本糖尿病教育・看護学会（京都府），2012. 9.
- 7) 望月瑠美，吉田真貴子，瀧 知美，吉永美保，金子佳世，福永ヒトミ：SMGBと生活記録「SMBGダイアリー」を用いた糖尿病療養指導の効果. 日本糖尿病教育・看護学会（第17回）（京都府），2012. 9.
- 8) 寒竹由香理：小児科外来1カ月検診での看護師による育児支援. 日本看護学会小児看護（第43回）（島根県），2012. 9.

(4) ポスター発表：

- 1) 下地玉恵：当院における緩和ケア啓発普及活動の状況. 日本緩和医療学会（第17回）（兵庫県神戸市），2012. 6.
- 2) 福永ヒトミ：妊娠糖尿病患者を対象とした看護外来を実施して-これからの特定看護師-実践現場で活躍する特定看護師たち. 日本NP協議会研究会（第1回）（東京都），2012. 10.

28. 多摩永山病院付置施設等

[多摩永山病院病理部]

研究概要

組織培養, 免疫組織化学, 電子顕微鏡部門が充実し, 臨床医の病理部での研究も行なわれるようになり, 研究部門もさらに充実してきた. 現在の主な研究テーマは以下の通りである. (1) 臨床に呼応した迅速細胞・組織診断 (外来・病棟・術中・剖検時) の確立. (2) 免疫細胞・組織化学 (サイトケラチン 7/20/34 β E12/35 β H11, MIB-1, Napsin A, Villin) を用いた客観的原発巣推定診断・予後診断法の確立. (3) 乳腺腫瘍 1) 穿刺吸引細胞診材料を用いた予後診断の確立; 細胞転写法を用いて ER, PgR, HER2 蛋白質, MIB-1 指数の他, HER2 に関しては蛋白質の過剰発現と遺伝子増幅 (CISH) の両方を検討する. 2) 乳癌における, ホルモンレセプターと細胞骨格, 接着因子の関係および転移性乳癌の臨床病理学的研究; HER2 タンパク質と基底膜分解酵素について. (4) 骨軟部腫瘍 1) 穿刺吸引細胞診による迅速診断法の確立 (免疫組織化学, 電顕的検索の併用) (5) 子宮癌 1) 子宮内膜癌の細胞診による診断の確立 (免疫組織化学, 電顕的検索の併用); とくにセルブロック法. (6) リンパ節病変 1) リンパ節病変の迅速診断法の検索, 免疫細胞学的アプローチ. 2) リンパ節病変の分子生物学的検索. 3) 悪性リンパ腫の細胞診断学.

研究業績

論文

[追加分]

追加分原著:

- 1) 中西一步¹⁾, 奥田直貴¹⁾, 桑原知仁¹⁾, 山岸絵美¹⁾, 印出祐介¹⁾, 林 昌子¹⁾, 川端伊久乃¹⁾, 三宅秀彦¹⁾, 関口敦子¹⁾, 中井章人¹⁾, 丹野正隆 (1) 多摩永山病院 女性診療科・産科): 大網原発成熟奇形腫の 1 例. 東京産婦会誌 2011; 60 (2): 305-308.
- 2) Ogasawara J¹⁾, Kitadate K²⁾, Nishioka H²⁾, Fujii H²⁾, Sakurai T¹⁾, Kizaki T¹⁾, Izawa T³⁾, Ishida H⁴⁾, Tanno M, Ohno H¹⁾ (1) Department of Molecular Predictive Medicine and Sport Science, Kyorin University, School of Medicine, 2) amino Up Chemical Co.Ltd., 3) Department of Sports Biochemistry, Faculty of Health and Sports Science, Doshisya University, 4) Third Department of Internal Medicine, Kyorin University): Oligonol, an oligomerized lychee fruit-derived polyphenol, activates the Ras/Raf/MEK1/2 cascade independent of the IL-6 signaling pathway in rat primary adipocytes. Biochemical and Biophysical Research Communications 2010; 402: 554-559.

追加分症例報告:

- 1) 渡邊宏美¹⁾, 東 直行¹⁾, 細根 勝, 前田昭太郎, 川名誠司²⁾ (1) 多摩永山病院 皮膚科, 2) 付属病院皮膚科): Tufted Hair Folliculitis の 2 例. 皮膚臨床 2011; 53 (13): 1926-1929.

(1) 原著:

- 1) Tanno M, Tanno N¹⁾, Hayakawa K²⁾, Kinishiko S³⁾ (1) Department of Pathology, Asahi General Hospital, 2) Department of Sports & Health Science, Daitoubunka University, 3) Department of Clinical Laboratory, JR Tokyo General Hospital): Clinicopathological Study of a Case of Heart Transplantation. J Nippon Med Sch 2012; 79 (2): 102-103.

(2) 症例報告:

- 1) 松谷 毅¹⁾, 吉田 寛¹⁾, 笹島耕二¹⁾, 丸山 弘¹⁾, 横山 正¹⁾, 鈴木成治¹⁾, 片山博徳¹⁾, 細根 勝, 内田英二²⁾

- (1) 多摩永山病院外科, (2) 外科学講座) : S-1/Cisplatin 併用術前化学療法が奏効し根治切除し得た CA19-9 産生進行胃癌の 1 例. 癌と化学療法 2012 ; 39 (4) : 653-656.
- 2) 松谷 毅¹⁾, 吉田 寛¹⁾, 丸山 弘¹⁾, 横山 正¹⁾, 松下 晃¹⁾, 平方敦史¹⁾, 高尾嘉宗¹⁾, 馬越通信¹⁾, 早川朋宏¹⁾, 片山博徳, 細根 勝, 内田英二²⁾ (1) 多摩永山病院外科, (2) 外科学講座) : 同時性食道胃重複癌に対し術前 Docetaxel/CDDP/5-Fluorouracil 併用化学療法が奏効し手術を施行した 1 例. 癌と化学療法 2012 ; 39 (4) : 645-648.
- 3) Matsutani T¹⁾, Sasajima K²⁾, Yoshida H²⁾, Hosone M, Katayama H, Uchida E¹⁾ (1) Dep. of Surgery,NMS,Graduate School of Medicine, (2) Dep. of Surgery,NMS,Tama Nagayama Hospital) : A case of intramural gastric tube metastasis from esophageal squamous cell carcinoma. Esophagus 2012 ; 9 (4) : 239-242.
- 4) Matsutani T¹⁾, Sasajima K²⁾, Maruyama H²⁾, Yoshida H²⁾, Katayama H, Hosone M, Matsuda A¹⁾, Uchida E¹⁾ (1) Dep. of Surgery,NMS,Graduate School of Medicine, (2) Dep. of Surgery,NMS,Tama Nagayama Hospital) : Endoscopic removal of a large hyperplastic (inflammatory) polyp in esophagogastric anastomosis after esophagectomy. Esophagus 2012 ; 9 (2) : 114-117.

著 書

- 1) 片山博徳 : [分担]【教科書には載っていない臨床検査 Q&A】 病理・細胞診 (Question 46) 迅速組織診の適正な標本作製時間は何分以内ですか? (Q&A/特集). 臨床検査, 2012 ; pp1258-1259.

学会発表

[追加分]

追加分ワークショップ :

- 1) 内藤善哉¹⁾, 片山博徳, 磯部宏昭, 細根 勝, 丹野正隆, 前田昭太郎, 彭 為霞¹⁾, 土屋眞一²⁾, 竹中明美³⁾, 中泉明彦⁴⁾ (1) 病理学講座 (統御機構・腫瘍学), (2) 付属病院病理部, (3) 大阪成人病センター, (4) 京都大学医学部人間健康科学科) : 膀胱細胞診における検体採取と組織型推定に有用な細胞所見 : 稀な膀胱癌の細胞診と組織像. 日本臨床細胞学会春期大会 (第 52 回) (福岡), 2011. 5.

追加分一般講演 :

- 1) 北川泰之¹⁾, 石原陽子¹⁾, 林 幹彦¹⁾, 金 竜¹⁾, 玉井健介¹⁾, 伊藤博元²⁾, 細根 勝, 丹野正隆 (1) 多摩永山病院 整形外科, (2) 付属病院整形外科) : 血管内乳頭状内皮過形成の MRI 像. 日本整形外科学会骨軟部腫瘍学術集会 (第 45 回) (京都), 2011. 7.
- 2) 平田知己¹⁾, 吉野直之¹⁾, 川島徹生¹⁾, 小泉 潔²⁾, 原口秀司²⁾, 清水一雄²⁾, 能勢隆之³⁾, 宮 敏路⁴⁾, 小久保豊⁴⁾, 丹野正隆, 細根 勝 (1) 多摩永山病院呼吸器外科, (2) 外科学講座呼吸器外科, (3) 多摩永山病院放射線治療部, (4) 多摩永山病院呼吸器腫瘍内科) : リンパ行性特異的な進展を示す長期生存, 進行肺癌の 2 例. 肺癌学会総会 (第 52 回) (大阪), 2011. 11.
- 3) 馬越通信¹⁾, 吉田 寛¹⁾, 鈴木成治¹⁾, 松谷 毅¹⁾, 丸山 弘¹⁾, 横山 正¹⁾, 松下 晃¹⁾, 平方敦史¹⁾, 高尾嘉宗¹⁾, 早川朋宏¹⁾, 細根 勝, 内田英二²⁾ (1) 多摩永山病院外科, (2) 外科学講座) : 胃原発性 GIST と鑑別を要した胃異所性腺の一手術例. 日本消化器病学会総会 (第 97 回) (新宿), 2011. 5.
- 4) Katayama H, Tanno M, Hosone M, Naito Z¹⁾, Maeda S²⁾, Yoshino N³⁾, Hirata T³⁾ (1) Pathology, Nippon Medical School, (2) Pathology And Cytology Center, Mitsubishi Chemical Medience, (3) Surgery,Tama-Nagayama Hospital, Nippon Medical School) : EXPRESSION OF MELANOMA ANTIGEN-ENCODING GENE-1 (MAGE-1) IN MESOTHELIOMA CELLS AND REACTIVE MESOTHELIAL CELLS. International Conference of the International Mesothelioma Interest Group (11th) (Boston, Massachusetts, USA), 2012. 9.

(1) 特別講演：

- 1) 片山博徳, 細根 勝, 丹野正隆, 内藤善哉¹⁾, 前田昭太郎²⁾ (1) 病理学 (統御機構・腫瘍学), ²⁾ 三菱化学メディエンス病理・細胞診センター) : 中皮腫の細胞像の特徴について. 日本臨床細胞学会千葉県支部第1回研修会 (千葉), 2012. 7.
- 2) Naito Z¹⁾, Peng W, Isobe H, Katayama H, Hosone M, Tanno M, Maeda S²⁾ (1) Department of Pathology, Integrative Oncological Pathology, Nippon Medical School, ²⁾ Mitsubishi Chemical Medicine, Pathology and Cytology Center) : Availability of cytological diagnoses in pancreatobiliary tract diseases and cytological slide seminar of pancreatobiliary tract lesions. Thai-Japanese cytology workshop (20th) (Thailand), 2013. 1.
- 3) Katayama H, Tanno M, Liu A, Hosone M, Iwase H, Maeda S¹⁾, Naito Z²⁾ (1) Mitsubishi Chemical Medicine, Pathology and Cytology Center, ²⁾ Department of Pathology, Nippon Medical School) : The technical importance for definitive diagnosis of mesothelioma by body fluid cytology. Thai-Japanese cytology workshop (20th) (Thailand), 2013. 1.
- 4) Maeda S¹⁾, Katayama²⁾, H, Hosone M, Tanno M, Naito Z²⁾ (1) Mitsubishi Chemical Medicine, Pathology and Cytology Center, ²⁾ Department of Pathology, Nippon Medical School) : How to make a definitive diagnosis of mesothelioma by body fluid cytology. Thai-Japanese cytology workshop (20th) (Thailand), 2013. 1.

(2) 教育講演：

- 1) 細根 勝 : 第20回多摩悪性リンパ腫研究会ミニレクチャー. 第20回多摩悪性リンパ腫研究会 (立川), 2012. 6.
- 2) 片山博徳, 丹野正隆, 内藤善哉¹⁾, 前田昭太郎²⁾ (1) 病理学 (統御機構・腫瘍学), ²⁾ 三菱化学メディエンス病理・細胞診センター) : 乳腺細胞診の実際. 平成24年度東京都多摩がん検診センター細胞検査士養成公開講座 (第3回) (東京), 2012. 7.
- 3) 細根 勝 : もう一度! 新WHO分類 細胞診にも役立つ悪性リンパ腫分類の考え方. 日本臨床細胞学会周期大会 (第51回) (新潟), 2012. 11.
- 4) 前田昭太郎 : 乳腺の病理と細胞診断. 平成24年度東京都多摩がん検診センター細胞検査士養成公開講座 (第3回) (東京), 2012. 7.
- 5) 片山博徳, 細根 勝, 丹野正隆, 内藤善哉¹⁾, 前田昭太郎²⁾ (1) 病理学 (統御機構・腫瘍学), ²⁾ 三菱化学メディエンス病理・細胞診センター) : 乳腺の細胞診: 穿刺吸引細胞診を中心に. 石川県細胞診従事者育成研修会 (石川), 2012. 8.

(3) シンポジウム：

- 1) 細根 勝 : 組織球性および樹状細胞性腫瘍: 芽球型形質細胞様樹状細胞腫瘍. 日本血液病理研究会 (第15回) (福島), 2012. 6.
- 2) 片山博徳, 細根 勝, 丹野正隆, 内藤善哉¹⁾, 前田昭太郎²⁾ (1) 病理学 (統御機構・腫瘍学), ²⁾ 三菱化学メディエンス病理・細胞診センター) : 「新しい細胞診技術による診断精度の向上と臨床支援」: 術中迅速免疫細胞化学染色. 日本臨床細胞学会関東連合会学術集会 (第26回) (群馬), 2012. 9.
- 3) Katayama H, Tanno M, Liu A, Hosone M, Iwase H, Maeda S¹⁾, Naito Z²⁾ (1) Mitsubishi Chemical Medicine, Pathology and Cytology Center, ²⁾ Department of Pathology, Nippon Medical School) : Basic study for Matrix metalloproteinase 9 (MMP-9) in mesothelioma cells and reactive mesothelial cells. Annual Spring Meeting of the Japanese Society of Clinical Cytology (The 53rd) (Chiba, Japan), 2012. 6.
- 4) 細根 勝, 片山博徳 : リンパ節の穿刺吸引細胞診: その有用性と将来的展望—座長の言葉—. 日本臨床細胞学会春期学会 (第53回) (幕張), 2012. 6.

(4) 一般講演：

- 1) Hosone M, Liu A, Katayama H, Tanno M, Naito Z¹⁾ (1) Nippon Medical School) : Signet-ring-cell lymphoma with massive chylous ascites simulating effusion lymphoma. European Association of Hematopathology (16th) (Lisboa, Portugal), 2012. 10.
- 2) 丹野正隆, 細根 勝, 片山博徳：20歳代乳癌10例の臨床病理学的検討。日本医科大学医学会総会（第80回）（東京），2012. 9.
- 3) 北川泰之¹⁾, 金 竜¹⁾, 林 幹彦¹⁾, 牧野 晃¹⁾, 玉井健介¹⁾, 高井信朗¹⁾, 細根 勝, 丹野正隆 (1) 多摩永山病院整形外科) : 軟骨肉腫への脱分化を伴った大腿部脱分化型脂肪肉腫の1例。日本整形外科学会, 2012. 6.
- 4) 片山博徳, 細根 勝, 丹野正隆, 内藤善哉¹⁾, 前田昭太郎²⁾ (1) 日本医科大学病理学教室, 2) 三菱化学メディエンス病理・細胞診センター) : 卵巣嚢腫切除の際に偶然発見された回腸漿膜表面に発生した高分化型乳頭状中皮腫 (WDPM) の1例。中皮腫セミナー (第7回) (東京), 2012. 8.
- 5) 片山博徳, 丹野正隆, 細根 勝, 前田昭太郎¹⁾, 内藤善哉²⁾ (1) 三菱化学メディエンス病理・細胞診センター, 2) 病理学 (統御機構・腫瘍学)) : 中皮腫細胞と中皮細胞に対する細胞転写法を用いた免疫細胞化学染色による検討。日本病理学会総会 (第101回) (東京), 2012. 4.
- 6) 岩瀬裕美, 鈴木美紀, 片山博徳, 細根 勝, 丹野正隆 : 細胞転写法を用いた免疫細胞化学染色の検討 : 特に体腔液細胞診による腺癌症例の原発巣の同定。東京都医学検査学会 (第9回) (東京), 2013. 2.
- 7) Maeda S¹⁾, Katayama H, Hosone M, Hirata T²⁾, Tanno M, Naito Z³⁾ (1) Pathology And Cytology Center, Mitsubishi Chemical Medience, 2) Surgery, Tama-Nagayama Hospital, Nippon Medical School, 3) Pathology, Nippon Medical School) : HOW TO MAKE A DEFINITIVE DIAGNOSIS OF MESOTHELIOMA BY THE BODY FLUID CYTOLOGY. 11th International Conference of the International Mesothelioma Interest Group (11th) (Boston, Massachusetts, USA.), 2012. 9.

(5) 学会CPC：

- 1) 長田真一¹⁾, 東 直行¹⁾, 脇田知志²⁾, 中村弘之³⁾, 細根 勝, 壇 和夫²⁾, 川名誠司¹⁾ (1) 多摩永山病院 皮膚科, 2) 血液内科学講座, 3) 多摩市) : 深部静脈血栓症様の症状を呈した血管内NK/T細胞リンパ腫の1例。日本皮膚悪性腫瘍学会学術大会 (第28回) (札幌), 2012. 6.

[多摩永山病院中央検査室]

研究概要

当検査室における主な研究目的は、臨床検査学の進歩のなかで、新しい検査法および検査技術を検討するとともに臨床への応用と意義を考察し、新検査法の実現を追っている。また、日常の臨床検査全体の精度管理、検査方法および迅速測定を実施し、各種の検査における臨床との関連を見つつ、質の向上と検査測定法の確立を目指している。

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) Suzuki K¹⁾, Nemoto K^{1, 2)}, Ninomiya N¹⁾, Kuno M¹⁾, Kubota M, Yokota H¹⁾ (1) Department of Emergency and Critical Care Medicine, 2) Shinjuku Vocational College of Acupuncture and Judo Therapy) : Fasudil, a Rho-kinase inhibitor, attenuates lipopolysaccharide-induced vascular hyperpermeability and colonic muscle relaxation in guinea pigs. The Journal of surgical research 2012 ; 178 (1) : 352-357.
- 2) Tamaki T¹⁾, Kubota M, Saitou N¹⁾, Umeoka K¹⁾, Mizunari T¹⁾, Node Y¹⁾ (1) Department of Emergency and Critical Care Medicine) : Vagus Nerve Neuromonitoring During Carotid Endarterectomy. Perspectives

in Vascular Surgery and Endovascular Therapy available online 2013.

(2) 総説：

- 1) 久保田稔, 横田裕行¹⁾ (1) 大学院侵襲生体管理学・救急医学教室)：脳死患者のための神経生理学的検査：脳死判定時の脳波検査を含む. 検査と技術 2012；40 (8)：710-714.

学会発表

〔追加分〕

追加分セミナー：

- 1) 久保田稔：法的脳死判定と脳波・ABR (法的脳死判定における平坦脳波測定研修会). ひろしまドナーバンク (広島県), 2011. 11.
- 2) 久保田稔：法的脳死判定における脳波測定のポイント (第2回明日から役立つ脳死下臓器提供勉強会). 日本臓器移植ネットワークに中日本支部 (富山県), 2011. 12.

(1) セミナー：

- 1) 久保田稔：ABR/EEG (小児救急における脳死患者の対応セミナー). 日本小児救急医学会 (第26回) (東京都), 2012. 6.
- 2) 久保田稔：脳死下臓器提供法的脳死判定における脳波・ABR 検査に関して (岐阜県法的脳死判定における脳波測定研修会). 岐阜県ジン・アイバンク協会 (岐阜県), 2012. 9.
- 3) 久保田稔：法的脳死判定における脳波・ABR (茨城県法的脳死判定における脳波測定研修会). 茨城県臨床検査技師会 (茨城県), 2012. 10.
- 4) 久保田稔：法的脳死判定における脳波測定 (第1回広島県提供施設連絡協議会・第2回院内コーディネーター研修会). ひろしまドナーバンク (広島県), 2012. 11.
- 5) 久保田稔：ABR・EEG (2012年救急医療における脳死患者の対応セミナー). 日本臓器移植ネットワーク (神奈川県), 2012. 11.
- 6) 久保田稔：脳死下臓器提供における役割 (2012年救急医療における脳死患者の対応セミナー). 日本臓器移植ネットワーク (神奈川県), 2012. 11.
- 7) 久保田稔：脳波測定：高感度での測定のコツ (福岡大学病院 法的脳死判定・脳波測定研修会). 日本臓器移植ネットワーク西日本支部 (福岡県), 2012. 12.
- 8) 久保田稔：法的脳死判定：実施と技術的問題 (長崎医療センター臓器移植研修会). 長崎県健康事業団 (長崎県), 2013. 3.

(2) 一般講演：

- 1) 作間俊介, 井上 淳, 島崎麻衣, 池野廣幸, 平田知己¹⁾, 草間芳樹²⁾ (1) 多摩永山病院呼吸器外科, 2) 多摩永山病院循環器内科)：心筋障害危険因子を有する症例におけるトロポニン T・トロポニン I の検討. 日本医学検査学会 (第61回) (三重県), 2012. 6.
- 2) 作間俊介, 井上 淳, 島崎麻衣, 成定朋美, 榎本純子, 池野廣幸, 平田知己¹⁾ (1) 多摩永山病院呼吸器外科)：心筋障害危険因子を有する症例における心筋マーカーの検討. 私立医科大学検査技師会学術研修会 (第30回) (東京都), 2012. 11.
- 3) 小島陽子, 中原 慶, 水谷行伸, 手塚尚美, 林 綾子, 佐藤寛之, 池野廣幸, 平田知己¹⁾ (1) 多摩永山病院呼吸器外科)：下肢静脈エコーに PTP score と D-dimer を併用した DVT の評価. JSS 関東甲信越地方学術集会 (第21回) (東京都), 2012. 9.

[多摩永山病院薬剤部]

研究概要

今年度診療報酬改定により、薬剤師には病棟における医療スタッフの負担軽減及び薬物療法の質的向上を目的として病棟薬剤業務実施加算が認められ、患者への薬物療法に対するの安全管理また薬物の適正使用に対するの貢献が強く求められるようになった。そのような状況の中、当薬剤部は患者への薬物療法の質的向上を目指し、抗菌薬の適正使用や免疫抑制剤のTDMについて、また多施設と共同で糖尿病の管理についても研究、発表した。今後、薬剤師としての職能を十分発揮し、医薬品の適正使用及び質的向上を目指し、薬物療法の安全管理にさらなる努力をしていきたいと考えている。

研究業績

学会発表

(1) 一般講演：

- 1) 亀山明美¹⁾、白井玲華¹⁾、星 一代¹⁾、浅田美子²⁾、進藤亜子³⁾、田中三広⁴⁾、斎藤貴子⁵⁾、高橋尚子⁶⁾、鈴木洋介⁷⁾、渥美令子¹⁾、藤井仁美¹⁾、宮川高一⁸⁾、住友秀孝⁹⁾、渡邊祐子¹⁾、その他10名 (1) 多摩センタークリニックみらい、2) ウラン薬局、3) 青梅市総合病院看護局、4) 青梅市立総合病院薬剤部、5) フットケアジャパンフスフレガー、6) 東京電力株式会社福島第二原子力発電所健康管理室、7) 東京電力病院皮膚科、8) クリニックみらい国立、9) 立川相互病院内分泌・代謝科、10) その他)：『皮膚科専門医とフスフレガーと共に学ぶフットケア』多施設・多職種研修会に求められるもの。日本糖尿病学会年次学術大会 (第55回) (横浜)、2012. 5。
- 2) 高橋尚子¹⁾、白井玲華²⁾、星 一代²⁾、浅田美子³⁾、進藤亜子⁴⁾、田中三広⁴⁾、亀山明美、斎藤貴子⁵⁾、鈴木洋介⁶⁾、渥美令子²⁾、藤井仁美²⁾、宮川高一⁷⁾、住友秀孝⁸⁾、関口芳弘⁹⁾、田村有希¹⁰⁾、その他9名 (1) 東京電力株式会社福島第二原子力発電所健康管理室、2) 多摩センタークリニックみらい、3) ウラン薬局、4) 青梅市立総合病院、5) フットケアジャパンフスフレガー、6) 東京電力病院皮膚科、7) クリニックみらい国立、8) 立川相互病院内分泌・代謝科、9) 青梅市立総合病院内分泌糖尿病内科、10) その他)：『多施設・多職種で学ぶフットケア研修会』皮膚科専門医とフスフレガーと共に学ぶ意義。日本糖尿病学会年次学術大会 (第55回) (横浜)、2012. 5。
- 3) 田杭直哉、近藤匡慶、杉原加寿子、菅谷 量俊、村田 和也：潰瘍性大腸炎患者における食事再開によるタクロリムス血中濃度の変動。日本薬学会 (第128年会) (横浜)、2013. 3。
- 4) 近藤匡慶、田杭直哉、菅谷量俊、村田和也：タゾバクタム/ピペラシリンの適正使用に向けた実態調査：カルバペネム系抗菌薬との比較。日本医療薬学会年会 (第22回) (新潟)、2012. 10。
- 5) 加藤浩子、調進一郎¹⁾、村田和也、後藤 円¹⁾、本田一春¹⁾、森 瞳¹⁾、関口芳弘¹⁾、藤井仁美¹⁾、宮川高一¹⁾、植木彬夫¹⁾、貴田岡正史¹⁾ (1) NPO 法人西東京糖尿病臨床研究会試験委員会)：西東京糖尿病療養指導士認定試験からみた薬剤師の得意・不得意分野の検討。日本糖尿病学会年次学術大会 (第55回) (横浜)、2012. 5。
- 6) 柴田まり子¹⁾、深谷祥子²⁾、江川弘子³⁾、萩原ゆり子⁴⁾、加藤浩子、井上美希⁵⁾、山崎 浩⁶⁾、福井倫男⁶⁾、熊谷咲子⁶⁾、渡邊祐子⁷⁾、関口芳弘⁸⁾、鈴木洋介⁹⁾、住友秀孝¹⁰⁾、その他12名 (1) 日本医科大学多摩永山病院看護部、2) 東京医科大学八王子医療センター栄養管理部、3) 青梅市健康福祉部健康課母子保健係、4) 多摩丘陵病院栄養科、5) みなみの糖クリニック栄養科、6) 永生病院薬剤科、7) 多摩センタークリニックみらい内科、8) 青梅市立総合病院内分泌糖尿病科、9) 東京電力病院皮膚科、10) その他)：第16回糖尿病療養担当者のためのセミナー みんなで考えよう！生活が不規則な患者さんへの食事指導について：薬物療法編 第1報。日本糖尿病学会年次学術集会 (第55回) (横浜)、2012. 5。
- 7) 山崎 浩¹⁾、深谷祥子²⁾、江川弘子³⁾、萩原ゆり子⁴⁾、加藤浩子、柴田まり子⁵⁾、井上美希⁶⁾、福井倫男¹⁾、熊谷咲子¹⁾、渡邊祐子⁷⁾、関口芳弘⁸⁾、鈴木洋介⁹⁾、住友秀孝¹⁰⁾、その他12名 (1) 医療法人社団永生会永生病院薬剤科、2) 東京医科大学八王子医療センター栄養管理科、3) 青梅市健康福祉部健康課母子保健係、4) 多摩丘陵病院栄養

科, 5) 日本医科大学多摩永山病院看護部, 6) みなみの糖クリニック, 7) 多摩センタークリニックみらい, 8) 青梅市立総合病院内分泌糖尿病内科, 9) 東京電力病院皮膚科, 10) その他): 第16回糖尿病療養担当者のためのセミナー みんなで考えよう!生活が不規則な患者さんへの食事指導について:薬物療法編 第2報. 日本糖尿病学会年次学術集会(第55回)(横浜), 2012. 5.

8) 高山喜光, 深尾彰平, 稲葉育広, 吉田真人, 堀川佳津美, 村田和也:オピオイドローテーションへの薬剤師の関わり. 日本病院薬剤師会関東ブロック学術大会(第42回)(横浜), 2012. 8.

9) 村田和也, 菅谷量俊, 田杭直哉, 近藤巨慶:薬剤師による抗菌薬血中濃度測定オーダ適正化への試み. 医療薬学フォーラム2012(第20回)(福岡), 2012. 7.

[多摩永山病院看護部]

研究概要

今年度は, 8演題で日本ストーマ 排泄リハビリテーション学会, 日本緩和医療学会, 日本乳癌学会, 日本摂食嚥下リハビリテーション学会, 日本がん看護学会, 日本褥瘡学会で発表が行われた. 1. 難治性多発瘻孔に対し瘻孔開口部の縫縮術を実施しパウチング及び密閉吸引法を行うことでセルフケアの確立に繋がった. 2. 平成24年4月より人工肛門, 人工膀胱術前処置加算算定が開始され4月~8月までの実施状況を調査し現状及び問題点を抽出した. 3. 創クラブ世話人を対象に2回の学習会を実施した結果, プレゼンテーション能力を系統的に習得でき, 世話人が抱いていたセミナー講師への不安の軽減に繋がった. 4. 臨床心理士が参入した新体制の緩和ケアチームによる介入状況を前年度同時期と比較分析した. その結果介入件数は92件から164件に増加. 内容では「疼痛コントロール」「精神的苦痛介入」「IC介入」が有意に増加していた. 5. 内分泌治療中の閉経前乳がん患者が苦痛と感じる体験や時期を明らかにすることを目的に10名の患者を対象に半構成面接を実施した. その結果, 精神的な苦痛は時期の特定はできないが, 患者背景や状況により個人差があることが明らかになった. 6. 全患者対象の誤嚥 窒息予防に関するアセスメントツールを, 医療安全委員会, NST看護部会から発信しアセスメントツールと食事場面での観察について情報共有シートを作成した. 7. がん看護相談外来に来室した49名の患者家族からの相談記録を対象に相談時間, 相談者背景, がん疾患種類, 治療期間, 生活状態を単集統計し統計処理した. その結果, 療養の場や治療期に関係なく意思決定支援の必要性が示唆された. 8. 東京都多摩地区自主学習会にて基礎知識習得を目的にセミナーを実施. ストーマケア23名, 褥瘡ケア26名, 排泄ケア23名が分れて学習. セミナー後アンケート調査を実施し学習達成度は80%以上が達成できていた.

研究業績

論文

[追加分]

追加分 解説:

1) 尾山裕美:【分娩時出血への対応 産科危機的出血への対応ガイドラインの紹介】助産師が産科出血時にとるべき対応. 助産雑誌 2011; 65 (1): 12-18.

(1) 解説:

1) 前田省悟:実践に活かす急変対応トレーニング 救急困難. 看護技術 2012; 58 (7): 690-694.

2) 前田省悟:実践に活かす急変対応トレーニング 閉塞性ショック. 看護技術 2012; 58 (6): 609-614.

3) 上原みずき:実践に活かす急変対応トレーニング 意識障害. 看護技術 2012; 58 (10): 966-971.

4) 上原みずき:実践に活かす急変対応トレーニング 痙攣. 看護技術 2012; 58 (9): 884-889.

5) 上原みずき:実践に活かす急変対応トレーニング 急性腹症. 看護技術 2012; 58 (8): 790-795.

- 6) 山本裕之：実践に活かす急変対応トレーニング 出血性ショック. 看護技術 2012; 58 (4) : 56-61.
- 7) 石ヶ森重之：実践に活かす急変対応トレーニング (最終回) せん妄. 看護技術 2012; 58 (14) : 1380-1384.
- 8) 小林克彦：実践に活かす急変対応トレーニング 小児の急変 (熱性けいれん). 看護技術 2012; 58 (13) : 1302-1307.
- 9) 松村佳世子：キーワードはS・O・W・N・E・T 基礎からわかるスキンケア・ストーマケア・創傷ケア・栄養支援・排泄ケア W 創傷ケア 褥瘡周囲のスキンケアの留意点. 臨牀看護臨時増刊号 2013; 39 (4) : 517-519.
- 10) 松村佳世子：キーワードはS・O・W・N・E・T 基礎からわかるスキンケア・ストーマケア・創傷ケア・栄養支援・排泄ケア W 創傷ケア 外用剤・創傷被覆材の種類, 特徴. 臨牀看護臨時増刊号 2013; 39 (4) : 526-531.
- 11) 松村佳世子：キーワードはS・O・W・N・E・T 基礎からわかるスキンケア・ストーマケア・創傷ケア・栄養支援・排泄ケア W 創傷ケア 長期的な創傷ケアにおける心理的配慮. 臨牀看護臨時増刊号 2013; 39 (4) : 537-539.
- 12) 松村佳世子：キーワードはS・O・W・N・E・T 基礎からわかるスキンケア・ストーマケア・創傷ケア・栄養支援・排泄ケア W 創傷ケア 褥瘡予防・治療における院内, 院外との連携. 臨牀看護臨時増刊号 2013; 39 (4) : 539-541.
- 13) 白勢 彩：キーワードはS・O・W・N・E・T 基礎からわかるスキンケア・ストーマケア・創傷ケア・栄養支援・排泄ケア W 創傷ケア 褥瘡の定義, 発生要因. 臨牀看護臨時増刊号 2013; 39 (4) : 484-486.
- 14) 白勢 彩：キーワードはS・O・W・N・E・T 基礎からわかるスキンケア・ストーマケア・創傷ケア・栄養支援・排泄ケア W 創傷ケア 体位別の褥瘡好発部位. 臨牀看護臨時増刊号 2013; 39 (4) : 487-488.
- 15) 白勢 彩：キーワードはS・O・W・N・E・T 基礎からわかるスキンケア・ストーマケア・創傷ケア・栄養支援・排泄ケア W 創傷ケア 褥瘡のリスクアセスメントの方法. 臨牀看護臨時増刊号 2013; 39 (4) : 489-492.
- 16) 白勢 彩：キーワードはS・O・W・N・E・T 基礎からわかるスキンケア・ストーマケア・創傷ケア・栄養支援・排泄ケア W 創傷ケア 褥瘡の予防・治療に必要な栄養支援のポイント. 臨牀看護臨時増刊号 2013; 39 (4) : 497-499.
- 17) 白勢 彩, 渡邊 成¹⁾ (1) 川口市立医療センター内科) : 研究成果を100%伝えるためのプレゼンテーションスキルアップ講座 (Vol.7) 分かりやすい口演原稿の作り方 (その2). 看護展望 2012; 37 (8) : 734-739.
- 18) 山本 愛：実践に活かす急変対応トレーニング アナフィラキシー. 看護技術 2012; 58 (11) : 1038-1044.

(2) 解説/特集：

- 1) 山本裕之：【時間との戦い2次救急看護のカナメ 自施設対応か？転院か！？】疾患別 脳梗塞 rt-PA 静注療法開始までの実際. 救急看護&トリアージ 2012; 2 (2) : 31-34.
- 2) 今井圭司：【災害時の体制・訓練 さまざまな支援体制や災害トレーニングを学ぶ】CSMの経験 看護師が行なった瓦礫外部からのサポート活動. 救急看護&トリアージ 2012; 2 (3) : 2-7.
- 3) 吉田温子, 中井章人¹⁾ (1) 日本医科大学多摩永山病院女性診療科・産科) : 【Q & A で学ぶお母さんと赤ちゃんの栄養】母体妊娠中, 授乳中の栄養指導の実際 (2). 周産期医学 2012; 42 (増) : 406-409.
- 4) 石ヶ森重之：【補助循環の理解とケア】PCPS ピットフォールと対処. 重症集中ケア 2012; 11 (3) : 51-56.

学会発表

(1) ポスター：

- 1) 甲斐明美：誤嚥・窒息予防に関するアセスメントツール作成の取り組み. 日本摂食・嚥下リハビリテーション学会学術大会 (第17回・第18回共催) (北海道), 2012. 9.

(2) 一般講演：

- 1) 松村佳世子, 白勢 彩：難治性多発瘻孔の管理に難渋した1症例. 日本ストーマ・排泄リハビリテーション学会 (第30回) (愛知県), 2013. 2.

- 2) 白勢 彩, 松村佳世子: 当院におけるストーマサイトマーキング実施状況の検討. 日本ストーマ・排泄リハビリテーション学会 (第 30 回) (愛知県), 2013. 2.
 - 3) 平山千登勢¹⁾, 工藤礼子¹⁾, 佐藤美幸¹⁾, 上原真理子¹⁾, 清野美砂¹⁾, 古川純子¹⁾, 松村佳世子¹⁾, 武田操保¹⁾ (1) 東京都多摩地区自主学集會創クラブ世話人): 世話人がいきいきと活動するためにプレゼンテーションスキルアップを目指した取り組み. 日本ストーマ・排泄リハビリテーション学会 (第 30 回) (愛知県), 2013. 2.
 - 4) 平山千登勢¹⁾, 工藤礼子¹⁾, 佐藤美幸¹⁾, 上原真理子¹⁾, 清野美砂¹⁾, 古川純子¹⁾, 松村佳世子¹⁾, 武田操保¹⁾ (1) 東京都多摩地区自主学集會創クラブ世話人): 東京都多摩地区自主学集會の活動報告 第2回 S.O.W. クラブセミナーの実施概要. 日本ストーマ・排泄リハビリテーション学会 (第 30 回) (愛知県), 2013. 2.
 - 5) 本木智輝¹⁾, 東 直行¹⁾, 松村佳世子 (1) 日本医科大学多摩永山病院皮膚科): 当院における医療器具による医原性皮膚障害の統計的観察. 日本褥瘡学会学術集會 (第 14 回) (神奈川県), 2012. 9.
- (3) 示説:
- 1) 高仲雅子: がん看護相談外来の現状と課題. 日本がん看護学会学術集會 (第 27 回) (石川県), 2013. 2.
 - 2) 高仲雅子¹⁾, 小林徳行¹⁾, 高山善光¹⁾, 稲本絵里¹⁾, 小谷英太郎²⁾ (1) 日本医科大学多摩永山病院緩和ケアチーム, 2) 日本医科大学多摩永山病院内科・循環器内科): 臨床心理士参入による新体制チームの現状. 日本緩和医療学会学術大会 (第 17 回) (兵庫県), 2012. 6.
 - 3) 兼重久美子, 横山 正¹⁾ (1) 日本医科大学多摩永山病院消化器外科・一般外科・乳腺外科): 閉経前乳がん患者に対する内分泌治療の看護介入の検討. 日本乳癌学会学術総会 (第 20 回) (熊本県), 2012. 6.

[多摩永山病院消化器科]

研究業績

学会発表

- (1) 一般講演:
- 1) 松久威史, Aftab H¹⁾ (1) Dhaka Medical College, Department of Gastroenterology and Liver Diseases, Bangladesh, Dhaka): *Helicobacter pylori* 感染別にみたバングラデシュ人の背景胃粘膜. 日本消化器病学会総会 (第 98 回) (東京), 2012. 4.

[多摩永山病院放射線科技師室]

研究業績

学会発表

- (1) 一般講演:
- 1) 久米田暢行¹⁾, 織田 宏¹⁾, 中倉世貴¹⁾, 齊藤喜彦¹⁾, 上森真理子¹⁾ (1) 日本医科大学多摩永山病院 放射線科): Linear-Radial を用いた Proton Density - Volume Isotropic TSE Acquisition 法 (PD-VISTA) による冠動脈壁描出の初期的検討. 日本放射線技術学会 (第 40 回秋季学術大会) (東京都), 2012. 10.

29. 千葉北総病院付置施設等

[千葉北総病院集中治療室]

研究概要

開設以来、重症循環器疾患を主体に集中管理を要する内科疾患についての病態、診断、治療に係る研究を継続している。急性冠症候群については、診断ならびに予後推定に係る検査マーカーの評価についての研究を継続している。2009年度からは産学共同研究として心筋梗塞の早期診断に寄与すると期待される冠動脈粥腫破綻に関与する因子(sLOX-1, MMP-9)の有用性についての研究成果発表に加え、院外心停止と急性冠症候群との関連や、急性冠症候群と急性大動脈解離の鑑別についての研究も継続している。また急性冠症候群の早期診断マーカーである高感度トロポニンTについての多施設共同研究では、中核施設として発表を重ねている。急性大動脈瘤解離については、大動脈解離にともなう呼吸障害(投稿中)ならびに急性腎障害(印刷中)についての研究を行っている。うっ血性心不全に関する多施設共同研究(ATTEND registry)では、全国屈指の症例数を登録し、予後調査を完了した。次いで同じく心不全の薬物療法に関する新たな多施設共同研究(MtFUJI)にも参画している。心不全に関する研究は順調に進み、腎機能が短期・長期予後に及ぼす影響、急性期の血液ガス(酸塩基平衡)と臨床像との関係、スタチンが急性期治療に与える影響、心不全と肥満との関係について論文化し、心不全発症の季節性についての研究を開始した。今後も、心不全と腎障害との関連、ならびに心不全の新しい薬物療法についての研究を継続する予定である。心停止後に入院した症例に対する低体温療法については、最新の体表冷却装置を用いた治療成績についての研究により、心停止後の神経学的予後改善に係る因子について報告(印刷中)したが、今後は適切な冷却方法についての検討を継続する。補助循環装置の適正使用についての研究を開始し、経皮的心肺補助装置(PCPS)使用例の臨床像を詳細に検討した結果も論文化した。その他、急性膵炎、敗血症、全身性炎症反応症候群、急性肺障害、急性腎不全などについて、薬物療法ならびに補助循環療法を中心とした集中治療に関する研究を継続している。

研究業績

論文

(1) 原著:

- 1) Shirakabe A, Hata N, Kobayashi N, Shinada T, Tomita K, Tsurumi M, Matsushita M, Okazaki H, Yamamoto Y, Yokoyama S, Asai K¹⁾, Mizuno K¹⁾ (1) Department of Cardiovascular Medicine, Nippon Medical School) : Clinical significance of acid-base balance in an emergency setting in patients with acute heart failure. *J Cardiology* 2012 ; 60 (4) : 288-294.
- 2) Shirakabe A, Asai K¹⁾, Hata N, Yokoyama S, Shinada T, Kobayashi N, Tomita K, Tsurumi M, Matsushita M, Mizuno K¹⁾ (1) Department of Cardiovascular Medicine, Nippon Medical School) : Immediate administration of atorvastatin decreased the serum MMP-2 level and improved the prognosis for acute heart failure. *J Cardiology* 2012 ; 59 (3) : 374-382.
- 3) Tajika K¹⁾, Okamoto K¹⁾, Takano M¹⁾, Inami S²⁾, Yamamoto M¹⁾, Murakami D¹⁾, Kobayashi N, Ohba T¹⁾, Hata N, Seino Y¹⁾, Mizuno K²⁾ (1) Cardiovascular Center, Nippon Medical School Chiba-Hokusoh Hospital, 2) Department of Cardiovascular Medicine, Nippon Medical School) : Malondialdehyde-Modified Low-Density Lipoprotein Is a Useful Marker to Identify Patients With Vulnerable Plaque. *Circulation J* 2012 ; 76 (9) : 2211-2217.
- 4) Shirakabe A, Hata N, Kobayashi N, Shinada T, Tomita K, Tsurumi M, Matsushita M, Okazaki H, Yamamoto Y, Yokoyama S, Asai K¹⁾, Mizuno K¹⁾ (1) Department of Cardiovascular Medicine, Nippon Medical

School) : Long-term prognostic impact after acute kidney injury in patients with acute heart failure. Evaluation of the RIFLE criteria. *International Heart Journal* 2012 ; 53 (5) : 313-319.

- 5) Kobayashi N, Hata N, Shimura T, Yokoyama S, Shirakabe A, Shinada T, Tomita K, Murakami D¹⁾, Takano M¹⁾, Seino Y¹⁾, Matsumoto H²⁾, Mashiko K²⁾, Mizuno K³⁾ (1) Cardivascular Center, Nippon Medical School Chiba-Hokusoh hospital, 2) Department of Critical Care Medicine, Nippon Medical School Chiba-Hokusoh Hospital, 3) Department of Cardiovascular Medicine, Nippon Medical School) : Characteristics of patients with cardiac arrest caused by coronary vasospasm. *Circulation J* 2013 ; 77 (3) : 673-678.
- 6) Shirakabe A, Hata N, Kobayashi N, Shinada T, Tomita K, Tsurumi M, Matsushita M, Okazaki H, Yamamoto Y, Asai K¹⁾, Mizuno K¹⁾ (1) Department of Cardiovascular Medicine, Nippon Medical School) : Prognostic impact of acute kidney injury in patients with acute decompensated heart failure. *Circulation J* 2013 ; 77 (3) : 687-696.
- 7) Kurihara O¹⁾, Takano M¹⁾, Yamamoto M¹⁾, Shirakabe A, Kimata N¹⁾, Inami T¹⁾, Kobayashi N, Munakata R¹⁾, Murakami D¹⁾, Inami S²⁾, Okamatsu K, Ohba T, Ibuki C, Hata N, Seino Y, et al. (1) Cardivascular Center, Nippon Medical School Chiba-Hokusoh Hospital, 2) Department of Cardiovascular Medicine, Nippon Medical School) : Impact of prediabetic status on coronary atherosclerosis : A multivessel angiographic study. *Diabetes Care* 2013 ; 36 (3) : 729-733.

(2) 研究報告書 :

- 1) Kobayashi N, Hata N, Kume N¹⁾, Mizuno K²⁾ (1) Department of Cardiovascular Medicine, Graduate School of Medicine, Kyoto University, 2) Department of Cardiovascular Medicine, Nippon Medical School) : Methodological Considerations for Utilizing Plasma Matrix Metalloproteinase-9 as a Biomarker in Acute Coronary Syndromes -Reply-. *Circulation J* 2012 ; 76 (4) : 1044-1045.

(3) 症例報告 :

- 1) Kobayashi N, Takano M¹⁾, Shirakabe A, Hata N, Kawamata H²⁾, Mizuno K³⁾ (1) Cardivascular Center, Nippon Medical School Chiba-Hokusoh hospital, 2) Division of Radiology, Nippon Medical School Chiba-Hokusoh hospital, 3) Department of Cardiovascular Medicine, Nippon Medical School) : Intravascular ultrasound-guided endovascular stenting for celiac artery complicated with hepatic hypoperfusion following acute type-B aortic dissection. *JACC* 2012 ; 59 (17) : 1568-1568.
- 2) Inami T¹⁾, Seino Y¹⁾, Tomita K, Shirakabe A, Kobayashi N, Shinada T, Hata N, Mizuno K²⁾ (1) Cardivascular Center, Nippon Medical School Chiba-Hokusoh Hospital, 2) Department of Cardiovascular Medicine, Nippon Medical School) : Swimming in obstructive sleep apnea patient could be a risk factor of aortic dissection?. *Int J Cardiol* 2013 ; 162 (2) : e39-e40.

著 書

- 1) 白壁章宏, 畑 典武 : [分担] Killip 分類, Forrester 分類. 救急医学. 「指標」・「基準」の使い方とエビデンス. (編集 : 益子邦洋), 2012 ; pp1173-1175, へるす出版.
- 2) 畑 典武 : [翻訳] 2次救命処置 (ACLS) アルゴリズム. 治療可能な原因. Immediate Life Support マニュアル (監修 : 岡田和夫), 2012 ; pp36-37, へるす出版.
- 3) 白壁章宏, 畑 典武 : [分担] 第3章. B. 循環管理に必要なモニタリング. ICU・CCU 看護. (編集 : 早川弘一, 高野照夫, 高島尚美), 2013 ; pp72-84, 医学書院.
- 4) 品田卓郎, 畑 典武 : [分担] I章. CCU 収容時マニュアル. 2. CCU に収容すべき疾患 : 入室基準と退室基準. CCU テキスト. (編集 : 田中啓治, 山本 剛), 2013 ; pp5-7, 文光堂.
- 5) 品田卓郎, 田中啓治¹⁾ (1) 日本医科大学附属病院集中治療室) : [分担] I章. CCU 収容時マニュアル. 3. モー

ビルCCUとフライングICU. CCUテキスト. (編集; 田中啓治, 山本 剛), 2013; pp8-9, 文光堂.

- 6) 高橋保裕, 畑 典武: [分担] I章. CCU収容時マニュアル. 4. 循環器救急疾患のトリアージフローチャート. CCUテキスト. (編集; 田中啓治, 山本 剛), 2013; pp10-14, 文光堂.

学会発表

(1) 特別講演:

- 1) 畑 典武: 循環器救急疾患への対応. げんてん埼玉 (第9回) (さいたま), 2012. 11.
- 2) 畑 典武: 循環器救急疾患への対応. 生活習慣病フォーラム in 姫路 (姫路), 2012. 12.

(2) 教育講演:

- 1) 清野精彦¹⁾, 高野雅充¹⁾, 山本真功¹⁾, 村上大介¹⁾, 雪吹周生¹⁾, 小林宣明, 畑 典武 (¹⁾ 日本医科大学千葉北総病院循環器センター): バイオマーカー診断は画像診断を凌駕するか? Vulnerable Plaque and Vulnerable Blood. 日本心臓病学会学術集会 (第60回) (金沢), 2012. 9.

(3) 一般講演:

- 1) 鶴見昌史, 小林宣明, 志村徹郎, 松下誠人, 白壁章宏, 富田和憲, 品田卓郎, 横山真也, 畑 典武, 村上大介¹⁾, 水野杏一²⁾ (¹⁾ 日本医科大学千葉北総病院循環器センター, ²⁾ 日本医科大学附属病院循環器内科): 血栓閉塞型冠動脈自然解離に対してOCT, Chromaflo IVUSで比較観察しえた1例. 日本心血管インターベンション治療学会関東甲信越地方会 (第40回) (東京), 2012. 5.
- 2) Shirakabe A, Hata N, Shinada T, Kobayashi N, Tomita K, Tsurumi M, Matsushita M, Shimura T, Asai K¹⁾, Mizuno K¹⁾ (¹⁾ Department of Cardiovascular Medicine, Nippon Medical School): Clinical significance of Acid-Base balance at emergency setting in patients with acute heart failure. ESC Heart Failure 2012 (Belgrade), 2012. 5.
- 3) Matsushita M, Shirakabe A, Shimura T, Tsurumi M, Tomita K, Kobayashi N, Shinada T, Hata N, Mizuno K¹⁾ (¹⁾ Department of Cardiovascular Medicine, Nippon Medical School): Relationship between clinical findings on admission and visiting time in patients with acute heart failure. ESC Heart Failure 2012 (Belgrade), 2012. 5.
- 4) 白壁章宏: 急性心不全急性期治療薬としてのサムスカの有用性. 北総心不全治療研究会 (第2回) (佐倉), 2012. 6.
- 5) 鶴見昌史: 自然冠動脈解離に対してOCT, Chromaflo IVUSで比較観察しえた1例. 冠動脈疾患研究会 (第3回) (東京), 2012. 7.
- 6) 鶴見昌史, 尾崎健介, 志村徹郎, 松下誠人, 白壁章宏, 富田和憲, 小林宣明, 品田卓郎, 横山真也, 畑 典武, 阿部純子¹⁾, 雪吹周生¹⁾, 清野精彦¹⁾, 水野杏一²⁾ (¹⁾ 日本医科大学千葉北総病院循環器センター, ²⁾ 日本医科大学附属病院循環器内科): APRV (Airway Pressure Release Ventilation mode) により救命した重度肥満低換気症候群 (obesity hypoventilation syndrome; OHS) の1例. 日本集中治療医学会関東甲信越地方会 (第21回) (前橋), 2012. 8.
- 7) Kitamura M, Hata N, Takayama T¹⁾, Hirayama A¹⁾, Ogawa M²⁾, Yamashina A²⁾, Mera H³⁾, Yoshino H³⁾, Nakamura F⁴⁾, Seino Y⁵⁾ (¹⁾ Division of Cardiology, Dept of Medicine, Nihon University School of Medicine, ²⁾ Dept of Cardiology, Tokyo Medical University, ³⁾ Second Dept of Internal Medicine Kyorin University School of Medicine, ⁴⁾ Third Dept of Internal Medicine, Teikyo University Chiba Medical Center, ⁵⁾ Cardiovascular Center, Nippon Medical School Chiba-Hokusoh Hospital): High-sensitivity troponin T for earlier diagnosis of acute coronary syndrome with initially negative rapid-troponin T test - subanalysis of HsTnT-iNET study focused on coronary angiographic findings. ESC 2012 (Munich), 2012. 8.
- 8) Shirakabe A, Hata N, Kobayashi N, Shinada T, Tomita K, Tsurumi M, Matsushita M, Shimura T, Asai

- K¹, Mizuno K¹ (1) Department of Cardiovascular Medicine, Nippon Medical School) : Prognostic impact of the timing/degree of Acute Kidney Injury for Acute Heart Failure : an evaluation of the RIFLE Criteria. ESC 2012 (Munich), 2012. 8.
- 9) 白壁章宏, 野崎文華, 畑 典武, 品田卓郎, 小林宣明, 富田和憲, 鶴見昌史, 松下誠人, 山本良也, 横山真也, 水野杏一¹) (1) 日本医科大学附属病院循環器内科) : 退院時生存を予測する経皮の心肺補助 (PCPS) スコアの検討 : 当院での循環器疾患に対する PCPS 使用の検討から. 日本心臓病学会学術集会 (第 60 回) (金沢), 2012. 9.
- 10) 尾崎健介, 鶴見昌史, 志村徹郎, 松下誠人, 白壁章宏, 富田和憲, 小林宣明, 品田卓郎, 横山真也, 畑 典武, 阿部純子¹, 雪吹周生¹, 清野精彦¹) (1) 日本医科大学千葉北総病院循環器センター) : APRV (Airway Pressure Release Ventilation mode) により救命した重度肥満低換気症候群 (obesity hypoventilation syndrome : OHS) の 1 例. 千葉県重症患者管理研究会 (第 26 回) (千葉), 2012. 9.
- 11) Shirakabe A, Hata N, Kobayashi N, Tomita K, Tsurumi M, Matsushita M, Okazaki H, Yamamoto Y, Asai K¹, Mizuno K¹) (1) Department of Cardiovascular Medicine, Nippon Medical School) : Efficacy of urinary liver-fatty acid-binding protein (LFABP) excretion to predict the acute kidney injury in patients with acute heart failure : An evaluation of acute kidney injury on admission and the following five days. AHA Scientific Session 2012 (Los Angeles), 2012. 11.
- 12) Shirakabe A, Hata N, Kobayashi N, Shinada T, Tomita K, Tsurumi M, Matsushita M, Okazaki H, Yamamoto Y, Asai K¹, Mizuno K¹) (1) Department of Cardiovascular Medicine, Nippon Medical School) : Association between acute kidney injury in the acute phase of acute heart failure and the outcomes : An evaluation of acute kidney injury on admission and the following five days. AHA Scientific Session 2012 (Los Angeles), 2012. 11.
- 13) 白壁章宏, 畑 典武, 品田卓郎, 小林宣明, 富田和憲, 鶴見昌史, 松下誠人, 岡崎大武, 山本良也, 水野杏一¹) (1) 日本医科大学附属病院循環器内科) : 急性心不全急性期における Tolvaptan の有用性. 日本心不全学会 (第 16 回) (仙台), 2012. 11.
- 14) 松下誠人, 白壁章宏, 畑 典武, 山本良也, 鶴見昌史, 富田和憲, 小林宣明, 品田卓郎, 横山真也, 水野杏一¹) (1) 日本医科大学附属病院循環器内科) : 肥満の有無別に見た急性心不全の特徴. 日本心不全学会 (第 16 回) (仙台), 2012. 12.
- 15) 富田和憲, 小林宣明, 品田卓郎, 白壁章宏, 鶴見昌史, 岡崎大武, 山本良也, 畑 典武, 水野杏一¹) (1) 日本医科大学附属病院循環器内科) : B 型急性大動脈解離に合併する呼吸不全の予測因子についての検討. 日本集中治療医学会学術集会 (第 40 回) (松本), 2013. 3.
- 16) 品田卓郎, 山本良也, 岡崎大武, 鶴見昌史, 富田和憲, 白壁章宏, 畑 典武 : 低体温療法における体表面冷却装置 (Artic Sun[®]) の有用性についての検討. 日本集中治療医学会学術集会 (第 40 回) (松本), 2013. 3.
- 17) Inami T¹, Seino Y¹, Kimata N¹, Yamamoto M¹, Tomita K, Shirakabe A, Munakata R¹, Murakami D¹, Shinada T, Takano M¹, Ohba T¹, Ibuki C¹, Hata N, Mizuno K²) (1) Cardiovascular Center, Nippon Medical School Chiba-Hokusoh hospital, 2) Department of Cardiovascular Medicine, Nippon Medical School) : Characteristic features of sleep disordered breathing in the convalescent phase of aortic dissection - Comparative analysis with stable coronary artery disease. American College of Cardiology 2013 (San Francisco), 2013. 3.
- 18) Kitamura M, Hata N, Takayama T¹, Hirayama A¹, Ogawa M², Yamashina A², Mera H³, Yoshino H³, Nakamura F⁴, Seino Y⁵) (1) Division of Cardiology, Dept of Medicine, Nihon University School of Medicine, 2) Dept of Cardiology, Tokyo Medical University, 3) Second Dept of Internal Medicine Kyorin University School of Medicine, 4) Third Dept of Internal Medicine, Teikyo University Chiba Medical Center, 5)

Cardiovascular Center, Nippon Medical School Chiba-Hokusoh Hospital) : High-sensitivity troponin T for earlier diagnosis of ACS with initially negative rapid-troponin T test - subanalysis focused on CAG. The Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society (77th) (Yokohama), 2013. 3.

- 19) Inami T¹⁾, Seino Y¹⁾, Kano S¹⁾, Shimura T¹⁾, Kurihara O¹⁾, Kimata N¹⁾, Yamamoto T¹⁾, Tomita K, Shirakabe A, Munakata R¹⁾, Murakami D¹⁾, Abe J¹⁾, Shinada T, Maruyama M¹⁾, Takano M¹⁾, et al. (1) Cardiovascular Center, Nippon Medical School Chiba-Hokusoh Hospital) : Characteristic feature of sleep disordered breathing in the convalescent phase of aortic dissection. Comparative analysis with stable coronary artery disease. The Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society (77th) (Yokohama), 2013. 3.
- 20) Shirakabe A, Hata N, Kobayashi N, Shinada T, Tomita K, Tsurumi M, Matsushita M, Okazaki H, Yamamoto Y, Yokoyama S, Asai K¹⁾, Mizuno K¹⁾ (1) Department of Cardiovascular Medicine, Nippon Medical School) : Efficacy of urinary liver-fatty acid-binding protein excretion to predict the acute kidney injury in patients with acute heart failure. The Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society (77th) (Yokohama), 2013. 3.

[千葉北総病院リハビリテーション科]

研究概要

筋電信号記録と電気刺激の2つの機能を同一の表面電極で兼用できる2チャンネルポータブル電気刺激装置を使用し、麻痺筋から記録された筋電積分値に比例して増幅された電気刺激を与えることによって、さらに筋収縮を促すパワーアシストタイプの機能的電気刺激の脳血流に与える効果を検討している。脳卒中片麻痺患者の麻痺側手根伸筋と総指伸筋において、手関節伸展、手指伸展促進と物品把持移動からなる訓練を施行し、訓練前後での手関節、手指関節の可動域、被験筋のRMS、巧緻性の変化を計測パラメーターとしている。手指関節可動域、手根伸筋のRMS、巧緻動作の改善が認められた。筋電比例式電気刺激は、きめ細かな筋収縮を促進し巧緻動作訓練も可能な利点があり、筋収縮の筋固有感覚が入力刺激となって感覚運動統合の再構築を促す可能性が推察される。また、光トポグラフィーを用いて機能的電気刺激が脳循環に与える影響を検討する。さらに、経頭蓋直流電流刺激による脳機能賦活との併用を新たに検討し、脳機能イメージングを用いて脳への賦活効果を検討する。脳の可塑性を検討する基礎的検討として、124チャンネルの脳磁図を用いて手指、手関節運動時の脳神経活動の局在、運動準備電位との関連を検討する。回復期から慢性期の脳卒中片麻痺患者の麻痺側下肢のうっ血および深部下肢静脈血栓症について調査し、脳梗塞患者のDVT合併頻度、それらの危険因子および血栓予防薬との関係について検討する。

研究業績

論文

(1) 原著 :

- 1) 大林 茂, 原 行弘 : Hypofrontal activity during word retrieval in older adults : a near-infrared spectroscopy study. *Neuropsychologia* 2013 ; 51 : 418-424.

(2) 症例報告 :

- 1) Hara Y¹⁾, Obayashi S¹⁾ : Increased cerebral cortex perfusion in stroke patients with cognitive disorder following cilostazol administration, two cases report. *Neurosci Med* 2012 ; 3 (4) : 357-361.

著書

- 1) 原 行弘 : [分担] 救急処置・救命処置に必要な備品・医薬品. 運動療法ガイド第5版 (武藤芳照・他 (編)),

2012；pp257-262，日本医事新報社。

- 2) 原 行弘：〔分担〕運動施設における救急搬送の実態。運動療法ガイド第5版（武藤芳照・他（編）），2012；pp263-267，日本医事新報社。

学会発表

(1) シンポジウム：

- 1) 原 行弘：ニューロリハビリテーションにおける脳機能評価の展開.. 日本臨床神経生理学会学術集会（第42回）（東京），2012. 11.

(2) セミナー：

- 1) 原 行弘：ニューロ・リハビリテーション-新しい機能的電気刺激療法の応用-。日本ニューロリハビリテーション学会学術集会（第4回）（岡山），2013. 3.

(3) 一般講演：

- 1) 原 行弘，辻内和人，大林 茂：機能的電気刺激による運動野への影響と経頭蓋直流電気刺激併用効果。日本リハビリテーション医学会学術集会（第49回）（福岡），2012. 6.
- 2) 原 行弘：認知機能障害を呈した脳梗塞患者におけるシロスタゾールの機能的脳血流改善効果。日本脳卒中学会（第37回）（福岡），2012. 4.
- 3) Hara Y：The effects of electromyography-controlled functional electrical stimulation on upper extremity function and cortical perfusion in stroke patients. International Conference on Recent Advances in Neurorehabilitation 2013 (Valencia, Spain), 2013. 3.
- 4) Obayashi S, Hara Y：Aberrant superior frontal activity of patients with thalamic lesion：combined SPECT and functional near-infrared spectroscopy studies. 8th Federation of neuroscience (FENS) 2012 (Barcelona, Spain), 2012. 7.
- 5) 伏屋洋志¹⁾，田邊遼矢²⁾，大林 茂¹⁾，妹尾麻代¹⁾，辻内和人¹⁾，原 行弘¹⁾（¹⁾日本医科大学千葉北総病院リハビリテーション科，²⁾川崎市立川崎病院リハビリテーション科）：Critical illness polyneuropathy (CIP) と考えられた2例の電気生理学的検討。日本臨床神経生理学会学術大会（第42回）（東京），2012. 11.

[千葉北総病院病理部]

研究概要

症例の解析を中心として，病理形態学，超微細構造，特定タンパクや遺伝子異常の検出などを，臨床各科や学外施設との共同にて継続，推進中である。1：消化管腫瘍の臨床関連病因病態病理（Epstein Barr virus 関連性胃癌，GIST，大腸癌）。2：乳腺腫瘍，特に乳癌の免疫組織化学的表現型，ER，PgR，Her-2と微小形態学的，超微形態学的悪性度，臨床的予後との相関について。3：泌尿器科領域腫瘍，特に前立腺癌の微小形態と免疫組織化学。4：婦人科領域腫瘍，特に子宮体癌，卵巣癌の微小形態学的，免疫組織化学的検討とホルモン療法の効果についての検索。5：肺腫瘍，縦隔腫瘍の原発，転移ならびに分化に関する迅速免疫組織化学を加味した検討。6：脳腫瘍の組織型，悪性度に関する比較迅速細胞，組織診断学的検討。7：病理検査技術におけるホルマリン，有機溶剤の取り扱いについての基礎衛生学的研究など。

研究業績

論文

(1) 症例報告：

- 1) 和泉春香¹⁾，長瀬大輔¹⁾，石原 晋¹⁾，渋谷亜紀子¹⁾，豊田幸樹年¹⁾，藤本吉紀¹⁾，加藤元浩¹⁾，羽鳥 努，倉石安

- 庸¹⁾, 渋谷和俊²⁾, 名取一彦¹⁾ (1) 東邦大学医療センター大森病院 血液・腫瘍科, 2) 東邦大学医療センター大森病院 病理部) : 人工透析中に発症した頸部結核性リンパ節炎の1例. 臨牀と研究 2012; 89 (7) : 967-970.
- 2) 仲村泰彦¹⁾, 佐藤敬太¹⁾, 磯部和順¹⁾, 杉野圭史¹⁾, 羽鳥 努, 本間 栄¹⁾ (1) 東邦大学医療センター大森病院 呼吸器内科) : pulmonary tumor thrombotic microangiopathy (PTTM) を合併した肺扁平上皮癌の1剖検例. 肺癌 2012; 52 (4) : 402-408.

著 書

- 1) 清水秀樹, 堤 寛¹⁾, 谷山清己²⁾ (1) 藤田保健衛生大学医学部第一病理学, 2) 国立病院機構呉医療センター・中国がんセンター病理診断科, 臨牀研究部) : [分担] 第6部 病理解剖の前にB.感染症, 環境対策 3.ホルマリン対策. 病理解剖マニュアル 病理と臨牀(臨時増刊号) Vol.30(深山 正久, 船田 信顕, 黒田 誠), 2012; pp391-396, 株式会社 分光堂.

学会発表

(1) 一般講演 :

- 1) 三枝順子, 小黒辰夫, 京本晃典, 羽鳥 努 : 免疫組織学的, 電顕的に特異な形態様式を呈した間葉系マーカー陽性 Triple negative 乳癌の1例. 日本臨牀分子形態学会総会・学術集会(第44回)(高知), 2012. 9.
- 2) 清水秀樹, 平田哲士¹⁾, 有田茂実¹⁾ (1) 千葉県がんセンター臨牀病理部病理検査科) : 脳腫瘍の細胞診断 : パーチャルスライドを用いた観察から判定まで. 千葉県臨牀検査技師会 病理・細胞診検査研修班合同研修会(第1回)(千葉), 2012. 8.
- 3) 清水秀樹 : 病理検査室の労働環境 : 労働安全衛生と有害化学物質を中心に. H24年度日本臨牀衛生検査技師会九州支部病理細胞研修会(熊本県), 2013. 1.
- 4) 清水秀樹 : ホルマリン対策. 平成24年度 国立私立大学病院医療技術者関係職員研修(臨牀検査技術者)(東京都), 2012. 11.
- 5) 島津絢美 : 細胞診検査精度管理報告(フォトサーベイ部門). 平成24年度 病理・細胞診検査研究班合同研修会(千葉県), 2013. 2.
- 6) 米山剛一¹⁾, 島津絢美, 山本晃人, 山田 隆¹⁾, 笹谷昌司, 京本晃典, 三枝順子, 清水秀樹, 小黒辰夫, 羽鳥努 (1) 日本医科大学千葉北総病院 女性診療科・産科) : 腹腔細胞診陽性卵巣腫瘍の臨牀病理学的検討. 日本臨牀細胞学会秋期大会(第51回)(新潟), 2012. 11.
- 7) 山本晃人¹⁾, 島津絢美, 山田 隆¹⁾, 米山剛一¹⁾, 笹谷昌司, 京本晃典, 三枝順子, 清水秀樹, 小黒辰夫, 羽鳥努 (1) 日本医科大学千葉北総病院 女性診療科・産科) : 子宮体癌における腹腔細胞診陽性例の検討. 日本臨牀細胞学会秋期大会(第51回)(新潟), 2012. 11.
- 8) 角田陽平¹⁾, 米山剛一¹⁾, 中西一步¹⁾, 山田 隆¹⁾, 村川裕子¹⁾, 山本晃人¹⁾, 伊藤麻利江¹⁾, 永野玲子¹⁾, 渡辺美千明¹⁾, 新井 悟, 平野孝幸, 羽鳥 努 (1) 日本医科大学千葉北総病院 女性診療科・産科) : 術前に強く悪性転化を疑った卵巣成熟嚢胞性奇形腫の1例. 関東連合産科婦人科学会 総会・学術集会(第124回)(甲府), 2012. 10.
- 9) 須磨崎真¹⁾, 澤口悠子¹⁾, 木村和孝¹⁾, 鏡 哲¹⁾, 松田 聡¹⁾, 白坂健太郎¹⁾, 牛込充則¹⁾, 塩川洋之¹⁾, 栗原聰元¹⁾, 小池淳一¹⁾, 船橋公彦¹⁾, 平野孝幸, 羽鳥 努, 島田英昭¹⁾, 金子弘真¹⁾, その他1名 (1) 東邦大学医療センター大森病院 消化器外科) : S状結腸癌の手術創部に発生した腹壁反応性腫瘍の1例. 日本大腸肛門病学会学術集会(第67回)(福岡), 2012. 11.
- 10) 伊藤麻利江¹⁾, 山田 隆¹⁾, 中西一步¹⁾, 白銀 恵¹⁾, 高屋 茜¹⁾, 村川裕子¹⁾, 渡辺美千明¹⁾, 新井 悟, 羽鳥努, 米山剛一¹⁾ (1) 日本医科大学千葉北総病院 女性診療科・産科) : Malignant struma ovarii との診断を得た1症例. 日本婦人科腫瘍学会学術講演会(第53回)(岡山), 2012. 11.

- 11) 原田直幸¹⁾, 原田雅史¹⁾, 福島大輔¹⁾, 北島 悟¹⁾, 野本 淳¹⁾, 近藤康介¹⁾, 根本匡章¹⁾, 周郷延雄¹⁾, 羽鳥 努¹⁾ (東邦大学 医学部脳神経外科第1講座 (大森)): Diffuse astrocytoma with pilomyxoid features の1例. 日本脳腫瘍病理学会 (第30回) (名古屋), 2012. 5.
- 12) 久保田喜久¹⁾, 大塚由一郎¹⁾, 田村 晃¹⁾, 石井 淳¹⁾, 前田徹也¹⁾, 片桐敏雄¹⁾, 小池淳一¹⁾, 赤坂喜清²⁾, 平野孝幸, 羽鳥 努, 大久保陽一郎²⁾, 渋谷和俊²⁾, 金子弘真¹⁾ (東邦大学医療センター大森病院 消化器センター外科, ²⁾ 東邦大学病理): 肝障害を伴い急速進展した大腸癌同時性肝転移残肝再発例に対し Cetuximab が奏効した1例. 日本肝胆膵外科学会学術集会 (第24回) (大阪), 2012. 5.
- 13) 佐野弘子¹⁾, 堤 治²⁾, 阿部仁美¹⁾, 西井しのぶ¹⁾, 小倉美紀子¹⁾, 柳川啓一¹⁾, 羽鳥 努, 森 一郎¹⁾, 相田真介¹⁾, 長村義之¹⁾ (国際医療福祉大学附属三田病院 病理部, ²⁾ 山王病院 リプロダクション・婦人科内視鏡治療センター): 不妊症患者における卵巣嚢胞性腫瘍の穿刺細胞診の検討. 日本臨床細胞学会総会春期大会 (第53回) (千葉), 2012. 6.
- 14) 小林照明¹⁾, 清水雅子¹⁾, 千葉暢子¹⁾, 羽鳥 努, 密田亜希¹⁾, 若山 恵¹⁾, 根本哲生¹⁾, 金澤真作²⁾, 渋谷和俊¹⁾ (東邦大学医療センター大森病院 病院病理部, ²⁾ 東邦大学医療センター大森病院 乳腺外科): 粘液癌様の細胞像を示した乳腺神経内分泌癌の1例. 日本臨床細胞学会総会春期大会 (第53回) (千葉), 2012. 6.

[千葉北総病院中央検査室]

研究概要

当検査室では平成23年度に電子カルテを導入以来, 着実かつ迅速な検査対応に尽力した. さらに本年度も新入職員を対象として風疹・麻疹・水痘抗体価の検索など, 医学安全・医学衛生活動に取り組んだ. 各領域における主な概要として, 1) 微生物検査分野では地域の基幹病院との協力により MRSA と同時検出菌の調査, ESBLs 産生菌の地域における動向調査, 高度耐性菌の検出病棟における環境分析, その他では院内の環境・清浄度チェック, 2) 輸血検査分野では電子カルテ導入後における Rh (-) 血液製剤のスムーズな運用の試み, T & S のより一層の充実を図り, 緊急時対応として輸血検査教育用トレーニングの強化, 3) 生理学検査分野では終夜睡眠ポリソムノグラフィ導入による睡眠時無呼吸症候群の解析, 心臓超音波による非可動性・無茎性粘液腫の観察, 脳波検査室での音楽試聴や絵本を用いたリラクゼーション効果の検討, 耳鼻科領域に関わる聴性定常反応 (ASSR) の検討, 安静時の疼痛や足趾の壊死・潰瘍症状の重症下肢虚血の診断に皮膚灌流圧検査 (SPP) の稼働, 4) 総合分析分野では Chlamydia Trachomatis 検出における PCR 法の見直しと新規検出法との貴重な感度を対比, 5) 管理分野では医療安全対策に関して事故発生の是正と予測, 管理の本質, 総合管理の根幹について, 6) 教育分野では新年度における業務計画および能力開発と育成制度への取り組み, 7) その他では診療支援分野にて成田国際空港クリニックでの尽力, 更には継続課題である (社) 東京都医師会精度管理事業への運営協力をはじめ, 本年度も研修医に関する細菌検査, 輸血検査のトレーニング体制の調整等幅広い分野で活動が行われた. 新年度は深部静脈血栓に対するリスク評価と対策について血管検査ラボ (Vascular Lab: 仮称) の安定した稼働を重点課題の一つとして取り組んで行く予定である. 下記の業績は当検査室職員が筆頭名であるもの, または中心的役割をはたしたものを基本として掲載した. 今後も引き続き教育と技術水準の向上を目指しつつ, 安定して着実な運営を行いたい.

研究業績

学会発表

(1) 一般講演:

- 1) 野本剛史, 稲川美実: 新年度における業務計画および能力開発と育成制度について, 日本臨床検査自動化学会大会 (第44回) (横浜), 2012. 10.
- 2) 稲川美実, 野本剛史: 電子カルテ導入後における Rh (-) 血液製剤転用への試み. 日本臨床検査自動化学会大

会（第44回）（横浜），2012. 10.

- 3) 野本剛史, 岡本直人, 町田幸雄, 石渡統夫, 亀山雅弥, 若松孝嘉¹⁾, 中村貞博²⁾ (1) 日本医科大学千葉北総病院医学検査部 BML, ²⁾ (株) ビー・エム・エル総合研究所) : Chlamydia Trachomatis 検出法の動向 < 第1報 > : 特に日常導入時から現在までについて. 日本医学検査学会 (第61回) (津市), 2012. 6.
- 4) 野本剛史, 岡本直人, 町田幸雄, 石渡統夫, 亀山雅弥, 若松孝嘉¹⁾, 中村貞博²⁾ (1) 日本医科大学千葉北総病院医学検査部 BML, ²⁾ (株) ビー・エム・エル総合研究所) : Chlamydia Trachomatis 検出法の動向 < 第2報 > : 現状から今後の展望について. 日本医学検査学会 (第61回) (津市), 2012. 6.
- 5) 野本剛史, 岡本直人, 町田幸雄, 石渡統夫, 亀山雅弥 : Chlamydia Trachomatis 検出法に関する一考察. 日本医科大学医学会総会 (第80回) (東京都), 2012. 9.
- 6) 木富奈穂子, 石橋里子, 千葉ゆうき, 野口由紀, 吉岡友子, 松本望里, 岩瀬和真, 永井佑一, 亀山雅弥, 野本剛史 : タイプ2終夜睡眠ポリソムノグラフィ導入による睡眠時無呼吸症候群診断・解析の動向 : 当院連続95例についての分析. 日本医科大学医学会総会 (第80回) (東京都), 2012. 9.
- 7) 野口由紀¹⁾, 野本剛史¹⁾, 馬場俊吉²⁾ (1) 日本医科大学千葉北総病院中央検査室, ²⁾ 日本医科大学千葉北総病院耳鼻咽喉科) : 聴性定常反応 (ASSR) の有用性についての検討. 日本医科大学医学会総会 (第80回) (東京都), 2012. 9.
- 8) 町田幸雄 : 不幸にして事故が起こってしまったなら : 是正と予測. 北海道臨床衛生検査技師会医療安全研修会 (札幌市), 2012. 8.
- 9) 町田幸雄 : 総合管理とは : 序. 平成24年度日本臨床衛生検査技師会関西支部医学検査学会 (南紀白浜), 2012. 9.
- 10) 町田幸雄 : 管理の本質. 平成24年度日本臨床衛生検査技師会中国四国支部医学検査学会 (岡山市), 2012. 11.
- 11) 柳下照子¹⁾, 遠藤康伸²⁾, 内野卯津樹³⁾ (1) 日本医科大学千葉北総病院, ²⁾ 成田赤十字病院, ³⁾ 東邦大学医療センター佐倉病院) : 千葉県北総地区三病院におけるMRSAとの同時検出菌の調査・検出状況. 日本臨床微生物学会 (第24回) (横浜市), 2013. 2.
- 12) 石橋里子, 町田幸雄, 亀山雅弥, 野本剛史 : 心臓超音波検査により発見された非可動性・無莖性粘液腫の1症例. 千葉県臨床検査学会 (第33回) (千葉市), 2013. 2.
- 13) 谷口恵里, 町田幸雄, 亀山雅弥, 野本剛史 : 脳波検査でのリラクゼーション効果の検討 : 音楽聴取, 入眠前の絵本読み聞かせ. 値技研臨床検査学会 (第33回) (千葉市), 2013. 2.
- 14) 木富奈穂子¹⁾, 石橋里子¹⁾, 千葉ゆうき¹⁾, 野口由紀¹⁾, 吉岡友子¹⁾, 松本望里¹⁾, 岩瀬和真¹⁾, 永井佑一¹⁾, 亀山雅弥¹⁾, 野本剛史¹⁾, 稲見 徹²⁾, 清野精彦²⁾ (1) 日本医科大学千葉北総病院中央検査室, ²⁾ 日本医科大学千葉北総病院循環器内科) : タイプ2終夜睡眠ポリソムノグラフィ導入による睡眠時無呼吸症候群診断・解析の動向. 日本循環器学会学術集会 (第77回) (横浜市), 2013. 3.

[千葉北総病院薬剤部]

研究業績

論文

(1) 原著 :

- 1) Hoshi K¹⁾, Kawakami J¹⁾, Aoki S¹⁾, Sato K¹⁾, Hamada K²⁾ (1) Tohoku Pharmaceutical University, ²⁾ Chiba-Hokusoh Hospital, Nippon Medical School) : Compliance monitoring system using screen printing technology based on conductive ink. Technology and Health Care 2012 ; 20 (10) : 511-520.

(2) 総説：

- 1) 浜田康次 (1) 千葉北総病院薬剤部)：ひと目でわかる！お薬カード，インクレチン関連薬，調剤と情報 2012；18 (5)：付録.
- 2) 浜田康次 (1) 千葉北総病院薬剤部)：アッシュビル・プロジェクト，日本病院薬剤師会雑誌 2012；48 (5)：626-626.
- 3) 浜田康次 (1) 千葉北総病院薬剤部)：ひと目でわかる！お薬カード，アンジオテンシン II 受容体拮抗薬 (ARB)，調剤と情報 2012；18 (6)：付録.
- 4) 浜田康次 (1) 千葉北総病院薬剤部)：ひと目でわかる！お薬カード，アルツハイマー型認知症治療薬，調剤と情報 2012；18 (7)：付録.
- 5) 浜田康次 (1) 千葉北総病院薬剤部)：初掲載ジェネリックガイド，注目のジェネリック医薬品の市場シェア，ドネベジル塩酸塩，調剤と情報 2012；18 (7)：33-33.
- 6) 浜田康次 (1) 千葉北総病院薬剤部)：初掲載ジェネリックガイド，注目のジェネリック医薬品の市場シェア，アトバスタチンカルシウム水和物，調剤と情報 2012；18 (7)：34-34.
- 7) 浜田康次 (1) 千葉北総病院薬剤部)：初掲載ジェネリックガイド，注目のジェネリック医薬品の市場シェア，ドネベジル塩酸塩，薬事 2012；54 (7)：33-33.
- 8) 浜田康次 (1) 千葉北総病院薬剤部)：初掲載ジェネリックガイド，注目のジェネリック医薬品の市場シェア，アトバスタチンカルシウム水和物，薬事 2012；54 (7)：34-34.
- 9) 浜田康次 (1) 千葉北総病院薬剤部)：ひと目でわかる！お薬カード，速効型インスリン分泌促進薬，調剤と情報 2012；18 (8)：付録.
- 10) 浜田康次 (1) 千葉北総病院薬剤部)：ひと目でわかる！お薬カード，過活動膀胱治療薬，調剤と情報 2012；18 (9)：付録.
- 11) 浜田康次 (1) 千葉北総病院薬剤部)：ひと目でわかる！お薬カード，選択的セロトニン再取り込阻害薬 (SSRI)，調剤と情報 2012；18 (10)：付録.
- 12) 浜田康次 (1) 千葉北総病院薬剤部)：ひと目でわかる！お薬カード，前立腺肥大に伴う排尿障害治療薬，調剤と情報 2012；18 (11)：付録.
- 13) 浜田康次 (1) 千葉北総病院薬剤部)：ひと目でわかる！お薬カード， α -グルコシダーゼ阻害薬，調剤と情報 2012；18 (12)：付録.
- 14) 浜田康次 (1) 千葉北総病院薬剤部)：ひと目でわかる！お薬カード，プロトンポンプ阻害薬 (PPI)，調剤と情報 2013；19 (1)：付録.
- 15) 浜田康次 (1) 千葉北総病院薬剤部)：初掲載ジェネリックガイド，注目のジェネリック医薬品の市場シェア，ゾルピデム酒石酸塩，調剤と情報 2013；19 (1)：付録.
- 16) 浜田康次 (1) 千葉北総病院薬剤部)：初掲載ジェネリックガイド，注目のジェネリック医薬品の市場シェア，ロサルタンカリウム，調剤と情報 2013；19 (1)：付録.
- 17) 浜田康次 (1) 千葉北総病院薬剤部)：初掲載ジェネリックガイド，注目のジェネリック医薬品の市場シェア，ゾルピデム酒石酸塩，薬事 2013；55 (1)：付録.
- 18) 浜田康次 (1) 千葉北総病院薬剤部)：初掲載ジェネリックガイド，注目のジェネリック医薬品の市場シェア，ロサルタンカリウム，薬事 2013；55 (1)：付録.
- 19) 浜田康次 (1) 千葉北総病院薬剤部)：ひと目でわかる！お薬カード，アンジオテンシン II 受容体拮抗薬 (ARB) 利尿薬配合剤，調剤と情報 2013；19 (2)：付録.
- 20) 浜田康次 (1) 千葉北総病院薬剤部)：ひと目でわかる！お薬カード，抗リウマチ薬 (DMARDs)，調剤と情報 2013；19 (3)：付録.

著 書

- 1) 浜田康次⁽¹⁾ 千葉北総病院薬剤部)：〔分担〕 やけど用薬. 今日の OTC 薬一解説と便覧 (改訂第 2 版), 2012 : pp362-367, 南江堂.
- 2) 浜田康次⁽¹⁾ 千葉北総病院薬剤部)：〔分担〕 強心薬. 今日の OTC 薬一解説と便覧 (改訂第 2 版), 2012 : pp470-475, 南江堂.
- 3) 浜田康次⁽¹⁾ 千葉北総病院薬剤部)：〔分担〕 排尿障害改善薬. 今日の OTC 薬一解説と便覧 (改訂第 2 版), 2012 : pp490-499, 南江堂.
- 4) 浜田康次⁽¹⁾ 千葉北総病院薬剤部)：〔監修〕 似たような名称・外観に要注意. 知らないハイリスク, 誤薬・誤投与を防止する薬の知識 (浜田康次), 2012 : pp13-19, 学研メディカル秀潤社.
- 5) 浜田康次⁽¹⁾ 千葉北総病院薬剤部)：〔監修〕 製薬業界の取り組み, 医薬品の安全使用に向けた医療事故防止対策. 知らないハイリスク, 誤薬・誤投与を防止する薬の知識 (浜田康次), 2012 : pp98-110, 学研メディカル秀潤社.
- 6) 浜田康次⁽¹⁾ 千葉北総病院薬剤部)：〔監修〕 注射薬・輸液で知っておきたい単位. 知らないハイリスク, 誤薬・誤投与を防止する薬の知識 (浜田康次), 2012 : pp115-117, 学研メディカル秀潤社.

学会発表

(1) 一般講演：

- 1) 野呂未希子¹⁾, 矢作萌恵¹⁾, 川上準子¹⁾, 星 憲司¹⁾, 青木空真¹⁾, 佐藤憲一¹⁾, 浜田康次²⁾ ⁽¹⁾ 東北薬科大学 医療情報学, ²⁾ 千葉北総病院薬剤部)：多剤処方における副作用重複評価ツールの開発と臨床応用：転倒や錐体外路障害の副作用回避に向けた評価. 第 51 回日本薬学会東北支部大会 (青森), 2012. 10.
- 2) 野呂未希子¹⁾, 矢作萌恵¹⁾, 川上準子¹⁾, 星 憲司¹⁾, 青木空真¹⁾, 佐藤憲一¹⁾, 浜田康次²⁾ ⁽¹⁾ 東北薬科大学 医薬情報科学教室, ²⁾ 千葉北総病院薬剤部)：多剤処方における副作用重複評価ツールの開発と副作用回避に向けた応用. 日本薬学会第 133 年会 (横浜), 2013. 3.
- 3) 實川東洋¹⁾, 中田千博¹⁾, 下川陽子¹⁾, 福田恵子¹⁾, 高市直子²⁾, 三上麻衣²⁾ ⁽¹⁾ 千葉北総病院薬剤部, ²⁾ 千葉北総病院外来輸液療法室)：Denosumab 注における低カルシウム血症発現の要因探索. 日本臨床腫瘍薬学会学術大会 2013 (東京), 2013. 3.

[千葉北総病院放射線センター]

研究概要

当部門では診療用画像検査全般を取り扱うことから、それぞれの画像検査についての研究を進めている。一般撮影部門では CR の画像処理パラメータの条件に関する研究から医療被曝の軽減および画質の向上について各診療科との連携において行っている。MRI 検査部門では Raysum を用いた椎骨脳底動脈における血流および血管外観の 3D Fusion Imaging または頸動脈狭窄症に対する diffusion と VHIVUS, OCT の検討、また SPGR を用いた AVMAVF に対する撮像法の検討を進めている。Angio 検査部門では OCT 画像における残存血液が与える影響について検討。RI 検査部門では SPECT における心筋に関する検討や循環器系の研究は継続的に進めていて、脳神経系についても行っている。放射線治療部門では放射線治療計画におけるウェッジ使用時の線量分布と放射線治療計画装置による治療計画の精度について検討を行っている。CT 検査部門では 3 次元 CT の信頼性の向上についての検討を継続して進めている。

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) 水野正之, 高野雅充¹⁾, 河原崎昇, 清野精彦¹⁾, 水野杏一²⁾ (1) 北総病院 循環器内科, ²⁾ 付属病院 循環器内科) : 管腔内含有血液が OCT 画像に与える影響. CVIT JPN Ed 2012 : 4 (2) : 129-132.

学会発表

(1) 特別講演：

- 1) 加藤丈司 : Discovery MR 750 における 3T MR Imaging. 千葉 GE MR Users Meeting (第 14 回) (千葉), 2012. 9.
- 2) 丸山智之 : 救急単純撮影技術総論. 日本放射線技術学会東京部会・日本救急撮影認定技師機構共催講習会 (東京), 2013. 1.
- 3) 阿部雅志 : 骨関節外傷 MRI について (一般撮影との fusion). FS フォーラム (第 57 回) (東京), 2012. 8.

(2) 教育講演：

- 1) 加藤丈司 : MR 検査における神経刺激について. 千葉 MRI セミナー (第 25 回) (千葉), 2012. 6.
- 2) 加藤丈司 : Hydrography を利用した MR Angiography. 千葉 MRI セミナー (第 26 回) (千葉), 2012. 10.
- 3) 加藤丈司 : 3T MRI の使用経験. 関東 MR 研究会合同研究会 (第 2 回) 千葉撮像技術研究会 (第 62 回) (千葉), 2012. 12.
- 4) 丸山智之 : 脊椎の撮影技術と画像診断. 日本放射線技術学会東京部会 東京部会セミナー (第 79 回) (東京), 2012. 6.
- 5) 丸山智之 : 撮影法の解析と画像診断. 日本放射線技術学会東京部会 東京部会フォーラム (第 176 回) (東京), 2012. 10.
- 6) 阿部雅志 : 脊椎の撮影技術と画像診断 脊椎 MRI の画像解説. 放射線技術学会 東京部会セミナー (第 79 回) (東京), 2012. 6.
- 7) 阿部雅志 : 撮影法の解析と画像診断 一般撮影と MRI 画像の fusion. 放射線技術学会 東京部会技術フォーラム (第 176 回) (東京), 2012. 10.
- 8) 池亀 敏 : 頸椎撮影法の解説. 日本放射線技術学会 東京部会セミナー (第 79 回) (東京), 2012. 6.

(3) 一般講演：

- 1) 水野正之, 高野雅充¹⁾, 河原崎昇, 清野精彦¹⁾, 水野杏一²⁾ (1) 北総病院 循環器内科, ²⁾ 付属病院 循環器内科) : 回旋枝起始角度と OCT 画像. 日本循環器学会学術集会 (第 77 回) (神奈川県横浜市), 2013. 3.
- 2) 加藤丈司, 富田尚樹, 池亀 敏, 永井淳史, 阿部雅志, 河原崎昇, 岡田 進¹⁾, 小林士郎²⁾ (1) 千葉北総病院 放射線科, ²⁾ 千葉北総病院 脳神経外科) : 3T MRI における T1 強調型 FLAIR の造影効果 : 脳腫瘍の信号変化とコントラストについて. 日本放射線技術学会秋期学術大会 (第 40 回) (東京), 2012. 10.
- 3) 加藤丈司, 池亀 敏, 永井淳史, 阿部雅志, 河原崎昇, 岡田 進, 小林士郎 : 転移性脳腫瘍における緩和時間と造影効果. 日本脳神経外科学会学術総会 (第 71 回) (大阪), 2012. 10.
- 4) 加藤丈司, 富田尚樹, 池亀 敏, 阿部雅志, 河原崎昇, 岡田 進¹⁾, 小林士郎²⁾ (1) 千葉北総病院 放射線科, ²⁾ 千葉北総病院 脳神経外科) : 多発性硬化症の 3T MRI 脱随斑の信号変化について. 千葉 MRI セミナー (第 28 回) (千葉), 2013. 2.
- 5) 上田 司, 横山雪乃, 松丸和弘 : CT 用自動露出機構 (CT-AEC) の基礎的検討. 葛飾フレッシュマンズ・フォーラム (東京), 2012. 5.
- 6) 阿部雅志, 池亀 敏, 富田尚樹, 加藤丈司, 河原崎昇, 小南修史¹⁾, 小林士郎¹⁾ (1) 日本医科大学 千葉北総病院 脳神経外科) : 急性期診療のための MRI 検査に対する教育プログラム導入. 日本脳卒中学会総会 (第 37 回)

(福岡), 2012. 4.

- 7) 阿部雅志, 池亀 敏, 富田尚樹, 加藤丈司, 河原崎昇, 鈴木雅規¹⁾, 小南修史¹⁾, 小林士郎¹⁾ (1) 日本医科大学 千葉北総病院 脳神経外科): PROPELLER を用いた頸動脈ステント留置術後経過観察法の検討. NPO 法人日本脳神経血管内治療学会学術総会 (第 28 回) (仙台), 2012. 11.
- 8) 阿部晃大, 丸山智之, 富里謙一, 結城聖子, 渡辺典男, 河原崎昇: 骨密度測定装置における機械的・物理的特性による解析誤差と改善の検討. 放射線技術学会 東京部会 (第 66 回) (東京), 2012. 5.
- 9) 池亀 敏, 阿部雅志, 富田尚樹, 加藤丈司, 河原崎昇, 小林士郎¹⁾, 鈴木雅規¹⁾ (1) 日本医科大学 千葉北総病院 脳神経外科): 頸動脈プラーク描出のための variable refocusing flip angle 3D fast spin-echo (CUBE) の検討. NPO 法人日本脳神経血管内治療学会学術総会 (第 28 回) (仙台), 2012. 6.

[千葉北総病院歯科]

研究概要

当科では, 歯科治療における炭酸ガスレーザーを用いた歯周軟組織や硬組織の有用性についての基礎的研究および臨床的效果についての研究. 全身疾患と歯科治療の関係において, II 型糖尿病と歯周病との関係についての研究. 交通外傷におけるインプラント治療への長期応用における臨床的效果についての研究. 有病者における口腔衛生管理に対する臨床的效果についての研究などを行っている.

研究業績

論文

(1) 原著:

- 1) 両角祐子¹⁾, 安川俊之¹⁾, 山下亜希¹⁾, 高塩智子¹⁾, 佐藤 聡¹⁾, 鴨井久博²⁾ (1) 日本歯科大学新潟生命歯学部歯周病学講座, 2) 日本医科大学千葉北総病院歯科): ネックと柄にカーブを付与した歯ブラシのプラーク除去効果. 日歯保存誌 2012; 55 (4): 247-254.

(2) 症例報告:

- 1) Kamoi H¹⁾ (1) Dental Clinic, Nippon Medical School Chiba Hokusoh Hospital): A Case of Recovery of Oral Function with Dental Implants Following Facial Bone Trauma. J Nippon Med Sch 2012; 79 (6): 484-488.

学会発表

(1) 一般講演:

- 1) 鴨井久博¹⁾, 小倉喜一郎¹⁾, 田村友寛²⁾, 佐藤 勉²⁾ (1) 日本医科大学千葉北総病院歯科, 2) 日本歯科大学短期大学): ブラッシングの口腔清掃効果に関する研究 1. ブラッシング圧と使用後のブラシの形状変化の検討. 2012 年度ライフケア学会学術大会 (名古屋), 2012. 10.
- 2) 小倉喜一郎¹⁾, 鴨井久博¹⁾, 田村友寛²⁾, 佐藤 勉²⁾ (1) 日本医科大学千葉北総病院歯科, 2) 日本歯科大学短期大学): ブラッシングの口腔清掃効果に関する研究 2. 太陽電池付酸化チタン内蔵歯ブラシの効果. 2012 年度ライフケア学会学術大会 (名古屋), 2012. 10.
- 3) Sato S¹⁾, Shimizu Y¹⁾, Tada K¹⁾, Morozumi, Y¹⁾, Kamoi H²⁾ (1) Department of Periodontology, The Nippon Dental University School of Life Dentistry at Niigata, 2) Dental Clinic, Nippon Medical School Chiba Hokusoh Hospital): Effects of air polishing on the resin composite-dentin interface. The 98th Annual Meeting of American Academy of Periodontology in collaboration with the Japanese Society of Periodontology (Los Angeles), 2012. 10.

[千葉北総病院看護部]

研究概要

本年度の院内の研究発表は、10 演題であった。発表内容は臨床における患者への看護を探求したものであり、看護実践の場でより安全・安楽を目指す研究内容であった。8)～10) は、四病院看護継続教育において一年間受講し、その成果として四病院と院内で看護研究発表を行った。これらの研究は、来年度の学会発表や論文提出などへの準備を勧めている。

<テーマ>

- 1) 院内学級を進めていく上での看護師の役割の構築：開設から現在までの事例を通して看護師の役割の明確化
- 2) 周手術期における褥瘡の発生状況とその要因
- 3) 消化器がんにおける褥瘡評価についての考察：PNI を用いた褥瘡評価
- 4) 「入院中の履物について」の説明が患者の行動変容に有効的な影響を与えたか
- 5) 看護師による末梢静脈留置導入後の実際：インジェクションナースが抱える問題点
- 6) 慢性疾患患者のセルフモニタリング技術向上のためのセルフモニタリングパネル使用の効果
- 7) CAG・PCI クリニカルパス改定に向けた検討第 2 報：患者教育の機会とするための看護介入
- 8) 集中治療室における DVD 教材を用いた急性冠症候群患者への患者指導導入を試みて：超急性期における DVD 教材使用の効果の内容
- 9) フライトナースが予想を超える場面に遭遇した時の状況判断：ナラティブによる事例検討会を用いた分析
- 10) 大学病院で出産後も継続して働く看護師の看護体験についての分析：不安や葛藤をどのように乗り越えたのか
院外研究は 7 演題（1 演題はパネルディスカッション）が行われた。毎年取り組んでいる看護研究を、それぞれの専門分野で学会発表した。

研究業績

著書

- 1) 加瀬寛恵：〔分担〕PCPS：患者管理の実際。重症集中ケア Volume.11 Number.3（道又元裕），2012；pp42-50，日総研。

学会発表

- (1) パネルディスカッション：
 - 1) 増渕美恵子：中長期に及ぶ被災地支援における支援者の取り組みと課題。共同災害看護学専攻設置に向けたブレ・カンファレンス in Chiba, 2013. 3.
- (2) 一般講演：
 - 1) 坂巻雅美，松丸雪江，渡辺光子：がん終末期の多発性瘻孔のケア：患者の QOL を維持するために。東関東ストーマ・排泄リハビリテーション研究会（第 15 回），2012. 10.
 - 2) 平野知子：癌患者の家族ケア：看護師である妻を支えて。橘桜緩和医療研究会（第 5 回），2012. 6.
 - 3) 加藤三保子：緊急内視鏡検査介助における DVD 学習方法の検討：自己学習と集合学習の学習効果の比較。千葉県看護研究学会（第 31 回），2013. 2.
 - 4) 本郷正典，石栗由美，高橋陽子，大野佳恵，矢萩英子，佐々木優子，浮須由比，水成隆之¹⁾（¹⁾ 日本医科大学千葉北総病院 脳神経センター 脳神経外科）：看護ケアによる意識障害患者に対する覚醒の促し全身清拭，アロマオイル使用を実施して。日本意識障害学会（第 21 回），2012. 7.
 - 5) 本郷正典，石栗由美，高橋陽子，大野佳恵，浮須由比，佐々木優子：看護ケアによる意識障害患者に対する覚醒の促し。日本脳神経看護研究学会（第 39 回），2012. 10.

- 6) 大森章代：ドクターヘリにおけるフライトナースの安全管理に関する実態調査. 日本航空医療学会総会（第19回），2012. 11.

〔4〕付置研究施設

1. 老人病研究所

[病理部門]

研究概要

部門の研究には1) ケロイド発生機序の研究 2) 血管形成メカニズムの解析がある。1) ケロイド発生機序の研究 武蔵小杉病院形成外科と無瘢痕創傷を目的に肥厚性瘢痕とケロイド発生の解析を行っている。これまでケロイド発生に関与する遺伝子解析でIL-6 及びc-Abl 遺伝子の発現上昇を見いだしIL-6シグナルのケロイド発生への関与を明らかにした。ケロイドではTGF-beta やPDGF が過剰発現を示すことからこれらのシグナル伝達を同時に抑制する小分子標的治療薬STI571のケロイド線維芽細胞への投与によるプロコラーゲン産生とタイプIコラーゲン mRNA の発現の低下を目的にケロイド新薬としての可能性の解析を進めている。さらに、TGF-beta とPDGFシグナル伝達の抑制に関与するmicroRNA 遺伝子を解析しケロイド線維化調節に関わるCOLIA2プロモーターに関する研究にも着手している。2) 血管形成メカニズムの解析 血管には大動脈から毛細血管まで様々な大きさのものが存在する。我々はこの構造の違いがどのように生じるのか、血管の大きさを規定する機構についての研究を行っている。これまでに、ダウン症原因遺伝子RCAN1が血管の分岐を抑制し、血管の大きさを太くすることをアフリカツメガエルの過剰発現実験で明らかにしている。現在は他の候補遺伝子の血管形態への作用機序を検討しており、将来は様々な大きさの血管を薬剤によって誘導できる新規治療法の開発を目指している。血管の大きさは対象となる疾患によって大きく異なることから、汎用性の高い治療法として期待される。

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) Shimizu H, Sugino T¹⁾, Chiba H¹⁾ (¹⁾ Department of Basic Pathology, Fukushima medical University) : Interphase cytogenetic analysis of non-mucinous and mucinous adenocarcinoma with bronchioloalveolar pattern. Fukushima J Med Sci 2012 ; 58 (1) : 66-73.
- 2) Igota S^{1, 2)}, Tosa M³⁾, Murakami M³⁾, Egawa S, Shimizu H, Hyakusoku H⁴⁾, Ghazizadeh M (¹⁾ Department of Molecular Pathology, Institute of Gerontology, Nippon Medical School, ²⁾ Department of Plastic and Reconstructive Surgery, Higashi-totsuka Memorial Hospital, ³⁾ Department of Plastic and Reconstructive Surgery, Nippon Medical School, Musashi-kosugi Hospital, ⁴⁾ Department of Plastic and Reconstructive Surgery, Nippon Medical School) : Identification and Characterization of Wnt Signaling Pathway in Keloid Pathogenesis. Int J Med Sci 2013 ; 10 (4) : 344-354.

著書

- 1) Fujiwara M, Ghazizadeh M : [分担] Regulator of Calcineurin 1 (RCAN1). Encyclopedia of Signaling Molecules (Choi, S), 2012 ; pp1629-1635, Springer.

学会発表

(1) 招待講演：

- 1) Ghazizadeh M, Egawa S, Shimizu H, Igota S¹⁾, Tosa M²⁾ (¹⁾ Department of Plastic and Reconstructive Surgery, Higashi-totsuka Memorial Hospital, ²⁾ Department of Plastic and Reconstructive Surgery, Musashi-Kosugi Hospital, Nippon Medical School) : Characterization of Wnt signaling pathways in keloid pathogene-

sis. International Conference on Tissue Science and Engineering (Chicago), 2012. 10.

(2) 一般講演：

- 1) Ghazizadeh M, Shimizu H, Egawa S, Tosa M¹⁾ (1) Department of Plastic and Reconstructive Surgery, Musasi-Kosugi Hospital, Nippon Medical School) : Potential Involvement of the Stem Cell Factor Receptor c-kit in Keloid Pathogenesis. 日本皮膚科学会総会 (第110回) (京都), 2012. 6.
- 2) Shimizu H, Igota S¹⁾, Tosa M²⁾, Egawa S, Ghazizadeh M (1) Department of Plastic and Reconstructive Surgery, Musasi-Kosugi Hospital, Nippon Medical School, 2) Department of Plastic and Reconstructive Surgery, Higashi-totuka Memorial Hospital) : MicroRNA Expression Profiles in Keloid and Dermal Fibroblasts. 日本研究皮膚科学会総会 (第37回) (沖縄), 2012. 12.
- 3) Ghazizadeh M, Egawa S, Shimizu H, Igota S¹⁾, Tosa M²⁾ (1) Department of Plastic and Reconstructive Surgery, Higashi-totuka Memorial Hospital, 2) Department of Plastic and Reconstructive Surgery, Musasi-Kosugi Hospital, Nippon Medical School) : Involvement of a Wnt/ β -catenin Canonical Signaling Pathway in Keloid Pathogenesis. 日本研究皮膚科学会総会 (第37回) (沖縄), 2012. 12.
- 4) Fujiwara M, Hasebe T¹⁾, Ishizuya-Oka A¹⁾, Ghazizadeh M (1) Department of Biology, Nippon Medical School) : Involvement of cell death in the formation of spiral twisting vasculature in metamorphic *Xenopus laevis* tail. The 18th International Vascular Biology Meeting (Tokushima, Japan), 2012. 12.
- 5) 伊吾田慎一¹⁾, 土佐眞美子²⁾, 村上正洋²⁾, 枝川聖子, 清水 一, 百東比古³⁾, ガジザデモハマッド (1) 東戸塚記念病院形成外科, 2) 日本医科大学武蔵小杉病院形成外科, 3) 日本医科大学病院形成外科) : ケロイドにおける Wnt シグナル伝達経路の発現解析. 第7回癒痕・ケロイド治療研究会 (横浜), 2012. 11.

[生化学部門]

研究概要

大学院医学研究科加齢科学系専攻細胞生物学分野 (老人病研究所生化学部門) では老化や病気の原因を細胞の中から探っている。細胞内小器官のミトコンドリアはエネルギー産生だけでなく多くの病気や老化現象に関わっており、その機能を重視しながら様々な疾患への関与を探り、その予防・治療に寄与しようとする点が特色である。「科学は実用されて光り輝く」を基本とし、研究が社会に寄与するための基盤となる基礎研究を進めている。ミトコンドリアから発せられる電子と酸素が結びつくことで生まれる活性酸素が、ほとんどの生活習慣病や老化の原因となることは今や広く知られている。水素分子が効果的な抗酸化作用を示すことを明らかにし、2007年にNature Medicineに論文を発表した後は、他の研究室からの報告が相次ぎ、原著論文は260報以上の報告に至っている。慶應大学との共同研究では、心肺停止蘇生モデルで水素ガスの吸引が顕著な結果を示し、また順天堂大学との共同研究ではパーキンソン病に関して水素水の飲用が、2重盲検によって有意な効果が示された。ミトコンドリア病治療に関しては、厚生労働省の難治疾患克服事業の援助によりタウリンによる治験が開始された。教授は学会活動においては、2010年に設立したMedical Gas Researchの副編集長に加え、ミトコンドリア学会機関誌である国際誌「Mitochondrion」の副編集長も務め、またミトコンドリア病患者家族の会の顧問としても活動している。更に今年設立した分子状水素医学シンポジウムの理事長であり、日本ミトコンドリア学会、日本Cell Death学会の理事長も引き続き務めている。また、NHK「ゆうどきネットワーク」(6月)、TBS「あの日に帰りたい」(9月)、同じく「はなまるマーケット」(9月)、チバテレ「達人道」(12月)などに出演した。

研究業績

論文

(1) 原著 :

- 1) Hayashida K¹⁾, Sano M²⁾, Kamimura N, Yokota T, Suzuki M¹⁾, Maekawa Y²⁾, Kawamura A²⁾, Abe T³⁾, Ohta S, Fukuda K²⁾, Hori S¹⁾ (1) Department of Emergency and Critical Care Medicine, Keio University, 2) Department of Cardiology, Keio University, 3) Center for Clinical Research, School of Medicine, Keio University) : H₂ gas improves functional outcome after cardiac arrest to an extent comparable to therapeutic hypothermia. *J Am Heart Assoc* 2012 ; 1 (5) : 1-13.
- 2) Rikimaru M¹⁾, Ohsawa Y¹⁾, Wolf MA, Nishimaki K, Ichimiya H, Kamimura N, Nishimatsu S²⁾, Ohta S, Sunada Y¹⁾ (1) Department of Neurology, Kawasaki Medical School, 2) Department of Molecular and Developmental Biology, Kawasaki Medical School) : Taurine ameliorates impaired the mitochondrial function and prevents stroke-like episodes in patients with MELAS. *Intern Med* 2012 ; 51 (24) : 3351-3357.
- 3) Hoshi H^{1, 2)}, Wao W¹⁾, Fujita Y¹⁾, Funayama A¹⁾, Miyuchi Y^{1, 2)}, Hashimoto K^{1, 3)}, Miyamoto K^{1, 4)}, Iwasaki R⁵⁾, Sato Y¹⁾, Kobayashi T^{1, 4)}, Miyamoto H^{1, 2)}, Yoshida S^{2, 5)}, Mori T^{1, 2)}, Kanagawa H¹⁾, Katsuyama E^{1, 2)}, et al. (1) Department of Orthopedic Surgery, Keio University School of Medicine, 2) Center for Human Metabolomic Systems Biology, Keio University School of Medicine, 3) Department of Advanced Therapy for Spine and Spinal Cord Disorders, Keio University School of Medicine, 4) Keio Kanrinmaru Project, Keio University School of Medicine, 5) Department of Dentistry and Oral Surgery, Keio University School of Medicine) : Aldehyde-stress resulting from Aldh2 mutation promotes osteoporosis due to impaired osteoblastogenesis. *J Bone Miner Res* 2012 ; 27 (9) : 2015-2023.
- 4) Koga Y¹⁾, Tanaka M²⁾, Ohta S, Wei Y³⁾ (1) Kurume University Graduate School of Medicine, 2) Tokyo Metropolitan Institute of Gerontology, 3) National Yang-Ming University) : Biochemistry of mitochondria, life and intervention 2010. *Biochim Biophys Acta* 2012 ; 1820 (5) : 551-552.
- 5) Hanaoka T, Kamimura N, Yokota T, Takai S¹⁾, Ohta S (1) Department of Orthopedic Surgery) : Molecular hydrogen protects chondrocytes from oxidative stress and indirectly alters gene expressions through reducing peroxynitrite derived from nitric oxide. *Med Gas Res* 2012 ; 1 (1) : 1-8.
- 6) Kashio A¹⁾, Sakamoto T¹⁾, Kakigi A¹⁾, Suzuki S¹⁾, Suzukawa K¹⁾, Kondo K¹⁾, Sato Y, Asoh S, Ohta S, Yamasoba T¹⁾ (1) Faculty of Medicine, Department of Otolaryngology and Head and Neck Surgery, The University of Tokyo) : Topical application of the antiapoptotic TAT-FNK protein prevents aminoglycoside-induced ototoxicity. *Gene Ther* 2012 ; 19 (12) : 1141-1149.
- 7) Yoritaka A^{1, 2)}, Takanashi M¹⁾, Hirayama M³⁾, Nakahara T¹⁾, Ohta S, Hattori N¹⁾ (1) Department of Neurology, Juntendo University School of Medicine, 2) Department of Neurology, Juntendo Koshigaya Hospital, 3) Department of Pathophysiological Laboratory Science, Nagoya University Graduate School of Medicine) : Pilot Study of H₂ Therapy in Parkinson's Disease : A Randomized Double-Blind Placebo-Controlled Trial. *Mov Disord* 2013 ; 28 (6) : 836-839.
- 8) Cheng A¹⁾, Wan R¹⁾, Yang J²⁾, Kamimura N, Son GT¹⁾, Ouyang X¹⁾, Luo Y¹⁾, Okun E¹⁾, Mattson PM³⁾ (1) Laboratory of Neurosci., National Inst. Aging Intramural Res. Program, 2) Laboratory of Mol. Gerontol., National Inst. Aging Intramural Res. Program, 3) Dept. Neurosci., Johns Hopkins Univ. Sch. Med.) : Involvement of PGC-1 α in the formation and maintenance of neuronal dendritic spines. *Nature Communications* 2012 ; 3 (1250) : 1-12.
- 9) Wan R¹⁾, Yang J¹⁾, Kamimura N^{1, 2)}, Son T, Ouyang X, Luo Y, Okun E, Mattson M^{1, 3)} (1) Laboratory of Neurosci., National Inst. Aging Intramural Res. Program, 2) Laboratory of Mol. Gerontol., National Inst. Aging

Intramural Rese. Program, ³⁾ Dept. Neurosci., Johns Hopkins Univ. Sch. Med.) : Involvement of PGC-1 *a* in the formation and maintenance of neuronal dendritic spines. Nature Communications 2012 ; 3 (1250) : 1-12.

(2) 総説 :

- 1) Ohta S : Molecular hydrogen is a novel antioxidant to efficiently reduce oxidative stress with potential for the improvement of mitochondrial diseases. Biochim Biophys Acta 2012 ; 1820 (5) : 586-594.
- 2) 太田成男, 安川武宏 : ミトコンドリア DNA 構造と発現制御. Clinical Neuroscience 2012 ; 30 (9) : 988-991.
- 3) 太田成男 : 酸化ストレス制御とアンチエイジング. SURGERY FRONTIER 2012 ; 19 (2) : 80-83.
- 4) 太田成男 : 水素医学の現状 : 基礎医学から臨床医学へ. ファルマシア 2012 ; 48 (8) : 767-771.

学会発表

(1) 特別講演 :

- 1) Ohta S : Recent progress toward hydrogen medicine. International symposium of Mitochondrial biomedicine (China), 2012. 4.
- 2) 太田成男 : 水素医学の展開. 日本 NO 学会学術集会 (神戸), 2012. 6.
- 3) 太田成男 : 水素による抗酸化作用とアンチエイジング効果. 第 6 回東京眼科アカデミー (東京), 2013. 1.
- 4) 太田成男 : 水素医学研究 update-2012. 第 3 回分子状水素医学シンポジウム (東京), 2013. 2.

(2) 招待講演 :

- 1) 太田成男 : 水素医学の発展と健康への貢献. 日本アンチエイジング歯科学会 (名古屋), 2012. 5.
- 2) 太田成男 : ミトコンドリアを維持し, 増やすための生活の知恵. 東洋はり医学会 (東京), 2012. 5.
- 3) 太田成男 : 老いと若さを制御するミトコンドリア. エイジングサイエンスシンポジウム (東京), 2012. 6.
- 4) 太田成男 : ミトコンドリアはどこ迄老化と若返りに関与している?. 日本抗加齢医学会 (札幌), 2012. 9.

(3) 一般講演 :

- 1) 一宮治美, 上村尚美, 太田成男 : 水素発生素材の利用とその安全性の検討. 第 35 回日本分子生物学会 (福岡), 2012. 12.
- 2) Wolf MA, 西槇貴代美, 上村尚美, 太田成男 : Optical recording of oxidative stress in live mice. 第 35 回日本分子生物学会 (福岡), 2012. 12.
- 3) 上村尚美, 金丸拓也, 横田 隆, 井内勝哉, 西槇貴代美, 高見新也¹⁾, 赤芝洋紀¹⁾, 志鷹義嗣¹⁾, 桂研一郎²⁾, 片山康朗²⁾, 太田成男 (¹⁾ アステラス製薬, ²⁾ 医学研究科 神経内科学分野) : ヒト変異 APP 高発現マウスと酸化ストレス亢進マウスとの掛け合わせマウスの解析. 第 35 回日本分子生物学会 (福岡), 2012. 12.
- 4) 金丸拓也, 上村尚美, 井内勝哉, 西槇貴代美, 横田 隆, 高見新也¹⁾, 赤芝洋紀¹⁾, 志鷹義嗣¹⁾, 桂研一郎²⁾, 片山泰朗²⁾, 太田成男 (¹⁾ アステラス製薬, ²⁾ 医学研究科 神経内科学分野) : アルツハイマーモデルマウスに対する他家骨髄単核球投与の認知機能改善効果. 第 35 回日本分子生物学会 (福岡), 2012. 12.
- 5) 上村尚美, 一宮治美, 太田成男 : 糖尿病モデルマウスにおける分子状水素の効果と遺伝子発現誘導の網羅的解析. 第 3 回分子状水素医学シンポジウム (東京), 2013. 2.
- 6) Wolf MA, 西槇貴代美, 上村尚美, 太田成男 : Optical recording of oxidative stress in live mice. 第 12 回日本ミトコンドリア学会年会 J-mit2012 (つくば), 2012. 12.
- 7) 金丸拓也, 上村尚美, 井内勝哉, 西槇貴代美, 横田 隆, 高見新也¹⁾, 赤芝洋紀¹⁾, 志鷹義嗣¹⁾, 桂研一郎²⁾, 片山泰朗²⁾ (¹⁾ アステラス製薬・薬理研究所, ²⁾ 医学研究科・神経内科学) : ミトコンドリアアルデヒド脱水素酵素 2 活性欠損マウス (DAL101 マウス) に対する骨髄単核球移植の認知機能改善効果. 第 12 回日本ミトコンドリア学会年会 J-mit2012 (つくば), 2012. 12.
- 8) 林田 敬¹⁾, 佐野元昭²⁾, 上村尚美, 横田 隆, 太田成男, 福田恵一²⁾, 堀 進悟¹⁾ (¹⁾ 慶応義塾大学医学部救急医学教室, ²⁾ 慶応義塾大学循環器内科学教室) : ラット心停止モデルを用いた水素吸入療法と低体温療法の予後

改善効果の検討. 第3回分子状水素医学シンポジウム (東京), 2013. 2.

- 9) Kamimura N, Kanamaru T, Yokota K, Iuchi K, Nishimaki K, Takami S¹⁾, Akashiba H¹⁾, Shitaka Y¹⁾, Katsura K²⁾, Katayama Y²⁾, Ohta S (¹⁾ Astellas pharma, ²⁾ Dept. Internal Med.) : APP TRANSGENIC MICE WITH OXIDATIVE STRESS. International Conference AD/PD 2013 (The 11th) (Italy), 2013. 3.
- 10) Ohta S, Nagata K, Ohsawa I¹⁾, Mikami T²⁾ (¹⁾ Ctr. Mol. Hydrogen Med., ²⁾ Dept. Health and Sports Sci.) : Molecular Hydrogen Prevents Learning- and Memory-deficits Declined by Physical Restraint Stress. International Conference AD/PD 2013 (The 11th) (Italy), 2013. 3.
- 11) Nishimaki K, Ohsawa I¹⁾, Ohta S (¹⁾ Environmental Gerontol., Tokyo Metropolitan Inst. Gerontol.) : CONSUMPTION OF HYDROGEN WATER IS EFFECTIVE FOR THE PROGRESSION OF ALZHEIMER (R と S の間にシングルクオート) S DISEASE. International Conference AD/PD 20138 (The 11th) (Italy), 2013. 3.

[疫学部門]

研究概要

生体の個体としての機能とその制御機構の解明をめざし、ホルモン・生理活性物質を対象として生理学的研究を行っている。ホルモンの分泌調節機構の解明、ホルモンの作用機序の研究、ホルモンの細胞内シグナル伝達機構を解明する。(1) 動物の栄養状態に対応するインスリン・IGF-I シグナリングの変動と意義について検討した。低タンパク質栄養状態の動物では、タンパク質代謝が低下するためにエネルギー消費量も低下するが、余剰となった糖を主に肝臓が取り込み、脂質として蓄積する仕組みが稼働していることが明らかとなった。IGF-I による甲状腺細胞の増殖誘導は甲状腺刺激ホルモンの共存下で増強される。これに必須なタンパク質 PI3KAP/XB130 を同定し、この分子を介したシグナル系を解析した。(2) 成長ホルモンの分泌調節機構と生理作用の解明をめざし研究している。成長ホルモンが転写因子 X-box binding protein 1 (XBPI) の活性化を介して小胞体ストレスの解除に関係している可能性を提唱した。(3) 内臓脂肪蓄積や糖尿病に対する成長ホルモンの予防効果を検討し、機序として脂肪組織局所における酸化ストレスや慢性炎症の軽減による脂肪細胞の機能改善が関与していることを明らかにした。急性冠症候群における動脈硬化性プラーク破裂後の血栓形成の防御機序の一つとして、炎症性マクロファージが産生する凝固カスケードのトリガーである組織因子の発現をアディポネクチンが抑制する事を明らかにした。受容体チロシンキナーゼ阻害剤であるスニチニブの血管平滑筋の遊走・増殖の抑制効果とラット内皮傷害後の内膜肥厚の抑制効果を明らかにした。

2.呼吸ケアクリニック

研究概要

非腫瘍性の呼吸器疾患全て（COPD、気管支喘息間質性肺炎）と睡眠時無呼吸症候群、在宅医療（酸素療法、人工呼吸療法、CPAP治療）に重点を置いている。臨床研究ではCOPDの栄養学的研究、COPDの病態について循環器疾患との臓器相関、COPDの特殊病態、東京大学工学部との共同研究として効率的診療理論の研究を進め、このテーマに関し同学部大学院修士論文の指導を行ってきた。睡眠時無呼吸症候群の病態について研究、看護研究としてCOPD患者の教育の在り方につき研究を進めた。基礎研究では、COPDの遺伝子研究を東京医科歯科大学、東京都健康長寿医療センターと共同研究として進めた。サーファクタント蛋白SP-Dが肺気腫だけでなく間質性肺炎、肺癌とも関与する事を見出した。理化学研究所糖鎖生物学研究グループとの共同研究により、ノックアウトマウスが肺気腫を形成する糖鎖関連蛋白FUT8がCOPD増悪や病態進行のバイオマーカーになりうることを報告、同蛋白によりシグナル情報伝達が修飾を受けるTGF- β 経路とCOPDの重症度との関連を見出した。さらに、同共同研究グループにより、糖鎖関連蛋白siglec14の遺伝子型がCOPD増悪と関連siglec14蛋白が増悪感受性のバイオマーカーになることを見出し、論文報告するとともに、特許出願を行った。COPDの治療薬の開発を理化学研究所糖鎖センターとの共同研究として進め2件の特許を出願中である。東日本大震災で被災したCOPD患者の状況を調査し将来に向けた対策を講じるための多施設共同研究を厚労科研費により実施している（班長、木田）。現在、医師3人が文科省の科研費を得て研究に従事しており、理化学研究所との共同研究は独立行政法人医薬基盤研究所からの委託研究としての研究費に拠っている。木田は新聞、ラジオ、TV、市民公開講座などを通じ啓発活動を行った。

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) Ishii T, Hagiwara K¹), Ikeda S²), Arai T³), Mieno NM⁴), Kumasaka T⁵), Muramatsu M²), Sawabe M³), Gemma A⁶), Kida K (¹ Department of Respiratory Medicine, Saitama Medical University, ² Department of Molecular Epidemiology, Medical Research Institute, Tokyo Medical and Dental University, ³ Department of Pathology, Tokyo Metropolitan Geriatric Medical Center, ⁴ Department of Medical Informatics/Center for Information, Jichi Medical University, ⁵ Department of Pathology, Japanese Red Cross Medical Center, ⁶ Division of Pulmonary Medicine, Infectious Diseases, and Oncology, Department of Internal Medicine, Nippon Medical School) : Association between genetic variations in surfactant protein d and emphysema, interstitial pneumonia, and lung cancer in a Japanese population. COPD 2012 ; 9 (4) : 409-416.
- 2) Kamio K¹), Yoshida T²), Gao C³), Ishii T, Ota F³), Motegi T, Kobayashi S³), Fujinawa R³), Ohtsubo K³), Kitazume S³), Angata T³), Azuma A¹), Gemma A¹), Nishimura M²), Betsuyaku T²), et al. (¹ Division of Pulmonary Medicine, Infectious Diseases, and Oncology, Department of Internal Medicine, Nippon Medical School, ² First Department of medicine, Hokkaido University School of Medicine, ³ Systems Glycobiology Group, RIKEN Advanced Science Institute, ⁴ Division of Pulmonary Medicine, Department of Medicine, Keio University School of Medicine) : *a* 1,6-Fucosyltransferase (Fut8) is implicated in vulnerability to elastase-induced emphysema in mice and a possible non-invasive predictive marker for disease progression and exacerbations in chronic obstructive pulmonary disease (COPD). Biochem Biophys Res Commun 2012 ; 424 (1) : 112-117.
- 3) Motegi T, Yamada K, Ishii T, Gemma A¹), Kida K (¹ Division of Pulmonary Medicine, Infectious Diseases,

and Oncology, Department of Internal Medicine, Nippon Medical School) : Long-term management of chronic obstructive pulmonary disease : A survey of collaboration among physicians involved in pulmonary rehabilitation in Japan. *Respir Investig* 2012 ; 50 (3) : 98-103.

- 4) Ishii T, Motegi T, Hattori K, Yamada K, Kusunoki Y, Gemma A¹, Kida K (¹ Division of Pulmonary Medicine, Infectious Diseases, and Oncology, Department of Internal Medicine, Nippon Medical School) : The Association between Serum Concentration of Surfactant Protein D and Progression of Chronic Obstructive Pulmonary Disease. *J Nippon Med Sch* 2012 ; 79 (6) : 498-500.

(2) 座談会 :

- 1) 石井健男, 長瀬隆英¹, 山口正雄², 福永興彦³ (¹ 東京大学医学部呼吸器内科, ² 帝京大学医学部呼吸器内科, ³ 慶應義塾大学医学部呼吸器内科) : 呼吸器学における研究展望. *呼吸* 2012 ; 31 (6) : 508-516.

(3) 総説 :

- 1) 木田厚瑞 : COPD/実地診療における医療連携の進め方. *東京都医師会雑誌* 2013 ; 66 (3) : 27-35.
2) 沢辺元司¹, 櫻井うらら², 新井富生², 石井健男 (¹ 東京医科歯科大学医学部保健衛生学分子病態検査学, ² 東京都健康長寿医療センター病理診断科) : 病理からみた呼吸器系の加齢性変化. *The Lung perspectives* 2012 ; 20 (2) : 125-129.
3) 石井健男 : COPDにおける在宅管理と医療連携. *Monthly Book Medical Rehabilitation* 2012 ; (147) : 7-14.
4) 石井健男 : 各論II-4 再診・通院患者の病態別の診かた. *レジデント* 2013 ; 6 (1) : 78-87.
5) 茂木 孝 : 【禁煙指導の Up-To-Date-どのように達成させるか】 全医療従事者による禁煙支援の推進. *THE LUNG-perspectives* 2013 ; 21 (1) : 73-76.
6) 茂木 孝 : 【総合的に考える高齢者の呼吸器疾患】 高齢者の呼吸器疾患 医療・介護制度と費用の問題. *THE LUNG-perspectives* 2012 ; 20 (2) : 135-139.
7) 茂木 孝 : 特集『医療質安全保証に向けた臨床医たちの視座』慢性閉塞性肺疾患 COPD : 疾病管理と急性増悪の質マネジメント. *品質* 2013 ; 43 (1) : 30-33.

著 書

- 1) 木田厚瑞 : [自著] 「COPD (慢性閉塞性肺疾患)」と言われたら…, 2012 ; pp1-126, 保健同人社.
2) 石井健男 : [分担] III. 診断の進歩 7. 呼吸器疾患における次世代シークエンサーの有用性. *Annual review 呼吸器* 2013 (永井厚志, 巽 浩一郎, 桑野和善, 高橋和久), 2013 ; pp192-199, 中外医学社.

学会発表

(1) シンポジウム :

- 1) 服部久弥子, 石井健男, 茂木 孝, 楠 裕司, 山田浩一, 弦間昭彦¹, 木田厚瑞 (¹ 日本医科大学呼吸器内科) : 【ミニシンポジウム : COPD 臨床】 COPDにおける肺高血圧症の合併に関する臨床的検討. 日本呼吸器学会学術講演会 (第52回) (神戸市), 2012. 4.

(2) セミナー :

- 1) 服部久弥子 : 高齢者の肺炎予防 : 肺炎球菌ワクチンの重要性和有効性. 日本旅行医学会イブニングセミナー (東京), 2012. 9.

(3) 一般講演 :

- 1) 石井健男, 萩原弘一¹, 池田仁子², 新井富生³, 三重野牧子⁴, 熊坂利夫⁵, 村松正明², 沢辺元司³, 弦間昭彦⁶, 木田厚瑞 (¹ 埼玉医科大学呼吸器内科, ² 東京医科歯科大学難治疾患研究所分子疫学講座, ³ 東京都健康長寿医療センター病理部, ⁴ 自治医科大学情報センター・医学情報学, ⁵ 日本赤十字医療センター病理部, ⁶ 日本医科大学呼吸器内科) : SFTPD の遺伝子多型と肺気腫, 間質性肺炎, 及び肺がんとの関連. 日本呼吸器学会

- 学術講演会（第52回）（神戸市），2012. 4.
- 2) 茂木 孝, 楠 裕司, 服部久弥子, 石井健男, 山田浩一, 弦間昭彦¹⁾, 木田厚瑞⁽¹⁾ 日本医科大学呼吸器内科) : COPD assessment test (CAT) による患者管理の妥当性. 日本呼吸器学会学術講演会（第52回）（神戸市），2012. 4.
 - 3) 神尾孝一郎¹⁾, 石井健男, 茂木 孝, 吾妻安良太¹⁾, 弦間昭彦¹⁾, 木田厚瑞⁽¹⁾ 日本医科大学呼吸器内科) : COPD 患者における血清 TGF- β 1 濃度と呼吸機能・胸部 CT パラメーターとの関係に関する検討. 日本呼吸器学会学術講演会（第52回）（神戸市），2012. 4.
 - 4) 堀江健夫¹⁾, 茂木 孝, 土橋邦生²⁾, 木田厚瑞⁽¹⁾ 前橋赤十字病院呼吸器内科, ²⁾ 群馬大学大学院保健学研究科) : COPD急性増悪におけるPCAPSコンテンツの作成と検証－医療連携プロセスの可視化－. 日本呼吸ケア・リハビリテーション学会学術集会（第22回）（福井市），2012. 11.
 - 5) 茂木 孝, 楠 裕司, 服部久弥子, 石井健男, 山田浩一, 木田厚瑞 : 閉塞・拘束性換気障害がない受診者による6分歩行試験の基準値検討. 日本呼吸ケア・リハビリテーション学会学術集会（第22回）（福井市），2012. 11.
 - 6) 田鎖幸江, 山口敬子, 瀬川佳余, 伊藤亜紀, 楠 裕司, 服部久弥子, 石井健男, 茂木 孝, 木田厚瑞 : GOLD2011は看護介入の指標となるかについての検討. 日本呼吸ケア・リハビリテーション学会学術集会（第22回）（福井市），2012. 11.
 - 7) 楠 裕司, 若林律子, 服部久弥子, 石井健男, 茂木 孝, 山田浩一, 弦間昭彦¹⁾, 木田厚瑞⁽¹⁾ 日本医科大学呼吸器内科) : 在宅 ergometer 訓練の効果に関する研究. 日本呼吸ケア・リハビリテーション学会学術集会（第22回）（福井市），2012. 11.
 - 8) 古館隆子, 石井健男, 茂木 孝, 山田浩一, 服部久弥子, 楠 裕司, 弦間昭彦¹⁾, 木田厚瑞⁽¹⁾ 日本医科大学呼吸器内科) : COPD 患者における Mini Nutritional Assessment と COPD Assessment Test との関連性について. 日本呼吸ケア・リハビリテーション学会学術集会（第22回）（福井市），2012. 11.
 - 9) 茂木 孝, 堀江健夫¹⁾, 桂 秀樹²⁾, 土橋邦生³⁾, 木田厚瑞⁽¹⁾ 前橋赤十字病院呼吸器内科, ²⁾ 東京女子医科大学八千代医療センター呼吸器科, ³⁾ 群馬大学大学院保健学研究科) : COPD 増悪入院治療における多施設ベンチマーキングの試み : PCAPS を用いて. 日本呼吸ケア・リハビリテーション学会学術集会（第22回）（福井市），2012. 11.
 - 10) 中村利枝, 茂木 孝, 楠 裕司, 服部久弥子, 石井健男, 山田浩一, 弦間昭彦¹⁾, 木田厚瑞⁽¹⁾ 日本医科大学呼吸器内科) : 安定期 COPD 患者におけるホルター心電図所見に関する研究. 日本呼吸ケア・リハビリテーション学会学術集会（第22回）（福井市），2012. 11.
 - 11) Furutate R, Ishii T, Motegi T, Yamada K, Hattori K, Kusunoki Y, Gemma A¹⁾, Kida K⁽¹⁾ Division of Pulmonary Medicine, Infectious Diseases, and Oncology, Department of Internal Medicine, Nippon Medical School) : Loss of appetite in patients with chronic obstructive pulmonary disease. ATS 2012 International Conference (San Francisco), 2012. 5.
 - 12) Ishii T, Motegi T, Kamio K¹⁾, Gemma A¹⁾, Kida K⁽¹⁾ Division of Pulmonary Medicine, Infectious Diseases, and Oncology, Department of Internal Medicine, Nippon Medical School) : Genetic variations in vitamin D-binding protein are associated with exacerbations and emphysema in chronic obstructive pulmonary disease. ATS 2012 International Conference (San Francisco), 2012. 5.
 - 13) Kamio K, Ishii T, Motegi T, Azuma A¹⁾, Gemma A¹⁾, Kida K⁽¹⁾ Division of Pulmonary Medicine, Infectious Diseases, and Oncology, Department of Internal Medicine, Nippon Medical School) : Decreased serum transforming growth factor- β 1 concentration in chronic obstructive pulmonary disease patients with severe emphysema. ATS 2012 International Conference (San Francisco), 2012. 5.
 - 14) Ishii T, Hagiwara K¹⁾, Ikeda S²⁾, Arai T³⁾, Mieno NM⁴⁾, Kumasaka T⁵⁾, Muramatsu M²⁾, Sawabe M³⁾,

- Gemma A⁶⁾, Kida K (1) Saitama Medical University, 2) Medical Research Institute, Tokyo Medical and Dental University, 3) Tokyo Metropolitan Geriatric Hospital, 4) Jichi Medical University, 5) Japanese Red Cross Medical Center, 6) Division of Pulmonary Medicine, Infectious Diseases, and Oncology, Department of Internal Medicine, Nippon Medical School) : Association between genetic variations in surfactant protein D and emphysema, interstitial pneumonia, and lung cancer. ATS 2012 International Conference (San Francisco), 2012. 5.
- 15) Furutate R, Yamada K, Ishii T, Motegi T, Hattori K, Kusunoki Y, Gemma A¹⁾, Kida K (1) Division of Pulmonary Medicine, Infectious Diseases, and Oncology, Department of Internal Medicine, Nippon Medical School) : Association of the percentage of peripheral lymphocytes with disease severity and nutritional status in patients with COPD. ERS Annual Congress 2012 (Vienna, Austria), 2012. 9.
- 16) Furutate R, Ishii T, Motegi T, Yamada K, Hattori K, Kusunoki Y, Gemma A¹⁾, Kida K (1) Division of Pulmonary Medicine, Infectious Diseases, and Oncology, Department of Internal Medicine, Nippon Medical School) : Association between the mini nutritional assessment and the COPD assessment test. ERS Annual Congress 2012 (Vienna, Austria), 2012. 9.
- 17) Kusunoki Y, Wakabayashi R, Hattori K, Ishii T, Furutate R, Motegi T, Yamada K, Gemma A¹⁾, Kida K (1) Division of Pulmonary Medicine, Infectious Diseases, and Oncology, Department of Internal Medicine, Nippon Medical School) : Continuance and effects of self-training at home using a bicycle ergometer with long-term oxygen therapy. ERS Annual Congress 2012 (Vienna, Austria), 2012. 9.
- 18) Motegi T, Ishii T, Hattori K, Kusunoki Y, Furutate R, Yamada K, Gemma A¹⁾, Kida K (1) Division of Pulmonary Medicine, Infectious Diseases, and Oncology, Department of Internal Medicine, Nippon Medical School) : Usefulness of COPD assessment test (CAT) for the management of COPD according to GOLD 2011. ERS Annual Congress 2012 (Vienna, Austria), 2012. 9.
- 19) 神尾孝一郎, 石井健男, 茂木 孝, 吾妻安良太¹⁾, 弦間昭彦¹⁾, 木田厚瑞 (1) 日本医科大学呼吸器内科) : COPD 患者集団における血清 TGF- β 1 濃度の変化と呼吸機能・胸部 CT パラメーターとの関係に関する研究 : 高齢化の影響について. 日本老年医学会学術集会 (第 54 回) (東京), 2012. 6.
- 20) 服部久弥子, 佐藤直樹¹⁾, 板倉潮人¹⁾, 石井健男, 茂木 孝, 山田浩一, 弦間昭彦²⁾, 木田厚瑞 (1) 日本医科大学循環器内科, 2) 日本医科大学呼吸器内科) : COPD における心肺機能評価 - 心胸郭比と心電図の意義について. 閉塞性肺疾患研究会 (第 85 回) (東京), 2012. 7.
- (4) ポスターディスカッション :
- 1) Kusunoki Y, Furutate R, Hattori K, Ishii T, Motegi T, Yamada K, Gemma A¹⁾, Kida K (1) Division of Pulmonary Medicine, Infectious Diseases, and Oncology, Department of Internal Medicine, Nippon Medical School) : Clinical phenotypes in patients with concomitant obstructive sleep apnea and chronic obstructive pulmonary disease. ERS Annual Congress 2012 (Vienna, Austria), 2012. 9.

3. 健診医療センター

研究概要

健診医療センターでは、認知症の診断及び治療に有用な薬剤の効果判定等に有用なアミロイドイメージングや、ドーピングに関する臨床研究等を精神神経科とともに進めている。本研究で使用する種々の PET 用製剤合成は、治験薬 GMP (good manufacturing product) に基づき国内トップレベルの体制を整えている。循環器領域に関しては、心サルコイドーシスの¹⁸FDG-PET 検査の診断能を向上するための前処置について検討を進め、有用な結果を得ている。¹³N-アンモニアを使用した心筋血流 PET の検討、あるいは¹⁸FDG を用いた血管内血栓の描出に着手し、被験者の負担を減らしつつ質の高い検査ができる方法について検討中である。技術系の研究では、Time-of-flight という新技術を利用して臨床に有用な撮像方法 (吸停止撮像や高分解能画像) の検討を行った。

研究業績

学会発表

(1) 一般講演：

- 1) 櫻井 実¹⁾, 武井めぐみ¹⁾, 須田匡也¹⁾, 金谷浩司¹⁾, 長谷康二¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学健診医療センター) : F-18 製剤におけるダイナミック収集時の散乱線除去についての検討. 日本核医学技術学会総会学術大会 (第 32 回) (札幌), 2012. 10.
- 2) 金谷浩司, 櫻井 実, 長谷康二, 須田匡也, 武井めぐみ : TOF 効果の短時間収集を利用した呼吸停止下撮像の検討. 日本核医学技術学会総会 (第 32 回) (北海道札幌市), 2012. 10.

4. 成田国際空港クリニック

研究概要

空港クリニックでは、国際空港の救急医療を担う診療機関としての診療実績をまとめ分析することを中心に研究を進めていきたい。今年度は統計処理の適正化を含め検討したが、症例のまとめや学会発表は十分実施できなかった。H1N12009のインフルエンザ患者の昨年度、一昨年度の状況と以前の患者状況の比較を総括する。また、旅行者に特有な旅行者下痢症の検討や救急患者や外国人患者の特徴をまとめ明らかにするとともに、発病や傷病の予防につながるようにデータを検討してゆきたい。また、継続的に症例のデータ化を適切に進め、将来様々な角度から検討ができるようにしてゆくとともに、肺血栓塞栓症のような空港内診療所に特徴的な疾患についても継続的に調査検討してゆく。災害時の対処をさらに確実にするための訓練やマニュアルの見直しについても研究して行く予定です。さらに、様々な熱帯感染症や旅行者下痢症等の症例について必要に応じて経過について調査し、診断の確実性を高め、必要な検査についても検討して行きたいと考える。

研究業績

学会発表

(1) 特別講演：

- 1) 赤沼雅彦：機内でのドクターコールには応ずるべきか？＝あなたは善きサマリア人になれますか？－。プライマリケア談話会（第234回）（四日市），2012. 6.

(2) 一般講演：

- 1) 赤沼雅彦：成田国際空港クリニックでのエコノミークラス症候群。千葉VTE治療セミナー（第2回）（千葉市），2012. 10.

[5] そ の 他

1. 教育推進室

研究業績

論文

〔追加分〕

追加分原著：

- 1) 神代龍吉¹⁾, 北村 聖¹⁾, 志村俊郎, 福本陽平¹⁾, 吉田素文¹⁾ (1) 日本医学教育学会第16期理事会医師国家試験委員会)：医師国家試験に対する医学教育者と初期研修医へのアンケート調査報告. 医学教育 2011；42 (5)：295-302.

(1) 原著：

- 1) Aso R, Inoue C, Yoshimura A, Shimura T : Pitfalls in training simulated patients to respond appropriately to questions from medical students in family history-taking activities - The current situation surrounding the training of simulated patients for learning activities at Nippon Medical School. Journal of Nippon Medical School 2013 ; 80 (1) : 57-62.
- 2) Yoshimura A, Kosaihiira S¹⁾, Morimoto T²⁾, Kim K¹⁾, Tsueshita T¹⁾, Adachi K, Aso R, Shimura T, Nakano H³⁾, Gemma A²⁾ (1) Working Committee of Clinical Simulation Laboratory, 2) Department of Internal Medicine, 3) Training Center for Medical Interns) : An Effective Training Program for Chest Tube Drainage for Medical Interns in a Clinical Simulation Laboratory. J Nippon Med Sch 2012 ; 79 (6) : 403-408.
- 3) 阿曾亮子, 井上千鹿子, 吉村明修, 志村俊郎, 高柳和江, 日高廣人¹⁾, 吾妻安良太²⁾ (1) 日本医科大学 SP, 2) 内科)：模擬患者参加の医療面接におけるメイクアップの活用. Journal of Japanese Association of Simulation for Medical Education 2012 ; 5 (1) : 36-39.
- 4) Fujikura T¹⁾, Takeshita T²⁾, Homma H³⁾, Adachi K⁴⁾, Miyake K⁵⁾, Kudo M⁶⁾, Takizawa T⁷⁾, Nagayama H⁸⁾, Hirakawa K⁹⁾ (1) Department of otorhinolaryngology, 2) Division of Reproductive Medicine, Perinatology and Gynecologic Oncology, Graduate School of Medicine, Nippon Medical School, 3) Division of Cardiology, Hepatology, Geriatrics, and Integrated Medicine, Department of Internal Medicine, Graduate School of Medicine, NMS., 4) Department of Neurosurgery, Graduate School of Medicine, Nippon Medical School, 5) Department of Biochemistry and Molecular Biology, and Division of Gene Therapy Research Center for Advanced Medical Technology, Nippon Medical School, 6) Department of Pathology and Integrative Oncological Pathology, Nippon Medical School, 7) Department of Molecular Medicine and Anatomy, Nippon Medical School, 8) Department of Neurological, Nephrological and Rheumatological Sciences, Graduate School of Medicine, Nippon Medical School, 9) Department of Legal Medicine, Nippon Medical School) : Team-based Learning Using an Audience Response System : A Possible New Strategy for Interactive Medical Education. Journal of Nippon Medical School 2013 ; 80 (1) : 63-69.

(2) 総説：

- 1) 藤倉輝道¹⁾ (1) 日本医科大学耳鼻咽喉科学教室)：PBLからこれからの医学教育を考える. 日医大医会誌 2012 ; 8 (3) : 188-194.

著書

- 1) 志村俊郎：〔分担〕模擬患者 (SP) の参加による医療者教育－SP養成の実践例とカリキュラムを中心に. シリーズ生命倫理学 医療倫理教育 (伴信太郎・藤野昭宏), 2012 ; pp85-107, 丸善出版.

学会発表

〔追加分〕

追加分特別講演：

- 1) 志村俊郎¹⁾：医師国家試験のあり方 医師国家試験における臨床技能評価の種々の問題点について。日本医学教育学会（第43回）（広島），2011. 7.

(1) シンポジウム：

- 1) 志村俊郎¹⁾：福澤諭吉『学問のすゝめ』に学ぶ医学教育 明治期の私立医学校と慶應義塾出身名流列傳に見られた済生学舎長谷川泰。日本医学教育学会（第44回）（日吉），2012. 7.

(2) 一般講演：

- 1) 阿曾亮子，井上千鹿子¹⁾，藤倉輝道，伊東泰夫²⁾，日高廣人²⁾，水野杏一¹⁾ 愛知医科大学，²⁾ 日本医科大学 SP)：今後のSP養成の進め方に関するSP同士のKJ法による検討の試み。日本医学教育学会（第44回）（日吉），2012. 7.
- 2) 井上千鹿子¹⁾，阿曾亮子，吉村明修，志村俊郎，日高廣人²⁾，伊東泰夫²⁾ ¹⁾ 愛知医科大学大学院，²⁾ 日本医科大学 SP)：模擬患者の養成における「ふりかえりシート」の試みと有効性 3年間の解析。日本医学教育学会（第44回）（日吉），2012. 7.
- 3) 吉田常恭¹⁾，阿曾亮子，藤倉輝道，志村俊郎 ¹⁾ 日本医科大学学生)：医学生による一般市民向け1次救命処置(BLS)講習会の時間と受講者の満足度との関係について。日本医学教育学会（第44回）（日吉），2012. 7.
- 4) 久能木博文¹⁾，仲家増美¹⁾，松澤美和¹⁾，結城英実¹⁾，犬股紘一¹⁾，鷺見千恵子¹⁾，高槻真知子¹⁾，北川恵美子¹⁾，若竹キミイ¹⁾，阿曾亮子，井上千鹿子，藤倉輝道，吉村明修，志村俊郎 ¹⁾ 日本医科大学 SP)：日本医科大学 SPの医療面接実習ビデオ視聴を用いた学生の心に響くフィードバックの更なる向上への取り組み。日本医学教育学会（第44回）（日吉），2012. 7.
- 5) 藤倉輝道，竹下俊行¹⁾ ¹⁾ 産婦人科)：日本医科大学におけるTBLの施行：第1報。日本医学教育学会（第44回）（日吉），2012. 7.
- 6) 三宅弘一¹⁾，藤倉輝道，渡邊 淳¹⁾，平井幸彦¹⁾，山崎吉之¹⁾，飯島 修¹⁾，三宅紀子¹⁾，山本基子¹⁾，竹下俊行²⁾，島田 隆¹⁾ ¹⁾ 生化学・分子生物学(分子遺伝学)，²⁾ 産婦人科)：PBLチュートリアル型基礎医学学生実習の導入。日本医学教育学会（第44回）（日吉），2012. 7.
- 7) 志村俊郎，唐澤信安¹⁾，殿崎正明¹⁾，山本 鼎¹⁾，幸野 健¹⁾，寺本 明¹⁾ ¹⁾ 医史学教育研究会)：女医丸茂むねの一生と明治期の女子医学生達の教育。日本医史学会総会・学術大会（第113回）（栃木），2012. 6.

2. 学生部

[学生相談室]

研究概要

学生相談室は、学生が直面する諸問題、例えば、人間関係や生活上の困りごと、家族や自分自身についての問題や悩みごと、情緒不安などについて、学生一人ひとりに応じた相談およびカウンセリング等を主としているが、臨床心理学、各種心理療法、メンタルヘルス等についての研究も折に触れて取り組んでいる。今年度は以下の通りであった。

1. 全国の大学で用いられている精神保健調査（UPI）を用いた集計調査の発表。2. 心理学教室、および東京成徳大学と協働し、心理教育的介入プログラムに関わる研究に着手した。3. カウンセリングに導入されることも多いコラージュ療法（芸術療法、表現療法のひとつ）に関して、コラージュ作品に表現された孤独感の諸相を検証した（発表準備中）。

研究業績

学会発表

(1) ポスター発表：

- 1) 石村邦夫¹⁾、羽鳥健司²⁾、山口正寛¹⁾、野村俊明³⁾、鋤柄のぞみ³⁾ (1) 東京成徳大学, 2) 埼玉学園大学, 3) 日本医科大学)：自己への思いやりの態度を育成させる介入法の効果に関する研究。日本感情心理学会（第20回大会）（神戸），2012. 5.
- 2) 石村郁夫¹⁾、羽鳥健司²⁾、山口正寛¹⁾、野村俊明³⁾、鋤柄のぞみ³⁾ (1) 東京成徳大学, 2) 埼玉学園大学, 3) 日本医科大学)：自己への思いやりの態度育成がうつ症状を軽減させるか？。日本ヒューマンケア心理学会（第14回大会）（東京），2012. 7.
- 3) 石村郁夫¹⁾、羽鳥健司²⁾、山口正寛¹⁾、野村俊明³⁾、鋤柄のぞみ³⁾ (1) 東京成徳大学, 2) 埼玉学園大学, 3) 日本医科大学)：愛着スタイルのタイプによる自己への思いやりおよび自己嫌悪感の検討。日本心理学会（第76回大会）（神奈川），2012. 9.

(2) 研究発表：

- 1) 鋤柄のぞみ：単科医科大学における入学時のUPI特徴：17年間の集計と年次推移。日本学生相談学会（第30回大会）（北海道），2012. 5.

付 表

1. 各種研究費補助金・研究助成金交付状況

1) 平成 24 年度科学研究費補助金交付決定一覧

※は前年度から継続

研究種目	研究代表者	所属・職	直接経費： 千円	研究課題名
新学術領域研究 (研究領域提案型)	小林 克典	薬理学・講師	4,500	※モノアミン系機能亢進によるグルタミン酸シナプス表現型変化の解析
基盤研究 (B)	田中 信之	遺伝子制御学・大学院教授	4,100	※グルコース代謝の制御を介した癌化の誘導と p53 による癌化抑制機構の解析
〃	島田 隆	分子遺伝医学・大学院教授	3,400	※重篤な遺伝病に対する周産期遺伝子治療（胎児遺伝子治療に向けた包括的取り組み）
〃	太田 成男	細胞生物学・大学院教授	4,300	※新規水素発生素材の経口投与による水素分子の老年病と生活習慣病の予防効果
〃	大久保善朗	精神・行動医学・大学院教授	3,600	※アミロイド分子イメージングによる中高年うつ病のアルツハイマー病前駆病変の検出
〃	村田 智	放射線医学・准教授	3,700	※難治性膀胱がんに対する革新的膀胱灌流療法の開発と臨床応用に関する研究
基盤研究 (B) (一部基金)	瀧澤 俊広	分子解剖学・大学院教授	4,100	妊娠高血圧症候群の分子病態におけるマイクロ RNA の役割解明と新規予知因子の開発
基盤研究 (C)	吉田 大蔵	脳神経外科学・准教授	500	※下垂体腺腫の増殖における SDF-1 の役割に関する分子形態学的研究
〃	齋藤 文仁	薬理学・准教授	900	※モノアミン・セクレチンで制御されるシナプス伝達とその異常
〃	勝又 聖夫	衛生学・公衆衛生学・助教	900	※受動喫煙のストレス評価を唾液中カテコルアミン代謝物等で行う研究
〃	稲垣 弘文	衛生学・公衆衛生学・講師	700	※ヒト血漿中グランザイム 3 は炎症反応のマーカーとなるか
〃	恩田 秀賢	附属病院高度救命救急センター・助教	600	※脳代謝モニタリング・網羅的脳代謝解析に基づく心肺停止蘇生後の病態及び治療の研究
〃	濱田 知宏	生理学（システム生理学）・助教	700	※視索前野性の二型核形成過程の可視化による性分化機構の解明
〃	小林 克典	薬理学・講師	1,200	※抗うつ薬の作用基盤としての海馬神経幼若化の解析
〃	大林 茂	千葉北総病院リハビリテーション科・助教	800	※マルチモダル・イメージングを用いた経頭蓋直流電気刺激効果の生体分子メカニズム
〃	西楨貴代美	老人病研究所生化学部門・マネジメントサポート・スタッフ	1,000	※酸化ストレス亢進マウスを用いた水素分子による認知症予防効果
〃	平田紀美子	衛生学・公衆衛生学・テクニカル・スタッフ	500	※女性、特に妊産婦に対する POCT を用いたインパクトのある継続的な禁煙支援法の構築
〃	藤崎 弘士	新丸子校舎 物理学教室・講師	700	※生体分子の量子ダイナミクス：その理論的解明と制御

〃	木山 裕子	生理学 (システム生理学)・講師	600	※脳の性的二型形成におけるエストロゲン制御シグナル伝達経路の解明
〃	小澤 一史	解剖学・神経生物学・大学院教授	1,000	※思春期発動の性機能神経制御と摂食、ストレス神経制御の三次元機能形態相関の解析
〃	鈴木 秀典	薬理学・大学院教授	1,000	※前頭前野セロトニン神経系を標的とした精神疾患治療薬開発の基盤研究
〃	茂木 孝	呼吸ケアクリニック・助教	500	※慢性閉塞性肺疾患の診療における医療の質を保证するためのシステム構築に関する研究
〃	李 卿	衛生学・公衆衛生学・講師	800	※カーバメイト系農薬による免疫毒性及びその機序
〃	雪吹 周生	内科学 (循環器内科学)・講師	900	※心筋梗塞地域連携クリニカルパスにおける2次予防戦略は心血管イベント抑制に有効か?
〃	木田 厚瑞	内科学 (呼吸器内科学)・教授	500	※喫煙関連呼吸器疾患へのニコチン受容体遺伝子多型の関与の検討
〃	寺崎 泰弘	病理学 (解析人体病理学)・講師	700	※水素分子の抗酸化力を利用した肺疾患の新しい治療と予防
〃	永田(仁藤)智香子	内科学 (神経内科学)・講師	500	※脳虚血後の神経細胞死と血管新生におけるCDK5活性の役割とその制御機構
〃	猪口 孝一	内科学 (血液内科学)・教授	700	※MLL-AF4 白血病の S100A6 分子病態と新規分子標的薬の開発
〃	浅田 稜	薬理学・講師	1,000	※Brp2 遺伝子は Ras-MAPK 症候群の原因遺伝子か? モデルマウスと遺伝子解析
〃	植田 高弘	小児科学・講師	700	※ヒト人工骨髄の作成と造血幹細胞・白血病幹細胞のニッチの解析研究
〃	船坂 陽子	皮膚科学・准教授	300	※悪性黒色腫形成・増殖に関わるシグナルの同定, 特に紫外線誘発黒色腫形成機序の解明
〃	舘野 周	精神医学・講師	900	※神経メラニン MRI を用いた難治性うつ病のドーパミン, ノルアドレナリン機能評価研究
〃	山下 浩二	外科学 (乳腺外科学)・准教授	300	※SPECT 合成 3D-CT 乳腺リンパ管造影によるセンチネルリンパ節生検の検証
〃	平方 敦史	多摩永山病院消化器外科・乳腺外科・一般外科・助教	900	※大動物モデルによる膵島移植の免疫学的特異性に基いた非侵襲的免疫寛容誘導法の確立
〃	相本 隆幸	外科学 (消化器外科学)・准教授	900	※膵癌に対する MDA/IL24 を用いた新規遺伝子治療の開発
〃	石渡 俊行	病理学 (統御機構・腫瘍学)・准教授	1,200	※FGFR2IIIc アイソフォームの制御による膵臓癌の治療戦略
〃	渡邊 淳	生化学・分子生物学 (分子遺伝学)・准教授	800	※遺伝子変異型により分類化した血管型エーラス・ダンロス症候群の治療手法の開発
〃	高橋 秀実	微生物学・免疫学・大学院教授	900	※膀胱癌に対する BCG 注入療法作用機序の解明
〃	澤 倫太郎	産婦人科学・講師	600	※胎児血管特性を応用したアデノシン誘導型 DES の開発

〃	松根 彰志	耳鼻咽喉科学・教授	600	※マクロライドによる「ステロイド減量効果」と難治性副鼻腔炎の新しい治療法の研究
〃	高橋 浩	眼科学・大学院教授	900	※眼科手術用灌流液への水素ガス応用の研究
〃	清水 一	老人病研究所病理部門・マネジメントサポート・スタッフ	500	※ケロイドにおける COLIA2 プロモーターの転写に関わる microRNA の発現調節
〃	百束 比古	形成再建再生医学・大学院教授	1,000	※顎骨における水平的骨増生を目指した組織工学的手法の検討
〃	増野 智彦	救急医学・講師	1,000	※ショック後腸管リンパ液生理活性および臓器障害に対する腸管由来アラキドン酸の関与
挑戦的萌芽研究	大久保善朗	精神・行動医学・大学院教授	800	※サブスタンス P 受容体を標的とした新規アルコール依存症治療薬の探索と脳機能画像評価
若手研究 (A)	松田 陽子	病理学 (統御機構・腫瘍学)・講師	2,300	※幹細胞マーカー Nestin を標的とした膀胱癌新規治療の開発
若手研究 (B)	石井 寛高	解剖学 (生体構造学)・助教	800	※神経系における核外エストロゲン受容体を介したエストロゲン急性作用機構の解明
〃	林 明聡	付属病院 循環器内科・助教	200	※肺静脈隔離術後早期に出現する心房細動に対する抗不整脈薬の有用性の検討
〃	早川 潤	小児科学・講師	900	※ヘモグロビンクラススイッチの解明とヘモグロビン異常症の新しい治療戦略の基礎的研究
〃	眞野あすか	生理学 (生体統御学)・講師	600	※新しい薬物治療を目指した神経性食欲不振症の病態でのグレリンと CRF の役割の解明
〃	伊藤 滋朗	武蔵小杉病院 精神科・助教	500	※HIV 陽性者に関する神経機能画像研究
〃	水谷 聡	武蔵小杉病院消化器病センター・助教	500	※消化器癌のミトコンドリア DNA 変異と抗癌剤耐性との関連を分子生物学的に解明する
〃	坂井 敦	薬理学・助教	800	※GDNF による下行性ノルアドレナリン神経機能の強化を介した鎮痛の検討
〃	菊池 邦生	解剖学 (分子解剖学)・講師	800	※胎盤におけるマイクロ RNA 発現メカニズムと機能解析: IUGR の新たな分子基盤研究
〃	アリモハメド	解剖学 (分子解剖学)・助教	900	※胎盤特異的マイクロ RNA による新たな T 細胞制御の仕組み解明への挑戦
〃	関根 久遠	武蔵小杉病院 耳鼻咽喉科・助教	800	※内耳疾患における miRNA の機能解明と新たな診断マーカーの開発

2) 平成 24 年度科学研究費補助金研究分担の採択・交付状況

※は前年度から継続

研究分担者・所属	研究種目	研究代表者・所属	研究課題名
1 木山 裕子 生理学(システム生理学)	基盤研究(B)	佐久間康夫 東京医療学院大学	※性ホルモンによる脳内神経回路の再構成が思春期に固有の社会行動を発現する機序の解明
2 折笠 千登世 生理学(システム生理学)	〃	〃	※性ホルモンによる脳内神経回路の再構成が思春期に固有の社会行動を発現する機序の解明
3 濱田 知宏 生理学(システム生理学)	〃	〃	※性ホルモンによる脳内神経回路の再構成が思春期に固有の社会行動を発現する機序の解明
4 石井 寛高 解剖学(生体構造学)	〃	〃	※性ホルモンによる脳内神経回路の再構成が思春期に固有の社会行動を発現する機序の解明
5 山崎 峰雄 内科学(神経内科学)	〃	小柳 清光 信州大学	※筋委縮性側索硬化症の運動ニューロン死：リボゾーム RNA 遺伝子転写と TDP-43
6 宮下 次廣 放射線医学	〃	宮川 成雄 早稲田大学	※臨床法学教育の課題と法科大学院教育の再検討
7 野村 俊明 心理学教室	〃	青木紀久代 お茶の水女子大学	※学校における心の健康と発達支援～学校力と地域・分化資源の活用
8 岡 敦子 生物学教室	〃	井筒 ゆみ 新潟大学	※自己抗原タンパク質を介して組織リモデリングに働く獲得免疫システム
9 清水 章 病理学(解析人体病理学)	〃	山田 和彦 鹿児島大学	※GvHR によるドナーキメラ増強作用に基づく大動物小腸移植での革新的免疫寛容誘導法
10 瀧澤 俊広 分子解剖学	〃	齋藤 滋 富山大学	※免疫寛容という立場から正常妊娠、異常妊娠を再考する
11 根井 貴仁 付属病院 感染制御部	基盤研究(B) (一部基金)	中田 光 新潟大学	次世代シーケンサーを用いた GM-CSF 自己抗体産生機序の解明
12 鈴木 秀典 神経情報科学	基盤研究(C)	荻部 洋行 日本歯科大学	※歯科恐怖における脳神経メカニズムと精神科的アプローチの効果に関する脳機能画像研究
13 大久保善朗 精神・行動医学	〃	〃	※
14 館野 周 精神医学	〃	〃	※
15 大久保善朗 精神・行動医学	〃	西條 朋行 東京芸術大学	※電気けいれん療法前後の脳内ドーパミン受容体についての研究
16 一宮 哲哉 精神医学	〃	〃	※
17 平川 慶子 法医学	〃	佐藤 格夫 京都大学	※敗血症病態における画像を用いた生体内熱エネルギー動態と生体内代謝動態の可視化
18 増野 智彦 救急医学	〃	〃	※

補助金直接経費合計額 2,905,000 円

3) 平成 24 年度学術研究助成基金助成金交付決定一覧

※は前年度から継続

研究種目	研究代表者	所属・職	直接経費： 千円	研究課題名
基盤研究 (C)	上村 尚美	老人病研究所生化学部門・講師	1,300	※生体内酸化ストレスの定量的評価システムを用いた水素分子による糖尿病改善効果の解析
〃	中村 哲子	新丸子校舎 外国語教室・准教授	700	※19世紀アイルランド小説のアイリッシュネスの発展と拡散に関する研究
〃	菊地 浩人	新丸子校舎 物理学教室・准教授	700	※キサントニン酸化還元酵素における阻害剤の作用の研究—「鍵と鍵穴」のドグマを超えて
〃	折笠千登世	生理学 (システム生理学)・講師	1,000	※組み換えアデノウイルスベクターを用いた脳の性差形成機構の解明
〃	内藤 善哉	統御機構病理学・大学院教授	1,200	※膵臓癌幹細胞の同定と新たな治療への試み
〃	高橋 謙治	整形外科学・准教授	1,300	※ラジオ波温熱刺激を用いた変形性関節症の疼痛抑制効果に関する研究
〃	林田眞喜子	法医学・准教授	1,400	※QTOF 質量分析装置を用いたベンゾジアゼピン系薬物分析法の新展開
〃	中西 一浩	麻酔科学・准教授	1,000	※難治性がん性疼痛患者におけるくも膜下モルヒネ鎮痛法の費用対効果
〃	坂本 長逸	消化器内科学・大学院教授代行	1,500	※慢性胃炎進展とシクロオキシゲナーゼ 2 遺伝子単塩基変異の役割
〃	吾妻安良太	内科学 (呼吸器内科学)・教授	1,100	※線維化病態における骨髄前駆線維細胞の役割と新規治療薬の効果判定に関する研究
〃	功刀しのぶ	病理学 (解析人体病理学)・助教	900	※間質性肺炎における血管新生関連因子の機能解析と臨床応用
〃	鶴岡 秀一	内科学 (腎臓内科学)・准教授	800	※アニオン型尿毒症性物質群を除去するハイブリッド型人工腎臓の開発
〃	三品 雅洋	内科学 (神経内科学)・講師	900	※PET を用いたアデノシン受容体とパーキンソン病の不随意運動の関係についての研究
〃	三宅 弘一	生化学・分子生物学 (分子遺伝学)・准教授	1,200	※ダイヤモンド・ブラックファン貧血の新規分子病態の解明と治療法の開発
〃	深澤 隆治	小児科学・准教授	1,100	※川崎病発症機構の解明
〃	小川 俊一	小児科学・教授	1,300	※血管炎の急性期における血管平滑筋細胞の形質転換に伴う細胞機能・応答機構の解明
〃	勝部 康弘	小児科学・准教授	1,100	※Na/Ca 交換輸送が胎児・新生児の動脈管と末梢肺動脈の血管緊張度にはたす役割
〃	村上 隆介	放射線医学・講師	600	※デュアルエネルギーサブトラクション法によるマンモグラフィに関する研究
〃	松谷 毅	付属病院 消化器外科・助教	1,200	※外科的侵襲時の脂肪細胞の役割と塩酸ピオグリタゾン投与の有効性
〃	石井 永一	病理学 (解析人体病理学)・特別研究生	1,100	※ラット肝臓移植モデルにおける免疫寛容獲得の機序と抗炎症作用を用いた治療応用

〳	内田 英二	消化器外科学・大学院教授	1,100	※In vivo イメージングシステムを用いた膀胱治療実験
〳	五十嵐健人	外科学 (内分泌外科学)・講師	1,200	※バセドウ病患者における個別化医療実現のための基礎的研究
〳	新田 隆	外科学 (心臓血管外科学)・教授	900	※ダブル・ポテンシャル・マッピング法：伝導ブロックの新しい検証法の開発
〳	三枝 英人	耳鼻咽喉科学・講師	1,100	※慢性期統合失調症患者に発症する嚥下障害の実態調査と病態解明のための研究
〳	亀谷 修平	眼科学・准教授	1,000	※ α 1-Syntrophin 欠損マウスを用いた視神経脊髄炎の病態解析
〳	堀 純子	眼科学・准教授	1,400	※眼内微小環境の恒常性維持の分子機構の解析と眼組織移植への応用
〳	高見 佳宏	形成外科学・准教授	1,400	※幹細胞とコラーゲン架橋を導入した無細胞真皮マトリックスによる結合組織の再生
〳	大泉 旭	附属病院高度救命救急センター・助教	1,200	※出血性ショック後臓器障害発生における軟部組織損傷の役割に関する研究
〳	洲鎌 秀永	生理学 (生体統御学)・講師	1,500	ノルアドレナリンによるミクログリア活性化と退行性神経変性病態のメカニズム
〳	横田 隆	老人病研究所分子生物学部門・テクニカル・スタッフ	1,400	水素水の網膜神経保護効果と酸化ストレスの定量的評価システムによる解析
〳	野村 務	外科学 (消化器外科学)・准教授	700	医学生に対する内視鏡外科トレーニングの教育効果の検討
〳	高久 俊	微生物学・免疫学・助教	1,200	漢方薬が免疫制御系細胞群に与える影響～腫瘍ワクチン効果の増強を目指して
〳	鋤柄のぞみ	学生相談室・助教	1,500	自己への思いやりの態度を育成強化させる心理教育的介入法の開発
〳	岡 敦子	新丸子校舎 生物学教室・教授	1,800	消化管上皮の脱分化を制御する幹細胞ニッチ形成機構の解析
〳	高市 真一	新丸子校舎 生物学教室・准教授	1,500	藻類におけるカロテノイドを用いた化学分類と系統分類
〳	永原 則之	衛生学・公衆衛生学・准教授	1,500	硫化水素産生不全を伴う硫黄転移酵素ノックアウトマウスに関する網羅的研究
〳	岡本 研	生化学・分子生物学 (代謝・栄養学)・准教授	1,300	XOR 変異マウスを用いたスーパーオキシドが個体に及ぼす長期的, 全身的影響の検証
〳	水口 義昭	附属病院 消化器外科・助教	1,900	HBV 由来低分子 RNA の機能解析と肝癌発癌メカニズムの解明
〳	工藤 光洋	病理学 (統御機構・腫瘍学)・講師	1,400	服薬コンプライアンスを改善する, 患者に応じて見せる糖尿病シミュレーションモデル
〳	川田 智之	衛生学公衆衛生学・大学院教授	1,000	職場勤務者のメタボリック症候群関連指標とメンタルヘルスに関する総合的研究

〃	李 英姫	衛生学・公衆衛生学・講師	1,700	ディーゼル排気粒子によるマウス肺線維症病態への増悪作用の分子メカニズムの解明
〃	大塚 俊昭	衛生学・公衆衛生学・講師	3,600	メチルアルギニン誘導体とメタボリック症候群発症リスクに関する職域疫学研究
〃	二神 生爾	付属病院 消化器内科・助教	1,200	胃癌腹膜播種における間葉系幹細胞のホーミング分子機構と ips gene 発現の解析
〃	山本 哲志	病理学（統御機構・腫瘍学）・助教	1,100	ペプチド製剤を用いたルミカンの特異糖鎖修飾制御による膵癌細胞増殖抑制法の開発
〃	高木 元	付属病院 循環器内科・助教	1,100	薬剤送達システム徐放化多血小板血漿による血管再生治療
〃	丸山 光紀	千葉北総病院 内科・助教	3,100	膜電位・細胞内カルシウム同時マッピングによる除細動後心室細動再発の機序解明
〃	清野 精彦	内科学（循環器内科学）・教授	1,600	心血管バイオマーカー・リンケージ解析と心血管疾患予防のための包括的治療戦略の構築
〃	石井 健男	内科学（呼吸器内科学）・講師	1,600	オートファジーによる慢性閉塞性肺疾患の増悪メカニズムの検討
〃	清家 正博	内科学（呼吸器内科学）・准教授	2,200	肺癌の特異的血清およびエクソソーム由来マイクロ RNA の同定および個別化治療の応用
〃	清水 章	病理学（解析人体病理学）・准教授	1,400	ANCA 関連腎炎の発症進展に関わる免疫ネットワークの解明とその制御
〃	山口 博樹	内科学（血液内科学）・講師	2,800	CAP1 遺伝子変異による急性骨髄性白血病の発症や再発機序の解明
〃	浅野 健	小児科学・准教授	1,900	小児急性脳症において新規に発見したバイオマーカーの機能・神経病理学的探索
〃	三宅 紀子	生化学・分子生物学（分子遺伝学）・テクニカル・スタッフ	1,500	脳神経病変を標的としたリソゾーム病の新規治療法（遺伝子治療）の開発
〃	長田 真一	多摩永山病院 皮膚科・助教	1,600	細胞極性制御因子による皮膚幹細胞の維持機構
〃	上田 諭	精神医学・講師	1,600	ドパミントランスポーターイメージングによるレビー小体型認知症バイオマーカーの研究
〃	汲田伸一郎	臨床放射線医学・大学院教授	800	MDCT/PET を用いた非侵襲的な冠動脈不安定プラーク検出に関する研究
〃	横田 裕行	救急医学・大学院教授	1,600	臓器提供に関する本人、家族意思を反映し得る脳死判定補助検査に関する研究
〃	松田 明久	千葉北総病院 外科・助教	1,500	MFG-E8 をターゲットとした手術侵襲後炎症性生体反応の制御
〃	川野 陽一	付属病院 消化器外科・助教	1,800	小児生体肝移植後グラフト肝加齢変化のテロメア長とテロメラーゼ活性による解明

〃	井村 肇	外科学 (心臓血管外科学)・准教授	1,500	人工心肺中低頻度人工呼吸の肺保護効果の研究：臨床応用と未熟肺への基礎的アプローチ
〃	桂 研一郎	内科学 (神経内科学)・准教授	2,100	2型糖尿病合併脳梗塞における虚血性細胞障害増悪のメカニズムの追求と新規治療の試み
〃	坂本 篤裕	疼痛制御麻酔科学・大学院教授	1,400	体内遺伝子発現変動からみた全身麻酔の機序解明
〃	市川 雅男	付属病院 女性診療科・産科・助教	1,200	胎児免疫寛容における胎児抗原特異的 CTL の挙動と胎盤のバリア機構の解明
〃	桑原 慶充	産婦人科学・講師	1,300	子宮頸管リモデリング制御におけるプロゲステロンシグナリングの作用分子機構
〃	明楽 重夫	産婦人科学・教授	1,000	Urocortin2 の子宮内膜症における発現と病態への関与の解析
〃	Ruby Pawankar	小児科学・教授	2,000	鼻副鼻腔炎を伴う鼻茸の発症機序と再発に関与する T 細胞特に Treg 細胞の新たな役割
〃	吉武 洋	解剖学 (分子解剖学)・講師	2,000	癌・精巣抗原 TEX101 を分子標的とした頭頸部癌ミサイル療法の開発
〃	藤本 千明	付属病院 眼科・研究生	1,300	高浸透圧と自然免疫がドライアイに及ぼす影響と、それに基づく新たな予防・治療戦略
〃	M GHAZIZA-DEH	老人病研究所病理部門・准教授	1,400	ケロイド発生における Wnt5a シグナル伝達機構の解明と分子標的治療への応用
〃	土佐眞美子	武蔵小杉病院 形成外科・助教	2,700	ケロイド発生に関与する IL-6 プロモーター領域一塩基多型の同定とその機能解析
〃	原 義明	千葉北総病院救命救急センター・助教	1,500	血漿マイクロ RNA 発現による骨折治癒遅延の新しい分子治療の解明
〃	塚本 剛志	付属病院高度救命救急センター・助教	900	骨軟部組織損傷後の臓器傷害発生メカニズムの検討
〃	若林あや子	微生物学・免疫学・助教	1,400	放射線照射による消化管樹状細胞の活性化と卵白アルブミン特異的アレルギー反応の誘導
〃	野村 俊明	新丸子校舎 心理学教室・教授	1,400	ケア学への提言—街ぐるみ認知症相談センターの実践から
挑戦的萌芽研究	松田 陽子	病理学 (統御機構・腫瘍学)・講師	800	※3次元培養での癌幹細胞研究方法の確立
〃	江本 直也	内科学 (内分泌代謝内科学)・准教授	500	※神経経済学的観点に基づく糖尿病患者の行動経済学的分析
〃	飯島 典生	解剖学 (生体構造学)・准教授	200	※光ファイバーを介した蛍光測光による脳深部遺伝子発現のリアルタイムモニタリング
〃	芝崎 保	生体統御科学・大学院教授	1,200	※SGA 性低身長機序における GH-IGF-1 軸へのエピジェネティック変異関与の解明
〃	寺本 明	脳神経外科学・教授	700	※下垂体腺腫における miRNA の機能解析

〃	米山 剛一	産婦人科学・講師	1,600	※剖検肺組織標本のマイクロRNA網羅的発現解析による羊水塞栓症発症機序解明への挑戦
〃	石井 暢明	付属病院形成外科・美容外科・研究生	800	※ケロイド由来線維芽細胞のカルシウムイオンチャネル解析
〃	布施 明	救急医学・講師	700	※Microwave照射による新しいびまん性脳損傷モデルの開発
〃	小野 真史	眼科学・准教授	2,100	ヒトの創造過程における気づきの作用点と効果
〃	太田 成男	細胞生物学・大学院教授	1,600	放射線内部被曝による遺伝子損傷を水素が軽減する.
〃	田中 信之	遺伝子制御学・大学院教授	1,500	炎症性サイトカイン受容体の糖鎖修飾を標的とした新規抗炎症治療法の開発
〃	岩崎 俊雄	生化学・分子生物学(代謝・栄養学)・講師	1,700	細胞増殖に関わる細菌型mitoNEETシステムの網羅的解析
〃	角田 隆	付属病院 整形外科・助教	1,000	アクリジンオレンジ光線力学療法による耐性菌感染の制御
〃	石川 源	産婦人科学・講師	700	栄養膜におけるクロマチン転写制御機構に着目した胎盤絨毛形成・妊娠維持機構の解明
〃	富山 僚子	付属病院 女性診療科・産科・アシスタント・スタッフ	1,400	分裂期FISHによる新たな着床前診断法の開発
〃	石井 浩統	成田国際空港クリニック・助教	500	トヨタ生産方式による外科・救急手技のオンザジョブトレーニングの確立に向けて
若手研究 (B)	秋山 健一	医療管理学・助教	1,600	※専門職間連携教育用シミュレーション型演習の開発に関する研究
〃	太良 修平	付属病院 循環器内科・助教	900	※重症虚血下肢に対する低侵襲型血管新生療法の確立
〃	根井 貴仁	付属病院 集中治療室・助教	500	※間質性肺疾患の末梢血中線維細胞に関する研究
〃	永坂 真也	病理学(解析人体病理学)・助教	1,100	※新規樹状細胞サブセットによる糸球体腎炎の発症・進展機構解明と治療応用
〃	三井亜希子	付属病院 腎臓内科・助教	900	※造血幹細胞移植後の血栓性微小血管症の発症機序の解明
〃	藤田恵美子	付属病院 腎臓内科・助教	900	※腎疾患における抗炎症性マクロファージの誘導と治療応用
〃	根本 崇宏	生理学(生体統御学)・講師	1,000	※出生時低体重児にみられるストレスに対する脆弱性への非翻訳RNA発現異常の関与
〃	山口 智	付属病院耳鼻咽喉科・頭頸部外科・助教	1,000	※咽頭蠕動波は咽頭期嚥下の絶対的な基準となり得るか?
〃	北原 由紀	多摩永山病院 眼科・助教	1,300	※羊膜由来幹細胞の移植による網膜機能の再生
〃	五十嵐 勉	眼科学・講師	1,000	※siRNA技術を用いた遺伝子治療研究
〃	和田 剛志	付属病院高度救命救急センター・助教	1,800	※Ang/Tie2が関与する敗血症性臓器障害発症機序解明とその制御法の確立
〃	Wolf Alexander	老人病研究所生化学部門・助教	1,600	ミトコンドリア特異的一重項酸素の消去による光老化の予防

〳	岩田 衣世	解剖学 (生体構造学)・助教	1,100	多嚢胞性卵巣症候群発症メカニズム解明への神経学的アプローチ
〳	肥後 心平	解剖学 (生体構造学)・助教	1,100	ストレス応答の性差を作るエピジェノミクス—視床下部 CRF ニューロンに着目して—
〳	小野 真平	付属病院高度救命救急センター・助教	2,900	腕神経叢麻痺の再建法選択における決定分析と費用効用分析
〳	小塩 篤史	医療管理学・助教	1,400	社会シミュレーション手法を用いた超高齢社会における保健医療計画・評価に関する研究
〳	山本陽一朗	付属病院 病理部・助教	2,300	超広視野ナノレベル構造観測による乳癌幹細胞 in situ 同定法の開発
〳	山口 晃志	法医学・助教	1,500	催眠薬代謝物の合成、分析及び催眠薬代謝に対する法医学的アプローチ
〳	佐藤 寛栄	薬理学・助教	1,200	ADHD 病態におけるシナプス機能異常の電気生理学的検討および治療薬の探索
〳	池田裕美子	薬理学・助教	1,400	アルコール依存症治療薬の可能性としての NK1 受容体拮抗薬が報酬機能に及ぼす効果
〳	赤城 一郎	付属病院 消化器外科・助教	1,300	食道癌における PIK3CA/Akt とマイクロ RNA に関する分子生物学的解析
〳	進士 誠一	付属病院 消化器外科・助教	1,000	消化管神経内分泌腫瘍における lumican の機能解明と新規治療薬の開発
〳	萩尾 真人	病理学 (統御機構・腫瘍学)・ポストドクター	1,000	膵癌の循環血中腫瘍細胞における細胞骨格タンパク質の役割の解明
〳	彭 為霞	病理学 (統御機構・腫瘍学)・助教	1,100	子宮内膜癌における FGFR2IIIc の役割の解明及び新たな治療戦略の検討
〳	高橋 永幸	千葉北総病院 眼科・助教	2,000	POMGnT1 欠損マウス網膜の増殖性変化におけるサイトカインの関与
〳	松本 学	付属病院高度救命救急センター・助教	700	重症脳損傷における脳低温療法後の免疫機能

4) 平成 24 年度学術研究助成基金助成金研究分担の採択・交付状況

研究分担者・所属	研究種目	研究代表者・所属	研究課題名
1 藤崎 弘士 物理学教室	基盤研究 (C)	高見 利也 九州大学	※身近な非線形現象に対するマルチスケール的手法の確立と応用
2 江本 直也 千葉北総病院 内科	〃	小谷野 肇 順天堂大学	※糖尿病地域医療連携コーディネーター養成プログラムの開発研究
3 岸 泰宏 武蔵小杉病院 精神科	〃	八田耕太郎 順天堂大学	※せん妄の治療, 予防, 医療安全に関する実証研究
4 平川 慶子 法医学	〃	鈴木 崇生 京都大学	※核磁気共鳴法を応用した敗血症重症化早期診断の確立と新規治療ターゲットの開拓
5 鴨井 久博 千葉北総病院 歯科	〃	川村 浩樹 日本歯科大学	※唾液メタボローム解析による歯周病検出技術の確立
6 草野 輝男 生化学・分子生物学 (代謝・栄養学)	挑戦的萌芽研究	西野 武士 東京大学	凝集蛋白質の蓄積とプリン代謝物質との関連性はあるか
7 林田眞喜子 法医学	〃	工藤 恵子 九州大学	薬毒物スクリーニング時, 同時定量法の開発
8 大久保善朗 精神・行動医学	〃	松田 哲也 玉川大学	リアルタイム fMRI を用いたバイオフィードバックによる社会認知機能改善プログラム
9 平川 慶子 法医学	〃	小池 薫 京都大学	核磁気共鳴法を用いた小児熱性疾患の早期鑑別診断法の開発
補助金直接経費合計額			3,510,000 円

5) 平成 24 年度補助・委託一覧

研究者	所属	代表分担	補助・委託元	研究課題	代表研究者	代表研究者所属
	人文科学・社会科学・心理学	代表	矯正医学会研究助成金	刑事施設における高齢者問題	野村俊明	
	人文科学・社会科学・心理学	代表	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	ケアへの殺言一街ぐるみ認知症相談センターの実践から	野村俊明	
野村俊明, 石村郁夫	人文科学・社会科学・心理学	分担	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	自己へのおもいやりについての研究	鋤柄のぞみ	日本医科大学学生相談室
野村俊明	人文科学・社会科学・心理学	分担	科学研究費補助金 基盤研究 (B)	学校における心の健康と発達支援	青木紀久代	お茶の水女子大学
中澤秀夫	自然科学・数学	代表	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	外部領域におけるヘルムホルツ方程式のリゾルベント評価とその散乱問題への応用	中澤秀夫	千葉工業大学工学部教育センター数学教室→ 日本医科大学医学部基礎科学科数学教室
中澤秀夫, 渡辺一雄, 渡辺道之	自然科学・数学	分担	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	ヘルムホルツ方程式の解の漸近形とその数学的散乱理論への応用に関する研究	門脇光輝	愛媛大学大学院理工学研究科
菊地浩人	自然科学・物理学	代表 分担	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	生体分子の量子ダイナミクス; その理論的解明と制御 (課題番号 22540421)	藤崎弘士	
藤崎弘士	自然科学・物理学	分担	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	身近な非線形現象に対するマルチスケールの手法の確立と応用 (課題番号 23540454)	高見利也	
藤崎弘士	自然科学・物理学	代表 分担	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	キサンチン酸化還元酵素における阻害剤の作用の研究―「鍵と鍵穴」のドクマを超えて (課題番号 23570198)	菊地浩人	日本医科大学基礎科学
岡 敦子	自然科学・生物学	代表	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	消化管上皮の脱分化を制御する幹細胞ニッチ形成機構の解析	岡 敦子	日本医科大学基礎科学
高市真一	自然科学・生物学	代表	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	藻類におけるカロテノイドを用いた化学分類と系統分類	高市真一	日本医科大学基礎科学
高市真一	自然科学・生物学	分担	科学研究費補助金 新学術領域研究	サンゴの白化耐性における長鎖多価不飽和脂肪酸含有脂質の膜遮蔽効果	奥山英登志	北海道大学大学院地球環境科学研究院
岡 敦子	自然科学・生物学	分担	科学研究費補助金 基盤研究 (B)	自己抗原タンパク質を介して組織リモデリングに働く獲得免疫システム	井筒ゆみ	新潟大学大学院自然科学学系
	外国語・英語・ドイツ語	代表	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	19世紀アイヌの発展と拡散に関するリサーチ	中村哲子	
	解剖学 (分子解剖学)	代表	科学研究費補助金 若手研究 (B)	胎盤におけるマイクロ RNA 発現メカニズムと機能解析: IUGR の新たな分子基盤研究	菊池邦生	日本医科大学大学院分子解剖学
	解剖学 (分子解剖学)	代表	科学研究費補助金 若手研究 (B)	胎盤特異的マイクロ RNA による新たな T 細胞制御の仕組み解明への挑戦	アリモハメ ト	日本医科大学大学院分子解剖学

研究者	所属	代表分担	補助・委託元	研究課題	代表研究者	代表研究者所属
瀧澤俊広, 竹下俊行, 大口昭英, 菊池邦生	解剖学 (分子解剖学)	代表 分担	科学研究費補助金 基盤研究 (B)	妊娠高血圧症候群の分子病態における マイクロRNAの役割解明と新規 予知因子の開発	瀧澤俊広	日本医科大学大学院 分子解剖学
吉武 洋, 荒木慶彦, 横井秀格	解剖学 (分子解剖学)	代表 分担	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	痛・精異抗体 TEX101 を分子表的と した頸頸部癌ミサイル療法の開発	吉武 洋	日本医科大学大学院 分子解剖学
齋藤 滋, 田淵圭章, 瀧澤俊広	解剖学 (分子解剖学)	分担	科学研究費補助金 基盤研究 (B)	免疫寛容という立場から正常妊娠, 異常妊娠を再考する	齋藤 滋	富山大学 医学部医学 科 産科婦人科学
飯島典生, 託見 健, 楊 春英	解剖学 (生体構造学)	代表 分担	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	思春期発動の性機能神経制御と摂 食, ストレス神経制御の3次元機能 形態相関の解析	小澤一史	日本医科大学解剖学 (生体構造学)
飯島典生	解剖学 (生体構造学)	代表	科学研究費補助金 萌芽研究	光ファイバーを介した蛍光顕微鏡による 脳深部遺伝子発現のリアルタイム モニタリング	飯島典生	日本医科大学解剖学 (生体構造学)
岩田衣世	解剖学 (生体構造学)	代表	科学研究費補助金 若手研究 (B)	多嚢胞性卵巣症候群発症メカニズム 解明への神経学的アプローチ	岩田衣世	日本医科大学解剖学 (生体構造学)
肥後心平	解剖学 (生体構造学)	代表	科学研究費補助金 若手研究 (B)	ストレス応答の性差を作るエピジェ ノミクス：視床下部CRFニューロ ンに着目して	肥後心平	日本医科大学解剖学 (生体構造学)
石井寛高	解剖学 (生体構造学)	代表	科学研究費補助金 若手研究 (B)	神経系における核外エストロゲン受 容体を介したエストロゲン急性作用 機構の解明	石井寛高	日本医科大学解剖学 (生体構造学)
木山裕子	生理学 (システム生理学)	代表	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	ラットの脳の性分化に関する遺伝子 同定とそのエピジェネティック解析	木山裕子	日本医科大学解剖学 (生体構造学)
濱田知宏	生理学 (システム生理学)	代表	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	視索前野的二型核形成過程の可視 化による性分化機構の解明	濱田知宏	日本医科大学解剖学 (生体構造学)
折笠千登世	生理学 (システム生理学)	代表	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	組換えアデノウイルスベクターを用 いた脳の性差形成機構の解明	折笠千登世	日本医科大学生理学 (生体統御学)
根本崇宏	生理学 (生体統御学)	分担	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	出生時低体重児にみられるストレス に対する脆弱性への非翻訳RNA発 現異常の関与	根本崇宏	日本医科大学産婦人科 学
根本崇宏	生理学 (生体統御学)	代表	公益財団法人 喫煙 Kが区研究財団	Urocortin2の子宮内膜症における発 現と病態への関与の解析	明楽重夫	日本医科大学生理学 (生体統御学)
根本崇宏	生理学 (生体統御学)	代表	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	妊娠前の母ラットあるいは父ラット へのニコチン投与により生じる出生 時低体重の解析	根本崇宏	日本医科大学生理学 (生体統御学)
根本崇宏	生理学 (生体統御学)	代表	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	ノルアドレナリンによるミミクログリン A活性化と退行性神経変性病態のメ カニズム	洲鎌秀永	日本医科大学生理学 (生体統御学)

研究者	所属	代表分担	補助・委託元	研究課題	代表研究者	代表研究者所属
	生理学 (生体統御学)	代表	科学研究費補助金 若手研究 (B)	新しい薬物療法を目指した神経性食 欲不振症の病態でのグレリンと CRF の役割の解明	眞野あすか	
	生化学・分子生物学 (代謝・ 栄養学)	代表	科学研究費補助金 萌芽研究	細胞増殖に関わる細菌型 mi- toNEET システムの網羅的解析	岩崎俊雄	
	生化学・分子生物学 (代謝・ 栄養学)	代表	ポトムアップ型国際 共同研究事業 国際 化学研究協力事業 (ICC プロگرام)	International Collaboration in Chemistry : ELECTRONIC STRUCTURE OF BIOLOGICAL METALLO-CLUSTER AND ITS MAGNETIC INTERPLAY WITH THE PROTEIN SURROUNDING IN THERMOPHILE METALLO- ENZYMES (好熱菌モデル酵素の金 属クラスター電子構造に強く影響す る周辺骨格領域の可視化)	岩崎俊雄	
	生化学・分子生物学 (代謝・ 栄養学)	代表	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	XOR 変異マウスを用いたスパーパー オキシドが個体に及ぼす長期的, 全 身的影響の検証	岡本 研	生化学・分子生物学 (代謝・栄養学)
岡本 研	生化学・分子生物学 (代謝・ 栄養学)	分担	科学研究費補助金 基盤研究 (C)		菊地浩人	
	生化学・分子生物学 (代謝・ 栄養学)	代表	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	「宇宙環境を利用した高品質タンパ ク質結晶生成と精密立体構造の解析 (第5回実験)」に係る研究経費	岡本 研	生化学・分子生物学 (代謝・栄養学)
	生化学・分子生物学 (分子遺 伝学)	代表	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	ダイヤモンド・ブラックファン血 の新規分子病態の解明と治療法の開 発	三宅弘一	生化学・分子生物学 (分子遺伝学)
三宅弘一	生化学・分子生物学 (分子遺 伝学)	分担	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	脳癌に対するMDA/IL24を用いた 新規遺伝子治療の開発	相本隆幸	外科学一般
	生化学・分子生物学 (分子遺 伝学)	代表	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	脳神経病変を標的としたリソゾーム 病の新規治療法 (遺伝子治療) の開 発	三宅 紀子	
三宅弘一	生化学・分子生物学 (分子遺 伝学)	分担	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	脳神経病変を標的としたリソゾーム 病の新規治療法 (遺伝子治療) の開 発	三宅紀子	
	生化学・分子生物学 (分子遺 伝学)	代表	厚生労働省科研費補 助金	平成24年度医薬品等審査迅速化事 業費補助金 (革新的医薬品・医療機 器・再生医療製品実用化促進事業)	島田 隆	
	生化学・分子生物学 (分子遺 伝学)	主任	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	ライソゾーム病 (フアブリ病含む) に関する調査研究	島田 隆	
	生化学・分子生物学 (分子遺 伝学)	代表	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	重篤な遺伝病に対する周産期遺伝子 治療 (胎児遺伝子治療に向けた包括 的取り組み)	島田 隆	

研究者	所属	代表 分担	補助・委託元	研究課題	代表研究者	代表研究者所属
渡邊 淳	生化学・分子生物学 (分子遺伝学)	代表	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	遺伝子変異型により分類化した血管型エーラス・ダンロス症候群の治療手法の開発	渡邊 淳	
	生化学・分子生物学 (分子遺伝学)	主任	厚生労働省科研究費補助金	過剰運動<hypermobility>症候群類縁疾患における病態解明	渡邊 淳	
	生化学・分子生物学 (分子遺伝学)	代表	個人の遺伝情報に応じた医療実用化プロジェクト (第2期)	「先端医科学研究に関する倫理的・法的・社会的課題についての調査研究」(臨床応用を視野に入れたオーダーメイド遺伝子医療の ELSI に関する調査研究)	渡邊 淳	
渡邊 淳	生化学・分子生物学 (分子遺伝学)	分担	文部科学省委託事業 「がん薬物療法の個別適正化プログラム」	遺伝子型検査を用いた薬物療法の個別適正化	久保 充明	独立行政法人理化学研究所 統合生命医科学研究センター
齋藤文仁, 永野昌俊, 小林克典, 坂井 敦, 佐藤寛栄	薬理学	代表 分担	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	前頭前野セロトニン神経系を標的とした精神疾患治療薬開発の基盤研究	鈴木秀典	
永野昌俊	薬理学	代表 分担	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	モノアミン・セクレチンで制御されるシナプス伝達とその異常	齋藤文仁	
水谷修紀, 池田裕美子	薬理学	代表 分担	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	Brp2 遺伝子は Ras-MAPK 症候群の原因遺伝子か? モデルマウスと遺伝子解析	浅田 穰	
	薬理学	代表	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	抗うつ薬の作用基盤としての海馬神経幼若化の解析	小林克典	
	薬理学	代表	科学研究費 領域研究	モノアミン系機能亢進によるグルタミン酸シナプス表現型変化の解析	小林克典	
	薬理学	代表	科学研究費補助金 若手研究 (B)	GDNF による下行性ノルアドレナリン神経機能の強化を介した鎮痛の検討	坂井 敦	
	薬理学	代表	科学研究費補助金 若手研究 (B)	アルコロール依存症治療薬の可能性としての NK1 受容体拮抗薬が報酬機能に及ぼす効果	池田裕美子	
	薬理学	代表	科学研究費補助金 若手研究 (B)	ADHD 病態におけるシナプス機能異常の電気生理学的検討および治療薬の探索	佐藤寛栄	
鈴木秀典	薬理学	分担	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	歯科恐怖における脳神経メカニズムと精神的アプローチの効果に関する脳機能画像研究	荻部洋行	日本歯科大学

研究者	所属	代表分担	補助・委託元	研究課題	代表研究者	代表研究者所属
鈴木秀典	薬理学	分担	科学研究費補助金 萌芽研究	サブスタンスP受容体を標的とした新規アルコール依存症治療薬の探索と脳機能画像評価	大久保善朗	日本医科大学大学院 精神・行動医学分野
鈴木秀典	薬理学	分担	科学研究費補助金 基盤研究 (B)	アミロイド分子イメージングによる中高年うつ病のアルツハイマー病前駆病変の検出	大久保善朗	日本医科大学大学院 精神・行動医学分野
永野昌俊	薬理学	分担	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	硫化水素産生不全を伴う硫黄転移酵素ノックアウトマウスに関する網羅的研究	永原則之	日本医科大学基礎医学 RI 研究室
齋藤文仁	薬理学	分担	国立大学共同利用・ 共同研究拠点協議会 群馬大学生体調節 謝学共同研究拠点 共同研究	代謝制御に関与する中枢性シグナル伝達系の解析	大西浩史	群馬大学生体調節研究 所
鈴木秀典	薬理学	分担	私立大学戦略的研究 基盤形成支援事業	中枢神経系疾患の診断・治療技術の創出を指向した基礎・臨床融合型研究の基盤形成	寺本 明	日本医科大学名誉教授
小林克典	薬理学	分担	科学技術振興機構 戦略的創造研究推進 事業CREST	精神疾患モデルマウスの神経活動の生理学的解析	宮川 剛	藤田保健衛生大学
鈴木秀典	薬理学	分担	科学技術振興機構 戦略的創造研究推進 事業CREST	行動異常の薬理学的研究	内匠 透	広島大学
	病理学 (解析人体病理学)	代表	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	水素分子の抗酸化力を利用した肺疾患の新しい治療と予防	寺崎泰弘	
	病理学 (解析人体病理学)	代表	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	間質性肺炎における血管新生関連因子の機能解析と臨床応用	功刀しのぶ	
	病理学 (解析人体病理学)	代表	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	ANCA 関連腎炎の発症進展に関わる免疫ネットワークの解明とその制御	清水 章	
	病理学 (解析人体病理学)	代表	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	ラット肝臓移植モデルにおける免疫寛容獲得の機序と抗炎症作用を用いた治療応用	石井永一	
	病理学 (解析人体病理学)	代表	科学研究費補助金 若手研究 (B)	新規樹状細胞サブセットによる糸球体腎炎の発症・進展機構解明と治療応用	永坂真也	
福田 悠	病理学 (解析人体病理学)	分担	厚生労働省科研費補 助金	難治性疾患克服研究事業	杉山幸比古	自治医科大学呼吸器内 科
内藤善哉	病理学 (統御機構・腫瘍学)	代表	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	腫瘍幹細胞の同定と新たな治療への試み	内藤善哉	

研究者	所属	代表 分担	補助・委託元	研究課題	代表研究者	代表研究者所属
石渡俊行	病理学 (統御機構・腫瘍学)	代表	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	FGFR2IIIc アインゾームの制御による膵臓癌の治療戦略	石渡俊行	
工藤光洋	病理学 (統御機構・腫瘍学)	代表	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	服薬コンプライアンスを改善する、患者に応じて見せる糖尿薬シミュレーションモデル	工藤光洋	
松田陽子	病理学 (統御機構・腫瘍学)	代表	科学研究費補助金 萌芽研究	3次元培養での癌幹細胞研究方法の確立	松田陽子	
松田陽子	病理学 (統御機構・腫瘍学)	代表	科学研究費補助金 若手研究 (A)	幹細胞マーカー Nestin を標的とした膵癌新規治療の開発	松田陽子	
山本哲志	病理学 (統御機構・腫瘍学)	代表	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	ペプチド製剤を用いたルミカンの特異糖鎖調節制御による膵癌細胞増殖抑制法の開発	山本哲志	
彭 為霞	病理学 (統御機構・腫瘍学)	代表	科学研究費補助金 若手研究 (B)	子宮内膜癌における FGFR2IIIc の役割の解明及び新たな治療戦略の検討	彭 為霞	
吉村久志	病理学 (統御機構・腫瘍学)	代表	平成 24 年度 膵臓 病研究財団研究奨励 賞	長鎖 non-coding RNA H19 の膵癌における役割の解明と、膵癌治療標的としての有用性の検討	吉村久志	
松田陽子	病理学 (統御機構・腫瘍学)	代表	平成 24 年度 日本医 科大学大学院医学研 究科特別経費 (研究 科分)	膵癌における Nestin 発現機構の解明および新規治療法開発へ向けた検討	松田陽子	
内藤善哉	病理学 (統御機構・腫瘍学)	分担	私立大学戦略的研究 基盤形成支援事業	中枢神経系疾患の診断・治療技術の創出を指向した基礎・臨床融合型研究の基盤形成	寺本 明	日本医科大学医学研究 科脳神経外科学
萩尾真人	病理学 (統御機構・腫瘍学)	代表	科学研究費補助金 若手研究 (B)	膵癌の循環血中腫瘍細胞における細胞骨格タンパク質の役割の解明	萩尾真人	
高橋秀実	微生物学・免疫学	代表	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	放射線照射による消化管樹状細胞の活性化と卵白アルブミン特異的アレルキー反応の誘導	若林あや子	
高橋秀実	微生物学・免疫学	代表	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	膀胱癌に対する BCG 注入療法作用機序の解明	高橋秀実	微生物学・免疫学教室
稲垣弘文, 若山薫子, 大塚俊昭, 勝又聖夫	衛生学・公衆衛生学	代表 分担	厚生労働省省科研究費補助金 科学研究費補助金 基盤研究 (C)	日米医学協力を基軸とした HIV/AIDS の研究とアジアとの連携分担課題名：粘膜自然免疫を標的とした HIV の感染伝播とその制御 職場勤務者のメタボリック症候群関連指標とメタボリックヘルスに関する総合的研究	岩本愛吉 川田智之	東京大学医科学研究所

研究者	所属	代表分担	補助・委託元	研究課題	代表研究者	代表研究者所属
稲垣弘文、大塚俊昭、勝又聖夫	衛生学・公衆衛生学	代表分担	喫煙科学研究財団研究助成	血管炎症指標、インスリン抵抗性、抗動脈硬化指標と喫煙・勤務状況の相互関係	川田智之	
川田智之	衛生学・公衆衛生学	代表分担	科学研究費補助金基盤研究(C)	カーバメイト系農薬による免疫毒性及びその機序	李 卿	
李 卿	衛生学・公衆衛生学	代表分担	科学研究費補助金特定領域研究	都市近郊におけるストレス緩和効果	香川隆英	森林総合研究所
川田智之、稲垣弘文、平田幸代、平田紀美子	衛生学・公衆衛生学	代表分担	科学研究費補助金基盤研究(C)	受動喫煙のストレス評価を唾液中心カテコロールアミン代謝物で行う研究	勝又聖夫	
川田智之、稲垣弘文、勝又聖夫	衛生学・公衆衛生学	代表分担	科学研究費補助金基盤研究(C)	女性、特に妊産婦に対するPOCTを用いたインパクトのある継続的な禁煙支援法の構築	平田紀美子	
川田智之、良妻安、稲垣弘文、平田幸代	衛生学・公衆衛生学	代表分担	科学研究費補助金基盤研究(C)	ディーゼル排気粒子によるマウス肺線維症病態への増悪作用の分子メカニズムの解明	李 英姫	
李 英姫	衛生学・公衆衛生学	分担	科学研究費補助金特定領域研究	環境と次世代健康科学一疾患原因解明と予防に向けた先進的研究	武田 健	東京理科大学
平田幸代、川田智之、大塚俊昭	衛生学・公衆衛生学	代表分担	科学研究費補助金基盤研究(C)	ヒト血漿中グラナザイム3は炎症反応のマーカーとなるか	稲垣弘文	
川田智之、稲垣弘文、西山康裕	衛生学・公衆衛生学	代表分担	科学研究費補助金基盤研究(C)	メチルアルギニン誘導体とメタボリック症候群発症リスクに関する職域疫学研究	大塚俊昭	
山口晃志、植草協子、林田真喜子	法医学	代表分担	科学研究費補助金基盤研究(C)	QTof質量分析装置を用いたベンゾジアゼピン系薬物分析法の新展開	林田真喜子	九州大学
林田真喜子	法医学	分担	科学研究費補助金萌芽研究	薬毒物スクリーニング時、同時定量法の開発	工藤恵子	
平川 慶子	法医学	代表	科学研究費補助金若手研究(B)	催眠薬代謝物の合成、分析及び催眠代謝に対する法医学的アプローチ	山口 晃志	京都大学
平川 慶子	法医学	分担	科学研究費補助金基盤研究(C)	敗血症病態における画像を用いた生体内熱エネルギー動態と生体内代謝動態の可視化	佐藤 格夫	京都大学
平川 慶子	法医学	分担	科学研究費補助金基盤研究(C)	核磁気共鳴法を応用した敗血症重症化早期診断の確立と新規治療ターゲットの開拓	鈴木 崇生	京都大学
平川 慶子	法医学	分担	科学研究費補助金萌芽研究	核磁気共鳴法を用いた小児熱性疾患の早期鑑別診断法の開発	小池 薫	京都大学

研究者	所属	代表分担	補助・委託元	研究課題	代表研究者	代表研究者所属
大野曜吉, 平川慶子 大野曜吉, 平川慶子	法医学 法医学	分担 分担		高性能微量薬液注入装置の開発 脳脊髄液の核磁気共鳴 (NMR) 計測値を用いた「急性脳症および熱性痙攣の早期鑑別診断法」の開発	浅野 健 小池 薫	北総病院小児科 京都大学
	医療管理学	主任 分担	厚生労働省科研費補助金	地域包括ケア支援・推進・評価するための情報・ケアネットワーク構築に資する調査研究事業	長谷川敏彦	
	医療管理学	代表	科学研究費補助金 若手研究 (B)	専門職間連携教育用シミュレーション型演習の開発に関する研究	秋山健一	
	医療管理学	代表	科学研究費補助金 若手研究 (B)	社会シミュレーション手法を用いた長高齢社会における保健医療計画・評価に関する研究	小塩篤史	
池田康夫, 武岡真司, 木下 徹, 丸山 徹, 鈴木英紀, 鎌田徹治	基礎医学共同研究利用施設・ 形態解析共同研究施設	分担	厚生労働省科研費補助金	人工血小板/HI2 (ADP) リポソーム：臨床研究への移行を目指した品質管理と薬物試験	半田 誠	
伊藤隆明, 永野昌俊, 秋元敏雄 大庭建三	基礎医学共同研究利用施設・ 基礎医学放射性同位元素研究 室内科学 (循環器内科学)・付属 病院老年内科	代表 分担	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	硫化水素産生不全を伴う硫黄転移酵素ノックアウトマウスに関する網羅的研究	永原則之	基礎医学 RI 研究室
	内科学 (循環器内科学)・千葉 北総病院循環器内科	分担	公益信託日本動脈硬化 化予防研究基金	高齢者高血圧コホート研究：高血圧患者における年齢階層と動脈硬化程度、高血圧合併症との関連臨床コホート研究 (J-CHEARS)	大内尉義	東京大学加齢医学講座
	内科学 (循環器内科学)・千葉 北総病院循環器内科	代表	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	膜電位・細胞内カルシウム同時マッピングによる除細動後心室細動再発の機序解明	丸山光紀	
	内科学 (循環器内科学)・千葉 北総病院循環器内科	代表	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	心筋梗塞地域連携タリニカルパスにおける2次予防戦略は心血管イベント抑制に有効か？	雪吹周生	
	内科学 (循環器内科学)・千葉 北総病院循環器内科	代表	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	心血管バイオマーカー・リケンゲジ解析と心血管疾患予防のための包括的治療戦略の構築	清野精彦	
永田智香子	内科学 (神経内科学)・付属病 院神経内科	代表	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	脳虚血後の神経細胞死と血管新生におけるCDK5活性の役割とその制御機構	永田智香子	
三品雅洋	内科学 (神経内科学)・付属病 院神経内科	分担	科学研究費補助金 基盤研究 (B)	代謝性グルタタミン酸受容体1型の分子イメージング：ファーストインヒューマン研究	石渡 喜一	独立行政法人 東京都 健康長寿医療センター 研究所 神経画像研 究チーム

研究者	所属	代表分担	補助・委託元	研究課題	代表研究者	代表研究者所属
三品雅洋	内科学(神経内科学)・付属病院 院神経内科	代表	科学研究費補助金 基盤研究(C)	PETを用いたアデノシシン受容体とパーキンソン病の付随運動の関係についての研究	三品雅洋	
桂研一郎	内科学(神経内科学)・付属病院 院神経内科	代表	科学研究費補助金 基盤研究(C)	2型糖尿病合併脳梗塞における虚血性細胞障害増悪のメカニズムの追求と新規治療の試み	桂研一郎	
山崎峰雄, 水谷俊雄	内科学(神経内科学)・付属病院 院神経内科	代表 分担	科学研究費補助金 基盤研究(B)	筋萎縮性側索硬化症の運動ニューロン死:リボゾームRNA遺伝子転写とTDP-43	小柳清光	信州大学医学部神経難病学講座
鶴岡秀一	内科学(腎臓内科学)・付属病院 院腎臓内科	代表	科学研究費補助金 基盤研究(C)	蛋白結合率の高いアミノ酸型尿毒症物質を除去するハイブリッド型人工腎臓の開発	鶴岡秀一	
三井亜希子	内科学(腎臓内科学)・付属病院 院腎臓内科	代表	科学研究費補助金 若手研究(B)	造血幹細胞移植後の血栓性微小血管症の発症機序の解明	三井亜希子	
藤田恵美子	内科学(腎臓内科学)・付属病院 院腎臓内科	代表	科学研究費補助金 若手研究(B)	腎疾患における抗炎症性マクロファージの誘導と治療応用	藤田恵美子	
山口博樹	内科学(血液内科学)・付属病院 院血液内科	代表	科学研究費補助金 基盤研究(C)	CAP1遺伝子変異による急性骨髄性白血病の発症や再発機序の解明	山口博樹	
山口博樹	内科学(血液内科学)・付属病院 院血液内科	分担	厚生労働省科研費補助金	先天性角化不全症の効率的診断方法の確立と治療ガイドラインの作成に関する研究(不全型先天性角化不全症の新規診断法の開発)	小島勢二	
山口博樹	内科学(血液内科学)・付属病院 院血液内科	分担	厚生労働省科研費補助金	稀少小児遺伝性血液疾患の迅速な原因究明及び診断・治療法の開発に関する研究(DKCの遺伝子解析)	小島勢二	
山口博樹	内科学(血液内科学)・付属病院 院血液内科	分担	科学研究費補助金 特定領域研究	血液免疫系細胞分化障害による疾患の診断と治療に関する調査研究	野々山恵章	
山口博樹	内科学(血液内科学)・付属病院 院血液内科	分担	厚生労働省科研費補助金	ファーマコジェネティクスに基づく薬物療法の開発	山下卓也	
山口博樹	内科学(血液内科学)・付属病院 院血液内科	分担	厚生労働省科研費補助金	成人難治性造血器腫瘍に対する同種造血幹細胞移植療法の治療成績向上につながる基盤整備のための多施設共同研究	福田隆浩	
檀 和夫	内科学(血液内科学)・付属病院 院血液内科	分担	科学研究費補助金 特定領域研究	DKCの遺伝子解析	黒川峰夫	
坂本長逸	内科学(消化器内科学)・付属病院 院消化器内科, 肝臓内科	代表	科学研究費補助金 基盤研究(C)	慢性胃炎進展とシクロオキシゲナーゼ2遺伝子単塩基変異の役割	坂本長逸	
坂本長逸	内科学(消化器内科学)・付属病院 院消化器内科, 肝臓内科	代表 分担	科学研究費補助金 基盤研究(C)	胃癌腹膜播種における間葉系幹細胞のホーミング分子機構とips gene発現の解析	二神生爾	

研究者	所属	代表分担	補助・委託元	研究課題	代表研究者	代表研究者所属
	内科学(消化器内科学)・付属病院消化器内科, 肝臓内科	代表	平成24年度内規鏡医学研究振興財団研究助成金	Apurinic/aprimidinic endonuclease-1 (APE-1) siRNA含有ゲル接着剤による食道癌増殖抑制効果の検討	二神生爾	
	内科学(呼吸器内科学)・付属病院呼吸器内科, 化学療法科	代表	科学研究費補助金 基盤研究(C)	肺癌の特異的血清およびエクソソーム由来マイクロRNAの同定および個別化治療への応用	清家正博	
	内科学(呼吸器内科学)・付属病院呼吸器内科, 化学療法科	代表	科学研究費補助金 基盤研究(C)	慢性閉塞性肺疾患における医療の質を保証するためのシステム構築に関する研究	茂木 孝	
茂木 孝	内科学(呼吸器内科学)・付属病院呼吸器内科, 化学療法科	主任分担	厚生労働省科費補助金	災害時及び災害に備えた慢性閉塞性肺疾患等の生活習慣病患者の災害脆弱性に関する研究	木田厚瑞	独立行政法人 理化学研究所
石井健男	内科学(呼吸器内科学)・付属病院呼吸器内科, 化学療法科	代表分担	科学研究費補助金 基盤研究(C)	喫煙関連呼吸器疾患へのニコチン受容体遺伝子多型の関与の検討	木田厚瑞	
木田厚瑞	内科学(呼吸器内科学)・付属病院呼吸器内科, 化学療法科	分担	保険医療分野における基礎研究推進事業(独立行政法人 医薬基盤研究所)	慢性閉塞性肺疾患(COPD)の増悪に対するグリコサミノグリカンをを用いた新規治療法の開発	谷口直之	
	内科学(呼吸器内科学)・付属病院呼吸器内科, 化学療法科	代表	科学研究費補助金 基盤研究(C)	オートファジーによる慢性閉塞性肺疾患の増悪メカニズムの検討	石井健男	
	内科学(呼吸器内科学)・付属病院呼吸器内科, 化学療法科	主任	厚生労働省科費補助金	平成24年度 がん研究開発費 支持療法の開発と標準化のための研究(23-A-30)	久保田馨	
久保田馨	内科学(呼吸器内科学)・付属病院呼吸器内科, 化学療法科	分担	科学研究費補助金 特定領域研究	拠点病院の日常診療データベースから新しい臨床仮説を創出するための研究(23-A-14)	小西 大	
	内科学(呼吸器内科学)・武蔵小杉病院腫瘍内科	主任	厚生労働省科費補助金	進行卵巣がんに対する分子標的薬の国際共同・医師主導試験	勝俣範之	日本医科大学武蔵小杉病院腫瘍内科
勝俣範之	内科学(呼吸器内科学)・武蔵小杉病院腫瘍内科	分担	厚生労働省科費補助金	支持療法の開発と標準化のための研究	久保田馨	
	内科学(呼吸器内科学)・武蔵小杉病院腫瘍内科	分担	厚生労働省科費補助金	高感受性悪性腫瘍に対する標準治療確立のための施設共同研究	飛内賢正	
	精神医学・付属病院精神神経科・武蔵小杉病院精神科・千葉北総病院メンタルヘルス科	代表	科学研究費補助金 基盤研究(C)	神経メタボニロンMRIを用いた難治性うつ病のドパミン、ノルアドレナリン機能評価研究	館野 周	
大久保善朗, 館野周	精神医学・付属病院精神神経科・武蔵小杉病院精神科・千葉北総病院メンタルヘルス科	分担	科学研究費補助金 基盤研究(C)	歯科恐怖における脳神経メカニズムと精神科的アプローチの効果に関する脳機能画像研究	荻部洋行	日本医科大学生命歯学部小児歯科学

研究者	所属	代表分担	補助・委託元	研究課題	代表研究者	代表研究者所属
周 舘野	精神医学・付属病院精神神経科・武蔵小杉病院精神科・千葉北総病院メンタルヘルス科	分担	厚生労働省科研費補助金	精神療法の有効性の確立と普及に関する研究	大野 裕	国立精神神経センター
下田健吾	精神医学・付属病院精神神経科・武蔵小杉病院精神科・千葉北総病院メンタルヘルス科	分担	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	慢性期統合失調症患者に発症する嚥下障害の実態調査と病態解明のための研究	三枝英人	日本医科大学耳鼻咽喉科学講座
岸 泰宏	精神医学・付属病院精神神経科・武蔵小杉病院精神科・千葉北総病院メンタルヘルス科	分担	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	せん妄の治療、予防、医療安全に関する実証研究	八田耕太郎	順天堂大学
鈴木秀典, 周 舘野	精神医学・付属病院精神神経科・武蔵小杉病院精神科・千葉北総病院メンタルヘルス科	代表分担	科学研究費補助金 基盤研究 (B)	アミロイド分分子イメージングによる中高年うつ病のアルツハイマー病前駆病変の検出	大久保善朗	
鈴木秀典	精神医学・付属病院精神神経科・武蔵小杉病院精神科・千葉北総病院メンタルヘルス科	代表分担	科学研究費補助金 萌芽研究	サブスタンスP受容体を標的とした新規アルコール依存症治療薬の探索と脳機能画像評価	大久保善朗	
周 舘野, 一宮哲哉, 上田論, 須原哲也, 伊藤浩, 松浦雅人, 加藤元一郎, 大久保善朗	精神医学・付属病院精神神経科・武蔵小杉病院精神科・千葉北総病院メンタルヘルス科	主任分担	厚生労働省科研費補助金	精神疾患の病態診断と治療評価のためのイメージングバイオマーカーの開発と臨床応用	大久保善朗	
大久保善朗	精神医学・付属病院精神神経科・武蔵小杉病院精神科・千葉北総病院メンタルヘルス科	分担	科学技術振興機構ラ イフサイエンスデ ータベース統合推進事業	健常者・気分障害を中心とする統合脳画像データベースの構築	岩坪 威	東京大学大学院薬学系 研究科
大久保善朗	精神医学・付属病院精神神経科・武蔵小杉病院精神科・千葉北総病院メンタルヘルス科	分担	戦略的研究基盤形成 支援事業	中枢神経系疾患の診断・治療技術の創出を指向した基礎・臨床融合型研究の基盤形成・精神神経疾患のイメージングバイオマーカーの開発と応用	寺本 明	日本医科大学脳神経外科 学
鈴木秀典	精神医学・付属病院精神神経科・武蔵小杉病院精神科・千葉北総病院メンタルヘルス科	代表分担	ドーピング分析機器 等整備事業「ドーピング検査手法の実効性の確保に関する整備事業」	運動競技能力向上に指向性薬が及ぼす影響に関するPETイメージング研究	大久保善朗	
大久保善朗	精神医学・付属病院精神神経科・武蔵小杉病院精神科・千葉北総病院メンタルヘルス科	主任分担	厚生労働省科研費補助金	リアルタイムfMRIによるバイオフィードバック法を用いた統合失調症の認知リハビリテーション	松田哲也	玉川大学

研究者	所属	代表分担	補助・委託元	研究課題	代表研究者	代表研究者所属
前田美穂	小児科学・付属病院小児科・武蔵小杉病院周産期・小児医療センター(小児科・小児外科・新生児科)・多摩永山病院小児科・千葉北総病院小児科	主任分担	厚生労働省科研究費補助金	小児がんの罹患数把握および晩期合併症・2次がんの実態把握のための長期フォローアップセンター構築に関する研究	黒田達夫	慶應大学小児外科
前田美穂	小児科学・付属病院小児科・武蔵小杉病院周産期・小児医療センター(小児科・小児外科・新生児科)・多摩永山病院小児科・千葉北総病院小児科	主任分担	厚生労働省科研究費補助金	後天性血友病 XIII (13) の実態調査, 発症機序の解明と治療法の開発	一瀬白帝	山形大学分子生物学
前田美穂	小児科学・付属病院小児科・武蔵小杉病院周産期・小児医療センター(小児科・小児外科・新生児科)・多摩永山病院小児科・千葉北総病院小児科	代表分担	平成23年度福井県大学連携リーダグ事業	Be 元気 成長期にある思春期世代 グローブアップ プロジェクト	森川浩子	福井大学看護学
浅野 健	小児科学・付属病院小児科・武蔵小杉病院周産期・小児医療センター(小児科・小児外科・新生児科)・多摩永山病院小児科・千葉北総病院小児科	代表	科学研究費補助金 基盤研究(C)	小児急性脳症において新規に発見したバイオマーカーの機能・神経病理学的探索	浅野 健	
浅野 健	小児科学・付属病院小児科・武蔵小杉病院周産期・小児医療センター(小児科・小児外科・新生児科)・多摩永山病院小児科・千葉北総病院小児科	代表		NMR を用いたうつ病と抗うつ薬の脳内代謝	浅野 健	
浅野 健	小児科学・付属病院小児科・武蔵小杉病院周産期・小児医療センター(小児科・小児外科・新生児科)・多摩永山病院小児科・千葉北総病院小児科	代表		第2回「研究成果最適展開支援プログラム A-STEP 探索タイプ」高性能微量薬液注入装置の開発	浅野 健	
小川俊一	小児科学・付属病院小児科・武蔵小杉病院周産期・小児医療センター(小児科・小児外科・新生児科)・多摩永山病院小児科・千葉北総病院小児科	代表	科学研究費補助金 基盤研究(C)	血管炎の急性期における血管平滑筋細胞の形質転換に伴う細胞機能・応答機構の解明	小川俊一	日本医科大学小児科
植田高弘	小児科学・付属病院小児科・武蔵小杉病院周産期・小児医療センター(小児科・小児外科・新生児科)・多摩永山病院小児科・千葉北総病院小児科	代表	科学研究費補助金 基盤研究(C)	ヒト人工骨髄の作成と造血幹細胞・白血球幹細胞のニッチの解析研究	植田高弘	日本医科大学小児科

研究者	所属	代表分担	補助・委託元	研究課題	代表研究者	代表研究者所属
植田高弘	小児科学・付属病院小児科・武蔵小杉病院周産期・小児外科・新生児科・多摩永山病院小児科・千葉北総病院小児科	代表	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	鼻副鼻腔炎を伴う鼻茸の発症機序と再発に与するT細胞特にTreg細胞の新たな役割	Pawankar R	
		代表	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	乳児健診における母乳栄養児と人工栄養児の血清サイトカインの変化の検討	植田高弘	
吉野美緒	小児科学・付属病院小児科・武蔵小杉病院周産期・小児外科・新生児科・多摩永山病院小児科・千葉北総病院小児科	分担	厚生労働省科研費補助金	救急医療におけるコデーネーター体制に関する研究	重村朋子	日本医科大学大学院医学研究科救急医学分野
		代表	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	鼻アレルギー発症機序における上皮細胞の新たな役割-T細胞, 樹状細胞との相互作用	Pawankar R	
吉田 寛	小児科学・付属病院小児科・武蔵小杉病院周産期・小児外科・新生児科・多摩永山病院小児科・千葉北総病院小児科	代表	丸山記念研究助成金	全身型若年性特発性関節炎におけるマクロファージ解析による病態解明と新規治療法の検討	山西慎吾	
		代表	科学研究費補助金 基盤研究 (B) 科学研究費補助金 基盤研究 (C)	難治性腺がんに対する革新的際灌流療法の開発と臨床応用に関する研究 悪性黒色腫形成・増殖に関わるシグナルの同定, 特に紫外線誘発黒色腫形成機序の解明	村田 智 船坂陽子	日本医科大学放射線医学
吉田 寛	外科学(消化器外科)・多摩永山病院消化器外科・乳腺外科・一般外科	代表	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	大動物モデルによる腫瘍移植免疫学的特異性に基づいた非侵襲的免疫寛容誘導法の確立	平方敦史	日本医科大学医学部
		分担	厚生労働省科研費補助金	門脈血行異常常症に関する調査研究	森安史典	
吉田 寛	外科学(消化器外科)・多摩永山病院消化器外科・乳腺外科・一般外科	代表	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	SPECT合成3D-CT乳腺リンパ管造影によるセンチネルリンパ節生検の検証	山下浩二	日本医科大学・医学部
		代表	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	パセドウ病患者における個別化医療実現のための基礎的研究	五十嵐健人	

研究者	所属	代表分担	補助・委託元	研究課題	代表研究者	代表研究者所属
喜多村孝 幸三 啓樹 和一 敏彰 亮順 暹	外科学(呼吸器外科学)・付属病 院呼吸器外科・千葉北総病 院呼吸器外科 脳神経外科学・付属病院脳神 経外科	代表 分担	科学研究費補助助金 基盤研究(C) 厚生労働省科研費補助 助金	中枢型肺がんに対する凍結融解療法 を用いた新規内視鏡治療の開発 脳脊髄液減少症の診断・治療法の確 立に関する研究	石角太一郎 嘉山孝正	日本医科大学 呼吸器 外科 独立行政法人国立がん 研究センター国立がん 研究センター中央病院
田原重志	脳神経外科学・付属病院脳神 経外科	分担	厚生労働省科研費補助 助金	間脳下垂体機能障害に関する調査研 究	大磯ユタカ	名古屋大学大学院医学 系研究科
吉田大蔵	脳神経外科学・付属病院脳神 経外科	代表	科学研究費補助助金 基盤研究(C)	下垂体腺腫の増殖におけるSDF-1 の役割に関する分子形質学的研究	吉田大蔵	脳神経外科
田原重志	脳神経外科学・付属病院脳神 経外科	代表	科学研究費補助助金 萌芽研究	下垂体腺腫におけるmiRNAの機能 解析	寺本 明	脳神経外科
山口文雄	脳神経外科学・付属病院脳神 経外科	代表	科学研究費補助助金 基盤研究(C)	医工学を用いた微小外科手術技術評 価と効果的トレーニング法の開発	森田明夫	脳神経外科
太組一朗	脳神経外科学・武蔵小杉病院 脳神経外科	分担	公益財団法人内視鏡 医学研究振興財団	精密ヒト鼻腔モデルを用いた経鼻的 内視鏡下頭蓋底手術法の技術開発	大山健一	脳神経外科
高井信朗 高橋謙治	整形外科学・付属病院整形外 科・武蔵小杉病院整形外科・千葉 北総病院整形外科	代表 分担	文部科学省私立大学 戦略的研究基盤形成 支援事業 厚生労働省科研費補助 助金	中枢神経系疾患の診断・治療技術の 創出を指向した基礎・臨床融合型研 究の基盤形成	寺本 明	脳神経外科
松根彰志	整形外科学・付属病院リウマ チ科 耳鼻咽喉科学・付属病院耳鼻 咽喉科・頭頸部外科・武蔵小 杉病院耳鼻咽喉科・多摩永山 病院耳鼻咽喉科・千葉北総病 院耳鼻咽喉科	代表	科学研究費補助助金 特定領域研究 科学研究費補助助金 特定領域研究	プリオン病のサーベイランスと感染 予防に関する調査研究 アクリジンオレンジ光線力学療法に よる耐性菌感染の制御 ラジオ波温熱刺激を用いた変形性関 節症の疼痛抑制効果に関する研究 マクロライドによる「ステロイド減 量効果」と難治性副鼻腔炎の新しい 治療法の研究	水澤英洋 角田 隆 高橋謙治 松根彰志	東京医科歯科大学神経 内科

研究者	所属	代表分担	補助・委託元	研究課題	代表研究者	代表研究者所属
掘田健一	耳鼻咽喉科学・付属病院耳鼻咽喉科・頭頸部外科・武蔵小杉病院耳鼻咽喉科・多摩永山病院耳鼻咽喉科・千葉北総病院耳鼻咽喉科	代表		CT撮像データによる耳介、外耳道形状の特徴量抽出と音響シミュレーション	渡邊健一	日本医科大学耳鼻咽喉科
小町太郎, 下田健吾, 大山健太郎, 澤谷朝郎, 池森篤夫, 伊藤滋朗	耳鼻咽喉科学・付属病院耳鼻咽喉科・頭頸部外科・武蔵小杉病院耳鼻咽喉科・多摩永山病院耳鼻咽喉科・千葉北総病院耳鼻咽喉科	代表分担	科学研究費補助金 基盤研究(C)	慢性期統合失調症における嚥下障害発症についての基礎調査	三枝英人	
山口智	耳鼻咽喉科学・付属病院耳鼻咽喉科・頭頸部外科・武蔵小杉病院耳鼻咽喉科・多摩永山病院耳鼻咽喉科・千葉北総病院耳鼻咽喉科	代表	科学研究費補助金 若手研究(B)	咽頭嚙動波は咽頭期嚥下の絶対的な基準となり得るか？	山口智	
大久保公裕	耳鼻咽喉科学・付属病院耳鼻咽喉科・頭頸部外科・武蔵小杉病院耳鼻咽喉科・多摩永山病院耳鼻咽喉科・千葉北総病院耳鼻咽喉科	分担	厚生労働省科研費補助金	免疫療法による花粉症予防と免疫療法のガイドライン作成に向けた研究	岡本美孝	千葉大学大学院医学研究 所耳鼻咽喉科咽頭部 腫瘍科
	眼科学・付属病院眼科・武蔵小杉病院眼科・多摩永山病院眼科	代表	私立大学教育研究高度化推進特別補助	自己免疫性眼疾患モデルの開発と病態解明および臨床展開	堀純子	
	眼科学・付属病院眼科・武蔵小杉病院眼科・多摩永山病院眼科	代表	科学研究費補助金 基盤研究(C)	眼内微小環境の恒常性維持の分子機構の解析と眼組織移植への応用	堀純子	
白木喜尚	眼科学・付属病院眼科・武蔵小杉病院眼科・多摩永山病院眼科	代表分担	科学研究費補助金 萌芽研究	ヒトの創造過程における気づきの作用点と効果	小野真史	
	眼科学・付属病院眼科・武蔵小杉病院眼科・多摩永山病院眼科	代表	東海光学	眼疾患による「眩しさ」および「開眼困難感」と遮光カラーの関係のfNIRSを用いた他覚的な検証	小野真史	
堀純子	眼科学・付属病院眼科・武蔵小杉病院眼科・多摩永山病院眼科	代表分担	科学研究費補助金 若手研究(B)	羊膜由来幹細胞の移植による網膜機能の再生	北原由紀	
	眼科学・付属病院眼科・武蔵小杉病院眼科・多摩永山病院眼科	代表	科学研究費補助金 基盤研究(C)	眼科手術用灌流液への水素ガス応用の研究	高橋浩	

研究者	所属	代表分担	補助・委託元	研究課題	代表研究者	代表研究者所属
五十嵐勉	眼科学・付属病院眼科・武蔵小杉病院眼科・多摩永山病院眼科	代表分担	私立大学戦略的研究基盤形成支援事業	RNAi技術およびAAVベクターを用いたVEGF抑制による眼内新生血管抑制療法の開発	高橋 浩	眼科
藤本千明	眼科学・付属病院眼科・武蔵小杉病院眼科・多摩永山病院眼科	代表	科学研究費補助金若手研究 (B)	siRNA 技術を用いた遺伝子治療研究	五十嵐勉	
藤本千明	眼科学・付属病院眼科・武蔵小杉病院眼科・多摩永山病院眼科	代表分担	科学研究費補助金基盤研究 (C)	高浸透圧と自然免疫がドライアイに及ぼす影響と、それに基づく新たな予防・治療戦略	五十嵐勉	
竹田晋浩	眼科学・千葉北総病院眼科 麻酔科学・付属病院麻酔科 麻酔科学・付属病院麻酔科	代表 代表 分担	科学研究費補助金基盤研究 (C) 科学研究費補助金基盤研究 (C) 厚生労働省科研費補助金	α 1-Syntrophin 欠損マウスを用いた視神経髄炎の病態解析 体内遺伝子発現変動からみた全身麻酔の機序解明 重症のインフルエンザによる肺炎・脳症の病態解析・診断・治療に関する研究	亀谷修平 坂本篤裕 森島恒雄	日本医科大学 岡山大学医学部
横田裕行	救急医学・付属病院高度救命救急センター・武蔵小杉病院救命救急センター・多摩永山病院救命救急センター	代表	科学研究費補助金萌芽研究	トヨタ生産方式による外科・救急手術のオゾンプロトローニングの確立に向けて	石井浩統	
新井正徳、増野智彦	救急医学・付属病院高度救命救急センター・武蔵小杉病院救命救急センター・多摩永山病院救命救急センター	代表	科学研究費補助金基盤研究 (C)	シヨック後腸管リンパ液生理活性および臓器障害に対する腸管由来アロキドン酸の関与	増野智彦	日本医科大学付属病院高度救命救急センター
新井正徳、増野智彦	救急医学・付属病院高度救命救急センター・武蔵小杉病院救命救急センター・多摩永山病院救命救急センター	代表	科学研究費補助金基盤研究 (C)	出血性シヨック後臓器障害発生における軟部組織損傷の役割に関する研究	大泉 旭	日本医科大学付属病院高度救命救急センター
新井正徳、増野智彦	救急医学・付属病院高度救命救急センター・武蔵小杉病院救命救急センター・多摩永山病院救命救急センター	代表	科学研究費補助金若手研究 (B)	Ang/Tie2が関与する敗血症性臓器障害発症機序解明とその制御法の確立	和田剛志	日本医科大学付属病院高度救命救急センター
新井正徳、増野智彦	救急医学・付属病院高度救命救急センター・武蔵小杉病院救命救急センター・多摩永山病院救命救急センター	代表	科学研究費補助金萌芽研究	Microwave 照射による新しいびまん性脳損傷モデルの開発	布施 明	日本医科大学付属病院高度救命救急センター
新井正徳、増野智彦	救急医学・付属病院高度救命救急センター・武蔵小杉病院救命救急センター・多摩永山病院救命救急センター	代表	科学研究費補助金若手研究 (B)	重症脳損傷における脳低温療法後の免疫機能	松本 学	日本医科大学付属病院高度救命救急センター

研究者	所属	代表分担	補助・委託元	研究課題	代表研究者	代表研究者所属
増野智彦, 大泉旭, 横田裕行	救急医学・付属病院高度救命救急センター・武蔵小杉病院救命救急センター・多摩永山病院救命救急センター	代表	科学研究費補助助金 基盤研究(C)	骨軟部組織損傷後の臓器傷害発生メカニズムの検討	塚本剛志	日本医科大学付属病院高度救命救急センター
横田裕行, 鶴田良介, 北原孝雄, 登内道彦	救急医学・付属病院高度救命救急センター・武蔵小杉病院救命救急センター・多摩永山病院救命救急センター	代表	科学研究費補助助金 基盤研究(C)	臓器提供に関する本人・家族意思を反映し得る脳死判定補助検査に関する研究	横田裕行	日本医科大学大学院医学研究科
横田裕行, 鶴田良介, 北原孝雄, 登内道彦	救急医学・付属病院高度救命救急センター・武蔵小杉病院救命救急センター・多摩永山病院救命救急センター	分担	厚生労働省科研費補助金	効果的な熱中症予防のための医学的情報等の収集・評価体制構築に関する研究	三宅康史	昭和大学医学部救急医学
横田裕行, 野口宏, 浅井康文, 谷川政一, 坂本哲也, 森野一真	救急医学・付属病院高度救命救急センター・武蔵小杉病院救命救急センター・多摩永山病院救命救急センター	分担	厚生労働省科研費補助金	救急医療体制の推進に関する研究	山本保博	日本私立学校振興・共済事業団東京臨海病院
横田裕行, 岡田真人, 加賀谷芹, 朝居朋子, 芦刈淳大, 岩田誠 司	救急医学・付属病院高度救命救急センター・武蔵小杉病院救命救急センター・多摩永山病院救命救急センター	分担	厚生労働省科研費補助金	改正法後の脳死下臓器提供におけるコーディネイトに関する研究	小中節子	社団法人日本臓器移植ネットワーク
横田裕行, 丸川征四郎, 浅井康文, 長尾高登, 森村哲登, 畑中哲生, 石見清水直 樹	救急医学・付属病院高度救命救急センター・武蔵小杉病院救命救急センター・多摩永山病院救命救急センター	分担	厚生労働省科研費補助金	循環器疾患等の救命率向上に資する効果的な救急蘇生法の普及啓発に関する研究	坂本哲也	帝京大学医学部救急医学講座
横田裕行, 浦島充佳, 松本尚, 中川一明, 郡山隆, 田邊晴山, 堂園俊彦	救急医学・付属病院高度救命救急センター・武蔵小杉病院救命救急センター・多摩永山病院救命救急センター	分担	厚生労働省科研費補助金	救急救命士の処置範囲に係る研究	野口 宏	藤田保健衛生大学医学部救命救急医学講座

研究者	所属	代表分担	補助・委託元	研究課題	代表研究者	代表研究者所属
救急医学・付属病院高度救命救急センター・武蔵小杉病院救命救急センター・多摩水山病院救命救急センター	代表	日本損害保険協会交通事故医療特定課題研究助成	高齢者重症頭部外傷における進行性神経変性に対する治療戦略の確立。血管内冷却法を用いた超早期導入脳低温療法の有効性と細胞外バイオマーカーによる高齢者に特化した治療閾値の検討	横堀将司	日本医科大学付属病院高度救命救急センター	
救急医学・付属病院高度救命救急センター・武蔵小杉病院救命救急センター・多摩水山病院救命救急センター	代表	日本イーライリリー学術研究助成	感染性骨癒合不全動物モデルにおける teriparatide の有用性	塚本剛志	日本医科大学付属病院高度救命救急センター	
布施明、増野智彦、横田裕行	代表	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	脳代謝モニタリング・網羅的脳代謝解析に基づき心臓停止蘇生後の病態及び治療研究	恩田秀賢	日本医科大学付属病院高度救命救急センター	
救急医学・付属病院高度救命救急センター・武蔵小杉病院救命救急センター・多摩水山病院救命救急センター	代表	科学研究費補助金 若手研究 (B)	脳神経叢麻痺の再建選択における決定分析と費用効用分析	小野真平	日本医科大学付属病院高度救命救急センター	
本村友一、富永雄一、阪本雄一、松井靖浩	分担	独立行政法人鉄道建設・運輸施設整備助成	人体組織の衝撃耐性の解明と被害軽減のための安全基準に関する研究 (サステナブルモビリティの実現に向けて)(大学病院を中核とした工学連携による交通事故の実態調査)	西本哲也	日本大学工学部機械工学科バイオメカニクス研究室	
松本尚	分担	厚生労働省科研費補助金	自然災害による広域災害時における効果的な初期医療の確保及び改善に関する研究	小井土雄一	国立病院機構災害医療センター	
原義明	代表	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	血清 microRNA 発現による骨折治療遅延の新しい分子治療の解明	原義明	日本医科大学千葉北総病院救命救急センター	
松本尚	分担	科学研究費補助金 特定領域研究 厚生労働省科研費補助金	東日本大震災における疾病構造と死因に関する研究	小井土雄一	国立病院機構災害医療センター	
	主任	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	過剰運動<hypermobility>症候群類縁疾患における病態解明	渡邊 淳		
	代表	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	遺伝子変異型により分類化した血管型エーラス・タンロス症候群の治療手法の開発	渡邊 淳		
山本陽一郎	代表		乳癌幹細胞およびNicheの In situ 標索：薄層広視野樹脂包埋法と乳癌幹細胞	山本陽一郎		

研究者	所属	代表分担	補助・委託元	研究課題	代表研究者	代表研究者所属
渡邊 淳	付属病院付置施設等・ゲノム 先端医療部	代表	個人の遺伝情報に応じた医療実現化プロジェクト（第2期）	「先端医学研究に関する倫理的・法的・社会的課題についての調査研究」(臨床応用を視野に入れたオーダーメイド遺伝子医療の ELSI に関する調査研究)	渡邊 淳	
久保 充明	付属病院付置施設等・ゲノム 先端医療部	分担	文部科学省委託事業「がん薬物療法の個別適正化プログラム」	遺伝子型検査を用いた薬物療法の個別適正化	久保 充明	
大林 茂	千葉北総病院付置施設等・千 葉北総病院リハビリテーション科	代表	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	マルチモダリティ・イメージングを用いた経頭蓋直流電気刺激効果の生体分子メカニズム	大林 茂	日本医科大
清水 一	老人病研究所・病理部門	代表	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	ケロイドにおける COL1A2 プロモーターの転写に関わる microRNA の発現調節	清水 一	
ガジザデモ ハマッド	老人病研究所・病理部門	代表	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	ケロイド下発生における Wnt5a シグナル伝達機構の解明と分子標的治療への応用	ガジザデモ ハマッド	
太田成男	老人病研究所・生化学部門	代表	科学研究費補助金 基盤研究 (B)	新規水素発生素材の経口投与による水素分子の老年病と生活習慣病の予防効果	太田成男	大学院医学研究科加齢科学細胞生物学分野
太田成男	老人病研究所・生化学部門	代表	科学研究費補助金 萌芽研究	放射線内部被曝による遺伝子損傷を水素が軽減する	太田成男	大学院医学研究科加齢科学細胞生物学分野
太田成男	老人病研究所・生化学部門	代表分担	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	体内酸化ストレスの定量的評価システムを用いた水素分子による糖尿病改善効果の解析	上村尚美	老人病研究所生化学部門
太田成男	老人病研究所・生化学部門	代表	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	酸化ストレスを促進マウスを用いた水素分子による認知症予防効果	西楨貴代美	老人病研究所生化学部門
太田成男	老人病研究所・生化学部門	代表	科学研究費補助金 若手研究 (B)	ミトコンドリア特異的 1 重項酸素の消去による光老化の予防	Wolf A	老人病研究所生化学部門
太田成男	老人病研究所・生化学部門	分担	厚生労働省科研費補助金	ミトコンドリア病の診断と治療に関する調査研究	後藤雄一	国立精神・神経医療研究センター
Wolf MA, 西楨貴代 美, 一宮治 美	老人病研究所・生化学部門	代表分担	私立大学教育研究高度化推進特別補助	臓器移植・虚血再還流障害モデルを用いた酸化ストレス検出法の開発とその応用	上村尚美	老人病研究所生化学部門
太田成男	老人病研究所・生化学部門	分担	科学研究費補助金 特定領域研究	ミトコンドリア脳筋症 MELAS 脳卒中様発作に対するタウリン療法の開発	砂田秀秀	川崎医科大学神経内科学
茂木 孝	呼吸ケアクリニック	主任分担	厚生労働省科研費補助金	災害時及び災害に備えた慢性閉塞性肺疾患等の生活習慣病患者の災害脆弱性に関する研究	木田厚瑞	

研究者	所属	代表分担	補助・委託元	研究課題	代表研究者	代表研究者所属
石井健男	呼吸ケアクリニック	代表分担	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	喫煙関連呼吸器疾患へのニコチン受容体遺伝子多型の関与の検討	木田厚瑞	独立行政法人 理化学研究所
木田厚瑞	呼吸ケアクリニック	代表分担	保険医療分野における 基盤研究推進事業 (独立行政法人 医薬 基盤研究所)	慢性閉塞性肺疾患 (COPD) の増悪に対するグリコサミンノグリカンを用いた新規治療法の開発	谷口直之	独立行政法人 理化学研究所
	呼吸ケアクリニック	代表	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	オートファジーによる慢性閉塞性肺疾患の増悪メカニズムの検討	石井健男	
	呼吸ケアクリニック	代表	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	慢性閉塞性肺疾患における医療の質を保証するためのシステム構築に関する研究	茂木 孝	
	学生部・学生相談室	代表	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	自己への思いやりの態度を育成強化させる心理教育的介入法の開発	鋤柄のぞみ	

6) 平成 24 年度学術賞受賞一覧

受賞者	所属	受賞者区分	受賞学術賞名	受賞研究名・論文	受賞団体	年	月
Ichinomiya M ¹⁾ , Yoshikawa S ²⁾ , Kamiya M ²⁾ , Ohki K ²⁾ , Takaichi S. Kuwata A ³⁾	(¹)Kumamoto Pref Univ, (²)Fukui Pref Univ, (³)Tohoku Natl Fish Res Inst)・自然科学・生物学	グループ	Luigi Provasoli Award	Isolation and characterization of Parmales (Heterokonta/Heterokontophyta/Stramenopiles) from the Oyashio region, Western North Pacific (J Phycol (2011) 47: 144-151)	Physiological Society of America	2012	12
根本崇宏, 芝崎 保	生理学 (生体統御学)	個人	ベスト演題賞第三位	妊娠中に摂取カロリー制限した母ラットより生まれた低出生体重仔の食行動とストレス反応の異常の解析	日本摂食障害学会	2012	10
Miyake N	生化学・分子生物学 (分子遺伝学)	個人	鈴木邦彦研究奨励賞	Gene Therapy for Metachromatic Leukodystrophy	日本ライソゾーム病研究会	2012	10
肥後清一郎	病理学 (解析人体病理学)	個人	優秀演題賞	ラット同種間骨髄移植後に生じた急性移植片対宿主病 (急性GVHD) による腎臓への影響 (解析人体病理学)	日本医科大学医学会 総会 (第80回)	2012	9
李 英姬	衛生学・公衆衛生学	個人	第83回日本衛生学会総会繊維・粒子状物質研究会推奨演題賞	Nrf2 欠損マウスにおけるアレイセル排気粒子曝露のブレオマイン気道炎症病態への影響	第83回日本衛生学会総会繊維・粒子状物質研究会	2013	3
Mishima M	内科学 (神経内科学)・付属病院神経内科	個人	Annals of Nuclear Medicine Frequently Cited Paper 2011	Low density of signal receptors in early Alzheimers disease	日本核医学学会	2012	7
船坂陽子	皮膚科学・付属病院皮膚科	個人	基礎部門奨励論文賞	メラノサイトの増殖および紫外線反応性に対する加齢の影響	未病と抗老化	2012	6
真弓暢子	皮膚科学・付属病院皮膚科	個人	日本医科大学大学院研究賞	E-cadherin interactions are required for Langerhans cell differentiation	日本医科大学	2013	3
吉岡正人	外科学 (消化器外科学)・付属病院消化器外科・一般外科・移植外科	個人	優秀演題賞	若年発症の IPMN に対し、腹腔鏡下膝中央切除術を施行した 1 例	消化器内視鏡学会	2012	10
青木悠人	外科学 (消化器外科学)・付属病院消化器外科・一般外科・移植外科	個人	優秀演題賞	造影 CT による絞扼性イレウス診断	消化器外科学会	2012	10

受賞者	所属	受賞者区分	受賞学術賞名	受賞研究名・論文	受賞団体	年	月
服部裕次郎, 田原重志, 喜多村孝幸, 石井雄道, 竹井麻生 ¹⁾ , 山王直子 ²⁾ , 井野元智恵 ³⁾ , 長村義之 ⁴⁾ , 寺本 明	(1)林脳神経外科内科 クリニック, 2)山王ク リニック, 3)東海大学 医学部病理診断学, 4) 国際医療福祉大学三田 病院病理部)・脳神経 外科学・付属病院脳神 経外科	グループ	第8回アクロメガリー フォアラム奨励賞	GH産生下垂体腺腫に対す る内視鏡下経鼻的手術によ る鞍外摘出の臨床病理学 的検討	ノバルティスファーマ マ(株)	2012	10
村井保夫	脳神経外科学・付属病 院脳神経外科	個人	平成24年度日本医科 大学医学会奨学賞	Indocyanine green video- angiographyによるモニタ リングを併用した撓骨動脈 クラフトによる脳動脈瘤手 術手技の開発	日本医科大学医学会	2012	9
村井保夫	脳神経外科学・付属病 院脳神経外科	個人	平成23年度同窓会医 学研究助成金	蛍光脳血流解析の基礎的研 究	日本医科大学同窓会	2012	5
國重智之, 鈴木久晴, 志和 利彦, 高橋 浩	眼科学・付属病院眼 科・武蔵小杉病院眼科 科・多摩永山病院眼科 科	個人	ベストポスター	白内障手術中におけるオン ズポイントの消毒効果	JSCRS 一般社団法 人日本白内障屈折矯 正手術学会	2012	6
石川真士	麻酔科学・付属病院麻 酔科	個人	最優秀演題賞	ラット肝臓microRNA発 現に対するセボフルラン, プロポフォールの影響	日本麻酔科学会	2012	6
石川真士	麻酔科学・付属病院麻 酔科	個人	日本医科大学大学院研 究賞	Differences in microRNA Changes of Healthy Rat Liver between Sevoflu- rane and Propofol Anes- thesia	日本医科大学大学院 医学研究科	2013	3
萩原めぐみ	麻酔科学・付属病院麻 酔科	個人	優秀演題賞	吸入薬 Sevoflurane による 時計遺伝子 rat Per2発現の 抑制	日本麻酔科学会	2012	6
田上 隆	救急医学・付属病院高 度救命救急センター・ 武蔵小杉病院救命救急 センター・多摩永山病 院救命救急センター	個人	平成24年度福田記念 医療技術振興財団：論 文賞	Implementation of the Fifth Link of the "Chain of Survival" Concept for Out-of-Hospital Cardiac Arrest	福田記念医療技術振 興財団	2013	2
田上 隆	救急医学・付属病院高 度救命救急センター・ 武蔵小杉病院救命救急 センター・多摩永山病 院救命救急センター	個人	平成24年度日本集中 治療学会：最優秀論文 賞	Implementation of the Fifth Link of the "Chain of Survival" Concept for Out-of-Hospital Cardiac Arrest	日本集中治療学会	2013	3

受賞者	所属	受賞者区分	受賞学術賞名	受賞研究名・論文	受賞団体	年 月
田上 隆	救急医学・付属病院高度救命救急センター・武蔵小杉病院救命救急センター・多摩永山病院救命救急センター	個人	平成24年度日本医科大学賞(研究部門)	経肺熱希釈法循環呼吸動態モニタリングシステムの妥当性と臨床応用	日本医科大学	2013 3

7) 平成 24 年度知的財産一覽 (特許権)

発明者	所属	発明の名称	出願番号 (出願日)	公開番号 (公開日)	特許番号 (登録日)	出願人
高橋秀実	微生物学・免疫学	ランゲルハンス細胞の調製方法	特願 2012-118666 (2012/5/24)			
平川 慶子, 有福 和紀, 藤原 正子	法医学	NMR データの処理装置及び方法	特願 2005-274503 (2005/9/21)	特開 2006-337354 (2006/12/14)	特許第 5020491 号 (2012/6/22)	株式会社 JEOL RESONANCE, 学校法人日医大医科大学
小池薫, 平川慶子, 大野曜吉, 浅野健, 森山剛, 森川秀行, 村木秀樹	法医学	混合物試料の属性を識別する方法及び装置	特願 2012-157593 (2012/7/13)			京都大学, 日本医科大 学, 東京工芸大学, 株 式会社ユニフローアズ
安形 高志, 岡 律子, 川口 しのぶ, 谷口 直之, 木田 厚瑞, 石井 健男, 茂木 孝	内科学 (呼吸器内科学)・付属病院呼吸器内科, 化学療法科	慢性閉塞性肺疾患増悪感受性の検査法	特願 2011-175356 (2011/8/10)	特開 2013-34455 (2013/2/21)		独立行政法人理化学研究所, 学校法人日本医科大学
安形高志, 谷口直之, 木田厚瑞, 石井健男	内科学 (呼吸器内科学)・付属病院呼吸器内科, 化学療法科	慢性閉塞性肺疾患の増悪指標の検出方法	2012-148787 (2012/7/2)			独立行政法人理化学研究所, 学校法人日本医科大学
小池薫, 平川慶子, 大野曜吉, 浅野健, 森山剛, 森川秀行, 村木秀樹	小児科学・付属病院小児科・武蔵小杉病院周産期・小児医療センター (小児科, 小児外科, 新生児科)・多摩永山病院小児科・千葉北総病院小児科	混合物試料の属性を識別する方法及び装置	2012-157593 (2012/7/13)			
隈崎達夫, 村田智	放射線医学・付属病院放射線科, 放射線治療科	傍大動脈リンパ節腫瘍への薬剤灌流設備			4977340 (2012/4/20)	隈崎達夫, 村田智
山口文雄, 鈴木一行	脳神経科学・付属病院脳神経外科	超音波手術器	得願 2007-024139 (2007/2/2)			
石井正一, 山口文雄	脳神経科学・付属病院脳神経外科	カーテレンール構造	得願 2009-136464 (2009/6/5)			
松下 幸夫, 土佐 眞美子, 平井 紀光	形成外科学・武蔵小杉病院形成外科	生体組織機能状態測定装置及びその方法	特願 2011-188382 (2011/8/31)		特許第 7933911 (2012/2/24)	学校法人日本医科大 学, 東京医研株式会社
モハマツ ド, ガジザ ア・土佐 眞美子	形成外科学・武蔵小杉病院形成外科	インターロイキン-6 遺伝子プロモーターの多型に基づくケロイド発症可能性の測定	特願 2012-178851 (2012/8/10)	特開 2013-50376 (2013/3/14)	2012/6/8	株式会社アイスリー, 学校法人日本医科大学
ガジザ デ モハマツ ド・土佐 眞美子	老人病研究所・病理部門	インターロイキン-6 遺伝子プロモーターの多型に基づくケロイド発症可能性の測定	特願 2012-178851 (2012/8/15)			

発明者	所属	発明の名称	出願番号 (出願日)	公開番号 (公開日)	特許番号 (登録日)	出願人
太田成男, 室田渉	老人病研究所・生化学 部門	生体内の有害な活性酸素及び/またはフリーラジカル除去剤	2007-531053 (2008/2/14)	WO2007/021034 (2007/2/22)	5106110 (2012/10/12)	太田成男・室田渉
太田成男	老人病研究所・生化学 部門	ミトコンドリア病の予防又は治療薬	2001-234900 (2001/8/2)	2003-48829 (2003/2/21)	5028639 (2012/7/6)	大正製薬
安形高志, 岡律子, 川口しのぶ, 谷口直 之, 木田厚端, 石井健 男, 茂木孝	呼吸ケアクリニック	慢性閉塞性肺疾患増悪 感受性の検査法	特願 2011-175356 (2011/8/10)	特開 2013-34455 (2013/2/21)		独立行政法人理化学研 究所, 学校法人日本医 科大学
安形高志, 谷口直之, 木田厚端, 石井健男	呼吸ケアクリニック	慢性閉塞性肺疾患の増 悪指標の検出方法	2012-148787 (2012/7/2)			独立行政法人理化学研 究所, 学校法人日本医 科大学

2. 動物実験実施状況

1) 平成24年度教室別動物実験実施予定者数および実験計画書(課題)数(平成24年4月~平成25年3月)

教室名	予定者数	受講者数	課題数	科名	予定者数	受講者数	課題数	科・部門・教室名	予定者数	受講者数	課題数
[基礎部門]				[附属病院]				[武蔵小杉病院]			
分子解剖学	13	13	3	第一内科	6	5	2	形成外科	0	0	0
生体構造学	16	13	18	第二内科	12	8	9	眼科	1	0	0
システム生理学	13	9	10	第三内科	17	19	4	耳鼻咽喉科	0	0	0
生体統御学	12	11	12	第四内科	15	9	8	小児科	1	1	1
代謝・栄養学	9	8	4	小児科	3	4	2	小計	2	1	1
分子遺伝学	21	23	3	皮膚科	8	8	2	[多摩永山病院]			
薬理学	24	18	7	麻酔科	31	21	7	小児科	0	0	0
解析人体病理学	13	12	12	放射線科	9	8	2	救命救急センター	4	4	1
統御機構・腫瘍学	17	12	6	第一外科	5	4	1	眼科	2	1	0
微生物学免疫学	22	17	11	第二外科	5	1	1	小児科	0	0	0
衛生学公衆衛生学	6	6	4	脳神経外科	3	3	1	小計	6	5	1
法医学	13	6	10	眼科	11	5	4	[千葉北総病院]			
形態解析共同研究施設	0	3	1	耳鼻咽喉科	0	0	0	内科	2	1	1
実験動物管理室	17	17	9	女性診療科産科	6	2	2	眼科	4	3	1
小計	196	168	110	リウマチ科	0	0	0	整形外科	0	2	0
				形成外科学美容外科	29	14	6	小計	6	6	2
				整形外科	6	3	1	[老人病研究所]			
				高度救命救急センター	8	9	4	病理学	7	4	3
				ワクチン療法	0	0	0	生化学	12	12	12
				生命科学研究所センター	2	3	1	免疫学	13	12	9
				小計	176	126	57	疫学	12	9	11
								動物舎	0	1	0
実験予定者の合計	437							小計	44	38	35
講習会受講者数の合計	350							[新丸子校舎]			
課題数の合計	216							生物学	3	2	3
								スポーツ科学	4	4	7
								小計	7	6	10

使用動物数

動物種別	マウス	ラット	ウサギ	モルモット	ハムスター	イヌ	ブタ	ウマ	サル	魚	カエル
使用数	8,657	2,750	81	32	80	0	50	20	0	0	781

2) 平成 24 年度千駄木地区実験動物飼育施設動物種別飼育室別稼働率（ケージ数を基に算出（％））

丸山記念研究棟

動物種	飼育室	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
マウス・ ハムスター・ スナネズミ	SPF 動物飼育室	0.0	0.0	0.0	0.0	0.9	3.7	4.6	5.8	8.0	11.4	24.0	27.7	7.2
	P2A 遺伝子組み換え動物飼育室	48.1	47.4	37.8	40.7	48.1	48.9	50.4	57.8	48.1	52.6	53.3	50.4	48.6
	P1A クリーン動物飼育室	25.5	26.6	30.4	33.3	32.6	31.9	36.5	36.3	34.3	31.9	30.6	31.3	31.8
ラット	SPF 動物飼育室	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	P1A クリーン動物飼育室	17.2	15.2	26.8	21.7	20.2	13.6	27.7	28.3	18.1	20.7	19.2	29.3	21.5
	クリーン動物飼育室	29.2	29.2	29.2	29.2	29.2	29.2	29.2	29.2	29.2	29.2	29.2	29.2	29.2
モルモット	0.0	0.0	0.0	0.0	10.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	6.7	0.0	0.0	1.4
ウサギ	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
イヌ・ブタ	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
魚	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

大学院研究棟

動物種	飼育室	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
マウス・ ハムスター・ スナネズミ	SPF 動物飼育室	72.1	80.6	81.1	78.4	79.5	78.7	80.0	81.7	83.8	89.2	93.0	88.3	82.2
	P3A 感染動物飼育室	2.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.2
	P2A 遺伝子組み換え動物飼育室	30.0	31.0	37.1	43.3	43.3	55.7	51.9	50.0	61.0	64.8	64.3	63.8	49.7
	P1A クリーン動物飼育室	38.1	40.0	41.9	54.3	61.0	72.4	71.4	70.0	76.7	69.0	86.7	75.7	63.1
ラット	SPF 動物飼育室	76.0	88.0	76.7	83.3	80.0	93.3	94.7	83.3	88.7	93.3	93.3	94.0	87.1
	P2A 遺伝子組み換え動物飼育室	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	P1A クリーン動物飼育室	19.7	23.9	27.2	30.6	27.5	30.0	32.8	32.5	33.1	32.5	23.6	29.2	28.6
ウサギ・モルモット	P1A クリーン動物飼育室	2.0	3.0	17.0	17.0	3.0	12.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	5.5

3) 平成 24 年度千駄木地区実験動物飼育施設動物種別飼育室別搬入数

丸山記念研究棟

動物種	飼育室	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
マウス	SPF 動物飼育室	0	0	0	4	10	48	0	20	23	90	30	85	310
	P2A 遺伝子組み換え動物飼育室	43	10	6	37	41	0	34	6	28	16	17	22	260
	P1A クリーン動物飼育室	181	207	219	221	295	268	290	308	142	277	309	139	2,856
ハムスター	P2A 遺伝子組み換え動物飼育室	0	0	0	0	0	5	0	0	0	0	0	0	5
ラット	SPF 動物飼育室	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	P1A クリーン動物飼育室	66	134	133	100	73	124	113	100	79	94	99	108	1,223
モルモット		3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3
ウサギ		0	0	0	5	0	0	0	6	0	2	0	0	13
イヌ	クリーン動物飼育室	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
アタ		1	1	3	1	0	0	0	2	0	2	0	0	10
魚		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

大学院研究棟

動物種	飼育室	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
マウス	SPF 動物飼育室	217	0	328	414	432	414	434	503	253	540	447	447	4,429
	P3A 感染動物飼育室	22	4	0	0	7	0	0	0	0	0	0	0	33
	P2A 遺伝子組み換え動物飼育室	32	39	74	16	121	35	62	112	75	94	91	118	869
	P1A クリーン動物飼育室	124	230	220	314	290	266	155	300	142	357	145	196	2,739
ラット	SPF 動物飼育室	202	88	39	87	107	132	106	98	86	96	148	41	1,230
	P2A 遺伝子組み換え動物飼育室	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	P1A クリーン動物飼育室	97	100	88	134	74	203	104	87	50	80	74	113	1,204
ウサギ	P1A クリーン動物飼育室	3	15	8	2	3	2	0	0	0	0	0	0	33
モルモット		1	5	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	8

4) 平成 24 年度千駄木地区実験動物飼育施設動物種別飼育室別搬出数

丸山記念研究棟

動物種	飼育室	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
マウス	SPF 動物飼育室	0	0	0	0	3	7	1	5	0	26	0	30	72
	P2A 遺伝子組み換え動物飼育室	20	42	0	5	32	21	8	32	9	12	12	27	220
	P1A クリーン動物飼育室	251	162	166	286	254	233	209	356	199	268	322	222	2,928
ハムスター	P2A 遺伝子組み換え動物飼育室	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	6	0	7
ラット	SPF 動物飼育室	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	P1A クリーン動物飼育室	65	94	134	120	100	78	101	136	80	84	68	155	1,215
モルモット		3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3
ウサギ		0	0	0	2	3	0	0	6	0	2	0	0	13
イヌ	クリーン動物飼育室	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
アタ		1	1	2	1	0	0	0	2	0	1	1	0	9
魚		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

大学院研究棟

動物種	飼育室	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
マウス	SPF 動物飼育室	188	379	420	348	437	457	315	351	283	498	421	319	4,416
	P3A 感染動物飼育室	22	4	0	0	7	0	0	0	0	0	0	0	33
	P2A 遺伝子組み換え動物飼育室	13	20	55	76	22	35	69	108	108	54	77	17	88
	P1A クリーン動物飼育室	194	143	183	232	228	356	185	238	238	155	236	199	231
ラット	SPF 動物飼育室	70	162	90	63	48	140	145	87	99	86	86	59	1,135
	P2A 遺伝子組み換え動物飼育室	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	P1A クリーン動物飼育室	131	46	97	143	120	176	139	83	80	100	69	99	1,283
ウサギ	P1A クリーン動物飼育室	1	9	15	0	0	7	0	0	0	0	0	0	32
モルモット		1	3	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	8

5) 平成 24 年度千駄木地区実験動物飼育施設動物種別飼育室別延べ飼育数

丸山記念研究棟

動物種	飼育室	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
マウス	SPF 動物飼育室	0	0	0	28	155	1,267	2,015	1,597	2,010	3,409	4,791	6,507	21,779
	P2A 遺伝子組み換え動物飼育室	4,453	4,519	3,644	4,642	4,742	4,217	5,371	4,983	4,547	6,567	5,032	5,507	58,224
	P1A クリーン動物飼育室	16,567	17,343	18,947	19,466	20,753	20,098	23,181	21,629	17,746	25,994	18,698	23,687	244,109
ハムスター	P2A 遺伝子組み換え動物飼育室	60	62	60	62	62	195	188	180	150	222	93	0	1,334
ラット	SPF 動物飼育室	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	P1A クリーン動物飼育室	1,660	2,362	3,500	2,385	1,636	2,318	3,079	2,518	1,775	2,819	2,055	3,493	29,600
モルモット		222	217	210	217	217	210	217	210	175	259	196	163	2,513
ウサギ		0	0	0	42	12	0	0	63	0	9	0	0	126
イヌ	クリーン動物飼育室	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
アタ		9	3	20	3	0	0	0	9	0	23	2	0	69
魚		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

大学院研究棟

動物種	飼育室	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	
マウス	SPF 動物飼育室	37,500	42,019	40,124	39,519	39,772	36,280	36,933	38,783	32,317	50,716	38,725	44,984	477,672	
	P3A 感染動物飼育室	132	8	0	0	40	0	0	0	0	0	0	0	180	
	P2A 遺伝子組み換え動物飼育室	3,856	4,444	4,813	4,528	5,929	6,532	7,069	6,460	6,460	6,132	10,129	7,871	8,508	76,271
	P1A クリーン動物飼育室	5,965	6,654	8,104	9,799	10,308	17,923	9,857	10,719	9,352	13,771	11,696	13,393	127,541	
ラット	SPF 動物飼育室	10,693	12,098	8,702	9,492	11,323	11,498	10,323	9,659	8,766	12,256	10,542	12,207	127,559	
	P2A 遺伝子組み換え動物飼育室	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	P1A クリーン動物飼育室	4,700	6,614	6,239	6,760	8,174	7,611	7,355	6,133	5,175	7,590	4,650	6,889	77,890	
ウサギ	P1A クリーン動物飼育室	43	108	119	45	123	177	31	30	25	37	28	31	797	
モルモット		5	19	25	0	0	0	10	0	0	0	0	0	59	

あ と が き

近年、日本発の医学論文が減少しアジア勢の台頭に押されている状況にあると言われていました。研修医制度の変更などにより、医学部卒業者がもっぱら臨床優先の道を選ぶ結果、かつてのようにMD・PhDを目指す医師が減少したことも確かに影響していると考えられます。しかし山中教授のノーベル賞受賞を挙げるまでもなく、もともと日本の医学研究レベルは高く、世の中の流れが変われば一気に元の勢いを取り戻すことは可能であろうと思います。たとえば、国の医療政策と医学研究推進政策は財政や政治的な理由で時に相反することもあります。国の方針としてこの二つを同じ方向へ向けるような流れとなれば、日本の医学研究もまた隆盛を見ることでしょう。我々医学研究に携わるものは、世の趨勢に一喜一憂することなく、長期的な観点で物事を考えていく必要があると思います。

さて、2012年度は論文総数が1,920篇を数え、過去7年間で最多となりました。前年度と比較しても200篇近くの増加です。特筆すべきは欧文論文が940篇（前年度701篇）と大幅な伸びを示し、総数の増加分はほとんどが欧文であったということです。また学会発表数も4,925件と前年度から500件近く増えています。科学研究費も2011年度の149件から176件と採択数が増加し、ここ数年危惧されていた研究活動の低下に歯止めがかかってきたと言えましょう。今後も意欲ある若手の育成に努め、自由闊達な本学の校風にあった研究風土をますます高めていきたいと思います。研究者各位の今後のご活躍に期待致します。

最後に、編集にご尽力頂いた大学院課担当各位に御礼申し上げます。

平成26年3月

研究部委員会・研究部長 高橋 浩

平成26年 3 月 25 日 印 刷

平成26年 3 月 31 日 発 行

発 行 日 本 医 科 大 学
研 究 部 委 員 会

〒113-8602 東京都文京区千駄木1-1-5

TEL 03 (3822) 2 1 3 1

印 刷 株 式 会 社 杏 林 舎

〒114-0024 東京都北区西ヶ原3-46-10

TEL 03 (3910) 4 3 1 1-5

